CICS Transaction Server for z/OS

システム・プログラミング・リファレンス

バージョン *5* リリース *5*

CICS Transaction Server for z/OS

システム・プログラミング・リファレンス

バージョン *5* リリース *5*

注記

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、 899 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM CICS Transaction Server for z/OS バージョン 5 リリース 5 (製品番号 5655-Y04) および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： CICS Transaction Server for z/OS
System Programming Reference
Version 5 Release 5

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

© Copyright IBM Corporation 1977, 2018.

目次

この **PDF** について. vii

第 1 章 システム・プログラミング・コマンドの概要. 1

コマンド形式 2
CICS 構文の表記 3
形式の規則の要約. 5
CICS コマンドの引数値 6
Data-area および data-value 6
ポインター引数 8
CICS 値データ域 (CVDA). 8
CVDA の例 10
データ・タイプ 12
COBOL の引数値 12
C および C++ の引数値 13
PL/I の引数値 13
アセンブラー言語の引数値 14
引数の長さ 15
ヌル値 15
例外条件 16
RESP および RESP2 オプション 16
セキュリティー検査 17
照会コマンド. 22
リソース定義のブラウズ 23
ブラウズの開始 24
次のリソースの取得 26
ブラウズの終了 27
ブラウズの例. 27
ブラウズの規則 27
ブラウズの例外条件 28
SET コマンド. 28
リソース定義の作成 29
ATTRIBUTES オプション 31
リソース定義の廃棄 32
出口関連のコマンド 34
出口の定義 34
出口の名前 35
SPI における CICS スレッド・セーフ・コマンド. . 35
監査可能な SPI コマンド. 36

第 2 章 システム・コマンド. 39

EXEC CICS CREATE コマンドと **EXEC CICS CSD** コマンドの RESP2 値 39
ACQUIRE TERMINAL 66
COLLECT STATISTICS 69
CREATE ATOMSERVICE 78
CREATE BUNDLE. 80
CREATE CONNECTION. 82
CREATE DB2CONN 86
CREATE DB2ENTRY 89
CREATE DB2TRAN 91
CREATE DOCTEMPLATE 93
CREATE ENQMODEL 95
CREATE FILE 97
CREATE IPCONN 100
CREATE JOURNALMODEL 104
CREATE JVMSERVER 106
CREATE LIBRARY 108
CREATE LSRPOOL 111
CREATE MAPSET 114
CREATE MQCONN 116
CREATE MQMONITOR 118
CREATE PARTITIONSET 119
CREATE PARTNER 121
CREATE PIPELINE 123
CREATE PROCESSTYPE 125
CREATE PROFILE 127
CREATE PROGRAM. 130
CREATE SESSIONS 133
CREATE TCPIPSERVICE 135
CREATE TDQUEUE 138
CREATE TERMINAL 142
CREATE TRANCLASS 145
CREATE TRANSACTION 147
CREATE TSMODEL 149
CREATE TYPETERM 151
CREATE URIMAP 156
CREATE WEBSERVICE. 159
CSD ADD 161
CSD ALTER 163
CSD APPEND 165
CSD COPY 167
CSD DEFINE 171
CSD DELETE 174
CSD DISCONNECT 176
CSD ENDBRGROUP. 177
CSD ENDBRLIST 178
CSD ENDBRRSRCE 178
CSD GETNEXTGROUP 179
CSD GETNEXTLIST 180
CSD GETNEXTRSRCE 181
CSD INQUIREGROUP 184
CSD INQUIRELIST 185
CSD INQUIRERSRCE 186
CSD INSTALL 188
CSD LOCK 191
CSD REMOVE 193
CSD RENAME. 194
CSD STARTBRGROUP 197
CSD STARTBRLIST 198
CSD STARTBRRSRCE 199

© Copyright IBM Corp. 1977, 2018

CSD UNLOCK 200
CSD USERDEFINE 202
DISABLE PROGRAM 206
DISCARD ATOMSERVICE. 210
DISCARD AUTINSTMODEL 211
DISCARD BUNDLE 211
DISCARD CONNECTION 213
DISCARD DB2CONN 215
DISCARD DB2ENTRY 215
DISCARD DB2TRAN 216
DISCARD DOCTEMPLATE 217
DISCARD ENQMODEL. 218
DISCARD FILE 219
DISCARD IPCONN 220
DISCARD JOURNALMODEL. 221
DISCARD JOURNALNAME 222
DISCARD JVMSERVER. 223
DISCARD LIBRARY 224
DISCARD MQCONN 225
DISCARD MQMONITOR 226
DISCARD PARTNER 227
DISCARD PIPELINE. 228
DISCARD PROCESSTYPE 229
DISCARD PROFILE 230
DISCARD PROGRAM 230
DISCARD TCPIPSERVICE 232
DISCARD TDQUEUE 233
DISCARD TERMINAL 234
DISCARD TRANCLASS 235
DISCARD TRANSACTION 236
DISCARD TSMODEL 238
DISCARD URIMAP 239
DISCARD WEBSERVICE 240
ENABLE PROGRAM 241
EXTRACT EXIT 249
EXTRACT STATISTICS 251
INQUIRE ASSOCIATION 261
INQUIRE ASSOCIATION LIST 274
INQUIRE ATOMSERVICE 277
INQUIRE AUTINSTMODEL 282
INQUIRE AUTOINSTALL 283
INQUIRE BRFACILITY 285
INQUIRE BUNDLE 288
INQUIRE BUNDLEPART 293
INQUIRE CAPDATAPRED 295
INQUIRE CAPINFOSRCE 299
INQUIRE CAPOPTPRED 301
INQUIRE CAPTURESPEC 304
INQUIRE CONNECTION 310
INQUIRE CFDTPOOL 321
INQUIRE DB2CONN 323
INQUIRE DB2ENTRY 333
INQUIRE DB2TRAN. 340
INQUIRE DELETSHIPPED. 343
INQUIRE DISPATCHER 344
INQUIRE DOCTEMPLATE 348
INQUIRE DSNAME 352
INQUIRE DUMPDS 360
INQUIRE ENQ. 361
INQUIRE ENQMODEL 362
INQUIRE EPADAPTER. 365
INQUIRE EPADAPTERSET 371
INQUIRE EPADAPTINSET 374
INQUIRE EVENTBINDING 376
INQUIRE EVENTPROCESS 379
INQUIRE EXCI 380
INQUIRE EXITPROGRAM. 381
INQUIRE FEATUREKEY 388
INQUIRE FILE. 389
INQUIRE HOST 406
INQUIRE IPCONN 408
INQUIRE IPFACILITY 418
INQUIRE IRC 419
INQUIRE JOURNALMODEL 420
INQUIRE JOURNALNAME 424
INQUIRE JOURNALNUM 426
INQUIRE JVMSERVER 426
INQUIRE LIBRARY 430
INQUIRE MODENAME 437
INQUIRE MONITOR 439
INQUIRE MQCONN. 444
INQUIRE MQINI 448
INQUIRE MQMONITOR 450
INQUIRE MVSTCB 454
INQUIRE NETNAME 457
INQUIRE NODEJSAPP 458
INQUIRE OSGIBUNDLE 462
INQUIRE OSGISERVICE 465
INQUIRE PARTNER. 467
INQUIRE PIPELINE 469
INQUIRE PROCESSTYPE 474
INQUIRE PROFILE 477
INQUIRE PROGRAM 480
INQUIRE REQID 495
INQUIRE RRMS 500
INQUIRE STATISTICS 500
INQUIRE STORAGE. 503
INQUIRE STREAMNAME 506
INQUIRE SUBPOOL. 507
INQUIRE SYSDUMPCODE 509
INQUIRE SYSTEM 512
INQUIRE TASK 527
INQUIRE TASK LIST 539
INQUIRE TCLASS 541
INQUIRE TCPIP 542
INQUIRE TCPIPSERVICE 543
INQUIRE TDQUEUE 553
INQUIRE TEMPSTORAGE. 564
INQUIRE TERMINAL 564
INQUIRE TRACEDEST 587
INQUIRE TRACEFLAG. 589
INQUIRE TRACETYPE 591

INQUIRE TRANCLASS 594
INQUIRE TRANDUMPCODE. 597
INQUIRE TRANSACTION. 601
INQUIRE TSMODEL. 613
INQUIRE TSPOOL 617
INQUIRE TSQUEUE / TSQNAME. 619
INQUIRE UOW 624
INQUIRE UOWDSNFAIL 628
INQUIRE UOWENQ. 634
INQUIRE UOWLINK 640
INQUIRE URIMAP 645
INQUIRE VOLUME 656
INQUIRE VTAM 656
INQUIRE WEB. 659
INQUIRE WEBSERVICE 660
INQUIRE WLMHEALTH 666
INQUIRE WORKREQUEST 668
INQUIRE XMLTRANSFORM 668
PERFORM DELETSHIPPED 673
PERFORM DUMP 673
PERFORM ENDAFFINITY. 676
PERFORM PIPELINE 678
PERFORM RESETTIME. 680
PERFORM SECURITY REBUILD 680
PERFORM SHUTDOWN 682
PERFORM SSL REBUILD 685
PERFORM STATISTICS RECORD 686
RESYNC ENTRYNAME. 694
SET ATOMSERVICE. 697
SET AUTOINSTALL. 698
SET BRFACILITY. 700
SET BUNDLE 701
SET CONNECTION 704
SET DB2CONN 714
SET DB2ENTRY 725
SET DB2TRAN. 731
SET DELETSHIPPED 732
SET DISPATCHER 735
SET DOCTEMPLATE 737
SET DSNAME 739
SET DUMPDS 750
SET ENQMODEL. 752
SET EPADAPTER. 753
SET EPADAPTERSET 755
SET EVENTBINDING 756
SET EVENTPROCESS 757
SET FILE. 758
SET HOST 774
SET IPCONN 775
SET IRC 781
SET JOURNALNAME 783
SET JOURNALNUM. 785
SET JVMSERVER 786
SET LIBRARY 789
SET MODENAME 792
SET MONITOR 794
SET MQCONN 800
SET MQMONITOR 803
SET NETNAME 806
SET PIPELINE 807
SET PROCESSTYPE 809
SET PROGRAM 811
SET STATISTICS 817
SET SYSDUMPCODE 821
SET SYSTEM 826
SET TASK 833
Java タスクのパージ 836
SET TCLASS 837
SET TCPIP 838
SET TCPIPSERVICE 840
SET TDQUEUE 843
SET TEMPSTORAGE 848
SET TERMINAL 849
SET TRACEDEST 860
SET TRACEFLAG. 864
SET TRACETYPE 866
SET TRANCLASS. 869
SET TRANDUMPCODE 871
SET TRANSACTION. 875
SET TSQUEUE / TSQNAME. 879
SET UOW 881
SET UOWLINK 883
SET URIMAP 884
SET VOLUME 886
SET VTAM 886
SET WEB 890
SET WEBSERVICE. 891
SET WLMHEALTH 892
SET XMLTRANSFORM 894
スレッド・セーフ SPI コマンド 895

特記事項. 899

索引 905

この PDF について

この PDF は、CICS システム・プログラミング・インターフェースのコマンドのリファレンスです。本書の対象読者は、CICS システムを管理するためにトランザクションとして起動するアプリケーションを作成するシステム・プログラマーです。

「SP」という用語は、変換プログラムの特別なオプション「SP」を必要とするコマンドを示しています。また、コマンド・セキュリティー検査の対象になるコマンドも示しています。 SP コマンドは、すべての
INQUIRE、SET、COLLECT、PERFORM、CREATE、DISCARD コマンドに加えて、DISABLE PROGRAM、ENABLE PROGRAM、EXTRACT EXIT、EXTRACT STATISTICS、RESYNC ENTRYNAME コマンド、およびいくつかのフロントエンド・プログラミング・インターフェース (FEPI) コマンドです。

本書で使用している用語および表記について詳しくは、IBM Knowledge Center の CICS 資料で使用されている表記規則および用語を参照してください。

この PDF の日付

この PDF は2018 年 12 月 14 日に作成されました。

© Copyright IBM Corp. 1977, 2018

第 1 章 システム・プログラミング・コマンドの概要

CICS® システム・プログラミング・インターフェース (SPI) コマンドは、CICS システムとそのリソースを管理するためのものです。エンド・ユーザーのアプリケーションを実装するために使用するアプリケーション・プログラミング・インターフェース (API) コマンドとは対照的です。

API は、「CICS API コマンド」で説明されています。「アプリケーションの開発」には両グループのコマンドに適用される一般情報が含まれています。

SPI コマンドは、システムとそのリソースに関する情報を取り出すか、それらに変更を加えるかのいずれかを行います。それらは大きく 3 つのカテゴリーに分けられます。

- CICS リソースまたはシステム要素に関する情報を取り出すコマンド。
  - INQUIRE コマンド
  - COLLECT STATISTICS
  - EXTRACT STATISTICS
- システムまたはリソースの状況や定義を変更するか、またはシステム・プロセスを起動するコマンド。
  - SET コマンド
  - CREATE コマンド
  - DISCARD コマンド
  - PERFORM コマンド
  - ACQUIRE TERMINAL
- 出口ルーチンという手段により、システム実行を変更または拡張するコマンド。
  - DISABLE PROGRAM
  - ENABLE PROGRAM
  - EXTRACT EXIT
  - RESYNC ENTRYNAME

総合すると、これらのコマンドは、マスター端末トランザクション (CEMT) およびトレース制御トランザクション (CETR) の機能に相当し、リソース定義のための CEDA トランザクションの代替としても機能します。これは、稼働 CICS システムを管理するためにトランザクションを書き込めることを意味します。例えば、CEMT を使用する権限を与えずにユーザーのグループに発信端末コマンドの一部の機能を提供することができます。

システム・プログラミング・コマンドは、アプリケーション・プログラミング・コマンドと同じ方法でサポートされます。これらは、COBOL、C、PL/I、またはアセンブラー言語で作成されたプログラムで使用可能であり、コマンド・インタープリター (CECI)、実行診断機能 (EDF)、および CICS 変換プログラムで認識されます。

ただし、SPI コマンドと API コマンドには、いくつかの相違があります。

- リモート・リソースを指名して、あるいは一般的に SYSID オプションを指定することによって、SPI コマンドを機能シップすることはできません。それらは発

© Copyright IBM Corp. 1977, 2018

行プログラムが稼働している CICS 領域で実行されます。コマンドがリモート・リソース (別の領域に所有されているもの) を指定している場合、CICS はローカルな (部分的) 定義を使用して要求を処理します。そのため、リモート領域にあるリソース定義を使用または変更しようとする場合は、トランザクション・ルーティングまたは分散プログラム・リンクのいずれかによって、SPI コマンドがその領域で実行されるようにする必要があります。共用一時記憶域キューは例外です。

- SPI コマンドには、追加のセキュリティー検査が使用可能です。これについては、SPI コマンドのフォーマットで説明されています。
- SPI コマンドを含むプログラムは、 17 ページの『セキュリティー検査』で説明されているとおり、SP 変換プログラムで変換する必要があります。

特別な考慮事項が特定のコマンド・グループに適用されます。それらは 22 ページの『照会コマンド』で説明されています。

コマンド形式

SPI コマンドは、API コマンドと同じように記述します。 SPI コマンドは **EXECUTE CICS** という語で始まりますが、通常は **EXEC CICS** と省略され、その後にコマンド名、verb、または verb とオプションの組み合わせが続きます。

例えば、SPI コマンドは次のようになります。

- INQUIRE FILE
- PERFORM SHUTDOWN
- SET SYSTEM

コマンド名の後に、実行する内容の詳細を示すオプションが続きます。オプションの順序は、最初のオプションがコマンド名の一部である場合 (例えば、INQUIRE FILE の場合の FILE) を除き、重要ではありません。

SPI コマンドは、API コマンドを変換するのと同じ CICS 変換プログラムによってプログラムの言語に変換されるので、これらの 2 つのカテゴリーのコマンドは、同じプログラムで混用することができます。ただし、SPI コマンドが存在する場合は、変換プログラムのオプション SP を指定する必要があります。指定しないと、変換プログラムは SPI コマンドを認識しません。この機能により、インストール済み環境でコンパイル時の SPI コマンドの使用を制限できます。この他のセキュリティー機能は、実行時の使用を制限します。これらについては、 17 ページの『セキュリティー検査』で説明しています。

コマンドの先頭の EXEC CICS は、変換を開始するタイミングを変換プログラムに伝えます。高水準言語の場合は、コマンドの最後に終了文字を指定して、停止するタイミングも変換プログラムに伝える必要があります。 COBOL では、**END-EXEC** が終了文字です。 C と PL/I の場合は、セミコロンです。アセンブラーの場合、終了文字は必要ありません。この場合、変換プログラムは、継続文字が存在しない限りコマンドは現在行で終了すると想定するからです。したがって、アセンブラーの次のようなコマンドは

```
EXEC CICS SET FILE(TAXPGM) OPEN
```

COBOL では次のようになります。

```
EXEC CICS SET FILE(TAXPGM) OPEN END-EXEC
```

また、C または PL/I では次のようになります。

```
EXEC CICS SET FILE(TAXPGM) OPEN;
```

コマンドの変換について詳しくは、CICS 変換プログラムの使用 (変換プログラムのオプションを確認する場合)、およびアプリケーション・プログラムのインストールを参照してください。

CICS 構文の表記

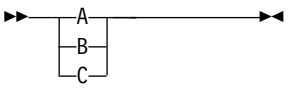
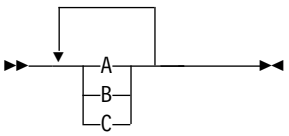
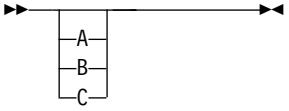
各コマンドの構文を図の形式で表しています。図から、コマンドを開始する EXEC CICS とコマンドを終了する終了文字の間に指定できる内容がわかります。図には特定のコマンドで実行できる内容が要約されていて、また、さまざまなオプションの関係や、1 つのオプションが取るさまざまな値の関係が示されています。

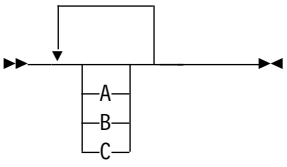
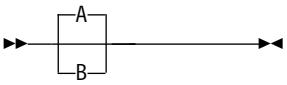
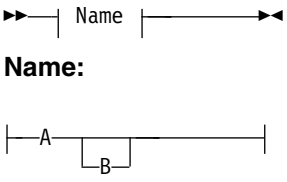
構文図およびいくつかの例では、最初の EXEC CICS と、言語によって異なる終了文字を省略していますが、実際のコードではこれらを使用する必要があります。また、構文図では、すべてのコマンドで使用できる以下のオプションも省略しています。

- NOHANDLE
- RESP
- RESP2
- SYSEIB

これらの意味は、SPI コマンドで使用する場合も API コマンドで使用する場合と同じです (これらのオプションの基本情報についてはRESP および NOHANDLE オプションを、追加の SPI の詳細については 16 ページの『例外条件』を参照してください)。

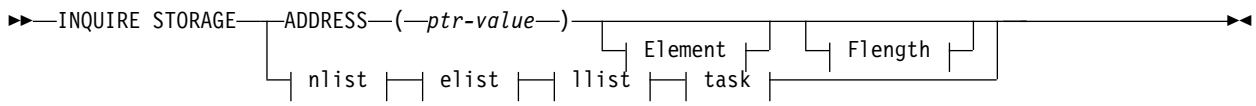
構文図は、左から右へ矢印をたどり、以下の規則に従って読み取ります。

記号	アクション
	選択項目の集合 - いずれかをコーディングする必要があります。
	選択項目の集合 - いずれかをコーディングする必要があります。複数の項目を任意の順序でコーディングできます。
	選択項目の集合 - いずれかをコーディングできます。

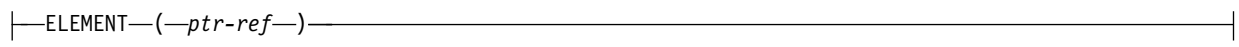
記号	アクション
	選択項目の集合 - 任意の数 (ゼロも含む) の項目を任意の順序で一度ずつコーディングできます。
	選択項目。A がデフォルトです。
	名前の代わりに指定セクションを使用します。
句読点および大文字	示されているとおりにコーディングします。
小文字	ユーザー独自のテキストを必要に応じてコーディングします (例：name)。

以下に例を示します。これは、INQUIRE STORAGE では ADDRESS オプションか NUMELEMENTS オプションのいずれかを指定する必要があることを示しています (ただし、両方は指定できません)。 ADDRESS を選択した場合、また、ADDRESS を選択した場合に限り、ELEMENT、FLENGTH、およびその両方を指定できます。どちらも指定しないことも可能です。 NUMELEMENTS を選択した場合は、DSANAME、ELEMENTLIST、LENGTHLIST または TASK を任意の組み合わせ (指定しない場合も含む) で指定できます。

INQUIRE STORAGE

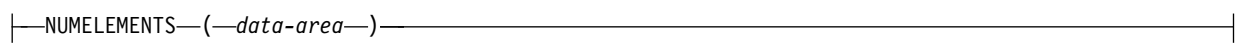


Element:

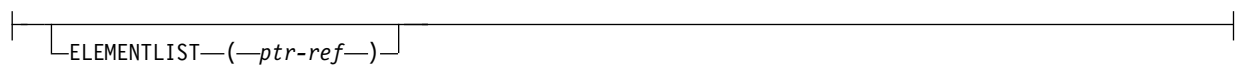


Flength:

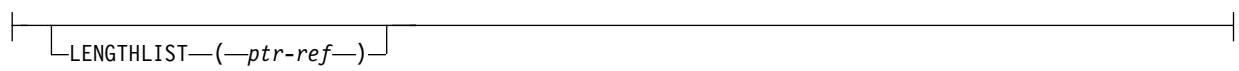
nlist:



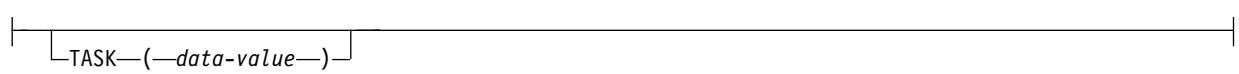
elist:



llist:



task:



状態: NOTAUTH、TASKIDERR

構文図の下部に、そのコマンドで発生する可能性のある例外条件のリストがあります。この場合、可能性があるのは NOTAUTH 状態と TASKIDERR 状態です。

形式の規則の要約

ここでは、CICS コマンドのコーディングの形式に関する規則について要約します。

- コーディングする言語の一般的な形式に関する規則 (コマンドを開始する桁数、コマンドに使用できる桁数、埋め込みコメント、埋め込みブランクなど) に従ってください。

注: 変換プログラムは、オプション名とオプション値の間のブランクや、オプション名とオプション値を区切る括弧を認識しないので、ブランクや括弧は必要に応じて使用してもしなくてもかまいません。アセンブラーでも同様です。

- コマンドの先頭には **EXEC CICS** または **EXECUTE CICS** を指定し、コマンドの最後には各プログラム言語で必要とされる終了文字を指定してください (2 ページの『コマンド形式』を参照)。
- コマンドが 1 行に収まらない場合や、複数の行に分けたい場合には、その言語の規則を使用してください。アセンブラーの場合は、最後の行を除くすべての行に継続文字を使用してください。
- 構文図に表わされている規則、必須オプションおよび一貫した組み合わせについてのオプション・テキストを確認して、使用するオプションを構文図から選択してください。
- 図に示されているように句読点および大文字をコーディングしてください (大文字で表されているキーワードに対して、大/小文字混合文字または小文字を使用することもできます)。
- コーディングする言語の規則に従って、小文字を独自のテキストに置換してください。

CICS コマンドの引数値

オプションに関連付けられたデータは、引数と呼ばれます。

CICS システム・プログラミング・インターフェース (SPI) コマンドの構文図では、次のタイプの引数が使用されます。

- data-area
- data-value
- ptr-ref (pointer-reference の略)
- ptr-value (pointer-value)
- cvda (CICS 値データ域)

Data-area および data-value

data-area および data-value は、基本引数型です。両者の違いは、タスクがコマンドを実行するときに情報が流れる方向です。

data-value は、必ず排他的に送信側であり、CICS にデータを伝達します。CICS ではコマンドの処理にそのデータを使用します。data-area は受信側です。CICS がこれを使用し、呼び出し元に情報を返します。例えば、次のコマンドの場合、

```
EXEC CICS INQUIRE PROGRAM (TAXPGM)
          USECOUNT (UCNT) END-EXEC
```

PROGRAM が送信側オプションで、TAXPGM が data-value です。照会対象のプログラムの名前を見つける場所を CICS に知らせます。USECOUNT が受信側オプションで、UCNT が data-area です。要求した情報 (このプログラムの使用回数) が CICS からここに返されます。

一般に、以下の場合には、data-area に任意の領域 (変数) を使用できます。

- データ型 (形式) が正しい場合。領域は十分な大きさでなければならず、高水準言語の場合は、関連付ける変数を、正しい長さと内部表記を持つように定義しなければなりません。CICS で使用されるデータ型については、 12 ページの『データ・タイプ』で説明しています。
- プログラム・ロジックで値を変更できる場合 (CICS により data-area 内に保管されます)。
- CICS の再入可能性の規則で値を変更できる場合。CICS は、プログラムを使用するタスクの数にかかわらず、特定のプログラムにつきコピーを 1 つのみロードします。同じプログラムを実行する複数のタスクが互いに干渉しないように、CICS は、実行中に変更される可能性があるプログラム域のコピー (「作業用ストレージ」とも呼ばれます) を、タスクごとに別々に保持します。つまり、CICS コマンドの data-area 引数のように変更される可能性がある領域は、このようなプログラム領域に置くか、プログラムで変更できるアプリケーション設計になっているプログラム外のストレージ内に置く必要があります。

  このストレージの一部は自動的に割り振られます。このカテゴリーには、COBOL プログラムの WORKING-STORAGE セクション、PL/I と C/370 の AUTOMATIC ストレージ、アセンブラーの DFHEISTG DSECT に付加される領域が含まれます。このプログラムまたは先行するプログラム内で、CICS GETMAIN コマンドまたは言語機能 (PL/I ALLOCATE ステートメントなど) を使用して、明示的に割り振ることもできます。このカテゴリーには、COBOL の LINKAGE セクション、PL/I の BASED ストレージや CONTROLLED ストレージ、アセンブラーのその他の DSECT が含まれます。CICS の再入可能性の規則について詳しくは、マルチスレッド化: 再入可能なプログラム、準再入可能なプログラム、およびスレッド・セーフ・プログラムを参照してください。
- コマンドを発行するプログラムに、領域への書き込み アクセス権がある場合。CICS により data-area の内容が変更されるので、変更が許可されていないストレージは使用できません。

  書き込みアクセス権は、プログラムを実行するストレージ保護キーと、そのタスクのトランザクション分離状況の影響を受けます。これらのテーマについては、トランザクション分離、CICS 領域のアドレス・スペース・ストレージ制限の設定、およびTRANSACTION 属性の TRANSACTION 定義の TRANISOLATE オプションを参照してください。
- すべての CICS コマンドに適用される、アドレッシング・モードに対する MVS の制限が見られる場合。高水準言語ではこれらの制限は自動的に適用されますが、アセンブラーでは、プログラムが基本アドレッシング・モードでなければならず、基本アドレス・スペースがホーム・アドレス・スペースでなければなりません。オプションのすべての引数が基本アドレス・スペースになければなりません。

  注: CICS は、複数の CICS コマンドまたはマクロ呼び出しをまたいでアクセス・レジスターを常に保存するわけではありません。プログラムがアクセス・レジスターを使用する場合は、CICS サービスを呼び出す前にそれを保管して、再び使用する前に復元してください。

data-area 用に使用できる領域は、data-value 用にも使用できます。また、data-area 用には使用できない領域も使用できます。data-value を CICS が変更することはないからです。具体的には、以下のものを使用できます。

- リテラルを含む定数。例えば、上記の例で、プログラム名として以下のように変数の代わりにリテラルを使用することができます。

```
EXEC CICS SET TDQUEUE ('TAX')
          TRIGGERLEVEL(1) END-EXEC
```

  上記の TRIGGERLEVEL のように、コマンド内で数値リテラルを使用した場合は、そのリテラルが正しい型と長さの定数に変換可能なリテラルであれば、変換プログラムが、正しい型と長さの定数にします。COBOL およびアセンブラーの場合、変換プログラムは、文字リテラルも正しい長さにします。引数に必要な長さよりもリテラルが短ければ、変換プログラムはブランクを埋め込みます。一方、C/370 および PL/I の場合は、ユーザーがこれを行わなければなりません。

```
EXEC CICS SET TDQUEUE ('TAX ')
          TRIGGERLEVEL(1);
```

- 「作業用ストレージ」内にない他のプログラム域 (PL/I の静的ストレージなど)。
- プログラムが読み取りアクセス権を持っているが、書き込みアクセス権を持っていない領域 (リンク・パック域など)。

注: 1 つのオプションが情報の送信と受信の両方に使用される場合があります。ただし、このような使用法は SPI コマンドより API コマンドによく見られます。この場合、CICS が保管に使用するので、引数は data-area でなければなりません。

ポインター引数

pointer-reference (図では ptr-ref と省略) は、data-area の特殊なケースです。これも受信側フィールドですが、CICS は、これを使用して、要求されたデータ自体ではなくそのデータを指すポインターを返します。つまり、ユーザーが指定した引数内に、CICS がデータの位置 (アドレス) を保管します。

pointer-value (省略形は ptr-value) は、ポインターの data-value に相当します。つまり、pointer-value ではユーザーが CICS に情報を送信します。ただし、データ自体ではなくデータのアドレス (データを指すポインター) を渡します。

したがって、pointer-references には、data-area についてリストしている規則が適用され、pointer-value には、data-value に関する規則が適用されます。各言語に、ポインター用の型定義と、pointer-value に使用できるアドレス・リテラルを表わす機能が用意されています。ポインターは内部的にはフルワード・バイナリー形式で保管されます。データとポインターの違いについて詳しくは、FREEMAINを参照してください。

CICS 値データ域 (CVDA)

CVDA (CICS 値データ域) は、CICS が特定の限定された意味のある値のセットを割り当てている引数のことです。これらの値には名前が付けられています。それは、値を直感的で覚えやすくするため、かつバージョンやプラットフォームが変わ

ってもプログラムを修正しなくてもいいように、ユーザー・プログラムと CICS シンボリック間のインターフェースを保持するためです。

いくつかの CVDA が、情報を CICS に送信します。送信側 CVDA はデータ値の特殊なケースで、データ値規則が適用されます。それ以外は CICS から情報を戻します。これにはデータ域規則を使用する必要があります。情報が流れる方向について疑問がある場合、オプションの説明で使用される動詞から見分けることができます。指定 は、情報を CICS に送信する (つまり、データ値規則が適用される) ことを意味し、戻り は、CICS が引数で情報を戻す (データ域規則が適用される) ことを示します。

CICS は、CVDA 値名を対応する数値表現に変換するコードを備えています。内部的には、CVDA はフルワード・バイナリー番号として保管されるので、CVDA 値を受け取るオプションには常にフルワード・バイナリー領域を提供する必要があります。

CVDA 値を送信する 1 つの方法は、適切な値を指定することです (オプションの名前は値の名前で暗示されます)。例:

```
EXEC CICS SET PROGRAM (TAXPGM)
   DPLSUBSET END-EXEC
```

EXECUTIONSET オプション値を DPLSUBSET に設定します。 EXECUTIONSET は、プログラムが使用できるコマンドのセットを判別します。ここでは、使用できる 2 つの値があります。1 つは DPLSUBSET で、プログラムを、分散プログラム・リンクによって呼び出されるプログラムで許可されるコマンドに制限します。もう 1 つは FULLAPI で、コマンド・セットを制限しません。

代わりの方法は、CICS 提供の DFHVALUE 関数を使用することです。これは、内部表記を値名に関連付けます。例えば、次のコードは前述の COBOL ステートメントと同等です。

```
MOVE DFHVALUE(DPLSUBSET) TO TAXAPI.
EXEC CICS SET PROGRAM (TAXPGM)
          EXECUTIONSET(TAXAPI) END-EXEC.
```

この技法は、プログラム・ロジックが複雑な場合に使用するのが簡単です。

また、プログラムが CVDA として戻された値を解釈する必要がある場合には、DFHVALUE も使用されます。例えば、EXECUTIONSET 値に基づくロジックを実行する必要がある場合、次のようなコードを作成できます。

```
EXEC CICS INQUIRE PROGRAM (TAXPGM)
          EXECUTIONSET (TAXAPI) END-EXEC.
IF TAXAPI = DFHVALUE(FULLAPI) PERFORM STND-INIT
ELSE PERFORM REMOTE-INIT.
```

CICS-value data areas used by all commands は、すべての CVDA 値名と対応する数値をリストしています。これは参照目的としてのみ使用されますが、ご使用のコード内の値名および DFHVALUE を使用して、これをバージョンおよびプラットフォームに依存しないようにしておいてください。

CVDA の例

CICS がサポートするすべての言語の、CVDA と DFHVALUE 関数の使用法の例を以下に示します。

各言語で、コードにより以下が実行されます。

- PAYROLL という名前のファイルが閉じられているかどうかをテストします。
- 閉じられている場合、ファイルの UPDATE オプション値が UPDATABLE に変更され、DELETE オプション値が NOTDELETABLE に変更されます (つまり、このレコードを更新したり読み取ったりできますが、削除できません)。
  UPDATE オプションは DFHVALUE 関数を使用して設定し、DELETE オプションは値の名前を指定して設定していることに注意してください。これらの方式は同等です。両者ともどちらの設定方法も使用できます。

  その他のオプションが省略されていることは、それらのオプションの値が変更されないままであることを示しています。 28 ページの『SET コマンド』で説明されているように、ヌル値を使用してオプションを指定する方法でこの情報を表わすこともできます。
- CICS に戻ります。

各プログラムのこの部分に関連したコードと定義だけが示されています。

COBOL バージョン

```
WORKING-STORAGE SECTION.
01  FILE-STATUS-INFO.
    02  UOPST               PIC S9(8) COMP.
    02  UUPD                PIC S9(8) COMP.
    02  INFILE              PIC X(8).
. . .
CICS-REQUESTS.
    MOVE 'PAYROLL ' TO INFILE.
    EXEC CICS INQUIRE FILE(INFILE)
              OPENSTATUS(UOPST) END-EXEC.
    IF UOPST = DFHVALUE(CLOSED)
        MOVE DFHVALUE(UPDATABLE) TO UUPD
        EXEC CICS SET FILE(INFILE)
                  UPDATE(UUPD)
                  NOTDELETABLE END-EXEC.
    EXEC CICS RETURN.
```

C バージョン

```
#define INFILE    "PAYROLL "
main()
 {
  long int  uopst,     /* OPENSTATUS value   */
  long int  uupd;      /* UPDATE value       */
 . . .
  EXEC CICS ADDRESS EIB(dfheiptr);
  EXEC CICS INQUIRE FILE(INFILE)
                    OPENSTATUS(uopst);
  if( uopst == DFHVALUE(CLOSED) )
   { uupd  = DFHVALUE(UPDATABLE);
     EXEC CICS SET FILE(INFILE)
                  UPDATE(uupd)
                  NOTDELETABLE; }
  EXEC CICS RETURN;
 }
```

PL/I バージョン

```
 DCL (UOPST,UUPD) FIXED BIN(31), /*OPEN,UPD STATUS*/
     INFILE CHAR(8);             /*FILE NAME      */
  . . .
     INFILE='PAYROLL ';
     EXEC CICS INQUIRE FILE(INFILE)
               OPENSTATUS(UOPST):
     IF UOPST = DFHVALUE(CLOSED) THEN DO;
         UUPD = DFHVALUE(UPDATABLE);
         EXEC CICS SET FILE(INFILE)
                     UPDATE(UUPD)
                     NOTDELETABLE;  END;
     EXEC CICS RETURN;
```

アセンブラー言語バージョン

```
         DFHEISTG
UOPST    DS    F       *OPEN STATUS
UUPD     DS    F       *UPDATE STATUS
INFILE   DS    CL8     *FILE NAME
         . . .
         MVC INFILE,=CL8'PAYROLL '
         EXEC CICS INQUIRE FILE(INFILE)         X
                   OPENSTATUS(UOPST)
         CLC   UOPST,DFHVALUE(CLOSED)
         BNE   OPENLAB
         MVC   UUPD,DFHVALUE(UPDATABLE)
         EXEC CICS SET FILE(INFILE)             X
                   UPDATE(UUPD)                 X
                   NOTDELETABLE
OPENLAB  EXEC CICS RETURN
```

データ・タイプ

CICS では、ほとんどの引数に、5 つのデータ型のいずれかが使用されます。最初の 4 つのデータ型は、すべて数値データに使用されますが、長さと内部形式に違いがあります。最後のデータ型はテキストに使用されます。ここでは、アセンブラー言語で使用される名前を使用しています。

5 つのデータ型とは以下です。

- ダブルワード・バイナリー (8 バイト)
- フルワード・バイナリー (4 バイト)
- ハーフワード・バイナリー (2 バイト)
- パック 10 進数 (可変バイト数)
- 文字ストリング (可変バイト数)

data-area と data-value には、通常、これらの形式のいずれかが必要になります。使用すべき形式を、オプションのテキストに示しています。CVDA は常にフルワード・バイナリーです。ポインターもこの形式で保管されます。ただし、一般にはポインターはポインターまたはアドレスとして明示的に定義します。これらの型には少数の例外があります。例えば、INQUIRE コマンドと SET TRACETYPE コマンドのコンポーネント ID 引数 (ビット・ストリング)、ユーザーがデータ形式を指定するオプション、特別な構造を CICS が必要とするオプションなどがあります。SPI ではこのような例外はほとんどありませんが、ある場合は、必ず、オプションの説明テキスト中に記載しています。

データ型は、コマンドを発行するプログラムの言語にかかわらず同じです。しかし、特定の型のデータを定義する方法は、言語によって変わります。後続の言語別のセクションで、それらの規則について要約します。ただし、他にも言語ごとに固有の考慮事項があります。プログラミング言語と言語環境に、言語固有の情報を記載していますが、該当する言語の資料を参照して情報を確認してください。

COBOL の引数値

COBOL では、引数には正しいデータ型の任意の COBOL データ名を使用できます。*data-value* として、正しい型に変換できる定数を使用することもできます。

pointer-references と *pointer-values* の両方に ADDRESS 特殊レジスターを使用でき、*data-value* を指す長さ引数に LENGTH 特殊レジスターを使用できます。次の表は、適切なデータ型を定義する方法を示しています。

データ型	**COBOL** 定義
ハーフワード・バイナリー	PIC S9(4) COMP
フルワード・バイナリー (CVDA を含む)	PIC S9(8) COMP
ダブルワード・バイナリー	PIC S9(18) COMP
ポインター	USAGE IS POINTER
文字ストリング (*n* 文字の長さ)	PIC X(*n*)
UTF-8 文字ストリング (*n* バイトの長さ)	PIC X(*n*)
パック 10 進数 (*n* 桁の 10 進数)	PIC S9(*n*) COMP-3

C および C++ の引数値

C および C++ では、連続したストレージに対する参照であれば、*data-area*、*data-value*、または CVDA として正しいデータ型の任意のデータ参照を使用できます。また、*data-value* には、正しいデータ型に変換できる C 式を使用できます。

次の表は、適切なデータ型を定義する方法を示しています。

データ型	**C** 定義
ハーフワード・バイナリー	short int
フルワード・バイナリー (CVDA を含む)	long int
ダブルワード・バイナリー	long long int
文字ストリング (*n* 文字の長さ)	unsigned char[*n*]
UTF-8 文字ストリング (*n* バイトの長さ)	char[*n*]
パック 10 進数	未使用 - 注記を参照

注**:** パック 10 進数の引数は、C および C++ ではサポートされません。このような引数を取るオプションがある場合は、必ず C および C++ でサポートされる形式で同じ情報を伝達したり返したりする他のオプションがあります。

pointer-reference および pointer-value 引数は、C または C++ の *pointer-reference* にすることができ、*pointer-values* は、アドレスに変換できる C または C++ 式にすることもできます。

CICS 呼び出しシーケンスは、値 (C 規則) ではなく参照 (MVS 規則) を使用して引数を渡します。通常は、変換プログラムにより必要な調整が行われますが、ユーザーが引数の前にアンパーサンド (&) を付けなければならない場合もあります。C および C++ で CICS プログラムを作成する際の引数やその他の側面について詳しくは、C および C++ アプリケーションの開発で C についての説明を参照してください。

PL/I の引数値

PL/I では、連続したストレージに対する参照であれば、引数として正しいデータ型の任意の PL/I データ参照を使用できます。また、*data-value*、*pointer-value*、または送信側 CVDA として、必要な型に変換できる任意の PL/I 式を使用できます。例えば、ADDR や LENGTH のような組み込み関数を含む式にすることができます。

次の表は、適切なデータ型を定義する方法を示しています。

データ型	**PL/I** 定義
ハーフワード・バイナリー	FIXED BIN(15)
フルワード・バイナリー (CVDA を含む)	FIXED BIN(31)
ダブルワード・バイナリー	FIXED BIN(63)
ポインター	POINTER
文字ストリング (*n* 文字の長さ)	CHAR(*n*)
UTF-8 文字ストリング (*n* バイトの長さ)	CHAR(*n*)
パック 10 進数 (*n* 桁の 10 進数)	FIXED DEC(*n*,0)

PL/I では、CALL ステートメントで渡される変数のデータ型、精度、長さ、位置合わせの属性が、呼び出されるプロシージャーの ENTRY ステートメントの対応する引数の属性と一致している必要があります。属性が一致しない場合は、PL/I コンパイラーは CALL ステートメント内で指定されている属性をダミー変数に置換します。

変換プログラムは、CICS コマンドを PL/I CALL ステートメントに変換する際に ENTRY ステートメントを生成します。その ENTRY ステートメントの引数の指定と、ユーザーが指定した変数の間に不一致がある場合、CICS は、ユーザーの変数の代わりにダミー変数を取得します。このような置換が行われた場合はコンパイラーが警告メッセージを発行しますが、そのメッセージは見落としやすく、意図した実行結果になることはほとんどありません。コンパイラーが特定の属性値を実装する方法に違いがなくても、このような事態は生じます。

変換プログラムが生成する ENTRY ステートメントは、上記の表に示す値を使用して、データ型、精度、長さを指定します。したがって、コンパイラーがダミー変数に置換しないようにするには、 CICS コマンド内で使用する変数に対するこれらの属性を明示的に指定する必要があります。ただし、属性がデフォルトと一致する場合は、この必要はありません (デフォルトは、DEFAULT ステートメントを使用した場合はこのステートメントから取得され、使用していない場合はコンパイラーのデフォルトから取得されます)。

一方、生成される ENTRY ステートメントは位置合わせ属性を指定しない ので、デフォルトが適用されます。つまり、CICS オプションの引数と ENTRY ステートメントの間で位置合わせが合致するのは、引数にデフォルトの位置合わせを使用した場合に限られ、PL/I のデフォルトをオーバーライドしていなければ自動的に合致します。

インストール時のデフォルトは変更できるので、CICS コマンドで使用する変数のデータ型、長さ、精度を明示的に指定し、位置合わせの指定は省略するという方式が最も安全です。

可変長文字ストリングを使用する場合は、もう 1 つの PL/I の側面に留意する必要があります。PL/I では、VARYING として定義された文字ストリングの前に 2 バイトの長さフィールドが付けられます。このようなストリングを data-value として指定すると、CICS が受け取るデータの先頭がこの長さを指す接頭部になるため、通常、意図しない結果になります (CICS に送信される長さは、関連付けた長さオプションで指定した長さになります。長さオプションを省略した場合は、ストリングの最大長に長さ接頭部の 2 を足した長さになります)。同様に、このようなストリングを *data-area* として指定すると、CICS は要求された情報を、長さ接頭部の位置から保管します。CICS は文字データの前に長さを付けないので、この場合も、通常は意図しない結果になります。

アセンブラー言語の引数値

アセンブラー言語では、データ域、データ値、または CVDA に対して呼び出す引数は、20(0,11) のようなレジスター形式およびマクロ置き換え機能を使用する形式などの、修正型のデータを参照する再配置可能式になります。

data-value および送信側 CVDA には、=F'1' や =AL2(100) などのリテラル定数を使用できますが、受信側の引数には、リテラル変数や変更されないその他のストレージを使用してはいけません。

絶対式は、長さ属性参照、または自己定義定数のどちらかの単一の項目でなければなりません。

等号を使用する際には注意してください。等号を使用するのは、レジスター (ポインター参照) を参照する場合に限ってください。例えば、等号を長さに使用すると、その長さのアドレスとして扱われるため、予測不能なエラーが発生します。

ポインター引数は、CICS アセンブラー・プログラム内では汎用レジスターを使用して伝達されるので、絶対式でなければなりません。pointer-value の場合は、データのアドレスを含むレジスターの番号を指定します (まだレジスターがアドレスを指していない場合は、最初にレジスターをロードします)。pointer-reference の場合は、CICS がデータのアドレスを返すレジスターを指定します。例えば、下記のコードを実行すると、タスク・リストのアドレスがレジスター 9 に入れられます。

```
EXEC CICS INQUIRE TASK LIST
          LISTSIZE(LISTLEN)
          SET (9)
```

引数の長さ

ACQUIRE TERMINAL コマンドの USERDATA オプションのように、文字形式の引数は可変長にすることができます。このような場合、CICS は、データ長を指定できるオプションを用意しています。C/370 でコーディングする場合は、データ長を指定する必要があります。

一方、COBOL、PL/I、アセンブラーの場合は、通常、このオプションを指定する必要はありません。このオプションを省略すると、変換プログラムが、長さオプションを生成し、言語機能を使用して正しい値を指定するからです。例えば、COBOL で次のように記述した場合は、

```
EXEC CICS ACQUIRE TERMINAL('ABCD')
          USERDATA(LOGONMSG) END-EXEC
```

変換プログラムにより、ユーザーが記述したかのように USERDATALEN オプションが追加されます。

```
EXEC CICS ACQUIRE TERMINAL('ABCD')
          USERDATALEN(LENGTH OF LOGONMSG)
          USERDATA(LOGONMSG) END-EXEC
```

変換プログラムは変数名から長さを直接取得するので、長さオプションを省略する場合は、正しい長さを関連付けた名前を使用しなければならないことに注意してください。

COBOL、PL/I、アセンブラー言語で、変換プログラムのオプション NOLENGTH を使用した場合、変換プログラムはデフォルトの長さオプションを生成しません。

ヌル値

CICS は、ほとんどのデータのタイプにヌル値を定義します。 CICS は、受信側のオプション値を、オプションが特定の状況で適用されない場合のオプションのデー

タ・タイプに対応させてヌル値に設定し、ユーザーはそれらの値を送信側のオプションに使用して、オプション値を変更しないことを示すことができます。

以下に、各データ型のヌル値をリストします。

データ型	ヌル値
文字ストリング (長さ n 文字)	n blanks (X'40')
UTF-8 の文字ストリング (長さ n 文字)	n blanks (X'20')
ハーフワード・バイナリー	-1 (X'FFFF')
フルワード・バイナリー	-1 (X'FFFFFFFF')
ダブルワード・バイナリー	-1 (X'FFFFFFFFFFFFFFFF')
ポインター (アドレス)	X'FF000000'
CVDA (受信側オプション内)	DFHVALUE(NOTAPPLIC) は 1
CVDA (送信側オプション内)	DFHVALUE(IGNORE) は 1

これらの使用法について詳しくは、 22 ページの『照会コマンド』および 28 ページの『SET コマンド』を参照してください。

例外条件

CICS は、コマンドを処理した後の制御フローで、SPI コマンドと API コマンドを区別しません。

以下の情報は要約に過ぎないので、この件に関する知識がない場合は、インライン・コードによる例外条件の処理でこの件に関する資料を参照してください。

CICS コマンドを発行したプログラムは、そのコマンドを発行した後の時点で、次のいずれかが該当する場合に、制御権を取り戻します。

- コマンドが正常に実行された
- コマンドに NOHANDLE または RESP を指定した (これらのオプションはどのコマンドにも指定できます)
- **IGNORE CONDITION** コマンドの発行対象にした例外が発生した

HANDLE CONDITION コマンドがアクティブになっている例外が発生した場合、制御権は **HANDLE** コマンドで指定されたポイントに移されます。そうでない場合、CICS はその例外のデフォルトのアクションを実行します。特に記載がない限り、このアクションは異常終了です。

RESP および RESP2 オプション

CICS は、1 次応答コードと、場合によっては 2 次応答コードをコマンドの完了時に設定します。さらにこれらのコードを検査するためのオプションを提供します。

RESP オプションによって返される 1 次コードは一般的な結果です。つまり、コマンドが正常に実行されたことを意味する NORMAL か、または NOTAUTH (許可されていない) や INVREQ (無効な要求) などの例外条件の名前のいずれかを返します。 RESP2 によって返される 2 次コードでは、より詳細な情報が提供されます。

RESP 値は、CVDA と似ています。どちらにも、限られた値のセットがあり、それぞれに名前が付けられています。そして CICS は、値の名前を同等の数値に変換します。EXEC インターフェース・ブロック (EIB) の応答コードと機能コードに、対応する値をリストしていますが、コード内では値の名前を使用して、バージョンおよびプラットフォームに依存しないようにする必要があります。

例えば、アプリケーションを初期化する次のようなプログラムのコードがあります。これは、ファイルを開いて使用可能にした後、続行する前に操作が成功したことを検査します。

```
EXEC CICS SET FILE ('TAXFILE ') OPEN ENABLED
          RESP(RC) END-EXEC.
IF RC = DFHRESP(NORMAL) PERFORM MAIN-RTN
ELSE IF RC = DFHRESP(NOTAUTH)
          PERFORM SECURITY-WARNING
     ELSE PERFORM ERR-RTN.
```

多くの例外条件では、複数の原因が関係することがあります。正確な原因を知る必要がある場合は、RESP2 オプションを使用します。このオプションは、RESP が指定されている場合にはいつでも指定できます。例えば上記の例で、原因となった失敗以外にこのファイルにとってはリモートの位置でその他の失敗が発生したため、関係がある 1 つを識別する場合、次のように RESP2 オプションを SET FILE ステートメントに追加できます。

```
EXEC CICS SET FILE ('TAXFILE ') OPEN ENABLED
          RESP(RC) RESP2(RC2) END-EXEC
```

その後、リモート・ファイルについて明示的にテストします。

```
IF RC2 = 1 . . .
```

RESP 値と同様、RESP2 の値は数値であり、CICS によって事前定義されていますが、RESP2 には名前がないので、例に示されているように数値を使用します。この値は 1 つの特定のコマンドの範囲においては固有であり、RESP2 値は RESP 値を暗黙指定するため、両方をテストする必要がありません。ただしこの値は、RESP 値と同様、コマンド全体では固有ではありません。どちらもフルワード・バイナリー値であり、次のように同じ言語で CVDA と同じように定義されます。

```
COBOL          PIC S9(8) COMP
C and C++      long int
PL/I           FIXED BIN(31)
Assembler      F
```

セキュリティー検査

CICS では、セキュリティー検査を行うため RACF® などの外部セキュリティー・マネージャーを使用します。

特定の SPI コマンドが実行されるかどうかは、以下の 5 つのタイプのセキュリティー検査によって制御されます。

- トランザクション
- コマンド
- 代理
- リソース

- Authtype (Db2® オブジェクトのみ)

CICS は、**SEC** システム初期設定パラメーターの値が YES である場合にのみ、これらの検査を行います。

トランザクション検査は、タスクの接続時に最初に行われます。このとき、CICS は、タスクを開始したユーザーに、実行されるトランザクションの使用権限があるかどうかを確認します。この検査は、**XTRAN** システム初期設定パラメーターおよび **SEC** システム初期設定パラメーターで制御され、**XTRAN** の値が NO である場合はスキップされます。残りの検査は、コマンドの発行時に必要に応じて行われます。

コマンド検査では、ユーザーに SPI コマンドの使用権限があるかどうかが確認されます。これは、XCMD および CMDSEC のシステム初期設定パラメーターと、実行される TRANSACTION 定義の CMDSEC オプションによって制御され、XCMD 値が NO ではなく、TRANSACTION の CMDSEC オプションが YES である場合、または **CMDSEC** システム初期設定パラメーターが ALWAYS である場合に実行されます。ユーザーに権限がない場合、CICS は、そのコマンドを拒否し、RESP 値を NOTAUTH、RESP2 値を 100 にします。

コマンドでユーザー ID がリソースに関連付けられている場合は、コマンド検査の後に代理検査が行われることがあります。この検査では、コマンドを発行するタスクのユーザー ID に、そのコマンドに指定されているユーザー ID の代理として振る舞う権限があるかどうかが確認されます。これは、**XUSER** システム初期設定パラメーターが YES である場合にのみ行われ、以下のコマンドとオプションの組み合わせにのみ適用されます。

- SET TDQUEUE と ATIUSERID
- SET DB2CONN と AUTHID または COMAUTHID
- SET DB2ENTRY と AUTHID
- AUTHID が含まれている DB2ENTRY を参照する SET DB2TRAN
- CREATE CONNECTION と SECURITYNAME
- CREATE DB2CONN と AUTHID または COMAUTHID
- CREATE DB2ENTRY と AUTHID
- AUTHID が含まれている DB2ENTRY を参照する CREATE DB2TRAN
- CREATE SESSIONS と USERID
- CREATE TDQUEUE と USERID
- CREATE TERMINAL と USERID
- USERID が含まれている EPADAPTER をインストールする CREATE BUNDLE

検査が失敗すると、CICS は RESP2 値 102 を返します。 (割り当てられたユーザーに関する追加の検査が SET TDQUEUE ATIUSERID に対して行われますが、詳しくは、そのコマンドの説明を参照してください。)

リソース検査では、ユーザー ID に、コマンドで必要とされる方法でリソースを使用する権限があるかどうかが確認されます。リソース検査は、以下のような、実行される TRANSACTION の RESSEC オプション、**RESSEC** システム初期設定パラメーター、およびリソース・タイプに固有のシステム初期設定パラメーターによって制御されます。

- 一時データ・キューの **XDCT**
- ファイルの **XFCT**

- ジャーナルの **XJCT**
- トランザクションの **XPCT**
- プログラム、マップ・セット、区画セット、および出口の **XPPT**
- 以下の CICS リソースの **XRES**
  ATOMSERVICE
  BUNDLE
  BUNDLEPART
  DOCTEMPLATE
  EPADAPTER
  EPADAPTERSET
  EVENTBINDING
  JVMSERVER
  XMLTRANSFORM
- 一時記憶域キューの **XTST**
- **XDB2** (Db2 エントリーおよびトランザクション)

XRES について詳しくは、XRES リソース・セキュリティー・パラメーターを使用したセキュリティー を参照してください。

リソース検査は、該当するリソース・タイプのシステム初期設定パラメーターの値が NO 以外で、TRANSACTION の RESSEC オプションが YES である場合、または **RESSEC** システム初期設定パラメーターが ALWAYS である場合にのみ行われます。 **INQUIRE NEXT** 以外のコマンドの場合、CICS は、リソース検査に失敗すると、NOTAUTH 状況を生成してコマンドを拒否し、RESP2 値を 101 にします。一方、ブラウズ中は、CICS は、通常の INQUIRE であればリソース検査に失敗するはずのリソースをスキップします (詳しくは、 27 ページの『ブラウズの規則』を参照してください)。

プラットフォームまたはアプリケーションに対するアクションの実行権限をユーザーに与えると、そのプラットフォーム/アプリケーション用に動的に生成されるリソースに対する同じアクションの実行権限も与えることになります。アプリケーションまたはプラットフォームを介して CICS バンドルを作成または操作する場合、CICS コマンドおよびリソースのセキュリティー検査は行われません。一方、個々の BUNDLE リソース、または CICS バンドルで定義された動的に生成されたリソースに対して、SPI コマンドを使用してアクションを直接実行する場合には、そのバンドルがプラットフォームまたはアプリケーションのインストール時に作成されたものであっても、CICS コマンドおよびリソースのセキュリティー検査が適用されます。詳細については、バンドルのセキュリティーを参照してください。

次の表に、リソース検査で保護できるリソース、およびアクセス権限が必要な SPI コマンドを示します。コマンドの後の括弧内の文字は、ユーザーがそのリソースに対して、読み取り権限 (R)、更新権限 (U)、または変更権限 (A) のうち、どの権限を持っている必要があるかを示しています。

リソース (システム初期設定パラメーター)	コマンド
出口 (XPPT オプション)	DISABLE PROGRAM (U) ENABLE PROGRAM (U) EXTRACT EXIT (R) INQUIRE EXITPROGRAM (R)
ファイル (XFCT オプション)	COLLECT STATISTICS FILE (R) CREATE FILE (A) DISCARD FILE (A) INQUIRE FILE (R) SET FILE (U)
ジャーナル (XJCT オプション)	COLLECT STATISTICS JOURNALNAME (R) COLLECT STATISTICS JOURNALNUM (R) DISCARD JOURNALNAME (A) INQUIRE JOURNALNAME (R) SET JOURNALNAME (U)
プログラム・マップ・セットの区画セット (XPPT オプション)	COLLECT STATISTICS PROGRAM (R) CREATE MAPSET (A) CREATE PARTITIONSET (A) CREATE PROGRAM (A) DISCARD PROGRAM (A) INQUIRE PROGRAM (R) SET PROGRAM (U)
一時記憶域キュー (XTST オプション)	INQUIRE TSQUEUE (R) INQUIRE TSQNAME (R)
トランザクション (XPCT オプション)	COLLECT STATISTICS TRANSACTION (R) CREATE TRANSACTION (A) DISCARD TRANSACTION (A) INQUIRE TRANSACTION (R) INQUIRE REQID TRANSID (R) SET TRANSACTION (U)
トランザクション・クラス (XPCT オプション)	COLLECT STATISTICS TCLASS (R) COLLECT STATISTICS TRANCLASS (R) CREATE TRANCLASS (A) DISCARD TRANCLASS (A) INQUIRE TCLASS (R) INQUIRE TRANCLASS (R) SET TCLASS (U) SET TRANCLASS (U)
一時データ・キュー (XDCT オプション)	COLLECT STATISTICS TDQUEUE (R) CREATE TDQUEUE (A) DISCARD TDQUEUE (A) INQUIRE TDQUEUE (R) SET TDQUEUE (U)

リソース (システム初期設定パラメーター)	コマンド
DB2ENTRY (XDB2 オプション)	CREATE DB2ENTRY (A) CREATE DB2TRAN (A) INQUIRE DB2ENTRY (R) INQUIRE DB2TRAN (R) SET DB2ENTRY (U) SET DB2TRAN (U)
DB2TRAN (XDB2 オプション)	CREATE DB2ENTRY (A) CREATE DB2TRAN (A) INQUIRE DB2ENTRY (R) INQUIRE DB2TRAN (R) SET DB2ENTRY (U) SET DB2TRAN (U)
XRES セキュリティー検査の対象になる CICS リソース (XRES オプション)	CREATE ATOMSERVICE (A) CREATE BUNDLE (A) CREATE DOCTEMPLATE (A) CREATE JVMSERVER (A) DISCARD ATOMSERVICE (A) DISCARD BUNDLE (A) DISCARD DOCTEMPLATE (A) DISCARD JVMSERVER (A) DOCUMENT CREATE (R) DOCUMENT INSERT (R) INQUIRE ATOMSERVICE (R) INQUIRE BUNDLE (R) INQUIRE BUNDLEPART (R) INQUIRE CAPTURESPEC (R) INQUIRE DOCTEMPLATE (R) INQUIRE EPADAPTER (R) INQUIRE EPADAPTERSET (R) INQUIRE EVENTBINDING (R) INQUIRE EVENTPROCESS (R) INQUIRE JVMSERVER (R) INQUIRE MQINI (R) INQUIRE XMLTRANSFORM (R) SET ATOMSERVICE (U) SET BUNDLE (U) SET DOCTEMPLATE (U) SET EPADAPTER (U) SET EPADAPTERSET (U) SET EVENTBINDING (U) SET EVENTPROCESS (U) SET JVMSERVER (U) SET XMLTRANSFORM (U)

Authtype 検査が適用されるのは、DB2CONN、DB2ENTRY、および DB2TRAN のみです。詳細については、CICS Db2 インターフェースの概説を参照してください。

QUERY SECURITY コマンド

QUERY SECURITY コマンドを発行すると、リソースにアクセスする権限や、システム・プログラミング・コマンドを発行する権限があるかどうかがわかります。これは SPI コマンドではなく、どのリソースにもアクセスしないため、NOTAUTH 状況が生成されることはありません。詳しくは、QUERY SECURITYを参照してください

照会コマンド

システム・プログラミング・コマンドを使用して、CICS に定義されたほとんどのリソースの定義およびステータスを照会できます。また、CICS システムの多数のエレメントも照会できます。

次の CICS リソースについては照会できません。

- LSRPOOL
- MAPSET
- PARTITIONSET
- TYPETERM

ほとんどのリソース・タイプでは、**INQUIRE** コマンドのオプションは、そのリソースの定義の特定のエレメントに対応しています。通常、そのようなオプションには、**INQUIRE** コマンドとリソース定義で同じ名前または同じような名前が付けられています。そうでない場合には、コマンドのオプション・テキストに、対応する定義属性を記載しています。また、オプション値の意味に関する詳細については、IBM Knowledge Center のRDO resourcesのリソースの定義を参照してください。

CICS リソースの他にも、CICS ディスパッチャーなどの CICS システムのエレメントについて照会できます。照会できるほとんどのシステム・エレメントは、システム初期設定パラメーターと対応しています。詳しくは、システム初期設定パラメーターの説明と要約を参照してください。

いくつかの考慮事項がすべての照会コマンドに適用されます。照会コマンドは、主に **INQUIRE** コマンドですが、**COLLECT STATISTICS**、**EXTRACT STATISTICS**、および **EXTRACT EXIT** も含まれます。

- 例外条件: 例外条件が発生した場合、CICS は何の情報も返しません。受信側オプションで指定した data-area は変更されません。
- 排他制御: リソース、システム設定、またはシステム・コンポーネントについて照会するタスクは、照会するオブジェクトの排他制御を取得しません。いつでも別のタスクまたはシステム・イベントによって、返される情報が変更される可能性があります。次の **GETNEXT** コマンドの次のリソースの位置指定のために現在のリソースが使用されるため、現在照会中のリソースを削除してはいけません。次の **GETNEXT** コマンドが終了した後に初めてリソースを削除することができます。このブラウズ要求内で、このリソースを使用して位置指定する必要がなくなったからです。
- ブラウズ: ブラウズをサポートするリソースは、 23 ページの『リソース定義のブラウズ』で説明しているように、連続して取得することができます。

- 適用できないオプション: 照会するリソースに適用されない受信側オプションを指定した場合、CICS は、通常、 15 ページの『ヌル値』に定義している適切な「NULL 値」を返します (いくつかのケースでは、例外が生成されます。それらのケースについては、コマンドの説明中に記載しています)。

  例えば、区画内一時データ・キューを指定した **INQUIRE TDQUEUE** コマンドに **BLOCKFORMAT** を含めた場合、**BLOCKFORMAT** は区画外キューでしか有効でないため、CICS は、ユーザーが指定した CVDA に値 NOTAPPLIC を返します。

リソース定義のブラウズ

リソースに適用される INQUIRE コマンドは、通常、コマンド発行時に名前を指定した単一のリソースに関する情報を取得します。ただし、特定のタイプのいくつかの定義またはすべての定義をブラウズできるようにする、別の形態もあります。

各 INQUIRE コマンドの説明に、そのリソース・タイプでブラウズ・オプションがサポートされるかどうかを記載しています。

プラットフォームにデプロイされたアプリケーションの専用リソースについて、照会またはブラウズできます。サポートされるリソース・タイプにおいては、CICS リソースが、アプリケーションの一部として (つまり、アプリケーション・バンドルの一部として、またはアプリケーション・バインディング・バンドルの一部として) パッケージされてインストールされる CICS バンドルで定義される場合、専用リソースになります。アプリケーションの一部として定義されるその他のリソース・タイプの CICS リソースと、他のいずれかの方法で定義される CICS リソースは、公用になり、すべてのタスクから使用可能になります。このようなリソースは、公用リソースと呼ばれます。

アプリケーションの専用リソースとしてサポートされる CICS リソースは次のとおりです。

- LIBRARY リソース。これは、動的プログラム LIBRARY 連結と呼ばれる 1 つ以上のデータ・セットを表しており、このデータ・セットからプログラムのロード・モジュールをロードできます。
- PACKAGESET リソース。これは、Db2 コレクションを表しており、非修飾 EXEC SQL 要求が参照する Db2 データベース内のテーブルの修飾に使用されます。
- POLICY リソース。これは、CICS 領域でのユーザー・タスクの動作を管理する 1 つ以上の規則を表します。
- PROGRAM リソース。アプリケーション・プログラムを表します。プラットフォームにデプロイされるアプリケーションのためにタスクによって自動インストールされるプログラムは、そのバージョンのアプリケーションに専用のものでもあります。

CICS は、**EXEC CICS INQUIRE** コマンドを発行すると、デフォルトでは、コマンドが発行されたプログラムで使用可能な専用リソースが検索されます。公用プログラムからコマンドが発行された場合は、そのタイプの公用リソースが表示されます。アプリケーション・コンテキストを指定して実行されているプログラムからコマンド

が発行された場合は、現在のアプリケーション・コンテキストの専用リソースと、そのタイプの公用リソースが表示されます。特定のアプリケーションの専用リソースをブラウズすることも選択できます。

リソース定義は、次の 3 つのステップでブラウズします。

1. リソース定義のブラウズを開始する。
2. 次のリソースを取得する。
3. リソース定義のブラウズを終了する。

ブラウズの開始

ブラウズをセットアップするには、追加オプション START を指定して INQUIRE コマンドを発行します。このコマンドは情報を生成しません。実行しようとしていることを CICS に知らせるだけです。

このコマンドの一般的な形式は次のとおりです。

```
INQUIRE resource-type START
```

START オプションの他にも、このセットアップ・コマンドの発行方法と通常の構文には、以下のように複数の違いがあります。

- リソース名を指定せずに、リソース・タイプのみを指定します。つまり、通常の data-value を伴わずにリソース・タイプが現れます。
- CICS が情報を返すためのオプションはすべて省略します。
- CICS に情報を送信するオプションも、リソース・タイプ以外は省略します (INQUIRE EXITPROGRAM と INQUIRE UOWENQ はこの規則の例外です。これらのコマンドの説明中に記述しているように、START に追加情報を指定してブラウズを制限することができます)。

特定のポイントでブラウズを開始する

一般に、CICS は内部的に保持している順序でリソース定義を返します。この順序は制御できないので、順序が常に同じであることを前提にしないでください。ただし、CICS がリソース名のアルファベット順で定義を返すリソース・タイプも少数あります。該当する HTTP ヘッダーは、以下のとおりです。

- DB2ENTRY および DB2TRAN
- プログラム、マップ・セット、および区画セット
- 一時記憶域キュー
- トランザクション
- トランザクション・クラス

これらのリソースに限り、以下のように INQUIRE START に AT オプションを指定して、ブラウズの開始点を指定できます。

```
INQUIRE resource-type START AT(data-value)
```

AT の data-value が開始位置の名前です。ブラウズするリソース・タイプの名前として正しい形式でなければなりませんが、インストール済みのリソースに対応した名前である必要はありません。この値は、リソース・リスト内の適切なポイントからブラウズを開始するためだけに使用されます。 CICS は、INQUIRE NEXT コマ

ンドで返す定義を、ユーザーが指定した値と (照合シーケンスにおいて) 等しいかまたは大きい名前のリソースに制限します。

JVM プロファイルもリソース名のアルファベット順に返されますが、INQUIRE JVMPROFILE START コマンドには AT オプションを使用できません。

専用リソースのブラウズを開始する

デフォルトでは、専用リソースとしてサポートされるリソース・タイプをブラウズすると、CICS は、EXEC CICS INQUIRE コマンドを発行したプログラムで使用可能なリソースを表す結果を返します。

- EXEC CICS INQUIRE コマンドを公用プログラムからブラウズ・モードで使用した場合、他に入力パラメーターを指定しないと、指定したタイプの公用リソースのセットが返されます。
- アプリケーション・コンテキストを指定して実行されるプログラムからブラウズ・モードで EXEC CICS INQUIRE コマンドを使用する場合は、他に入力パラメーターを指定しないと、そのアプリケーションの指定したタイプの専用リソース、指定したリソース・タイプのアプリケーション・エントリー・ポイント、指定したタイプの公用リソースの順に構成されたリソースのセットがブラウズから返されます。

公用プログラムからも専用プログラムからも、別のアプリケーションの専用リソースをブラウズできます。別のアプリケーション・コンテキストでブラウズを開始するには、START オプションを指定して EXEC CICS INQUIRE コマンドを発行し、アプリケーション・コンテキスト・オプションを使用して、ブラウズするアプリケーション・コンテキストを指定します。アプリケーション・コンテキストは、プラットフォーム、アプリケーション、およびアプリケーション・バージョンで構成されます。例えば、プラットフォーム plat1 上にデプロイされたバージョン 1.0.0 のアプリケーション app1 の専用 PROGRAM リソースをブラウズするには、以下のコマンドを使用します。

```
EXEC CICS INQUIRE PROGRAM START APPLICATION(app1) APPLMAJORVER(1) APPLMINORVER(0)
APPLMICROVER(0) PLATFORM(plat1)
```

このブラウズからは、アプリケーションの指定したタイプの専用リソースと、アプリケーションの指定したリソース・タイプのアプリケーション・エントリー・ポイントで構成されるリソースのセットが返されます。アプリケーション・コンテキストを指定した場合、公用プログラム・ディレクトリー内のリソースは返されません。

専用リソースのブラウズでアプリケーション・コンテキストを指定する場合は、必ず、アプリケーション、プラットフォーム、および 3 部構成の完全なバージョン番号を含む、完全なアプリケーション・コンテキストを指定する必要があります。指定したアプリケーション・コンテキストを持つアプリケーションが見つからない場合は、APPNOTFOUND 状態が返されます。

AT オプションをサポートするリソース・タイプの場合、そのタイプの専用リソースに対して AT オプションを指定できます。例えば、プラットフォーム plat1 上にデプロイされたバージョン 1.0.0 のアプリケーション app1 の専用リソースであるプログラム PROG1 に関する結果を返すことからブラウズを開始するには、以下のコマンドを使用します。

```
EXEC CICS INQUIRE PROGRAM START AT(PROG1) APPLICATION(app1) APPLMAJORVER(1)
APPLMINORVER(0) APPLMICROVER(0) PLATFORM(plat1)
```

このブラウズは、PROG1 から開始されるか、バージョン 1.0.0 のアプリケーション app1 の専用 PROGRAM リソースとアプリケーション・エントリー・ポイントを示すリスト内の該当するポイントから開始され、残りの専用 PROGRAM リソースとアプリケーション・エントリー・ポイントについて続けられます。

アプリケーション・コンテキストを指定して実行されるプログラムで EXEC CICS INQUIRE コマンドに AT オプションを使用する場合は、他に入力パラメーターを指定しないと、専用リソースとアプリケーション・エントリー・ポイントの照合シーケンスに従ってブラウズの位置が決まり、これらのリソースが最初に返されます。これらのリソースの後に、指定したタイプの公用リソースの完全なセットが返されます。公用リソースが他のリソースと照合シーケンス内でマージされることはありません。

次のリソースの取得

ブラウズの次のステップでは、別のオプション NEXT を指定して、INQUIRE コマンドを繰り返し発行します。 CICS は INQUIRE NEXT ごとにリソース定義を 1 つ返します。

一般的な形式は次のとおりです。

```
INQUIRE resource-type(data-area) NEXT option...option
```

NEXT が追加されたことを除けば、 **INQUIRE NEXT** コマンドのオプションは、同じタイプのリソースに対する単一の INQUIRE とほぼ同じです。ただし、やはり違いがいくつかあります。

- リソース名 (data-value) を指定する代わりに、同じ長さの **data-area** を指定して、CICS から次のリソースの名前が返されるようにします。
- CICS からデータが返されるようにするためのオプションは、単一リソースの形式と同じ方法で使用されます。
- **INQUIRE MODENAME** の CONNECTION オプションなどのいくつかのオプションは、ブラウズでは役割が変わります。それらの違いについても、オプションが適用されるコマンドに記載しています。

INQUIRE START コマンドで
APPLICATION、APPLMAJORVER、APPLMINORVER、APPLMICROVER、および PLATFORM の各オプションを使用して専用リソースのブラウズに対してアプリケーション・コンテキストを指定した場合に、それらのオプションを **INQUIRE NEXT** コマンドで再び指定しないでください。これらのオプションは、ブラウズを開始するときにのみ指定する必要があります。

必要なリソース定義を表示し終わるまで、またはすべての定義を表示するまで、**INQUIRE NEXT** コマンドを繰り返します。最後の定義を取得すると、CICS はそれ以降の INQUIRE NEXT に対して END 状況を発行し、指定された data-area に変更を加えません。ただし、すべての定義を取得する必要はありません。いつでもブラウズを停止することができます。

ブラウズの終了

ブラウズを終了することが最後のステップです。

そのためには、次のように END オプションのみを指定した INQUIRE をリソース・タイプに対して発行します。

```
INQUIRE resource-type END
```

ブラウズの例

典型的なブラウズ・シーケンスの例を次に示します。このコードは、システムにインストールされているすべてのファイルの名前を取得し、ファイルが開かれている場合は、リカバリー特性に関する情報を処理するサブルーチンを呼び出します。

```
EXEC CICS INQUIRE FILE START END-EXEC.
PERFORM UNTIL RESPCODE = DFHRESP(END)
    EXEC CICS INQUIRE FILE(FILENAME) NEXT
        OPENSTATUS(OPENSTAT)
        RECOVSTAT(RCVRSTAT)
        FWDRECSTATUS(FWDSTAT)
        RESP(RESPCODE) END-EXEC
    IF RESPCODE = DFHRESP(NORMAL)
        IF OPENSTAT = DFHVALUE(OPEN)
            CALL RCVY-RTN USING RCVRSTAT FWDSTAT
        END-IF
    ELSE CALL ERROR-RTN END-IF
END-PERFORM.
EXEC CICS INQUIRE FILE END END-EXEC.
```

ブラウズの規則

リソース定義のブラウズに関して、理解しておかなければならない規則があります。

1. ブラウズ内の位置は、タスクと関連付けられるため、LINK コマンドおよび XCTL コマンドにわたって保持されます。CICS の初期設定時や終了時にプログラム・リスト・テーブル (PLT) の一部として実行される複数のプログラムは、単一のタスクで実行されます。したがって、同じ PLT 内の他のプログラムと競合しないように、これらのプログラムでは、開始したブラウズを明示的に終了する必要があります。
2. 1 つのタスクで複数のタイプのリソースを同時にブラウズすることができますが、特定のリソース・タイプについて一度に実行できるブラウズは 1 つのみです。
3. SYNCPOINT コマンドは、ブラウズを終了しません。また、ブラウズ内の位置にも影響を与えません。
4. ブラウズ中にリソース定義はロックされないので、照会中に別のタスクがその定義を変更する可能性があります。
5. リソースのブラウズは、タスク終了処理によって暗黙的に終了させるのではなく、必ず、明示的に終了する必要があります。これはブラウズが、他のタスクでブラウズに必要になる可能性のある制御ブロックを保持するためです。
6. 通常は、INQUIRE NEXT コマンドを実行してもタスクの切り替えは行われません。したがって、リソースの長いリストをブラウズするタスクが、制御を渡さないうちにランナウェイ・タスク間隔を超過し、これにより CICS が AICA コ

ードでそのタスクを異常終了させる可能性があります。このような状況が発生した場合は、定期的に INQUIRE NEXT 間に SUSPEND コマンドを挟む必要があります。

7. リソースのセキュリティー検査が有効なタスクでのブラウズの実行中は、CICS は、ユーザーが参照権限を持つ定義のみを返します。他の定義は、通知されることもなくスキップされます。

ブラウズの例外条件

ブラウズ形式の INQUIRE コマンドでは、単一リソース形式の INQUIRE コマンドに適用されるエラー状況の他にも、多数のエラー状況が発生することがあります。

そのような状況を次に示します。

APPNOTFOUND
RESP2 値は以下のとおりです。

1 アプリケーション・コンテキストを指定して START コマンドが発行されました。指定されたアプリケーションが見つかりません。

END
RESP2 値:

2 INQUIRE NEXT が発行されましたが、ブラウズされているタイプのリソース定義はこれ以上ありません。

8 INQUIRE NEXT が発行されましたが、ブラウズされるリソースはブラウズの開始以降に削除されました。

ILLOGIC
RESP2 値:

1 同じリソース・タイプのブラウズが既に実行されているときに START が指定されたか、まだ START を実行していないのに NEXT または END が指定されました。

SET コマンド

照会できるシステム要素およびリソース定義のほとんどが変更可能ですが、一般には、変更できるオプション値の数と、取得できるオプション値の数は同じではありません。変更するには、リソースまたはシステム要素の名前を指定した SET コマンドを使用します。

INQUIRE コマンドと同様に、SET コマンドは以下の一般的な規則に従います。

- 例外: SET コマンドで例外条件が発生した場合、CICS は、要求された変更をできる限り少なく実行します。実行された変更 (ある場合) を調べるには、対応する INQUIRE コマンドを発行します。
- 永続性: 通常 CICS グローバル・カタログに記録されるシステム設定またはリソース定義を変更した場合、その変更はカタログにも記録されるため、ウォーム・リスタートまたは緊急時再始動が実行されても保持されます。通常は記録されない情報は、現在の CICS 実行に限り存続します。コールド・スタートまたは初期始動時には、カタログ情報は破棄されるので、それより前の SET コマンドの効果はすべて失われます。

- リカバリー可能性: SET コマンドはリカバリー可能ではありません。このコマンドを発行したタスクが異常終了したり SYNCPOINT ROLLBACK コマンドを発行したりしても、このコマンドの効果はバックアウトされません。したがって、SET コマンドではリソースはロックされないので、SET の前に対応する INQUIRE コマンドを実行する必要はありません。
- 「変更なし」値: オプションに対するデフォルト値がある場合を除き、CICS は、省略したオプションに関連付けられている値を変更しません。しかし、変更しないように命令する方法がもう 1 つあります。必要でない送信側オプションにヌル値を指定すると、CICS はそのオプション値を変更しません。デフォルトがないオプションを省略した場合も同じ効果が得られますが、「変更なし」の値を指定するこの機能により、コマンドのオプションおよびオプション値の変更が可能になるので、一部の状況ではコードをシンプルにすることができます。

  例えば、計算の結果に応じて、さまざまな組み合わせのオプションを変更する必要があるとします。次のようなコードを使用できます。

```
IF ... MOVE DFHVALUE(NOTDELETABLE) TO DEL
ELSE MOVE DFHVALUE(IGNORE) TO DEL.
IF ... MOVE 2 TO POOL
ELSE MOVE -1 TO POOL.
IF ... MOVE 'TAXID.MASTER' to DSN
ELSE MOVE SPACES TO DSN.
EXEC CICS SET FILE('TAXMSTR ') DELETE(DEL)
     LSRPOOLNUM(POOL) DSNAME(DSN) END-EXEC.
```

  ヌル値について詳しくは、 15 ページの『ヌル値』を参照してください。

  注: SET TERMINAL コマンドの NEXTTRANSID オプションのように、ブランク (文字フィールドのヌル値) が意味のある値であるオプションが少数あります。このようなオプションの場合は、ヌル値が存在しないので、値を変更したくない場合はオプションを省略する必要があります。このような場合は、オプションの説明中に記載しています。

リソース定義の作成

CREATE コマンドを使用して、リソース定義をプログラムを使用してローカル CICS 領域に追加します。こうして、稼働中の CICS システムを管理するアプリケーションを作成できます。これらの定義は CEDA トランザクションで作成されたものと同等です。これらの定義は CICS グローバル・カタログに記録され、ウォーム・リスタートまたは緊急時再始動の間、持続します。

ただし、CREATE コマンドは CICS システム定義 (CSD) ファイルを参照することも、そこに記録することもしません。その結果、作成される定義はコールド・スタートまたは初期始動時に失われ、それらを CEDA トランザクションで参照できません。

以下のタイプのリソース定義を作成できます。
- ATOMSERVICE 定義
- バンドル
- 接続
- Db2 接続
- Db2 リソース (DB2ENTRY、DB2TRAN)

- 文書テンプレート
- ENQ モデル
- ファイル
- IPIC 接続
- ジャーナル・モデル
- JVM サーバー
- LSR プール
- LIBRARY 連結
- マップ・セット
- 区画セット
- パートナー
- PIPELINE 定義
- プロセス・タイプ
- プロファイル
- プログラム
- セッション
- TCP/IP サービス定義
- 一時記憶域キュー・モデル
- 一時データ・キュー
- 端末
- 端末タイプ (TYPETERM)
- トランザクション・クラス
- トランザクション
- URIMAP 定義
- WEBSERVICE 定義
- WebSphere® MQ 接続 (MQCONN)

CREATE コマンドは、CSD ファイルを更新しないという点以外は、CEDA DEFINE と INSTALL を組み合わせたものに相当します。既にインストールされている同じ名前とタイプのリソースがない場合、新規の定義が CICS 領域のリソースに追加されます。定義がリモート・システムにあるリソースについて記述していても、定義は常にローカル CICS 領域に適用されます。リソースが既にインストールされている場合、新しい定義で古い定義は置き換えられ、古いリソースの暗黙的な廃棄も行われます。この場合、同じリソースを指定した **DISCARD** コマンドに適用される制限のほとんどが、**CREATE** にも適用されます。

この処理中に、CICS は、CREATE に加えて SYNCPOINT コマンドが発行されていたかのように、タスクの同期点処理を行います。処理が成功すれば、CREATE とタスク開始 (または最新の同期点) の間のリカバリー可能リソースに対する変更がコミットされ、成功しなければロールバックされます。複数の CREATE コマンドを完了する必要がある TERMINAL 定義および CONNECTION-SESSIONS 定義の場合、順序の最後の CREATE の実行時に同期点が発生します。

インストール処理が開始する前にエラーが検出される場合、インストールは試行されません。 CICS は例外条件を生成し、同期点処理を行わずに発行元タスクに制御権を戻します。一方、このプロセスの後の方でエラーが検出された場合は、ロールバックが行われます。また、**CREATE** コマンドのプロセスがすべて成功した場合にはコミットが行われます。このようなコミットの影響を考慮して、これらのコマンドを使用するタスクを作成する必要があります。

さらに、暗黙の同期点は、LINK コマンドが SYNCONRETURN を指定しない場合に分散プログラム・リンクによって呼び出されるプログラムや、EXECUTIONSET 値が DPLSUBSET であるプログラム、または同期点が許可されないその他の状況において、**CREATE** コマンドを発行できないことを意味します。

CREATE コマンドは、CICS 初期設定の第 3 フェーズの開始後にいつでも実行できます。したがって、**CREATE** コマンドは、通常の CICS 実行中だけでなく、Program List Table for Post Initialization (PLTPI) の 2 番目のセクションで指定されたプログラムでも使用できます。

ATTRIBUTES オプション

CREATE コマンドまたは CSD コマンドがインストールするリソース定義の特性は、ATTRIBUTES オプション値によって送達されます。この値は、リソースの属性のリストを示す文字ストリングです。

属性および属性値は、CEDA DEFINE 画面で指定する場合と同様にして、テキスト形式で指定します。この文字ストリングは CREATE コマンドまたは CSD コマンド実行時に分析されます。このため、この文字ストリングは単一ストリングにおいて、変数名ではなくテキスト全体で構成される必要があります。ストリング内の構文は、以下に示す属性値を除き、コマンド構文と同じ規則を使用して CREATE コマンドまたは CSD コマンドごとに提供されます。ただし、内容は変換プログラムによって構文解析されません。変換プログラムは、メイン・ダイアグラムで示されるコマンド構文のみ検査します。

属性値は基本的に、CEDA DEFINE 画面に表示されるとおりに表示されます。ただし、DEFINE 画面は事前書式設定されており、ATTRIBUTES ストリングはそうではないため、以下の規則を知っておく必要があります。

- 属性は任意の順序で表示されます (構文図または CEDA コマンドの順序に従う必要はありません)。
- 属性の名前は、構文図で示されるもの、または対応する CEDA DEFINE 項目で許可された省略形でなければなりません (Resource management transaction CEDA commands の DEFINE の説明を参照してください)。

  注: 省略形はリリースごとに変わることがあるため、フル・スペリングにするのが最も安全です。
- CEDA への入力および DFHCSDUP ユーティリティーとは対照的に、属性ストリングは大文字に変換されません。値名は CICS によって割り当てられるため (構文図では大文字で示される)、属性名は大文字、小文字、大/小文字混合のいずれを使用するかに関係なく認識されます。ただし、その他の文字値 (例えば、リソース名やメッセージ・テキスト) はそのまま受け取られるため、意図するとおりの大/小文字で値を指定する必要があります。
- 引数値がある場合、CEDA DEFINE パネル内の同じ属性の規則に従う必要があります。指定できる値の数が制限されている場合、それらの値は属性図に大文字でリストされます。そうでない場合、図には値の形式のみが以下の規則を使用して示されます。

  char*n* 長さが *n* の文字ストリング。または引数を可変長にしてもよい場合は、最大長 *n* の文字ストリング。

hex*n* 長さが *n* の 16 進文字のストリング。または引数を可変長にしてもよい場合は、最大長 *n* の文字ストリング。

n1-n2 *n1* から *n2* の範囲の数。

注**:** 文字引数内の末尾ブランク、16 進数引数内の末尾 X'00'、および数値引数内の先行ゼロは省略できます。

- 読みやすくするために、1 つ以上のブランクを使用して属性を分離することができます。しかし、ブランクが必要となるのは、引数を持たない属性と次の属性の間に限ります。コンマとその他の分離文字は許可されません。また、ブランクは属性名とその引数を囲む括弧の間、および括弧と引数値の間にいれることもできます。しかし、それらは必要ではありません。従って、以下の例も、これと類似した組み合わせも、どちらも正しくなります。

```
ATTRIBUTES ( 'UCTRAN (NO)RTIMEOUT (10 )')
ATTRIBUTES(' UCTRAN(NO)   RTIMEOUT( 10) ' )
```

- 属性ストリング内では引用符は不要です (上記の例のように、リテラルを使用する場合は、ストリング全体を引用符で囲む必要があります)。テキスト (例えば、DESCRIPTION 属性) の中に引用符が必要な場合は、引用符を含むリテラル定数で行うのと同じように、テキストに出現する引用符ごとに引用文字を 2 つ使用してください。
- 指定の必要な属性はごくまれであり、それを省略することは、CEDA 画面でその値をキー入力しないことに相当します。デフォルト値が常に同じ場合、それは構文図の場合と同じようにして図に表示されます。ただし、いくつかのデフォルトはその他の属性の値に応じて決まるため、表示されません。 (CREATE コマンドは CSD ファイルを使用しないため、独自のデフォルトを定義することはできません。)
- いくつかのリソース・タイプについては、すべての属性にデフォルトを使用できます。そのようにしたい場合は、ストリングの長さを ATTRLEN オプションでゼロに設定してください。この場合、提供するデータ値が検査されないとしても、ATTRIBUTES オプションを指定しておく必要があります。
- 15 ページの『引数の長さ』で説明されているように、ATTRIBUTES で変数の長さが指定されており、かつ C/370 でコーディングしていない場合、ATTRLEN オプションがゼロでなければそれを省略できます。

ATTRIBUTES ストリングでエラーが発生する場合、CICS は適切な RESP2 値を指定して INVREQ 条件を出します。CREATE コマンドと CSD コマンドの RESP2 値 には、該当する RESP2 値がリストされています。

リソース定義の廃棄

DISCARD コマンドはローカル CICS システムにインストールされたリソースの定義を削除します。そのため、システムはそれ以上リソースにアクセスしなくなるか、モデルとして使用しているモデルを不適格にします。

このコマンドは、システム始動時に発生することがあるリソースのインストールの影響を、後続の CREATE コマンドまたは CEDA トランザクションを介して、または自動インストール・プロセスによって、あるいは CICSPlex SM BAS コマンドを使用して取り消します。

それぞれの DISCARD コマンドにより、1 つのリソースの定義が除去されます。以下のタイプのリソース定義を除去できます。

- Atom フィード
- 端末の自動インストール・モデル
- バンドル
- 接続
- CorbaServer (CORBASERVER)
- DB2Conns
- DB2Entrys
- DB2Trans
- 配置 JAR ファイル (DJAR)
- 文書テンプレート
- ENQ モデル
- ファイル
- IPIC 接続
- ジャーナルおよびジャーナル・モデル
- LIBRARY 連結
- WebSphere MQ 接続
- パートナー
- PIPELINE
- プロセス・タイプ
- プロファイル
- プログラム、マップ・セット、および区画セット
- 要求モデル
- TCP/IP サービス
- 一時記憶域キュー・モデル
- 端末
- トランザクション・クラス
- トランザクション
- 一時データ・キュー
- URIMAPs
- WEBSERVICEs

現在使用中のリソースは廃棄できません。例えば、いくつかのインストール済みの TRANSACTION 定義がまだ PROFILE 定義、オープンしている FILE、または実行のスケジュールに入れられている TRANSACTION を指す場合、その PROFILE 定義を削除できません。

さらに、リソースによっては廃棄するのに適していないものもあります。それには、名前が DFH で始まるリソース (CICS 提供の定義のために予約済み)、および名前が C で始まるトランザクション (CICS のために予約済み) が含まれます。

EP アダプター、EP アダプター・セット、またはイベント・バインディングを破棄することはできません。このタイプのリソースは、DISCARD BUNDLE コマンドを使用した場合にのみ破棄できます。

いくつかの DISCARD コマンドは、CREATE コマンドと同様に、タスクを発行する代わりに同期点を発行します。これらのコマンドについては、『リソース定義の作成』のページにある同期点の考慮事項が該当します。

DISCARD コマンドは CICS カタログに記録されるので、その影響はウォーム・リスタートまたは緊急時再始動をまたいで持続します。ただし、CSD ファイルは変更しないので、コールド・スタートまたは初期始動時には失われます。

出口関連のコマンド

CICS では、出口とは、CICS システム・コード内の特定の CICS 定義のポイントで呼び出されたインストールで提供されるコード、または Db2 要求や IMS 要求などの出口メカニズムを使用するアプリケーション要求で呼び出されたインストールで提供されるコードです。

グローバル・ユーザー出口とタスク関連ユーザー出口という 2 つのタイプがあります。グローバル・ユーザー出口は、常にシステム・コード内の CICS により定義されたポイントで呼び出されますが、タスク関連出口は、両方の方法で呼び出すことができます。 ユーザー出口プログラムを使用したカスタマイズに、グローバル出口を呼び出すことができる CICS コード内のポイントをリストし、タスク関連出口を起動する方法とタイミング、および出口をプログラミングする方法の詳細について説明しています。

出口に関連する SPI コマンドは、以下の 5 つです。

- ENABLE PROGRAM
- DISABLE PROGRAM
- EXTRACT EXIT
- RESYNC ENTRYNAME
- INQUIRE EXITPROGRAM

これらは、CICS でサポートされる任意の言語で使用できます。ただし、出口そのものはアセンブラーでコーディングする必要があります。

出口の定義

CICS で出口を定義する、つまり出口をインストールしてコードが実行されるようにする唯一の方法は、**ENABLE PROGRAM** コマンドを発行することです。

同様に、定義を削除する唯一の方法は、対応する **DISABLE PROGRAM EXITALL** コマンドを発行するか、システムをシャットダウンすることです。出口定義は、現在の CICS 実行の間のみ持続します。キーポイント、CICS グローバル・カタログ、CSD ファイルのいずれにも記録されないため、どの種類のシャットダウンにおいても、出口定義がシャットダウンをまたいで保持されることはありません。

ENABLE および **DISABLE PROGRAM** コマンドは、コマンドが発行された CICS 領域にのみ影響を与えます。実行中の複数の CICS 領域で CICS システム・コードまたは出口プログラム・コードを共用する場合でも、出口の定義および削除は、出口を使用する領域ごとに別個に行う必要があります。

また、これらのコマンドはリカバリー可能ではありません。コマンドを発行したタスクが失敗したり、**SYNCPOINT ROLLBACK** コマンドを発行したりしても、コマンドの影響はバックアウトされません。

出口の名前

出口が実行するコードは、1 つ以上の通常のロード・モジュールに含まれています。1 つのモジュールを、出口およびユーザー・トランザクションの両方で使用することができます。

出口で実行する最初のモジュールを指定するには、出口を作成する **ENABLE PROGRAM** コマンドの PROGRAM オプションでそのモジュールを指定します。出口では他のモジュールも実行することができますが、開始する場所をユーザーが CICS に伝えます。これは、実行する最初のプログラムのみを TRANSACTION 定義でユーザーが指定するのと同様です。

出口の名前は、PROGRAM 値ではなく最初の ENABLE PROGRAM コマンドの ENTRYNAME 値で指定しますが、ENTRYNAME オプションを省略して、このオプションのデフォルト値である PROGRAM 値を使用することもできます。ただし、出口の名前は固有でなければならないため、同じプログラムが複数の出口で最初に使用されている場合は、この方法でデフォルトで指定できるのはいずれか 1 つの出口のみです。また、出口と最初のプログラムが同じ名前であっても、それらは異なるタイプの個別のエンティティーです。

このデフォルト (および、ある経緯) のために、CICS では、必ず、出口を作成した **ENABLE PROGRAM** コマンドで指定したのと同じように、つまり、同じ PROGRAM 値および ENTRYNAME 値をコーディング (または省略) して出口を指定する必要があります。 RESYNC ENTRYNAME は例外です。最初に ENTRYNAME または PROGRAM のどちらを使用して名前を割り当てたかにかかわらず、ENTRYNAME オプションで出口の名前を指定します。また、**INQUIRE EXITPROGRAM** コマンドでも、最初のプログラムを指定するオプションは、PROGRAM ではなく EXITPROGRAM です。

ユーザー・トランザクションで起動するモジュールと同じく、出口で使用するロード・モジュールも、明示的に、または自動インストールを介して、PROGRAM リソースとして定義する必要があります。また、起動時の ENABLESTATUS 値は ENABLED でなければなりません。さらに、出口の最初のプログラムは、出口を作成する ENABLE PROGRAM コマンドを発行する時点で ENABLED ステータスでなければなりません。ただし、プログラムの ENABLESTATUS は、そのプログラムを使用する出口とは独立しており、また、そのプログラムを参照する ENABLE および DISABLE PROGRAM コマンドによる影響を受けません。

SPI における CICS スレッド・セーフ・コマンド

CICS プログラムをスレッド・セーフとして作成して定義すると、そのプログラムは、オープン・トランザクション環境 (OTE) の TCB に対する制御権を受け取ることができます。

OTE のパフォーマンスを最大限に利用するには、スレッド・セーフ方式で CICS プログラムを作成し、CICS が TCB を切り替える必要がないようにします。 ただし、すべての EXEC CICS コマンドがスレッド・セーフとは限らず、スレッド・セーフではないコマンドを発行すると、CICS は、シリアライゼーションを確保するた

めにタスクを QR TCB に切り替えるので、注意してください。 本書のコマンド構文図では、スレッド・セーフであるコマンドを「このコマンドはスレッド・セーブです」という文で示します。

スレッド・セーフであるシステム・プログラミング・インターフェース (SPI) コマンドのリストについては、スレッド・セーフ SPI コマンドを参照してください。

監査可能な SPI コマンド

いくつかのシステム・プログラミング・インターフェース・コマンドを監査できます。

システム・プログラミング・インターフェース・コマンド **SET**、**PERFORM**、**ENABLE**、**DISABLE**、**RESYNC** を使用すると、リソース定義が動的に変更されることがあります。正しくないエントリーは、CICS システムが失敗する原因になります。問題を診断する場合には、リソースが変更されているかどうかを知ることが重要です。

システム管理者や監査レコードの管理者は、システム・リソースを動的に変更する特定のシステム・プログラミング・インターフェース・コマンドを監査できます。監査対象のシステム・プログラミング・インターフェース・コマンドのいずれかによってシステム・リソースが変更されると、新規メッセージ DFHAP1900 が一時データ・キュー CADS に書き込まれます。CADS 一時データ・キューは、DFHLIST の一部である DFHDCTG グループで定義される間接キューです。メッセージは、人間が理解できる形式で書き込まれます。

これらのメッセージには、以下の情報が含まれています。

- 時間
- アプリケーション ID
- ネット名
- トランザクション ID
- ユーザー ID
- 属性名と値を含む、コマンドの詳細
- RESP 応答コード
- RESP2 応答コード

例 1: コマンド **CEMT SET SYSTEM MAXTASKS(250)** が端末 TC99 から入力されました。通常応答の場合、以下のメッセージが CADS キューに書き込まれます。

```
DFHAP1900 I 11/11/2011 11:11:11 IYK3ZC76 IYCWTC99 CNTEST7
CEMT SET SYSTEM MAXTASKS(250) RESP(NORMAL) RESP2(0)
```

例 2: コマンド **CECI SET FILE(TEMP) OPEN** が端末 TC99 から入力されました。応答は Open/close failed EIBRESP=+0000000012 EIBRESP2=+0000000018 です。監査メッセージは次のように書き込まれます。

```
DFHAP1900 I 11/11/2011 11:11:11 IYK3ZC76 IYCWTC99 CNTEST7
CECI SET FILE(TEMP) OPEN RESP(FILENOTFOUND) RESP2(18)
```

可能な場合、監査メッセージを読みやすくするため、メッセージではコードの代わりに CVDA 値が使用されます。

例 3: コマンド **CECI SET FILE(TEMP) ENABLESTATUS(ENABLED)**。監査メッセージは次のように書き込まれます。

```
DFHAP1900 I 11/11/2011 11:11:11 IYK3ZC76 IYCWTC99 CNTEST7
CECI SET FILE(TEMP) ENABLESTATUS(ENABLED) RESP(FILENOTFOUND) RESP2(18)
```

CEMT、WUI、または Explorer オペレーター・コマンドと汎用パラメーターを使用すると、各コマンドが別個に入力されたように監査されます。例えば、2000 個のプログラムがある場合にコマンド **CEMT SET PROGRAM(*) ENABLE** を入力すると、2000 の別個のメッセージがログに記録されます。同様に、**SET PROGRAM** に対する権限がない場合にコマンド **CEMT SET PROGRAM(*) NEWCOPY** を入力すると、2000 個の RACF 障害メッセージがログに記録されます。多数のメッセージがあると、CSSL キューがあふれる可能性があるため、監査メッセージは別のキューにリダイレクトする必要があります。各コマンドは別個に入力されたようにログに記録されるため、単一のプログラム名でログを検索して、問題を判別することができます。

CEMT コマンドまたは CECI コマンドを使用する場合は、いくつかのオプションを追加または変更できます。監査メッセージには発行されたコマンド (入力したコマンドとは異なる場合がある) が示されます。

注**:** 監査メッセージは、ダミーの一時データ・キューにメッセージを送信することによって無効にすることができます。ダミー一時データ・キューの使用を参照してください。

監査メッセージ内のユーザー ID

監査メッセージに表示されるユーザー ID は、コマンドが発行されたコンテキスト内でアクティブなセキュリティーに応じて異なります。 CICSPlex® SM の制御下でコマンドが発行された場合、どのユーザー ID が使用されるかに影響するいくつかの設定があります。次の表を参照してください。

CMAS の **EYUPARM**	要求が開始された **CICS** 領域の **SIT** パラメーター	監査メッセージ内のユーザー **ID**
SEC(YES)	SEC=YES	認証されたユーザー ID
SEC(YES)	SEC=NO	CMAS のデフォルトのユーザー ID
SEC(NO)	SEC=NO	コマンドが発行された CICS 領域のデフォルトのユーザー ID
SEC(NO)	SEC=YES	無効な組み合わせ

「認証されたユーザー ID」は、コマンドを発行するようにとの要求がどこで、どのように開始されたかに応じて決まります。次の表を参照してください。

どこで要求が開始されたか	認証されたユーザー **ID**
WUI	WUI へのサインオンに使用されたユーザー ID
CICSPlex SM API バッチ・ジョブ	ジョブが CICSPlex SM に接続したときのユーザー ID。これは、デフォルトでは、ジョブが実行されているユーザーです。

どこで要求が開始されたか	認証されたユーザー **ID**
CICSPlex SM API アプリケーション	タスクが CICSPlex SM に接続したときのユーザー ID。これは、デフォルトでは、CICS 内でタスクが実行されているユーザーです。
Region Explorer (CMCI)	接続資格情報で指定されたユーザー ID。

注**:** WUI でセキュリティーがアクティブでない場合は、ユーザー ID に任意のストリング値を使用して、Web ユーザー・インターフェースからログオンできます。MAS または CMAS のデフォルトのユーザー ID は監査メッセージに表示されるため、コマンドを入力したユーザーの特定に使用することはできません。

CICS のユーザー・セキュリティーに関するさらに詳しい情報は、CICS ユーザーを参照してください。

監査されない **SPI** コマンド

一部の SPI コマンドは監査されません。

- SET TERMINAL
- FEPI SET コマンド
- PERFORM SHUTDOWN (既にメッセージ DFHTM1715 によって処理されている)
- CREATE (既存のメッセージによって既に記録されている)

第 2 章 システム・コマンド

CICS システム・コマンドのアルファベット順リスト。

EIB 応答コードについては、EXEC CICS コマンドの応答コードを参照してください。

EIB 機能コードについては、EXEC CICS コマンドの機能コードを参照してください。

EXEC CICS CREATE コマンドと EXEC CICS CSD コマンドの RESP2 値

EXEC CICS CREATE コマンド、および **EXEC CICS CSD** コマンドの **DEFINE**、**ALTER**、**USERDEFINE**、および **INSTALL** は、それぞれ CICS メッセージと関連付けられた RESP2 値を発行します。これらのメッセージのほとんどは、一時データ・キュー CSMT に書き込まれます。

RESP2 値およびそれに対応するメッセージ番号が以下の表 1 に示されています。このコマンドの場合、フルワード EIBRESP2 フィールドは 2 つのハーフワードを含む構造と見なされます。下位ハーフワードには常にエラー番号が含まれます。上位ハーフワードには、エラーを識別するのに役立つ別の番号が含まれることがあります。この番号は、エラーが検出された ATTRIBUTES ストリング内のオフセット *n* である場合もあります。また、エラーが検出されたキーワード番号 *k* である場合もあります。キーワード番号のリストについては、 49 ページの表 2 から 66 ページの表 34 を参照してください。

表 *1.* メッセージに対応する *RESP2* 値

RESP2	メッセージ **ID**	説明またはメッセージ
		構文上のエラーによって生成されるコード
n,400	DFHCA5211	間違った位置の区切り文字が ATTRIBUTES にあります。ATTRIBUTES ストリングのオフセット *n* に無効な区切り文字があります。
n,401	DFHCA5204	ATTRIBUTES 内で指定されたキーワードが無効です。ATTRIBUTES ストリングのオフセット *n* に無効なキーワードがあります。
n,402	DFHCA5212、DFHCA5213	ATTRIBUTES 内のキーワードをその略語から一意的に識別できません。 ATTRIBUTES ストリングのオフセット *n* に無効なキーワードがあります。
k,403	DFHCA5501	必須キーワードが省略されています。このトピックの残りの表では、省略されたキーワードにはコード *k* があります。
404	DFHCA5529	必須キーワードが省略されています。省略されているキーワードは、関連メッセージで指定されているとおりに、2 つの相互排他キーワードから選択する必要があります。
k,405	DFHCA5504	指定された 1 つのキーワードには、別のキーワードの指定が必要です。このトピックの残りの表では、省略されたキーワードにはコード *k* があります。

© Copyright IBM Corp. 1977, 2018

表 *1.* メッセージに対応する *RESP2* 値 *(*続き*)*

RESP2	メッセージ **ID**	説明またはメッセージ
k,406	DFHCA5206	ATTRIBUTES 内で 1 つのキーワードが複数回出現します。このトピックの残りの表では、重複したキーワードにはコード *k* があります。
k,407	DFHCA5503 DFHCA5506	矛盾するキーワードが指定されています。このトピックの残りの表では、矛盾の原因となるキーワードにはコード *k* があります。
k,410	DFHCA5210 DFHCA5519 DFHCA5521 DFHCA5522 DFHCA5526 DFHCA5528 DFHCA5532 DFHCA5547	ATTRIBUTES 内のキーワードに無効なオペランドが提供されています。このトピックの残りの表では、エラーのあるキーワードにはコード *k* があります。
k,410	DFHCA5224	引数値が、キーワードの有効な範囲外です。このトピックの残りの表では、エラーのあるキーワードにはコード *k* があります。
k,410	DFHCA5542	Remoteprefix の長さと Prefix の長さは同じでなければなりません。このトピックの残りの表では、エラーのあるキーワードにはコード *k* があります。
k,410	DFHCA5543	総称は、Prefix および Remoteprefix で同じ場所になければなりません。このトピックの残りの表では、エラーのあるキーワードにはコード *k* があります。
k,411	DFHCA5207	キーワードにオペランドが提供されていますが、これは不要です。このトピックの残りの表では、エラーのあるキーワードにはコード *k* があります。
k,412	DFHCA5205	ATTRIBUTES 内のキーワードに必須のオペランドが省略されています。このトピックの残りの表では、エラーのあるキーワードにはコード *k* があります。
k,412	DFHCA5544	直前の値が総称であるため、値は総称として指定する必要があります。このトピックの残りの表では、エラーのあるキーワードにはコード *k* があります。
k,413	DFHCA5517	複数のキーワードのオペランドが相互に競合しています。このトピックの残りの表には、検出された最初の矛盾するキーワードにはコード *k* があります。
k,414	DFHCA5507	ATTRIBUTES 内のキーワードのオペランドの値が小さすぎます。このトピックの残りの表では、エラーのあるキーワードにはコード *k* があります。
k,415	DFHCA5513	ATTRIBUTES 内のキーワードのオペランドとして指定されている値の対において、2 番目の値は最初の値を超過してはなりません。このトピックの残りの表では、エラーのあるキーワードにはコード *k* があります。
k,416	DFHCA5509	ATTRIBUTES 内のキーワードに無効なオペランドが提供されています。オペランドの値は、リソースの名前と異なっていなければなりません。このトピックの残りの表では、エラーのあるキーワードにはコード *k* があります。
417	DFHCA4884 DFHCA5523 DFHCA5535	指定されたリソースは、このコマンドでは作成できません。このリソース名は CICS が使用するために予約済みです。

表 *1.* メッセージに対応する *RESP2* 値 *(*続き*)*

RESP2	メッセージ **ID**	説明またはメッセージ
418	DFHCA5527	CICS 内部プログラム (名前が DFH で始まる) に、リモート実行を指定する属性を付与できません。
k,419	DFHCA5217	ATTRIBUTES 内の DESCRIPTION キーワードで、右括弧がありませんでした。このトピックの残りの表では、エラーのあるキーワード (DESCRIPTION) にはコード *k* があります。
420	DFHCA5508	PROTECTNUM が THREADLIMIT 以下でなければならないか、COMTHREADLIM が TCBLIMIT 以下でなければならないか、または THREADLIMIT が TCBLIMIT 以下でなければなりません。
421	DFHCA5544	前の値が総称だったため、値を総称として指定する必要があります。
422	DFHCA5546	REQUESTMODEL に指定された TYPE が正しくありません。
423	DFHCA5548	オプションが、以前の CICS リリースの要求モデルには無効です。
424	DFHCA5549	2 つの属性に指定される値は同じであってはなりません。
425	DFHCA5551	*keyword2* も総称でなければ、*keyword1* を総称として指定できません。エラーのキーワードを判別するには、関連メッセージを参照してください。
426	DFHCA5552	指定された CIPHERS 属性の値は無効です。
427	DFHCA5553	指定された属性フィールドに、示されている文字を含めることができません。
428	DFHCA5555	リソース定義に少なくとも 1 つの属性 が必要です。
429	DFHCA5556 DFHAC5539	リソース名が、予約済み文字「C」または予約済み文字「DFH」または「EYU」で始まっています。
430	DFHCA5557	使用されるリソース名が、予約済みの名前です。
431	DFHCA5560	HOST 属性にはポート番号が含まれており、別のゼロでない PORT 属性も指定されています。
		既存のリソースを削除する際のエラーによって生成されるコード
500	DFHAM4803 DFHAM4834 DFHAM4836 DFHAM4842 DFHAM4896 DFHCA4940 DFHCA4803 DFHCA4834 DFHCA4836 DFHCA4842 DFHCA4896 DFHCA4940 DFHZC5913	リソースが現在使用中のため、インストールは失敗しました。
500	DFHAM4949 DFHCA4949	リソースがバンドルによって既にインストールされているため、インストールは失敗しました。
500	DFHAM4950 DFHCA4950	リソースが既にインストールされているため、インストールは失敗しました。
500	DFHAM4834 DFHAM4838 DFHCA4834 DFHCA4838	リソースが使用不可になっていないため、インストールは失敗しました。

表 1. メッセージに対応する *RESP2* 値 (続き)

RESP2	メッセージ **ID**	説明またはメッセージ
500	DFHAM4853 DFHCA4853	同じトランザクション ID を指定する別の DB2TRAN がインストールされているため、インストールは失敗しました。
500	DFHAM4874 DFHCA4874	属性が存在するため、インストールは失敗しました。
500	DFHAM4894 DFHCA4894	リソースが使用不可になっていないため、インストールは失敗しました。
500	DFHAM4903 DFHCA4903	サービスがオープンしているため、インストールは失敗しました。
500	DFHAM4940 DFHCA4940	MQCONN がすでにインストールされているため、MQCONN のインストールは失敗しました。
500	DFHAM4962 DFHCA4962	同じ名前を持つ MQMONITOR がすでにインストールされているため、インストールが失敗しました。
501	DFHAM4841 DFHCA4841	*restype resname* の定義がタスク番号 *taskno*(transaction id. *tranid*) によって使用されているため、インストールは失敗しました。
501	DFHZC5980	タスク *taskid*、トランザクション *tranid* によりリソース *resource* は使用されています。
502	DFHZC6304	リモート端末 *termid* は別のトランザクションによって使用されているため、削除に失敗しました。
503	DFHZC5915	*restype id* の削除が失敗しました。サービス休止に設定する必要があります。
504	DFHAM4899 DFHCA4899 DFHZC5998	インストールで、置換できないリソースが指定されました。
505	DFHZC5916	端末 *termid* の削除が失敗しました。保留中の DFHZCP アクティビティーがあります。
505	DFHZC5918	端末 *termid* コンソール *consname* の削除が失敗しました。保留中の DFHZCP アクティビティーがあります。
506	DFHZC5914	端末 *termid* の削除で、その端末の削除が進行中であることがわかりました。
506	DFHZC5937	モードネーム *modename* を削除するときに、そのモードネームの別の削除が進行中であることがわかりました。
507	DFHZC5902	端末 *termid* の削除が失敗しました。 BMS ページング・セッションはまだアクティブです。
508	DFHZC5917	端末 *termid* の削除が失敗しました。エラー・メッセージ・ライターはまだアクティブです。
509	DFHZC5904	端末 *termid* の削除が失敗しました。 CEDF はまだアクティブです。
510	DFHZC5941	端末 *termid* のインストールが失敗しました。コンソール *consname* に未解決の会話があります。
511	DFHZC5907	接続 *cccc* でリモートにシップされた端末の削除に失敗しました。
512	DFHZC5925	接続 *cccc* の削除が失敗しました。その AID チェーンは空ではありません。
513	DFHZC5929	接続 *cccc* の削除が失敗しました。それは、*n* 個の間接接続で使用中です。
514	DFHZC5938	モードネーム *modename* の削除が失敗しました。セッションを削除できません。
515	DFHZC5951	接続 *ssss* の削除が失敗しました。セッションを削除できません。

表 *1.* メッセージに対応する *RESP2* 値 *(*続き*)*

RESP2	メッセージ **ID**	説明またはメッセージ
516	DFHZC5945	セッション *ssss* の削除に失敗しました。接続 *cccc* は IRC に対して定義されています。
517	DFHZC5952	端末 *termid* の削除が失敗しました。 SET RELEASED にする必要があります。
518	DFHZC5969	従属モードネームの削除が接続 *modename* で失敗しました。
519	DFHZC5974	プール *pppp* の削除に失敗しました。プール・エントリーを削除できません。
520	DFHZC5979	プール *pppp* の削除に失敗しました。まだセッション *termid* があります。
520	DFHZC5982	プール *pppp* の削除に失敗しました。 *termid* のプール・エントリーは使用されています。
521	DFHZC5958	インストールが *xxxx* について失敗しました。これは置き換えてはいけないローカル・システムの名前です。
522	DFHZC5940	端末 *termid* のインストールが失敗しました。エラー・コンソールを削除できません。
523	DFHZC5989	リソース *resource* の削除が失敗しました。接続 *cccc* でのリモート削除が失敗しました。
524	DFHZC5943	MRO 接続 *conname* は、IRC がオープンされているため削除できません。
525	DFHAM4807	MAXKEYLENGTH が 22 未満であり、CSD で使用するには不適当であるため、LSRPOOL のインストールが失敗しました。 新規のリソースをインストールする際のエラーによって生成されるコード
600	DFHTO6000	TERMINAL *termdef* の定義が、未定義の TYPETERM *termtype* を参照しています。
600	DFHTO6001	プールされた TERMINAL *termdef* の定義が、未定義の TYPETERM *termtype* を参照しています。
601	DFHAM4910 DFHCA4910	区分データ・セットでメンバーが見つからなかったため、インストールに失敗しました。
601	DFHTO6002	SESSIONs *sesdef* の定義が、未定義の CONNECTION *condef* を参照しています。
601	DFHZC5911	リソース *resource* のインストールが失敗しました。接続 *cccc* が見つかりません。
601	DFHZC5932	モードネーム *modename* のインストールが失敗しました。接続 *cccc* が見つかりません。
602	DFHZC5962	リソース *resource* のインストールが失敗しました。モードネーム・パラメーターが見つかりません。
603	DFHZC5906	インストールに失敗しました。*xxxx* は端末あるいは接続名に使用できる値ではありません。
604	DFHZC5933	モードネーム *modename* のインストールが失敗しました。接続 *cccc* はここでは無効です。
605	DFHAM4889 DFHCA4889	*attribute* が無効のため、リソースのインストールが失敗しました。
606	DFHAM4890 DFHCA4890	TYPE が指定されていないため、TDQUEUE *tdqname* のインストールに失敗しました。
607	DFHAM4870 DFHCA4870	プログラム *progname* のインストールに失敗しました。RPG 言語は、MVS™ ではサポートされていません。
608	DFHAM4832 DFHCA4832	DFHINTRA データ・セットがオープンしていないため、TDQUEUE *tdqname* をオープンできません。

表 1. メッセージに対応する *RESP2* 値 (続き)

RESP2	メッセージ **ID**	説明またはメッセージ
608	DFHAM4909 DFHCA4909	DDNAME が見つからなかったため、インストールに失敗しました。
609	DFHAM4908 DFHCA4908	テンプレート名が存在するため、インストールは失敗しました。
610	DFHAM4905 DFHCA4905	オプションがこのシステムでは使用できないため、インストールが失敗しました。
612	DFHAM4920 DFHCA4920	BUNDLE は重複するため、インストールに失敗しました。
612	DFHCA4920	リソースが存在するため、リソースのインストールが失敗しました。
620	DFHAM4912 DFHCA4912	指定された属性は廃止されたため、リソースのインストールに失敗しました。
620	DFHZC5912	端末 *termid* のインストールが失敗しました。それは接続 *cccc* と互換性がありません。
620	DFHZC5949	セッション *ssss* のインストールに失敗しました。それは接続 *cccc* と互換性がありません。
621	DFHZC5900	システム *sysid* が定義を送りましたが、接続 *cccc* がこのシステムに認識されていません。
622	DFHZC5921	端末 *termid* のインストールが失敗しました。 z/OS® Communications Server サポートがロードされていません。
622	DFHZC5988	リソース *resource* のインストールが失敗しました。 z/OS Communications Server サポートが生成されていません。
623	DFHZC5909	リソース *resource* のインストールが失敗しました。 DFHIRP *irp_function Return_code* への呼び出しは成功しませんでした。戻りコードについては、DFHIRSDS を参照してください。
624	DFHZC5931	モードネーム *modename* のインストールが失敗しました。APPC セッションの最大数を超えた可能性があります。
625	DFHAM4929 DFHCA4929	矛盾する属性があるため、リソースがインストールされませんでした。
625	DFHZC5973	セッション *ssss* のインストールに失敗しました。モードネーム *modename* の最大セッション回数に達しました。
626	DFHAM4930 DFHCA4930	すでにインストールされている URIMAP と同じ URI をマップするため、URIMAP リソースはインストールされませんでした。
626	DFHZC5955	SIT (*nnnn*) で SESNUMB が DLTHRED より大きくなっています。
627	DFHAM4931 DFHCA4931	関連した WSBIND ファイルまたは PIPELINE が存在しないため、WEBSERVICE のインストールに失敗しました。
627	DFHAM4941 DFHCA4941	関連する XML バインディングまたは Atom 構成ファイルが見つからないため、ATOMSERVICE のインストールに失敗しました。
627	DFHZC5934	モードネーム *modename* のインストールが失敗しました。単一セッション接続 *cccc* が既に使用されています。
628	DFHAM4932 DFHCA4932	WEBSERVICE のインストールは、以下の理由で失敗しました。 • z/OS UNIX 内の関連したファイルが正しくセットアップされていない。 • または 関連した PIPELINE が正しくセットアップされていない。

表 *1.* メッセージに対応する *RESP2* 値 *(*続き*)*

RESP2	メッセージ **ID**	説明またはメッセージ
628	DFHAM4942 DFHCA4942	関連する XML バインディングまたは Atom 構成ファイルへのアクセス権限が CICS にないため、ATOMSERVICE のインストールに失敗しました。
628	DFHZC5936	モードネーム *modename* のインストールが失敗しました。接続 *cccc* にアクティブなモードグループ *xxxx* があります。
628	DFHAM4946 DFHCA4946	CICS にバンドル・ルート・ディレクトリーにあるマニフェストへのアクセス権限がないため、BUNDLE *bundle* のインストールに失敗しました。
629	DFHAM4933 DFHCA4933	WSDIR 属性で指定されたファイルにアクセスできなかったため、PIPELINE のインストールに失敗しました。
629	DFHAM4943 DFHCA4943	関連する XML バインディングまたは Atom 構成ファイルが無効なため、ATOMSERVICE のインストールに失敗しました。
629	DFHAM4961 DFHCA4961	指定された PROFILEDIR が長すぎたため、JVM サーバーのインストールが失敗しました。
629	DFHZC5939	*name* のインストールが失敗しました。接続 *sysid* のセッション名またはモードグループ名が重複しています。
630	DFHZC5946	セッション *ssss* のインストールに失敗しました。接続 *cccc* は IRC に対して定義されています。
630	DFHAM4934 DFHCA4934	指定された HOSTCODEPAGE と CHARACTERSET の組み合わせが無効であるため、Urimap インストールが失敗しました。
631	DFHZC5948	セッション *ssss* のインストールに失敗しました。接続 *cccc* は IRC に対して適切ではありません。
631	DFHAM4918 DFHCA4918	すべての暗号コードがリジェクトされたため、インストールに失敗しました。
632	DFHAM4936 DFHCA4936	無効なマニフェストがあったため、BUNDLE リソース *resource* のインストールに失敗しました。
632	DFHZC5954	リソース *resource* のインストールが失敗しました。セッション・コンポーネントをインストールできません。
633	DFHAM4937 DFHCA4937	マニフェストがなかったため、BUNDLE リソース *resource* のインストールに失敗しました。
633	DFHZC5963	端末 *termid* からの *operation* RUSIZE *xxxx* が TYPETERM RUSIZE *yyyy* より大きくなっています。
634	DFHZC5967	モードネーム *modename* のインストールが失敗しました。セッションをインストールできません。
635	DFHAM4939 DFHCA4939	構成エラーが発生したため、ATOMSERVICE のインストールに失敗しました。
635	DFHZC5968	モードネーム *modename* の LU サービス管理をインストールできません。
636	DFHZC5981	プール *pppp* が見つかりません。
637	DFHZC5985	リソース *resource* のインストールが失敗しました。接続コンポーネントをインストールできません。
638	DFHTO6003	TERMINAL *termdef* は CONSNAME を指定していますが、DEVICE=CONSOLE を指定していない TYPETERM *termtype* を参照しています。
639	DFHTO6004	TERMINAL *termdef* は CONSNAME を指定していませんが、DEVICE=CONSOLE を指定する TYPETERM *termtype* を参照しています。

表 1. メッセージに対応する *RESP2* 値 (続き)

RESP2	メッセージ **ID**	説明またはメッセージ
640	DFHTO6005	TERMINAL *termdef* の PRINTER または ALTPRINTER は、TYPETERM *termtype* で指定された DEVICE には無効です。
641	DFHTO6006	TERMINAL *termdef* の PRINTERCOPY または ALTPRINTERCOPY は、TYPETERM *termtype* で指定された DEVICE には無効です。
642	DFHTO6007	TERMINAL *termdef* の AUTINSTMODEL YES|ONLY は、TYPETERM *termtype* で指定された DEVICE には無効です。
643	DFHTO6008	
644	DFHTO6009	SESSION *sesdef* の定義が、別の PROTOCOL を指定する CONNECTION *condef* を参照しています。
645	DFHTO6010	SESSIONs *sesdef* の定義は、MRO CONNECTION *condef* を参照しているため、PROTOCOL LU61 を指定する必要があります。
646	DFHTO6011	MRO CONNECTION *condef* を参照するため、SESSION *sesdef* は SENDCOUNT と RECEIVECOUNT の両方を指定する必要があります。
647	DFHTO6013	どの SESSIONs 定義も CONNECTION *condef* を参照していません。
648	DFHTO6014	SESSIONTYPE=PIPELINE を指定する TYPETERM *typedef* が参照されているため、TERMINAL *termdef* には POOL が必要です。
649	DFHTO6015	TERMINAL *termdef* の TRANSACTION は、TYPETERM *typedef* で指定された DEVICE には無効です。
650	DFHTO6016	MRO CONNECTION *condef* が、*sesdef* などの複数の SESSION 定義で参照されています。
651	DFHTO6017	TERMINAL *termid* の REMOTESYSTEM は、TYPETERM *typeterm* で指定された DEVICE には無効です。
652	DFHTO6018	TERMINAL *termid* は、無効な ALTSCREEN を指定した TYPETERM *typeterm* を参照しています。
653	DFHTO6020	SESSIONS *sesdef* は単一セッション CONNECTION *condef* を参照していますが、無効な MAXIMUM オプションが指定されています。
654	DFHTO6023	接続定義 @.BCH が検出されました。バッチ共用データベース接続はサポートされません。
655	DFHTO6025	LU6.1 SESSIONs *sesdef* の定義が、接頭部の付かない送信または受信カウントを指定しています。
656	DFHZC6301	*tttt* のインストールが失敗しました。リソース *rrrr* の重複ネット名 *netname* が見つかりました。
657	DFHZC6302	接続 *cccc* のインストールが失敗しました。リソース *rrrr* の重複ネット名 *netname* が見つかりました。
658	DFHZC6303	*tttt* のインストールが失敗しました。重複ネット名 *netname* が見つかりました。
659	DFHZC6334	*tttt* のインストールが失敗しました。同じ名前のセッションが存在します。
660	DFHZC6331	接続 *tttt* のインストールが失敗しました。同じ名前を持つ非 z/OS Communications Server 端末が存在します。
660	DFHZC6332	端末 *tttt* のインストールが失敗しました。同じ名前を持つ非 z/OS Communications Server 端末が存在します。
661	DFHZC5950	端末 *termid* のインストールが失敗しました。コンソール *consname* が存在しています。

表 *1.* メッセージに対応する *RESP2* 値 *(*続き*)*

RESP2	メッセージ **ID**	説明またはメッセージ
664	DFHZC6330	*tttt* のインストールが失敗しました。 LDCLIST パラメーター *ldclist* が見つかりません。
665	DFHZC6333	モードネーム *modename* の INSTALL が失敗しました。ゼロ個のセッションが指定されました。
666	DFHAM4833 DFHCA4833 DFHZC6315 DFHZC6361	セキュリティー・エラーが発生したため、指定されたユーザー ID でリソースをインストールできません。
667	DFHZC6362	事前設定ユーザー ID が取り消されたため、ユーザー ID *userid* での端末 *portname* へのインストールに失敗しました。
668	DFHZC6363	事前設定ユーザー ID のグループ・アクセスが取り消されたため、ユーザー ID *userid* での端末 *portname* へのインストールに失敗しました。
669	DFHZC6364	ESM が認識されない応答を返したため、ユーザー ID *userid* での端末 *portname* へのインストールに失敗しました。
670	DFHZC6365	外部セキュリティー・マネージャーが非アクティブであるため、ユーザー ID *userid* での端末 *portname* へのインストールに失敗しました。
671	DFHZC6366	ユーザー ID *userid* にこの CICS システムにアクセスする権限がないため、このユーザー ID での端末 *portname* へのインストールに失敗しました。
672	DFHZC6367	SECLABEL チェックに失敗したため、ユーザー ID *userid* での端末 *termid* へのインストールに失敗しました。
673	DFHZC6368	外部セキュリティー・マネージャーが静止しているため、ユーザー ID *userid* での端末 *portname* へのインストールに失敗しました。
674	DFHZC6369	各国語 *langcode* が無効のため、端末 *portname* のインストールは失敗しました。
675	DFHZC6370	各国語 *langcode* が使用不可のため、端末 *portname* のインストールは失敗しました。
676	DFHZC6371	ユーザー ID がこのポート名を使用する権限がないため、ユーザー ID *userid* での端末 *portname* へのインストールに失敗しました。
677	DFHZC5944	*type*(*id*) のインストールが失敗しました。接続定義のループを作っている可能性があります。
679	DFHAM4837 DFHCA4837	DB2CONN がインストールされていないため、DB2ENTRY または DB2TRAN のインストールに失敗しました。
680	DFHAM4850 DFHCA4850	DB2TRAN は、インストールされていない DB2ENTRY を参照するため、インストールされません。
681	DFHAM4851 DFHCA4851	セキュリティー・エラーが発生したため、DB2CONN、DB2ENTRY、または DB2TRAN はインストールされません。
681	DFHCA4851	セキュリティー・エラーが発生したため、LIBRARY はインストールされません。
682	DFHAM4895 DFHCA4895	CREATE TSMODEL を定義する際に TST はマイグレーション・オプションを使用してアセンブルされませんでした。
683	DFHCA4817	インストール処理中に重大な MVS 異常終了が検出されました。
685	DFHCA4869	このリソース・タイプへの単一リソース・インストールは許可されていません。

表 1. メッセージに対応する *RESP2* 値 (続き)

RESP2	メッセージ **ID**	説明またはメッセージ
686	DFHAM4947 DFHCA4947	予期しないリソース・エラーが発生したため、BUNDLE リソースのインストールが失敗しました。
687	DFHAM4948 E DFHCA4948 E	*resourcetype* リソースのインストールは、このリリースではサポートされていません。このタイプのリソースをサポートする最後のリリースは、CICS Transaction Server バージョン *version.release* でした。
688	DFHAM4952 E DFHCA4952 E	BUNDLE *resourcename* のインストールに失敗しました。その ID とバージョンが、既に存在する BUNDLE と重複しているためです。
689	DFHAM4954 E DFHCA4954 E	指定の証明書へのアクセス権限がユーザーにないため、CICS システムで *resourcename* という名前の TCPIPSERVICE、IPCONN、または URIMAP をインストールしようとして失敗しました。
690	DFHAM4919 DFHCA4919	CIPHERS ファイルが見つからなかったため、インストールに失敗しました。
691	DFHAM4962 DFHCA4962	MQMONITOR *resourcename* は、同じ名前を持つ MQMONITOR が既にインストールされ、使用中であるため、インストールできません。
692	DFHAM4963 DFHCA4963	CICS システムにインストールされている MQCONN がないため、MQMONITOR *resourcename* のインストールに失敗しました。
693	DFHAM4965 DFHCA4965	MONUSERID の値が指定されていないため、MQMONITOR *resourcename* のインストールが失敗しました。
		CICS 内部論理エラーによって生成されるコード
900	DFHTO6012	カタログ・データ・セットが使用できません。RDO 機能が制限されています。
901	DFHAM4872 DFHCA4872	CICS カタログに接続できません。
902	DFHAM4873 DFHCA4873	CICS カタログを切断できません。
903	DFHZC6209	ZC カタログ要求コード *xxxx* が無効です。
904	DFHZC6212	カタログ・レコードとのレベルの不一致があります。 DFHBS *xxx*。
905	DFHAM4898 DFHCA4898 DFHZC5901	十分なストレージを確保できなかったため、インストールに失敗しました。
906	DFHZC6200	DWE ストレージを取得できません。
907	DFHZC6203	DWE アクション・リスト・ストレージを取得できません。
908	DFHZC6214	リカバリー・レコード・ストレージを取得できません。
950	DFHZC6202	パターン *pattern* はビルダーにとって無効です。
951	DFHZC6204	サブパターン定義 *pattern* が正しくありません。
952	DFHZC6205	サブパターン定義 *pattern* が正しくありません。
953	DFHZC6206	リソースを破棄する際のパターン *pattern* が無効です。
954	DFHZC6207	カタログ・キーが長すぎるか、ゼロです。パターン *pattern*。
955	DFHZC6213	リカバリー・レコードが中止されました。キーは *key* です。
956	DFHZC6341	ループまたは ABEND がモジュール *bymodule* によって *inmodule* で検出されました。

注:

残りの表では以下のとおりです。

- キーワード番号 1 は常に、CREATE コマンドの第 1 オペランド、つまり作成されるリソースを参照します。
- 廃止として示されるキーワードは、リリース間の互換性のために保持されます。

表 2. キーワード番号に関連付けられた *ATOMSERVICE* キーワード

キーワード番号	キーワード
1	ATOMSERVICE
6	DESCRIPTION
7	CONFIGFILE
8	BINDFILE
9	RESOURCENAME
97	ATOMTYPE
98	STATUS
99	RESOURCETYPE

表 3. キーワード番号に関連付けられた *BUNDLE* キーワード

キーワード番号	キーワード
1	BUNDLE
6	DESCRIPTION
7	BUNDLEDIR
8	BASESCOPE
97	STATUS

表 4. キーワード番号に関連付けられた *CONNECTION* キーワード

キーワード番号	キーワード
1	CONNECTION
5	NETNAME
6	INDSYS
7	SECURITYNAME
8	BINDPASSWORD (廃止)
10	REMOTESYSTEM
11	REMOTENAME
12	DESCRIPTION
13	QUEUELIMIT
14	MAXQTIME
27	REMOTESYSNET
97	INSERVICE
98	AUTOCONNECT
99	PROTOCOL
100	ACCESSMETHOD
101	SINGLESESS
102	DATASTREAM

表 4. キーワード番号に関連付けられた *CONNECTION* キーワード (続き)

キーワード番号	キーワード
103	RECORDFORMAT
104	ATTACHSEC
105	BINDSECURITY
106	CONNTYPE
107	PSRECOVERY
110	USEDFLTUSER
111	XLNACTION

表 5. キーワード番号に関連付けられた *DB2CONN* キーワード

キーワード番号	キーワード
1	DB2CONN
6	DESCRIPTION
7	DB2ID
8	MSGQUEUE1
9	MSGQUEUE2
10	MSGQUEUE3
11	PURGECYCLE
13	STATSQUEUE
14	TCBLIMIT
15	THREADLIMIT
16	AUTHID
17	PLAN
18	PLANEXITNAME
19	COMTHREADLIMIT
20	COMAUTHID
21	SIGNID
25	DB2GROUPID
98	CONNECTERROR
99	NONTERMREL
100	STANDBYMODE
101	THREADERROR
102	ACCOUNTREC
103	AUTHTYPE
104	DROLLBACK
106	PRIORITY
107	THREADWAIT
108	COMAUTHTYPE
110	RESYNCMEMBER

表 6. キーワード番号に関連付けられた *DB2ENTRY* キーワード

キーワード番号	キーワード
1	DB2ENTRY
6	DESCRIPTION
8	TRANSID
13	PROTECTNUM
15	THREADLIMIT
16	AUTHID
17	PLAN
18	PLANEXITNAME
102	ACCOUNTREC
103	AUTHTYPE
104	DROLLBACK
106	PRIORITY
107	THREADWAIT

表 7. キーワード番号に関連付けられた *DB2TRAN* キーワード

キーワード番号	キーワード
1	DB2TRAN
6	DESCRIPTION
8	TRANSID
9	ENTRY

表 8. キーワード番号に関連付けられた *DOCTEMPLATE* キーワード

キーワード番号	キーワード
1	DOCTEMPLATE
6	DESCRIPTION
7	TEMPLATE
8	FILE
9	TSQUEUE
10	TDQUEUE
11	PROGRAM
12	EXITPGM
13	DDNAME
14	MEMBERNAME
17	HFSFILE
99	APPENDCRLF
100	TYPE

表 9. キーワード番号に関連付けられた *ENQMODEL* キーワード

キーワード番号	キーワード
1	ENQMODEL

表 *9.* キーワード番号に関連付けられた *ENQMODEL* キーワード *(*続き*)*

キーワード番号	キーワード
6	DESCRIPTION
7	ENQSCOPE
8	ENQNAME
99	STATUS

表 *10.* キーワード番号に関連付けられた *FILE* キーワード

キーワード番号	キーワード
1	FILE
5	RESSECNUM (廃止)
6	DSNAME
7	RECORDSIZE
8	KEYLENGTH
9	JOURNAL
10	REMOTESYSTEM
11	REMOTENAME
12	PASSWORD
13	LSRPOOLID
14	STRINGS
15	DATABUFFERS
16	INDEXBUFFERS
17	FWDRECOVLOG
18	DESCRIPTION
19	NSRGROUP
20	MAXNUMRECS
21	CFDTPOOL
22	TABLENAME
23	LSRPOOLNUM
97	STATUS
98	RECOVERY
99	OPENTIME
100	DISPOSITION
101	ADD
102	BROWSE
103	DELETE
104	READ
105	UPDATE
106	JNLSYNCREAD
107	JNLSYNCWRITE
108	JNLREAD
109	JNLUPDATE

表 *10.* キーワード番号に関連付けられた *FILE* キーワード *(*続き*)*

キーワード番号	キーワード
110	JNLADD
111	DSNSHARING
112	RECORDFORMAT
113	TABLE
114	BACKUPTYPE
115	RLSACCESS
116	READINTEG
117	LOAD
118	UPDATEMODEL

表 *11.* キーワード番号に関連付けられた *IPCONN* キーワード

キーワード番号	キーワード
1	IPCONN
6	DESCRIPTION
7	APPLID
8	TCPIPSERVICE
9	PORT
10	HOST
11	RECEIVECOUNT
12	SENDCOUNT
13	QUEUELIMIT
14	MAXQTIME
15	NETWORKID
97	INSERVICE
98	AUTOCONNECT
99	XLNACTION
100	SSL
101	USERAUTH
102	LINKAUTH
103	IDPROP
104	MIRRORLIFE

表 *12.* キーワード番号に関連付けられた *JOURNALMODEL* キーワード

キーワード番号	キーワード
1	JOURNALMODEL
6	DESCRIPTION
7	JOURNALNAME
8	STREAMNAME
98	TYPE

表 *13.* キーワード番号に関連付けられた *JVMSERVER* キーワード

キーワード番号	キーワード
1	JVMSERVER
6	DESCRIPTION
7	JVMPROFILE
8	LERUNOPTS
9	THREADLIMIT
97	STATUS

表 *14.* キーワード番号に関連付けられた *LIBRARY* キーワード

キーワード番号	キーワード
1	LIBRARY
5	RANKING
6	DESCRIPTION
7	DSNAME01
8	DSNAME02
9	DSNAME03
10	DSNAME04
11	DSNAME05
12	DSNAME06
13	DSNAME07
14	DSNAME08
15	DSNAME09
16	DSNAME10
17	DSNAME11
18	DSNAME12
19	DSNAME13
20	DSNAME14
21	DSNAME15
22	DSNAME16
97	STATUS
98	CRITICAL

表 *15.* キーワード番号に関連付けられた *LSRPOOL* キーワード

キーワード番号	キーワード
1	LSRPOOL
6	MAXKEYLENGTH
7	SHARELIMITE
8	STRINGS
9	DATA512
10	DATA1K
11	DATA2K

表 *15.* キーワード番号に関連付けられた *LSRPOOL* キーワード *(*続き*)*

キーワード番号	キーワード
12	DATA4K
13	DATA8K
14	DATA12K
15	DATA16K
16	DATA20K
17	DATA24K
18	DATA28K
19	DATA32K
20	LSRPOOLID
21	DESCRIPTION
22	INDEX512
23	INDEX1K
24	INDEX2K
25	INDEX4K
26	INDEX8K
27	INDEX12K
28	INDEX16K
29	INDEX20K
30	INDEX24K
31	INDEX28K
32	INDEX32K
33	HSDATA4K
34	HSDATA8K
35	HSDATA12K
36	HSDATA16K
37	HSDATA20K
38	HSDATA24K
39	HSDATA28K
40	HSDATA32K
41	HSINDEX4K
42	HSINDEX8K
43	HSINDEX12K
44	HSINDEX16K
45	HSINDEX20K
46	HSINDEX24K
47	HSINDEX28K
48	HSINDEX32K
49	LSRPOOLNUM

表 *16.* キーワード番号に関連付けられた *MAPSET* キーワード

キーワード番号	キーワード
1	MAPSET
5	RSL (廃止)
6	DESCRIPTION
97	STATUS
100	RESIDENT
101	USAGE
102	USELPACOPY

表 *17.* キーワード番号に関連付けられた *MQCONN* キーワード

キーワード番号	キーワード
1	MQCONN
5	MQNAME
6	DESCRIPTION
7	INITQNAME
97	RESYNCMEMBER

表 *18.* キーワード番号に関連付けられた *MQMONITOR* キーワード

キーワード番号	キーワード
1	MQMONITOR
6	DESCRIPTION
7	QNAME
8	MONDATA
9	MONUSERID
10	TRANSACTION
11	USERID
13	AUTOSTART
14	STATUS

表 *19.* キーワード番号に関連付けられた *PARTITIONSET* キーワード

キーワード番号	キーワード
1	PARTITIONSET
5	RSL (廃止)
6	DESCRIPTION
97	STATUS
100	RESIDENT
101	USAGE
102	USELPACOPY

表 *20.* キーワード番号に関連付けられた *PARTNER* キーワード

キーワード番号	キーワード
1	PARTNER
5	NETNAME
6	DESCRIPTION
7	NETWORK
8	PROFILE
9	TPNAME
10	XTPNAME

表 *21.* キーワード番号に関連付けられた *PIPELINE* キーワード

キーワード番号	キーワード
1	PIPELINE
5	CONFIGFILE
6	DESCRIPTION
8	SHELF
9	WSDIR
97	STATUS

表 *22.* キーワード番号に関連付けられた *PROCESSTYPE* キーワード

キーワード番号	キーワード
1	PROCESSTYPE
5	AUDITLOG
6	DESCRIPTION
7	FILE
98	STATUS
99	AUDITLEVEL
101	USERRECORDS

表 *23.* キーワード番号に関連付けられた *PROFILE* キーワード

キーワード番号	キーワード
1	PROFILE
5	MODENAME
6	JOURNAL
7	NEPCLASS
8	RTIMOUT
9	DESCRIPTION
10	FACILITYLIKE
98	SCRNSIZE
99	MSGJRNL
100	MSGINTEG
101	ONEWTE

表 23. キーワード番号に関連付けられた *PROFILE* キーワード (続き)

キーワード番号	キーワード
102	PROTECT (廃止)
103	DVSUPRT
104	INBFMH
105	RAQ
106	LOGREC
107	PRINTERCOMP
108	CHAINCONTROL
109	UCTRAN

表 24. キーワード番号に関連付けられた *PROGRAM* キーワード

キーワード番号	キーワード
1	PROGRAM
5	RSL (廃止)
6	DESCRIPTION
7	REMOTESYSTEM
8	REMOTENAME
9	TRANSID
10	JVMCLASS
11	JVMSERVER
33	JVMPROFILE (廃止)
97	STATUS
98	LANGUAGE
99	RELOAD
100	RESIDENT
101	USAGE
102	USELPACOPY
103	CEDF
104	DATALOCATION
105	EXECKEY
107	EXECUTIONSET
108	DYNAMIC
109	CONCURRENCY
110	JVM
111	HOTPOOL (廃止)
112	API

表 25. キーワード番号に関連付けられた *SESSIONS* キーワード

キーワード番号	キーワード
1	セッション
5	CONNECTION

表 25. キーワード番号に関連付けられた *SESSIONS* キーワード (続き)

キーワード番号	キーワード
6	SESSNAME
7	NETNAMEQ
8	MODENAME
9	MAXIMUM
11	RECEIVEPFX
12	RECEIVECOUNT
13	SENDPFX
14	SENDCOUNT
15	OPERID (廃止)
16	OPERPRIORITY (廃止)
17	OPERRSL (廃止)
18	OPERSECURITY (廃止)
19	USERID
20	SENDSIZE
21	RECEIVESIZE
22	TRANSACTION (廃止)
23	SESSPRIORITY
24	USERAREALEN
25	IOAREALEN
27	NEPCLASS
28	DESCRIPTION
97	INSERVICE (廃止)
98	AUTOCONNECT
99	BUILDCHAIN
100	PROTOCOL
101	RELREQ
102	DISCREQ
103	RECOVOPTION
104	RECOVNOTIFY (廃止)

表 26. キーワード番号に関連付けられた *TCPIPSERVICE* キーワード

キーワード番号	キーワード
1	TCPIPSERVICE
6	DESCRIPTION
14	URM
15	PORTNUMBER
16	CIPHERS
17	CERTIFICATE
18	TRANSACTION
19	BACKLOG

表 *26.* キーワード番号に関連付けられた *TCPIPSERVICE* キーワード *(*続き*)*

キーワード番号	キーワード
20	REALM
21	HOST
22	TSQPREFIX
23	IPADDRESS
24	SOCKETCLOSE
25	DNSGROUP
27	MAXDATALEN
28	MAXPERSIST
104	STATUS
105	SSL
106	PROTOCOL
109	AUTHENTICATE
110	GRPCRITICAL
111	ATTACHSEC
112	PRIVACY (廃止)

表 *27.* キーワード番号に関連付けられた *TDQUEUE* キーワード

キーワード番号	キーワード
1	TDQUEUE
6	DESCRIPTION
7	BLOCKSIZE
8	DATABUFFERS
9	DDNAME
10	DSNAME
11	RECORDSIZE
12	FACILITYID
13	TRANSID
14	TRIGGERLEVEL
15	USERID
16	INDIRECTNAME
17	REMOTENAME
18	REMOTESYSTEM
19	SYSOUTCLASS
20	REMOTELENGTH
98	TYPE
99	DISPOSITION
100	ERROROPTION
101	OPENTIME
102	RECORDFORMAT
103	BLOCKFORMAT

表 27. キーワード番号に関連付けられた *TDQUEUE* キーワード (続き)

キーワード番号	キーワード
104	REWIND
105	TYPEFILE
106	ATIFACILITY
107	RECOVSTATUS
108	WAITACTION
109	PRINTCONTROL
110	WAIT

表 28. キーワード番号に関連付けられた *TERMINAL* キーワード

キーワード番号	キーワード
1	TERMINAL
6	AUTINSTNAME
7	TYPETERM
8	NETNAME
9	CONSOLE (廃止)
10	REMOTESYSTEM
11	REMOTENAME
12	MODENAME
13	PRINTER
14	ALTPRINTER
15	OPERID (廃止)
16	OPERPRIORITY (廃止)
17	OPERRSL (廃止)
18	OPERSECURITY (廃止)
19	USERID
20	POOL
21	TASKLIMIT
22	TRANSACTION
23	TERMPRIORITY
26	SECURITYNAME
27	BINDPASSWORD (廃止)
28	DESCRIPTION
29	NATLANG
30	CONSNAME
33	REMOTESYSNET
97	INSERVICE
98	PRINTERCOPY
99	ALTPRINCOPY
100	AUTINSTMODEL
102	ATTACHSEC

表 28. キーワード番号に関連付けられた *TERMINAL* キーワード (続き)

キーワード番号	キーワード
103	BINDSECURITY
104	USEDFLTUSER

表 29. キーワード番号に関連付けられた *TRANCLASS* キーワード

キーワード番号	キーワード
1	TRANCLASS
5	MAXACTIVE
6	DESCRIPTION
7	PURGETHRESH

表 30. キーワード番号に関連付けられた *TRANSACTION* キーワード

キーワード番号	キーワード
1	TRANSACTION
5	RSL (廃止)
6	PROGRAM
7	TWASIZE
8	PROFILE
9	PARTITIONSET
10	REMOTESYSTEM
11	REMOTENAME
12	PRIORITY
13	TCLASS (廃止)
14	TASKREQ
15	XTRANID
16	DTIMOUT
17	TRANSEC (廃止)
18	TRPROF
19	PRIMEDSIZE (廃止)
20	ALIAS
21	DESCRIPTION
22	TPNAME
23	XTPNAME
24	TRANCLASS
25	RUNAWAY
26	WAITTIME
29	BREXIT
97	STATUS
98	LOCALQ
99	INDOUBT (廃止)
100	RESTART

表 *30.* キーワード番号に関連付けられた *TRANSACTION* キーワード *(*続き*)*

キーワード番号	キーワード
101	SPURGE
102	TPURGE
103	DUMP
104	EXTSEC (廃止)
105	RESSEC
106	TRACE
107	DYNAMIC
108	CMDSEC
109	TASKDATALOC
110	TASKDATAKEY
111	STORAGECLEAR
112	SHUTDOWN
113	ISOLATE
114	CONFDATA
115	WAIT
116	ACTION
117	ROUTABLE

表 *31.* キーワード番号に関連付けられた *TSMODEL* キーワード

キーワード番号	キーワード
1	TSMODEL
6	DESCRIPTION
7	PREFIX
8	POOLNAME
9	REMOTESYSTEM
10	REMOTEPREFIX
11	XPREFIX
12	XREMOTEPFX
13	EXPIRYINTMIN
99	LOCATION
100	RECOVERY
101	SECURITY

表 *32.* キーワード番号に関連付けられた *TYPETERM* キーワード

キーワード番号	キーワード
1	TYPETERM
5	DEVICE
6	TERMMODEL
7	SESSIONTYPE
9	LDCLIST

表 32. キーワード番号に関連付けられた *TYPETERM* キーワード (続き)

キーワード番号	キーワード
10	DEFSCREEN
12	ALTSCREEN
14	CGCSGID
16	SENDSIZE
17	RECEIVESIZE
18	LOGMODE
19	PAGESIZE
21	ALTPAGE
23	ALTSUFFIX
24	USERAREALEN
25	IOAREALEN
27	NEPCLASS
28	DESCRIPTION
98	AUTOCONNECT
99	SHIPPABLE
100	APLKYBD
101	APLTEXT
102	AUDIBLEALARM
103	COLOR
104	COPY
105	DUALCASEKYBD
106	EXTENDEDDS
107	HILIGHT
108	KATAKANA
109	LIGHTPEN
110	MSRCONTROL
111	OBFORMAT
112	PARTITIONS
113	PRINTADAPTER
114	PROGSYMBOLS
115	VALIDATION
116	FORMFEED
117	HORIZFORM
118	VERTICALFORM
119	TEXTKYBD
120	TEXTPRINT
121	QUERY
122	OUTLINE
123	SOSI
124	BACKTRANS

表 32. キーワード番号に関連付けられた *TYPETERM* キーワード (続き)

キーワード番号	キーワード
125	ASCII
126	BRACKET
127	FMHPARM
128	OBOPERID
129	AUTOPAGE
130	ERRLASTLINE
131	ERRINTENSIFY
132	ERRCOLOR
133	ERRHILIGHT
134	ATI
135	CREATESESS
136	RELREQ
137	DISCREQ
138	SIGNOFF
139	ROUTEDMSGS
140	LOGONMSG
141	BUILDCHAIN
142	UCTRAN
143	TTI
144	RECOVOPTION
145	RECOVNOTIFY
146	XRFSIGNOFF (廃止)
147	LOGEMODECOM (廃止)
148	RSTSIGNOFF

表 33. キーワード番号に関連付けられた *URIMAP* キーワード

キーワード番号	キーワード
1	URIMAP
14	SOCKETCLOSE
15	PORT
16	HOST
17	PATH
21	TCPIPSERVICE
23	TRANSACTION
24	CONVERTER
25	PROGRAM
26	PIPELINE
27	WEBSERVICE
32	USERID
33	CIPHERS

表 33. キーワード番号に関連付けられた *URIMAP* キーワード (続き)

キーワード番号	キーワード
34	CERTIFICATE
35	MEDIATYPE
36	CHARACTERSET
37	HOSTCODEPAGE
38	TEMPLATENAME
39	HFSFILE
40	LOCATION
97	STATUS
98	USAGE
99	SCHEME
106	ANALYZER

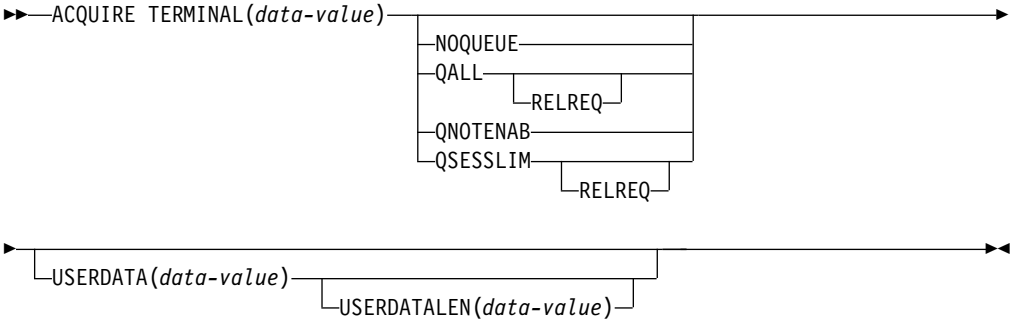
表 34. キーワード番号に関連付けられた *WEBSERVICE* キーワード

キーワード番号	キーワード
1	WEBSERVICE
5	PIPELINE
6	DESCRIPTION
7	WSBIND
8	WSDLFILE
97	VALIDATION

ACQUIRE TERMINAL

端末とのセッションを獲得します。

ACQUIRE TERMINAL



条件: INVREQ、LENGERR、NOTAUTH、TERMIDERR

説明

ACQUIRE TERMINAL コマンドでは、特定の端末とのセッションを獲得するように CICS に指示することができます。

指定する端末は、z/OS Communications Server 端末でなければなりません。APPC、LU6.1、または IRC セッションにすることはできません。これは、インストール済みの TERMINAL 定義、または自動インストール・プロセスで既に CICS に対して定義されていなければなりません。また、ACQUIRE TERMINAL が出されるシステムに対して、リモートではなく、ローカルでなければなりません。

つまり、端末が自動インストールされていた場合、CICS により端末定義が削除される前に、ACQUIRE コマンドを発行しておく必要があります。

セッションが終了し、システム初期設定テーブルの AIRDELAY 値で指定された間隔内に再確立されない場合、通常、CICS は自動インストールされた端末定義を削除します。端末をこの間隔内に再獲得する必要はありませんが、コマンドの発行後、CICS はそのタイムアウトを中断し、セッションの再確立を待機中に定義を削除しません。

CICS は、z/OS Communications Server に SIMLOGON 要求を送信することによって ACQUIRE コマンドを処理します (コマンドのキューイング・オプションは z/OS Communications Server で使用するものであり、SIMLOGON 要求のオプションに相当します)。これが発生するとただちに、コマンドを発行したタスクがディスパッチ可能になります。z/OS Communications Server 要求の最終的な結果も、端末がいつ獲得されるかも通知されず、端末はタスクに関連付けられません。

端末が既に要求側 CICS システムとセッション中である場合を除いて、要求は z/OS Communications Server に直接送信されます。その場合、NOQUEUE または QNOTENAB が存在すれば、CICS は、要求を無効として拒否します (こうした状況では、SIMLOGON が失敗するため)。そうでない場合、端末の現行セッションが終了するまで CICS は要求を保管してから、z/OS Communications Server に送信します。このため、要求は、当初発行された順序とは異なる順序で z/OS Communications Server のキューに入る可能性があります。

ACQUIRE TERMINAL 要求は、発行後に取り消すことはできません。特定の端末に対して ACQUIRE TERMINAL が発行されたかどうかを通常は判別できません。

オプション

NOQUEUE
z/OS Communications Server が要求をキューに入れないことを指定します。したがって、ACQUIRE が正常に実行されるのは、端末が即時に使用可能な場合のみです。

QALL
z/OS Communications Server が要求をキューに入れるのは、端末のセッションが有効でないか、セッション限度である (すなわち、別の z/OS Communications Server アプリケーションとセッション中である) 場合であることを指定します。

QNOTENAB
端末のセッションが有効でない場合のみ、z/OS Communications Server が要求をキューに入れることを指定します。

QSESSLIM
z/OS Communications Server が要求をキューに入れるのは、端末がセッショ

ン限度である (すなわち、別の z/OS Communications Server アプリケーションとセッション中である) 場合のみであることを指定します。

RELREQ
QALL または QSESSLIM オプションが設定されている場合のみ有効です。RELREQ オプションは、要求された端末が別の z/OS Communications Server アプリケーションと既にセッション中である場合、RELREQ 出口ルーチンを介してそのアプリケーションに要求が通知されることを指定します。RELREQ が指定されない場合、他のアプリケーションには通知されません。

他のアプリケーションが CICS システムである場合、そのシステムにおける端末定義の RELREQ 値によって、端末を解放する要求が受け入れられるかどうかが決まります。RELREQ は、端末に関連付けられた TYPETERM 定義で指定されます。

TERMINAL(*data-value*)
CICS が獲得するセッションの相手方の端末の 4 文字 ID です。

USERDATA(*data-value*)
ログオン・ユーザー・データがある場合、そのデータが入っているデータ域を指定します。z/OS Communications Server は、CICS が端末の獲得を要求するときにログオンをシミュレートします。このデータは、実際のログオンに付随する場合があるユーザー・データに相当します。z/OS Communications Server は、端末が正常に獲得されると、そのデータをアプリケーション (この場合、要求側 CICS システム) に渡します。プログラミング情報については、EXTRACT LOGONMSG コマンドの説明を参照してください。

USERDATALEN(*data-value*)
ユーザー・データの長さを、ハーフワード・バイナリー値で指定します。z/OS Communications Server の制約上、ユーザー・データの最大長は 255 バイトです。

条件

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

2 端末はリモート端末です。

3 端末は LU6.1、APPC、IRC または非 z/OS Communications Server デバイスです。

4 端末はサービス中ではありません。つまり、使用できません。

5 z/OS Communications Server がオープンしていません。

7 CICS は既にこのセッションを獲得中です。

8 NOQUEUE および QNOTENAB オプションは、ログオン・デバイスに無効です。

LENGERR
RESP2 値は以下のとおりです。

6 USERDATALEN オプションで範囲外の値が指定されました。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

TERMIDERR

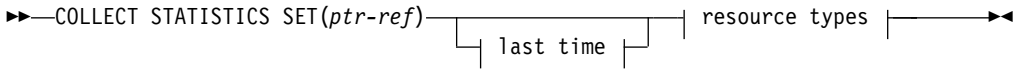
RESP2 値は以下のとおりです。

1 端末が見つかりません。

COLLECT STATISTICS

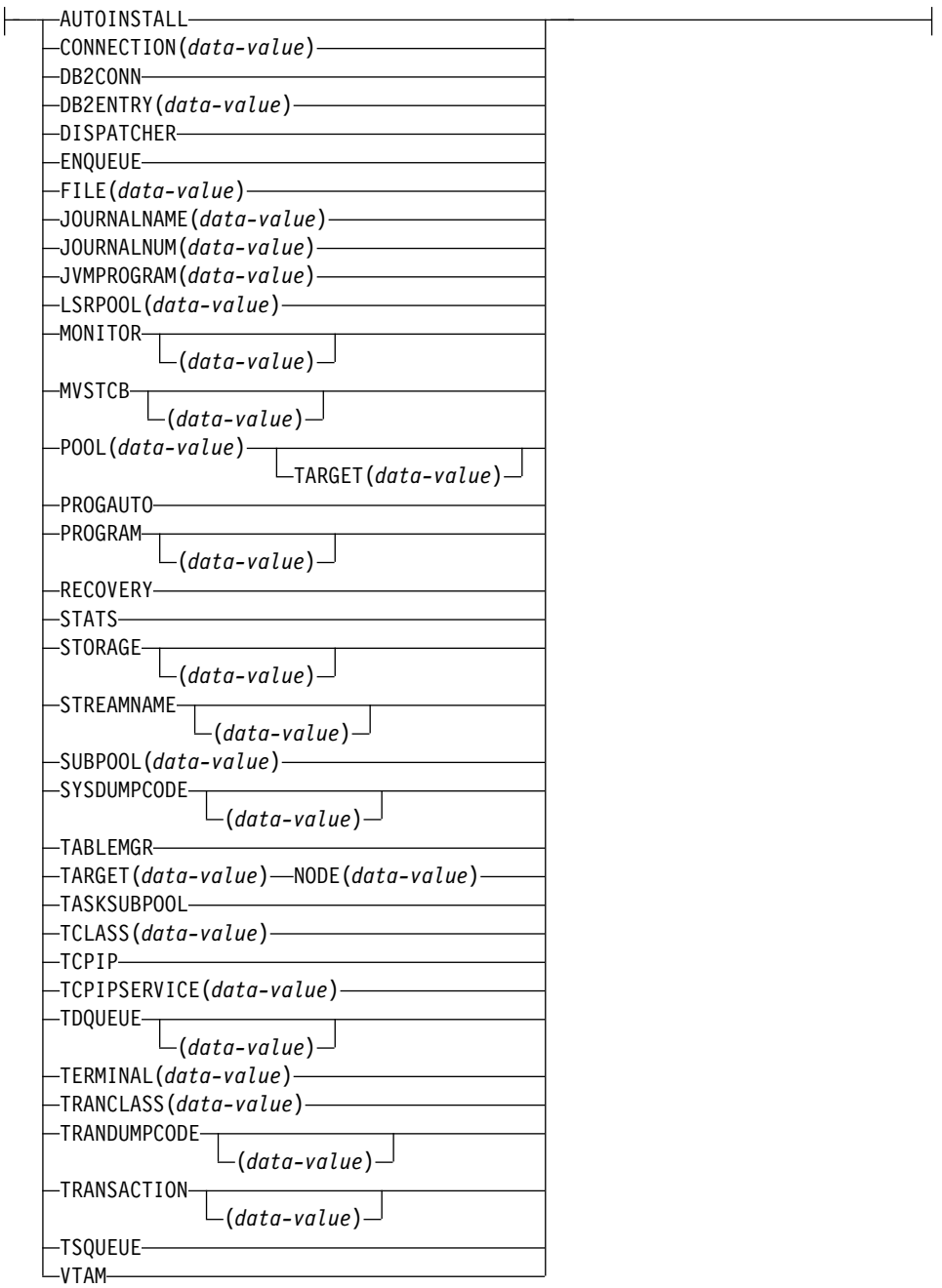
1 つのリソースに関する現行統計、またはリソース・クラスに関するグローバル統計を取得します。

COLLECT STATISTICS



状態: INVREQ、IOERR、NOTAUTH、NOTFND

Resource types:



説明

COLLECT STATISTICS は、特定のリソースに関する現行の統計、または指定されたタイプのリソースに関するグローバル統計を呼び出し側のアプリケーションに戻します。

重要: **COLLECT STATISTICS** コマンドでサポートされるリソースのリストに今後さらに項目が追加されることはありません。 251 ページの『EXTRACT STATISTICS』コマンドは、COLLECT STATISTICS コマンドを使用する必要のある AUTOINSTALL、CONNECTION、FEPI CONNECTION、FEPI POOL、FEPI TARGET、JOURNALNUM、TABLEMGR、TCLASS、TERMINAL、および VTAM® を除き、すべての CICS リソース・タイプについて統計を取得するために使用できます。

CICS が返す統計は、最後の統計収集間隔の有効期限、1 日の終わりの有効期限、または要求されたリセットの後に累算された統計です。SMF データ・セットに既に書き込まれている統計には、アクセスできません。 **COLLECT STATISTICS** コマンドによって統計カウンターがリセットされることはありません。

CICS は、このコマンドから返されるデータ用に十分なストレージを取得し、この領域にポインターを返します。この領域の先頭 2 バイトには、領域の長さが格納されます。このストレージは後続の **COLLECT STATISTICS** コマンドで再利用される可能性があるため、コマンドの次回の発行後にも必要となるデータがあれば、他の場所にそれを保管してください。 CICS はこのストレージをタスク終了時に解放します。

プラットフォームにデプロイされたアプリケーションの専用リソースとしてサポートされるリソース・タイプの場合、公用リソースと専用リソースについて異なる統計レコードに情報が書き込まれ、それぞれは異なるコピーブックまたは DSECT によってマップされます。 JVMPROGRAM および PROGRAM リソース・タイプは、**COLLECT STATISTICS** コマンドで使用でき、専用リソースとしてサポートされます。専用 LIBRARY または PROGRAMDEF リソース・タイプの統計を抽出するには、**EXTRACT STATISTICS** コマンドを使用します。リソースが公用リソースであれば、公用コピーブックを使用してデータがマップされ、リソースが専用リソースであれば、専用コピーブックを使用してデータがマップされます。

EXEC CICS EXTRACT STATISTICS または **EXEC CICS COLLECT STATISTICS** コマンドを使用して、専用リソースとしてサポートされるリソース・タイプの特定のリソースのリソース統計を要求する場合、コマンドはタスクが実行されるコンテキストに基づいて機能します。

- 公開プログラムからコマンドが発行された場合は、指定された公開リソースの統計が戻されます。
- プラットフォーム上にデプロイされたアプリケーションの一部であり、したがってアプリケーション・コンテキストを使用して実行されているプログラムからコマンドが発行された場合、指定されたリソースは、アプリケーションの専用リソースで最初に検索されます。専用リソースが見つからなければ、指定された公開リソースの統計が戻されます。
- **EXEC CICS EXTRACT STATISTICS** コマンドに限り、専用リソースが検索される異なるアプリケーション・コンテキストを指定できます。異なるアプリケーションの統計を要求した場合、そのアプリケーションの専用リソースが見つからなければ、統計は戻されません。

アプリケーション・エントリー・ポイントとして宣言された指定されたプログラムの統計を、**EXEC CICS EXTRACT STATISTICS** または **EXEC CICS COLLECT STATISTICS** コマンドを使用して戻す場合は、統計レコードが 1 つだけ戻されます。アプリケー

ション・コンテキスト内で、またはアプリケーション・コンテキストに対してコマンドが発行された場合、プログラムがアプリケーションの専用リソースとして定義されていれば、専用リソースの DSECT を使用してデータがフォーマット設定されます。これは、アプリケーション・エントリー・ポイントを使用可能にするためにプログラムが公開プログラムに現在プロモートされていても、同様です。

すべてのリソース・タイプでグローバル統計と特定の (またはリソースの) 統計の両方が提供されるわけではありません。 表 35 に、リソース・タイプごとに使用可能な統計と、使用可能な統計のセットごとのコピーブック (または DSECT) の名前を記載します。コピーブックは、戻される統計の形式を定義しています。グローバル統計の欄にコピーブック名が示されていない場合、そのリソース・タイプのグローバル統計は提供されません。特定の (またはリソースの) 統計の欄に記載がない場合、個々のリソースに関する統計は取得できません。

表 35には、プロダクト・センシティブ・プログラミング・インターフェース情報が含まれています。

表 *35.* リソース・タイプと統計

リソース・タイプ	統計タイプ	グローバル統計	特定の統計
AUTOINSTALL	端末自動インストール	DFHA04DS	-
CONNECTION	ISC/IRC システムおよびモード・エントリー	-	DFHA14DS
DB2CONN	DB2® Connection	DFHD2GDS	-
DB2ENTRY	DB2 エントリー	-	DFHD2RDS
DISPATCHER	ディスパッチャー	DFHDSGDS	-
ENQUEUE	エンキュー	DFHNQGDS	-
FEPI CONNECTION	FEPI 接続	-	DFHA23DS
FEPI POOL	FEPI Pool	-	DFHA22DS
FEPI TARGET	FEPI Target	-	DFHA24DS
FILE	ファイル制御	-	DFHA17DS
JOURNALNAME	ジャーナル名	-	DFHLGRDS
JOURNALNUM	ジャーナル名	-	DFHLGRDS
JVMPROGRAM	JVM プログラム	-	DFHPGRDS (公用) DFHPGPDS (専用)
LSRPOOL	LSR プール	-	DFHA08DS
MONITOR	モニター	DFHMNGDS	DFHMNTDS
MVSTCB	MVS TCB	DFHDSTDS	DFHDSRDS
PROGAUTO	プログラム自動インストール	DFHPGGDS	-
PROGRAM	プログラム	DFHLDGDS	DFHLDRDS (公用) DFHLDPDS (専用)
RECOVERY	リカバリー・マネージャー	DFHRMGDS	-
STATS	統計	DFHSTGDS	-
STORAGE	ストレージ・マネージャー (SM)	DFHSMSDS	DFHSMDDS
STREAMNAME	ログ・ストリーム	DFHLGGDS	DFHLGSDS

表 35. リソース・タイプと統計 (続き)

リソース・タイプ	統計タイプ	グローバル統計	特定の統計
SUBPOOL	SM ドメイン・サブプール	-	DFHSMDDS
SYSDUMPCODE	ダンプ (システム)	DFHSDGDS	DFHSDRDS
TABLEMGR	テーブル・マネージャー	DFHA16DS	-
TASKSUBPOOL	SM タスク・サブプール	DFHSMTDS	-
TCLASS	トランザクション・クラス	-	DFHXMCDS
TCPIP	ソケット・ドメイン	DFHSOGDS	-
TCPIPSERVICE	TCP/IP サービス	-	DFHSORDS
TDQUEUE	一時データ	DFHTQGDS	DFHTQRDS
TERMINAL	端末	-	DFHA06DS
TRANCLASS	トランザクション・クラス	-	DFHXMCDS
TRANDUMPCODE	ダンプ (トランザクション)	DFHTDGDS	DFHTDRDS
TRANSACTION	トランザクション・マネージャー	DFHXMGDS	DFHXMRDS
TSQUEUE	一時記憶	DFHTSGDS	
VTAM	z/OS Communications Server	DFHA03DS	-

ASSEMBLER、C、COBOL、および PL/I でコピーブックが提供されます。コピーブックの名前は、各言語で同じです。以下のライブラリーで見つけることができます。

言語	ライブラリー
アセンブラー	CICSTS55.CICS.SDFHMAC
C	CICSTS55.CICS.SDFHC370
COBOL	CICSTS55.CICS.SDFHCOB
PL/I	CICSTS55.CICS.SDFHPL1

注**:** コピーブックには、パック 10 進数フィールドを含んでいるものがあります。これらのフィールドを使用する前に、16 進数ゼロの有無を検査してください。COBOL バージョンはこの目的に、接尾部 -R が付いた数値フィールドを使用します。

これらのコピーブックの詳細については、 CICS 統計の概要を参照してください。

オプション

AUTOINSTALL
自動インストールに関するグローバル統計を要求します。

CONNECTION(*data-value***)**
リモート・システムまたは領域との接続に関する統計を要求します。data-value は (その CONNECTION 定義からの) システムまたは領域の 4 文字の ID です。

DB2CONN
プール・スレッドとコマンド・スレッドに関する情報を含む CICS Db2 接続に関する統計を要求します。

DB2ENTRY(*data-value*)
DB2ENTRY に関する統計を要求します。data-value は (その DB2ENTRY 定義からの) DB2ENTRY の 8 文字の ID です。

DISPATCHER
ディスパッチャー・ドメインに関するグローバル統計を要求します。

ENQUEUE
エンキュー要求に関するグローバル統計を要求します。

FILE(*data-value*)
ファイルに関する統計を要求します。data-value は (その FILE 定義からの) ファイルの 8 文字の ID です。

JOURNALNAME(*data-value*)
CICS ジャーナルに関する統計を要求します。data-value は 8 文字のジャーナル名です。CICS は、要求された統計が含まれるストレージ域のアドレスを戻します。

ジャーナルの番号付け規則を使用して定義されたジャーナル (例えば、ファイル・リソース定義で定義された自動ジャーナル) に関する統計を収集するには、名前を DFH*nn* と指定します。nn は 01 から 99 までの範囲のジャーナル番号です。

注: DFHJ01 を指定すると、システム・ログではなく、この名前のユーザー・ジャーナルに書き込まれる統計が戻されます。

JOURNALNUM(*data-value*)
ジャーナルに関する統計を要求します。data-value はハーフワード・バイナリー形式のジャーナルの番号です。ジャーナル番号の範囲は 1 から 99 までです。CICS は、要求された統計が含まれるストレージ域のアドレスを戻します。

JOURNALNUM(1) を指定すると、ジャーナル DFHJ01 に関する統計が戻されます。このジャーナルはシステム・ログではありません。

1 から 99 の範囲の ID を指定すると、ジャーナル DFHJ01 から DFHJ99 までに関する統計が戻されます。

注: JOURNALNUM は、旧リリースの CICS との互換性を確保するために引き続きサポートされます。しかし、戻される統計は、ジャーナル管理統計ではなく、CICS ログ・マネージャー統計です。戻されるアドレスにデータをマップできるのは、旧リリースでサポートされていた DFHA13DS DSECT と置き換えられた DFHLGRDS DSECT を使用する場合に限られます。

JOURNALNUM を使用するアプリケーション・プログラムを変更する場合、代わりに JOURNALNAME オプションを使用してください。

JVMPROGRAM(*data-value*)
JVM で実行する Java™ プログラムに関する統計を要求します。data-value は PROGRAM リソース定義の名前です。

LASTRESET(*data-area***)**
要求された統計のカウンターが最後にリセットされた時刻を示す 4 バイトのパック 10 進数フィールドを戻します。これは通常、最後の間隔の満了時刻です。最後のリセット時刻は、通常現地時間で戻されます。

リセット時刻には以下の 2 つの形式があります。

- 複合形式 (パック 10 進数形式 0hhmmss+)。LASTRESET オプションを使用して取得します。
- 時、分、および秒 (個別)。LASTRESETHRS、LASTRESETMIN、および LASTRESETSEC オプションを指定して取得します。

LASTRESETHRS(*data-area***)**
要求された統計のカウンターが最後にリセットされた時刻のうち (LASTRESET オプションを参照) 時の部分を示すフルワード・バイナリー・フィールドを戻します。

LASTRESETMIN(*data-area***)**
要求された統計のカウンターが最後にリセットされた時刻のうち (LASTRESET オプションを参照) 分の部分を示すフルワード・バイナリー・フィールドを戻します。

LASTRESETSEC(*data-area***)**
要求された統計のカウンターが最後にリセットされた時刻のうち (LASTRESET オプションを参照) 秒の部分を示すフルワード・バイナリー・フィールドを戻します。

LSRPOOL(*data-value***)**
VSAM LSR プールに関する統計を要求します。data-value は 1 文字から 8 文字の範囲のフルワード・バイナリー形式のプール番号です。

MONITOR(*data-value***)**
data-value を指定すると、タスクに関するパフォーマンス・クラス統計を要求します。data-value は 4 バイトのパック 10 進数形式のタスク番号です。data-value を指定しないと、MONITOR はグローバル・パフォーマンス・クラス統計を要求します。

戻される統計に関するモニター・パフォーマンス・クラスはアクティブでなければなりません。パフォーマンス・クラスがアクティブでない場合は、NOTFND 状態が戻されます。モニターに関する背景情報については、CICS モニター機能 : パフォーマンスおよび調整を参照してください。

MVSTCB(*data-value***)**
data-value を指定すると、MVS TCB に関する統計を要求します。data-value は MVS TCB のアドレスです。data-value を指定しないと、MVSTCB は CICS アドレス・スペース内の MVS TCB に関するグローバル統計を要求します。

POOL(*data-value***)**
FEPI プールに関する統計を要求します。data-value は 8 文字のプールの名前です。

POOL(*data-value***) TARGET(***data-value***)**
FEPI プール中の FEPI ターゲットに関する統計を要求します。POOL data-value はプールを識別し、TARGET data-value は統計の要求対象のプール中のシステムを識別します。

PROGAUTO
自動インストールされたプログラム定義に関するグローバル統計を要求します。

PROGRAM(*data-value***)**
data-value を指定すると、プログラムに関する統計を要求します。data-value は 8 文字の PROGRAM 定義の名前です。data-value を指定しないと、PROGRAM はグローバル・プログラム統計を要求します。COLLECT STATISTICS PROGRAM コマンドの発行時に、CICS は、JVM で実行するプログラムに関する統計を収集しません。これらの統計を取得するには、COLLECT STATISTICS JVMPROGRAM コマンドを使用する必要があります。

RECOVERY
リカバリー・マネージャーに関するグローバル統計を要求します。

SET(*ptr-ref***)**
ポインター参照を、戻された統計を格納するデータ域のアドレスに設定することを指定します。データ域の先頭 2 バイトには、ハーフワード・バイナリー形式のデータ域の長さが格納されます。

STATS
統計ドメインに関するグローバル統計を要求します。

STORAGE(*data-value***)**
data-value を指定すると、ストレージ・ドメイン・サブプールに関する統計を要求します。data-value は 8 文字のストレージ・ドメイン・サブプールの名前です。使用可能なサブプール名の完全なリストは、ECDSA の CICS サブプールに記載されています。data-value を指定しないと、このオプションは CICS 動的ストレージ域に関するグローバル統計を要求します。

STREAMNAME(*data-value***)**
data-value を指定すると、ログ・ストリームに関する統計を要求します。data-value はログ・ストリームの 26 文字の名前です。data-value を指定しないと、STREAMNAME は CICS ログ・マネージャーに関するグローバル統計を要求します。

SUBPOOL*data-value***)**
ストレージ・マネージャー・ドメイン・サブプールに関する統計を要求します。data-value はドメイン・サブプールの 8 文字の名前です。CICS ストレージ・マネージャー・ドメイン・サブプールの表については、ECDSA の CICS サブプールを参照してください。

SYSDUMPCODE(*data-value***)**
data-value を指定すると、システム・ダンプ・コードに関する統計を要求します。data-value は 8 文字のダンプ・コードです。data-value を指定しないと、SYSDUMPCODE はシステム・ダンプに関するグローバル統計を要求します。

TABLEMGR
テーブル・マネージャーに関するグローバル統計を要求します。

TARGET (*data-value*) NODE(*data-value*)
FEPI 接続に関する統計を要求します。NODE data-value は FEPI がシミュレートする端末の 8 文字の名前で、TARGET data-value は FEPI が 2 次論理装置として示されるシステムの 8 文字の名前です。

TASKSUBPOOL
ストレージ・マネージャー・タスク・サブプールに関するグローバル統計を要求します。

TCLASS(*data-value*)
トランザクション・クラスに関する統計を要求します。data-value は、フルワード・バイナリー形式の 1 から 10 の範囲のクラス番号です。トランザクション・クラスは番号で識別されなくなり、代わりに 8 文字の ID で識別されるようになりました。

TCLASS オプションを使用してクラスに関する統計を要求すると (TRANCLASS ではなく)、フルワード 2 進数から 8 文字の値への変換が行われます (例えば、TCLASS(01) は同等の TRANCLASS('DFHTCL01') になります)。

TCPIP
IP ソケットに関するグローバル統計を要求します。

TCPIPSERVICE(*data-value*)
TCP/IP サービスに関する統計を要求します。data-value は 8 文字の TCP/IP サービスの名前です。

TDQUEUE(*data-value*)
data-value を指定すると、一時データ・キューに関する統計を要求します。data-value はキューの 4 文字の名前です。data-value を指定しないと、TDQUEUE は一時データに関するグローバル統計を要求します。

TERMINAL(*data-value*)
端末に関する統計を要求します。data-value は (TERMINAL 定義からの) 4 文字の端末 ID です。

TRANCLASS(*data-value*)
トランザクション・クラスに関する統計を要求します。data-value は TRANCLASS 定義からのクラスの 8 文字の名前です。

TRANDUMPCODE(*data-value*)
data-value を指定すると、トランザクション・ダンプ・コードに関する統計を要求します。data-value は 4 文字のダンプ・コードです。data-value を指定しないと、TRANDUMPCODE はトランザクション・ダンプに関するグローバル統計を要求します。

TRANSACTION(*data-value*)
data-value を指定すると、トランザクションに関する統計を要求します。data-value は (TRANSACTION 定義からの) 4 文字のトランザクション ID です。data-value を指定しないと、TRANSACTION はトランザクションに関するグローバル統計を要求します。

TSQUEUE
一時記憶域に関するグローバル統計を要求します。

VTAM
z/OS Communications Server に関するグローバル統計を要求します。VTAM は、z/OS Communications Server の旧名称です。

条件

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

4 TCLASS 値が 1 から 10 までの範囲でなかったか、LSRPOOL 値が 1 から 8 までの範囲ではありませんでした。

IOERR
RESP2 値は以下のとおりです。

3 要求された統計の領域が、機能していませんでした。この状態は、統計制御ブロックが上書きされる場合などに生じます。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

101 発行中のタスクに関連付けられているユーザーには、このコマンドが要求する方法でこの特定のリソースにアクセスする権限がありません。

NOTFND
RESP2 値は以下のとおりです。

0 リソース・タイプは廃止されました。

1 要求されたリソースが見つかりません。指定するリソース名が CICS から認識されない場合、この応答が戻されます。

2 リソース・タイプは有効であるものの、CICS システムで定義されていません (例えば、FEPI システム初期設定パラメーターに NO が指定されている場合に、POOL または NODE を指定して FEPI 統計が要求されます)。

例

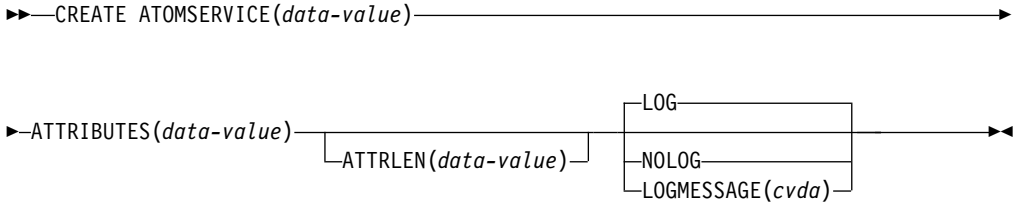
CICS には、このセクションで説明されているほぼすべてのオプションを使用するサンプル COLLECT STATISTICS アプリケーション (DFH0STAT) が用意されています。 COLLECT STATISTICS コマンドと INQUIRE コマンドを使用して、CICS システムに関する情報を生成する方法を、この一連のプログラムによって紹介しています。このレポートには、DSA LIMIT パラメーター指定の支援として使用できる、CICS および MVS ストレージ分析が組み込まれています。

DFH0STAT アプリケーションのインストールおよび操作については、 CICS 統計の概要を参照してください。このアプリケーションのソース・コードは、CICSTS55.CICS.SDFHSAMP にあります。

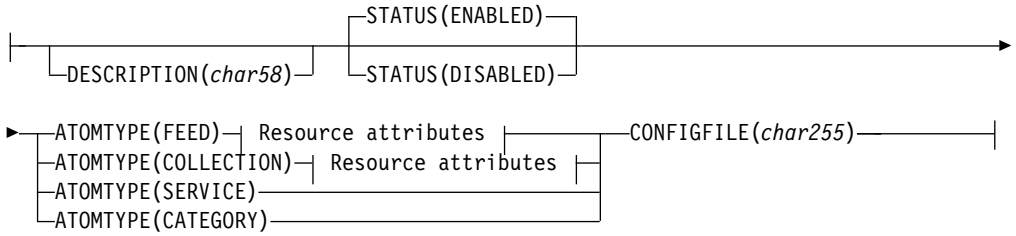
CREATE ATOMSERVICE

ローカル CICS 領域で ATOMSERVICE リソース定義を定義します。

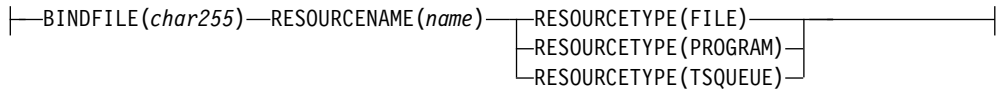
CREATE ATOMSERVICE



CREATE ATOMSERVICE 属性値:



FEED または **COLLECTION** の属性**:**



条件**:** INVREQ、LENGERR、NOTAUTH

COBOL プログラマーへの注記**:** 上記の構文では、**ATTRIBUTES**(*data-value*) ではなく **ATTRIBUTES**(*data-area*) を使用する必要があります。

説明

CREATE ATOMSERVICE コマンドは、ATOMSERVICE 定義を作成します。これは CSD に保管されているリソース定義を使用しません。ローカル CICS 領域で指定した名前を持つ ATOMSERVICE 定義が既に存在する場合は、既存の ATOMSERVICE 定義を無効にしない限り、コマンドは失敗します。この場合、古い定義が新しい定義に置換されます。指定された名前の ATOMSERVICE 定義が存在しない場合は、新しい定義が追加されます。

同期点は、例外条件がコマンドの処理の初期に検出された場合を除いて、CREATE ATOMSERVICE 処理では暗黙的です。タスクでリカバリー可能リソースに対してこの同期点まで加えられた変更のうちコミットされていないものは、CREATE コマンドが正常に実行された場合はコミットされ、そうでない場合はロールバックされます。

オプション

ATTRIBUTES(*data-value***)**
追加される ATOMSERVICE 定義の属性を指定します。属性リストは、**ATOMSERVICE** 定義の属性に示す構文を使用して、単一文字ストリングとし

てコーディングする必要があります。特定の属性の詳細については ATOMSERVICE 属性を参照してください。

ATTRLEN(*data-value*)
ATTRIBUTES オプションで提供される文字ストリングのバイト単位の長さを、ハーフワード・バイナリー値として指定します。長さは 32767 バイトを超えることはできません。

LOGMESSAGE(*cvda*)
作成されるリソースで使用される属性を CICS がログに記録するかどうかを指定します。 CVDA 値は以下のとおりです。

LOG
リソース属性は CSDL 一時データ・キューに記録されます。

NOLOG
リソース属性はログに記録されません。

ATOMSERVICE(*data-value*)
CICS 領域に追加する ATOMSERVICE 定義の 8 文字の名前を指定します。

条件

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

n ATTRIBUTES ストリングに構文エラーがあるか、処理の破棄あるいはリソース定義のいずれかのフェーズ中にエラーが発生しました。
RESP2 値が、一時データ・キュー CSMT に書き込まれたメッセージに関連付けられています。これは、エラーの性質をより正確に特定するものです。

7 LOGMESSAGE の cvda 値が無効です。

200 このコマンドは、DPLSUBSET の EXECUTIONSET 値で定義したプログラム、または分散プログラム・リンクによって SYNCONRETURN オプションを指定しないでリモート・システムから呼び出されたプログラムで実行されました。

LENGERR
RESP2 値は以下のとおりです。

1 ATTRLEN で指定した長さが負です。

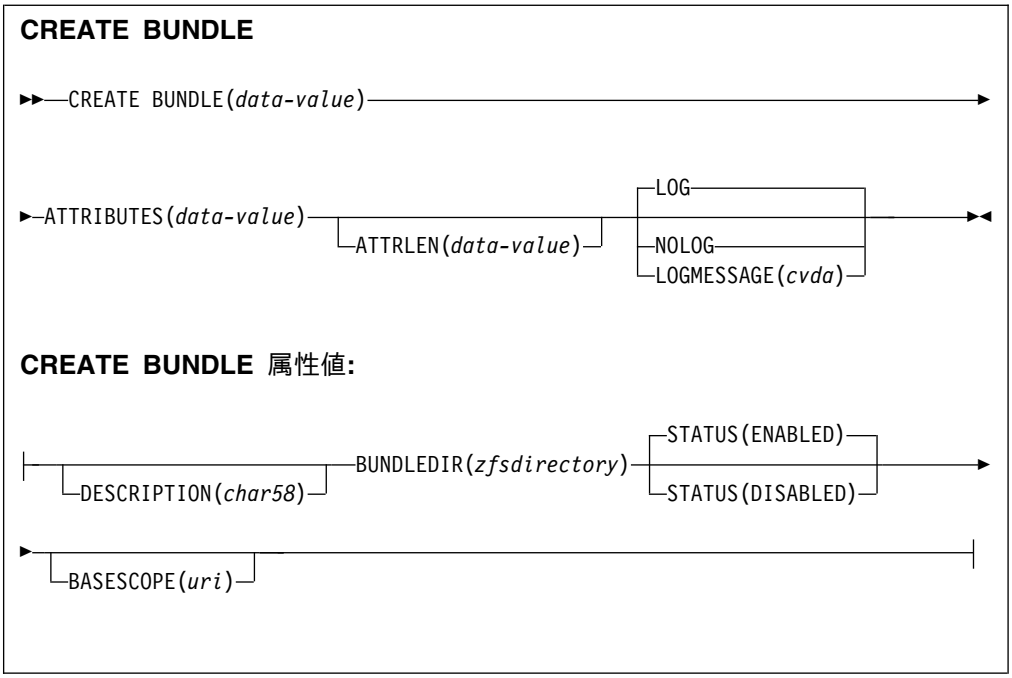
NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

101 発行中のタスクに関連付けられているユーザーには、このコマンドが要求する方法でこの特定のリソースにアクセスする権限がありません。

CREATE BUNDLE

ローカル CICS 領域で BUNDLE リソースを定義します。



条件: INVREQ、LENGERR、NOTAUTH

COBOL プログラマーへの注記**:** 上記の構文では、**ATTRIBUTES**(*data-value*) ではなく **ATTRIBUTES**(*data-area*) を使用する必要があります。

説明

CREATE BUNDLE コマンドは、コマンドに指定された属性で BUNDLE 定義をインストールします。これは CSD に保管されているリソース定義を使用しません。指定した名前の BUNDLE がローカル CICS 領域に既にあり、既存の BUNDLE が無効になっている場合は、新規定義で古い定義が置き換えられます。既存の BUNDLE が無効になっていない場合、CREATE コマンドは失敗します。

オプション

ATTRIBUTES(*data-value*)
追加される BUNDLE の属性を指定します。属性リストは、**BUNDLE** 属性に示す構文を使用して、単一文字ストリングとしてコーディングする必要があります。特定の属性の詳細については BUNDLE 属性を参照してください。

ATTRLEN(*data-value*)
ATTRIBUTES オプションで提供される文字ストリングのバイト単位の長さを、ハーフワード・バイナリー値として指定します。長さは 32767 バイトを超えることはできません。

BUNDLE(*data-value*)
CICS 領域に追加する BUNDLE 定義の 8 文字の名前を指定します。

LOGMESSAGE(*cvda*)
作成されるリソースで使用される属性を CICS がログに記録するかどうかを指定します。 CVDA 値は以下のとおりです。

LOG
リソース属性は CSDL 一時データ・キューに記録されます。

NOLOG
リソース属性はログに記録されません。

条件

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

n ATTRIBUTES ストリングに構文エラーがあるか、処理の破棄あるいはリソース定義のいずれかのフェーズ中にエラーが発生しました。RESP2 値が、一時データ・キュー CSMT に書き込まれたメッセージに関連付けられています。これは、エラーの性質をより正確に特定するものです。

612 BUNDLE 定義が既に存在するため、この定義のインストールが失敗しました。

632 マニフェストが無効であるために、BUNDLE リソース *resource* のインストールが失敗しました。

633 BUNDLE リソース *resource* にマニフェストが存在しなかったため、このリソースのインストールが失敗しました。

686 予期しないリソース・エラーが発生したため、BUNDLE リソースのインストールが失敗しました。

688 BUNDLE リソース *resource* が既に存在するため、このリソースのインストールが失敗しました。

LENGERR
RESP2 値は以下のとおりです。

1 ATTRLEN で指定した長さが負です。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

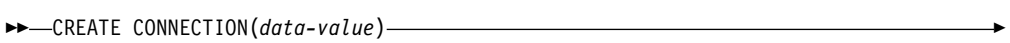
100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

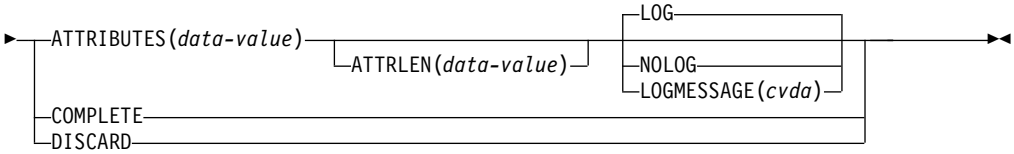
101 発行中のタスクに関連付けられているユーザーには、このコマンドが要求する方法でこの特定のリソースにアクセスする権限がありません。

CREATE CONNECTION

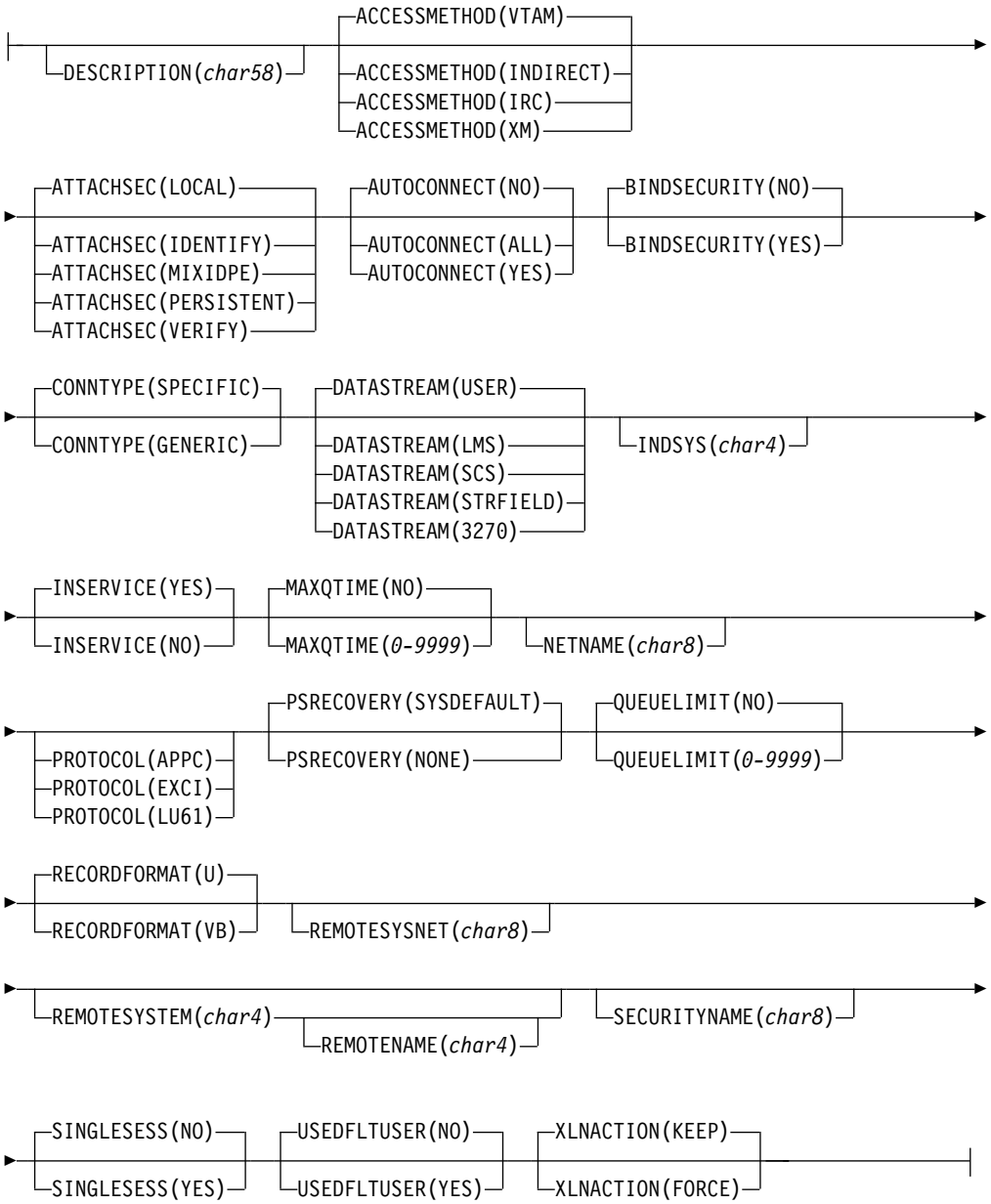
ローカル CICS 領域に CONNECTION を定義します。

CREATE CONNECTION





CREATE CONNECTION 属性値:



注: VTAM は現在 z/OS Communications Server になっています。

条件: ILLOGIC、INVREQ、LENGERR、NOTAUTH

COBOL プログラマーへの注記: 上記の構文では、**ATTRIBUTES**(*data-value*) ではなく **ATTRIBUTES**(*data-area*) を使用する必要があります。

説明

CREATE CONNECTION コマンドと CREATE SESSIONS コマンドを組み合わせると、CONNECTION 定義と SESSIONS 定義が、コマンド上で指定した属性を伴ってローカル CICS 領域にインストールされます。これらのコマンドは、CSD に保管されているリソース定義は使用しません。 CREATE コマンドのその他の一般規則については、Creating resource definitionsを参照してください。

注: CREATE CONNECTION は、リモート・システムへの MRO、APPC、または LUTYPE6.1 通信リンクを作成します。 CREATE IPCONNも参照してください。 CONNECTION と同様、IPCONN もリモート・システムへの通信リンクを定義しますが、この場合、接続には TCP/IP プロトコルが使用されます。

新しい CONNECTION を作成するには、以下のコマンドをこの順序で発行します。

1. CREATE CONNECTION (ATTRIBUTES オプションと ATTRLEN オプションを指定)
2. CREATE SESSIONS
3. 追加の CREATE SESSIONS。(必要なセッション・グループは 1 つだけですが、追加でグループを定義することはできます)
4. CREATE CONNECTION (COMPLETE オプションを指定)。

CONNECTION は、このすべてのステップが実行されるまでは追加されません。定義の作成中 (つまり、最初の CREATE CONNECTION と最後の CREATE CONNECTION の間) は、以下の作業はできません。

- 任意のタイプの他のリソース (他の接続を含む) の定義
- SYNCPOINT (あるいはこれと同様のコマンド) の発行
- タスクの終了 (通常)

ただし、CONNECTION 定義の作成中にエラーまたは問題が発生した場合は、CREATE CONNECTION DISCARD コマンドを発行すれば、任意の時点でプロセスを終了できます。この場合、CICS は、CONNECTION 定義の一部とその定義用に作成されたすべての SESSIONS を破棄します。

そうでない場合は、最後の CREATE CONNECTION COMPLETE コマンドが発行されると、CICS は CONNECTION とその SESSIONS をそのリソース定義に追加し、同じ名前の CONNECTION 定義が存在するならそれを置き換えます。

CICS はまた、最後の CREATE の接続処理中に、SYNCPOINT コマンドを暗黙的に実行します。ただし、処理の最初の方で検出できるようなエラーが含まれていない場合に限ります。同期点は、定義が正常に作成されれば、コミットされていない変更点をタスクのその時点までに作成されたリカバリー可能リソースにコミットし、定義が失敗するか DISCARD で終わった場合には、SYNCPOINT ROLLBACK が発行された場合と同様に、変更点をロールバックします。 CREATE コマンドを制御する他の一般規則については、Creating resource definitionsを参照してください。

オプション

ATTRIBUTES(*data-value*)
追加される CONNECTION の属性を指定します。属性リストは、**CONNECTION** 属性に示す構文を使用して、単一文字ストリングとしてコーディングする必要があります。属性の指定の一般規則についてはATTRIBUTES オプションを、特定の属性の詳細については CONNECTION 定義の属性を参照してください。

注: ATTRLEN 値を 0 に指定すると、CONNECTION 定義のすべての属性にデフォルト値を割り当てることができます。ただし、ATTRIBUTES オプションは、たとえ値を使用しなくてもやはり指定する必要があります。

ATTRLEN(*data-value*)
ATTRIBUTES オプションで提供される文字ストリングのバイト単位の長さを、ハーフワード・バイナリー値として指定します。指定できる長さは、0 から 32767 までです。

COMPLETE
この CONNECTION の定義セットが完全で、CICS システムに追加されるように指定します。

CONNECTION(*data-value*)
追加する CONNECTION 定義の 4 文字の名前を指定します。

DISCARD
準備中の CONNECTION 定義を完了させる予定がないこと、またその定義とそのために作成される SESSIONS をすべて破棄し、追加はしない ことを指定します。

LOGMESSAGE(*cvda*)
作成されるリソースで使用される属性を CICS がログに記録するかどうかを指定します。 CVDA 値は以下のとおりです。

LOG
リソース属性は CSDL 一時データ・キューに記録されます。

NOLOG
リソース属性はログに記録されません。

条件

ILLOGIC
RESP2 値は以下のとおりです。

2 以前の CONNECTION または TERMINAL プール定義がまだ完了していないため、このコマンドは実行できません。

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

n ATTRIBUTES ストリングに構文エラーがあるか、処理の破棄あるいはリソース定義のいずれかのフェーズ中にエラーが発生しました。
RESP2 値については、 39 ページの『**EXEC CICS CREATE** コマンドと **EXEC CICS CSD** コマンドの RESP2 値』を参照してください。

7 LOGMESSAGE の cvda 値が無効です。

200 このコマンドは、DPLSUBSET の EXECUTIONSET 値で定義したプロ

グラム、または分散プログラム・リンクによって SYNCONRETURN オプションを指定しないでリモート・システムから呼び出されたプログラムで実行されました。

LENGERR
RESP2 値は以下のとおりです。

1 ATTRLEN で指定した長さが負の数です。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

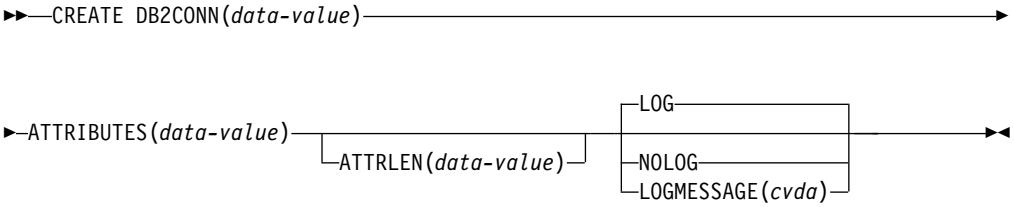
100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

102 CREATE CONNECTION コマンドを発行するタスクに関連したユーザーが、SECURITYNAME で指定したユーザーの許可された代理ではありません。

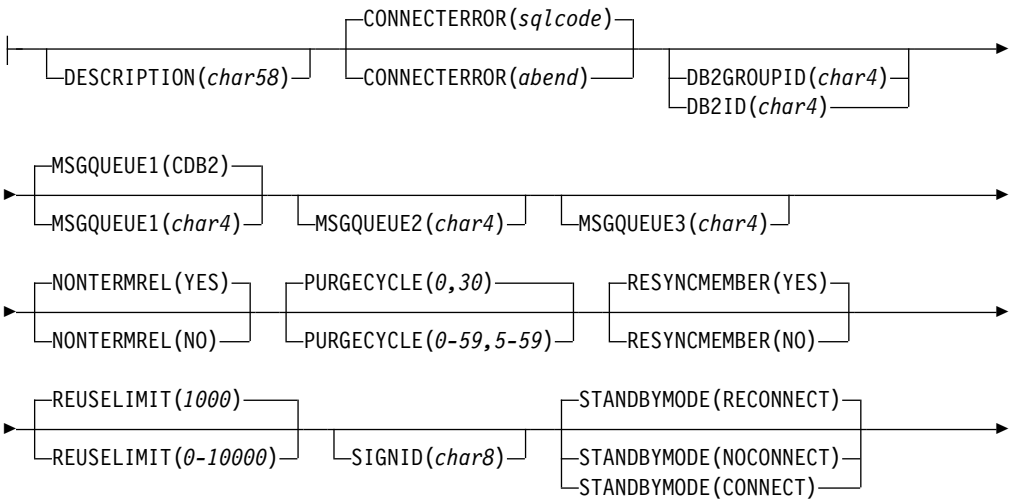
CREATE DB2CONN

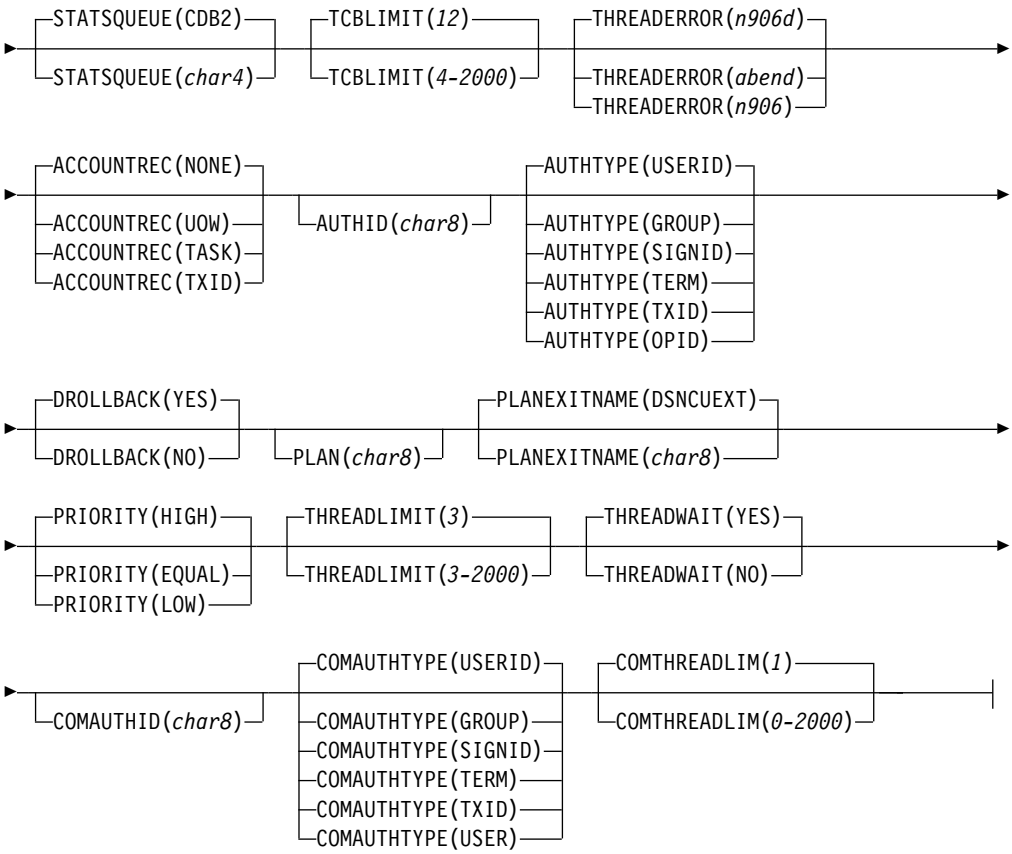
ローカル・システムで DB2CONN を定義します。

CREATE DB2CONN



CREATE DB2CONN 属性値:





条件: ILLOGIC、INVREQ、LENGERR、NOTAUTH

COBOL プログラマーへの注記: 上記の構文では、**ATTRIBUTES**(*data-value*) ではなく **ATTRIBUTES**(*data-area*) を使用する必要があります。

説明

CREATE DB2CONN コマンドは、コマンドに指定された属性で DB2CONN 定義をインストールします。これは CSD に保管されているリソース定義を使用しません。 DB2CONN がローカル CICS 領域に既にある場合、新規定義で古い定義が置き換えられます。そうでない場合、新規定義が追加されます。

同期点は、例外条件がコマンドの処理の初期に検出された場合を除いて、CREATE DB2CONN 処理では暗黙的です。タスクでリカバリー可能リソースに対してこの同期点まで加えられた変更のうちコミットされていないものは、CREATE が正常に実行された場合はコミットされ、そうでない場合はロールバックされます。

オプション

ATTRIBUTES(*data-value*)

追加される DB2CONN の属性を指定します。属性リストは、**DB2CONN** 属性に示す構文を使用して、単一文字ストリングとしてコーディングする必要があります。属性の指定の一般規則については、ATTRIBUTES オプションを参照し、特定の属性の詳細については、DB2CONN 属性を参照してください。

注: ATTRLEN 値を 0 に指定すると、DB2CONN 定義のすべての属性にデフォルト値を割り当てることができます。ただし、ATTRIBUTES オプションは、たとえ値を使用しなくてもやはり指定する必要があります。

ATTRLEN(*data-value***)**
ATTRIBUTES オプションで提供される文字ストリングのバイト単位の長さを、ハーフワード・バイナリー値として指定します。指定できる長さは、0 から 32767 までです。

DB2CONN(*data-value***)**
CICS 領域に追加する DB2CONN 定義の 8 文字の名前を指定します。

LOGMESSAGE(*cvda***)**
作成されるリソースで使用される属性を CICS がログに記録するかどうかを指定します。 CVDA 値は以下のとおりです。

LOG
リソース属性は CSDL 一時データ・キューに記録されます。

NOLOG
リソース属性はログに記録されません。

条件

ILLOGIC
RESP2 値は以下のとおりです。

2 以前の CONNECTION または TERMINAL プール定義がまだ完了していないため、このコマンドは実行できません。

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

n ATTRIBUTES ストリングに構文エラーが発生したか、処理の破棄あるいはリソース定義のいずれかのフェーズ中にエラーが発生しました。RESP2 値については、CREATE コマンドと CSD コマンドの RESP2 値を参照してください。

7 LOGMESSAGE の CVDA 値が無効です。

200 このコマンドは、DPLSUBSET の EXECUTIONSET 値で定義したプログラム、または分散プログラム・リンクによって SYNCONRETURN オプションを指定しないでリモート・システムから呼び出されたプログラムで実行されました。

LENGERR
RESP2 値は以下のとおりです。

1 ATTRLEN で指定した長さが負です。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

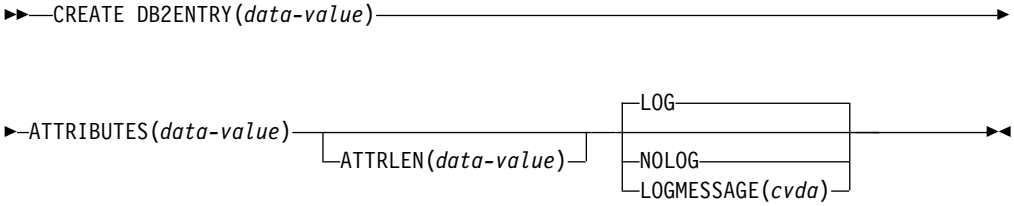
102 発行中のタスクに関連付けられているユーザーは、AUTHID、COMAUTHID、または、SIGNID パラメーターで指定されたユーザーの代理として許可されていません。

103 発行中のタスクに関連付けられているユーザーは、AUTHTYPE または COMAUTHTYPE パラメーターを使用した DB2CONN の作成を許可されていません。

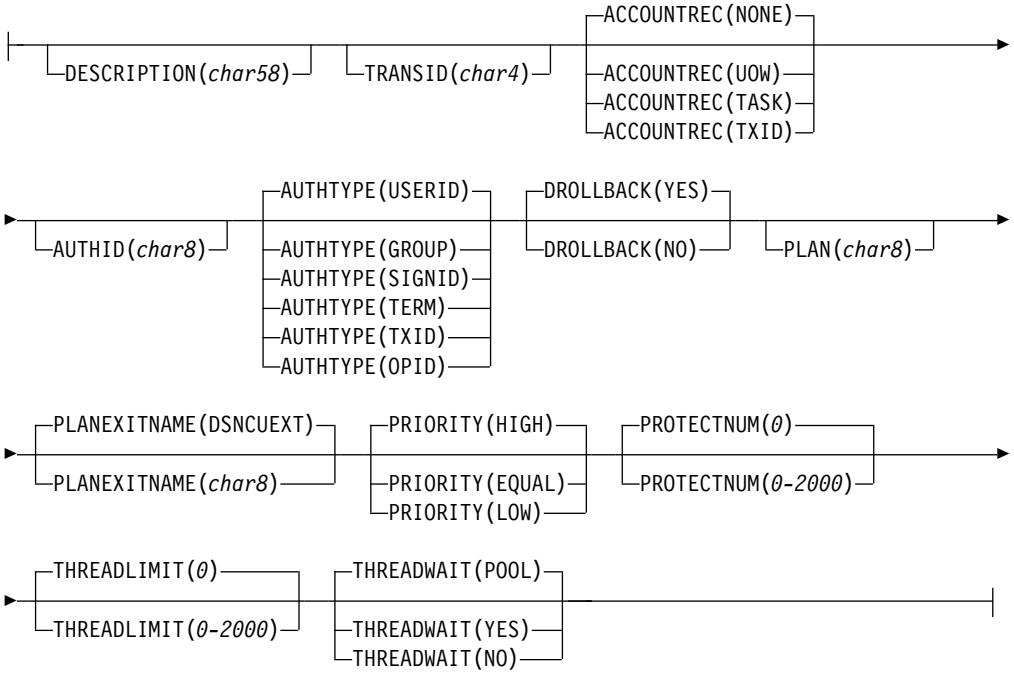
CREATE DB2ENTRY

ローカル・システムで DB2ENTRY を定義します。

CREATE DB2ENTRY



CREATE DB2ENTRY 属性値:



条件: ILLOGIC、INVREQ、LENGERR、NOTAUTH

COBOL プログラマーへの注記: 上記の構文では、**ATTRIBUTES**(*data-value*) ではなく **ATTRIBUTES**(*data-area*) を使用する必要があります。

説明

CREATE DB2ENTRY コマンドは、コマンドに指定された属性で DB2ENTRY 定義をインストールします。これは CSD に保管されているリソース定義を使用しません。ローカル CICS 領域で指定した名前を持つ DB2ENTRY が既に存在する場合は、既存の DB2ENTRY 定義を無効にしない限り、コマンドは失敗します。この場

合、古い定義が新しい定義に置換されます。指定された名前の DB2ENTRY 定義が存在しない場合は、新しい定義が追加されます。

同期点は、例外条件がコマンドの処理の初期に検出された場合を除いて、CREATE DB2ENTRY 処理では暗黙的です。タスクでリカバリー可能リソースに対してこの同期点まで加えられた変更のうちコミットされていないものは、CREATE が正常に実行された場合はコミットされ、そうでない場合はロールバックされます。

オプション

ATTRIBUTES(*data-value***)**
追加される DB2ENTRY の属性を指定します。属性のリストは、**DB2ENTRY** 属性で示されている構文を使用して、単一の文字ストリングとしてコーディングする必要があります。属性の指定の一般規則については、ATTRIBUTES オプションを参照し、特定の属性の詳細については、DB2ENTRY リソースを参照してください。

注**:** ATTRLEN 値を 0 に指定すると、DB2ENTRY 定義のすべての属性にデフォルト値を割り当てることができます。ただし、ATTRIBUTES オプションは、たとえ値を使用しなくてもやはり指定する必要があります。

ATTRLEN(*data-value***)**
ATTRIBUTES オプションで提供される文字ストリングのバイト単位の長さを、ハーフワード・バイナリー値として指定します。指定できる長さは、0 から 32767 までです。

DB2ENTRY(*data-value***)**
CICS 領域に追加する DB2ENTRY 定義の 8 文字の名前を指定します。

LOGMESSAGE(*cvda***)**
作成されるリソースで使用される属性を CICS がログに記録するかどうかを指定します。 CVDA 値は以下のとおりです。

LOG
リソース属性は CSDL 一時データ・キューに記録されます。

NOLOG
リソース属性はログに記録されません。

条件

ILLOGIC
RESP2 値は以下のとおりです。

2 以前の CONNECTION または TERMINAL プール定義がまだ完了していないため、このコマンドは実行できません。

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

n ATTRIBUTES ストリングに構文エラーがあるか、処理の破棄あるいはリソース定義のいずれかのフェーズ中にエラーが発生しました。
RESP2 値については、CREATE コマンドと CSD コマンドの RESP2 値を参照してください。

7 LOGMESSAGE の cvda 値が無効です。

200 このコマンドは、DPLSUBSET の EXECUTIONSET 値で定義したプロ

グラム、または分散プログラム・リンクによって SYNCONRETURN オプションを指定しないでリモート・システムから呼び出されたプログラムで実行されました。

LENGERR

RESP2 値は以下のとおりです。

1 ATTRLEN で指定した長さが負です。

NOTAUTH

RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

101 発行中のタスクに関連付けられているユーザーは、この名前の DB2ENTRY 定義の作成を許可されていません。

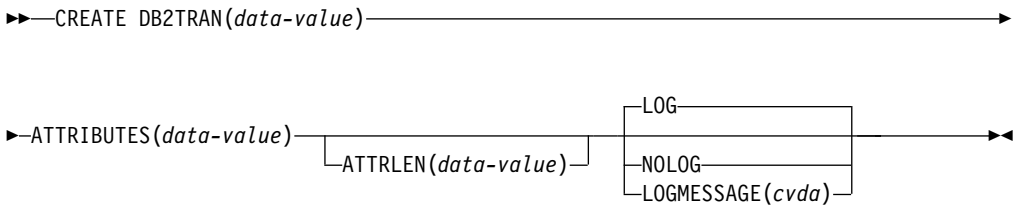
102 発行中のタスクに関連付けられているユーザーは、AUTHID パラメーターで指定された許可ユーザーではありません。

103 発行中のタスクに関連付けられているユーザーは、AUTHTYPE パラメーターを使用したこの DB2ENTRY の作成を許可されていません。

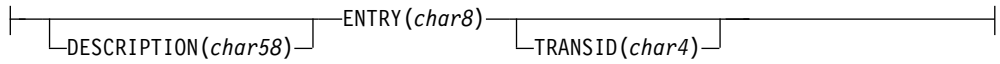
CREATE DB2TRAN

ローカル・システムで DB2TRAN を定義します。

CREATE DB2TRAN



CREATE DB2TRAN 属性値:



条件: ILLOGIC、INVREQ、LENGERR、NOTAUTH

COBOL プログラマーへの注記: 上記の構文では、**ATTRIBUTES**(*data-value*) ではなく **ATTRIBUTES**(*data-area*) を使用する必要があります。

説明

CREATE DB2TRAN コマンドは、コマンドに指定された属性で DB2TRAN 定義をインストールします。これは CSD に保管されているリソース定義を使用しません。指定した名前の DB2TRAN がローカル CICS 領域に既にある場合、新規定義で古い定義が置き換えられます。そうでない場合、新規定義が追加されます。同じ

TRANSID を指定する DB2TRAN がローカル CICS 領域に既にある場合、各トランザクションには 1 つの DB2TRAN 定義しか指定できないので、コマンドは失敗します。

同期点は、例外条件がコマンドの処理の初期に検出された場合を除いて、CREATE DB2TRAN 処理では暗黙的です。タスクでリカバリー可能リソースに対してこの同期点まで加えられた変更のうちコミットされていないものは、CREATE が正常に実行された場合はコミットされ、そうでない場合はロールバックされます。

オプション

ATTRIBUTES(*data-value*)
追加される DB2TRAN の属性を指定します。属性のリストは、**DB2TRAN** 属性に示す構文を使用して、単一文字ストリングとしてコーディングする必要があります。属性の指定の一般規則については、ATTRIBUTES オプションを参照し、特定の属性の詳細については、DB2TRAN 属性を参照してください。

注: ATTRLEN 値を 0 に指定すると、DB2TRAN 定義のすべての属性にデフォルト値を割り当てることができます。ただし、ATTRIBUTES オプションは、たとえ値を使用しなくてもやはり指定する必要があります。

ATTRLEN(*data-value*)
ATTRIBUTES オプションで提供される文字ストリングのバイト単位の長さを、ハーフワード・バイナリー値として指定します。指定できる長さは、0 から 32767 までです。

DB2TRAN(*data-value*)
CICS 領域に追加する DB2TRAN 定義の 8 文字の名前を指定します。

LOGMESSAGE(*cvda*)
作成されるリソースで使用される属性を CICS がログに記録するかどうかを指定します。 CVDA 値は以下のとおりです。

LOG
リソース属性は CSDL 一時データ・キューに記録されます。

NOLOG
リソース属性はログに記録されません。

条件

ILLOGIC
RESP2 値は以下のとおりです。

2 以前の CONNECTION または TERMINAL プール定義がまだ完了していないため、このコマンドは実行できません。

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

n ATTRIBUTES ストリングに構文エラーがあるか、処理の破棄あるいはリソース定義のいずれかのフェーズ中にエラーが発生しました。
RESP2 値については、CREATE コマンドと CSD コマンドの RESP2 値を参照してください。

7 LOGMESSAGE の cvda 値が無効です。

200 このコマンドは、DPLSUBSET の EXECUTIONSET 値で定義したプロ

グラム、または分散プログラム・リンクによって SYNCONRETURN オプションを指定しないでリモート・システムから呼び出されたプログラムで実行されました。

LENGERR

RESP2 値は以下のとおりです。

1 ATTRLEN で指定した長さが負です。

NOTAUTH

RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

101 発行中のタスクに関連付けられているユーザーは、DB2TRAN 定義を作成して、名前 DB2ENTRY に関連付けることを許可されていません。

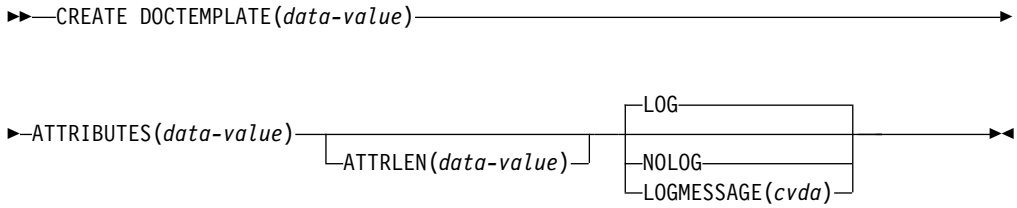
102 発行中のタスクに関連付けられているユーザーは、DB2TRAN で指定された DB2ENTRY の AUTHID パラメーターで指定されたユーザーの代理として許可されていません。

103 発行中のタスクに関連付けられているユーザーは、この DB2TRAN を、AUTHTYPE を指定する名前 DB2ENTRY に関連付けることを許可されていません。

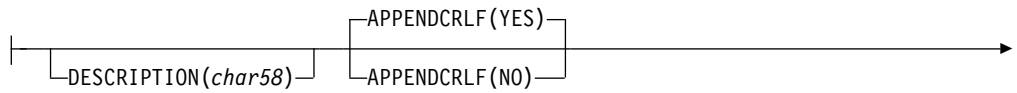
CREATE DOCTEMPLATE

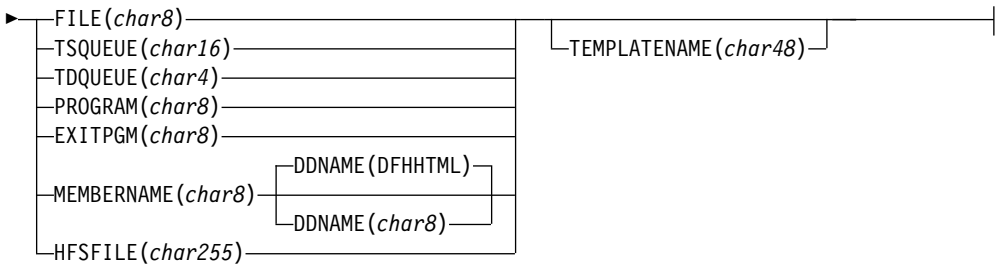
文書テンプレートを定義します。

CREATE DOCTEMPLATE



CREATE DOCTEMPLATE 属性値:





条件: INVREQ、LENGERR、NOTAUTH

COBOL プログラマーへの注記**:** 上記の構文では、**ATTRIBUTES**(*data-value*) ではなく **ATTRIBUTES**(*data-area*) を使用する必要があります。

説明

CREATE DOCTEMPLATE コマンドは、コマンドに指定された属性で DOCTEMPLATE 定義をインストールします。これは CSD に保管されているリソース定義を使用しません。指定した名前の文書テンプレートがローカル CICS 領域に既にある場合、新規定義で古い定義が置き換えられます。そうでない場合、新規定義が追加されます。

同期点は、例外条件がコマンドの処理の初期に検出された場合を除いて、CREATE DOCTEMPLATE 処理では暗黙的です。タスクでリカバリー可能リソースに対してこの同期点まで加えられた変更のうちコミットされていないものは、CREATE が正常に実行された場合はコミットされ、そうでない場合はロールバックされます。CREATE コマンドを制御する他の一般規則については、Creating resource definitionsを参照してください。

オプション

ATTRIBUTES(*data-value*)
追加される DOCTEMPLATE の属性を指定します。属性のリストは、**DOCTEMPLATE** 属性で示されている構文を使用して、単一の文字ストリングとしてコーディングする必要があります。属性の指定の一般規則については、ATTRIBUTES オプションを参照し、特定の属性の詳細については、DOCTEMPLATE 属性を参照してください。

ATTRLEN(*data-value*)
ATTRIBUTES オプションで提供される文字ストリングのバイト単位の長さを、ハーフワード・バイナリー値として指定します。長さは 32767 バイトを超えることはできません。

DOCTEMPLATE(*data-value*)
CICS 領域に追加する DOCTEMPLATE 定義の 8 文字の名前を指定します。

LOGMESSAGE(*cvda*)
作成されるリソースで使用される属性を CICS がログに記録するかどうかを指定します。 CVDA 値は以下のとおりです。

LOG
リソース属性は CSDL 一時データ・キューに記録されます。

NOLOG
リソース属性はログに記録されません。

条件

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

n ATTRIBUTES ストリングに構文エラーがあるか、処理の破棄あるいはリソース定義のいずれかのフェーズ中にエラーが発生しました。RESP2 値については、CREATE コマンドと CSD コマンドの RESP2 値を参照してください。

7 LOGMESSAGE の cvda 値が無効です。

200 このコマンドは、DPLSUBSET の EXECUTIONSET 値で定義したプログラム、または分散プログラム・リンクによって SYNCONRETURN オプションを指定しないでリモート・システムから呼び出されたプログラムで実行されました。

LENGERR
RESP2 値は以下のとおりです。

1 ATTRLEN で指定した長さが負です。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

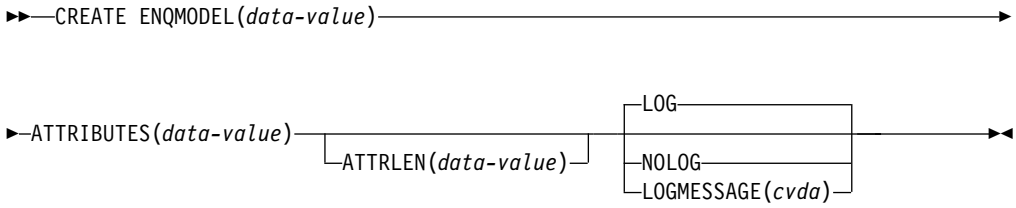
100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

101 発行中のタスクに関連したユーザーは、この名前の DOCTEMPLATE リソース定義の作成を許可されていません。

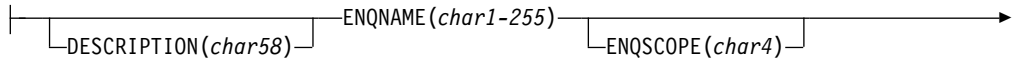
CREATE ENQMODEL

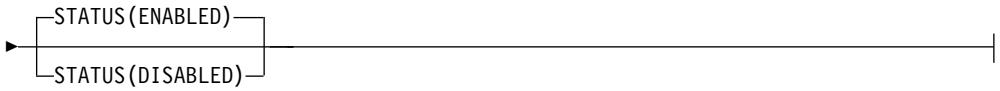
ENQMODEL リソース定義を定義します。

CREATE ENQMODEL



CREATE ENQMODEL 属性値:





条件**:** INVREQ、LENGERR、NOTAUTH

COBOL プログラマーへの注記**:** 上記の構文では、**ATTRIBUTES**(*data-value*) ではなく **ATTRIBUTES**(*data-area*) を使用する必要があります。

説明

CREATE ENQMODEL コマンドは、コマンドに指定された属性で ENQMODEL 定義をインストールします。これは CSD に保管されているリソース定義を使用しません。指定した名前の ENQMODEL がローカル CICS 領域に既にある場合、新規定義で古い定義が置き換えられます。そうでない場合、新規定義が追加されます。

CREATE が発行されると、ENQNAME パターンと一致するエンキューがローカル・システムからなくなるまで ENQMODEL は WAITING 状態になります。次に、CREATE コマンドで指定されたとおりに、ENABLED または DISABLED になります。

ネストされた総称 enqname を形成する ENQMODEL は、使用不可の状態でインストールするか、最も具体性の高いものから低いものの順にインストールする必要があります。同じまたは具体性の低いネストされた enqname を持つ別の ENQMODEL が既にインストールされ、使用可能になっている場合、INVREQ が呼び出し元に戻されます。

例えば、AB* を含む ENQMODEL がインストールされている場合、ABCD* を持つ ENQMODEL を作成する前に、元の ENQMODEL は廃棄されるか、使用不可になっている必要があります。

同期点は、例外条件がコマンドの処理の初期に検出された場合を除いて、CREATE ENQMODEL 処理では暗黙的です。タスクでリカバリー可能リソースに対してこの同期点まで加えられた変更のうちコミットされていないものは、CREATE が正常に実行された場合はコミットされ、そうでない場合はロールバックされます。CREATE コマンドを制御する他の一般規則については、Creating resource definitionsを参照してください。

オプション

ATTRIBUTES(*data-value*)
追加される ENQMODEL の属性を指定します。属性のリストは、**ENQMODEL** 属性に示す構文を使用して、単一文字ストリングとしてコーディングする必要があります。属性の指定の一般規則については、ATTRIBUTES オプションを参照し、特定の属性の詳細については、ENQMODEL 属性を参照してください。

ATTRLEN(*data-value*)
ATTRIBUTES オプションで提供される文字ストリングのバイト単位の長さを、ハーフワード・バイナリー値として指定します。長さは 32767 バイトを超えることはできません。

ENQMODEL(*data-value*)
CICS 領域に追加する ENQMODEL 定義の 8 文字の名前を指定します。

LOGMESSAGE(*cvda*)
作成されるリソースで使用される属性を CICS がログに記録するかどうかを指定します。 CVDA 値は以下のとおりです。

LOG
リソース属性は CSDL 一時データ・キューに記録されます。

NOLOG
リソース属性はログに記録されません。

条件

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

n ATTRIBUTES ストリングに構文エラーがあるか、処理の破棄あるいはリソース定義のいずれかのフェーズ中にエラーが発生しました。 RESP2 値については、CREATE コマンドと CSD コマンドの RESP2 値を参照してください。

7 LOGMESSAGE の cvda 値が無効です。

200 このコマンドは、DPLSUBSET の EXECUTIONSET 値で定義したプログラム、または分散プログラム・リンクによって SYNCONRETURN オプションを指定しないでリモート・システムから呼び出されたプログラムで実行されました。

LENGERR
RESP2 値は以下のとおりです。

1 ATTRLEN で指定した長さが負です。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

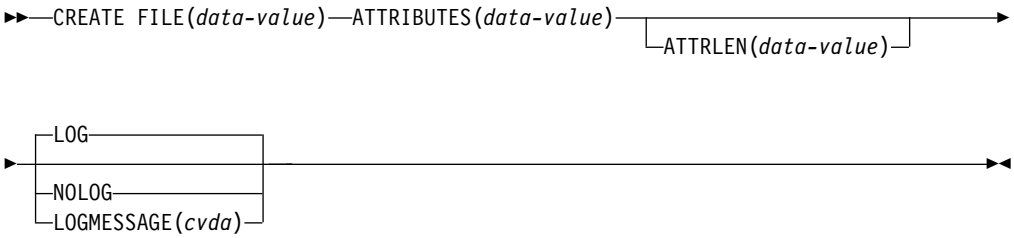
100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

101 発行中のタスクに関連したユーザーは、この名前の ENQMODEL 定義の作成を許可されていません。

CREATE FILE

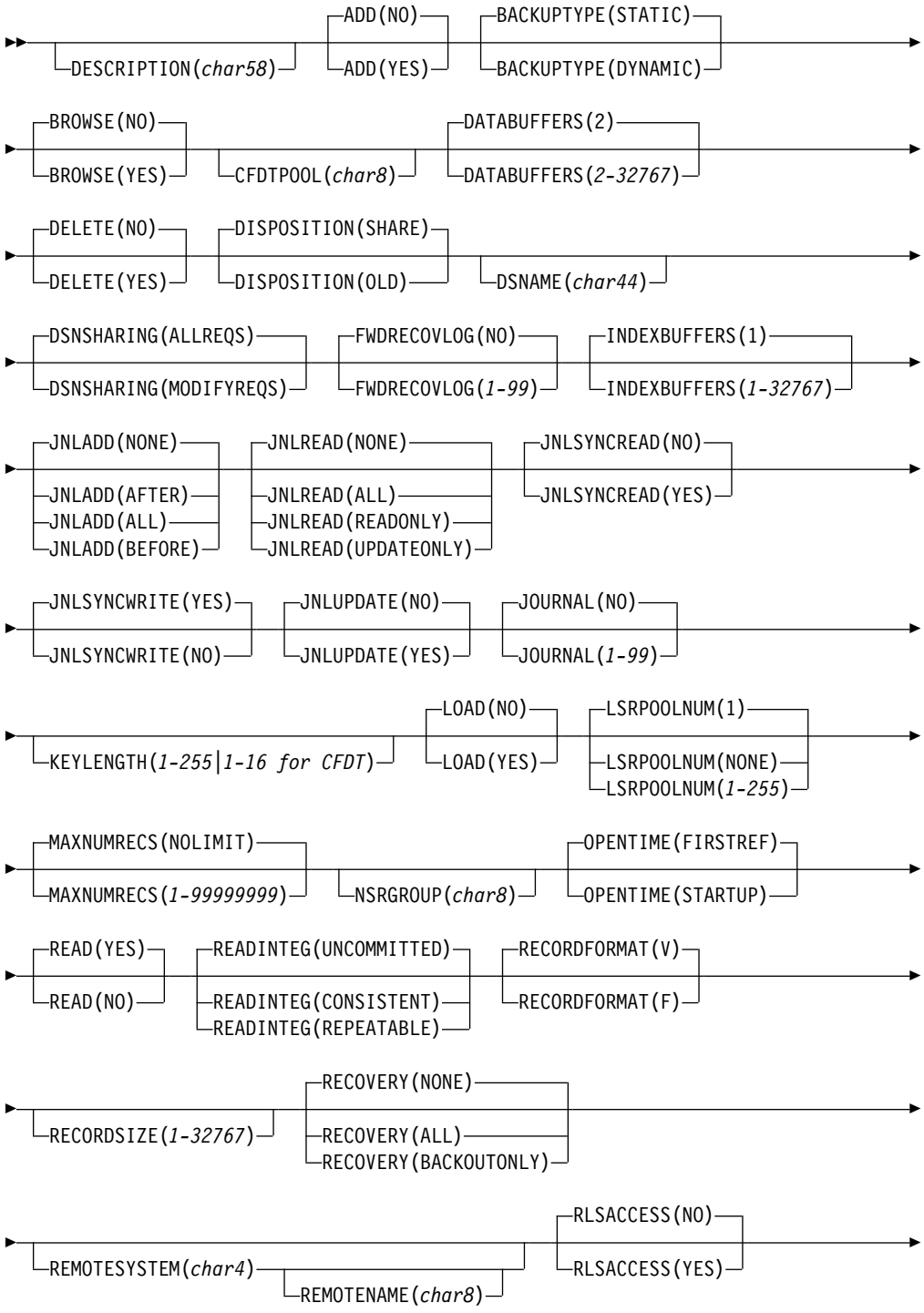
ローカル CICS 領域にファイルを定義します。

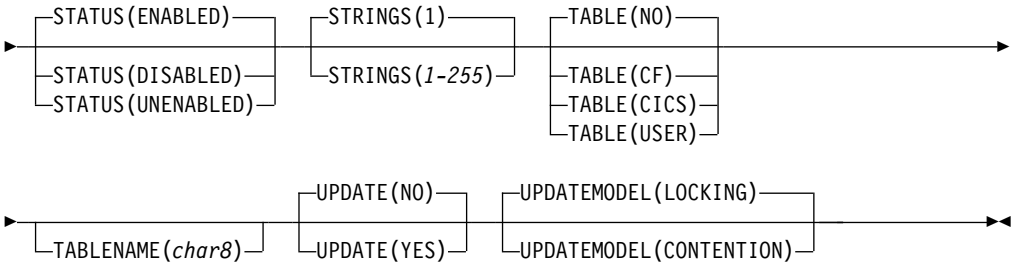
CREATE FILE



条件: ILLOGIC、INVREQ、LENGERR、NOTAUTH

CREATE FILE 属性値





COBOL プログラマーへの注記**:** 上記の構文では、**ATTRIBUTES**(*data-value*) ではなく **ATTRIBUTES**(*data-area*) を使用する必要があります。

説明

CREATE FILE コマンドは、コマンドに指定された属性で FILE 定義をインストールします。これは CSD に保管されているリソース定義を使用しません。指定した名前のファイルがローカル CICS 領域に既にある場合、新規定義で古い定義が置き換えられます。そうでない場合、新規定義が追加されます。

同期点は、例外条件がコマンドの処理の初期に検出された場合を除いて、CREATE FILE 処理では暗黙的です。タスクでリカバリー可能リソースに対してこの同期点まで加えられた変更のうちコミットされていないものは、CREATE が正常に実行された場合はコミットされ、そうでない場合はロールバックされます。 CREATE コマンドを制御する他の一般規則については、Creating resource definitionsを参照してください。

オプション

ATTRIBUTES(*data-value*)
追加されるファイルの属性を指定します。属性のリストは、示されている構文を使用して、単一の文字ストリングとしてコーディングする必要があります。属性の指定の一般規則については、ATTRIBUTES オプションを参照し、特定の属性の詳細については、FILE 属性を参照してください。

注**:** ATTRLEN 値を 0 に指定すると、FILE 定義のすべての属性にデフォルト値を割り当てることができます。ただし、ATTRIBUTES オプションは、たとえ値を使用しなくてもやはり指定する必要があります。

ATTRLEN(*data-value*)
ATTRIBUTES オプションで提供される文字ストリングのバイト単位の長さを、ハーフワード・バイナリー値として指定します。指定できる長さは、0 から 32767 までです。

FILE(*data-value*)
CICS 領域に追加する FILE 定義の 8 文字の名前を指定します。

LOGMESSAGE(*cvda*)
作成されるリソースで使用される属性を CICS がログに記録するかどうかを指定します。 CVDA 値は以下のとおりです。

LOG
リソース属性は CSDL 一時データ・キューに記録されます。

NOLOG
リソース属性はログに記録されません。

条件

ILLOGIC
RESP2 値は以下のとおりです。

2 以前の CONNECTION または TERMINAL プール定義がまだ完了していないため、このコマンドは実行できません。

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

n ATTRIBUTES ストリングに構文エラーがあるか、処理の破棄あるいはリソース定義のいずれかのフェーズ中にエラーが発生しました。RESP2 値については、CREATE コマンドと CSD コマンドの RESP2 値を参照してください。

7 LOGMESSAGE の cvda 値が無効です。

200 このコマンドは、DPLSUBSET の EXECUTIONSET 値で定義したプログラム、または分散プログラム・リンクによって SYNCONRETURN オプションを指定しないでリモート・システムから呼び出されたプログラムで実行されました。

LENGERR
RESP2 値は以下のとおりです。

1 ATTRLEN で指定した長さが負です。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

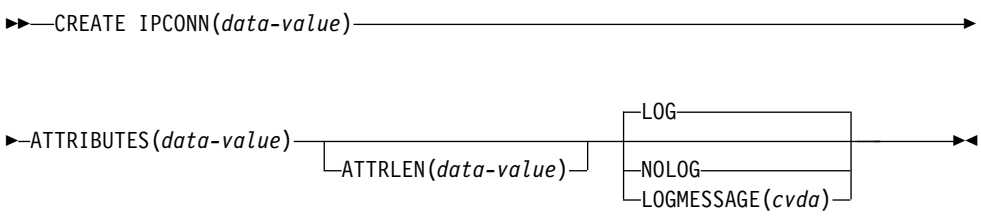
100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

101 発行中のタスクに関連付けられているユーザーは、この名前の FILE 定義の作成を許可されていません。

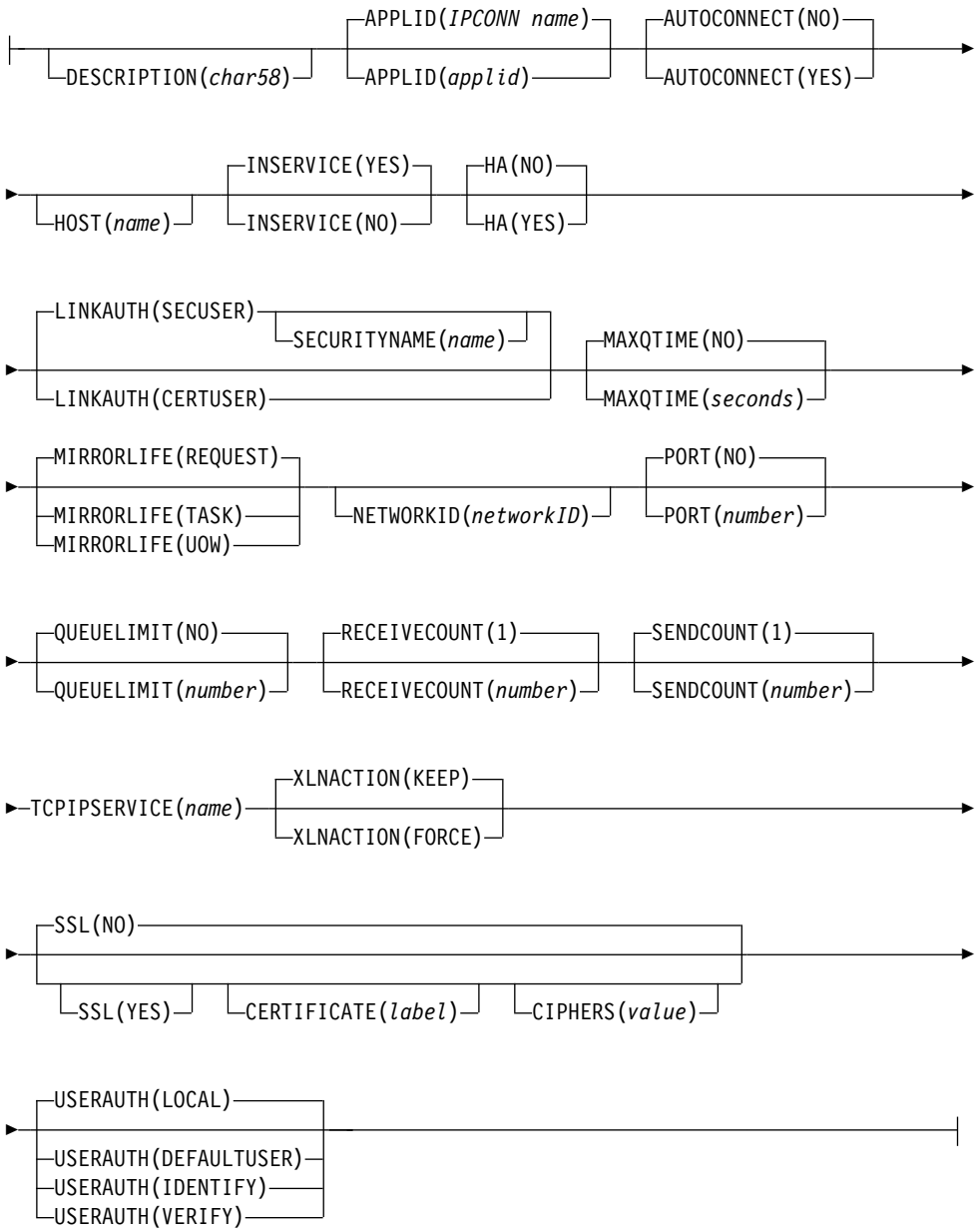
CREATE IPCONN

IPCONN を定義して、ローカル CICS 領域にインストールします。

CREATE IPCONN



CREATE IPCONN 属性値:



条件**:** ILLOGIC、INVREQ、LENGERR、NOTAUTH

COBOL プログラマーへの注記**:** 上記の構文では、**ATTRIBUTES**(*data-value*) ではなく **ATTRIBUTES**(*data-area*) を使用する必要があります。

説明

CREATE IPCONN コマンドは、コマンドに指定された属性で IPCONN 定義をインストールします。これは CSD に保管されているリソース定義を使用しません。指定した名前の IPCONN がローカル CICS 領域に既にある場合、新規定義で古い定義が置き換えられます。そうでない場合、新規定義が追加されます。

注**:** CREATE IPCONN は、リモート・システムへの TCP/IP 通信リンクを作成します。 82 ページの『CREATE CONNECTION』も参照してください。 IPCONN と同様、CONNECTION は、リモート・システムへの通信リンクを定義しますが、この場合、接続には APPC または LUTYPE6.1 通信プロトコル (システム間連絡)、または IRC、XM、または XCF/MRO アクセス方式 (複数領域操作) が使用されます。

IPCONN 定義をインストールするときに得られる接続について、以下の点に注意してください。

1. この IPCONN 定義の TCPIPSERVICE オプションで指定した TCPIPSERVICE 定義も、この領域にインストールし、PROTOCOL(IPIC) を指定する必要があります。
2. 対応する IPCONN 定義と TCPIPSERVICE 定義は、リモート領域にインストールする必要があります。対応する IPCONN 定義と TCPIPSERVICE 定義の特性は次のとおりです。
   - リモート領域の IPCONN 定義の HOST オプションは、この領域に指定する必要があります。
   - リモート領域の IPCONN 定義の PORT オプションは、この IPCONN で指定したローカル TCPIPSERVICE 定義の PORTNUMBER オプションに指定したものと同じポート番号を指定する必要があります。
   - リモート領域の TCPIPSERVICE 定義 (リモート領域の IPCONN 定義で指定) は PROTOCOL(IPIC) を指定し、その PORTNUMBER オプションに、この IPCONN の PORT オプションで指定したものと同じポート番号を指定する必要があります。

IPIC 接続を使用する、CICS TS 3.2 以降の領域間の分散プログラム・リンク (DPL)、CICS TS 4.1 以降の領域間のトランザクション・ルーティング、または CICS TS 4.2 以降の領域間のファイル制御、一時データ、一時記憶域の各要求の機能シップにこの IPCONN を使用する場合、その名前は 4 文字のローカル名 (SYSID) に一致している必要があります。CICS はこの名前 (4 つの末尾ブランクが埋め込まれている) でリモート・システムを認識します。

注**:** DPL 要求のリモート・ターゲット領域の名前 (SYSID) は、以下のいずれかの方法を使用して指定することができます。

- インストール済み PROGRAM 定義の REMOTESYSTEM オプション
- EXEC CICS LINK PROGRAM コマンドの SYSID オプション
- 動的ルーティング・プログラム

IPCONN 定義および TCPIPSERVICE 定義の属性の詳細については、IPCONN 属性およびTCPIPSERVICE 属性を参照してください。 IPIC 接続の定義については、IPIC 接続の定義を参照してください。

同期点は、例外条件がコマンドの処理の初期に検出された場合を除いて、CREATE IPCONN 処理では暗黙的です。タスクでリカバリー可能リソースに対してこの同期点まで加えられた変更のうちコミットされていないものは、CREATE が正常に実行された場合はコミットされ、そうでない場合はロールバックされます。

CREATE コマンドを制御する他の一般規則については、Creating resource definitionsを参照してください。

オプション

ATTRIBUTES(*data-value*)
追加される IPCONN の属性を指定します。属性のリストは、IPCONN 属性に示されている構文を使用して、単一の文字ストリングとしてコーディングする必要があります。属性の指定の一般規則については、ATTRIBUTES オプションを参照し、特定の属性の詳細については、IPCONN 属性を参照してください。

ATTRLEN(*data-value*)
ATTRIBUTES オプションで提供される文字ストリングのバイト単位の長さを、ハーフワード・バイナリー値として指定します。長さは 32767 バイトを超えることはできません。

IPCONN(*data-value*)
リモート・システムへの接続の 8 文字の名前を指定します (つまり、作成される IPCONN 定義の名前)。

LOGMESSAGE(*cvda*)
作成されるリソースで使用される属性を CICS がログに記録するかどうかを指定します。 CVDA 値は以下のとおりです。

LOG
リソース属性は CSDL 一時データ・キューに記録されます。

NOLOG
リソース属性はログに記録されません。

条件

ILLOGIC
RESP2 値は以下のとおりです。

2 以前の CONNECTION または TERMINAL プール定義がまだ完了していないため、このコマンドは実行できません。

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

n ATTRIBUTES ストリングに構文エラーがあるか、処理の破棄あるいはリソース定義のいずれかのフェーズ中にエラーが発生しました。
RESP2 値については、CREATE コマンドと CSD コマンドの RESP2 値を参照してください。

7 LOGMESSAGE の CVDA 値が無効です。

200 コマンドは、DPLSUBSET の EXECUTIONSET 値で定義されたプログ

ラム、または SYNCONRETURN オプションが指定されていない分散プログラム・リンクによりリモート・システムから呼び出されたプログラムで実行されました。

LENGERR
RESP2 値は以下のとおりです。

1 ATTRLEN で指定した長さが負です。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

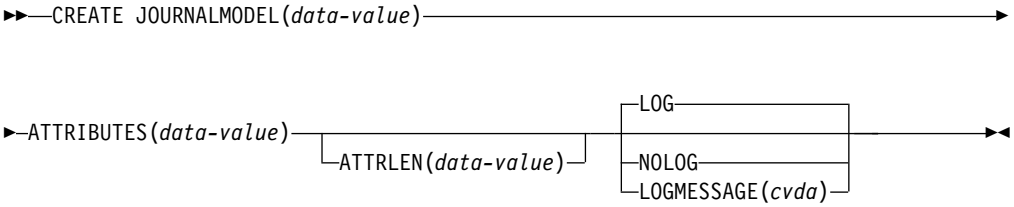
100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

102 CREATE IPCONN コマンドを発行するタスクに関連したユーザーが、SECURITYNAME オプションで指定されたユーザーの許可された代理ではありません。

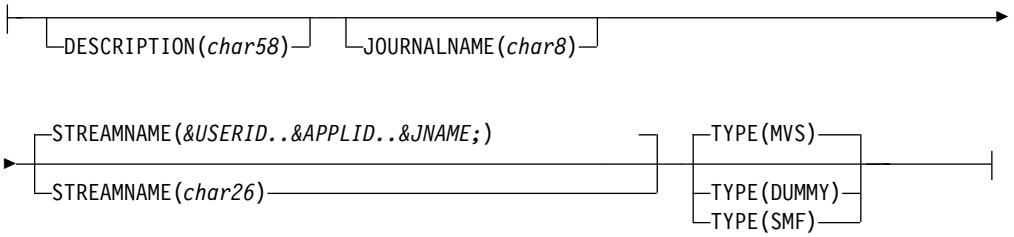
CREATE JOURNALMODEL

ローカル CICS 領域でジャーナル・モデルを定義します。

CREATE JOURNALMODEL



CREATE JOURNALMODEL 属性値:



条件**:** ILLOGIC、INVREQ、LENGERR、NOTAUTH

COBOL プログラマーへの注記**:** 上記の構文では、**ATTRIBUTES**(*data-value*) ではなく **ATTRIBUTES**(*data-area*) を使用する必要があります。

説明

CREATE JOURNALMODEL コマンドは、コマンドに指定された属性で JOURNALMODEL 定義をインストールします。これは CSD に保管されているリ

ソース定義を使用しません。指定した名前のジャーナル・モデルがローカル CICS 領域に既にある場合、新規定義で古い定義が置き換えられます。そうでない場合、新規定義が追加されます。

同期点は、例外条件がコマンドの処理の初期に検出された場合を除いて、CREATE JOURNALMODEL 処理では暗黙的です。タスクでリカバリー可能リソースに対してこの同期点まで加えられた変更のうちコミットされていないものは、CREATE が正常に実行された場合はコミットされ、そうでない場合はロールバックされます。CREATE コマンドを制御する他の一般規則については、Creating resource definitionsを参照してください。

オプション

ATTRIBUTES(*data-value*)
追加される JOURNALMODEL の属性を指定します。属性のリストは、**JOURNALMODEL** 属性で示されている構文を使用して、単一の文字ストリングとしてコーディングする必要があります。属性の指定の一般規則については、ATTRIBUTES オプションを参照し、特定の属性の詳細については、JOURNALMODEL 属性を参照してください。

注**:** ATTRLEN 値を 0 に指定すると、JOURNALMODEL 定義のすべての属性にデフォルト値を割り当てることができます。ただし、ATTRIBUTES オプションは、たとえ値を使用しなくてもやはり指定する必要があります。

ATTRLEN(*data-value*)
ATTRIBUTES オプションで提供される文字ストリングのバイト単位の長さを、ハーフワード・バイナリー値として指定します。指定できる長さは、0 から 32767 までです。

JOURNALMODEL(*data-value*)
CICS 領域に追加する JOURNALMODEL 定義の 8 文字の名前を指定します。

LOGMESSAGE(*cvda*)
作成されるリソースで使用される属性を CICS がログに記録するかどうかを指定します。 CVDA 値は以下のとおりです。

LOG
リソース属性は CSDL 一時データ・キューに記録されます。

NOLOG
リソース属性はログに記録されません。

条件

ILLOGIC
RESP2 値は以下のとおりです。

2 以前の CONNECTION または TERMINAL プール定義がまだ完了していないため、このコマンドは実行できません。

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

n ATTRIBUTES ストリングに構文エラーがあるか、処理の破棄あるいは

リソース定義のいずれかのフェーズ中にエラーが発生しました。
RESP2 値については、CREATE コマンドと CSD コマンドの RESP2 値を参照してください。

7 LOGMESSAGE の cvda 値が無効です。

200 このコマンドは、DPLSUBSET の EXECUTIONSET 値で定義したプログラム、または分散プログラム・リンクによって SYNCONRETURN オプションを指定しないでリモート・システムから呼び出されたプログラムで実行されました。

LENGERR

RESP2 値は以下のとおりです。

1 ATTRLEN で指定した長さが負です。

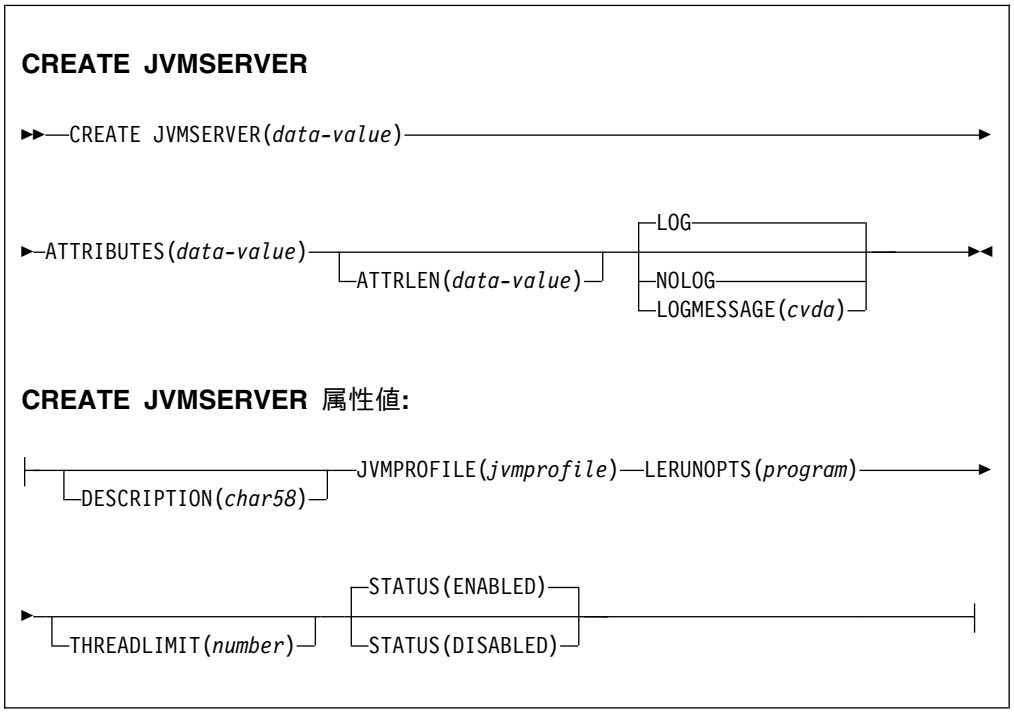
NOTAUTH

RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

CREATE JVMSERVER

ローカル CICS 領域で JVMSERVER リソースを定義します。



条件: INVREQ、LENGERR、NOTAUTH

COBOL プログラマーへの注記: 上記の構文では、**ATTRIBUTES**(*data-value*) ではなく **ATTRIBUTES**(*data-area*) を使用する必要があります。

説明

CREATE JVMSERVER コマンドは、コマンドに指定された属性で JVMSERVER 定義をインストールします。指定した名前の JVMSERVER がローカル CICS 領域に既にあり、既存の JVMSERVER リソースが無効になっている場合は、新規定義で古い定義が置き換えられます。既存の JVMSERVER リソースが無効になっていない場合、CREATE コマンドは失敗します。

オプション

ATTRIBUTES(*data-value***)**
JVMSERVER リソースの属性を指定します。属性のリストは、**JVMSERVER** 属性で示されている構文を使用して、単一の文字ストリングとしてコーディングする必要があります。

特定の属性の詳細については JVMSERVER 属性を参照してください。

ATTRLEN(*data-value***)**
ATTRIBUTES オプションで提供される文字ストリングのバイト単位の長さを、ハーフワード・バイナリー値として指定します。長さは 32767 バイトを超えることはできません。

LOGMESSAGE(*cvda***)**
作成されるリソースで使用される属性を CICS がログに記録するかどうかを指定します。 CVDA 値は以下のとおりです。

LOG
リソース属性は CSDL 一時データ・キューに記録されます。

NOLOG
リソース属性はログに記録されません。

JVMSERVER(*data-value***)**
CICS 領域にインストールする JVMSERVER リソース定義の 8 文字の名前を指定します。

条件

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

n ATTRIBUTES ストリングに構文エラーがあるか、処理の破棄あるいはリソース定義のいずれかのフェーズ中にエラーが発生しました。
RESP2 値が、一時データ・キュー CSMT に書き込まれたメッセージに関連付けられています。これは、エラーの性質をより正確に特定するものです。

LENGERR
RESP2 値は以下のとおりです。

1 ATTRLEN で指定した長さが負です。

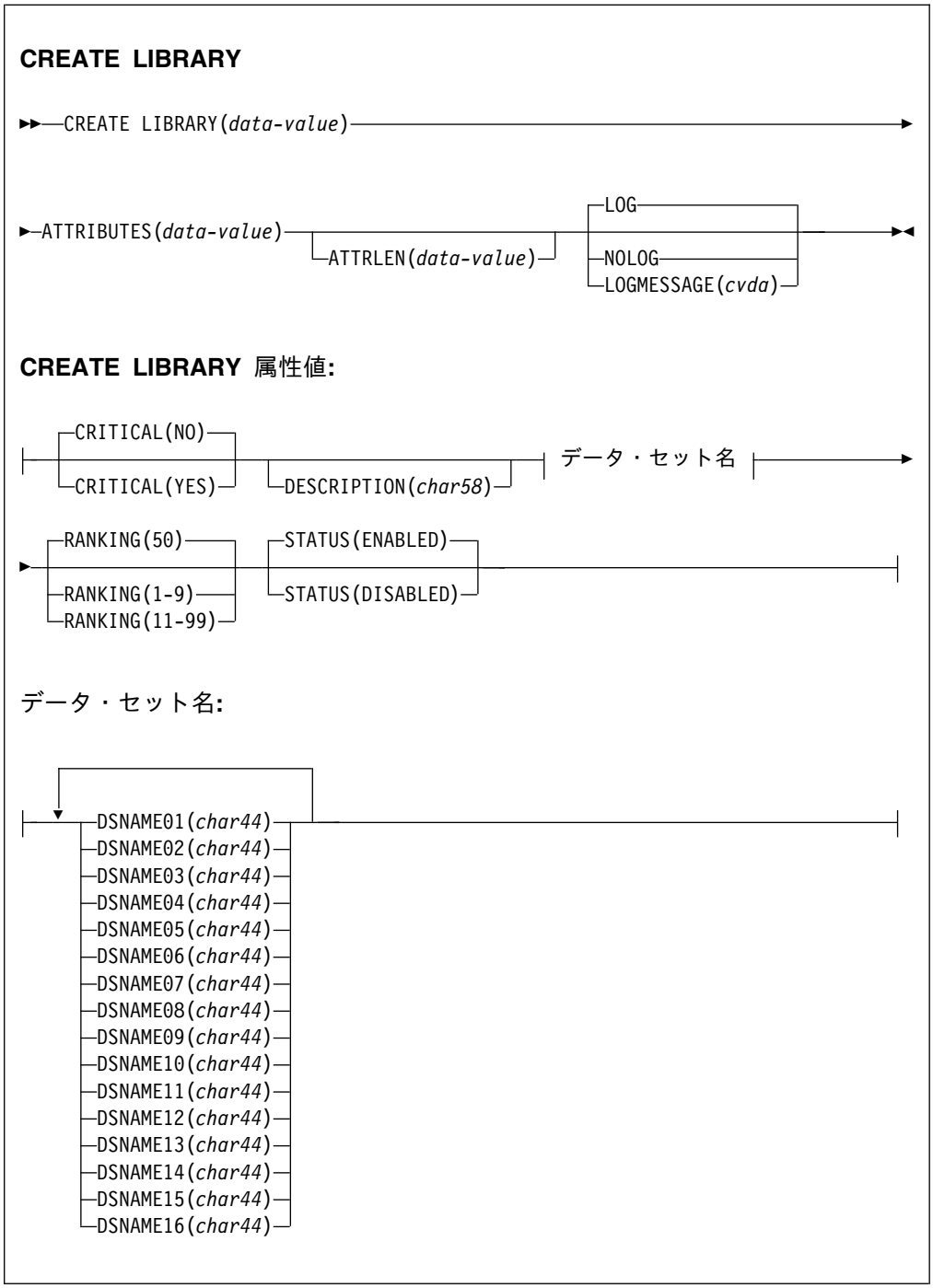
NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

101 発行中のタスクに関連付けられているユーザーには、このコマンドが要求する方法でこの特定のリソースにアクセスする権限がありません。

CREATE LIBRARY

ローカル CICS 領域で LIBRARY リソースを作成します。



条件: ILLOGIC、INVREQ、LENGERR、NOTAUTH

説明

CREATE LIBRARY コマンドは、コマンドに指定された属性で LIBRARY リソースをインストールします。これは CSD に保管されているリソース定義を使用しません。

CREATE LIBRARY コマンドを使用して LIBRARY リソースを作成する場合、LIBRARY 名は、CICS 領域の他の公用 LIBRARY リソースの名前と同じであってはなりません。ローカル領域に、指定した名前の公用 LIBRARY リソースが既にある場合、古い LIBRARY が使用不可である場合は新規定義で古い定義が置き換えられます。そうでない場合、コマンドは拒否されます。CICS バンドルに定義およびインストールされている LIBRARY リソースは、このコマンドを使用して置き換えることはできません。

LIBRARY リソースを、プラットフォームに導入されているアプリケーションの一部としてパッケージされてインストールされる CICS バンドルで定義する場合、CICS はそのアプリケーション用の専用 LIBRARY リソースを作成するので、リソース名を CICS 領域で固有にする必要はありません。公用リソースと専用リソースについて詳しくは、アプリケーション・バージョンの専用リソースを参照してください。

オプション

ATTRIBUTES(*data-value***)**
追加される LIBRARY リソースの属性を指定します。属性のリストは、**LIBRARY** 属性で示されている構文を使用して、単一の文字ストリングとしてコーディングする必要があります。属性の指定の一般規則については、ATTRIBUTES オプションを参照し、特定の属性の詳細については、LIBRARY 属性を参照してください。

ATTRLEN(*data-value***)**
ATTRIBUTES オプションで提供される文字ストリングのバイト単位の長さを、ハーフワード・バイナリー値として指定します。指定できる長さは、0 から 32767 までです。

LIBRARY(*data-value***)**
CICS 領域に追加する LIBRARY リソースの 8 文字の名前を指定します。

LOGMESSAGE(*cvda***)**
作成されるリソースで使用される属性を CICS がログに記録するかどうかを指定します。 CVDA 値は以下のとおりです。

LOG
リソース属性は CSDL 一時データ・キューに記録されます。

NOLOG
リソース属性はログに記録されません。

注**:** LIBRARY リソースの監査ログ・メッセージは、LOGMESSAGE の値に関係なく CSLB に書き込まれます。

条件

ILLOGIC
RESP2 値は以下のとおりです。

2 LIBRARY 検索順序に影響を与える以前の変更がまだ完了していないため、このコマンドは実行できません。

INVREQ

RESP2 値は以下のとおりです。

n ATTRIBUTES ストリングに構文エラーがあるか、処理の破棄あるいはリソース定義のいずれかのフェーズ中にエラーが発生しました。 EXEC CICS CREATE コマンドによって発行される RESP2 値のほとんどは、一時データ・キュー CSMT に書き込まれるメッセージに関連付けられています。 RESP2 値および対応するメッセージ番号は、CICS インフォメーション・センターのトピックCREATE コマンドと CSD コマンドの RESP2 値のテーブルに示されています。

構文エラーの原因としては、以下の可能性があります。

- 無効な LIBRARY 名。
- ランキング値が 1 から 99 の範囲外。
- ランキング値が予約値 10。
- DSNAMExx 属性が指定されていない (少なくとも 1 つのデータ・セット名を提供する必要がある)。
- 提供された LIBRARY 名が予約名。

破棄またはリソース定義のフェーズ中のエラーは、以下が原因である可能性があります。

- LIBRARY の内部制御構造を作成するための十分なストレージがない
- データ・セットの割り振りが失敗した
- データ・セットの連結が失敗した
- LIBRARY を開くことができなかった
- 同じ名前の既存の LIBRARY が既に存在しており、使用不可にできない
- CICS カタログへの書き込みが失敗した

7 LOGMESSAGE の CVDA 値が無効です。

200 DPLSUBSET の EXECUTIONSET 値で定義したプログラム内でコマンドが実行された。あるいは、SYNCONRETURN オプションを指定しないで分散プログラム・リンクによってリモート・システムからプログラムが呼び出された。

500 同じ名前の既存の LIBRARY が存在し、使用不可でないため置き換えができないことが原因で、インストールは失敗しました。

LENGERR

RESP2 値は以下のとおりです。

1 ATTRLEN で指定した長さが負です。

NOTAUTH

RESP2 値は以下のとおりです。

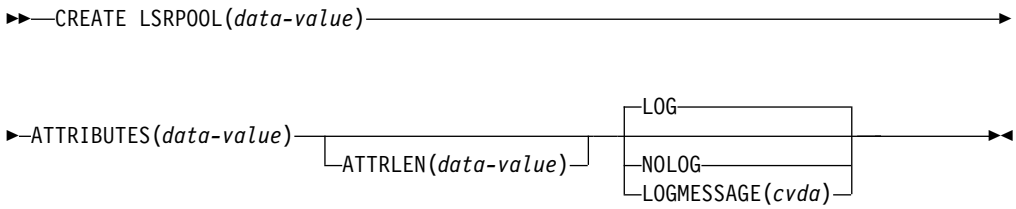
100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

103 CICS 領域には、LIBRARY 連結を構成するいずれかのデータ・セットへの読み取り権限がありません。

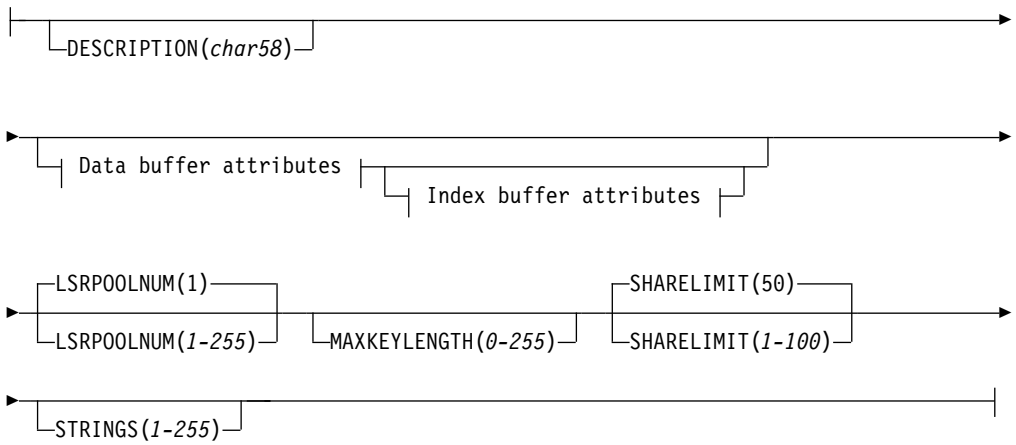
CREATE LSRPOOL

ローカル CICS 領域で LSR プールを定義します。

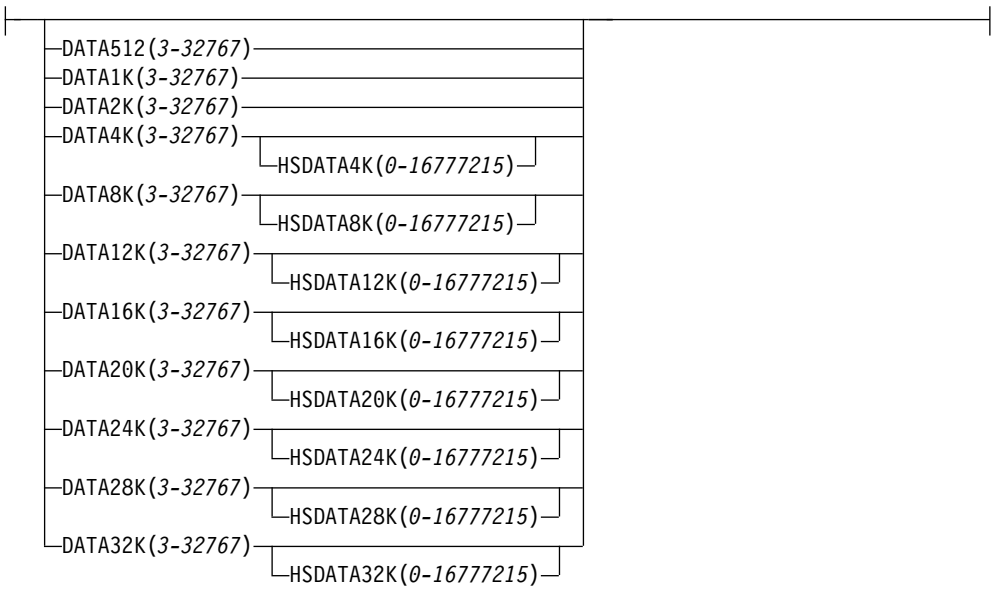
CREATE LSRPOOL



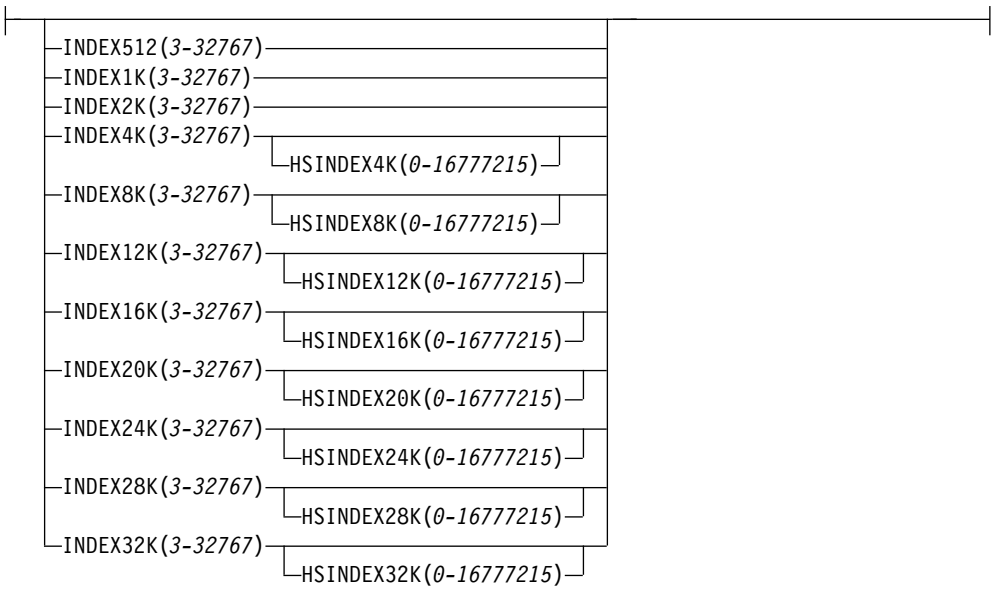
CREATE LSRPOOL 属性値:



Data buffer attributes:



Index buffer attributes:



条件**:** ILLOGIC、INVREQ、LENGERR、NOTAUTH

COBOL プログラマーへの注記**:** 上記の構文では、**ATTRIBUTES**(*data-value*) ではなく **ATTRIBUTES**(*data-area*) を使用する必要があります。

説明

CREATE LSRPOOL コマンドは、コマンドで指定された属性で LSRPOOL 定義をインストールし、CSD に保管されているリソース定義を使用しません。 LSR プールには、CICS 領域内で固有の LSRPOOLNUM 値が必要です。同じ LSRPOOLNUM 値を持つ定義がローカル領域に既に含まれている場合、新規定義で古い定義が置き換えられます。そうでない場合、新規定義が追加されます。大部分のリソース定義

とは異なり、LSRPOOL オプションで指定する名前で置き換えが決定されません。その代わりに、LSRPOOLNUM の値で、実行されるアクションが制御されます。

注: 現在オープンしているプールの定義を置き換える場合、新規定義が有効になるのは、次回のプール作成後です。プールを使用しているすべてのファイルがクローズされた後、いずれかのファイルが再オープンされるまで、プールは再作成されません。

同期点は、例外条件がコマンドの処理の初期に検出された場合を除いて、**CREATE LSRPOOL** 処理では暗黙的です。タスクでリカバリー可能リソースに対してこの同期点まで加えられた変更のうちコミットされていないものは、CREATE が正常に実行された場合はコミットされ、そうでない場合はロールバックされます。 CREATE コマンドを制御する他の一般規則については、Creating resource definitionsを参照してください。

オプション

ATTRIBUTES(*data-value***)**
追加される LSRPOOL の属性を指定します。属性のリストは、**LSRPOOL** 属性に示す構文を使用して、単一文字ストリングとしてコーディングする必要があります。属性の指定の一般規則については、ATTRIBUTES オプションを参照し、特定の属性の詳細については、LSRPOOL 属性を参照してください。

注: ATTRLEN 値を 0 に指定すると、LSRPOOL 定義のすべての属性にデフォルト値を割り当てることができます。ただし、ATTRIBUTES オプションは、たとえ値を使用しなくてもやはり指定する必要があります。

ATTRLEN(*data-value***)**
ATTRIBUTES オプションで提供される文字ストリングのバイト単位の長さを、ハーフワード・バイナリー値として指定します。指定できる長さは、0 から 32767 までです。

LOGMESSAGE(*cvda***)**
作成されるリソースで使用される属性を CICS がログに記録するかどうかを指定します。 CVDA 値は以下のとおりです。

LOG
リソース属性は CSDL 一時データ・キューに記録されます。

NOLOG
リソース属性はログに記録されません。

LSRPOOL(*data-value***)**
CICS 領域に追加する LSRPOOL 定義の 8 文字の名前を指定します。

条件

ILLOGIC
RESP2 値は以下のとおりです。

2 以前の CONNECTION または TERMINAL プール定義がまだ完了していないため、このコマンドは実行できません。

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

n ATTRIBUTES ストリングに構文エラーがあるか、処理の破棄あるいは

リソース定義のいずれかのフェーズ中にエラーが発生しました。
RESP2 値については、CREATE コマンドと CSD コマンドの RESP2 値を参照してください。

7 LOGMESSAGE の cvda 値が無効です。

200 このコマンドは、DPLSUBSET の EXECUTIONSET 値で定義したプログラム、または分散プログラム・リンクによって SYNCONRETURN オプションを指定しないでリモート・システムから呼び出されたプログラムで実行されました。

LENGERR

RESP2 値は以下のとおりです。

1 ATTRLEN で指定した長さが負です。

NOTAUTH

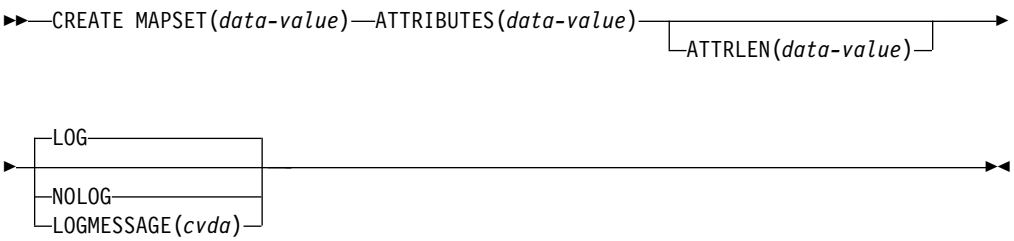
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

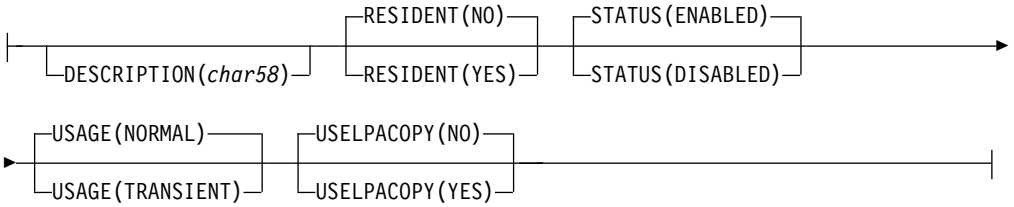
CREATE MAPSET

ローカル CICS 領域でマップ・セットを定義します。

CREATE MAPSET



CREATE MAPSET 属性値:



条件**:** ILLOGIC、INVREQ、LENGERR、NOTAUTH

COBOL プログラマーへの注記**:** 上記の構文では、**ATTRIBUTES**(*data-value*) ではなく **ATTRIBUTES**(*data-area*) を使用する必要があります。

説明

CREATE MAPSET コマンドは、コマンドに指定された属性で MAPSET 定義をインストールします。これは CSD に保管されているリソース定義を使用しません。マップ・セット名は、CICS 領域内のマップ・セット名、プログラム名、区画セット名間で固有でなければなりません。指定した名前のこれらのリソースの 1 つがローカル領域に既にある場合、新規定義で古い定義が置き換えられます。そうでない場合、新規定義が追加されます。

同期点は、例外条件がコマンドの処理の初期に検出された場合を除いて、**CREATE MAPSET** 処理では暗黙的です。タスクでリカバリー可能リソースに対してこの同期点まで加えられた変更のうちコミットされていないものは、CREATE が正常に実行された場合はコミットされ、そうでない場合はロールバックされます。 CREATE コマンドを制御する他の一般規則については、Creating resource definitionsを参照してください。

オプション

ATTRIBUTES(*data-value***)**
追加される MAPSET の属性を指定します。属性のリストは、**MAPSET** 属性で示されている構文を使用して、単一の文字ストリングとしてコーディングする必要があります。属性の指定の一般規則については、ATTRIBUTES オプションを参照し、特定の属性の詳細については、MAPSET 属性を参照してください。

注**:** ATTRLEN 値を 0 に指定すると、MAPSET 定義のすべての属性にデフォルト値を割り当てることができます。ただし、ATTRIBUTES オプションは、たとえ値を使用しなくてもやはり指定する必要があります。

ATTRLEN(*data-value***)**
ATTRIBUTES オプションで提供される文字ストリングのバイト単位の長さを、ハーフワード・バイナリー値として指定します。指定できる長さは、0 から 32 767 までです。

LOGMESSAGE(*cvda***)**
作成されるリソースで使用される属性を CICS がログに記録するかどうかを指定します。 CVDA 値は以下のとおりです。

LOG
リソース属性は CSDL 一時データ・キューに記録されます。

NOLOG
リソース属性はログに記録されません。

MAPSET(*data-value***)**
CICS 領域に追加する MAPSET 定義の 8 文字の名前を指定します。

条件

ILLOGIC
RESP2 値は以下のとおりです。

2 以前の CONNECTION または TERMINAL プール定義がまだ完了していないため、このコマンドは実行できません。

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

n ATTRIBUTES ストリングに構文エラーがあるか、処理の破棄あるいはリソース定義のいずれかのフェーズ中にエラーが発生しました。RESP2 値については、CREATE コマンドと CSD コマンドの RESP2 値を参照してください。

7 LOGMESSAGE の cvda 値が無効です。

200 このコマンドは、DPLSUBSET の EXECUTIONSET 値で定義したプログラム、または分散プログラム・リンクによって SYNCONRETURN オプションを指定しないでリモート・システムから呼び出されたプログラムで実行されました。

LENGERR

RESP2 値は以下のとおりです。

1 ATTRLEN で指定した長さが負です。

NOTAUTH

RESP2 値は以下のとおりです。

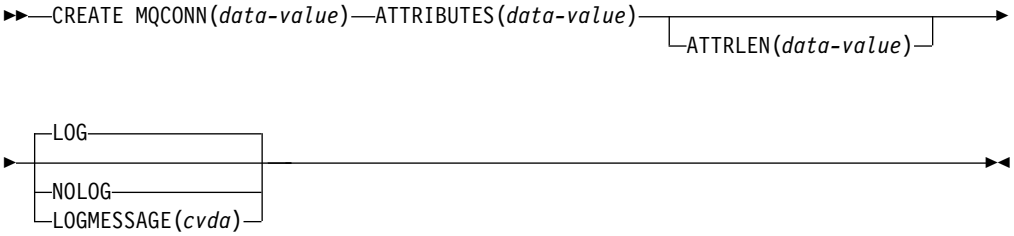
100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

101 発行中のタスクに関連付けられているユーザーは、この名前の MAPSET 定義の作成を許可されていません。

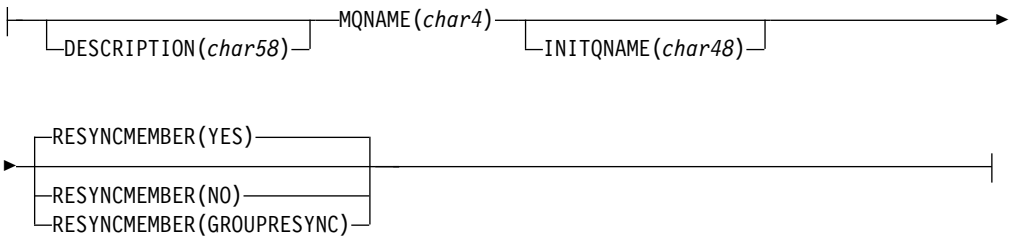
CREATE MQCONN

ローカル CICS 領域で MQCONN リソースを定義します。

CREATE MQCONN



CREATE MQCONN 属性値:



条件: INVREQ、LENGERR、NOTAUTH

COBOL プログラマーへの注記: 上記の構文では、**ATTRIBUTES**(*data-value*) ではなく **ATTRIBUTES**(*data-area*) を使用する必要があります。

説明

CREATE MQCONN コマンドは、コマンドに指定された属性で MQCONN リソース定義をインストールします。これは CSD に保管されているリソース定義を使用しません。 MQCONN リソース定義がローカル CICS 領域に既にある場合、新規定義で古い定義が置き換えられます。そうでない場合、新規定義が追加されます。

MQCONN リソース定義は、CICS が WebSphere MQ に接続されていない場合にのみインストールできます。

同期点は、例外条件がコマンドの処理の初期に検出された場合を除いて、CREATE MQCONN 処理では暗黙的です。タスクでリカバリー可能リソースに対してこの同期点まで加えられた変更のうちコミットされていないものは、CREATE コマンドが正常に実行された場合はコミットされ、そうでない場合はロールバックされます。

オプション

ATTRIBUTES(*data-value*)
追加される MQCONN リソース定義の属性を指定します。属性リストは、構文図に示す構文を使用して、単一文字ストリングとしてコーディングする必要があります。

特定の属性の詳細については MQCONN 属性を参照してください。ATTRLEN 値を 0 に指定すると、MQCONN 定義のすべての属性にデフォルト値を割り当てることができます。ただし、ATTRIBUTES オプションは、たとえ値を使用しなくてもやはり指定する必要があります。

ATTRLEN(*data-value*)
ATTRIBUTES オプションで提供される文字ストリングのバイト単位の長さを、ハーフワード・バイナリー値として指定します。指定できる長さは、0 から 32767 までです。

LOGMESSAGE(*cvda*)
作成されるリソースで使用される属性を CICS がログに記録するかどうかを指定します。 CVDA 値は以下のとおりです。

LOG
リソース属性は CSDL 一時データ・キューに記録されます。

NOLOG
リソース属性はログに記録されません。

MQCONN(*data-value*)
CICS 領域に追加する MQCONN リソース定義の 8 文字の名前を指定します。

条件

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

n ATTRIBUTES ストリングに構文エラーがあるか、処理の破棄あるいはリソース定義のいずれかのフェーズ中にエラーが発生しました。

7 LOGMESSAGE の CVDA 値が無効です。

200 このコマンドは、DPLSUBSET の EXECUTIONSET 値で定義したプロ

グラム、または分散プログラム・リンクによって SYNCONRETURN オプションを指定しないでリモート・システムから呼び出されたプログラムで実行されました。

LENGERR
RESP2 値は以下のとおりです。

1 ATTRLEN で指定した長さが負です。

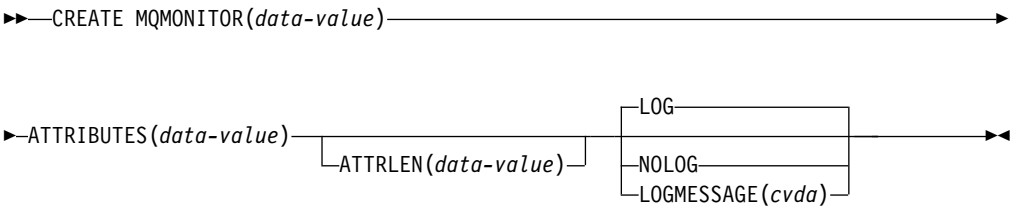
NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

CREATE MQMONITOR

ローカル領域で MQMONITOR リソースを定義します。

CREATE MQMONITOR



CREATE MQMONITOR 属性値

条件: INVREQ、LENGERR、NORMAL、NOTAUTH、NOTFND

このコマンドはスレッド・セーフです。

COBOL プログラマーへの注記**:** 上記の構文では、**ATTRIBUTES**(*data-value*) ではなく **ATTRIBUTES**(*data-area*) を使用する必要があります。

説明

CREATE MQMONITOR コマンドを使用して、トリガー・モニター・トランザクション CKTI などの WebSphere MQ メッセージ・コンシューマーの属性を定義する、MQMONITOR リソース定義をインストールします。

オプション

ATTRIBUTES(*data-value***)**
追加される MQMONITOR の属性を指定します。属性のリストは、示されている構文を使用して、単一の文字ストリングとしてコーディングする必要があります。属性の指定の一般規則については、ATTRIBUTES オプションを参照し、特定の属性の詳細については、MQMONITOR 属性を参照してください。

注: ATTRLEN 値を 0 に指定すると、MQMONITOR リソース定義のすべての属性にデフォルト値を割り当てることができます。ただし、ATTRIBUTES オプションは、たとえ値を使用しなくてもやはり指定する必要があります。

LOGMESSAGE(*cvda*)
作成されるリソースで使用される属性を CICS がログに記録するかどうかを指定します。 CVDA 値は以下のとおりです。

LOG
リソース属性は CSDL 一時データ・キューに記録されます。

NOLOG
リソース属性はログに記録されません。

MQMONITOR(*data-value*)
CICS 領域に追加する MQMONITOR リソース定義の 8 文字の名前を指定します。

条件

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

n ATTRIBUTES ストリングに構文エラーがあるか、処理の破棄あるいはリソース定義のいずれかのフェーズ中にエラーが発生しました。RESP2 値については、CREATE コマンドと CSD コマンドの RESP2 値を参照してください。

7 LOGMESSAGE の cvda 値が無効です。

200 このコマンドは、DPLSUBSET の EXECUTIONSET 値で定義したプログラム、または分散プログラム・リンクによって SYNCONRETURN オプションを指定しないでリモート・システムから呼び出されたプログラムで実行されました。

LENGERR
RESP2 値は以下のとおりです。

1 ATTRLEN で指定した長さが負です。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

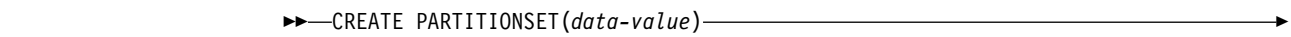
100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

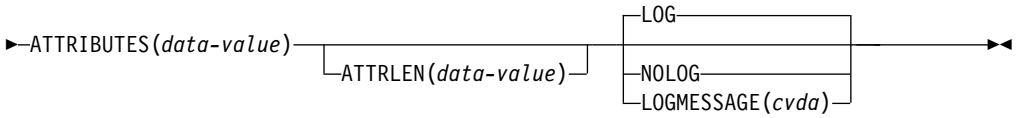
101 発行中のタスクに関連したユーザーは、この名前の MQMONITOR リソース定義の作成を許可されていません。

CREATE PARTITIONSET

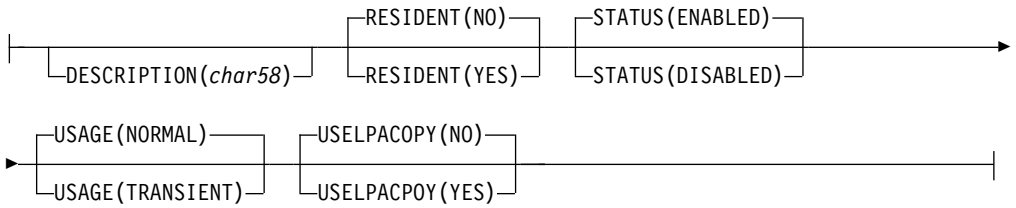
ローカル CICS 領域で区画セットを定義します。

CREATE PARTITIONSET





CREATE PARTITIONSET 属性値:



条件**:** ILLOGIC、INVREQ、LENGERR、NOTAUTH

COBOL プログラマーへの注記**:** 上記の構文では、**ATTRIBUTES**(*data-value*) ではなく **ATTRIBUTES**(*data-area*) を使用する必要があります。

説明

CREATE PARTITIONSET コマンドは、コマンドに指定された属性で PARTITIONSET 定義をインストールします。これは CSD に保管されているリソース定義を使用しません。区画セット名は、CICS 領域内の区画セット名、マップ・セット名、プログラム名間で固有でなければなりません。指定した名前のこれらのリソースの 1 つがローカル領域に既にある場合、新規定義で古い定義が置き換えられます。そうでない場合、新規定義が追加されます。

同期点は、例外条件がコマンドの処理の初期に検出された場合を除いて、**CREATE PARTITIONSET** 処理では暗黙的です。タスクでリカバリー可能リソースに対してこの同期点まで加えられた変更のうちコミットされていないものは、CREATE が正常に実行された場合はコミットされ、そうでない場合はロールバックされます。
CREATE コマンドを制御する他の一般規則については、Creating resource definitionsを参照してください。

オプション

ATTRIBUTES(*data-value***)**
追加される PARTITIONSET の属性を指定します。属性のリストは、**PARTITIONSET** 属性に示す構文を使用して、単一文字ストリングとしてコーディングする必要があります。属性の指定の一般規則については、ATTRIBUTES オプションを参照し、特定の属性の詳細については、PARTITIONSET 属性を参照してください。

注**:** ATTRLEN 値を 0 に指定すると、PARTITIONSET 定義のすべての属性にデフォルト値を割り当てることができます。ただし、ATTRIBUTES オプションは、たとえ値を使用しなくてもやはり指定する必要があります。

ATTRLEN(*data-value*)
ATTRIBUTES オプションで提供される文字ストリングのバイト単位の長さを、ハーフワード・バイナリー値として指定します。指定できる長さは、0 から 32 767 までです。

LOGMESSAGE(*cvda*)
作成されるリソースで使用される属性を CICS がログに記録するかどうかを指定します。 CVDA 値は以下のとおりです。

LOG
リソース属性は CSDL 一時データ・キューに記録されます。

NOLOG
リソース属性はログに記録されません。

PARTITIONSET(*data-value*)
CICS 領域に追加する PARTITIONSET 定義の 8 文字の名前を指定します。

条件

ILLOGIC
RESP2 値は以下のとおりです。

2 以前の CONNECTION または TERMINAL プール定義がまだ完了していないため、このコマンドは実行できません。

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

n ATTRIBUTES ストリングに構文エラーがあるか、処理の破棄あるいはリソース定義のいずれかのフェーズ中にエラーが発生しました。RESP2 値については、CREATE コマンドと CSD コマンドの RESP2 値を参照してください。

7 LOGMESSAGE の cvda 値が無効です。

200 このコマンドは、DPLSUBSET の EXECUTIONSET 値で定義したプログラム、または分散プログラム・リンクによって SYNCONRETURN オプションを指定しないでリモート・システムから呼び出されたプログラムで実行されました。

LENGERR
RESP2 値は以下のとおりです。

1 ATTRLEN で指定した長さが負です。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

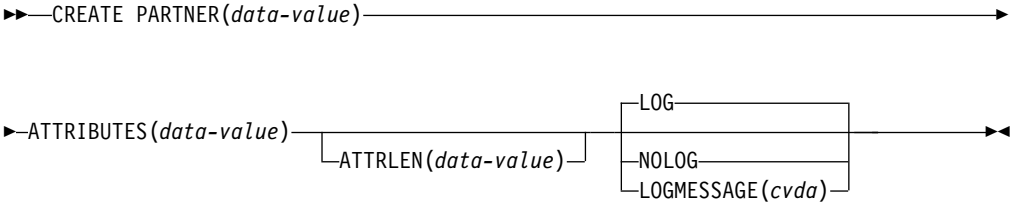
100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

101 発行中のタスクに関連付けられているユーザーは、この名前の PARTITIONSET 定義の作成を許可されていません。

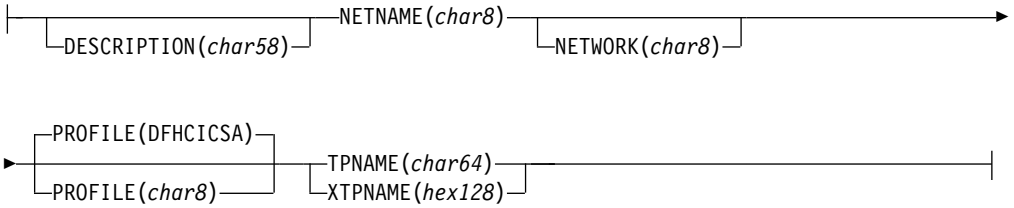
CREATE PARTNER

ローカル CICS 領域に PARTNER を定義します。

CREATE PARTNER



CREATE PARTNER 属性値:



条件**:** ILLOGIC、INVREQ、LENGERR、NOTAUTH

COBOL プログラマーへの注記**:** 上記の構文では、**ATTRIBUTES**(*data-value*) ではなく **ATTRIBUTES**(*data-area*) を使用する必要があります。

説明

CREATE PARTNER コマンドは、コマンドに指定された属性で PARTNER 定義をインストールします。これは CSD に保管されているリソース定義を使用しません。指定した名前のパートナーがローカル CICS 領域に既にある場合、新規定義で古い定義が置き換えられます。そうでない場合、新規定義が追加されます。

同期点は、例外条件がコマンドの処理の初期に検出された場合を除いて、**CREATE PARTNER** 処理では暗黙的です。タスクでリカバリー可能リソースに対してこの同期点まで加えられた変更のうちコミットされていないものは、CREATE が正常に実行された場合はコミットされ、そうでない場合はロールバックされます。 CREATE コマンドを制御する他の一般規則については、Creating resource definitionsを参照してください。

オプション

ATTRIBUTES(*data-value***)**
追加される PARTNER の属性を指定します。属性のリストは、**PARTNER** 属性で示されている構文を使用して、単一の文字ストリングとしてコーディングする必要があります。属性の指定の一般規則については、ATTRIBUTES オプションを参照し、特定の属性の詳細については、PARTNER 属性を参照してください。

ATTRLEN(*data-value***)**
ATTRIBUTES オプションで提供される文字ストリングのバイト単位の長さを、ハーフワード・バイナリー値として指定します。長さは 32767 バイトを超えることはできません。

LOGMESSAGE(*cvda*)
作成されるリソースで使用される属性を CICS がログに記録するかどうかを指定します。 CVDA 値は以下のとおりです。

LOG
リソース属性は CSDL 一時データ・キューに記録されます。

NOLOG
リソース属性はログに記録されません。

PARTNER(*data-value*)
CICS 領域に追加する PARTNER 定義の 8 文字の名前を指定します。

条件

ILLOGIC
RESP2 値は以下のとおりです。

2 以前の CONNECTION または TERMINAL プール定義がまだ完了していないため、このコマンドは実行できません。

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

n ATTRIBUTES ストリングに構文エラーがあるか、処理の破棄あるいはリソース定義のいずれかのフェーズ中にエラーが発生しました。RESP2 値については、CREATE コマンドと CSD コマンドの RESP2 値を参照してください。

7 LOGMESSAGE の cvda 値が無効です。

200 このコマンドは、DPLSUBSET の EXECUTIONSET 値で定義したプログラム、または分散プログラム・リンクによって SYNCONRETURN オプションを指定しないでリモート・システムから呼び出されたプログラムで実行されました。

LENGERR
RESP2 値は以下のとおりです。

1 ATTRLEN で指定した長さが負です。

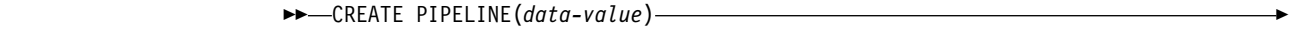
NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

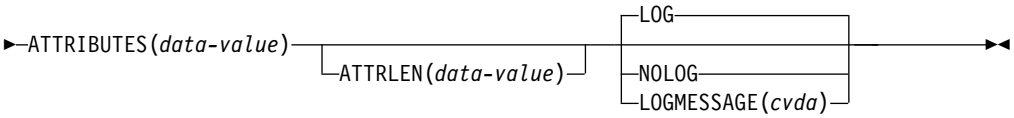
100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

CREATE PIPELINE

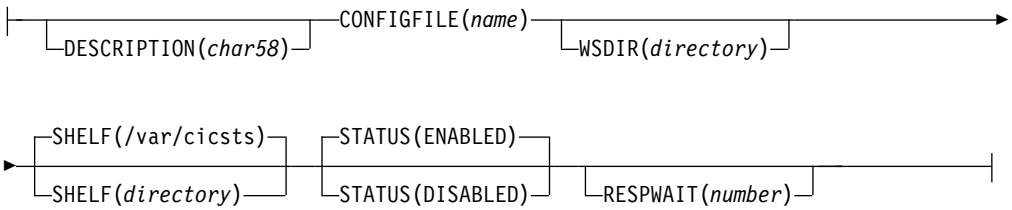
ローカル CICS 領域に PIPELINE を定義します。

CREATE PIPELINE





CREATE PIPELINE 属性値:



条件**:** INVREQ、LENGERR、NOTAUTH

COBOL プログラマーへの注記**:** 上記の構文では、**ATTRIBUTES**(*data-value*) ではなく **ATTRIBUTES**(*data-area*) を使用する必要があります。

説明

CREATE PIPELINE コマンドは、コマンドに指定された属性で PIPELINE 定義をインストールします。これは CSD に保管されているリソース定義を使用しません。指定した名前の PIPELINE がローカル CICS 領域に既にあり、既存の PIPELINE が無効になっている場合は、新規定義で古い定義が置き換えられます。既存の PIPELINE が無効になっていない場合、CREATE コマンドは失敗します。

同期点は、例外条件がコマンドの処理の初期に検出された場合を除いて、**CREATE PIPELINE** 処理では暗黙的です。タスクでリカバリー可能リソースに対してこの同期点まで加えられた変更のうちコミットされていないものは、CREATE が正常に実行された場合はコミットされ、そうでない場合はロールバックされます。 CREATE コマンドを制御する他の一般規則については、Creating resource definitionsを参照してください。

オプション

ATTRIBUTES(*data-value***)**
追加される PIPELINE の属性を指定します。属性のリストは、**PIPELINE** 属性に示す構文を使用して、単一文字ストリングとしてコーディングする必要があります。属性の指定の一般規則については、ATTRIBUTES オプションを参照し、特定の属性の詳細については、PIPELINE 属性を参照してください。

ATTRLEN(*data-value***)**
ATTRIBUTES オプションで提供される文字ストリングのバイト単位の長さを、ハーフワード・バイナリー値として指定します。長さは 32767 バイトを超えることはできません。

LOGMESSAGE(*cvda*)
作成されるリソースで使用される属性を CICS がログに記録するかどうかを指定します。 CVDA 値は以下のとおりです。

LOG
リソース属性は CSDL 一時データ・キューに記録されます。

NOLOG
リソース属性はログに記録されません。

PIPELINE(*data-value*)
CICS 領域に追加する PIPELINE 定義の 8 文字の名前を指定します。

条件

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

n ATTRIBUTES ストリングに構文エラーがあるか、処理の破棄あるいはリソース定義のいずれかのフェーズ中にエラーが発生しました。RESP2 値が、一時データ・キュー CSMT に書き込まれたメッセージに関連付けられています。これは、エラーの性質をより正確に特定するものです。RESP2 値については、CREATE コマンドと CSD コマンドの RESP2 値を参照してください。

200 このコマンドは、DPLSUBSET の EXECUTIONSET 値で定義したプログラム、または分散プログラム・リンクによって SYNCONRETURN オプションを指定しないでリモート・システムから呼び出されたプログラムで実行されました。

612 この PIPELINE は既に存在するため、インストールが失敗しました。

LENGERR
RESP2 値は以下のとおりです。

1 ATTRLEN で指定した長さが負です。

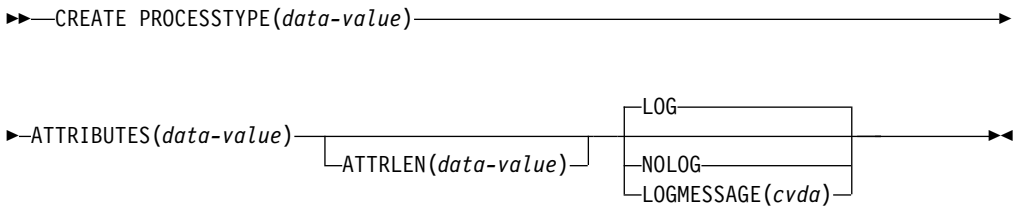
NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

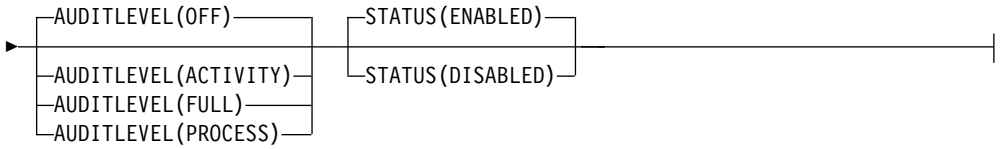
CREATE PROCESSTYPE

ローカル CICS 領域に PROCESSTYPE を定義します。

CREATE PROCESSTYPE



CREATE PROCESSTYPE 属性値:



条件**:** ILLOGIC、INVREQ、LENGERR、NOTAUTH

COBOL プログラマーへの注記**:** 上記の構文では、**ATTRIBUTES**(*data-value*) ではなく **ATTRIBUTES**(*data-area*) を使用する必要があります。

説明

CREATE PROCESSTYPE コマンドは、コマンドに指定された属性で PROCESSTYPE 定義をインストールします。これは CSD に保管されているリソース定義を使用しません。指定した名前のプロセス・タイプがローカル CICS 領域に既にある場合、新規定義で古い定義が置き換えられます。そうでない場合、新規定義が追加されます。

同期点は、例外条件がコマンドの処理の初期に検出された場合を除いて、CREATE PROCESSTYPE 処理では暗黙的です。タスクでリカバリー可能リソースに対してこの同期点まで加えられた変更のうちコミットされていないものは、CREATE が正常に実行された場合はコミットされ、そうでない場合はロールバックされます。CREATE コマンドを制御する他の一般規則については、Creating resource definitionsを参照してください。

オプション

ATTRIBUTES(*data-value***)**
追加される PROCESSTYPE の属性を指定します。属性のリストは、**PROCESSTYPE** 属性で示されている構文を使用して、単一の文字ストリングとしてコーディングする必要があります。属性の指定の一般規則については、ATTRIBUTES オプションを参照し、特定の属性の詳細については、PROCESSTYPE 属性を参照してください。

ATTRLEN(*data-value***)**
ATTRIBUTES オプションで提供される文字ストリングのバイト単位の長さを、ハーフワード・バイナリー値として指定します。長さは 32 767 バイトを超えることはできません。

LOGMESSAGE(*cvda***)**
作成されるリソースで使用される属性を CICS がログに記録するかどうかを指定します。 CVDA 値は以下のとおりです。

LOG
リソース属性は CSDL 一時データ・キューに記録されます。

NOLOG
リソース属性はログに記録されません。

PROCESSTYPE(*data-value***)**
CICS 領域に追加する PROCESSTYPE 定義の 1 文字から 8 文字の名前を指定します。許容文字は、A-Z a-z 0-9 $ @ # . / -_ % & ? ! : | " = ¬ , ; < >

です。ブランク文字を先頭にしたり、埋め込んだりすることはできません。指定された名前が 8 文字よりも短い場合は、8 文字になるまで末尾にブランクが埋め込まれます。

条件

ILLOGIC

RESP2 値は以下のとおりです。

2 以前の CONNECTION または TERMINAL プール定義がまだ完了していないため、このコマンドは実行できません。

INVREQ

RESP2 値は以下のとおりです。

n ATTRIBUTES ストリングに構文エラーがあるか、処理の破棄あるいはリソース定義のいずれかのフェーズ中にエラーが発生しました。RESP2 値については、CREATE コマンドと CSD コマンドの RESP2 値を参照してください。

7 LOGMESSAGE の cvda 値が無効です。

200 このコマンドは、DPLSUBSET の EXECUTIONSET 値で定義したプログラム、または分散プログラム・リンクによって SYNCONRETURN オプションを指定しないでリモート・システムから呼び出されたプログラムで実行されました。

LENGERR

RESP2 値は以下のとおりです。

1 ATTRLEN で指定した長さが負です。

NOTAUTH

RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

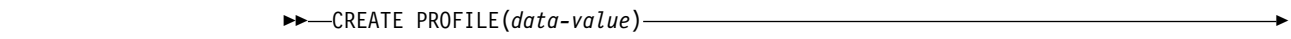
101 発行中のタスクに関連付けられているユーザーは、この名前の PROCESSTYPE 定義の作成を許可されていません。

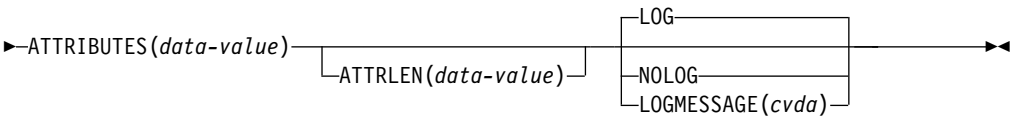
102 呼び出し元には、この特定のユーザー ID でリソースをインストールするための代理権限がありません。

CREATE PROFILE

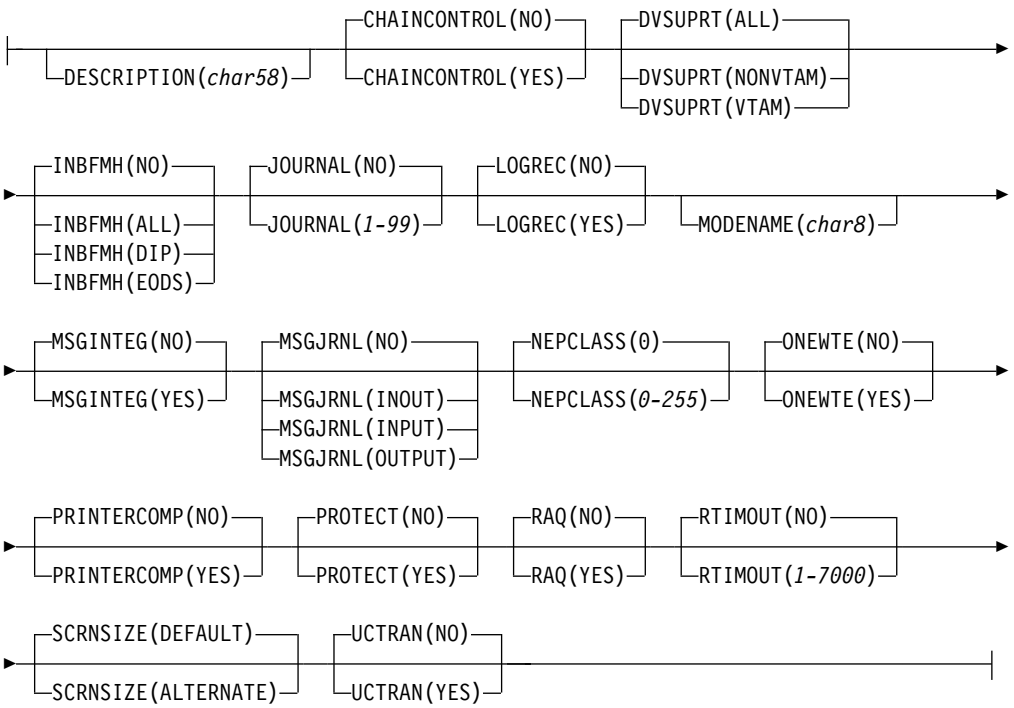
ローカル CICS 領域にトランザクション PROFILE を定義します。

CREATE PROFILE





CREATE PROFILE 属性値:



条件: ILLOGIC、INVREQ、LENGERR、NOTAUTH

COBOL プログラマーへの注記: 上記の構文では、**ATTRIBUTES**(*data-value*) ではなく **ATTRIBUTES**(*data-area*) を使用する必要があります。

注: VTAM は現在 z/OS Communications Server になっています。

説明

CREATE PROFILE コマンドは、コマンドに指定された属性で PROFILE 定義をインストールします。これは CSD に保管されているリソース定義を使用しません。指定した名前のプロファイルがローカル CICS 領域に既にある場合、新規定義で古い定義が置き換えられます。そうでない場合、新規定義が追加されます。

同期点は、例外条件がコマンドの処理の初期に検出された場合を除いて、CREATE PROFILE 処理では暗黙的です。タスクでリカバリー可能リソースに対してこの同期点まで加えられた変更のうちコミットされていないものは、CREATE が正常に実行された場合はコミットされ、そうでない場合はロールバックされます。 CREATE コマンドを制御する他の一般規則については、Creating resource definitionsを参照してください。

オプション

ATTRIBUTES(*data-value***)**
追加される PROFILE の属性を指定します。属性のリストは、**PROFILE** 属性に示す構文を使用して、単一文字ストリングとしてコーディングする必要があります。属性の指定の一般規則については、ATTRIBUTES オプションを参照し、特定の属性の詳細については、PROFILE 属性を参照してください。

注**:** ATTRLEN 値を 0 に指定すると、PROFILE 定義のすべての属性にデフォルト値を割り当てることができます。ただし、ATTRIBUTES オプションは、たとえ値を使用しなくてもやはり指定する必要があります。

ATTRLEN(*data-value***)**
ATTRIBUTES オプションで提供される文字ストリングのバイト単位の長さを、ハーフワード・バイナリー値として指定します。指定できる長さは、0 から 32 767 までです。

LOGMESSAGE(*cvda***)**
作成されるリソースで使用される属性を CICS がログに記録するかどうかを指定します。 CVDA 値は以下のとおりです。

LOG
リソース属性は CSDL 一時データ・キューに記録されます。

NOLOG
リソース属性はログに記録されません。

PROFILE(*data-value***)**
CICS 領域に追加する PROFILE 定義の 8 文字の名前を指定します。

条件

ILLOGIC
RESP2 値は以下のとおりです。

2 以前の CONNECTION または TERMINAL プール定義がまだ完了していないため、このコマンドは実行できません。

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

n ATTRIBUTES ストリングに構文エラーがあるか、処理の破棄あるいはリソース定義のいずれかのフェーズ中にエラーが発生しました。
RESP2 値については、CREATE コマンドと CSD コマンドの RESP2 値を参照してください。

7 LOGMESSAGE の cvda 値が無効です。

200 このコマンドは、DPLSUBSET の EXECUTIONSET 値で定義したプログラム、または分散プログラム・リンクによって SYNCONRETURN オプションを指定しないでリモート・システムから呼び出されたプログラムで実行されました。

LENGERR
RESP2 値は以下のとおりです。

1 ATTRLEN で指定した長さが負です。

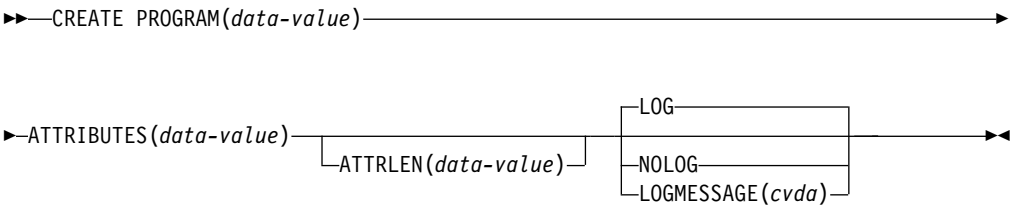
NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

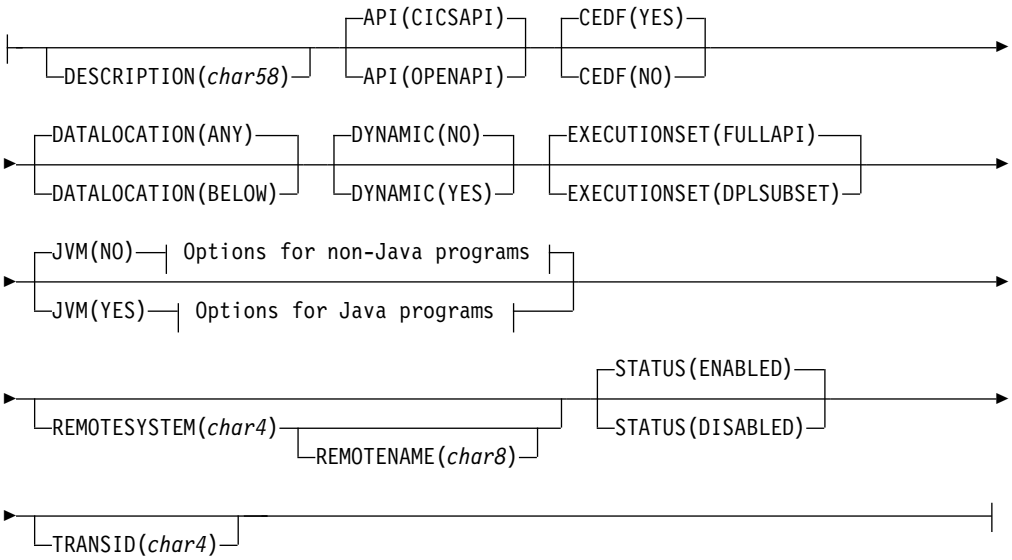
CREATE PROGRAM

ローカル CICS 領域に PROGRAM を定義します。

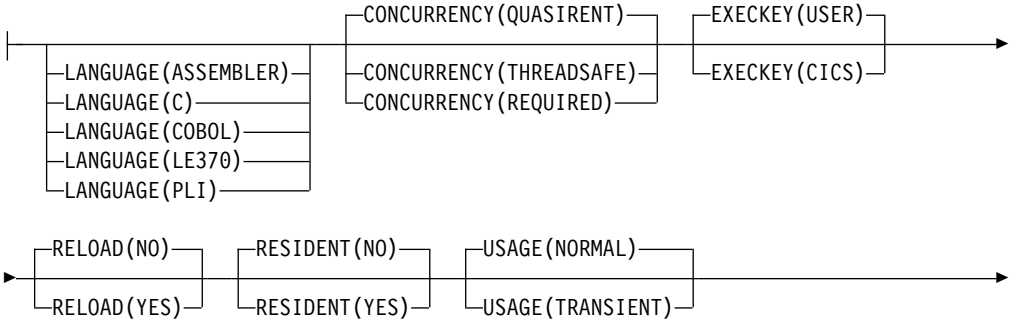
CREATE PROGRAM

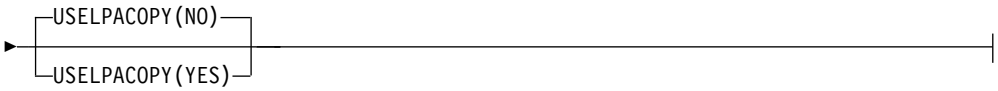


CREATE PROGRAM 属性値:

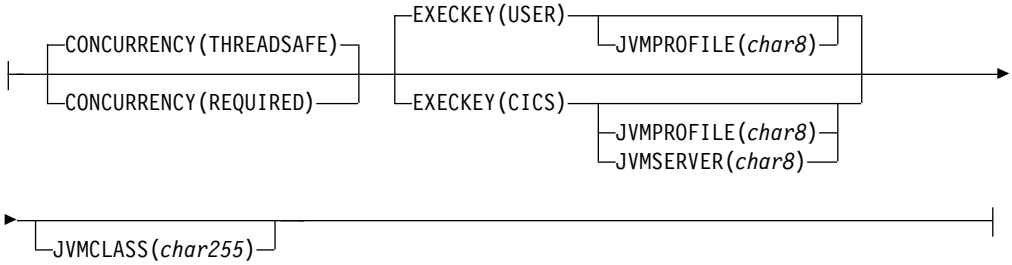


Attributes for non-Java programs:





Options for Java programs:



条件: ILLOGIC、INVREQ、LENGERR、NOTAUTH

COBOL プログラマーへの注記**:** 上記の構文では、**ATTRIBUTES**(*data-value*) ではなく **ATTRIBUTES**(*data-area*) を使用する必要があります。

説明

CREATE PROGRAM コマンドは、コマンドに指定された属性で PROGRAM 定義をインストールします。これは CSD に保管されているリソース定義を使用しません。

CREATE PROGRAM コマンドを使用して PROGRAM リソースを作成する場合、プログラム名は、CICS 領域でリソースとして定義された他の公用プログラム、マップ・セット、または区画セットの名前と同じであってはなりません。指定した名前でこれらのリソース・タイプのいずれかの公用リソースがローカル領域に既にある場合、新規定義で古い定義が置き換えられます。 CICS バンドルに定義およびインストールされている PROGRAM リソースは、このコマンドを使用して置き換えることはできません。

PROGRAM リソースを、プラットフォームに導入されているアプリケーションの一部としてパッケージされてインストールされる CICS バンドルで定義する場合、CICS はそのアプリケーション用の専用 PROGRAM リソースを作成するので、リソース名を CICS 領域で固有にする必要はありません。公用リソースと専用リソースについて詳しくは、アプリケーション・バージョンの専用リソースを参照してください。

同期点は、例外条件がコマンドの処理の初期に検出された場合を除いて、**CREATE PROGRAM** 処理では暗黙的です。タスクでリカバリー可能リソースに対してこの同期点まで加えられた変更のうちコミットされていないものは、CREATE が正常に実行された場合はコミットされ、そうでない場合はロールバックされます。 CREATE コマンドを制御する他の一般規則については、Creating resource definitionsを参照してください。

オプション

ATTRIBUTES(*data-value***)**
追加される PROGRAM の属性を指定します。属性のリストは、**PROGRAM** 属性で示されている構文を使用して、単一の文字ストリングとしてコーディングする必要があります。属性の指定の一般規則については、ATTRIBUTES オプションを参照し、特定の属性の詳細については、PROGRAM 属性を参照してください。

注**:** ATTRLEN 値を 0 に指定すると、PROGRAM 定義のすべての属性にデフォルト値を割り当てることができます。ただし、ATTRIBUTES オプションは、たとえ値を使用しなくてもやはり指定する必要があります。

ATTRLEN(*data-value***)**
ATTRIBUTES オプションで提供される文字ストリングのバイト単位の長さを、ハーフワード・バイナリー値として指定します。指定できる長さは、0 から 32767 までです。

LOGMESSAGE(*cvda***)**
作成されるリソースで使用される属性を CICS がログに記録するかどうかを指定します。 CVDA 値は以下のとおりです。

LOG
リソース属性は CSDL 一時データ・キューに記録されます。

NOLOG
リソース属性はログに記録されません。

PROGRAM(*data-value***)**
CICS 領域に追加する PROGRAM 定義の 8 文字の名前を指定します。

条件

ILLOGIC
RESP2 値は以下のとおりです。

2 以前の CONNECTION または TERMINAL プール定義がまだ完了していないため、このコマンドは実行できません。

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

n ATTRIBUTES ストリングに構文エラーがあるか、処理の破棄あるいはリソース定義のいずれかのフェーズ中にエラーが発生しました。RESP2 値については、CREATE コマンドと CSD コマンドの RESP2 値を参照してください。

7 LOGMESSAGE の cvda 値が無効です。

200 このコマンドは、DPLSUBSET の EXECUTIONSET 値で定義したプログラム、または分散プログラム・リンクによって SYNCONRETURN オプションを指定しないでリモート・システムから呼び出されたプログラムで実行されました。

LENGERR
RESP2 値は以下のとおりです。

1 ATTRLEN で指定した長さが負です。

NOTAUTH

RESP2 値は以下のとおりです。

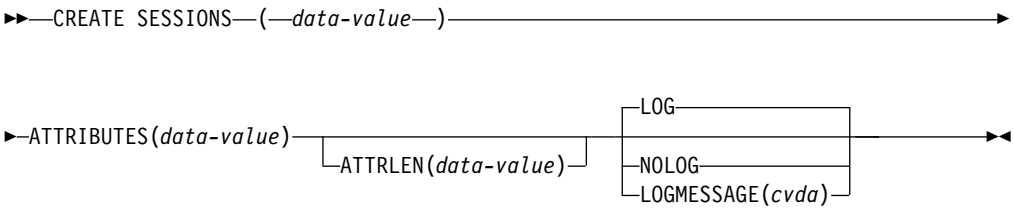
100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

101 発行中のタスクに関連付けられているユーザーは、この名前の PROGRAM 定義の作成を許可されていません。

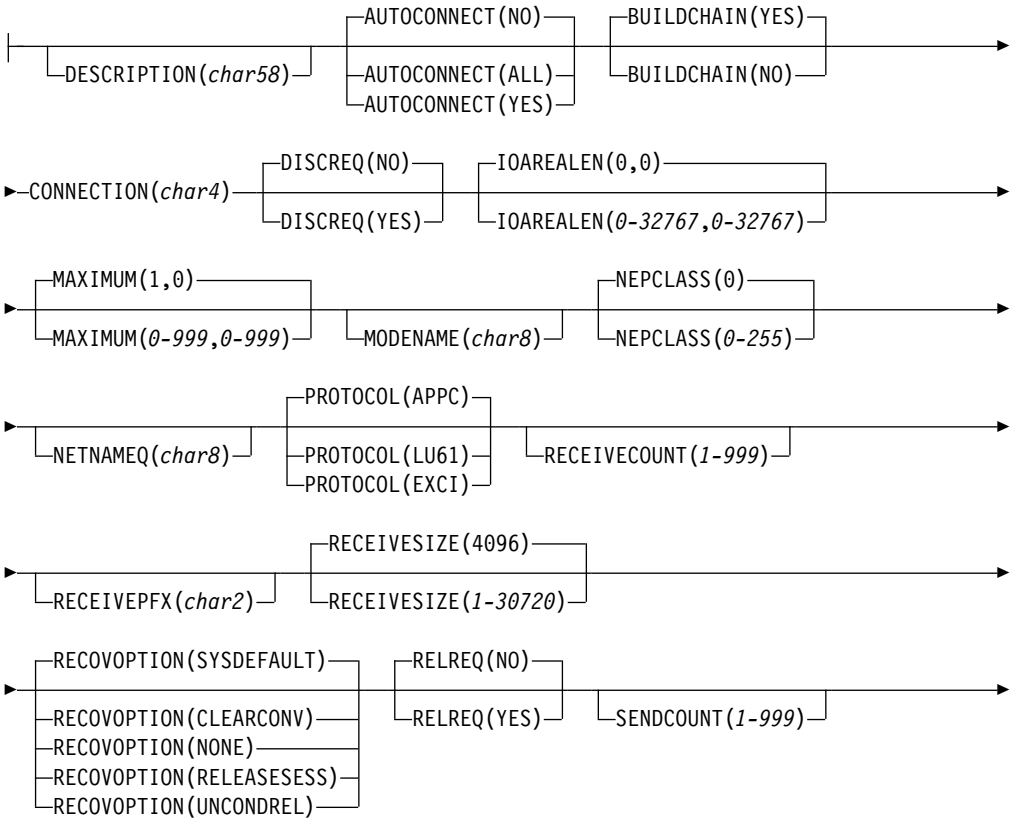
CREATE SESSIONS

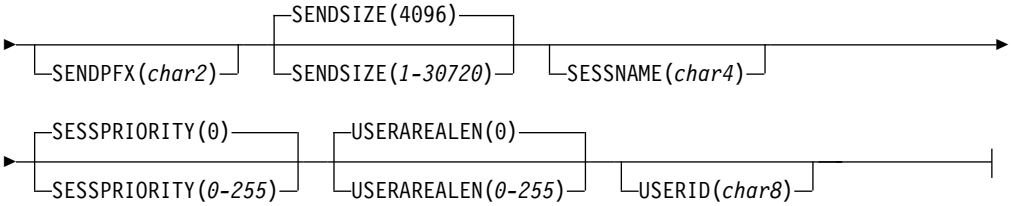
作成中の CONNECTION 定義にセッション・グループを追加します。

CREATE SESSIONS



CREATE SESSIONS 属性値:





条件: ILLOGIC、INVREQ、LENGERR、NOTAUTH

COBOL プログラマーへの注記**:** 上記の構文では、**ATTRIBUTES**(*data-value*) ではなく **ATTRIBUTES**(*data-area*) を使用する必要があります。

説明

CREATE SESSIONS コマンドは、コマンドに指定された属性で SESSIONS 定義をインストールします。これは CSD に保管されているリソース定義を使用しません。接続の属性を定義する最初の CREATE CONNECTION コマンドを発行してから、プロセスを終了する最後の CREATE CONNECTION COMPLETE (または DISCARD) コマンドまでの間にのみ使用できます。

定義するセッションは、常に現行接続に属します。ATTRIBUTES ストリング内の CONNECTION オプションで指定する名前は、先行する CREATE CONNECTION コマンドで指定された接続の名前と一致する必要があります。接続を作成するコマンドの順序に関する規則については、 82 ページの『CREATE CONNECTION』を参照し、CREATE コマンドを制御する一般規則については、Creating resource definitionsを参照してください。

オプション

ATTRIBUTES(*data-value*)
追加される SESSIONS のグループの属性を指定します。属性のリストは、**SESSIONS** 属性に示す構文を使用して、単一文字ストリングとしてコーディングする必要があります。属性の指定の一般規則については、ATTRIBUTES オプションを参照し、特定の属性の詳細については、SESSIONS 属性を参照してください。

ATTRLEN(*data-value*)
ATTRIBUTES オプションで提供される文字ストリングのバイト単位の長さを、ハーフワード・バイナリー値として指定します。長さは 32767 バイトを超えることはできません。

LOGMESSAGE(*cvda*)
作成されるリソースで使用される属性を CICS がログに記録するかどうかを指定します。 CVDA 値は以下のとおりです。

LOG
リソース属性は CSDL 一時データ・キューに記録されます。

NOLOG
リソース属性はログに記録されません。

SESSIONS(*data-value*)
準備中の CONNECTION 定義に追加する SESSIONS 定義の 8 文字の名前を指定します。セッション・グループの名前は、現行の CONNECTION 定義内

でのみ固有である必要があります。接続内でセッション名を繰り返す場合を除いて、グループは常に追加されます。この場合、同じ名前で最後に成功した SESSIONS 定義が使用されます。

条件

ILLOGIC

RESP2 値は以下のとおりです。

2 CREATE CONNECTION ATTRIBUTES コマンドが出されなかったか、このコマンドの ATTRIBUTES 引数で指定された CONNECTION 名が、CREATE CONNECTION コマンドで割り当てられた接続の名前と一致しないため、コマンドを実行できません。

INVREQ

RESP2 値は以下のとおりです。

n ATTRIBUTES ストリングに構文エラーがあるか、処理の破棄あるいはリソース定義のいずれかのフェーズ中にエラーが発生しました。RESP2 値については、CREATE コマンドと CSD コマンドの RESP2 値を参照してください。

7 LOGMESSAGE の cvda 値が無効です。

200 このコマンドは、DPLSUBSET の EXECUTIONSET 値で定義したプログラム、または分散プログラム・リンクによって SYNCONRETURN オプションを指定しないでリモート・システムから呼び出されたプログラムで実行されました。

LENGERR

RESP2 値は以下のとおりです。

1 ATTRLEN で指定した長さが負です。

NOTAUTH

RESP2 値は以下のとおりです。

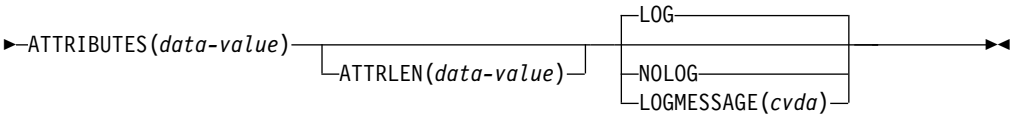
100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

102 CREATE SESSIONS コマンドを発行するトランザクションのユーザーは、USERID で指定されたユーザーの許可された代理ではありません。

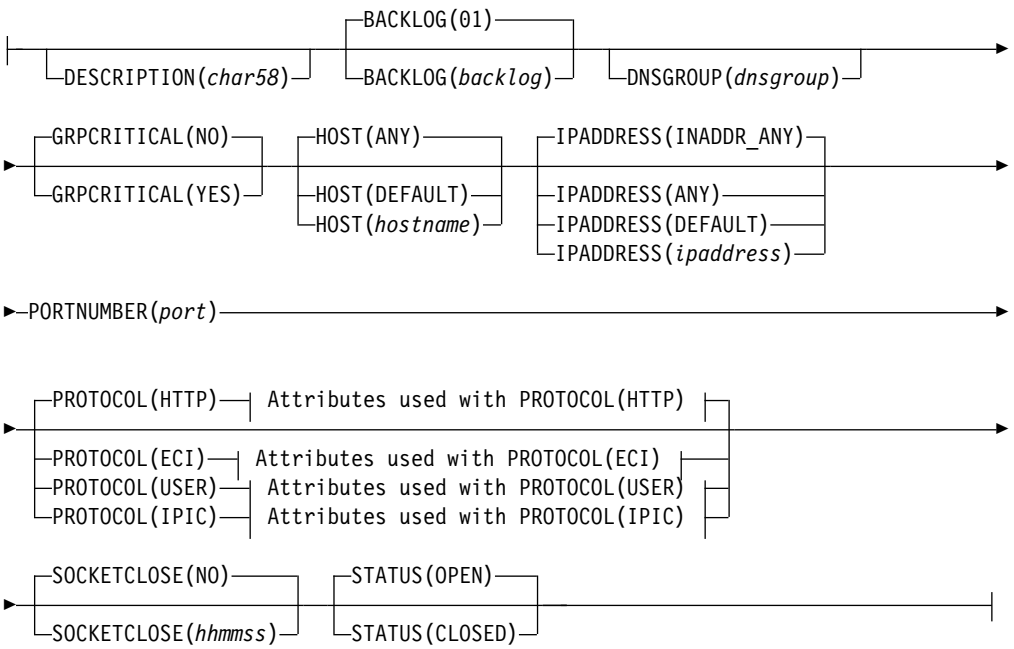
CREATE TCPIPSERVICE

ローカル CICS 領域に TCP/IP サービスを定義します。

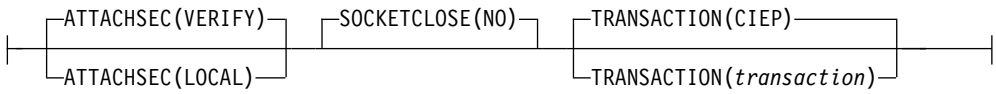
CREATE TCPIPSERVICE



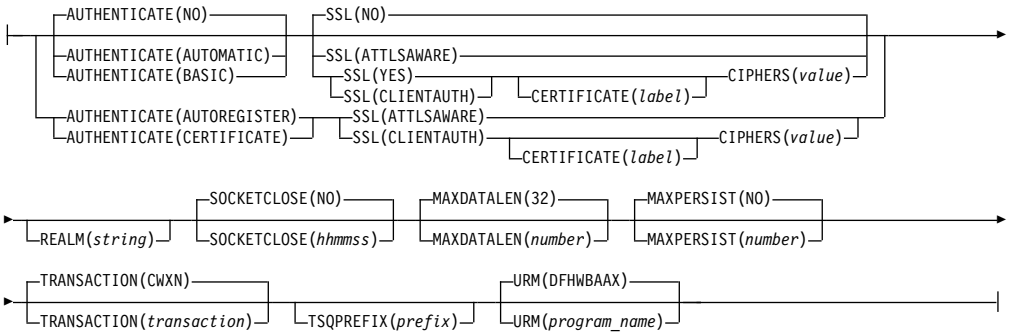
CREATE TCPIPSERVICE 属性値:



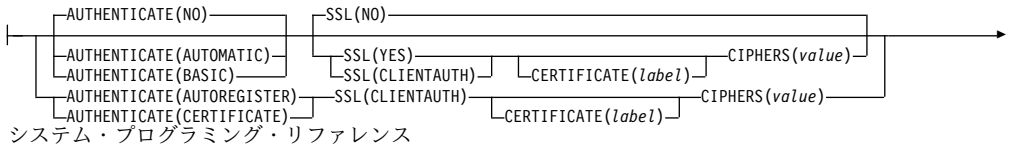
PROTOCOL(ECI) で使用される属性:

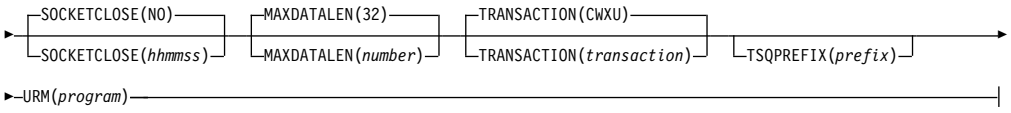


PROTOCOL(HTTP) で使用される属性:

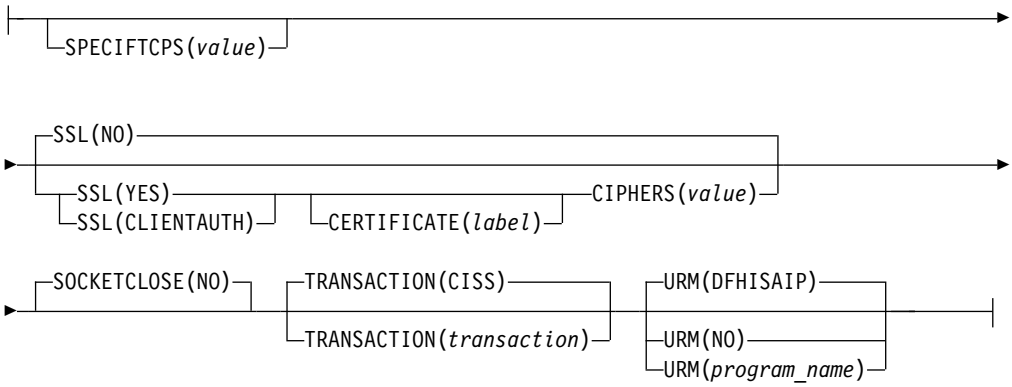


PROTOCOL(USER) で使用される属性:





PROTOCOL(IPIC) で使用される属性**:**



条件**:** ILLOGIC、INVREQ、LENGERR、NOTAUTH

COBOL プログラマーへの注記**:** 上記の構文では、**ATTRIBUTES**(*data-value*) ではなく **ATTRIBUTES**(*data-area*) を使用する必要があります。

説明

CREATE TCPIPSERVICE コマンドは、コマンドに指定された属性で TCPIPSERVICE 定義をインストールします。これは CSD に保管されているリソース定義を使用しません。指定した名前の TCP/IP サービスがローカル CICS 領域に既にある場合、新規定義で古い定義が置き換えられます。そうでない場合、新規定義が追加されます。

同期点は、例外条件がコマンドの処理の初期に検出された場合を除いて、**CREATE TCPIPSERVICE** 処理では暗黙的です。タスクでリカバリー可能リソースに対してこの同期点まで加えられた変更のうちコミットされていないものは、CREATE が正常に実行された場合はコミットされ、そうでない場合はロールバックされます。

CREATE コマンドを制御する他の一般規則については、Creating resource definitionsを参照してください。

オプション

ATTRIBUTES(*data-value***)**
追加される TCPIPSERVICE の属性を指定します。属性のリストは、単一の文字ストリングとしてコーディングする必要があります。属性の指定の一般規則については、ATTRIBUTES オプションを参照し、特定の属性の詳細については、TCPIPSERVICE 属性を参照してください。

ATTRLEN(*data-value***)**
ATTRIBUTES オプションで提供される文字ストリングのバイト単位の長さを、ハーフワード・バイナリー値として指定します。長さは 32,767 バイトを超えることはできません。

LOGMESSAGE(*cvda*)
作成されるリソースで使用される属性を CICS がログに記録するかどうかを指定します。 CVDA 値は以下のとおりです。

LOG
リソース属性は CSDL 一時データ・キューに記録されます。

NOLOG
リソース属性はログに記録されません。

TCPIPSERVICE(*data-value*)
CICS 領域に追加する TCPIPSERVICE 定義の 8 文字の名前を指定します。

条件

ILLOGIC
RESP2 値は以下のとおりです。

2 以前の CONNECTION または TERMINAL プール定義がまだ完了していないため、このコマンドは実行できません。

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

n ATTRIBUTES ストリングに構文エラーがあるか、処理の破棄あるいはリソース定義のいずれかのフェーズ中にエラーが発生しました。 RESP2 値については、 39 ページの『**EXEC CICS CREATE** コマンドと **EXEC CICS CSD** コマンドの RESP2 値』を参照してください。

7 LOGMESSAGE の CVDA 値が無効です。

200 このコマンドは、DPLSUBSET の EXECUTIONSET 値で定義したプログラム、または分散プログラム・リンクによって SYNCONRETURN オプションを指定しないでリモート・システムから呼び出されたプログラムで実行されました。

LENGERR
RESP2 値は以下のとおりです。

1 ATTRLEN で指定した長さが負です。

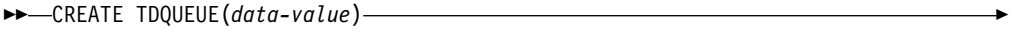
NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

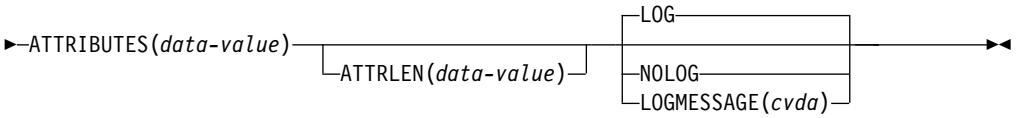
100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

CREATE TDQUEUE

ローカル CICS 領域で一時データ・キューを定義します。

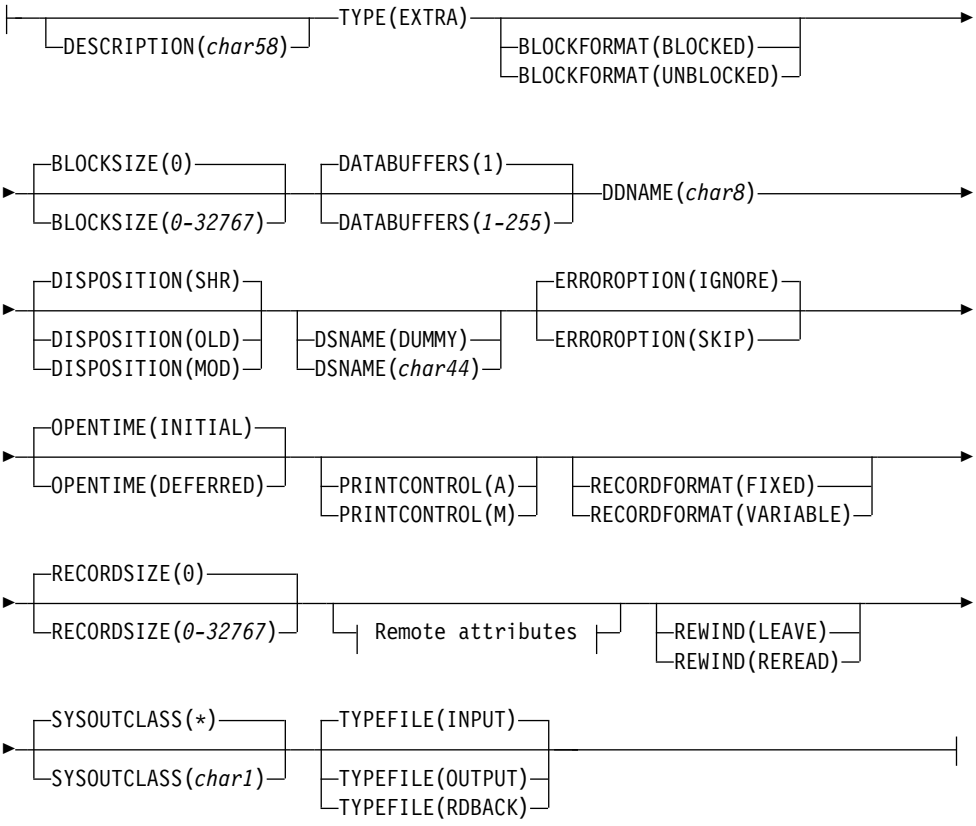
CREATE TDQUEUE



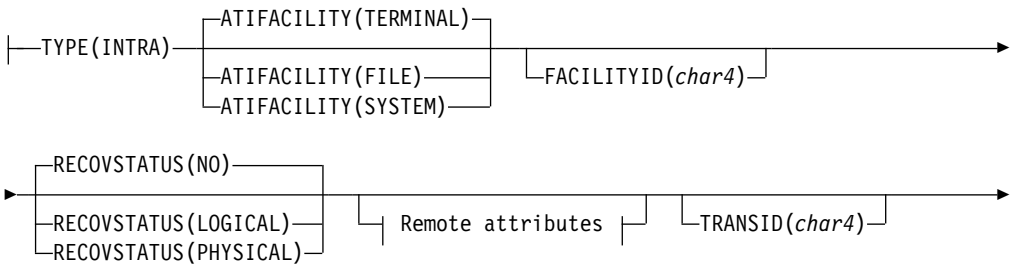


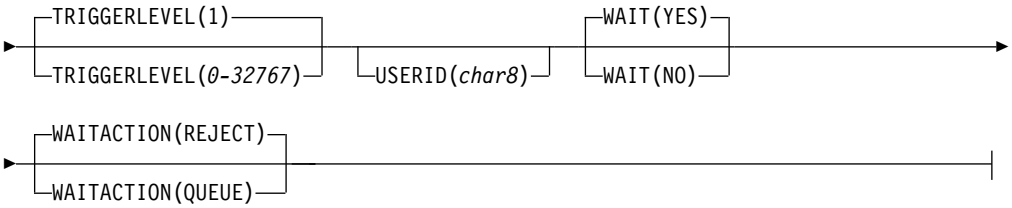
条件: ILLOGIC、INVREQ、LENGERR、NOTAUTH

区画外キューの **CREATE TDQUEUE** 属性値:

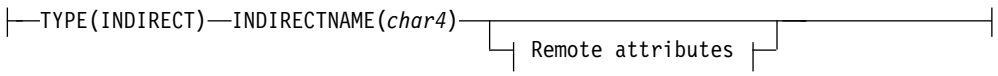


区画内キューの **CREATE TDQUEUE** 属性値:



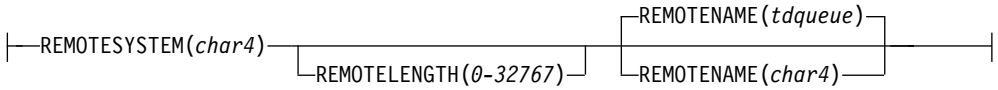


間接キューの **CREATE TDQUEUE** 属性値:



TYPE が指定されないリモート・キューの **CREATE TDQUEUE** 属性値:

リモート属性:



COBOL プログラマーへの注記**:** 上記の構文では、**ATTRIBUTES**(*data-value*) ではなく **ATTRIBUTES**(*data-area*) を使用する必要があります。

説明

CREATE TDQUEUE コマンドは、コマンドに指定された属性で TDQUEUE 定義をインストールします。これは CSD に保管されているリソース定義を使用しません。指定した名前の一時データ・キューがローカル CICS 領域に既にある場合、新規定義で古い定義が置き換えられます。そうでない場合、新規定義が追加されます。

同期点は、例外条件がコマンドの処理の初期に検出された場合を除いて、CREATE TDQUEUE 処理では暗黙的です。タスクでリカバリー可能リソースに対してこの同期点まで加えられた変更のうちコミットされていないものは、CREATE が正常に実行された場合はコミットされ、そうでない場合はロールバックされます。 CREATE コマンドを制御する他の一般規則については、Creating resource definitionsを参照してください。

オプション

ATTRIBUTES(*data-value*)
追加されるキューの属性を指定します。属性のリストは、単一の文字ストリングとしてコーディングする必要があり、キューがリモートである場合を除いて TYPE オプションが含まれなければなりません。残りの属性は、キュー・タイプによって決まります。ご使用の TYPE 値に対応する、図に示されている構文 (区画外、区画内、または間接) を使用します。キューがリモートである場合であっても、TYPE を指定し、適切な構文を使用できますが、「**TYPE** が指定さ

れないリモート・キュー」というラベルが付いた短い形式を使用することもできます。属性の指定の一般規則については、ATTRIBUTES オプションを参照し、特定の属性の詳細については、TDQUEUE 属性を参照してください。

ATTRLEN(*data-value*)
ATTRIBUTES オプションで提供される文字ストリングのバイト単位の長さを、ハーフワード・バイナリー値として指定します。長さは 32767 バイトを超えることはできません。

LOGMESSAGE(*cvda*)
作成されるリソースで使用される属性を CICS がログに記録するかどうかを指定します。 CVDA 値は以下のとおりです。

LOG
リソース属性は CSDL 一時データ・キューに記録されます。

NOLOG
リソース属性はログに記録されません。

TDQUEUE(*data-value*)
CICS 領域に追加する TDQUEUE 定義の 4 文字の名前を指定します。

条件

ILLOGIC
RESP2 値は以下のとおりです。

2 以前の CONNECTION または TERMINAL プール定義がまだ完了していないため、このコマンドは実行できません。

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

n ATTRIBUTES ストリングに構文エラーがあるか、処理の破棄あるいはリソース定義のいずれかのフェーズ中にエラーが発生しました。RESP2 値については、CREATE コマンドと CSD コマンドの RESP2 値を参照してください。

7 LOGMESSAGE の cvda 値が無効です。

200 このコマンドは、DPLSUBSET の EXECUTIONSET 値で定義したプログラム、または分散プログラム・リンクによって SYNCONRETURN オプションを指定しないでリモート・システムから呼び出されたプログラムで実行されました。

LENGERR
RESP2 値は以下のとおりです。

1 ATTRLEN で指定した長さが負です。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

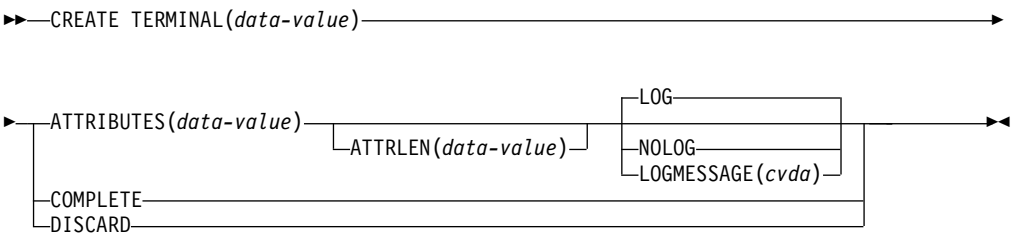
101 発行中のタスクに関連付けられているユーザーは、この名前の TDQUEUE 定義の作成を許可されていません。

102 CREATE TDQUEUE コマンドを発行するトランザクションのユーザーは、USERID で指定されたユーザーの許可された代理ではありません。

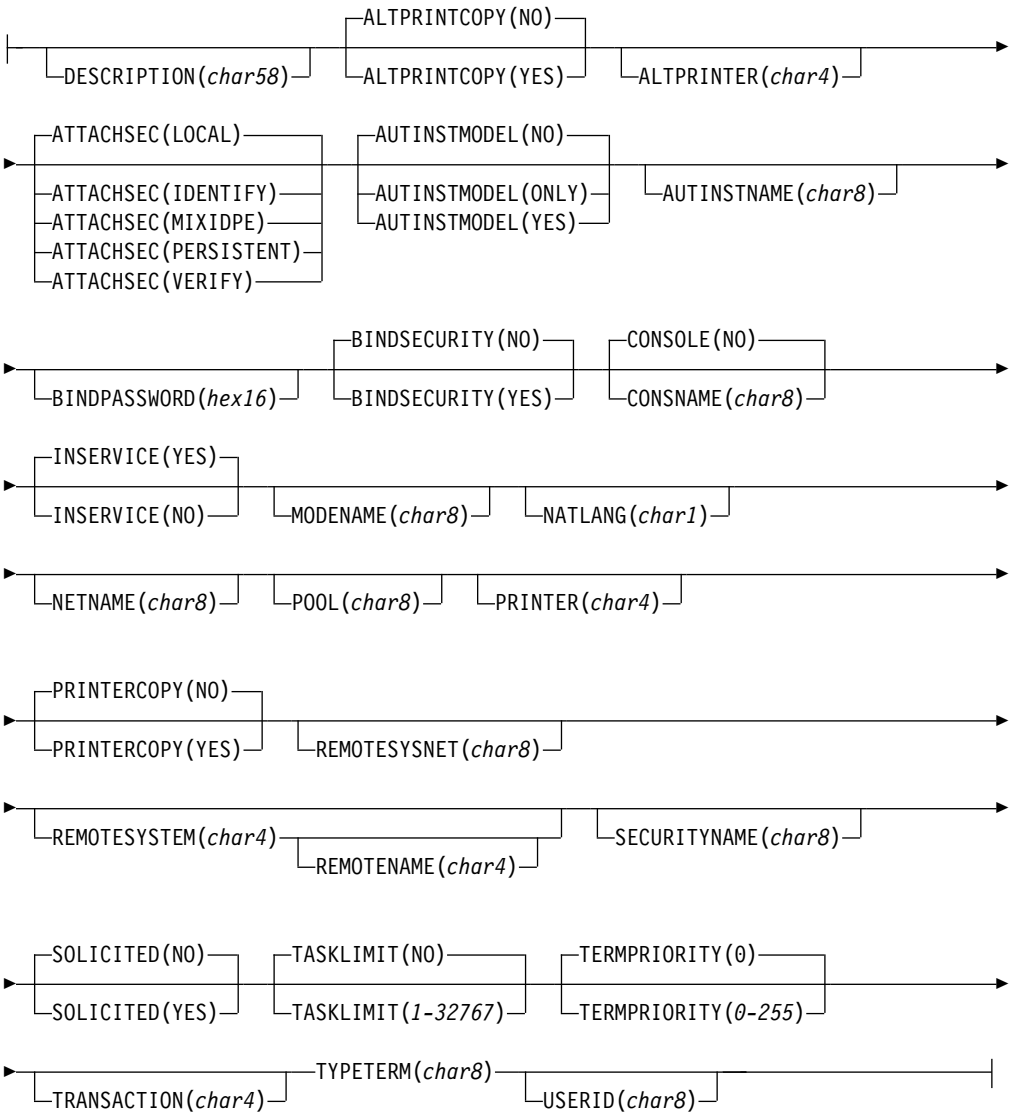
CREATE TERMINAL

ローカル CICS 領域に TERMINAL を定義します。

CREATE TERMINAL



CREATE TERMINAL 属性値:



条件: ILLOGIC、INVREQ、LENGERR、NOTAUTH

COBOL プログラマーへの注記**:** 上記の構文では、**ATTRIBUTES**(*data-value*) ではなく **ATTRIBUTES**(*data-area*) を使用する必要があります。

説明

CREATE TERMINAL コマンドは、コマンドに指定された属性で TERMINAL 定義をインストールします。これは CSD に保管されているリソース定義を使用しません。個々の端末または端末のプールの定義に使用できます。

POOL 属性により、使用するモードが決まります。この属性を指定しないと、各コマンドは単一の独立した端末を定義します。指定した名前の端末がローカル CICS 領域に既にある場合、新規定義で古い定義が置き換えられます。そうでない場合、新規定義が追加されます。

プールを定義するには、ATTRIBUTES ストリングに同じ POOL 値を指定して、プール内の端末ごとに 1 つの CREATE TERMINAL ATTRIBUTES コマンドを発行します。すべての端末が定義された後、CREATE TERMINAL COMPLETE を発行します。CICS は TERMINAL 定義を収集しますが、インストールするのは COMPLETE コマンド後です。この時点で、同じ名前のプールがローカル CICS 領域にあった場合、CICS はその端末をすべて削除し、新規定義をインストールします。そうでない場合は、新規定義を追加します。したがって、プール端末は一度にすべて定義する必要があります。既存のプールに端末を追加したり、同じ名前を持つ端末を既存の非プール端末として組み込んだりすることはできません。

プールの作成中は、以下の作業を行ってはなりません。

- プール名の変更または省略
- 任意のタイプの他のリソース (現行プール外の端末を含む) の定義
- SYNCPOINT (あるいはこれと同様のコマンド) の発行
- タスクの終了 (通常)

ただし、プールの作成中にエラーまたは問題が発生した場合は、CREATE TERMINAL DISCARD コマンドを発行すれば、任意の時点でプロセスを終了できます。この場合、CICS は、すべての端末を含めて、プール定義の一部を破棄します。

同期点は、例外条件が処理の初期に検出された場合を除いて、他の CREATE コマンドのように、CREATE TERMINAL 処理では暗黙的です。リカバリー可能リソースに対して加えられた変更のうちコミットされていないものは、定義が正常に処理された場合はコミットされ、そうでない場合または DISCARD を指定した場合はロールバックされます。非プール端末の場合、各 CREATE コマンドで同期点が発生します。ただし、プールを作成するときは、COMPLETE を指定するか、DISCARD を指定するかにかかわらず、プール定義を終了するコマンドでのみ発生します。CREATE コマンドを制御する他の一般規則については、Creating resource definitionsを参照してください。

オプション

ATTRIBUTES(*data-value*)
追加される TERMINAL の属性を指定します。属性のリストは、**TERMINAL** 属性で示されている構文を使用して、単一の文字ストリングとしてコーディング

する必要があります。属性の指定の一般規則については、ATTRIBUTES オプションを参照し、特定の属性の詳細については、TERMINAL 属性を参照してください。

ATTRLEN(*data-value*)
ATTRIBUTES オプションで提供される文字ストリングのバイト単位の長さを、ハーフワード・バイナリー値として指定します。長さは 32767 バイトを超えることはできません。

COMPLETE
準備中の端末プール定義が完了したことを指定します。プールの最後の端末が定義された後のみ使用できます。

DISCARD
準備中の端末プール定義を完了しないこと、およびプールの開始以降に発行されたすべての TERMINAL 定義を破棄し、追加しない ことを指定します。

LOGMESSAGE(*cvda*)
作成されるリソースで使用される属性を CICS がログに記録するかどうかを指定します。 CVDA 値は以下のとおりです。

LOG
リソース属性は CSDL 一時データ・キューに記録されます。

NOLOG
リソース属性はログに記録されません。

TERMINAL(*data-value*)
追加する TERMINAL 定義の 4 文字の名前を指定します。

条件

ILLOGIC
RESP2 値は以下のとおりです。

2 以前の CONNECTION または TERMINAL プール定義がまだ完了していないため、このコマンドは実行できません。

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

n ATTRIBUTES ストリングに構文エラーがあるか、処理の破棄あるいはリソース定義のいずれかのフェーズ中にエラーが発生しました。
RESP2 値については、CREATE コマンドと CSD コマンドの RESP2 値を参照してください。

7 LOGMESSAGE の cvda 値が無効です。

200 このコマンドは、DPLSUBSET の EXECUTIONSET 値で定義したプログラム、または分散プログラム・リンクによって SYNCONRETURN オプションを指定しないでリモート・システムから呼び出されたプログラムで実行されました。

LENGERR
RESP2 値は以下のとおりです。

1 ATTRLEN で指定した長さが負の数です。

NOTAUTH

RESP2 値は以下のとおりです。

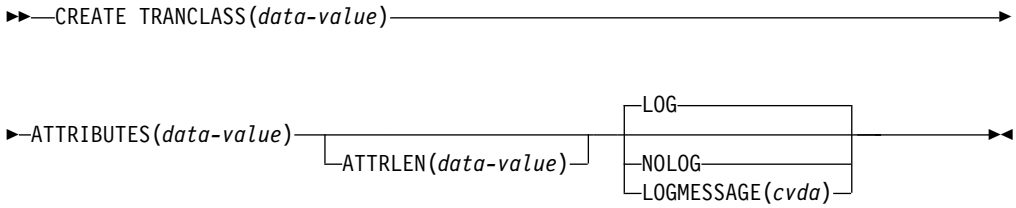
100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

102 CREATE TERMINAL コマンドを発行するタスクに関連したユーザーが、USERID で指定したユーザーの許可された代理ではありません。

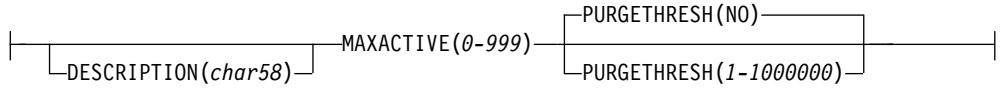
CREATE TRANCLASS

ローカル CICS 領域にトランザクション・クラスを定義します。

CREATE TRANCLASS



CREATE TRANCLASS 属性値:



条件: ILLOGIC、INVREQ、LENGERR、NOTAUTH

COBOL プログラマーへの注記**:** 上記の構文では、**ATTRIBUTES**(*data-value*) ではなく **ATTRIBUTES**(*data-area*) を使用する必要があります。

説明

CREATE TRANCLASS コマンドは、コマンドに指定された属性で TRANCLASS 定義をインストールします。これは CSD に保管されているリソース定義を使用しません。指定した名前のトランザクション・クラスがローカル CICS 領域に既にある場合、新規定義で古い定義が置き換えられます。そうでない場合、新規定義が追加されます。

同期点は、例外条件がコマンドの処理の初期に検出された場合を除いて、CREATE TRANCLASS 処理では暗黙的です。タスクでリカバリー可能リソースに対してこの同期点まで加えられた変更のうちコミットされていないものは、CREATE が正常に実行された場合はコミットされ、そうでない場合はロールバックされます。CREATE コマンドを制御する他の一般規則については、Creating resource definitionsを参照してください。

オプション

ATTRIBUTES(*data-value*)

追加される TRANCLASS の属性を指定します。属性のリストは、

TRANCLASS 属性に示す構文を使用して、単一文字ストリングとしてコーディングする必要があります。属性の指定の一般規則については、ATTRIBUTES オプションを参照し、特定の属性の詳細については、TRANCLASS 属性を参照してください。

ATTRLEN(*data-value***)**
ATTRIBUTES オプションで提供される文字ストリングのバイト単位の長さを、ハーフワード・バイナリー値として指定します。長さは 32767 バイトを超えることはできません。

LOGMESSAGE(*cvda***)**
作成されるリソースで使用される属性を CICS がログに記録するかどうかを指定します。 CVDA 値は以下のとおりです。

LOG
リソース属性は CSDL 一時データ・キューに記録されます。

NOLOG
リソース属性はログに記録されません。

TRANCLASS(*data-value***)**
CICS 領域に追加する TRANCLASS 定義の 8 文字の名前を指定します。

条件

ILLOGIC
RESP2 値は以下のとおりです。

2 以前の CONNECTION または TERMINAL プール定義がまだ完了していないため、このコマンドは実行できません。

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

n ATTRIBUTES ストリングに構文エラーがあるか、処理の破棄あるいはリソース定義のいずれかのフェーズ中にエラーが発生しました。RESP2 値については、CREATE コマンドと CSD コマンドの RESP2 値を参照してください。

7 LOGMESSAGE の cvda 値が無効です。

200 このコマンドは、DPLSUBSET の EXECUTIONSET 値で定義したプログラム、または分散プログラム・リンクによって SYNCONRETURN オプションを指定しないでリモート・システムから呼び出されたプログラムで実行されました。

LENGERR
RESP2 値は以下のとおりです。

1 ATTRLEN で指定した長さが負です。

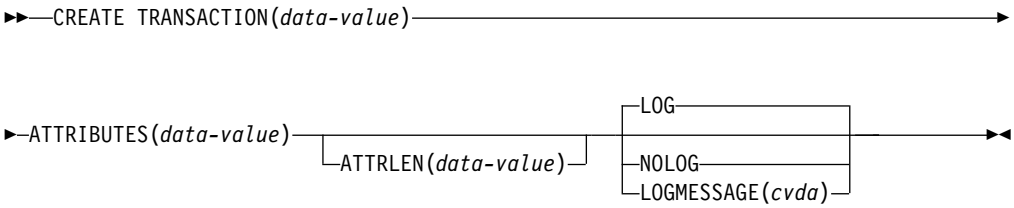
NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

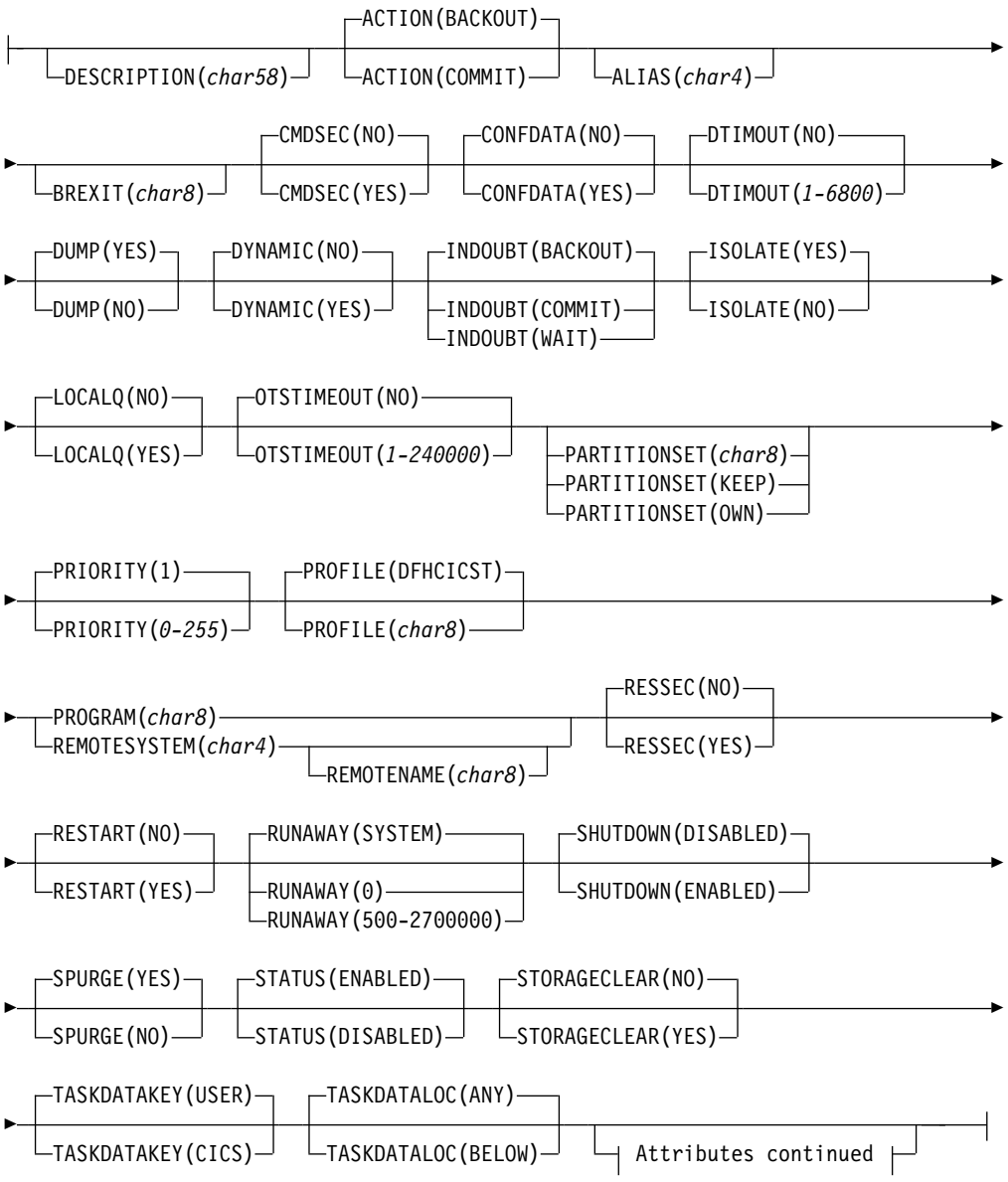
CREATE TRANSACTION

ローカル CICS 領域に TRANSACTION を定義します。

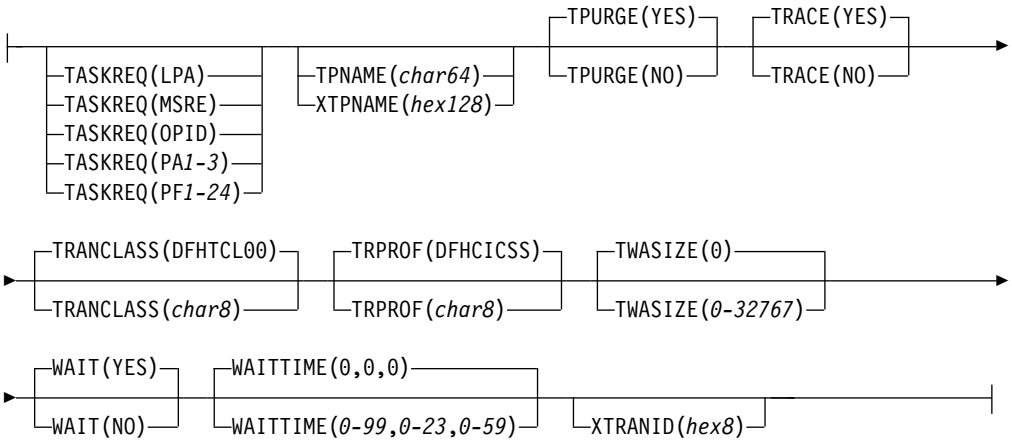
CREATE TRANSACTION



CREATE TRANSACTION 属性値:



Attributes continued:



条件**:** ILLOGIC、INVREQ、LENGERR、NOTAUTH

COBOL プログラマーへの注記**:** 上記の構文では、**ATTRIBUTES**(*data-value*) ではなく **ATTRIBUTES**(*data-area*) を使用する必要があります。

説明

CREATE TRANSACTION コマンドは、コマンドに指定された属性で TRANSACTION 定義をインストールします。これは CSD に保管されているリソース定義を使用しません。指定した名前のトランザクションがローカル CICS 領域にない場合、新規定義が追加されます。ある場合は、新規定義で古い定義が置き換えられます。ただし、すでに処理中のタスクには適用されません。処理中のタスクは、開始時の定義を引き続き使用します。

同期点は、例外条件がコマンドの処理の初期に検出された場合を除いて、CREATE TRANSACTION 処理では暗黙的です。タスクでリカバリー可能リソースに対してこの同期点まで加えられた変更のうちコミットされていないものは、CREATE が正常に実行された場合はコミットされ、そうでない場合はロールバックされます。CREATE コマンドを制御する他の一般規則については、Creating resource definitionsを参照してください。

オプション

ATTRIBUTES(*data-value*)
追加される TRANSACTION の属性を指定します。属性のリストは、**TRANSACTION** 属性で示されている構文を使用して、単一の文字ストリングとしてコーディングする必要があります。属性の指定の一般規則については、ATTRIBUTES オプションを参照し、特定の属性の詳細については、TRANSACTION 属性を参照してください。

ATTRLEN(*data-value*)
ATTRIBUTES オプションで提供される文字ストリングのバイト単位の長さを、ハーフワード・バイナリー値として指定します。長さは 32767 バイトを超えることはできません。

LOGMESSAGE(*cvda*)
作成されるリソースで使用される属性を CICS がログに記録するかどうかを指定します。 CVDA 値は以下のとおりです。

LOG
リソース属性は CSDL 一時データ・キューに記録されます。

NOLOG
リソース属性はログに記録されません。

TRANSACTION(*data-value*)
CICS 領域に追加する TRANSACTION 定義の 4 文字の名前を指定します。

条件

ILLOGIC
RESP2 値は以下のとおりです。

2 以前の CONNECTION または TERMINAL プール定義がまだ完了していないため、このコマンドは実行できません。

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

n ATTRIBUTES ストリングに構文エラーがあるか、処理の破棄あるいはリソース定義のいずれかのフェーズ中にエラーが発生しました。RESP2 値については、CREATE コマンドと CSD コマンドの RESP2 値を参照してください。

7 LOGMESSAGE の cvda 値が無効です。

200 このコマンドは、DPLSUBSET の EXECUTIONSET 値で定義したプログラム、または分散プログラム・リンクによって SYNCONRETURN オプションを指定しないでリモート・システムから呼び出されたプログラムで実行されました。

LENGERR
RESP2 値は以下のとおりです。

1 ATTRLEN で指定した長さが負です。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

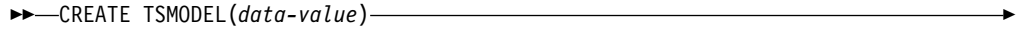
100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

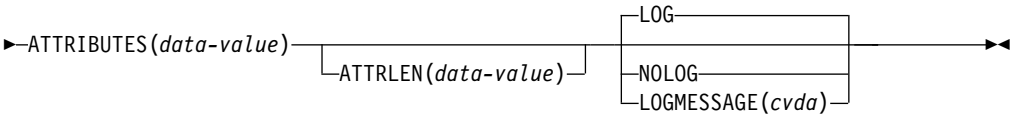
101 発行中のタスクに関連付けられているユーザーは、この名前の TRANSACTION 定義の作成を許可されていません。

CREATE TSMODEL

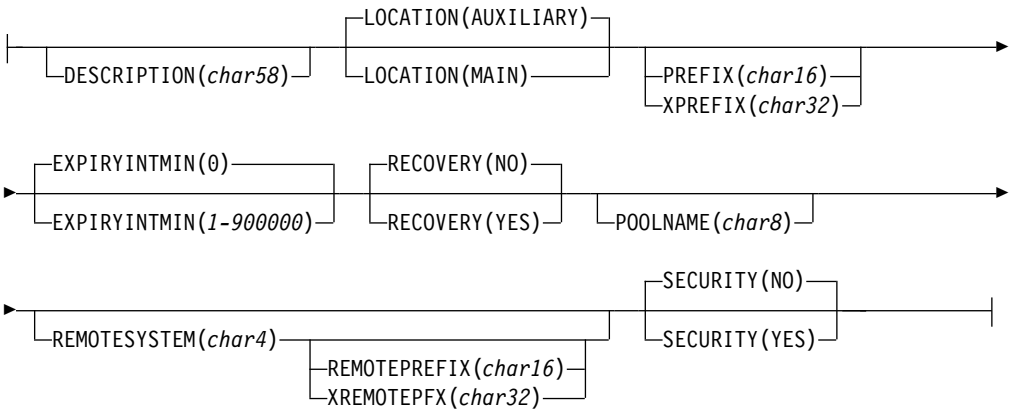
ローカル、リモート、または共用一時記憶域キューのモデルを定義します。

CREATE TSMODEL





CREATE TSMODEL 属性値:



条件**:** INVREQ、LENGERR、NOTAUTH

COBOL プログラマーへの注記**:** 上記の構文では、**ATTRIBUTES**(*data-value*) ではなく **ATTRIBUTES**(*data-area*) を使用する必要があります。

説明

CREATE TSMODEL コマンドは、コマンドに指定された属性で TSMODEL 定義をインストールします。これは CSD に保管されているリソース定義を使用しません。指定した名前の TS モデルがローカル CICS 領域に既にある場合、新規定義で古い定義が置き換えられます。そうでない場合、新規定義が追加されます。

2 つの TS モデルが同じ接頭部を持つことはできません。したがって、モデルの追加または置き換えによって 2 つのモデルが同じ接頭部を持つことになる場合、その追加または置き換えは失敗します。

同期点は、例外条件がコマンドの処理の初期に検出された場合を除いて、CREATE TSMODEL 処理では暗黙的です。タスクでリカバリー可能リソースに対してこの同期点まで加えられた変更のうちコミットされていないものは、CREATE が正常に実行された場合はコミットされ、そうでない場合はロールバックされます。 CREATE コマンドを制御する他の一般規則については、Creating resource definitionsを参照してください。

オプション

ATTRIBUTES(*data-value*)

追加される TSMODEL リソース定義の属性を指定します。属性のリストは、**TSMODEL** 属性に示す構文を使用して、単一文字ストリングとしてコーディングする必要があります。

- このリソース定義の固有の属性について詳しくは、TSMODEL attributes を参照してください。

- 属性の指定の一般規則については、ATTRIBUTES オプションを参照してください。

ATTRLEN(*data-value*)
ATTRIBUTES オプションで提供される文字ストリングのバイト単位の長さを、ハーフワード・バイナリー値として指定します。長さは 32767 バイトを超えることはできません。

LOGMESSAGE(*cvda*)
作成されるリソースで使用される属性を CICS がログに記録するかどうかを指定します。 CVDA 値は以下のとおりです。

LOG
リソース属性は CSDL 一時データ・キューに記録されます。

NOLOG
リソース属性はログに記録されません。

TSMODEL(*data-value*)
CICS 領域に追加する TSMODEL 定義の 8 文字の名前を指定します。

条件

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

n ATTRIBUTES ストリングに構文エラーがあるか、処理の破棄あるいはリソース定義のいずれかのフェーズ中にエラーが発生しました。RESP2 値については、CREATE コマンドと CSD コマンドの RESP2 値を参照してください。

7 LOGMESSAGE の cvda 値が無効です。

200 このコマンドは、DPLSUBSET の EXECUTIONSET 値で定義したプログラム、または分散プログラム・リンクによって SYNCONRETURN オプションを指定しないでリモート・システムから呼び出されたプログラムで実行されました。

LENGERR
RESP2 値は以下のとおりです。

1 ATTRLEN で指定した長さが負です。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

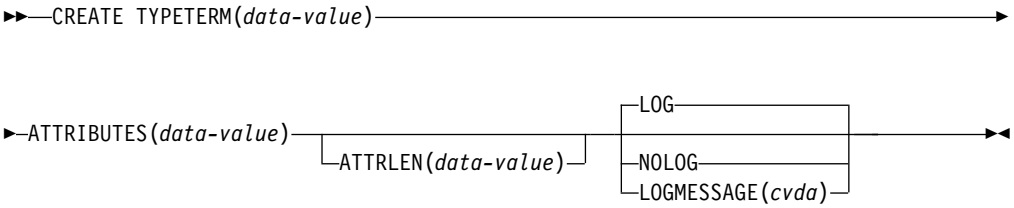
100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

101 発行中のタスクに関連付けられているユーザーは、この名前の TSMODEL 定義の作成を許可されていません。

CREATE TYPETERM

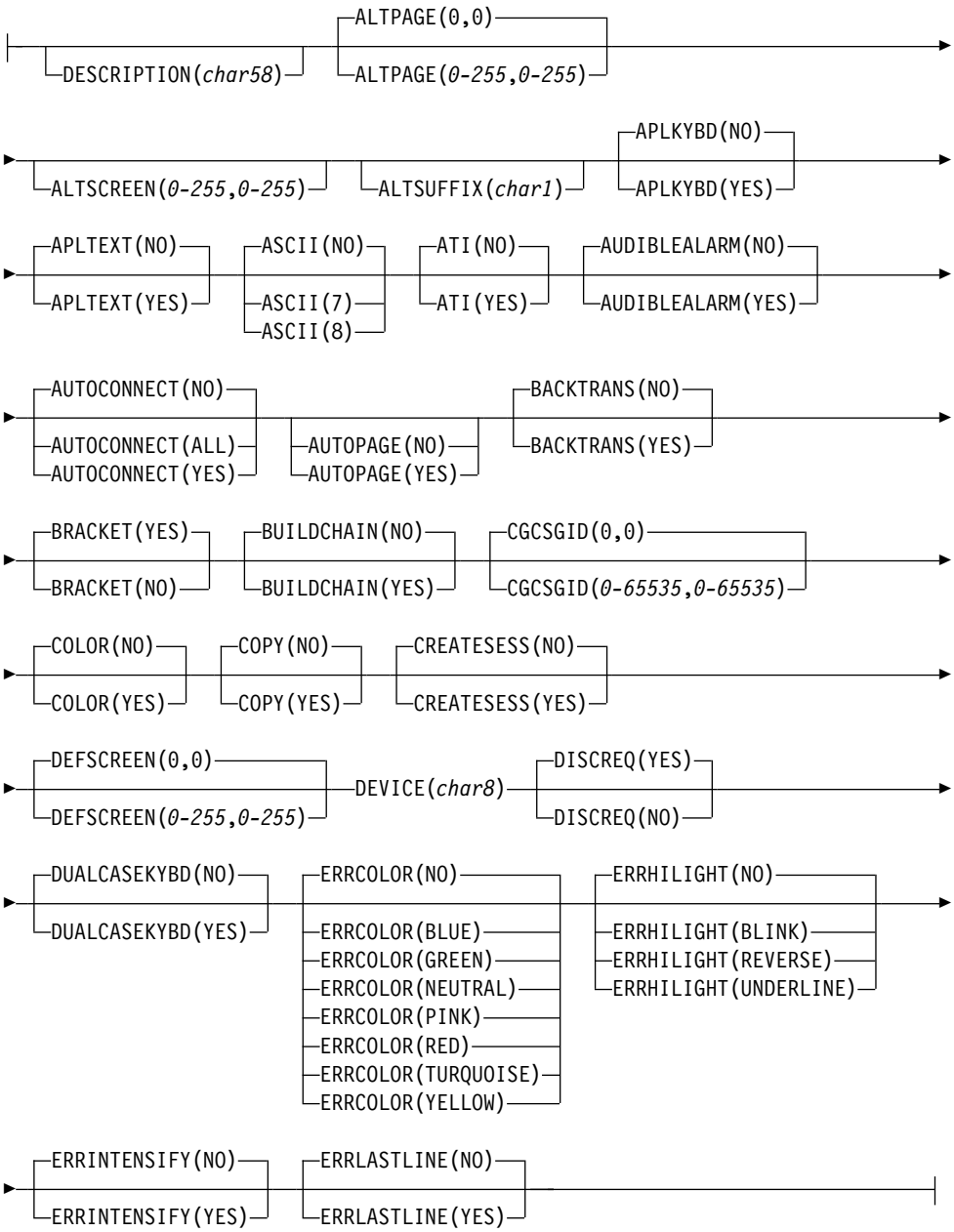
ローカル CICS 領域に端末タイプを定義します。

CREATE TYPETERM

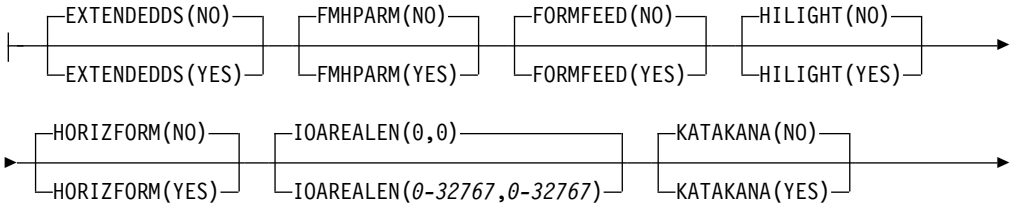


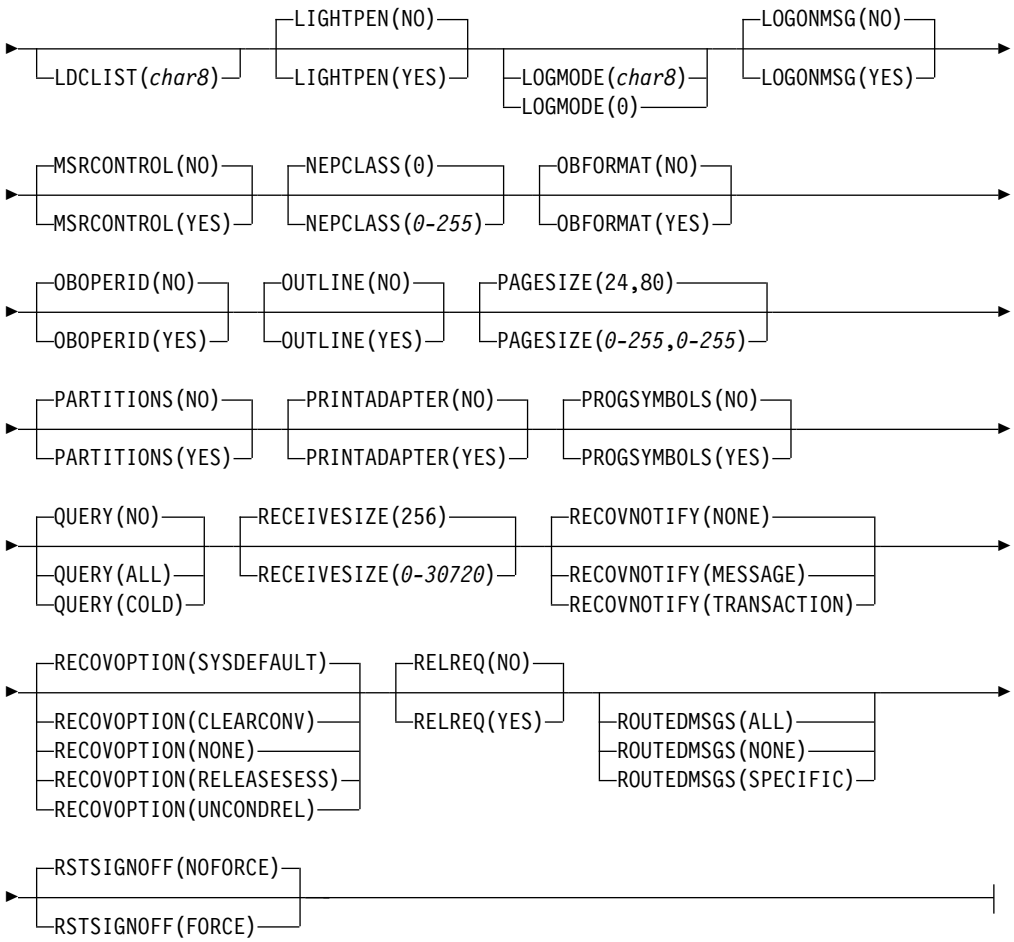
条件: ILLOGIC、INVREQ、LENGERR、NOTAUTH

CREATE TYPETERM 属性値 (パート 1/3):

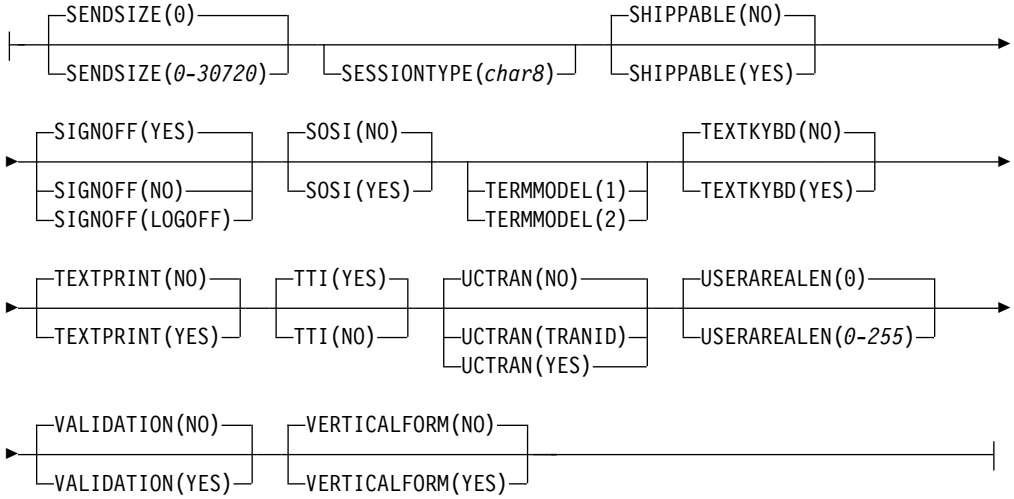


CREATE TYPETERM 属性値 (パート 2/3):





CREATE TYPETERM 属性値 (パート 3/3):



COBOL プログラマーへの注記**:** 上記の構文では、**ATTRIBUTES**(*data-value*) ではなく **ATTRIBUTES**(*data-area*) を使用する必要があります。

説明

CREATE TYPETERM コマンドは、コマンドに指定された属性で TYPETERM 定義をインストールします。これは CSD に保管されているリソース定義を使用しません。指定した名前の端末タイプ定義がローカル CICS 領域に既にある場合、新規定義で古い定義が置き換えられます。そうでない場合、新規定義が追加されます。

同期点は、例外条件がコマンドの処理の初期に検出された場合を除いて、CREATE TYPETERM 処理では暗黙的です。タスクでリカバリー可能リソースに対してこの同期点まで加えられた変更のうちコミットされていないものは、CREATE が正常に実行された場合はコミットされ、そうでない場合はロールバックされます。CREATE コマンドを制御する他の一般規則については、Creating resource definitionsを参照してください。

オプション

ATTRIBUTES(*data-value***)**
追加される TYPETERM の属性を指定します。属性のリストは、**TYPETERM** 属性で示されている構文を使用して、単一の文字ストリングとしてコーディングする必要があります。属性の指定の一般規則については、ATTRIBUTES オプションを参照し、特定の属性の詳細については、TYPETERM 属性を参照してください。

ATTRLEN(*data-value***)**
ATTRIBUTES オプションで提供される文字ストリングのバイト単位の長さを、ハーフワード・バイナリー値として指定します。長さは 32767 バイトを超えることはできません。

LOGMESSAGE(*cvda***)**
作成されるリソースで使用される属性を CICS がログに記録するかどうかを指定します。 CVDA 値は以下のとおりです。

LOG
リソース属性は CSDL 一時データ・キューに記録されます。

NOLOG
リソース属性はログに記録されません。

TYPETERM(*data-value***)**
CICS 領域に追加する TYPETERM 定義の 8 文字の名前を指定します。

条件

ILLOGIC
RESP2 値は以下のとおりです。

2 以前の CONNECTION または TERMINAL プール定義がまだ完了していないため、このコマンドは実行できません。

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

n ATTRIBUTES ストリングに構文エラーがあるか、処理の破棄あるいはリソース定義のいずれかのフェーズ中にエラーが発生しました。RESP2 値については、CREATE コマンドと CSD コマンドの RESP2 値を参照してください。

7 LOGMESSAGE の cvda 値が無効です。

200 このコマンドは、DPLSUBSET の EXECUTIONSET 値で定義したプログラム、または分散プログラム・リンクによって SYNCONRETURN オプションを指定しないでリモート・システムから呼び出されたプログラムで実行されました。

LENGERR

RESP2 値は以下のとおりです。

1 ATTRLEN で指定した長さが負です。

NOTAUTH

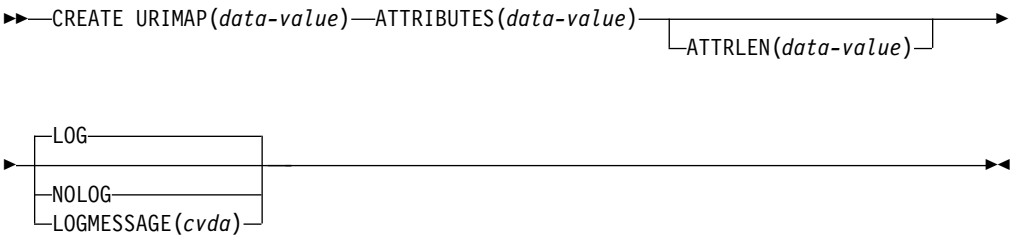
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

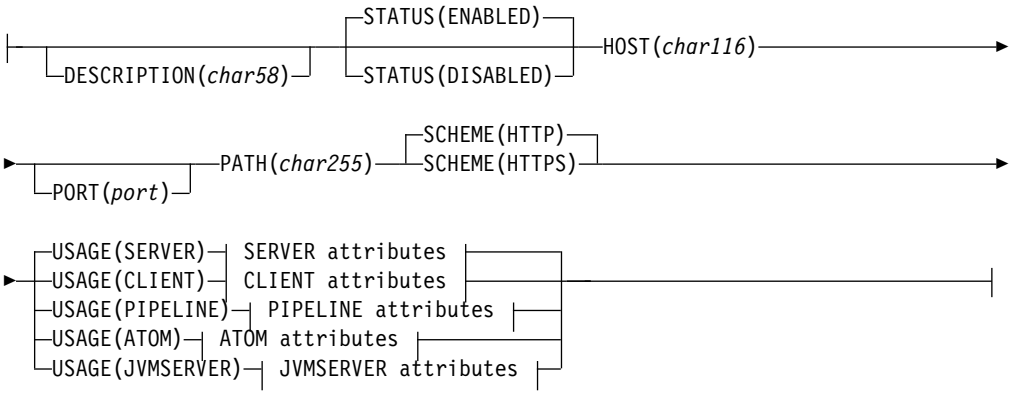
CREATE URIMAP

ローカル CICS 領域で URIMAP リソースを定義します。

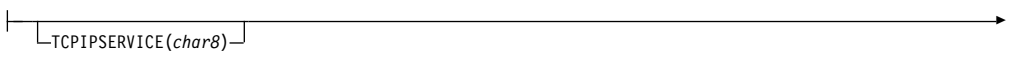
CREATE URIMAP

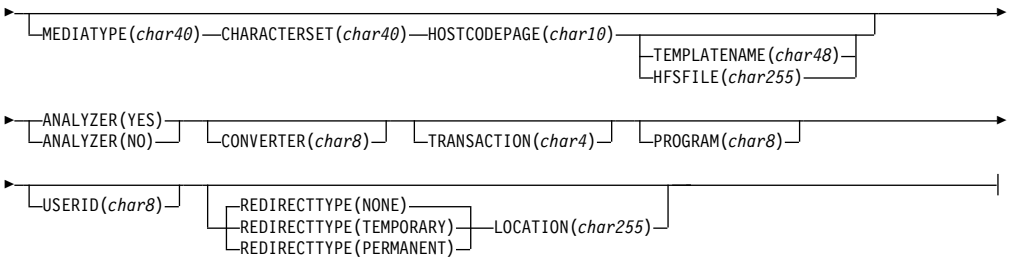


CREATE URIMAP 属性値:

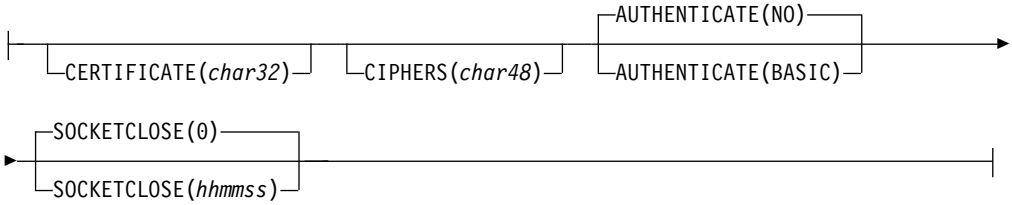


SERVER の属性:

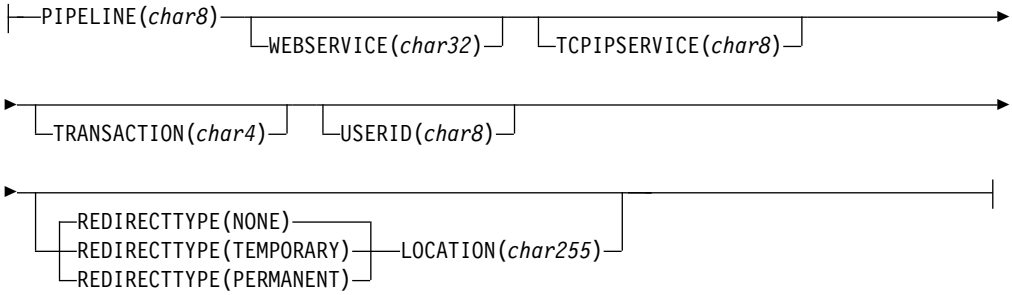




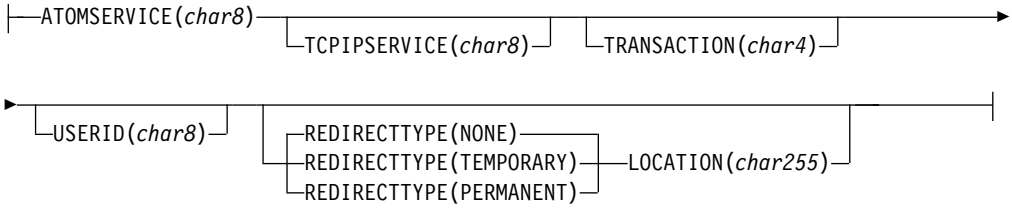
CLIENT の属性**:**



PIPELINE の属性**:**



ATOM の属性**:**



JVMSERVER 属性**:**

条件**:** INVREQ、LENGERR、NOTAUTH

このコマンドはスレッド・セーフです。

COBOL プログラマーへの注記**:** 上記の構文では、**ATTRIBUTES**(*data-value*) ではなく **ATTRIBUTES**(*data-area*) を使用する必要があります。

説明

CREATE URIMAP コマンドは、URIMAP リソース定義を作成します。これは CSD に保管されているリソース定義を使用しません。ローカル CICS 領域で指定した名前を持つ URIMAP 定義が既に存在する場合は、既存の URIMAP 定義を無効にしない限り、コマンドは失敗します。この場合、古い定義が新しい定義に置換されます。指定された名前の URIMAP 定義が存在しない場合は、新しい定義が追加されます。

同期点は、例外条件がコマンドの処理の初期に検出された場合を除いて、**CREATE URIMAP** 処理では暗黙的です。タスクでリカバリー可能リソースに対してこの同期点まで加えられた変更のうちコミットされていないものは、CREATE が正常に実行された場合はコミットされ、そうでない場合はロールバックされます。 CREATE コマンドを制御する他の一般規則については、Creating resource definitionsを参照してください。

オプション

ATTRIBUTES(*data-value***)**
追加される URIMAP 定義の属性を指定します。属性のリストは、URIMAP 定義属性に示す構文を使用して、単一文字ストリングとしてコーディングする必要があります。属性の指定の一般規則については、ATTRIBUTES オプションを参照し、特定の属性の詳細については、URIMAP 属性を参照してください。

ATTRLEN(*data-value***)**
ATTRIBUTES オプションで提供される文字ストリングのバイト単位の長さを、ハーフワード・バイナリー値として指定します。長さは 32,767 バイトを超えることはできません。

LOGMESSAGE(*cvda***)**
作成されるリソースで使用される属性を CICS がログに記録するかどうかを指定します。 CVDA 値は以下のとおりです。

LOG
リソース属性は CSDL 一時データ・キューに記録されます。

NOLOG
リソース属性はログに記録されません。

URIMAP(*data-value***)**
CICS 領域に追加する URIMAP 定義の 8 文字の名前を指定します。

条件

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

n ATTRIBUTES ストリングに構文エラーがあるか、処理の破棄あるいはリソース定義のいずれかのフェーズ中にエラーが発生しました。
RESP2 値が、一時データ・キュー CSMT に書き込まれたメッセージに関連付けられています。これは、エラーの性質をより正確に特定するものです。RESP2 値については、CREATE コマンドと CSD コマンドの RESP2 値を参照してください。

7 LOGMESSAGE の CVDA 値が無効です。

200 このコマンドは、DPLSUBSET の EXECUTIONSET 値で定義したプログラム、または分散プログラム・リンクによって SYNCONRETURN オプションを指定しないでリモート・システムから呼び出されたプログラムで実行されました。

LENGERR

RESP2 値は以下のとおりです。

1 ATTRLEN で指定した長さが負です。

NOTAUTH

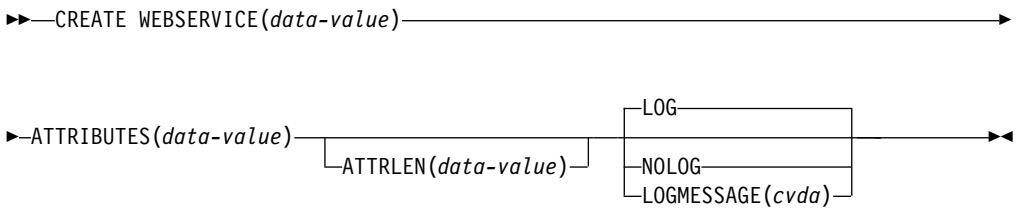
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

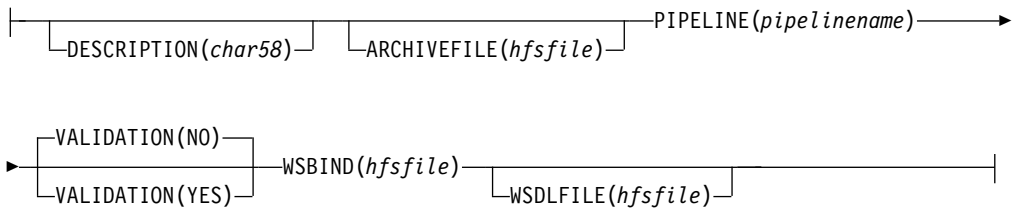
CREATE WEBSERVICE

ローカル CICS 領域で WEBSERVICE リソースを定義します。

CREATE WEBSERVICE



CREATE WEBSERVICE 属性値:



条件: INVREQ、LENGERR、NOTAUTH

COBOL プログラマーへの注記: 上記の構文では、**ATTRIBUTES**(*data-value*) ではなく **ATTRIBUTES**(*data-area*) を使用する必要があります。

説明

CREATE WEBSERVICE コマンドは、コマンドに指定された属性で WEBSERVICE リソース定義をインストールします。これは CSD に保管されているリソース定義を使用しません。指定した名前の WEBSERVICE リソースがローカル CICS 領域に存在する場合、新規定義で古い定義が置き換えられます。そうでない場合、新規定義が追加されます。

同期点は、例外条件がコマンドの処理の初期に検出された場合を除いて、**CREATE WEBSERVICE** 処理では暗黙的です。タスクでリカバリー可能リソースに対してこの同期点まで加えられた変更のうちコミットされていないものは、CREATE が正常に実行された場合はコミットされ、そうでない場合はロールバックされます。 CREATE コマンドを制御する他の一般規則については、Creating resource definitionsを参照してください。

オプション

ATTRIBUTES(*data-value***)**
追加される WEBSERVICE リソースの属性を指定します。属性のリストは、単一の文字ストリングとしてコーディングする必要があります。属性の指定の一般規則については、ATTRIBUTES オプションを参照し、特定の属性の文字ストリングのコーディングについて詳しくは、WEBSERVICE 属性を参照してください。

ATTRLEN(*data-value***)**
ATTRIBUTES オプションで提供される文字ストリングのバイト単位の長さを、ハーフワード・バイナリー値として指定します。長さは 32767 バイトを超えることはできません。

LOGMESSAGE(*cvda***)**
作成されるリソースで使用される属性を CICS がログに記録するかどうかを指定します。 CVDA 値は以下のとおりです。

LOG
リソース属性は CSDL 一時データ・キューに記録されます。

NOLOG
リソース属性はログに記録されません。

WEBSERVICE(*data-value***)**
CICS 領域に追加する WEBSERVICE リソース定義の 8 文字の名前を指定します。

条件

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

n ATTRIBUTES ストリングに構文エラーがあるか、処理の破棄あるいはリソース定義のいずれかのフェーズ中にエラーが発生しました。
RESP2 値が、一時データ・キュー CSMT に書き込まれたメッセージに関連付けられています。これは、エラーの性質をより正確に特定するものです。RESP2 値については、CREATE コマンドと CSD コマンドの RESP2 値を参照してください。

200 このコマンドは、DPLSUBSET の EXECUTIONSET 値で定義したプログラム、または分散プログラム・リンクによって SYNCONRETURN オプションを指定しないでリモート・システムから呼び出されたプログラムで実行されました。

612 この WEBSERVICE リソースは既に存在するため、このリソースのインストールが失敗しました。

LENGERR
RESP2 値は以下のとおりです。

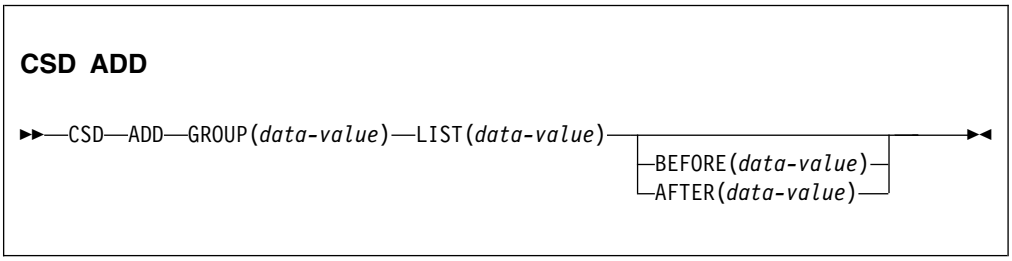
1 ATTRLEN で指定した長さが負です。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

CSD ADD

CSD のリストにグループを追加します。



条件: CSDERR、DUPRES、INVREQ、LOCKED、NOTAUTH、NOTFND

説明

CSD ADD コマンドは、リストにグループを追加します。 BEFORE または AFTER オプションを使用すると、オプションでリスト内の位置を指定します。BEFORE も AFTER も指定しないと、グループはリストの最後に追加されます。

同期点は、例外条件がコマンドの処理の初期に検出された場合を除いて、**CSD ADD** 処理では暗黙的です。リカバリー可能リソースに対するタスクのその同期点までのコミットされていない変更は、コマンドが正常に実行された場合はコミットされ、そうでない場合はロールバックされます。

オプション

AFTER(*data-value***)**
グループを後ろに追加するリスト内の、既存のグループの名前 (8 文字) を指定します。

BEFORE(*data-value***)**
グループを前に追加するリスト内の、既存のグループの名前 (8 文字) を指定します。

GROUP(*data-value***)**
リストに追加するグループの 8 文字の名前を指定します。グループ内にリソースがない場合でも、リストにグループを追加することができます。

LIST(*data-value***)**
グループの追加先であるリストの 8 文字の名前を指定します。このリストがまだ存在しない場合は、新しいリストが作成されます。

条件

CSDERR

RESP2 値は以下のとおりです。

1 CSD の読み取りはできません。

2 CSD は READONLY です。

3 CSD は満杯です。

4 CSD は別の CICS システムで使用中で、共用できるように構成されていてません。

5 十分でない VSAM ストリング (**CSDSTRNO** システム初期設定パラメーター値) で **EXEC CICS CSD** コマンドを実行できます。

DUPRES

RESP2 値は以下のとおりです。

1 グループは既にこのリストに存在します。

2 指定されたグループは存在しませんでしたが、同じ名前のリストが CSD に既に存在します。グループを追加できませんでした。

3 指定されたリストは存在しませんでしたが、同じ名前のグループが CSD に既に存在します。リストを作成できませんでした。

INVREQ

RESP2 値は以下のとおりです。

2 GROUP オプションには無効な文字が 1 つ以上含まれています。

3 LIST オプションには無効な文字が 1 つ以上含まれています。

5 BEFORE オプションには無効な文字が 1 つ以上含まれています。

6 AFTER オプションには無効な文字が 1 つ以上含まれています。

200 このコマンドは、DPLSUBSET の EXECUTIONSET 値で定義したプログラム、または分散プログラム・リンクによって SYNCONRETURN オプションを指定しないでリモート・システムから呼び出されたプログラムで実行されました。

LOCKED

RESP 2 値

1 このリストは別のユーザーにロックされているため、更新できません。

2 このリストは IBM® によって保護されています。

NOTAUTH

RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

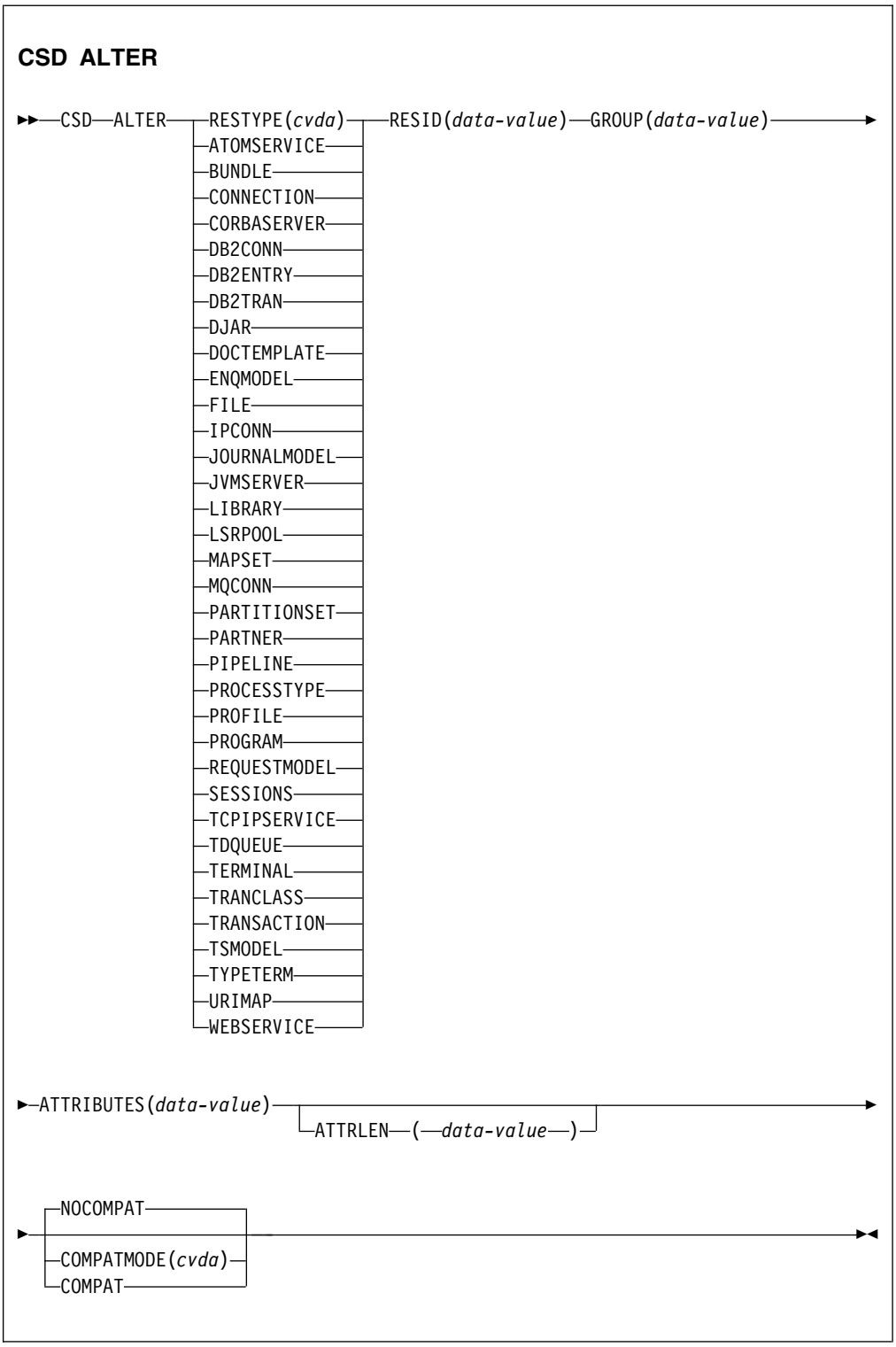
NOTFND

RESP2 値は以下のとおりです。

4 指定した BEFORE または AFTER グループはリスト内に存在しません。

CSD ALTER

CSD 内の既存のリソース定義の属性を変更します。



条件: CSDERR、INVREQ、LENGERR、LOCKED、NOTAUTH、NOTFND

説明

CSD ALTER コマンドは、CSD 内の既存のリソース定義の属性の一部または全部を変更します。

同期点は、例外条件がコマンドの処理の初期に検出された場合を除いて、**CSD ALTER** 処理では暗黙的です。リカバリー可能リソースに対するタスクのその同期点までのコミットされていない変更は、コマンドが正常に実行された場合はコミットされ、そうでない場合はロールバックされます。

オプション

ATTRIBUTES(*data-value***)**
変更する属性を指定します。属性リストを、単一の文字ストリングとしてコーディングします。

特定の属性の詳細については RDO resourcesを参照してください。

ATTRLEN(*data-value***)**
ATTRIBUTES オプションで提供される文字ストリングのバイト単位の長さを、フルワード・バイナリー値として指定します。

GROUP(*data-value***)**
リソース定義を含むグループの 8 文字の名前を指定します。

RESID(*data-value***)**
変更するリソースの 8 文字の名前を指定します。4 文字しかない TRANSACTION などのリソース名はブランクが 4 つ埋め込まれてから 8 文字のフィールドに渡される必要があります。

RESTYPE(*cvda***)**
変更するリソースのタイプを指定します。CVDA 値はリソース・タイプ名です。

COMPATMODE(*cvda***)**
廃止された属性が、このコマンドに対する ATTRIBUTES ストリングで許可されるかどうかを指定します。次のいずれかの CVDA 値を指定します。

COMPAT
廃止されたリソース属性は、このコマンドに対する ATTRIBUTES ストリングで許可されます。

NOCOMPAT
廃止されたリソース属性は、このコマンドに対する ATTRIBUTES ストリングで許可されません。

デフォルトは NOCOMPAT です。

条件

CSDERR
RESP2 値は以下のとおりです。

1 CSD の読み取りはできません。

2 CSD は読み取り専用です。

3 CSD は満杯です。

4 CSD は別の CICS システムで使用中で、共用できるように構成されていてません。

5 十分でない VSAM ストリング (**CSDSTRNO** システム初期設定パラメーター値) で **EXEC CICS CSD** コマンドを実行できます。

INVREQ

RESP2 値は以下のとおりです。

1 RESTYPE は、有効なリソース・タイプを指定していませんでした。

2 GROUP オプションには無効な文字が 1 つ以上含まれています。

11 COMPATMODE の値が無効です。

200 このコマンドは、DPLSUBSET の EXECUTIONSET 値で定義したプログラム、または分散プログラム・リンクによって SYNCONRETURN オプションを指定しないでリモート・システムから呼び出されたプログラムで実行されました。

n ATTRIBUTES または RESID の値が無効です。

LENGERR

RESP2 値:

1 ATTRLEN で指定した長さが負の数です。

LOCKED

RESP2 値:

1 このグループは別のユーザーにロックされているため、更新できません。

2 このグループは IBM によって保護されています。

NOTAUTH

RESP2 値:

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

NOTFND

RESP2 値は以下のとおりです。

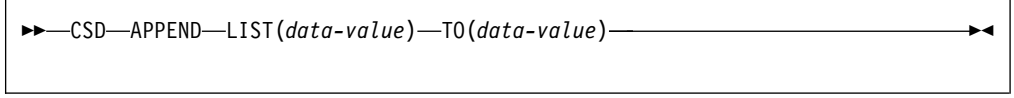
1 指定されたリソース定義は指定されたグループにありません。

2 指定したグループが存在しません。

CSD APPEND

CSD の 1 つのリストに入っているグループを、別のリストの最後に追加します。

CSD APPEND



条件: CSDERR、DUPRES、INVREQ、LOCKED、NOTAUTH、NOTFND

説明

CSD APPEND コマンドは、CSD の 1 つのリストに入っているグループを、別のリストの最後に追加します。

同期点は、例外条件がコマンドの処理の初期に検出された場合を除いて、**CSD APPEND** 処理では暗黙的です。リカバリー可能リソースに対するタスクのその同期点までのコミットされていない変更は、コマンドが正常に実行された場合はコミットされ、そうでない場合はロールバックされます。

オプション

LIST(*data-value***)**
追加されるリストの 8 文字の名前を指定します。

TO(*data-value***)**
追加先のターゲット・リストの 8 文字の名前を指定します。このリストが存在しない場合は、作成されます。

条件

CSDERR
RESP2 値は以下のとおりです。

1 CSD の読み取りができませんでした。

2 CSD は読み取り専用です。

3 CSD は満杯です。

4 CSD は別の CICS システムで使用中で、共用できるように構成されていてません。

5 十分でない VSAM ストリング (**CSDSTRNO** システム初期設定パラメーター値) で **EXEC CICS CSD** コマンドを実行できます。

DUPRES
RESP2 値は以下のとおりです。

3 LIST で指定されたリストが CSD にグループとして存在するか、TO で指定されたリストは存在していなかったものの、同じ名前のグループが CSD に既に存在するためにリストを作成できません。

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

3 LIST オプションには無効な文字が 1 つ以上含まれています。

7 TO オプションには無効な文字が 1 つ以上含まれています。

200 このコマンドは、DPLSUBSET の EXECUTIONSET 値で定義したプログラム、または分散プログラム・リンクによって SYNCONRETURN オプションを指定しないでリモート・システムから呼び出されたプログラムで実行されました。

LOCKED
RESP2 値は以下のとおりです。

1 この TO リストは別のユーザーにロックされています。

2 この TO リストは IBM によって保護されています。

NOTAUTH

RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

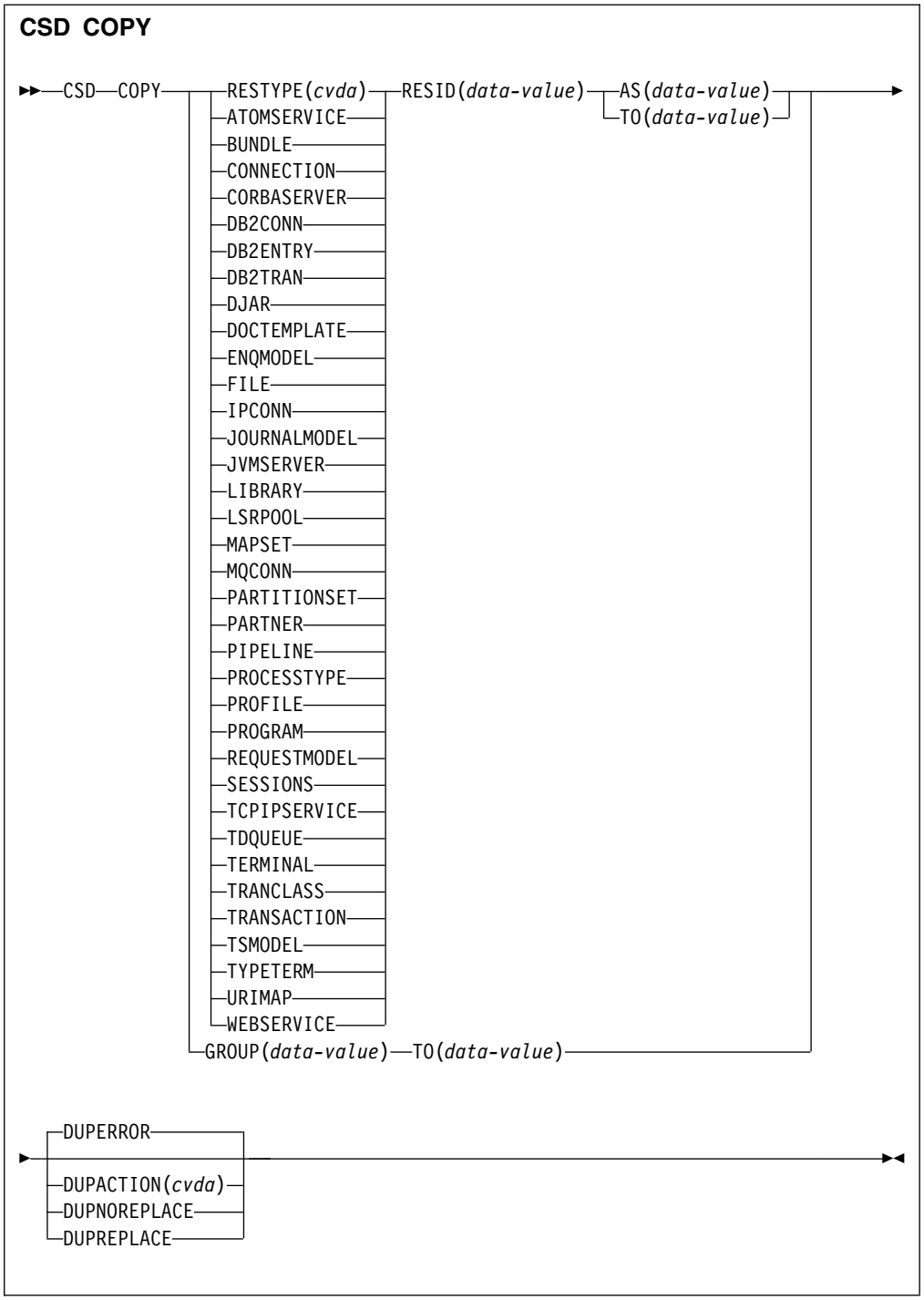
NOTFND

RESP2 値は以下のとおりです。

3 LIST オプションで指定されたリストが見つかりません。

CSD COPY

グループ内のリソース定義を別のグループにコピーするか、グループ全体をコピーします。



条件: CSDERR、DUPRES、INVREQ、LOCKED、NOTAUTH、NOTFND

説明

CSD COPY コマンドは、以下の操作を実行します。

- RESTYPE、RESID、および AS オプションを使用して、新しい名前を持つ同じグループに個々のリソース定義をコピーします。ただし TO オプションは除きます。

- RESTYPE、RESID、および TO オプションを使用して、個々のリソース定義を別のグループにコピーします。
- RESTYPE および RESID オプションを使用せずに TO オプションを使用して、グループ全体をコピーします。

同期点は、例外条件がコマンドの処理の初期に検出された場合を除いて、**CSD COPY** 処理では暗黙的です。リカバリー可能リソースに対するタスクのその同期点までのコミットされていない変更は、コマンドが正常に実行された場合はコミットされ、そうでない場合はロールバックされます。

オプション

AS(*data-value***)**
個々のリソース定義の新しい 8 文字の名前を指定します。名前が 4 文字のリソースの場合は、この値の先頭 4 文字が使用されます。

GROUP(*data-value***)**
コピーするグループか、コピーされる個々のリソース定義を含むグループの 8 文字の名前を指定します。

DUPACTION(*cvda***)**
ターゲット・グループに重複する定義があるときに必要とされるアクションを指定します。デフォルト値は DUPERROR です。CVDA 値は以下のとおりです。

DUPERROR
重複する定義に DUPRES 条件を立てます。

DUPNOREPLACE
ターゲット・グループの重複する定義が置換されないと指定します。

DUPREPLACE
ターゲット・グループの重複する定義が置換されると指定します。

RESID(*data-value***)**
コピーする個々のリソース定義の 8 文字の名前を指定します。4 文字しかない TRANSACTION などのリソース名はブランクが 4 つ埋め込まれてから 8 文字のフィールドに渡される必要があります。

RESTYPE(*cvda***)**
コピーするリソース定義のタイプを指定します。CVDA 値はリソース・タイプ名です。

TO 個々のリソース定義のコピー先、またはグループ全体のコピー先であるグループの 8 文字の名前を指定します。個々のリソース定義を指定する場合で、 TO オプションが指定されないと、リソース定義は同じグループにコピーされます。この場合は、AS オプションを指定する必要があります。グループ全体をコピーする場合には、TO オプションを使用する必要があります。いずれの場合でも、TO グループがない場合は作成されます。

条件

CSDERR
RESP2 値:

1 CSD の読み取りができませんでした。

2 CSD は読み取り専用です。

3 CSD は満杯です。

4 CSD は別の CICS システムで使用中で、共用できるように構成されていてません。

5 十分でない VSAM ストリング (**CSDSTRNO** システム初期設定パラメーター値) で **EXEC CICS CSD** コマンドを実行できます。

DUPRES

RESP2 値:

1 このグループが既に存在するか (全グループのコピーの場合)、または COPY により作成される 1 つ以上のリソース定義が既に存在するために、DUPACTION は DUPERROR に設定またはデフォルト設定されました。

2 GROUP または TO オプションで指定された名前が CSD にリストとして存在します。

INVREQ

RESP2 値は以下のとおりです。

1 RESTYPE に指定されたリソース・タイプが無効です。

2 GROUP オプションには無効な文字が 1 つ以上含まれています。

4 RESID オプションには無効な文字が 1 つ以上含まれています。

7 TO オプションには無効な文字が 1 つ以上含まれています。

9 DUPACTION 値が無効です。

200 このコマンドは、DPLSUBSET の EXECUTIONSET 値で定義したプログラム、または分散プログラム・リンクによって SYNCONRETURN オプションを指定しないでリモート・システムから呼び出されたプログラムで実行されました。

LOCKED

RESP2 値は以下のとおりです。

1 このターゲット・グループは別のユーザーにロックされています。

2 このターゲット・グループは IBM によって保護されています。

NOTAUTH

RESP2 値:

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

NOTFND

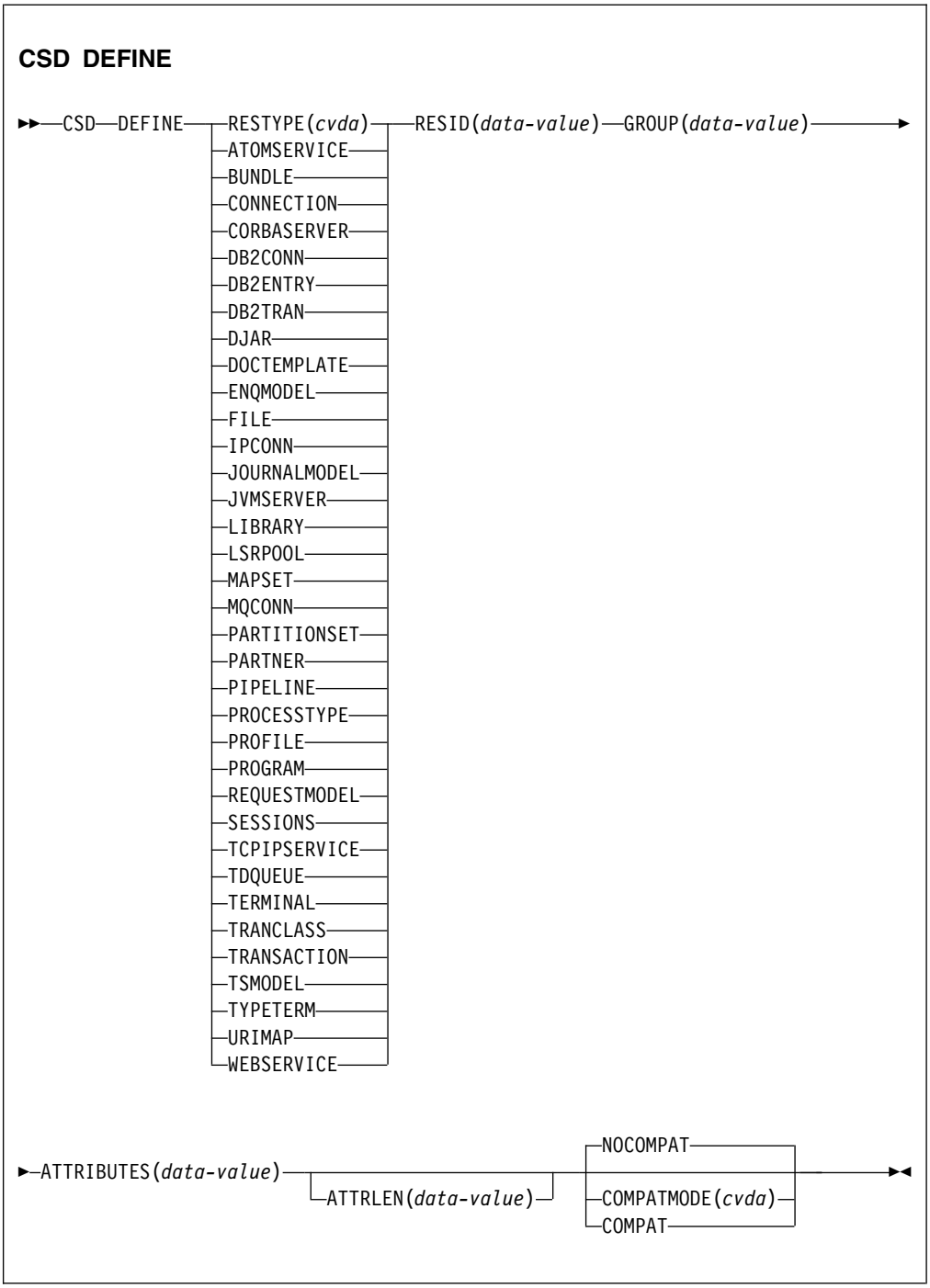
RESP2 値は以下のとおりです。

1 指定のリソース定義が見つかりません。

2 ソース・グループが見つかりません。

CSD DEFINE

CSD に新しいリソース定義を作成します。



条件: CSDERR、DUPRES、INVREQ、LENGERR、LOCKED、NOTAUTH

説明

CSD DEFINE コマンドは、新しいリソース定義を CSD に作成します。

同期点は、例外条件がコマンドの処理の初期に検出された場合を除いて、**CSD DEFINE** 処理では暗黙的です。リカバリー可能リソースに対するタスクのその同期点までのコミットされていない変更は、コマンドが正常に実行された場合はコミットされ、そうでない場合はロールバックされます。

オプション

ATTRIBUTES(*data-value***)**
新しいリソースの属性を指定します。属性リストを、単一の文字ストリングとしてコーディングします。

属性の指定の一般規則については、ATTRIBUTES オプションを参照してください。

特定の属性の詳細については CICS リソース: リスト、構文、および属性を参照してください。

ATTRLEN(*data-value***)**
ATTRIBUTES オプションで提供される文字ストリングのバイト単位の長さを、フルワード・バイナリー値として指定します。

GROUP(*data-value***)**
リソース定義を含むグループの 8 文字の名前を指定します。

RESID(*data-value***)**
定義するリソースの 8 文字の名前を指定します。長さが 4 文字しかない TRANSACTION などのリソース名はブランクが 4 つ埋め込まれてから 8 文字のフィールドに渡される必要があります。

RESTYPE(*cvda***)**
定義するリソース定義のタイプを指定します。CVDA 値はリソース・タイプ名です。

COMPATMODE(*cvda***)**
廃止された属性が、このコマンドに対する ATTRIBUTES ストリングで許可されるかどうかを指定します。次のいずれかの CVDA 値を指定します。

COMPAT
廃止されたリソース属性は、このコマンドに対する ATTRIBUTES ストリングで許可されます。

NOCOMPAT
廃止されたリソース属性は、このコマンドに対する ATTRIBUTES ストリングで許可されません。

デフォルトは NOCOMPAT です。

条件

CSDERR
RESP2 値は以下のとおりです。

1 CSD の読み取りはできません。

2 CSD は読み取り専用です。

3 CSD は満杯です。

4 CSD は別の CICS システムで使用中で、共用できるように構成されていてません。

5 十分でない VSAM ストリング (**CSDSTRNO** システム初期設定パラメーター値) で **EXEC CICS CSD** コマンドを実行できます。

DUPRES

RESP2 値は以下のとおりです。

1 この名前とタイプを持つリソースは指定グループに既に存在します。

2 指定されたグループは存在しませんでしたが、同じ名前のリストが CSD に既に存在するため、グループを作成できませんでした。

INVREQ

RESP2 値は以下のとおりです。

1 RESTYPE に指定されたリソース・タイプが無効です。

2 GROUP オプションには無効な文字が 1 つ以上含まれています。

11 COMPATMODE の値が無効です。

200 このコマンドは、DPLSUBSET の EXECUTIONSET 値で定義したプログラム、または分散プログラム・リンクによって SYNCONRETURN オプションを指定しないでリモート・システムから呼び出されたプログラムで実行されました。

n ATTRIBUTES ストリングに構文エラーがあるか、RESID に無効な文字が含まれています。

LENGERR

RESP2 値:

1 ATTRLEN で指定した長さが負の数です。

LOCKED

RESP2 値:

1 指定されたグループは別のユーザーにロックされています。

2 このグループは IBM によって保護されています。

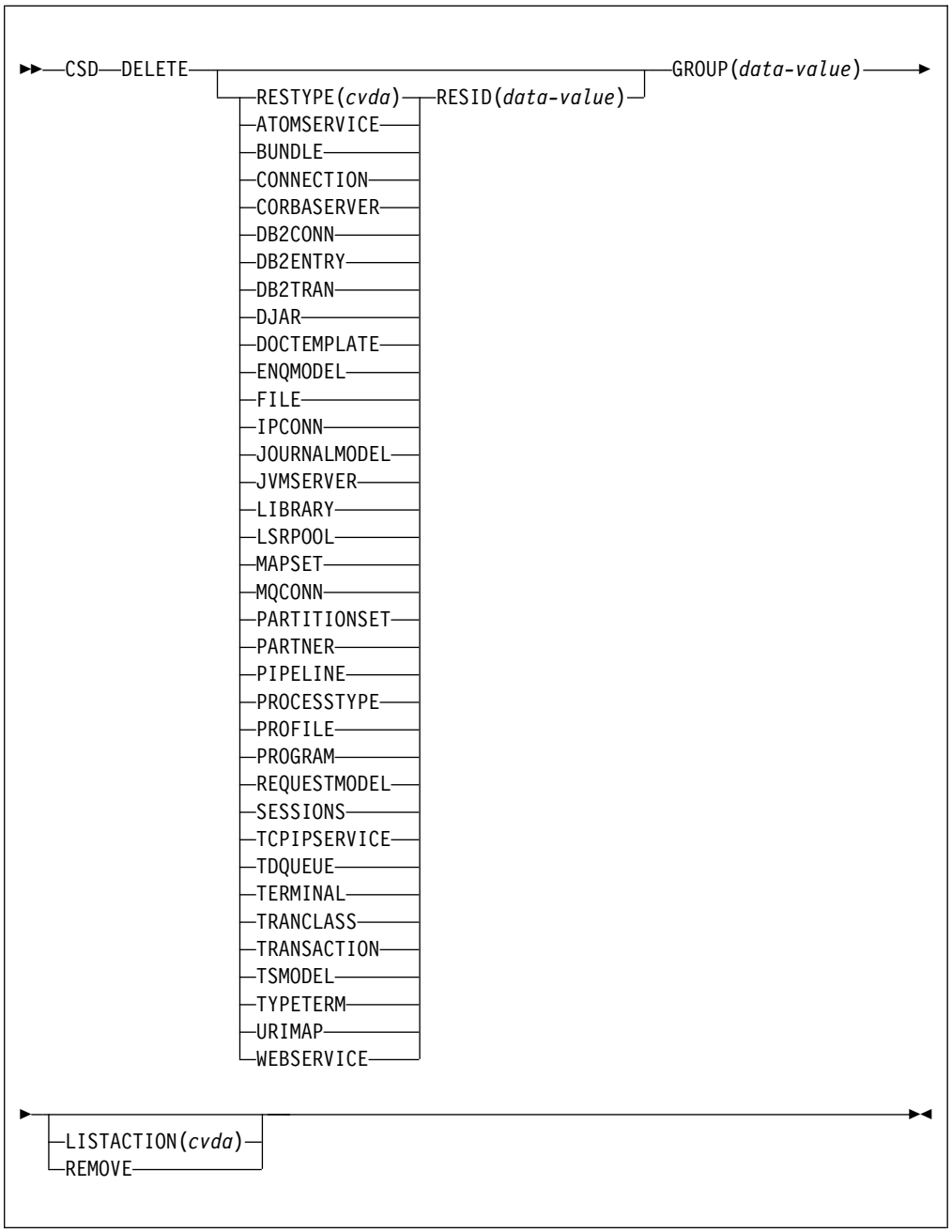
NOTAUTH

RESP2 値:

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

CSD DELETE

グループ、またはグループ内の単一のリソース定義を CSD から削除します。



条件: CSDERR、INVREQ、LOCKED、NOTAUTH、NOTFND

説明

CSD DELETE コマンドは、以下の操作を実行します。

- CSD 内のグループから単一のリソースを削除します。
- CSD からグループ全体を削除します。

同期点は、例外条件がコマンドの処理の初期に検出された場合を除いて、**CSD DELETE** 処理では暗黙的です。リカバリー可能リソースに対するタスクのその同期点までのコミットされていない変更は、コマンドが正常に実行された場合はコミットされ、そうでない場合はロールバックされます。

オプション

GROUP(*data-value***)**
削除するグループか、削除するリソース定義を含むグループの 8 文字の名前を指定します。

LISTACTION(*cvda***)**
グループ削除が、そのグループを含むリストに与える影響を指定します。CVDA 値は以下のとおりです。

REMOVE
グループを含むすべてのリストから、そのグループを除去します。

RESID(*data-value***)**
削除するリソース定義の 8 文字の名前を指定します。長さが 4 文字しかない TRANSACTION などのリソース名はブランクが 4 つ埋め込まれてから 8 文字のフィールドに渡される必要があります。

RESTYPE(*cvda***)**
削除するリソースのタイプを指定します。CVDA 値はリソース・タイプ名です。

条件

CSDERR
RESP2 値は以下のとおりです。

1 CSD の読み取りはできません。

2 CSD は読み取り専用です。

4 CSD は別の CICS システムで使用中で、共用できるように構成されていてません。

5 十分でない VSAM ストリング (**CSDSTRNO** システム初期設定パラメーター値) で **EXEC CICS CSD** コマンドを実行できます。

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

1 RESTYPE に指定されたリソース・タイプが無効です。

2 GROUP オプションには無効な文字が 1 つ以上含まれています。

4 RESID オプションには無効な文字が 1 つ以上含まれています。

10 LISTACTION の値が無効です。

200 このコマンドは、DPLSUBSET の EXECUTIONSET 値で定義したプログラム、または分散プログラム・リンクによって SYNCONRETURN オプションを指定しないでリモート・システムから呼び出されたプログラムで実行されました。

LOCKED
RESP2 値:

1 指定されたグループは別のユーザーにロックされています。

2 このグループは IBM によって保護されています。

NOTAUTH

RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

NOTFND

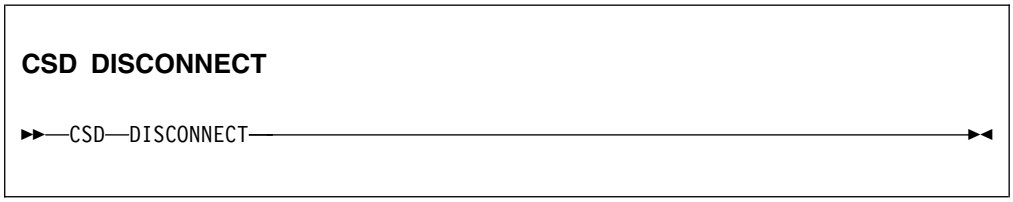
RESP2 値は以下のとおりです。

1 指定の個々のリソース定義が見つかりません。

2 指定のグループが見つかりません。

CSD DISCONNECT

現在のタスクを CSD から切断します。



状態**:** NOTAUTH

説明

CSD DISCONNECT コマンドは、CSD への現行タスクの接続を除去します。この接続は、タスクが初めて EXEC CICS CSD コマンドを発行するときに自動的に獲得されます。 CSD DISCONNECT は、他のタスクが CSD にアクセスしていない場合にはそれを閉じます。このコマンドは、通常は必要ありません。なぜなら、この処理はタスクの終了時に自動的に行われるためです。

CSD DISCONNECT は、それぞれの一連の CSD コマンドの後に長時間実行されるタスクがある場合、特に非 RLS 環境で使用を考慮します。なぜなら、このシステムのタスクが接続されている間、別のシステムは CSD を共用できないからです。

同期点は、例外条件がコマンドの処理の初期に検出された場合を除いて、**CSD DISCONNECT** 処理では暗黙的です。リカバリー可能リソースに対するタスクのその同期点までのコミットされていない変更は、コマンドが正常に実行された場合はコミットされ、そうでない場合はロールバックされます。

オプション

なし

条件

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

CSD ENDBRGROUP

CSD 内のグループまたは LIST 内のグループの現在のブラウズを終了します。

条件: CSDERR、 NOTAUTH

説明

ENDBRGROUP コマンドは、CSD STARTBRGROUP コマンドで開始された CSD 内のグループのブラウズを停止します。CSD 内のすべてのグループ、または指定されたリスト内のすべてのグループがブラウズの対象になります。

オプション

LIST
終了するブラウズは、CSD 内のすべてのグループではなく、リスト内のグループであることを指定します。

条件

CSDERR
RESP2 値は以下のとおりです。

1 CSD にアクセスできません。

4 CSD は別の CICS システムで使用中で、共用できるように構成されていてません。

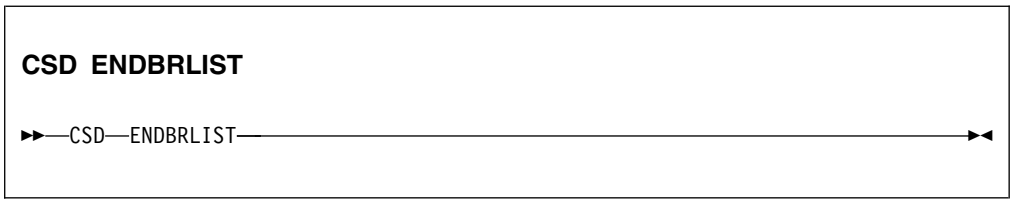
5 十分でない VSAM ストリング (**CSDSTRNO** システム初期設定パラメーター値) で **EXEC CICS CSD** コマンドを実行できます。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

CSD ENDBRLIST

CSD 内のリストの現在のブラウズを終了します。



条件: CSDERR、 NOTAUTH

説明

CSD ENDBRLIST コマンドは、CSD STARTBRLIST コマンドで開始された CSD 内のリストのブラウズを停止します。

条件

CSDERR
RESP2 値は以下のとおりです。

1 CSD にアクセスできません。

4 CSD は別の CICS システムで使用中で、共用できるように構成されていてません。

5 十分でない VSAM ストリング (**CSDSTRNO** システム初期設定パラメーター値) で **EXEC CICS CSD** コマンドを実行できます。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

CSD ENDBRRSRCE

指定されたグループ内のリソースの現在のブラウズを終了します。

条件: CSDERR、 NOTAUTH

説明

CSD ENDBRRSRCE コマンドは、**CSD STARTBRRSRCE** で開始された CSD 内のグループのリソース定義のブラウズを停止します。

条件

CSDERR

RESP2 値は以下のとおりです。

1 CSD にアクセスできません。

4 CSD は別の CICS システムで使用中で、共用できるように構成されていてません。

5 十分でない VSAM ストリング (**CSDSTRNO** システム初期設定パラメーター値) で **EXEC CICS CSD** コマンドを実行できます。

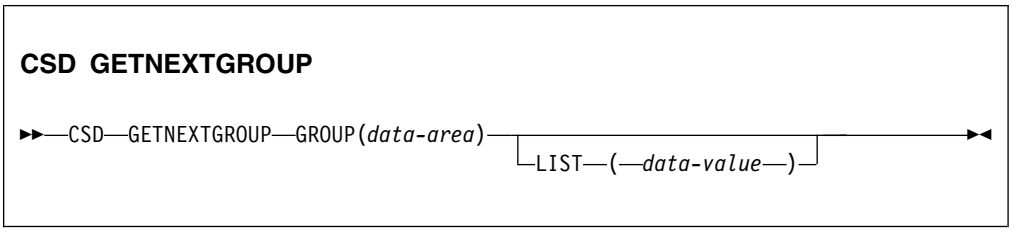
NOTAUTH

RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

CSD GETNEXTGROUP

グループ・ブラウズで次のグループを取得します。



条件: CSDERR、END、ILLOGIC、NOTAUTH

説明

CSD GETNEXTGROUP コマンドは、 **CSD STARTBRGROUP** コマンドで開始されたブラウズで次のグループの名前を戻します。

オプション

GROUP(*data-area***)**

グループの 8 文字の名前を戻します。

LIST(*data-value***)**

STARTBRGROUP コマンドでブラウズが限定されたリストの 8 文字の名前を指定します。関連した STARTBRGROUP コマンドに LIST オプションが含まれる場合、LIST の値を指定する必要があります。

条件

CSDERR
RESP2 値は以下のとおりです。

1 CSD の読み取りはできません。

4 CSD は別の CICS システムで使用中で、共用できるように構成されていてません。

5 十分でない VSAM ストリング (**CSDSTRNO** システム初期設定パラメーター値) で **EXEC CICS CSD** コマンドを実行できます。

END
RESP2 値は以下のとおりです。

1 CSD またはリストに、次のグループがありません。

ILLOGIC
RESP2 値は以下のとおりです。

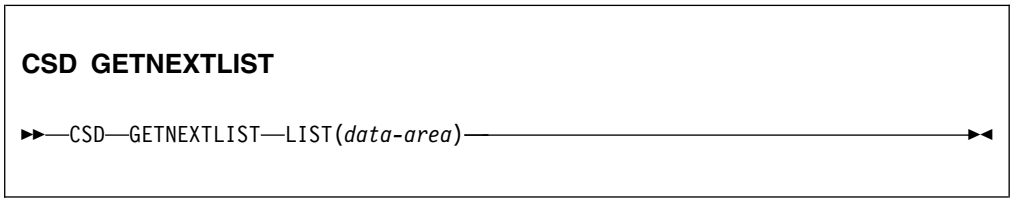
1 グループ・ブラウズが進行中ではありません。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

CSD GETNEXTLIST

リスト・ブラウズで次のリストを取得します。



条件**:** CSDERR、END、ILLOGIC、NOTAUTH

説明

CSD GETNEXTLIST コマンドは、 **CSD STARTBRLIST** コマンドで開始されたブラウズで次のリストの名前を戻します。

オプション

LIST(*data-area***)**
リストの 8 文字の名前を戻します。

条件

CSDERR
RESP2 値は以下のとおりです。

1 CSD の読み取りはできません。

4 CSD は別の CICS システムで使用中で、共用できるように構成されていてません。

5 十分でない VSAM ストリング (**CSDSTRNO** システム初期設定パラメーター値) で **EXEC CICS CSD** コマンドを実行できます。

END

RESP2 値は以下のとおりです。

1 CSD に、次のリストがありません。

ILLOGIC

RESP2 値は以下のとおりです。

1 リスト・ブラウズが進行中ではありません。

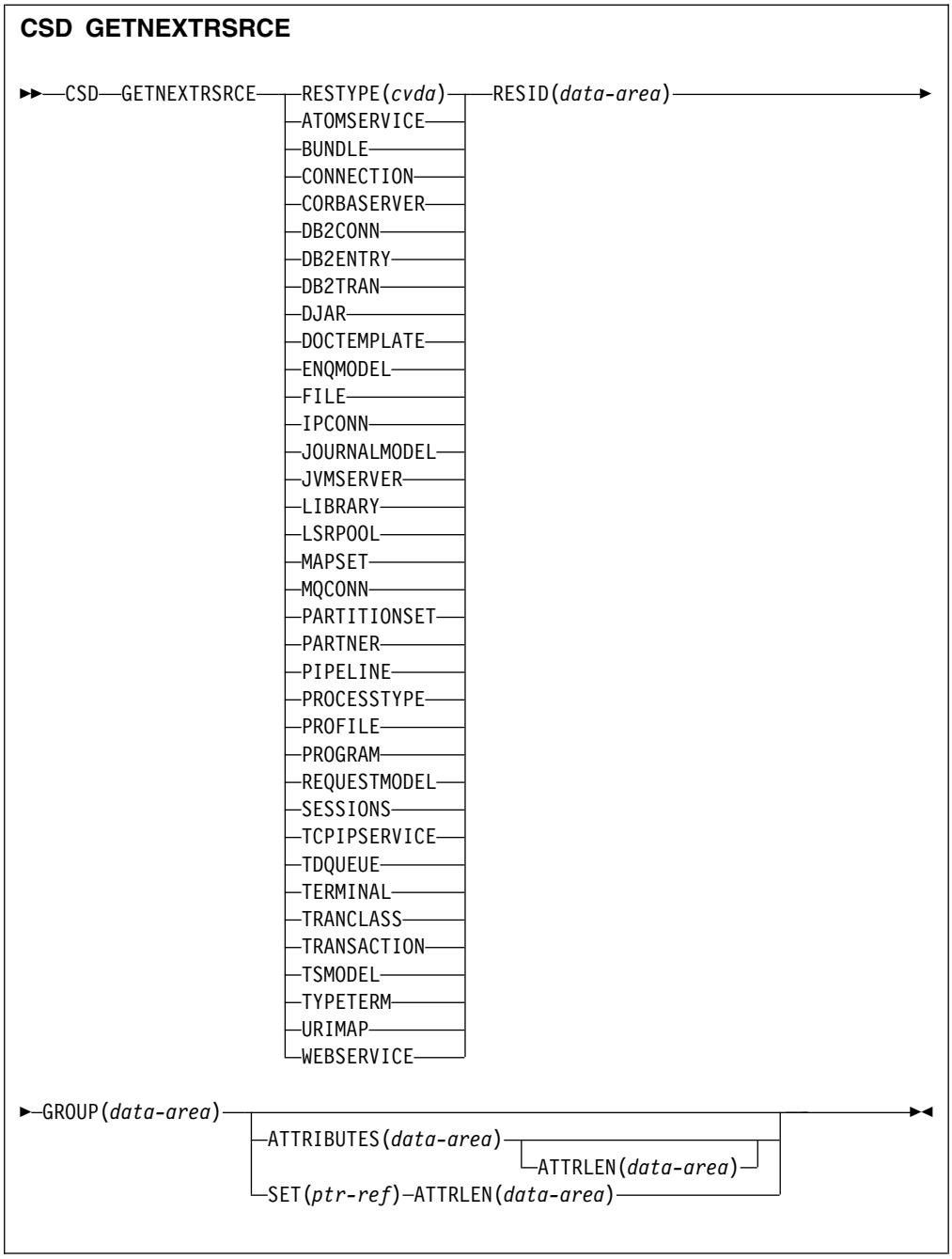
NOTAUTH

RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

CSD GETNEXTRSRCE

リソースのブラウズにおける次のリソースの詳細を取得します。



条件: CSDERR、END、ILLOGIC、LENGERR、NOTAUTH

説明

CSD GETNEXTRSRCE コマンドは、 **CSD STARTBRRSRCE** コマンドで開始されたブラウズにおける次のリソースの詳細を戻します。

オプション

ATTRIBUTES(*data-area***)**
関連するリソースの属性のリストが入っている文字ストリングが戻されるデータ域を指定します。

特定の属性の詳細については RDO resourcesを参照してください。

ATTRLEN(*data-area*)
次のいずれかの値が入っているフルワード・バイナリー・フィールド。

- ATTRIBUTES オプションとともに使用する場合:
  - 入力の場合、ATTRLEN には、アプリケーションが受け入れ可能な最大の長さの属性ストリングが入ります。 ATTRIBUTES 変数からコンパイラーによって長さを生成できる場合は、ATTRLEN を指定する必要はありません。
  - 出力の場合、ATTRLEN には、戻される属性ストリングの長さが入ります。属性ストリングが入力の ATTRLEN 値よりも長い場合は、LENGERR 条件が立てられます。
- ATTRLEN を SET オプションとともに使用すると、出力のみのフィールドとなり、属性ストリングの長さに設定されます。

GROUP(*data-area*)
ブラウズされるグループの 8 文字の名前を指定します。

RESID(*data-area*)
属性が返されるリソース定義の 8 文字の名前を戻します。4 文字しかない TRANSACTION などのリソース名はブランクが 4 つ埋め込まれます。

RESTYPE(*cvda*)
リソース定義のタイプを戻します。CVDA 値はリソース・タイプ名です。

SET(ptr-ref)
戻された属性ストリングのアドレスに設定されるポインター参照を指定します。ポインター参照は、次の CSD GETNEXTRSRCE リソース・コマンドの発行まで、またはタスクの終了まで有効です。

条件

CSDERR
RESP2 値:

1 CSD の読み取りはできません。

4 CSD は別の CICS システムで使用中で、共用できるように構成されていてません。

5 十分でない VSAM ストリング (**CSDSTRNO** システム初期設定パラメーター値) で **EXEC CICS CSD** コマンドを実行できます。

END
RESP2 値:

1 CSD または指定されたリストに、これ以上グループがありません。

ILLOGIC
RESP2 値は以下のとおりです。

1 進行中のリソース・ブラウズはありません。

LENGERR
RESP2 値は以下のとおりです。

1 ATTRLEN オプションで指定された、CICS に渡される ATTRIBUTES データ域の長さが負の値です。

2 ATTRLEN オプションで指定された、CICS に渡される ATTRIBUTES データ域の長さが、戻されるデータ量未満です。

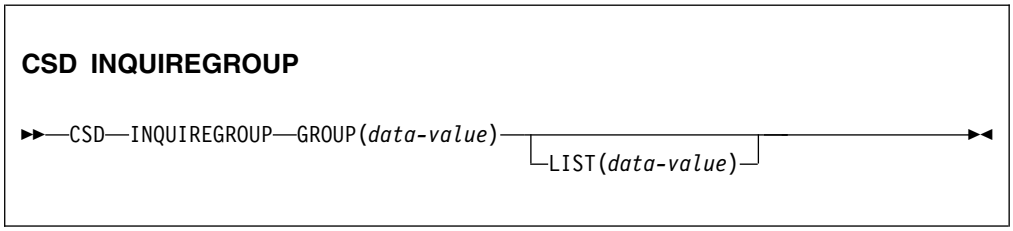
NOTAUTH

RESP2 値:

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

CSD INQUIREGROUP

CSD 内のグループまたは CSD 内の指定されたリストにあるグループについて照会します。



条件:CSDERR、NOTAUTH、NOTFND

説明

CSD INQUIREGROUP コマンドは、CSD にあるグループ名を直接照会する場合に使用します。照会の有効範囲を、指定されたリストに限定することができます。応答が NORMAL の場合、指定されたグループが、CSD か、リスト内にあります。

オプション

GROUP(*data-value*)
照会されているグループの 8 文字の名前を指定します。

LIST(*data-value*)
照会の有効範囲を限定するリストの 8 文字の名前を指定します。

条件

CSDERR

RESP2 値は以下のとおりです。

1 CSD の読み取りはできません。

4 CSD は別の CICS システムで使用中で、共用できるように構成されていてません。

5 十分でない VSAM ストリング (**CSDSTRNO** システム初期設定パラメーター値) で **EXEC CICS CSD** コマンドを実行できます。

NOTAUTH

RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

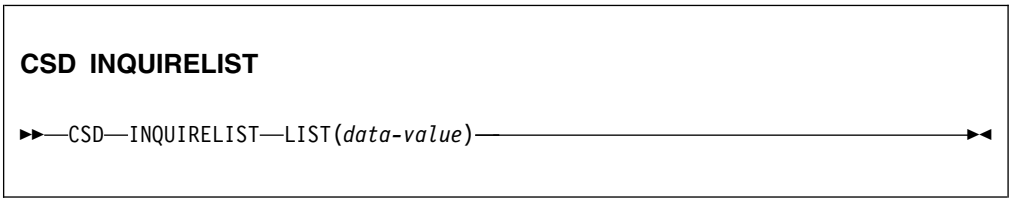
NOTFND
RESP2 値は以下のとおりです。

2 指定のグループが見つかりません。

3 指定のリストが見つかりません。

CSD INQUIRELIST

CSD 内のリストについて照会します。



条件:CSDERR、NOTAUTH、NOTFND

説明

CSD INQUIRELIST コマンドは、CSD にあるリスト名を直接照会します。応答が NORMAL の場合、指定したリストは CSD に存在します。

オプション

LIST(*data-value***)**
照会されているリストの 8 文字の名前を指定します。

条件

CSDERR
RESP2 値は以下のとおりです。

1 CSD の読み取りはできません。

4 CSD は別の CICS システムで使用中で、共用できるように構成されていてません。

5 十分でない VSAM ストリング (**CSDSTRNO** システム初期設定パラメーター値) で **EXEC CICS CSD** コマンドを実行できます。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

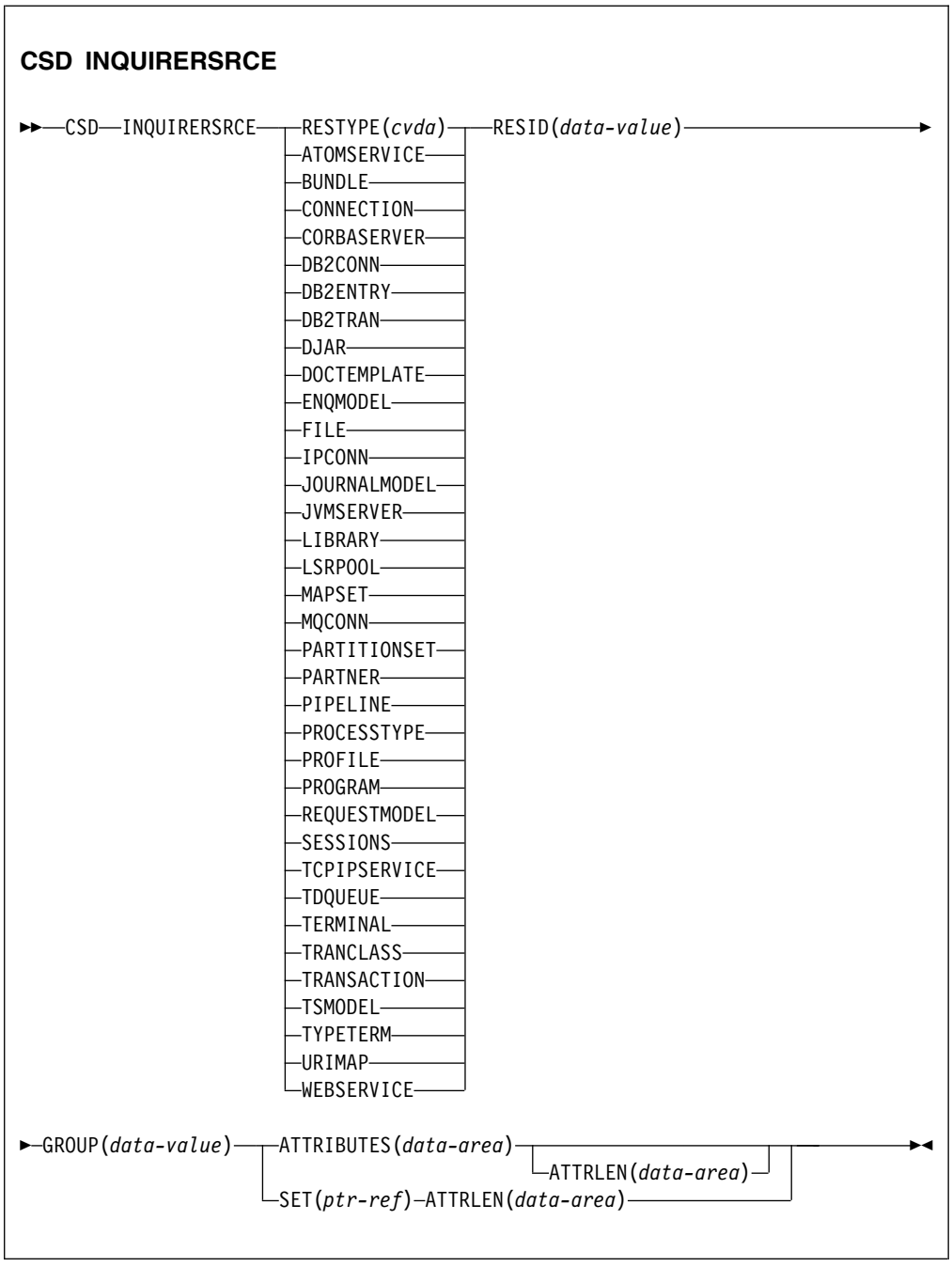
100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

NOTFND
RESP2 値は以下のとおりです。

3 指定のリストが見つかりません。

CSD INQUIRERSRCE

CSD 内の指定されたグループにあるリソースの属性について照会します。



条件: CSDERR、INVREQ、LENGERR、NOTAUTH、NOTFND

説明

CSD INQUIRERSRCE コマンドは、CSD の指定されたグループにあるリソースの属性を照会します。

オプション

ATTRIBUTES(*data-area***)**
関連するリソースの属性のリストが入っている文字ストリングが戻されるデータ域を指定します。

特定の属性の詳細については RDO resourcesを参照してください。

ATTRLEN(*data-area***)**
次のいずれかの値が入っているフルワード・バイナリー・フィールド。

- ATTRIBUTES オプションとともに使用する場合:
  - 入力の場合、ATTRLEN には、アプリケーションが受け入れ可能な最大の長さの属性ストリングが入ります。 ATTRIBUTES 変数からコンパイラーによって長さを生成できる場合は、ATTRLEN を指定する必要はありません。
  - 出力の場合、ATTRLEN には、戻される属性ストリングの長さが入ります。属性ストリングが入力の ATTRLEN 値よりも長い場合は、LENGERR 条件が立てられます。
- ATTRLEN を SET オプションとともに使用すると、出力のみのフィールドとなり、属性ストリングの長さに設定されます。

GROUP(*data-value***)**
照会されているリソース定義またはリソース定義属性を含むグループの 8 文字の名前を戻します。

RESID(*data-value***)**
属性が照会されているリソース定義の 8 文字の名前を戻します。4 文字の長さしかない TRANSACTION などのリソース名はブランクが 4 つ埋め込まれる必要があります。

RESTYPE(*cvda***)**
照会されているリソース定義のリソース・タイプを戻します。CVDA 値はリソース・タイプ名です。

SET(*ptr-ref***)**
戻された属性ストリングのアドレスに設定されるポインター参照を指定します。ポインター参照は、次の CSD INQUIRERSRCE リソース・コマンドの発行まで、またはタスクの終了まで有効です。

条件

CSDERR
RESP2 値:

1 CSD の読み取りはできません。

2 CSD は読み取り専用として定義されています。

3 CSD には、使用可能なスペースがこれ以上ありません。

4 CSD は別の CICS システムで使用中で、共用できるように構成されていてません。

5 十分でない VSAM ストリング (**CSDSTRNO** システム初期設定パラメーター値) で **EXEC CICS CSD** コマンドを実行できます。

INVREQ

RESP2 値は以下のとおりです。

1 指定された RESTYPE は、有効なリソース・タイプではありません。

4 RESID オプションには、特定のリソース・タイプにおいて無効な文字が 1 つ以上含まれています。

LENGERR

RESP2 値:

1 ATTRLEN オプションで指定された、CICS に渡される ATTRIBUTES データ域の長さが負の値です。

2 ATTRLEN オプションで指定された、CICS に渡される ATTRIBUTES データ域の長さが、戻されるデータ量未満です。

NOTAUTH

RESP2 値:

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

NOTFND

RESP2 値は以下のとおりです。

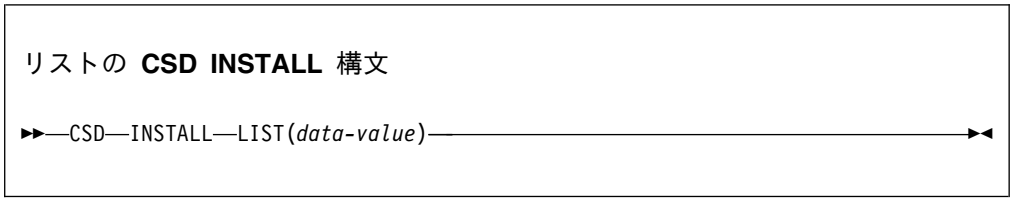
1 指定のリソース定義が見つかりません。

2 指定のグループが見つかりません。

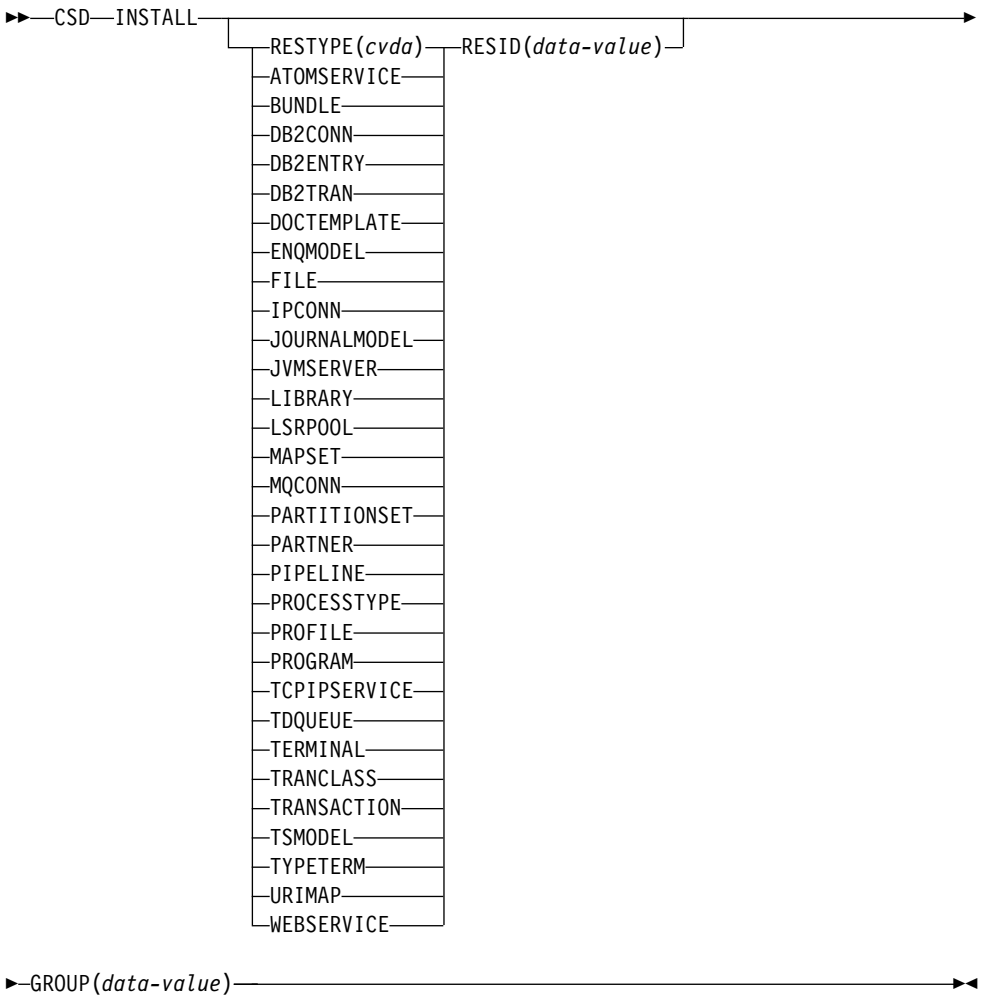
CSD INSTALL

リスト、グループ、またはグループ内の単一のリソース定義を CSD からインストールします。

リストの **CSD INSTALL** 構文



リソース定義またはグループの **CSD INSTALL** 構文



条件: CSDERR、INCOMPLETE、INVREQ、NOTAUTH、NOTFND

説明

CSD INSTALL コマンドは、以下の操作を実行します。

- CSD 内のグループから単一のリソースをインストールします。
- CSD からグループ全体をインストールします。
- CSD からリストをインストールします。

グループ全体またはリストがインストールされた場合、個々のリソースの一部がインストールに失敗することがあります。この場合、INCOMPLETE 条件が立てられて、関連の警告またはエラー・メッセージが CSDE 一時データ・キューに書き込まれます。

単一リソースの INSTALL は、CONNECTION、SESSIONS、または TERMINAL プールではサポートされません。 INSTALL GROUP または INSTALL LIST を使用すると、CONNECTION または TERMINAL プールが 1 つのコマンドでインストールできます。

同期点は、例外条件がコマンドの処理の初期に検出された場合を除いて、**CSD INSTALL** 処理では暗黙的です。リカバリー可能リソースに対するタスクのその同期点までのコミットされていない変更は、コマンドが正常に実行された場合はコミットされ、そうでない場合はロールバックされます。

オプション

GROUP(*data-value***)**
インストールするグループか、インストールする個々のリソース定義を含むグループの 8 文字の名前を指定します。

LIST(*data-value***)**
インストールするリストの 8 文字の名前を指定します。

RESID(*data-value***)**
インストールする個々のリソース定義の 8 文字の名前を指定します。長さが 4 文字しかない TRANSACTION などのリソース名はブランクが 4 つ埋め込まれてから 8 文字のフィールドに渡される必要があります。

RESTYPE(*cvda***)**
インストールするリソースのタイプを指定します。CVDA 値はリソース・タイプ名です。

条件

CSDERR
RESP2 値は以下のとおりです。

1 CSD の読み取りはできません。

4 CSD は別の CICS システムで使用中で、共用できるように構成されていてません。

5 十分でない VSAM ストリング (**CSDSTRNO** システム初期設定パラメーター値) で **EXEC CICS CSD** コマンドを実行できます。

INCOMPLETE
RESP2 値は以下のとおりです。

1 グループまたはリスト全体のインストールが一部分しか正常に行われませんでした。

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

1 RESTYPE に指定されたリソース・タイプが無効です。

2 GROUP オプションには無効な文字が 1 つ以上含まれています。

3 LIST オプションには無効な文字が 1 つ以上含まれています。

4 RESID オプションには無効な文字が 1 つ以上含まれています。

200 このコマンドは、DPLSUBSET の EXECUTIONSET 値で定義したプロ

グラム、または分散プログラム・リンクによって SYNCONRETURN オプションを指定しないでリモート・システムから呼び出されたプログラムで実行されました。

n システムの現行状態が原因で、指定リソースを実行システムに追加しているときにエラーが発生しました。

NOTAUTH

RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

NOTFND

RESP2 値は以下のとおりです。

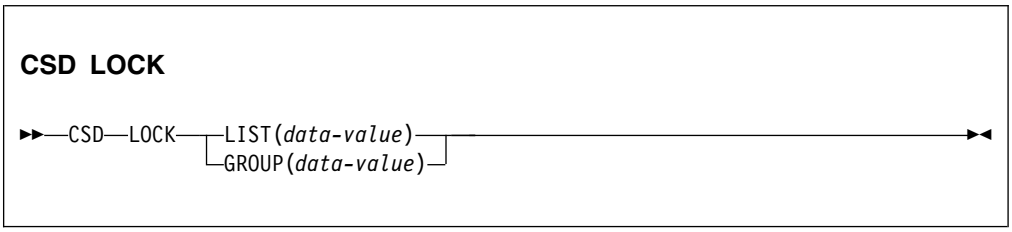
1 指定のリソース定義が見つかりません。

2 指定のグループが見つかりません。

3 指定のリストが見つかりません。

CSD LOCK

グループまたはリストへの更新または削除アクセスを単一のオペレーター ID に制限します。



条件: CSDERR、DUPRES、INVREQ、LOCKED、NOTAUTH

説明

グループまたはリストをロックすると、他のユーザーはこれを表示またはコピーできますが、変更や削除は制限されます。存在しないグループまたはリストをロックして、指定したグループまたはリストを今後自分で使用するために予約することができます。ロックを解放する唯一のコマンドは **UNLOCK** コマンドです。他の RDO コマンドでは、グループやリストのアンロックはできません。例えば、グループ内のすべてのリソースやリスト内のすべてのグループを削除する場合、ロックはそのままになります。

グループやリストへの更新アクセスを制御して、同じオペレーター ID を持ったオペレーターしか変更を行えないようにするには、**LOCK** コマンドと **UNLOCK** コマンドを使用します。

サインオンしていないユーザーや、オペレーター ID (OPIDENT) が異なるユーザーは、ロックされたリストやグループを変更する操作を実行できません。ただし、以下の操作は、ロックされたグループまたはリストに対して、どのユーザーでも実行できます。

- CHECK (CEDA)
- COPY
- DISPLAY (CEDA)
- INQUIRE/BROWSE
- INSTALL
- VIEW (CEDA)

UNLOCK コマンドを使用してロックを解除できるのは、同じシステム上の、同じオペレーター ID を持つユーザーのみです。

同期点は、例外条件がコマンドの処理の初期に検出された場合を除いて、**CSD LOCK** 処理では暗黙的です。リカバリー可能リソースに対するタスクのその同期点までのコミットされていない変更は、コマンドが正常に実行された場合はコミットされ、そうでない場合はロールバックされます。

オプション

GROUP(*data-value***)**
ロックするグループの 8 文字の名前を指定します。

LIST(*data-value***)**
ロックするリストの 8 文字の名前を指定します。

条件

CSDERR
RESP2 値は以下のとおりです。

1 CSD の読み取りはできません。

2 CSD は読み取り専用です。

3 CSD は満杯です。

4 CSD は別の CICS システムで使用中で、共用できるように構成されていてません。

5 十分でない VSAM ストリング (**CSDSTRNO** システム初期設定パラメーター値) で **EXEC CICS CSD** コマンドを実行できます。

DUPRES
RESP2 値は以下のとおりです。

2 GROUP で指定された名前が CSD にリストとして存在します。

3 LIST で指定された名前が CSD にグループとして存在します。

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

2 GROUP オプションには無効な文字が 1 つ以上含まれています。

3 LIST オプションには無効な文字が 1 つ以上含まれています。

200 このコマンドは、DPLSUBSET の EXECUTIONSET 値で定義したプログラム、または分散プログラム・リンクによって SYNCONRETURN オプションを指定しないでリモート・システムから呼び出されたプログラムで実行されました。

LOCKED

RESP2 値は以下のとおりです。

1 このグループまたはリストは別のユーザーに既にロックされています。

2 このグループまたはリストは IBM によって保護されています。

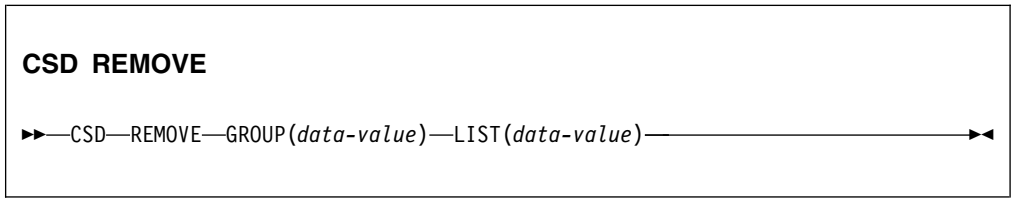
NOTAUTH

RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

CSD REMOVE

CSD 内のリストからグループを除去します。



条件: CSDERR、INVREQ、LOCKED、NOTAUTH、NOTFND

説明

CSD REMOVE コマンドは、リストからグループを除去します。

グループとそのすべてのリソース定義は、CSD ファイルに残っています。リストから最後のグループが除去されると、リストは CSD ファイルからなくなります。

グループが削除される際に、それが入っていたすべてのリストからそのグループが除去されるように要求できます。リストから最後のグループが除去されると、リストが削除されます。

同期点は、例外条件がコマンドの処理の初期に検出された場合を除いて、**CSD REMOVE** 処理では暗黙的です。リカバリー可能リソースに対するタスクのその同期点までのコミットされていない変更は、コマンドが正常に実行された場合はコミットされ、そうでない場合はロールバックされます。

オプション

GROUP(*data-value*)
除去するグループの 8 文字の名前を指定します。

LIST(*data-value*)
グループの除去元であるリストの 8 文字の名前を指定します。

条件

CSDERR

RESP2 値は以下のとおりです。

1 CSD の読み取りはできません。

2 CSD は読み取り専用です。

4 CSD は別の CICS システムで使用中で、共用できるように構成されていてません。

5 十分でない VSAM ストリング (**CSDSTRNO** システム初期設定パラメーター値) で **EXEC CICS CSD** コマンドを実行できます。

INVREQ

RESP2 値は以下のとおりです。

2 GROUP オプションには無効な文字が 1 つ以上含まれています。

3 LIST オプションには無効な文字が 1 つ以上含まれています。

200 このコマンドは、DPLSUBSET の EXECUTIONSET 値で定義したプログラム、または分散プログラム・リンクによって SYNCONRETURN オプションを指定しないでリモート・システムから呼び出されたプログラムで実行されました。

LOCKED

RESP2 値は以下のとおりです。

1 このリストは別のユーザーにロックされているため、更新できません。

2 このリストは IBM によって保護されています。

NOTAUTH

RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

NOTFND

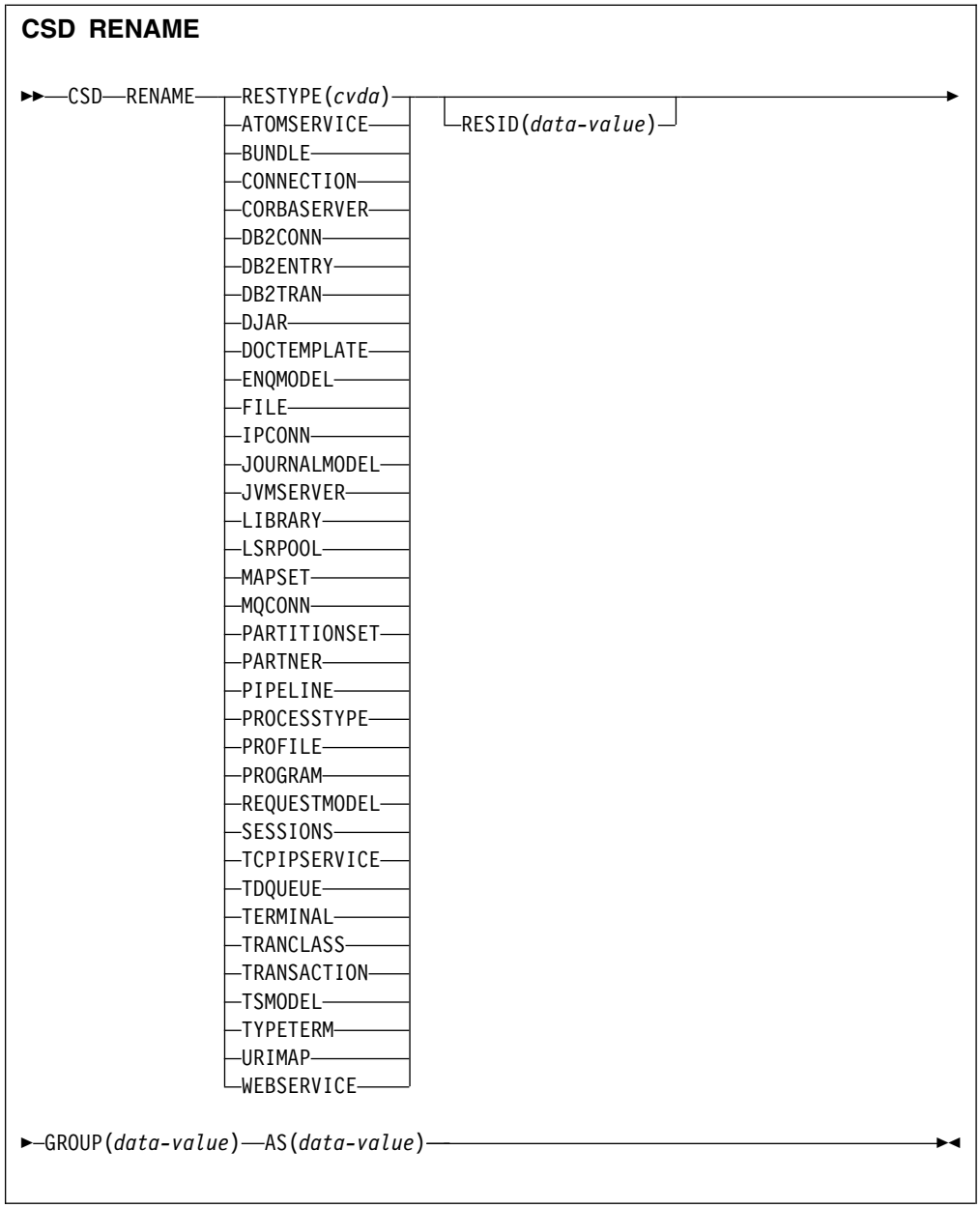
RESP2 値は以下のとおりです。

2 指定のグループが見つかりません。

3 指定のリストが見つかりません。

CSD RENAME

CSD 内のリソース定義を名前変更します。



条件: CSDERR、DUPRES、INVREQ、LOCKED、NOTAUTH、NOTFND

説明

CSD RENAME コマンドは、指定されたグループにある個々のリソース定義を名前変更します。

同期点は、例外条件がコマンドの処理の初期に検出された場合を除いて、**CSD RENAME** 処理では暗黙的です。リカバリー可能リソースに対するタスクのその同期点までのコミットされていない変更は、コマンドが正常に実行された場合はコミットされ、そうでない場合はロールバックされます。

オプション

AS(*data-value*)
リソース定義の新しい 8 文字の名前を指定します。名前が 4 文字のリソースの場合は、この値の先頭 4 文字が使用されます。

GROUP(*data-value*)
名前変更するリソース定義を含むグループの 8 文字の名前を指定します。

RESID(*data-value*)
名前変更するリソースの 8 文字の名前を指定します。長さが 4 文字しかないリソース名は、ブランクが 4 つ埋め込まれてから 8 文字のフィールドに渡される必要があります。

条件

CSDERR
RESP2 値は以下のとおりです。

1 CSD の読み取りはできません。

2 CSD は読み取り専用です。

4 CSD は別の CICS システムで使用中で、共用できるように構成されていてません。

5 十分でない VSAM ストリング (**CSDSTRNO** システム初期設定パラメーター値) で **EXEC CICS CSD** コマンドを実行できます。

DUPRES
RESP2 値:

1 指定のリソース定義が既に存在します。

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

1 RESTYPE に指定されたリソース・タイプが無効です。

2 GROUP オプションには無効な文字が 1 つ以上含まれています。

4 RESID または AS オプションには無効な文字が 1 つ以上含まれています。

200 このコマンドは、DPLSUBSET の EXECUTIONSET 値で定義したプログラム、または分散プログラム・リンクによって SYNCONRETURN オプションを指定しないでリモート・システムから呼び出されたプログラムで実行されました。

LOCKED
RESP2 値は以下のとおりです。

1 指定されたグループは別のユーザーに既にロックされています。

2 このグループは IBM によって保護されています。

NOTAUTH
RESP2 値:

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

NOTFND

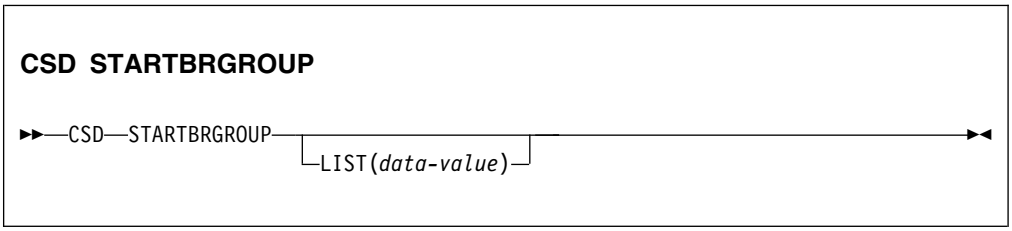
RESP2 値は以下のとおりです。

1 指定のリソース定義が見つかりません。

2 指定のグループが見つかりません。

CSD STARTBRGROUP

CSD 内のグループまたはリスト内のグループのブラウズを開始します。



条件: CSDERR、 ILLOGIC、NOTAUTH、NOTFND

説明

CSD STARTBRGROUP コマンドは、CSD グループのブラウズを開始します。CSD 内のすべてのグループ、または指定されたリスト内のすべてのグループがブラウズの対象になります。

同時ブラウズの規則

CSD で使用できるブラウズには、次の 4 つの異なるタイプがあります。

1. CSD 内のすべてのリストの LIST ブラウズ。
2. CSD 内のすべてのグループの ALL GROUPS ブラウズ。
3. 指定されたリスト内のすべてのグループの GROUPS IN LIST ブラウズ。
4. 指定されたグループ内のすべてのリソースの RESOURCE ブラウズ。

同じトランザクションでの同時ブラウズを管理する規則は、以下のとおりです。

- 同じタイプの同時ブラウズは許可されない。
- LIST と ALL GROUPS の同時ブラウズは許可されない。
- GROUPS IN LIST と RESOURCE の同時ブラウズは許可されない。

これらの規則に反した場合、ILLOGIC 条件が出されます。

例えば、CSD 内のすべてのグループをブラウズし、各グループが返された後にその内のすべてのリソースをブラウズすることは許可されます。

オプション

LIST(*data-value*)

ブラウズを限定するリストの 8 文字の名前を指定します。このオプションを指定しないと、ブラウズで、CSD 内のすべてのグループが戻されます。

条件

CSDERR
RESP2 値は以下のとおりです。

1 CSD の読み取りはできません。

4 CSD は別の CICS システムで使用中で、共用できるように構成されていてません。

5 十分でない VSAM ストリング (**CSDSTRNO** システム初期設定パラメーター値) で **EXEC CICS CSD** コマンドを実行できます。

ILLOGIC
RESP2 値は以下のとおりです。

2 同じタイプまたは競合するタイプのブラウズが既に進行中です。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

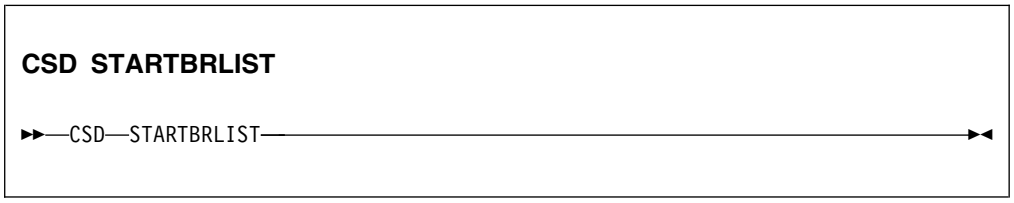
100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

NOTFND
RESP2 値は以下のとおりです。

3 指定のリストが見つかりません。

CSD STARTBRLIST

CSD 内のリストのブラウズを開始します。



条件**:** CSDERR、ILLOGIC、NOTAUTH、

説明

CSD STARTBRLIST コマンドは、CSD 内のすべてのリストのブラウズを開始します。

同時ブラウズの規則

CSD で使用できるブラウズには、次の 4 つの異なるタイプがあります。

1. CSD 内のすべてのリストの LIST ブラウズ。
2. CSD 内のすべてのグループの ALL GROUPS ブラウズ。
3. 指定されたリスト内のすべてのグループの GROUPS IN LIST ブラウズ。
4. 指定されたグループ内のすべてのリソースの RESOURCE ブラウズ。

同じトランザクションでの同時ブラウズを管理する規則は、以下のとおりです。

- 同じタイプの同時ブラウズは許可されない。
- LIST と ALL GROUPS の同時ブラウズは許可されない。
- GROUPS IN LIST と RESOURCE の同時ブラウズは許可されない。

これらの規則に反した場合、ILLOGIC 条件が出されます。

例えば、CSD 内のすべてのグループをブラウズし、各グループが返された後にその内のすべてのリソースをブラウズすることは許可されます。

条件

CSDERR
RESP2 値は以下のとおりです。

1 CSD の読み取りはできません。

4 CSD は別の CICS システムで使用中で、共用できるように構成されていてません。

5 十分でない VSAM ストリング (**CSDSTRNO** システム初期設定パラメーター値) で **EXEC CICS CSD** コマンドを実行できます。

ILLOGIC
RESP2 値は以下のとおりです。

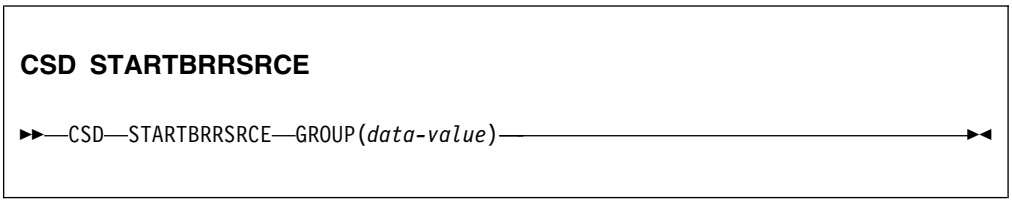
2 リスト・ブラウズまたは競合ブラウズが既に進行中です。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

CSD STARTBRRSRCE

指定されたグループ内のリソースの現在のブラウズを開始します。



条件: CSDERR、ILLOGIC、NOTAUTH。NOTFND

説明

CSD STARTBRRSRCE コマンドは、指定されたグループにあるすべてのリソース定義のブラウズを開始します。

同時ブラウズの規則

CSD で使用できるブラウズには、次の 4 つの異なるタイプがあります。

1. CSD 内のすべてのリストの LIST ブラウズ。

2. CSD 内のすべてのグループの ALL GROUPS ブラウズ。
3. 指定されたリスト内のすべてのグループの GROUPS IN LIST ブラウズ。
4. 指定されたグループ内のすべてのリソースの RESOURCE ブラウズ。

同じトランザクションでの同時ブラウズを管理する規則は、以下のとおりです。

- 同じタイプの同時ブラウズは許可されない。
- LIST と ALL GROUPS の同時ブラウズは許可されない。
- GROUPS IN LIST と RESOURCE の同時ブラウズは許可されない。

これらの規則に反した場合、ILLOGIC 条件が出されます。

例えば、CSD 内のすべてのグループをブラウズし、各グループが返された後にその内のすべてのリソースをブラウズすることは許可されます。

オプション

GROUP(*data-value*)
ブラウズするグループの 8 文字の名前を指定します。

条件

CSDERR
RESP2 値は以下のとおりです。

1 CSD の読み取りはできません。

4 CSD は別の CICS システムで使用中で、共用できるように構成されていてません。

5 十分でない VSAM ストリング (**CSDSTRNO** システム初期設定パラメーター値) で **EXEC CICS CSD** コマンドを実行できます。

ILLOGIC
RESP2 値は以下のとおりです。

2 リソース・ブラウズまたは競合ブラウズが既に進行中です。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

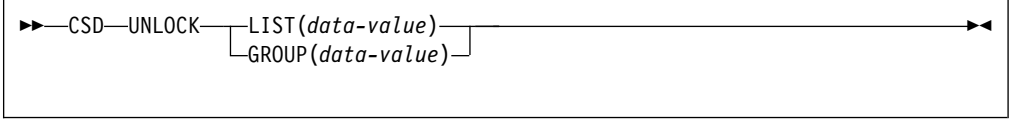
NOTFND
RESP2 値は以下のとおりです。

2 指定のグループが見つかりません。

CSD UNLOCK

定義のグループまたはリストからロックを解除します。

CSD UNLOCK



条件: CSDERR、DUPRES、INVREQ、LOCKED、NOTAUTH

説明

UNLOCK コマンドは、以前 **LOCK** コマンドで追加されたロックをグループまたはリストから解除します。

同期点は、例外条件がコマンドの処理の初期に検出された場合を除いて、**CSD UNLOCK** 処理では暗黙的です。リカバリー可能リソースに対するタスクのその同期点までのコミットされていない変更は、コマンドが正常に実行された場合はコミットされ、そうでない場合はロールバックされます。

オプション

GROUP(*data-value***)**
アンロックするグループの 8 文字の名前を指定します。

LIST(*data-value***)**
アンロックするリストの 8 文字の名前を指定します。

条件

CSDERR
RESP2 値は以下のとおりです。

1 CSD の読み取りはできません。

2 CSD は読み取り専用です。

4 CSD は別の CICS システムで使用中で、共用できるように構成されていてません。

5 十分でない VSAM ストリング (**CSDSTRNO** システム初期設定パラメーター値) で **EXEC CICS CSD** コマンドを実行できます。

DUPRES
RESP2 値は以下のとおりです。

2 GROUP で指定された名前が CSD にリストとして存在します。

3 LIST で指定された名前が CSD にグループとして存在します。

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

2 GROUP オプションには無効な文字が 1 つ以上含まれています。

3 LIST オプションには無効な文字が 1 つ以上含まれています。

200 このコマンドは、DPLSUBSET の EXECUTIONSET 値で定義したプロ

グラム、または分散プログラム・リンクによって SYNCONRETURN オプションを指定しないでリモート・システムから呼び出されたプログラムで実行されました。

LOCKED

RESP2 値は以下のとおりです。

1 指定されたグループまたはリストは別のユーザーに既にロックされています。

2 このグループまたはリストは IBM によって保護されています。

NOTAUTH

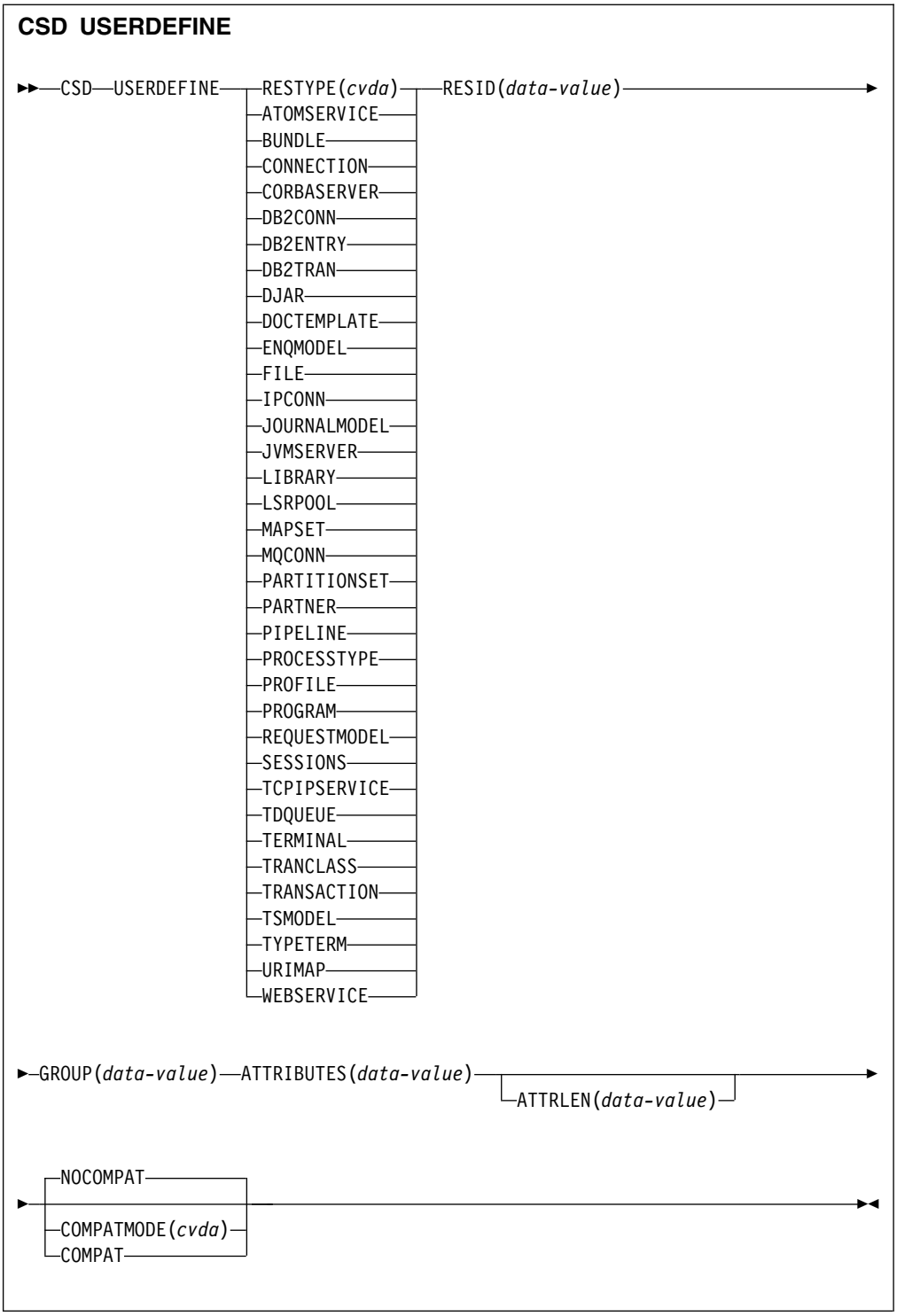
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

CSD USERDEFINE

ユーザー指定のデフォルト値を持つ新しいリソース定義を CSD に作成します。

CSD USERDEFINE



条件:
CSDERR、DUPRES、INVREQ、LENGERR、LOCKED、NOTAUTH、NOTFND

説明

USERDEFINE は、**DEFINE** コマンドの代替コマンドです。**USERDEFINE** は、CICS 提供のデフォルト値を使用するのではなく、独自のデフォルトを使用します。それ以外では、DEFINE とまったく同じ動作をします。

独自のデフォルトをセットアップするには、**DEFINE** を使用して、USERDEF という名前のグループに USER という名前でダミーのリソース定義を作成します。それぞれのダミー・リソース定義は完全でなければなりません。例えば、トランザクションを **USERDEFINE** するときに常にプログラム名を提供するとしても、トランザクション定義でプログラム定義の名前を指定する必要があります。 **USERDEFINE** を使用する前にダミーのリソース定義をインストールする必要はありません。

デフォルト値を設定しようとするリソースのタイプごとに、ダミーのリソース定義を作成します。それぞれの名前は USER ですが、それらは別々のリソースの定義であるため、固有の名前になります。

同期点は、例外条件がコマンドの処理の初期に検出された場合を除いて、**CSD USERDEFINE** 処理では暗黙的です。リカバリー可能リソースに対するタスクのその同期点までのコミットされていない変更は、コマンドが正常に実行された場合はコミットされ、そうでない場合はロールバックされます。

オプション

ATTRIBUTES(*data-value***)**
新しいリソースの属性を指定します。属性リストを、単一の文字ストリングとしてコーディングします。

特定の属性の詳細については RDO resourcesを参照してください。

ATTRLEN(*data-value***)**
ATTRIBUTES オプションで提供される文字ストリングのバイト単位の長さを、フルワード・バイナリー値として指定します。

COMPATMODE(*cvda***)**
廃止された属性が、このコマンドに対する ATTRIBUTES ストリングで許可されるかどうかを指定します。次のいずれかの CVDA 値を指定します。

COMPAT
廃止されたリソース属性は、このコマンドに対する ATTRIBUTES ストリングで許可されます。

NOCOMPAT
廃止されたリソース属性は、このコマンドに対する ATTRIBUTES ストリングで許可されません。

デフォルトは NOCOMPAT です。

GROUP(*data-value***)**
リソース定義が属するグループの 8 文字の名前を指定します。

RESID(*data-value***)**
変更するリソースの 8 文字の名前を指定します。4 文字しかない TRANSACTION などのリソース名はブランクが 4 つ埋め込まれてから 8 文字のフィールドに渡される必要があります。

RESTYPE(*cvda***)**
定義するリソースのタイプを指定します。CVDA 値はリソース・タイプ名です。

条件

CSDERR
RESP2 値は以下のとおりです。

1 CSD の読み取りはできません。

2 CSD は読み取り専用です。

3 CSD は満杯です。

4 CSD は別の CICS システムで使用中で、共用できるように構成されていてません。

5 十分でない VSAM ストリング (**CSDSTRNO** システム初期設定パラメーター値) で **EXEC CICS CSD** コマンドを実行できます。

DUPRES
RESP2 値は以下のとおりです。

1 この名前とタイプを持つリソースは指定グループに既に存在します。

2 指定されたグループは存在しませんでしたが、同じ名前のリストが CSD に既に存在するため、グループを作成できませんでした。

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

1 RESTYPE に指定されたリソース・タイプが無効です。

2 GROUP オプションには無効な文字が 1 つ以上含まれています。

11 COMPATMODE に指定された値が無効です。

200 このコマンドは、DPLSUBSE の EXECUTIONSET 値で定義したプログラム、または分散プログラム・リンクによって SYNCONRETURN オプションを指定しないでリモート・システムから呼び出されたプログラムで実行されました。

n ATTRIBUTES ストリングに構文エラーがあるか、RESID に無効な文字が含まれています。

LENGERR
RESP2 値:

1 ATTRLEN で指定した長さが負の数です。

LOCKED
RESP2 値:

1 指定されたグループは別のユーザーにロックされています。

2 このグループは IBM によって保護されています。

NOTAUTH
RESP2 値:

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

NOTFND

RESP2 値は以下のとおりです。

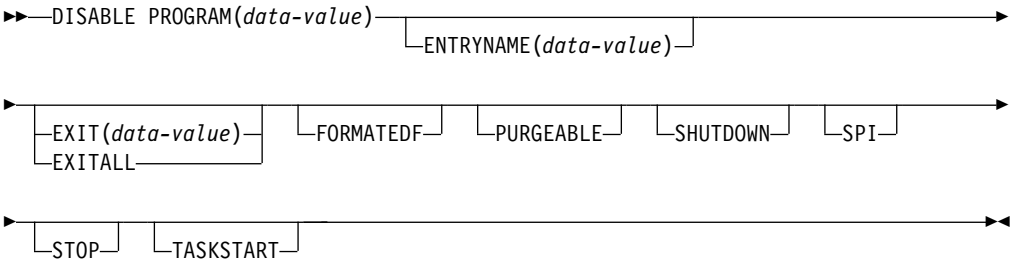
5 グループ USERDEF が見つかりません。

6 USER という名前の必須タイプのリソースが、グループ USERDEF に見つかりません。

DISABLE PROGRAM

ユーザー出口の呼び出しを強制終了するか、そうしない場合は変更します。

DISABLE PROGRAM



条件**:** INVEXITREQ、NOTAUTH

説明

DISABLE PROGRAM コマンドは、グローバル・ユーザー出口またはタスク関連ユーザー出口の状況を変更して、**ENABLE PROGRAM** コマンドの対応するオプションの効果を取り消します。

このコマンドを使用して以下を行うことができます。

- 特定の出口が呼び出される点を除去する
- 出口を実行不能にする (出口としての状態を取り消さずに)
- 出口としての定義を完全に削除する

DISABLE PROGRAM コマンドのオプションは、**ENABLE** コマンドのオプションに対応します。

- ENTRYNAME と PROGRAM は、無効にする出口を識別します。出口を定義した ENABLE コマンドで使用したのとまったく同じ値の組み合わせを使用する必要があります。
- EXIT、FORMATEDF、SHUTDOWN、および TASKSTART は、**ENABLE PROGRAM** で同じ名前のオプションの効果を取り消します。すなわち、指定された点で出口の呼び出しをオフにします。
- STOP は START の効果を取り消して、出口を実行不能にします。

- EXITALL は定義を完全に削除して、出口を作成した **ENABLE PROGRAM** の効果を取り消します。出口に関連付けられている作業域とロード・モジュールも削除できます。

CICS 出口に関するプログラミング情報については、Global user exit programs およびTask-related user exit programsを参照してください。出口を変更するコマンドの一般的な説明については、出口関連コマンドも参照してください。

注: グローバル・ユーザー出口には、1 つ以上の STOP、EXIT、および EXITALL が必要であり、タスク関連ユーザー出口には、1 つ以上の STOP、EXITALL、TASKSTART、SHUTDOWN、および FORMATEDF が必要です。

オプション

ENTRYNAME(*data-value***)**
状況を変更するグローバル・ユーザー出口またはタスク関連ユーザー出口の名前を指定します。ENTRYNAME を省略した場合、CICS は出口の名前を、PROGRAM オプションで指定されたロード・モジュール名と同じであると想定します。したがって、DISABLE コマンドの ENTRYNAME 値と PROGRAM 値の組み合わせは、出口を定義した最初の ENABLE コマンドで指定されたのと同じ組み合わせを使用する必要があります。

EXIT(*data-value***) (グローバル・ユーザー出口のみ)**
この出口プログラムが分離される元のグローバル・ユーザー出口点の名前を指定します。これにより、CICS はこの点で出口の呼び出しを停止しますが、出口点で使用されなくなった場合であっても、CICS が仮想記憶域から関連のロード・モジュールを削除することはありません。出口点の名前の長さは 8 文字です。

EXITALL
CICS に出口の定義を破棄させます。グローバル・ユーザー出口の場合、EXITALL は、現在呼び出されている元のすべて の出口点から出口を分離します。可能な場合、関連したロード・モジュールは仮想記憶域から削除されます。

タスク関連ユーザー出口の場合、別の出口で使用中でない場合、および ENTRY オプションが、出口を定義した ENABLE コマンドで指定されなかった場合、関連したロード・モジュールは仮想記憶域から削除されます。出口がグローバル作業域を所有している場合、その作業域を共用している他の出口がなくなったらただちに、その作業域は解放されます。

EXITALL は暗黙で STOP を指定します。そのため、出口は実行できなくなります。タスク関連ユーザー出口の場合、出口を使用していたすべてのタスクが終了するまで、この機能を要求しないようにする必要があります。その点より前に EXITALL を使用した結果は、予測不能です。すなわち、タスク開始呼び出し、タスク終了呼び出し、シャットダウン呼び出しでは、すべてのタスク関連ユーザー出口が呼び出され、**DISABLE EXITALL** コマンドが現行 TRUE から発行される場合、呼び出される TRUE の数は予測不能です。出口をリフレッシュする必要が生じた場合、TRUE は、STOP オプションを使用してそれ自体を使用不可にし、EXITALL オプションを指定した DISABLE を発行する別のタスクを呼び出します。

FORMATEDF (タスク関連ユーザー出口のみ)
EDF 画面をフォーマット設定するために出口を呼び出さないことを示します。FORMATEDF を指定した ENABLE コマンドを使用して、EDF 点で呼び出しを復元できます。

PROGRAM(*data-value*)
出口のエントリー・ポイントを含むロード・モジュールの 8 文字の名前を指定します。 ENTRYNAME が指定されない場合、この名前は出口の名前としても使用されます。ENTRYNAME オプションを参照してください。

PURGEABLE (タスク関連ユーザー出口のみ)
タスク関連ユーザー出口でアクティブである間、CICS 待機からのパージを不可にします。これは、ENABLE コマンドに PURGEABLE を指定してオンにすることができます。

SHUTDOWN (タスク関連ユーザー出口のみ)
CICS シャットダウンで出口を呼び出さないことを示します。SHUTDOWN を指定した ENABLE コマンドを使用して、シャットダウンで呼び出しを復元できます。

SPI (タスク関連ユーザー出口のみ)
INQUIRE EXITPROGRAM コマンドが CONNECTST オプションまたは QUALIFIER オプション、あるいはその両方を指定する場合に、タスク関連ユーザー出口が呼び出されなくなったことを指定します。

STOP
出口を実行不能にするにもかかわらず、出口は有効なままである (出口として定義) ことを指定します。ENABLE コマンドに START を指定すると、出口を再度実行可能にすることができます。

停止されたタスク関連ユーザー出口が呼び出されると、呼び出し元コードは AEY9 異常終了コードを受け取ります。グローバル・ユーザー出口には対応するエラーはありませんが、これは CICS が、実行にも使用できる出口点に関連付けられた (停止していない) 出口のみを呼び出すためです。

TASKSTART (タスク関連ユーザー出口のみ)
各タスクの開始時および終了時に出口を呼び出さないことを示します。TASKSTART を指定した ENABLE コマンドを使用して、これらの呼び出しを復元できます。

条件

INVEXITREQ
DISABLE コマンドの INVEXITREQ 条件は、EIBRCODE の最初のバイトの X'80' によって示されます。エラーの正確な原因は、EIBRCODE の 2 番目と 3 番目のバイトを調べることで判別できます。これには、以下のリストに示されている値があります。

X'808000'
PROGRAM パラメーターで指定されているロード・モジュールが、CICS に対して定義されていないか、ロード・モジュールがロード・ライブラリー内にないか、またはロード・モジュールが使用不可になっています。さらに、RESP2 値 1 が返されます。

X'804000'
EXIT の値が有効な出口点ではありません。さらに、RESP2 値 2 が返されます。

X'800200'
PROGRAM 値で識別される出口が、出口として定義されていません。さらに、RESP2 値 7 が返されます。

X'800100'
ENTRYNAME で識別される出口が、出口として定義されていません。さらに、RESP2 値 8 が返されます。

X'800080'
現在、出口は別のタスクによって呼び出されています (注を参照)。さらに、RESP2 値 9 が返されます。

注**:** 以下の場合、2 番目と 3 番目のバイトに X'0080' がある INVEXITREQ 条件が発生する可能性があります。

- 出口内で CICS サービスに対する要求があるため、出口を使用するタスクが一時的に中断されている間に、DISABLE 要求を発行する場合。この条件に対する通常のアクションは、DISABLE 要求の再試行です。
- 別のタスクが出口を使用しているにもかかわらず、異なるタスク制御ブロック (TCB) で実行されている間に、DISABLE 要求を発行する場合。この条件に対する通常のアクションは、DISABLE 要求の再試行です。
- EXITALL または EXIT を使用する DISABLE 要求が指定されたにもかかわらず、出口がすでに異常終了していた場合。この場合、関連したロード・モジュールの使用回数はゼロより大きいままです。出口を出口点から分離できず、ロード・モジュールを仮想記憶域から削除できません。ただし、DISABLE STOP コマンドを発行すると、出口を実行不能にすることができます。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

101 発行中のタスクに関連付けられているユーザーには、このコマンドが要求する方法でこの特定のリソースにアクセスする権限がありません。

例

1. 以下の例では、出口 EP2 を実行不能にします。関連付けられている出口点から分離しませんが、出口としての定義を削除します。ENABLE PROGRAM('EP2') START コマンドを発行すると、再度使用可能にすることができます。

```
EXEC CICS DISABLE PROGRAM('EP2') STOP
```

2. 次の例では、グローバル・ユーザー出口 ZX を出口点 XTDREQ で呼び出しません。ただし、ZX はまだ定義されているため、他の出口点に関連付けられている場合は、それらの出口点で引き続き呼び出されます。

```
EXEC CICS DISABLE ENTRYNAME ('ZX') PROGRAM('EP3')
EXIT('XTDREQ')
```

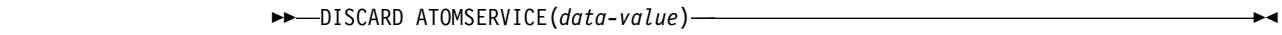
3. 次の例では、呼び出しが要求されるすべての点 (グローバル・ユーザー出口の場合は出口点、タスク関連ユーザー出口の場合はタスク開始、シャットダウンなど) から EP3 を分離し、出口の定義を破棄します。ロード・モジュール EP3 は使用中でない場合、削除されます。

```
EXEC CICS DISABLE PROGRAM('EP3') EXITALL
```

DISCARD ATOMSERVICE

システムから ATOMSERVICE リソース定義を除去します。

DISCARD ATOMSERVICE



条件**:** INVREQ、NOTAUTH、NOTFND

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

DISCARD ATOMSERVICE コマンドは、使用不可になった ATOMSERVICE 定義をシステムから除去します。

オプション

ATOMSERVICE*(data-value)*
除去する ATOMSERVICE 定義の 8 文字の名前を指定します。

条件

INVREQ
RESP2 の値は次のとおりです。

4 ATOMSERVICE は使用不可ではありません。

200 このコマンドは、DPLSUBSET の EXECUTIONSET 値で定義したプログラム、または分散プログラム・リンクによって SYNCONRETURN オプションを指定しないでリモート・システムから呼び出されたプログラムで実行されました。

NOTAUTH
RESP2 値:

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

101 発行中のタスクに関連付けられているユーザーには、このコマンドが要求する方法でこの特定のリソースにアクセスする権限がありません。

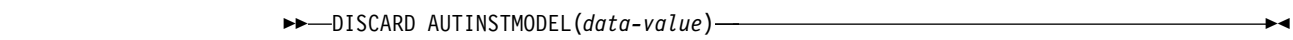
NOTFND
RESP2 値:

3 ATOMSERVICE が見つかりません。

DISCARD AUTINSTMODEL

端末自動インストール・モデル定義を除去します。

DISCARD AUTINSTMODEL



条件: INVREQ、MODELIDERR、NOTAUTH

説明

DISCARD AUTINSTMODEL コマンドは、ローカル CICS システム内の TERMINAL 定義を、端末の自動インストール用のモデルとして不適格にします。TERMINAL 定義は破棄されることも、別の方法で変更されることもありません。選択可能な自動インストール・モデルのリストから除去されるだけです。(端末の定義を除去したい場合は、DISCARD TERMINAL コマンドを使用します。)

破棄に関する一般情報については、リソース定義の廃棄を参照してください。

オプション

AUTINSTMODEL(*data-value*)
除去する自動インストール・モデルの 8 文字の名前を指定します。これは、モデルを定義する TERMINAL 定義の AUTINSTNAME オプションで指定された名前、または AUTINSTNAME が指定されなかった場合は端末の名前です。

名前が文字 DFH で始まるモデルは、CICS 提供のモデルと見なされ、破棄できません。

条件

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

2 要求したモデルは、現在使用中です。

3 名前が DFH で始まっているため、モデルを破棄できません。

MODELIDERR
RESP2 値は以下のとおりです。

1 モデルが見つかりません。

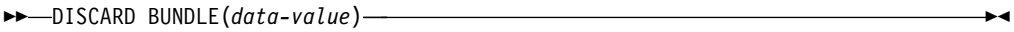
NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

DISCARD BUNDLE

BUNDLE 定義を除去します。

DISCARD BUNDLE



条件: INVREQ、NOTAUTH、NOTFND

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

DISCARD BUNDLE コマンドを使用して、CSD またはデータ・リポジトリーからバンドル・リソース定義を完全に削除します。 CICS バンドルを破棄する前に、以下を実行する必要があります。

- バンドルを使用不可にします。これが必要な理由は、**DISCARD BUNDLE** コマンド自体は関連する CICS バンドルの破棄を試行する前に、それらを使用不可にする操作を試行しないためです。
- CICS バンドルが最初にデプロイされたときに動的に作成されたすべてのリソースが、使用不可になっていることを確認します。 INQUIRE BUNDLEPART コマンドを使用すると、インストール済み BUNDLE リソースに含まれているリソースを参照できます。すべてのリソースの状況が DISABLED または UNUSABLE である場合は、バンドルを破棄できます。

バンドルの作成時にリソースを何も含めなかった場合は、バンドルを使用不可にすることができません。ただし、使用可能になっている空のバンドルを破棄することはできます。

プラットフォームまたはアプリケーションによってインストールされた CICS バンドルを別個に破棄することはできません。プラットフォームによってインストールされたバンドルを除去するには、CICS Explorer® を使用します。これにより、プラットフォーム内の領域タイプからバンドルが除去されます。アプリケーションによってインストールされたバンドルを除去するには、アプリケーションを使用不可にして、破棄します。これにより、バンドルは自動的に除去されます。

オプション

BUNDLE(*data-value***)**
破棄する BUNDLE リソース定義の 8 文字の名前を指定します。

条件

INVREQ
RESP2 値:

5 バンドルは使用不可ではありません。

6 バンドルは無効な状態になっています (バンドルには、ENABLED になっているリソースが含まれている可能性があります)。バンドルを破棄する場合は、その前にこれを使用不可に設定する必要があります。

7 CICS が、登録されたバンドル・コールバック・プログラムへのリンクに失敗しました。

8 破棄は許可されません。バンドルは、インストールされたプラットフォームまたはアプリケーションの一部です。

NOTAUTH

RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

101 発行中のタスクに関連付けられているユーザーには、このコマンドが要求する方法でこの特定のリソースにアクセスする権限がありません。

NOTFND

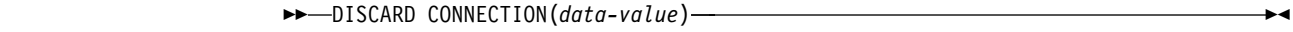
RESP2 値は以下のとおりです。

3 バンドルが見つかりません。

DISCARD CONNECTION

CONNECTION 定義を除去します。

DISCARD CONNECTION



条件: INVREQ、NOTAUTH、SYSIDERR

説明

DISCARD CONNECTION コマンドは、ローカル CICS システムから CONNECTION 定義を除去します。接続を除去すると、関連したセッションもすべて除去されます。

削除が正常に実行されるためには、以下の点に注意してください。

- リモートである (すなわち、ローカル領域の名前とは異なる REMOTESYSTEM 値がある) 場合、接続にはアクティブ・セッションはなく、リモートでない場合は OUTSERVICE 状況でなければなりません。
- 接続が MRO 接続である場合、領域間通信機能が閉じた状態でなければなりません。(この機能を閉じるには、SET IRC CLOSED コマンドを使用します。)
- 接続が APPC 接続であり、ローカル CICS システムが z/OS Communications Server 汎用リソース・グループのメンバーである場合、処理中の据え置き作業はありません。失敗が原因で、SYNCLEVEL 2 の接続でセッションを使用した作業単位が「中断」される際には、据え置き作業が生じます (処理を完了するにはリカバリー・アクションが必要であるため、後処理のために保持されます)。

  他のタイプの接続で未解決のリカバリー作業があっても、その接続を破棄することができます。ただし、そのような場合は破棄しないことをお勧めします。INQUIRE CONNECTION RECOVSTATUS コマンドを使用することにより確認できます。
- 破棄する接続を指し示す間接 CONNECTION 定義はありません。

注: 特殊な状況では、一部のセッションが引き続きサービス中である場合、サービス休止時であっても、LU6.1 接続の破棄は失敗します。その場合は、接続状況を INSERVICE に設定し、次に OUTSERVICE に設定してから、DISCARD コマンドを再発行してください。

CICS は、発行中のタスクの代わりに暗黙的な同期点を使用して、正常な DISCARD CONNECTION 処理を完了し、タスク内のその点までのリカバリー可能リソースに対する変更をコミットします。破棄処理が失敗した場合、CICS は、RESP2 値が 27 の INVREQ 例外条件を出し、代わりに SYNCPOINT ROLLBACK を実行してリカバリー可能リソースに対する変更をロールバックします。ただし、それ以外のすべての例外条件では、破棄処理は試行されず、SYNCPOINT も SYNCPOINT ROLLBACK も発行されません。

DISCARD コマンドの一般情報については、リソース定義の廃棄を参照してください。

オプション

CONNECTION(*data-value*)
破棄する CONNECTION 定義の 4 文字の ID を指定します。

条件

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

24 接続はリモートで、ローカルで使用中です。

25 接続はローカルで、サービス休止ではありません。

26 破棄が許可されるまでに解決しておく必要がある接続のリカバリー情報が未解決です。

27 破棄処理が失敗しました。

28 間接接続が接続を指し示します。

29 接続が MRO 接続であり、IRC が閉じていません。

38 この接続の破棄はすでに進行中です。

39 CONNECTION 定義は現在使用中です。

200 このコマンドは、DPLSUBSET の EXECUTIONSET 値で定義したプログラム、または分散プログラム・リンクによって SYNCONRETURN オプションを指定しないでリモート・システムから呼び出されたプログラムで実行されました。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

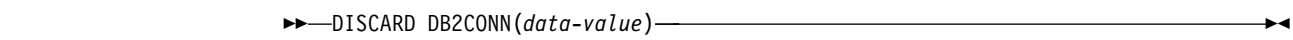
SYSIDERR
RESP2 値は以下のとおりです。

9 接続が見つかりません。

DISCARD DB2CONN

DB2CONN 定義を除去します。

DISCARD DB2CONN



条件: INVREQ、NOTAUTH、NOTFND

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

DISCARD DB2CONN コマンドは、ローカル CICS システムから DB2CONN の定義を除去します。つまり、以前にインストールされた DB2CONN リソース定義を取り消します。

DB2CONN を破棄できるのは、CICS Db2 インターフェースがアクティブでないときだけです。

要確認: DB2CONN を破棄すると、現在インストールされているすべての DB2ENTRY と DB2TRAN も暗黙的に破棄されます。

オプション

なし

条件

INVREQ

RESP2 値は以下のとおりです。

2 CICS Db2 インターフェースがアクティブです。

NOTAUTH

RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

NOTFND

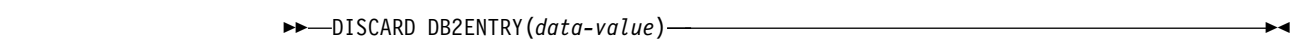
RESP2 値は以下のとおりです。

1 DB2CONN が見つかりません。

DISCARD DB2ENTRY

DB2ENTRY 定義を除去します。

DISCARD DB2ENTRY



条件: NOTFND、INVREQ、NOTAUTH

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

DISCARD DB2ENTRY コマンドは、ローカル CICS システムから DB2ENTRY の定義を除去します。これにより、システムはその DB2ENTRY にアクセスできなくなります。つまり、このコマンドは、以前に同じ名前でインストールされた DB2ENTRY リソース定義を取り消します。

DB2ENTRY は、定義を破棄するには使用不可になっていなければなりません。

オプション

DB2ENTRY(*data-value***)**
除去される DB2ENTRY の 8 文字の名前を指定します。

条件

NOTFND
RESP2 値は以下のとおりです。

1 DB2ENTRY が見つかりません。

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

2 DB2ENTRY は現在使用中です。

3 DB2ENTRY は使用不可ではありません。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

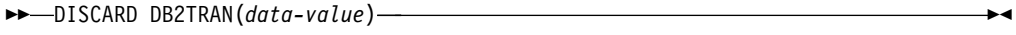
100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

101 発行中のタスクに関連したユーザーは、このコマンドに必要な方法でこの特定のリソースにアクセスすることを許可されていません。

DISCARD DB2TRAN

DB2TRAN 定義を除去します。

DISCARD DB2TRAN



条件: NOTFND、NOTAUTH

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

DISCARD DB2TRAN コマンドは、ローカル CICS システムから DB2TRAN の定義を除去します。これにより、DB2TRAN で指定されたトランザクション ID は指定の DB2ENTRY を使用しなくなります。つまり、このコマンドは、以前に同じ名前でインストールされた DB2TRAN リソース定義を取り消します。

DB2TRAN は、任意の時点で破棄できます。

オプション

DB2TRAN(*data-value***)**
除去する DB2TRAN の 8 文字の名前を指定します。

条件

NOTFND
RESP2 値は以下のとおりです。

1 DB2TRAN が見つかりません。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

101 発行中のタスクに関連したユーザーは、このコマンドが必要とする方法で、この DB2TRAN で参照される DB2ENTRY にアクセスすることを許可されていません。

DISCARD DOCTEMPLATE

文書テンプレートを削除します。

DISCARD DOCTEMPLATE

条件: NOTAUTH、NOTFND

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

DISCARD DOCTEMPLATE コマンドはローカル CICS システムから文書テンプレート定義を削除するため、システムはリソースにアクセスできなくなります (つまり、同じ名前の DOCTEMPLATE 定義の以前のインストールを取り消します)。

破棄に関する一般情報については、リソース定義の廃棄を参照してください。

オプション

DOCTEMPLATE(*data-value***)**
削除する DOCTEMPLATE 定義の 8 文字の名前を指定します。

条件

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

101 発行中のタスクに関連付けられているユーザーは、この DOCTEMPLATE リソース定義に、このコマンドで必要とされる方法でアクセスすることを許可されていません。

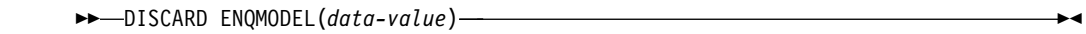
NOTFND
RESP2 値は以下のとおりです。

1 指定の DOCTEMPLATE リソース定義はこのシステムにはインストールされていません。

DISCARD ENQMODEL

ENQMODEL リソース定義を除去します。

DISCARD ENQMODEL



条件**:** NOTAUTH、NOTFND

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

DISCARD ENQMODEL コマンドは、ローカル CICS システムから ENQ モデルの定義を除去します。破棄が発行されると、ENQNAME パターンと一致するエンキューがローカル・システムからなくなるまで ENQMODEL は WAITING 状態になります。その後ローカル・システムから除去され、システムは ENQMODEL にアクセスできなくなります。つまり、同じ名前の ENQMODEL リソース定義の以前のインストールが取り消されます。

定義を追加または除去してもすでに保持されている ENQ は影響を受けず、定義が追加または除去された後に発行される ENQ コマンドだけが影響を受けます。

破棄に関する一般情報については、リソース定義の廃棄を参照してください。

オプション

ENQMODEL(*data-value*)
破棄する ENQ モデルの 8 文字の ID を指定します。

条件

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

NOTFND

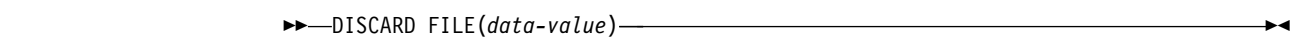
RESP2 値は以下のとおりです。

1 指定の ENQMODEL はこのシステムにインストールされていません。

DISCARD FILE

FILE 定義を除去します。

DISCARD FILE



条件: FILENOTFOUND、INVREQ、NOTAUTH

説明

DISCARD FILE コマンドは、ローカル CICS システムからファイルの定義を除去します。これにより、システムはそのファイルにアクセスできなくなります。つまり、このコマンドは、以前に同じ名前でインストールされた FILE リソース定義を取り消します。

ファイルの定義を破棄するには、ファイルを閉じ、使用不可にしておく必要があります。加えてファイルがリカバリー可能である場合、そのファイルを破棄するには、そこで保持されているロックをすべてリリースする必要があります。失敗が原因で、ファイルを変更した作業単位が「中断」される際には、ロックが保持されます (処理を完了するにはリカバリー・アクションが必要であるため、後処理のために保持されます)。

BUNDLE リソースによって作成される FILE リソースを破棄することはできません。ファイルを破棄するには、BUNDLE リソースを使用不可にして、廃棄する必要があります。

破棄に関する一般情報については、リソース定義の廃棄を参照してください。

オプション

FILE(*data-value*)

除去されるファイルの 8 文字の名前を指定します。

名前が DFH という文字で始まるファイルの定義を除去できません。このようなファイルは CICS 用に予約されているからです。

条件

FILENOTFOUND

RESP2 値は以下のとおりです。

18 ファイルが見つかりません。

INVREQ

RESP2 値は以下のとおりです。

2 ファイルが閉じられていません。

3 ファイルが使用不可になっていません。

25 FILE 定義は現在使用中です。

26 ファイルの名前が DFH で始まっているため破棄できません。

43 未解決の据え置き作業がファイルに含まれていて、そこに保持されているロックがあるため、ファイルを破棄できません。

300 リソースは BUNDLE リソースによってインストールされたため、破棄できません。

NOTAUTH

RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

101 発行中のタスクに関連付けられているユーザーには、このコマンドが要求する方法でこの特定のリソースにアクセスする権限がありません。

DISCARD IPCONN

IPCONN 定義を除去します。

条件: INVREQ、NOTAUTH、SYSIDERR

説明

DISCARD IPCONN コマンドは、ローカル CICS システムから IPCONN 定義を除去します。

IPCONN は OUTSERVICE 状況にならない限り破棄できません。

DISCARD コマンドの一般情報については、リソース定義の廃棄を参照してください。

オプション

IPCONN(*data-value*)

破棄する IPCONN 定義の 8 文字の名前を指定します。

条件

INVREQ

RESP2 値は以下のとおりです。

5 IPCONN はサービス中です。

9 IPCONN が存在しません。

27 破棄処理が失敗しました。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

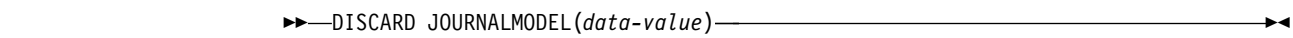
SYSIDERR
RESP2 値は以下のとおりです。

9 IPCONN 名は見つかりませんでした。

DISCARD JOURNALMODEL

ジャーナル・モデル定義を除去します。

DISCARD JOURNALMODEL



条件: NOTAUTH、NOTFND

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

DISCARD JOURNALMODEL コマンドは、ローカル CICS システムでジャーナルを定義するためのモデルとして、JOURNALMODEL 定義を不適格にします。JOURNALMODEL 定義自体は破棄されることも、別の方法で変更されることもなく、このモデルを使用して定義された既存のジャーナルに与える影響はありません。これらのジャーナルは、DISCARD JOURNALNAME コマンドを使用して破棄されない限り、引き続き既存の定義を使用します。

破棄に関する一般情報については、リソース定義の廃棄を参照してください。

オプション

JOURNALMODEL(*data-value*)
除去するジャーナル・モデルの 8 文字の名前を指定します。

条件

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

NOTFND
RESP2 値は以下のとおりです。

1 ジャーナル・モデル名が見つかりませんでした。

DISCARD JOURNALNAME

ジャーナル名をジャーナル名テーブルから除去します。

DISCARD JOURNALNAME

条件: INVREQ、JIDERR、NOTAUTH

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

DISCARD JOURNALNAME コマンドはローカル CICS システムからジャーナル定義を除去するため、ジャーナル定義が次回使用されるときに、現行の JOURNALMODEL 定義セットに基づいて再作成されます。そのため、DISCARD および CREATE JOURNALMODEL コマンドと連携して使用すると、特定のジャーナルの定義を変更できます。

「log of logs」ジャーナルを含むユーザー・ジャーナルに対して、および端末管理自動ジャーナルに対して、このコマンドは即時に有効になります。DISCARD 後にジャーナルの次回参照時に、その時点で最もよく一致する JOURNALMODEL 定義からの属性を使用して新しいジャーナル定義が作成されます。

ただし、順方向リカバリーと自動ジャーナル処理のジャーナルの場合、ジャーナル定義が使用されるのは、そのジャーナルを使用するいずれかのファイルが開いている場合のみです。そのため、VSAM ファイルが開き、DISCARD の時点でジャーナルを使用している場合、このコマンドはそれらの VSAM ファイルに対する順方向リカバリー・ログまたは自動ジャーナル操作に影響を与えません。ファイルが閉じられるまで、既存のジャーナルで参照されるログ・ストリームを引き続き使用し、ファイルがその後に再度開かれる場合を除いて、DISCARD の影響を受けません。さらに、ログ・ストリーム ID がファイルの VSAM カタログ定義に存在する場合、RLS ファイルには必須であり、それ以外のファイルには任意であるため、カタログ値は JOURNALMODEL 値を指定変更します。

CICS システム・ログのコンポーネント DFHLOG と DFHSHUNT はどちらも、破棄の対象ではありません。

破棄に関する一般情報については、リソース定義の廃棄を参照してください。

オプション

JOURNALNAME(*data-value*)
除去するジャーナルの 8 文字の名前を指定します。

注: 数値 ID で定義されたジャーナルを破棄するには、ジャーナル名を DFHJ*nn* と指定します。ここで、*nn* は 01 から 99 までの 2 桁のジャーナル番号です。

条件

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

3 指定されたジャーナルを破棄できません。

JIDERR
RESP2 値は以下のとおりです。

1 ジャーナルが見つかりません。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

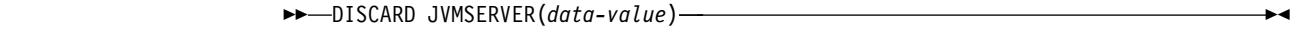
100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

101 発行中のタスクに関連付けられているユーザーには、このコマンドが要求する方法でこの特定のリソースにアクセスする権限がありません。

DISCARD JVMSERVER

JVMSERVER リソース定義を除去します。

DISCARD JVMSERVER



条件: INVREQ、NOTAUTH、NOTFND

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

DISCARD JVMSERVER コマンドは、CICS 領域から JVMSERVER リソースを除去する場合に使用します。JVMSERVER リソースを破棄する場合は、破棄の前にこれを使用不可に設定する必要があります。

BUNDLE リソースによって作成される JVMSERVER リソースを破棄することはできません。 JVM サーバーを破棄するには、BUNDLE リソースを使用不可にして、廃棄する必要があります。

オプション

JVMSERVER(*data-value*)
破棄する JVMSERVER リソース定義の 8 文字の名前を指定します。

条件

INVREQ
RESP2 値:

5 JVMSERVER は使用不可ではありません。

300 リソースは BUNDLE リソースによってインストールされたため、破棄できません。

NOTAUTH

RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

101

発行中のタスクに関連付けられているユーザーは、この JVM サーバーへのアクセスが許可されていません。

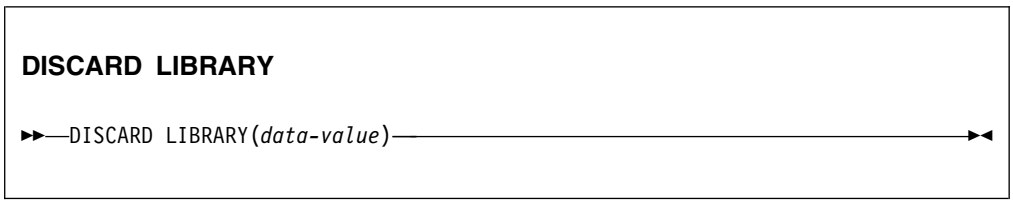
NOTFND

RESP2 値:

3 JVMSERVER が見つかりません。

DISCARD LIBRARY

実行中の CICS システムから指定の LIBRARY を除去します。



条件**:** INVREQ、NOTAUTH、NOTFND

説明

DISCARD LIBRARY コマンドはローカル CICS システムから LIBRARY の定義を削除するため、システムは LIBRARY にアクセスできなくなります。つまり、同じ名前の LIBRARY リソース定義の以前のインストールを取り消します。 LIBRARY は、定義を破棄するには使用不可になっていなければなりません。

破棄に関する一般情報については、リソース定義の廃棄を参照してください。

BUNDLE リソースによって作成される LIBRARY リソースを破棄することはできません。ライブラリーを破棄するには、BUNDLE リソースを使用不可にして、廃棄する必要があります。

オプション

LIBRARY(*data-value*)

削除する LIBRARY の 8 文字の名前を指定します。

条件

INVREQ

RESP2 値は以下のとおりです。

3 LIBRARY は使用不可ではありません。

6 LIBRARY 名は DFHRPL で、静的 DFHRPL は破棄できません。

7 LIBRARY データ・セットの連結解除中に、2 回目の試行で障害が検出されました。

8 LIBRARY データ・セットの割り振り解除中に、2 回目の試行で障害が生じました。

9 LIBRARY 制御構造の削除の試行中に障害が発生しました。

10 LIBRARY のクローズ中に、2 回目の試行で障害が生じました。

300 リソースは BUNDLE リソースによってインストールされたため、破棄できません。

NOTAUTH

RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

NOTFND

RESP2 値は以下のとおりです。

1 指定された LIBRARY が見つかりません。

DISCARD MQCONN

MQCONN リソース定義を除去します。動的に作成された MQMONITOR リソースとユーザー定義の MQMONITOR リソースも破棄されます。

DISCARD MQCONN

条件: INVREQ、NOTAUTH、NOTFND

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

DISCARD MQCONN コマンドは、ローカル CICS システムから、インストールされた MQCONN リソース定義を除去します。CICS システムに一度にインストールできる MQCONN リソース定義は 1 つだけであるため、このコマンドには名前や ID は不要です。

MQCONN リソース定義は、CICS が WebSphere MQ に接続されていない場合にのみ破棄できます。

MQCONN リソース定義を破棄すると、動的にインストールされた MQMONITOR リソースを含めて、インストールされているすべての MQMONITOR リソースが破棄されます。これは、MQCONN リソースに、INITQNAME 属性で有効なキュー名が含まれているからです。

オプション

なし

条件

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

2 CICS が WebSphere MQ に接続されています。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

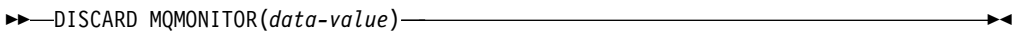
NOTFND
RESP2 値は以下のとおりです。

1 MQCONN リソース定義が見つかりません。

DISCARD MQMONITOR

MQMONITOR リソース定義を除去します。

DISCARD MQMONITOR



条件**:** INVREQ、NOTAUTH、NOTFND

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

DISCARD MQMONITOR コマンドは、ローカル CICS システムからインストールされた MQMONITOR リソース定義を除去します。

MQMONITOR リソースを破棄する場合は、破棄の前にこれを停止し、使用不可に設定する必要があります。

オプション

MQMONITOR(*data-value***)**
除去する MQMONITOR リソースの 8 文字の名前を指定します。

名前が DFH という文字で始まるリソースの定義を除去できません。このようなリソースは CICS 用に予約されているからです。

条件

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

2 MQ モニターが開始されます。

4 MQMONITOR リソースは使用不可ではありません。

7 リソースの名前が DFH で始まっているため破棄できません。

NOTAUTH

RESP2 値:

100 コマンド権限の処理に失敗しました。

NOTFND

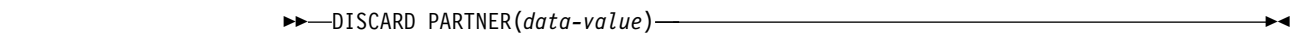
RESP2 値は以下のとおりです。

1 指定された MQMONITOR リソース定義が見つかりません。

DISCARD PARTNER

PARTNER 定義を除去します。

DISCARD PARTNER



条件: INVREQ、NOTAUTH、PARTNERIDERR

説明

DISCARD PARTNER コマンドは、ローカル CICS システムからパートナーの定義を除去します。これにより、システムはそのパートナーにアクセスできなくなります。つまり、このコマンドは、以前に同じ名前でインストールされた PARTNER リソース定義を取り消します。

破棄に関する一般情報については、リソース定義の廃棄を参照してください。

オプション

PARTNER(*data-value*)

除去されるパートナーの 8 文字の名前を指定します。

名前が文字 DFH で始まるパートナーは、CICS で定義されたパートナーと見なされ、破棄できません。

条件

INVREQ

RESP2 値は以下のとおりです。

2 PARTNER 定義は現在使用中です。

3 パートナーの名前が DFH で始まっているため破棄できません。

NOTAUTH

RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

PARTNERIDERR

RESP2 値は以下のとおりです。

1 パートナーが見つかりません。

5 Partner Resource Manager (PRM) は、CICS 初期化中に初期化に失敗したため、アクティブではありません。

DISCARD PIPELINE

PIPELINE 定義を除去します。

DISCARD PIPELINE

条件: INVREQ、NOTAUTH、NOTFND

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

DISCARD PIPELINE は、PIPELINE を CICS 領域から除去する場合に使用します。PIPELINE は、破棄する前に無効にしなくてはいけません。

BUNDLE リソースによって作成される PIPELINE リソースを破棄することはできません。パイプラインを破棄するには、BUNDLE リソースを使用不可にして、廃棄する必要があります。

破棄に関する一般情報については、リソース定義の廃棄を参照してください。

オプション

PIPELINE(*data-value*)
定義が破棄される PIPELINE の 8 文字の名前を指定します。

条件

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

8 PIPELINE が使用不可になっていないため、破棄できません。

22 この PIPELINE の削除操作が進行中です。

200 このコマンドは、DPLSUBSET の EXECUTIONSET 値で定義したプログラム、または分散プログラム・リンクによって SYNCONRETURN オプションを指定しないでリモート・システムから呼び出されたプログラムで実行されました。

300 リソースは BUNDLE リソースによってインストールされたため、破棄できません。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

NOTFND
RESP2 値は以下のとおりです。

1 PIPELINE は見つかりません。

DISCARD PROCESSTYPE

PROCESSTYPE 定義を除去します。

DISCARD PROCESSTYPE

条件: INVREQ、NOTAUTH、PROCESSERR

説明

DISCARD PROCESSTYPE コマンドは、CICS ビジネス・トランザクション・サービス (BTS) PROCESSTYPE 定義をローカル CICS 領域から除去します。

注:

1. 破棄できるのは、使用不可になっているプロセス・タイプのみです。
2. 単一の CICS 領域で BTS を使用する場合、DISCARD PROCESSTYPE コマンドを使用してプロセス・タイプを除去できます。ただし、シスプレックスで BTS を使用する場合は、プロセス・タイプを除去するためには CICSPlex SM を使用することを強くお勧めします。CICSPlex SM を使用しなかった場合、破棄された定義を必要とするこの領域作業にスケジューラー・サービスがルーティングすると問題が発生する可能性があります。

破棄に関する一般情報については、リソース定義の廃棄を参照してください。

オプション

PROCESSTYPE(*data-value*)
除去する PROCESSTYPE の 8 文字の名前を指定します。

条件

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

2 PROCESSTYPE オプションで指定されたプロセス・タイプが使用不可ではありません。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

PROCESSERR
RESP2 値は以下のとおりです。

1 PROCESSTYPE オプションで指定されたプロセス・タイプが、プロセス・タイプ・テーブル (PTT) で定義されていません。

DISCARD PROFILE

PROFILE 定義を除去します。

DISCARD PROFILE

条件: INVREQ、NOTAUTH、PROFILEIDERR

説明

DISCARD PROFILE コマンドは、ローカル CICS システムからプロファイルの定義を除去します。これにより、システムはそのプロファイルにアクセスできなくなります。つまり、このコマンドは、以前に同じ名前でインストールされた PROFILE リソース定義を取り消します。インストールされた TRANSACTION 定義がプロファイルを指し示している間、そのプロファイルを破棄できません。

破棄に関する一般情報については、リソース定義の廃棄を参照してください。

オプション

PROFILE(*data-value*)
除去するプロファイルの 8 文字の名前を指定します。

名前が文字 DFH で始まるプロファイルは、CICS 提供のプロファイルと見なされ、破棄できません。

条件

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

2 PROFILE 定義は現在使用中です。

3 TRANSACTION 定義がプロファイルを指します。

4 名前が DFH で始まっているため、プロファイルを破棄できません。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

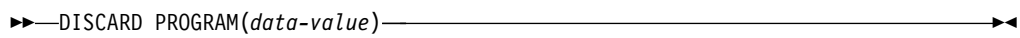
PROFILEIDERR
RESP2 値は以下のとおりです。

1 プロファイルが見つかりません。

DISCARD PROGRAM

プログラム、マップ・セット、または区画セットの定義を除去します。

DISCARD PROGRAM



状態: INVREQ、NOTAUTH、PGMIDERR

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

DISCARD PROGRAM コマンドは、プログラム、マップ・セット、または区画セット (ロード・モジュール・リソース) の定義を、ローカル CICS システムから除去します。その結果、システムはそのリソースにアクセスできなくなります。同じ名前で以前にインストールされた PROGRAM、MAPSET、または PARTITIONSET 定義を取り消します。

タスクによって実行、または他の方法で使用されているモジュールを破棄することはできません。CICS (名前が DFH で始まるモジュール) およびユーザー置換可能として定義されているモジュール (自動インストール・プログラムなど) によって指定される定義も適格ではありません。

BUNDLE リソースによって作成される PROGRAM リソースを破棄することはできません。プログラムを破棄するには、BUNDLE リソースを使用不可にして、廃棄する必要があります。詳細については、BUNDLE リソースを参照してください。

破棄に関する一般情報については、リソース定義の廃棄を参照してください。

オプション

PROGRAM(*data-value***)**
除去するプログラム、マップ・セット、または区画セットの 8 文字の名前を指定します。

条件

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

1 リソースの名前が DFH で始まっているため破棄できません。

11 リソース定義は現在使用中です。

15 リソースはユーザー置換可能モジュールであるため、破棄できません。

300 リソースは BUNDLE リソースによってインストールされたため、破棄できません。

301 CICS バンドルで定義された LIBRARY からロードされた PROGRAM には無効な操作が指定されました。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

101 発行中のタスクに関連付けられているユーザーには、このコマンドが要求する方法でこの特定のリソースにアクセスする権限がありません。

PGMIDERR
RESP2 値は以下のとおりです。

7 リソース定義が見つかりません。

DISCARD TCPIPSERVICE

TCPIPSERVICE 定義を除去します。

DISCARD TCPIPSERVICE

条件**:** INVREQ、NOTAUTH、NOTFND

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

DISCARD TCPIPSERVICE コマンドは、ローカル CICS システムから TCPIPSERVICE 定義を除去します。

使用中でないことを示す CLOSED 状況である場合を除いて、TCPIPSERVICE を破棄することはできません。

BUNDLE リソースによって作成される TCPIPSERVICE リソースを破棄することはできません。 TCPIPSERVICE リソースを破棄するには、BUNDLE リソースを使用不可にして、廃棄する必要があります。

破棄に関する一般情報については、リソース定義の廃棄を参照してください。

オプション

TCPIPSERVICE(*data-value*)
除去する TCPIPSERVICE の 8 文字の名前を指定します。

条件

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

9 TCPIPSERVICE がまだオープンしています。

16 TCPIPSERVICE は、インストール済み CORBASERVER 定義によって参照されているため、破棄できません。

300 リソースは BUNDLE リソースによってインストールされたため、破棄できません。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

NOTFND

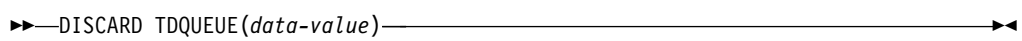
RESP2 値は以下のとおりです。

3 TCPIPSERVICE 名が見つかりません。

DISCARD TDQUEUE

一時データ・キュー定義を除去します。

DISCARD TDQUEUE



条件: INVREQ、NOTAUTH、QIDERR

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

DISCARD TDQUEUE コマンドは、ローカル CICS システムから一時データ・キューの定義を除去します。

キューを破棄する前に使用不可にする必要があり、区画外キューもクローズする必要があります。キューの使用不可化を制御する規則については、リソース定義の廃棄を参照してください。CICS が必要とするキュー (名前が文字 C で始まるもの) は破棄できません。

区画内キューが破棄されると、暗黙の DELETEQ コマンドが実行され、キューが空になり、関連したデータ・セット内のスペースが解放されます。キューが論理的にリカバリー可能として定義されている場合は、暗黙の SYNCPOINT コマンドが DELETEQ の後に続きます。 SYNCPOINT は、DISCARD TDQUEUE コマンドを発行したタスクでその点までにリカバリー可能リソースに加えられたすべての変更をコミットします。ただし、削除と同期点が行われるのは、例外条件を出すことなくコマンドが正常に完了した場合のみです。

破棄に関する一般情報については、リソース定義の廃棄を参照してください。

オプション

TDQUEUE(*data-value*)

除去する一時データ・キューの 4 文字の名前を指定します。

条件

INVREQ

RESP2 値は以下のとおりです。

11 キュー名が文字 C で始まります。

18 キューがクローズされていません。

30 キューが「使用不可の保留」状況です (つまり、使用不可化プロセスが完了していません)。

31 キューが使用不可ではありません。

200 このコマンドは、DPLSUBSET の EXECUTIONSET 値で定義したプログラム、または分散プログラム・リンクによって SYNCONRETURN オプションを指定しないでリモート・システムから呼び出されたプログラムで実行されました。

NOTAUTH

RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

101 発行中のタスクに関連したユーザーは、このコマンドに必要な方法でこの特定のリソースにアクセスすることを許可されていません。

QIDERR

RESP2 値は以下のとおりです。

1 キューが見つかりません。

DISCARD TERMINAL

TERMINAL 定義を除去します。

DISCARD TERMINAL

条件**:** INVREQ、NOTAUTH、TERMIDERR

説明

DISCARD TERMINAL コマンドは、ローカル CICS システムから端末の定義を除去します。これにより、システムはその端末にアクセスできなくなります。つまり、このコマンドは、明示的にインストールされたか、自動的にインストールされたか、またはトランザクションをローカル CICS に経路指定した別の CICS によってシップされた、同じ名前の TERMINAL リソース定義を削除します。

破棄の対象になるには、ローカルとして定義された端末が VTAM 端末またはコンソールでなければなりません。また、サービス休止状況である必要があり、CICS で定義されたエラー・コンソール CERR にすることはできません。リモート端末は、ローカル・システムで使用中であってはなりません (つまり、そこにあるタスクの基本機能であってはなりません)。接続上のセッションは、TERMINAL リソース定義を使用してインストールされた場合であっても、DISCARD TERMINAL コマンドで破棄できません。代わりに DISCARD CONNECTION を使用する必要があります。

CICS は、発行中のタスクの代わりに暗黙的な同期点を使用して、正常な DISCARD TERMINAL 処理を完了し、タスク内のその点までのリカバリー可能リソースに対する変更をコミットします。破棄処理が失敗した場合、CICS は、RESP2

値が 43 の INVREQ 例外条件を出し、代わりに SYNCPOINT ROLLBACK を実行してリカバリー可能リソースに対する変更をロールバックします。ただし、それ以外のすべての例外状態では、破棄処理は試行されず、SYNCPOINT も SYNCPOINT ROLLBACK も発行されません。

破棄に関する一般情報については、リソース定義の廃棄を参照してください。

オプション

TERMINAL(*data-value*)
定義が破棄される端末の 4 文字の名前を指定します。

条件

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

33 端末は APPC セッションまたはデバイスです。

38 端末タイプが VTAM でもコンソールでもありません。

39 端末はローカルで、サービス休止ではありません。

40 端末はシステム・エラー・コンソールです。

41 端末は MRO セッションです。

43 削除処理が失敗しました。

44 端末はリモートで、ローカルで使用中です。

45 TERMINAL 定義が使用中です。

46 この TERMINAL 定義の破棄はすでに進行中です。

200 このコマンドは、DPLSUBSET の EXECUTIONSET 値で定義したプログラム、または分散プログラム・リンクによって SYNCONRETURN オプションを指定しないでリモート・システムから呼び出されたプログラムで実行されました。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

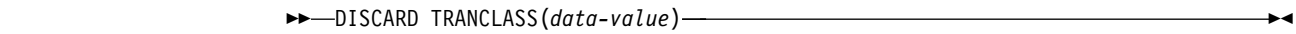
TERMIDERR
RESP2 値は以下のとおりです。

23 端末が見つかりません。

DISCARD TRANCLASS

トランザクション・クラス定義を除去します。

DISCARD TRANCLASS



条件: INVREQ、NOTAUTH、TCIDERR

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

DISCARD TRANCLASS コマンドは、ローカル CICS システムからトランザクション・クラスの定義を除去します。TRANSACTION 定義がトランザクション・クラスに属している間、そのトランザクション・クラスを除去できません。

破棄に関する一般情報については、リソース定義の廃棄を参照してください。

オプション

TRANCLASS(*data-value*)
除去するトランザクション・クラスの 8 文字の名前を指定します。

CICS の以前のリリースでは、現在のように名前を指定するのではなく、1 から 10 までの番号がトランザクション・クラスに付けられ、クラス定義は明示的ではなく暗黙的でした。互換性を確保するために、CICS は、'DFHTCL*nn*'という名前で番号が付けられたクラスの定義を提供します。ここで、*nn* は 2 桁のクラス番号です。TRANCLASS 値に関連の名前を使用して (例えば、クラス 1 には DFHTCL01)、番号が付けられたクラスを破棄できます。

条件

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

2 TRANCLASS 定義が使用中です。

12 インストール済みのトランザクションが属しているため、トランザクション・クラスを破棄できません。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

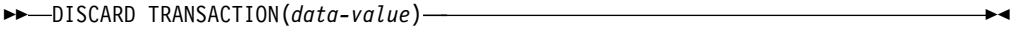
TCIDERR
RESP2 値は以下のとおりです。

1 トランザクション・クラスが見つかりません。

DISCARD TRANSACTION

トランザクション定義を除去します。

DISCARD TRANSACTION



条件: INVREQ、NOTAUTH、TRANSIDERR

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

DISCARD TRANSACTION コマンドは、ローカル CICS システムからトランザクションの定義を除去します。つまり、同じ名前で以前にインストールされた TRANSACTION リソース定義を取り消します。

CICS で提供されたトランザクション (文字 C で始まる名前)、CICS システム初期設定テーブルで定義されたトランザクション (例えば、ページング・トランザクション)、または将来または必要なリソースが使用可能になったときに実行するようにスケジュールされたトランザクションは削除できません。すでに処理中のトランザクションは影響を受けません。接続された時点で有効な定義で引き続き実行されます。

破棄に関する一般情報については、リソース定義の廃棄を参照してください。

注: BUNDLE リソースによって作成される TRANSACTION リソースを直接破棄することはできません。そのような操作を試行した場合、RESP2 値 300 を伴う INVREQ が発行されます。このようなトランザクションを破棄するには、バンドル・リソースを使用する必要があります。

オプション

TRANSACTION(*data-value***)**
除去するトランザクションの 4 文字の名前を指定します。

条件

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

4 トランザクション名が C で始まっているため、そのトランザクションを破棄できません。

13 トランザクションは SIT で定義されています。

14 トランザクションは、将来実行するようにスケジュールされています (インターバル制御エレメントでの使用)。

15 トランザクションは、必要なリソースが使用可能になったときに実行するようにスケジュールされています (自動開始記述子による使用)

300 DISCARD TRANSACTION SPI コマンドが、CICS バンドル (BUNDLE) によりインストールされた TRANSACTION リソースに対して発行されました。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

101 発行中のタスクに関連付けられているユーザーには、このコマンドが要求する方法でこの特定のリソースにアクセスする権限がありません。

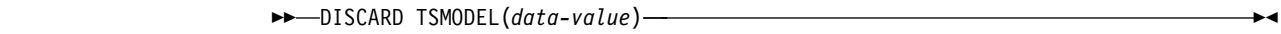
TRANSIDERR
RESP2 値は以下のとおりです。

1 トランザクションが見つかりません。

DISCARD TSMODEL

一時記憶域モデル定義を除去します。

DISCARD TSMODEL



条件**:** INVREQ、NOTAUTH、NOTFND

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

DISCARD TSMODEL コマンドは、ローカル CICS システムから一時記憶域モデルの定義を除去します。これにより、システムはその一時記憶域モデルにアクセスできなくなります。つまり、このコマンドは、以前に同じ名前でインストールされた TSMODEL リソース定義を取り消します。

DFH で始まるものを除いて、TSMODEL はいつでも破棄できます。このような TSMODEL を使用している処理中の UOW は正常に完了します。

破棄に関する一般情報については、リソース定義の廃棄を参照してください。

オプション

TSMODEL(*data-value***)**
除去する一時記憶域モデルの 8 文字の名前を指定します。.

条件

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

2 TSMODEL 定義は現在使用中です。

3 名前が DFH で始まっているため、一時記憶域モデルを破棄できません。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

101 発行中のタスクに関連付けられているユーザーは、この名前の TSMODEL 定義の破棄を許可されていません。

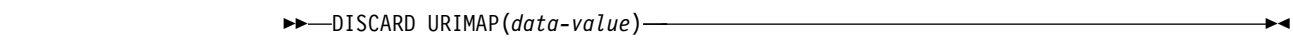
NOTFND
RESP2 値は以下のとおりです。

1 TSMODEL が存在しません。

DISCARD URIMAP

システムから URIMAP 定義を削除します。

DISCARD URIMAP



条件: INVREQ、NOTAUTH、NOTFND

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

DISCARD URIMAP コマンドは、URIMAP 定義をシステムから除去します。URIMAP 定義を破棄するには、(SET URIMAP コマンドを使用して) 個別に使用不可にする必要があります。仮想ホストを使用不可にしても (SET HOST コマンドを使用)、その仮想ホストを構成する URIMAP 定義は破棄できません。

破棄に関する一般情報については、リソース定義の破棄を参照してください。

BUNDLE リソースによって作成される URIMAP リソースを直接破棄することはできません。そのような操作を試行した場合、RESP2 値 300 を伴う INVREQ が発行されます。これを破棄するには、バンドル・リソースを使用する必要があります。詳細については、URIMAP 属性を参照してください。

オプション

URIMAP*(data-value)*
除去する URIMAP 定義の 8 文字の名前を指定します。

条件

INVREQ
RESP2 の値は次のとおりです。

4 URIMAP が使用不可になっていません。

200 このコマンドは、DPLSUBSET の EXECUTIONSET 値で定義したプログラム、または分散プログラム・リンクによって SYNCONRETURN オプションを指定しないでリモート・システムから呼び出されたプログラムで実行されました。

300 DISCARD URIMAP SPI コマンドが、CICS バンドル (BUNDLE) によりインストールされた URIMAP リソースに対して発行されました。

NOTAUTH
RESP2 の値は次のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

NOTFND
RESP2 の値は次のとおりです。

3 URIMAP が見つかりません。

DISCARD WEBSERVICE

WEBSERVICE 定義を除去します。

DISCARD WEBSERVICE

条件: INVREQ、NOTAUTH、NOTFND

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

DISCARD WEBSERVICE コマンドは、CICS 領域から WEBSERVICE リソースを除去する場合に使用します。

BUNDLE リソースによって作成される WEBSERVICE リソースを破棄することはできません。 Web サービスを破棄するには、BUNDLE リソースを使用不可にして、廃棄する必要があります。

破棄に関する一般情報については、リソース定義の廃棄を参照してください。

オプション

WEBSERVICE(*data-value*)
定義が破棄される WEBSERVICE リソースの 8 文字の名前を指定します。

条件

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

6 この WEBSERVICE の削除操作が進行中です。

200 このコマンドは、DPLSUBSET の EXECUTIONSET 値で定義したプログラム、または分散プログラム・リンクによって SYNCONRETURN オプションを指定しないでリモート・システムから呼び出されたプログラムで実行されました。

300 リソースは BUNDLE リソースによってインストールされたため、破棄できません。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

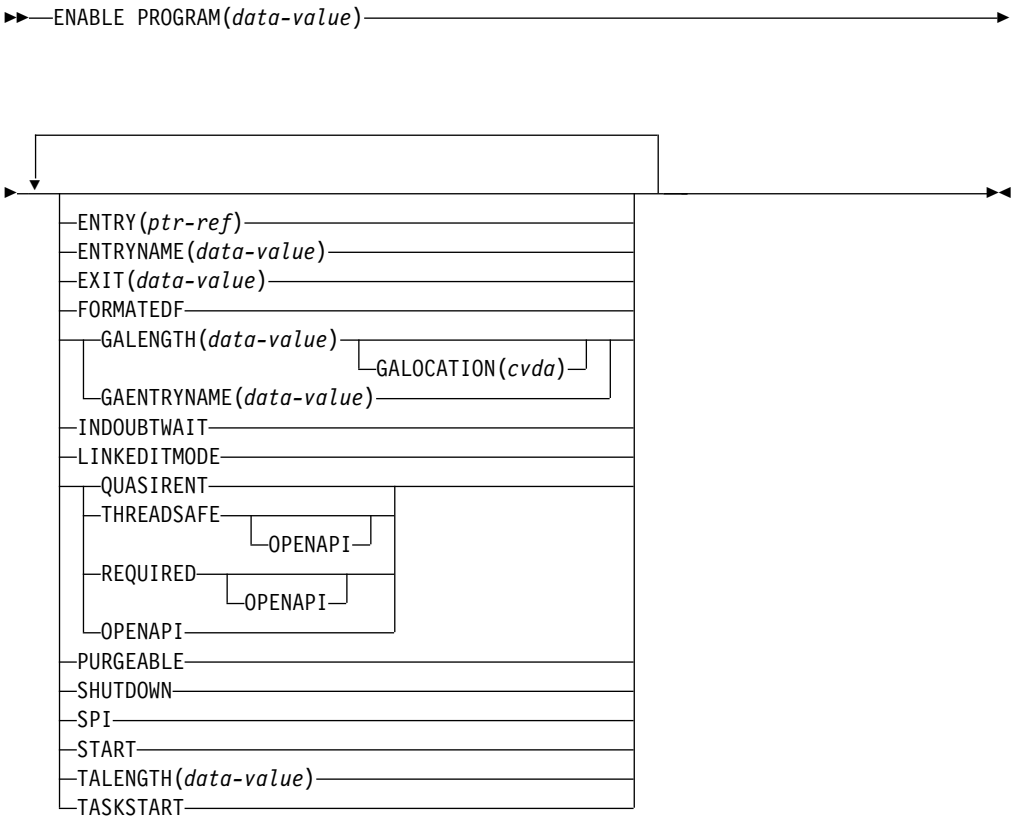
NOTFND
RESP2 値は以下のとおりです。

3 WEBSERVICE は見つかりませんでした。

ENABLE PROGRAM

ユーザー出口プログラムを使用可能にして呼び出せるようにします。

ENABLE PROGRAM



条件: INVEXITREQ、NOTAUTH

説明

出口の初期の **ENABLE PROGRAM** コマンド:

- 実行中の CICS 領域に対して出口として定義し、名前を指定する。
- 初期の状況 (実行が可能かどうか、および呼び出される点) を設定する。
- 作業域を割り振る。
- 必要に応じて関連ロード・モジュールをロードし、出口用の入り口点を設定する。

出口を定義する最初の **ENABLE PROGRAM** コマンドの後、出口の定義を除去する EXITALL オプションで出口を無効にするまで、出口を実行する点を追加または削除できます。また、**ENABLE PROGRAM** および **DISABLE PROGRAM** コマンドで動的にその可用性を変更することもできます。この 2 つのコマンドのオプション間の関係については、 206 ページの『DISABLE PROGRAM』 コマンドの説明を参照してください。

出口に関するプログラミング情報と、出口点のリストについては、ユーザー出口プログラムを使用したカスタマイズを参照してください。また、出口関連コマンドでは、出口を変更するコマンドの一般的な説明についても確認できます。

オプション

ENTRY(*ptr-ref***)**

グローバルまたはタスク関連ユーザー出口プログラムの入り口点アドレスを含むポインター参照を指定します。指定するアドレスは、PROGRAM オプションで指定されたロード・モジュールが占有する仮想記憶域の範囲内である必要があります。

ENTRY オプションを使用することは、PROGRAM オプションで指定されたモジュールが既にロードされているか、永続的に常駐していることを意味します。CICS がこのモジュールをロードしようとすることはなく、ユーザー出口が EXITALL で使用不可にされた場合に削除することもしません。 ENTRY を省略した場合、CICS はロード・モジュール内の最初の入り口点を使用して、ロードと削除を自動的に管理します。

ENTRY は、出口を定義する最初の **ENABLE PROGRAM** コマンドでのみ有効です。

タスク関連ユーザー出口に対して LINKEDITMODE を指定する場合、入り口アドレスの最上位ビット (ビット 0) にはアドレッシング・モード (AMODE) 標識を含める必要があります。

- AMODE(24): ビット 0 は 0、ビット 31 は 0。
- AMODE(31): ビット 0 は 1、ビット 31 は 0。

ENTRYNAME(*data-value***)**

使用可能にするグローバルまたはタスク関連ユーザー出口プログラムの 8 文字の名前を指定します。この名前は、既に設定されている出口の名前とは異なる名前にする必要があります。これは、このコマンド以外の方法で CICS に定義する必要はなく、ロード・モジュールの名前、またはロード・モジュールへの入り口点の名前である必要はありません。

ENTRYNAME を省略した場合、出口の名前のデフォルトは、PROGRAM オプションで指定されたロード・モジュールの名前になります。

出口を定義する最初の **ENABLE PROGRAM** コマンドの後に、同じ ENTRYNAME 値と PROGRAM 値の組み合わせを使用して、後続の **ENABLE PROGRAM**、**DISABLE PROGRAM**、および **EXTRACT EXIT** コマンドの出口を示す必要があります。

EXIT(*data-value***) (グローバル・ユーザー出口のみ)**

当該出口が関連付けられる際のグローバル・ユーザー出口点の 8 文字の名前を指定します。出口が「開始済み」(実行可能な状態) になっている場合、その出口は、出口点に関連付けられると、CICS がその管理コードで特定の点に到達した時点で呼び出されます。出口点は CICS によって定義および指定されます。

各 **ENABLE PROGRAM** コマンドには出口点を 1 つのみ指定できます。複数の出口点から同じ出口が呼び出される場合は、各点ついて個別の **ENABLE PROGRAM** コマンドを使用する必要があります。

FORMATEDF (タスク関連ユーザー出口のみ)

出口が EDF 下で実行されているタスクによって呼び出されたときに、追加の点

(EDF 内) で出口を呼び出すことを指定します。追加の呼び出しにより、出口は EDF の表示をフォーマット設定し、EDF 画面上でユーザーがフィールドに加えた変更を解釈することができます。 EDF 呼び出しは、**DISABLE PROGRAM** コマンドに FORMATEDF を指定してオフに設定できます。

GAENTRYNAME(*data-value***)**
使用可能にする出口プログラムによってグローバル作業域を共用する、現在使用可能なグローバルまたはタスク関連ユーザー出口プログラムの 8 文字の名前を指定します。これは、定義時に当該出口に割り当てられた名前です (使用されていた場合はその ENTRYNAME、使用されていなかった場合は PROGRAM オプションの当該ロード・モジュール名)。

これは作業域を所有する必要があります (つまり、最初に使用可能になったときに GALENGTH が指定されている必要があります)。 CICS は、それを使用するすべての出口が EXITALL で無効にされるまで (定義されなくなるまで) 作業域を解放しませんが、所有する出口は、その作業域を共用するために新規出口に対して引き続き有効でなければなりません。

GALENGTH と GAENTRYNAME は相互に排他的であり、当該出口を定義する最初の **ENABLE PROGRAM** コマンドで指定する必要があります。どちらのオプションも指定されない場合、グローバル作業域は提供されません。

GALENGTH(*data-value***)**
当該出口に対して CICS が提供するグローバル作業域の長さ (バイト単位) をハーフワード・バイナリー値として指定します。有効な長さは 1 から 32767 までです。作業域は 2 進ゼロに初期化されます。グローバル作業域のストレージの場所を選択するには、GALOCATION オプションを指定します。

GALENGTH は、出口を定義する最初の **ENABLE PROGRAM** コマンドでのみ有効です。

CICS は、**ENABLE PROGRAM** コマンドではグローバル作業域のアドレスを返しません。アドレスを判別するには、**EXTRACT EXIT** コマンドを使用します。

注**:** 端末でこのコマンドを使用して指定できる GALENGTH の最大長は 32767 です。いずれかのプログラムがこのコマンドを発行する場合は、要求できる GALENGTH の値に制限はありません。ただし、この方法で 65535 を超える値が要求された場合、その要求は、要求量の下位ハーフワードまで切り捨てられます。必要な切り捨てが行われた後に、値 (この時点で 65535 を超えることはできない) が 65516 を超えた場合、INVEXITREQ 条件についてエラー応答が発行されます。

GALOCATION(*cvda***)**
CICS が当該出口プログラムのグローバル作業域として提供するストレージの場所を指定します。グローバル作業域を作成するには、GALENGTH オプションも指定する必要があります。 CVDA 値は以下のとおりです。

LOC24
グローバル作業域は 24 ビット・ストレージ内に存在します。これはデフォルトの場所です。

LOC31
グローバル作業域は 31 ビット・ストレージ内に存在します。

CICS は、**ENABLE PROGRAM** コマンドではグローバル作業域のアドレスを返しません。アドレスを判別するには、**EXTRACT EXIT** コマンドを使用します。

INDOUBTWAIT (タスク関連ユーザー出口のみ)
タスク関連ユーザー出口が未確定プロトコルをサポートすることを指定します。

LINKEDITMODE (タスク関連ユーザー出口のみ)
リンク・エディットされたアドレッシング・モードで出口を呼び出す必要があることを指定します。 LINKEDITMODE を指定しない場合、呼び出し元のアドレッシング・モードで呼び出されます。 LINKEDITMODE は、出口を定義する最初の **ENABLE PROGRAM** コマンドでのみ有効です。

TRUE が AMODE(24) でリンク・エディットされている LINKEDITMODE オプションは使用しないでください。この組み合わせでは、TRUE が常に AMODE(24) で実行されるように強制されます。これには、以下の欠点があります。

- AMODE(24) でリンク・エディットされた出口は、TASKDATALOC(ANY) で実行されているタスクから呼び出すことはできません。これを実行しようとすると、タスクは CICS 異常終了コード AEZB で異常終了します。
- TASKSTART および LINKEDITMODE の出口プログラムを使用可能にすると、関連ロード・モジュールが AMODE(24) でリンク・エディットされている場合に、CICS はすべてのトランザクションを TASKDATALOC(BELOW) で強制的に実行します。
- CICS シャットダウン呼び出しの場合、CICS は LINKEDITMODE 属性を無視し、このシャットダウン機能を実行するタスクのアドレッシング・モードで出口を呼び出します。シャットダウンのタイプによっては、このタスクのアドレッシング・モードは事前定義されていません。

最良のパフォーマンスを得るには、常に AMODE(31) を実行できるタスク関連ユーザー出口を作成し、AMODE(31) でリンク・エディットし、LINKEDITMODE オプションを使用して有効にする必要があります。

OPENAPI (タスク関連ユーザー出口のみ)
タスク関連ユーザー出口プログラムが非 CICS API を使用することを指定します。タスク関連ユーザー出口を呼び出すユーザー・アプリケーション・プログラムが準再入可能として定義されている場合、CICS は、制御をタスク関連ユーザー出口プログラムに渡す前に、ユーザー・タスクを L8 モードのオープン TCB に切り替えます。 CICS は、OPENAPI で有効にされたタスク関連ユーザー出口が、非 CICS サービス用の TCB の固有の専用プールを管理せず、L8 モードの TCB に対する処理を実行できると想定します。

REQUIRED なしで OPENAPI を指定すると、CICS は、デフォルトで REQUIRED を強制します。 OPENAPI を指定するタスク関連ユーザー出口は、スレッド・セーフ標準に従って書き込む必要があります。

タスク関連ユーザー出口に対するどの呼び出しが、L8 モードの TCB または QR TCB 上でタスク関連ユーザー出口を呼び出すかを決定する規則、および他の関連情報については、『Developing system programs』の『OPENAPI タスク関連ユーザー出口の呼び出し』を参照してください。

注: タスク関連ユーザー出口プログラムで REQUIRED と OPENAPI が有効な場合、THREADSAFE と OPENAPI が有効である場合と同様に処理されます。

互換性のために、いずれの組み合わせの場合でも、 381 ページの『INQUIRE EXITPROGRAM』 コマンドは常に THREADSAFE、OPENAPI を返します。 **INQUIRE EXITPROGRAM** コマンドは、REQUIRED と CICSAPI が有効なタスク関連ユーザー出口プログラムの場合にのみ、REQUIRED と CICSAPI を返します。

PROGRAM(*data-value***)**
当該出口の入り口点が含まれるロード・モジュールの 8 文字の名前を指定します。 CICS はこの名前の PROGRAM リソース定義を使用して、必要であればプログラムをロードし、それが使用可能になっていて出口と同じ CICS システム上にあることを確認します。そのような定義が存在しない場合、システムがプログラムの自動インストールを許可するように定義されていれば、CICS はその定義を動的に作成しようとします。

ENTRYNAME オプションを省略した場合、CICS は、出口の名前がロード・モジュールの名前と同じであると想定します。

PURGEABLE (タスク関連ユーザー出口のみ)
CICS 待ち状態に入っているタスクと、タスク関連ユーザー出口でアクティブになっているタスクを消去できます。このオプションを使用する場合、タスク関連ユーザー出口は、待ち状態から消去された応答を正しく処理できるように作成されている必要があります。このオプションは、**DISABLE PROGRAM** コマンドで PURGEABLE を指定することでオフにできます。

QUASIRENT
グローバル・ユーザー出口プログラムまたはタスク関連ユーザー出口プログラムが準再入可能であり、共用リソースへのアクセス時に CICS によって行われる逐次化に依存することを指定します。ユーザー出口プログラムは、CICS が許可するプログラミング・インターフェースのみに制限されており、CICS の準再入可能規則に従う必要があります。 CICS は、常に QR TCB 下の準再入可能ユーザー出口を呼び出します。

タスク関連ユーザー出口プログラムは、MVS サービスを使用できます。使用する場合、これらのサービスへの呼び出しを発行する前に独自の専用 TCB に切り替え、呼び出し元に戻す前に再度切り替えて元に戻す必要があります。

REQUIRED (タスク関連ユーザー出口のみ)
タスク関連ユーザー出口プログラムがオープン TCB で実行されることを指定します。OPENAPI が指定されている場合、L8 オープン TCB が使用されます。OPENAPI が指定されていない場合、任意の適格なキー 8 オープン TCB を使用できます (L8、T8、または X8)。REQUIRED が指定されていない場合、タスク関連ユーザー出口は、CICS API のみを使用する必要があります。または、その固有の TCB スイッチを実行して非 CICS サービスを呼び出す必要があります。

SHUTDOWN (タスク関連ユーザー出口のみ)
CICS シャットダウン処理中に出口を呼び出すことを指定します。この呼び出しは、**DISABLE PROGRAM** コマンドで SHUTDOWN を指定することでオフに設定できます。

SPI (タスク関連ユーザー出口のみ)
タスク関連ユーザー出口プログラムを指定する **INQUIRE EXITPROGRAM** コマンド

が CONNECTST オプションまたは QUALIFIER オプション、あるいはその両方を指定した場合に、そのタスク関連ユーザー出口プログラムが呼び出されるように指定します。

タスク関連ユーザー出口プログラムは、SPI 呼び出しで呼び出され、照会元のプログラムに CONNECTST および QUALIFIER 情報を返すことができます。RMI SPI 呼び出しの詳細については、タスク関連ユーザー出口機構 (アダプター) の概要を参照してください。

START
出口プログラムが実行可能な状態であることを示します。実行可能状態は、**ENABLE PROGRAM** コマンド (START を指定) および **DISABLE PROGRAM** コマンド (STOP を指定) でオン/オフを切り替えることができますが、出口は停止モードで開始すると、START が指定された最初の **ENABLE PROGRAM** まで使用可能にはなりません。

停止されたタスク関連ユーザー出口プログラムが呼び出されると、呼び出し元コードは AEY9 異常終了コードを受け取ります。グローバル・ユーザー出口には対応するエラーはありませんが、これは CICS が、実行にも使用できる出口点に関連付けられた (停止していない) 出口のみを呼び出すためです。

単一のグローバル・ユーザー出口が複数の出口点に関連付けられている場合、START オプションを使用することで、必要なすべての **ENABLE PROGRAM** コマンドが発行されるまで、出口の実行を遅らせることができます。ただし、出口の開始後 にも、さらに多くの出口点を出口と関連付けることができます。

TALENGTH(*data-value*) (タスク関連ユーザー出口のみ)
当該出口を使用する各タスクについて CICS が提供するローカル作業域またはタスク作業域の長さ (バイト単位) をハーフワード・バイナリー値として指定します。有効な長さは 1 から 32767 までです。 CICS は作業域を割り振り、タスクによる出口の最初の使用前に初期化して 2 進ゼロにし、タスクの終了時に解放します。 TALENGTH を指定しない場合、CICS は、ローカル作業域を作成しません。

このコマンドで LINKEDITMODE オプションを指定し、タスク関連ユーザー出口プログラムが AMODE(31) でリンク・エディットされている場合、ローカル作業域は 31 ビット・ストレージ内に存在します。LINKEDITMODE オプションを指定しない場合、またはタスク関連ユーザー出口プログラムが AMODE(24) でリンク・エディットされている場合、ローカル作業域は 24 ビット・ストレージ内に存在します。

TASKSTART (タスク関連ユーザー出口のみ)
各タスクの開始中に出口を呼び出すことを指定します。出口はタスクの終了時にも呼び出されますが、必要であれば出口内のこの呼び出しはオフに設定できます。 MRO 環境で自動インストールされた端末をログオフするタスクは例外です。このタスクは出口を呼び出しません。

TASKSTART オプションは START オプションには依存していませんが、出口が実行に使用できない場合に呼び出すことを避けるため、START は、TASKSTART より前 (またはそれと同時に) オンにする必要があります。また、CICS 初期化のリカバリー部分より前に実行される可能性がある **ENABLE PROGRAM** コマンドには、TASKSTART オプションをコーディングしてはなりません。

これらの呼び出しは、**DISABLE PROGRAM** コマンドで TASKSTART を指定することでオフに設定できます。

THREADSAFE
グローバル・ユーザー出口プログラムまたはタスク関連ユーザー出口プログラムがスレッド・セーフ標準に従って作成されることを指定します。共用リソースへのアクセス時に、他のプログラムが並行して実行されたり、同じリソースの変更を行ったりする可能性があることを考慮します。スレッド・セーフ・プログラムは、共用リソースにアクセスする際に適切なシリアライゼーション手法を使用します。

スレッド・セーフ・ユーザー出口プログラムは、TCB CICS がそれを呼び出した環境下で実行可能でなければなりません。これは QR TCB またはオープン TCB のいずれかである場合があります。 (タスク関連ユーザー出口の場合のみ、OPENAPI も指定されていれば、CICS は L8 オープン TCB 下でタスク関連ユーザー出口を必ず呼び出します。)

条件

INVEXITREQ
ENABLE PROGRAM コマンドの INVEXITREQ 条件は、EIBRCODE の最初のバイトの X'80' によって示されます。エラーの正確な原因は、EIBRCODE の 2 番目と 3 番目のバイトを調べることで判別できます。

X'808000'
PROGRAM オプションで指定されているロード・モジュールは、CICS に対して定義されておらず、自動インストールができなかったか、ロード・ライブラリー中にないか、使用不可にされているか、リモートとして定義されているか、または ENTRY オプションに指定されたアドレスが含まれていません。さらに、RESP2 値 1 が返されます。

X'804000'
EXIT オプションで指定された名前は、有効なグローバル・ユーザー出口点ではありません。さらに、RESP2 値 2 が返されます。

X'802000'
出口プログラムは既に使用可能になっています。
ENTRY、LINKEDITMODE、TALENGTH、GAENTRY、GALENGTH、QUASIRENT、および THREADSAFE は、出口を定義する初期 **ENABLE** コマンドでのみ有効です。さらに、RESP2 値 3 が返されます。

X'801000'
出口は、EXIT オプションで指定された出口点に既に関連付けられています。さらに、RESP2 値 4 が返されます。

X'800800'
GAENTRYNAME オプションで指定された出口プログラムは有効ではありません。さらに、RESP2 値 5 が返されます。

X'800400'
GAENTRYNAME オプションで指定された出口プログラムには作業域がありません。さらに、RESP2 値 6 が返されます。

X'800040'
GALENGTH オプションに指定された長さが、最大許可値の 65516 を超えています。さらに、RESP2 値 10 が返されます。

X'800020'
GALOCATION オプションに指定された CVDA 値が無効です。さらに、RESP2 値 11 が返されます。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

101 発行中のタスクに関連付けられているユーザーには、このコマンドが要求する方法でこの特定のリソースにアクセスする権限がありません。

例: グローバル・ユーザー出口プログラムの有効化

```
EXEC CICS ENABLE PROGRAM('EP') ENTRYNAME('EP1')
     EXIT('XFCREQ') START
```

この例では、出口プログラム EP1 を定義し、出口点 XFCREQ から EP1 が呼び出されることを CICS に示し、EP1 を実行に使用できるようにしています。グローバル作業域は取得されません。 CICS は、必要に応じて EP モジュールをロードします。

```
EXEC CICS ENABLE PROGRAM('EP2') EXIT('XMNOUT')
     START ENTRY(EADDR) GALENGTH(500)
```

この例は、そのロード・モジュールからデフォルトで指定されている、EP2 という出口プログラムを定義しています。このモジュールは既にロードされており、出口の入り口点は EADDR にあります。この出口は、出口点 XMNOUT で実行され、実行可能な状態になっています。 500 バイトのグローバル作業域が取得され、EP2 によって所有されます。31 ビット・ストレージ内にグローバル作業域を配置するには、コマンドの GALOCATION オプションに CVDA LOC31 を指定します。

```
EXEC CICS ENABLE PROGRAM('EP3') EXIT('XTDOUT')
     GAENTRYNAME('EP2')
EXEC CICS ENABLE PROGRAM('EP3') EXIT('XTDIN')
EXEC CICS ENABLE PROGRAM('EP3') EXIT('XTDREQ') START
```

この例の最初のコマンドは、出口プログラム EP3 を定義し、これは出口点 XTDOUT に関連付けられます。 CICS は、必要に応じてモジュール EP3 をロードします。EP3 は、出口プログラム EP2 が所有するグローバル作業域を使用します。これは、前の例の **ENABLE** コマンドが既に発行されていることを想定しています。

2 番目のコマンドでは、EP3 は、出口点 XTDIN にも関連付けられています。3 番目のコマンドでは、EP3 は出口点 XTDREQ に関連付けられており、出口が実行に使用できるようになっています。これで、EP3 はこれらすべての出口点から呼び出され、そのいずれの呼び出しでも EP2 のグローバル作業域を使用できます。

例: タスク関連ユーザー出口プログラムの有効化

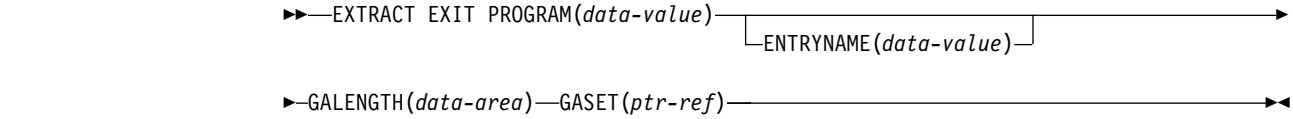
```
EXEC CICS ENABLE PROGRAM('EP9')
     TALENGTH(750) ENTRYNAME('RM1') GALENGTH(200)

EXEC CICS ENABLE PROGRAM('EP9')
     ENTRYNAME('RM1') START
```

最初のコマンドは、タスク関連ユーザー出口プログラム RM1 を定義し、まだ存在しない場合は EP9 (最初に実行されるロード・モジュール) をロードし、出口プログラムに対して 200 バイトのグローバル作業域を割り振ります。 31 ビット・ストレージ内にグローバル作業域を配置するには、コマンドの GALOCATION オプションに CVDA LOC31 を指定します。このコマンドは、RM1 を呼び出す各タスクについて、さらに 750 バイトのローカル作業域を割り振るスケジュール設定も行っています。 2 番目のコマンドにより、出口プログラムが実行可能になります。

EXTRACT EXIT

グローバル作業域のアドレスと長さを取得します。

EXTRACT EXIT



条件: INVEXITREQ、NOTAUTH

説明

EXTRACT EXIT コマンドは、ユーザー出口が所有または共用するグローバル作業域のアドレスと長さを取得します。

注: CICS-Db2 インターフェースの状況を照会するために **EXTRACT EXIT** コマンドで DSNCEXT1 または DSN2EXT1 を指定する、旧リリース用に作成されたアプリケーション・プログラムを使用できるようにするために、CICS は、正しい名前 DFHD2EX1 に自動的に置き換えます。CICS がこれを行うには、新しい名前をアドレス指定するようにパラメーター・リスト内の引数 1 を設定します。アプリケーション・プログラム・ストレージは変更されません。これにより、既存のアプリケーション・プログラムは未変更のまま作業できます。

オプション

ENTRYNAME(*data-value***)**
グローバル作業域情報が必要なグローバル・ユーザー出口またはタスク関連ユーザー出口の 8 文字の名前を指定します。 ENTRYNAME を省略した場合、CICS は出口の名前を、PROGRAM オプションで指定されたロード・モジュールの名前と同じであると想定します。したがって、 ENTRYNAME 値と PROGRAM 値の組み合わせは、出口を定義した **ENABLE PROGRAM** コマンドで指定されたのと同じ組み合わせを使用する必要があります。

GALENGTH(*data-area*)
グローバル作業域の長さ (バイト単位) をハーフワード・バイナリー形式で戻します。

注: 32767 より大きい GALENGTH が定義されている場合 (詳細については、ENABLE PROGRAM の GALENGT を参照)、このコマンドへの応答によると、大きな値は以下のようになります。

- **EXTRACT EXIT** コマンドを端末で発行した場合、応答は GALENGTH の負の値を示します。
- **EXTRACT EXIT** コマンドをプログラムから発行した場合、GALENGTH の応答の高位ビットが設定されます。戻り値に応じて次に実行する操作を決定する場合に、この可能性を考慮に入れる必要があります。

GASET(*ptr-ref*)
グローバル作業域のアドレスを戻します。出口を定義した **ENABLE PROGRAM** コマンドで GALOCATION オプションを使用して指定されたロケーションに応じて、31 ビット・ストレージ (16 MB より上) または 24 ビット・ストレージ (16 MB より下) にグローバル作業域があります。

PROGRAM(*data-value*)
出口のエントリー・ポイントが含まれるロード・モジュールの名前を指定します。 ENTRYNAME が指定されない場合、この名前は出口の名前としても使用されます。ENTRYNAME オプションを参照してください。

条件

INVEXITREQ
EXTRACT EXIT コマンドの INVEXITREQ 条件は、EIBRCODE の最初のバイトの X'80' によって示されます。エラーの正確な原因は、EIBRCODE の 2 番目と 3 番目のバイトを調べることで判別できます。EIBRCODE の詳細については、EXEC インターフェース・ブロック (EIB) の応答コードと機能コードを参照してください。

X'800200'
出口は使用可能になっていません。

X'800400'
出口にグローバル作業域がありません。

X'808000'
PROGRAM オプションで指定されたロード・モジュールが、ENTRYNAME オプションで指定された出口が使用可能になったときに使用されたロード・モジュールと同じではありません。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

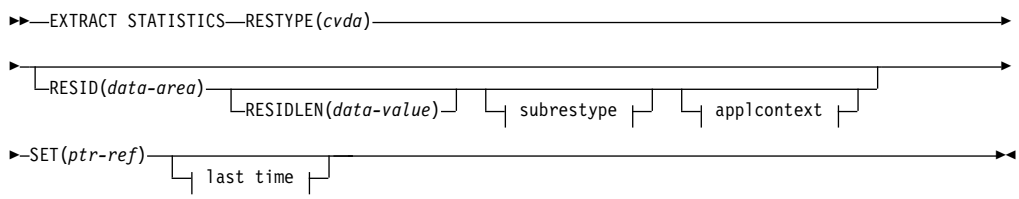
101 発行中のタスクに関連付けられているユーザーには、このコマンドが要求する方法でこの特定のリソースにアクセスする権限がありません。

EXTRACT STATISTICS

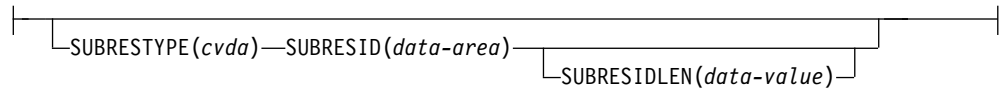
1 つのリソースに関する現行統計、またはリソース・クラスに関するグローバル統計を取得します。

EXTRACT STATISTICS コマンドは、COLLECT STATISTICS コマンドを使用する必要のある AUTOINSTALL、CONNECTION、FEPI CONNECTION、FEPI POOL、FEPI TARGET、JOURNALNUM、TABLEMGR、TCLASS、TERMINAL、および VTAM を除き、すべての CICS リソース・タイプについて統計を取得するために使用できます。

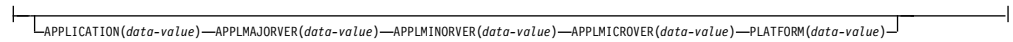
Extract STATISTICS



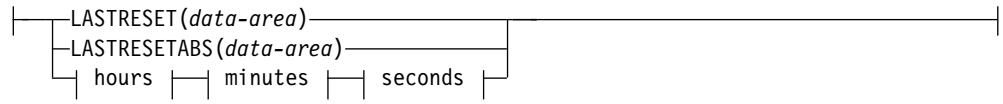
subrestype:



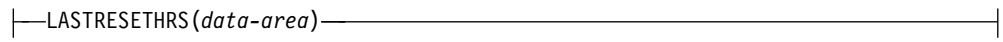
applcontext:



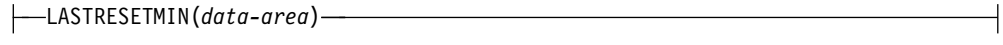
last time:



hours:



minutes:



seconds:

条件: APPNOTFOUND、INVREQ、IOERR、LENGERR、NOTAUTH、NOTFND

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

EXTRACT STATISTICS コマンドは、呼び出し元のアプリケーションに、特定のリソースに関する現行統計、または特定のタイプのリソースに関するグローバル統計を戻します。

CICS が返す統計は、最後の統計抽出間隔の有効期限、1 日の終わりの有効期限、または要求されたリセットの後に累算された統計です。SMF データ・セットに既に書き込まれている統計には、アクセスできません。 **EXTRACT STATISTICS** コマンドによって統計カウンターがリセットされることはありません。

CICS は、このコマンドから戻されたデータを格納する十分なストレージを取得し、この領域へのポインターを戻します。この領域の先頭 2 バイトには、領域の長さが格納されます。このストレージは後続の **EXTRACT STATISTICS** コマンドで再利用される可能性があるため、コマンドの次回の発行で必要となるデータがあれば、他の場所にそれを保管する必要があります。 CICS はこのストレージをタスク終了時に解放します。

プラットフォームにデプロイされたアプリケーションの専用リソースとしてサポートされるリソース・タイプの場合、公用リソースと専用リソースについて異なる統計レコードに情報が書き込まれ、それぞれは異なるコピーブックまたは DSECT によってマップされます。リソース・タイプ
LIBRARY、JVMPROGRAM、PROGRAM、および PROGRAMDEF が、専用リソースとしてサポートされます。リソースが公用リソースであれば、公用コピーブックを使用してデータがマップされ、リソースが専用リソースであれば、専用コピーブックを使用してデータがマップされます。

EXEC CICS EXTRACT STATISTICS または **EXEC CICS COLLECT STATISTICS** コマンドを使用して、専用リソースとしてサポートされるリソース・タイプの特定のリソースのリソース統計を要求する場合、コマンドはタスクが実行されるコンテキストに基づいて機能します。

- 公開プログラムからコマンドが発行された場合は、指定された公開リソースの統計が戻されます。
- プラットフォーム上にデプロイされたアプリケーションの一部であり、したがってアプリケーション・コンテキストを使用して実行されているプログラムからコマンドが発行された場合、指定されたリソースは、アプリケーションの専用リソースで最初に検索されます。専用リソースが見つからなければ、指定された公開リソースの統計が戻されます。
- **EXEC CICS EXTRACT STATISTICS** コマンドに限り、専用リソースが検索される異なるアプリケーション・コンテキストを指定できます。異なるアプリケーションの統計を要求した場合、そのアプリケーションの専用リソースが見つからなければ、統計は戻されません。

アプリケーション・エントリー・ポイントとして宣言された指定されたプログラムの統計を、**EXEC CICS EXTRACT STATISTICS** または **EXEC CICS COLLECT STATISTICS** コマンドを使用して戻す場合は、統計レコードが 1 つだけ戻されます。アプリケーション・コンテキスト内で、またはアプリケーション・コンテキストに対してコマ

ンドが発行された場合、プログラムがアプリケーションの専用リソースとして定義されていれば、専用リソースの DSECT を使用してデータがフォーマット設定されます。これは、アプリケーション・エントリー・ポイントを使用可能にするためにプログラムが公開プログラムに現在プロモートされていても、同様です。

すべてのリソース・タイプでグローバル統計と特定の (またはリソースの) 統計の両方が提供されるわけではありません。 表 36 に、リソース・タイプごとに使用可能な統計と、使用可能な統計のセットごとのコピーブック (または DSECT) の名前を記載します。コピーブックは、戻される統計の形式を定義しています。グローバル統計の欄にコピーブック名が示されていない場合、そのリソース・タイプのグローバル統計は提供されません。特定の (またはリソースの) 統計の欄に記載がない場合、個々のリソースに関する統計は取得できません。

表 36には、プロダクト・センシティブ・プログラミング・インターフェース情報が含まれています。

表 *36.* リソース・タイプと統計

リソース・タイプ	**CVDA**	**RESIDLEN**	統計タイプ	グローバル統計	特定の統計
ASYNCSERVICE	1213	—	ASYNCSERVICE	DFHASGDS	—
ATOMSERVICE	1179	8	ATOMSERVICE	—	DFHW2RDS
BUNDLE	1180	8	BUNDLE	—	DFHRLRDS
DB2CONN	1142	—	DB2CONN	DFHD2GDS	—
DB2ENTRY	1144	8	DB2ENTRY	—	DFHD2RDS
DISPATCHER	1144	—	DISPATCHER	DFHDSGDS	—
DOCTEMPLATE	1145	8	DOCTEMPLATE	—	DFHDHDDS
EPADAPTER	1196	32	EPADAPTER	—	DFHEPRDS
ENQUEUE	1146	—	ENQUEUE	DFHNQGDS	—
EVENTBINDING	1191	32	EVENTBINDING	DFHECGDS	DFHECRDS
CAPTURESPEC サブリソース・タイプ	1195	32	EVENTBINDING	—	DFHECCDS
EVENTPROCESS	1192	—	EVENTPROCESS	DFHEPGDS	—
FILE	238	8	FILE	—	DFHA17DS
IPCONN	1176	8	IPCONN	—	DFHISRDS
JOURNALNAME	1147	8	JOURNALNAME	—	DFHLGRDS
JVMPROGRAM	1151	8	JVMPROGRAM	—	DFHPGRDS (公用) DFHPGPDS (専用)
JVMSERVER	1193	8	JVMSERVER	—	DFHSJSDS
LIBRARY	1177	8	LIBRARY	—	DFHLDBDS (公用) DFHLDYDS (専用)
LSRPOOL	1152	4	LSRPOOL	—	DFHA08DS
MONITOR	1153	4	MONITOR	DFHMNGDS	DFHMNTDS
MQCONN	1175	—	MQCONN	DFHMQGDS	—
MQMONITOR	1207	8	MQMONITOR	—	DFHMQRDS
MVSTCB	1154	4	MVSTCB	DFHDSTDS	DFHDSRDS
PIPELINE	1124	8	PIPELINE	—	DFHPIRDS

表 36. リソース・タイプと統計 (続き)

リソース・タイプ	CVDA	RESIDLEN	統計タイプ	グローバル統計	特定の統計
PROGAUTO	1072	—	PROGAUTO	DFHPGGDS	—
PROGRAM	154	8	PROGRAM	DFHLDGDS	DFHLDRDS (公用) DFHLDPDS (専用)
PROGRAMDEF	1178	8	PROGRAMDEF	—	DFHPGDDS (公用) DFHPGEDS (専用)
RECOVERY	1156	—	RECOVERY	DFHRMGDS	—
STATS	1158	—	STATS	DFHSTGDS	—
STORAGE	1159	8	STORAGE	DFHSMSDS	DFHSMDDS
STREAMNAME	1160	26	STREAMNAME	DFHLGGDS	DFHLGSDS
SUBPOOL	1161	8	SUBPOOL	—	DFHSMDDS
SYSDUMPCODE	1162	8	SYSDUMPCODE	DFHSDGDS	DFHSDRDS
TASKSUBPOOL	1164	—	TASKSUBPOOL	DFHSMTDS	—
TCPIP	1165	—	TCPIP	DFHSOGDS	—
TCPIPSERVICE	1166	8	TCPIPSERVICE	—	DFHSORDS
TDQUEUE	1167	4	TDQUEUE	DFHTQGDS	DFHTQRDS
TRANCLASS	1169	8	TRANCLASS	—	DFHXMCDS
TRANDUMPCODE	1170	4	TRANDUMPCODE	DFHTDGDS	DFHTDRDS
TRANSACTION	1171	4	TRANSACTION	DFHXMGDS	DFHXMRDS
TSQUEUE	1172	—	TSQUEUE	DFHTSGDS	—
URIMAP	1173	8	URIMAP	DFHWBGDS	DFHWBRDS
WEBSERVICE	1174	32	WEBSERVICE	—	DFHPIWDS
XMLTRANSFORM	1194	32	XMLTRANSFORM	—	DFHMLRDS

ASSEMBLER、C、COBOL、および PL/I でコピーブックが提供されます。

コピーブックの名前は、各言語で同じです。以下のライブラリーで見つけることができます。

言語	ライブラリー
ASSEMBLER	CICSTS55.CICS.SDFHMAC
C	CICSTS55.CICS.SDFHC370
COBOL	CICSTS55.CICS.SDFHCOB
PL/I	CICSTS55.CICS.SDFHPL1

注: コピーブックには、パック 10 進数フィールドを含んでいるものがあります。このフィールドを使用する前に、16 進数のゼロの有無を検査してください。 COBOL 版のこのフィールドは、この目的で、接尾部 -R を持つ数値として再定義されました。

これらのコピーブックの詳細情報については、 CICS 統計の概要を参照してください。

オプション

APPLICATION(*data-value*)
アプリケーション・コンテキストのアプリケーション名エレメントを指定します。このアプリケーション名は、64 文字以内の長さで指定することができます。

プラットフォームにデプロイされたアプリケーションの一部である専用リソースの統計を返すアプリケーション・コンテキストを指定します。専用リソースの統計は、専用リソースとしてサポートされているリソース・タイプ JVMPROGRAM、LIBRARY、PROGRAM、または PROGRAMDEF の、指定したリソースの特定の (またはリソースの) 統計としてのみ返されます。プラットフォーム名、アプリケーション名、および完全なアプリケーション・バージョン番号を含む、完全なアプリケーション・コンテキストを指定する必要があります。 RESID オプションに指定した専用リソースが、指定したアプリケーション・コンテキストで見つからない場合、統計は返されません。

関係するアプリケーションの一部であるプログラムからコマンドを発行する場合は、アプリケーション・コンテキストを指定する必要がありません。デフォルトでは、CICS は、コマンドが発行されたアプリケーションから専用リソースの統計を返します。専用リソースが見つからない場合は、公用リソースの統計を返します。

APPLMAJORVER(*data-value*)
アプリケーション・コンテキストのアプリケーション・メジャー・バージョン・エレメントをフルワード・バイナリー形式で指定します。

APPLMINORVER(*data-value*)
アプリケーション・コンテキストのアプリケーション・マイナー・バージョン・エレメントをフルワード・バイナリー形式で指定します。

APPLMICROVER(*data-value*)
アプリケーション・コンテキストのアプリケーション・マイクロ・バージョン・エレメントをフルワード・バイナリー形式で指定します。

LASTRESET(*data-area*)
要求された統計のカウンターが最後にリセットされた時刻を示す 4 バイトのパック 10 進数フィールドを戻します。これは、通常、最後の期間が満了した時刻です。最後のリセット時刻は、通常現地時間で戻されます。

リセット時刻には、以下のような 2 つの形式があります。

- 複合形式 (パック 10 進数フォーマット `0hhmmss+`)。LASTRESET オプションを使ってこれを取得します。
- 時、分、秒を分離する。それぞれ、LASTRESETHRS、LASTRESETMIN、および LASTRESETSEC オプションを指定して取得します。

LASTRESETABS(*data-area*)
要求された統計のカウンターが最後にリセットされた時刻を示す、8 バイトのパック 10 進数フィールドを戻します。戻された値は ABSTIME 形式です。ABSTIME は、絶対時間として知られる 1900 年 1 月 1 日 00:00 から経過したミリ秒数を指定します。

FORMATTIME を使用してデータを自由な形式に変更することができます。

data-area の形式は以下のようになります。

```
COBOL:  PIC S9(15) COMP-3
C:      char data_area[8];
PL/I:   FIXED DEC(15)
ASM:    PL8
```

LASTRESETHRS(*data-area*)
要求された統計のカウンターが最後にリセットされた時刻のうち、時の部分を示すフルワード・バイナリー・フィールドを戻します (LASTRESET オプションを参照)。

LASTRESETMIN(*data-area*)
要求された統計のカウンターが最後にリセットされた時刻のうち、分の部分を示すフルワード・バイナリー・フィールドを戻します (LASTRESET オプションを参照)。

LASTRESETSEC(*data-area*)
要求された統計のカウンターが最後にリセットされた時刻のうち、秒の部分を示すフルワード・バイナリー・フィールドを戻します (LASTRESET オプションを参照)。

PLATFORM*(data-value)*
アプリケーション・コンテキストのプラットフォーム名エレメントを指定します。このプラットフォーム名は、64 文字以内の長さで指定することができます。

RESTYPE(*cvda*)
指定された CVDA 値に応じて特定のリソース・タイプに関する統計を要求します。有効な CVDA 値は、以下のとおりです。

ASYNCSERVICE
非同期サービス・ドメインのグローバル統計を要求します。

ATOMSERVICE
ATOMSERVICE リソースの統計を要求します。RESID で特定の ATOMSERVICE リソース定義を示します。

BUNDLE
BUNDLE リソースの統計を要求します。RESID で特定の BUNDLE リソース定義を示します。

DB2CONN
プール・スレッドとコマンド・スレッドに関する情報を含む CICS Db2 接続に関する統計を要求します。

DB2ENTRY
DB2ENTRY の統計を要求します。RESID で特定の DB2ENTRY を示します。

DISPATCHER
ディスパッチャー・ドメインの統計を要求します。

DOCTEMPLATE
文書テンプレートの統計を要求します。RESID で特定の DOCTEMPLATE リソース定義を示します。

ENQUEUE
エンキュー要求の統計を要求します。

EPADAPTER
EPADAPTER リソースの統計を要求します。RESID で特定の EPADAPTER リソース定義を示します。

EVENTBINDING
特定の EVENTBINDING リソースの統計を要求します。RESID で特定の EVENTBINDING リソース定義を示します。

EVENTPROCESS
イベント処理ドメインのグローバル統計を要求します。

FILE ファイルの統計を要求します。 RESID には、特定のファイル定義を指定します。

IPCONN
IPCONN リソースの統計を要求します。RESID で特定の IPCONN リソース定義を示します。

JOURNALNAME
CICS ジャーナルの統計を要求します。RESID には、特定のジャーナルを指定します。ジャーナルの番号付けの規則を使用して定義されたジャーナル (例えば、ファイル・リソース定義で定義された自動ジャーナル) に関する統計を収集するには、名前を DFHJnn として指定します。nn は 01 から 99 までの範囲のジャーナル番号です。

注**:** DFHJ01 を指定すると、システム・ログではなく、この名前のユーザー・ジャーナルに書き込まれた統計が返されます。

JVMPROGRAM
Java プログラムの統計を要求します。 RESID には、特定の PROGRAM リソース定義を指定します。

JVMSERVER
JVMSERVER リソースの統計を要求します。RESID で特定の JVMSERVER リソース定義を示します。

LIBRARY
LIBRARY リソースの統計を要求します。RESID で特定の LIBRARY リソース定義を示します。

LSRPOOL
VSAM LSR プールの統計を要求します。RESID は特定のプールを指定します (1 から 255 の範囲、フルワード・バイナリー形式)。

MONITOR
モニター・ドメインの統計を要求します。 RESID には、特定のタスクを 4 バイトのパック 10 進数フォーマットで指定します。そのパフォーマンス・クラス統計が返されます。

MQCONN
IBM MQ 接続の統計を要求します。

MQMONITOR
MQ モニターに関する統計を要求します。RESID には、特定の MQ モニターを指定します。

MVSTCB
MVS TCB の統計を要求します。 RESID には、特定の TCB のアドレスを指定します。

PIPELINE
PIPELINE リソースの統計を要求します。RESID で特定の PIPELINE リソース定義を示します。

PROGAUTO
自動インストールされたプログラム定義の統計を要求します。

PROGRAM
Java 以外のプログラムの統計を要求します。 RESID には、特定のプログラムを指定します。

PROGRAMDEF
プログラム定義の統計を要求します。 RESID には、特定のプログラムを指定します。

RECOVERY
リカバリー・マネージャー・ドメインの統計を要求します。

STATS
統計ドメインの統計を要求します。

STORAGE
ストレージ・ドメインの統計を要求します。RESID を指定すると、特定のストレージ・ドメイン・サブプールについて統計が返されます。使用可能なサブプール名の完全なリストは、ECDSA の CICS サブプールに記載されています。

SUBPOOL
ストレージ・マネージャー・ドメイン・サブプールの統計を要求します。 RESID には、特定のストレージ・ドメイン・サブプールを指定します。使用可能なサブプール名の完全なリストは、ECDSA の CICS サブプールに記載されています。

STREAMNAME
CICS ログ・マネージャー・ドメインの統計を要求します。 RESID を指定した場合は、特定のログ・ストリームの統計を要求します。

SYSDUMPCODE
システム・ダンプの統計を要求します。RESID を指定した場合は、特定のシステム・ダンプ・コードの統計を要求します。

TASKSUBPOOL
ストレージ・マネージャー・タスク・サブプールの統計を要求します。

TCPIP
IP ソケットの統計を要求します。

TCPIPSERVICE
TCP/IP サービスの統計を要求します。RESID で特定の TCP/IP サービスを示します。

TASKSUBPOOL
ストレージ・マネージャー・タスク・サブプールの統計を要求します。

TDQUEUE
一時データの統計を要求します。RESID を指定した場合は、特定の一時データ・キューの統計を要求します。

TRANCLASS
トランザクション・クラスの統計を要求します。RESID には、特定の TRANCLASS 定義を指定します。

TRANDUMPCODE
トランザクション・ダンプの統計を要求します。RESID を指定した場合は、特定のトランザクション・ダンプ・コードの統計を要求します。

TSQUEUE
一時ストレージの統計を要求します。

URIMAP
URIMAP リソースの統計を要求します。RESID で特定の URIMAP リソース定義を示します。

WEBSERVICE
WEBSERVICE リソースの統計を要求します。RESID で特定の WEBSERVICE リソース定義を示します。

XMLTRANSFORM
XMLTRANSFORM リソースの統計を要求します。RESID で特定の XMLTRANSFORM リソース定義を示します。

RESID(*data-area***)**
統計を返す対象の特定のリソースの名前を指定します。このキーワードを指定しない場合、グローバル統計を抽出することを意味します。RESID は文字フィールドです。

RESIDLEN(*data-value***)**
RESID データ域の長さを指定します。このオプションを省略した場合のデフォルト値は、 253 ページの表 36 に指定した長さになります。

SET(*ptr-ref***)**
ポインター参照を、戻された統計を格納するデータ域のアドレスに設定することを指定します。データ域の先頭 2 バイトには、ハーフワード・バイナリー形式のデータ域の長さが格納されます。

SUBRESTYPE(*cvda*)
指定された CVDA 値に応じて特定のリソース・タイプに関する統計を要求します。**subrestype** パラメーターはオプションです。その使用法については、 253 ページの表 36を参照してください。有効な CVDA 値は、以下のとおりです。

CAPTURESPEC
キャプチャー仕様の統計を要求します。

SUBRESID(*data-area*)
統計を抽出する対象の特定のリソースの名前を指定します。このキーワードを指定しない場合、指定された RESTYPE の統計を抽出することを意味します。SUBRESID は文字フィールドです。

SUBRESIDLEN(*data-value*)
SUBRESID データ域の長さを指定します。このオプションを省略した場合のデフォルト値は、 253 ページの表 36 に指定した長さになります。

条件

APPNOTFOUND
RESP2 値は以下のとおりです。

1 アプリケーション・コンテキストを指定してコマンドが発行されましたが、指定されたアプリケーションが見つかりません。

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

5 無効な RESTYPE が指定されました。有効なタイプは、 253 ページの表 36 にリストされています。

6 要求された RESTYPE に、必須の RESID が指定されていません。

8 無効な SUBRESTYPE が指定されました。有効なタイプは、 253 ページの表 36 にリストされています。

9 要求された SUBRESTYPE に、必須の SUBRESID が指定されていませんでした。

11 無効な RESTYPE と SUBRESTYPE の組み合わせが指定されました。有効なタイプは、 253 ページの表 36 にリストされています。

IOERR
RESP2 値は以下のとおりです。

3 要求された統計の領域が、機能していませんでした。この問題は、例えば統計の制御ブロックが上書きされる場合などに起こります。

LENGERR
RESP2 値は以下のとおりです。

7 要求された RESID に無効な RESIDLEN が指定されました。

10 要求された SUBRESID に無効な SUBRESIDLEN が指定されました。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

101 発行中のタスクに関連付けられているユーザーには、このコマンドが要求する方法でこの特定のリソースにアクセスする権限がありません。

NOTFND
RESP2 値は以下のとおりです。

1 要求されたリソースが見つかりません。

2 CICS システムでリソース・タイプが定義されていません (例えば、**FEPI** システム初期設定パラメーターが NO と指定されているときに FEPI 統計が POOL または NODE で要求された場合)。

例

```
EXEC CICS EXTRACT STATISTICS URIMAP
または
EXEC CICS EXTRACT STATISTICS RESTYPE(1173)
または
EXEC CICS EXTRACT STATISTICS RESTYPE(DFHVALUE(URIMAP))
```

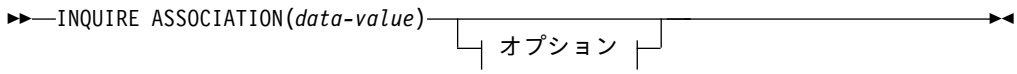
CICS は、このトピックで説明されているオプションを使用するサンプル EXTRACT STATISTICS アプリケーション (DFH0STAT) を提供します。このプログラムのセットは、CICS システムに関する情報を生成するために、EXTRACT STATISTICS コマンドと INQUIRE コマンドを使用する方法を示します。このレポートには、DSA LIMIT パラメーター指定の支援として使用できる、CICS および MVS ストレージ分析が組み込まれています。

DFH0STAT アプリケーションのインストールおよび操作については、サンプルの統計プログラム DFH0STATを参照してください。アプリケーションのソース・コードは、CICSTS55.CICS.SDFHSAMP にあります。

INQUIRE ASSOCIATION

指定されたタスクの関連情報を、その関連データ制御ブロック (ADCB) から取得します。

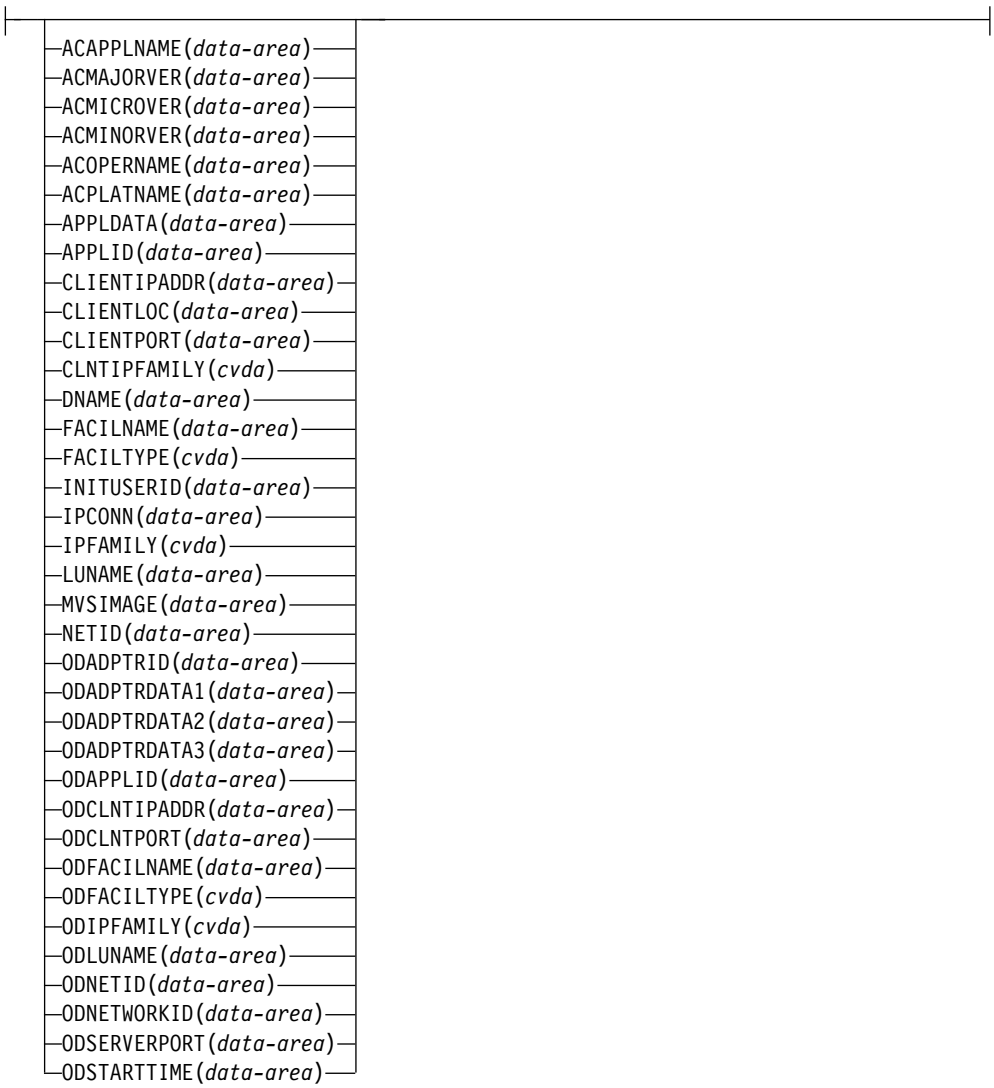
INQUIRE ASSOCIATION



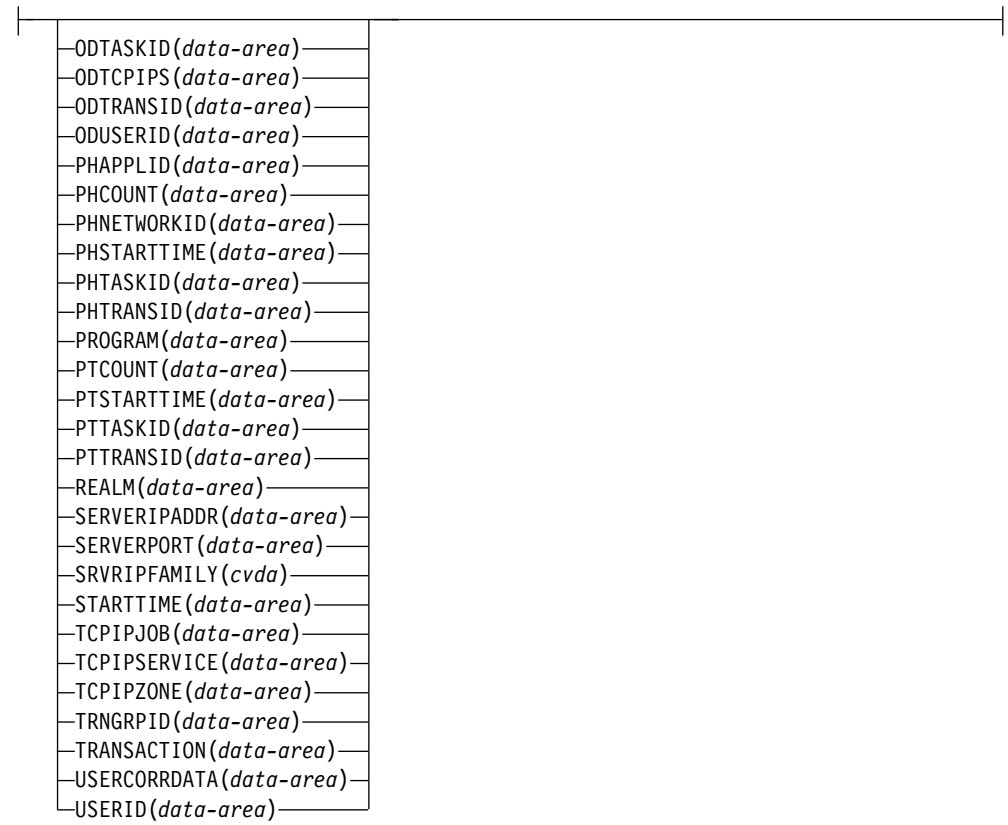
条件: INVREQ、NOTAUTH、TASKIDERR

このコマンドはスレッド・セーフです。

オプション:


ACAPPLNAME(data-area)
ACMAJORVER(data-area)
ACMICROVER(data-area)
ACMINORVER(data-area)
ACOPERNAME(data-area)
ACPLATNAME(data-area)
APPLDATA(data-area)
APPLID(data-area)
CLIENTIPADDR(data-area)
CLIENTLOC(data-area)
CLIENTPORT(data-area)
CLNTIPFAMILY(cvda)
DNAME(data-area)
FACILNAME(data-area)
FACILTYPE(cvda)
INITUSERID(data-area)
IPCONN(data-area)
IPFAMILY(cvda)
LUNAME(data-area)
MVSIMAGE(data-area)
NETID(data-area)
ODADPTRID(data-area)
ODADPTRDATA1(data-area)
ODADPTRDATA2(data-area)
ODADPTRDATA3(data-area)
ODAPPLID(data-area)
ODCLNTIPADDR(data-area)
ODCLNTPORT(data-area)
ODFACILNAME(data-area)
ODFACILTYPE(cvda)
ODIPFAMILY(cvda)
ODLUNAME(data-area)
ODNETID(data-area)
ODNETWORKID(data-area)
ODSERVERPORT(data-area)
ODSTARTTIME(data-area)

オプション:



CVDA の使用の詳細については、CICS-value data areas (CVDAs)を参照してください。

説明

INQUIRE ASSOCIATION コマンドは、タスクが開始された方法に関する情報をタスク番号に基づいて取得します。

関連レコードはタスク番号で識別されます。したがって、入力データ (INQUIRE コマンドの ASSOCIATION オプションで指定される) はタスク番号です。関連データは、指定されたタスクの関連データ制御ブロック (ADCB) から取得します。

関連データ制御ブロックは、タスク接続処理中に構築されます。このタスクの起点として機能する別の CICS タスクに関する情報が、ここに含まれる場合があります。

INQUIRE ASSOCIATION コマンドは、ローカル領域内の単一タスクの関連データに関して照会するのに使用します。ブラウズは、サポート対象外です。

オプション

ACAPPLNAME(*data-area*)
タスクに関連付けられているアプリケーションの名前を返します (64 文字の領域)。タスクに関連付けられているアプリケーション・コンテキストがない場合、このオプションはブランクです。

ACMAJORVER(*data-area*)
タスクに関連付けられているアプリケーションのメジャー・バージョン番号を返します (フルワード・バイナリー形式)。タスクに関連付けられているアプリケーション・コンテキストがない場合、このオプションは 0 を返します。

ACMICROVER(*data-area*)
タスクに関連付けられているアプリケーションのマイクロ・バージョン番号を返します (フルワード・バイナリー形式)。タスクに関連付けられているアプリケーション・コンテキストがない場合、このオプションは 0 を返します。

ACMINORVER(*data-area*)
タスクに関連付けられているアプリケーションのマイナー・バージョン番号を返します (フルワード・バイナリー形式)。タスクに関連付けられているアプリケーション・コンテキストがない場合、このオプションは 0 を返します。

ACOPERNAME(*data-area*)
タスクに関連付けられているアプリケーション操作の名前を返します (64 文字の領域)。タスクに関連付けられているアプリケーション・コンテキストがない場合、このオプションはブランクです。

ACPLATNAME(*data-area*)
タスクに関連付けられているプラットフォームの名前を返します (64 文字の領域)。タスクに関連付けられているアプリケーション・コンテキストがない場合、このオプションはブランクです。

APPLDATA(データ域)
CICS によって、このタスクを開始した要求を受け取ったソケットに関連付けられたアプリケーション・データの 40 文字の値を戻します。タスクが TCPIPSERVICE ソケットを介して開始されたのではない場合は、APPLDATA はブランクです。

40 文字のアプリケーション・データは以下のバイトで構成されます。

24 バイトの接頭部 (Sockets ドメインが所有)

バイト **01** ～ **03**
『DFH』

バイト **04**
I インバウンド (listen および受け入れ)
O アウトバウンド (接続)

バイト **05** ～ **12**
この領域の APPLID

バイト **13** ～ **16**
TCPIPSERVICE で定義されているトランザクションの ID。
CIEP ECI インバウンド
CISC IPIC アウトバウンド
CISS IPIC インバウンド
CWXN
HTTP インバウンド
CWXU
USER インバウンド
xxxx HTTP アウトバウンド

バイト **17** ～ **24**
ネットワーク・プロトコル: ECI、HTTP、IPIC、または USER のいずれか

16 バイトの接尾部 (using ドメインが所有)
接尾部の内容は、接続の状態により異なります。

TCPIPSERVICE はソケットで **listen** します。

バイト **25** ～ **32**
TCPIPSERVICE 名

バイト **33** ～ **40**
TCPIPSERVICE の説明の最初の 8 バイト

IPCONN の獲得後

バイト **25** ～ **32**
IPCONN 名

バイト **33** ～ **40**
パートナー領域の APPLID

アウトバウンド接続のデフォルト

バイト **25** ～ **40**
ブランク

CICS 接続情報を z/OS Communication Server 接続情報と関連付けるためにこのデータを使用することができます。

APPLID(データ域)
このタスクが実行する CICS 領域の 8 文字の APPLID を戻します。

ASSOCIATION(データ値)
関連データを取得するタスクの 4 バイトの番号を指定します。

CLIENTIPADDR(データ域)
39 文字の領域に、このタスクの開始を要求した TCP/IP クライアントの IP アドレスを戻します。CLNTIPFAMILY オプションが IPV4 を戻す場合、戻されるアドレスは 15 文字のドット 10 進 IPv4 アドレスで、ブランクが埋め込まれます。CLNTIPFAMILY が IPV6 を返す場合、返されるアドレスは IPv6 アドレス (3 ～ 39 文字のコロン付き 16 進数) で、ブランクが埋め込まれています。このタスクが TCP/IP クライアントから開始されたのではない場合、CLIENTIPADDR は 0.0.0.0 を戻し、CLNTIPFAMILY は NOTAPPLIC を戻します。

IPv4 アドレスと IPv6 アドレスは、複数のフォーマットで指定することができます。アドレス・フォーマットについて詳しくは、IP アドレスを参照してください。

CLIENTLOC(データ域)
z/OS Communications Server によって戻される、FACILNAME オプション内の機能に関する SO_CLUSTERCONNTYPE ソケット・オプションを表す 32 文字の領域を戻します。SO_CLUSTERCONNTYPE のバイナリー形式は CLIENTLOC では文字に変換され、ゼロまたは 1 として表示されます。CLIENTLOC オプションは、FACILTYPE オプション内の値が IPIC でなけれ

ば現行のソケットを表します。IPIC の場合は、CLIENTLOC は IPCONN に関する CLIENTLOC 値から取られます。 詳細については、INQUIRE IPCONN を参照してください。SO_CLUSTERCONNTYPE の説明と、ビット設定の解説については、z/OS Communications Server IP ソケット・アプリケーション・プログラミング・インターフェースのガイドとリファレンスを参照してください。

CLIENTPORT(データ域)
このタスクを接続する結果となった要求の送信に使用された TCP/IP スタックのポートの番号を、フルワード・バイナリー形式で戻します。この方法でタスクが開始されなかった場合、CLIENTPORT はゼロを返します。

CLNTIPFAMILY(*cvda*)
このタスクにより使用される TCP/IP アドレス指定の形式を示す値を戻します。CVDA 値は以下のとおりです。

IPV4 アドレスは、IPv4 (小数点付き 10 進数アドレス・フォーマット) で指定します。

IPV6 アドレスは IPv6 (コロン付き 16 進数アドレス・フォーマット) で指定します。

NOTAPPLIC
0.0.0.0 は CLIENTIPADDR オプションで指定します。タスクは TCP/IP クライアントから開始されませんでした。

DNAME(*data-area*)
末尾 ASCII ブランクで埋め込まれた 1 文字以上 246 文字以下の識別名を戻します。識別名は、UTF-8 エンコード方式で表示されます。タスクの識別名を使用できない場合、DNAME は ASCII ブランクを戻します。

FACILNAME(データ域)
このタスクの開始に関連した機能の 8 文字の名前を戻します。機能がソケットである場合、FACILNAME は "**STE**" というストリングを返します。機能が URIMAP のない Web 要求である場合、FACILNAME は "**WRB**" というストリングを返します。

FACILTYPE(*cvda*)
このタスクを開始した機能のタイプを識別する CVDA 値を戻します。CVDA 値は以下のとおりです。
APPC LU 6.2 (APPC) 接続
ASRUNTRAN
非同期実行トランザクション
BRIDGE
3270 ブリッジ機能仮想端末
EVENT
イベント処理チャネル
IPECI IP ECI クライアント会話セッション
IPIC IP 相互接続性セッション (IPCONN)
JVMSERVER
JVM server (JVM サーバー)
LU61 LU 6.1 セッション
MRO MRO セッション

| **NODEJSAPP**
| Node.js アプリケーション
なし このタスクに関連している機能はありません
RRSUR
リカバリー・マネージャーのリカバリー単位
RZINSTOR
要求ストリーム (RZ) インストア・トランスポート・クライアント
SCHEDULER
スケジューラー・タイマー要求項目
SOCKET
ソケット・ドメイン・セッション項目
START
非端末関連 START エレメント
STARTTERM
端末関連 START エレメント
TERMINAL
端末入力
TRANDATA
一時データ宛先項目
UNKNOWN
機能タイプが不明
WEB CICS Web サポート・セッション
XMRUNTRAN
CICS ビジネス・トランザクション・サービス (BTS) アクティビティー

INITUSERID(データ域)
このオプションはサポートされなくなりました。

IPCONN(データ域)
このタスクを開始させる結果となった要求を受け取るために使用された IPIC 接続の 8 文字の名前を返します。タスクがこの方法で開始されたのではない場合、IPCONN はブランクを戻します。このフィールドには、FACILTYPE が IPIC である場合のみ、非ブランク値が入ります。

IPFAMILY(*cvda*)
IPv6 アドレス指定をサポートする SRVRIPFAMILY オプションに置き換えられました。IPFAMILY は既存のプログラム専用に維持されています。このタスクにより使用される TCP/IP アドレス指定の形式を示す CVDA 値を戻します。CVDA 値は以下のとおりです。

IPV4 CICS にこのタスクを開始させた要求は、IPv4 アドレスを使用する TCPIPSERVICE リソースに着信しました。

IPV6 CICS にこのタスクを開始させた要求は、IPv6 アドレスを使用する TCPIPSERVICE リソースに着信しました。

NOTAPPLIC
このタスクに関連付けられた TCP/IP クライアントはありません。

LUNAME(データ域)
このタスクが開始された端末の 8 文字のネットワーク名を返します。タスクが IPIC (IPCONN)、SNA を介した ISC (APPC)、または MRO セッションから開始された場合、LUNAME はリモート領域の APPLID を返します。タスクが

端末から開始されたのではなく、IPCONN、APPC、MRO セッションのどれから開始されたのでもない場合、LUNAME はブランクを戻します。 OTS トランザクションの場合、LUNAME はブランクを返します。

MVSIMAGE(データ域)
このタスクを開始した要求を受け取るために使用された TCPIPSERVICE について、それに関連付けられた MVS イメージの名前 (8 文字) を返します。タスクがこの方法で開始されたのではない場合、MVSIMAGE はブランクを戻します。

この機能は、通信サーバー TCP/IP ネットワーク・アクセス制御のサポートが活動化されていることと、CLIENTIPADDRESS がネットワーク・セキュリティー・ゾーン内に構成されていることに依存しています。

NETID(データ域)
このタスクが開始された端末のネットワーク ID (8 文字) を返します。

ODADPTRID(*data-area*)
アダプターによって発信元データに追加されたデータを 64 文字の領域に戻します。このフィールドは、親タスクの開始時に作成されます。タスクがアダプターを使用して開始されなかった場合、またはタスクがアダプターを使用して開始されたのにアダプターによりこの値が設定されなかった場合、ODADPTRID はブランクを戻します。

ODADPTRDATA1(*data-area*)
アダプターによって発信元データに追加されたデータを 64 文字の領域に戻します。このフィールドは、親タスクの開始時に作成されます。タスクがアダプターを使用して開始されなかった場合、またはタスクがアダプターを使用して開始されたのにアダプターによりこの値が設定されなかった場合、ODADPTRDATA1 はブランクを戻します。アダプターがこのフィールドの値を設定したにもかかわらず、アダプター ID が設定されなかった場合にも ODADPTRDATA1 はブランクを戻します。

ODADPTRDATA2(*data-area*)
アダプターによって発信元データに追加されたデータを 64 文字の領域に戻します。このフィールドは、親タスクの開始時に作成されます。タスクがアダプターを使用して開始されなかった場合、またはタスクがアダプターを使用して開始されたのにアダプターによりこの値が設定されなかった場合、ODADPTRDATA2 はブランクを戻します。アダプターがこのフィールドの値を設定したにもかかわらず、アダプター ID が設定されなかった場合にも ODADPTRDATA2 はブランクを戻します。

ODADPTRDATA3(*data-area*)
アダプターによって発信元データに追加されたデータを 64 文字の領域に戻します。このフィールドは、親タスクの開始時に作成されます。タスクがアダプターを使用して開始されなかった場合、またはタスクがアダプターを使用して開始されたのにアダプターによりこの値が設定されなかった場合、ODADPTRDATA3 はブランクを戻します。アダプターがこのフィールドの値を設定したにもかかわらず、アダプター ID が設定されなかった場合にも ODADPTRDATA3 はブランクを戻します。

ODAPPLID(データ域)
このタスクと関連付けられた起点記述子からとられた 8 文字の APPLID を戻します。

ODCLNTIPADDR(データ域)
39 文字の領域に、親タスクの開始を要求した TCP/IP クライアントの IP アドレスを戻します。 ODIPFAMILY が IPV6 を戻す場合、戻されるアドレスは 3 文字から 39 文字までの、コロン 16 進 IPv6 アドレスで、ブランクが埋め込まれます。親タスクが TCP/IP クライアントから開始されなかった場合、ODCLNTIPADDR は 0.0.0.0 を返し、ODIPFAMILY は NOTAPPLIC を返します。

ODCLNTPORT(データ域)
親タスクを接続する結果となった要求の送信に使用された TCP/IP スタックのポートの番号を、フルワード・バイナリー形式で戻します。親タスクがこの方法で開始されたのではない場合、ODCLNTPORT はゼロを戻します。

ODFACILNAME(データ域)
親タスクの開始と関連付けられた機能が、一時データ・キュー、端末、またはシステムである場合、ODFACILNAME は機能の 8 文字の名前を戻します。

親タスクの開始に関連付けられた機能がソケットである場合、ODFACILNAME はストリング「**STE**」を戻します。

ODFACILTYPE(*cvda*)
このタスクと関連付けられた親タスクを開始した機能のタイプを識別する CVDA 値を戻します。CVDA 値は以下のとおりです。
APPC LU 6.2 (APPC) 接続
ASRUNTRAN
非同期実行トランザクション
BRIDGE
3270 ブリッジ機能仮想端末
EVENT
イベント処理チャネル
IPECI IP ECI クライアント会話セッション
IPIC IP 相互接続性セッション (IPCONN)
JVMSERVER
JVM server (JVM サーバー)
LU61 LU 6.1 セッション
MRO MRO セッション
NODEJSAPP
Node.js アプリケーション
なし このタスクに関連している機能はありません
RRSUR
リカバリー・マネージャーのリカバリー単位
RZINSTOR
要求ストリーム (RZ) インストア・トランスポート・クライアント
SCHEDULER
スケジューラー・タイマー要求項目
SOCKET
ソケット・ドメイン・セッション項目

START
非端末関連 START エレメント
STARTTERM
端末関連 START エレメント
TERMINAL
端末入力
TRANDATA
一時データ宛先項目
UNKNOWN
機能タイプが不明
WEB CICS Web サポート・セッション
XMRUNTRAN
CICS ビジネス・トランザクション・サービス (BTS) アクティビティー

ODIPFAMILY(*cvda*)
親タスクにより使用される TCP/IP アドレス指定の形式を示す値を戻します。CVDA 値は以下のとおりです。

IPV4 アドレスは、IPv4 (小数点付き 10 進数アドレス・フォーマット) で指定します。

IPV6 アドレスは IPv6 (コロン付き 16 進数アドレス・フォーマット) で指定します。

NOTAPPLIC
ODCLNTIPADDR オプションで `0.0.0.0` が指定されており、このタスクは TCP/IP クライアントから開始されたのではありません。

ODLUNAME(データ域)
親タスクが開始された端末の 8 文字のネットワーク論理装置名を戻します。親タスクが IPIC (IPCONN)、SNA での ISC (APPC)、または MRO セッションから開始された場合、ODLUNAME はリモート領域のネットワーク名を戻します。親タスクが端末から、または IPCONN、APPC、MRO セッションのいずれかから開始されたのではない場合、ODLUNAME はブランクを戻します。OTS トランザクションの場合、ODLUNAME はブランクを戻します。

ODNETID(データ域)
親タスクが開始された端末 (端末、APPC ピア、または類似装置) のネットワーク ID (8 文字) を返します。

ODNETWORKID(データ域)
タスクが実行された元の領域のアプリケーション ID について、そのネットワーク修飾子 (8 文字) を返します。

ODSERVERPORT(*data-area*)
親タスクが要求を受け取ったときに使用された listen IP ポート番号をフルワード・バイナリー形式で戻します。親タスクがこの方法で開始されたのではない場合、ODSERVERPORT はゼロを戻します。

ODSTARTTIME(データ域)
親タスクが開始された時刻の 21 文字での表記を戻します。この時刻は GMT で、形式は `yyyymmddhhmmss.ssssss` です。

ODTASKID(データ域)
このタスクと関連付けられた親タスクの 4 バイトのパック 10 進数 ID を戻します。

ODTCPIPS(*data-area*)
親タスクを開始させる結果となった要求を受け取った接続に関連付けられた、TCPIPSERVICE リソースの 8 文字の名前を返します。親タスクがこの方法で開始されたのではない場合、ODTCPIPS はブランクを戻します。

ODTRANSID(データ域)
親タスクが実行されたトランザクションの 4 文字の名前を戻します。

ODUSERID(データ域)
親タスクの実行に使用された 8 文字のユーザー ID を戻します。

PHAPPLID(*data-area*)
以前のホップ・データから 8 文字の APPLID を戻します。指定タスクが別の CICS 領域のタスクで開始された場合は、その CICS 領域の APPLID が PHAPPLID に入ります。それ以外の方法で開始された場合には、スペースが入ります。以前のホップ・データについて詳しくは、トランザクションの追跡を参照してください。

PHCOUNT(*data-area*)
このタスクに関連付けられているタスクを開始する要求が 1 つの CICS 領域から別の CICS 領域に送られた回数をフルワード・バイナリー形式で返します。このような要求がなかった場合は、ゼロを返します。

PHNETWORKID(*data-area*)
直前のホップ・データから取得した 8 文字のネットワーク修飾子を返します。指定タスクが別の CICS 領域のタスクで開始された場合は、その CICS 領域の APPLID のネットワーク修飾子が PHNETWORKID に入ります。それ以外の方法で開始された場合には、スペースが入ります。

PHSTARTTIME(*data-area*)
直前のホップ・データから取得したこのタスクの開始時刻を 21 文字表記で返します。この時刻は GMT で、形式は `yyyymmddhhmmss.ssssss` です。指定したタスクを開始したのが別の CICS 領域のタスクだった場合は、その CICS 領域のタスクの開始時刻が PHSTARTTIME に入ります。それ以外の方法で開始された場合には、スペースが入ります。

PHTASKID(*data-area*)
直前のホップ・データから取得した 4 バイト・パック 10 進数の ID を返します。指定タスクが別の CICS 領域のタスクで開始された場合は、その CICS 領域のタスクの ID が PHTASKID に入ります。それ以外の方法で開始された場合には、パック 10 進数のゼロが入ります。

PHTRANSID(*data-area*)
直前のホップ・データから取得した 4 文字のトランザクション名を返します。指定タスクが別の CICS 領域のタスクで開始された場合は、その CICS 領域のタスクのトランザクション名が PHTRANSID に入ります。それ以外の方法で開始された場合には、スペースが入ります。

PROGRAM(データ域)
このトランザクションを実行するタスクにより呼び出された最初のプログラムの 8 文字の名前を戻します。

PTCOUNT(*data-area*)
ローカル CICS 領域内のタスクから、このタスクに関連付けられている TERMID オプションのない **RUN TRANSID** コマンドまたは **START** コマンドによって、同じ CICS 領域内のタスクを開始する要求が出された回数をフルワード・バイナリー形式で戻します。このような要求がなかった場合、PTCOUNT はゼロを戻します。これは事実上、**RUN TRANSID** コマンドを使用した場合、あるいは新規の起点が作成されていないときに **START** コマンドを使用した場合のローカル領域におけるタスクの深さです。

PTSTARTTIME(*data-area*)
直前または親トランザクション・データから取得したこのタスクの開始時刻を 21 文字表記で返します。この時刻は GMT で、形式は yyyymmddhhmmss.ssssss です。指定したタスクを開始したのが同じ CICS 領域のタスクであった場合は、ローカル CICS 領域のタスクの開始時刻が PTSTARTTIME に入ります。それ以外の方法で開始された場合には、スペースが入ります。

PTTASKID(*data-area*)
直前または親トランザクション・データから取得した 4 バイト・パック 10 進数の ID を返します。指定タスクが同じ CICS 領域の別のタスクで開始された場合は、ローカル CICS 領域のタスクの ID が PTTASKID に入ります。それ以外の方法で開始された場合には、パック 10 進数のゼロが入ります。

PTTRANSID(*data-area*)
直前または親トランザクション・データから取得した 4 文字のトランザクション名を返します。指定タスクが同じ CICS 領域の別のタスクで開始された場合は、同じ CICS 領域のタスクのトランザクション名が PTTRANSID に入ります。それ以外の方法で開始された場合には、スペースが入ります。

REALM(*data-area*)
末尾 ASCII ブランクで埋め込まれた、UTF-8 エンコード方式による 1 文字以上 255 文字以下のレルム名を戻します。このレルムは、分散 ID のコンポーネントであり、セキュリティー ID を適用する領域を定義します。

SERVERIPADDR(データ域)
39 文字の領域に、このタスクをスケジュールした IP サービスの IP アドレスを戻します。IPFAMILY オプションが IPV4 を戻す場合、戻されるアドレスは 15 文字のドット 10 進 IPv4 アドレスで、ブランクが埋め込まれます。SRVRIPFAMILY が IPV6 を戻す場合、このアドレスは 3 文字から 39 文字までのコロン 16 進 IPv6 アドレスで、ブランクが埋め込まれます。このタスクが IP サービスによって開始されなかった場合、SERVERIPADDR は 0.0.0.0 を返し、SRVRIPFAMILY は NOTAPPLIC を返します。

IPv4 アドレスと IPv6 アドレスは、複数のフォーマットで指定することができます。アドレス・フォーマットについて詳しくは、IP アドレスを参照してください。

SERVERPORT(データ域)
このタスクを接続する結果となった要求を IP サービスが listen しているポートの番号を、フルワード・バイナリー形式で返します。サービスは

TCPIPSERVICE リソースまたは Liberty JVM サーバーのいずれかです。タスクがこの方法で開始されたのではない場合、SERVERPORT はゼロを戻します。

SRVRIPFAMILY(*cvda*)
IPFAMILY オプションと置き換わります。SRVRIPFAMILY は、このタスクにより使用される IP アドレス指定の形式を示す値を戻します。CVDA 値は以下のとおりです。

IPV4 アドレスは、IPv4 (小数点付き 10 進数アドレス・フォーマット) で指定します。

IPV6 アドレスは IPv6 (コロン付き 16 進数アドレス・フォーマット) で指定します。

NOTAPPLIC
0.0.0.0 は SERVERIPADDR オプションで指定します。タスクは TCP/IP クライアントから開始されませんでした。

STARTTIME(データ域)
このタスクが開始された時刻の 21 文字での表記を戻します。この時刻は GMT で、形式は yyyymmddhhmmss.ssssss です。

TCPIPJOB(データ域)
このタスクを開始させる結果となった要求を受け取った接続と関連付けられた、TCP/IP ジョブの 8 文字の名前を返します。タスクがこの方法で開始されたのではない場合、TCPIPJOB はブランクを戻します。

この機能は、通信サーバー TCP/IP ネットワーク・アクセス制御のサポートが活動化されていることと、CLIENTIPADDRESS がネットワーク・セキュリティー・ゾーン内に構成されていることに依存しています。

TCPIPSERVICE(データ域)
このタスクを開始させる結果となった要求を受け取った接続と関連付けられた、TCPIPSERVICE リソースの 8 文字の名前を返します。タスクがこの方法で開始されたのではない場合、TCPIPSERVICE はブランクを戻します。

TCPIPZONE(データ域)
このタスクを開始させる結果となった要求を受け取った接続と関連付けられた、TCP/IP ネットワーク・セキュリティー・ゾーン (もしあれば) の 8 文字の名前を返します。 TCP/IP ネットワーク・セキュリティー・ゾーンがないか、またはタスクがこの方法で開始されたのではない場合、TCPIPZONE はブランクを戻します。

TCPIPZONE は、通信サーバー TCP/IP ネットワーク・アクセス制御サポートがアクティブ化されるかどうか、および CLIENTIPADDRESS をネットワーク・セキュリティー・ゾーンに構成するかどうかにより異なります。

TRNGRPID(データ域)
発信トランザクションのトランザクション・グループ ID を表す固有 ID を 28 バイトの領域に返します。

TRANSACTION(データ域)
このタスクが実行しているトランザクションの 4 文字の名前を戻します。

USERCORRDATA(データ域)
64 バイトの領域に、XAPADMGR グローバル・ユーザー出口プログラムにより

関連データ起点記述子に追加された、ユーザー関係子データを戻します。このフィールドは、親タスクの開始時に作成されます。グローバル・ユーザー出口プログラムがこの時点で実行されない場合、USERCORRDATA はブランクを戻します。

USERID(データ域)
このタスクと関連付けられた 8 文字のユーザー ID を戻します。

注: Liberty では、CICS セキュリティー機能を使用する場合、**Task attach** より後の時刻にユーザー ID が確立されます。したがって、関連データのユーザー ID 値は、セキュア Liberty トランザクションで使用される最終ユーザー ID 値を反映しません。

条件

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

2 コマンドが引数なしで指定されました。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

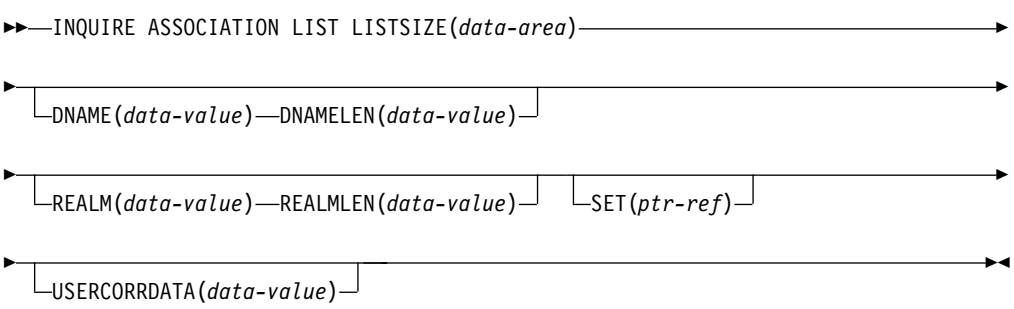
TASKIDERR
RESP2 値は以下のとおりです。

1 ASSOCIATION オプションで指定したタスクが見つかりませんでした。

INQUIRE ASSOCIATION LIST

INQUIRE ASSOCIATION LIST コマンドは、ローカル領域内のユーザー・タスクのリストを戻します。

INQUIRE ASSOCIATION LIST



条件: INVREQ、LENGERR、NOTAUTH

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

ユーザー・タスクとは、ユーザー定義のトランザクションか CICS で提供されているトランザクションに関連付けられているタスクのことです。 フィルターの数値に一致するタスクにリストを制限することができます。

INQUIRE ASSOCIATION LIST を使用して、XAPADMGR グローバル・ユーザー出口プログラムがタスクの関連データ起点記述子に追加したユーザー相関データに関して、タスクをフィルター処理することができます。一連の共通値を共用しているタスクおよびトランザクション・グループ ID を見つけるために、関連データの起点データ部分にある特定のフィールドを検索することもできます。フィルター操作が可能なフィールドについて詳しくは、『フィルター・オプション』を参照してください。

このコマンドは、タスクのリストのアドレスを SET で戻します。リストの各項目は、DNAME と REALM、および USERCORRDATA フィルターと一致するタスクを識別します。リスト内の項目の数は LISTSIZE で戻されます。

関連データについて詳しくは、関連データを参照してください。

フィルター・オプション

DNAME、REALM、および USERCORRDATA オプションは、それぞれ 3 つの別個のフィルターです。以下の規則が適用されます。

- 1 つのフィルターを指定した場合、そのフィルターの基準にマッチするタスクのみ戻されます。
- 複数のフィルターを指定した場合、両方のフィルターに一致するタスクが戻されます。
- フィルターを指定しない場合、すべてのタスクが戻されます。

オプション

DNAME(*data-value*)

左括弧と右括弧の 2 文字を含む、最大 246 文字までの UTF-8 文字フィールドを指定します。 DNAME オプションでは、括弧を指定する必要があります。 DNAME は、REALM オプションで指定されたレルムに関する識別名のリストを戻すフィルターです。識別名は UTF-8 エンコード方式で表示されます。そのため、ヌル値は ASCII ブランクで表されます。このオプションを指定した場合、z/OS のリリースが正しくなければ空のリストが戻されます。

許容される検索形式は、次のとおりです。

```
(attr=value)
(attr=value*)
```

ここで、

- `attr` は、REALM オプションで指定された、レルムに関する識別名の最初の属性です。この属性では大文字小文字が区別されます。
- `value` は識別名の最初の値です。`value*` を指定すると総称名が可能です。 `*` はゼロ個以上の文字を表します。この属性では大文字小文字が区別されます。

例えば、識別名が次のような形式である場合、

```
CN=John Smith
```

検索引数を次のような形式にすることができます。

```
(CN=John Smith)
```

または、総称形式を次のような形式にすることができます。

```
(CN=John S*)
```

例えば (CN=*) のような総称フィルターを指定する場合、最初の属性が指定されている識別名を持つタスクだけが含まれます。

244 文字を超える長さの名前をフィルタリングする場合、総称フィルターを使用する必要があります。

value を指定しない場合、または DNAME が設定されない場合には、指定されたレルムに関するすべての識別名が含まれます。

DNAME が REALM および USERCORRDATA とどのように連動するかについては、フィルター・オプションを参照してください。

DNAMELEN(*data-value*)
DNAME オプションの長さを指定します。DNAMELEN は、最大 246 までの数値です。

LISTSIZE(*data-area*)
SET オプションによってアドレス指定されたリスト内の項目の数を、フルワード・バイナリー数で返します。リストの各項目は、DNAME と REALM、および USERCORRDATA フィルターと一致するタスクを識別します。1 つ以上のフィルターがどのタスクにも一致しなかった場合、LISTSIZE はゼロを戻します。

REALM(*data-value*)
レルム名を UTF-8 エンコード方式で指定します。そのため、ヌル値は ASCII ブランクで表されます。このレルムは、分散 ID のコンポーネントであり、セキュリティー ID を適用する領域を定義します。 WebSphere Application Server を使用している場合、ユーザーが定義されているレジストリーへのアクセスを提供するサービスをレルム名にすることができます。LDAP サーバー構成の listen ステートメントは、レルム名を URL 形式で提供します。

このオプションを指定した場合、z/OS のリリースが正しくなければ空のリストが戻されます。

値を指定しない場合、または REALM を設定しない場合、すべてのレルムが含まれます。

REALM が DNAME および USERCORRDATA とどのように連動するかについては、フィルター・オプションを参照してください。

REALMLEN(*data-value*)
REALM オプションの長さを指定します。REALMLEN は、最大 255 までの数値です。

SET(*ptr-ref*)
4 バイト、パック 10 進数のタスク番号のリストのアドレスを指定します。リストの各項目は、DNAME と REALM、および USERCORRDATA フィルターと

一致するタスクを識別します。1 つ以上のフィルターがどのタスクにも一致しなかった場合、SET ポインターにはヌル値が入ります。

照会中のタスクが別の **INQUIRE ASSOCIATION LIST** コマンドを発行するかまたは終了すると、CICS はこのリスト用のストレージを取得し、それを解放します。タスクはストレージを解放できません。

USERCORRDATA(*data-value*)

XAPADMGR グローバル・ユーザー出口プログラムによって関連データ起点記述子に追加された、ユーザー相関データのサブセット (最大 64 バイト) を指定します。このデータは、この要求に一致するタスク番号のリストを戻すフィルターとして使用されます。

フィルターには、以下の『ワイルドカード』文字を含めることができます。

? 任意の 1 文字に完全一致。

***** 文字数がゼロ個以上の任意の文字列に一致。

USERCORRDATA が DNAME および REALM とどのように連動するかについては、フィルター・オプションを参照してください。

条件

INVREQ

RESP2 値は以下のとおりです。

1 無効な識別名の検索フィルターです。

3 DNAME または DNAMELEN のいずれか 1 つが指定されています。DNAME オプションと DNAMELEN オプションの両方を指定する必要があります。

4 REALM または REALMLEN のいずれか 1 つが指定されています。REALM オプションと REALMLEN オプションの両方を指定する必要があります。

LENGERR

RESP2 値は以下のとおりです。

3 DNAMELEN が負の値か、または 246 より大きい値です。

4 REALMLEN が負の値か、または 255 より大きい値です。

NOTAUTH

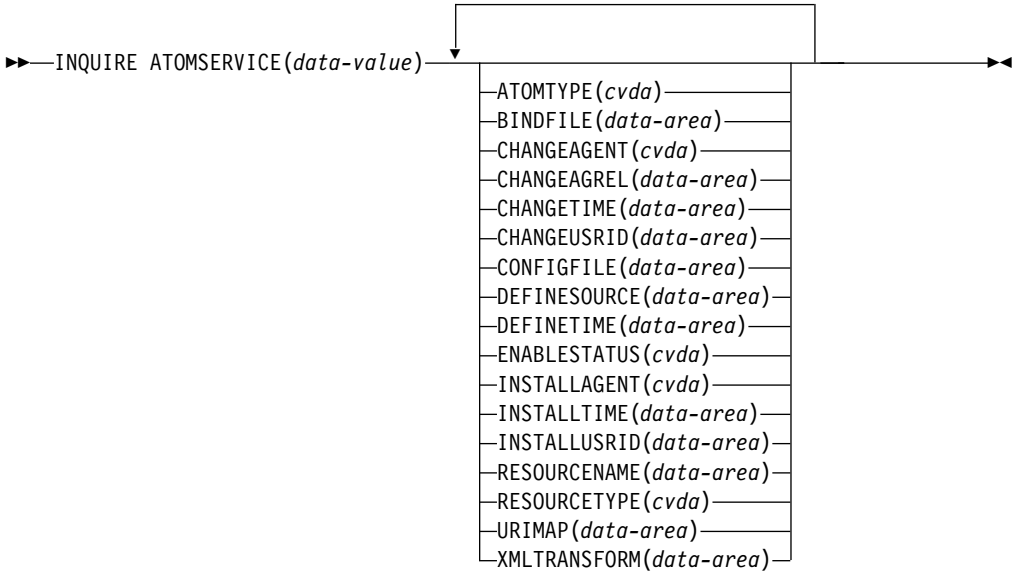
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

INQUIRE ATOMSERVICE

ローカル・システム内の ATOMSERVICE リソースについての情報を取得します。

INQUIRE ATOMSERVICE



条件: END、ILLOGIC、NOTAUTH、NOTFND

このコマンドはスレッド・セーフです。

ブラウズ

INQUIRE ATOMSERVICE コマンドでブラウズ・オプション START、NEXT、および END を使用することにより、領域にインストールされているすべての ATOMSERVICE 定義をブラウズすることができます。

リソース・シグニチャー

このコマンドを使用して、リソース・シグニチャー・フィールドを検索することができます。これらのフィールドを使用すると、リソースの定義時、インストール時、および最終変更時の詳細データを収集して、リソースを管理できます。 詳しくは、Auditing resourcesを参照してください。 リソース・シグニチャー・フィールドは BUNDLE、CHANGEAGENT、CHANGEAGREL、CHANGETIME、CHANGEUSRID、DEFINESOURCE、DEFINETIME、INSTALLAGENT、INSTALLTIME、および INSTALLUSRID です。リソース・シグニチャー・フィールドの内容について詳しくは、Summary of the resource signature field valuesを参照してください。

オプション

ATOMSERVICE(*data-value*)
照会する ATOMSERVICE リソースの名前を指定します。この名前は、8 文字以内の長さで指定することができます。

ATOMTYPE*(cvda)*
この ATOMSERVICE 定義により作成される Atom 文書のタイプを示す CVDA 値を戻します。CVDA 値は以下のとおりです。

CATEGORY
コレクション内の文書のカテゴリーをリストした Atom カテゴリー文書。

COLLECTION
編集可能なエントリー文書のグループが含まれている Atom コレクション文書。

FEED フィードのためのメタデータを記述し、フィードにデータを提供するエントリー文書が含まれている Atom フィード文書。

SERVICE
サーバー上で入手可能なエントリー文書のコレクションに関する情報を提供し、追加または編集が可能な Atom サービス文書。

UNKNOWN
ATOMTYPE が判別できません。これは恐らく、関連する構成ファイルを読み取ることができないためです。

BINDFILE(*data-area*)
この ATOMSERVICE 定義で指定された XML バインディングの完全修飾名 (絶対) または相対名を含む 255 文字のデータ域を戻します。XML バインディングは、z/OS UNIX システム・サービスに格納されており、Atom 文書にデータを提供する CICS リソースが使用するデータ構造を指定します。この Atom 文書は、このリソース定義に対して戻されるものです。サービス文書およびカテゴリー文書では、XML バインディングが使用されません。したがって、ATOMTYPE が SERVICE または CATEGORY である場合は、BINDFILE はブランクを戻します。

CHANGEAGENT(*cvda*)
リソース定義を最後に変更したエージェントを識別する CVDA 値を戻します。有効な値は、以下のとおりです。

CREATESPI
リソース定義は **EXEC CICS CREATE** コマンドによって最後に変更されました。

CSDAPI
リソース定義は、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによって最後に変更されました。

CSDBATCH
リソース定義は、DFHCSDUP ジョブによって最後に変更されました。

DREPAPI
リソース定義は、CICSPlex SM BAS API コマンドによって最後に変更されました。

CHANGEAGREL(*data-area*)
リソース定義の最終変更時に実行していた CICS リリースの 4 桁の数値を戻します。

CHANGETIME(*data-area*)
リソース定義の最終変更時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。ABSTIME 値のフォーマットについて詳しくは、FORMATTIMEを参照してください。

CHANGEUSRID(*data-area*)
変更エージェントを実行した 8 文字のユーザー ID を戻します。

CONFIGFILE*(data-area)*
この ATOMSERVICE 定義で指定された Atom 構成ファイルの完全修飾名 (絶対) または相対名を含む 255 文字のデータ域を戻します。Atom 構成ファイルは z/OS UNIX システム・サービスに格納されます。このファイルの内容は、このリソース定義に対して戻される Atom 文書のメタデータおよびコンテンツを指定する XML です。

DEFINESOURCE(*data-area*)
リソース定義の 8 文字のソースを戻します。DEFINESOURCE 値は CHANGEAGENT 値に依存します。詳しくは、Summary of the resource signature field valuesを参照してください。

DEFINETIME(*data-area*)
リソース定義の作成時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。

ENABLESTATUS*(cvda)*
この ATOMSERVICE 定義の状況を示す CVDA 値を戻します。CVDA 値は以下のとおりです。

ENABLED
ATOMSERVICE 定義は使用可能です。

DISABLED
ATOMSERVICE 定義は使用不可です。この状況の ATOMSERVICE 定義は、廃棄できます。

INSTALLAGENT(*cvda*)
リソースをインストールしたエージェントを識別する CVDA 値を戻します。有効な値は、以下のとおりです。

BUNDLE
リソースは、バンドルのデプロイメントによってインストールされました。

CREATESPI
リソースは、**EXEC CICS CREATE** コマンドによってインストールされました。

CSDAPI
リソースは、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによってインストールされました。

GRPLIST
リソースは、**GRPLIST INSTALL** によってインストールされました。

INSTALLTIME(*data-area*)
リソースのインストール時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。

INSTALLUSRID(*data-area*)
リソースをインストールした 8 文字のユーザー ID を戻します。

RESOURCENAME*(data-area)*
この Atom フィードまたはコレクションにデータを提供する CICS リソースの 16 文字の名前を戻します。このオプションは、Atom サービスまたはカテゴリー文書には適用されません。

RESOURCETYPE*(cvda)*
この Atom フィードまたはコレクションにデータを提供する CICS リソースのタイプを示す CVDA 値を戻します。このオプションは、Atom サービスまたはカテゴリー文書には適用されません。 CVDA 値は以下のとおりです。

FILE CICS ファイル。

PROGRAM
Atom エントリーにコンテンツを提供するために作成された CICS アプリケーション・プログラムであるサービス・ルーチン。

TSQUEUE
一時記憶域キュー。

NOTAPPLIC
ATOMTYPE の値が SERVICE または CATEGORY の場合、このリソース・タイプは適用されません。

URIMAP*(data-area)*
この ATOMSERVICE 定義に関連付けられた URI を示す 8 文字の URIMAP 名を戻します。この ATOMSERVICE 定義に関連する自動生成された URIMAP がない場合、このフィールドは空です。

XMLTRANSFORM*(data-area)*
ATOMSERVICE 定義に関連付けられた XMLTRANSFORM リソースの 32 文字の名前を戻します。 ATOMTYPE の値が SERVICE または CATEGORY の場合、このフィールドは空です。

条件

END
RESP2 値:

2 このタイプのリソース定義はありません。

ILLOGIC
RESP2 値:

1 このリソース・タイプのブラウズが既に実行されているときに START コマンドが出されたか、もしくは、このリソース・タイプのブラウズが実行されていないときに NEXT または END コマンドが出された。

NOTAUTH
RESP2 値:

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

101 発行中のタスクに関連付けられているユーザーには、このコマンドが要求する方法でこの特定のリソースにアクセスする権限がありません。

NOTFND
RESP2 値:

3 ATOMSERVICE が見つかりません。

INQUIRE AUTINSTMODEL

自動インストール・モデルがインストールされているかどうかを検出します。

INQUIRE AUTINSTMODEL

条件**:** END、ILLOGIC、MODELIDERR、NOTAUTH

説明

INQUIRE AUTINSTMODEL コマンドにより、特定の自動インストール・モデルがインストールされているか (CICS システムの現在の実行で定義されているか) どうかを判別できます。

ブラウズ

INQUIRE AUTOINSTALL コマンドでブラウズ・オプション (START、NEXT、および END) を使用することにより、システムにインストールされているすべての自動インストール・モデルをブラウズすることもできます。ブラウズに関する一般情報 (構文、例外条件、および例を含む) については、Browsing resource definitions を参照してください。

オプション

AUTINSTMODEL(*data-value***)**
照会しようとしている自動インストール・モデルの 8 文字の ID を指定します。

条件

END
RESP2 値は以下のとおりです。

2 このタイプのリソース定義はありません。

ILLOGIC
RESP2 値は以下のとおりです。

1 このリソース・タイプのブラウズが既に実行されているときに START コマンドが出されたか、もしくは、このリソース・タイプのブラウズが実行されていないときに NEXT または END コマンドが出された。

MODELIDERR
RESP2 値は以下のとおりです。

1 指定されたモデルが見つかりません。

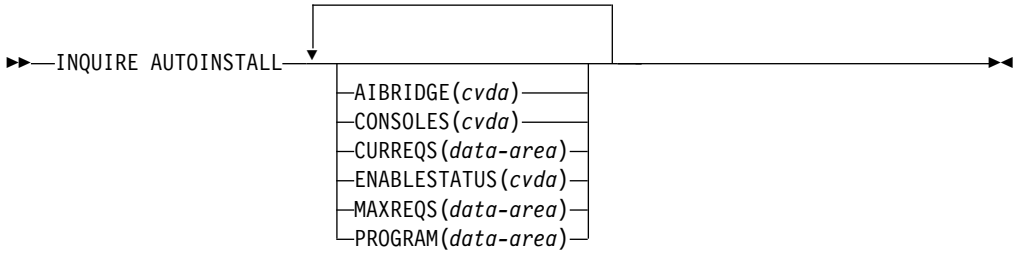
NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

INQUIRE AUTOINSTALL

自動インストールの値を取得します。

INQUIRE AUTOINSTALL



条件: NOTAUTH

説明

INQUIRE AUTOINSTALL は、z/OS Communications Server 端末、APPC セッション、3270 ブリッジ機構で使用される仮想端末 (ブリッジ機能)、および CICS システムの MVS コンソールの自動インストールに関連した情報を戻します。

CVDA の使用について詳しくは、CICS-value data areas (CVDAs)を参照してください。

オプション

AIBRIDGE(*cvda*)
自動インストール・ユーザー置き換え可能プログラム (URM) がブリッジ機能に対して呼び出されるかどうかを示す値を戻します。 CVDA 値は以下のとおりです。

AUTOTERMID
ブリッジ機能は、CICS によって自動的に定義されます。自動インストール・ユーザー置き換え可能プログラムは呼び出されません。

URMTERMID
自動インストール・ユーザー置き換え可能プログラムが呼び出されます。

CONSOLES(*cvda*)
CICS におけるコンソール自動インストールの状況を示す CVDA 値を戻します。CVDA 値は以下のとおりです。

PROGAUTO
ENABLESTATUS が CVDA 値 ENABLED を戻す場合、コンソールは自動インストールされます。インストールと削除機能のために自動インストール制御プログラムが呼び出されます。

FULLAUTO
ENABLESTATUS が CVDA 値 ENABLED を戻す場合、コンソールは自動インストールされます。インストールと削除機能のために自動イン

ストール制御プログラムが呼び出されず、CICS は、自動インストールするコンソールの端末 ID を自動的に生成します。

NOAUTO
コンソールを自動インストールできません。

CURREQS(*data-area*)
現在処理中の端末自動インストール要求の数を示すフルワード・バイナリー・フィールドを戻します。この数には、この方法ですでにインストールされている端末は含まれません。

ENABLESTATUS(*cvda*)
CICS 自動インストール機能の全体的な状況を示す CVDA 値を戻します。CVDA 値は次のとおりです。

DISABLED
CICS ではコンソールも端末も自動インストールできません。以下の条件では、DISABLED が戻されます。

端末　MAXREQS が 0 と等しいか、自動インストール制御プログラムが無効になっています。

コンソール

1. CONSOLES CVDA は NOAUTO を戻します。
2. CONSOLES CVDA は PROGAUTO を戻しますが、自動インストール制御プログラムが無効になっています。

ENABLED
CICS では、コンソールまたは端末、もしくはその両方を自動インストールできます。 ENABLED がコンソール、端末、もしくはその両方のいずれに適用されるかを確認したい場合は、その他のオプションで戻される値を確認してください。ENABLED は以下の条件で戻されます。

端末　MAXREQS は 0 と等しくなく、自動インストール制御プログラムが有効になっています。

コンソール

1. CONSOLES CVDA は FULLAUTO を戻します。
2. CONSOLES CVDA は PROGAUTO を戻し、自動インストール制御プログラムが有効になっています。

MAXREQS(*data-area*)
同時に処理できる自動インストール要求の最大数を示すフルワード・バイナリー・フィールドを戻します。この値は、自動的にインストールできる端末の総数には影響を与えないことに注意してください。(MAXREQS オプションは、AIQMAX システム初期設定パラメーターに相当します。)

PROGRAM(*data-area*)
自動インストール・プロセスで使用される、インストール済み環境で提供されたプログラムの 8 文字の名前を戻します。これは、CICS が提供するデフォルトの自動インストール・プログラム DFHZATDX、またはユーザー作成プログラムのどちらかです。

条件

NOTAUTH

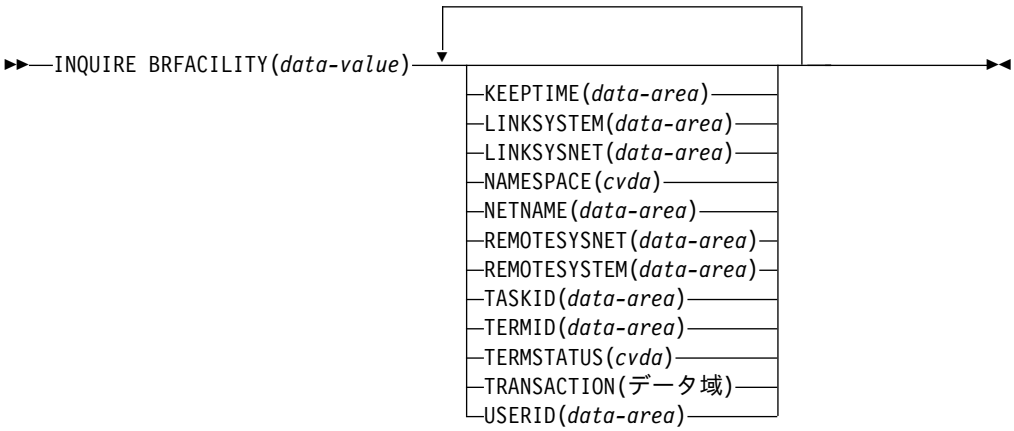
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

INQUIRE BRFACILITY

3270 ブリッジ機構により使用される仮想端末 (ブリッジ機能) に関する情報を取得します。

INQUIRE BRFACILITY



条件: END、ILLOGIC、NOTAUTH、NOTFOUND

CVDA の使用について詳しくは、CICS-value data areas (CVDAs)を参照してください。

説明

INQUIRE BRFACILITY コマンドは、ブリッジ機能に関する情報を戻します。これは、ブリッジ環境で CICS 3270 アプリケーションを実行する際に実際の 3270 をシミュレートするために 3270 ブリッジ機構で使用される仮想端末です。Link3270 ブリッジ・プログラム、またはブリッジ機能が作成された AOR 領域で実行される任意のアプリケーションでこのコマンドを使用すると、基本機能でない場合であっても、アクティブなブリッジ機能に関する情報を取得できます。

ブラウズ

INQUIRE BRFACILITY コマンド上でブラウズ・オプション (START、NEXT、および END) を使用して、システムにインストールされているブリッジ機能をブラウズすることもできます。ブラウズに関する一般情報 (構文、例外条件、および例を含む) については、Browsing resource definitionsを参照してください。

オプション

BRFACILITY(*data-value*)
照会するブリッジ機能の 8 バイトの機能トークンを指定します。

KEEPTIME(*data-area*)
非アクティブである場合にブリッジ機能が保持される時間の長さ (秒) を示すフルワード・バイナリー・フィールドを戻します。

- 表示されているブリッジ機能が Link-Bridge である場合、この値は、この機能が割り振られたときに指定された時間、またはデフォルト値 5 分です。KEEPTIME 値が、**BRMAXKEEPTIME** システム初期設定パラメーターの値より大きい場合、BRMAXKEEPTIME まで減らされます。
- 表示されている機能が Web-Bridge である場合、KEEPTIME 値は当初、Webdelay 端末保持時間 (**WEBDELAY** システム初期設定パラメーターの 2 番目の部分) に設定されます。

LINKSYSNET(*data-area*)
Link3270 ブリッジ要求が別の領域に経路指定されている場合の AOR の 8 バイトのアプリケーション ID を戻します。要求が Link3270 ブリッジ・プログラムと同じ領域で処理される場合は、このフィールドはブランクになります。このフィールドは、Link3270 セッションで最初のトランザクションを実行するときに動的トランザクション・ルーティングが複数の試行を行うと、変わることがあります。 このフィールドは、Link3270 ブリッジ・プログラム領域でのみ設定されます。

LINKSYSTEM(*data-area*)
Link3270 ブリッジ要求が別の領域に経路指定されている場合の AOR の 4 バイトのシステム ID を戻します。要求が Link3270 ブリッジ・プログラムと同じ領域で処理される場合は、このフィールドはブランクになります。このフィールドは、Link3270 セッションで最初のトランザクションを実行するときに動的トランザクション・ルーティングが複数の試行を行うと、変わることがあります。 このフィールドは、Link3270 ブリッジ・プログラム領域でのみ設定されます。

NAMESPACE(*cvda*)
ブリッジ機能名の割り振りに使用される名前空間のスコープを示す CVDA 値を戻します。CVDA 値は次のとおりです。

LOCAL
ブリッジ機能は START BREXIT ブリッジ機構によって割り振られたため、その名前は、それが作成されたローカル領域の中でのみ固有のものとなります。

SHARED
ブリッジ機能は Link3270 ブリッジ機構によって割り振られたため、その名前は、共用 DFHBRNSF 名前空間ファイルへのアクセス権限を持つ CICSplex 内のすべての CICS Link3270 ブリッジ領域間で固有のものとなります。

NETNAME(*data-area*)
照会するブリッジ機能の 8 バイトの仮想ネット名を指定します。

REMOTESYSNET(*data-area*)
ルーターのアプリケーション ID を示す 8 バイトのフィールドを戻します。このフィールドは、AOR 領域でのみ設定されます。AOR がルーター領域である場合はブランクです。

REMOTESYSTEM(*data-area*)
ルーターのシステム ID を示す 4 バイトを戻します。このフィールドは、AOR 領域でのみ設定されます。AOR がルーター領域である場合はブランクです。

TASKID(*data-area*)
ユーザー・トランザクションを実行するタスクの番号を示すフルワード・バイナリー・フィールドを戻します。このフィールドは、AOR でのみ設定されます。ブリッジ機能が現在使用中ではない場合、このフィールドはゼロです。

TERMID(*data-area*)
照会するブリッジ機能の 4 バイトの仮想端末名を指定します。

TERMSTATUS(*cvda*)
ブリッジ機能の状況を示す CVDA 値を戻します。CVDA 値は次のとおりです。

ACQUIRED
ブリッジ機能は現在使用中です。

AVAILABLE
ブリッジ機能は現在使用中ではありません。クライアントによる再使用が可能です。

RELEASED
ブリッジ機能に対して SET BRFACILITY RELEASED が発行されています。これは次のクリーンアップ・サイクルで削除されます。

TRANSACTION(*data-area*)
現在の領域で認識されている、3270 ブリッジによって実行されるユーザー・トランザクションの名前を示す 4 バイトのフィールドを戻します。ブリッジ機能が現在使用中ではない場合、この値はブランクです。

USERID(*data-area*)
このブリッジ機能に関連付けられているユーザー ID を示す 8 バイトのフィールドを戻します。

条件

END
RESP2 値は以下のとおりです。

1 このタイプのリソース定義はありません。

ILLOGIC
RESP2 値は以下のとおりです。

1 このリソース・タイプのブラウズが既に実行されているときに START コマンドが出されたか、もしくは、このリソース・タイプのブラウズが実行されていないときに NEXT または END コマンドが出された。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

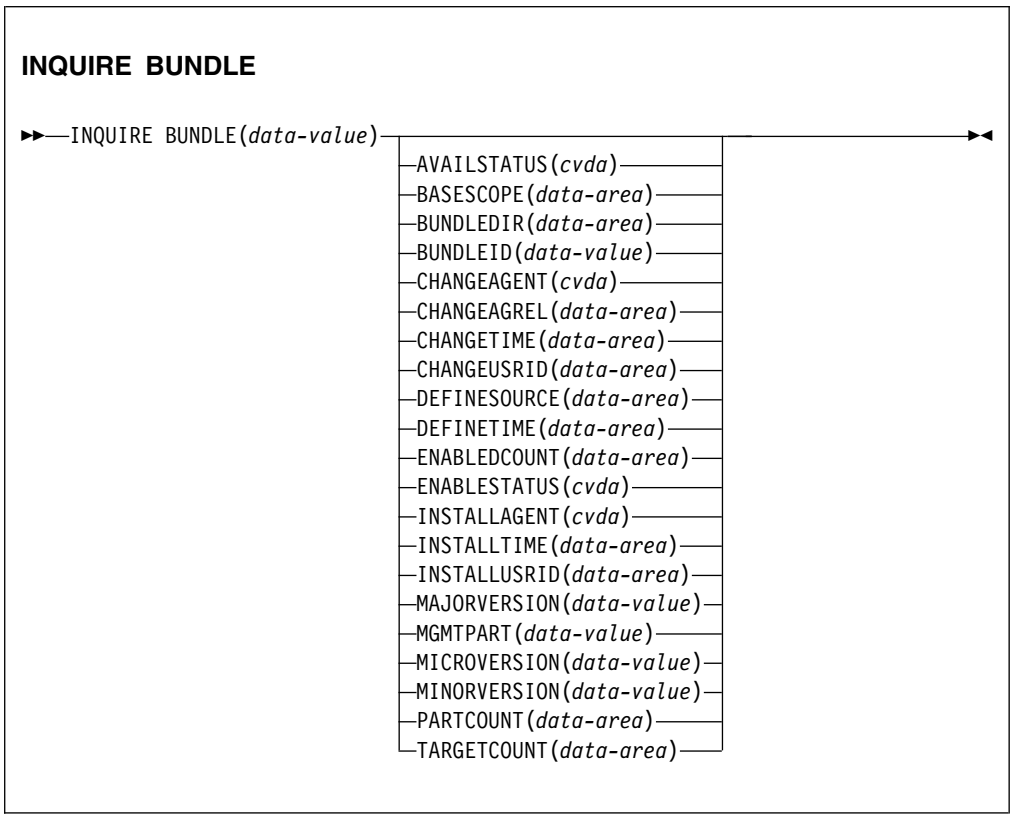
NOTFOUND

RESP2 値は以下のとおりです。

1 指定されたブリッジ機能が見つかりません。

INQUIRE BUNDLE

インストール済み BUNDLE リソースに関する情報を取得します。



条件**:** END、ILLOGIC、INVREQ、NOTAUTH、NOTFND

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

インストール済み BUNDLE リソースに関する情報を取得するには、**INQUIRE BUNDLE** コマンドを使用します。 BUNDLE リソースの内容は、インポート、エクスポート、修飾子、および定義を収録可能なマニフェストに定義されます。マニフェストの定義セクションには、BUNDLE リソースをインストールしたときに CICS が動的に作成するリソースが記述されます。このコマンドを使用すると、z/OS UNIX 内でのバンドルのロケーション、マニフェストにリストされたインポート、エクスポート、修飾子、定義の件数、およびこれらの定義のうち CICS 領域で現在有効になっている件数を確認できます。

インストールされた BUNDLE リソースに含まれる各リソースのさらに詳細な情報を調べるには、INQUIRE BUNDLEPART コマンドを使用してリソースをブラウズしてください。

ブラウズ

INQUIRE BUNDLE コマンドでブラウズ・オプション START、NEXT、および END を使用することにより、ご使用の領域にインストールされているすべての BUNDLE リソースをブラウズできます。

リソース・シグニチャー

このコマンドを使用して、リソース・シグニチャー・フィールドを検索することができます。これらのフィールドを使用すると、リソースの定義時、インストール時、および最終変更時の詳細データを収集して、リソースを管理できます。 詳しくは、Auditing resourcesを参照してください。 リソース・シグニチャー・フィールドは BUNDLE、CHANGEAGENT、CHANGEAGREL、CHANGETIME、CHANGEUSRID、DEFINESOURCE、DEFINETIME、INSTALLAGENT、INSTALLTIME、および INSTALLUSRID です。リソース・シグニチャー・フィールドの内容について詳しくは、Summary of the resource signature field valuesを参照してください。

オプション

AVAILSTATUS(*cvda*)
CICS バンドルを表す BUNDLE リソースの状況を返します。

AVAILABLE
呼び出し元は、CICS バンドルでアプリケーション・エントリー・ポイントとして識別されるすべてのリソースにアクセスできます。

UNAVAILABLE
呼び出し元は、CICS バンドルでアプリケーション・エントリー・ポイントとして識別されるどのリソースにもアクセスできません。

SOMEAVAIL
一部のアプリケーション・エントリー・ポイントは使用可能であり、一部は使用できません。

NONE
バンドルにアプリケーション・エントリー・ポイントのステートメントは含まれていません。

BASESCOPE(*data-area*)
バンドルの内容にルート名前空間を定義する 1 文字から 255 文字のストリングを戻します。

バンドルがプラットフォームに対してインストールされた場合、この属性は、バンドルのデプロイ先のプラットフォームとアプリケーションを記述する URI を返します。この URI の形式は次のとおりです。

cicsapplication://*Platform*/*ApplicationID*/*MajorVersion*/*MinorVersion*/*MicroVersion*

Platform はアプリケーションが実行されているプラットフォームの名前、*ApplicationID* はアプリケーション・バンドルの ID です (後ろにアプリケーションのバージョンが続きます)。

BUNDLE(*data-value*)
照会する BUNDLE リソースの名前を指定します。この名前は、8 文字以内の長さで指定することができます。

BUNDLEDIR(*data-area*)
z/OS UNIX 上のバンドルについて、1 から 255 文字のルート・ディレクトリーの完全修飾名を返します。

BUNDLEID(*data-value*)
1 から 64 文字のバンドルの ID を返します。ID が指定されていない場合、このオプションはブランクを返します。

CHANGEAGENT(*cvda*)
リソース定義を最後に変更したエージェントを識別する CVDA 値を戻します。有効な値は、以下のとおりです。

CREATESPI
リソース定義は **EXEC CICS CREATE** コマンドによって最後に変更されました。

CSDAPI
リソース定義は、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによって最後に変更されました。

CSDBATCH
リソース定義は、DFHCSDUP ジョブによって最後に変更されました。

DREPAPI
リソース定義は、CICSPlex SM BAS API コマンドによって最後に変更されました。

CHANGEAGREL(*data-area*)
リソース定義の最終変更時に実行していた CICS リリースの 4 桁の数値を戻します。

CHANGETIME(*data-area*)
リソース定義の最終変更時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。ABSTIME 値のフォーマットについて詳しくは、FORMATTIMEを参照してください。

CHANGEUSRID(*data-area***)**
変更エージェントを実行した 8 文字のユーザー ID を戻します。

DEFINESOURCE(*data-area*)
リソース定義の 8 文字のソースを戻します。DEFINESOURCE 値は CHANGEAGENT 値に依存します。詳しくは、Summary of the resource signature field valuesを参照してください。

DEFINETIME(*data-area*)
リソース定義の作成時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。

ENABLEDCOUNT(*data-area*)
バンドルによって動的に作成され、CICS 領域内で有効になっているリソースおよび入り口点の現在の数を返します。

ENABLESTATUS(*cvda*)
BUNDLE リソースの状況を返します。有効な値は、以下のとおりです。

ENABLING
バンドルは初期化中です。バンドル・マニフェスト・ファイルで定義されているリソースを作成し、使用可能にしています。

ENABLED
バンドルは使用する準備ができています。

DISABLING
バンドルは DISABLED 状態に入る前に静止しています。バンドルは、それが使用可能にしたすべてのリソースを使用不可にします。

DISABLED
バンドルは使用不可です。

DISCARDING
バンドルに対して DISCARD コマンドが発行されました。バンドルは、破棄される前に静止しています。バンドルは、使用不可にしたすべてのリソースを破棄します。

INSTALLAGENT(*cvda*)
リソースをインストールしたエージェントを識別する CVDA 値を戻します。有効な値は、以下のとおりです。

CLOUD
リソースは、アプリケーションまたはプラットフォームのデプロイメントによってインストールされました。

CREATESPI
リソースは、**EXEC CICS CREATE** コマンドによってインストールされました。

CSDAPI
リソースは、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによってインストールされました。

GRPLIST
リソースは、**GRPLIST INSTALL** によってインストールされました。

INSTALLTIME(*data-area*)
リソースのインストール時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。

INSTALLUSRID(*data-area*)
リソースをインストールした 8 文字のユーザー ID を戻します。

MAJORVERSION(*data-area*)
バンドルのメジャー・バージョン番号を返します。メジャー・バージョンが指定されていない場合、このオプションは 0 を返します。

MGMTPART(*data-value*)
アプリケーションまたはプラットフォーム用にインストールされたこのバンドル

のインストール先の管理部分の ID (8 バイト) を返します。アプリケーションまたはプラットフォーム用にバンドルがインストールされていない場合、このオプションは 2 進ゼロを返します。

MICROVERSION(*data-area*)
バンドルのマイクロ・バージョン番号を返します。マイクロ・バージョンが指定されていない場合、このオプションは 0 を返します。

MINORVERSION(*data-area*)
バンドルのマイナー・バージョン番号を返します。マイナー・バージョンが指定されていない場合、このオプションは 0 を返します。

PARTCOUNT(*data-area*)
バンドル・マニフェストで定義されているインポート、エクスポート、修飾子、および定義のステートメントの合計数を返します。

TARGETCOUNT(*data-area*)
バンドル内で動的に作成されたリソース、入り口点、およびポリシー有効範囲の総数を返します。動的に作成されたリソースがすべて使用可能な状態になると、CICS は BUNDLE リソースを自動的に使用可能にします。

条件

END
RESP2 値:

2 このタイプのリソース定義はありません。

ILLOGIC
RESP2 値:

1 BUNDLE リソースのブラウズが既に実行されているときに **START** コマンドが発行されたか、BUNDLE リソースのブラウスが実行されていないときに **NEXT** または **END** コマンドが発行されました。

INVREQ
RESP2 値:

7 CICS が、登録されたバンドル・コールバック・プログラムへのリンクに失敗しました。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

101 発行中のタスクに関連付けられているユーザーには、このコマンドが要求する方法でこの特定のリソースにアクセスする権限がありません。

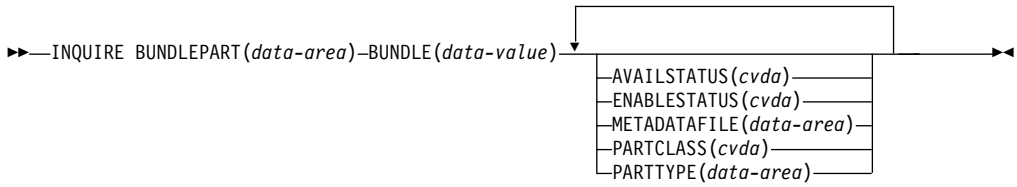
NOTFND
RESP2 値は以下のとおりです。

3 BUNDLE が見つかりません。

INQUIRE BUNDLEPART

インストール済み BUNDLE リソースに入っているリソースに関する情報を取得します。

INQUIRE BUNDLEPART



条件: END、ILLOGIC、INVREQ、NOTAUTH、NOTFND

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

INQUIRE BUNDLEPART コマンドは、インストール済み BUNDLE リソースに入っているリソースに関する情報を戻す場合に使用します。**INQUIRE BUNDLEPART** コマンドは、ブラウズ・モードでしか使用できません。

ブラウズ

INQUIRE BUNDLEPART コマンドでブラウズ・オプション (START、NEXT、および END) を使用することにより、BUNDLE リソースによって領域にインストールされているすべてのリソースをブラウズできます。

オプション

AVAILSTATUS(*cvda*)
バンドル・パーツ・リソースの使用可能状況を返します。

AVAILABLE
バンドル・パーツ・リソースはアプリケーション・エントリー・ポイントであり、使用可能です。

UNAVAILABLE
バンドル・パーツ・リソースはアプリケーション・エントリー・ポイントですが、使用不可です。

NONE
バンドル・パーツ・リソースはアプリケーション・エントリー・ポイントではありません。

BUNDLE(*data-value*)
START オプションを使用するときにブラウズする BUNDLE リソースの 1 文字から 8 文字の名前を指定します。

BUNDLEPART(*data-area*)
バンドルに入っているリソースの 1 文字から 255 文字の名前を戻します。

ENABLESTATUS(*cvda*)
バンドル内リソースの使用可能化状況を返します。

ENABLED
リソースは使用する準備ができています。

DISABLED
リソースは使用不可です。

ENABLING
リソースは、BUNDLE リソース・インストールの一部として作成されています。

DISABLING
リソースは使用不可になっています。

DISCARDING
BUNDLE リソースに対して DISCARD コマンドが発行されました。バンドル内のリソースが使用不可になり、破棄されています。

UNUSABLE
このリソースは使用できません。リソースを使用可能にするには、DISABLE コマンドに続けて DISCARD コマンドを発行して、最初に BUNDLE リソースを破棄する必要があります。

METADATAFILE(*data-area*)
マニフェストで定義されたリソースを記述する、z/OS UNIX 上のファイルの 1 文字から 255 文字の名前を戻します。この値は、バンドル・ディレクトリーのルートからの絶対パスです。

PARTCLASS(*cvda*)
マニフェストに定義されているリソースのクラスを戻します。以下の値が有効です。

DEFINITION
リソースは、マニフェストの定義として定義されています。

ENTRYPOINT
リソースは、アプリケーションのエントリー・ポイントです。

EXPORT
リソースは、マニフェストのエクスポートとして定義されています。リソースは CICS 領域にインストールされた他のサービスで使用可能です。

IMPORT
リソースは、マニフェストのインポートとして定義されています。リソースは CICS 領域内のバンドルで必要とされています。

POLICYSCOPE
リソースは、ポリシーのポリシー・スコープです。

OPERATION(*data-area*)
リソースがアプリケーション・エントリー・ポイントとして宣言されたアプリケーション操作の名前 (1 から 64 文字) を返します。

PARTTYPE(*data-area*)

1 文字から 255 文字のリソース・タイプを URI として戻します。例えば、XMLTRANSFORM リソースの URI は http://www.ibm.com/xmlns/prod/cics/bundle/XMLTRANSFORM です。

条件

END

RESP2 値:

2 このタイプのリソース定義はありません。

ILLOGIC

RESP2 値:

1 BUNDLE リソースのブラウズがすでに実行されているときに START コマンドが出されたか、BUNDLE リソースのブラウスが実行されていないときに、NEXT または END コマンドが出されました。

INVREQ

RESP2 値:

8 BUNDLE 名を **START BUNDLEPART** で指定する必要があります。

NOTAUTH

RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

101 発行中のタスクに関連付けられているユーザーは、BUNDLE リソースにこのコマンドで要求される方法でアクセスすることを許可されていません。

NOTFND

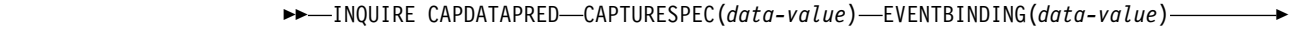
RESP2 値は以下のとおりです。

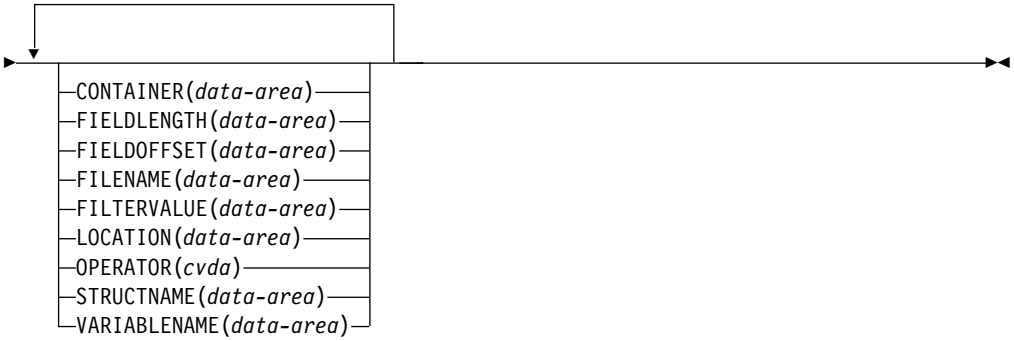
3 BUNDLE が見つかりません。

INQUIRE CAPDATAPRED

キャプチャー仕様に定義されているアプリケーション・データ述部に関する情報を取得します。

INQUIRE CAPDATAPRED





条件**:** END、ILLOGIC、INVREQ、NOTAUTH、NOTFND

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

INQUIRE CAPDATAPRED コマンドは、キャプチャー仕様に定義されている各アプリケーション・データ述部の詳細を戻します。INQUIRE CAPDATAPRED コマンドはブラウズ・モードでのみ使用できます。

ブラウズ

INQUIRE CAPDATAPRED コマンドでブラウズ・オプション (START、NEXT、および END) を使用することにより、キャプチャー仕様のすべてのアプリケーション・データ述部をブラウズできます。

オプション

CONTAINER*(data-area)*
LOCATION オプションの値が CHANNEL または FROMCHANNEL と等しい場合、データが含まれているコンテナーの名前を受け取るための 16 文字のデータ域を指定します。そうでない場合、このオプションにはブランクが含まれます。16 文字より短い値には、ブランクが埋め込まれます。

FIELDLENGTH*(data-area)*
この述部によってテストされるデータの長さ (バイト単位) が入っているフルワード・バイナリー・フィールドを戻します。LOCATION オプションの値はデータ・ソースを識別します。

FIELDOFFSET*(data-area)*
この述部によってテストされるデータが入っている、LOCATION オプションの値で示されるデータ・ソースへのオフセットを含むフルワード・バイナリー・フィールドを戻します。

FILENAME*(data-area)*
この述部を定義するインポート済み言語構造が含まれているファイルの名前の最初の 32 文字を受け取るための、32 文字のデータ域を指定します。インポート済み言語構造が使用されなかった場合、このオプションにはすべてブランクが含まれます。32 文字より短い値には、ブランクが埋め込まれます。 このオプションの結果として戻されるデータは、ローカル・コード化文字セット ID (CCSID) でエンコードされます。

FILTERVALUE*(data-area)*
アプリケーション・データ述部の値を受け取るための 255 文字のデータ域を指定します。文字でない述部は、文字表現に変換されます。255 文字より短い値には、ブランクが埋め込まれます。このオプションの結果として戻されるデータは、ローカル・コード化文字セット ID (CCSID) でエンコードされます。

LOCATION*(data-area)*
テストされるデータのロケーションを受け取るための 32 文字のデータ域を指定します。CICS イベント・バインディング・エディターの場合、この値は、アプリケーション・イベントのアプリケーション・データ述部を追加または編集するときに「アプリケーション・データ」述部ダイアログの「可変長ロケーションとフォーマット」セクションにある「ロケーション」フィールドの値と同じです。32 文字より短い値には、ブランクが埋め込まれます。

OPERATOR*(cvda)*
述部を評価するために、FILTERVALUE オプションの値と一緒に使用される演算子を定義する CVDA を戻します。可能な CVDA 値は、以下のとおりです。

DOESNOTEQUAL
LOCATION、FIELDOFFSET、および FIELDLENGTH の値によって定義されるデータ項目の値が、FILTERVALUE オプションの値と等しくない場合、述部は TRUE と評価されます。

DOESNOTEXIST
LOCATION オプションに指定されるデータ・ソースが存在しない場合、述部は TRUE と評価されます。

DOESNOTSTART
LOCATION、FIELDOFFSET、および FIELDLENGTH の値によって定義されるデータ項目の値の先頭が、FILTERVALUE オプションの値でない場合、述部は TRUE と評価されます。

EQUALS
LOCATION、FIELDOFFSET、および FIELDLENGTH の値によって定義されるデータ項目の値が、FILTERVALUE オプションの値と等しい場合、述部は TRUE と評価されます。

EXISTS
LOCATION オプションに指定されるデータ・ソースが存在する場合、述部は TRUE と評価されます。

GREATERTHAN
LOCATION、FIELDOFFSET、および FIELDLENGTH の値によって定義されるデータ項目の値が、FILTERVALUE オプションの値より大きい場合、述部は TRUE と評価されます。

ISNOTGREATER
LOCATION、FIELDOFFSET、および FIELDLENGTH の値によって定義されるデータ項目の値が、FILTERVALUE オプションの値と等しいか、それより小さい場合、述部は TRUE と評価されます。

ISNOTLESS
LOCATION、FIELDOFFSET、および FIELDLENGTH の値によって定義される

データ項目の値が、FILTERVALUE オプションの値と等しいか、それより大きい場合、述部は TRUE と評価されます。

LESSTHAN
LOCATION、FIELDOFFSET、および FIELDLENGTH の値によって定義されるデータ項目の値が、FILTERVALUE オプションの値より小さい場合、述部は TRUE と評価されます。

STARTSWITH
LOCATION、FIELDOFFSET、および FIELDLENGTH の値によって定義されるデータ項目の値の先頭が、FILTERVALUE オプションの値である場合、述部は TRUE と評価されます。

STRUCTNAME*(data-area)*
この述部を定義するために使用されたインポート済み言語構造の名前の最初の 32 文字を受け取るための、32 文字のデータ域を指定します。インポート済み言語構造が使用されない場合、このフィールドにはすべてブランクが含まれます。32 文字より短い値には、ブランクが埋め込まれます。このオプションの結果として戻されるデータは、ローカル・コード化文字セット ID (CCSID) でエンコードされます。

VARIABLENAME*(data-area)*
この述部を定義するために使用されたインポート済み言語構造で変数の名前の最初の 32 文字を受け取るための、32 文字のデータ域を指定します。インポート済み言語構造が使用されない場合、このフィールドにはすべてブランクが含まれます。32 文字より短い値には、ブランクが埋め込まれます。このオプションの結果として戻されるデータは、ローカル・コード化文字セット ID (CCSID) でエンコードされます。

条件

END
RESP2 値は以下のとおりです。

2 このタイプのリソース定義はありません。

8 イベント・バインディングが削除されたので、ブラウズは強制終了されました。

ILLOGIC
RESP2 値は以下のとおりです。

1 このリソース・タイプのブラウズが既に実行されているときに START コマンドが出されたか、もしくは、このリソース・タイプのブラウズが実行されていないときに NEXT または END コマンドが出された。

INVREQ

4 START CAPDATAPRED ブラウズに EVENTBINDING 名が指定されていません。

5 START CAPDATAPRED ブラウズに CAPTURESPEC 名が指定されていません。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

101 発行中のタスクに関連付けられているユーザーは、イベント・バインディングの読み取りが許可されていません。

NOTFND

RESP2 値は以下のとおりです。

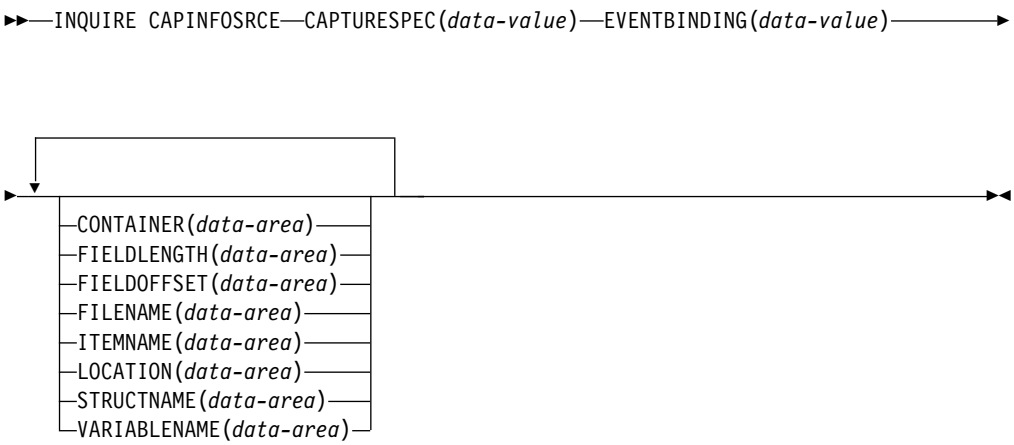
2 指定のキャプチャー仕様が見つかりません。

3 指定のイベント・バインディングが見つかりません。

INQUIRE CAPINFOSRCE

キャプチャー仕様に定義されてい情報源に関する情報を取得します。

INQUIRE CAPINFOSRCE



条件: END、ILLOGIC、INVREQ、NOTAUTH、NOTFND

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

INQUIRE CAPINFOSRCE コマンドは、キャプチャー仕様に定義されている各情報源に関する詳細情報を戻します。INQUIRE CAPINFOSRCE コマンドはブラウズ・モードでのみ使用できます。

ブラウズ

INQUIRE CAPINFOSRCE コマンドでブラウズ・オプション (START、NEXT、および END) を使用することにより、キャプチャー仕様のすべての情報源をブラウズできます。

オプション

CONTAINER*(data-area)*

LOCATION オプションの値が CHANNEL または FROMCHANNEL と等しい場合、データが含まれているコンテナーの名前を受け取るための 16 文字のデータ

域を指定します。そうでない場合、このオプションにはブランクが含まれます。16 文字より短い値には、ブランクが埋め込まれます。

FIELDLENGTH*(data-area)*
LOCATION オプションの値で示される情報源からキャプチャーされるアプリケーション・データの長さ (バイト単位) を含むフルワード・バイナリー・フィールドを戻します。アプリケーション・イベント・コンテキストおよびコマンド・オプションのすべてのキャプチャー項目、およびすべてのシステム・イベント・キャプチャー項目の場合、FIELDLENGTH オプションは 0 です。

FIELDOFFSET*(data-area)*
キャプチャー仕様によってキャプチャーされるデータが入っている、LOCATION オプションの値で示されるアプリケーション・データ・ソースへのオフセットを含むフルワード・バイナリー・フィールドを戻します。アプリケーション・イベント・コンテキストおよびコマンド・オプションのすべてのキャプチャー項目、およびすべてのシステム・イベント・キャプチャー項目の場合、FIELDOFFSET オプションは 0 です。

FILENAME*(data-area)*
この情報源を定義するインポート済み言語構造が含まれているファイルの名前の最初の 32 文字を受け取るための、32 文字のデータ域を指定します。システム・イベントの場合、またはインポート済み言語構造がアプリケーション・イベントの定義に使用されなかった場合、このオプションにはすべてブランクが含まれます。32 文字より短い値には、ブランクが埋め込まれます。戻された値は、ローカル領域の CCSID でエンコードされます。

ITEMNAME*(data-area)*
発行されたビジネス情報のこの項目に指定された名前を受け取るための、32 文字のデータ域を指定します。32 文字より短い値には、ブランクが埋め込まれます。

LOCATION*(data-area)*
情報源の名前を受け取るための 32 文字のデータ域を指定します。 CICS イベント・バインディング・エディターを使用する場合、この値は、アプリケーション・イベントまたはシステム・イベントの情報源を追加または編集するときに選択可能なデータのリストの中から選択する値と同じです。32 文字より短い値には、ブランクが埋め込まれます。

STRUCTNAME*(data-area)*
この情報源を定義するために使用されたインポート済み言語構造の名前の最初の 32 文字を受け取るための、32 文字のデータ域を指定します。システム・イベントの場合、またはインポート済み言語構造がアプリケーション・イベントの定義に使用されない場合、このフィールドにはすべてブランクが含まれます。32 文字より短い値には、ブランクが埋め込まれます。戻された値は、ローカル領域の CCSID でエンコードされます。

VARIABLENAME*(data-area)*
この情報源を定義するために使用されたインポート済み言語構造で変数の名前の最初の 32 文字を受け取るための、32 文字のデータ域を指定します。システム・イベントの場合、またはインポート済み言語構造がアプリケーション・イベントの定義に使用されない場合、このフィールドにはすべてブランクが含まれます。32 文字より短い値には、ブランクが埋め込まれます。戻された値は、ローカル領域の CCSID でエンコードされます。

条件

END

RESP2 値は以下のとおりです。

2 このタイプのリソース定義はありません。

8 イベント・バインディングが削除されたので、ブラウズは強制終了されました。

ILLOGIC

RESP2 値は以下のとおりです。

1 このリソース・タイプのブラウズが既に実行されているときに START コマンドが出されたか、もしくは、このリソース・タイプのブラウズが実行されていないときに NEXT または END コマンドが出された。

INVREQ

4 START CAPINFOSRCE ブラウズに EVENTBINDING 名が指定されていません。

5 START CAPINFOSRCE ブラウズに CAPTURESPEC 名が指定されていません。

NOTAUTH

RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

101 発行中のタスクに関連付けられているユーザーは、イベント・バインディングの読み取りが許可されていません。

NOTFND

RESP2 値は以下のとおりです。

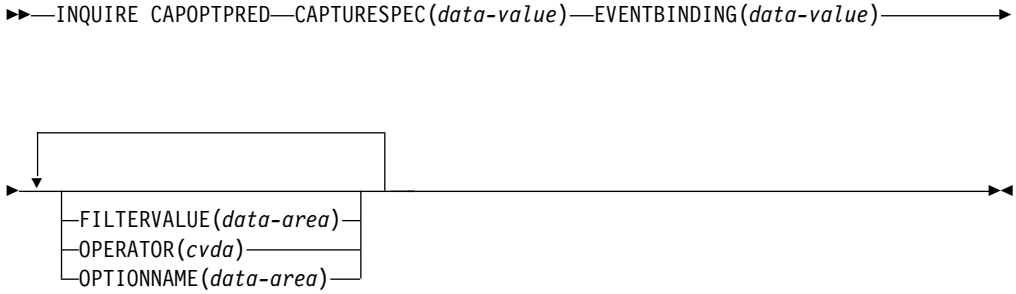
2 指定のキャプチャー仕様が見つかりません。

3 指定のイベント・バインディングが見つかりません。

INQUIRE CAPOPTPRED

キャプチャー仕様に定義されているキャプチャー・オプション述部に関する情報を取得します。

INQUIRE CAPOPTPRED



条件: END、ILLOGIC、INVREQ、NOTAUTH、NOTFND

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

INQUIRE CAPOPTPRED コマンドは、キャプチャー仕様に定義されている各キャプチャー・オプション述部 (1 次述部を含む) の詳細を戻します。INQUIRE CAPOPTPRED コマンドはブラウズ・モードでのみ使用できます。

ブラウズ

INQUIRE CAPOPTPRED コマンドでブラウズ・オプション (START、NEXT、および END) を使用することにより、キャプチャー仕様のすべてのキャプチャー・オプション述部をブラウズできます。

オプション

FILTERVALUE*(data-area)*
OPTIONNAME オプションで指定されたアプリケーションまたはシステム・イベント・オプションの値を受け取るための、255 文字のデータ域を指定します。255 文字より短い値には、ブランクが埋め込まれます。

OPERATOR*(cvda)*
述部を評価するために、FILTERVALUE オプションの値と一緒に使用される演算子を定義する CVDA を戻します。可能な CVDA 値は、以下のとおりです。

DOESNOTEQUAL
OPTIONNAME オプションの値が FILTERVALUE オプションの値と等しくない場合、述部は TRUE と評価されます。

DOESNOTEXIST
OPTIONNAME オプションが EXEC CICS コマンドで指定されていない場合、述部は TRUE と評価されます。

DOESNOTSTART
OPTIONNAME オプションの値の先頭が FILTERVALUE オプションの値でない場合、述部は TRUE と評価されます。

EQUALS
OPTIONNAME オプションの値が FILTERVALUE オプションの値と等しい場合、述部は TRUE と評価されます。

EXISTS
OPTIONNAME オプションが EXEC CICS コマンドで指定される場合、述部は TRUE と評価されます。

GOHIGHERTHAN
OPTIONNAME で指定されたしきい値オプションの値が、FILTERVALUE で返されるしきい値パーセントを超えた場合、述部は TRUE と評価されます。

GOLOWERTHAN
OPTIONNAME で指定されたしきい値オプションの値が、FILTERVALUE で返されるしきい値パーセントを下回った場合、述部は TRUE と評価されます。

GREATERTHAN
OPTIONNAME オプションの値が FILTERVALUE オプションの値より大きい場合、述部は TRUE と評価されます。

ISNOTGREATER
OPTIONNAME オプションの値が FILTERVALUE オプションの値と等しいか、それより小さい場合、述部は TRUE と評価されます。

ISNOTLESS
OPTIONNAME オプションの値が FILTERVALUE オプションの値と等しいか、それより大きい場合、述部は TRUE と評価されます。

LESSTHAN
OPTIONNAME オプションの値が FILTERVALUE オプションの値より小さい場合、述部は TRUE と評価されます。

STARTSWITH
OPTIONNAME オプションの値の先頭が FILTERVALUE である場合、述部は TRUE と評価されます。

OPTIONNAME*(data-area)*
イベント仕様で指定されるキャプチャー・オプション述部の名前を受け取るための、32 文字のデータ域を指定します。CICS イベント・バインディング・エディターで、この値は、キャプチャー・ポイントのいずれかのキャプチャー・オプションと一致します。32 文字より短い値には、ブランクが埋め込まれます。

条件

END
RESP2 値は以下のとおりです。

2 このタイプのリソース定義はありません。

8 イベント・バインディングが削除されたので、ブラウズは強制終了されました。

ILLOGIC
RESP2 値は以下のとおりです。

1 このリソース・タイプのブラウズが既に実行されているときに START コマンドが出されたか、もしくは、このリソース・タイプのブラウズが実行されていないときに NEXT または END コマンドが出された。

INVREQ

4 START CAPOPTPRED ブラウズに EVENTBINDING 名が指定されていません。

5 START CAPOPTPRED ブラウズに CAPTURESPEC 名が指定されていません。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

101 発行中のタスクに関連付けられているユーザーは、イベント・バインディングの読み取りが許可されていません。

NOTFND

RESP2 値は以下のとおりです。

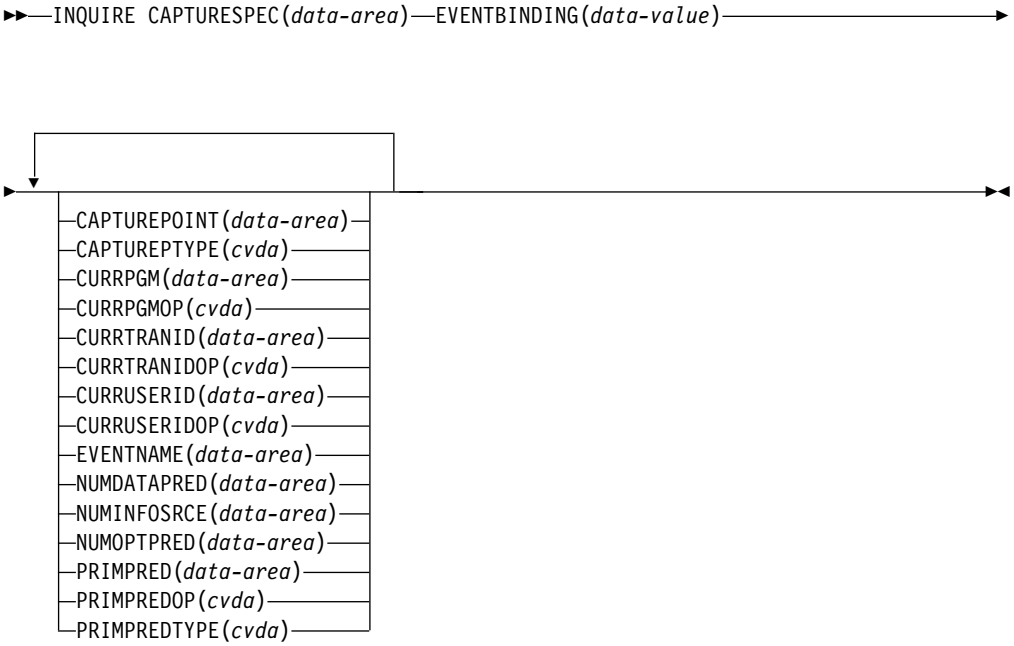
2 指定のキャプチャー仕様が見つかりません。

3 指定のイベント・バインディングが見つかりません。

INQUIRE CAPTURESPEC

キャプチャー仕様に関する情報を取得します。

INQUIRE CAPTURESPEC



条件: END、ILLOGIC、INVREQ、NOTAUTH、NOTFND

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

INQUIRE CAPTURESPEC コマンドは、キャプチャー仕様に関連した属性を戻します。

ブラウズ

INQUIRE CAPTURESPEC コマンドでブラウズ・オプション (START、NEXT、および END) を使用することにより、指定されたイベント・バインディングにインストールされているデプロイ済みのすべてのキャプチャー仕様をブラウズできます。

オプション

CAPTUREPOINT(*data-area*)

キャプチャー仕様に関連付けられたキャプチャー・ポイントを受け取る 25 文字のデータ域を指定します。その内容は、イベント・バインディング・ツールのキ

ャプチャー・ポイント・エントリーのいずれかと一致します。 2 語以上から構成されるキャプチャー・ポイント・エントリーは、例えば LINK_PROGRAM または PROGRAM_INITIATION のように、アンダースコアーで区切られます。

CAPTUREPTYPE(*cvda*)
キャプチャー・ポイントのタイプを識別する CVDA 値を受け取るフルワード・バイナリー・データ域を指定します。可能な CVDA 値は、以下のとおりです。

PRECOMMAND
キャプチャー・ポイントは、CICS API コマンドの開始時です。

POSTCOMMAND
キャプチャー・ポイントは、CICS API コマンドの完了時です。

PROGRAMINIT
キャプチャー・ポイントは、プログラムの開始時です。

SYSTEM
キャプチャー・ポイントは、システム・イベントです。

CAPTURESPEC(*data-area*)
このコマンドの非ブラウズ形式では、キャプチャー仕様の名前 (1 文字から 32 文字) を指定します。このコマンドのブラウズ形式では、キャプチャー仕様の名前を受け取る 32 文字のデータ域を指定します。

CURRPGM(*data-area*)
現行プログラム名のアプリケーション・コンテキスト述部により指定された値を受け取る 8 文字のデータ域を指定します。現行プログラム名のアプリケーション・コンテキスト述部がキャプチャー仕様に定義されていないとき、ブランクが戻されます。

CURRPGMOP(*cvda*)
現行プログラム名のアプリケーション・コンテキスト述部を評価するために、CURRPGM オプションの値と共に使用するオペレーターを定義する CVDA 値を戻します。可能な CVDA 値は、以下のとおりです。

ALLVALUES
現行プログラム名に基づくフィルタリングがない場合、述部は常に TRUE と評価されます。

DOESNOTEQUAL
現行プログラム名が CURRPGM オプションの値と等しくないとき、述部は TRUE と評価されます。

DOESNOTSTART
現行プログラム名が CURRPGM オプションの値で開始されないとき、述部は TRUE と評価されます。

EQUALS
現行プログラム名が CURRPGM オプションの値と等しいとき、述部は TRUE と評価されます。

GREATERTHAN
現行プログラム名が CURRPGM オプションの値より大きいとき、述部は TRUE と評価されます。

ISNOTGREATER
現行プログラム名が CURRPGM オプションの値以下のとき、述部は TRUE と評価されます。

ISNOTLESS
現行プログラム名が CURRPGM オプションの値以上のとき、述部は TRUE と評価されます。

LESSTHAN
現行プログラム名が CURRPGM オプションの値より小さいとき、述部は TRUE と評価されます。

STARTSWITH
現行プログラム名が CURRPGM オプションの値で開始するとき、述部は TRUE と評価されます。

CURRTRANID(*data-area*)
現行トランザクション名のアプリケーション・コンテキスト述部により指定された値を受け取る 4 文字のデータ域を指定します。

CURRTRANIDOP(*cvda*)
現行トランザクション名のアプリケーション・コンテキスト述部を評価するために、CURRTRANID オプションの値と共に使用するオペレーターを定義する CVDA 値を戻します。可能な CVDA 値は、以下のとおりです。

ALLVALUES
現行トランザクション名に基づくフィルタリングがない場合、述部は常に TRUE と評価されます。

DOESNOTEQUAL
実行中のトランザクション名が CURRTRANID オプションの値と等しくないとき、述部は TRUE と評価されます。

DOESNOTSTART
実行中のトランザクション名が CURRTRANID オプションの値で開始されないとき、述部は TRUE と評価されます。

EQUALS
現行トランザクション名が CURRTRANID オプションの値と等しいとき、述部は TRUE と評価されます。

GREATERTHAN
現行トランザクション名が CURRTRANID オプションの値より大きい (つまり、実行可能なトランザクション ID の照合シーケンスにおいて優先度が高い) とき、述部は TRUE と評価されます。

ISNOTGREATER
現行トランザクション名が CURRTRANID オプションの値以下 (つまり、実行可能なトランザクション ID の照合シーケンスにおいて優先度が低い) のとき、述部は TRUE と評価されます。

ISNOTLESS
現行トランザクション名が CURRTRANID オプションの値以上 (つまり、実行可能なトランザクション ID の照合シーケンスにおいて優先度が高い) のとき、述部は TRUE と評価されます。

LESSTHAN
現行トランザクション名が CURRTRANID オプションの値より小さい (つまり、実行可能なトランザクション ID の照合シーケンスにおいて優先度が低い) とき、述部は TRUE と評価されます。

STARTSWITH
現行トランザクション名が CURRTRANID オプションの値で開始するとき、述部は TRUE と評価されます。

CURRUSERID(*data-area*)
現行トランザクションに関連付けられたユーザー ID のアプリケーション・コンテキスト述部により指定された値を受け取る 8 文字のデータ域を指定します。

CURRUSERIDOP(*cvda*)
ユーザー ID のアプリケーション・コンテキスト述部を評価するために、CURRUSERID オプションの値と共に使用するオペレーターを定義する CVDA 値を戻します。可能な CVDA 値は、以下のとおりです。

ALLVALUES
ユーザー ID に基づくフィルタリングがない場合、述部は常に TRUE と評価されます。

DOESNOTEQUAL
現行ユーザーのユーザー ID が CURRUSERID オプションの値と等しくないとき、述部は TRUE と評価されます。

DOESNOTSTART
現行ユーザーのユーザー ID が CURRUSERID オプションの値で開始されないとき、述部は TRUE と評価されます。

EQUALS
現行ユーザーのユーザー ID が CURRUSERID オプションの値と等しいとき、述部は TRUE と評価されます。

GREATERTHAN
現行ユーザーのユーザー ID が CURRUSERID オプションの値より大きい (つまり、実行可能なユーザー ID の照合シーケンスにおいて優先度が高い) とき、述部は TRUE と評価されます。

ISNOTGREATER
現行ユーザーのユーザー ID が CURRUSERID オプションの値以下 (つまり、実行可能なユーザー ID の照合シーケンスにおいて優先度が低い) のとき、述部は TRUE と評価されます。

ISNOTLESS
現行ユーザーのユーザー ID が CURRUSERID オプションの値以上 (つまり、実行可能なユーザー ID の照合シーケンスにおいて優先度が高い) のとき、述部は TRUE と評価されます。

LESSTHAN
現行ユーザーのユーザー ID が CURRUSERID オプションの値より小さい (つまり、実行可能なユーザー ID の照合シーケンスにおいて優先度が低い) とき、述部は TRUE と評価されます。

STARTSWITH
現行ユーザーのユーザー ID が CURRUSERID オプションの値で開始されるとき、述部は TRUE と評価されます。

EVENTBINDING(*data-value*)
関連するイベント・バインディングの名前 (1 から 32 文字) を指定します。

EVENTNAME(*data-area*)
関連するビジネス・イベント名を受け取る 32 文字のデータ域を指定します。

NUMDATAPRED(*data-area*)
このキャプチャー仕様に定義されるアプリケーション・データ述部の数を設定するフルワード・バイナリー・フィールドを指定します。

NUMINFOSRCE(*data-area*)
このキャプチャー仕様に定義される情報源の数を設定するフルワード・バイナリー・フィールドを指定します。

NUMOPTPRED(*data-area*)
このキャプチャー仕様に定義されるアプリケーション・コマンド・オプションまたはシステム・イベント・オプションの述部の数を設定するフルワード・バイナリー・フィールドを指定します。述部の総数には、1 次述部も含まれます。

PRIMPRED(*data-area*)
このキャプチャー仕様の 1 次述部の値を受け取る 32 文字のデータ域を指定します。キャプチャー仕様の 1 次述部は、EQUALS オペレーターと共に指定する述部であり、特定のキャプチャー・ポイントに集中して多くのキャプチャー仕様を追加することにより生じるパフォーマンスへの影響を回避するのに役立ちます。このキャプチャー・ポイントに定義された 1 次述部の指定がない場合、ブランクを戻します。

PRIMPREDOP(*cvda*)
1 次述部を評価するために、PRIMPRED オプションの値と共に使用するオペレーターを定義する CVDA 値を戻します。可能な CVDA 値は、以下のとおりです。

ALLVALUES
コマンドに使用されるリソース名に基づくフィルタリングがない場合、述部は常に TRUE と評価されます。

DOESNOTEQUAL
コマンドにより指定されるリソースが PRIMPRED オプションの値と等しくないとき、述部は TRUE と評価されます。

DOESNOTSTART
コマンドにより指定されるリソースが PRIMPRED オプションの値で開始されないとき、述部は TRUE と評価されます。

EQUALS
コマンドにより指定されるリソースが PRIMPRED オプションの値と等しいとき、述部は TRUE と評価されます。

GREATERTHAN
コマンドにより指定されるリソースが PRIMPRED オプションの値より大きいとき、述部は TRUE と評価されます。

ISNOTGREATER
コマンドにより指定されるリソースが PRIMPRED オプションの値以下のとき、述部は TRUE と評価されます。

ISNOTLESS
コマンドにより指定されるリソースが PRIMPRED オプションの値以上のとき、述部は TRUE と評価されます。

LESSTHAN
コマンドにより指定されるリソースが PRIMPRED オプションの値より小さいとき、述部は TRUE と評価されます。

STARTSWITH
コマンドにより指定されるリソースが PRIMPRED オプションの値で開始されるとき、述部は TRUE と評価されます。

PRIMPREDTYPE(*cvda*)
このキャプチャー仕様の 1 次述部のタイプを識別する CVDA 値を戻します。可能な CVDA 値は、以下のとおりです。

CONTAINER
1 次述部がコンテナーである。

CURRENTPGM
1 次述部が現行プログラム名である。

EVENT
1 次述部が CICS イベントである。

FILE 1 次述部が CICS ファイルである。

MAP 1 次述部が CICS 基本マッピング・サポート (BMS) マップである。

MESSAGEID
1 次述部が DFHxxnnnn または EYUxxnnnn 形式の CICS または CICSPlex SM メッセージ ID である。

なし キャプチャー仕様に 1 次述部がない。

PROGRAM
1 次述部が CICS プログラム名である。

SERVICE
1 次述部が CICS サービスまたは WEBSERVICE リソースである。

TDQUEUE
1 次述部が CICS 一時データ・キューである。

TRANCLASS
1 次述部が CICS トランザクション・クラス名である。

TRANSACTION
1 次述部が CICS トランザクション ID である。

TSQUEUE
1 次述部が CICS 一時記憶域キューである。

条件

END

RESP2 値は以下のとおりです。

2 このタイプのリソース定義はありません。

8 イベント・バインディングが削除されたので、ブラウズは強制終了されました。

ILLOGIC

RESP2 値は以下のとおりです。

1 このリソース・タイプのブラウズが既に実行されているときに START コマンドが出されたか、もしくは、このリソース・タイプのブラウズが実行されていないときに NEXT または END コマンドが出された。

INVREQ

4 START CAPTURESPEC ブラウズに EVENTBINDING 名が指定されていません。

NOTAUTH

RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

101 発行中のタスクに関連付けられているユーザーは、イベント・バインディングの読み取りが許可されていません。

NOTFND

RESP2 値は以下のとおりです。

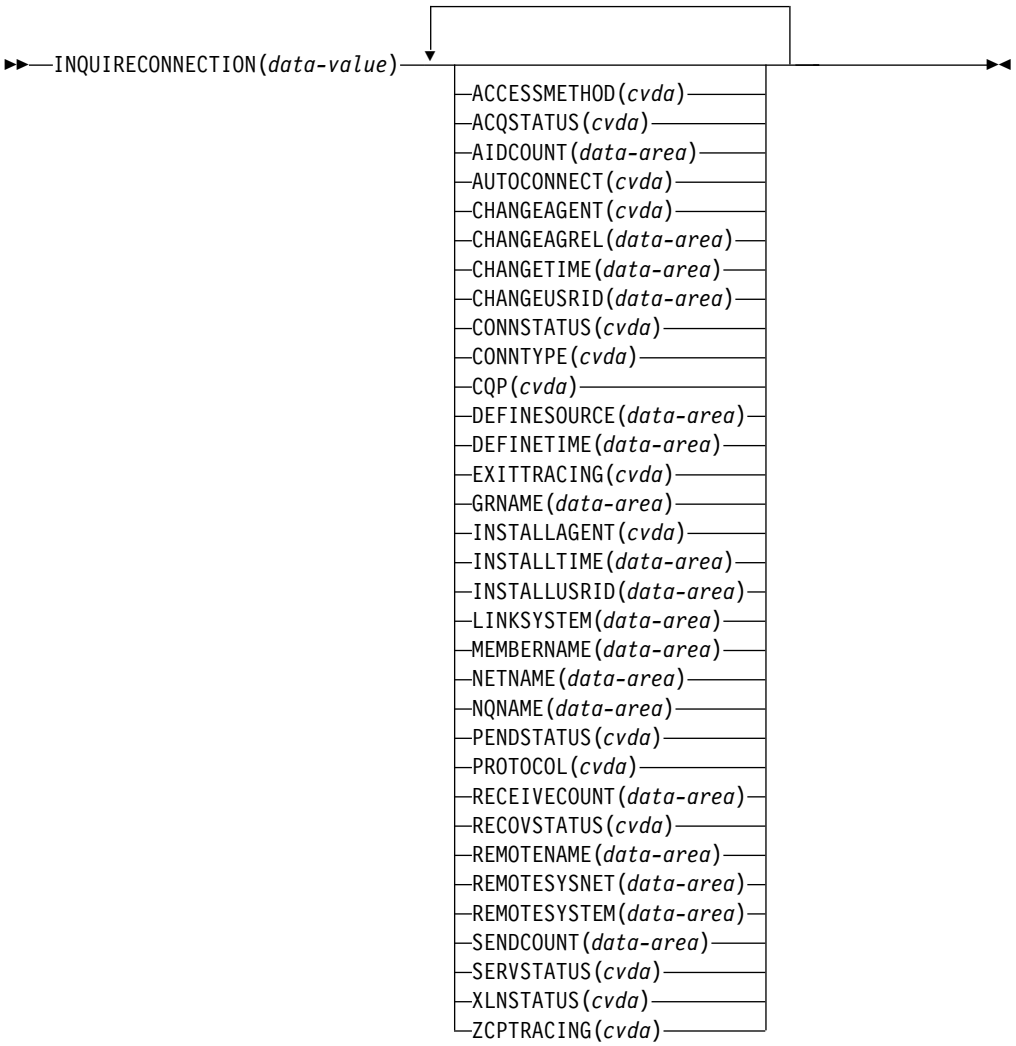
2 指定のキャプチャー仕様が見つかりません。

3 指定のイベント・バインディングが見つかりません。

INQUIRE CONNECTION

ローカル・システム・エントリーに関する情報またはリモート・システムへの MRO 接続や SNA を介した ISC 接続に関する情報を取得します。

INQUIRE CONNECTION



状態**:** END、ILLOGIC、NOTAUTH、SYSIDERR

CVDA の使用について詳しくは、CICS-value data areas (CVDAs)を参照してください。

説明

INQUIRE CONNECTION コマンドは、ローカル・システム・エントリーに関する情報や、ローカル CICS 領域から別の CICS 領域または別のシステムへの MRO 接続または SNA を介した ISC 接続に関する情報を取得します。

ローカル・システム・エントリーについて照会する場合、適用可能なフィールドは AIDCOUNT、NETNAME、およびリソース・シグニチャー・フィールドのみです。

注**: INQUIRE CONNECTION** は、MRO および SNA を介した ISC 接続に関する情報を戻します。**INQUIRE IPCONN** コマンドは、IPIC 接続 (IPCONN とも呼ばれる) に関する情報を戻します。

各種の相互通信接続について詳しくは、相互通信方式を参照してください。

ブラウズ

INQUIRE CONNECTION コマンド上でブラウズ・オプション START、NEXT、および END を使用して、システムにインストールされているすべての CONNECTION 定義をブラウズすることもできます。ブラウズに関する一般情報 (構文、例外条件、および例を含む) については、Browsing resource definitionsを参照してください。

リソース・シグニチャー

このコマンドを使用して、リソース・シグニチャー・フィールドを検索することができます。これらのフィールドを使用すると、リソースの定義時、インストール時、および最終変更時の詳細データを収集して、リソースを管理できます。 詳しくは、Auditing resourcesを参照してください。 リソース・シグニチャー・フィールドは BUNDLE、CHANGEAGENT、CHANGEAGREL、CHANGETIME、CHANGEUSRID、DEFINESOURCE、DEFINETIME、INSTALLAGENT、INSTALLTIME、および INSTALLUSRID です。リソース・シグニチャー・フィールドの内容について詳しくは、Summary of the resource signature field valuesを参照してください。

オプション

ACCESSMETHOD(*cvda***)**
ローカル・システムと問い合わせる対象のシステムとの間の接続のタイプを示す CVDA 値を返します。CVDA 値は以下のとおりです。

INDIRECT
ローカル CICS システムとこの接続で定義されているシステムとの間の通信は、CONNECTION 定義の INDSYS オペランドで指定されているシステムを経由しています。

IRC この接続は複数領域操作 (MRO) に使用され、DFHIRP を使用して通信を行うように定義されています。 CONNSTATUS が ACQUIRED である場合、MRO パートナーが同じ MVS イメージ上で稼働しています。 CONNSTATUS が RELEASED である場合、MRO パートナーは同じ MVS イメージ上にない場合があります。同じイメージ上にない場合に接続が ACQUIRED になると、XCF アクセス方式が使用されます。

NOTAPPLIC
接続はローカル・システム・エントリーです。

VTAM (現在は **z/OS Communications Server)**
接続はシステム間連絡 (ISC) で使用されます。

XCF この接続は複数領域操作 (MRO) に使用され、 z/OS のシステム間カップリング・ファシリティー (XCF) が通信に使用されます。 XCF は、z/OS シスプレックス内の異なる MVS イメージ上にある CICS 領域間の MRO リンクに使用されます。アクセス方式が CONNECTION 定義で IRC または XM と定義された場合、このようなリンクについては CICS による動的な選択が行われます。

XM この接続は複数領域操作 (MRO) に使用され、MVS 仮想記憶間 (XM) サービスを使用して通信を行うように定義されています。

CONNSTATUS が ACQUIRED である場合、MRO パートナーが同じ MVS イメージ上で稼働しています。 CONNSTATUS が RELEASED である場合、MRO パートナーは同じ MVS イメージ上にない場合があります。同じイメージ上にない場合に接続が ACQUIRED になると、XCF アクセス方式が使用されます。

ACQSTATUS(*cvda*) (APPC のみ)
CONNSTATUS オプションと同じ値を返し、互換性の目的でのみ保持されているオプションです。新規アプリケーションでは CONNSTATUS を使用してください。

AIDCOUNT(*data-area*)
接続の自動開始プログラム記述子 (AID) チェーン内にある AID の現在の数を示すフルワード・バイナリー値を戻します。

AUTOCONNECT(*cvda*) (z/OS Communications Server のみ)
CONNECTION 定義で指定されている AUTOCONNECT オプションを識別する CVDA 値を戻します。並列 APPC 接続 (SINGLESESS(NO) が指定されている接続) の場合、z/OS Communications Server との通信が開始されるたびに、AUTOCONNECT オペランドが LU サービス管理セッションのバインディングを制御します。単一セッション APPC 接続と LUTYPE6.1 接続の場合、CONNECTION 定義上の AUTOCONNECT オペランドは無視され、戻される値には意味はありません。 CVDA 値は以下のとおりです。

ALLCONN
CONNECTION 定義上で AUTOCONNECT(ALL) が指定されています。この指定は、AUTOCONNECT(YES) を指定することと同じですが、関連する SESSIONS 定義 (この定義は AUTOCONNECT(ALL) を使用できる) との一貫性のために使用できます。

AUTOCONN
CONNECTION 定義上で AUTOCONNECT(YES) が指定されています。CICS は LU サービス管理セッションのバインドを試行します。

NONAUTOCONN
CONNECTION 定義に AUTOCONNECT(NO) が指定されています。CICS は LU サービス管理セッションをバインドしません。

NOTAPPLIC
接続はローカル・システム・エントリーです。

CHANGEAGENT(*cvda*)
リソース定義を最後に変更したエージェントを識別する CVDA 値を戻します。有効な値は、以下のとおりです。

AUTOINSTALL
リソースは自動インストールされました。

CREATESPI
リソース定義は **EXEC CICS CREATE** コマンドによって最後に変更されました。

CSDAPI
リソース定義は、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによって最後に変更されました。

CSDBATCH
リソース定義は、DFHCSDUP ジョブによって最後に変更されました。

DREPAPI
リソース定義は、CICSPlex SM BAS API コマンドによって最後に変更されました。

DYNAMIC
リソースが動的にインストールされました。

CHANGEAGREL(*data-area*)
リソース定義の最終変更時に実行していた CICS リリースの 4 桁の数値を戻します。

CHANGETIME(*data-area*)
リソース定義の最終変更時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。ABSTIME 値のフォーマットについて詳しくは、FORMATTIMEを参照してください。

CHANGEUSRID(*data-area*)
変更エージェントを実行した 8 文字のユーザー ID を戻します。

CONNECTION(*data-value*)
照会しようとしているリモート・システムまたは領域の 4 文字の ID、つまりその CONNECTION 定義に割り当てられている名前を指定します。

このパラメーターは、ローカル・システムの名前も受け入れます。ローカル・システム・エントリーでは、意味のあるパラメーターは **AIDCOUNT**、**NETNAME**、およびリソース・シグニチャー・フィールドのみです。

CONNSTATUS(*cvda*) (APPC および MRO のみ)
CICS とリモート・システムの間の接続の状態を識別する CVDA 値を戻します。リモート・システムは APPC パートナーまたは CICS MRO パートナーにすることができます。CONNSTATUS は EXCI または LU6.1 接続には適用されません。ACQUIRED および RELEASED CVDA 値は APPC と MRO の両方に共通です。その他の値は APPC に固有です。CVDA 値は以下のとおりです。

ACQUIRED
接続は獲得されています。z/OS Communications Server リンクの ACQUIRED には以下の基準が適用されます。

- パートナー LU に連絡している。
- 初期 CHANGE-NUMBER-OF-SESSIONS (CNOS) 交換が行われている。

MRO リンクの ACQUIRED には以下の基準が適用されます。

- リンクの両側がサービス中である。
- リンクの両側が DFHIRP に正常にログオンしている。
- 1 つ以上のセッションでそれぞれの側による接続要求が正常実行されているので、それぞれの側はデータを送受信できる。

AVAILABLE (APPC のみ)
接続は獲得されていますが、リソースが限定されているためにアンバインドされたので、現在バインド済みセッションはありません。

FREEING (APPC のみ)
接続は解放中です。

NOTAPPLIC
この接続は、CICS 間 MRO 接続または APPC 接続ではありません。

OBTAINING (APPC のみ)
接続を獲得中です。ACQUIRED に関するすべての基準が満たされるまで、接続は OBTAINING 状態のままです。

RELEASED
接続は RELEASED になっています。接続は INSERVICE 状況の可能性もありますが、使用可能ではありません。

以下の多数の一般的な状態のうち 1 つにより、RELEASED 状況になることがあります。

- リモート・システムがまだ初期化されていない。
- リモート・システム上で CONNECTION 定義が存在していない。
- リモート・システム上の接続がサービス休止に設定されている。

CICS 間 MRO 接続の場合、以下の理由でも RELEASED 状況になることがあります。

- リモート CICS 領域がまだ DFHIRP にログオンしていない。
- リモート CICS 領域が領域間通信を閉じている。

APPC ISC 接続の場合、以下の理由でも RELEASED 状況になることがあります。

- リモート CICS 領域がまだその z/OS Communications Server ACB を開いていない。
- CONNECTION または SESSIONS 定義上で AUTOCONNECT(NO) が指定されている。

CONNTYPE(*cvda*) (EXCI のみ)
この接続用に定義されている外部 CICS インターフェース (EXCI) セッションまたはパイプのタイプを識別する CVDA 値を戻します。このオプションは EXCI 接続のみに適用されます。CVDA 値は以下のとおりです。

GENERIC
接続は汎用です。GENERIC 接続は、複数のユーザーが多数のセッションを共用する MRO リンクです。

NOTAPPLIC
接続は EXCI 接続ではありません。

SPECIFIC
接続は固有です。 SPECIFIC 接続は、1 つ以上のセッションが単一ユーザーに専用になる MRO リンクです。

EXCI 接続の詳細については、EXCI 接続の状態の照会を参照してください。

CQP(*cvda*)
接続に関する接続静止プロトコルの状況を示す CVDA を戻します。CVDA 値は以下のとおりです。

COMPLETE
接続が解放された際に静止プロトコルは正常に完了しました。接続が再獲得された場合は、この値は UNATTEMPTED に戻ります。

FAILED
プロトコルの実行中のセッション障害や、CQP フローを受け取るパートナーに未解決の処理があるなどの複数の理由のいずれかのために、プロトコルが失敗しました。

UNATTEMPTED
接続はプロトコルをサポートしていますが、接続状況が ACQUIRED なのでまだ呼び出されていません。

NOTSUPPORTED
例えば、パートナーが接続静止プロトコルをサポートしていないバックレベルの CICS 領域であることなどのため、接続が静止プロトコルをサポートしていません。

DEFINESOURCE(*data-area*)
リソース定義の 8 文字のソースを戻します。DEFINESOURCE 値は CHANGEAGENT 値に依存します。詳しくは、Summary of the resource signature field valuesを参照してください。

DEFINETIME(*data-area*)
リソース定義の作成時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。

EXITTRACING(*cvda*) (z/OS Communications Server のみ)
端末出口プログラムがこの接続に関連したセッションをトレースしているかどうかを示す CVDA 値を戻します。CVDA 値は以下のとおりです。

EXITTRACE
トレースはオンです。

NOEXITTRACE
トレースはオフです。

NOTAPPLIC
接続は LU6.1 または APPC ではありません。

GRNAME(*data-area*)
このシステムも汎用リソースの場合に汎用リソースとの APPC 接続について、接続している LU の 8 文字の汎用リソース名を戻します。そうでない場合はブランクを戻します。BIND 指定時に送信される 2 つの NETNAME が異なる場合、CICS はパートナーが汎用リソースであると想定します。パートナーが汎用リソースでないが XRF を使用する場合も、この情報が戻されることがあります。

INSTALLAGENT(*cvda*)
リソースをインストールしたエージェントを識別する CVDA 値を戻します。有効な値は、以下のとおりです。

AUTOINSTALL
リソースは自動インストールされました。

CREATESPI
リソースは、**EXEC CICS CREATE** コマンドによってインストールされました。

CSDAPI
リソースは、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによってインストールされました。

GRPLIST
リソースは、**GRPLIST INSTALL** によってインストールされました。

DYNAMIC
リソースが動的にインストールされました。

INSTALLTIME(*data-area*)
リソースのインストール時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。

INSTALLUSRID(*data-area*)
リソースをインストールした 8 文字のユーザー ID を戻します。

LINKSYSTEM(*data-area*)
リモート・システム・エントリーまたは使用可能な場合は間接システム・エントリーに関する TOR への実リンクである接続の 4 文字の名前を戻します。リモートまたは間接エントリーからリンク・システムへのチェーン中に一部の接続定義がない場合は、この値は設定されません。

MEMBERNAME(*data-area*)
このシステムも汎用リソースのときに汎用リソースとの APPC 接続について、接続している LU の 8 文字のメンバー名 (APPLID) を戻します。そうでない場合はブランクを戻します。BIND 指定時に送信される 2 つの NETNAME が異なる場合、CICS はパートナーが汎用リソースであると想定します。パートナーが汎用リソースでないが XRF を使用する場合も、この情報が戻されることがあります。

NETNAME(*data-area*)
CONNECTION 定義で指定された NETNAME 値から、ネットワークに認識されているリモート・システムの 8 文字の名前を戻します。

ISC 接続の場合、NETNAME はリモート・システムの z/OS Communications Server APPLID に対応しています。

CICS 間 MRO 接続の場合、NETNAME は、(システム初期設定 APPLID オプションからの) リモート・システムが DFHIRP へのログオンに使用する名前です。

SPECIFIC EXCI 接続の場合、NETNAME は、EXCI INITIALIZE_USER コマンドに渡されるクライアント・プログラムの名前です。GENERIC EXCI 接続の場合、NETNAME は常にブランクです。

間接接続の場合、NETNAME は、端末専有領域の APPLID (システム初期設定 APPLID オプションで指定された) に対応します。

NQNAME(*data-area*)
ログオン時に z/OS Communications Server から NQNAME を受信した接続の 17 文字のネットワーク修飾名を返します。

z/OS Communications Server 提供の NQNAME の場合、自動インストールされたリソースと RDO で定義されたリソースの両方について、問題判別のためだけにサポートされる NQNAME が返されます。ただし、RDO で定義されたリソースの場合はカタログされないので、そのリソースが再度ログオンするまでは再始動時に使用できません。

リソースが z/OS Communications Server でない場合、NQNAME はブランクになります。リソースが z/OS Communications Server リソースであってもまだ NQNAME を受け取っていない場合、CICS は既知のネット名を返します。

PENDSTATUS(*cvda*) (APPC および MRO のみ)
この接続に関する保留中の作業単位があるかどうかを識別する CVDA 値を戻します。CVDA 値は以下のとおりです。

NOTAPPLIC
このセッションは、APPC 並列セッションでも CICS 間 MRO 接続でもありません。

NOTPENDING
ログ名がパートナーと不一致ではありません。

PENDING
接続の再同期処理が未解決ですが、パートナー・システムは初期始動を実行したので、再同期プロセスが完了できません。SET CONNECTION NOTPENDING コマンドを使用して、関連したトランザクション定義に従い、接続に関連した作業単位を一方のみコミットまたはバックアウトします。個別に作業単位を調べて強制的にコミットまたはバックアウトを行うこともできます。この場合、さらに SET CONNECTION NOTPENDING コマンドを使用してリカバリー・アクティビティーを完了し、PENDING 状態をクリアしなければなりません。

この接続が APPC 接続の場合、SET CONNECTION NOTPENDING コマンドが発行されるまでその接続を介して新しい同期点処理 (つまり、同期レベル 2 のプロトコルに関係する処理) を伝送できません。この制限は、MRO 接続には適用されません。

パートナーの初期始動またはコールド・スタートによって同期が失われても問題ない場合は、CONNECTION 定義で XLNACTION(FORCE) を指定して、SET CONNECTION NOTPENDING コマンドを自動的に発行することができます。

作業単位の保留について詳しくは、Troubleshooting intersystem problemsを参照してください。

PROTOCOL(*cvda*) (z/OS Communications Server および EXCI のみ)
これが z/OS Communications Server 接続または EXCI 接続である場合、使用されているプロトコルを識別する CVDA 値を返します。 CVDA 値は以下のとおりです。

APPC 接続はシステム間連絡に z/OS Communications Server LUTYPE6.2 プロトコルを使用しています。

EXCI 接続は CICS と非 CICS クライアント・プログラムの間の通信に外部 CICS インターフェースを使用しています。

LU61 接続は z/OS Communications Server LUTYPE6.1 プロトコルを使用しています。

NOTAPPLIC
接続は CICS-CICS 間 MRO 通信に使用されているか、または INDIRECT です。

RECEIVECOUNT(*data-area*) (MRO のみ)
この接続用に定義されている RECEIVE セッションの数を示すフルワード・バイナリー値を戻します。このオプションは MRO 接続のみに適用されます。その他の場合は、値 -1 が戻されます。

RECOVSTATUS(cvda) (APPC および MRO のみ)
接続で再同期処理が未解決かどうかを示す CVDA 値を戻します。この接続は、接続したことがないか、静止しており再同期処理がすべて完了しているか、または静止せずに中断している (この場合は再同期が必要になることがあります) 可能性があります。CVDA 値は以下のとおりです。

NORECOVDATA
未解決のリカバリー情報は両側ともありません。

NOTAPPLIC
このセッションは、APPC 並列セッションでも CICS 間 MRO 接続でもなく、2 フェーズ・コミット・プロトコルをサポートしていません。

NRS CICS では接続に関するリカバリーが未解決ではありませんが、パートナーでは未解決の可能性があります。

RECOVDATA
未確定の作業単位が接続に関連しているか、未解決の再同期が接続に関する FORGET を待機しています。再同期は、次回接続がアクティブになる時点か、UOW が未中断の時点で行われます。

リカバリーが未解決の場合は、ログ名の交換の完了時に、再同期が行われるか、コールド交換の場合は PENDING 状態が作成されます。

REMOTENAME(*data-area*)
照会の対象がリモート接続の場合は、リモート・システムでこの接続が認識されている 4 文字の名前を戻します。

REMOTESYSNET(*data-area*)
この照会の対象がリモート接続の場合は、所有している TOR の 8 文字のネット名を戻します。ブランクの場合は、接続がリモートであれば、REMOTESYSTEM フィールドで名前指定されたシステムはインストールされておらず、接続の定義時に REMOTESYSNET オプションの値が指定されていません。

REMOTESYSTEM(*data-area*)
照会の対象がリモート接続の場合は、接続の 4 文字の名前を戻します。指定された接続は、TOR にリンクする接続エントリーか、TOR のネット名を提供し、それ自体は別の接続を指す間接接続にすることができます。

その他の場合、このフィールドはブランクになります。

SENDCOUNT(*data-area*) (MRO のみ)
この接続に定義されている SEND セッションの数を示すフルワード・バイナリ

ー値を戻します。EXCI 接続の場合、SENDCOUNT は常にゼロです。このオプションは MRO 接続のみに適用されます。その他の場合は、値 -1 が戻されます。

SERVSTATUS(*cvda*)
接続上でデータを送受信できるかどうかを示す CVDA 値を戻します。CVDA 値は以下のとおりです。

GOINGOUT
OUTSERVICE が SET CONNECTION コマンドで要求され、その要求は、現在のいずれかの作業が完了するまでアクションの対象にすることができません。

INSERVICE
データを送受信できます。

NOTAPPLIC
接続はローカル・システム・エントリーです。

OUTSERVICE
データを送受信できません。

XLNSTATUS(*cvda*) (APPC のみ)
交換ログ名 (XLN) プロセスの状況を識別する CVDA 値を戻します。CVDA 値は以下のとおりです。

NOTAPPLIC
リンクが次のいずれかの状態にあるため、XLN プロセスは適用されません。

- 解放されている。
- MRO、LUTYPE6.1、または単一セッション APPC である。
- 同期レベル 2 の会話をサポートしていない。

APPC 交換ログ名プロセスについては、Troubleshooting intersystem problemsを参照してください。

XNOTDONE
APPC 接続に関する XLN フローが正常に完了していません。CSMT ログには、この状態に関連した情報が含まれています。この接続上で同期レベル 2 の会話は使用できませんが、同期レベル 0 および 1 は引き続き使用できます。

XOK APPC 接続に関する XLN プロセスは正常に完了しています。

ZCPTRACING(*cvda*) (z/OS Communications Server のみ)
CICS の z/OS Communications Server 制御コンポーネントが、この接続に関連したセッション上のアクティビティーをトレースしているかどうかを示す CVDA 値を戻します。CVDA 値は以下のとおりです。

NOTAPPLIC
接続は LUTYPE6.1 または APPC ではありません。

NOZCPTRACE
ZCP トレースはアクティブではありません。

ZCPTRACE
ZCP トレースはアクティブです。

条件

END
RESP2 値は以下のとおりです。

2 このタイプのリソース定義はありません。

ILLOGIC
RESP2 値は以下のとおりです。

1 このリソース・タイプのブラウズが既に実行されているときに START コマンドが出されたか、もしくは、このリソース・タイプのブラウズが実行されていないときに NEXT または END コマンドが出された。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

SYSIDERR
RESP2 値は以下のとおりです。

1 接続が見つかりません。

INQUIRE CFDTPOOL

カップリング・ファシリティー・データ・テーブルのプールに関する情報を取得します。

INQUIRE CFDTPOOL

条件: END、ILLOGIC、NOTAUTH、POOLERR

| このコマンドはスレッド・セーフです。

CVDA の使用について詳しくは、CICS-value data areas (CVDAs)を参照してください。

説明

INQUIRE CFDTPOOL コマンドは、ローカル CICS 領域とカップリング・ファシリティー・データ・テーブル・プールとの接続の状況を戻します。

ブラウズ

INQUIRE CFDTPOOL コマンドのブラウズ・オプション (START、NEXT、および END) を使用して、CICS 領域がインストールしたすべてのカップリング・ファシリティー・データ・テーブル・プール名をブラウズすることもできます。CICS は、

定義で TABLE(NO) が指定されている場合であっても、カップリング・ファシリティー・データ・テーブル・プール名を指定するファイル定義からカップリング・ファシリティー・データ・テーブル・プール名を暗黙的にインストールします。ブラウズに関する一般情報 (構文、例外条件、および例を含む) については、Browsing resource definitionsを参照してください。

オプション

CFDTPOOL(*data-value*)
照会するカップリング・ファシリティー・データ・テーブル・プールの 8 文字の名前を指定します。

CONNSTATUS(*cvda*)
CICS が指定のプールに接続されているかどうかを示す CVDA 値を戻します。

CVDA 値は次のとおりです。

CONNECTED
カップリング・ファシリティー・データ・テーブル・プールのサーバーは、この MVS イメージで使用可能であり、この CICS が現在接続されています。

UNCONNECTED
カップリング・ファシリティー・データ・テーブル・プールのサーバーは、この MVS イメージで使用可能ですが、この CICS が現在接続されていません。

UNAVAILABLE
カップリング・ファシリティー・データ・テーブル・プールのサーバーは、現在この MVS イメージで使用できません。

条件

END
RESP2 値は以下のとおりです。

2 ブラウズするカップリング・ファシリティー・データ・テーブル・プールはこれ以上ありません。

ILLOGIC
RESP2 値は以下のとおりです。

1 CFDTPOOL のブラウズが既に実行されているときに START コマンドが出されたか、もしくは CFDTPOOL のブラウズが実行されていないときに NEXT または END コマンドが出されました。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 コマンドを発行するタスクに関連付けられているユーザーは、このコマンドの使用が許可されていません。

POOLERR
RESP2 値は以下のとおりです。

1 指定された CFDT プールが見つかりませんでした。CICS が、指定の

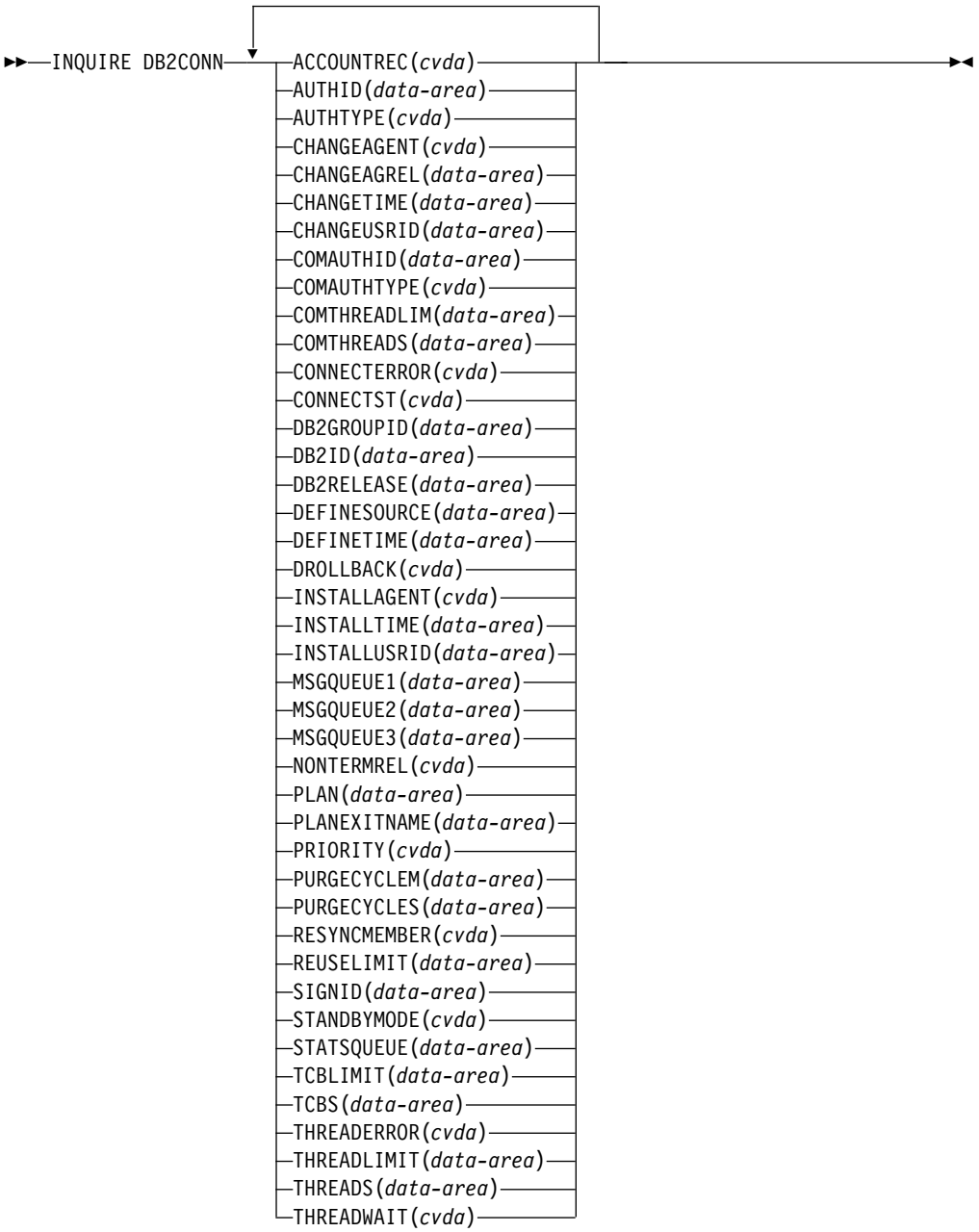
カップリング・ファシリティー・データ・テーブル・プールを指定するファイル定義をインストールしなかったか、コマンドで名前が誤って指定されました。

2 CICS が CFDT プールへのアクセスを維持するために使用する内部制御構造が、CICS から認識されている一連のプールのブラウズ中に変更されました。

INQUIRE DB2CONN

CICS と Db2 との間の接続についての情報を取得します。

INQUIRE DB2CONN



条件**:** NOTAUTH、NOTFND

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

INQUIRE DB2CONN コマンドを使用して、Db2 への接続を定義する現在インストールされている DB2CONN 定義の属性について照会します。

一度にインストール可能な DB2CONN リソースは 1 つのみのため、入力データで DB2CONN リソースの名前は必要ありません。

リソース・シグニチャー

このコマンドを使用して、リソース・シグニチャー・フィールドを検索することができます。これらのフィールドを使用すると、リソースの定義時、インストール時、および最終変更時の詳細データを収集して、リソースを管理できます。 詳しくは、Auditing resourcesを参照してください。 リソース・シグニチャー・フィールドは BUNDLE、CHANGEAGENT、CHANGEAGREL、CHANGETIME、CHANGEUSRID、DEFINESOURCE、DEFINETIME、INSTALLAGENT、INSTALLTIME、および INSTALLUSRID です。リソース・シグニチャー・フィールドの内容について詳しくは、Summary of the resource signature field valuesを参照してください。

オプション

ACCOUNTREC(*cvda*)

プール・スレッドを使用するトランザクションに必要な Db2 アカウンティングの最小量を戻します。以下のオプションで説明されているように、指定した最小値を超える可能性があります。 CVDA 値は以下のとおりです。

UOW CICS Db2 接続機能により、各 UOW のアカウンティング・レコードが Db2 により作成されます (このスレッドは UOW の終わりに解放されます)。

TASK

CICS Db2 接続機能により、各 CICS タスクに対して 1 つのアカウンティング・レコードの最小値が Db2 により作成されます。

複数の UOW が含まれるトランザクションでは、各 UOW の異なるスレッドを使用できます (このスレッドは同期点で解放されます)。結果として、各 UOW に対してアカウンティング・レコードが作成されます。例えば、解放された後にスレッドが終了する場合、またはスレッドが再利用されても 1 次 AUTHID が変更されている場合、アカウンティング・レコードが作成されます。

TXID CICS Db2 接続機能により、スレッドを使用するトランザクション ID が変更するときに、Db2 によりアカウンティング・レコードが作成されます。

プール・スレッドは通常、複数の異なるトランザクション ID によって使用されるため、複数の UOW を含むトランザクションが各 UOW の異なるスレッドを使用する可能性があります (このスレッドは同期点で解放されます)。この場合、各 UOW のアカウンティング・レコードを

作成できます。例えば、解放された後にスレッドが終了する場合、またはスレッドが再利用されても 1 次 AUTHID が変更されている場合、アカウンティング・レコードが作成されます。

なし　プール・スレッドを使用するトランザクションに必要なアカウンティング・レコードはありません。

それでも Db2 は、スレッドが終了したときに、各スレッドに対して少なくとも 1 つのアカウンティング・レコードを作成します。さらに、権限を変更してもアカウンティング・レコードが作成されます。

AUTHID(*data-area*)

プール・スレッドを使用する際に、セキュリティー検査で使用される ID を戻します。 AUTHID が戻されると、AUTHTYPE は適用されません。

AUTHTYPE(*cvda*)

プール・スレッドを使用する際に、セキュリティー検査で使用される ID のタイプを戻します。 AUTHTYPE が戻されると、AUTHID はブランクになります。CVDA 値は以下のとおりです。

GROUP

8 文字のユーザー ID および接続されたグループ名が許可 ID として使用されます。以下の表に、これらの 2 つの値が Db2 でどのように解釈されるかを示します。

Db2 へ渡される **ID**	**Db2** が値を解釈する方法
CICS サインオン・ユーザー ID (USERID)	1 次 Db2 許可 ID を表します。
RACF 接続グループ名	グループ・オプションの RACF リストがアクティブではない場合、Db2 は CICS 接続機能が提供する接続されたグループ名を 2 次 Db2 許可 ID として使用します。グループ・オプションの RACF リストがアクティブな場合、Db2 は CICS 接続機能が提供する接続されたグループ名を無視しますが、2 次 Db2 許可 ID の Db2 リストには値が表示されます。

この USERID に対して使用できる RACF グループ ID がない場合、ブランクの 8 文字フィールドがグループ ID として Db2 に渡されます。

SIGN　DB2CONN の SIGNID パラメーターをリソース許可 ID として使用します。

TERM

端末 ID (8 文字に当てられる 4 文字) を許可 ID として使用します。端末がトランザクションに接続されていない場合、この方法で許可 ID を取得することはできません。

CICS コマンドを使用してトランザクションを開始しても、それに関連付けられた端末がない場合、AUTHTYPE(TERM) を使用できません。

TX　トランザクション ID (8 文字に当てられる 4 文字) を許可 ID として使用します。

OPID ユーザー ID (CICS トランザクションに関連付けられている) に関連付けられたユーザー・オペレーター ID が、許可 ID (8 文字に当てる 3 文字) として使用されます。

USERID
CICS トランザクションに関連付けられた 8 文字のユーザー ID が、許可 ID として使用されます。

AUTHTYPE(USERID) を指定して Db2 サンプル・サインオン出口 DSN3@SGN を使用すると、この出口はユーザー ID を 1 次許可 ID として、RACF グループ ID を 2 次許可 ID として、それぞれ Db2 に送ります。サンプル・サインオン出口を使用すると、AUTHTYPE(USERID) と AUTHTYPE(GROUP) は同じになります。

CHANGEAGENT(*cvda*)
リソース定義を最後に変更したエージェントを識別する CVDA 値を戻します。有効な値は、以下のとおりです。

CREATESPI
リソース定義は **EXEC CICS CREATE** コマンドによって最後に変更されました。

CSDAPI
リソース定義は、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによって最後に変更されました。

CSDBATCH
リソース定義は、DFHCSDUP ジョブによって最後に変更されました。

DREPAPI
リソース定義は、CICSPlex SM BAS API コマンドによって最後に変更されました。

CHANGEAGREL(*data-area*)
リソース定義の最終変更時に実行していた CICS リリースの 4 桁の数値を戻します。

CHANGETIME(*data-area*)
リソース定義の最終変更時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。ABSTIME 値のフォーマットについて詳しくは、FORMATTIMEを参照してください。

CHANGEUSRID(*data-area*)
変更エージェントを実行した 8 文字のユーザー ID を戻します。

COMAUTHID(*data-area*)
コマンド・スレッドを使用する際に、セキュリティー検査で使用される ID を戻します。 COMAUTHID が戻されると、COMAUTHTYPE は適用されません。

COMAUTHTYPE(*cvda*)
コマンド・スレッドを使用する際に、セキュリティー検査で使用される ID のタイプを戻します。 COMAUTHTYPE が戻されると、COMAUTHID はブランクになります。 CVDA 値は以下のとおりです。

CGROUP

8 文字のユーザー ID および接続されたグループ名が許可 ID として使用されます。以下の表に、これらの 2 つの値が Db2 でどのように解釈されるかを示します。

Db2 へ渡される **ID**	**Db2** が値を解釈する方法
CICS サインオン・ユーザー ID (USERID)	1 次 Db2 許可 ID を表します。
RACF 接続グループ名	グループ・オプションの RACF リストがアクティブではない場合、Db2 は CICS 接続機能が提供する接続されたグループ名を 2 次 Db2 許可 ID として使用します。グループ・オプションの RACF リストがアクティブな場合、Db2 は CICS 接続機能が提供する接続されたグループ名を無視しますが、2 次 Db2 許可 ID の Db2 リストには値が表示されます。

このユーザー ID に対して使用できる RACF グループ ID がない場合、ブランクの 8 文字フィールドがグループ ID として Db2 に渡されます。

CSIGN

DB2CONN コマンドの SIGNID パラメーターをリソース許可 ID として使用します。

CTERM

端末 ID (8 文字に当てられる 4 文字) を許可 ID として使用します。端末がトランザクションに接続されていない場合、この方法で許可 ID を取得することはできません。

CICS コマンドを使用してトランザクションを開始しても、それに関連付けられた端末がない場合、COMAUTHTYPE(CTERM) を使用できません。

CTX トランザクション ID (8 文字に当てられる 4 文字) を許可 ID として使用します。

COPID

ユーザー ID (CICS トランザクションに関連付けられている) に関連付けられたオペレーター ID が、許可 ID (8 文字に当てる 3 文字) として使用されます。

CUSERID

CICS トランザクションに関連付けられた 8 文字のユーザー ID が、許可 ID として使用されます。

COMAUTHTYPE(CUSERID) を指定して Db2 サンプル・サインオン出口 DSN3@SGN を使用すると、この出口はユーザー ID を 1 次許可 ID として、RACF グループ ID を 2 次許可 ID として、それぞれ Db2 に送ります。サンプル・サインオン出口を使用すると、COMAUTHTYPE(CUSERID) と COMAUTHTYPE(CGROUP) は同じになります。

COMTHREADLIM(*data-area*)

要求がプールにオーバーフローする前に、CICS Db2 接続がアクティブを許可する現在のコマンド・スレッドの最大数を戻します。

COMTHREADS(*data-area*)
現在のアクティブ・コマンド・スレッド数を戻します。

CONNECTERROR(*cvda*)
アダプターが待機モードのために CICS を Db2 に接続できない場合、SQL 要求を発行したアプリケーションに報告として戻される方法を記述します。CVDA 値は以下のとおりです。

ABEND
アプリケーションは、異常終了 AEY9 で停止します。

SQLCODE
アプリケーションは、-923 SQLCODE を受け取ります。

CONNECTST(*cvda*)
CICS Db2 接続の状況を戻します。CVDA 値は以下のとおりです。

CONNECTED
CICS が Db2 に接続されています。

NOTCONNECTED
CICS が Db2 に接続されていない。

CONNECTING
CICS は現在 Db2 への接続を試行しています。

DISCONNING
CICS は現在 Db2 から切断しています。

DB2GROUPID(*data-area*)
グループ接続を使用している場合、このオプションは、ユーザーが指定した Db2 サブシステムのデータ共用グループ名またはサブグループ名を戻します。CICS はこのグループの任意のアクティブ・メンバーへの接続を試行します。CICS Db2 接続が確立されると、グループの中から選択された Db2 サブシステム名が DB2ID フィールドに表示されます。CICS がデータ共用グループの特定の Db2 サブシステムに再接続するため待機している場合、そのサブシステムの未解決の作業単位が保持されているので、その特定の Db2 サブシステムの名前は DB2ID フィールドに表示され、状況 CONNECTING が戻されます。この状況が生じる場合、RESYNCMEMBER(RESYNC) を指定する必要があります。

DB2ID(*data-area*)
グループ接続を使用していない場合、このオプションは、CICS Db2 接続の接続先である Db2 サブシステムの名前を返します。または、CICS Db2 接続が接続されていない場合、CICS の接続先に指定した Db2 サブシステムの名前を返します。グループ接続を使用しており、CICS Db2 接続が接続されている場合、このオプションは、CICS Db2 接続の接続先である Db2 サブシステムの名前を返します。グループ接続を使用しており、CICS Db2 接続が接続されていない場合、通常はこのフィールドはブランクです。しかし、CICS が特定の Db2 サブシステムに再接続するため待機している場合、RESYNCMEMBER (YES) を指定しているために CICS が未解決の作業単位を保持している Db2 サブシステムを使用できなくても、コマンドはサブシステム DB2ID 値を状況 CONNECTING と共に戻します。

DB2RELEASE(*data-area*)
CICS を接続している Db2 サブシステムのバージョン・レベルとリリース・レベルを示す 4 文字の値を戻します。CICS を Db2 に接続していない場合、ブランクが戻されます。

DEFINESOURCE(*data-area*)
リソース定義の 8 文字のソースを戻します。DEFINESOURCE 値は CHANGEAGENT 値に依存します。詳しくは、Summary of the resource signature field valuesを参照してください。

DEFINETIME(*data-area*)
リソース定義の作成時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。

DROLLBACK(*cvda*)
デッドロックを解決するための犠牲としてトランザクションが選択された場合に、CICS Db2 接続で SYNCPOINT ROLLBACK コマンドを開始するかどうかを示す値を戻します。CVDA 値は以下のとおりです。

ROLLBACK
接続機能は、制御をアプリケーションに戻す前に同期点ロールバックを発行します。 SQL 戻りコードの -911 がプログラムに戻されます。

NOROLLBACK
接続機能は、トランザクションのロールバックを開始しません。 SQL 戻りコードの -913 がアプリケーションに戻されます。

INSTALLAGENT(*cvda*)
リソースをインストールしたエージェントを識別する CVDA 値を戻します。有効な値は、以下のとおりです。

CREATESPI
リソースは、**EXEC CICS CREATE** コマンドによってインストールされました。

CSDAPI
リソースは、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによってインストールされました。

GRPLIST
リソースは、**GRPLIST INSTALL** によってインストールされました。

INSTALLTIME(*data-area*)
リソースのインストール時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。

INSTALLUSRID(*data-area*)
リソースをインストールした 8 文字のユーザー ID を戻します。

MSGQUEUE1(*data-area*)
CICS Db2 接続からの非送信請求メッセージが送信される最初の一時データ宛先の名前を戻します。

MSGQUEUE2(*data-area*)
CICS Db2 接続からの非送信請求メッセージが送信される 2 番目の一時データ宛先の名前を戻します。

MSGQUEUE3(*data-area*)
CICS Db2 接続からの非送信請求メッセージが送信される 3 番目の一時データ宛先の名前を戻します。

NONTERMREL(*cvda*)
非端末トランザクションは、中間の同期点でスレッドを再利用のために解放するかどうかを示す値が戻されます。 CVDA 値は以下のとおりです。

RELEASE
非端末トランザクションは、中間の同期点でスレッドを再利用のために解放します。

NORELEASE
非端末トランザクションは、中間の同期点でスレッドを再利用のために解放しません。

PLAN(*data-area*)
プールに使用する計画の名前を戻します。計画名が戻されると、PLANEXITNAME はブランクになります。

PLANEXITNAME(*data-area*)
プール・スレッドに使用する動的計画出口の名前を戻します。PLANEXITNAME が戻されると、PLAN はブランクになります。

PRIORITY(*cvda*)
CICS メイン TCB (QR TCB) に対するプール・スレッド TCB の相対的な優先度を戻します。スレッド TCB は CICS オープン L8 TCB です。CVDA 値は以下のとおりです。

HIGH
スレッド TCB の優先度が、CICS QR TCB よりも高くなります。

EQUAL
スレッド TCB の優先度が、CICS QR TCB と等しくなります。

LOW スレッド TCB の優先度が、CICS QR TCB よりも低くなります。

PURGECYCLEM(*data-area*)
保護スレッド・パージ周期の時間 (分数) を返します (秒数は PURGECYCLES で返されます)。PURGECYCLEM の範囲は 0 から 59 です。

保護スレッドは、解放されたときにすぐに終了しません。指定されたパージ周期の間に再利用されない場合、2 つの周期が完了した後にのみ終了します。例えば、保護スレッド・パージ周期を 30 秒に設定すると、保護スレッドは、解放後 30 秒から 60 秒の間にパージされます。その DB2ENTRY でスレッドを待機している他のトランザクションがない場合、無保護スレッドは (同期点またはタスクの最後で) 解放されるときに終了します。

PURGECYCLES(*data-area*)
保護スレッド・パージ周期の時間 (秒数) を返します (分数は PURGECYCLEM で返されます)。PURGECYCLES の範囲は 0 から 59 です。PURGECYCLEM がゼロの場合の PURGECYCLES の最小値は 5 秒です。

保護スレッドは、解放されたときにすぐに終了しません。指定されたパージ周期の間に再利用されない場合、2 つの周期が完了した後にのみ終了します。例えば、保護スレッド・パージ周期を 30 秒に設定すると、保護スレッドは、解放後

30 秒から 60 秒の間にパージされます。その DB2ENTRY でスレッドを待機している他のトランザクションがない場合、無保護スレッドは (同期点またはタスクの最後で) 解放されるときに終了します。

RESYNCMEMBER(*cvda*)
このオプションは、グループ接続を使用している場合にのみ適用され、CICS が最後に接続された Db2 データ共用グループ・メンバーに対して未解決の作業単位が保持されている場合に、CICS が採用するストラテジーを指定します。(未確定で中断された作業単位は、この時点では CICS 自体がそれらの作業単位を解決できないので、このプロセスに含まれません。それらの UOW の再同期は、CICS がそのリモート・コーディネーターと再同期したときに生じます。) CVDA 値は以下のとおりです。

RESYNC
CICS は同じ Db2 データ共用グループ・メンバーに接続します。

NORESYNC
CICS は同じ Db2 データ共用グループ・メンバーへの接続を一度試行します。その試行が失敗した場合、CICS は Db2 データ共用グループのいずれかのメンバーに接続して、未解決の作業単位に関する警告を発行します。

NOTAPPLIC
グループ接続を使用していない場合、NOTAPPLIC の値が戻されます。

REUSELIMIT(*data-area*)
スレッドが強制終了される前に再利用できる最大回数を示す値を 0 から 10000 の範囲で戻します。デフォルトは 1000 です。0 の値は、スレッドが再利用される回数に制限がないことを意味します。絶え間なく再利用して長時間に渡り CICS Db2 スレッドを実行すると、ストレージの問題を引き起こす可能性のあるリソースが Db2 に構築されてしまいます。

再利用の制限は、プールと DB2ENTRY の両方の無保護スレッド、および DB2ENTRY の保護スレッドに適用されます。

SIGNID(*data-area*)
プール、AUTHTYPE(SIGN) を指定する Db2 エントリー・スレッド、および COMAUTHTYPE(CSIGN) を指定するコマンド・スレッドのために Db2 にサインオンする際、CICS Db2 接続が使用する許可 ID を戻します。

STANDBYMODE(*cvda*)
CICS から Db2 への接続の開始を試行するときに Db2 がアクティブではない場合、CICS Db2 接続が実行するアクションを戻します。CVDA 値は以下のとおりです。

NOCONNECT
CICS Db2 接続を終了します。

CONNECT
CICS Db2 接続は、Db2 を待機するため待機モードに入ります。

RECONNECT
CICS Db2 接続は、待機モードに入り、Db2 を待機します。Db2 に接続した後に Db2 に障害が発生した場合、CICS Db2 接続は再び待機モードに戻ります。Db2 を再始動するときに再接続します。

STATSQUEUE(*data-area*)
CICS Db2 接続がシャットダウンされるときに作成される CICS Db2 接続統計の一時データ宛先を戻します。

TCBLIMIT(*data-area*)
Db2 要求を処理するために使用できる TCB の最大数を戻します。DB2 バージョン 5 以前のバージョンに接続した場合、CICS Db2 接続機能は TCBLIMIT で指定された限度数までのサブタスクの形式で TCB を作成します。これらのサブタスクはそれぞれ Db2 に識別され、Db2 への接続を作成します。DB2 バージョン 6 以降に接続されている場合、CICS は、オープン TCB を使用して Db2 要求を処理します。DB2CONN 定義の TCBLIMIT 属性は、Db2 にアクセスするために使用できるオープン TCB の数、つまり、TCB が Db2 に識別され、Db2 への接続を作成できる数を規定します。

TCBS(*data-area*)
CICS Db2 接続機能によって現在使用されている TCB を示す数値を戻します。戻される数値は、Db2 接続 (コマンド、プール、または DB2ENTRY スレッド) に関連付けられた TCB の数なので、以下に示すように、数値の解釈は CICS が接続されている Db2 のリリースによって異なります。

DB2 バージョン 5 以前のバージョンに接続されている場合 (オープン・トランザクション環境を使用しない)
CICS Db2 接続機能により、サブタスク TCB の作成および管理がなされ、Db2 要求がサービスされます。また、永久的に Db2 接続 (コマンド、プール、または DB2ENTRY スレッド) と関連付けられたままになります。この場合、TCBS オプションは、Db2 にアクセスするために作成された TCB の最高水準点を戻します。

DB2 バージョン 6 以降のバージョンに接続されている場合 (オープン・トランザクション環境を使用する)
CICS Db2 接続機能によって使用されている TCB は、CICS によって L8 モード TCB のプールから割り振られます。Db2 接続は同じ L8 TCB に永久的に割り当てられることはなく、CICS タスク間で 1 つの L8 モード TCB から別の L8 モード TCB に移動できます。この環境では、TCBS オプションは、照会の時点で Db2 接続を使用している L8 モード TCB の数を戻します。また、この値はワークロードによって異なります。

THREADERROR(*cvda*)
スレッド作成エラーの後に発生する処理を戻します。CVDA 値は以下のとおりです。

ABEND
2 度目またはその後の SQL エラーでは、トランザクションは、発生したエラーのタイプに応じて、異常終了コード AD2S、AD2T、または AD2U により異常終了します。トランザクションを停止して再初期化されてからでなければ、別の SQL 要求を発行することはできません。

N906D
トランザクション・ダンプが取られ、トランザクションに関連付けられた DSNCSQL RMI は使用不可になりません。別の SQL が発行された場合、トランザクションは、SYNCPOINT ROLLBACK コマンドを発行しなければ、-906 SQLCODE を受け取ります。 SYNCPOINT に ROLLBACK オプションが指定されていない場合、ASP3 または ASP7

で異常終了します。トランザクション・ダンプには、AD2S、AD2T、または AD2U の異常終了が記録されます。

N906 トランザクションに関連付けられた DSNCSQL RMI は使用不可になりません。別の SQL 要求が発行された場合、トランザクションは、SYNCPOINT ROLLBACK コマンドを発行しなければ、-906 SQLCODE を受け取ります。 SYNCPOINT に ROLLBACK オプションが指定されていない場合、ASP3 または ASP7 で異常終了します。

THREADLIMIT(*data-area*)
要求が待機または拒否される前に、CICS Db2 接続がアクティブを許可する現在のプール・スレッドの最大数を戻します。THREADWAIT を参照してください。

THREADS(*data-area*)
現在のアクティブ・プール・スレッド数を戻します。

THREADWAIT(*cvda*)
アクティブ・プール・スレッド数が THREADLIMIT の数値に達したときに、トランザクションにプール・スレッドを待たせるか、またはトランザクションを停止させるかを示す値を戻します。 CVDA 値は以下のとおりです。

TWAIT
すべてのスレッドが使用されている場合、いずれかが使用可能になるまでトランザクションは待機します。

NOTWAIT
すべてのスレッドが使用されている場合、トランザクションは異常終了コード AD3T により停止します。

条件

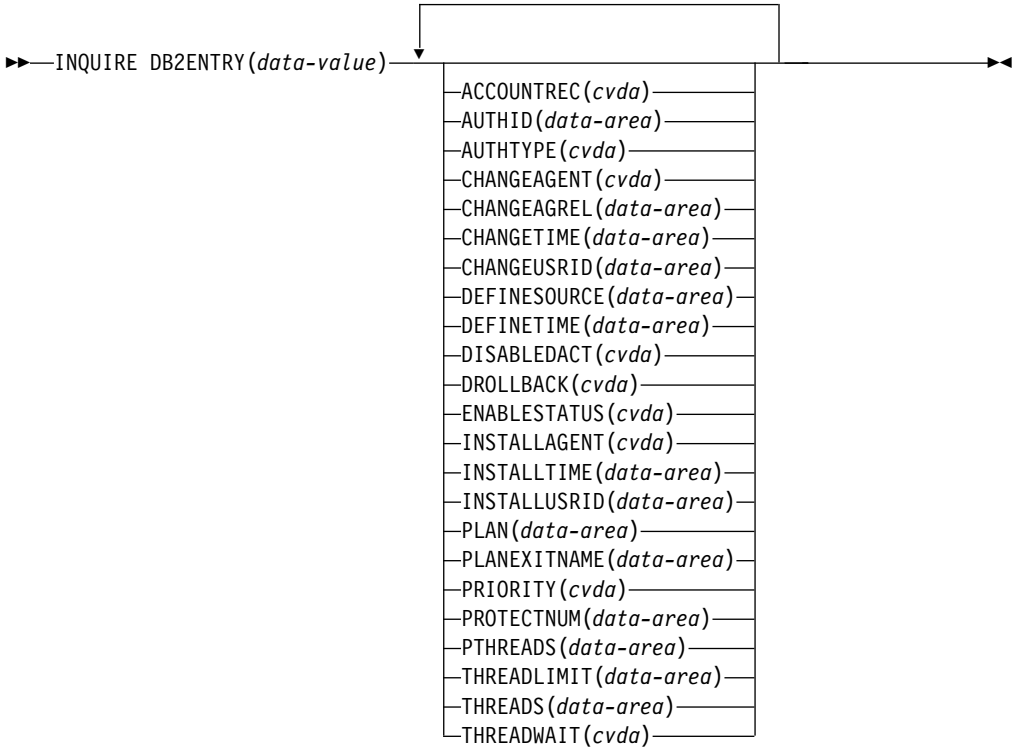
NOTFND
RESP2 値は以下のとおりです。
1 DB2CONN が見つかりません。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。
100 コマンド権限の処理に失敗しました。

INQUIRE DB2ENTRY

Db2 にアクセスする際に特定のトランザクションまたはトランザクションのグループによって使用されるリソースを定義する DB2ENTRY の属性を返します。

INQUIRE DB2ENTRY



条件**:** NOTAUTH、NOTFND

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

このエントリーは、DEFINE DB2ENTRY コマンドによって CSD で定義された名前で識別されます。

ブラウズ

INQUIRE DB2ENTRY コマンドでブラウズ・オプション (START、NEXT、および END) を使用することにより、CICS 領域にインストールされているすべての DB2ENTRY 定義をブラウズすることもできます。ブラウズに関する一般情報 (構文、例外条件、および例を含む) については、Browsing resource definitionsを参照してください。

リソース・シグニチャー

このコマンドを使用して、リソース・シグニチャー・フィールドを検索することができます。これらのフィールドを使用すると、リソースの定義時、インストール時、および最終変更時の詳細データを収集して、リソースを管理できます。 詳しくは、Auditing resourcesを参照してください。 リソース・シグニチャー・フィールドは BUNDLE、CHANGEAGENT、CHANGEAGREL、CHANGETIME、CHANGEUSRID、DEFINESOURCE、DEFINETIME、INSTALLAGENT、INSTALLTIME、および INSTALLUSRID です。リソース・シグニチャー・フィールドの内容について詳しくは、Summary of the resource signature field valuesを参照してください。

オプション

ACCOUNTREC

この DB2ENTRY を使用するトランザクションに必要な Db2 アカウンティングの最小量を戻します。以下のオプションで説明されているように、指定した最小値を超える可能性があります。 CVDA 値は以下のとおりです。

UOW CICS Db2 接続機能により、各 UOW のアカウンティング・レコードが Db2 により作成されます (このスレッドは UOW の終わりに解放されます)。

TASK

CICS Db2 接続機能により、各 CICS タスクに対して 1 つのアカウンティング・レコードの最小値が Db2 により作成されます。

複数の UOW が含まれるトランザクションでは、各 UOW の異なるスレッドを使用できます (このスレッドは同期点で解放されます)。結果として、各 UOW に対してアカウンティング・レコードが作成されます。例えば、解放された後にスレッドが終了する場合、またはスレッドが再利用されても 1 次 AUTHID が変更されている場合、アカウンティング・レコードが作成されます。

TXID CICS Db2 接続機能により、スレッドを使用する transid が変更されるときに、Db2 によりアカウンティング・レコードが作成されます。

このオプションは、複数のトランザクション ID が使用する DB2ENTRY 定義に適用されます。スレッドは通常、同期点で解放されるため、複数の UOW を含むトランザクションは、UOW ごとに異なるスレッドを使用できます。その結果、UOW ごとにアカウンティング・レコードを生成できます。例えば、解放された後にスレッドが停止する場合、またはスレッドが再利用されても 1 次 AUTHID が変更されている場合、アカウンティング・レコードが作成されます。

なし このDB2ENTRYからスレッドを使用する トランザクションには、会計レコードは必要 ありません。

それでも Db2 は、スレッドが終了したときに、スレッドごとに少なくとも 1 つのアカウンティング・レコードを作成します。さらに、権限を変更してもアカウンティング・レコードが作成されます。

AUTHID

この DB2ENTRY のスレッドに対するセキュリティー検査に使用される ID を戻します。AUTHID が戻されると、AUTHTYPE は適用されません。

AUTHTYPE

この DB2ENTRY のスレッドに対するセキュリティー検査に使用される ID のタイプを戻します。AUTHTYPE が戻されると、AUTHID はブランクになります。CVDA 値は以下のとおりです。

GROUP

8 文字のユーザー ID および接続されたグループ名が許可 ID として使用されます。以下の表に、これらの 2 つの値が Db2 でどのように解釈されるかを示します。

Db2 へ渡される ID	Db2 が値を解釈する方法
CICS サインオン・ユーザー ID (USERID)	1 次 Db2 許可 ID を表します。
RACF 接続グループ名	グループ・オプションの RACF リストがアクティブではない場合、Db2 は、CICS 接続機能が提供する接続されたグループ名を 2 次 Db2 許可 ID として使用します。グループ・オプションの RACF リストがアクティブな場合、Db2 は CICS 接続機能が提供する接続されたグループ名を無視しますが、2 次 Db2 許可 ID の Db2 リストには値が表示されます。

このユーザー ID に対して使用できる RACF グループ ID がない場合、ブランクの 8 文字フィールドがグループ ID として Db2 に渡されます。

SIGN DB2CONN の SIGNID パラメーターをリソース許可 ID として使用します。

TERM
端末 ID (8 文字に当てられる 4 文字) を許可 ID として使用します。端末がトランザクションに接続されていない場合、この方法で許可 ID を取得することはできません。

CICS コマンドを使用してトランザクションを開始しても、それに関連付けられた端末がない場合、AUTHTYPE(TERM) を使用できません。

TX トランザクション ID (8 文字に当てられる 4 文字) を許可 ID として使用します。

OPID ユーザー ID (CICS トランザクションに関連付けられている) に関連付けられたオペレーター ID が、許可 ID (3 文字に埋め込みが行われて 8 文字にされます) として使用されます。

USERID
CICS トランザクションに関連付けられた 8 文字のユーザー ID が、許可 ID として使用されます。

AUTHTYPE(USERID) を指定して Db2 サンプル・サインオン出口 DSN3@SGN を使用すると、この出口はユーザー ID を 1 次許可 ID として、RACF グループ ID を 2 次許可 ID として、それぞれ Db2 に送ります。サンプル・サインオン出口を使用すると、AUTHTYPE(USERID) と AUTHTYPE(GROUP) は同じになります。

CHANGEAGENT(*cvda*)
リソース定義を最後に変更したエージェントを識別する CVDA 値を戻します。有効な値は、以下のとおりです。

CREATESPI
リソース定義は **EXEC CICS CREATE** コマンドによって最後に変更されました。

CSDAPI
リソース定義は、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによって最後に変更されました。

CSDBATCH
リソース定義は、DFHCSDUP ジョブによって最後に変更されました。

DREPAPI
リソース定義は、CICSPlex SM BAS API コマンドによって最後に変更されました。

CHANGEAGREL(*data-area*)
リソース定義の最終変更時に実行していた CICS リリースの 4 桁の数値を戻します。

CHANGETIME(*data-area*)
リソース定義の最終変更時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。ABSTIME 値のフォーマットについて詳しくは、FORMATTIMEを参照してください。

CHANGEUSRID(*data-area*)
変更エージェントを実行した 8 文字のユーザー ID を戻します。

DEFINESOURCE(*data-area*)
リソース定義の 8 文字のソースを戻します。DEFINESOURCE 値は CHANGEAGENT 値に依存します。詳しくは、Summary of the resource signature field valuesを参照してください。

DEFINETIME(*data-area*)
リソース定義の作成時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。

DISABLEDACT
DB2ENTRY がこれまで使用不可、またはこれから使用不可になる場合に、それにアクセスする新規トランザクションに対して CICS が行うことを戻します。DISABLEDACT が指定されないときに、DB2ENTRY が使用不可になると、新規要求はデフォルトでプールに経路指定されます。CVDA 値は以下のとおりです。

POOL
CICS Db2 接続機能によって、要求がプールに経路指定されます。プールへの経路を指定された各トランザクションの DB2CONN 上の MSGQUEUEn によって指定された一時データ宛先に、メッセージ DFHDB2072 が送信されます。

ABEND
CICS Db2 接続機能がトランザクションを停止します。異常終了コードは AD26 です。

SQLCODE
DB2ENTRY が使用不可であることを示す SQLCODE がアプリケーションに返されます。

DROLLBACK
デッドロックを解決するための犠牲としてトランザクションが選択された場合に、CICS Db2 接続で同期点ロールバックを開始するかどうかを戻します。CVDA 値は以下のとおりです。

ROLLBACK
接続機能は、制御をアプリケーションに戻す前に同期点ロールバックを発行します。 SQL 戻りコード -911 がアプリケーションに戻されます。

NOROLLBACK
接続機能は、このトランザクションのロールバックを開始しません。SQL 戻りコードの -913 がアプリケーションに戻されます。

ENABLESTATUS
DB2ENTRY にアプリケーションがアクセスできるかどうかを示す cvda を戻します。CVDA 値は以下のとおりです。

ENABLED
アプリケーションは DB2ENTRY にアクセスできます。DB2ENTRY は ENABLED 状態でインストールされています。

DISABLED
アプリケーションは DB2ENTRY にアクセスできません。

DISABLING
DB2ENTRY は使用不可にされる過程にあります。新規トランザクションは DB2ENTRY にアクセスできません。DB2ENTRY を使用する既存のトランザクションは、FORCE オプションを使用して DB2ENTRY が使用不可にされない限り、完了できます。

INSTALLAGENT(*cvda*)
リソースをインストールしたエージェントを識別する CVDA 値を戻します。有効な値は、以下のとおりです。

CREATESPI
リソースは、**EXEC CICS CREATE** コマンドによってインストールされました。

CSDAPI
リソースは、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによってインストールされました。

GRPLIST
リソースは、**GRPLIST INSTALL** によってインストールされました。

INSTALLTIME(*data-area*)
リソースのインストール時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。

INSTALLUSRID(*data-area*)
リソースをインストールした 8 文字のユーザー ID を戻します。

PLAN
この DB2ENTRY に使用される計画の名前を戻します。PLAN が戻されると、PLANEXITNAME はブランクになります。

PLANEXITNAME
この DB2ENTRY に使用される動的計画出口がある場合、その出口の名前を戻します。PLANEXITNAME が戻されると、PLAN はブランクになります。

PRIORITY
CICS メイン TCB (QR TCB) を基準とした、この DB2ENTRY 用のスレッド TCB の優先度を戻します。スレッド TCB は、CICS オープン L8 TCB です。CVDA 値は以下のとおりです。

HIGH
スレッド TCB の優先度が、CICS QR TCB よりも高くなります。

EQUAL
スレッド TCB の優先度が、CICS QR TCB と等しくなります。

LOW スレッド TCB の優先度が、CICS QR TCB よりも低くなります。

PROTECTNUM
この DB2ENTRY に対して許可されている保護スレッドの最大数を戻します。

PTHREADS
この DB2ENTRY の保護スレッドの現在の数を戻します。保護スレッドとは、新規トランザクションで再使用できる非アクティブ・スレッドです。2 つのパージ・サイクルで処理されるまでにトランザクションがスレッドを再使用しなかった場合、スレッドは終了します。

THREADS
この DB2ENTRY にアクティブなスレッドの現在の数を戻します。

THREADLIMIT
現在 CICS Db2 接続機能でアクティブにできる、この DB2ENTRY のスレッドの最大数を戻します。この数を超えると、要求の待機やプールへのオーバーフロー、または拒否が起こります。THREADWAIT オプションを参照してください。

THREADWAIT
アクティブな DB2ENTRY スレッドの数が Threadlimit 数に達した場合、トランザクションが DB2ENTRY スレッドを待機するか、停止するか、またはプールにオーバーフローするかを戻します。CVDA 値は以下のとおりです。

TWAIT
すべてのスレッドが使用されている場合、いずれかが使用可能になるまでトランザクションは待機します。

NOTWAIT
すべてのスレッドが使用中の場合、トランザクションは異常終了コード AD2P で停止します。

TPOOL
すべてのスレッドが使用中の場合、トランザクションはプール・スレッドを転用使用します。プールも使用中で、DB2CONN の THREADWAIT パラメーターに NOTWAIT が指定されている場合、トランザクションは異常終了コード AD3T で停止します。

条件

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。
100 コマンド権限の処理に失敗しました。
101 リソース許可が失敗しました。

NOTFND

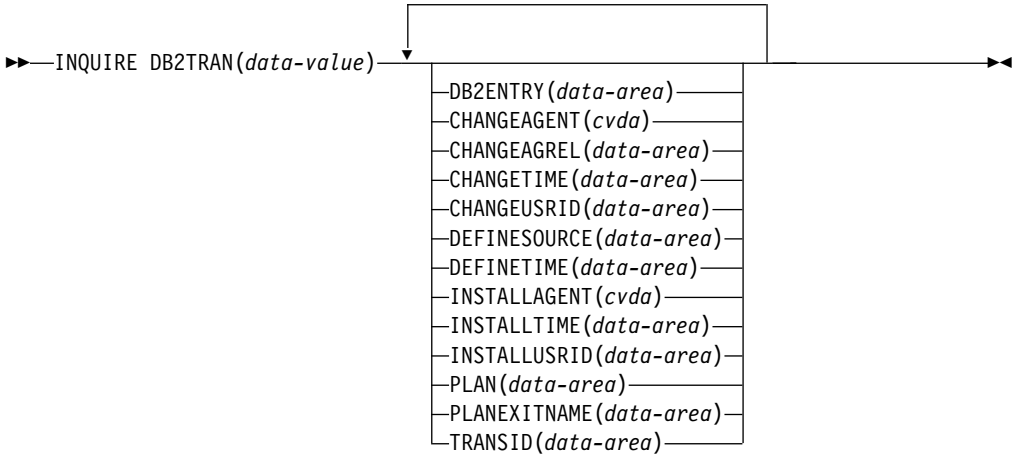
RESP2 値は以下のとおりです。

1 DB2ENTRY が見つかりません。

INQUIRE DB2TRAN

特定の DB2TRAN 定義の属性を返します。この定義はトランザクションまたはトランザクションのグループを DB2ENTRY と関連付けます。

INQUIRE DB2TRAN



条件**:** NOTAUTH、NOTFND

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

DB2TRAN は、CEDA で定義されている名前で識別されます。または、DB2ENTRY がインストールされているときにその DB2ENTRY で TRANSID が指定されている場合、CICS は、DFHttttという名前の DB2TRAN をインストールします。ここで、tttt は TRANSID です。

ブラウズ

INQUIRE DB2TRAN コマンドでブラウズ・オプション (START、NEXT、および END) を使用することにより、システムにインストールされているすべての DB2TRAN の関連をブラウズすることもできます。ブラウズに関する一般情報 (構文、例外条件、および例を含む) については、Browsing resource definitionsを参照してください。

リソース・シグニチャー

このコマンドを使用して、リソース・シグニチャー・フィールドを検索することができます。これらのフィールドを使用すると、リソースの定義時、インストール時、および最終変更時の詳細データを収集して、リソースを管理できます。 詳しくは、Auditing resourcesを参照してください。 リソース・シグニチャー・フィール

ドは BUNDLE、CHANGEAGENT、CHANGEAGREL、CHANGETIME、CHANGEUSRID、DEFINESOURCE、DEFINETIME、INSTALLAGENT、INSTALLTIME、および INSTALLUSRID です。リソース・シグニチャー・フィールドの内容について詳しくは、Summary of the resource signature field valuesを参照してください。

オプション

DB2ENTRY
この DB2TRAN が参照する DB2ENTRY の名前を戻します。つまり、この追加トランザクションが関連付けられている DB2ENTRY です。

CHANGEAGENT(*cvda*)
リソース定義を最後に変更したエージェントを識別する CVDA 値を戻します。有効な値は、以下のとおりです。

CREATESPI
リソース定義は **EXEC CICS CREATE** コマンドによって最後に変更されました。

CSDAPI
リソース定義は、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによって最後に変更されました。

CSDBATCH
リソース定義は、DFHCSDUP ジョブによって最後に変更されました。

DREPAPI
リソース定義は、CICSPlex SM BAS API コマンドによって最後に変更されました。

DYNAMIC
リソースは、TRANSID を指定して DB2ENTRY をインストールした結果として定義されました。

CHANGEAGREL(*data-area*)
リソース定義の最終変更時に実行していた CICS リリースの 4 桁の数値を戻します。

CHANGETIME(*data-area*)
リソース定義の最終変更時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。ABSTIME 値のフォーマットについて詳しくは、FORMATTIMEを参照してください。

CHANGEUSRID(*data-area*)
変更エージェントを実行した 8 文字のユーザー ID を戻します。

DEFINESOURCE(*data-area*)
リソース定義の 8 文字のソースを戻します。DEFINESOURCE 値は CHANGEAGENT 値に依存します。詳しくは、Summary of the resource signature field valuesを参照してください。

DEFINETIME(*data-area*)
リソース定義の作成時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。

INSTALLAGENT(*cvda*)
リソースをインストールしたエージェントを識別する CVDA 値を戻します。有効な値は、以下のとおりです。

CREATESPI
リソースは、**EXEC CICS CREATE** コマンドによってインストールされました。

CSDAPI
リソースは、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによってインストールされました。

DYNAMIC
リソースは、TRANSID を指定して DB2ENTRY をインストールした結果としてインストールされました。

GRPLIST
リソースは、**GRPLIST INSTALL** によってインストールされました。

INSTALLTIME(*data-area*)
リソースのインストール時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。

INSTALLUSRID(*data-area*)
リソースをインストールした 8 文字のユーザー ID を戻します。

PLAN
関連付けられた DB2ENTRY が存在する場合、それから取得された計画の名前を戻します。関連した DB2ENTRY がない場合、または DISABLEDACT (POOL) で DB2ENTRY が使用不可である場合、プール計画名が存在する場合はその名前が戻されます。PLAN が戻されると、PLANEXITNAME はブランクになります。

PLANEXITNAME
関連付けられた DB2ENTRY が存在する場合、それから使用される動的計画出口の名前を戻します。関連した DB2ENTRY がない場合、または DISABLEDACT(POOL) で DB2ENTRY が使用不可である場合、プール計画出口名が存在する場合はその名前が戻されます。PLANEXITNAME が戻されると、PLAN はブランクになります。

TRANSID
エントリーに関連付けるトランザクション ID を指定します。トランザクション ID にはワイルドカード文字を使用できます。ワイルドカード文字の使用については、トランザクション ID のワイルドカード文字を参照してください。

条件

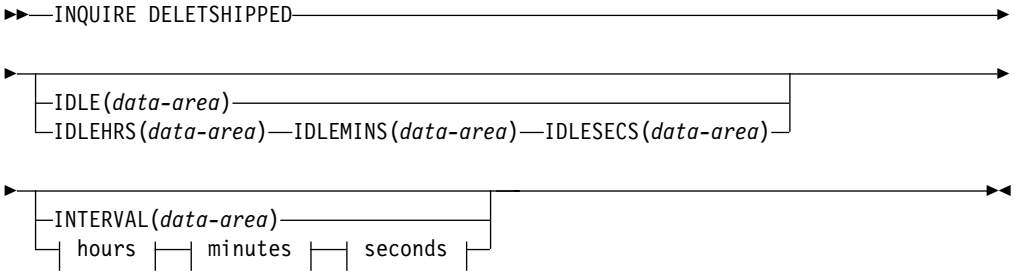
NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。
100 コマンド権限の処理に失敗しました。
101 リソース許可が失敗しました。

NOTFND
RESP2 値は以下のとおりです。
1 DB2TRAN 定義が見つかりません。

INQUIRE DELETSHIPPED

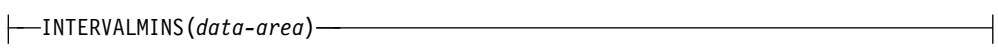
CICS タイムアウト削除メカニズムを制御するシステム設定に関する情報を取得します。

INQUIRE DELETSHIPPED

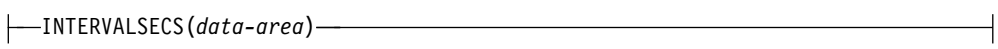


hours:

minutes:



seconds:



条件: NOTAUTH

説明

シップされた端末定義が一定期間アイドルになっていた後、CICS はこれらを削除するためのメカニズムを提供します。インストールでは、端末が削除の対象になるために非アクティブになっている期間 (IDLE 時間)、およびチェックを行う頻度 (INTERVAL) を指定します。 INQUIRE DELETSHIPPED コマンドは、これらの 2 つの制御オプションについて、現在の設定を表示します。

このコマンドで取得できる各時間値 (アイドル時間および間隔チェック期間) には、2 つの形式があります。

- 4 バイトのパック 10 進数複合 (0hhmmss+)。IDLE オプションと INTERVAL オプションを使用して、取得します。
- 時間、分、および秒 (個別)。 IDLEHRS、IDLEMINS、IDLESECS の各オプション (IDLE の代わり)、および INTERVALHRS、INTERVALMINS、INTERVALSECS の各オプション (INTERVAL の代わり) を指定して、取得します。

オプション

IDLE(データ域)
アイドル時間を、4 バイトのパック 10 進数フィールド (0hhmmss+ 形式) で返します。アイドル時間とは、端末を削除対象になるまで非アクティブにさせておく最小の時間を指します。

IDLEHRS(データ域)
アイドル時間の時間コンポーネントを、フルワード・バイナリー形式で返します。

IDLEMINS(データ域)
アイドル時間の分コンポーネントを、フルワード・バイナリー形式で返します。

IDLESECS(データ域)
アイドル時間の秒コンポーネントを、フルワード・バイナリー形式で返します。

INTERVAL(データ域)
4 バイトのパック 10 進数フィールドを、0hhmmss+ 形式で返します。これは、アイドル端末のチェックを行う間隔を表しています。

INTERVALHRS(データ域)
間隔の時間コンポーネントを、フルワード・バイナリー形式で返します。

INTERVALMINS(データ域)
間隔の分コンポーネントを、フルワード・バイナリー形式で返します。

INTERVALSECS(データ域)
間隔の秒コンポーネントを、フルワード・バイナリー形式で返します。

条件

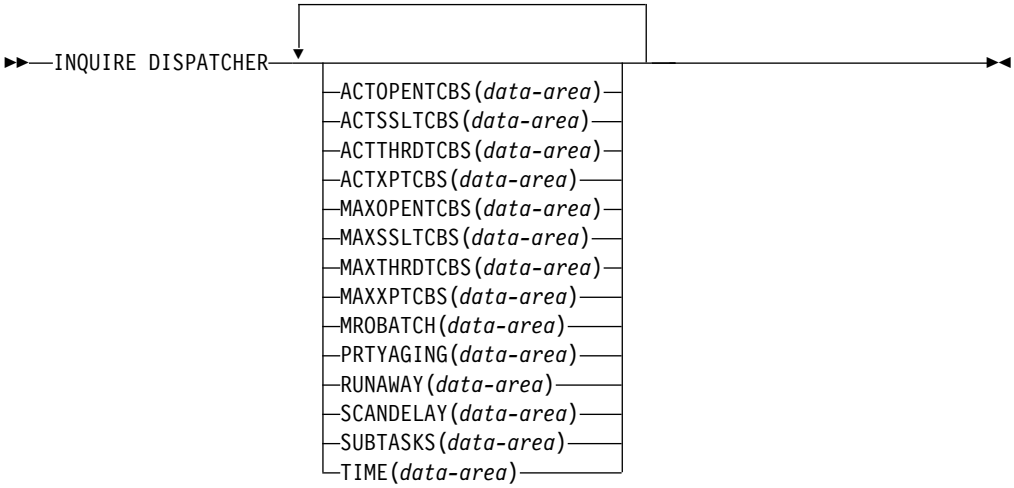
NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

INQUIRE DISPATCHER

CICS ディスパッチャー情報を取得します。

INQUIRE DISPATCHER



条件: NOTAUTH

CVDA の使用について詳しくは、CICS-value data areas (CVDAs)を参照してください。

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

INQUIRE DISPATCHER コマンドは、コマンド発行元のタスクが稼働している CICS システムについての情報を戻します。

このコマンドのオプションの多くはシステム初期設定パラメーターのオプションに対応しており、これらのパラメーターから初期値を取得します。 **SET DISPATCHER** コマンドを使用することにより、いくつかのパラメーター値を変更できます。他のいくつかのオプションは、CICS ディスパッチャーの状態データを戻します。

オプション

ACTOPENTCBS(*data-area*)
タスクに現在割り振られている L8 および L9 モードのオープン TCB の総数を示すフルワード・バイナリー・フィールドを戻します。

L8 および L9 モードの TCB は、CICS によって付加されるオープン TCB のプールから、**MAXOPENTCBS** システム初期設定パラメーターで設定された最大数を上限として割り振られます。 CICS ディスパッチャーは、OPENAPI アプリケーションでの使用、および OPENAPI オプションによって使用可能になるタスク関連ユーザー出口での使用のために、L8 モードおよび L9 モードの TCB のプールを保守します。タスク関連ユーザー出口は L8 モード TCB だけを使用します (例えば Db2 への接続時の CICS Db2 アダプター)。ACTOPENTCBS 値は、MAXOPENTCBS 値と同じか、それより小さくなります。
MAXOPENTCBS と同じである場合、L8 または L9 モードのオープン TCB を必要とするタスクは待機させられます。

ACTSSLTCBS(*data-area*)
タスクに現在割り振られている S8 モードのオープン TCB の総数を示すフルワード・バイナリー・フィールドを戻します。

S8 モードの TCB は、CICS によって付加されるオープン TCB のプールから、**MAXSSLTCBS** システム初期設定パラメーターで設定された最大数を上限として割り振られます。 S8 TCB は、SSL 機能を必要とするタスクによって使用されます。 ACTSSLTCBS 値は、MAXSSLTCBS 値と同じか、それより小さくなります。 MAXSSLTCBS と同じである場合、S8 TCB を必要とするタスクは待機させられます。

ACTTHRDTCBS(*data-area***)**
使用可能な JVM サーバーに現在割り振られている T8 モードのオープン TCB の総数を示すフルワード・バイナリー・フィールドを戻します。

T8 モード TCB は、オープン TCB のプールから割り振られます。1 つのプールは 1 つの JVM サーバーによって使用されます。 CICS ディスパッチャーは、JVM サーバー・ランタイム環境での使用のために、T8 モード TCB のプールを保守します。

ACTXPTCBS(*data-area***)**
タスクに現在割り振られている X8 および X9 モードのオープン TCB の総数を示すフルワード・バイナリー・フィールドを戻します。

X8 および X9 モードの TCB は、CICS によって付加されるオープン TCB のプールから、**MAXXPTCBS** システム初期設定パラメーターで設定された最大数を上限として割り振られます。 CICS ディスパッチャーは、XPLINK オプションを使ってコンパイルされた C および C++ プログラムでの使用のために、X8 および X9 モード TCB のプールを保守します。ACTXPTCBS 値は、MAXXPTCBS 値と同じか、それより小さくなります。 MAXXPTCBS と同じである場合、X8 または X9 モードのオープン TCB を必要とするタスクは待機させられます。

MAXOPENTCBS(*data-area***)**
CICS で付加して L8 および L9 モード TCB のプールで保守することのできる、L8 および L9 モードのオープン TCB の最大数を示すフルワード・バイナリー・フィールドを戻します。

割り振られる数については、ACTOPENTCBS オプションを参照してください。MAXOPENTCBS と ACTOPENTCBS の差は、解放されている該当する TCB の数を表します。

MAXSSLTCBS(*data-area***)**
CICS で付加して S8 モード TCB のプールで保守することのできる、S8 モードのオープン TCB の最大数を示すフルワード・バイナリー・フィールドを戻します。

MAXTHRDTCBS(*data-area***)**
使用可能および使用不可であるすべての JVMSERVER リソースについて、CICS 領域内に同時に存在できる T8 モードのオープン TCB の最大数 (つまり、領域内のすべての JVM サーバー用に予約済みのスレッドの総数) を示すフルワード・バイナリー・フィールドを戻します。各 JVM サーバー用に予約済みのスレッドの数は、JVMSERVER リソースの THREADLIMIT 値に 1 (JVM サーバー用に予約済みの TCB) を加算したものです。 THREADLIMIT について詳しくは、JVMSERVER 属性を参照してください。

MAXTHRDTCBS と ACTTHRDTCBS の差は、解放されている TCB の数を表します。別の JVM サーバーを初期化する場合、その JVM サーバーに対して 1 つの TCB を予約します。

MAXXPTCBS(*data-value***)**
CICS で付加して X8 および X9 モード TCB のプールで保守することのできる、X8 および X9 モードのオープン TCB の最大数を示すフルワード・バイナリー・フィールドを戻します。

割り振られる数については、ACTXPTCBS オプションを参照してください。MAXXPTCBS と ACTXPTCBS の差は、解放されている該当する TCB の数を表します。

MROBATCH(*data-area***)**
CICS が待機している MRO および DASD I/O イベントのリストに含まれるイベントの数を示すフルワード・バイナリー・フィールドを戻します。この数のイベントが発生すると、CICS が明示的な通知を受けてそれらを処理することになります。

PRTYAGING(*data-area***)**
CICS がディスパッチを待機するタスクの優先順位を大きくする率を示すフルワード・バイナリー・フィールドを戻します。 CICS は、ディスパッチなしで PRTYAGING ミリ秒の待ち時間が経過するごとに、タスクの優先度を 1 ずつ増やします。

RUNAWAY(*data-area***)**
ランナウェイ・タスク時間のデフォルトのシステム値を示すフルワード・バイナリー・フィールドを戻します。この値は、ランナウェイ・タスク時間を指定しないプロファイルを持つトランザクションを実行しているすべてのタスクに関して使用されます。 **INQUIRE TRANSACTION** オプション RUNAWAY を参照してください。

SCANDELAY(*data-area***)**
端末入出力要求をするユーザー・タスクと、要求を処理するために CICS がディスパッチする端末管理タスクとの間のミリ秒の最大数を示すフルワード・バイナリー・フィールドを戻します。この値は「端末スキャン遅延」と呼ばれることがあり、システム初期設定テーブルで ICVTSD オプションによって設定されます。

SUBTASKS*data-area***)**
SUBTSKS システム初期設定パラメーターによって設定された値 (0 または 1 のいずれか) を示すフルワード・バイナリー・フィールドを戻します。

TIME(*data-area***)**
ディスパッチの準備ができたタスクがない場合に CICS がオペレーティング・システムに制御を与える最大間隔をミリ秒で示すフルワード・バイナリー・フィールドを戻します。 **ICV** システム初期設定パラメーターによって設定されるこの値は、「領域終了時間間隔」と呼ばれることがあります。

条件

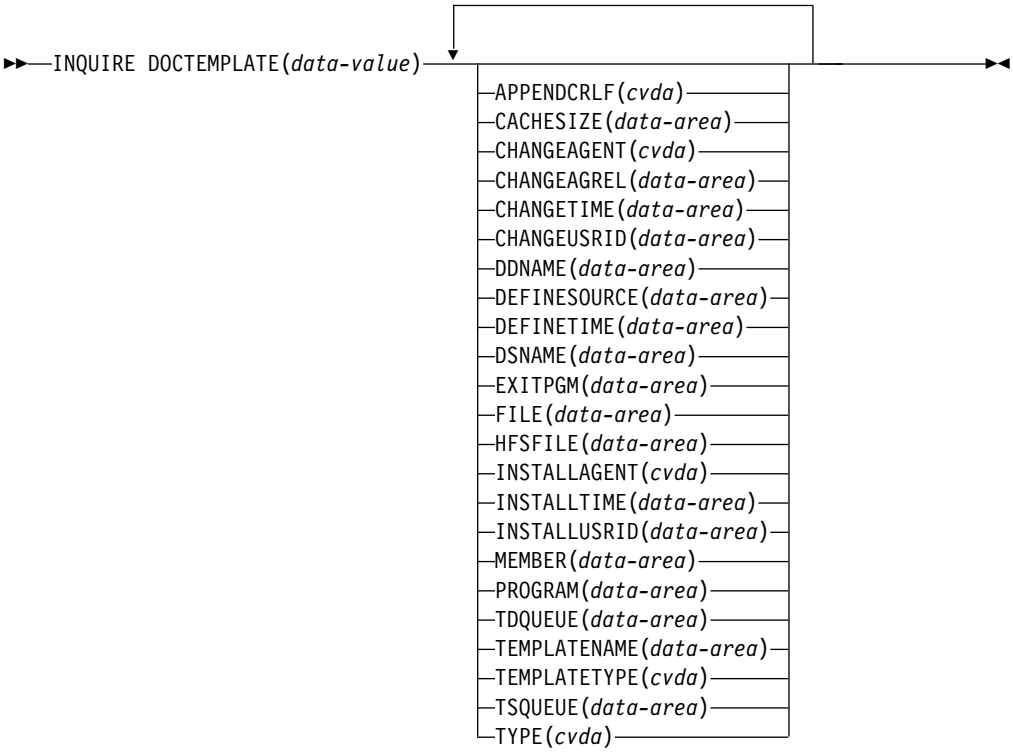
NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

INQUIRE DOCTEMPLATE

CICS 文書テンプレートの DOCTEMPLATE リソース定義に関する情報を検索します。

INQUIRE DOCTEMPLATE



条件: END、ILLOGIC、NOTFND、NOTAUTH

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

INQUIRE DOCTEMPLATE コマンドを使用して、特定の DOCTEMPLATE リソース定義がインストールされているか (CICS システムの現在の実行で定義されているか) を判別します。

ブラウズ

INQUIRE DOCTEMPLATE コマンドでブラウズ・オプション (START、NEXT、および END) を使用することにより、システムにインストールされているすべての DOCTEMPLATE リソース定義をブラウズすることもできます。ブラウズに関する一般情報 (構文、例外条件、および例を含む) については、Browsing resource definitionsを参照してください。

リソース・シグニチャー

このコマンドを使用して、リソース・シグニチャー・フィールドを検索することができます。これらのフィールドを使用すると、リソースの定義時、インストール時、および最終変更時の詳細データを収集して、リソースを管理できます。 詳しくは、Auditing resourcesを参照してください。 リソース・シグニチャー・フィールドは BUNDLE、CHANGEAGENT、CHANGEAGREL、CHANGETIME、CHANGEUSRID、DEFINESOURCE、DEFINETIME、INSTALLAGENT、INSTALLTIME、および INSTALLUSRID です。リソース・シグニチャー・フィールドの内容について詳しくは、Summary of the resource signature field valuesを参照してください。

オプション

APPENDCRLF(*cvda***)**
CICS がテンプレートの各論理レコードから末尾ブランクを削除したり、復帰改行をそれに追加したりするかどうかを示す CVDA 値を戻します。 CVDA 値は以下のとおりです。

APPEND
テンプレートの各論理レコードから末尾ブランクを削除したり、復帰改行をそれに追加したりします。

NOAPPEND
テンプレートの各論理レコードから末尾ブランクを削除せず、復帰改行をそれに追加することもしません。

CACHESIZE(*data-area***)**
文書テンプレートのキャッシュ・コピーで使用されるストレージの量をバイト単位で示す、フルワード・バイナリー・フィールドを戻します。照会の時点でテンプレートのキャッシュ・コピーがない場合、ゼロの値が戻されます。

CHANGEAGENT(*cvda*)
リソース定義を最後に変更したエージェントを識別する CVDA 値を戻します。有効な値は、以下のとおりです。

CREATESPI
リソース定義は **EXEC CICS CREATE** コマンドによって最後に変更されました。

CSDAPI
リソース定義は、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによって最後に変更されました。

CSDBATCH
リソース定義は、DFHCSDUP ジョブによって最後に変更されました。

DREPAPI
リソース定義は、CICSPlex SM BAS API コマンドによって最後に変更されました。

DYNAMIC
リソースは、CICS テンプレート・マネージャー DFHWBTL を介して使用されているテンプレートに対して、CICS システムによって定義されました。

CHANGEAGREL(*data-area*)
リソース定義の最終変更時に実行していた CICS リリースの 4 桁の数値を戻します。

CHANGETIME(*data-area*)
リソース定義の最終変更時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。ABSTIME 値のフォーマットについて詳しくは、FORMATTIMEを参照してください。

CHANGEUSRID(*data-area*)
変更エージェントを実行した 8 文字のユーザー ID を戻します。

DDNAME(*data-area*)
文書テンプレートが含まれている PDS の 8 文字の DD 名を戻します。DD 名は、タイプ PDS のテンプレートにのみ適用されます。

DEFINESOURCE(*data-area*)
リソース定義の 8 文字のソースを戻します。DEFINESOURCE 値は CHANGEAGENT 値に依存します。詳しくは、Summary of the resource signature field valuesを参照してください。

DEFINETIME(*data-area*)
リソース定義の作成時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。

DOCTEMPLATE(*data-value*)
照会する DOCTEMPLATE リソース定義の 8 文字の ID を指定します。

DSNAME(*data-area*)
文書テンプレートが含まれている PDS の 44 文字のデータ・セット名を戻します。これはタイプ PDS のテンプレートだけに適用されます。

EXITPGM(*data-area*)
要求がこの文書テンプレートに行われたときに呼び出される 8 文字の出口プログラム名を戻します。この出口プログラムは、出口プログラムがテンプレートを戻すバッファーのアドレスと長さが含まれている、構築された通信領域 (COMMAREA) に渡されます。

FILE(*data-area*)
文書テンプレートが含まれるデータ・セットの CICS ファイル定義の 8 文字の名前を戻します。

HFSFILE(*data-area*)
文書テンプレートが含まれる z/OS UNIX システム・サービス・ファイルの完全修飾名を戻します。この名前は 255 文字以内の長さにすることができます。

INSTALLAGENT(*cvda*)
リソースをインストールしたエージェントを識別する CVDA 値を戻します。有効な値は、以下のとおりです。

CREATESPI
リソースは、**EXEC CICS CREATE** コマンドによってインストールされました。

CSDAPI
リソースは、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによってインストールされました。

DYNAMIC
リソースは CICS テンプレート・マネージャー DFHWBTL を介して使用されているテンプレートに対して、CICS システムによってインストールされました。

GRPLIST
リソースは、**GRPLIST INSTALL** によってインストールされました。

INSTALLTIME(*data-area*)
リソースのインストール時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。

INSTALLUSRID(*data-area*)
リソースをインストールした 8 文字のユーザー ID を戻します。

MEMBER(*data-area*)
文書テンプレートが含まれている PDS 内の 8 文字のメンバー名を戻します。MEMBER はタイプ PDS のテンプレートだけに適用されます。

PROGRAM(*data-area*)
文書テンプレート・データが保管される 8 文字のプログラム名を戻します。CICS はプログラムをロードし、入り口点以後のすべてのデータをテンプレートにします。

TDQUEUE(*data-area*)
文書テンプレートが保管される 4 文字の TD キュー名を戻します。

TEMPLATENAME(*data-area*)
リソース定義機能の外部での文書テンプレートの識別に使用されている拡張テンプレート名 (DOCTEMPLATE リソース定義の TEMPLATENAME 属性) を戻します。名前の長さは 48 文字以下です。

TEMPLATETYPE(*cvda*)
この文書テンプレートのソースのタイプを示す CVDA 値を戻します。 CVDA 値は以下のとおりです。

EXIT 出口プログラム。

FILE データ・セットの CICS ファイル名

HFSFILE
z/OS UNIX システム・サービス・ファイル

PDSMEMBER
DDNAME で記述されている PDS 内のメンバー名。

PROGRAM
プログラム

TDQ TD キュー

TSQ TS キュー

TSQUEUE(*data-area*)
文書テンプレートが保管される 16 文字の TS キュー名を戻します。

TYPE(*data-area*)
テンプレート内容の形式を示す CVDA 値を戻します。 CVDA 値は以下のとおりです。

BINARY

EBCDIC

条件

END

RESP2 値は以下のとおりです。

2 このタイプのリソース定義はありません。

ILLOGIC

RESP2 値は以下のとおりです。

1 このリソース・タイプのブラウズが既に実行されているときに START コマンドが出されたか、もしくは、このリソース・タイプのブラウズが実行されていないときに NEXT または END コマンドが出された。

NOTAUTH

RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

101 発行中のタスクに関連付けられているユーザーは、この DOCTEMPLATE リソース定義に、このコマンドで必要とされる方法でアクセスすることを許可されていません。

NOTFND

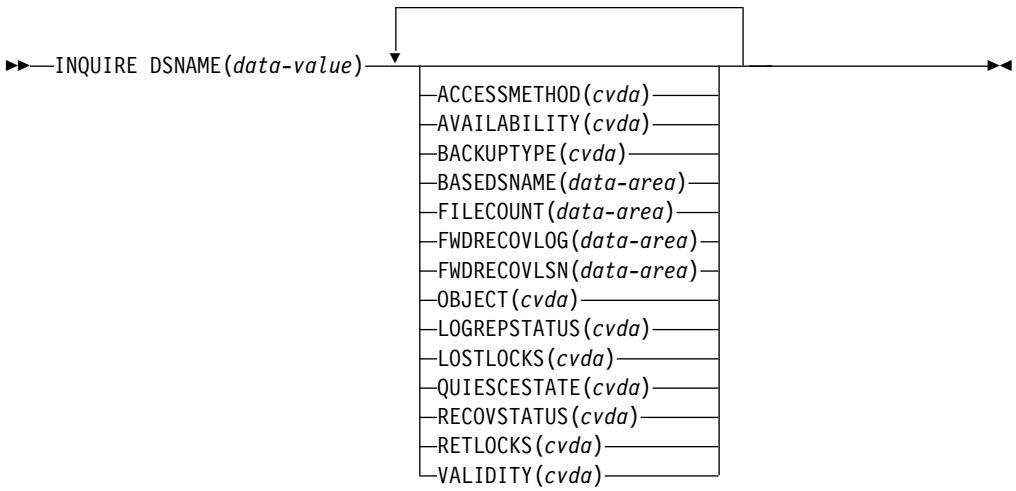
RESP2 値は以下のとおりです。

1 指定の DOCTEMPLATE が見つかりません。

INQUIRE DSNAME

外部データ・セットに関する情報を取得します。

INQUIRE DSNAME



条件**:** DSNNOTFOUND、END、ILLOGIC、IOERR、NOTAUTH

CVDA の使用の詳細については、CICS-value data areas (CVDAs)を参照してください。

説明

The **INQUIRE DSNAME** コマンドは、FILE リソース定義に関連付けられたオブジェクトに関する情報 (BDAM データ・セット、VSAM データ・セット、または代替索引を介するデータ・セットへの VSAM パス) を返します。

データ・セットとファイルの関連付けは、FILE 定義の DSNAME 属性により動的に、あるいは関連する JCL DD ステートメントの DSN オプションにより静的に行われます。データ・セットの属性は、ほとんどの場合、コマンドが発行される CICS 領域で、そのデータ・セットを参照する最初のファイルを開くまで判別することができません。属性はファイルをオープンするまで無効であり、NOTAPPLIC 状態を返します。

注: オプションを使用して、ICF カタログから読み取りを要求すると、このコマンドの処理をスローダウンすることができます。

ブラウズ

INQUIRE DSNAME コマンドでブラウズ・オプション (START、NEXT、および END) を使用することにより、システムにインストールされたファイルに関連付けられたすべてのオブジェクトをブラウズできます。ブラウズに関する一般情報 (構文、例外条件、および例を含む) については、Browsing resource definitionsを参照してください。

オプション

ACCESSMETHOD(*cvda*)
このデータ・セットで使用されるアクセス方式を識別する CVDA 値を返します。CVDA 値は次のとおりです。

BDAM
アクセス方式は BDAM です。

NOTAPPLIC
データ・セットは、コマンドが発行される CICS 領域によってオープンされていません。

VSAM
アクセス方式は VSAM です。

AVAILABILITY(*cvda*) (VSAM のみ)
この CICS 領域において、現在データ・セットが使用可能、または使用不可であることを表すフラグが立てられているかどうか、またはデータ・セットへのフルアクセスが REPLICATOR プログラムに制限されているかどうかを示す CVDA 値を返します。可用性の標識は、CICS 領域がデータ・セットごとにデータ・セット名ブロック (DSNB) に保守するローカル・フラグです。CVDA 値は次のとおりです。

AVAILABLE
データ・セットは、 CICS データ・セット名ブロックに従い使用可能に

なります。CICS は、このデータ・セットに関する RLS オープン要求と非 RLS オープン要求の両方を発行できます。

注: データ・セットは、CICS が保持する情報に従い使用可能になりますが、ICF カタログが他のデータ・セットを示している場合、オープン要求は依然として失敗します。例えば、これが発生するのは、データ・セット・リカバリーが保留中または進行中の場合です。

NOTAPPLIC
これは VSAM データ・セットではないか、データ・セットが、このコマンドが発行される CICS 領域によってオープンされていません。

RREPL
データ・セットへのフルアクセスは、REPLICATION(REPLICATOR) として定義されているプログラムに制限されます。その他のプログラムには読み取り権限のみがあります。

UNAVAILABLE
CICS が使用不可としてマークしたデータ・セットに返されます。CICS 領域が、RLS または非 RLS モードでデータ・セットをオープンできません。

BACKUPTYPE(*cvda*) (VSAM のみ)
このデータ・セットで使用されるバックアップのタイプを識別する CVDA 値を返します。CVDA 値は次のとおりです。

DYNAMIC
データ・セットは「backup while open」(BWO) 処理に適しています。つまり、必要な機能を備えたデータ・セット・マネージャーは、データ・セットが出力用にオープンしている間はそのデータ・セットのバックアップを取ることができます。このデータ・セットは、クローズしたままでもバックアップできます。データ・セットは BWO に適格であり、非 RLS モードでアクセスされます。

データ・セットが RLS モードでオープンしている場合、VSAM カタログを調べて、データ・セットが BWO に適格であるか検出する必要があります。RLS モードでオープンしたデータ・セットの場合、NOTAPPLIC が BACKUPTYPE として戻されます。

NOTAPPLIC
データ・セットは、コマンドが発行される CICS 領域によってオープンされていないか、またはデータ・セットが BDAM または VSAM PATH です。また、データ・セットが RLS モードでオープンされた場合、NOTAPPLIC が返されます。VSAM カタログを参照して、BWO 状況を入手する必要があります。

STATIC
データ・セットは非 RLS モードでアクセスされ、BWO 処理には適格ではありません。このデータ・セットに対して出力用にオープンしているすべての CICS ファイルをクローズしてから、データ・セット・マネージャー (DFSMShsm または DFSMSdss) はバックアップ・コピーを取ることが可能になります。階層ストレージ・マネージャー

(DFSMShsm) およびデータ・セット・サービス (DFSMSdss) は、データ機能記憶管理サブシステム (DFSMS/MVS) のコンポーネントです。

データ・セットが RLS モードでオープンしている場合、VSAM カタログを調べて、データ・セットが BWO に適格であるか検出する必要があります。

UNDETERMINED
RECOVSTATUS が UNDETERMINED の場合に基本ファイル用に戻されます。

BASEDSNAME(*data-area*) (VSAM のみ)
照会のオブジェクトがパスである場合、VSAM パスと関連付けられた基本クラスターの 44 文字の名前を返します。オブジェクトが VSAM データ・セットの場合、このオプションは DSNAME オプションと同じ値を返します。

アクセス方式が BDAM の場合、またはデータ・セットが、コマンドが発行される CICS 領域によってオープンされていない場合、ブランクが返されます。

DSNAME(*data-value*)
問い合わせるオブジェクトを表す 44 文字の ID を指定します。ID は CICS にインストール済みの FILE 定義に関連付けられ、その定義の DSNAME オプション、または DDNAME オプションで指定された JCL DD ステートメントで指定される必要があります。

FILECOUNT(*data-area*)
このデータ・セットを参照するインストール済みファイル定義の数を示すフルワード・バイナリー・フィールドを返します。

FWDRECOVLOG(*data-area*) (VSAM のみ)

これが順方向リカバリー可能なデータ・セットである場合は、順方向リカバリー・ログとして使用されているジャーナルの数値ジャーナル ID をハーフワード・バイナリー値として返します。

データ・セットが順方向リカバリー可能でない場合、FWDRECOVLOG は定義されません。データ・セットは、ICF カタログで、あるいは非 RLS モードでアクセスされる場合はファイル定義で、順方向リカバリー可能であるとして定義できます。

このオプションは、非 RLS モードでアクセスされるデータ・セットに対してのみ有効であり、このモードではリカバリー属性はファイル・リソース定義から取得されます。

CICS は、RLS モードでアクセスされる順方向リカバリー可能データ・セットにゼロの値を返します。あるいは非 RLS モードのデータ・セットの場合、CICS はリカバリー属性を ICF カタログから取得します。

FWDRECOVLSN(*data-area*) (VSAM のみ)
これが順方向リカバリー属性または複製ロギングで定義されたデータ・セットである場合、アップデートをログに記録するログ・ストリームの名前 (最大 26 文字) を返します。データ・セットが順方向リカバリー可能ではなく、複製ロギングを使用してもいない場合、CICS はブランクを返します。

返されるログ・ストリーム名は、以下のいずれかです。

- 順方向リカバリーまたは複製ロギングの ICF カタログに直接指定されたログ・ストリーム名
- FWDRECOVLOG 値から生成されたジャーナル名により、CICS で識別されたログ・ストリーム名 (ICF カタログ内に順方向リカバリー属性を保持しない非 RLS モードの場合)

LOGREPSTATUS(*cvda***)**
データ・セットが LOGREPLICATE で定義されたかどうかを示す CVDA 値を返します。有効な値は、次のとおりです。

LOGREPLICATE
データ・セットへのすべての更新は、複製としてログに記録されます。

NOLOGREPLICA
データ・セットへの更新は、複製としてログに記録されません。

NOTAPPLIC
データ・セットは、コマンドが発行される CICS 領域によってオープンされていないか、またはデータ・セットが BDAM です。

LOSTLOCKS(*cvda***) (RLS のみ)**
このデータ・セットに失われたロックがあるかどうかを示す CVDA 値を返します。CVDA 値は次のとおりです。

NOTAPPLIC
これは RLS データ・セットではないか、データ・セットが、コマンドが発行される CCICS 領域によってオープンされていません。

NOLOSTLOCKS
データ・セットで失われたロックはありません。

REMLOSTLOCKS
データ・セットはロックを失ったため、使用不可ですが、この CICS 領域では、リカバリーは要求されません。

RECOVERLOCKS
データ・セットはロックを失ったため、使用不可です。CICS 領域がロスト・ロック・リカバリーを実行中です。

ロスト・ロック・リカバリーを保留している可能性のある作業単位のパージについては、**EXEC CICS SET DSNAME** コマンドの RESETLOCKS および FORCE|COMMIT|BACKOUT オプションを参照してください。

OBJECT(*cvda***) (VSAM のみ)**
照会のオブジェクトが、レコードを含む実データ・セット (VSAM KSDS、ESDS、または RRDS、あるいは直接使用される代替索引) なのか、代替索引をその基本クラスターにリンクする VSAM パス定義なのかを示す CVDA 値を返します。CVDA 値は次のとおりです。

BASE これはレコードを含むデータ・セットです。

NOTAPPLIC
データ・セットは、コマンドが発行される CICS 領域によってオープンされていないか、またはデータ・セットが BDAM データ・セットです。

PATH
これはパスです。

QUIESCESTATE(*cvda*) (VSAM のみ)
データ・セットの RLS 静止状態を示す CVDA 値を返します。情報はデータ・セットの ICF カタログ・エントリーから取得されます。

注: このオプションは、データ・セットが、コマンドが発行される CICS 領域によってオープンされているかどうかを返します。

CVDA 値は次のとおりです。

NOTAPPLIC
このデータ・セットは以下のとおりです。

- マイグレーション済み
- BDAM を使用したアクセス
- RLS をサポートしない VSAM のレベルを使用したアクセス (DFSMS/MVS 1.3 より前の DFSMS/MVS)

CICS が RLS サポートなしで実行中の場合、NOTAPPLIC が返されます (RLS=NO システム初期設定パラメーターが指定される、または想定される)。

QUIESCED
このデータ・セットは静止されました。RLS モードでは、このデータ・セットに対して、CICS はファイルをオープンできません。このデータ・セットに対して、ファイルをオープンしている CICS 領域はありません。ただし、データ・セットは非 RLS モードではオープンできます。

QUIESCING
このデータ・セットは静止の処理中です。これは、静止を開始した CICS 領域にのみ適用します。他の CICS 領域については、UNQUIESCED を返します。

UNQUIESCED
データ・セットの標準値は静止していない、または静止を受けていません。データ・セットに対して、ファイルは RLS モード、または非 RLS モードでオープンできることを示しています。モードは、最初のオープンで確立されます。ファイルをいずれかのモードでオープンすると、他のファイルも同じモードでのみオープンできます。

RECOVSTATUS(*cvda*)
データ・セットのリカバリー特性を示す CVDA 値を返します。CVDA 値は次のとおりです。

FWDRECOVABLE
データ・セットに対するすべての更新は、バックアウト用および順方向リカバリー用にログに記録されます。

NOTAPPLIC
これは BDAM データ・セットか VSAM パスです。または、データ・セットは、コマンドが発行される CICS 領域によってオープンされていません。

NOTRECOVABLE
データ・セットへの更新は、ログに記録されません。

XFCNREC グローバル・ユーザー出口使用の結果として、この応答を返す場合もあります。XFCNREC で使用可能なプログラムは、同じデータ・セットに関連付けられた異なるファイル間で、バックアウト・リカバリー要件に不一致があっても、ファイル・オープンを実行すべきであることを示す場合があります。このような状況では、データ・セット NOTRECOVABLE としてマークされ、データ保全性が保証されないことを示します。この状態は **CEMT SET DSNAME REMOVE** または **EXEC CICS SET DSNAME REMOVE** コマンドによりクリアするか、初期またはコールド・スタートをするまで持続します。

データ・セットがこの状態にある場合、ファイル定義の仕様に基づいて特定の要求に対して、バックアウト・ロギングが実行されます。したがって、バックアウト・ロギングは、ひとつのファイルを介する要求に対して発生し、別のファイルを介する要求に対して発生しません。

RECOVERABLE
データ・セットへのすべての更新は、バックアウト用にログに記録されます。

UNDETERMINED
リカバリー状況が不明です。このデータ・セットの関連ファイルがオープンされていないか、カップリング・ファシリティー・データ・テーブルまたはユーザー保守のデータ・テーブル (ここではリカバリー属性は関連データ・セットと無関係) として定義されているファイルだけがオープンされたためです。

RETLOCKS(*cvda*)
この CICS 領域による据え置きリカバリー処理の結果として、指定のデータ・セットに保持レコード・ロックがあるかどうかを示す CVDA 値を返します。CVDA 値は次のとおりです。

NOTAPPLIC
このデータ・セットは、コマンドが発行される CICS 領域によってオープンされていません。

NORETAINED
この CICS 領域は次のとおりです。

- 基本データ・セットの据え置きリカバリー処理がないため、保持ロックがないか、
- リカバリー処理が進行中である。

データ・セットに対して、他の CICS 領域が保持ロックを所有する場合があります。このコマンドをシスプレックス内のすべての領域で発行して、データ・セットの状態について全体像を把握する必要があります。CICS の有用なバッチ可能サンプル・プログラム、およびダウンした CICS 領域が所有する保持ロックを検査する AMS SHCDS LIST サブコマンドについては、RLS アクセス・モードのデータ・セットのバッチ対応のサンプル・プログラム (DFH0BATx)を参照してください。

RETAINED
この CICS 領域の据え置きリカバリー処理により、データ・セットの保持ロックが生じます。これによる影響として、データ・セットを RLS モードで最後にオープンしたとき、ロックが RLS ロックであるため、このデータ・セットを非 RLS モードでオープンできなくなります。

他の影響としては、このデータ・セットを定義する FILE 定義を変更して他のデータ・セットを指定することができなくなります。

データ・セットが BDAM データ・セット、または RLS モードでアクセスする VSAM データ・セットの場合、ロックは CICS レコード・ロックです。それ以外の場合、RLS ロックです。保持ロックがある UOW は、通常シャント済みですが、シャント再試行中である場合があります。

VALIDITY(*cvda***)**
データ・セット関連のファイルをオープンすることで、VSAM カタログに対して、データ・セット名が有効であるかどうかを示す CVDA 値を返します。CVDA 値は次のとおりです。

INVALID
データ・セット名が有効ではありません (検証が行われていない、または失敗しました)。

VALID
データ・セット名は妥当性検査が完了しています。

データ・セットの RECOVSTATUS の内容を検索するには、VALIDITY で VALID を設定する必要があります。

条件

DSNNOTFOUND
RESP2 値は以下のとおりです。

1 データ・セットが見つかりません。

END
RESP2 値は以下のとおりです。

2 このタイプのリソース定義はありません。

ILLOGIC
RESP2 値は以下のとおりです。

1 このリソース・タイプのブラウズが既に実行されているときに START コマンドが出されたか、もしくは、このリソース・タイプのブラウズが実行されていないときに NEXT または END コマンドが出されました。

IOERR
RESP2 値は以下のとおりです。

40 QUIESCESTATE が指定されているものの、ICF カタログの読み取り時に DFSMS/MVS によってエラーが発生しました。

48 データ・セットがマイグレーション済みのため、指定の操作を完了できません。データ・セットを再呼び出しして、コマンドを再発行してください。

49 ICF カタログを読み取って基本データ・セット名を設定する際に、DFSMS/MVS によってエラーが発生しました。

注: ブラウズ内で IOERR が発生しても、ブラウズ操作を終了せず、 CICS ができるだけ多くのパラメーター値を返そうとします。

NOTAUTH

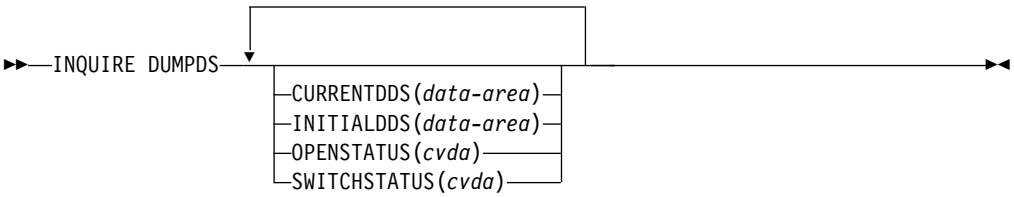
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

INQUIRE DUMPDS

CICS トランザクション・ダンプ・データ・セットに関する情報を取得します。

INQUIRE DUMPDS



条件: NOTAUTH

CVDA の使用について詳しくは、CICS-value data areas (CVDAs)を参照してください。

説明

INQUIRE DUMPDS コマンドでは、CICS トランザクション・ダンプ・データ・セットに関する情報を取得できます。どちらか 1 つ (「A」データ・セットと呼ばれる) または 2 つ (「A」および「B」) があります。一方が「アクティブ」(ダンプ受信)、もう一方 (2 つある場合) が「非アクティブ」(スタンバイ) です。

オプション

CURRENTDDS(*data-area*)

アクティブなダンプ・データ・セットの 1 文字の指定子 (A または B) を戻します。アクティブなダンプ・データ・セットは必ずしもオープンしているとは限りません。

INITIALDDS(*data-area*)

CICS が始動時にアクティブと指定するダンプ・データ・セットを示す 1 文字の値を戻します。

A ダンプ・データ・セット A が当初アクティブです。

B ダンプ・データ・セット B が当初アクティブです。

X CICS が最後に終了 (正常または異常) したときにアクティブでなかったダンプ・データ・セット。

OPENSTATUS(*cvda*)
アクティブな CICS ダンプ・データ・セットの状況を識別する CVDA 値を戻します。CVDA 値は次のとおりです。

CLOSED
アクティブな CICS ダンプ・データ・セットはクローズされています。

OPEN
アクティブな CICS ダンプ・データ・セットはオープンしています。

SWITCHSTATUS(*cvda*)
現行のデータ・セットが満杯になるときに CICS がアクティブ・データ・セットを切り替えるかどうかを示す CVDA 値を戻します。CVDA 値は次のとおりです。

NOSWITCH
自動切り替えが行われません。

SWITCHNEXT
始動時にアクティブとして指定されたデータ・セットが満杯になると、CICS はそのデータ・セットをクローズし、もう一方のデータ・セットをオープンしてアクティブにします。最初のアクティブ・データ・セットが満杯になったときに、この自動切り替えが 1 回行われ、その後、切り替えは手動またはプログラム管理下で行われます。

条件

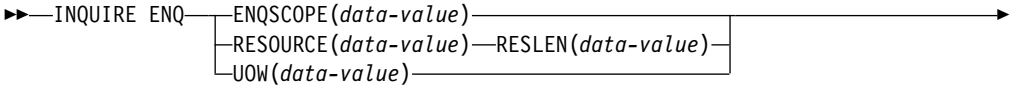
NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

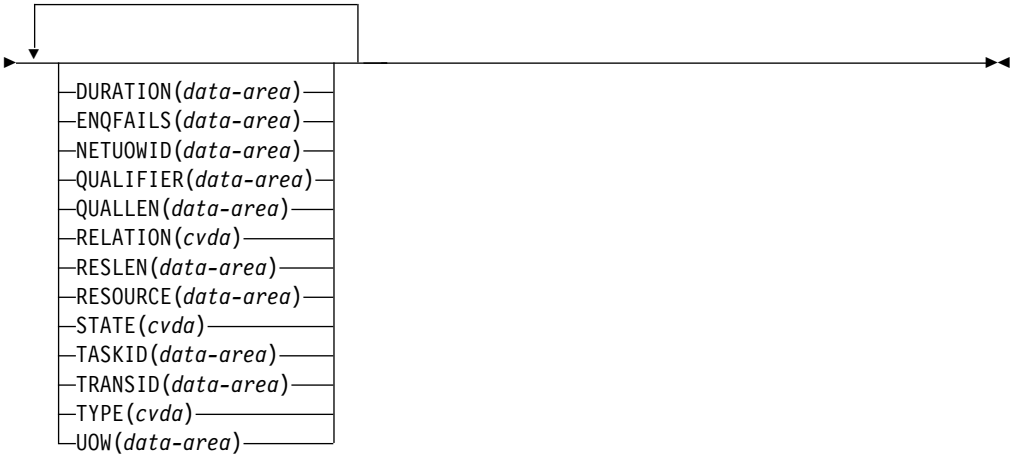
100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

INQUIRE ENQ

UOW によって保留または待機されているエンキューに関する情報、または指定されたエンキューを保留または待機している UOW に関する情報を取得します。INQUIRE ENQ は INQUIRE UOWENQ の同義語です。詳細については、 634 ページの『INQUIRE UOWENQ』を参照してください。

INQUIRE ENQ





条件: END、ILLOGIC、NOTAUTH、UOWNOTFOUND

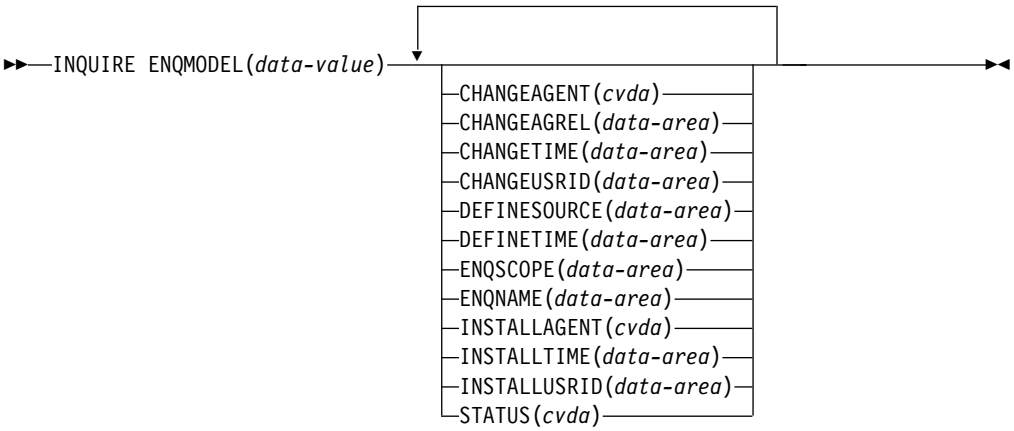
このコマンドはスレッド・セーフです。

CVDA の使用について詳しくは、CICS-value data areas (CVDAs)を参照してください。

INQUIRE ENQMODEL

ローカル・システムのエンキュー・モデル定義についての情報を取得します。

INQUIRE ENQMODEL



条件: END、ILLOGIC、NOTAUTH、NOTFND

このコマンドはスレッド・セーフです。

CVDA の使用について詳しくは、CICS-value data areas (CVDAs)を参照してください。

説明

INQUIRE ENQMODEL コマンドは、ローカル・システム上のエンキュー・モデル定義に関する情報を戻します。

所定の ENQMODEL の明示 INQUIRE を作成するか、このコマンドのブラウズ形式を使用することができます。ブラウズでは、ローカル・システム上のすべてのエンキュー・モデル定義を戻します。

ブラウズ

ローカル・システム内のすべての ENQ モデルをブラウズするには、INQUIRE ENQMODEL コマンドでブラウズ・オプション (START、NEXT、および END) を使用します。

ブラウズに関する一般情報 (構文、例外条件、および例を含む) については、Browsing resource definitionsを参照してください。

リソース・シグニチャー

このコマンドを使用して、リソース・シグニチャー・フィールドを検索することができます。これらのフィールドを使用すると、リソースの定義時、インストール時、および最終変更時の詳細データを収集して、リソースを管理できます。 詳しくは、Auditing resourcesを参照してください。 リソース・シグニチャー・フィールドは BUNDLE、CHANGEAGENT、CHANGEAGREL、CHANGETIME、CHANGEUSRID、DEFINESOURCE、DEFINETIME、INSTALLAGENT、INSTALLTIME、および INSTALLUSRID です。リソース・シグニチャー・フィールドの内容について詳しくは、Summary of the resource signature field valuesを参照してください。

オプション

CHANGEAGENT(*cvda*)
リソース定義を最後に変更したエージェントを識別する CVDA 値を戻します。有効な値は、以下のとおりです。

CREATESPI
リソース定義は **EXEC CICS CREATE** コマンドによって最後に変更されました。

CSDAPI
リソース定義は、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによって最後に変更されました。

CSDBATCH
リソース定義は、DFHCSDUP ジョブによって最後に変更されました。

DREPAPI
リソース定義は、CICSPlex SM BAS API コマンドによって最後に変更されました。

SYSTEM
リソース定義は、CICS または CICSPlex システムによって最後に変更されました。

CHANGEAGREL(*data-area*)
リソース定義の最終変更時に実行していた CICS リリースの 4 桁の数値を戻します。

CHANGETIME(*data-area*)
リソース定義の最終変更時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。ABSTIME 値のフォーマットについて詳しくは、FORMATTIMEを参照してください。

CHANGEUSRID(*data-area*)
変更エージェントを実行した 8 文字のユーザー ID を戻します。

DEFINESOURCE(*data-area*)
リソース定義の 8 文字のソースを戻します。DEFINESOURCE 値は CHANGEAGENT 値に依存します。詳しくは、Summary of the resource signature field valuesを参照してください。

DEFINETIME(*data-area*)
リソース定義の作成時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。

ENQMODEL(*data-value*)
エンキュー・モデルの 8 文字の ID を指定します。

ENQSCOPE(*data-area*)
この CICS 領域によって発行されたシスプレックス全体にわたる ENQUEUE 要求を修飾する 4 文字の名前を戻します。4 つのブランクは、ENQ が LOCAL であることを示します。

ENQNAME(*data-area*)
1 文字から 255 文字のリソース名または総称名を戻します。

この CICS 領域によって発行される ENQ コマンドは、このリソース名または総称名に照らして検査されます。一致するものが見つかり、 ENQSCOPE が指定されていた場合、エンキューはシスプレックス全体にわたり、4 文字の ENQSCOPE によって修飾されます。

INSTALLAGENT(*cvda*)
リソースをインストールしたエージェントを識別する CVDA 値を戻します。有効な値は、以下のとおりです。

CREATESPI
リソースは、**EXEC CICS CREATE** コマンドによってインストールされました。

CSDAPI
リソースは、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによってインストールされました。

GRPLIST
リソースは、**GRPLIST INSTALL** によってインストールされました。

INSTALLTIME(*data-area*)
リソースのインストール時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。

INSTALLUSRID(*data-area*)
リソースをインストールした 8 文字のユーザー ID を戻します。

STATUS(*cvda*)

ENQMODEL の現行の状態を記述する CVDA 値を戻します。CVDA 値は以下のとおりです。

ENABLED

マッチング ENQ 要求は、通常の方法で処理されています。

DISABLED

マッチング ENQ 要求は拒否され、発行中のタスクはコード ANQE で異常終了しています。マッチング INSTALL CREATE または DISCARD 要求は、処理されています。

WAITING

マッチング ENQ 要求は拒否され、発行中のタスクはコード ANQE で異常終了しています。INSTALL CREATE または DISCARD 要求は処理を待機しています。

条件

END

RESP2 値は以下のとおりです。

2 このタイプのリソース定義はありません。

ILLOGIC

RESP2 値は以下のとおりです。

1 このリソース・タイプのブラウズが既に実行されているときに START コマンドが出されたか、もしくは、このリソース・タイプのブラウズが実行されていないときに NEXT または END コマンドが出された。

NOTAUTH

RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

101 発行中のタスクに関連付けられているユーザーには、このコマンドが要求する方法でこの特定のリソースにアクセスする権限がありません。

NOTFND

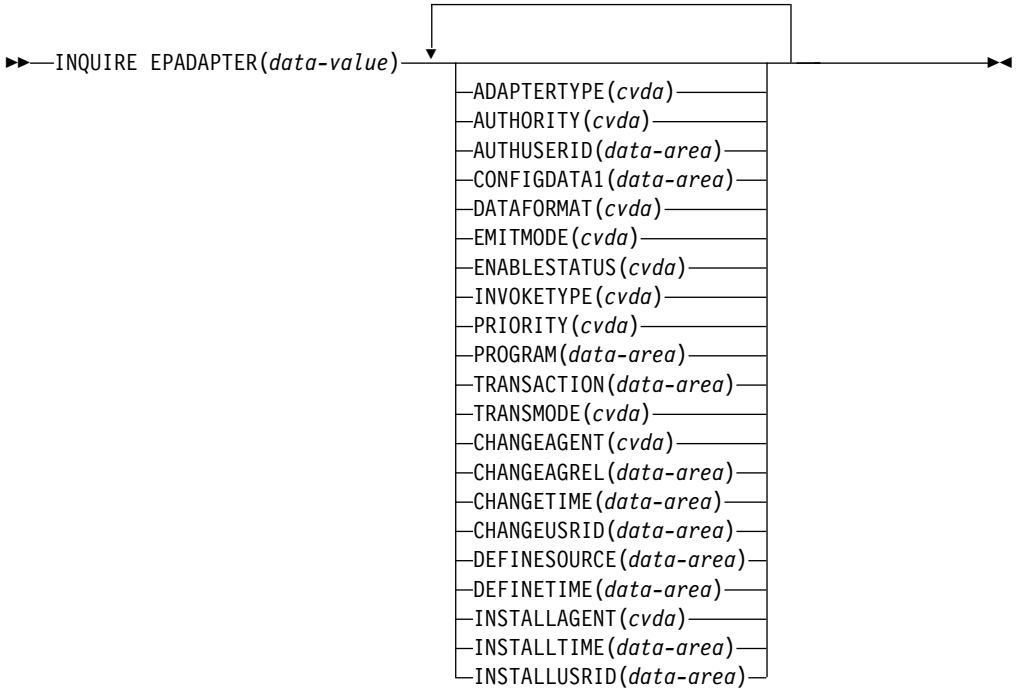
RESP2 値は以下のとおりです。

1 ENQMODEL が見つかりません。

INQUIRE EPADAPTER

指定されたイベント処理アダプターについての情報を取得します。

INQUIRE EPADAPTER



条件**:** END、ILLOGIC、NOTAUTH、NOTFND

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

INQUIRE EPADAPTER コマンドは、指定したイベント処理アダプターに関する情報を戻します。

ブラウズ

INQUIRE EPADAPTER コマンドでブラウズ・オプション (START、NEXT、および END) を使用することにより、領域にインストールされているすべてのイベント処理アダプターを介してブラウズできます。

リソース・シグニチャー

このコマンドを使用して、リソース・シグニチャー・フィールドを検索することができます。これらのフィールドを使用すると、リソースの定義時、インストール時、および最終変更時の詳細データを収集して、リソースを管理できます。 詳しくは、Auditing resourcesを参照してください。 リソース・シグニチャー・フィールドは BUNDLE、CHANGEAGENT、CHANGEAGREL、CHANGETIME、CHANGEUSRID、DEFINESOURCE、DEFINETIME、INSTALLAGENT、INSTALLTIME、および INSTALLUSRID です。リソース・シグニチャー・フィールドの内容について詳しくは、Summary of the resource signature field valuesを参照してください。

オプション

ADAPTERTYPE(*cvda*)

この EP アダプターのタイプを示す CVDA 値を戻します。CVDA 値は以下のとおりです。

CUSTOM
どの宛先にも必要な任意の形式でイベントを発行するユーザー作成の EP アダプター。

HTTP HTTP サーバーにイベントを発行する HTTP EP アダプター。IBM Operational Decision Manager や IBM Business Monitor などの製品がそれらのイベントをコンシュームできます。

TDQUEUE
指定された CICS 一時データ・キューに対してイベントを発行する TDQ EP アダプター。

TRANSTART
指定された CICS トランザクションに対してイベントを発行するトランザクション開始 EP アダプター。

TSQUEUE
指定された CICS 一時記憶域キューに対してイベントを発行する TSQ EP アダプター。

WMQ
IBM MQ にイベントを発行する WebSphere MQ EP アダプター。IBM Operational Decision Manager や IBM Business Monitor などの製品がそれらのイベントをコンシュームできます。

AUTHORITY(*cvda*)

EP アダプターの権限を示す CVDA 値を戻します。CVDA 値は以下のとおりです。

CONTEXT
イベントのキャプチャーの原因になったタスクのユーザー ID を使用して、EP アダプターを実行します。 EMITMODE が SYNCHRONOUS の場合や、EP アダプターの「アダプター (Adapter)」タブの拡張セクションで「コンテキスト・ユーザー **ID** を使用 **(Use Context User ID)**」が指定されている場合は、常にこの動作になります。

デフォルト
EP アダプターは、CICS のデフォルト・ユーザー ID を使用して実行されます。

REGION
EP アダプターは、CICS 領域のユーザー ID を使用して実行されます。

USERID
EP アダプターのユーザー ID に指定されていて、AUTHUSERID 属性で戻される ID を使用して、EP アダプターに接続します。

AUTHUSERID(*data-area*)
EP アダプター・トランザクションの接続に使用される 8 文字の ID を戻します。 AUTHORITY が USERID の場合、この属性のみ設定します。

CHANGEAGENT(*cvda*)
リソース定義を最後に変更したエージェントを識別する CVDA 値を戻します。有効な値は、以下のとおりです。

CREATESPI
リソース定義は **EXEC CICS CREATE** コマンドによって最後に変更されました。

CSDAPI
リソース定義は、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによって最後に変更されました。

CSDBATCH
リソース定義は、DFHCSDUP ジョブによって最後に変更されました。

DREPAPI
リソース定義は、CICSPlex SM BAS API コマンドによって最後に変更されました。

CHANGEAGREL(*data-area*)
リソース定義の最終変更時に実行していた CICS リリースの 4 桁の数値を戻します。

CHANGETIME(*data-area*)
リソース定義の最終変更時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。ABSTIME 値のフォーマットについて詳しくは、FORMATTIMEを参照してください。

CHANGEUSRID(*data-area*)
変更エージェントを実行した 8 文字のユーザー ID を戻します。

CONFIGDATA1(*data-area*)
EP アダプターの 1 次構成データ項目が含まれている 64 文字のデータ域。 1 次構成データ項目が 64 バイトより小さい場合は、このフィールドにブランクが埋め込まれます。戻されるデータ項目は、ADAPTERTYPE によって異なります。以下のようになります。

CUSTOM
カスタム EP アダプター構成データの最初の 64 バイトを戻します。

HTTP HTTP EP アダプターが HTTP サーバーを見つけるために使用する URIMAP 定義の 8 文字の名前を戻します。

TDQUEUE
TDQ EP アダプターが発行したイベントの一時データ・キューの名前を 4 文字で戻します。

TRANSTART
トランザクション開始 EP アダプターによって開始されたイベント・コンシューマー・トランザクションの 4 文字の名前を戻します。

TSQUEUE
TSQ EP アダプターによって発行されたイベントの一時記憶域キューの 16 文字の名前を戻します。

WMQ
この WebSphere MQ EP アダプターが発行したイベント・メッセージの IBM MQ キューの名前を 48 文字で戻します。このデータは、**LOCALCCSID** システム初期設定パラメーターで定義されているコード・ページにあります。

DATAFORMAT(*cvda*)
この EP アダプターによって発行されたイベントの形式を示す CVDA 値を戻します。 CVDA 値は以下のとおりです。

USER ユーザー定義の形式。

CBER IBM Business Monitor REST HTTP サーバーの Common Base Event REST 形式。

CBE IBM Business Monitor などの製品によってコンシュームされる Common Base Event 形式。

CCE CICS コンテナー・イベント形式。

CFE CICS フラット化イベント形式。

DSIE IBM Operational Decision Manager の Decision Server Insights コンポーネント によってコンシュームされる Insights Decision Server Event フォーマット。

WBE IBM Operational Decision Manager の Decision Server Events コンポーネントによってコンシュームされる WebSphere Business Events (XML) フォーマット。

DEFINESOURCE(*data-area*)
リソース定義の 8 文字のソースを戻します。DEFINESOURCE 値は CHANGEAGENT 値に依存します。詳しくは、Summary of the resource signature field valuesを参照してください。

DEFINETIME(*data-area*)
リソース定義の作成時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。

EMITMODE(*cvda*)
この EP アダプターのイベント発行属性を示す CVDA 値を戻します。CVDA 値は以下のとおりです。

ASYNCHRONOUS
イベント発行とキャプチャー・トランザクションは、非同期の関係です。イベントの発行で失敗しても、キャプチャー・トランザクションには影響しません。

SYNCHRONOUS
イベント発行は、キャプチャー・トランザクションと同期的です。イベントが発行されなければ、キャプチャー・トランザクションの作業単位は、正常に完了しません。

ENABLESTATUS(*cvda*)
この EP アダプターの状況を示す CVDA 値を戻します。CVDA 値は以下のとおりです。

ENABLED
EP アダプターは使用可能です。

DISABLED
EP アダプターは無効となります。

EPADAPTER(*data-area*)
EP アダプターの名前 (1 文字から 32 文字まで) を指定します。名前によって特定の EP アダプターの詳細を取得するには、このオプションを指定する必要があります。このコマンドのブラウズ形式では、EP アダプターの名前を受け取る 32 文字のデータ域を指定する必要があります。

INSTALLAGENT(*cvda*)
リソースをインストールしたエージェントを識別する CVDA 値を戻します。以下のうち 1 つの値のみ有効です。

BUNDLE
リソースは、バンドルのデプロイメントによってインストールされました。

INSTALLTIME(*data-area*)
リソースのインストール時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。

INSTALLUSRID(*data-area*)
リソースをインストールした 8 文字のユーザー ID を戻します。

INVOKETYPE(*cvda*)
EP アダプターの開始方法を示す CVDA 値を戻します。CVDA 値は以下のとおりです。

ATTACH
別個のタスクとして EP アダプターに接続します。

LINK EP アダプター・プログラムにリンクされています。

PRIORITY(*cvda*)
この EP アダプターのイベント発行のディスパッチング優先順位を示す CVDA 値を戻します。EMITMODE が SYNCHRONOUS の場合、この属性は無視されます。CVDA 値は以下のとおりです。

HIGH
この EP アダプターで発行されたイベントは、優先順位が高くなります。

NORMAL
この EP アダプターで発行されたイベントは、通常の優先順位になります。

PROGRAM(*data-value*)
EP アダプター・プログラムの 8 文字の名前を戻します。ADAPTERTYPE が CUSTOM のときにこの属性が適用されるのは、INVOKETYPE が LINK の場合に限られます。

TRANSACTION(*data-value*)
EP アダプターのトランザクションに接続した場合に使用されるトランザクション定義の 4 文字の名前を戻します。TRANSACTION 属性が適用されるのは、INVOKETYPE が ATTACH の場合に限られます。

TRANSMODE(*cvda*)
この EP アダプターのイベント・トランザクション性属性を示す CVDA 値を戻します。CVDA 値は以下のとおりです。

NONTRANS
イベントには、トランザクション性がありません。キャプチャー・トランザクションの作業単位が正常に完了したかどうかに関係なく、イベントを発行できます。

TRANS
イベントに、トランザクション性があります。イベントを発行できるのは、キャプチャー・トランザクションの作業単位が正常に完了した場合に限られます。

条件

END
RESP2 値:

2 ブラウズする EP アダプターはこれ以上ありません。

ILLOGIC
RESP2 値:

1 このリソース・タイプのブラウズがすでに実行されているときに **START** が出されたか、もしくは、このリソース・タイプのブラウズが実行されていないときに **NEXT** または **END** コマンドが出された。

NOTAUTH
RESP2 値:

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

101 発行中のタスクに関連付けられているユーザーは、EP アダプターの読み取りが許可されていません。

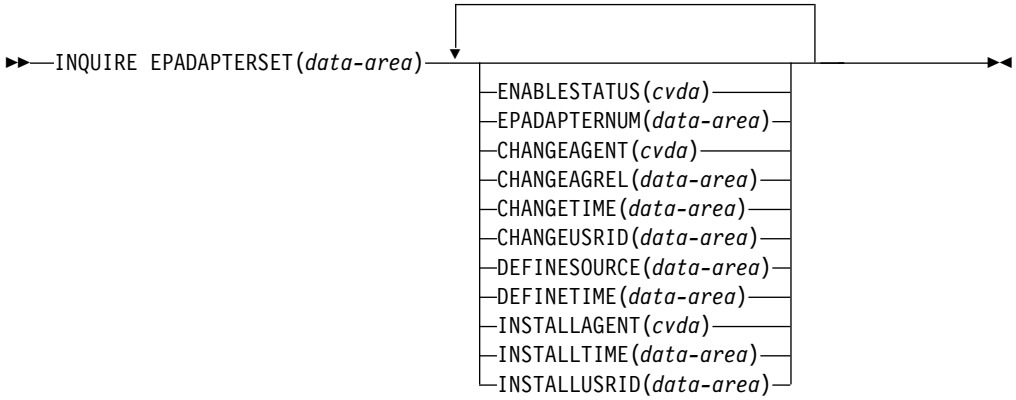
NOTFND
RESP2 値:

3 指定の EP アダプターが見つかりません。

INQUIRE EPADAPTERSET

指定されたイベント処理アダプター・セットについての情報を取得します。

INQUIRE EPADAPTERSET



条件: END、ILLOGIC、NOTAUTH、NOTFND

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

INQUIRE EPADAPTERSET コマンドは、EP アダプター・セットに関する情報を戻します。

ブラウズ

INQUIRE EPADAPTERSET コマンドでブラウズ・オプション (START、NEXT、および END) を使用することにより、領域にインストールされているすべてのイベント処理アダプターをブラウズできます。

リソース・シグニチャー

このコマンドを使用して、リソース・シグニチャー・フィールドを検索することができます。これらのフィールドを使用すると、リソースの定義時、インストール時、および最終変更時の詳細データを収集して、リソースを管理できます。 詳しくは、Auditing resourcesを参照してください。 リソース・シグニチャー・フィールドは BUNDLE、CHANGEAGENT、CHANGEAGREL、CHANGETIME、CHANGEUSRID、DEFINESOURCE、DEFINETIME、INSTALLAGENT、INSTALLTIME、および INSTALLUSRID です。リソース・シグニチャー・フィールドの内容について詳しくは、Summary of the resource signature field valuesを参照してください。

オプション

CHANGEAGENT(*cvda*)
リソース定義を最後に変更したエージェントを識別する CVDA 値を戻します。有効な値は、以下のとおりです。

CREATESPI
リソース定義は **EXEC CICS CREATE** コマンドによって最後に変更されました。

CSDAPI
リソース定義は、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによって最後に変更されました。

CSDBATCH
リソース定義は、DFHCSDUP ジョブによって最後に変更されました。

DREPAPI
リソース定義は、CICSPlex SM BAS API コマンドによって最後に変更されました。

CHANGEAGREL(*data-area*)
リソース定義の最終変更時に実行していた CICS リリースの 4 桁の数値を戻します。

CHANGETIME(*data-area*)
リソース定義の最終変更時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。ABSTIME 値のフォーマットについて詳しくは、FORMATTIMEを参照してください。

CHANGEUSRID(*data-area*)
変更エージェントを実行した 8 文字のユーザー ID を戻します。

DEFINESOURCE(*data-area*)
リソース定義の 8 文字のソースを戻します。DEFINESOURCE 値は CHANGEAGENT 値に依存します。詳しくは、Summary of the resource signature field valuesを参照してください。

DEFINETIME(*data-area*)
リソース定義の作成時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。

ENABLESTATUS(*cvda*)
この EP アダプター・セットの状況を示す CVDA 値を戻します。CVDA 値は以下のとおりです。

ENABLED
EP アダプター・セットは使用可能です。

DISABLED
EP アダプター・セットは使用不可です。

EPADAPTERNUM(*data-area*)
この EP アダプター・セットで指定された EP アダプター名の数を戻します。

EPADAPTERSET(*data-area*)
EP アダプター・セットの名前 (1 文字から 32 文字) を指定します。名前によって特定の EP アダプター・セットの詳細を取得するには、このオプションを指定する必要があります。このコマンドのブラウズ形式では、EP アダプター・セットの名前を受け取る 32 文字のデータ域を指定します。

INSTALLAGENT(*cvda*)
リソースをインストールしたエージェントを識別する CVDA 値を戻します。以下のうち 1 つの値のみ有効です。

BUNDLE
リソースは、バンドルのデプロイメントによってインストールされました。

INSTALLTIME(*data-area*)
リソースのインストール時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。

INSTALLUSRID(*data-area*)
リソースをインストールした 8 文字のユーザー ID を戻します。

条件

END
RESP2 値は以下のとおりです。

2 ブラウズする EP アダプター・セットはこれ以上ありません。

ILLOGIC
RESP2 値は以下のとおりです。

1 このリソース・タイプのブラウズがすでに実行されているときに **START** が出されたか、もしくは、このリソース・タイプのブラウズが実行されていないときに **NEXT** または **END** コマンドが出された。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連付けられているユーザーは、INQUIRE EPADAPTERSET コマンドの発行を許可されていません。

101 発行中のタスクに関連付けられているユーザーは、EP アダプター・セットの読み取りが許可されていません。

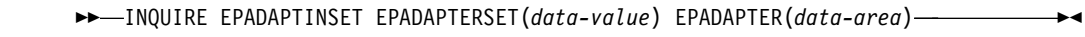
NOTFND
RESP2 値は以下のとおりです。

3 指定の EP アダプター・セットが見つかりません。

INQUIRE EPADAPTINSET

EP アダプター・セット内に指定されている EP アダプターに関する情報を取得します。

INQUIRE EPADAPTINSET



条件: END、ILLOGIC、INVREQ、NOTAUTH、NOTFND

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

INQUIRE EPADAPTINSET コマンドは、次の 2 つの操作モードをサポートします。

- EP アダプター・セット内のすべての EP アダプターの名前を戻すブラウズ形式。
- 指定された EP アダプターが EP アダプター・セットで指定されている場合は NORMAL の RESP を戻し、指定されていない場合は NOTFND を戻す非ブラウズ形式。

ブラウズ

INQUIRE EPADAPTINSET コマンドでブラウズ・オプション (START、NEXT、および END) を使用することにより、EP アダプター・セットで指定されるすべての EP アダプターをブラウズできます。

オプション

EPADAPTERSET(*data-value*)
EP アダプター・セットを示す 32 文字の名前を指定します。特定の EP アダプター・セットで指定された EP アダプターの詳細を取得するには、このオプションを指定する必要があります。

EPADAPTER(*data-area*)
このコマンドの非ブラウズ形式では、EP アダプターの名前 (1 文字から 32 文字) を指定します。このコマンドのブラウズ形式では、EP アダプターの名前を受け取る 32 文字のデータ域を指定します。

条件

END
RESP2 値は以下のとおりです。

2 ブラウズする EP アダプターはこれ以上ありません。

8 INQUIRE NEXT が発行されましたが、ブラウズされる EPADAPTERSET リソースはブラウズの開始以降に削除されました。

ILLOGIC
RESP2 値は以下のとおりです。

1 このリソース・タイプのブラウズがすでに実行されているときに **START** が出されたか、もしくは、このリソース・タイプのブラウズが実行されていないときに **NEXT** または **END** コマンドが出された。

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

4 **START EPADAPTINSET** コマンドに EPADAPTERSET 名が指定されていません。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連付けられているユーザーは、**INQUIRE EPADAPTINSET** コマンドの発行を許可されていません。

101 発行中のタスクに関連付けられているユーザーは、EP アダプター・セットの読み取りが許可されていません。

NOTFND
RESP2 値は以下のとおりです。

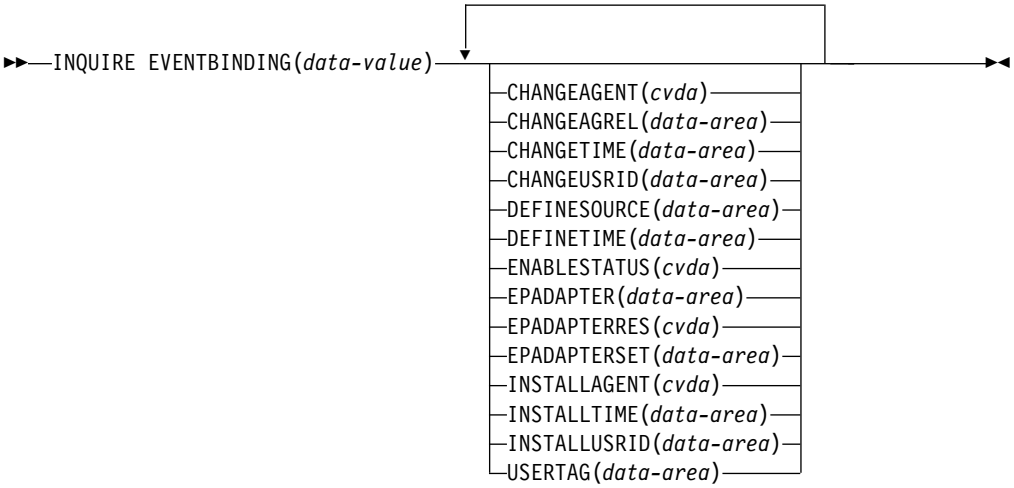
3 指定の EP アダプター・セットが見つかりません。

4 指定の EP アダプターが、指定の EP アダプター・セットで見つかりません。

INQUIRE EVENTBINDING

指定されたイベント・バインディングに関する情報を取得します。

INQUIRE EVENTBINDING



条件: END、ILLOGIC、NOTAUTH、NOTFND

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

INQUIRE EVENTBINDING コマンドは、特定のイベント・バインディングに関する情報を戻します。

ブラウズ

INQUIRE EVENTBINDING コマンドでブラウズ・オプション (START、NEXT、および END) を使用することにより、ご使用の領域にインストールされているすべてのイベント・バインディングをブラウズできます。

リソース・シグニチャー

このコマンドを使用して、リソース・シグニチャー・フィールドを検索することができます。これらのフィールドを使用すると、リソースの定義時、インストール時、および最終変更時の詳細データを収集して、リソースを管理できます。 詳しくは、Auditing resourcesを参照してください。 リソース・シグニチャー・フィールドは BUNDLE、CHANGEAGENT、CHANGEAGREL、CHANGETIME、CHANGEUSRID、DEFINESOURCE、DEFINETIME、INSTALLAGENT、INSTALLTIME、および INSTALLUSRID です。リソース・シグニチャー・フィールドの内容について詳しくは、Summary of the resource signature field valuesを参照してください。

オプション

CHANGEAGENT(*cvda*)
リソース定義を最後に変更したエージェントを識別する CVDA 値を戻します。有効な値は、以下のとおりです。

CREATESPI
リソース定義は **EXEC CICS CREATE** コマンドによって最後に変更されました。

CSDAPI
リソース定義は、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによって最後に変更されました。

CSDBATCH
リソース定義は、DFHCSDUP ジョブによって最後に変更されました。

DREPAPI
リソース定義は、CICSPlex SM BAS API コマンドによって最後に変更されました。

CHANGEAGREL(*data-area*)
リソース定義の最終変更時に実行していた CICS リリースの 4 桁の数値を戻します。

CHANGETIME(*data-area*)
リソース定義の最終変更時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。ABSTIME 値のフォーマットについて詳しくは、FORMATTIMEを参照してください。

CHANGEUSRID(*data-area*)
変更エージェントを実行した 8 文字のユーザー ID を戻します。

DEFINESOURCE(*data-area*)
リソース定義の 8 文字のソースを戻します。DEFINESOURCE 値は CHANGEAGENT 値に依存します。詳しくは、Summary of the resource signature field valuesを参照してください。

DEFINETIME(*data-area*)
リソース定義の作成時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。

ENABLESTATUS *(cvda)*
このイベント・バインディングの状況を示す CVDA 値を戻します。 CVDA 値は以下のとおりです。

ENABLED
イベント・バインディングは有効です。

DISABLED
イベント・バインディングは使用不可です。

EPADAPTER*(data-area)*
このイベント・バインディングにより使用される EP アダプターの 32 文字の名前を戻します。このオプションがブランクでない場合、EPADAPTERSET のオプションはブランクになります。または、その逆になります。

EPADAPTERRES *(cvda)*
イベントを 1 つまたは複数の EP アダプターに発行するかどうかを示す CVDA 値を返します。CVDA 値は以下のとおりです。

EPADAPTER
このイベント・バインディングによって取り込まれたイベントが、EP アダプターに発行されます。

EPADAPTERSET
このイベント・バインディングによって取り込まれたイベントが、EP アダプター・セットのすべての EP アダプターに発行されます。

EPADAPTERSET*(data-area)*
このイベント・バインディングにより使用される EP アダプター・セットの 32 文字の名前を返します。このオプションがブランクでない場合、EPADAPTER のオプションはブランクになります。またはその逆になります。

EVENTBINDING*(data-value)*
イベント・バインディングの 32 文字の名前を指定します。

INSTALLAGENT(*cvda***)**
リソースをインストールしたエージェントを識別する CVDA 値を戻します。以下のうち 1 つの値のみ有効です。

BUNDLE
リソースは、バンドルのデプロイメントによってインストールされました。

INSTALLTIME(*data-area***)**
リソースのインストール時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。

INSTALLUSRID(*data-area***)**
リソースをインストールした 8 文字のユーザー ID を戻します。

USERTAG *(data-area)*
イベント・バインディングの 8 文字のユーザー・タグを戻します。

条件

END
RESP2 値は以下のとおりです。

2 ブラウズするイベント・バインディングがこれ以上ありません。

ILLOGIC
RESP2 値は以下のとおりです。

1 このリソース・タイプのブラウズがすでに実行されているときに START コマンドが出されたか、もしくは、このリソース・タイプのブラウズが実行されていないときに NEXT または END コマンドが出されました。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

101 発行中のタスクに関連付けられているユーザーは、イベント・バインディングの読み取りが許可されていません。

NOTFND

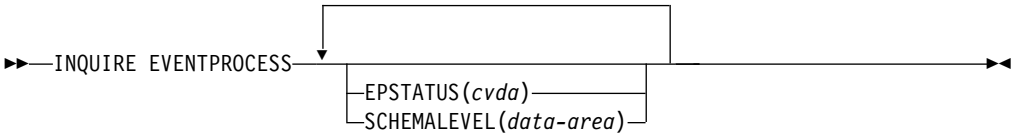
RESP2 値は以下のとおりです。

3 指定のイベント・バインディングが見つかりません。

INQUIRE EVENTPROCESS

イベント処理の状況を取得します。

INQUIRE EVENTPROCESS



条件: NOTAUTH

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

INQUIRE EVENTPROCESS コマンドは、イベント処理の状況を戻します。

オプション

EPSTATUS(*cvda*)

イベント処理の現在の状況を識別する CVDA 値を戻します。

STARTED

CICS はイベントを処理しています。

DRAINING

CICS イベント処理がドレーン中です。

STOPPED

CICS はイベントを処理していません。

SCHEMALEVEL(*data-area*)

CICS によってサポートされるイベント・バインディング・スキーマの最も高いバージョンおよびリリースを示す 4 文字の値 (*vvrr*) を返します。この *vv* はバージョン、*rr* はリリースを示します。例えば、0201 は、イベント・バインディング・スキーマのバージョン 2 リリース 1 を示します。

条件

NOTAUTH

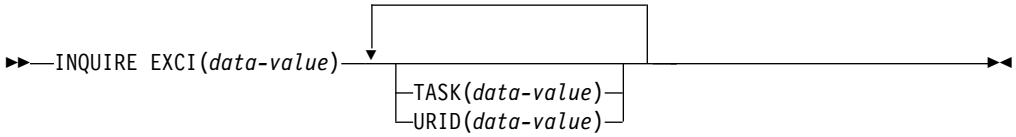
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

INQUIRE EXCI

外部 CICS インターフェースを使用するジョブに関する情報を取得します。

INQUIRE EXCI



条件: END、ILLOGIC、NOTAUTH

説明

INQUIRE EXCI コマンドは、領域間通信 (IRC) 機能により現在 CICS に接続されているバッチ・ジョブの名前を識別します。

オプション

EXCI(*data-value*)
EXCI クライアント・ジョブおよびそのジョブが実行されている z/OS システムを識別する 35 文字のストリングを戻します。

TASK(*data-value*)
特定のバッチ・ジョブの代わりに実行されるミラー・トランザクションのフルワード・バイナリー・タスク番号を指定します。

外部 CICS インターフェースを使用するジョブに関する情報は、ジョブが少なくとも 1 つの DPL 要求を発行した後にのみ入手可能です。ゼロ以外のタスク番号は、DPL 要求が現在アクティブであることを示しています。ゼロのタスク番号は、DPL 要求が現在アクティブでないにもかかわらず、そのジョブの外部 CICS インターフェース・セッションが引き続きオープン (接続) していることを示します。

URID(*data-value*)
ジョブが整合更新するために RRMS を使用している場合、およびセッションのアクティブ DPL 要求がある場合、16 進表記の RRMS リカバリー単位 ID を含む 32 文字のストリングを指定します。

条件

END
RESP2 値は以下のとおりです。

2 このタイプのリソース定義はありません。

ILLOGIC
RESP2 値は以下のとおりです。

1 このリソース・タイプのブラウズが既に実行されているときに START コマンドが出されたか、もしくは、このリソース・タイプのブラウズが実行されていないときに NEXT または END コマンドが出された。

NOTAUTH

RESP2 値は以下のとおりです。

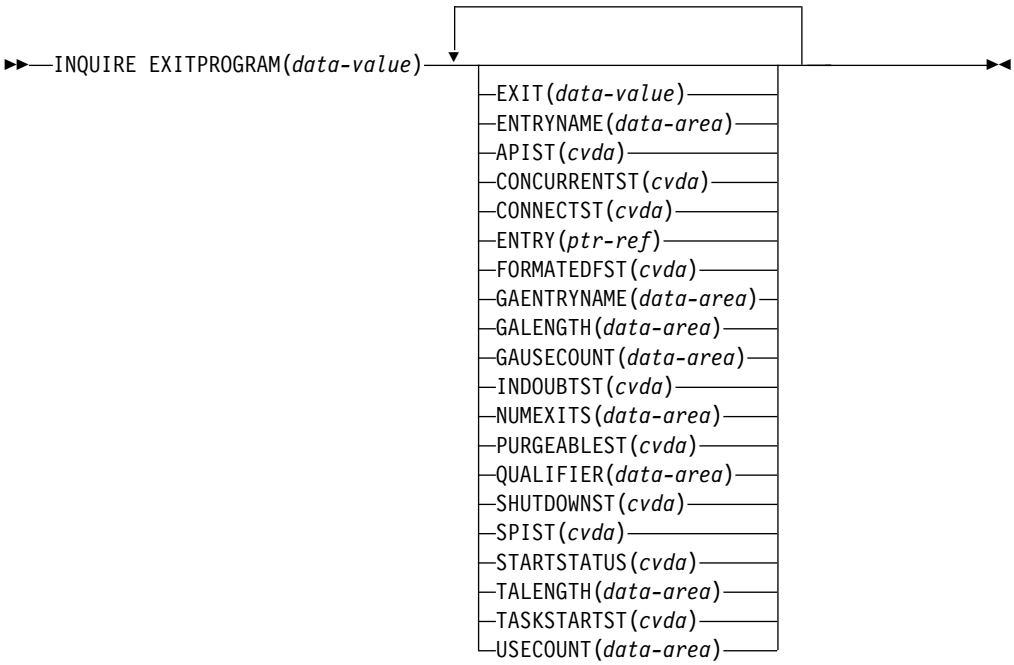
100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

101 発行中のタスクに関連付けられているユーザーには、このコマンドが要求する方法でこの特定のリソースにアクセスする権限がありません。

INQUIRE EXITPROGRAM

ユーザー出口に関する情報を取得します。

INQUIRE EXITPROGRAM



条件: END、ILLOGIC、INVREQ、NOTAUTH、PGMIDERR

このコマンドはスレッド・セーフです。

CVDA の使用について詳しくは、CICS-value data areas (CVDAs)を参照してください。

説明

INQUIRE EXITPROGRAM コマンドは、グローバルまたはタスク関連のユーザー出口に関する情報を返します。ENTRYNAME および EXITPROGRAM オプションで照会する出口を識別します。

ブラウズ

出口定義を 2 とおりの異なる方法でブラウズすることもできます。特定の出口点で定義されているすべてのグローバル・ユーザー出口を参照するには、ブラウズを開始するコマンド上で出口点を指定します。したがって次のようになります。

```
INQUIRE EXITPROGRAM EXIT(data-value) START
```

グローバルおよびタスク関連両方のすべてのユーザー出口を参照するには、ブラウズを開始するコマンド上で EXIT オプションを省略します。NUMEXITS 値を参照することで 2 つのタイプを区別できます。タスク関連出口の場合はゼロで、グローバル出口の場合は正の数です。

どちらのタイプのブラウズでも、出口が取得される順序は、それらが使用可能になった時間順です。

オプション

APIST
ユーザー出口プログラムが使用する API を示す CVDA を戻します。

CVDA 値は次のとおりです。

BASEAPI
CICSAPI によって BASEAPI は置き換えられています。このどちらの CVDA 値も同じ意味を持ち、互換性のために、BASEAPI は引き続き変換プログラムによって受け入れられます。

CICSAPI
ユーザー出口プログラムは、OPENAPI オプションを使用せずに使用可能です。つまり、このプログラムは、CICS が許可したプログラミング・インターフェースに制限されています。CICS TS for z/OSバージョン 3 より前のリリースでは、この CVDA は BASEAPI と呼ばれていました。

OPENAPI
タスク関連ユーザー出口プログラムは、OPENAPI オプションで使用可能になっています。これは、非 CICS の API を使用できることを意味します。この目的のために CICS は L8 モードのオープン TCB の下でタスク関連ユーザー出口に制御を与えます。 OPENAPI は、プログラムがスレッド・セーフ標準に準拠して作成されていることを想定しています。

CONCURRENTST
グローバルまたはタスク関連のユーザー出口プログラムの並行性状況を示す CVDA を戻します。これは PROGRAM 定義の CONCURRENCY 属性の値であるか、またはこのプログラムの最新の ENABLE コマンドで指定された指定変更になります。

CVDA 値は次のとおりです。

QUASIRENT
出口プログラムは、準再入可能として定義され、CICS API を介して CICS サービスを起動するときに、CICS QR TCB の下でのみ実行でき

ます。MVS サービスを使用するには、タスク関連ユーザー出口プログラムはプライベートに管理される TCB に切り替える必要があります。

THREADSAFE
出口プログラムはスレッド・セーフとして定義されており、オープン TCB で実行できます。

タスク関連ユーザー出口プログラムの場合のみ、APIST オプションが OPENAPI を戻すと、プログラムは必ずオープン TCB で呼び出されます。

グローバルおよびタスク関連ユーザー出口プログラムのどちらの場合でも、CICSAPI の APIST オプションは、プログラムに制御が付与されると、そのユーザー・タスクにより使用中の TCB の下でプログラムが呼び出されることを意味します。オープン TCB または CICS QR TCB が該当します。

REQUIRED (タスク関連ユーザー出口のみ**)**
出口プログラムは常にオープン TCB で実行されます。OPENAPI が指定されている場合、L8 オープン TCB が使用されます。OPENAPI が指定されていない場合は、任意の適格なキー 8 のオープン TCB を使用できます (L8、T8、または X8)。

注**:** タスク関連ユーザー出口で REQUIRED および OPENAPI が有効な場合、THREADSAFE および OPENAPI が有効である場合と同様に処理されます。互換性を保つために、**INQUIRE EXITPROGRAM** コマンドのどの組み合わせでも、常に THREADSAFE、OPENAPI が返されます。タスク関連ユーザー出口で REQUIRED および CICSAPI が有効な場合、**INQUIRE EXITPROGRAM** が REQUIRED、CICSAPI を返します。

CONNECTST(*cvda***) (タスク関連ユーザー出口のみ)**
出口とそれがサポートする外部リソース・マネージャーとの間の接続の状態を示す CVDA 値を返します。CONNECTST により、指定された出口がリソース・マネージャーに接続されているかどうかを判別できるため、 CICS タスクは安全に API 要求をリソース・マネージャーに発行することができます。

例えば、DBCTL への接続について照会するには、DFHDBAT の EXITPROGRAM 値および DBCTL の ENTRYNAME 値を使用します。Db2 への接続について照会するには、DFHD2EX1 または DSN2EXT1 (DSN2EXT1 は以前のリリースとの互換性のために引き続き認識される) の EXITPROGRAM 値を、DSNCSQL または DSNCCMD の ENTRYNAME と共に使用します。

CVDA 値は次のとおりです。

CONNECTED
タスク関連ユーザー出口は外部リソース・マネージャー・サブシステムに接続されており、API 要求が発行可能です。

NOTAPPLIC
出口ルーチンがタスク関連ユーザー出口ルーチンではありません。

NOTCONNECTED
タスク関連ユーザー出口は外部リソース・マネージャー・サブシステムに接続されていないため、API 要求を発行できません。

UNKNOWN
タスク関連ユーザー出口は使用可能になっており、開始されていますが、SPI 要求に使用できません。CICS がタスク関連ユーザー出口を呼び出せない場合にも UNKNOWN が返されることがあります。どちらの場合も、CICS は、外部リソース・マネージャーに接続されているかどうかを認識できません。

タスクの残りの存続時間中、すべての後続の呼び出しに対して UNKNOWN が返されます。新規タスクは、タスク関連ユーザー出口の呼び出しと、必要な情報の取得が可能です。

タスク関連ユーザー出口が使用可能でない場合、INQUIRE コマンドは PGMIDERR を返します。これは、CICS がリソース・マネージャーに接続されていないことも示します。

注: Db2 または DBCTL が使用可能であるかどうかを判別するには、STARTSTATUS ではなく CONNECTST を使用します。データベース・マネージャーを CICS で使用可能にすることに失敗しても、タスク関連ユーザー出口を開始できるためです。

ENTRY(*ptr-ref***)**
ユーザー出口の入り口アドレスを示すフルワード・バイナリー・フィールドを戻します。

ENTRYNAME(*data-area***)**
照会する出口の 8 文字の名前を指定します。 ENTRYNAME を省略した場合、CICS は出口の名前を、EXITPROGRAM オプションで指定されたロード・モジュールの名前と同じであると想定します。したがって、出口を作成した ENABLE コマンドの ENTRYNAME および PROGRAM オプションで指定したものと同じ値を、ENTRYNAME および EXITPROGRAM に指定する必要があります。(このコマンドの EXITPROGRAM は ENABLE コマンドの PROGRAM と対応します。)

EXIT(*data-value***) (グローバル・ユーザー出口のみ)**
照会している出口が関連付けられている出口点の 8 文字の ID を指定します。グローバル・ユーザー出口について照会する場合、出口点を指定する必要があります。出口点はタスク関連ユーザー出口には適用されませんが、そのような出口について照会する場合、このオプションは指定しないでください。

EXITPROGRAM(*data-value***)**
情報を必要としている出口と関連するロード・モジュールの 8 文字の名前を指定します。これは出口を定義した ENABLE コマンドの PROGRAM オプションで指定された値です。

FORMATEDFST(*cvda***) (タスク関連ユーザー出口のみ)**
FORMATEDF オプションが出口に対して使用可能かどうかを示す CVDA 値を戻します。FORMATEDF は、出力画面のフォーマットおよび入力データの解釈を行うために、 EDF の下で実行されたタスクの出口を追加で呼び出し、タスク関連のユーザー出口に対してのみ適用されます。CVDA 値は次のとおりです。

FORMATEDF
FORMATEDF はオンになります。

NOFORMATEDF
FORMATEDF 処理はオフになります。

NOTAPPLIC
これはグローバル・ユーザー出口です。

GAENTRYNAME(*data-area***)**
照会する出口により使用されるグローバル作業域を所有するユーザー出口の 8 文字の名前を返します。

この値は、出口が別の出口により所有されるグローバル作業域を使用する場合にのみ戻されます。固有の作業域が割り振られている場合には、ブランクが返されます。

GALENGTH(*data-area***)**
出口のグローバル作業域の長さを示すハーフワード・バイナリー・フィールドを返します。

注**:** 32767 より大きい GALENGTH が定義されている場合 (詳細については、ENABLE PROGRAM の GALENGT を参照)、このコマンドへの応答によると、大きな値は以下のようになります。

- INQUIRE EXITPROGRAM コマンドを端末で発行した場合、応答は GALENGTH の負の値を示します。
- INQUIRE EXITPROGRAM コマンドをプログラムから発行した場合、GALENGTH の応答の高位ビットが設定されます。戻り値に応じて次に実行する操作を決定する場合に、この可能性を考慮に入れる必要があります。

GAUSECOUNT(*data-area***)**
この出口が所有するグローバル作業域を使用するグローバルまたはタスク関連のユーザー出口の合計数を示すハーフワード・バイナリー・フィールドを返します。この数には所有する出口プログラムが含まれます。出口が所有者でない場合は、ゼロが返されます。

INDOUBTST(*cvda***)**
タスク関連ユーザー出口が INDOUBTWAIT キーワードで使用可能になっているかどうかを示す CVDA 値を戻します。CVDA 値は次のとおりです。

NOTAPPLIC
問い合わせのあった出口はグローバル・ユーザー出口です。

NOWAIT
出口ルーチンは INDOUBTWAIT キーワードで使用可能になっていません。

WAIT
出口ルーチンは INDOUBTWAIT キーワードで使用可能になっています。

NUMEXITS(*data-area***) (グローバル・ユーザー出口のみ)**
出口が使用可能であるグローバル・ユーザー出口点の数を示すハーフワード・バイナリー・フィールドを返します。これがタスク関連ユーザー出口である場合はゼロが戻されます。

PURGEABLEST(*cvda*) (タスク関連ユーザー出口のみ)
タスク関連ユーザー出口が PURGEABLE キーワードで使用可能になっているかどうかを示す CVDA 値を返します。CVDA 値は次のとおりです。

NOTAPPLIC
問い合わせのあった出口はグローバル・ユーザー出口です。

NOTPURGEABLE
タスクは、タスク関連ユーザー出口内の CICS 待機からはパージできません。

PURGEABLE
タスクは、タスク関連ユーザー出口内の CICS 待機からパージできます。

QUALIFIER(*data-area*)
タスク関連ユーザー出口ルーチンが SPI 呼び出しに使用可能の場合に、出口ルーチンから戻された 8 文字の修飾子を戻します。

SPI 呼び出しに使用可能でないグローバル・ユーザー出口やタスク関連ユーザー出口の場合は、ブランクを戻します。

SHUTDOWNST(*cvda*) (タスク関連ユーザー出口のみ)
SHUTDOWN オプションが出口に対して使用可能であるかどうかを示す CVDA 値を返します。SHUTDOWN により CICS シャットダウン中に呼び出しが実行されます。これはタスク関連ユーザー出口だけに適用されます。CVDA 値は次のとおりです。

NOSHUTDOWN
CICS シャットダウン発生時に出口は呼び出されません。

NOTAPPLIC
これはグローバル・ユーザー出口です。

SHUTDOWN
CICS シャットダウンが発生するときに、出口が呼び出されます。

SPIST(*cvda*)
タスク関連ユーザー出口が SPI 呼び出しに使用可能かどうかを示す CVDA 値を戻します。CVDA 値は次のとおりです。

NOSPI
この出口は SPI には使用可能ではありません。

NOTAPPLIC
問い合わせのあった出口はグローバル・ユーザー出口です。これは、INQUIRE コマンドが明示的にグローバル・ユーザー出口に対するものである場合にのみ発生します。例えば、以下のような項目が含まれています。

```
INQUIRE EXITPROGRAM(abcd) exit(XFCREQ)
```

EXIT(XFCREQ) を省略すると、タスク関連ユーザー出口について照会することになります。すべてのグローバル・ユーザー出口は、デフォルトでタスク関連ユーザー出口でもあるので、NOSPI が返されます。

SPI この出口は SPI には使用可能です。

STARTSTATUS(*cvda*)
出口が実行可能かどうかを示す CVDA 値を戻します。CVDA 値は次のとおりです。

STARTED
出口プログラムは実行可能です。つまり、EXEC CICS ENABLE コマンドの START オプションが依然として有効です。

STOPPED
出口プログラムは実行不可です。つまり、START オプションが実行されていないか、 EXEC CICS DISABLE コマンドの STOP オプションによって取り消されました。

TALENGTH(*data-area*) (タスク関連ユーザー出口のみ)
出口のローカル (タスク関連) 作業域の長さを示すハーフワード・バイナリー・フィールドを戻します。ローカル作業域はタスク関連ユーザー出口にのみ適用されます。これがグローバル・ユーザー出口の場合はゼロが戻されます。

TASKSTARTST(*cvda*) (タスク関連ユーザー出口のみ)
TASKSTART オプションが出口に対して使用可能であるかどうかを示す CVDA 値を戻します。TASKSTART により CICS は各タスクの開始時と終了時に出口を呼び出します。これはタスク関連ユーザー出口だけに適用されます。 CVDA 値は次のとおりです。

NOTAPPLIC
これはグローバル・ユーザー出口です。

NOTASKSTART
出口はすべてのタスクの開始時と終了時に呼び出されるように設定されていません。

TASKSTART
出口はすべてのタスクの開始時と終了時に呼び出されるように設定されています。

USECOUNT(*data-area*)
出口プログラムが呼び出された回数を戻します。

注**:** 返される値は、出口プログラムが使用可能になり開始した、すべてのグローバル・ユーザー出口点およびタスク関連ユーザー出口呼び出し点で、この出口プログラムが呼び出された合計回数です。

条件

END
RESP2 値は以下のとおりです。

2 このタイプのリソース定義はありません。

ILLOGIC
RESP2 値は以下のとおりです。

1 このリソース・タイプのブラウズが既に実行されているときに START コマンドが出されたか、もしくは、このリソース・タイプのブラウズが実行されていないときに NEXT または END コマンドが出された。

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

3 EXIT により識別される出口点は存在しません。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

101 発行中のタスクに関連付けられているユーザーには、このコマンドが要求する方法でこの特定のリソースにアクセスする権限がありません。

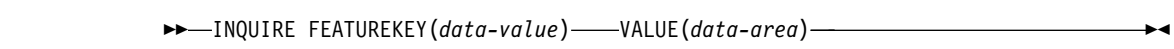
PGMIDERR
RESP2 値は以下のとおりです。

1 EXITPROGRAM および ENTRYNAME により識別される出口は使用可能ではないか、または EXIT パラメーターがグローバル・ユーザー出口上の照会で欠落しているか、またはタスク関連ユーザー出口上に存在しています。

INQUIRE FEATUREKEY

機能トグルの値を取得します。

INQUIRE FEATUREKEY



条件: NOTAUTH、NOTFND

説明

INQUIRE FEATUREKEY コマンドは、指定された名前の機能トグルの値を返します。機能トグルは、切り替え可能な機能を有効にしたり構成オプションを設定したりするために使用されます。**INQUIRE FEATUREKEY** を使用すると、切り替え可能な機能の有効化状態および構成設定を照会できます。切り替え可能な機能は、トグル対応機能、リリース別のサポートにリストしています。この機能リストの表のリンクをたどると、切り替え可能な特定の機能を有効にしたり構成オプションを設定したりするために使用する機能トグルについての情報が見つかります。

ブラウズ

INQUIRE FEATUREKEY コマンドのブラウズ・オプション (START、NEXT、および END) を使用すると、領域に指定されているすべての機能トグルをブラウズできます。ブラウズに関する一般情報 (構文、例外条件、および例を含む) については、Browsing resource definitionsを参照してください。

オプション

FEATUREKEY(*data-value*)
機能トグルの 1 文字から 255 文字の名前を指定します。

VALUE(*data-area*)
指定した機能トグルの 1 文字から 255 文字の値が返されます。

条件

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

NOTFND
RESP2 値は以下のとおりです。

1 指定された名前の機能トグルは存在しません。

例

例えば、BMS 3270 侵入検知サービスの有効化は、機能トグル com.ibm.cics.bms.ids={true|false} で制御されます。この機能が CICS 領域で使用できるようにオンになっているかどうかを照会するには、次のコマンドを発行します。

```
EXEC CICS INQUIRE FEATUREKEY('com.ibm.cics.bms.ids')
```

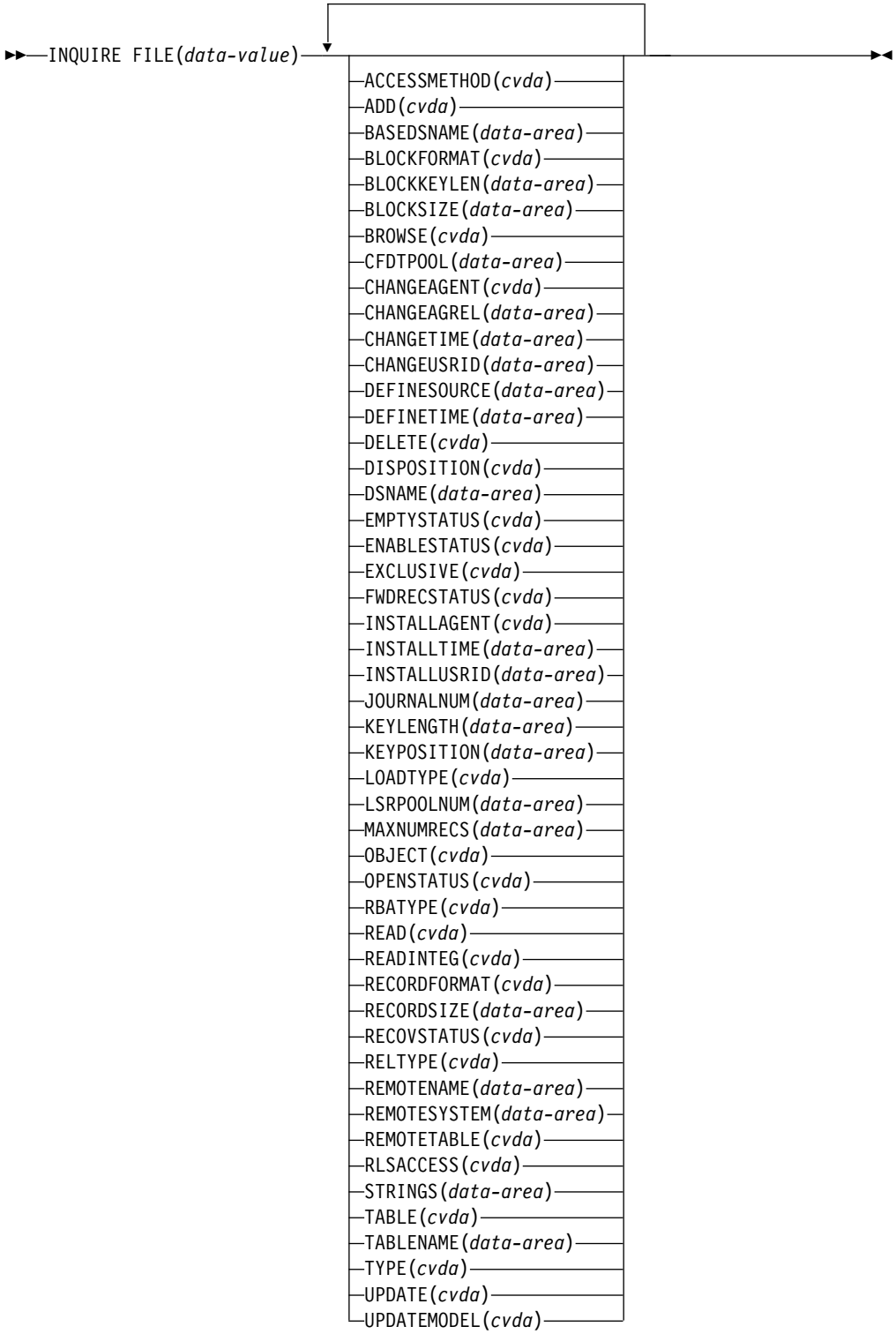
この機能に設定されている構成オプションを照会するには、次のコマンドを発行します。

```
EXEC CICS INQUIRE FEATUREKEY('com.ibm.cics.bms.ids.action')
EXEC CICS INQUIRE FEATUREKEY('com.ibm.cics.bms.ids.vtamignore')
```

INQUIRE FILE

ファイルに関する情報を取得します。

INQUIRE FILE



条件**:** END、FILENOTFOUND、ILLOGIC、NOTAUTH

CVDA の使用の詳細については、CICS-value data areas (CVDAs)を参照してください。

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

INQUIRE FILE コマンドは、FILE リソース定義に関する情報を戻します。

ファイルが VSAM または BDAM オブジェクトと関連付けられている場合、INQUIRE FILE は関連オブジェクトについての情報も戻します。

- VSAM の場合、オブジェクトは基本クラスター (KSDS、ESDS、または RRDS)、代替索引、または代替索引からの基本クラスターへのパスのいずれかになります。
- BDAM の場合、オブジェクトは単一の MVS BDAM データ・セットです。

DL/I データ・セット、または他の CICS リソースや機能と関連付けられているデータ・セットに関する情報を入手するために INQUIRE FILE コマンドを使用することはできません。ただし、ダンプ・データ・セット、ジャーナル、または TD キューに関する情報を必要とする場合は、INQUIRE DUMPDS、JOURNALNAME、および TDQUEUE コマンドを参照してください。

戻される値は以下の基準に応じて決まります。

- ファイルが開いているかまたは閉じているか。閉じている場合は、CICS の現在の実行中に開いたかどうか。

  ファイルが開いていない場合は、デフォルト値またはヌル値、あるいはファイルと関連付けられている最新のオブジェクトを説明する値を受け取ります。これについては以下のオプションの説明に記されています。
- ファイルがローカルであるか (照会を実行するタスクと同じ CICS システム上で定義されている)、またはリモートであるか (別の CICS システム上で定義されている)。

  リモート・ファイルについて入手可能な情報が少なく、一部のオプションにはデフォルトまたはヌルが戻される。

  ヌル値の詳細については、ヌル値を参照してください。
- ファイルが空の場合 (VSAM ロード・モード)、最初の書き込みまたは大量挿入の完了後に、ファイルは閉じられ、使用可能のままとなります。この状態は、暗黙的に開かれる次のアクセス (書き込みまたは読み取り) まで維持されます。

  この次のアクセスが実行される前にファイルに対して INQUIRE が発行される場合、ファイルは CLOSED,ENABLED を示します。この状態はロード・モードを完了したばかりのファイルの一時的なものである場合もあります。

INQUIRE FILE コマンドの一部のオプションは、CICS によりサポートされるファイル・オブジェクト (VSAM または BDAM データ・セット、およびデータ・テーブルなど) のいずれかに固有のものです。これらのパラメーターの多くは、パラメーターが適用されるものとは違うオブジェクトをファイルが参照している場合でも指定可能です。この方法で、異なるオブジェクト間でのファイル定義の切り替えをさらに容易にしています。例えば、非 RLS と RLS アクセスとの間、ユーザー保守のデータ・テーブルとカップリング・ファシリティー・データ・テーブルとの間の切り替えなどです。ファイルが現在参照していないオブジェクトに対してパラメーターが指定されると、それは無視されます。

ブラウズ

INQUIRE FILE コマンドでブラウズ・オプション (START、NEXT、および END) を使用することにより、システムにインストールされているすべてのファイルを介してブラウズできます。ブラウズに関する一般情報 (構文、例外条件、および例を含む) については、Browsing resource definitionsを参照してください。

リソース・シグニチャー

このコマンドを使用して、リソース・シグニチャー・フィールドを検索することができます。これらのフィールドを使用すると、リソースの定義時、インストール時、および最終変更時の詳細データを収集して、リソースを管理できます。 詳しくは、Auditing resourcesを参照してください。 リソース・シグニチャー・フィールドは BUNDLE、CHANGEAGENT、CHANGEAGREL、CHANGETIME、CHANGEUSRID、DEFINESOURCE、DEFINETIME、INSTALLAGENT、INSTALLTIME、および INSTALLUSRID です。リソース・シグニチャー・フィールドの内容について詳しくは、Summary of the resource signature field valuesを参照してください。

オプション

ACCESSMETHOD(*cvda*)
このファイルのアクセス方式を示す CVDA 値を戻します。 CVDA 値は以下のとおりです。

BDAM
アクセス方式は BDAM です。

REMOTE
ファイルはリモートとして定義されるため、アクセス方式はローカル CICS システムでは認識されません。

VSAM
アクセス方式は VSAM です。データ・テーブルへのアクセス (データ・テーブルのロード中、あるいは CICS 保守データ・テーブルの場合は、ソース・データ・セットの更新時またはテーブルに存在しないレコードの検索時を除く) は、 CICS データ・テーブル・サービスを介します。このアクセスは依然として VSAM キーに基づいているため、CICS はどんな種類のデータ・テーブルについても、アクセス方式として VSAM を戻します。

ADD(*cvda*)
ファイルに追加できる新規レコードであるかどうかを示す CVDA 値を戻します。 CVDA 値は以下のとおりです。

ADDABLE
ファイルに新しいレコードを追加できます。

NOTADDABLE
ファイルに新しいレコードを追加できません。

NOTAPPLIC
この値は、このタイプのファイルには適用されません。例えば、これはリモート・ファイルには適用されません。

BASEDSNAME(*data-area*) (VSAM のみ)
ファイルと関連付けられたオブジェクトがパスである場合、VSAM パスと関連付けられた基本クラスターの 44 文字の名前を戻します。オブジェクトがパス以外である場合には、このオプションは DSNAME オプションと同じ値を戻します。

この CICS の最後の初期始動またはコールド・スタート以降にファイルが開かれていない場合、BASEDSNAME はブランクです。ファイルが最後の初期始動またはコールド・スタート以降に一度でも開かれていれば、CICS は、コマンドの発行時にそのファイルが開いていない場合でも、44 文字の名前を戻します。CICS がこの名前を戻すことができるのは、CICS カタログにこの名前が保存されており、再始動時にリカバリーされるからです。

オブジェクトがソース・データ・セットからロードされたカップリング・ファシリティー・データ・テーブルである場合、BASEDSNAME で戻される 44 文字の名前は DSNAME で戻されるものと同じです。 BASEDSNAME は、ソース・データ・セットと関連付けられていないカップリング・ファシリティー・データ・テーブルの場合はブランクです。

変換プログラムはこのオプションとして BASENAME を引き続き受け入れますが、新規コードでは BASEDSNAME を使用します。

BLOCKFORMAT(*cvda*) (BDAM のみ)
ファイル上のレコードがブロック化されているかまたは非ブロック化されているかを示す CVDA 値を戻します。 CVDA 値は以下のとおりです。

BLOCKED
ファイル上のレコードがブロック化されているか、またはこのファイルが VSAM ファイルです。

UNBLOCKED
ファイル上のレコードは非ブロック化レコードです。

NOTAPPLIC
この値は、このタイプのファイルには適用されません。例えば、これはリモート・ファイルには適用されません。

BLOCKKEYLEN(*data-area*) (BDAM のみ)
ファイルの物理ブロック・キー長を示すフルワード・バイナリー・フィールドを戻します。

BLOCKSIZE(*data-area*) (BDAM のみ)
ブロックのバイト単位での長さを示すフルワード・バイナリー・フィールドを戻します。ブロックが可変長であるかまたは未定義の場合、戻される値は最大です。

BROWSE(*cvda*)
ファイルをブラウズできるかどうかを示す CVDA 値を戻します。 CVDA 値は以下のとおりです。

BROWSABLE
ファイルをブラウズできます。

NOTBROWSABLE
ファイルをブラウズできません。

NOTAPPLIC
この値は、このタイプのファイルには適用されません。例えば、これはリモート・ファイルには適用されません。

CFDTPOOL(*data-area*) (CFDT のみ)
カップリング・ファシリティー・データ・テーブルがあるカップリング・ファシリティー・データ・テーブル・プールの 8 文字の名前を戻します。ファイルがカップリング・ファシリティー・データ・テーブルを参照しておらず、プール名が指定されていない場合、CICS はブランクを戻します。

CHANGEAGENT(*cvda*)
リソース定義を最後に変更したエージェントを識別する CVDA 値を戻します。有効な値は、以下のとおりです。

CREATESPI
リソース定義は **EXEC CICS CREATE** コマンドによって最後に変更されました。

CSDAPI
リソース定義は、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによって最後に変更されました。

CSDBATCH
リソース定義は、DFHCSDUP ジョブによって最後に変更されました。

DREPAPI
リソース定義は、CICSPlex SM BAS API コマンドによって最後に変更されました。

SYSTEM
リソース定義は、CICS または CICSPlex システムによって最後に変更されました。

TABLE
リソース定義は、テーブル定義によって最後に変更されました。

CHANGEAGREL(*data-area*)
リソース定義の最終変更時に実行していた CICS リリースの 4 桁の数値を戻します。

CHANGETIME(*data-area*)
リソース定義の最終変更時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。ABSTIME 値のフォーマットについて詳しくは、FORMATTIMEを参照してください。

CHANGEUSRID(*data-area*)
変更エージェントを実行した 8 文字のユーザー ID を戻します。

DEFINESOURCE(*data-area*)
リソース定義の 8 文字のソースを戻します。DEFINESOURCE 値は CHANGEAGENT 値に依存します。詳しくは、Summary of the resource signature field valuesを参照してください。

DEFINETIME(*data-area*)
リソース定義の作成時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。

DELETE(*cvda*) (VSAM のみ)
ファイルからのレコードを削除できるかどうかを示す CVDA 値を戻します。 CVDA 値は以下のとおりです。

DELETABLE
ファイルからレコードを削除できます。

NOTDELETABLE
ファイルからレコードを削除できません。

NOTAPPLIC
この値は、このタイプのファイルには適用されません。例えば、これはリモート・ファイルには適用されません。

DISPOSITION(*cvda*)
ファイルの DISPOSITION オプションの値を示す CVDA 値を戻します (FILE 定義の DISPOSITION オプションから、またはそれが指す JCL DD ステートメントから)。 CVDA 値は以下のとおりです。

OLD ファイル属性指定は OLD です。

SHARE
ファイル属性指定は SHARE です。

NOTAPPLIC
この値は、このタイプのファイルには適用されません。例えば、これはリモート・ファイルには適用されません。

DSNAME(*data-area*)
FILE 定義と関連付けられた BDAM データ・セットまたは VSAM オブジェクトの 44 文字の名前を戻します。

最後の初期始動またはコールド・スタート以降にファイルが開かれていない場合、名前はファイル・リソース定義から取られます。 CICS は、データ・セット名がファイル定義上で定義されていない場合はブランクを戻します。

データ・セットからロードされたカップリング・ファシリティー・データ・テーブルの場合、CICS は、44 文字のソース・データ・セット名を戻します。データ・セットからロードされていないカップリング・ファシリティー・データ・テーブルの場合、CICS はブランクを戻します。

EMPTYSTATUS(*cvda*) (VSAM のみ)
EMPTYREQ がファイルに対して設定されているかどうかを示す CVDA 値を戻します。 EMPTYREQ により、適格な場合に、ファイルが開かれていれば、ファイルに関連付けられているオブジェクトは空に設定されます。再使用可能として定義され、非 RLS モードで使用されるように定義されている VSAM データ・セットは、この方法で空にできる唯一のものです。EMPTYREQ は他のオブジェクトに対して効果はありません。 CVDA 値は以下のとおりです。

EMPTYREQ
データ・セットは空にされます。

NOEMPTYREQ
データ・セットは空にされません。

NOTAPPLIC
この値は、このタイプのファイルには適用されません。例えば、これはリモート・ファイルには適用されません。

ENABLESTATUS(*cvda*)
アプリケーション・プログラムがこのファイルにアクセスできるかどうかを示す CVDA 値を戻します。 CVDA 値は以下のとおりです。

DISABLED
ファイルは明示的に使用不可になっているので、アプリケーション・プログラムによるアクセスはできません。アプリケーション・プログラムがアクセスできるようにするには、SET FILE ENABLED コマンドまたはその CEMT の同等のものにより明示的に使用可能にされている必要があります。

DISABLING
ファイルを使用不可にする要求が受け取られていますが、前にファイルにアクセスしたタスクが実行中です。これらのタスクはファイルの使用を完了することが許可されますが、新規タスクはアクセスを許可されません。

ENABLED
ファイルはアプリケーション・プログラムによりアクセス可能です。

UNENABLED
ファイルは閉じられているので、アプリケーション・プログラムによるアクセスはできません。アプリケーション・プログラムがアクセスできるようにするには、SET FILE OPEN コマンドまたはその CEMT の同等のものにより明示的に使用可能にされている必要があります。

UNENABLING
ファイルを閉じる要求が受け取られていますが、前にファイルにアクセスしたタスクが実行中です。これらのタスクはファイルの使用を完了することが許可されますが、新規タスクはアクセスを許可されません。

NOTAPPLIC
この値は、このタイプのファイルには適用されません。例えば、これはリモート・ファイルには適用されません。

EXCLUSIVE(*cvda*) (BDAM のみ)
このファイル上のレコードが、更新の読み取りが発行されるときに、排他制御下に置かれるかどうかを示す CVDA 値を戻します。 CVDA 値は以下のとおりです。

EXCTL
このファイル上のレコードは、更新の読み取り時に、読み取りタスクの排他制御下に置かれます。

NOEXCTL
このファイル上のレコードは、更新の読み取り時に、排他制御下には置かれません。

NOTAPPLIC
この値は、このタイプのファイルには適用されません。例えば、これはリモート・ファイルには適用されません。

FILE(*data-value*)
照会するファイルの 8 文字の名前を指定します。

FWDRECSTATUS(*cvda*) (VSAM のみ)
ファイルが順方向リカバリー可能かどうかを示す CVDA 値を戻します。

FWDRECSTATUS に対して CICS が戻す値は、最後の初期始動またはコールド・スタート以降にファイルが開かれているかどうかに応じて異なります。

- 最後の初期始動またはコールド・スタート以降にファイルが開かれていない場合、CICS はファイル定義からの値を戻します。
- 最後の初期始動またはコールド・スタート以降に一度でもファイルが開かれていれば、CICS はファイルが最後に開かれたときに使用された値を戻します。この値は、例えばファイル定義が ICF カタログからの値によってオーバーライドされていることがあるので、ファイル定義上の値とは異なる場合があります。

CVDA 値は以下のとおりです。

FWDRECOVABLE
ファイルは順方向リカバリー可能です。 FILE 定義の RECOVERY オプションは、ファイルへの更新を記録して、ファイルの順方向リカバリーを可能にすることを指定します。順方向リカバリー・ログは、INQUIRE DSNAME を使用して検出できます。

NOTFWDRCVBLE
ファイルは順方向リカバリー可能ではありません。 CICS は、カップリング・ファシリティー・データ・テーブルおよびユーザー保守のデータ・テーブルに対して NOTFWDRCVBLE を戻します。

NOTAPPLIC
この値は、このタイプのファイルには適用されません。例えば、これはリモート・ファイルには適用されません。

INSTALLAGENT(*cvda*)
リソースをインストールしたエージェントを識別する CVDA 値を戻します。有効な値は、以下のとおりです。

BUNDLE
リソースは、バンドルのデプロイメントによってインストールされました。

CREATESPI
EXEC CICS CREATE コマンドによってリソースがインストールされました。

CSDAPI
CEDA トランザクションまたは DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによって、リソースがインストールされました。

GRPLIST
GRPLIST INSTALL によってリソースがインストールされました。

SYSTEM
リソースは、CICS または CICSPlex SM システムによってインストールされました。

TABLE
リソースは、テーブル定義を使用してインストールされました。

INSTALLTIME(*data-area*)
リソースのインストール時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。

INSTALLUSRID(*data-area*)
リソースをインストールした 8 文字のユーザー ID を戻します。

JOURNALNUM(*data-area*)
CICS が自動ジャーナルに必要な情報を書き込むジャーナルの番号を示すハーフワード・バイナリー・フィールドを戻します。 JOURNALNUM で戻される値は、ファイル・リソース定義内の JOURNAL パラメーターで指定された数です。

ジャーナル数は 1 から 99 の範囲内の数値であり、ジャーナル名 DFHJ01 から DFHJ99 に対応します。値 0 は、JOURNAL(NO) が指定されており、CICS はファイルに対して自動ジャーナルを実行しないことを意味します。

JOURNALNUM は、ユーザー保守のデータ・テーブルおよびカップリング・ファシリティー・データ・テーブルの場合は無視されます。これらのテーブルへの要求モードは、自動ジャーナルされません。

KEYLENGTH(*data-area*)
VSAM KSDS と関連付けられるファイルまたはカップリング・ファシリティー・データ・テーブルと関連付けられるファイルの、レコード・キーの長さを示すフルワード・バイナリー・フィールドを戻します。ファイルが BDAM データ・セットに関連付けられている場合、値は非ブロック化に使用される論理キーの長さになります。

注:

1. ファイルが閉じられ、キーの長さがファイル定義で定義されていない場合、戻される値は 0 (ゼロ) です。
2. ファイルがクローズされており、ファイル定義でキー長が定義されている場合、 CICS はファイル定義からの値を戻します。
3. ファイルがオープンしている場合、ほとんどのファイルは関連データ・セットからキー長を取得します。この場合、CICS はデータ・セットからの値を戻します。ただし、 LOAD(NO) が定義されたカップリング・ファシリティー・データ・テーブルを参照するファイルは、ファイル定義からキー長を取得する必要があります。この場合、CICS は、そのようなファイルについて、ファイル定義からの値を戻します。この値は、カップリング・ファシリティー・データ・テーブルが既に作成されている場合には、その値とも一致しなければなりません。

KEYPOSITION(*data-area*)
レコードの先頭に対して相対的な、各レコード内でのキー・フィールドの開始位置を示すフルワード・バイナリー・フィールドを戻します。開始位置 0 です。キーがない場合や、ファイルがオープンでない場合は、CICS はキー位置に値ゼロを戻します。

ソース・データ・セットと関連付けられているカップリング・ファシリティー・データ・テーブルの場合、ファイルが開いていれば、キー位置はソース・デー

タ・セットから取得されます。カップリング・ファシリティー・データ・テーブルがソース・データ・セットと関連付けられていない場合、CICS はゼロを戻します。

LOADTYPE(*cvda*) (VSAM のみ)
カップリング・ファシリティー・データ・テーブルのロード・タイプを示す CVDA 値を戻します。 CVDA 値は以下のとおりです。

LOAD
カップリング・ファシリティー・データ・テーブルは、ソース・データ・セットからプリロードされます。

NOLOAD
カップリング・ファシリティー・データ・テーブルは、ソース・データ・セットからプリロードされません。

NOTAPPLIC
ファイルはカップリング・ファシリティー・データ・テーブルとして定義されておらず、ファイル・リソース定義内で定義されている値はありません。

ファイルがカップリング・ファシリティー・データ・テーブルとして定義されていないが、これらのオプションの 1 つがファイル・リソース定義の LOAD 属性上で指定されている場合、CICS は LOAD または NOLOAD を戻します。この場合、LOADTYPE CVDA は、ファイル定義が TABLE(CF) を指定するように変更されている場合に適用されるロード・タイプを示します。

LOADTYPE は、CICS 保守またはユーザー保守の共用データ・テーブルに対しては無意味です。テーブルを参照する最初のファイルが開かれている場合、共用データ・テーブルは必ずソース・データ・セットからロードされます。

LSRPOOLID(*data-area*) (VSAM のみ)
この属性は廃止されましたが、以前のリリースの CICS との互換性を保つためにサポートされています。

LSRPOOLID に指定されている値は、新しいオプション LSRPOOLNUM に移されます。

LSRPOOLNUM(*data-area*) (VSAM のみ)
このファイルに関連付けられている、1 から 255 の範囲内での、VSAM LSR プールの数を示すフルワード・バイナリー・フィールドを戻します。ファイルがバッファーを共用しない場合、LSRPOOLNUM の値は 0 です。

MAXNUMRECS(*data-area*) (データ・テーブルのみ)
このファイルのデータ・テーブルが保持できるレコードの最大数を示すフルワード・バイナリー・フィールドを戻します。 CICS により戻される値は、以下の要素により影響を受けます。

- ファイル・リソース定義が MAXNUMRECS 数値を指定する場合、オブジェクトがテーブルではないとしても (NOTTABLE CVDA が TABLE オプションで戻される)、CICS は指定値を戻します。
- ファイル・リソース定義で、レコードの数が無制限であることを意味する MAXNUMRECS(NOLIMIT) が指定されている場合、CICS はゼロの値を戻

します。CICS において NOLIMITは、正のフルワードの最大値 (+2147483647 または X'7FFFFFFF') として保持されています。

- ファイルがリモートである場合、CICS はマイナス 1 (-1) の値を戻します。
- オブジェクトがカップリング・ファシリティー・データ・テーブルの場合、以下の点が適用されます。
  - レコードの最大数は、カップリング・ファシリティー・データ・テーブルのサーバー・コマンドで変更できます。ファイル定義値 MAXNUMRECS は未変更のままです。 CICS は、ファイルを開くまではファイル定義の値を戻し、ファイルを開いた後、CICS はサーバーに定義された実際の MAXNUMRECS 値を戻します。
  - 値がカップリング・ファシリティー・データ・テーブル・サーバー・コマンドにより再度変更されている場合、CICS はファイルが次に開かれるかまたは照会された後にのみ、新規の値を取得して戻します。それまでは、CICS は引き続き古い値を戻します。
  - サーバー DISPLAY TABLE コンソール・コマンドを使用して、カップリング・ファシリティー・データ・テーブルの現行値を取得することができます。

OBJECT(*cvda*) (VSAM のみ)
ファイルが、データ・セット (VSAM KSDS、ESDS、RRDS、または代替索引の直接使用)、または代替索引を基本クラスターにリンクする VSAM パスと関連付けられているかどうかを示す CVDA 値を戻します。 CVDA 値は以下のとおりです。

BASE ファイルは VSAM ベースのデータ・セットと関連付けられています。 CICS はさらに、データ・テーブルに対して BASE を戻します。 (データ・テーブル・アクセスは基本キー・アクセスのみを提供し、パスによるアクセスは提供しません。)

PATH
ファイルはパスと関連付けられます。ファイルが代替索引から VSAM 基本データ・セットへのパスを定義する場合にのみ、PATH の値を得ます。ファイル定義により代替索引への直接アクセスが可能であるか、またはパスが単に基本データ・セットへの別名として使用される場合、BASE の値を得ます。さらに、ファイルが最後の初期始動またはコールド・スタート以降に開かれていない場合、CICS は BASE のデフォルト値を戻します。

NOTAPPLIC
この値は、このタイプのファイルには適用されません。例えば、これはリモート・ファイルには適用されません。

ファイルがデータ・テーブルである場合、OBJECT オプションはそのソース・データ・セットを参照します。

OPENSTATUS(*cvda*)
ファイルがオープンしているか、クローズしているか、または移行状態かを示す CVDA 値を戻します。 OPENSTATUS 値は、アプリケーション・タスクがファイルにアクセスできるかどうかに、間接的な仕方によってのみ影響を与えます。この規則については ENABLESTATUS オプションの説明を参照してください。 CVDA 値は以下のとおりです。

CLOSED
ファイルは閉じています。

CLOSEREQUEST
ファイルは開いており、1 つ以上のアプリケーション・タスクによって使用中です。 EXEC CICS SET FILE CLOSED または CEMT SET FILE CLOSED 要求が受け取られていますが、閉じることは完了していません (ファイルの ENABLESTATUS は DISABLING です)。

NOTAPPLIC
OPENSTATUS 値はこのタイプのファイルには適用されません。例えば、これはリモート・ファイルには適用されません。

OPEN
ファイルは開かれています。

RBATYPE(*cvda*)
VSAM ファイルの場合、データ・セットが拡張アドレス方式を使用するかどうかを示す CVDA 値を戻します。 CVDA 値は以下のとおりです。

EXTENDED
この VSAM データ・セットは拡張相対バイト・アドレス指定方式を使用するため、4 GB を超えるデータを保持できます。

NOTAPPLIC
以下のいずれかが真です。
- データ・セットが BDAM である。
- ファイルがリモートである。
- ファイルが開かれていない。

NOTEXTENDED
この VSAM データ・セットは拡張相対バイト・アドレス指定方式を使用しないため、4 GB を超えるデータは保持できません。

READ(*cvda*)
ファイルからのレコードを読み取れるかどうかを示す CVDA 値を戻します。 CVDA 値は以下のとおりです。

NOTREADABLE
ファイルからレコードを読み取ることができません。

READABLE
ファイルからレコードを読み取ることができます。

NOTAPPLIC
この値は、このタイプのファイルには適用されません。例えば、これはリモート・ファイルには適用されません。

READINTEG(*cvda*)
読み取り保全性オプションがファイル読み取り要求コマンドで明示的にコーディングされていない場合、ファイルにアクティブな読み取り保全性のデフォルト・レベルを示す CVDA 値を戻します。 CVDA 値は以下のとおりです。

CONSISTENT
このファイルの読み取り要求は、整合読み取り保全性に従わなければなりません (それ以外が読み取り要求で指定されていない限り)。

NOTAPPLIC
以下のいずれかの理由で、読み取り保全性はこのファイルに適用されません。

- ファイルが非 RLS モードでアクセスされる VSAM ファイルである。
- ファイルがリモート・ファイルである。
- ファイルが BDAM データ・セットを参照する。
- ファイルがカップリング・ファシリティー・データ・テーブルを参照する。

ファイルを RLS から非 RLS モードに切り替える場合、RLS モードに指定された読み取り保全性オプションが保存されます。この場合、CICS は NOTAPPLIC を戻します。ファイルを切り替えて RLS モードに戻す場合、CICS は INQUIRE FILE コマンドに応じて、保管された読み取り保全性を戻します。

REPEATABLE
このファイルの読み取り要求は、反復可能な読み取り保全性に従わなければなりません (それ以外が読み取り要求で指定されていない限り)。

UNCOMMITTED
このファイルには読み取り保全性は指定されません。

RECORDFORMAT(*cvda*)
ファイル上のレコードの形式を示す CVDA 値を戻します。 CVDA 値は以下のとおりです。

FIXED
レコードは固定長です。

UNDEFINED
ファイル上のレコード・フォーマットは未定義です。 UNDEFINED 値は BDAM データ・セットに対してのみ指定可能です。

VARIABLE
レコードは可変長です。ファイルがユーザー保守のデータ・テーブルと関連付けられている場合、ソース・データ・セットに固定長レコードが含まれているとしても、レコード・フォーマットは常に可変長です。

NOTAPPLIC
この値は、このタイプのファイルには適用されません。例えば、これはリモート・ファイルには適用されません。

RECORDSIZE(*data-area*)
固定長レコードの実際のサイズ、または可変長レコードの最大サイズを示すフルワード・バイナリー・フィールドを戻します。

ファイルが開かれていない場合、CICS はインストールされたファイル定義で指定された値を戻します。

ファイルが開いている場合、ほとんどのファイルはそのレコード・サイズを関連データ・セットから得ます。この場合、CICS はデータ・セットからの値を戻します。ただし、LOAD(NO) で定義されているカップリング・ファシリティー・データ・テーブルを参照するファイルは、そのレコード・サイズをファイル定義

から得る必要があります。この場合、CICS はそのようなファイルのファイル定義からの値を戻します。この値は、カップリング・ファシリティー・データ・テーブルが既に作成されている場合には、その値とも一致しなければなりません。

RECOVSTATUS(*cvda*)
ファイルがリカバリー可能かどうかを示す CVDA 値を戻します。

RECOVSTATUS に対して CICS が戻す値は、CICS 領域の最後の初期始動またはコールド・スタート以降にファイルが開かれているかどうかに応じて異なります。

- 最後の初期始動またはコールド・スタート以降にファイルが開かれていない場合、CICS はファイル定義からの値を戻します。
- 最後の初期始動またはコールド・スタート以降に一度でもファイルが開かれていれば、CICS はファイルが最後に開かれたときに使用された値を戻します。この値は、例えばファイル定義が ICF カタログからの値によってオーバーライドされていることがあるので、ファイル定義上の値とは異なる場合があります。 ICF カタログからの値は、ユーザー保守または CICS 保守のデータ・テーブルの場合は無視されます。

CVDA 値は以下のとおりです。

NOTRECOVABLE
ファイルはリカバリー可能ではありません。

RECOVERABLE
ファイルはリカバリー可能です。

NOTAPPLIC
この値は、このタイプのファイルには適用されません。例えば、これはリモート・ファイルには適用されません。

RELTYPE(*cvda*) (BDAM のみ)
相対または絶対アドレッシングがファイルのアクセスに使用できるかどうか、および相対である場合には相対アドレッシングのタイプを示す CVDA 値を戻します。 CVDA 値は以下のとおりです。

BLK 相対ブロック・アドレス指定方式が使用されています。

DEC ゾーン 10 進フォーマットが使用されています。

HEX 16 進相対トラックおよびレコード・フォーマットが使用されています。

NOTAPPLIC
絶対 (MBBCCHHR) アドレス指定が使用されているか、またはファイルが VSAM ファイルです。

REMOTENAME(*data-area*)
FILE 定義の REMOTESYSTEM オプションで指定された CICS 領域でファイルが認識されるための 8 文字の名前を戻します。ファイルがリモートでない場合は、ブランクが戻されます。

REMOTESYSTEM(*data-area*)
ファイルが定義されている CICS 領域の 4 文字の名前を (FILE 定義の REMOTESYSTEM 値から) 戻します。ファイルがリモートでない場合は、ブランクが戻されます。

REMOTETABLE(*cvda*) (VSAM のみ)
ファイルがオープン・リモート・データ・テーブルを表すかどうかを示す CVDA 値を戻します。以下のうち、1 つの CVDA 値のみ適用されます。

REMTABLE
ファイルはオープン・リモート・データ・テーブルを表します。

RLSACCESS(*cvda*)
ファイルが RLS モードで開かれるように定義されているかどうかを示す CVDA 値を戻します。 CVDA 値は以下のとおりです。

NOTAPPLIC
ファイルがリモート・ファイルの場合、または BDAM データ・セットを参照する場合、RLS モードでのアクセスに適していません。

NOTRLS
ファイルは非 RLS モードでアクセスされるよう定義されたデータ・セットを参照します。

RLS ファイルは RLS モードでアクセスされるよう定義されたデータ・セットを参照します。

STRINGS(*data-area*) (VSAM のみ)
その FILE 定義内でファイルに指定されたストリング (並行操作) の数を示すフルワード・バイナリー・フィールドを戻します。

TABLE(*cvda*) (VSAM および CFDT のみ)
ファイルがデータ・テーブルを表すかどうかを示す CVDA 値を戻します。 CVDA 値は以下のとおりです。

CFTABLE
ファイルはカップリング・ファシリティー・データ・テーブルを表します。

CICSTABLE
ファイルは CICS 保守データ・テーブルを表します。

NOTTABLE
ファイルはデータ・テーブルを表しません。

USERTABLE
ファイルはユーザー保守データ・テーブルを表します。

NOTAPPLIC
この値は、このタイプのファイルには適用されません。例えば、これはリモート・ファイルには適用されません。

TABLENAME(*data-area*) (CFDT のみ)
ファイル・リソース定義上でカップリング・ファシリティー・データ・テーブルにテーブル名が指定されていれば、その 8 文字のテーブル名を戻します。ファイル・リソース定義からテーブル名が省略されている場合はファイル名を戻します。

ファイルがカップリング・ファシリティー・データ・テーブルを参照していない場合、CICS はブランクを戻します。

TYPE(*cvda*)
このファイルに対応するデータ・セットのタイプを識別する CVDA 値を戻しま

す。データ・セットは、データ・セットのタイプを戻すために開かれている必要があります。 CVDA 値は以下のとおりです。

ESDS データ・セットは入力順データ・セットです。

KEYED
データ・セットは物理キーによりアドレス指定されます。

KSDS
データ・セットがキー順データ・セットであるか、またはファイルがデータ・テーブルを参照しています。

NOTKEYED
データ・セットは物理キーによりアドレス指定されません。

RRDS
データ・セットは相対レコード・データ・セットです。

VRRDS
データ・セットは可変長相対レコード・データ・セットです。

NOTAPPLIC
データ・セットは開かれていません。

UPDATE(*cvda***)**
ファイルが更新可能かどうかを示す CVDA 値を戻します。 CVDA 値は以下のとおりです。

NOTUPDATABLE
レコードを更新できません。

UPDATABLE
レコードを更新できます。

NOTAPPLIC
この値は、このタイプのファイルには適用されません。例えば、これはリモート・ファイルには適用されません。

UPDATEMODEL(*cvda***) (CFDT のみ)**
インストールされたファイル定義内でカップリング・ファシリティー・データ・テーブルに指定された更新モデルを示す CVDA 値を戻します。 CVDA 値は以下のとおりです。

CONTENTION
競合モデルを使用してカップリング・ファシリティー・データ・テーブルが更新されます。

LOCKING
カップリング・ファシリティー・データ・テーブルは、ロック・モデルを使用して更新されます。

NOTAPPLIC
ファイルはカップリング・ファシリティー・データ・テーブルを参照せず、ファイル・リソース定義の UPDATEMODEL に値は指定されません。

ファイルがカップリング・ファシリティー・データ・テーブルを参照していない場合、UPDATEMODEL 属性上で LOCKING または CONTENTION を指定

するファイルを定義することができます。この場合 CICS は、NOTAPPLIC ではなく、INQUIRE FILE コマンドで指定された UPDATEMODEL 値を戻します。カップリング・ファシリティー・データ・テーブルを参照するコマンドを再定義する場合は、指定された UPDATEMODEL が有効になります。

競合およびロック・モデルについては、FILE 属性を参照してください。

条件

END

RESP2 値は以下のとおりです。

2 このタイプのリソース定義はありません。

FILENOTFOUND

RESP2 値は以下のとおりです。

1 ファイルが見つかりません。

ILLOGIC

RESP2 値は以下のとおりです。

1 このリソース・タイプのブラウズが既に実行されているときに START コマンドが出されたか、もしくは、このリソース・タイプのブラウズが実行されていないときに NEXT または END コマンドが出された。

NOTAUTH

RESP2 値は以下のとおりです。

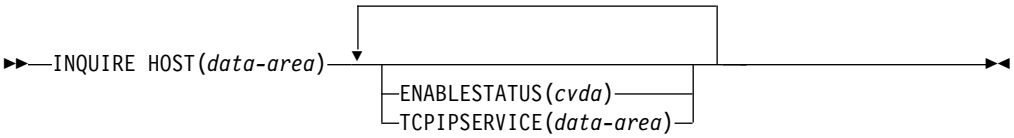
100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

101 発行中のタスクに関連付けられているユーザーには、このコマンドが要求する方法でこの特定のリソースにアクセスする権限がありません。

INQUIRE HOST

ローカル・システム内の仮想ホストについての情報を取得します。

INQUIRE HOST



条件**:** END、ILLOGIC、INVREQ、NOTAUTH、NOTFND

このコマンドはスレッド・セーフです。

INQUIRE HOST コマンドでブラウズ・オプション (START、NEXT、および END) を使用することにより、領域に存在するすべての仮想ホストをブラウズすることもできます。ブラウズに関する一般情報 (構文、例外条件、および例を含む) については、『リソース定義のブラウズ』を参照してください。

オプション

HOST*(data-value)*

仮想ホストの名前を指定します。それぞれの仮想ホスト名は、仮想ホストを構成する URIMAP 定義で指定されているホスト名から取られます。 例えば、CICS 領域に、ホスト名 www.example.com が指定された URIMAP 定義が含まれる場合、 CICS は www.example.com という名前で仮想ホストを作成します。URIMAP 定義のホスト名は最大 120 文字まで可能です。

ENABLESTATUS*(cvda)*

この仮想ホストの状況を示す CVDA 値を戻します。CVDA 値は次のとおりです。

ENABLED
仮想ホストが使用可能です。

DISABLED
仮想ホストが使用不可です。仮想ホストを構成する URIMAP 定義にアプリケーションはアクセスできません。

TCPIPSERVICE*(data-area)*

この仮想ホストに関係するインバウンド・ポートを指定する TCPIPSERVICE 定義の 1 文字から 8 文字の名前を戻します。この定義が示されない場合、仮想ホストはすべての TCPIPSERVICE 定義と関連しています。

条件

END

RESP2 の値は次のとおりです。

2 これ以上仮想ホストはありません。

ILLOGIC

RESP2 の値は次のとおりです。

1 このリソース・タイプのブラウズが既に実行されているときに START コマンドが出されたか、もしくは、このリソース・タイプのブラウズが実行されていないときに NEXT または END コマンドが出された。

INVREQ

RESP2 の値は次のとおりです。

10 指定されたホスト名に、許可されていない文字が含まれているか、またはブランクです。

NOTAUTH

RESP2 の値は次のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

NOTFND

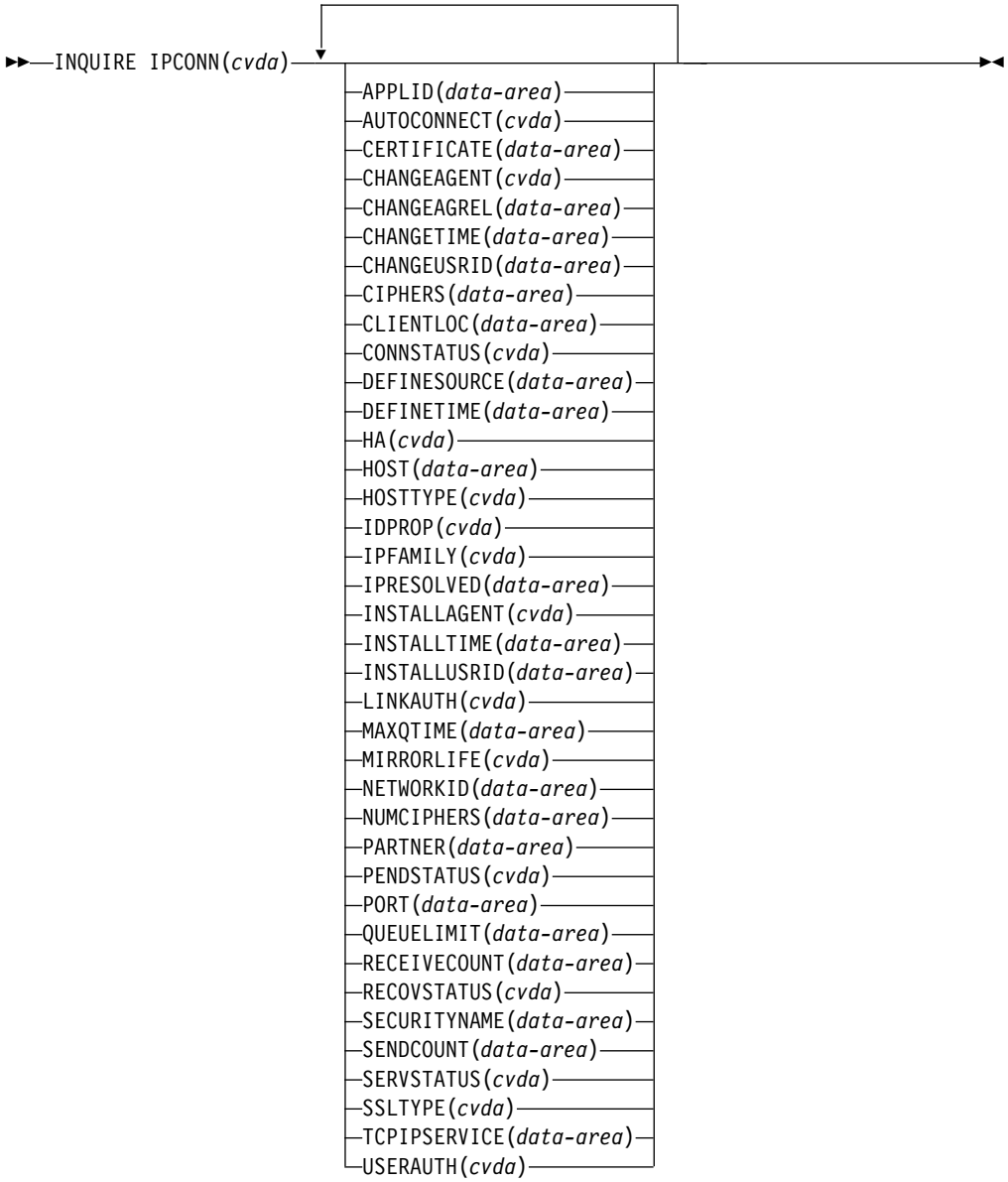
RESP2 の値は次のとおりです。

5 仮想ホストが見つかりません。

INQUIRE IPCONN

IPIC 接続に関する情報を取得します。

INQUIRE IPCONN



状態**:** END、ILLOGIC、NOTAUTH、SYSIDERR

CVDA の使用について詳しくは、CICS-value data areas (CVDAs)を参照してください。

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

INQUIRE IPCONN コマンドは、IPIC 接続に関する情報を取得します。 IPCONN リソースとは、ローカル CICS 領域から、別の CICS 領域あるいは別のシステムへの Transmission Control Protocol/Internet Protocol (TCP/IP) 通信リンクのことです。

注:

- INQUIRE CONNECTIONも参照してください。INQUIRE CONNECTION コマンドは、MRO および SNA を介した ISC 接続に関する情報を戻します。

  各種の相互通信接続について詳しくは、相互通信方式を参照してください。
- IPIC 接続のアウトバウンド 属性は、IPCONN 定義で指定されます。接続のインバウンド 属性は、IPCONN 定義の TCPIPSERVICE オプションで指定された TCPIPSERVICE 定義によって指定されます。

ブラウズ

INQUIRE IPCONN コマンド上でブラウズ・オプション (START、NEXT、および END) を使用して、システム全体にインストールされているすべての IPCONN 定義をブラウズすることもできます。ブラウズに関する一般情報 (構文、例外条件、および例を含む) については、Browsing resource definitionsを参照してください。

リソース・シグニチャー

このコマンドを使用して、リソース・シグニチャー・フィールドを検索することができます。これらのフィールドを使用すると、リソースの定義時、インストール時、および最終変更時の詳細データを収集して、リソースを管理できます。 詳しくは、Auditing resourcesを参照してください。 リソース・シグニチャー・フィールドは BUNDLE、CHANGEAGENT、CHANGEAGREL、CHANGETIME、CHANGEUSRID、DEFINESOURCE、DEFINETIME、INSTALLAGENT、INSTALLTIME、および INSTALLUSRID です。リソース・シグニチャー・フィールドの内容について詳しくは、Summary of the resource signature field valuesを参照してください。

オプション

APPLID(*data-area*)

ネットワークでリモート・システムの識別に使われる 8 文字の名前を返します。この名前は、リモート・システムのアプリケーション ID (APPLID) であり、そのシステム初期設定パラメーターの APPLID オプションで指定されます。XRF システムの場合、これは汎用 APPLID になります。

獲得される HA IPCONN においては、この値は、この IPCONN の接続先の高可用性クラスター内の特定の領域の APPLID になります。

AUTOCONNECT(*cvda*)

IPCONN 定義中で指定されている AUTOCONNECT オプションを識別する CVDA 値を戻します。CVDA 値は以下のとおりです。

AUTOCONN

IPCONN 定義で AUTOCONNECT(YES) が指定されています。

NONAUTOCONN
IPCONN 定義で AUTOCONNECT(NO) が指定されていません。

CERTIFICATE(*data-area*)
アウトバウンド IPCONN 接続の SSL ハンドシェークにおけるクライアント証明書として使用される、鍵リング内の証明書のラベルを含む 32 文字の領域を戻します。ラベルが空白の場合は、鍵リングのデフォルトとして指定された証明書が使用されます。

CHANGEAGENT(*cvda*)
リソース定義を最後に変更したエージェントを識別する CVDA 値を戻します。有効な値は、以下のとおりです。

AUTOINSTALL
リソースは自動インストールされました。

CREATESPI
リソース定義は **EXEC CICS CREATE** コマンドによって最後に変更されました。

CSDAPI
リソース定義は、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによって最後に変更されました。

CSDBATCH
リソース定義は、DFHCSDUP ジョブによって最後に変更されました。

DREPAPI
リソース定義は、CICSPlex SM BAS API コマンドによって最後に変更されました。

CHANGEAGREL(*data-area*)
リソース定義の最終変更時に実行していた CICS リリースの 4 桁の数値を戻します。

CHANGETIME(*data-area*)
リソース定義の最終変更時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。ABSTIME 値のフォーマットについて詳しくは、FORMATTIMEを参照してください。

CHANGEUSRID(*data-area*)
変更エージェントを実行した 8 文字のユーザー ID を戻します。

CIPHERS(*data-area*)

SSL ハンドシェークの際にクライアントとネゴシエーションするために使用される暗号スイートのリストを格納する 56 文字の領域か、または SSL 暗号スイート仕様ファイルの名前のいずれかを返します。後者の場合、このファイルは、**USSCONFIG** システム初期設定パラメーターで指定されたディレクトリーの `security/ciphers` サブディレクトリーにある z/OS UNIX ファイルです。詳しくは、暗号スイートおよび暗号スイート仕様ファイルを参照してください。リストを指定しない場合、このリストのデフォルトは、**ENCRYPTION** システム初期設定パラメーターに基づく暗号セットになります。 Customizing encryption negotiationsを参照してください。

CLIENTLOC(データ域)
z/OS Communications Server によって戻される、IPIC 接続によって使用されるすべてのソケットに関する SO_CLUSTERCONNTYPE オプションの評価を表す 32 文字の領域を戻します。SO_CLUSTERCONNTYPE の説明と、ビット設定の解説については、z/OS Communications Server IP ソケット・アプリケーション・プログラミング・インターフェースのガイドとリファレンスを参照してください。複数のソケットが、パートナー・システムへの多種多様なパスを IPIC 接続に提供することがあります。CLIENTLOC 内の各文字はゼロまたは 1 として表示されます。CLIENTLOC は CICS 領域とそのパートナー・システムの間の最も複雑な経路を表します。

CONNSTATUS(*cvda*)
CICS とリモート・システムの間の IPIC 接続の状態を識別する CVDA 値を戻します。CVDA 値は以下のとおりです。

ACQUIRED
IPIC 接続は獲得されました。 ACQUIRED であることの基準は、機能交換が完了していることです。機能交換とは、接続された 2 つの CICS 領域が、共同でサポートできるサービスのレベル (例えば、同期点レベル、および SSL などのセキュリティー・プロトコル) を見つける方法のことです。

FREEING
IPIC 接続は解放中です。

OBTAINING
IPIC 接続は獲得中です。ACQUIRED に関するすべての基準が満たされるまで、接続は OBTAINING 状態のままです。

RELEASED
IPIC 接続は RELEASED です (解放されました)。 INSERVICE 状況にもなっている場合がありますが、この接続は使用できません。

以下の状態のうち 1 つにより、RELEASED 状況になることがあります。

- リモート・システムがまだ初期化されていない。
- リモート・システム上に IPCONN 定義が存在しない、または自動インストールがアクティブでなかったか、正常に完了しなかった。
- リモート・システム上の IPCONN 定義がサービス休止に設定されている。
- IPCONN 定義で AUTOCONNECT(NO) が指定されている。
- IPIC 接続は獲得されているが、その後に明示的なオペレーター・コマンドによって解放されている。

DEFINESOURCE(*data-area*)
リソース定義の 8 文字のソースを戻します。DEFINESOURCE 値は CHANGEAGENT 値に依存します。詳しくは、Summary of the resource signature field valuesを参照してください。

DEFINETIME(*data-area*)
リソース定義の作成時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。

HA(*cvda*)

IPCONN を使用して高可用性クラスターに接続できるかどうかを示す CVDA 値を返します。 CVDA 値は以下のとおりです。

NOTREQUIRED
IPCONN を使用して高可用性クラスターに接続することはできません。

REQUIRED
IPCONN は、高可用性クラスターの一部である領域に接続しなければなりません。

HOST(*data-area*)

116 文字の、リモート・システムのホスト名か、その IPv4 または IPv6 アドレスを戻します。HOST オプションに使用できるのは、文字のホスト名、IPv4 アドレス、または IPv6 アドレスです。 HOST は、リソース定義で指定されます。HOST は、使用されるアドレス・フォーマットのタイプにかかわらず、すべての IPv4 アドレスを、1.2.3.4 などの、ネイティブの IPv4 ドット 10 進アドレスとして表示します。IPv4 アドレスと IPv6 アドレスは、複数のフォーマットで指定することができます。アドレス・フォーマットについて詳しくは、IP アドレスを参照してください。

HOSTTYPE(*cvda*)

HOST オプションのアドレス・フォーマットを戻します。HOSTTYPE は、IPIC 接続のインストール時にドメインによって設定されます。CVDA 値は以下のとおりです。

HOSTNAME
HOST オプションには、文字のホスト名が含まれます。ホスト名に対応する IP アドレスが、ドメイン・ネーム・サーバー内で検索されます。

IPV4 このアドレスは IPv4 アドレスです。

IPV6 このアドレスは IPv6 アドレスです。

NOTAPPLIC
誤ったホスト・アドレスが戻されました (HOST=0.0.0.0)。

IDPROP(*cvda*)

IPIC 接続を介した要求の中に送信側が分散 ID を含めるかどうかを示します。IDPROP オプションは、接続がシスプレックスの外部におよび、エンタープライズ間で伝送されている配布 ID を防ぐために主に使用される場合に限り、意味を持ちます。同じシスプレックスに含まれているシステム同士の接続の場合、このオプションによって戻される値は無視されます。また、接続は IDPROP(OPTIONAL) を指定したのと同じように作動します。

CVDA 値は以下のとおりです。

NOTALLOWED
この接続を使用する要求では、送信トランザクションに関連したユーザー ID が送信されます。 NOTALLOWED はデフォルト値です。

OPTIONAL
分散 ID が送信されます (使用可能な場合)。送信側のトランザクションに関連付けられたユーザー ID も送信されます。

REQUIRED
この接続を使用する要求では、分散 ID が必要です。REQUIRED を指定する場合は、受信側のシステムが配布 ID をサポートしている必要があります。送信トランザクションに関連したユーザー ID は送信されません。

INSTALLAGENT(*cvda*)
リソースをインストールしたエージェントを識別する CVDA 値を戻します。有効な値は、以下のとおりです。

AUTOINSTALL
リソースは自動インストールされました。

CREATESPI
リソースは、**EXEC CICS CREATE** コマンドによってインストールされました。

CSDAPI
リソースは、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによってインストールされました。

GRPLIST
リソースは、**GRPLIST INSTALL** によってインストールされました。

INSTALLTIME(*data-area*)
リソースのインストール時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。

INSTALLUSRID(*data-area*)
リソースをインストールした 8 文字のユーザー ID を戻します。

IPCONN(*data-value*)
照会しようとしているリモート・システムまたは領域の 8 文字の ID (つまり、その IPCONN 定義に割り当てられている名前) を戻します。

IPFAMILY(*cvda*)
IPRESOLVED オプションのアドレス・フォーマットを戻します。IPFAMILY は IPIC 接続の獲得時にのみ設定されます。CDVA の値は以下のとおりです。

IPV4 アドレスは、IPv4 (小数点付き 10 進数アドレス・フォーマット) で指定します。

IPV6 アドレスは IPv6 (コロン付き 16 進数アドレス・フォーマット) で指定します。

UNKNOWN
IPRESOLVED オプションがまだ使用されていないか、アドレスを解決できません。UNKNOWN は、IPRESOLVED が `0.0.0.0.` の場合のデフォルトです。

IPRESOLVED(*data-area*)
HOST オプションの IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレスを指定する、39 文字のフィールドを戻します。IPCONN リソースがまだ獲得されていない場合、解放されている場合、またはアドレスを解決できない場合は、`0.0.0.0` のデフォルト値が戻されます。IPIC 接続が獲得された後には、IPRESOLVED は IPCONN リソースで使用された、最後に解決された IP アドレスを表示します。リソース

がサービス休止で解放されている場合、IPRESOLVED は 0.0.0.0 にリセットされます。IPRESOLVED の内容は、ウォーム・リスタートまたは緊急時再始動後はリカバリーできません。

獲得される HA IPCONN においては、この値は、この IPCONN の接続先の HA クラスター内の特定の領域の値になります。

LINKAUTH(*cvda*)
セキュリティーが初期設定された CICS システムで (SEC=YES)、リンク・セキュリティー用のユーザー ID がどのように確立されるかを指定する CVDA 値を戻します。

CERTUSER
パートナー・システムとの TCP/IP 通信を SSL で構成し、SSL ハンドシェーク時にパートナー・システムから証明書を受け取らなければなりません。

IPCONN は、SSL(CLIENTAUTH) を指定して定義された TCPIPSERVICE を参照する必要があります。

受け取る証明書を外部セキュリティー・マネージャーに定義して、リンク・セキュリティーの確立に使用されるユーザー ID との関連付けがなされるようにする必要があります。

SECUSER
SECURITYNAME に指定されたユーザー ID を使用してリンク・セキュリティーを確立するように指定します。

この値はデフォルトです。

MAXQTIME(*data-area*)
割り振り要求をキューに入れることが可能な最大時間 (秒) を指定するフルワード・バイナリー値を戻します。値は、0 から 9999 までの範囲の値か、(IPCONN 定義で MAXQTIME(NO) が指定されている場合は) 標準のヌル値 -1 になります。

MIRRORLIFE(*cvda*)
機能シップされたファイル制御、一時データ、およびこの領域で受信される一時記憶域要求のミラー・タスクの最小存続期間を戻します。 CVDA 値は以下のとおりです。

REQUEST
ミラー・タスクはできるだけ速やかに終了します。これはデフォルト値です。

TASK
ミラー・タスクは、アプリケーションのタスクが終了するまで、リモート要求を発行するアプリケーションで使用可能のままになります。

UOW ミラー・トランザクションは、次の同期点が発行されるまで、リモート要求を発行するアプリケーションで使用可能のままになります。

NETWORKID(*data-area*)
リモート・システムのネットワーク ID を戻します。8 バイトの文字ストリングの値が戻されます。これは、IPCONN 定義の NETWORKID オプションの値です。IPCONN 定義で NETWORKID が指定されていない場合、戻される値

は、この CICS、つまり IPCONN 定義がインストールされている CICS の z/OS Communications Server NETID か、(z/OS Communications Server VTAM=NO システムの場合は) UOWNETQL システム初期設定パラメーターの値になります。

NETWORKID は、APPLID と併用され、接続中のシステムの名前が固有のものになるようにします。

NUMCIPHERS(*data-area*)
CIPHERS 属性で指定された暗号スイートの数が含まれたバイナリーのハーフワード・データ領域を戻します。**CIPHERS** でファイル名が指定された場合、このフィールドには 0 が入ります。

PARTNER(*data-area*)
パートナー・システムが CICS TS 5.3 以降で、かつ、**HTTPUSRAGENTHDR** システム初期設定パラメーターを使用している場合を除き、パートナー・システムの製品トークンを示す 64 文字のストリングを戻します。接続が獲得されない場合か、接続の確立時にパートナー・システムが製品タイプを示さない場合は、このフィールドはブランクになります。

PENDSTATUS(*cvda*)
この IPIC 接続に処理中の作業単位があるかどうかを示します。CDVA の値は以下のとおりです。

NOTPENDING
ログ名がパートナーと不一致ではありません。

PENDING
再同期処理で接続が未解決ですが、パートナー・システムは初期始動を実行したので、再同期プロセスが完了できません。SET IPCONN NOTPENDING コマンドを使用して、関連したトランザクション定義に従い、接続に関連した作業単位を一方のみコミットまたはバックアウトすることができます。個別に作業単位を調べて強制的にコミットまたはバックアウトを行うこともできます。この場合、さらに SET IPCONN NOTPENDING コマンドを使用してリカバリー・アクティビティーを完了し、PENDING 状態をクリアしなければなりません。

この IPIC 接続が CICS から CICS である場合、SET IPCONN NOTPENDING コマンドが発行されるまでは、この接続を介して新しい同期点処理 (つまり、同期レベル 2 のプロトコルに関係する処理) を伝送することはできません。

パートナーの初期始動またはコールド・スタートにより同期が失われてもかまわない場合は、IPCONN 定義上に XLNACTION(FORCE) を指定して、SET IPCONN NOTPENDING コマンドが自動的に発行されるようにすることができます。

作業単位の保留について詳しくは、Troubleshooting intersystem problemsを参照してください。

PORT(*data-area*)
この IPIC 接続でのアウトバウンド要求で使用するポート番号、つまり、リモート・システムが listen するポートの番号を 1 から 65535 までの範囲のフルワード・バイナリー値で返します。

PORT(NO) を使用して IPIC 接続が定義されている場合、値は -1 です。

獲得される HA IPCONN においては、この値は、この IPCONN の接続先の HA クラスター内の特定の領域の値になります。

QUEUELIMIT(*data-area*)
キューに入れることが可能な、この IPIC 接続に対する割り振り要求の最大数を示すフルワード・バイナリー値を戻します。値は、0 から 9999 までの範囲の値か、(IPCONN 定義で QUEUELIMIT(NO) が指定されている場合は) 標準のヌル値 -1 になります。

RECEIVECOUNT(*data-area*)
この IPIC 接続用に定義されている RECEIVE セッションの数を示すフルワード・バイナリー値を戻します。

RECOVSTATUS(*cvda*)
IPIC 接続の再同期処理が未解決かどうかを示す CVDA 値を戻します。接続は、接続したことがないか、静止しており再同期処理がすべて完了しているか、または静止せずに中断している (この場合は再同期が必要になることがあります) 可能性があります。CVDA 値は以下のとおりです。

NORECOVDATA
未解決のリカバリー情報は両側ともありません。

IPIC 接続がインストールされているものの、まだ獲得されていない場合、**RECOVSTATUS** は NORECOVDATA に設定されます。IPIC 接続の獲得後、値が同じままである場合、以下のいずれかの原因によるものです。

- 再同期が行われなかった。これは通常、いずれかのシステムのコールド・スタートが原因です。
- パートナー・システムが再同期に失敗した。DFHIS6006 メッセージが出されます。

NRS CICS では接続に関するリカバリーが未解決ではありませんが、パートナーでは未解決の可能性があります。

すべての通常の状態で、**RECOVSTATUS** は NRS に設定されます。この値は、未処理のリカバリー可能な処理がないこと、および再同期が正常に完了したことを示します。ウォーム・スタート後、CICS 領域内の獲得された IPIC 接続はすべて、NRS を表示します。

RECOVDATA
未確定の作業単位が接続に関連しているか、未解決の再同期タスクが接続に関する FORGET を待機しています。再同期は、次回接続がアクティブになる時点か、UOW が未中断の時点で行われます。

ローカル・システムで再同期が失敗した場合、**RECOVSTATUS** は RECOVDATA に設定されます。この場合、何が失敗だったかを示すために DFHIS600* メッセージが発行されます。**PENDSTATUS** も PENDING に設定され、これ以上の作業を実行する前に解決する必要がある未処理の作業単位があることを示します。同期点処理時にトランザクションに失敗があった場合も、RECOVDATA が設定される場合があります。この状態により、すでにインストールされ、獲得された IPCONN で設定が変わります。この場合、アクションを実行する必要がない場合があります。ほ

とんどの場合、トランザクションと作業単位は自動的にバックアウトされます。IPIC 接続が次に獲得され、再同期が完全に行われると、この状態はクリアされます。

リカバリーが未解決の場合は、ログ名の交換の完了時に、再同期が行われるか、コールド交換の場合は PENDING 状態が作成されます。

SECURITYNAME(*data-area*)
リモート・システムの 8 文字のセキュリティー名を戻します。

セキュリティーが初期化され (SEC=YES)、LINKAUTH(SECUSER) を使用して IPIC 接続が定義されている CICS システムでは、セキュリティー名はリモート・システムの権限を設定するために使用されます。

セキュリティー名は、この領域で有効な RACF ユーザー ID である必要があります。この領域の保護リソースに対するアクセスは、RACF ユーザー・プロファイルとそのグループ・メンバーシップに基づいています。IPCONN がインストールされたときにセキュリティー名が有効な RACF ユーザー ID でない場合、CICS はセキュリティー名にデフォルトのユーザー ID を使用します。

セキュリティーが初期化されておらず (SEC=NO)、LINKAUTH(SECUSER) を使用して IPIC 接続が定義されていない CICS システムでは、IP 接続のリソース定義で指定された値が戻されます。

SENDCOUNT(*data-area*)
この IPIC 接続用に定義されている SEND セッションの数を示すフルワード・バイナリー値を戻します。

SERVSTATUS(*cvda*)
IPIC 接続上でデータを送受信できるかどうかを示す CVDA値を戻します。CVDA 値は以下のとおりです。

INSERVICE
データを送受信できます。

OUTSERVICE
データを送受信できません。

SSLTYPE(*cvda*)
このサービスに使用されるセキュア・ソケット・サポートのレベルを指定する CVDA 値を戻します。CVDA 値は以下のとおりです。

NOSSL
Secure Sockets Layer はこのサービスに使用されていません。

SSL クライアント認証なしの Secure Sockets Layer がこのサービスに使用されています。

TCPIPSERVICE(データ域)
この IPIC 接続のインバウンド処理の属性を定義する PROTOCOL(IPIC) TCPIPSERVICE 定義の 8 文字の名前を戻します。

USERAUTH(*cvda*)
接続に必要な接続時ユーザー・セキュリティーのレベルを指定する CVDA 値を戻します。CVDA 値は以下のとおりです。

LOCAL
CICS は、クライアントからのユーザー ID またはパスワードを受け入れません。すべての要求はリンク・ユーザー ID のもとで実行されます。

IDENTIFY
着信接続要求でユーザー ID を指定する必要があります。

VERIFY
着信接続要求でユーザー ID とパスワードを指定する必要があります。

DEFAULTUSER
CICS は、パートナー・システムからのユーザー ID およびパスワードを受け入れません。すべての要求は、デフォルトのユーザー ID で実行されます。

条件

END
RESP2 値は以下のとおりです。

2 このタイプのリソース定義はありません。

ILLOGIC
RESP2 値は以下のとおりです。

1 このリソース・タイプのブラウズが既に実行されているときに START コマンドが出されたか、もしくは、このリソース・タイプのブラウズが実行されていないときに NEXT または END コマンドが出された。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

SYSIDERR
RESP2 値は以下のとおりです。

1 IPIC 接続が見つかりません。

INQUIRE IPFACILITY

IP 機能に関する情報を取得します。

INQUIRE IPFACILITY

```
►►—INQUIRE IPFACILITY(data-value)—IPCONN(データ域)—IPFACILTYPE(cvda)————————►◄
```

条件**:** ILLOGIC、NOTAUTH、NOTFIND

CVDA の使用について詳しくは、CICS-value data areas (CVDAs)を参照してください。

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

INQUIRE IPFACILITY コマンドは、CICS システムにインストールされた特定の IPFACILITY に関する情報を戻します。

オプション

IPFACILITY (*data-value*)
照会する IP 機能を識別する 4 バイトのバイナリー・トークンを指定します。これは、INQUIRE TASK コマンドから IPFACILITIES リストに戻されるトークンのいずれかでなければなりません。

IPCONN(データ域)
この IP 機能が関連付けられている IPCONN の 8 文字の値を戻します。

IPFACILTYPE (*cvda*)
cvda 値を戻します。ここで、

PRINCIPAL
これはタスクの基本機能です。

ALTERNATE
これはタスクの代替機能です。

条件

ILLOGIC
RESP2 値は以下のとおりです。

1 IPFACILITY リソースのブラウズが既に実行されているときに START コマンドが出されたか、IPFACILITY リソースのブラウズが実行されていないときに、NEXT または END コマンドが出されました。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

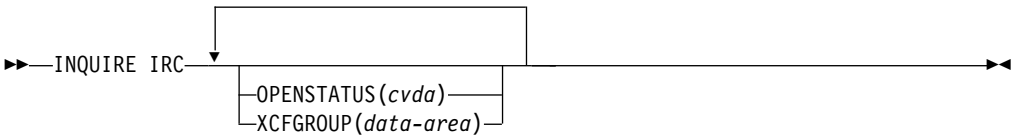
NOTFIND
RESP2 値は以下のとおりです。

1 指定された IPFACILITY が見つかりません。

INQUIRE IRC

IRC 状況を表示します。

INQUIRE IRC



条件: NOTAUTH

CVDA の使用について詳しくは、CICS-value data areas (CVDAs)を参照してください。

説明

INQUIRE IRC コマンドは、領域間通信 (IRC) が CICS システムでオープンしているか、クローズしているか、または遷移状態かを示します。複数領域操作 (MRO) 機能のいずれか (IRC、XM、または XCF) を使用して別の CICS 領域と通信するには、ご使用の CICS 領域について IRC がオープンしていなければなりません。

オプション

OPENSTATUS(*cvda*)
システム内の IRC の状況を識別する CVDA 値を戻します。 CVDA 値は次のとおりです。

CLOSED
IRC はこのシステムではクローズされているか、システムに存在しません。

CLOSING
MRO を静止するための SET IRC CLOSED 要求を受け取りました。 MRO リンクを既に使用しているタスクは完了できるようにされていますが、新規タスクは MRO リンクを使用できません。

IMMCLOSING
MRO を即時シャットダウンするための SET IRC IMMCLOSE 要求を受け取りました。 MRO リンクを使用していたタスクは異常終了します。

OPEN
IRC はこのシステムではオープンしています。

XCFGROUP(*data-area*)
この領域がメンバーとなっているシステム間カップリング・ファシリティー (XCF) グループの 8 文字名を戻します。

この領域が XCF グループのメンバーでない場合 (IRC にサインオンしていないため)、XCFGROUP には XCF がオープンしていた場合に領域が入っていたはずの XCF グループが含まれます。

条件

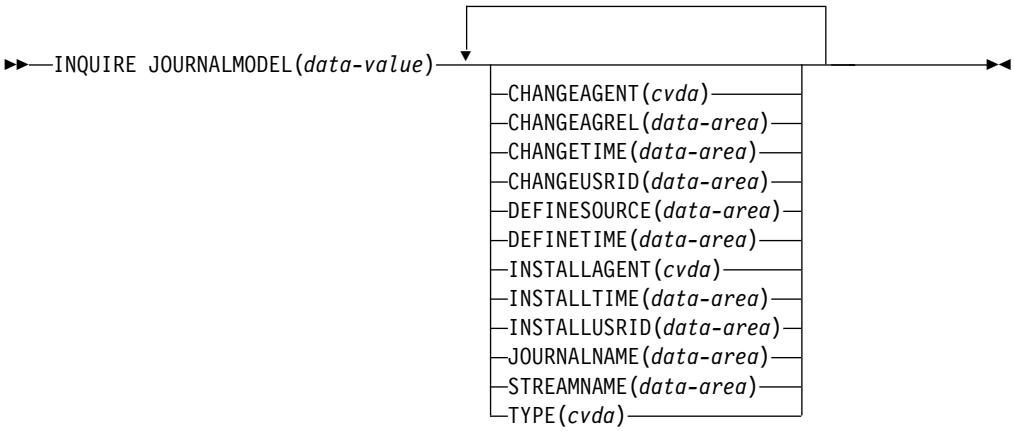
NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

INQUIRE JOURNALMODEL

インストールされたジャーナル・モデルについての情報を取得します。これにより対応するログ・ストリーム名を得ることができます。

INQUIRE JOURNALMODEL



条件: END、ILLOGIC、NOTAUTH、NOTFND

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

INQUIRE JOURNALMODEL コマンドは、特定のインストール済みジャーナル・モデルに関する情報を戻して、対応するログ・ストリーム名を取得できるようにします。

ブラウズ

INQUIRE JOURNALMODEL コマンドでブラウズ・オプション (START、NEXT、および END) を使用することにより、システム上のすべてのジャーナル・モデル名をブラウズすることもできます。ブラウズに関する一般情報 (構文、例外条件、および例を含む) については、Browsing resource definitionsを参照してください。

CICS は、ジャーナル・モデルで指定された JOURNALNAME の英数字順にジャーナル・モデルを戻しますが、総称名の前に固有名が戻されます。ジャーナル・モデルで定義されたジャーナル名の以下の例は、JOURNALMODEL のブラウズ操作でジャーナル・モデルが戻される順序を示します。

DFHJ15
DFHJ25
DFHJ%0
DFH*
USERJNL1
USERJNL2
USERJNL*

リソース・シグニチャー

このコマンドを使用して、リソース・シグニチャー・フィールドを検索することができます。これらのフィールドを使用すると、リソースの定義時、インストール時、および最終変更時の詳細データを収集して、リソースを管理できます。 詳しく

は、Auditing resourcesを参照してください。 リソース・シグニチャー・フィールドは BUNDLE、CHANGEAGENT、CHANGEAGREL、CHANGETIME、CHANGEUSRID、DEFINESOURCE、DEFINETIME、INSTALLAGENT、INSTALLTIME、および INSTALLUSRID です。リソース・シグニチャー・フィールドの内容について詳しくは、Summary of the resource signature field valuesを参照してください。

オプション

CHANGEAGENT(*cvda*)
リソース定義を最後に変更したエージェントを識別する CVDA 値を戻します。有効な値は、以下のとおりです。

CREATESPI
リソース定義は **EXEC CICS CREATE** コマンドによって最後に変更されました。

CSDAPI
リソース定義は、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによって最後に変更されました。

CSDBATCH
リソース定義は、DFHCSDUP ジョブによって最後に変更されました。

DREPAPI
リソース定義は、CICSPlex SM BAS API コマンドによって最後に変更されました。

CHANGEAGREL(*data-area*)
リソース定義の最終変更時に実行していた CICS リリースの 4 桁の数値を戻します。

CHANGETIME(*data-area*)
リソース定義の最終変更時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。ABSTIME 値のフォーマットについて詳しくは、FORMATTIMEを参照してください。

CHANGEUSRID(*data-area*)
変更エージェントを実行した 8 文字のユーザー ID を戻します。

DEFINESOURCE(*data-area*)
リソース定義の 8 文字のソースを戻します。DEFINESOURCE 値は CHANGEAGENT 値に依存します。詳しくは、Summary of the resource signature field valuesを参照してください。

DEFINETIME(*data-area*)
リソース定義の作成時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。

INSTALLAGENT(*cvda*)
リソースをインストールしたエージェントを識別する CVDA 値を戻します。有効な値は、以下のとおりです。

CREATESPI
リソースは、**EXEC CICS CREATE** コマンドによってインストールされました。

CSDAPI
リソースは、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによってインストールされました。

GRPLIST
リソースは、**GRPLIST INSTALL** によってインストールされました。

INSTALLTIME(*data-area*)
リソースのインストール時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。

INSTALLUSRID(*data-area*)
リソースをインストールした 8 文字のユーザー ID を戻します。

JOURNALMODEL(*data-value*)
インストールされているジャーナル・モデルの名前を 1 から 8 文字で指定します。

JOURNALNAME(*data-area*)
1 文字から 8 文字のジャーナル名 (固有名または総称名にすることができます) を戻します。JOURNALNAME オペランドについて詳しくは、JOURNALMODEL 属性を参照してください。

STREAMNAME(*data-area*)
JOURNALMODEL エントリーに関連した MVS ログ・ストリーム名 (LSN) を戻します。

名前は、特定の LSN にするか、または 4 つのシンボル &USERID、&APPLID、&JNAME、および &SYSID のうち任意の最大 3 つのシンボルを使用するテンプレートにすることができます。

名前、LSN、またはテンプレートの長さは、最大 26 文字まで可能です。26 文字より短い名前は、末尾ブランク (X'40') で埋め込まれます。

TYPE(*cvda*)
ログ・ストリーム・タイプを示します。CVDA 値は以下のとおりです。

DUMMY
レコードはどのログ・ストリームにも書き込まれません。

MVS レコードは MVS ログ・ストリームに書き込まれます。

SMF レコードは MVS SMF ログ・ストリームに書き込まれます。

条件

END
RESP2 値は以下のとおりです。

2 許可されているリソースすべてが取得されました。このコマンドで指定されたすべてのデータ域が未変更のままになります。

ILLOGIC
RESP2 値は以下のとおりです。

1 ブラウズが既に実行されているときに START が出されたか、START を先行させることなく NEXT または END が出されました。

2 ブラウズ・トークンが無効です。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 ユーザーにはこのコマンドに対する権限がありません。

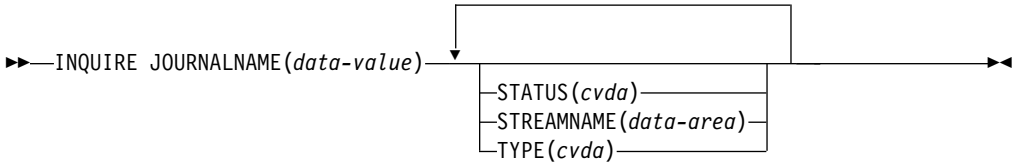
NOTFND
RESP2 値は以下のとおりです。

1 指定されたジャーナル・モデルが見つかりませんでした。

INQUIRE JOURNALNAME

システム・ログおよび一般ログの状況に関する情報を取得します。

INQUIRE JOURNALNAME



条件: END、ILLOGIC、JIDERR、NOTAUTH

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

INQUIRE JOURNALNAME コマンドは、システム上のジャーナル (システム・ログと一般的なログを含む) に関する情報を戻します。

ブラウズ

INQUIRE JOURNALNAME コマンドでブラウズ・オプション (START、NEXT、および END) を使用することにより、システム上のジャーナル名テーブル内のすべてのジャーナル項目をブラウズすることもできます。ブラウズに関する一般情報 (構文、例外条件、および例を含む) については、Browsing resource definitionsを参照してください。

オプション

JOURNALNAME(*data-value*)
1 文字から 8 文字の範囲でジャーナル名を指定します。

1 から 99 の範囲の数値 ID で定義されたジャーナルを照会するには、ジャーナル名 DFHJ*nn* を指定します。ここで、*nn* はジャーナル番号です。

システム・ログを照会するには、DFHLOG を指定します。

STATUS(*cvda*)
ジャーナルの状況を示します。CVDA 値は次のとおりです。

DISABLED
CEMT、または EXEC CICS、SET JOURNALNAME(...) コマンドによってジャーナルが使用不可になりました。SET JOURNALNAME コマ

ンドの STATUS(ENABLED) または ACTION(RESET) オプションによって再度使用可能になるまで使用できません。

ENABLED
ジャーナルはインストールされ、使用可能です。

FAILED
ジャーナルにログ・ストリーム障害が発生しました。SET JOURNALNAME コマンドの STATUS(ENABLED) または ACTION(RESET) オプションによって再度使用可能になるまで、または次回の CICS 再始動後まで使用できません。ログ・ストリームは、再び使用する前に、MVS システム・ロガー・インベントリーから削除する必要があります。

STREAMNAME(*data-area***)**
ジャーナル名に関連した MVS ロガー・ログ・ストリーム名 (LSN) を戻します。

名前の最大長は 26 文字です。 26 文字より短い名前は、末尾ブランク (X'40') で埋め込まれます。タイプ DUMMY または SMF を指定するジャーナル・モデルでジャーナルが定義される場合、CICS は 26 個のブランクを戻します。

TYPE(*cvda***)**
ログ・ストリーム形式のタイプを示します。CVDA 値は次のとおりです。

DUMMY
レコードはどのログ・ストリームにも書き込まれません。

MVS レコードは MVS ロガー・ログ・ストリームに書き込まれます。

SMF レコードは MVS SMF ログ・ストリームに書き込まれます。

条件

END
RESP2 値は以下のとおりです。

2 許可されているすべてのリソース定義が取得されました。このコマンドで指定されたすべてのデータ域が未変更のままになります。

ILLOGIC
RESP2 値は以下のとおりです。

1 ブラウズが既に実行されているときに START が出されたか、START を先行させることなく NEXT または END が出されました。

JIDERR
RESP2 値は以下のとおりです。

1 指定されたジャーナル名が見つかりませんでした。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 ユーザーにはこのコマンドに対する権限がありません。

101 ユーザーには、指定されたジャーナルへの必要なアクセス権限がありま

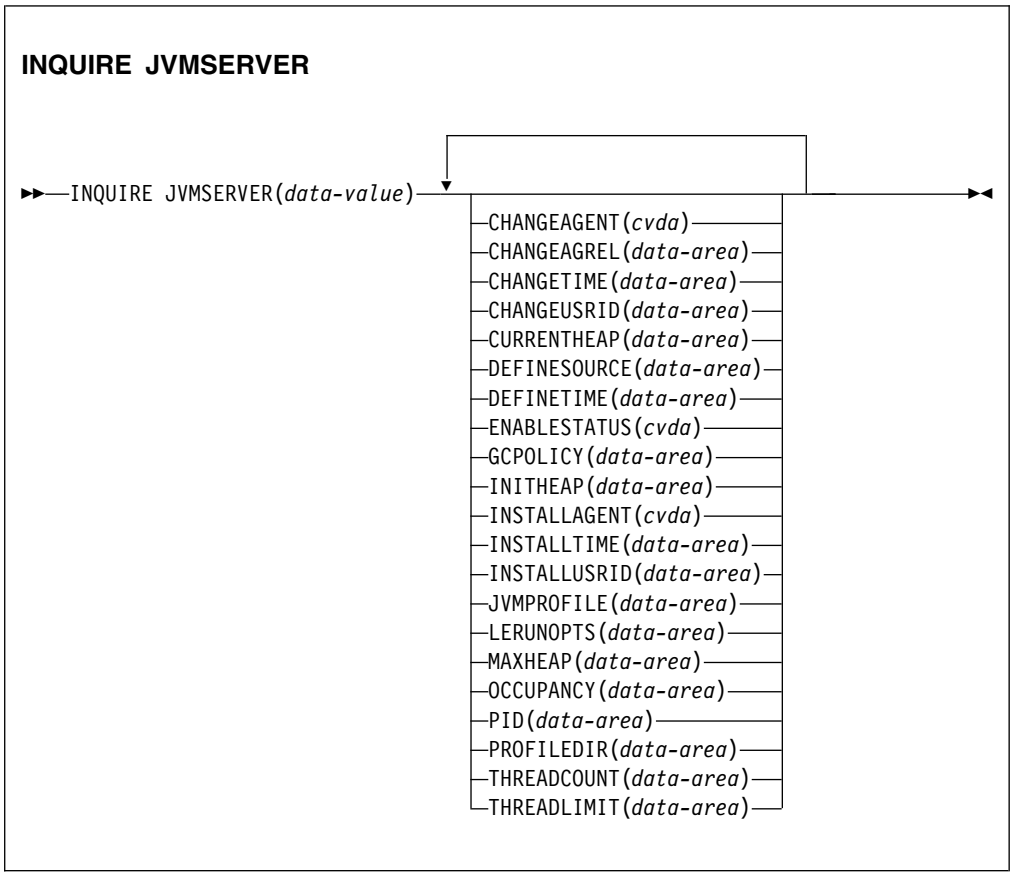
せん。 (INQUIRE JOURNALNAME START、INQUIRE JOURNALNAME NEXT、または INQUIRE JOURNALNAME END コマンドには適用されません。)

INQUIRE JOURNALNUM

このコマンドは、INQUIRE JOURNALNAME コマンドで置き換えられました。 INQUIRE JOURNALNUM のすべてのオプションは廃止され、以前のリリースとの互換性のために CICS が提供する唯一のランタイム・サポートは、JIDERR 例外条件を戻すことです。変換プログラムはこのコマンドを変換しますが、警告メッセージを出します。

INQUIRE JVMSERVER

CICS 領域の JVM サーバー・ランタイム環境に関する情報を取得します。



条件: END、ILLOGIC、NOTAUTH、NOTFND

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

INQUIRE JVMSERVER コマンドにより、CICS 領域で実行中の 1 つ以上の JVM サーバーに関する情報を取得します。

ブラウズ

INQUIRE JVMSERVER コマンドでブラウズ・オプション (START、NEXT、および END) を使用して、領域にインストールされているすべての JVMSERVER リソースをブラウズできます。

リソース・シグニチャー

このコマンドを使用して、リソース・シグニチャー・フィールドを検索することができます。これらのフィールドを使用すると、リソースの定義時、インストール時、および最終変更時の詳細データを収集して、リソースを管理できます。 詳しくは、Auditing resourcesを参照してください。 リソース・シグニチャー・フィールドは BUNDLE、CHANGEAGENT、CHANGEAGREL、CHANGETIME、CHANGEUSRID、DEFINESOURCE、DEFINETIME、INSTALLAGENT、INSTALLTIME、および INSTALLUSRID です。リソース・シグニチャー・フィールドの内容について詳しくは、Summary of the resource signature field valuesを参照してください。

オプション

CHANGEAGENT(*cvda*)
リソース定義を最後に変更したエージェントを識別する CVDA 値を戻します。有効な値は、以下のとおりです。

CREATESPI
リソース定義は **EXEC CICS CREATE** コマンドによって最後に変更されました。

CSDAPI
リソース定義は、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによって最後に変更されました。

CSDBATCH
リソース定義は、DFHCSDUP ジョブによって最後に変更されました。

DREPAPI
リソース定義は、CICSPlex SM BAS API コマンドによって最後に変更されました。

CHANGEAGREL(*data-area*)
リソース定義の最終変更時に実行していた CICS リリースの 4 桁の数値を戻します。

CHANGETIME(*data-area*)
リソース定義の最終変更時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。ABSTIME 値のフォーマットについて詳しくは、FORMATTIMEを参照してください。

CHANGEUSRID(*data-area*)
変更エージェントを実行した 8 文字のユーザー ID を戻します。

CURRENTHEAP(*data-area*)
JVM サーバーに割り振られるヒープの現行サイズをバイト単位で示すダブルワード・バイナリー値を戻します。

DEFINESOURCE(*data-area*)
リソース定義の 8 文字のソースを戻します。DEFINESOURCE 値は CHANGEAGENT 値に依存します。詳しくは、Summary of the resource signature field valuesを参照してください。

DEFINETIME(*data-area*)
リソース定義の作成時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。

ENABLESTATUS(*cvda*)
JVM サーバーの全体状況を示す CVDA 値を戻します。 CVDA 値は以下のとおりです。

ENABLED
JVM サーバーは開始しており、使用可能です。

ENABLING
JVM サーバーは開始しています。

DISABLED
JVM サーバーは停止しており、新規要求は処理できません。

DISABLING
JVM サーバーが停止しています。スレッドは、JVM サーバーが停止する前に開始されていた場合、実行し続けます。

DISCARDING
JVMSERVER リソースを破棄しています。

GCPOLICY(*data-area*)
JVM サーバーにより使用されるガーベッジ・コレクション・ポリシーを示す 32 文字の値を戻します。

INITHEAP(*data-area*)
JVM サーバーに割り振られるヒープの初期サイズをバイト単位で示すダブルワード・バイナリー値を戻します。この値は、JVM プロファイルの **-Xms** オプションにより設定されます。

INSTALLAGENT(*cvda*)
リソースをインストールしたエージェントを識別する CVDA 値を戻します。有効な値は、以下のとおりです。

BUNDLE
リソースは、バンドルのデプロイメントによってインストールされました。

CREATESPI
EXEC CICS CREATE コマンドによってリソースがインストールされました。

CSDAPI
CEDA トランザクションまたは DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによって、リソースがインストールされました。

GRPLIST
GRPLIST INSTALL によってリソースがインストールされました。

INSTALLTIME(*data-area*)
リソースのインストール時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。

INSTALLUSRID(*data-area*)
リソースをインストールした 8 文字のユーザー ID を戻します。

JVMPROFILE(*data-area*)
JVM サーバーのプロファイル名を 1 から 8 文字で戻します。

JVMSERVER(*data-value*)
照会する JVMSERVER リソースの名前を指定します。この名前は、8 文字以内の長さで指定することができます。

LERUNOPTS(*data-area*)
Language Environment® エンクレーブのランタイム・オプションを定義するプログラム名を 1 から 8 文字で戻します。

MAXHEAP(*data-area*)
JVM サーバーに割り振られるヒープの最大サイズをバイト単位で示すダブルワード・バイナリー値を戻します。この値は、JVM プロファイルの **-Xmx** オプションにより設定されます。

OCCUPANCY(*data-area*)
JVM サーバーにおける最後のガーベッジ・コレクションが実行された後のヒープ・サイズをバイト単位で示すダブルワード・バイナリー値を戻します。

PID(*data-area*)
JVM のプロセス ID (PID) を示すフルワード値を戻します。

PROFILEDIR(*data-area*)
JVM サーバーの JVM プロファイルを含む z/OS UNIX 上のディレクトリーに関する 240 文字のデータ値を戻します。ローカルの CICS 領域で定義される (ローカルの CICS 領域に保管される JVM プロファイルを使用する) JVM サーバーの場合、この値は、その CICS 領域に関する JVMPROFILEDIR システム初期設定パラメーター システム初期設定パラメーターで指定されているディレクトリーです。 CICS バンドルで定義される (CICS バンドルにパッケージされる JVM プロファイルを使用する) JVM サーバーの場合、この値は、その JVM プロファイルが保管されている CICS バンドル・サブディレクトリーです。

THREADCOUNT(*data-area*)
JVM サーバー内で現在実行中のスレッド数を示すフルワード・バイナリー値を戻します。Liberty JVM サーバーによって戻される値は、Liberty のスレッド・プール内でスレッドが管理されることを反映します。つまり、ワークロードが実行中でないときであっても正の値が存在します。この値は、内部アルゴリズムにより自然に増加または減少する場合があります。

THREADLIMIT(*data-area*)
JVM サーバーの Language Environment エンクレーブで許可されているスレッド数を示すフルワード・バイナリー値を戻します。各スレッドは T8 TCB で実行します。

条件

END

RESP2 値は以下のとおりです。

2 このタイプのリソース定義はありません。

ILLOGIC

RESP2 値は以下のとおりです。

1 このリソース・タイプのブラウズがすでに実行されているときに START コマンドが出されたか、もしくは、このリソース・タイプのブラウズが実行されていないときに NEXT または END コマンドが出されました。

NOTAUTH

RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

101

発行中のタスクに関連付けられているユーザーは、この JVM サーバーへのアクセスが許可されていません。

NOTFND

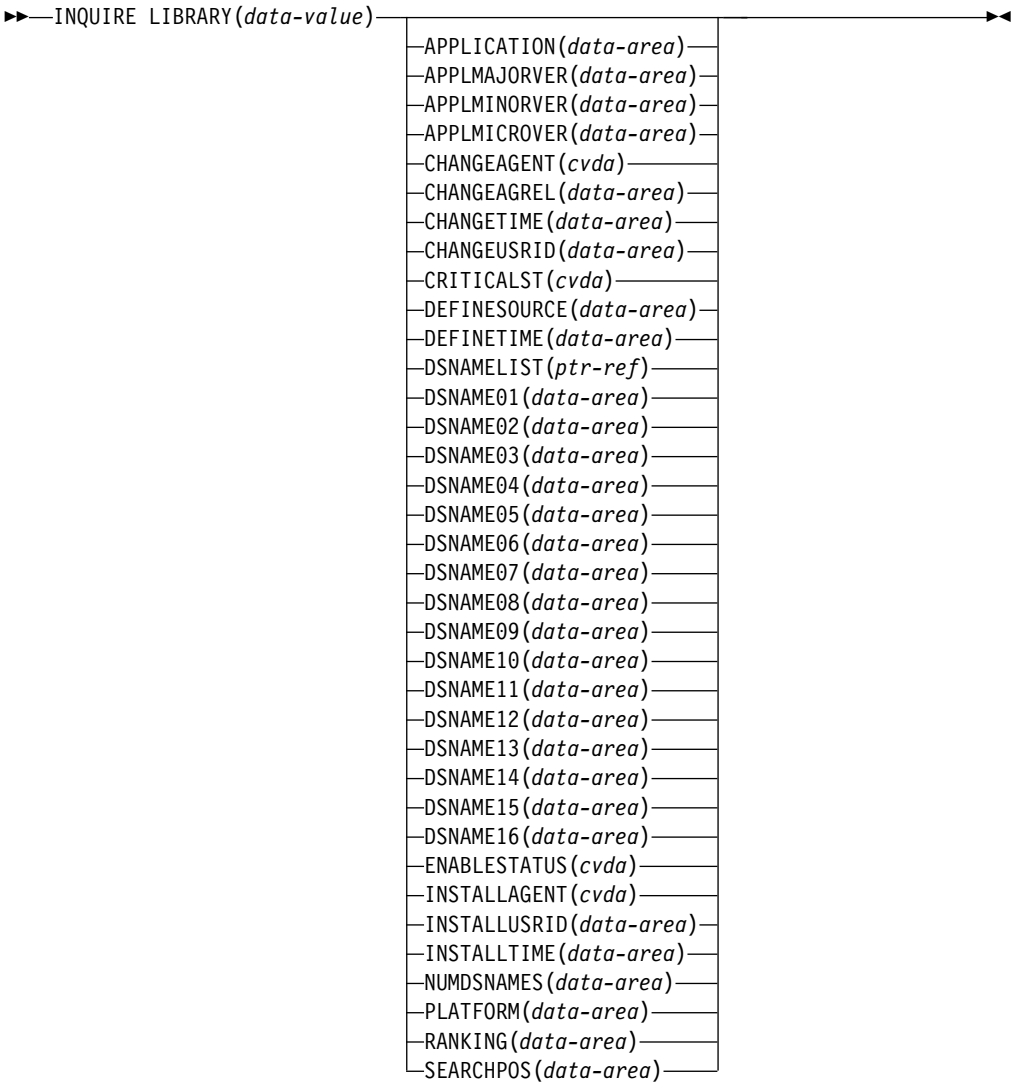
RESP2 値は以下のとおりです。

3 JVMSERVER リソースが見つかりません。

INQUIRE LIBRARY

LIBRARY リソースに関する情報を取得します。

INQUIRE LIBRARY



条件: APPNOTFOUND、END、ILLOGIC、NOTAUTH、NOTFND

CVDA の使用の詳細については、CICS-value data areas (CVDAs)を参照してください。

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

INQUIRE LIBRARY コマンドは、CICS システムにインストールされている特定の LIBRARY リソースに関する情報を返します。

ブラウズ

また、INQUIRE LIBRARY コマンドでブラウズ・オプション (START、NEXT、および END) を使用することにより、システム内の LIBRARY リソースをブラウズできます。ブラウズ・モードでは、LIBRARY リソースは検索順序で返されます。最初に返されるのは、その検索順序における最初の LIBRARY 連結です。ブラウズに関する一般情報 (構文、例外条件、および例を含む) については、Browsing

resource definitionsを参照してください。

アプリケーションの専用リソース

プラットフォームにインストールされているアプリケーションの一部として定義される LIBRARY 連結は、そのアプリケーションの特定のバージョン専用のものです。サポートされるリソース・タイプ (LIBRARY 連結を含む) においては、リソースが、アプリケーションの一部として (つまり、アプリケーション・バンドルの一部として、またはアプリケーション・バインディング・バンドルの一部として) パッケージされてインストールされる CICS バンドルで定義される場合、専用リソースになります。他の方式によって定義される LIBRARY 連結は、すべてのタスクに共通して使用可能になり、公用 LIBRARY 連結と呼ばれます。

専用リソースを照会またはブラウズするために、リソース・タイプに対する **EXEC CICS INQUIRE** システム・プログラミング・コマンドを使用できます。デフォルトでは、CICS は、**EXEC CICS INQUIRE** コマンドが発行されたプログラムで使用可能な専用リソースを検索します。指定したアプリケーションの専用リソースをブラウズすることも選択できます。

- 公用プログラムから **EXEC CICS INQUIRE LIBRARY** コマンドを発行すると、指定された公用 LIBRARY リソースに関する情報が返されます。その LIBRARY リソースが公用リソースとしては使用できない場合、NOTFND 条件が返されます。
- アプリケーション・コンテキストで実行されているプログラムから **EXEC CICS INQUIRE LIBRARY** コマンドを発行すると、そのアプリケーションに関する指定された専用 LIBRARY リソースに関する情報が返されます (存在する場合)。そのアプリケーションにその名前の専用 LIBRARY リソースが存在しない場合には、指定された名前の公用 LIBRARY リソースに関する情報が返されます。そのリソースが、そのアプリケーションの専用 LIBRARY リソースとしても、公用 LIBRARY リソースとしても使用できない場合、NOTFND 条件が返されます。
- ブラウズ・モードで **EXEC CICS INQUIRE LIBRARY** コマンドを使用すると、コマンド発行元のプログラムと、特定のアプリケーション・コンテキストを指定したかどうかの両方に基づいてリソースが返されます。異なるアプリケーション・コンテキストでのブラウズの例を含め、専用リソースのブラウズについて詳しくは、Browsing resource definitions を参照してください。

リソース・シグニチャー

このコマンドを使用して、リソース・シグニチャー・フィールドを検索することができます。これらのフィールドを使用すると、リソースの定義時、インストール時、および最終変更時の詳細データを収集して、リソースを管理できます。 詳しくは、Auditing resourcesを参照してください。 リソース・シグニチャー・フィールドは BUNDLE、CHANGEAGENT、CHANGEAGREL、CHANGETIME、CHANGEUSRID、DEFINESOURCE、DEFINETIME、INSTALLAGENT、INSTALLTIME、および INSTALLUSRID です。リソース・シグニチャー・フィールドの内容について詳しくは、Summary of the resource signature field valuesを参照してください。

オプション

APPLICATION(*data-area***)**
アプリケーション・コンテキストのアプリケーション名エレメントを指定します。このアプリケーション名は、64 文字以内の長さで指定することができます。

プラットフォームにデプロイされたアプリケーションの専用リソースをブラウズするには、ブラウズ・コマンド START に APPLICATION、APPLMAJORVER、APPLMINORVER、APPLMICROVER、および PLATFORM の各オプションを使用して、ブラウズ対象リソースが属するアプリケーションのプラットフォーム、アプリケーション名、およびフルバージョン番号を指定します。

APPLMAJORVER(*data-area***)**
アプリケーション・コンテキストのアプリケーション・メジャー・バージョン・エレメントをフルワード・バイナリー形式で指定します。

APPLMINORVER(*data-area***)**
アプリケーション・コンテキストのアプリケーション・マイナー・バージョン・エレメントをフルワード・バイナリー形式で指定します。

APPLMICROVER(*data-area***)**
アプリケーション・コンテキストのアプリケーション・マイクロ・バージョン・エレメントをフルワード・バイナリー形式で指定します。

CHANGEAGENT(*cvda***)**
リソース定義を最後に変更したエージェントを識別する CVDA 値を戻します。有効な値は、以下のとおりです。

CREATESPI
リソース定義は **EXEC CICS CREATE** コマンドによって最後に変更されました。

CSDAPI
リソース定義は、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによって最後に変更されました。

CSDBATCH
リソース定義は、DFHCSDUP ジョブによって最後に変更されました。

DREPAPI
リソース定義は、CICSPlex SM BAS API コマンドによって最後に変更されました。

SYSTEM
リソース定義は、CICS または CICSPlex システムによって最後に変更されました。

CHANGEAGREL(*data-area***)**
リソース定義の最終変更時に実行していた CICS リリースの 4 桁の数値を戻します。

CHANGETIME(*data-area*)
リソース定義の最終変更時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。ABSTIME 値のフォーマットについて詳しくは、FORMATTIMEを参照してください。

CHANGEUSRID(*data-area*)
変更エージェントを実行した 8 文字のユーザー ID を戻します。

CRITICALST(*cvda*)
LIBRARY 連結が CICS の始動にとってクリティカルであるかどうかを示す CVDA 値を返します。 CVDA 値は以下のとおりです。

CRITICAL
LIBRARY は CICS の始動にとってクリティカルです。 CICS の始動時に何らかの理由でライブラリーを正常にインストールできない場合、GO または CANCEL メッセージが出されます。オペレーターは、クリティカル状況をオーバーライドして CICS の始動を許可するかどうかを決定できます。 CICS が続行を許可される場合、ストレージ不足条件などによってインストールが不可能になっているのでなければ、ライブラリーは DISABLED 状況でインストールされます。

始動を続行する応答をしても、ライブラリーは NONCRITICAL として再カタログされません。そのため、ライブラリーを今後 CRITICAL とみなさないことにする場合、クリティカル状況を明示的に NONCRITICAL に設定する必要があります。

NONCRITICAL
ライブラリーは CICS の始動にクリティカルではありません。CICS の始動時にライブラリーを正常にインストールできない場合、ライブラリーはインストール済みでも使用不可の状態のままになります。
LIBRARY のインストールができない場合、警告メッセージが出され、CICS の始動は続行します。

LIBRARY(*data-value*)
照会する LIBRARY の 8 文字の名前を指定します。

DEFINESOURCE(*data-area*)
リソース定義の 8 文字のソースを戻します。DEFINESOURCE 値は CHANGEAGENT 値に依存します。詳しくは、Summary of the resource signature field valuesを参照してください。

DEFINETIME(*data-area*)
リソース定義の作成時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。

DSNAMELIST(*ptr-ref*)
LIBRARY 連結内のすべてのデータ・セットを含むバッファーのアドレスを戻します。バッファーには、44 文字のデータ・セット名の配列が含まれます。このバッファーは、DFHRPL 連結に 16 個を超えるデータ・セットが含まれる状況での使用を意図したものです。データ・セットの数は NUMDSNAMES パラメーターで示されますが、ライブラリーが DFHRPL ではない場合、リスト内のいくつかのスロットのデータ・セット名が動的 LIBRARY 定義で指定されていなければ、それらの位置は空になります。

DSNAME01-16(*data-area*)
ライブラリー連結のデータ・セットの 44 文字の名前を返します。このライブラリーが動的に定義される場合、これらは LIBRARY 定義に指定されたデータ・セットで、1 つを除いてすべてがブランクです。静的に定義された DFHRPL である場合、これらは DFHRPL 連結での最初の 16 のデータ・セットであるか、または最大 16 の指定された数のデータ・セットで残りの DSNAMExx フィールドがブランクとなります。DFHRPL 連結に 16 個を超えるデータ・セットが含まれる場合、DSNAMELIST オプションを使用してすべてのデータ・セットを取得できます。

ENABLESTATUS(*cvda*)
ライブラリーが、ライブラリー全体の検索順序に現在含まれるかどうかを示す CVDA 値を返します。 CVDA 値は以下のとおりです。

DISABLED
LIBRARY は使用不可になっていて、現在はライブラリー検索順序に含まれていません。 この LIBRARY 連結内のデータ・セットで、ロードするプログラム成果物を検索しません。

DISABLING
ライブラリーを無効にする要求が受信されましたが、まだ処理中です。

ENABLED
ライブラリーは使用可能になっていて、現在はライブラリー検索順序に含まれています。このライブラリー連結内のデータ・セットで、ロードするプログラム成果物を検索します。

ENABLING
ライブラリーを有効にする要求が受信されましたが、まだ処理中です。

DISCARDING
CICS システムから LIBRARY を破棄する要求が受信されましたが、まだ処理中です。

INSTALLAGENT(*cvda*)
リソースをインストールしたエージェントを識別する CVDA 値を戻します。有効な値は、以下のとおりです。

BUNDLE
リソースは、バンドルのデプロイメントによってインストールされました。

CREATESPI
リソースは、**EXEC CICS CREATE** コマンドによってインストールされました。

CSDAPI
リソースは、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによってインストールされました。

GRPLIST
リソースは、**GRPLIST INSTALL** によってインストールされました。

SYSTEM
リソースは、CICS または CICSPlex SM システムによってインストールされました。

INSTALLTIME(*data-area*)
リソースのインストール時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。

INSTALLUSRID(*data-area*)
リソースをインストールした 8 文字のユーザー ID を戻します。

NUMDSNAMES(*data-area*)
ライブラリー連結内のデータ・セットの数を示すフルワード・バイナリー値を返します。動的に定義されたライブラリーでは、この値はブランクでない DSNAMExx の値の数で、16 より大きい値にすることはできません。静的に定義された DFHRPL の場合、この値は連結内のデータ・セットの数になり、16 より大きい値にすることができます。

PLATFORM(*data-area*)
アプリケーション・コンテキストのプラットフォーム名エレメントを指定します。このプラットフォーム名は、64 文字以内の長さで指定することができます。

RANKING(*data-area*)
全体的な LIBRARY 検索順序の中でこのライブラリーが出現する位置を他の LIBRARY 連結との相対関係で示す、フルワード・バイナリー値を返します。値が小さい場合、ロードするプログラムを探すために、ランキング番号が大きい他の LIBRARY リソースの前にこの LIBRARY が検索されることを示します。検索順序の中でライブラリーは、ランキング順に現れます。ただし、RANKING の等しいライブラリーが検索順序の中で現れる順序は、ローカル CICS システムにそれらがインストールまたは作成された順序になり、前にインストールされたライブラリーの方が、後でインストールされたものよりも先に出現します。

SEARCHPOS(*data-area*)
全体的な LIBRARY 検索順序におけるこのライブラリーの現在の絶対位置を示すフルワード・バイナリー値を返します。検索順序が 1 番目の使用可能なライブラリーは SEARCHPOS が 1 で、次の使用可能なライブラリーは SEARCHPOS が 2、というようになります。 SEARCHPOS は RANKING と同じではありませんが、その値はシステム内の様々なライブラリー・リソースの相対的なランキングの値により決定されます。

同じ RANKING 値を持つ他のライブラリー・リソースがある場合、相互に関連したそれらの SEARCHPOS 値はインストール時間または作成時間に基づいて決定されますが、それらの SEARCHPOS 値の相対的な関係は、ウォーム・リスタートや緊急リスタートの前後で保持されます。 RANKING が同じであるライブラリー・リソースの SEARCHPOS 値の相対的な関係がコールド・スタートや初期スタートの後に同じ値であるという保証はありません。

ライブラリーが無効にされている場合、SEARCHPOS は 0 となり、その ライブラリーが全体的な検索順序に含まれないことが示されます。

条件

APPNOTFOUND
RESP2 値は以下のとおりです。

1 アプリケーション・コンテキストを指定して START コマンドが発行されました。指定されたアプリケーションが見つかりません。

END

RESP2 値は以下のとおりです。

2 このタイプのリソース定義はありません。

ILLOGIC

RESP2 値は以下のとおりです。

1 ライブラリー・リソースのブラウズが既に実行されているときに START コマンドが出されたか、ライブラリー・リソースのブラウズが実行されていないときに、NEXT または END コマンドが出されました。

NOTAUTH

RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

NOTFND

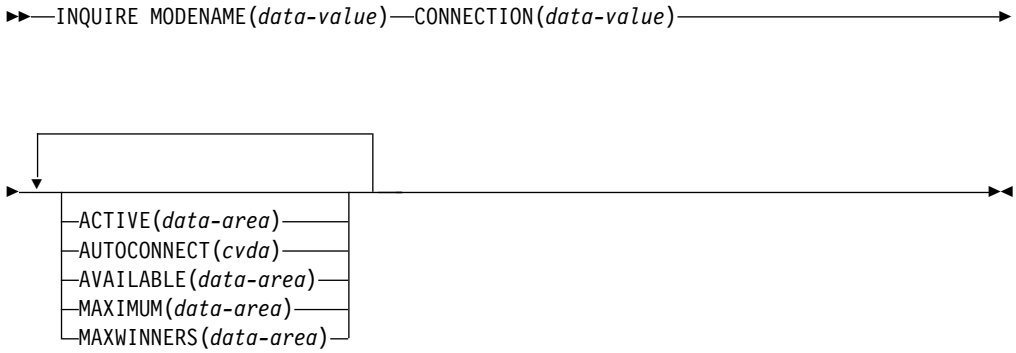
RESP2 値は以下のとおりです。

1 指定されたライブラリーが見つかりません。

INQUIRE MODENAME

接続内のセッション・グループに関する情報を取得します。

INQUIRE MODENAME



状態: END、ILLOGIC、NOTAUTH、SYSIDERR

CVDA の使用について詳しくは、CICS-value data areas (CVDAs)を参照してください。

説明

INQUIRE MODENAME コマンドは、リモート・システムへの接続内で定義されたセッションのグループ (「モード」とも呼ばれる) に関する情報を返します。 (グループの MODENAME とは、そのグループを作成する SESSIONS リソース定義に割り当てられている名前のことです。)

MODENAME は特定の接続中で固有ですが、接続間で固有ではありません。したがって、特定のセッション・グループを参照するには、MODENAME オプションと CONNECTION オプションの両方のデータ値を指定しなければなりません。

ブラウズ

INQUIRE MODENAME コマンドでブラウズ・オプション (START、NEXT、および END) を使用することによって、特定の接続のすべてのセッション・グループ、またはすべての接続のすべてのグループをブラウズすることもできます。

単一の **INQUIRE MODENAME** コマンドの場合と同様に、MODENAME オプションと CONNECTION オプションの両方を **INQUIRE MODENAME NEXT** コマンドに組み込む必要があります。 MODENAME の data-value はオプションです。指定すると、CICS はその値を使用してセッション・グループの名前を戻します。単一の接続だけにブラウズを制限したい場合は、CONNECTION に data-value を指定します。

すべてのグループを表示するには、**INQUIRE MODENAME NEXT** コマンドを実行する前に CONNECTION data-value を初期設定します。各 **INQUIRE MODENAME NEXT** コマンドの CONNECTION data-value からの出力を、次の **INQUIRE MODENAME NEXT** コマンドへの入力として使用します。その上で、すべての接続のすべてのモード名をブラウズすることができます。

ブラウズに関する一般情報 (構文、例外条件、および例を含む) については、Browsing resource definitionsを参照してください。

オプション

ACTIVE(*data-area***)**
現在使用中のグループ内のセッション数を示すハーフワード・バイナリー・フィールドを戻します。

AUTOCONNECT(*cvda***)**
CICS が z/OS Communications Server との通信を開始するたびに、このグループ内のセッションを自動的にバインドするかどうかを示す CVDA 値を戻します。CVDA 値は次のとおりです。

ALLCONN
CICS はコンテンション勝者セッションとコンテンション敗者セッションの両方のバインドを試行します。

AUTOCONN
CICS はコンテンション勝者に関するセッションのみバインドを試行します。

NONAUTOCONN
CICS は、セッションのバインドを一切試みません。

AVAILABLE(*data-area***)**
グループ内のセッションの現在の数 (「バインド済み」の数) を示すハーフワード・バイナリー・フィールドを戻します。

CONNECTION(*data-value***)**
このセッション・グループと関連しているリモート・システムの 4 文字の ID (そのシステムの CONNECTION リソース定義の名前) を指定します。

MAXIMUM(*data-area*)
セッション・グループの定義が許可するセッションの最大数を示すハーフワード・バイナリー・フィールドを戻します。

MAXWINNERS(*data-area*)
セッション・グループの定義がコンテンション勝者であることを許可するセッションの最大数を示すハーフワード・バイナリー・フィールドを戻します。このフィールドでは、RDO または自動インストールによってインストールされた単一セッション APPC 定義は常に 0 として表示されます。

MODENAME(*data-value*)
照会しようとしているセッションのグループの 8 文字の ID を指定します。モード名は、グループの SESSIONS リソース定義の名前です。

条件

END
RESP2 値は以下のとおりです。

2 このタイプのリソース定義はありません。

ILLOGIC
RESP2 値は以下のとおりです。

1 このリソース・タイプのブラウズが既に実行されているときに START コマンドが出されたか、もしくは、このリソース・タイプのブラウズが実行されていないときに NEXT または END コマンドが出された。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

SYSIDERR
RESP2 値は以下のとおりです。

1 接続が見つかりません。

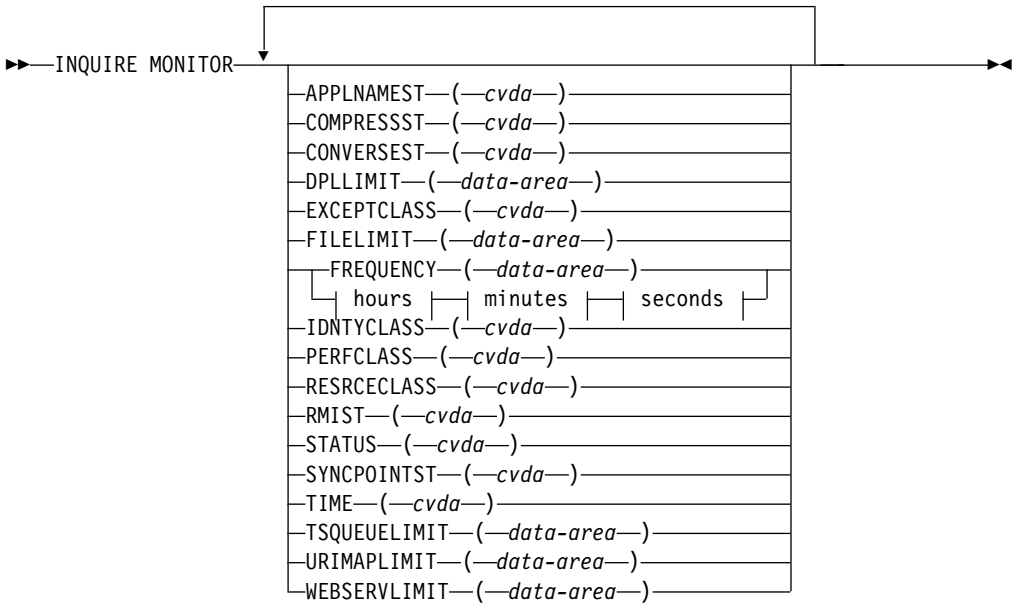
2 接続中にモードネーム (MODENAME) が見つかりません。

3 **INQUIRE MODENAME NEXT** で指定された接続が見つかりません。

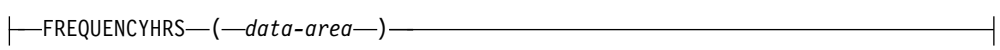
INQUIRE MONITOR

CICS モニターの状況を取得します。

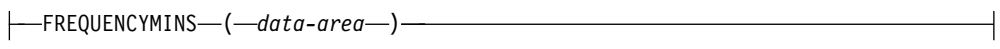
INQUIRE MONITOR



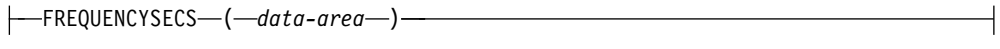
hours:



minutes:



seconds:



条件**:** NOTAUTH

このコマンドはスレッド・セーフです。

CVDA の使用の詳細については、CICS-value data areas (CVDAs)を参照してください。

説明

INQUIRE MONITOR コマンドを使用することにより、CICS モニターがアクティブであるかどうか、記録されているデータのタイプ、および他の記録オプションを検出することができます。

CICS モニターは、マスター・スイッチ (STATUS オプション) と、どのタイプのデータが記録されるかを制御する 4 つのスイッチ (EXCEPTCLASS、PERFCLASS、RESRCECLASS、および IDNTYCLASS の各オプション) によって制御されます。モニター・データ・クラスについて、およびスイ

ッチが相互作用する方法について詳しくは、「 794 ページの『SET MONITOR』コマンド」を参照してください。

オプション

APPLNAMEST(*cvda***)**
CICS アプリケーション・ネーミング・サポートが使用可能かどうかを示す CVDA 値を戻します。CVDA 値は以下のとおりです。

APPLNAME
CICS アプリケーション・ネーミング・サポートは使用可能です。

NOAPPLNAME
CICS アプリケーション・ネーミング・サポートは有効ではありません。

COMPRESSST(*cvda***)**
CICS モニター機能によって生成される CICS SMF 110 モニター・レコードでデータ圧縮がアクティブになっているかどうかを示す CVDA 値を返します。CVDA 値は以下のとおりです。

COMPRESS
モニター・レコードのデータ圧縮を実行します。データ圧縮はデフォルトです。

NOCOMPRESS
モニター・レコードのデータ圧縮を実行しません。

CONVERSEST(*cvda***)**
CICS が会話型タスク (端末またはセッション入力を待機するタスク) のパフォーマンス・データを記録する方法を示す CVDA 値を戻します。CVDA 値は以下のとおりです。

CONVERSE
CICS は、端末入力を待機するたびに、およびタスク終了時に、前回の端末待ち、またはタスク開始以降のタスクの一部を表す、会話型タスクのパフォーマンス・クラス・レコードを生成します。これらの待機は、SEND の後に続く CONVERSE コマンドまたは RECEIVE コマンドの実行中に発生します。

NOCONVERSE
CICS は、複数回の端末待ちにわたってパフォーマンス・データを累算して、会話型タスクの単一のパフォーマンス・クラス・レコードを生成します。

DPLLIMIT(*data-area***)**
CICS がトランザクション・リソース・モニターを実行する対象の分散プログラム・リンク要求の最大数を戻します。

EXCEPTCLASS(*cvda***)**
モニターがアクティブなときに、モニター・データの例外クラスを記録するかどうかを示す CVDA 値を戻します。CVDA 値は以下のとおりです。

EXCEPT
例外データが記録されます。

NOEXCEPT
例外データは記録されません。

FILELIMIT(*data-area***)**
CICS がトランザクション・リソース・モニターを実行するファイルの最大数を戻します。

FREQUENCY(*data-area***)**
CICS が長期実行タスクに対してパフォーマンス・クラス・レコードを生成する間隔を戻します。タスクがこの FREQUENCY 間隔よりも長く実行されると、CICS は間隔または部分ごとにパフォーマンス・データを個別に記録します。

繰り返し間隔には次の 2 つの形式があります。

- FREQUENCY オプションを使用することによって取得される複合形式 (パック 10 進数フォーマット 0hhmmss+、4 バイトの長さ)。
- FREQUENCYHRS、FREQUENCYMIN、および FREQUENCYSEC オプションを指定することによって取得される、個別の時間、分、および秒。

値ゼロは、頻度レポートが非アクティブであることを示します。つまり、パフォーマンス・データのレコードはタスク期間の影響を受けません。

FREQUENCYHRS(*data-area***)**
頻度間隔の時間コンポーネントをフルワード・バイナリー形式で戻します。FREQUENCY オプションを参照してください。

FREQUENCYMIN(*data-area***)**
頻度間隔の分コンポーネントをフルワード・バイナリー形式で戻します。FREQUENCY オプションを参照してください。

FREQUENCYSEC(*data-area***)**
繰り返し間隔の秒の構成要素をフルワード・バイナリー形式で戻します。FREQUENCY オプションを参照してください。

IDNTYCLASS(*cvda*)
モニターがアクティブのときにモニター・データの ID クラスを記録するかどうかを示す CVDA 値を戻します。 CVDA 値は以下のとおりです。

IDNTY
ID データが記録されます。

NOIDNTY
ID データは記録されません。

PERFCLASS(*cvda***)**
モニターがアクティブなときに、モニター・データのパフォーマンス・クラスを記録するかどうかを示す CVDA 値を戻します。CVDA 値は以下のとおりです。

NOPERF
パフォーマンス・データは記録されません。

PERF パフォーマンス・データが記録されます。

RESRCECLASS(*cvda***)**
トランザクション・リソース・モニターが CICS 領域でアクティブであるかどうかを示す CVDA 値を戻します。CVDA 値は以下のとおりです。

NORESRCE
トランザクション・リソース・モニターがアクティブではありません。

RESRCE
トランザクション・リソース・モニターはアクティブです。

RMIST(*cvda***)**
トランザクションによって使用されるリソース・マネージャーに対して、追加のパフォーマンス・モニターがアクティブであるかどうかを示す CVDA 値を戻します。CVDA 値は以下のとおりです。

RMI トランザクションによって使用されるリソース・マネージャーに対して、パフォーマンス・モニターはアクティブになっています。

NORMI
トランザクションによって使用されるリソース・マネージャーに対して、パフォーマンス・モニターはアクティブになっていません。

STATUS(*cvda***)**
CICS モニターが領域内でアクティブであるかどうかを示す CVDA 値を戻します。CVDA 値は以下のとおりです。

オフ CICS モニターは領域内でアクティブではありません。モニター・データ・クラスの設定値に関わらず、モニター・データは累積されず、書き出しも行われません。

ON CICS モニターはアクティブです。すべてのクラスのモニター・データについてデータが累積され、アクティブであるクラスごとにデータが書き出されます。

SYNCPOINTST(*cvda***)**
複数の作業単位 (UOW) が入っているタスク内の UOW ごとに、CICS がパフォーマンス・クラス・データを個別に記録するかどうかを示す CVDA 値を戻します。タスク内の UOW は、同期点の明示的な発生時 (SYNCPOINT コマンド) または暗黙的な発生時 (例えば、DL/I TERM 呼び出しまたはタスク終了) に終了します。タスク終了時を除いて UOW の終了直後に新しい UOW が直ちに開始されます。同期点でロールバックが発生する場合、UOW は終了しません。CVDA 値は以下のとおりです。

NOSYNCPOINT
パフォーマンス・データは、記録用にタスク内のすべての UOW で結合されます。

SYNCPOINT
パフォーマンス・データは、各 UOW ごとに個別に記録されます。

TIME(*cvda***)**
COLLECT STATISTICS MONITOR コマンドを使用するアプリケーションに戻されるパフォーマンス・クラスのタイム・スタンプ・フィールドが、現地時間またはグリニッジ標準時のどちらで表されるかを示す CVDA 値を戻します。このオプションの値は、モニター・データの他のクラスには影響しません。 SMF ヘッダーについては、SMF ヘッダーおよび SMF 製品セクションを参照してください。 CVDA 値は以下のとおりです。

GMT タイム・スタンプはグリニッジ標準時です。

LOCAL
タイム・スタンプは地方時です。

TSQUEUELIMIT(*data-area***)**
CICS がトランザクション・リソース・モニターを実行する一時記憶域キューの最大数を戻します。

URIMAPLIMIT(*data-area***)**
WEB OPEN URIMAP コマンドに指定された URIMAP のうち、CICS のトランザクション・リソース・モニターの実行対象になる最大数を返します。

WEBSERVLIMIT(*data-area***)**
INVOKE SERVICE コマンドに指定された WEBSERVICE のうち、CICS のトランザクション・リソース・モニターの実行対象になる最大数を返します。

条件

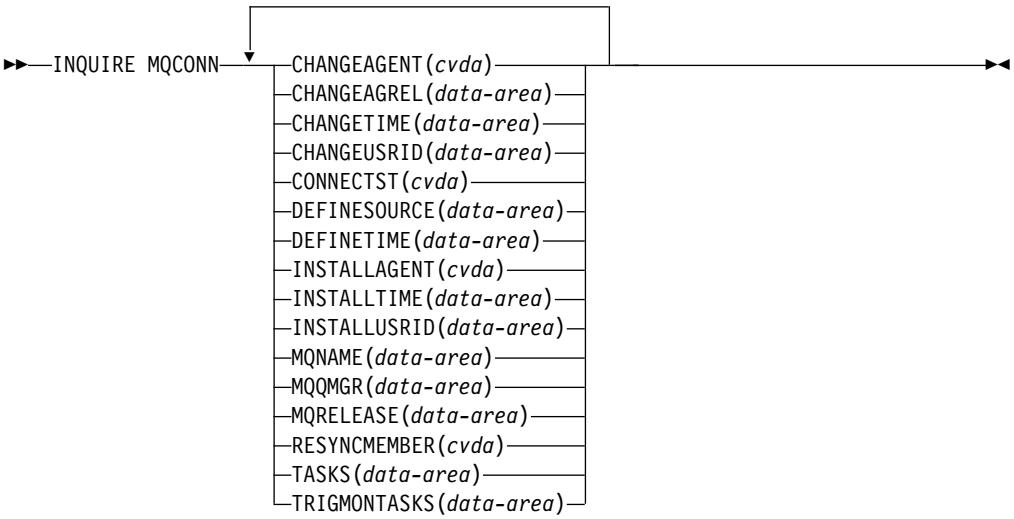
NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

INQUIRE MQCONN

CICS と WebSphere MQ との間の接続の属性と状況について照会します。

INQUIRE MQCONN



条件**:** NOTAUTH、NOTFND

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

INQUIRE MQCONN コマンドでは、現在インストールされている MQCONN リソース定義 (WebSphere MQ への接続の定義) の属性とその接続の状況に関する情報を返します。

一度にインストールできる MQCONN リソース定義は 1 つだけであるため、入力時に MQCONN リソース定義の名前を指定する必要はありません。

このコマンドは、MQCONN リソース定義の INITQNAME 属性 (開始キューの名前を指定する属性) を照会するコマンドではありません。開始キュー名を照会する場合には **INQUIRE MQMONITOR** コマンドを使用します。

リソース・シグニチャー

このコマンドを使用して、リソース・シグニチャー・フィールドを検索することができます。これらのフィールドを使用すると、リソースの定義時、インストール時、および最終変更時の詳細データを収集して、リソースを管理できます。 詳しくは、Auditing resourcesを参照してください。 リソース・シグニチャー・フィールドは BUNDLE、CHANGEAGENT、CHANGEAGREL、CHANGETIME、CHANGEUSRID、DEFINESOURCE、DEFINETIME、INSTALLAGENT、INSTALLTIME、および INSTALLUSRID です。リソース・シグニチャー・フィールドの内容について詳しくは、Summary of the resource signature field valuesを参照してください。

オプション

CHANGEAGENT(*cvda*)
リソース定義を最後に変更したエージェントを識別する CVDA 値を戻します。有効な値は、以下のとおりです。

CREATESPI
リソース定義は **EXEC CICS CREATE** コマンドによって最後に変更されました。

CSDAPI
リソース定義は、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによって最後に変更されました。

CSDBATCH
リソース定義は、DFHCSDUP ジョブによって最後に変更されました。

DREPAPI
リソース定義は、CICSPlex SM BAS API コマンドによって最後に変更されました。

CHANGEAGREL(*data-area*)
リソース定義の最終変更時に実行していた CICS リリースの 4 桁の数値を戻します。

CHANGETIME(*data-area*)
リソース定義の最終変更時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。ABSTIME 値のフォーマットについて詳しくは、FORMATTIMEを参照してください。

CHANGEUSRID(*data-area*)
変更エージェントを実行した 8 文字のユーザー ID を戻します。

CONNECTST*(cvda)*
CICS と MQ との接続の状況を戻します。CVDA 値は以下のとおりです。

CONNECTED
CICS が WebSphere MQ に接続されています。

NOTCONNECTED
CICS が WebSphere MQ に接続されていない。

CONNECTING
CICS は現在 WebSphere MQ への接続を試行しています。

DISCONNING
CICS は現在 WebSphere MQ から切断しています。

DEFINESOURCE(*data-area*)
リソース定義の 8 文字のソースを戻します。DEFINESOURCE 値は CHANGEAGENT 値に依存します。詳しくは、Summary of the resource signature field valuesを参照してください。

DEFINETIME(*data-area*)
リソース定義の作成時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。

INSTALLAGENT(*cvda*)
リソースをインストールしたエージェントを識別する CVDA 値を戻します。有効な値は、以下のとおりです。

CREATESPI
リソースは、**EXEC CICS CREATE** コマンドによってインストールされました。

CSDAPI
リソースは、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによってインストールされました。

GRPLIST
リソースは、**GRPLIST INSTALL** によってインストールされました。

INSTALLTIME(*data-area*)
リソースのインストール時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。

INSTALLUSRID(*data-area*)
リソースをインストールした 8 文字のユーザー ID を戻します。

MQNAME*(data-area)*
CICS 領域の MQCONN リソース定義で (または SET MQCONN コマンドを使用して) 指定した WebSphere MQ のキュー・マネージャーまたはキュー共用グループの名前を 1 から 4 文字で返します。

MQQMGR*(data-area)*
CICS が接続しているか、CICS が接続しようとして待機している WebSphere MQ キュー・マネージャーの名前を 1 から 4 文字で返します。

- CICS が WebSphere MQ に接続している場合は、CICS の接続先のキュー・マネージャーの名前がこのフィールドに表示されます。 CICS 領域の MQCONN リソース定義でキュー共用グループを指定した場合は、そのグループから選択されたキュー・マネージャーが表示されます。
- CICS が WebSphere MQ に接続していない場合は、通常、このフィールドはブランクになります。ただし、CICS 領域の MQCONN リソース定義でキュー共用グループを指定しており、CICS がそのキュー共用グループ内の特定のキュー・マネージャーに再接続しようとして待機している (つまり、そのキュー・マネージャーで未処理の作業単位が保留になっている) 場合は、そのキュー・マネージャーの名前が表示され、接続の状況は CONNECTING と表示されます。このような動作にするには、MQCONN リソース定義の RESYNCMEMBER 属性で再同期を指定する必要があります。

MQRELEASE*(data-area)*

CICS が WebSphere MQ に接続している場合は、WebSphere MQ の 4 桁のリリース番号 (例えば 0600) がこのオプションで返されます。 CICS が WebSphere MQ に接続していない場合は、MQRELEASE でブランクが返されます。

RESYNCMEMBER*(cvda)*

このオプションは、CICS と MQ との接続に対してキュー共用グループを指定している場合にのみ適用されます。これは、CICS がキュー共用グループ内から最後に接続したキュー・マネージャーで未処理の作業単位が保留になっている場合に CICS が採用する方針を示すオプションです。未確定で中断された作業単位は、この時点では CICS 自体がそれらの作業単位を解決できないので、このプロセスに含まれません。それらの UOW の再同期は、CICS がそのリモート・コーディネーターと再同期したときに生じます。CVDA 値は以下のとおりです。

RESYNC
CICS は、同じキュー・マネージャーに接続します。

NORESYNC
CICS は同じキュー・マネージャーへの接続を一回試行します。 CICS は、この試行に失敗すると、キュー共用グループの任意のメンバーに接続し、未処理の作業単位に関する警告メッセージを出します。

GROUPRESYNC
CICS は、キュー共用グループの任意のメンバーに接続します。キュー・マネージャーが WebSphere MQ によって選択され、そのキュー・マネージャーは、キュー共用グループ内のすべての適格キュー・マネージャーの代わりに、未確定の作業単位を解決することを CICS に要求します。この機能のことをグループ・リカバリー単位 といいます。

NOTAPPLIC
キュー共用グループが CICS と MQ との接続に対して指定されていません。

TASKS*(data-area)*

CICS と MQ との接続を使用しているタスクの現在の数を、トリガー・モニター・タスクを含めてフルワード・バイナリー値として戻します。

TRIGMONTASKS*(data-area)*
CICS と MQ との接続を使用しているトリガー・モニター・タスクの現在の数をフルワード・バイナリー値として戻します。

条件

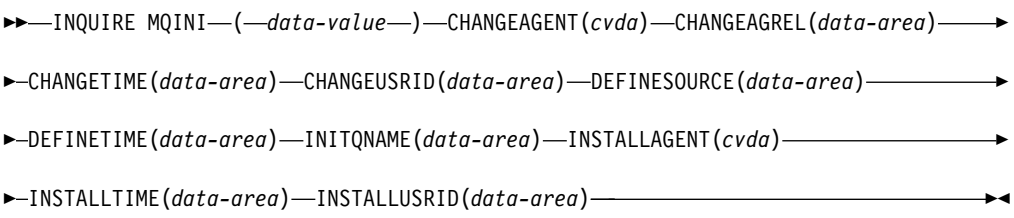
NOTFND
RESP2 値は以下のとおりです。
1 MQCONN リソース定義が見つかりません。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。
100 コマンド権限の処理に失敗しました。

INQUIRE MQINI

CICS と WebSphere MQ との接続に使用するデフォルトの開始キューの名前を照会します。

INQUIRE MQINI



条件**:** NOTAUTH、NOTFND

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

INQUIRE MQINI コマンドは、CICS と WebSphere MQ との接続に使用するデフォルトの開始キューの名前を照会します。

MQINI リソースは、デフォルトの開始キューを表します。 MQINI は、INITQNAME 属性が指定された CICS 領域に MQCONN リソース定義をインストールした場合に存在する暗黙のリソースです (一度にインストールできる MQCONN リソース定義は 1 つです)。MQINI リソースの名前は DFHMQINI です。このリソース名をコマンドに指定する必要があります。

MQINI リソース定義を変更する場合、適切な MQINI 属性を指定して MQCONN リソース定義を再インストールする必要があります。

リソース・シグニチャー

このコマンドを使用して、リソース・シグニチャー・フィールドを検索することができます。これらのフィールドを使用すると、リソースの定義時、インストール時、および最終変更時の詳細データを収集して、リソースを管理できます。 詳しくは、Auditing resourcesを参照してください。 リソース・シグニチャー・フィール

ドは BUNDLE、CHANGEAGENT、CHANGEAGREL、CHANGETIME、CHANGEUSRID、DEFINESOURCE、DEFINETIME、INSTALLAGENT、INSTALLTIME、および INSTALLUSRID です。リソース・シグニチャー・フィールドの内容について詳しくは、Summary of the resource signature field valuesを参照してください。

オプション

CHANGEAGENT(*cvda*)
リソース定義を最後に変更したエージェントを識別する CVDA 値を戻します。有効な値は、以下のとおりです。

AUTOINSTALL
CKQC START コマンドに開始キュー名が指定されたため、リソースは自動インストールされました。また、前にインストールされた MQCONN 定義では、INITQNAME の値が指定されませんでした。

DYNAMIC
リソースは、指定された INITQNAME を含む MQCONN リソース定義の結果として定義されました。

CHANGEAGREL(*data-area*)
リソース定義の最終変更時に実行していた CICS リリースの 4 桁の数値を戻します。

CHANGETIME(*data-area*)
リソース定義の最終変更時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。ABSTIME 値のフォーマットについて詳しくは、FORMATTIMEを参照してください。

CHANGEUSRID(*data-area*)
変更エージェントを実行した 8 文字のユーザー ID を戻します。

DEFINESOURCE(*data-area*)
リソース定義の 8 文字のソースを戻します。DEFINESOURCE 値は CHANGEAGENT 値に依存します。詳しくは、Summary of the resource signature field valuesを参照してください。

DEFINETIME(*data-area*)
リソース定義の作成時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。

INITQNAME(*data-area*)
MQINI リソースで表されるデフォルトの開始キューの、1 文字から 48 文字の名前を戻します。

INSTALLAGENT(*cvda*)
リソースをインストールしたエージェントを識別する CVDA 値を戻します。有効な値は、以下のとおりです。

AUTOINSTALL
CKQC START コマンドに開始キュー名が指定されたため、リソースは自動インストールされました。また、前にインストールされた MQCONN 定義では、INITQNAME の値が指定されませんでした。

DYNAMIC
リソースは、INITQNAME を指定して MQCONN をインストールした結果としてインストールされました。

CREATESPI
EXEC CICS CREATE コマンドによってリソースがインストールされました。

CSDAPI
CEDA トランザクションまたは DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによって、リソースがインストールされました。

GRPLIST
GRPLIST INSTALL によってリソースがインストールされました。

INSTALLTIME(*data-area*)
リソースのインストール時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。

INSTALLUSRID(*data-area*)
リソースをインストールした 8 文字のユーザー ID を戻します。

条件

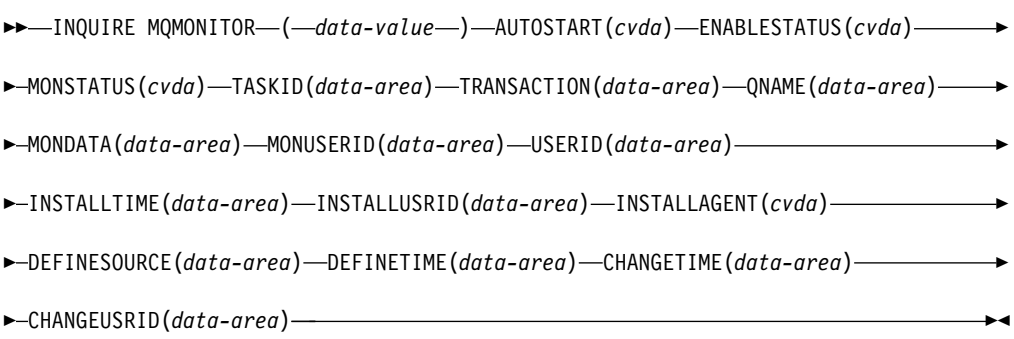
NOTFND
RESP2 値は以下のとおりです。
1 MQINI リソースを暗黙指定する MQCONN リソース定義が見つかりません。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。
100 コマンド権限の処理に失敗しました。

INQUIRE MQMONITOR

インストールされた MQ モニターの状況を照会し、MQMONITOR リソースの現行属性を戻します。

INQUIRE MQMONITOR



条件**:** NOTAUTH、NOTFND

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

INQUIRE MQMONITOR コマンドは、インストールされた MQ モニターの状況を照会し、MQMONITOR リソースの現行属性を戻します。

INITQNAME 属性が指定された CICS 領域に MQCONN リソース定義をインストールした場合、予約名 DFHMQINI を持つ MQMONITOR リソースもインストールされます。これは、デフォルトの開始キューを表します。

リソース・シグニチャー

このコマンドを使用して、リソース・シグニチャー・フィールドを検索することができます。これらのフィールドを使用すると、リソースの定義時、インストール時、および最終変更時の詳細データを収集して、リソースを管理できます。 詳しくは、Auditing resourcesを参照してください。 リソース・シグニチャー・フィールドは BUNDLE、CHANGEAGENT、CHANGEAGREL、CHANGETIME、CHANGEUSRID、DEFINESOURCE、DEFINETIME、INSTALLAGENT、INSTALLTIME、および INSTALLUSRID です。リソース・シグニチャー・フィールドの内容について詳しくは、Summary of the resource signature field valuesを参照してください。

オプション

AUTOSTART(*cvda*)
WebSphere MQ キュー・マネージャーとの接続が確立されたときに、MQ モニターが自動的に開始するかどうかを示す CVDA 値を戻します。有効な値は、以下のとおりです。

AUTOSTART
WebSphere MQ キュー・マネージャーとの接続が確立されたときに、MQ モニターは自動的に開始します。

NOAUTOSTART
MQ モニターは自動的に開始しません。

CHANGEAGENT(*cvda*)
リソース定義を最後に変更したエージェントを識別する CVDA 値を戻します。有効な値は、以下のとおりです。

AUTOINSTALL
CKQC START コマンドに開始キュー名が指定されたため、リソースは自動インストールされました。また、前にインストールされた MQCONN 定義では、INITQNAME の値が指定されませんでした。

DYNAMIC
リソースは、指定された INITQNAME を含む MQCONN リソース定義の結果として定義されました。

CHANGETIME(*data-area*)
リソース定義の最終変更時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。ABSTIME 値のフォーマットについて詳しくは、FORMATTIMEを参照してください。

CHANGEUSRID(*data-area*)
変更エージェントを実行した 8 文字のユーザー ID を戻します。

DEFINESOURCE(*data-area*)
リソース定義の 8 文字のソースを戻します。DEFINESOURCE 値は CHANGEAGENT 値に依存します。詳しくは、Summary of the resource signature field valuesを参照してください。

DEFINETIME(*data-area*)
リソース定義の作成時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。

ENABLESTATUS(*cvda*)
MQMONITOR リソースの状況を示す CVDA 値を戻します。有効な値は、以下のとおりです。

ENABLED
MQMONITOR リソースは使用可能です。

ENABLING
MQMONITOR リソースを有効にしています。

DISABLED
MQMONITOR リソースは使用不可にされています。

DISABLING
MQMONITOR リソースを使用不可にしています。

DISCARDING
MQMONITOR リソースは破棄されています。

INSTALLAGENT(*cvda*)
リソースをインストールしたエージェントを識別する CVDA 値を戻します。有効な値は、以下のとおりです。

AUTOINSTALL
CKQC START コマンドに開始キュー名が指定されたため、リソースは自動インストールされました。また、前にインストールされた MQCONN 定義では、INITQNAME の値が指定されませんでした。

DYNAMIC
リソースは、INITQNAME を指定して MQCONN をインストールした結果としてインストールされました。

CREATESPI
EXEC CICS CREATE コマンドによってリソースがインストールされました。

CSDAPI
CEDA トランザクションまたは DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによって、リソースがインストールされました。

GRPLIST
GRPLIST INSTALL によってリソースがインストールされました。

INSTALLTIME(*data-area*)
リソースのインストール時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。

INSTALLUSRID(*data-area*)
リソースをインストールした 8 文字のユーザー ID を戻します。

MONDATA(*data-area*)
MQ キューをモニターするトランザクションに渡されるデータを表示します。

注:

モニター・タスクによって表示され、取得される場合、MONDATA データの前に以下の 18 バイトが付加されます。

Byte 1: < (left chevron)

バイト 2 から 9: *MQMONITOR resource name*

バイト 10 から 17: *USERID*

Byte 18: > (right chevron)

バイト 19 から 218 には、ユーザーが入力した MONDATA が入ります。

したがって、ユーザー作成プログラムでは、**MONDATA** を取得するために最大長 218 バイトを使用可能にする必要があります。また、取得された **MONDATA** からのバイト 2 から 9 で指定された MQMONITOR 名を使用して、MQ モニターの MONSTATUS 属性を設定することにより、現在の状態を示す必要があります。また、セキュリティー検査がアクティブである場合、CICS は、MQ モニター状態を開始済みに設定しようとするトランザクションに関連付けられているユーザー ID でセキュリティー検査を実行することにも注意してください。詳細については、MQMONITOR リソースで説明するセキュリティーの考慮事項を参照してください。

MONSTATUS(*cvda*)
MQ モニターの状況を示す CVDA 値を戻します。有効な値は、以下のとおりです。

STARTED
MQ モニターが開始されます。

STARTING
MQ モニターを開始中です。

STOPPED
MQ モニターが停止します。

STOPPING
MQ モニターを停止中です。

MONUSERID(*data-area*)
MQ キューをモニターするトランザクションに関連付けられているユーザー ID を戻します。

この属性は、セキュリティー検査がアクティブである (つまり、**SEC** システム初期設定パラメーターが YES に設定されている) 場合にのみ有効です。 CICS は、MQ モニターの状態を開始済みに設定しようとするトランザクションに関連付けられているユーザー ID が、**MONUSERID** で定義されたユーザー ID の代理であり、**MONUSERID** に関連付けられているトランザクションを開始する権限があることを確認します。CICS Explorer などの CICSPlex SM API インターフェースで MQ モニターの状態を設定する場合は、MQ モニター・トランザクションに関連付けるユーザー ID として、領域ユーザー ID または PLTPIUSR ユーザー ID (指定されている場合) を使用してください。

セキュリティー検査が無効にされている (つまり、**SEC** が NO に設定されている) 場合、MQ モニター・トランザクションに関連付けるユーザー ID は、MQMONITOR リソースの状態を「開始」に設定したトランザクションのユーザー ID です。

QNAME(*data-area*)
MQ モニターによってモニターされる MQ キューの名前を戻します。

TASKNUMBER(*data-area*)
MQ キューを現在モニターしているタスクの番号を戻します。

TRANSACTION(データ域)
MQ キューをモニターしている CICS トランザクションの 4 文字の ID を戻します。

USERID(データ域)
適切なユーザー ID が他のソースから使用できない場合、アプリケーション・トランザクションの開始要求を発行するために、デフォルトで使用される 8 文字のユーザー ID を戻します。

条件

NOTAUTH
RESP2 値:

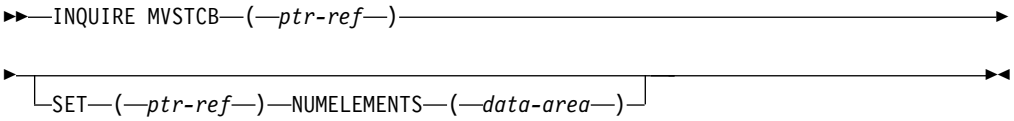
100 コマンド権限の処理に失敗しました。

NOTFND
RESP2 値は以下のとおりです。
1 指定された MQMONITOR リソースが見つかりません。

INQUIRE MVSTCB

MVS タスク制御ブロック (TCB) のアドレスおよびストレージ使用量の情報を取得します。

INQUIRE MVSTCB



条件**:** END、ILLOGIC、NOTAUTH、NOTFND

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

INQUIRE MVSTCB コマンドはブラウズ・モードでのみ使用できます。このコマンドは、CICS アドレス・スペース内の MVS TCB のアドレスとストレージに関する情報を戻します。この情報には、それぞれの TCB が所有するストレージ・エレメントのアドレス、長さ、および MVS サブプール、各エレメントのストレージ・キ

ー、およびそれぞれのエレメントで使用されている (getmain 要求を使用してタスクによって取得された) バイト数が TCB ごとに表示されます。

表示されている構文は、すべての新規アプリケーションでのこのコマンドの正しい構文です。以下のオプション・リストでは、オプション ELEMENTLIST、LENGTHLIST、および SUBPOOLLIST は廃止されていますが、CICS Transaction Server for z/OS, バージョン 3 リリース 2 の前のリリースで開発されたアプリケーションとの互換性のためにサポートされています。これらのオプションを SET オプションと組み合わせて使用しないでください。

NUMELEMENTS オプションは、従来の構文と新しい構文の両方で使用できます。ELEMENTLIST、LENGTHLIST、および SUBPOOLLIST オプションを使用する場合、こうしたリストでの項目数 (各リストで同じになる) を NUMELEMENTS オプションで指定します。また、SET オプションによって戻されるポインター・リスト内のアドレス数を指定するには、NUMELEMENTS を SET オプションと組み合わせて使用します。

ブラウズ

このコマンドはブラウズ・モードでのみ使用できます。このコマンドでブラウズ・オプション (START、NEXT、および END) を使用することにより、CICS アドレス・スペース内のすべての MVS TCB をブラウズします。ブラウズに関する一般情報 (構文、例外条件、および例を含む) については、Browsing resource definitions を参照してください。

オプション

ELEMENTLIST(*ptr-ref***)**
この TCB に割り振られている専用ストレージの領域すべてのアドレスからなるリストのアドレスを戻します。このオプションは廃止されていますが、以前の CICS リリースで開発されたアプリケーションとの互換性を保つためにサポートされています。

LENGTHLIST(*ptr-ref***)**
ELEMENTLIST リストに示されているストレージ域のフルワード・バイナリー長のリストのアドレスを戻します。このオプションは廃止されていますが、以前の CICS リリースで開発されたアプリケーションとの互換性を保つためにサポートされています。

NUMELEMENTS(*data-area***)**
この TCB によって所有されているストレージ・エレメント数に設定されるフルワード・バイナリー・フィールド。この値は、SET オプションによって戻されるポインター・リストにリストされているアドレス数で、それぞれのアドレスではストレージ・エレメントが 1 つ示されます。

MVSTCB(*ptr-ref***)**
CICS アドレス・スペース内の MVS TCB のアドレスを戻します。戻される TCB アドレスを **COLLECT STATISTICS MVSTCB** コマンドの入力として使用すれば、その TCB のストレージ統計および CPU 時間統計を取得できます。

SET(*ptr-ref***)**
4 バイトのアドレス・リストのアドレスを戻します。それぞれのアドレスは、こ

の TCB が所有している 1 つのストレージ・エレメントの詳細が含まれる記述子を指し示します。NUMELEMENTS オプションによって戻される値が、このリスト内のアドレス数です。

CICS は、このリストと記述子用のストレージを取得します。そうしたストレージは、照会タスクの終了時、または別の **INQUIRE MVSTCB** コマンドをいずれかのコマンド・オプションを指定して発行すると解放されます。このタスクは、ストレージ自体を解放することはできません。

表 37 には、各ストレージ・エレメントの記述子の形式が表示されています。

表 *37. INQUIRE MVSTCB*、*SET* オプション*:* 各ストレージ・エレメントの記述子

オフセット **(10** 進数**)**	長さ	内容
0	4	ストレージのアドレス
4	4	長さ
8	4	MVS サブプール番号
12	4	MVS ストレージ・キー (例えば、8)
16	4	使用されているバイト数

注**:** 「使用されているバイト数」は、getmain 要求を使用してタスクによって取得されたストレージの量です。この量は、TCB に割り振られているストレージ量を下回る可能性があります。ストレージは、必ずページの倍数 (4096 バイト単位) で TCB に割り振られるためです。

SUBPOOLLIST(*ptr-ref***)**
ELEMENTLIST リストに示されているストレージ域の MVS サブプールの、フルワード・バイナリー・サブプール数のリストのアドレスを戻します。このオプションは廃止されていますが、以前の CICS リリースで開発されたアプリケーションとの互換性を保つためにサポートされています。

条件

END
RESP2 値は以下のとおりです。

2 許可されているリソースすべてが取得されました。このコマンドで指定されたすべてのデータ域が未変更のままになります。

ILLOGIC
RESP2 値は以下のとおりです。

1 このリソース・タイプのブラウズが既に実行されているときに START コマンドが出されたか、もしくは、このリソース・タイプのブラウズが実行されていないときに NEXT または END コマンドが出された。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

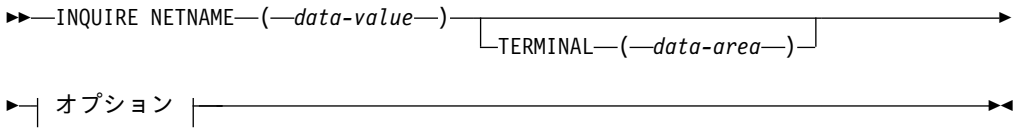
NOTFND
RESP2 値は以下のとおりです。

1 このコマンドで指定された TCB が見つかりませんでした。

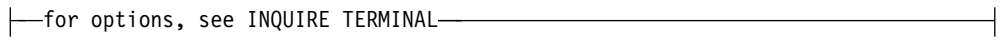
INQUIRE NETNAME

端末またはセッションに関する情報を取得します。

INQUIRE NETNAME/TERMINAL



オプション:



条件: NOTAUTH、TERMIDERR

説明

INQUIRE NETNAME コマンドは、INQUIRE TERMINAL コマンドと同じように、特定の端末またはセッションに関する情報を戻します。主な相違点は、CICS 端末 ID ではなく、ネットワーク ID によって端末を識別することです。物理端末の場合、このネットワーク ID は z/OS Communications Server が認識している端末の名前です。ISC セッションの場合、z/OS Communications Server が認識するセッション (または並列セッションがある場合はセッション・グループ) の名前です。MRO セッションの場合、領域間通信プログラムにログオンするために接続済み領域によって使用される名前です。

したがって、INQUIRE TERMINAL と比較すると、NETNAME オプションと TERMINAL オプションの役割が逆になります。NETNAME は必須であり、ユーザーは照会する端末の 8 文字のネットワーク ID が入っているデータ値を指定します。TERMINAL はオプションです。これを使用する場合、CICS は、提供されるデータ域内の対応する 4 文字の CICS 端末 ID を返します。

INQUIRE TERMINAL のその他のオプションは、INQUIRE TERMINAL コマンドと同じ情報を INQUIRE NETNAME コマンドで戻します。

ネット名に複数のエントリーがあるときに、照会がブラウズの一部ではない場合、最初に検出されたエントリーが戻されます。エントリーは以下の順に検索されます。

1. z/OS Communications Server 端末とコンソール (英数字順)。
2. 接続 (英数字順)。主なセッションが戻されます (ブラウズでは、すべてのセッションが戻されます)。

この順序は将来のリリースで維持されることが保証されていないことに注意してください。

ブラウズ

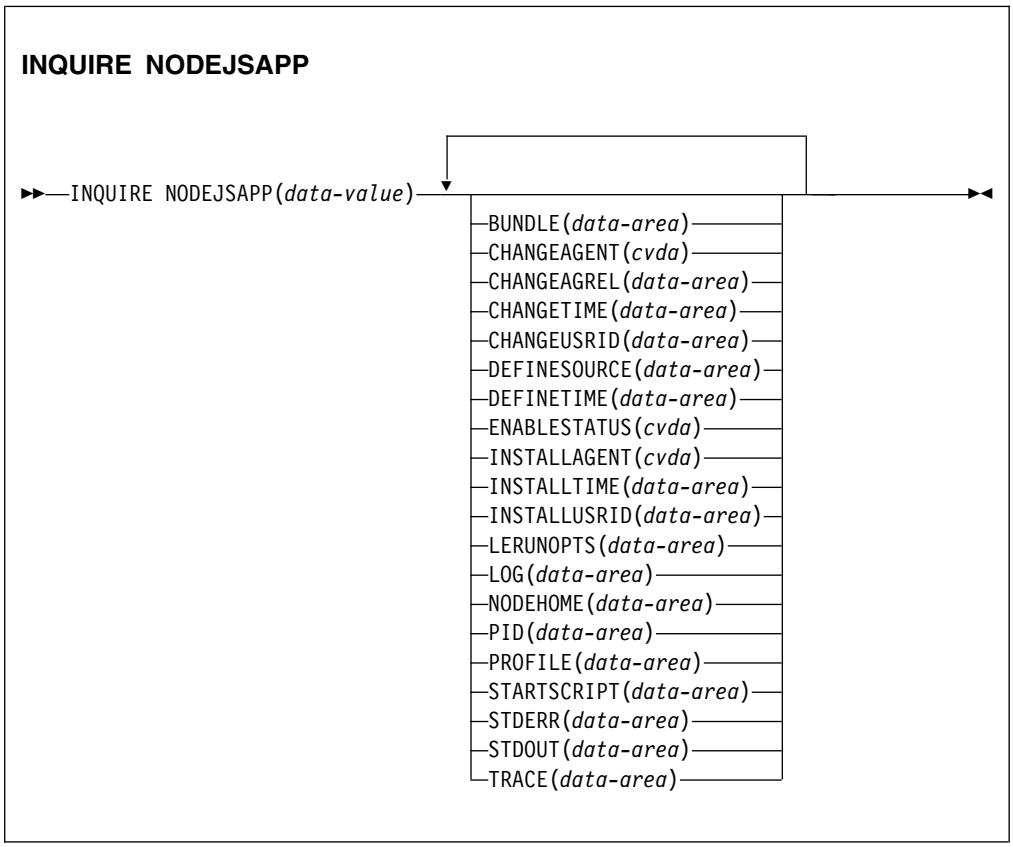
INQUIRE NETNAME または INQUIRE TERMINAL コマンドでブラウズ・オプション (START、NEXT、および END) を使用することにより、システムにインストールされているすべてのネット名の定義をブラウズすることもできます。ブラウズに関する一般情報 (構文、例外条件、および例を含む) については、Browsing resource definitionsを参照してください。

間接接続や、使用中でないリモート接続など、セッションがない接続は戻されないことに注意してください。すべての接続を戻す必要がある場合は、INQUIRE CONNECTION コマンドを使用してください。

INQUIRE NETNAME コマンドに適用されるオプションと条件の詳細については、564 ページの『INQUIRE TERMINAL』を参照してください。

INQUIRE NODEJSAPP

CICS 領域の Node.js アプリケーションについての情報を取得します。



条件: END、ILLOGIC、NOTAUTH、NOTFND

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

INQUIRE NODEJSAPP コマンドは、CICS 領域にインストールされている 1 つ以上の Node.js アプリケーションに関する情報を取得します。

ブラウズ

INQUIRE NODEJSAPP コマンドでブラウズ・オプション (START、NEXT、および END) を使用して、領域にインストールされているすべての NODEJSAPP リソースをブラウズできます。

リソース・シグニチャー

このコマンドを使用して、リソース・シグニチャー・フィールドを検索することができます。これらのフィールドを使用すると、リソースの定義時、インストール時、および最終変更時の詳細データを収集して、リソースを管理できます。 詳しくは、Auditing resourcesを参照してください。 リソース・シグニチャー・フィールドは BUNDLE、CHANGEAGENT、CHANGEAGREL、CHANGETIME、CHANGEUSRID、DEFINESOURCE、DEFINETIME、INSTALLAGENT、INSTALLTIME、および INSTALLUSRID です。リソース・シグニチャー・フィールドの内容について詳しくは、Summary of the resource signature field valuesを参照してください。

オプション

BUNDLE(*data-area*)
NODEJSAPP バンドル・パーツが含まれている CICS BUNDLE リソースの 8 文字の名前を返します。

CHANGEAGENT(*cvda*)
リソース定義を最後に変更したエージェントを識別する CVDA 値を戻します。有効な値は、以下のとおりです。

CREATESPI
リソース定義は **EXEC CICS CREATE** コマンドによって最後に変更されました。

CSDAPI
リソース定義は、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによって最後に変更されました。

CSDBATCH
リソース定義は、DFHCSDUP ジョブによって最後に変更されました。

DREPAPI
リソース定義は、CICSPlex SM BAS API コマンドによって最後に変更されました。

CHANGEAGREL(*data-area*)
リソース定義の最終変更時に実行していた CICS リリースの 4 桁の数値を戻します。

CHANGETIME(*data-area*)
リソース定義の最終変更時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。ABSTIME 値のフォーマットについて詳しくは、FORMATTIMEを参照してください。

CHANGEUSRID(*data-area*)
変更エージェントを実行した 8 文字のユーザー ID を戻します。

DEFINESOURCE(*data-area*)
リソース定義の 8 文字のソースを戻します。DEFINESOURCE 値は INSTALLAGENT 値に依存します。詳しくは、Summary of the resource signature field valuesを参照してください。

DEFINETIME(*data-area*)
リソース定義の作成時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。

ENABLESTATUS(*cvda*)
NODEJSAPP の全体状況を示す CVDA 値を戻します。CVDA 値は以下のとおりです。

ENABLED
NODEJSAPP は開始しており、使用可能です。

ENABLING
NODEJSAPP を開始中です。

DISABLED
NODEJSAPP は停止しており、新規要求は処理できません。

DISABLING
NODEJSAPP を停止中です。スレッドは、NODEJSAPP が停止する前に開始されていた場合、実行し続けます。

FAILED
NODEJSAPP リソースは失敗しました。

INSTALLAGENT(*cvda*)
リソースをインストールしたエージェントを識別する CVDA 値を戻します。有効な値は、以下のとおりです。

BUNDLE
リソースは、バンドルのデプロイメントによってインストールされました。

INSTALLTIME(*data-area*)
リソースのインストール時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。

INSTALLUSRID(*data-area*)
リソースをインストールした 8 文字のユーザー ID を戻します。

LERUNOPTS(*data-area*)
Language Environment エンクレーブのランタイム・オプションを定義するプログラム名を 8 文字で戻します。

LOG(*data-area*)
NODEJSAPP の `log` ファイルの 255 文字のパスを返します。

NODEHOME(*data-area*)
NODEJSAPP の Node.js アプリケーション・プロファイルの NODE_HOME オプションの 255 文字のパスを返します。

NODEJSAPP(*data-value*)
照会する NODEJSAPP リソースの名前を指定します。この名前の長さは最大 32 文字です。

PID(*data-area*)
NODEJSAPP のプロセス ID (PID) を示すフルワード値を戻します。

PROFILE(*data-area*)
NODEJSAPP のプロファイル・ファイルの 255 文字のパスを返します。

STARTSCRIPT(*data-area*)
NODEJSAPP のエントリー JavaScript ファイルの 255 文字のパスを返します。

STDERR(*data-area*)
NODEJSAPP の stderr ファイルの 255 文字のパスを返します。

STDOUT(*data-area*)
NODEJSAPP の stdout ファイルの 255 文字のパスを返します。

TRACE(*data-area*)
NODEJSAPP の trace ファイルの 255 文字のパスを返します。

条件

END
RESP2 値は以下のとおりです。

2 このタイプのリソース定義はありません。

ILLOGIC
RESP2 値は以下のとおりです。

1 このリソース・タイプのブラウズが既に実行されているときに START コマンドが出されたか、もしくは、このリソース・タイプのブラウズが実行されていないときに NEXT または END コマンドが出されました。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

101
発行元タスクに関連付けられているユーザーには、この NODEJSAPP の BUNDLE にアクセスする権限がありません。

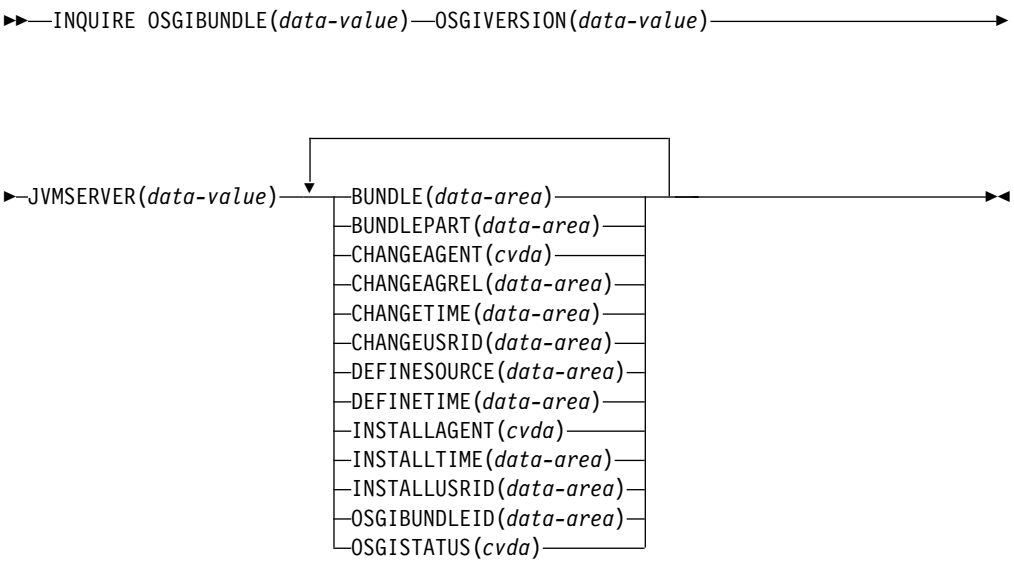
NOTFND
RESP2 値は以下のとおりです。

3 NODEJSAPP リソースが見つかりません。

INQUIRE OSGIBUNDLE

JVM サーバーにインストールされている OSGi バンドルに関する情報を取得します。

INQUIRE OSGIBUNDLE



条件: END、ILLOGIC、NOTAUTH、NOTFND

このコマンドはスレッド・セーフです。

CVDA の使用について詳しくは、CICS-value data areas (CVDAs)を参照してください。

説明

JVM サーバーにインストールされている OSGi バンドルに関する情報を検出する場合に、**INQUIRE OSGIBUNDLE** コマンドを使用します。

ブラウズ

INQUIRE OSGIBUNDLE コマンドでブラウズ・オプション START、NEXT、および END を使用することにより、特定の JVM サーバーにインストールされているすべての OSGi バンドルをブラウズできます。ブラウズ時に、ブラウズする JVMSERVER リソースを指定します。ブラウズに関する一般情報 (構文、例外条件、および例を含む) については、Browsing resource definitionsを参照してください。

リソース・シグニチャー

このコマンドを使用して、リソース・シグニチャー・フィールドを検索することができます。これらのフィールドを使用すると、リソースの定義時、インストール時、および最終変更時の詳細データを収集して、リソースを管理できます。 詳しくは、Auditing resourcesを参照してください。 リソース・シグニチャー・フィール

ドは BUNDLE、CHANGEAGENT、CHANGEAGREL、CHANGETIME、CHANGEUSRID、DEFINESOURCE、DEFINETIME、INSTALLAGENT、INSTALLTIME、および INSTALLUSRID です。リソース・シグニチャー・フィールドの内容について詳しくは、Summary of the resource signature field valuesを参照してください。

オプション

BUNDLE(*data-area*)
指定された JVM サーバーにデプロイされた OSGi バンドルを含む CICS BUNDLE リソースの 8 文字の名前を戻します。

BUNDLEPART(*data-area*)
指定された JVM サーバーにインストールされた OSGi バンドルを表す CICS BUNDLE リソースの部分の 255 文字の名前を戻します。

CHANGEAGENT(*cvda*)
リソース定義を最後に変更したエージェントを識別する CVDA 値を戻します。有効な値は、以下のとおりです。

CREATESPI
リソース定義は **EXEC CICS CREATE** コマンドによって最後に変更されました。

CSDAPI
リソース定義は、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによって最後に変更されました。

CSDBATCH
リソース定義は、DFHCSDUP ジョブによって最後に変更されました。

DREPAPI
リソース定義は、CICSPlex SM BAS API コマンドによって最後に変更されました。

CHANGEAGREL(*data-area*)
リソース定義の最終変更時に実行していた CICS リリースの 4 桁の数値を戻します。

CHANGETIME(*data-area*)
リソース定義の最終変更時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。ABSTIME 値のフォーマットについて詳しくは、FORMATTIMEを参照してください。

CHANGEUSRID(*data-area*)
変更エージェントを実行した 8 文字のユーザー ID を戻します。

DEFINESOURCE(*data-area*)
リソース定義の 8 文字のソースを戻します。DEFINESOURCE 値は CHANGEAGENT 値に依存します。詳しくは、Summary of the resource signature field valuesを参照してください。

DEFINETIME(*data-area*)
リソース定義の作成時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。

JVMSERVER(*data-value*)
OSGi バンドルがインストールされている JVMSERVER リソースの 8 文字の名前を指定します。

INSTALLAGENT(*cvda*)
リソースをインストールしたエージェントを識別する CVDA 値を戻します。以下のうち 1 つの値のみ有効です。

BUNDLE
リソースは、バンドルのデプロイメントによってインストールされました。

INSTALLTIME(*data-area*)
リソースのインストール時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。

INSTALLUSRID(*data-area*)
リソースをインストールした 8 文字のユーザー ID を戻します。

OSGIBUNDLE(*data-value*)
OSGi バンドルの 255 文字のシンボル名を指定します。

OSGIBUNDLEID(*data-area*)
OSGi フレームワーク内のバンドル ID のダブルワード・バイナリー値を戻します。

OSGISTATUS(*cvda*)
OSGi バンドルの状況を戻します。この状況は、以下のいずれかの値です。

ACTIVE
バンドルは正常に活動化され、実行されています。バンドル・アクティベーターの開始方式が呼び出され、戻されました。

INSTALLED
OSGi バンドルは正常にインストールされています。

RESOLVED
バンドルが必要とするすべての Java クラスが使用可能です。この状態は、バンドルが開始可能状態であるか、停止したことを示します。

STARTING
バンドルが OSGi フレームワーク内で開始中です。バンドル・アクティベーターの開始方式が呼び出されましたが、まだ戻されていません。バンドルに活動化ポリシーがある場合、バンドルがその活動化ポリシーに従って活動化されるまで、バンドルは STARTING 状態のままです。

STOPPING
バンドルが OSGi フレームワーク内で停止中です。バンドル・アクティベーターの停止方式が呼び出されましたが、まだ戻されていません。

UNINSTALLED
バンドルがアンインストールされました。別の状態に移行することはできません。

OSGIVERSION(*data-value*)
OSGi バンドルの 255 文字のバージョンを指定します。

条件

END

RESP2 値:

2 このタイプのリソース定義はありません。

ILLOGIC

RESP2 値:

1 このリソース・タイプのブラウズがすでに実行されているときに START が出されたか、もしくは、このリソース・タイプのブラウズが実行されていないときに NEXT または END コマンドが出されました。

NOTAUTH

RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

101 発行中のタスクに関連するユーザーは、このバンドルへのアクセスが許可されていません。

NOTFND

RESP2 値は以下のとおりです。

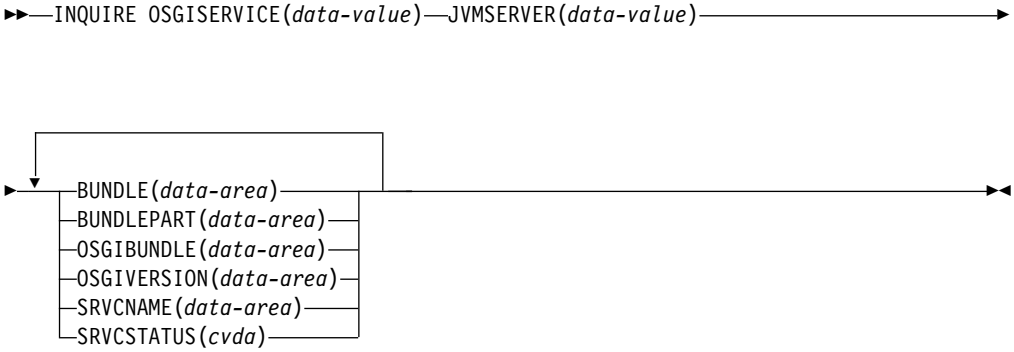
1 JVMSERVER リソースが見つからないか、使用不可です。

3 OSGi バンドルが見つかりません。

INQUIRE OSGISERVICE

CICS 領域に登録された OSGi サービスに関する情報を検索します。

INQUIRE OSGISERVICE



条件: END、ILLOGIC、NOTAUTH、NOTFND

このコマンドはスレッド・セーフです。

CVDA の使用について詳しくは、CICS-value data areas (CVDAs)を参照してください。

説明

JVM サーバーに登録されている OSGi サービスに関する情報を検出する場合に、**INQUIRE OSGISERVICE** コマンドを使用します。

ブラウズ

INQUIRE OSGISERVICE コマンドでブラウズ・オプション START、NEXT、および END を使用することにより、JVM サーバーに登録されているすべての OSGi サービスをブラウズできます。ブラウズする際には、JVMSERVER リソースの名前を指定する必要があります。ブラウズに関する一般情報 (構文、例外条件、および例を含む) については、Browsing resource definitionsを参照してください。

オプション

BUNDLE(*data-area*)
指定された JVM サーバー上の OSGi サービスを含む CICS BUNDLE リソースの 8 文字の名前を戻します。

BUNDLEPART(*data-area*)
指定された JVM サーバーにインストールされた OSGi バンドルを表す CICS BUNDLE リソースの部分の 255 文字の名前を戻します。

JVMSERVER(*data-value*)
OSGi サービスが登録されている JVMSERVER リソースの 8 文字の名前を指定します。

OSGIBUNDLE(*data-area*)
OSGi サービスが含まれている OSGi バンドルの 255 文字のシンボル名を戻します。Liberty JVM サーバーでは、戻される OSGIBUNDLE 値はヌルです。

OSGISERVICE(*data-value*)
OSGi サービスの ID を表すダブルワード・バイナリー値を指定します。

OSGIVERSION(*data-area*)
OSGi サービスを定義する OSGi バンドルの 255 文字のバージョンを戻します。

SRVCNAME(*data-area*)
JVM サーバーに登録されている OSGi サービスの 255 文字の名前を戻します。

SRVCSTATUS(*cvda*)
OSGi サービスの状況を戻します。この状況の値は、以下のいずれかになります。

ACTIVE
OSGi サービスは OSGi フレームワーク内で使用可能です。

INACTIVE
OSGi サービスは OSGi フレームワーク内で使用不可です。

条件

END
RESP2 値:

2 このタイプのリソース定義はありません。

ILLOGIC

RESP2 値:

1 このリソース・タイプのブラウズがすでに実行されているときに START が出されたか、もしくは、このリソース・タイプのブラウズが実行されていないときに NEXT または END コマンドが出されました。

NOTAUTH

RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

101 発行中のタスクに関連するユーザーは、このバンドルへのアクセスが許可されていません。

NOTFND

RESP2 値は以下のとおりです。

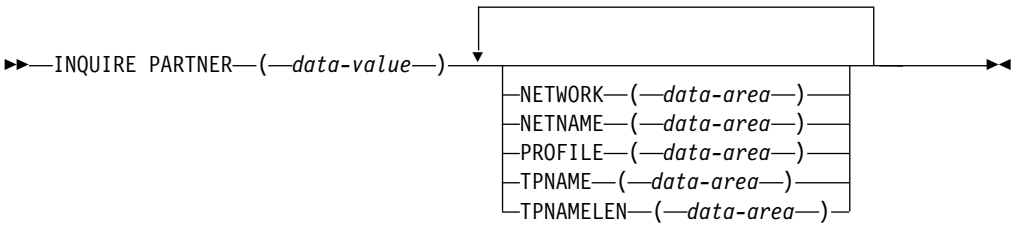
1 JVMSERVER リソースが見つかりません。

3 OSGi サービスが見つかりません。

INQUIRE PARTNER

パートナーに関する情報を取得します。

INQUIRE PARTNER



条件: END、ILLOGIC、NOTAUTH、PARTNERIDERR

説明

INQUIRE PARTNER コマンドは、パートナー・リソース・テーブルからパートナーに関する情報を戻します。

ブラウズ

INQUIRE PARTNER コマンドでブラウズ・オプション (START、NEXT、および END) を使用することにより、システムで定義されているすべてのパートナーをブラウズすることもできます。ブラウズに関する一般情報 (構文、例外条件、および例を含む) については、Browsing resource definitionsを参照してください。

オプション

NETNAME(*data-area*)
パートナーが置かれている z/OS Communications Server ノードの 8 文字の名前を戻します。

NETWORK(*data-area*)
パートナーが置かれているネットワークの 8 文字の名前を戻します。この値がブランクの場合、パートナーはお使いの CICS システムと同じネットワーク内にあります。

PARTNER(*data-value*)
照会するパートナーの 8 文字の名前を指定します。これは PARTNER リソース定義で割り当てられる名前です。

PROFILE(*data-area*)
PARTNER 定義で指定された PROFILE 定義の 8 文字の名前を戻します。

TPNAME(*data-area*)
(PARTNER リソース定義の TPNAME 値または XTPNAME 値から) パートナー LU で実行されるリモート・トランザクション・プログラムの名前を戻します。この名前の長さは最大 64 文字です。TPNAMELEN オプションを使用して実際の長さを判別できます。

TPNAMELEN(*data-area*)
TPNAME で戻される情報の長さ (バイト単位) を示すハーフワード・バイナリー・フィールドを戻します。

条件

END
RESP2 値は以下のとおりです。

2 このタイプのリソース定義はありません。

ILLOGIC
RESP2 値は以下のとおりです。

1 このリソース・タイプのブラウズが既に実行されているときに START コマンドが出されたか、もしくは、このリソース・タイプのブラウズが実行されていないときに NEXT または END コマンドが出された。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

PARTNERIDERR
RESP2 値は以下のとおりです。

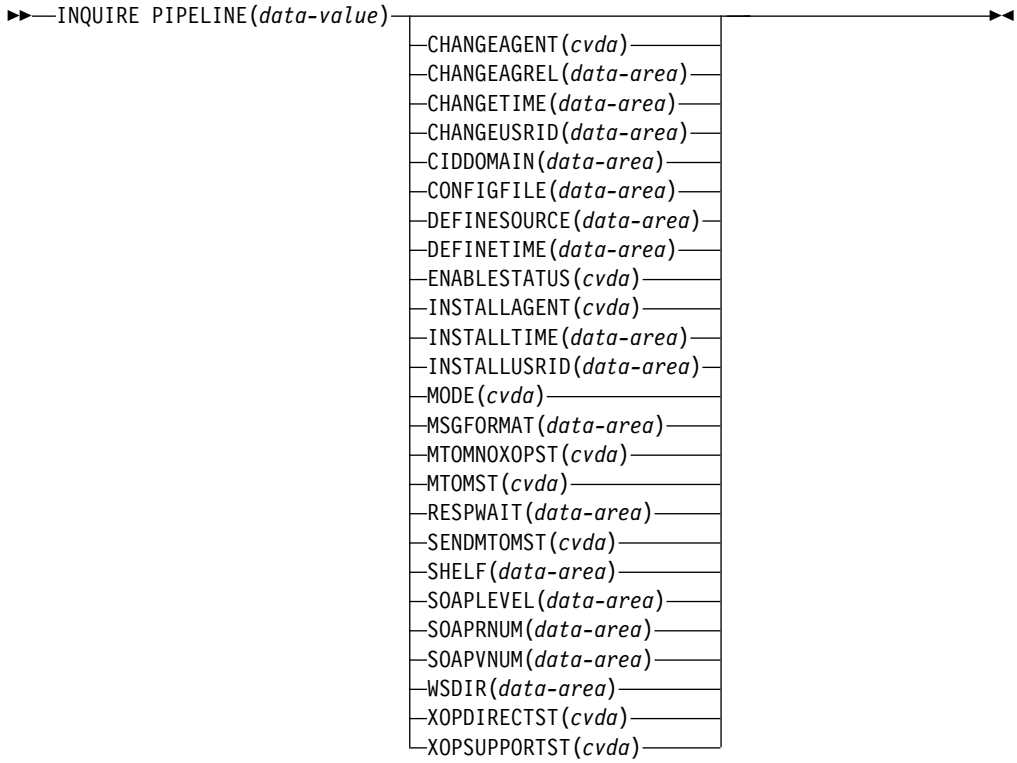
1 パートナーが見つかりません。

2 Partner Resource Manager (PRM) は、CICS 初期化中に初期化に失敗したため、アクティブではありません。

INQUIRE PIPELINE

インストール済み PIPELINE に関する情報を取得します。

INQUIRE PIPELINE



条件: NOTAUTH、NOTFND

このコマンドはスレッド・セーフです。

CVDA の使用について詳しくは、CICS-value data areas (CVDAs)を参照してください。

説明

インストール済みパイプラインに関する情報を取得するには、**INQUIRE PIPELINE** コマンドを使用します。

ブラウズ

INQUIRE PIPELINE コマンドでブラウズ・オプション (START、NEXT、および END) を使用することにより、システムにインストールされているすべてのパイプラインをブラウズできます。ブラウズに関する一般情報 (構文、例外条件、および例を含む) については、Browsing resource definitionsを参照してください。

リソース・シグニチャー

このコマンドを使用して、リソース・シグニチャー・フィールドを検索することができます。これらのフィールドを使用すると、リソースの定義時、インストール

時、および最終変更時の詳細データを収集して、リソースを管理できます。 詳しくは、Auditing resourcesを参照してください。 リソース・シグニチャー・フィールドは BUNDLE、CHANGEAGENT、CHANGEAGREL、CHANGETIME、CHANGEUSRID、DEFINESOURCE、DEFINETIME、INSTALLAGENT、INSTALLTIME、および INSTALLUSRID です。リソース・シグニチャー・フィールドの内容について詳しくは、Summary of the resource signature field valuesを参照してください。

オプション

PIPELINE(*data-value*)
照会するパイプラインの名前を指定します。名前の長さは 8 文字以下です。

CHANGEAGENT(*cvda*)
リソース定義を最後に変更したエージェントを識別する CVDA 値を戻します。有効な値は、以下のとおりです。

CREATESPI
リソース定義は **EXEC CICS CREATE** コマンドによって最後に変更されました。

CSDAPI
リソース定義は、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによって最後に変更されました。

CSDBATCH
リソース定義は、DFHCSDUP ジョブによって最後に変更されました。

DREPAPI
リソース定義は、CICSPlex SM BAS API コマンドによって最後に変更されました。

CHANGEAGREL(*data-area*)
リソース定義の最終変更時に実行していた CICS リリースの 4 桁の数値を戻します。

CHANGETIME(*data-area*)
リソース定義の最終変更時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。ABSTIME 値のフォーマットについて詳しくは、FORMATTIMEを参照してください。

CHANGEUSRID(*data-area***)**
変更エージェントを実行した 8 文字のユーザー ID を戻します。

CIDDOMAIN(*data-area*)
コンテナー内のバイナリー添付ファイルを識別するための MIME content-ID 値の生成に使用されるドメイン名を戻します。名前の長さは 255 文字以下です。

CONFIGFILE(*data-area*)
パイプライン・リソースに関連付けられているパイプライン構成ファイルの名前を戻します。名前の長さは 255 文字以下です。

DEFINESOURCE(*data-area*)
リソース定義の 8 文字のソースを戻します。DEFINESOURCE 値は

CHANGEAGENT 値に依存します。詳しくは、Summary of the resource signature field valuesを参照してください。

DEFINETIME(*data-area*)
リソース定義の作成時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。

ENABLESTATUS(*cvda*)
PIPELINE の状況を戻します。

ENABLED
パイプラインは使用する準備ができています。

DISABLED
パイプラインは要求を処理しておらず、新しい作業を受け入れることができません。初期化が失敗したか、明示的に使用不可にされた可能性があります。

ENABLING
パイプラインは初期化中です。まだ作業を受け入れる準備ができていません。

DISABLING
パイプラインは、DISABLED 状態になる前に静止しています。新しい作業は受け入れられませんが、現在の作業は完了できます。

DISCARDING
このパイプラインのために DISCARD コマンドが発行されました。パイプラインは、廃棄される前に静止しています。新しい作業は受け入れられませんが、現在の作業は完了できます。

INSTALLAGENT(*cvda*)
リソースをインストールしたエージェントを識別する CVDA 値を戻します。有効な値は、以下のとおりです。

BUNDLE
リソースは、バンドルのデプロイメントによってインストールされました。

CREATESPI
EXEC CICS CREATE コマンドによってリソースがインストールされました。

CSDAPI
CEDA トランザクションまたは DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによって、リソースがインストールされました。

GRPLIST
GRPLIST INSTALL によってリソースがインストールされました。

INSTALLTIME(*data-area*)
リソースのインストール時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。

INSTALLUSRID(*data-area*)
リソースをインストールした 8 文字のユーザー ID を戻します。

MODE(*cvda*)
パイプラインの操作モードを戻します。 CVDA 値は以下のとおりです。

PROVIDER
CICS はパイプラインをサービス・プロバイダーとして使用しています。

REQUESTER
CICS はパイプラインをサービス要求元として使用しています。

UNKNOWN
パイプラインの操作モードを判別できません。

MSGFORMAT(*data-area*)
PIPELINE によって処理されるメッセージ・フォーマットを示す 8 バイトの文字ストリングを返します。

SOAP11
パイプラインは、SOAP 1.1 メッセージ・フォーマットを処理します。

SOAP12
パイプラインは、SOAP 1.2 メッセージ・フォーマットを処理します。また、SOAP 1.1 メッセージ・フォーマットも処理可能です。

JSON
パイプラインは、JSON メッセージ・フォーマットを処理します。

OTHER
パイプラインは、カスタマーが指定したフォーマットなどの、その他のメッセージ・フォーマットを処理します。

MTOMNOXOPST(*cvda*)
バイナリー添付ファイルが存在しない場合にアウトバウンド SOAP メッセージに MTOM を使用するかどうかを示す値を戻します。

MTOMNOXOP
バイナリー添付ファイルが存在しない場合でも、MTOM を使用します。

NOMTOMNOXOP
バイナリー添付ファイルが存在しない限り、MTOM を使用しません。

MTOMST(*cvda*)
MTOM のサポートがパイプラインで使用可能にされているかどうかを示す値を戻します。

MTOM
MTOM サポートはパイプラインで使用可能にされています。

NOMTOM
MTOM サポートはパイプラインで使用可能にされていません。

RESPWAIT(*data-area*)
アプリケーション・プログラムがリモート Web サービスからのオプションの応答メッセージを待機する秒数を戻します。戻り値が -1 の場合、パイプラインに設定された値がなく、トランスポート・プロトコルのデフォルトのタイムアウト値が使用されます。

- HTTP のデフォルトのタイムアウト値は 10 秒です。
- WebSphere MQ のデフォルトのタイムアウト値は 60 秒です。

SENDMTOMST(*cvda*)
アウトバウンド SOAP メッセージに MTOM をいつ使用するかを示す値を戻します。

NOSENDMTOM
アウトバウンド SOAP メッセージに MTOM を使用しません。

SAMESENDMTOM
インバウンド・メッセージが MTOM フォーマットで受信されるときに、アウトバウンド SOAP メッセージ応答に MTOM を使用します。

SENDMTOM
アウトバウンド SOAP メッセージに常に MTOM を使用します。

SHELF(*data-area*)
シェルフ・ディレクトリーの名前を戻します。この名前は最大 255 文字の長さにできます。このフィールドは、CICS バンドルにインストールされている PIPELINE リソースではブランクです。

SOAPLEVEL(*data-area*)
パイプライン・ハンドラーでサポートされる最高の SOAP レベルを示す 8 バイト文字ストリングを返します。 SOAP レベルの値は 1.1 または 1.2 です。パイプラインが SOAP メッセージに使用されていない場合、値 NOTSOAP が戻されます。戻り値は SOAP11、SOAP12、または NOTSOAP です。

SOAPRNUM(*data-area*)
パイプライン・ハンドラーでサポートされる最高の SOAP レベルのリリース番号のフルワード・バイナリー値を返します。リリース番号の値は 1 または 2 です。

SOAPVNUM(*data-area*)
パイプライン・ハンドラーでサポートされる最高の SOAP レベルのバージョン番号のフルワード・バイナリー値を返します。バージョン番号の値は 1 です。

WSDIR(*data-area*)
Web サービス・バインディング・ディレクトリー (ピックアップ・ディレクトリーとも呼ばれる) の名前を戻します。名前の長さは 255 文字以下です。

XOPDIRECTST(*cvda*)
パイプラインが現在直接モードで XOP 文書を処理できるかどうかを示す値を戻します。

XOPDIRECT
パイプラインは XOP 文書およびバイナリー添付ファイルの直接処理をサポートします。

NOXOPDIRECT
パイプラインは XOP 文書およびバイナリー添付ファイルの直接処理をサポートしません。互換モードが稼働中です。

XOPSUPPORTST(*cvda*)
パイプラインのアプリケーション・ハンドラーが XOP 文書およびバイナリー添付ファイルの処理をサポートするかどうかを示す値を戻します。

XOPSUPPORT
アプリケーション・ハンドラーは XOP 文書をサポートします。

NOXOPSUPPORT
アプリケーション・ハンドラーは XOP 文書をサポートしません。

条件

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

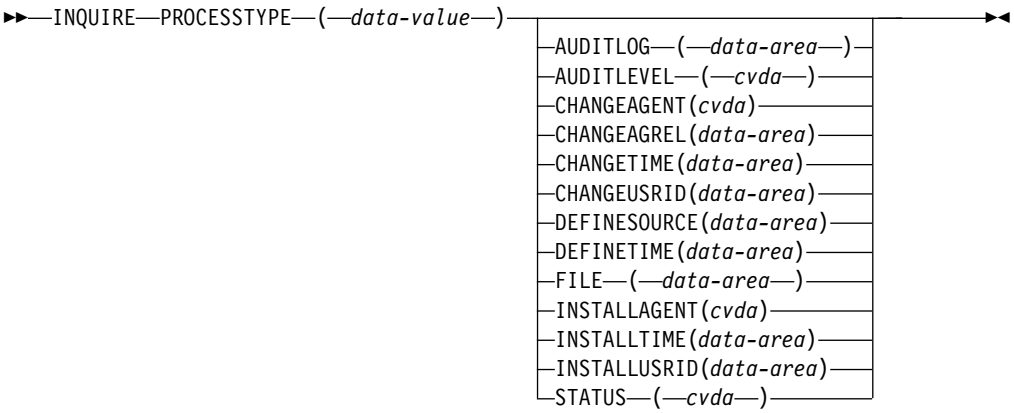
NOTFND
RESP2 値は以下のとおりです。

3 PIPELINE は見つかりませんでした。

INQUIRE PROCESSTYPE

CICS ビジネス・トランザクション・サービス (CBTS) のプロセス・タイプの属性を取得します。

INQUIRE PROCESSTYPE



状態**:** NOTAUTH、PROCESSERR

説明

INQUIRE PROCESSTYPE は、指定されたプロセス・タイプの属性を返します。

ブラウズ

INQUIRE PROCESSTYPE コマンドでブラウズ・オプション (START、NEXT、および END) を使用することにより、システム内のすべてのプロセス・タイプ定義をブラウズすることもできます。ブラウズに関する一般情報 (構文、例外条件、および例を含む) については、Browsing resource definitionsを参照してください。

リソース・シグニチャー

このコマンドを使用して、リソース・シグニチャー・フィールドを検索することができます。これらのフィールドを使用すると、リソースの定義時、インストール

時、および最終変更時の詳細データを収集して、リソースを管理できます。 詳しくは、Auditing resourcesを参照してください。 リソース・シグニチャー・フィールドは BUNDLE、CHANGEAGENT、CHANGEAGREL、CHANGETIME、CHANGEUSRID、DEFINESOURCE、DEFINETIME、INSTALLAGENT、INSTALLTIME、および INSTALLUSRID です。リソース・シグニチャー・フィールドの内容について詳しくは、Summary of the resource signature field valuesを参照してください。

オプション

AUDITLEVEL(*cvda*)

指定されたタイプのプロセスで現在アクティブになっている監査のレベルを示します。 CVDA 値は以下のとおりです。

ACTIVITY
アクティビティー・レベルの監査。監査レコードは以下のポイントから書き込まれます。

- プロセス監査ポイント
- アクティビティー 1 次監査ポイント

FULL 全監査。監査レコードは以下のポイントから書き込まれます。

- プロセス監査ポイント
- アクティビティー 1 次監査ポイントおよび 2 次監査ポイント

オフ 監査証跡レコードは書き込まれません。

PROCESS
プロセス・レベルの監査。監査レコードは、プロセス監査ポイントのみから書き込まれます。

プロセス、アクティビティー 1 次監査ポイント、およびアクティビティー 2 次監査ポイントから書き込まれるレコードの詳細については、監査ロギングのレベルの指定を参照してください。

AUDITLOG(*data-area*)

指定されたタイプのプロセスの監査ログとして使用される CICS ジャーナルの 8 文字の名前を返します。

CHANGEAGENT(*cvda*)

リソース定義を最後に変更したエージェントを識別する CVDA 値を戻します。有効な値は、以下のとおりです。

CREATESPI
リソース定義は **EXEC CICS CREATE** コマンドによって最後に変更されました。

CSDAPI
リソース定義は、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによって最後に変更されました。

CSDBATCH
リソース定義は、DFHCSDUP ジョブによって最後に変更されました。

DREPAPI
リソース定義は、CICSPlex SM BAS API コマンドによって最後に変更されました。

CHANGEAGREL(*data-area*)
リソース定義の最終変更時に実行していた CICS リリースの 4 桁の数値を戻します。

CHANGETIME(*data-area*)
リソース定義の最終変更時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。ABSTIME 値のフォーマットについて詳しくは、FORMATTIMEを参照してください。

CHANGEUSRID(*data-area*)
変更エージェントを実行した 8 文字のユーザー ID を戻します。

DEFINESOURCE(*data-area*)
リソース定義の 8 文字のソースを戻します。DEFINESOURCE 値は CHANGEAGENT 値に依存します。詳しくは、Summary of the resource signature field valuesを参照してください。

DEFINETIME(*data-area*)
リソース定義の作成時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。

FILE(*data-area*)
プロセス・タイプに関連付けられた CICS ファイルの 8 文字の名前を返します。

INSTALLAGENT(*cvda*)
リソースをインストールしたエージェントを識別する CVDA 値を戻します。有効な値は、以下のとおりです。

CREATESPI
リソースは、**EXEC CICS CREATE** コマンドによってインストールされました。

CSDAPI
リソースは、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによってインストールされました。

GRPLIST
リソースは、**GRPLIST INSTALL** によってインストールされました。

INSTALLTIME(*data-area*)
リソースのインストール時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。

INSTALLUSRID(*data-area*)
リソースをインストールした 8 文字のユーザー ID を戻します。

PROCESSTYPE(*data-value*)
照会されるプロセス・タイプの名前 (1 文字から 8 文字) を指定します。

STATUS(*cvda*)
指定されたタイプの新しいプロセスを現在定義できるかどうかを示します。CVDA 値は以下のとおりです。

DISABLED
プロセス・タイプのインストール済み定義は使用不可です。このタイプの新しいプロセスを定義できません。

ENABLED
プロセス・タイプのインストール済み定義は使用可能です。このタイプの新しいプロセスを定義できます。

条件

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

101 発行タスクに関連付けられているユーザーには、要求された方法でこのリソースにアクセスするための権限がありません。

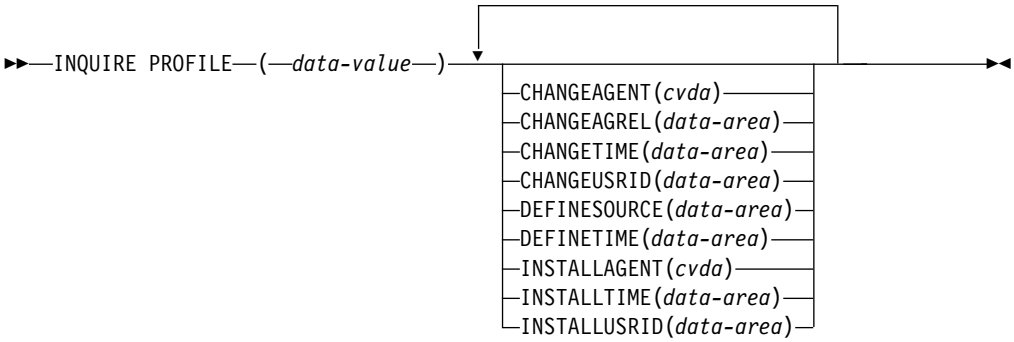
PROCESSERR
RESP2 値は以下のとおりです。

1 PROCESSTYPE オプションで指定されたプロセス・タイプが見つかりません。

INQUIRE PROFILE

トランザクション・プロファイルがインストールされているかどうかを判別します。

INQUIRE PROFILE



条件: END、ILLOGIC、NOTAUTH、PROFILEIDERR

説明

INQUIRE PROFILE コマンドを使用して、特定の PROFILE 定義がご使用の CICS システムにインストールされているかどうかを判別します。このコマンドにはオプションがありません。照会するプロファイルが CICS システムにインストールされている場合、通常応答が表示され、インストールされていない場合、PROFILEIDERR 例外条件が表示されます。

ブラウズ

また、INQUIRE PROFILE コマンドをブラウズ形式 (START、NEXT、および END オプション) で使用すると、システムにインストールされているすべてのプロファイルの名前を取得することもできます。ブラウズに関する一般情報 (構文、例外条件、および例を含む) については、Browsing resource definitionsを参照してください。

リソース・シグニチャー

このコマンドを使用して、リソース・シグニチャー・フィールドを検索することができます。これらのフィールドを使用すると、リソースの定義時、インストール時、および最終変更時の詳細データを収集して、リソースを管理できます。 詳しくは、Auditing resourcesを参照してください。 リソース・シグニチャー・フィールドは BUNDLE、CHANGEAGENT、CHANGEAGREL、CHANGETIME、CHANGEUSRID、DEFINESOURCE、DEFINETIME、INSTALLAGENT、INSTALLTIME、および INSTALLUSRID です。リソース・シグニチャー・フィールドの内容について詳しくは、Summary of the resource signature field valuesを参照してください。

オプション

CHANGEAGENT(*cvda*)
リソース定義を最後に変更したエージェントを識別する CVDA 値を戻します。有効な値は、以下のとおりです。

CREATESPI
リソース定義は **EXEC CICS CREATE** コマンドによって最後に変更されました。

CSDAPI
リソース定義は、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによって最後に変更されました。

CSDBATCH
リソース定義は、DFHCSDUP ジョブによって最後に変更されました。

DREPAPI
リソース定義は、CICSPlex SM BAS API コマンドによって最後に変更されました。

SYSTEM
リソース定義は、CICS または CICSPlex システムによって最後に変更されました。

CHANGEAGREL(*data-area*)
リソース定義の最終変更時に実行していた CICS リリースの 4 桁の数値を戻します。

CHANGETIME(*data-area*)
リソース定義の最終変更時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。ABSTIME 値のフォーマットについて詳しくは、FORMATTIMEを参照してください。

CHANGEUSRID(*data-area*)
変更エージェントを実行した 8 文字のユーザー ID を戻します。

DEFINESOURCE(*data-area*)
リソース定義の 8 文字のソースを戻します。DEFINESOURCE 値は CHANGEAGENT 値に依存します。詳しくは、Summary of the resource signature field valuesを参照してください。

DEFINETIME(*data-area*)
リソース定義の作成時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。

INSTALLAGENT(*cvda*)
リソースをインストールしたエージェントを識別する CVDA 値を戻します。有効な値は、以下のとおりです。

CREATESPI
リソースは、**EXEC CICS CREATE** コマンドによってインストールされました。

CSDAPI
リソースは、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによってインストールされました。

GRPLIST
リソースは、**GRPLIST INSTALL** によってインストールされました。

INSTALLTIME(*data-area*)
リソースのインストール時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。

INSTALLUSRID(*data-area*)
リソースをインストールした 8 文字のユーザー ID を戻します。

PROFILE(*data-value*)
照会するプロファイルの 8 文字の名前を指定します。

条件

END
RESP2 値は以下のとおりです。

2 このタイプのリソース定義はありません。

ILLOGIC
RESP2 値は以下のとおりです。

1 このリソース・タイプのブラウズが既に実行されているときに START コマンドが出されたか、もしくは、このリソース・タイプのブラウズが実行されていないときに NEXT または END コマンドが出された。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

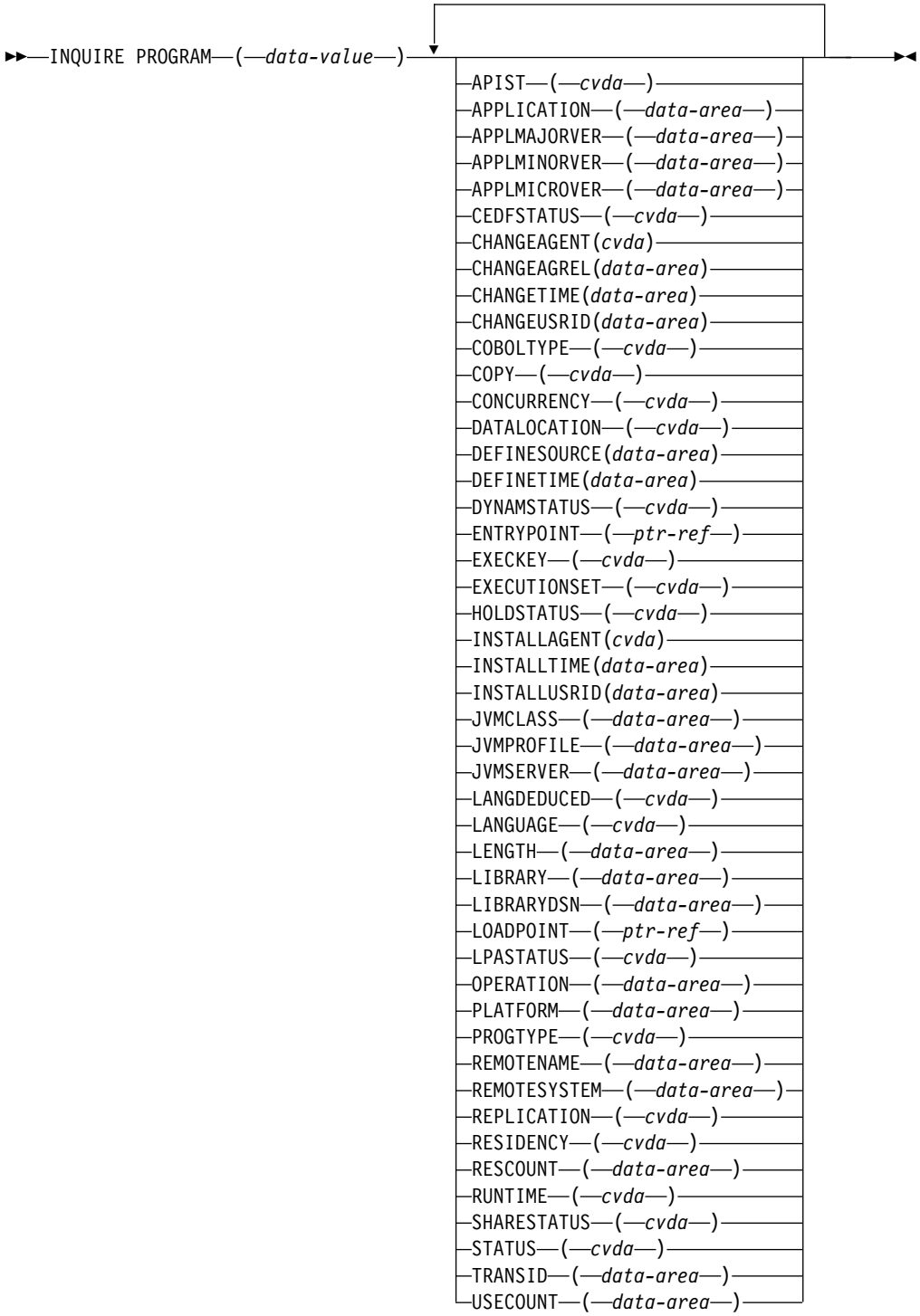
PROFILEIDERR
RESP2 値は以下のとおりです。

1 プロファイルが見つかりません。

INQUIRE PROGRAM

プログラム、マップ・セット、または区画セットに関する情報を取得します。

INQUIRE PROGRAM



条件: APPNOTFOUND、END、ILLOGIC、NOTAUTH、PGMIDERR

CVDA の使用について詳しくは、CICS-value data areas (CVDAs)を参照してください。

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

INQUIRE PROGRAM コマンドは、CICS 領域にインストールされている特定のプログラム、マップ・セット、または区画セットに関する情報を戻します。これらのリソースはすべてロード・モジュールなので、CICS では 3 つすべてに同じ INQUIRE コマンドを使用します。混乱を避けるために、モジュールという語は、オプションが実行可能プログラムのみに適用される場合を除き、照会の対象を指しています。

CICS は、リソース定義と、適用できる場合はロード・モジュールの両方から、要求されている情報を判別します。競合がある場合は、モジュールからの情報が定義内の情報より優先されます。しかし、モジュールが既にロード済みで、現在使用可能なコピーである場合のみ、CICS はモジュールを検査します。CICS では、**INQUIRE PROGRAM** コマンドのためのロードを行わず、定義がないリソースの自動インストールを試行しません。

SET PROGRAM NEWCOPY コマンドまたは **SET PROGRAM PHASEIN** コマンドがプログラムに対して発行されてから、そのプログラムの新規コピーがロードされるまでに、**INQUIRE PROGRAM** コマンドがその同じプログラムに対して発行される場合、**INQUIRE PROGRAM** コマンドによって戻される特定の情報項目は、そのプログラムの古いコピー (ある場合) のものです。これは、ロード・モジュールに関連する情報、すなわち **ENTRYPOINT**、**LENGTH**、**LIBRARY**、**LIBRARYDSN**、および **LOADPOINT** オプションに適用されます。ロード・モジュールの新規コピーに関する情報は、再ロードが完了した後にのみ戻されます。これは、ロード・モジュールが次に参照されるときです。ロード・モジュールを指定する次の **LINK**、**XCTL**、**LOAD**、**ENABLE**、または **BMS** コマンドにより、モジュールは再ロードされます。

ブラウズ

INQUIRE PROGRAM コマンドでブラウズ・オプションの START、AT、NEXT、および END を使用することにより、システム内のプログラム、マップ・セット、および区画セットの定義をブラウズできます。ブラウズ・モードでは、定義はアルファベット順で返され、希望する場合は AT オプションを使って開始点を指定できます。ブラウズに関する一般情報 (構文、例外条件、および例を含む) については、Browsing resource definitionsを参照してください。

アプリケーションの専用リソース

プラットフォームにインストールされているアプリケーションの一部として定義されるプログラムは、そのアプリケーションの特定のバージョン専用のものです。サポートされるリソース・タイプ (プログラムを含む) では、パッケージ化されてインストールされた CICS バンドルで、リソースがアプリケーションの一部 (アプリケーション・バンドルの一部、あるいはアプリケーション・バインディング・バンドルの一部) として定義されている場合、リソースは専用です。プラットフォームにデプロイされるアプリケーションのためにタスクによって自動インストールされる

プログラムは、そのバージョンのアプリケーションに専用のものでもあります。他の方式で定義されたプログラムはすべてのタスクが共用可能であり、共通プログラムと呼ばれます。アプリケーション・エントリー・ポイントとして宣言される専用プログラムは、アプリケーション・エントリー・ポイントのステートメントを格納する CICS バンドルが使用可能になると、公用プログラムになることに注意してください。

専用リソースを照会またはブラウズするために、リソース・タイプに対する **EXEC CICS INQUIRE** システム・プログラミング・コマンドを使用できます。デフォルトでは、CICS は、**EXEC CICS INQUIRE** コマンドが発行されたプログラムで使用可能な専用リソースを検索します。指定したアプリケーションの専用リソースをブラウズすることも選択できます。

- 共通プログラムから **EXEC CICS INQUIRE PROGRAM** コマンドを発行すると、指定した共通 PROGRAM リソースに関する情報が戻されます。 PROGRAM リソースが共通リソースとして使用可能でない場合は、PGMIDERR 状態が戻されます。
- アプリケーション・コンテキストで実行されているプログラムから **EXEC CICS INQUIRE PROGRAM** コマンドを発行すると、そのアプリケーション用の指定した専用 PROGRAM リソースに関する情報が戻されます (リソースが存在する場合)。その名前の専用 PROGRAM リソースをアプリケーションが持っていない場合は、指定した名前の共通 PROGRAM リソースに関する情報が戻されます。そのアプリケーションの専用 PROGRAM リソースとしても共通 PROGRAM リソースとしてもリソースが使用可能でない場合は、PGMIDERR 状態が戻されます。
- **EXEC CICS INQUIRE PROGRAM** コマンドをブラウズ・モードで使用する場合、戻されるリソースは、コマンドが発行されたプログラムと、特定のアプリケーション・コンテキストが指定されているかどうかに依存します。異なるアプリケーション・コンテキストでのブラウズの例を含め、専用リソースのブラウズについて詳しくは、Browsing resource definitions を参照してください。

リソース・シグニチャー

このコマンドを使用して、リソース・シグニチャー・フィールドを検索することができます。これらのフィールドを使用すると、リソースの定義時、インストール時、および最終変更時の詳細データを収集して、リソースを管理できます。 詳しくは、Auditing resourcesを参照してください。 リソース・シグニチャー・フィールドは BUNDLE、CHANGEAGENT、CHANGEAGREL、CHANGETIME、CHANGEUSRID、DEFINESOURCE、DEFINETIME、INSTALLAGENT、INSTALLTIME、および INSTALLUSRID です。リソース・シグニチャー・フィールドの内容について詳しくは、Summary of the resource signature field valuesを参照してください。

オプション

APIST(*cvda*) (プログラムのみ)
インストール済みプログラム定義の API 属性を示す CVDA 値を戻します。API 属性は、アプリケーション・プログラム、PLT プログラム、ユーザー置換可能モジュール、およびタスク関連ユーザー出口に使用されます。API 属性は、グローバルなユーザー出口には使用されません。

インストール済み PROGRAM リソース上の、タスク関連ユーザー出口プログラムに関する API 属性は、ENABLE コマンド上で指定されているオプションによって変更されません。タスク関連のユーザー出口プログラムの場合、CICS は常にプログラム・リソース定義内に定義されている値を使用して CVDA を戻します。

SPI を使用するプログラムの API 属性は変更できません。 CICS PROGRAM リソース定義内、またはプログラム自動インストール・モデル内でプログラムの API オプションを再定義し、その定義を再インストールするという方法でのみ、API 属性を変更できます。CVDA 値は以下のとおりです。

CICSAPI
プログラムは、CICS が許可したアプリケーション・プログラミング・インターフェースだけを使用するように制限されます。プログラムを CONCURRENCY(QUASIRENT) で定義した場合、そのプログラムは常に準再入可能 (QR) TCB で実行されます。プログラムが CONCURRENCY(THREADSAFE) として定義されている場合は、その時点で CICS が使用している、適切と判断された TCB で実行されます。プログラムが CONCURRENCY(REQUIRED) として定義されている場合は、常に L8 オープン TCB 上で実行されます。

OPENAPI
プログラムは、CICS が許可したアプリケーション・プログラミング・インターフェースのみを使用するようには制限されません。EXECKEY の設定に応じて、CICS は独自の L8 または L9 モードのオープン TCB 上でプログラムを実行します。CICS コマンドの実行中に CICS が QR TCB への切り替えを必要とする場合、それは制御を元のアプリケーション・プログラムに渡す前に開いた TCB に戻ります。

OPENAPI では、プログラムがスレッド・セーフ標準に適合するようにコード化され、CONCURRENCY(THREADSAFE) または CONCURRENCY(REQUIRED) を指定して定義される必要があります。以前のリリースとの互換性が考慮され、CONCURRENCY (THREADSAFE) は許可されていますが、OPENAPI と共に CONCURRENCY(REQUIRED) を使用するオプションが推奨されています。

APPLICATION(*data-area***)**
アプリケーション・コンテキストのアプリケーション名エレメントを指定または戻します。このアプリケーション名は、64 文字以内の長さで指定することができます。

プラットフォーム上にデプロイされたアプリケーションの専用リソースをブラウズするには、ブラウズ・コマンド START で APPLICATION、APPLMAJORVER、APPLMINORVER、APPLMICROVER および PLATFORM オプションを使用して、リソースをブラウズするアプリケーションのプラットフォーム、アプリケーション名、および完全バージョン番号を指定します。

共通 PROGRAM リソースの照会の場合、APPLICATION、APPLMAJORVER、APPLMINORVER、APPLMICROVER、および PLATFORM オプションは、プログラムがアプリケーション・エントリー・ポイントとして定義されたアプリケーションの名前、バージョン番号、およ

びプラットフォームを返します。 OPERATION オプションは、アプリケーション内の関係のあるオペレーションの名前を返します。プログラムがアプリケーション・エントリー・ポイントとして定義されていない場合、APPLICATION は 64 個のブランクを返します。

APPLMAJORVER(*data-area***)**
アプリケーション・コンテキストのアプリケーション・メジャー・バージョン・エレメントをフルワード・バイナリー形式で指定または戻します。共通 PROGRAM リソースの照会の場合、プログラムがアプリケーション・エントリー・ポイントとして定義されていなければ、APPLMAJORVER は値 -1 を戻します。

APPLMINORVER(*data-area***)**
アプリケーション・コンテキストのアプリケーション・マイナー・バージョン・エレメントをフルワード・バイナリー形式で指定または戻します。共通 PROGRAM リソースの照会の場合、プログラムがアプリケーション・エントリー・ポイントとして定義されていなければ、APPLMINORVER は値 -1 を戻します。

APPLMICROVER(*data-area***)**
アプリケーション・コンテキストのアプリケーション・マイクロ・バージョン・エレメントをフルワード・バイナリー形式で指定または戻します。共通 PROGRAM リソースの照会の場合、プログラムがアプリケーション・エントリー・ポイントとして定義されていなければ、APPLMICROVER は値 -1 を戻します。

CEDFSTATUS(*cvda***) (プログラムのみ)**
モジュールが実行診断機能 (EDF) の下で実行される場合に、EDF トランザクションによるアクションを示す CVDA 値を戻します。CVDA 値は以下のとおりです。

CEDF EDF 診断画面が表示されます。EDF オプションを使用してプログラムが変換された場合は、すべての EDF 画面が表示されます。NOEDF を使用してプログラムが変換された場合は、プログラムの開始画面と終了画面だけが表示されます。

NOCEDF
EDF 画面は表示されません。

NOTAPPLIC
モジュールがリモート・プログラム、マップ・セット、または区画セットなので、EDF は適用されません。

CHANGEAGENT(*cvda*)
リソース定義を最後に変更したエージェントを識別する CVDA 値を戻します。有効な値は、以下のとおりです。

AUTOINSTALL
リソースは自動インストールされました。

CREATESPI
リソース定義は **EXEC CICS CREATE** コマンドによって最後に変更されました。

CSDAPI
リソース定義は、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによって最後に変更されました。

CSDBATCH
リソース定義は、DFHCSDUP ジョブによって最後に変更されました。

DREPAPI
リソース定義は、CICSPlex SM BAS API コマンドによって最後に変更されました。

DYNAMIC
リソース定義は、Link to Liberty アプリケーションによって最後に変更されました。

SYSTEM
リソース定義は、CICS または CICSPlex システムによって最後に変更されました。

CHANGEAGREL(*data-area*)
リソース定義の最終変更時に実行していた CICS リリースの 4 桁の数値を戻します。

CHANGETIME(*data-area*)
リソース定義の最終変更時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。ABSTIME 値のフォーマットについて詳しくは、FORMATTIMEを参照してください。

CHANGEUSRID(*data-area*)
変更エージェントを実行した 8 文字のユーザー ID を戻します。

COBOLTYPE(*cvda*) (プログラムのみ)
モジュールが COBOL プログラムの場合に、そのモジュールが作成された COBOL のタイプを示す CVDA 値を戻します。ロード・モジュールを検査してタイプを判別します。CVDA 値は以下のとおりです。

COBOL
モジュールは OS/VS COBOL プログラムです。(OS/VS COBOL プログラムは、この CICS Transaction Server バージョンの下では実行できません。)

COBOLII
モジュールは、VS COBOL II またはそれ以降の COBOL コンパイラーでコンパイルされた COBOL プログラムです。

NOTAPPLIC
モジュールはロードされており COBOL プログラムではないか、モジュールはまだロードされておらず COBOL プログラムとして定義されていません。

NOTINIT
モジュールは COBOL プログラムとして定義されていますが、まだロードされていないので、タイプを判別できません。

CONCURRENCY
インストール済みプログラム定義の並行性の属性を示す CVDA 値を戻します。CVDA 値は以下のとおりです。

QUASIRENT
プログラムは、準再入可能として定義され、CICS QR TCB 下でのみ実行できます。

THREADSAFE
プログラムはスレッド・セーフとして定義されており、プログラムに制御が付与されるときにユーザー・タスクによって使用されるどの TCB の下でも実行できます。オープン TCB または CICS QR TCB が該当します。

REQUIRED
プログラムはスレッド・セーフとして定義されており、オープン TCB で実行する必要があります。使用されるオープン TCB のタイプは、API 設定によって異なります。

注:

1. プログラムがまだロードされていない (または、NEWCOPY 要求か PHASEIN 要求の後で再ロードされるのを待っている) 場合、並行性の属性はインストール済みのプログラム・リソース定義から派生します。プログラム定義のデフォルトは QUASIRENT であることに注意してください。しかし、Language Environment に準拠するプログラムの場合、もともと定義されている並行性は、後でプログラムをロードする際にオーバーライドできます。Language Environment ランタイム・オプションによって定義される CONCURRENCY 値がプログラム自体に含まれていることを CICS が検出すると、インストール済みのプログラム・リソース定義は Language Environment ランタイム・オプションによって更新されます。
2. インストール済みプログラム・リソース定義上の CONCURRENCY 属性は、FORCEQR システム初期設定パラメーターによって変更されません。FORCEQR=YES が指定されていても、CICS はスレッド・セーフ定義のプログラムに関して THREADSAFE の CVDA を戻します。
3. インストール済みプログラム・リソース定義上の、タスク関連ユーザー出口プログラムに関する CONCURRENCY 属性は、ENABLE コマンド上で指定されているオプションによって変更されません。タスク関連のユーザー出口プログラムの場合、CICS は常にプログラム・リソース定義内に定義されている値を使用して CVDA を戻します。

   SPI を使用してプログラムの並行性属性を変更することはできません。EXEC CICS SET PROGRAM コマンド上では CONCURRENCY オプションはサポートされません。CICS プログラム・リソース定義内、またはプログラム自動インストール・モデル内でプログラムの CONCURRENCY オプションを再定義し、その定義を再インストールするという方法でのみ、並行性属性を変更できます。

COPY(*cvda*)
モジュールを使用できるようにするにはそのモジュールの新規コピーが必要かどうかを示す CVDA 値を戻します。この要件は、CICS がモジュールのロードを試行して、そのモジュールを検出できなかった後で発生します。なぜなら、以後

のロード試行のオーバーヘッドを避けるために、CICS はそのモジュールに「ロード不能」というマークを付けるからです。再度モジュールを使用可能にするには、SET PROGRAM COPY コマンドか同等の CEMT コマンドを発行します。その前に、DFHRPL または動的 LIBRARY 連結内のいずれかのライブラリー内にプログラムがあることを確認します。CVDA 値は以下のとおりです。

NOTREQUIRED
新規コピーは不要です。JVM で実行される Java プログラムの場合、常にこの CVDA 値が戻されます。

REQUIRED
新規コピーが必要です。

DATALOCATION(*cvda*) (プログラムのみ)
このモジュールが 16 MB を超えるデータ・アドレスを受け入れることができるかどうかを示す CVDA 値を戻します。CVDA 値は以下のとおりです。

ANY このプログラムは 16 MB を超えるアドレスを受け入れることができます。

BELOW
このプログラムでは、CICS から戻されるデータ・アドレスが 16 MB 未満である必要があります。

NOTAPPLIC
モジュールがリモート・プログラム、マップ・セット、または区画セットなので、このオプションは適用されません。

DEFINESOURCE(*data-area*)
リソース定義の 8 文字のソースを戻します。DEFINESOURCE 値は CHANGEAGENT 値に依存します。詳しくは、Summary of the resource signature field valuesを参照してください。

DEFINETIME(*data-area*)
リソース定義の作成時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。

DYNAMSTATUS(*cvda*) (プログラムのみ)
プログラムがプログラム・リンク要求の対象である場合に、要求を動的にルーティングできるかどうかを示す CVDA 値を戻します。CVDA 値は以下のとおりです。

DYNAMIC
プログラムがプログラム・リンク要求の対象である場合、CICS 動的ルーティング・プログラムが呼び出されます。リモート・サーバー領域が LINK コマンドの SYSID オプションで明示的に名前指定されていない場合は、ルーティング・プログラムはそのプログラムが実行する領域に要求をルーティングできます。

NOTDYNAMIC
プログラムがプログラム・リンク要求の対象である場合、動的ルーティング・プログラムが呼び出されません。

分散プログラム・リンク (DPL) 要求の場合、PROGRAM 定義の REMOTESYSTEM オプションか LINK コマンドの SYSID オプションで、プログラムが実行するサーバー領域を明示的に指定しなければなりません。指定しないと、デフォルトのローカル領域になります。

DPL 要求の動的ルーティングに関する情報は、DPL 要求の動的ルーティングを参照してください。

ENTRYPOINT(*ptr-ref*)
モジュールがロードされている場合に、モジュールのエントリー・ポイントを戻します。CICS プログラムのロード・サービスは、ロード・モジュールのアドレッシング・モードに従って、エントリー・ポイントを以下のように設定します。

- AMODE(24): ビット 0 は 0、ビット 31 は 0。
- AMODE(31): ビット 0 は 1、ビット 31 は 0。
- AMODE(64): ビット 0 は 0、ビット 31 は 1。

モジュールが、ロードされていない場合、リモート・プログラムである場合、または JVM で実行される Java プログラムである場合には、NULL ポインター (X'FF000000') が戻されます。

EXECKEY(*cvda*) (プログラムのみ)
モジュールが実行可能プログラムの場合、そのモジュールのストレージ・キーを示す CVDA 値を戻します。ストレージ・キーは、他の変数に応じて、プログラムがアクセスできるストレージ域を制限できます。CICS のストレージ保護およびトランザクション分離で、INQUIRE TASK および INQUIRE TRANSACTION コマンドの ISOLATEST オプション、INQUIRE SYSTEM コマンドの STOREPROTECT および TRANISOLATE オプション、およびストレージ保護の一般的な説明を参照してください。CVDA 値は以下のとおりです。

CICSEXECKEY
プログラムは CICS キーで実行します。

NOTAPPLIC
モジュールはリモート・プログラム、マップ・セット、または区画セットです。

USEREXECKEY
プログラムはユーザー・キーで実行します。

EXECUTIONSET(*cvda*) (プログラムのみ)
モジュールが CICS API の分散プログラム・リンクのサブセットに制限されるかどうかを示す CVDA 値を戻します。EXECUTIONSET オプションは、実行可能プログラムのみに適用され、プログラムがローカルに呼び出される場合にのみ API を管理します。リモートに呼び出される場合、つまり、分散プログラム・リンクによって呼び出されるプログラム以下のレベルで実行する場合、プログラムは常にこのサブセットに制限されます。CVDA 値は以下のとおりです。

DPLSUBSET
プログラムは常に制限されます。

FULLAPI
プログラムはリモートに呼び出される場合にのみ制限されます。

NOTAPPLIC
モジュールがリモート・プログラム、マップ・セット、または区画セットなので、EXECUTIONSET は適用されません。

HOLDSTATUS(*cvda*)
モジュールのコピーが HOLD オプションを指定して現在ロードされているかどうかを示す CVDA 値を戻します。CVDA 値は以下のとおりです。

HOLD
HOLD オプションを指定してコピーが現在ロードされています。

NOHOLD
HOLD オプションを指定してコピーが現在ロードされていません。

NOTAPPLIC
モジュールが現在ロードされていないか、またはリモート・プログラムです。

INSTALLAGENT(*cvda*)
リソースをインストールしたエージェントを識別する CVDA 値を戻します。有効な値は、以下のとおりです。

AUTOINSTALL
リソースは自動インストールされました。

BUNDLE
リソースは、バンドルのデプロイメントによってインストールされました。

CREATESPI
リソースは、**EXEC CICS CREATE** コマンドによってインストールされました。

CSDAPI
リソースは、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによってインストールされました。

DYNAMIC
リソース定義は、Link to Liberty アプリケーションによって最後にインストールされました。

GRPLIST
リソースは、**GRPLIST INSTALL** によってインストールされました。

SYSTEM
リソースは、CICS または CICSPlex SM システムによってインストールされました。

INSTALLTIME(*data-area*)
リソースのインストール時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。

INSTALLUSRID(*data-area*)
リソースをインストールした 8 文字のユーザー ID を戻します。

JVMCLASS(*data-area*) (Java プログラムのみ)
JVM により制御を与えられる Java プログラムのメイン・クラスの名前を、255 文字で、プログラム定義に指定されているとおりに戻します。

JVMPROFILE(*data-area*) (Java プログラムのみ)
この Java プログラムが実行されているプール内の JVM で使用されている JVM プロファイルの名前を返します。この名前は、8 文字以内の長さで指定することができます。

JVMSERVER(*data-area*) (Java プログラムのみ)
この Java プログラムが実行される JVM サーバーの名前を戻します。この名前は、8 文字以内の長さで指定することができます。

LANGDEDUCED(*cvda*) (プログラムのみ)
ロードされたモジュールの言語を示す CVDA 値を戻します。モジュールがまだロードされていない場合は、CICS は言語を推定できません。この場合、CVDA 値は、リソース定義から取られた定義済みの言語を示します。CVDA 値は以下のとおりです。

ASSEMBLER
言語はアセンブラーです。

C 言語は C または C++ です。

COBOL
言語は COBOL です。

JAVA 言語は Java です。

LE370 モジュールは、言語にかかわらず、Language Environment を使用して実行するようにコンパイルされました。

NOTAPPLIC
モジュールがリモート・プログラム、マップ・セット、または区画セットなので、LANGUAGE は適用されません。

NOTDEFINED
言語はリソース定義内に指定されておらず、ロードされていません。

PLI または **PL1**
言語は PL/I です。

LANGUAGE(*cvda*) (プログラムのみ)
プログラム言語を示す CVDA 値を戻します。CICS プログラム・マネージャーが正しい言語を推定しますが、プログラムが DFHEAI または DFHEAG スタブを使用せずにアセンブラー言語で作成されている場合は例外です。この場合、プログラム定義の LANGUAGE 属性を使用して値が戻されます。CVDA 値は以下のとおりです。

ASSEMBLER
言語はアセンブラーです。

C 言語は C です。

COBOL
言語は COBOL です。

LE370 モジュールは、言語にかかわらず、複数言語サポートを活用するか、Language Environment に準拠するコンパイラーを使用してコンパイルされました。

NOTAPPLIC
モジュールがリモート・プログラム、マップ・セット、または区画セットなので、LANGUAGE は適用されません。

NOTDEFINED
言語がリソース定義内に指定されていませんでした。

PLI または **PL1**
言語は PL/I です。

LENGTH(*data-area***)**
モジュールの長さをバイト単位で示すフルワード・バイナリー・フィールドを戻します。モジュールが現行の CICS セッションでロードされていない場合は、値 0 が戻されます。リモート・プログラムの場合、または JVM 内で実行する Java プログラムの場合は、値 -1 が戻されます。

LIBRARY(*data-area***)**
このプログラムがロードされたライブラリー・リソースの 8 文字の名前を戻します。このデータ域は、プログラムがロードされていない場合か、LPASTATUS が LPA (プログラムが LPA からロードされていることを示す) の場合はブランクです。

注:

- インストール済みのライブラリーからプログラムがロードされた場合は、LIBRARY と LIBRARYDSN の名前が戻されます。
- 使用不可になっているライブラリーからプログラムがロードされた場合は、LIBRARY 名は戻されますが、LIBRARYDSN はブランクです。
- 廃棄されているライブラリーからプログラムがロードされた場合は、LIBRARY名 と LIBRARYDSN 名は両方ともブランクです。

LIBRARYDSN(*data-area***)**
プログラムのロード元のデータ・セットの 44 文字の名前を返します。このデータ域は、プログラムがロードされていない場合か、LPASTATUS が LPA (プログラムが LPA からロードされていることを示す) の場合はブランクです。

- インストール済みのライブラリーからプログラムがロードされた場合は、LIBRARY と LIBRARYDSN の名前が戻されます。
- 使用不可になっているライブラリーからプログラムがロードされた場合は、LIBRARY 名は戻されますが、LIBRARYDSN はブランクです。
- 廃棄されているライブラリーからプログラムがロードされた場合は、LIBRARY名 と LIBRARYDSN 名は両方ともブランクです。

LOADPOINT(*ptr-ref***)**
モジュールのロード・アドレスを戻します。現在ロードされていない場合か、プログラムが JVM 内で実行する Java プログラムの場合は、NULL ポインター (X'FF000000') が戻されます。

LPASTATUS(*cvda***)**
モジュールが最後の使用時にリンク・パック域にあったかどうかを示す CVDA 値を戻します。CVDA 値は以下のとおりです。

LPA 使用されたコピーは、リンク・パック域 (LPA) か拡張リンク・パック域 (ELPA) にありました。

NOTAPPLIC
モジュールは使用されていないか、リモート・プログラムか、または Java プログラムです。

NOTLPA
使用されたコピーは、CICS 動的ストレージ内にありました。

OPERATION(*data-value***)**
このプログラムがエントリー・ポイントとして定義されているアプリケーションのオペレーション名を、64 文字の領域に戻します。プログラムがアプリケーション・エントリー・ポイントとして定義されていない場合、OPERATION は 64 個のブランクを返します。

PLATFORM(*data-area***)**
アプリケーション・コンテキストのプラットフォーム名エレメントを指定または戻します。このプラットフォーム名は、64 文字以内の長さで指定することができます。共通 PROGRAM リソースの照会の場合、リソースがアプリケーション・エントリー・ポイントとして定義されていなければ、PLATFORM は 64 個のブランクを戻します。

PROGRAM(*data-value***)**
照会するプログラム、マップ・セット、または区画セットの名前を指定します。この名前は、8 文字以内の長さで指定することができます。

PROGTYPE(*cvda***)**
モジュールのタイプを示す CVDA 値を戻します。CVDA 値は以下のとおりです。

MAPSET
モジュールはマップ・セットです。(MAP は引き続き MAPSET の同義語ですが、優先される CVDA 値は MAPSET です。)

PARTITIONSET
モジュールは区画セットです。

PROGRAM
モジュールは実行可能プログラムです。

REMOTENAME(*data-area***) (プログラムのみ)**
PROGRAM 定義の REMOTESYSTEM オプションで指定された CICS 領域でモジュールが認識されるための 8 文字の名前を戻します。REMOTENAME オプションはプログラムのみに適用され、しかもリモートと定義されたプログラムのみに適用されます。ローカル・プログラム、マップ・セット、および区画セットの場合は、ブランクの値が戻されます。

REMOTESYSTEM(*data-area***) (プログラムのみ)**
モジュールが定義されている CICS 領域の 4 文字の名前を (PROGRAM 定義の REMOTESYSTEM 値から) 戻します。プログラムのみに適用され、しかもリモートと定義されたプログラムのみに適用されます。ローカル・プログラム、マップ・セット、および区画セットの場合は、ブランクの値が戻されます。

REPLICATION(*cvda***)**
プログラムがレプリケーターであるかどうかを示す CVDA 値を戻します。CVDA 値は以下のとおりです。

REPLICATOR
このプログラムはレプリケーター・プログラムであり、AVAILABILITY 状態が RREPL である VSAM データ・セットへの全アクセス権限があります。

NOREPLICATOR
このプログラムはレプリケーター・プログラムではなく、AVAILABILITY 状態が RREPL である VSAM データ・セットへの読み取り権限のみがあります。

RESCOUNT(*data-area***)**
この照会の時点における、このモジュールの別個の使用数を示すフルワード・バイナリー・フィールドを戻します。モジュールがリモート・プログラムの場合、または JVM 内で実行する Java プログラムの場合は、値 -1 が戻されます。

RESIDENCY(*cvda***) (プログラムのみ)**
プログラムの常駐属性を示す CVDA 値を戻します。 CVDA 値は以下のとおりです。

RESIDENT
プログラムは永続的に常駐します。これは RESIDENT(YES) として定義されています。

NONRESIDENT
プログラムは RESIDENT(NO) と定義されます。

RUNTIME(*cvda***)**
プログラムのランタイム環境を示す CVDA 値を戻します。CVDA 値は以下のとおりです。

JVM このプログラムは、Java 仮想マシン (JVM) で実行する Java プログラムです。

LE370 このプログラムは、Language Environment ランタイム・サポートを使用して実行します。

NONLE370
このプログラムは言語固有のランタイム環境を使用して実行します。

NOTAPPLIC
モジュールがマップ・セットか区画セットなので、RUNTIME は適用されません。

UNKNOWN
プログラムが CICS によってロードされていないために、使用されているランタイム環境を示すそのソース言語が推定されていないので、プログラムのランタイム環境が不明です。

XPLINK
プログラムは、XPLINK オプションを使用してコンパイルされた C または C++ プログラムです。

SHARESTATUS(*cvda***)**
次回新規コピーが必要になるときに CICS がモジュールを入手する場所を示す CVDA 値を戻します。CVDA 値は以下のとおりです。

NOTAPPLIC
モジュールがリモート・プログラムか JVM 内で実行する Java プログラムなので、SHARESTATUS は適用されません。

PRIVATE
モジュールは、DFHRPL または動的 LIBRARY 連結内のいずれかのライブラリーからロードされます。

SHARED
LPA コピーが使用可能な場合には、それが使用されます。使用可能でない場合は、モジュールは SHARESTATUS が PRIVATE の場合と同様の方法でロードされます。

STATUS(*cvda*)
モジュールが使用できるかどうかを示す CVDA 値を戻します。CVDA 値は以下のとおりです。

DISABLED
モジュールは使用不可です。

ENABLED
モジュールは使用可能です。

TRANSID(*data-area*) (プログラムのみ)
このモジュール (プログラムでなければならない) をリモートで実行する際のトランザクション名を 4 文字で戻します。これは、リモート領域がそこで作成されたタスクに対して割り当てるトランザクション ID であり、ローカル領域のタスクがリンクするときに実行されます。この値は、PROGRAM 定義内の TRANSID オプション値から取られ、リモートとして定義されたプログラムにのみ適用されます。ローカル・プログラム、マップ・セット、区画セットの場合、およびリモート・プログラムに TRANSID が指定されていない場合には、ブランクの値が戻されます。

USECOUNT(*data-area*)
現行の CICS セッションの開始以降モジュールが使用された合計回数を示すフルワード・バイナリー・フィールドを戻します。Java プログラムを含め、すべてのモジュールの使用回数が提供されます。ただし、リモート・プログラムを除きます。プログラムがリモートの場合は、値 -1 が戻されます。

最大値は 2147483647 です。この値に達すると、使用回数は変わらなくなります。

条件

APPNOTFOUND
RESP2 値は以下のとおりです。

1 アプリケーション・コンテキストを指定して START コマンドが発行されました。指定されたアプリケーションが見つかりません。

END
RESP2 値は以下のとおりです。

2 このタイプのリソース定義はありません。

ILLOGIC
RESP2 値は以下のとおりです。

1 このリソース・タイプのブラウズが既に実行されているときに START コマンドが出されたか、もしくは、このリソース・タイプのブラウズが実行されていないときに NEXT または END コマンドが出された。

NOTAUTH

RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

101 発行中のタスクに関連付けられているユーザーには、このコマンドが要求する方法でこの特定のリソースにアクセスする権限がありません。

PGMIDERR

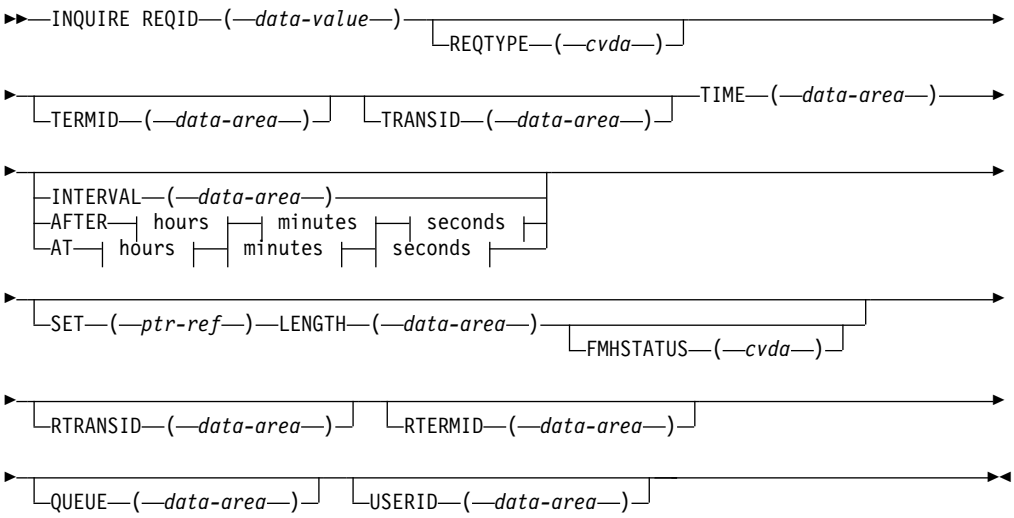
RESP2 値は以下のとおりです。

1 プログラムが見つかりません。INQUIRE PROGRAM NEXT コマンドでこのエラーが発生する場合は、その前のカタログ作成エラーにより PROGRAM、MAPSET、または PARTITIONSET 定義が使用不可になっており、定義を廃棄して再インストールしなければなりません。

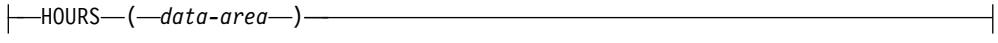
INQUIRE REQID

キューに入れられた要求についての情報を取得します。

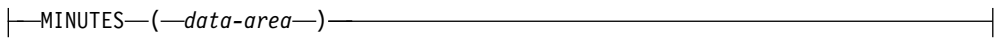
INQUIRE REQID



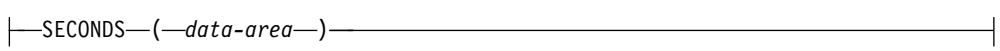
hours:



minutes:



seconds:



条件**:** END、ILLOGIC、INVREQ、NOTAUTH、NOTFND

CVDA の使用の詳細については、CICS-value data areas (CVDAs)を参照してください。

説明

INQUIRE REQID コマンドは、キューに入っている要求に関する情報を取り出します。キューに入っている要求は、ゼロ以外の満了時間を指定した DELAY、POST、ROUTE、または START コマンドを発行した結果生じ、その時刻まで続きます。DELAY コマンドの場合、満了時間は遅延の終わりです。POST の場合、通知が行われる時刻です。ROUTE の場合、メッセージが送信される時刻です。START の場合、CICS が要求されたタスクを作成する時刻です。

要求の有効期限が切れた後は、要求されたアクションが完了していなくても、INQUIRE REQID でその要求について問い合わせることはできません。例えば、トランザクションの START 要求は、必要な端末を待っている間、満了時間を超えて遅延する場合があります。

要求は、元となったコマンドの REQID 値によって (または、コマンド内で省略された場合は CICS が割り当てた値によって) 識別されます。通常、REQID 値は固有です。ただし、同じ ID を持つ複数の要求がキューに入っている場合、INQUIRE REQID は、最も早く満了する要求に関する情報を返します。

満了時間は、時間間隔 (INQUIRE から有効期限までの時間の長さ) または絶対値 (INQUIRE の前の深夜 12 時後の時間の長さ) として表すことができます。当日の深夜 12 時前に満了時間を設定した場合、絶対時間は 24 時間クロックの時刻と同じになります。どちらの形式を要求してもかまいません。これは、要求を作成するコマンドでどのような時間指定の方法が使用されていたかには関係ありません。

また、満了時間の形式も、絶対値か時間間隔かにかかわらず、2 つあります。

- 4 バイトのパック 10 進合成数 (0hhmmss+)。これは TIME または INTERVAL オプションを使用して取得します。
- 時、分、および秒 (個別)。これは、AT または AFTER に HOURS、MINUTES、および SECONDS を指定して取得されます。

キューに入っているすべての要求について、満了時間と要求タイプ (要求を生成したコマンドのタイプ) を入手できます。START 要求の場合は、開始タスクから開始されるタスクへ渡されるデータなど、追加情報を入手できます。

START コマンドには、データを渡すために 4 つのオプションがあります。FROM オプションは基本的なオプションで、可変長のデータを渡すことができます。他の 3 つのオプション (QUEUE、RTERMID、および RTRANSID) を使用すると、固定長の小項目を渡すことができます。これらのオプションは、開始されるトランザクションへリソース名を簡単に渡すためのものですが、その目的だけに限られません。4 つのデータ項目はすべて、一時記憶域に保管されるため、別のタスクで明示

的に削除される可能性があります。INQUIRE REQID コマンドで要求したデータが一時記憶域から削除されているか、入出力エラーのために読み取れない場合、CICS は INVREQ 条件を発生させます。

ブラウズ

INQUIRE REQID コマンドのブラウズ・オプション (START、NEXT、および END) を使用して、キューに入っているすべての要求をブラウズすることもできます。ブラウズに関する一般情報 (構文、例外条件、および例を含む) については、Browsing resource definitionsを参照してください。

オプション

AFTER
満了時間を (HOURS、MINUTES、および SECONDS オプションで) 現在時刻と満了時刻との間の時間間隔として返すよう CICS に要求します。

AT
満了時間を (HOURS、MINUTES、および SECONDS オプションで) (この問い合わせに先立つ深夜 12 時以降の) 絶対値として返すよう CICS に要求します。

FMHSTATUS(*cvda***)**
この要求を作成したコマンドの FROM オプションで渡されたデータに、機能管理ヘッダーが含まれているかどうかを示す CVDA 値を返します。
FMHSTATUS は、ROUTE コマンド、または FROM を指定する START コマンドによって生じる要求にのみ適用されます。CVDA 値は次のとおりです。

FMH データに機能管理ヘッダーが含まれています。

NOFMH
データに機能管理ヘッダーは含まれていません。

NOTAPPLIC
要求が ROUTE コマンドまたは START コマンドによって生じたものでなかったか、FROM データがありませんでした。

HOURS(*data-area***)**
満了時間の「時間」部分を示すフルワード・バイナリー・フィールドを返します (AT および AFTER オプションを参照)。

INTERVAL(*data-area***)**
満了時間を現在時刻からの時間間隔として返します。値は、0hhmmss+ 形式の 4 バイトのパック 10 進数です。

LENGTH(*data-area***)**
この要求を作成したコマンドの FROM オプションで渡されたデータの長さを示す、ハーフワード・バイナリー・フィールドを返します。これは、ROUTE コマンド、または FROM を指定した START コマンドによって生じた要求だけに適用されます。それ以外の要求では、返される値はゼロです。

MINUTES(*data-area***)**
満了時間の「分」部分を示すフルワード・バイナリー・フィールドを返します (AT および AFTER オプションを参照)。

QUEUE(*data-area*)
この要求を作成した START コマンドの QUEUE オプションで渡された 8 バイトのフィールドを返します。これは、QUEUE を指定した START コマンドによって生じた要求だけに適用されます。それ以外の要求では、返される値はブランクです。

REQID(*data-value*)
照会しようとしている要求の 8 バイトの ID を指定します。これは、要求を生成したコマンドの REQID オプションで指定された値であるか、REQID が省略されていた場合は、CICS によって割り当てられる値です。

REQTYPE(*cvda*)
この要求を作成したコマンドのタイプを示す CVDA 値を返します。 CVDA 値は次のとおりです。

DELAY
DELAY コマンドがこの要求を作成しました。

POST POST コマンドがこの要求を作成しました。

ROUTE
ROUTE コマンドがこの要求を作成しました。

START
START コマンドがこの要求を作成しました。

RTERMID(*data-area*)
この要求を作成した START コマンドの RTERMID オプションで渡された 4 バイトのフィールドを返します。これは、RTERMID を指定した START コマンドによって生じた要求だけに適用されます。それ以外の要求では、返される値はブランクです。

RTRANSID(*data-area*)
この要求を作成した START コマンドの RTRANSID オプションで渡された 4 バイトのフィールドを返します。これは、RTRANSID を指定した START コマンドによって生じた要求だけに適用されます。それ以外の要求では、返される値はブランクです。

SECONDS(*data-area*)
満了時間の「秒」部分を示すフルワード・バイナリー・フィールドを返します (AT および AFTER オプションを参照)。

SET(*ptr-ref*)
この要求を作成したコマンドの FROM オプションで渡されたデータのアドレスを返します。これは、ROUTE コマンド、または FROM を指定した START コマンドによって生じた要求だけに適用されます。それ以外の要求では、返される値は NULL ポインター (X'FF000000') です。

TERMID(*data-area*)
この要求を作成した START コマンドの TERMID オプションで指定された、4 文字の端末 ID を返します。これは、端末を指定した START コマンドから生じた要求だけに適用されます。それ以外の要求では、返される値はブランクです。

TIME(*data-area*)
この INQUIRE コマンドに先立つ深夜 12 時から数えた満了時間を、絶対値として返します。値は、0hhmmss+ 形式の 4 バイトのパック 10 進数です。

TRANSID(*data-area*)
この要求を作成したコマンドの TRANSID オプションで指定された、4 文字のトランザクション ID を返します。これは、ROUTE コマンドまたは START コマンドから生じた要求だけに適用されます。それ以外の要求では、返される値はブランクです。

USERID(*data-area*)
この要求を作成したコマンドを発行したタスクに関連付けられているユーザーの 8 文字の ID を返します。USERID は、ROUTE コマンドまたは START コマンドによって生じる要求にのみ適用されます。

START コマンドの場合:

- START コマンドで TERMID が指定されている場合、返される値はブランクです。
- START コマンドで USERID が指定されている場合、そのユーザー ID が返されます。
- これらのいずれも、START コマンドで指定されていない場合、START コマンドを発行したタスクのユーザー ID が返されます。

それ以外の要求では、返される値はブランクです。

条件

END
RESP2 値は以下のとおりです。

2 このタイプのリソース定義はありません。

ILLOGIC
RESP2 値は以下のとおりです。

1 このリソース・タイプのブラウズが既に実行されているときに START コマンドが出されたか、もしくは、このリソース・タイプのブラウズが実行されていないときに NEXT または END コマンドが出された。

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

3 一時記憶域から SET、QUEUE、RTERMID、または RTRANSID オプションのデータを読み取ろうとしたときに、入出力エラーが発生しました。

4 SET、QUEUE、RTERMID、または RTRANSID オプションに必要なデータが一時記憶域から削除されていたために、そのデータを返すことができません。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

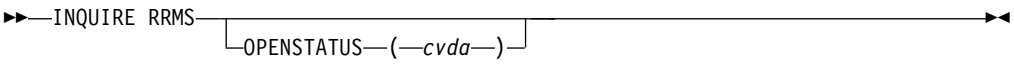
NOTFND
RESP2 値は以下のとおりです。

1 REQID が見つかりません。

INQUIRE RRMS

トランザクション EXCI の状況を取得します。

INQUIRE RRMS



状態: NOTAUTH

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

INQUIRE RRMS コマンドは、インバウンド・トランザクション EXCI 作業が現在受け入れられているかどうかを示します。

オプション

OPENSTATUS(*cvda***)**
CICS がインバウンド・トランザクション EXCI 作業を受け入れるかどうかを示す CVDA 値を返します。CVDA 値は次のとおりです。

OPEN
CICS がインバウンド・トランザクション EXCI 作業を受け入れることを示します。

CLOSED
CICS がインバウンド・トランザクション EXCI 作業を受け入れないことを示します。

NOTAPPLIC
RRMS なしで CICS が初期設定されたことを示します。

条件

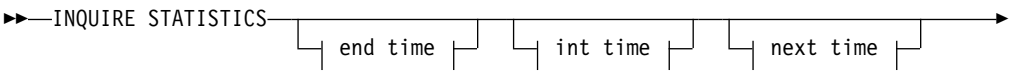
NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 ユーザーにはこのコマンドに対する権限がありません。

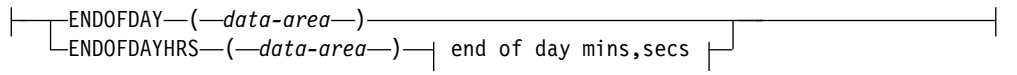
INQUIRE STATISTICS

統計情報を取得します。

INQUIRE STATISTICS

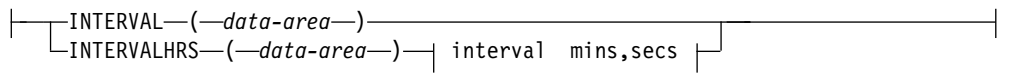


end time:



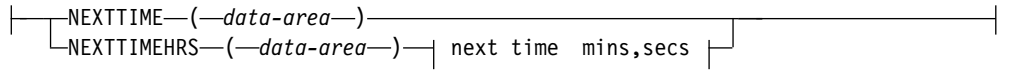
end of day mins,secs:

int time:



interval mins,secs:

next time:



next time mins,secs:

条件: NOTAUTH

このコマンドはスレッド・セーフです。

CVDA の使用について詳しくは、CICS-value data areas (CVDAs)を参照してください。

説明

INQUIRE STATISTICS コマンドは、CICS リソース統計とシステム統計の記録に関する情報を戻します。RECORDING スイッチがオンになっている場合には、INTERVAL オプションによって管理される頻度で、CICS はシステム統計を定期的に記録します。これらの統計は間隔統計と呼ばれます。終了時刻 (ENDOFDAY オプション) に、CICS は終了時刻統計を記録します。これは最後のリセット以降の間隔の統計で、スイッチがオンであるかどうかに関わらず、少なくとも 1 日 1 回統計が書き込まれます。記録はシステム管理機能 (SMF) データ・セットで行われ、記録後にカウントがリセットされます。

このコマンドで取得できる各時間値 (終了時刻、記録間隔、および次回の記録時刻) には、2 つの形式があります。

- 4 バイトのパック 10 進数合成数 (0hhmmss+)。ENDOFDAY オプション、INTERVAL オプション、および NEXTTIME オプションを使用して取得します。
- 時、分、および秒 (個別)。ENDOFDAYHRS、ENDOFDAYMINS、および ENDOFDAYSECS オプション (ENDOFDAY の代わり)、INTERVALHRS、INTERVALMINS、および INTERVALSECS (INTERVAL の代わり)、ならびに NEXTTIMEHRS、NEXTTIMEMINS、および NEXTTIMESECS (NEXTTIME の代わり) を指定して取得します。

CICS 統計の概要には、CICS 統計に関する詳細が記載され、 817 ページの『SET STATISTICS』 コマンドの説明では、間隔と終了時刻との関係が説明されています。

オプション

ENDOFDAY(*data-area*)
終了時刻を、4 バイトのパック 10 進数フィールド (0hhmmss+ 形式) で戻します。終了時刻は現地時間で表示されます。

ENDOFDAYHRS(*data-area*)
終了時刻の時間コンポーネントをフルワード・バイナリー形式で戻します。

ENDOFDAYMINS(*data-area*)
終了時刻の分コンポーネントをフルワード・バイナリー形式で戻します。

ENDOFDAYSECS(*data-area*)
終了時刻の秒コンポーネントをフルワード・バイナリー形式で戻します。

INTERVAL(*data-area*)
システム統計の記録間隔を示す 4 バイトのパック 10 進数フィールドを戻します。

INTERVALHRS(データ域)
記録間隔の時間コンポーネントをフルワード・バイナリー形式で戻します。

INTERVALMINS(データ域)
記録間隔の分コンポーネントをフルワード・バイナリー形式で戻します。

INTERVALSECS(データ域)
記録間隔の秒コンポーネントをフルワード・バイナリー形式で戻します。

NEXTTIME(*data-area*)
統計が次回記録される時刻を示す、4 バイトのパック 10 進フィールドを戻します (RECORDING スイッチが現行値から変更されていないことを前提とします)。RECORDING が現在オフである場合、これは終了時刻であり、そうでない場合は、終了時刻と現在の間隔の終わりのどちらか早い方です。

NEXTTIMEHRS(*data-area*)
次の記録時間の時間コンポーネントをフルワード・バイナリー形式で戻します。

NEXTTIMEMINS(*data-area*)
次の記録時間の分コンポーネントをフルワード・バイナリー形式で戻します。

NEXTTIMESECS(*data-area*)
次の記録時間の秒コンポーネントをフルワード・バイナリー形式で戻します。

RECORDING(*cvda*)
間隔統計の記録を制御します。終了時刻統計、要求統計、および非送信請求統計は、RECORDING オプションの設定に関わらず常に記録されます。(非送信請求統計はリソース統計であり、リソースが破棄されたときに記録されます。要求統計は、 686 ページの『PERFORM STATISTICS RECORD』 コマンド、または CEMT PERFORM STATISTICS トランザクションで要求される統計です。)

CVDA 値は次のとおりです。

オフ　間隔統計の記録をオフに切り替えます。

ON　間隔統計の記録をオンに切り替えます。

条件

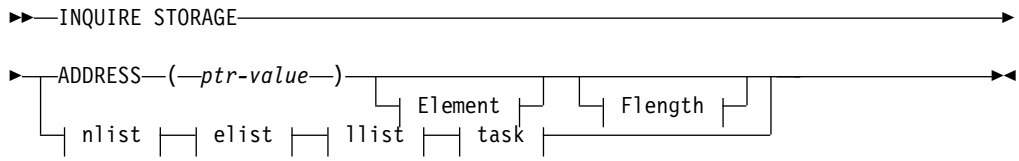
NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100　発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

INQUIRE STORAGE

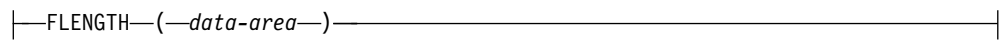
タスク・ストレージに関する情報を取得します。

INQUIRE STORAGE

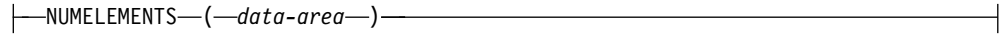


Element:

Flength:

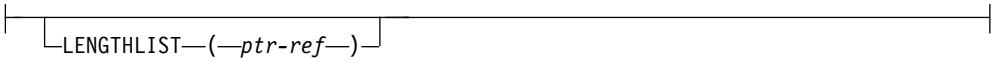


nlist:

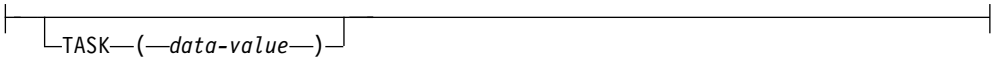


elist:

llist:



task:



条件: INVREQ、NOTAUTH、TASKIDERR

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

INQUIRE STORAGE コマンドには 2 つの機能があります。このコマンドを使用して、特定のタスクに関連したタスク・ストレージ域のリストを取得するか (NUMELEMENTS オプションを使用)、特定のストレージ域の長さと開始アドレスを検出する (ADDRESS オプションを使用) ことができます。INQUIRE STORAGE は、ユーザー・タスクに割り振られているストレージのみに適用されます。これは、ユーザー定義のトランザクション、または通常はオペレーターによって呼び出される CICS 提供のトランザクションを実行するタスクです。

オプション

ADDRESS(*ptr-value*)
1 つのストレージ域について照会することを指定し、その領域を識別します。指定するアドレスは、照会する領域内の任意の場所にすることができます。先頭にする必要はありません。ユーザー・タスク・ストレージの有効なエレメントである場合、CICS は、領域の長さ (FLENGTH) とその開始アドレス (ELEMENT) を戻します。

DSANAME(*data-value*)
ストレージ・エレメントが戻される DSA の名前を指定します。

可能な値は、CDSA、UDSA、ECDSA、および EUDSA です。このオプションを省略した場合は、4 つのすべての DSA のストレージ・エレメントが戻されます。

ELEMENT(*ptr-ref*)
ADDRESS オプションで指定されるアドレスを含むストレージ域の開始アドレスを戻します (その領域がユーザー・タスク・ストレージである場合)。これは、先行するストレージ管理制御情報 (ある場合) ではなく、タスク・データに使用可能な領域の最初のバイトです。領域がユーザー・タスク・ストレージでない場合、戻されるアドレスはヌルです。

ELEMENTLIST(*ptr-ref*)
TASK オプションで指定されたタスクについてタスク・ストレージのすべての領域のアドレス・リストのアドレスを戻します。各アドレスは、先行するストレージ管理制御情報 (ある場合) ではなく、データ・ストレージに使用可能なデータ・ストレージの最初のバイトを指します。このリスト内のアドレスの数は、

NUMELEMENTS オプション値です。(アドレスの長さは 4 バイトであるため、リストの長さ (バイト単位) は NUMELEMENTS の 4 倍です。)

CICS はこのリスト用のストレージを取得し、照会中のタスクが終了するか、ELEMENTLIST または LENGTHLIST を使用して別の INQUIRE STORAGE コマンドを発行するか、または INQUIRE TASK LIST を発行すると、そのストレージを解放します。タスクはストレージ自体を解放できません。

FLENGTH(*data-area***)**
ADDRESS オプションで指定されたアドレスが入っているストレージ域の長さを示すフルワード・バイナリー・フィールドを戻します。これは、タスク・データに使用できる部分の長さです。領域の先頭または末尾にあるストレージ管理制御情報 (ある場合) を含みません。領域がユーザー・タスク・ストレージでない場合、戻される長さは -1 です。

LENGTHLIST(*ptr-ref***)**
フルワード・バイナリーの長さリストのアドレスを戻します。このリスト内の各エントリーは、ELEMENTLIST リスト内の対応するエントリーが指すストレージ域の長さです。これらの長さは、データ・ストレージに使用可能な量であり、ストレージ管理制御情報があっても、その情報は含まれません。

CICS はこのリスト用のストレージを取得し、照会中のタスクが終了するか、ELEMENTLIST または LENGTHLIST を使用して別の INQUIRE STORAGE コマンドを発行するか、または INQUIRE TASK LIST を発行すると、そのストレージを解放します。タスクはストレージ自体を解放できません。

NUMELEMENTS(*data-area***)**
TASK オプションで指定されたタスクのタスク・ストレージ域のリストを要求していることを示します。CICS は、ユーザーが提供するデータ域における領域数をフルワード・バイナリー形式で戻します。ELEMENTLIST または LENGTHLIST を要求する場合、この値はリスト内のエントリー数になります。

TASK(*data-value***)**
ストレージ・リストを要求するタスク番号を 4 バイトのパック 10 進値として指定します。このオプションを省略するものの、NUMELEMENTS を含める場合、CICS は、INQUIRE STORAGE コマンドを発行するタスクの照会を想定します。

条件

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

1 無効な DSANAME が指定されました。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

TASKIDERR
RESP2 値は以下のとおりです。

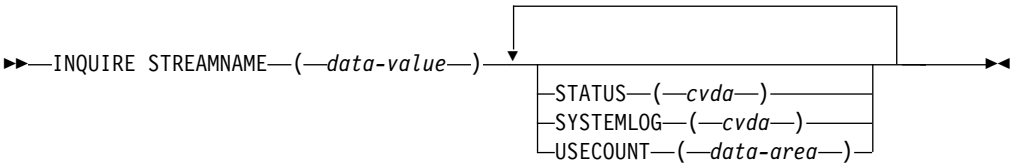
1 タスク番号が存在しません。

2 タスク番号は、ユーザー・タスクではなく、システム・タスクを指定します。

INQUIRE STREAMNAME

現在接続されている MVS ログ・ストリームに関する情報を取得します。

INQUIRE STREAMNAME



条件**:** END、ILLOGIC、NOTAUTH、NOTFND

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

INQUIRE STREAMNAME コマンドは、現在接続されている MVS ログ・ストリームに関する情報を確認できるようにします。

ブラウズ

INQUIRE STREAMNAME コマンドのブラウズ・オプション (START、NEXT、および END) を使用して、ログ・ストリーム名をブラウズすることもできます。ブラウズに関する一般情報 (構文、例外条件、および例を含む) については、Browsing resource definitionsを参照してください。

オプション

STATUS(*cvda*)
ログ・ストリームの状況を示す CVDA 値を戻します。 CVDA 値は次のとおりです。

FAILED
メッセージ・ロガーは、指定されたログ・ストリームの問題を検出しました。

OK エラーは検出されませんでした。

STREAMNAME(*data-value*)
MVS システム・ロガー・ログ・ストリーム名を指定します。

ログ・ストリーム名が存在しない場合、またはこの CICS 領域にログ・ストリームのユーザーが存在しなくなった場合、CICS は NOTFND 条件を戻します (USECOUNT オプションを参照)。

SYSTEMLOG(*cvda*)
ログ・ストリームがシステム・ログかどうかを示す CVDA 値を戻します。 CVDA 値は次のとおりです。

NOSYSLOG
ログ・ストリームはシステム・ログではありません。

SYSLOG
ログ・ストリームはシステム・ログです。

USECOUNT(*data-area***)**
現在ログ・ストリームを使用しているこの CICS システム内の CICS ジャーナル名および順方向リカバリー・ログの数を戻します。

使用回数は常に 1 以上です。CICS は、ユーザーがいなくなったログ・ストリームに関する情報を維持しません。この場合、INQUIRE STREAMNAME コマンドは NOTFND 条件を戻します。

ログ・ストリーム名が CICS システム・ログを参照する場合、使用回数は常に 1 です。ユーザー・アプリケーション・プログラムが CICS システム・ログにリカバリー・レコードを書き込む場合であっても、これは同じです。

条件

END
RESP2 値は以下のとおりです。

2 許可されているすべてのリソース定義が取得されました。このコマンドで指定されたすべてのデータ域が未変更のままになります。

ILLOGIC
RESP2 値は以下のとおりです。

1 ブラウズが既に実行されているときに START が出されたか、START を先行させることなく NEXT または END が出されました。

2 ブラウズ・トークンが無効です。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 ユーザーにはこのコマンドに対する権限がありません。

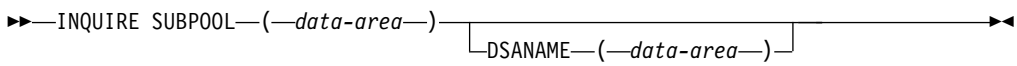
NOTFND
RESP2 値は以下のとおりです。

1 要求されたログ・ストリーム名が見つかりませんでした。

INQUIRE SUBPOOL

CICS 領域のストレージ・サブプールについての情報を取得します。

INQUIRE SUBPOOL



条件: END、ILLOGIC、NOTAUTH、NOTFND

このコマンドはスレッド・セーフです。

CVDA の使用について詳しくは、CICS-value data areas (CVDAs)を参照してください。

説明

INQUIRE SUBPOOL コマンドは、特定のストレージ・サブプールに関する情報を戻します。

ブラウズ

また、**INQUIRE SUBPOOL** コマンドでブラウズ・オプション (START、AT、NEXT、および END) を使用することにより、領域内のすべてのストレージ・サブプールをブラウズできます。ブラウズ・モードでは、定義はサブプール名の英字順で戻されます。 AT オプションを使用して、あらゆる種類のサブプールのどこでも開始点を指定できます。例えば、特定の文字ストリングで始まる名前のサブプールをすべて見たい場合、これらの文字を構成する AT 値を指定し、右側にヌル (X'00') を埋め込んで 8 文字になるようにしてブラウズを開始できます。

ブラウズに関する一般情報 (構文、例外条件、および例を含む) については、Browsing resource definitionsを参照してください。

オプション

DSANAME(*data-area***)**
指定されたサブプールが存在する動的ストレージ域 (DSA) の名前を示す 8 文字のフィールドを戻します。値は以下のいずれかにすることができ、末尾ブランク (X'40') を埋め込みます。

CDSA
ECDSA
ERDSA
ESDSA
ETDSA
GCDSA
RDSA
SDSA

SUBPOOL(*data-area***)**
ストレージ・サブプールの 8 文字の名前を指定します。CICS 領域に存在できるすべてのストレージ・サブプールの詳細なリストについては、CICS サブプールを参照してください。

ブラウズ操作の場合、NEXT または END 要求ではなく、ブラウズの START 要求でのみ SUBPOOL を指定してください。

条件

END
RESP2 値は以下のとおりです。

2 このタイプのリソース定義はありません。

ILLOGIC
RESP2 値は以下のとおりです。

1 このリソース・タイプのブラウズが既に実行されているときに START コマンドが出されたか、もしくは、このリソース・タイプのブラウズが実行されていないときに NEXT または END コマンドが出された。

NOTAUTH

RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

NOTFND

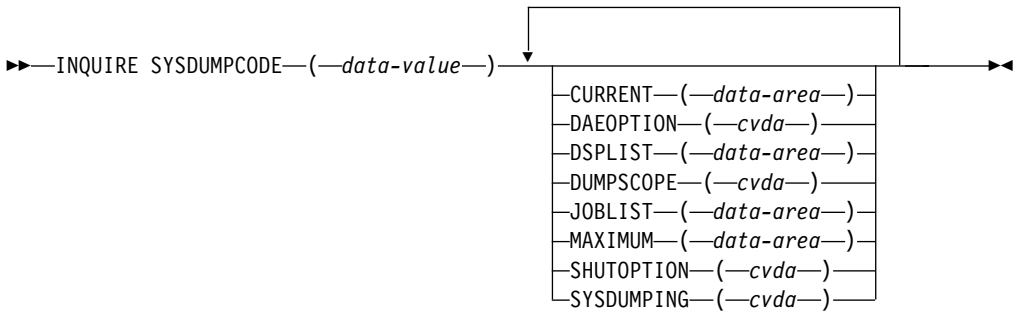
RESP2 値は以下のとおりです。

1 コマンドで指定されたサブプール名が存在しません。

INQUIRE SYSDUMPCODE

システム・ダンプ・テーブル・エントリーに関する情報を取得します。

INQUIRE SYSDUMPCODE



条件: END、ILLOGIC、NOTAUTH、NOTFND

CVDA の使用について詳しくは、CICS-value data areas (CVDAs)を参照してください。

説明

INQUIRE SYSDUMPCODE コマンドを使用して、システム・ダンプ・コード・テーブル・エントリー内の情報の一部を表示することができます。

このテーブル・エントリーは、このコードによるシステム・ダンプ要求が発生するときに取るアクション、およびそれらのアクションを取る回数 (MAXIMUM オプション) を CICS に伝えます。最大回数に達した後に受け取る要求はカウントされます (CURRENT オプション) が、その他の場合は無視されます。

CICS は、いくつかの CICS 定義のシステム・ダンプ・コードのエントリーがあるシステム・ダンプ・テーブルを提供します。CICS は、エントリーがないコードを使用するダンプ要求を受け取ると、デフォルト値を使用してテーブル・エントリーを作成します。SET SYSDUMPCODE コマンドまたは CEMT トランザクションを使用して独自のエントリーを追加することができます。追加するエントリーは、初期始動またはコールド・スタートが行われるまで、CICS の複数の実行後も残ります

が、CICS が作成するエントリーは一時的とみなされ、シャットダウンで破棄されます。したがって、ダンプ要求に表示される前に明示的に定義されていないコードを照会する場合、「not found」応答が表示されます。

ブラウズ

INQUIRE SYSDUMPCODE コマンドでブラウズ・オプション (START、NEXT、および END) を使用することにより、システム・ダンプ・コード・テーブル内のすべてのエントリーをブラウズすることもできます。ブラウズに関する一般情報 (構文、例外条件、および例を含む) については、Browsing resource definitionsを参照してください。

オプション

CURRENT(*data-area*)
カウントが前回リセットされて以降に行われた、このダンプ・コードによるダンプ要求の数を示す、フルワード・バイナリー・フィールドを戻します。

このカウントは CICS のシャットダウン時に自動的にリセットされます。SET SYSDUMPCODE コマンドまたはそれと同等の CEMT を使用すると、明示的にリセットすることができます。このカウントには、CICS または MVS が抑止したためにダンプされない要求が含まれます。

DAEOPTION(*data-area*)
このダンプ・コードに対して生成されたダンプが、MVS ダンプ分析重複回避機能 (DAE) コンポーネントによるその後の抑止に適格かどうかを示す CVDA 値を戻します。CVDA 値は以下のとおりです。

DAE ダンプは DAE 抑止に適格です。

NODAE
ダンプは DAE 抑止に適格ではありません。CICS がダンプの書き込みを決定している場合、MVS はそれを抑止しません。

ただし、ADYSETxx parmlib メンバーの SUPPRESS および SUPPRESSALL オプションに注意してください。これらのオプションは SDWA 内の VRADAE キーおよび VRANODAE キーにより制御され、NODAE がここで設定されていてもダンプ抑止になります。DAE、SUPPRESS、および SUPPRESSALL については、z/OS MVS 診断 ツールと保守援助プログラムを参照してください。

DSPLIST(*data-area*)
ダンプされるデータ・スペースのリストを戻します。データ・スペース名はコンマで分離されます。このフィールドには最大で 255 文字まで入力できます。

DUMPSCOPE(*cvda*)
このダンプ・コードによるダンプの要求が出されると、SDUMP (システム・ダンプ) 要求が関連した z/OS イメージに送信されるかどうかを示す CVDA 値を戻します。

関連した z/OS イメージは、ご使用の CICS 領域に代わって、CICS 領域で実行される作業を含むイメージです。具体的には、ご使用の領域内のタスクと同じ APPC トークンで作業を実行する 1 つ以上のタスクがある領域です。

この SDUMP 要求の送信は、このコードのテーブル・エントリーがダンプを指定している (すなわち、SYSDUMPING 値が SYSDUMP) 場合のみ、z/OS ワークロード・マネージャーを備えた MVS/ESA バージョン 5.1 以降で実行しているシスプレックス環境でのみ行われます。

CVDA 値は以下のとおりです。

LOCAL
SDUMP 要求は送信されません。

RELATED
SDUMP 要求は送信されます。

注**:** DUMPSCOPE(RELATED) を設定すると、影響を受ける z/OS イメージごとに 1 回のダンプが取られることになります。このダンプには、イメージ内の影響を受けるすべての CICS 領域からの出力が含まれます。詳しくは、関連する CICS 領域からのダンプ・データの自動取り込みを参照してください。

JOBLIST(*data-area***)**
ダンプされるアドレス・スペースのリストを戻します。アドレス・スペース名はコンマで分離されます。このフィールドには最大で 134 文字まで入力できます。

MAXIMUM(*data-area***)**
CICS が取る、このコードによるダンプの最大数を示すフルワード・バイナリー・フィールドを戻します。値 999 は、デフォルトの「制限なし」を意味します。

SHUTOPTION(*cvda***)**
このダンプ・コードによるダンプの要求の後で CICS システムがシャットダウンされるかどうかを示す CVDA 値を戻します。CVDA 値は以下のとおりです。

NOSHUTDOWN
CICS システムはシャットダウンされません。

SHUTDOWN
CICS システムはシャットダウンされます。

SYSDUMPCODE(*data-value***)**
照会するシステム・ダンプ・コードの 8 文字の名前を指定します。有効なコードには、先行ブランクも組み込みブランクも含まれません。

SYSDUMPING(*cvda***)**
このコードによるダンプ要求がダンプを生成するかどうかを示す CVDA 値を戻します。ダンプが指定されている場合であっても、CICS がダンプを生成するのは、CURRENT 値が MAXIMUM 以下である場合、およびシステム・ダンプがグローバルに抑止されていない (512 ページの『INQUIRE SYSTEM』 コマンドの DUMPING オプションを参照) 場合のみです。該当する場合は、MVS もダンプを抑止します (DAE オプション)。CVDA 値は以下のとおりです。

NOSYSDUMP
ダンプは生成されません。

SYSDUMP
ダンプは生成されます。

注: CICS のカーネル・ドメインからのダンプは、抑止に影響されることはなく、SYSDUMPCODE 値に関係なく取られます。

条件

END
RESP2 値は以下のとおりです。

2 このタイプのリソース定義はありません。

ILLOGIC
RESP2 値は以下のとおりです。

1 このリソース・タイプのブラウズが既に実行されているときに START コマンドが出されたか、もしくは、このリソース・タイプのブラウズが実行されていないときに NEXT または END コマンドが出された。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

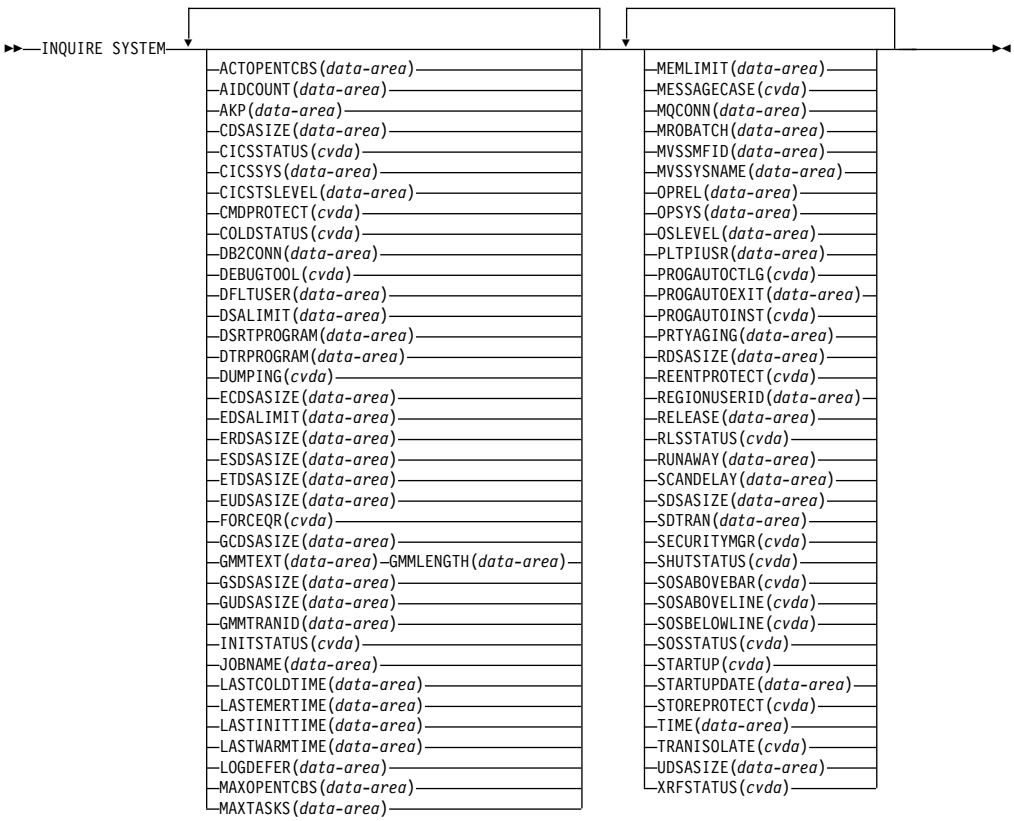
NOTFND
RESP2 値は以下のとおりです。

1 指定されたダンプ・コードが見つかりません。

INQUIRE SYSTEM

CICS システム情報を検索します。

INQUIRE SYSTEM



条件: NOTAUTH

CVDA の使用について詳しくは、CICS-value data areas (CVDAs)を参照してください。

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

INQUIRE SYSTEM コマンドは、コマンド発行元のタスクが稼働している CICS システムについての情報を戻します。

このコマンドの多くのオプションはシステム初期設定パラメーターに対応しており、そのパラメーターから初期値を取ります。いくつかのオプションは、後続の **SET SYSTEM** コマンドまたはそれに相当する CEMT で変更することができます。その他のオプションには、CICS または MVS のリリース・レベルに関する情報を戻すものと、単にシステムの現行状態によって判別される情報を戻すものがあります。表 38 は、オプション値の起点、およびそのオプションがシステム初期設定パラメーターで指定されている場合はそのパラメーターの名前を示します。

表 *38. INQUIRE SYSTEM* オプション

オプション	起点
ACTOPENTCBS	システム状態
AIDCOUNT	システム状態
AKP	AKPFREQ システム初期設定パラメーター
CDSASIZE	システム状態
CICSSTATUS	システム状態

表 *38. INQUIRE SYSTEM* オプション *(*続き*)*

オプション	起点
CICSSYS	システム状態
CICSTSLEVEL	CICS 制御ブロック
CMDPROTECT	CMDPROT システム初期設定パラメーター
COLDSTATUS	システム状態
DB2CONN	インストール済みの DB2CONN リソース定義
DEBUGTOOL	DEBUGTOOL システム初期設定パラメーター
DFLTUSER	DFLTUSER システム初期設定パラメーター
DSALIMIT	DSALIM システム初期設定パラメーター
DSRTPROGRAM	DSRTPGM システム初期設定パラメーター
DTRPROGRAM	DTRPGM システム初期設定パラメーター
DUMPING	DUMP システム初期設定パラメーター
ECDSASIZE	システム状態
EDSALIMIT	EDSALIM システム初期設定パラメーター
ERDSASIZE	システム状態
ESDSASIZE	システム状態
ETDSASIZE	システム状態
EUDSASIZE	システム状態
FORCEQR	FORCEQR システム初期設定パラメーター
GCDSASIZE	システム状態
GMMTEXT、GMMLENGTH	GMTEXT システム初期設定パラメーター
GMMTRANID	GMTRAN システム初期設定パラメーター
GSDSASIZE	システム状態
GUDSASIZE	システム状態
INITSTATUS	システム状態
JOBNAME	JCL またはカタログ式プロシージャー
LASTCOLDTIME	システム状態
LASTEMERTIME	システム状態
LASTINITTIME	システム状態
LASTWARMTIME	システム状態
LOGDEFER	LGDFINT システム初期設定パラメーター
MAXOPENTCBS	CICS によって自動的に設定される制限
MAXTASKS	MXT システム初期設定パラメーター
MEMLIMIT	システム状態
MESSAGECASE	システム状態
MQCONN	インストール済みの MQCONN リソース定義
MROBATCH	MROBTCH システム初期設定パラメーター
MVSSMFID	システム状態
MVSSYSNAME	システム状態
OPREL	オペレーティング・システム (MVS)
OPSYS	オペレーティング・システム (MVS)
OSLEVEL	オペレーティング・システム (z/OS)
PLTPIUSR	PLTPIUSR システム初期設定パラメーター
PROGAUTOCTLG	PGAICTLG システム初期設定パラメーター
PROGAUTOEXIT	PGAIEXIT システム初期設定パラメーター
PROGAUTOINST	PGAIPGM システム初期設定パラメーター
PRTYAGING	PRTYAGE システム初期設定パラメーター
RDSASIZE	システム状態
REENTPROTECT	RENTPGM システム初期設定パラメーター
REGIONUSERID	システム状態
RELEASE	CICS システム・コード

表 38. INQUIRE SYSTEM オプション (続き)

オプション	起点
RLSSTATUS	RLS システム初期設定パラメーター
RUNAWAY	ICVR システム初期設定パラメーター
SCANDELAY	ICVTSD システム初期設定パラメーター
SDSASIZE	システム状態
SDTRAN	SDTRAN システム初期設定パラメーター
SECURITYMGR	SEC システム初期設定パラメーター
SHUTSTATUS	システム状態
SOSABOVEBAR	システム状態
SOSABOVELINE	システム状態
SOSBELOWLINE	システム状態
SOSSTATUS	システム状態
STARTUP	システム状態
STARTUPDATE	システム状態
STOREPROTECT	STGPROT システム初期設定パラメーター
TIME	ICV システム初期設定パラメーター
TRANISOLATE	TRANISO システム初期設定パラメーター
UDSASIZE	システム状態
XRFSTATUS	XRF システム初期設定パラメーター、およびシステム状態

注: CSCS、ECSCS、ERSCS、EUSCS、および USCS オプション (それぞれは特定の動的ストレージ域のストレージ余裕分のサイズを戻した) は、CICS Transaction Server for z/OS で廃止されました。変換プログラムはそれらのオプションを受け入れて、警告を出します。実行時には、提供されたデータ域は未変更のままです。

オプション

ACTOPENTCBS(*data-area*)
ユーザー・タスクに現在割り振られているオープン TCB の数を示すフルワード・バイナリー・フィールドを戻します。 CICS ディスパッチャーは、OPENAPI アプリケーションでの使用、および OPENAPI オプションによって使用可能になるタスク関連ユーザー出口での使用のために、L8 および L9 モード TCB のプールを保守します。タスク関連ユーザー出口は L8 モード TCB だけを使用します (例えば Db2 への接続時の CICS Db2 アダプター)。ACTOPENTCBS 値は、MAXOPENTCBS 値と同じか、それより小さくなります。値が MAXOPENTCBS と同じ場合、オープン TCB を必要とするタスクは待機させられます。

AIDCOUNT(*data-area*)
ローカル・システムの自動開始プログラム記述子 (AID) チェーン内にある AID の現在の数を示すフルワード・バイナリー値を戻します。

AKP(*data-area*)
活動キーポイント・トリガー値を示すフルワード・バイナリー・フィールドを戻します。これは、キーポイント間の CICS システム・ログ・ストリーム出力バッファーへの書き込み要求の数です。

-1 の値 (適用外) は、キーポイントが取られないことを意味します。

CDSASIZE(*data-area*)
CICS 動的ストレージ域 (CDSA) の現行サイズ (バイト単位) をフルワード・バ

イナリー形式で戻します。これには使用中のストレージと使用可能なストレージの両方が含まれます。このサイズは、DSALIMIT 値 (つまり、16 MB 境界より下にある動的ストレージ域の全体的な制限値) の範囲内で、CICS によって自動的に計算され、管理されます。

CICSSTATUS(*cvda***)**
CICS の現在の実行状況を識別する CVDA 値を戻します。

ACTIVE
CICS は完全にアクティブです。

FINALQUIESCE
CICS はシャットダウンの最終静止ステージにあります。シャットダウン用プログラム・リスト・テーブル (PLTSD) の第 2 ステージ内のプログラムが、このステージ中に実行されます。

FIRSTQUIESCE
CICS はシャットダウンの第 1 静止ステージにあります。 PLTSD の第 1 ステージ内のプログラムが、このステージ中に実行されます。

STARTUP
CICS は始動していますが、まだ完全にアクティブになっていません。プログラム開始用プログラム・リスト・テーブル (PLTPI) のプログラムが、始動中に実行されます。詳しくは、INITSTATUS オプションを参照してください。

CICSSYS(*data-area***)**
実行中の CICS システムが構築されたオペレーティング・システムを示す 1 文字の値を戻します。値 X は MVS を表します。

CICSTSLEVEL(*data-area***)**
CICS 領域が実行している CICS Transaction Server for z/OS 製品のバージョン、リリース、および修正レベルを示す 6 文字の値を戻します。値の形式は *vvrrmm* で、CICS Transaction Server for z/OS, バージョン 5 リリース 5 は 050500 を戻します。

CMDPROTECT(*cvda***)**
コマンド保護がアクティブかどうかを示す CVDA 値を戻します。タスクがコマンドを発行し、コマンド保護がアクティブの場合、CICS はそのタスクが各領域の最初のバイトに対する書き込みアクセスを持っていることを検証します。CICS はそこに情報を戻します。領域が検査に合格しない場合、AEYD は異常終了します。

CVDA 値は以下のとおりです。

CMDPROT
コマンド保護はアクティブです。

NOCMDPROT
コマンド保護はアクティブではありません。

COLDSTATUS(*cvda***)**
CICS がコールド・スタートまたは初期始動を実行したかどうかを示す CVDA 値を戻します。

CVDA 値は以下のとおりです。

COLD
CICS はコールド・スタートを実行しました。ローカル・リソースに関するログ情報は消去されましたが、リモート・システムまたは RMI 接続したリソース・マネージャーがリソースを再同期できるようにするために必要なローカル作業単位の結果に関する情報は保存されました。

INITIAL
CICS は初期始動を実行しました。ローカル・リソースとリモート・リソースの両方に関するすべてのログ情報が消去されました。

NOTAPPLIC
CICS はコールド・スタートも初期始動も実行しませんでした。

DB2CONN(*data-area***)**
CICS 領域に関する、現在インストールされている DB2CONN リソース定義の 1 から 8 文字の名前、または DB2CONN 定義が現在インストールされていない場合にはブランクを戻します。DB2CONN 定義は一度に 1 つのみインストールできます。DB2CONN リソース定義は、CICS と Db2 の間の接続の属性を指定します。

DEBUGTOOL(*cvda***)**
デバッグ・ツールの制御下で実行するプログラムを選択するためにデバッグ・プロファイルを使用できるかどうかを示す CVDA 値を戻します。デバッグ・プロファイルを使用するデバッグ・ツールは、以下のとおりです。

- コンパイル言語アプリケーション・プログラム (COBOL、PL/I、C、C++、およびアセンブラーで作成されたプログラム) 用のデバッグ・ツール
- リモート・デバッグ・ツール (コンパイル言語アプリケーション・プログラムおよび Java プログラムの場合)

CICS 実行診断機能 (CEDF) などの他のデバッグ・メカニズムは、デバッグ・プロファイルを使用しません。 CVDA 値は以下のとおりです。

DEBUG
CICS デバッグ・プロファイルを使用して、デバッグ・ツールの制御下で実行されるプログラムを選択できます。

NODEBUG
デバッガー・ツールの制御下で実行するプログラムを選択するために CICS デバッグ・プロファイルを使用できません。

デバッグ・プロファイルの使用について詳しくは、デバッグ・プロファイルを参照してください。

DFLTUSER(*data-area***)**
この CICS 領域のデフォルト・ユーザーの 8 文字の ID を戻します。

DSALIMIT(*data-area***)**
CICS が 16 MB 境界より下にある 4 つの個々の動的ストレージ域で動的にストレージを割り振ることのできるストレージの最大量をバイト単位で示すフルワード・バイナリー・フィールドを返します。このコマンドの CDSASIZE、RDSASIZE、SDSASIZE、および UDSASIZE オプションを参照してください。

DSRTPROGRAM(*data-area***)**
分散ルーティング・プログラムの 8 文字の名前を戻します。

DTRPROGRAM(*data-area*)
動的ルーティング・プログラムの 8 文字の名前を戻します。

DUMPING(*cvda*)
CICS システム・ダンプを取ることが抑制されているかどうかを示す CVDA 値を戻します。

NOSYSDUMP
システム・ダンプは抑制されます。

SYSDUMP
システム・ダンプは抑制されません。

これらの値は、システム初期設定パラメーター DUMP=YES または NO によって設定されます。

ECDSASIZE(*data-area*)
拡張 CICS 動的ストレージ域 (ECDSA) の現行サイズ (バイト単位) をフルワード・バイナリー形式で戻します。これには使用中のストレージと使用可能なストレージの両方が含まれます。このサイズは、EDSALIMIT 値 (つまり、16 MB 境界より上で 2 GB 境界より下にある動的ストレージ域の全体的な制限値) の範囲内で、CICS によって自動的に計算され、管理されます。

EDSALIMIT(*data-area*)
CICS が 16 MB 境界より上で 2 GB 境界より下にある個々の動的ストレージ域で動的にストレージを割り振ることのできるストレージの最大量をバイト単位で示すフルワード・バイナリー・フィールドを返します。このコマンドの ECDSASIZE、ERDSASIZE、ESDSASIZE、および EUDSASIZE オプションを参照してください。

ERDSASIZE(*data-area*)
拡張読み取り専用動的ストレージ域 (ERDSA) の現行サイズ (バイト単位) をフルワード・バイナリー形式で戻します。これには使用中のストレージと使用可能なストレージの両方が含まれます。このサイズは、EDSALIMIT 値 (つまり、16 MB 境界より上で 2 GB 境界より下にある動的ストレージ域の全体的な制限値) の範囲内で、CICS によって自動的に計算され、管理されます。

ESDSASIZE(*data-area*)
拡張共用動的ストレージ域 (ESDSA) の現行サイズ (バイト単位) をフルワード・バイナリー形式で戻します。これには使用中のストレージと使用可能なストレージの両方が含まれます。このサイズは、EDSALIMIT 値 (つまり、16 MB 境界より上で 2 GB 境界より下にある動的ストレージ域の全体的な制限値) の範囲内で、CICS によって自動的に計算され、管理されます。

ETDSASIZE(*data-area*)
拡張トラステッド動的ストレージ域 (ETDSA) の現行サイズ (バイト単位) をフルワード・バイナリー形式で戻します。これには使用中のストレージと使用可能なストレージの両方が含まれます。このサイズは、EDSALIMIT 値 (つまり、16 MB 境界より上で 2 GB 境界より下にある動的ストレージ域の全体的な制限値) の範囲内で、CICS によって自動的に計算され、管理されます。

EUDSASIZE(*data-area*)
拡張ユーザー動的ストレージ域 (EUDSA) の現行サイズ (バイト単位) をフルワード・バイナリー形式で戻します。これには使用中のストレージと使用可能なス

トレージの両方が含まれます。このサイズは、EDSALIMIT 値 (つまり、16 MB 境界より上で 2 GB 境界より下にある動的ストレージ域の全体的な制限値) の範囲内で、CICS によって自動的に計算され、管理されます。

FORCEQR(*cvda***)**
CICS が、スレッド・セーフとして定義されている CICSAPI ユーザー・アプリケーション・プログラムに、準再入可能 (QR) TCB で実行するように強制するかどうかを示す CVDA 値を戻します。

FORCE
CICS は、CONCURRENCY(THREADSAFE) 属性で指定したすべてのユーザー・アプリケーション・プログラムを、CONCURRENCY (QUASIRENT) で指定したかのように、QR TCB の下で強制的に実行します。この強制は、特定のプログラム、例えば OPENAPI プログラムや XPLINK でコンパイルされた C/C++ プログラムなどには適用されません。詳細については、FORCEQR システム初期設定パラメーターを参照してください。

NOFORCE
CICS は、CICSAPI ユーザー・アプリケーション・プログラムで CONCURRENCY(THREADSAFE) 属性を尊重し、不要な TCB 交換を避けるためにそのユーザー・プログラムがオープン TCB を実行することを許可します。

GCDSASIZE(*data-area***)**
2 GB 境界より上の CICS 動的ストレージ域 (GCDSA) の現行サイズ (バイト単位) をダブルワード・バイナリー形式で戻します。これには使用中のストレージと使用可能なストレージの両方が含まれます。このサイズは、CICS によって自動的に計算および管理されます。

GMMLENGTH(*data-area***)**
『good morning』 メッセージ・テキストの長さをバイト単位で示すハーフワード・バイナリー・フィールドを戻します。

GMMTEXT(*data-area***)**
提供されるデータ域で 『good morning』 メッセージ・テキストを戻します。そのデータ域の長さはメッセージ・テキストを収容できるものでなければなりません。 『good morning』 メッセージの最大長は 246 バイトです。実際の長さは GMMLENGTH オプション値で戻されます。

GMMTRANID(*data-area***)**
「good morning」メッセージを生成するトランザクションの 4 文字の名前を戻します。

GSDSASIZE(*data-area***)**
2 GB 境界より上の共用動的ストレージ域 (GSDSA) の現行サイズ (バイト単位) をダブルワード・バイナリー形式で戻します。これには使用中のストレージと使用可能なストレージの両方が含まれます。このサイズは、CICS によって自動的に計算および管理されます。

GUDSASIZE(*data-area***)**
2 GB 境界より上のユーザー動的ストレージ域 (GUDSA) の現行サイズ (バイト

単位) をダブルワード・バイナリー形式で戻します。これには使用中のストレージと使用可能なストレージの両方が含まれます。このサイズは、CICS によって自動的に計算および管理されます。

INITSTATUS(*cvda***)**
CICS システムの初期設定状況を示すフルワード・バイナリー・フィールドを戻します。 CVDA 値は以下のとおりです。

FIRSTINIT
CICS 初期設定の第 1 ステージ。

INITCOMPLETE
CICS の初期設定が完了しました。

SECONDINIT
初期設定の第 2 ステージ。

THIRDINIT
初期設定の第 3 ステージ。

JOBNAME(*data-area***)**
CICS が実行している 8 文字の MVS ジョブ名を戻します。

LASTCOLDTIME(*data-area***)**
最後の初期始動より後に行われた CICS システムの最後のコールド・スタートの日時を表す ABSTIME 値を返します。最後の初期始動以来 CICS システムがコールド・スタートをしていない場合は、ヌル値が返されます。

LASTEMERTIME(*data-area***)**
最後の初期始動より後に行われた CICS システムの最後の緊急始動の日時を表す ABSTIME 値を返します。最後の初期始動以来 CICS システムが緊急始動していない場合は、ヌル値が返されます。

LASTINITTIME(*data-area***)**
CICS システムの最後の初期始動の日時を表す ABSTIME 値を返します。

LASTWARMTIME(*data-area***)**
最後の初期始動より後に行われた CICS システムの最後のウォーム・スタートの日時を表す ABSTIME 値を返します。最後の初期始動以来 CICS システムがウォーム・スタートをしていない場合は、ヌル値が返されます。

LOGDEFER(*data-area***)**
ログ延期間隔を示すハーフワード・バイナリー値を戻します。これは、MVS システム・ロガーを呼び出す前に強制ジャーナル書き込み要求をどれだけ遅らせるかを判断するのに CICS ログ・マネージャーが使用する期間です。
LOGDEFER パラメーターと、それに関連するシステム初期設定パラメーター LGDFINT については、LGDFINT システム初期設定パラメーターを参照してください。

MAXOPENTCBS(*data-area***)**
CICS が接続して L8 および L9 モード TCB のプールで保守することができる、L8 および L9 モードのオープン TCB の最大数を示すフルワード・バイナリー・フィールドを戻します。CICS は次の公式を使用して、CICS 領域に対して指定されたタスクの最大数 (MXT または MAXTASKS) に基づいて、この制限を自動的に設定します。

```
(2 * MXT 値) + 32
```

割り振られている L8 および L9 モードのオープン TCB の数について詳しくは、ACTOPENTCBS の値を参照してください。MAXOPENTCBS と ACTOPENTCBS の差は、解放されている L8 および L9 モードのオープン TCB の数を表します。

MAXTASKS(*data-area***)**
この CICS システムで常にディスパッチに適したタスクの最大数を示すフルワード・バイナリー・フィールドを戻します。アクティブなタスクと中断状態のタスクのどちらもこの制限に考慮されますが、初期ディスパッチ点に達していないタスクは考慮されません。端末管理タスクやジャーナル管理タスクなどのシステム・タスクは考慮されません。

MEMLIMIT(*data-area***)**
CICS 領域で使用される 2 GB 境界より上のストレージの最大量をバイト単位で示すダブルワード・バイナリー・フィールドを返します。値 -1 は、領域が使用を試みることのできるストレージの量に制限が課されていないことを示します (NOLIMIT とも言います)。 MEMLIMIT 値は、JCL によって、または IEFUSI グローバル・ユーザー出口を経由して PARMLIB メンバーとして設定できます。

MESSAGECASE(*cvda***)**
大/小文字混合メッセージが、**MSGCASE** システム初期設定パラメーターによる設定に従ってメッセージ・ドメインでどう表示されるかを示す CVDA 値を戻します。 CVDA 値は以下のとおりです。

MIXED
CICS メッセージ・ドメインまたは CICSPlex SM メッセージ・ドメインによって表示されるメッセージはすべて大/小文字混合のままになります。

UPPER
メッセージ・ドメインはすべての大/小文字混合メッセージを大文字のみで表示します。

MQCONN(*data-area***)**
CICS 領域に関する、現在インストールされている MQCONN リソース定義の 1 から 8 文字の名前、または MQCONN 定義が現在インストールされていない場合にはブランクを戻します。MQCONN 定義は一度に 1 つのみインストールできます。MQCONN リソース定義は、CICS と IBM MQ の間の接続の属性を指定します。

MROBATCH(*data-area***)**
CICS が待機している MRO および DASD I/O イベントのリストに含まれるイベントの数を示すフルワード・バイナリー・フィールドを戻します。この数のイベントが発生すると、CICS が明示的な通知を受けてそれらを処理することになります。

MVSSMFID(*data-area***)**
MVS システム識別を示す 4 バイトの値を返します。このフィールドは、SMCA MVS 制御ブロックの SMCASID フィールドからコピーされます。

MVSSYSNAME(*data-area***)**
MVS システム名を示す 8 バイトの値を返します。このフィールドは、MVS CVT 制御ブロックの CVTSNAME フィールドからコピーされます。

OPREL(*data-area*)　(互換性の目的でのみサポート)
CICS 領域が実行しているオペレーティング・システムのレベル番号の最後の 2 桁を示すハーフワード・バイナリー・フィールドを戻します。例えば、z/OS リリース 9 は 09 で表されます。

注: このフィールドは互換性の目的でのみサポートされます。情報は、MVS CVTPRODN フィールドに保持された最後の 2 つの数字から派生します。z/OS の完全なバージョンおよびリリース番号については、OSLEVEL フィールドを参照してください。

OPSYS(*data-area*)
CICS が実行しているオペレーティング・システムを識別する 1 文字の値を戻します。値「X」は MVS を表します。

OSLEVEL(*data-area*)
CICS が実行している z/OS 製品のバージョン、リリース、および修正レベルを示す 6 バイトのフィールドを戻します。例えば、z/OS バージョン 1 リリース 13 修正 0 は値 020200 を戻します。

PLTPIUSR(*data-area*)
PLTPI 処理に使用可能なユーザー ID を、指定されたデータ領域に返します。

PROGAUTOCTLG(*cvda*)
自動インストールされたプログラム定義がカタログされるかどうか、およびカタログされる時期を示す CVDA 値を戻します。カタログされた定義は、ウォーム・リスタートまたは緊急時再始動時に復元されます。カタログされない定義はシャットダウン時に廃棄され、その後の CICS の実行で使用される場合には再度インストールする必要があります。

カタログするかどうかの決定は、初期インストール時と自動インストールされた定義の変更時の両方で行われ、そのときの PROGAUTOCTLG の値に基づきます。 CVDA 値は以下のとおりです。

CTLGALL
インストール時と変更時の両方で定義はカタログされます。

CTLGMODIFY
変更時にのみ定義はカタログされます。

CTLGNONE
定義はカタログされません。

PROGAUTOEXIT(*data-area*)
モデル定義を提供するために CICS プログラム自動インストール・コードによって呼び出されるユーザー提供プログラムの 8 文字の名前を戻します。

PROGAUTOINST(*cvda*)
プログラムの自動インストールがアクティブか非アクティブかを示す CVDA 値を戻します。定義されていないプログラム、マップ・セット、または区画セットをタスクが要求する場合、プログラムの自動インストールがアクティブであれば、CICS はその定義を自動的に作成しようとします。アクティブでなければ、CICS は PGMIDERR 例外条件を出します。 CVDA 値は以下のとおりです。

AUTOACTIVE
プログラムの自動インストールはアクティブです。

AUTOINACTIVE
プログラムの自動インストールはアクティブではありません。

PRTYAGING(*data-area***)**
CICS がディスパッチを待機するタスクの優先順位を大きくする率を示すフルワード・バイナリー・フィールドを戻します。 CICS は、ディスパッチなしで PRTYAGING ミリ秒の待ち時間が経過するごとに、タスクの優先度を 1 ずつ増やします。

RDSASIZE(*data-area***)**
読み取り専用動的ストレージ域 (RDSA) の現行サイズ (バイト単位) をフルワード・バイナリー形式で戻します。これには使用中のストレージと使用可能なストレージの両方が含まれます。このサイズは、DSALIMIT 値 (つまり、16 MB 境界より下にある動的ストレージ域の全体的な制限値) の範囲内で、CICS によって自動的に計算され、管理されます。

REENTPROTECT(*cvda***)**
再入可能プログラム (RDSA および ERDSA) のストレージがキー 0 または CICS キーにあるかどうかを示す CVDA 値を戻します。 MVS キー 0 ストレージは、CICS キーまたはユーザー・キーで実行するプログラムから書き込み保護されています。CICS キー・ストレージのプログラムは、CICS キーとユーザー・キーが異なる場合 (つまり、ストレージ保護がアクティブの場合) にのみ、ユーザー・キーで実行するプログラムから保護されます。 CVDA 値は以下のとおりです。

REENTPROT
読み取り専用 DSA はキー 0 ストレージにあります。

NOREENTPROT
読み取り専用 DSA は CICS キー・ストレージにあります。

REGIONUSERID(*data-area***)**
提供されたデータ域の領域ユーザー ID を戻します。

RELEASE(*data-area***)　(互換性の目的でのみサポート)**
CICS コードのレベル番号が含まれる 4 文字のストリングを戻します。このリリースでは、値は 0720 です。

このオプションは、前のリリースとの互換性だけのためにサポートされています。 CICS Transaction Server for z/OS の排他的エレメントに関しては、CICS には独自の製品バージョンおよびリリース番号はありません。CICSTSLEVEL を使用して、CICS Transaction Server のバージョンおよびリリース番号を判別することが推奨されています。

RLSSTATUS(*cvda***)**
VSAM RLS がアクティブかどうか、つまり CICS 領域が (現在オープンしている管理 ACB と共に) SMSVSAM アドレス・スペースに登録されるかどうかを示す CVDA 値を戻します。

NOTAPPLIC
この CICS 領域は、以下の理由のいずれかのため VSAM RLS をサポートしません。

- CICS はシステム初期設定パラメーターとして RLS=NO を使用して初期設定されました。

- CICS が実行している MVS 内の VSAM のレベルが VSAM RLS をサポートしないため、CICS は RLS=NO を強制しました。

RLSACTIVE
CICS は SMSVSAM サーバーで登録されており、VSAM RLS は現在アクティブです。

RLSINACTIVE
CICS は SMSVSAM サーバーで登録されていますが、SMSVSAM サーバーの障害が原因で VSAM RLS は現在非アクティブです。 CICS が、SMSVSAM サーバーが再始動するときに自動的に発生する動的 VSAM RLS 再始動を実行するまで、すべての RLS 要求は失敗します。

RUNAWAY(*data-area***)**
ランナウェイ・タスク時間のデフォルト値を示すフルワード・バイナリー・フィールドを戻します。この値は、プロファイルがランナウェイ・タスク時間を指定しないトランザクションを実行するタスクについて使用されます (INQUIRE TRANSACTION コマンドの RUNAWAY オプションを参照してください)。

SCANDELAY(*data-area***)**
端末入出力要求をするユーザー・タスクと、要求を処理するために CICS がディスパッチする端末管理タスクとの間のミリ秒の最大数を示すフルワード・バイナリー・フィールドを戻します。この値は「端末スキャン遅延」と呼ばれることがあり、システム初期設定テーブルで ICVTSD オプションによって設定されます。

SDSASIZE(*data-area***)**
共用動的ストレージ域 (SDSA) の現行サイズ (バイト単位) をフルワード・バイナリー形式で戻します。これには使用中のストレージと使用可能なストレージの両方が含まれます。このサイズは、DSALIMIT 値 (つまり、16 MB 境界より下にある動的ストレージ域の全体的な制限値) の範囲内で、CICS によって自動的に計算され、管理されます。

SDTRAN(*data-area***)**
通常または即時シャットダウンの開始時に実行されるトランザクションの 4 文字の名前を戻します。これは、ユーザーが提供するトランザクションの名前、または CICS 提供のデフォルトのトランザクション CESD です。

SECURITYMGR(*cvda***)**
外部セキュリティー・マネージャー (RACF など) がシステム内でアクティブかどうかを示す CVDA 値を戻します。

EXTSECURITY
外部セキュリティー・マネージャーはアクティブです。

NOSECURITY
セキュリティーは使用されていません。

SHUTSTATUS(*cvda***)**
CICS のシャットダウン状況を示す CVDA 値を戻します (CICSSTATUS オプションを参照してください)。

CANCELLED
CICS はキャンセルされました。

CONTROLSHUT
CICS は制御されたシャットダウン (つまり、ウォーム・キーポイントによる通常シャットダウン) を実行しています。

NOTAPPLIC
CICS はシャットダウンしていません。

SHUTDOWN
CICS は即時シャットダウンを実行しています。

SOSABOVEBAR(*cvda***)**
CICS が 2 GB 境界より上の動的ストレージ域でストレージ不足になっているかどうかを示す CVDA 値を返します。

NOTSOS
CICS は、2 GB 境界より上のどの動的ストレージ域でもストレージ不足になっていません。

SOS CICS は、2 GB 境界より上の 1 つ以上の動的ストレージ域でストレージ不足になっています。

SOSABOVELINE(*cvda***)**
CICS が 16 MB 境界より上で 2 GB 境界より下の動的ストレージ域でストレージ不足になっているかどうかを示す CVDA 値を返します。

NOTSOS
CICS は、16 MB より上 、ただし 2 GB よりは下の動的ストレージ域のいずれにおいてもストレージ不足ではありません。

SOS CICS は、16 MB 境界より上で 2 GB 境界より下の 1 つ以上の動的ストレージ域でストレージ不足になっています。

SOSBELOWLINE(*cvda***)**
CICS が 16 MB 境界より下の動的ストレージ域でストレージ不足になっているかどうかを示す CVDA 値を返します。

NOTSOS
CICS では、16 MB より下の動的ストレージ域のいずれにおいても、ストレージ不足ではありません。

SOS CICS は、16 MB 境界より下の 1 つ以上の動的ストレージ域でストレージ不足になっています。

SOSSTATUS(*cvda***)**
CICS が 2 GB 境界より下のいずれかの動的ストレージ域でストレージ不足になっているかどうかを示す CVDA 値を返します。

NOTSOS
CICS では、2 GB より下の動的ストレージ域のいずれにおいても、ストレージ不足ではありません。

SOS CICS は、16 MB 境界より下の 1 つ以上の動的ストレージ域と、16 MB 境界より上で 2 GB 境界より下の 1 つ以上の動的ストレージ域でストレージ不足になっています。

SOSABOVE
CICS は、16 MB 境界より上で 2 GB 境界より下の 1 つ以上の動的ストレージ域でストレージ不足になっていますが、16 MB 境界より下のどの動的ストレージ域でもストレージ不足になっていません。

SOSBELOW
CICS は、16 MB 境界より下の 1 つ以上の動的ストレージ域でストレージ不足になっていますが、16 MB 境界より上で 2 GB 境界より下のどの動的ストレージ域でもストレージ不足になっていません。

STARTUP(*cvda***)**
現在の CICS の実行がどのように開始したかを示す CVDA 値を戻します。

COLDSTART
CICS は初期始動またはコールド・スタートを実行しました。

注: STARTUP オプションは初期始動とコールド・スタートを区別しません。 COLDSTATUS オプションを参照してください。

EMERGENCY
前回の実行が正常にシャットダウンしなかったため、CICS は緊急時再始動を実行しました。

WARMSTART
CICS は前回の実行の通常シャットダウンの後にウォーム・リスタートを実行しました。

STARTUPDATE(*data-area***)**
CICS の現在の実行が開始された日付を含む 4 バイトのパック 10 進フィールドを戻します。日付の形式は *0cyyddd+* です。ここで、*c* は世紀コード (1900 年代は **0**、2000 から 2099 は **1**)、*yy* は年の下位 2 桁、および *ddd* は通日を表します。

STOREPROTECT(*cvda***)**
ストレージ保護がアクティブかどうかを示す CVDA 値を戻します。ストレージ保護をアクティブにするには、システム初期設定パラメーター STGPROT が YES に設定されるか、デフォルトで YES に設定できるようにする必要があります。CVDA 値は以下のとおりです。

ACTIVE
ストレージ保護はアクティブです。

INACTIVE
ストレージ保護はアクティブではありません。

TIME(*data-area***)**
ディスパッチの準備ができたタスクがない場合に CICS がオペレーティング・システムに制御を与える最大間隔をミリ秒で示すフルワード・バイナリー・フィールドを戻します。この値はシステム初期設定テーブルの ICV オプションによって設定され、領域終了時間間隔と呼ばれることがあります。

TRANISOLATE(*cvda***)**
トランザクション分離がアクティブかどうかを示す CVDA 値を戻します。これをアクティブにするには、トランザクション分離とストレージ保護の両方が CICS 領域に指定されなければなりません (TRANISO および STGPROT システム初期設定パラメーター)。CVDA 値は以下のとおりです。

ACTIVE
トランザクション分離はアクティブです。

INACTIVE
トランザクション分離はアクティブではありません。

UDSASIZE(*data-area*)
ユーザー動的ストレージ域 (UDSA) の現行サイズ (バイト単位) をフルワード・バイナリー形式で戻します。これには使用中のストレージと使用可能なストレージの両方が含まれます。このサイズは、DSALIMIT 値 (つまり、16 MB 境界より下にある動的ストレージ域の全体的な制限値) の範囲内で、CICS によって自動的に計算され、管理されます。

XRFSTATUS(*cvda*)
CICS の現在の実行が、拡張回復機能 (XRF) でアクティブ領域として開始されたか、または代替領域として開始されたかを示す CVDA 値を戻します。

NOTAPPLIC
CICS は XRF サポートなしで実行しています。(システム初期設定テーブルの XRF=NO。)

PRIMARY
CICS はアクティブ領域として開始しました。

TAKEOVER
CICS は代替領域として開始しました。

条件

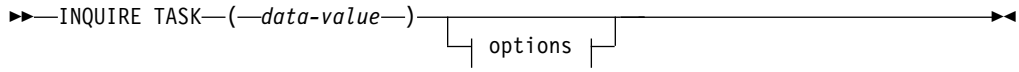
NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

INQUIRE TASK

ユーザー・タスクに関する情報を取得します。

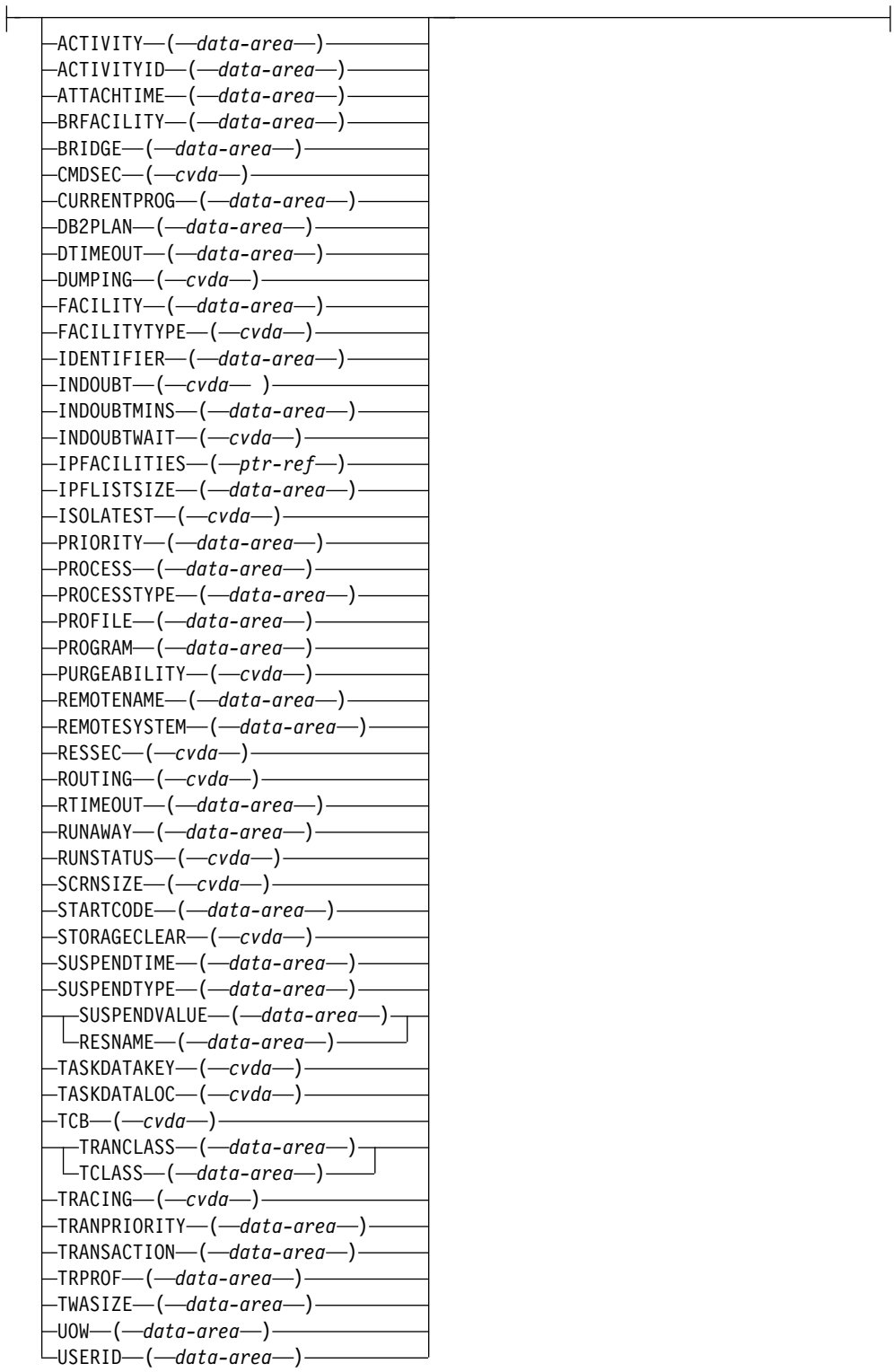
INQUIRE TASK



条件: INVREQ NOTAUTH TASKIDERR

このコマンドはスレッド・セーフです。

オプション:



CVDA のユーザーについて詳しくは、CICS-value data areas (CVDAs)を参照してください。

説明

INQUIRE TASK コマンドは、特定のユーザー・タスクに関する情報を戻します。ユーザー・タスクは、ユーザー定義トランザクション、または CICS 提供トランザクション (通常はオペレーターによって呼び出されます) に関連付けられているタスクです。

このコマンドで使用可能なオプションの多くは、INQUIRE TRANSACTION コマンドで使用可能なものと同じです。なぜなら、タスクはそれが実行しているトランザクションの定義からほとんどの特性を取得するからです。ただし、それらのプロパティーはタスク開始時に判別されます。

トランザクション定義がタスクの開始後に変更される場合、タスクは現在のトランザクション定義とは異なるプロパティー値を持つことがあります。また、タスク値は SET TASK コマンドまたはそれに相当する CEMT で変更することができます。

さらに、INQUIRE TASK コマンドは常に、ローカル CICS システムで指定されたタスクに関する情報を生成します。ルーティングの対象となるタスクまたは別のシステムにシップされる可能性がある LINK コマンドを発行するタスクについては、このことを念頭に置く必要があります。

タスクの発信元であるシステム以外のシステムでタスクの全体または一部が実行されるときには、リモート・システム上に一致するタスクがあります。発信システム上のタスクは、それが実行するトランザクションの発信システム上にある定義から特性を受け継ぎます。リモート・システム上の対応するタスク (ルーティングが行われるか、またはタスクが分散プログラム・リンクを発行する場合) は、発信システムがリモート・システムに使用を指示するリモート・システム上のトランザクションの定義から特性を受け継ぎます。このリモート・トランザクションは、発信システム上のトランザクションのプロパティーとは異なるプロパティーを持つ場合があります。 (名前が異なることもあります。静的トランザクション・ルーティングの場合、リモート・システム内のトランザクションの名前は、ローカル・システム上のトランザクションの REMOTENAME オプションに由来します。)

結果として、発信システム上のタスクに関する照会は、リモート・システム上の対応するタスクに関する照会とはまったく異なる結果を生じさせることがあります。同じ理由で、分散プログラム・リンクを発行するタスクは、リモートに実行するプログラムでそのタスク自体 (タスク番号は EIB から取られる) について INQUIRE TASK を実行した場合と、ローカルに実行するプログラムで同じコマンドを実行した場合では、異なる結果を生じさせることがあります。

オプション

ACTIVITY(*data-area***)**
このタスクが代わりに実行する BTS アクティビティーの 16 文字のユーザーが割り当てる名前を戻します。

ACTIVITYID(*data-area***)**
このタスクが代わりに実行する BTS アクティビティーの 52 文字の CICS が割り当てる ID を戻します。

ATTACHTIME(*data-area*)
タスクが接続された時間をミリ秒で表す、8 バイトのパック 10 進値を ABSTIME 形式で戻します。

BRFACILITY(*data-area*)
現行タスクがブリッジ環境で実行している場合、その現行タスクによって使用される仮想端末を表す 8 バイトの機能トークンを戻します。タスクが 3270 ブリッジ環境で実行していない場合、複数のゼロが戻されます。

BRIDGE(*data-area*)
このタスクを開始するために START BREXIT TRANSID コマンドを発行したブリッジ・モニター・トランザクションまたは DFHL3270 へのリンクを発行したクライアントの、4 文字のトランザクション ID を戻します。タスクが現在 3270 ブリッジ環境で実行していない場合、ブランクが戻されます。

CMDSEC(*cvda*)
タスクが実行しているトランザクションの定義がコマンド・セキュリティーを指定するかどうかを示す CVDA 値を戻します。 CVDA 値は以下のとおりです。

CMDSECNO
コマンド・セキュリティーが指定されていません。

CMDSECYES
コマンド・セキュリティーが指定されています。

検査対象のタスクがシステム・プログラミング・コマンドを発行する場合、CICS は外部セキュリティー・マネージャー (ESM) を呼び出して、そのタスクに関連したユーザーにそれらのコマンドを使用する権限があることを確認します。

ESM がアクティブであり、かつタスクの CMDSEC 値が CMDSECYES であるか、またはシステム初期設定オプション CMDSEC の値が ALWAYS である場合にのみ、タスクのコマンド検査が行われます (詳しくは、INQUIRE SYSTEM の SECURITYMGR オプションを参照してください)。

CURRENTPROG(*data-area*)
このタスクについて実行する現行プログラムの、CICS プログラム・マネージャー・ドメインに認識される 1 から 8 文字の名前を戻します。

DB2PLAN(*data-area*)
このタスクによって使用される DB2PLAN の 1 から 8 文字の名前を戻します。または、DB2PLAN が使用されない場合はブランクを戻します。

DTIMEOUT(*data-area*)
デッドロック・タイムアウト間隔を秒数で示すフルワード・バイナリー・フィールドを戻します。 CICS は、ロックされたリソースについてそのデッドロック・タイムアウト値を超えて待機するタスクを異常終了します。

DUMPING(*cvda*)
タスクが異常終了する場合に、CICS がトランザクション・ダンプを取るかどうかを示す CVDA 値を戻します。 CVDA 値は以下のとおりです。

NOTRANDUMP
ダンプは取られません。

TRANDUMP
ダンプが取られます。

この値は異常終了ダンプにのみ該当し、DUMP TRANSACTION コマンドには無効です。

FACILITY(*data-area***)**
このタスクの開始に関連する機能が一時データ・キュー、端末、またはシステムのいずれかである場合に、その機能の 4 文字の名前を戻します。タスクがそれ以外の機能で開始された場合、機能の値はブランクです。 FACILITYTYPE オプションは、タスク開始の原因となった機能のタイプとその FACILITY が表す内容を示します。

FACILITYTYPE(*cvda***)**
このタスクを開始した機能のタイプを識別する CVDA 値を返します。CVDA 値は次のとおりです。

DEST CICS は、トリガー・レベルに達していた一時データ・キューを処理するタスクを開始しました。FACILITY オプションはキューの名前を戻します。

TASK
別のタスクが、端末を指定していないタスクを START コマンドで開始しました。または、CICS がタスクを内部的に作成しました。この場合、FACILITY オプションはブランクを戻します。

TERM
タスクが非送信請求入力を処理するために開始されたか、または別のタスクが TERMID オプションを指定した START コマンドでタスクを開始しました。最初のケースでは、FACILITY オプションは入力を送信した端末の名前を戻し、2 番目のケースでは TERMID で指定された端末を戻します。

IDENTIFIER(*data-area***)**
タスクが 3270 ブリッジ環境で開始された場合、ブリッジ出口ルーチンで提供されたユーザー・データを含む 48 文字のフィールドを戻します。そうでない場合は、ブランクを戻します。このフィールドは、オンライン問題解決を支援することを目的としています。例えば、このフィールドには CICS-WebSphere MQ ブリッジ用の WebSphere MQ 相関関係子、または Web トークンが含まれることがあります。

INDOUBT(*cvda***)**
TRANSACTION リソース定義の ACTION 属性に基づいて CVDA 値を返します。これは、作業単位が未確定である期間に CICS 領域が失敗した場合やコーディネーターとの接続を失った場合に実行されるアクションを示します。

アクションは、INDOUBTWAIT および INDOUBTMINS で戻される値によって異なります。 INDOUBTWAIT が WAIT を戻す場合、INDOUBTMINS で戻される時間が満了するまでアクションは取られません。

CVDA 値は次のとおりです。

BACKOUT
リカバリー可能リソースに対するすべての変更はバックアウトされます。

COMMIT
リカバリー可能リソースに対するすべての変更はコミットされ、作業単位には完了というマークが付けられます。

注: プログラムが廃止された DTB オプション (INDOUBT によって置き換えられました) を使用する場合、CVDA 値、NOTSUPPORTED が戻されます。

INDOUBTMINS(*data-area***)**
未確定期間中に障害が発生した後、タスクが INDOUBT フィールドで返されたアクションを取るまでの時間の長さ (分単位) を示すフルワード・バイナリー・フィールドを返します。戻り値は、作業単位が未確定であり、INDOUBTWAIT が WAIT を戻す場合にのみ有効です。

INDOUBT および INDOUBTWAIT も参照してください。

INDOUBTWAIT(*cvda***)**
TRANSACTION 定義の WAIT 属性に基づいた CVDA 値を戻します。これは、作業単位 (UOW) が未確定状態の間に障害が発生した場合、その作業単位がどのように応答するかを示します。CVDA 値は次のとおりです。

NOWAIT
障害からのリカバリー処理中、作業単位は待機しません。 CICS はただちに TRANSACTION 定義の ACTION 属性で指定されたアクションを実行します。

WAIT
障害からのリカバリー処理中、作業単位は待機し、リカバリー可能リソースをバックアウトするかまたはコミットするかを判別します。

TRANSACTION 定義の ACTION および WAIT 属性の意味について詳しくは、TRANSACTION definition attributes を参照してください。

IPFACILITIES(*ptr-ref***)**
4 バイトのバイナリー・トークンのリストのアドレスを戻します。それぞれのトークンは、タスクが別のシステムと通信するために使用する IPCONN セッションを識別します。このタスクにそのような IP 機能がない場合、IPFACILITIES ポインターにはヌル値が含まれます。

照会中のタスクが別の INQUIRE TASK コマンドを発行するか終了すると、CICS はリスト用のストレージを取得し、それを解放します。タスクはストレージ自体を解放できません。

IPFLISTSIZE(*data-area***)**
このタスクに関連する IP 機能の数を示すフルワード・バイナリー・フィールドを戻します。 (つまり、IPFACILITIES オプションによってアドレス指定されたリスト内の項目の数を戻します。)

このタスクに IP 機能がない場合、IPFLISTSIZE にはゼロが含まれます。

ISOLATEST(*cvda***)**
タスクが分離として定義されているかどうかを示す CVDA 値を戻します。分離は、タスク・ストレージに対するユーザー・キー・プログラムのアクセス (読み取りと書き込みの両方) を制限します。分離タスクの代わりにユーザー・キーで実行するプログラムは、そのタスクのみのタスク・ストレージにアクセスできます。また、このストレージには、他のタスクの代わりにユーザー・キーで実行す

るプログラムはアクセスできません。 CICS キー・プログラムによるアクセスには、分離による影響は生じません。また、SHARED 属性を持つストレージまたはその他の非タスク・ストレージに、分離は適用されません。

ISOLATEST の値は、タスクの作成時にタスクが実行している TRANSACTION の定義から取られます。分離として定義されたタスクが分離として実行するには、システムのトランザクション分離もアクティブでなければなりません (INQUIRE SYSTEMの TRANISOLATE オプションを参照してください)。

ISOLATE
タスクは分離として定義されます。

NOISOLATE
タスクは分離として定義されません。

PRIORITY(*data-area***)**
タスクの合計優先度を示すフルワード・バイナリー・フィールドを戻します。合計優先度は、タスクに関連するユーザーの優先度、基本機能である端末の優先度、および実行中のトランザクションの優先度の合計です (TRANPRIORITY オプションを参照してください)。

PROCESS(*data-area***)**
このタスクが一部となっている BTS プロセスの 36 文字の名前を戻します。

PROCESSTYPE(*data-area***)**
このタスクが一部となっている BTS プロセスのタイプ定義の 8 文字の ID を戻します。

PROFILE(*data-area***)**
このタスクが実行しているトランザクションの PROFILE の 8 文字の名前を戻します。

PROGRAM(*data-area***)**
このタスクで最初に実行されたプログラムの 8 文字の名前を戻します。

PURGEABILITY(*cvda***)**
CICS がこのタスクをパージ (つまり、異常終了) できるかどうかを示す CVDA 値を戻します。パージ要求は SET TASK PURGE コマンド (または同等の CEMT コマンド) から出され、CICS はそれを内部的に生成してリソースを再利用し、システム停止条件を取り除くことができます。 CVDA 値は次のとおりです。

NOTPURGEABLE
タスクをパージできません。

PURGEABLE
タスクをパージできます。

PURGEABILITY 値は最初に、このタスクが実行しているトランザクションの定義内にある SPURGE オプションによって設定されます。

REMOTENAME(*data-area***)**
このタスクが実行している TRANSACTION の定義の REMOTENAME オプションで割り当てられた 4 文字の名前を戻します。 CICS がタスクを静的に経路指定する場合、REMOTENAME は、リモート・システム上のパートナー・タス

クが実行するトランザクションの名前です。従って、ルーティングの対象になっている場合にのみ、REMOTENAME は照会中のタスクにとって意味があります。

トランザクション定義で REMOTENAME を指定しない場合、CICS はブランクを戻します。

REMOTESYSTEM(*data-area***)**
このタスクが実行している TRANSACTION の定義の REMOTESYSTEM オプションで割り当てられた 4 文字の名前を戻します。 CICS がタスクを静的に経路指定する場合、REMOTESYSTEM はタスクが経路指定されるシステムの CONNECTION 定義の名前です。 REMOTENAME と同様に、ルーティングの対象になっている場合にのみ、REMOTESYSTEM は照会中のタスクにとって意味があります。

TRANSACTION 定義で REMOTESYSTEM を指定しない場合、CICS はブランクを戻します。

RESNAME(*data-area***)**
RESNAME (SUSPENDVALUE に代わるもの) は、TS キュー上で一時停止されているタスクの 16 文字のリソース名を戻します。

RESSEC(*cvda***)**
タスクが実行している TRANSACTION の定義がリソース・レベルのセキュリティー検査を指定するかどうかを示す CVDA 値を戻します。 CVDA 値は次のとおりです。

RESSECNO
コマンド・セキュリティーが指定されていません。

RESSECYES
コマンド・セキュリティーが指定されています。

タスクが検査されるときに、CICS は各コマンド上で、タスクに関連するユーザーに、要求された方法で指定されたリソースにアクセスする権限があることを確認します。

外部セキュリティー・マネージャーがアクティブであり、かつタスクの RESSEC 値が RESSECYES であるか、またはシステム初期設定オプション RESSEC の値が ALWAYS である場合にのみ、タスクの検査が行われます (詳しくは、INQUIRE SYSTEMの SECURITYMGR オプションを参照してください)。

ROUTING(*cvda***)**
このタスクを実行しているトランザクションが (TRANSACTION 定義の DYNAMIC オプションで) 動的ルーティングを指定しているかどうかを示す CVDA 値を戻します。動的ルーティングはタスクの初期ディスパッチの直前に実行されるため、この値は動的ルーティングが発生したか (タスクが既に実行中の場合)、それともまだ発生していないか (まだディスパッチされていない場合) を示します。 CVDA 値は次のとおりです。

DYNAMIC
動的ルーティングが適用されます。

STATIC
動的ルーティングは適用されません。

RTIMEOUT(*data-area***)**
読み取りタイムアウト間隔を秒数で示すフルワード・バイナリー・フィールドを戻します。タスクが読み取りタイムアウト値よりも長く入力を待機する場合、CICS はタスクを異常終了します。 RTIMEOUT 値は、このタスクが実行している TRANSACTION に関連する PROFILE 定義の RTIMOUT オプションによって設定されます。

RUNAWAY(*data-area***)**
このタスクの「ランナウェイ・タスク」時間をミリ秒単位でフルワード・バイナリー値として戻します。タスクが 1 回のディスパッチでこの間隔を超える時間にわたってプロセッサーを制御し続ける場合、CICS はタスクがループ状態であると想定し、それを異常終了します。値がゼロの場合、CICS はタスクのランナウェイ状態をモニターしません。

RUNSTATUS(*cvda***)**
タスクのディスパッチ状況を示す CVDA 値を戻します。 CVDA 値は次のとおりです。

DISPATCHABLE
タスクは実行の準備ができています。

RUNNING
タスクが実行しています。

SUSPENDED
タスクは実行の準備ができていません。

SCRNSIZE(*cvda***)**
このタスクに代替またはデフォルトの画面サイズが適用されるかどうかを示す CVDA 値を戻します。 CVDA 値は次のとおりです。

ALTERNATE
代替画面サイズが適用されます。

DEFAULT
デフォルト画面サイズが適用されます。

SCRNSIZE 値は、このタスクが実行しているトランザクションに関連した PROFILE 定義にある同じ名前のオプションによって設定されます。

STARTCODE(*data-area***)**
このタスクがどのように開始されたかを示す 2 文字の値を戻します。可能な値は次のとおりです。

D タスクは、SYNCONRETURN オプションを指定しない Distributed Programming Link (DPL) コマンドを処理するように開始されました。(タスクは同期点の発行を許可されていません。)

DS タスクは、SYNCONRETURN オプションを含む Distributed Programming Link (DPL) コマンドを処理するように開始されました。(タスクは同期点の発行を許可されています。)

QD CICS は、トリガー・レベルに達していた一時データ・キューを処理するためにタスクを開始しました。

S 別のタスクが、FROM オプションでデータを渡さない START コマン

ドを使用して、このタスクを開始しました。 START コマンドはチャネルを通過したかどうかわかりません。

SD 別のタスクが、FROM オプションでデータを渡す START コマンドを使用して、このタスクを開始しました。

SZ タスクが FEPI START コマンドで開始されました。

TO タスクが端末 (または別のシステム) からの非送信請求入力を処理するために開始され、実行されるトランザクションがその入力から判別されました。

TP タスクが非送信請求入力を処理するため、または別のタスクでの RETURN IMMEDIATE コマンドに応答して開始されました。いずれの場合も、実行されるトランザクションは、入力を参照しないで (RETURN コマンドまたは関連する TERMINAL 定義で) 事前設定されていました。

U CICS はタスクを内部的に作成しました。

注: IIOP 要求プロセッサーがローカルに実行される場合、ASSIGN コマンドまたは INQUIRE TASK の開始コードは U です。IIOP 要求プロセッサーが MRO リンクを経由してリモートに実行される場合、これらのコマンドの開始コードは TO です。(IIOP 要求プロセッサーをその他のタイプの接続を経由してリモートに実行する場合、ルーティング要求は受け入れられないため、こうした状態ではこれらのコマンドの開始コードは該当しません)。

STORAGECLEAR(*cvda***)**
CICS がこのタスクから解放されるストレージを消去する必要があるかどうかを示す CVDA 値を戻します (他のタスクが機密データを誤って表示することがないようにするため)。 CVDA 値は次のとおりです。

CLEAR
ストレージはクリアされます。

NOCLEAR
ストレージはクリアされません。

SUSPENDTIME(*data-area***)**
RUNSTATUS 値が SUSPENDED の場合、最後のディスパッチ以降、タスクが中断されている秒数 (端数切り捨て) を示すフルワード・バイナリー・フィールドを戻します。タスクが実行中であるかまたはディスパッチ可能な場合、SUSPENDTIME 値は –1 です。

SUSPENDTYPE(*data-area***)**
このタスクが一時停止されている場合、その理由を示す 8 文字のテキスト・ストリングを戻します (実行中またはディスパッチ可能なタスクの場合はブランクが戻されます)。 SUSPENDVALUE オプションも参照してください。

SUSPENDVALUE(*data-area***)**
このタスクが待機しているリソースの 8 文字の名前 (例えば、タスクがレコードに関してキューに入れられて場合はファイルの名前) を戻します。
SUSPENDVALUE は一時停止しているタスクにのみ適用されます。タスクが実行中であるかまたはディスパッチ可能な場合、戻される値はブランクです。

TASK(*data-value***)**
照会されるタスクの 4 バイトのパック 10 進シーケンス番号を指定します。

TASKDATAKEY(*cvda***)**
CICS がこのタスクのストレージを取得するためのストレージ・キーを示す CVDA 値を戻します。これには、タスク存続時間ストレージ (トランザクション作業域 (TWA) と EXEC インターフェース・ブロック (EIB)) と、CICS がこのタスクの下で実行するプログラムの代わりに取得するストレージが含まれます。

詳細については、TRANSACTION 属性の TASKDATAKEY オプションの説明を参照してください。

CVDA 値は以下のとおりです。

CICSDATAKEY
CICS は CICS キー・ストレージからストレージを取得します。

USERDATAKEY
CICS はユーザー・キー・ストレージからストレージを取得します。

TASKDATAKEY について戻される値は、タスクが実行している TRANSACTION の定義から取られます。ストレージ保護がアクティブであるか (つまり、ユーザー・キーに CICS キーと異なる値があるか) どうかを判別するには、STOREPROTECT オプションを指定して INQUIRE SYSTEM コマンドを発行する必要があります。

TASKDATALOC(*cvda***)**
このタスクの、タスク存続期間ストレージ (EIB や TWA などのタスクの CICS 制御ブロック) が 16 MB 境界を超えて取得されるか、または 16 MB 未満で取得されるかを示す CVDA 値を戻します。 CVDA 値は以下のとおりです。

ANY タスク存続期間ストレージは 16 MB 境界を超えるか、16 MB 未満のいずれかにすることができます。

BELOW
タスク存続期間ストレージは 16 MB 境界の下でなければなりません。

TCB(*cvda***)**
タスクが実行している TCB のタイプを示す CVDA 値を戻します。 CVDA 値は以下のとおりです。

CKOPEN
タスクは CICS キーのオープン TCB で実行しています。

INTERNAL
タスクは CICS 内部 TCB のいずれかで実行しています。内部 TCB は以下のいずれかです。

- 並行モード (CO) TCB
- ファイル所有モード (FO) TCB
- リソース所有モード (RO) TCB
- ONC/RPC モード (RP) TCB
- ソケット・リスナー・モード (SL) TCB

- Secure Sockets Layer モード (SO) TCB
- ソケット・モード (S8) TCB
- FEPI モード (SZ) TCB

QR タスクは CICS QR TCB で実行しています。

UKOPEN
タスクはユーザー・キーのオープン TCB で実行しています。

TCLASS(*data-area***)**
このタスクが番号付きのトランザクション・クラスに属している場合、そのタスクが属するトランザクション・クラスの番号を示すフルワード・バイナリー・フィールドを戻します。このオプションは前のリリースとの互換性のために保存されます。前のリリースでは、トランザクション・クラスに 1 から 10 の番号が付いていました。タスクがこうしたクラスに属していない場合、戻される値はゼロです。 (詳しくは、TRANCLASS オプションを参照してください。)

TRACING(*cvda***)**
このタスクに有効なトレースのタイプを示す CVDA 値を戻します。 CVDA 値は次のとおりです。

SPECTRACE
このタスクのトレースは特別です。

SPRSTRACE
このタスクのトレースは抑止です。

STANTRACE
このタスクのトレースは標準です。

トレースのタイプについて詳しくは、CETR - トレース制御を参照してください。

TRANCLASS(*data-area***)**
タスクが属するトランザクション・クラスの 8 文字の名前を戻します。タスクがどのクラスにも割り当てられていない場合、デフォルトのクラス DFHTCL00 が戻されます。タスクが番号付きのクラスに属している場合、戻される値は DFHTCL*nn* です。ここで、*nn* は 2 桁のクラス番号です。

TRANPRIORITY(*data-area***)**
実行中の TRANSACTION の定義内の PRIORITY オプションに由来する、タスクの合計優先度のコンポーネントを示すフルワード・バイナリー・フィールドを戻します。 (このコマンドの PRIORITY オプションも参照してください。)

TRANSACTION(*data-area***)**
このタスクが実行しているトランザクションの 4 文字の名前を戻します。

TRPROF(*data-area***)**
タスクが ISC リンク上で経路指定されている場合にシステム間フローに使用されるプロファイル定義の 8 文字の名前を戻します。

TWASIZE(*data-area***)**
このタスクのトランザクション作業域 (TWA) のサイズをバイト単位で示すフルワード・バイナリー・フィールドを戻します。

UOW(*data-area*)
このタスクに関連する作業単位のローカル ID を 8 バイトのフィールドとして戻します。

USERID(*data-area*)
タスクに関連したユーザーの 8 文字の ID を戻します。

条件

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

1 SUSPENDVALUE が指定されましたが、重要な文字が脱落しています。

3 TCLASS が指定されましたが、タスクは番号付きの CLASS ではなく、名前付きの CLASS に属しています。ユーザーは TRANCLASS オプションを指定する必要があります。

10 要求されたデータはデータ・プロファイルに保持されますが、そのデータ・プロファイルが使用不可になっています。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

TASKIDERR
RESP2 値は以下のとおりです。

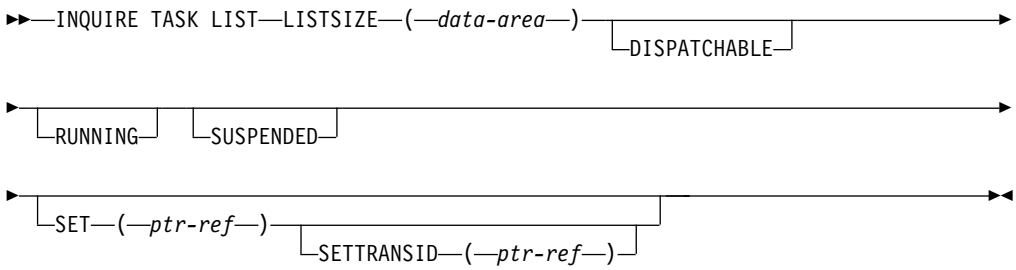
1 タスクは見つかりません。

2 タスクは、このコマンドの対象ではないトランザクションのタイプを実行しています。

INQUIRE TASK LIST

ユーザー・タスクのリストを取得します。

INQUIRE TASK LIST



条件: NOTAUTH

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

INQUIRE TASK LIST コマンドは、ユーザー・タスクのリストを戻します。ユーザー・タスクは、ユーザー定義トランザクション、または CICS 提供トランザクション (通常はオペレーターによって呼び出されます) に関連付けられているタスクです。照会の時点で DISPATCHABLE (実行可能)、RUNNING、または SUSPENDED であるタスク、またはこれらの任意の組み合わせに、リストを制限することができます。

オプション

DISPATCHABLE
実行可能 (ディスパッチ可能) なタスクをタスク・リストに含めることを指定します。これらのタスクは、カテゴリー・オプション (DISPATCHABLE、RUNNING、および SUSPENDED) のいずれも指定しない場合にも含まれます。

LISTSIZE(データ域)
照会に組み込んだカテゴリー内のタスクの数を示す、フルワード・バイナリー・フィールドを戻します。これは、SET および SETTRANSID オプションが生成するリスト内のエントリーの数です。要求されたカテゴリーにタスクがない場合、LISTSIZE にはゼロが含まれます。

RUNNING
実行中のタスク (コマンドを発行するタスクを含む) をタスク・リストに含めることを指定します。これらのタスクは、カテゴリー・オプション (DISPATCHABLE、RUNNING、および SUSPENDED) のいずれも指定しない場合にも含まれます。

SET(*ptr-ref*)
4 バイトのパック 10 進数タスク番号のリストのアドレスを戻します。リスト内の各エントリーは、要求されたカテゴリーのいずれかのタスクを識別します (DISPATCHABLE、RUNNING、および REQUESTED オプションを参照)。要求されたカテゴリー内にタスクがない場合、SET ポインターにはヌル値が入ります。

CICS はこのリスト用のストレージを取得し、照会中のタスクが別の INQUIRE TASK LIST を発行するか、ELEMENTLIST または LENGTHLIST を使用して INQUIRE STORAGE コマンドを発行するか、または終了すると、そのストレージを解放します。タスクはストレージ自体を解放できません。

SETTRANSID(*ptr-ref*)
4 バイトのトランザクション ID のリストのアドレスを戻します。リスト内の各エントリーは、SET リスト内の対応するエントリーのタスクが実行しているトランザクションの名前です。指定したカテゴリー内にタスクがない場合、SETTRANSID ポインターにはヌル値が入ります。

CICS はこのリスト用のストレージを取得し、照会中のタスクが別の INQUIRE TASK LIST を発行するか、ELEMENTLIST または LENGTHLIST を使用して INQUIRE STORAGE コマンドを発行するか、または終了すると、そのストレージを解放します。タスクはストレージ自体を解放できません。

SUSPENDED
中断状態のタスク (なんらかのイベントまたは条件を待機しているタスク) をタ

スク・リストに入れることを指定します。この目的で、属しているタスク・クラスが最大であるため、またはシステムの最大値に達しているため、初期ディスパッチ点に達していないタスクは中断状態と見なされます。中断状態のタスクは、カテゴリー・オプション (DISPATCHABLE、RUNNING、および SUSPENDED) のいずれも指定しない場合にも含まれます。

条件

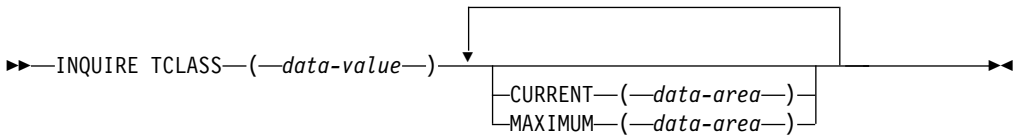
NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

INQUIRE TCLASS

トランザクション・クラスに関する情報を取得します。

INQUIRE TCLASS



条件: NOTAUTH、TCIDERR

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

INQUIRE TCLASS コマンドを使用すると、インストール済み環境で定義されているトランザクション・クラス内のタスクの現在数と最大数を判別できます。このコマンドは、以前のリリースの CICS の番号付きクラスに限定され、これらのリリースとの互換性のために保持されます。 594 ページの『INQUIRE TRANCLASS』 コマンドは同じ機能を持ち、古い番号付きクラスまたは新しい名前付きクラスのどちらにも使用できます。

オプション

CURRENT(*data-area***)**
問い合わせの対象となるクラスにある現在のタスク数を示す、フルワード・バイナリー・フィールドを戻します。この数には、実行中のタスクと、クラスまたはシステムの最大値に到達したためにまだディスパッチされていないタスクの両方が含まれます。それらの限度の詳細については、このコマンドの MAXIMUM オプション、および INQUIRE SYSTEM コマンドの MAXTASKS オプションを参照してください。CURRENT 値は、INQUIRE TRANCLASS コマンドの ACTIVE 値および QUEUED 値の合計に相当します。したがって、MAXIMUM 値を超える場合があります。

MAXIMUM(*data-area***)**
問い合わせの対象となるクラス内で同時に実行できるタスクの最大数を示す、フ

ルワード・バイナリー・フィールドを戻します。この値は、INQUIRE TRANCLASS コマンドの MAXACTIVE 値に相当します。

TCLASS(*data-value*)
問い合わせ対象であるタスク・クラスの番号を、フルワード・バイナリー形式で指定します。この番号は、0 から 10 の範囲であることが必要です。

条件

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

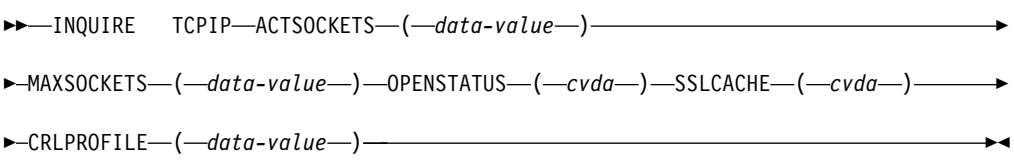
TCIDERR
RESP2 値は以下のとおりです。

1 指定されたタスク・クラスが見つかりません。

INQUIRE TCPIP

CICS 内部ソケット・サポートに関する情報を取得します。

INQUIRE TCPIP



条件: INVREQ、NOTAUTH

このコマンドはスレッド・セーフです。

CVDA の使用について詳しくは、CICS-value data areas (CVDAs)を参照してください。

説明

INQUIRE TCPIP は、CICS 内部ソケット・サポートの状態に関する情報を戻します。

オプション

ACTSOCKETS(*data-value*)
CICS ソケット・ドメインによって管理される現在のアクティブ IP ソケット数を含む、フルワード・バイナリー・フィールドを戻します。

CRLPROFILE(*data-value*)
SSL 接続の証明書失効リストを保管する LDAP サーバーへのアクセスを CICS に許可するプロファイルの名前を戻します。

MAXSOCKETS(*data-value*)
CICS ソケット・ドメインで管理できる IP ソケットの最大数を含む、フルワード・バイナリー・フィールドを戻します。

OPENSTATUS(*cvda*)
CICS 内部ソケット・サポートの状況を示す CVDA 値を戻します。CVDA 値は次のとおりです。

OPEN
CICS 内部 TCPIP サポートは開いています。

CLOSED
CICS 内部ソケット・サポートはまだ活動化されていないか、終了しました。

CLOSING
CICS 内部ソケット・サポートはクローズ中です。

IMMCLOSING
CICS 内部ソケット・サポートは、即時終了の処理中です。

SSLCACHE(*cvda*)
CICS が SSL セッション ID のローカル・キャッシングまたはシスプレックス・キャッシングを使用するように構成されているかどうかを示す CVDA 値を戻します。CVDA 値は次のとおりです。

CICS CICS は、SSL セッション ID をローカル CICS 領域のキャッシュに入れるように構成されています。

SYSPLEX
CICS は、SSL セッション ID をカップリング・ファシリティーのキャッシュに入れるように構成されています。

条件

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

4 システム初期設定テーブルで TCPIP=NO が指定されています。

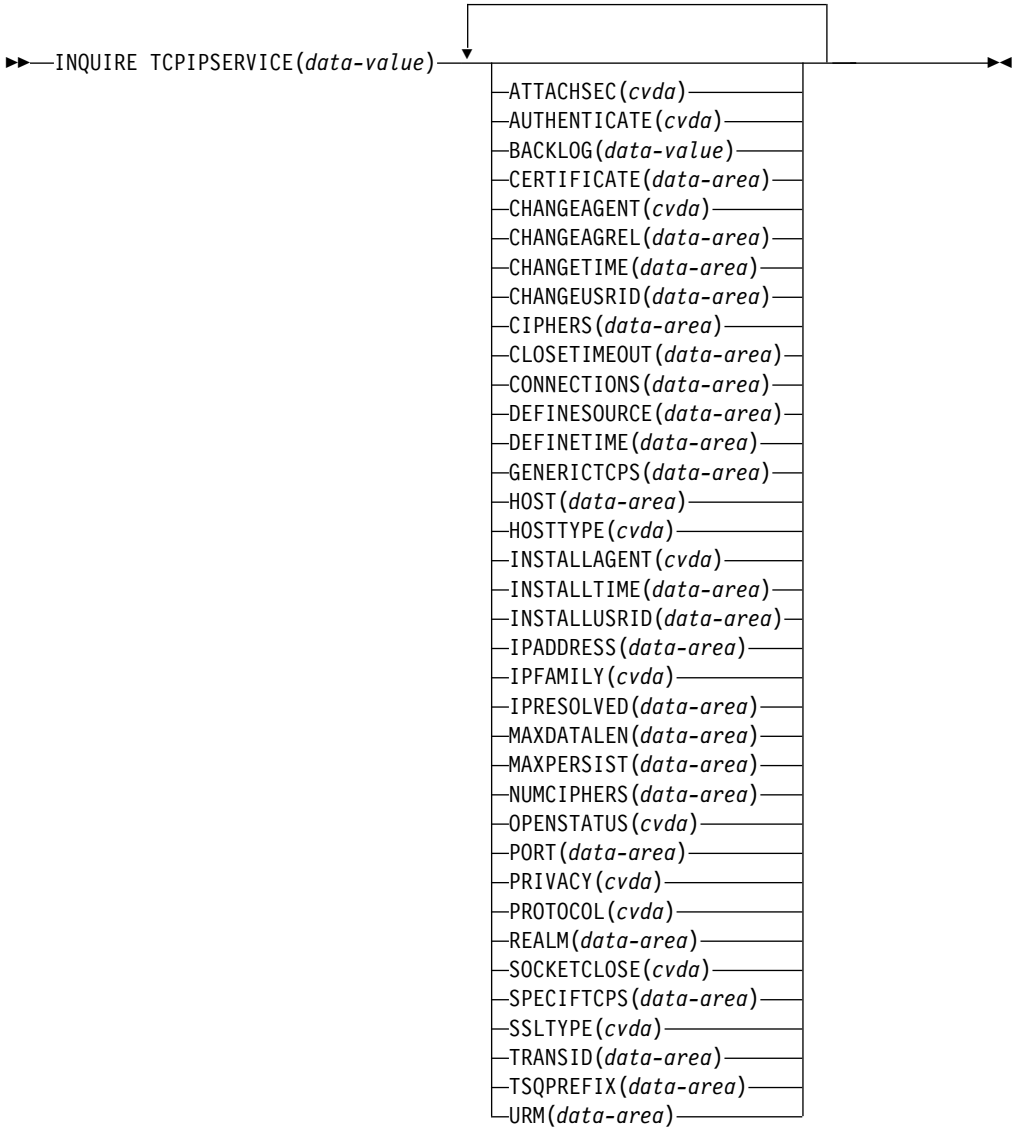
NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

INQUIRE TCPIPSERVICE

CICS 内部 TCP/IP サポートを使用するサービスの状態に関する情報を取得します。

INQUIRE TCPIPSERVICE



条件: END、ILLOGIC、INVREQ、NOTAUTH、NOTFND

このコマンドはスレッド・セーフです。

CVDA の使用について詳しくは、CICS-value data areas (CVDAs)を参照してください。

説明

INQUIRE TCPIPSERVICE コマンドを使用して、CICS 内部 TCP/IP サポートが現在、他の CICS サービスの代わりに listen している TCP/IP ポートに関する情報を取得します。

リソース・シグニチャー

このコマンドを使用して、リソース・シグニチャー・フィールドを検索することができます。これらのフィールドを使用すると、リソースの定義時、インストール

時、および最終変更時の詳細データを収集して、リソースを管理できます。 詳しくは、Auditing resourcesを参照してください。 リソース・シグニチャー・フィールドは BUNDLE、CHANGEAGENT、CHANGEAGREL、CHANGETIME、CHANGEUSRID、DEFINESOURCE、DEFINETIME、INSTALLAGENT、INSTALLTIME、および INSTALLUSRID です。リソース・シグニチャー・フィールドの内容について詳しくは、Summary of the resource signature field valuesを参照してください。

オプション

ATTACHSEC(*cvda*)

ECI over TCP/IP および IPICサービスの場合、接続で使用する接続時ユーザー・セキュリティーのレベルを戻します。CVDA 値は以下のとおりです。

LOCAL

CICS はクライアントからのユーザー ID またはパスワードを必要としません。

VERIFY

着信接続要求でユーザー ID およびユーザー・パスワードを指定する必要があります。

このオプションは、CICS Web サポート TCP/IP 接続では意味がありません。

AUTHENTICATE(*cvda*)

クライアントの認証に使用されるスキームを示す CVDA を戻します。有効な値は以下のとおりです。

- AUTOAUTH
- AUTOREGISTER
- BASICAUTH
- CERTIFICAUTH
- NOAUTHENTIC

AUTOAUTH

クライアントが証明書を送信しなかった場合は、HTTP 基本認証を使用してクライアントからユーザー ID およびパスワードが取得されます。そうでない場合は、SSL クライアント証明書認証を使用して、クライアントが認証されます。クライアントの証明書がユーザー ID と関連付けられていない場合には、HTTP 基本認証を使用してクライアントのユーザー ID を取得し、それを証明書と関連付けます。

この値が戻されるのは、PROTOCOL の値が HTTP である場合のみです。

AUTOREGISTER

SSL クライアント証明書認証は、クライアントの認証に使用されます。クライアントの証明書がユーザー ID と関連付けられていない場合には、HTTP 基本認証を使用してクライアントのユーザー ID を取得し、それを証明書と関連付けます。

この値が戻されるのは、PROTOCOL の値が HTTP である場合のみです。

BASICAUTH
HTTP 基本認証を使用して、クライアントからユーザー ID およびパスワードが取得されます。

この値が戻されるのは、PROTOCOL の値が HTTP である場合のみです。

CERTIFICAUTH
SSL クライアント証明書認証は、クライアントの認証と識別に使用されます。

この値が戻されるのは、PROTOCOL の値が HTTP である場合のみです。

NOAUTHENTIC
クライアントが認証または識別情報を送信する必要はありません。ただし、セキュリティー・マネージャーに既に登録済みでユーザー ID に関連付けられている有効な証明書をクライアントが送信した場合、そのユーザー ID によってクライアントが識別されます。

この値が戻されるのは、PROTOCOL の値が HTTP である場合のみです。

HTTP クライアントの認証および識別の詳細については、識別と認証を参照してください。

BACKLOG (*value*)
この TCP/IP サービスによって処理される、ローカル TCP/IP スタック内でキューに入れることができる接続要求の最大数を返します。 OPENSTATUS が CLOSED または OPENING である場合、このフィールドには、TCPIPSERVICE リソース定義から取られた BACKLOG の定義値が示されます。 OPENSTATUS が OPEN または CLOSING である場合、このフィールドには、このサービスに対してローカル TCP/IP スタックが許可する、キューに入れられる要求の最大数を定義するために使用する実際の値が示されます。SOMAXCONN パラメーターは、TCP/IP スタックが管理対象ソケットにおいて許可する接続要求の最大数を定義します。 BACKLOG 値が 0 に設定されている場合、または SOMAXCONN の値より大きい値に設定されている場合には、SOMAXCONN の値が取られます。 TCPIPSERVICE リソースで表示可能な最大値は 99999 です。ローカル・スタックの SOMAXCONN 値は、それより大きい場合があります。 99999 が返される場合は、キューに入れられた要求の実際の数を照会するために、**netstat** を使用することができます。

CERTIFICATE(*data-area*)
このサービス上のすべての Secure Socket Layer 接続用の SSL ハンドシェークでサーバー証明書として使用される、鍵リング内の証明書のラベルを含む 32 文字の領域を戻します。

CHANGEAGENT(*cvda*)
リソース定義を最後に変更したエージェントを識別する CVDA 値を戻します。有効な値は、以下のとおりです。

CREATESPI
リソース定義は **EXEC CICS CREATE** コマンドによって最後に変更されました。

CSDAPI
リソース定義は、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによって最後に変更されました。

CSDBATCH
リソース定義は、DFHCSDUP ジョブによって最後に変更されました。

DREPAPI
リソース定義は、CICSPlex SM BAS API コマンドによって最後に変更されました。

SYSTEM
リソース定義は、CICS または CICSPlex システムによって最後に変更されました。

CHANGEAGREL(*data-area*)
リソース定義の最終変更時に実行していた CICS リリースの 4 桁の数値を戻します。

CHANGETIME(*data-area*)
リソース定義の最終変更時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。ABSTIME 値のフォーマットについて詳しくは、FORMATTIMEを参照してください。

CHANGEUSRID(*data-area*)
変更エージェントを実行した 8 文字のユーザー ID を戻します。

CIPHERS(*data-area*)

SSL ハンドシェークの際にクライアントとネゴシエーションするために使用される暗号スイートのリストを格納する 56 文字の領域か、または SSL 暗号スイート仕様ファイルの名前のいずれかを返します。後者の場合、このファイルは、**USSCONFIG** システム初期設定パラメーターで指定されたディレクトリーの `security/ciphers` サブディレクトリーにある z/OS UNIX ファイルです。詳しくは、暗号スイートおよび暗号スイート仕様ファイルを参照してください。

リストを指定しない場合、このリストのデフォルトは、**ENCRYPTION** システム初期設定パラメーターに基づく暗号セットになります。 IBM Knowledge CenterのCustomizing encryption negotiationsを参照してください。

CLOSETIMEOUT(*data-area*)
このサービスが新しい要求のデータを待機する秒数を、フルワード・バイナリー形式で返します。この数値は 0 から 86400 (24 時間) の範囲にすることができます。HTTP プロトコルでは 0 を指定しないでください。この設定にすると持続接続を維持できなくなります。

CONNECTIONS
このサービス用のソケット接続の数を、フルワード・バイナリー形式で戻します。

DEFINESOURCE(*data-area*)
リソース定義の 8 文字のソースを戻します。DEFINESOURCE 値は CHANGEAGENT 値に依存します。詳しくは、Summary of the resource signature field valuesを参照してください。

DEFINETIME(*data-area*)
リソース定義の作成時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。

GENERICTCPS(*data-area*
この特定の TCP/IP サービスが、IPIC 高可用性クラスター内の構成の一部として使用されるときに関連付けられる、8 文字の汎用 TCPIPSERVICE 名を返します。この情報は、両方の TCP/IP サービスが開いているときにのみ表示されます。汎用 TCPIPSERVICE が存在しない場合、またはこの汎用 TCPIPSERVICE が閉じている場合、これはブランクになります。

HOST(*data-area*)
116 文字の、リモート・システムのホスト名か、その IP アドレスを戻します。

HOST は文字ホスト名、IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、ANY、または DEFAULT を表示します。HOST オプションは、定義済みのホスト名と定義済みの IPv4 アドレスについては IPADDRESS と同じ機能を提供しますが、定義済みの IPv6 形式のアドレスもサポートします。しかし、IP アドレスの代わりに DEFAULT と ANY が戻されるという点は、IPADDRESS と異なります。この情報は IPRESOLVED で入手可能であるためです。IPv6 接続を使用している場合、照会には IPADDRESS の代わりに HOST オプションを使用してください。HOST は、使用されるアドレス・フォーマットのタイプにかかわらず、すべての IPv4 アドレスを、1.2.3.4 などの、ネイティブの IPv4 ドット 10 進アドレスとして表示します。

IPv4 アドレスと IPv6 アドレスは、複数のフォーマットで指定することができます。アドレス・フォーマットについて詳しくは、IP アドレスを参照してください。

HOST はリソース定義に指定されます。

HOSTTYPE(*cvda*)
HOST のアドレス・フォーマットか、HOST が指定されていない場合は IPADDRESS オプションを戻します。HOSTTYPE は、TCPIPSERVICE のインストール時にドメインによって設定されます。CVDA 値は以下のとおりです。

ANY HOST オプションに ANY オプションが指定されています。

DEFAULT
HOST オプションに DEFAULT オプションが指定されています。

HOSTNAME
HOST オプションには、文字のホスト名が含まれます。ホスト名に対応する IP アドレスが、ドメイン・ネーム・サーバー内で検索されます。

IPV4 HOST オプションにはドット 10 進 IPv4 アドレスが含まれます。

IPV6 HOST オプションにはコロン 16 進 IPv6 アドレスが含まれます。

NOTAPPLIC
HOST オプションで 0.0.0.0 が指定されています。

INSTALLAGENT(*cvda*)
リソースをインストールしたエージェントを識別する CVDA 値を戻します。有効な値は、以下のとおりです。

BUNDLE
リソースは、バンドルのデプロイメントによってインストールされました。

CREATESPI
EXEC CICS CREATE コマンドによってリソースがインストールされました。

CSDAPI
CEDA トランザクションまたは DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによって、リソースがインストールされました。

GRPLIST
GRPLIST INSTALL によってリソースがインストールされました。

INSTALLTIME(*data-area*)
リソースのインストール時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。

INSTALLUSRID(*data-area*)
リソースをインストールした 8 文字のユーザー ID を戻します。

IPADDRESS(*data-area*)
このサービスの 15 文字のドット 10 進 IP アドレスを戻します。新しいプログラムには IPADDRESS を使用しないでください。代わりに HOST を使用してください。HOST オプションは IPADDRESS と同じ情報を戻しますが、IPv6 形式のアドレスも戻します。HOST が IPv4 アドレスを戻す場合、このアドレスは IPADDRESS にも戻されます。HOST が IPv4 アドレスを戻さない場合、IPADDRESS は `0.0.0.0` を戻します。

IPv6 接続を使用している場合は、照会には IPADDRESS の代わりに HOST オプションを使用しなければなりません。

IPFAMILY(*cvda*)
IPRESOLVED オプションのアドレス・フォーマットを戻します。CVDA 値は以下のとおりです。

UNKNOWN
IPRESOLVED がまだ使用されていないか、アドレスを解決できません。UNKNOWN は、IPRESOLVED が `0.0.0.0` の場合のデフォルトです。

IPV4 IPRESOLVED オプションにはドット 10 進 IPv4 アドレスが含まれます。

IPV6 IPRESOLVED オプションにはコロン 16 進 IPv6 アドレスが含まれます。

IPRESOLVED(*data-area*)
HOST オプションの IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレスを 39 文字の領域で戻します。OPENSTATUS オプションが OPEN に設定されていない場合や、アドレスを解決できない場合は、`0.0.0.0` の値が戻されます。HOST オプションが ANY に設定されている場合は、IPRESOLVED は CICS が稼働しているシステムの IPv4 アドレスを常に戻します。他の IPv4 または IPv6 アドレスが使用可能な場合でも同様です。

IPRESOLVED の内容は、ウォーム・リスタートまたは緊急時再始動後はリカバリーできません。

MAXDATALEN(*data-area*)
HTTP サーバーとしての CICS が受信できるデータの最大長の設定を、フルワード・バイナリー形式で戻します。

MAXPERSIST(*data-area*)
CICS 領域が常にこのポートに対して許可する Web クライアントからの持続接続の最大数の設定をフルワード・バイナリー形式で戻します。この設定値は、HTTP プロトコルにのみ適用されます。ヌル設定値 (-1) は、持続接続の数に制限がないことを意味します。ゼロ設定値は、許可された持続接続がないことを意味します。ゼロ設定値は HTTP/1.1 の仕様に対応していないので、外部要求を処理する CICS 領域には設定できません。

NUMCIPHERS(*data-area*)
CIPHERS 属性で指定された暗号スイートの数が含まれたバイナリーのハーフワード・データ領域を戻します。**CIPHERS** でファイル名が指定された場合、このフィールドには 0 が入ります。

OPENSTATUS(*cvda*)
サービスに対する CICS 内部ソケット・サポートの状況を示す CVDA 値を戻します。CVDA 値は以下のとおりです。

OPEN
CICS 内部ソケット・サポートはこのサービスについてオープンしています。

OPENING
CICS 内部ソケット・サポートはこのサービスについてオープン処理中です。

CLOSED
CICS 内部ソケット・サポートはこのサービスについてまだ活動化されていないか、終了されました。

CLOSING
CICS 内部ソケット・サポートはこのサービスについてクローズ処理中です。

IMMCLOSE
このサービスに対する CICS 内部ソケット・サポートはすぐに終了しました。

IMMCLOSING
CICS 内部ソケット・サポートは、即時終了の処理中です。

PORT(*data-area*)
CICS がこのサービスの代わりに listen しているポートの数を、フルワード・バイナリー形式で戻します。

PRIVACY(*cvda*)
このサービスへのインバウンド接続に必要な SSL 暗号化のレベルを示す CVDA を戻します。CVDA 値は以下のとおりです。

REQUIRED
暗号化を使用する必要があります。SSL ハンドシェークの間、CICS は、サポートされる暗号スイートの中で、暗号化を提供するもののみを公示します。

SUPPORTED
暗号化は、クライアントとサーバーの両方が暗号化をサポートしている場合に使用されます。SSL ハンドシェークの間、CICS は、サポートされるすべての暗号スイートを公示します。

NOTSUPPORTED
暗号化は使用できません。SSL ハンドシェークの間、CICS は、サポートされる暗号スイートの中で、暗号化を提供しないもののみを公示します。

PROTOCOL(*cvda*)
このサービスで使用されている基礎プロトコルを示す CVDA を戻します。CVDA 値は以下のとおりです。

ECI 外部 CICS インターフェース・プロトコル。

HTTP
HTTP。

IPIC IP 相互接続性 (IPIC)。

USER ユーザー定義プロトコル。

REALM(*data-area*)
HTTP 基本認証の処理中に使用される 56 文字のレルムを戻します。この値が戻されるのは、PROTOCOL の値が HTTP である場合のみです。レルムがこのサービスに指定されていない場合、CICS によって使用されるデフォルトのレルムが戻されます。これは、CICS application *aaaaaaaa* で、*aaaaaaaa* は CICS 領域のアプリケーション ID です。

SOCKETCLOSE(*cvda*)
TIMEOUT 値がこのサービスに有効かどうかを示す CVDA を戻します。CVDA 値は以下のとおりです。

WAIT
定義で NO が指定されていました。ソケット受信はデータを無期限に待機します。

TIMEOUT
定義において SOCKETCLOSE パラメーターに値が指定されました。CLOSETIMEOUT は指定された値を戻します。

SPECIFTCPS(*data-area*)
この汎用 TCP/IP サービスが高可用性 IPIC 接続要求を受け取るときに使用する、8 文字の特定の TCP/IP 名を返します。

SSLTYPE(*cvda*)
このサービスに使用されるセキュア・ソケット・サポートのレベルを指定する CVDA を戻します。CVDA 値は以下のとおりです。

CLIENTAUTH
クライアント認証付きの Secure Sockets Layer がこのサービスに使用されています。

ATTLSAWARE
CICS はクライアント接続を照会して、AT-TLS がアクティブかどうかを確認します。対応するアプリケーションは AT-TLS を認識し、AT-TLS ポリシーで高度な設定を行うことなく、AT-TLS 状況、パートナー証明書、派生 RACF ユーザー ID などの情報を照会できます。CICS は、パートナーによって提供された場合、クライアント証明書を TCP/IP から取り出します。

NOSSL
Secure Sockets Layer はこのサービスに使用されていません。

SSL クライアント認証なしの Secure Sockets Layer がこのサービスに使用されています。

TCPIPSERVICE(*data-value*)
照会する TCP/IP サービスの 1 文字から 8 文字までの名前を指定します。

TRANSID(*data-area*)
新規要求を処理するために開始されたタスクの付加時に使用される 4 文字のトランザクション ID を戻します。

TSQPREFIX(*data-area*)
CICS Transaction Server for z/OS, バージョン 3 リリース 2 以降のリリースでは必須ではなくなり、使用されません。

URM(*data-area*)
付加されたタスクによって開始されるユーザー置き換え可能プログラムの 8 文字の名前を戻します。

条件

END
RESP2 値は以下のとおりです。

2 このタイプのリソース定義はありません。

ILLOGIC
RESP2 値は以下のとおりです。

1 このリソース・タイプのブラウズが既に実行されているときに **START** コマンドが出されたか、もしくは、このリソース・タイプのブラウズが実行されていないときに **NEXT** または **END** コマンドが出されました。

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

4 TCP/IP は使用不可です (TCPIP=NO がシステム初期設定パラメーターとして指定されました)。

5 TCP/IP はクローズされています。

19 ホストが不明です。

NOTAUTH

RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

NOTFND

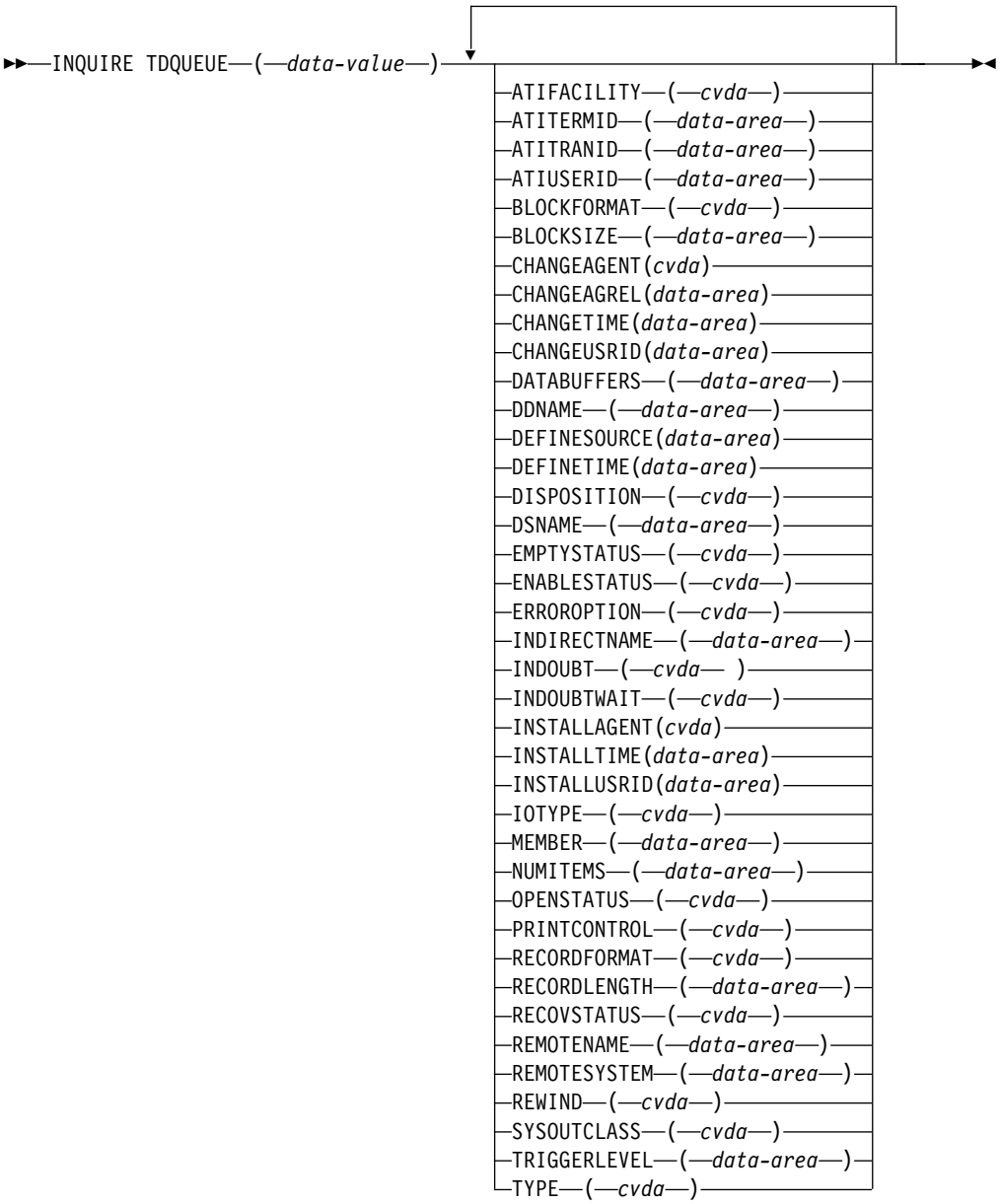
RESP2 値は以下のとおりです。

3 TCPIPSERVICE リソースが見つかりません。

INQUIRE TDQUEUE

一時データ・キューに関する情報を取得します。

INQUIRE TDQUEUE



条件**:** END、ILLOGIC、NORMAL、NOTAUTH、QIDERR

このコマンドはスレッド・セーフです。

CVDA の使用について詳しくは、CICS-value data areas (CVDAs)を参照してください。

説明

INQUIRE TDQUEUE コマンドは、特定の一時データ・キューに関する情報を取得します。

一時データ・リソース定義を使用して、CICS に対して一時データ・キューを定義します。区画内 と区画外 の 2 つの基本的なタイプがあります。区画内キューは、CICS によって全体的に管理および保管され、自動タスク開始 (ATI) の影響を受けます。ATI は、キューにある項目数が TRIGGERLEVEL オプションで指定された値に達すると、CICS が自動的にキューを処理するタスクを作成する機能です。

区画外キューは、MVS 順次データ・セットまたはスプール・ファイルです。区画外キューは ATI の影響を受けないため、関連するオプションによりヌル値が生成されます。さらに、データ・セットがオープンされていない場合、CICS は、BLOCKFORMAT や RECORDFORMAT などの値の一部を判別できない場合があります。このような場合、ヌル値で説明されている NULL 値が戻されます。

この他に、間接 とリモート という 2 つのキュー・タイプがあります。これらのタイプは、両方とも最終的には基本タイプの 1 つを指定します。

間接キューは、同じ CICS システムにあるもう 1 つのキューを指定し、本質的にはその別のキューの別名です。INQUIRE TDQUEUE コマンドで間接キューを指定すると、CICS は TYPE 値 (INDIRECT) と、間接定義が指定するキューの名前 (INDIRECTNAME 値) のみを戻します。基礎となるキューの特性を判別するには、INDIRECTNAME 値に対して 2 番目の INQUIRE TDQUEUE が必要です。

リモート・キューとは、別の CICS システムで定義されているキューのことです。このようなキューについて照会すると、ローカル CICS システムは、そのキューについてローカルで保持している情報のみを戻します。

- タイプ (REMOTE)。
- 定義されているシステム (REMOTESYSTEM 値)。
- その場所での名前 (REMOTENAME)。
- ローカル・システム上のアプリケーションで使用可能かどうか (ENABLESTATUS)。

ブラウズ

INQUIRE TDQUEUE コマンドのブラウズ・オプション (START、NEXT、および END) を使用して、システムで定義されている一時データ・キューをブラウズすることもできます。ブラウズに関する一般情報 (構文、例外条件、および例を含む) については、Browsing resource definitionsを参照してください。

リソース・シグニチャー

このコマンドを使用して、リソース・シグニチャー・フィールドを検索することができます。これらのフィールドを使用すると、リソースの定義時、インストール時、および最終変更時の詳細データを収集して、リソースを管理できます。 詳しくは、Auditing resourcesを参照してください。 リソース・シグニチャー・フィールドは BUNDLE、CHANGEAGENT、CHANGEAGREL、CHANGETIME、CHANGEUSRID、DEFINESOURCE、DEFINETIME、INSTALLAGENT、INSTALLTIME、および INSTALLUSRID です。リソース・シグニチャー・フィールドの内容について詳しくは、Summary of the resource signature field valuesを参照してください。

オプション

ATIFACILITY(*cvda*) (区画内キューのみ)
キューに関連付けられた端末 (またはセッション) があるかどうかを示す CVDA 値を戻します。関連する端末がある場合に、キューのトリガー・レベルに達したので CICS がキューを処理するタスクを作成するとき、その端末はタスクの基本装置として割り当てられます。ATITERMID および ATITRANID オプションも参照してください。CVDA 値は以下のとおりです。

NOTAPPLIC
キューは区画内ではありません。

NOTERMINAL
キューに関連する端末はありません。

TERMINAL
キューに関連する端末があります。

ATITERMID(*data-area*) (区画内キューのみ)
キューに関連付けられた端末またはセッション (ある場合) の 4 文字の名前を戻します。(ATIFACILITY オプションを参照。)それ以外の場合は、ブランクが返されます。

ATITRANID(*data-area*) (区画内キューのみ)
CICS がキューを処理するタスクを自動的に開始するときに実行されるトランザクションの 4 文字の ID を戻します。このオプションは、ATI を対象とした区画内キューのみに適用され、その他のタイプのキューや、キュー定義にトランザクションが指定されていない区画内キューの場合、戻される値はブランクです。

ATIUSERID(*data-area*) (区画内キューのみ)
このキューに関連付けられている 8 バイトのユーザー ID を戻します。CICS は、キューに関連付けられている端末がない場合、キューを処理するために作成するタスクにこの値を割り当てます。キューが区画内キューではない場合、または ATITRANID オプションを使用して定義されているトランザクションがない場合、ブランクが戻されます。

セキュリティー・マネージャーがアクティブでない場合、戻される値はデフォルトのユーザー ID の値であり、インストールされた定義に含まれている値ではありません。

BLOCKFORMAT(*cvda*) (区画外キューのみ)
キューに関連付けられているデータ・セットが、ブロック化レコード形式かどうかを示す CVDA 値を戻します。これは区画外キューにのみ適用されます。CVDA 値は以下のとおりです。

BLOCKED
レコードはブロックされています。

NOTAPPLIC
データ・セットがオープン状態ではないか、キューが区画外キューではありません。

UNBLOCKED
レコードはブロックされていません。

BLOCKSIZE(*data-area*)
1 から 32767 の範囲のバイト単位でブロックの長さを戻します。

CHANGEAGENT(*cvda*)
リソース定義を最後に変更したエージェントを識別する CVDA 値を戻します。有効な値は、以下のとおりです。

CREATESPI
リソース定義は **EXEC CICS CREATE** コマンドによって最後に変更されました。

CSDAPI
リソース定義は、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによって最後に変更されました。

CSDBATCH
リソース定義は、DFHCSDUP ジョブによって最後に変更されました。

DREPAPI
リソース定義は、CICSPlex SM BAS API コマンドによって最後に変更されました。

SYSTEM
リソース定義は、CICS または CICSPlex システムによって最後に変更されました。

CHANGEAGREL(*data-area*)
リソース定義の最終変更時に実行していた CICS リリースの 4 桁の数値を戻します。

CHANGETIME(*data-area*)
リソース定義の最終変更時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。ABSTIME 値のフォーマットについて詳しくは、FORMATTIMEを参照してください。

CHANGEUSRID(*data-area*)
変更エージェントを実行した 8 文字のユーザー ID を戻します。

DATABUFFERS(*data-area*) (区画外キューのみ)
一時データ・キューによって使用されるバッファーの数を 1 から 255 の範囲で戻します。

DDNAME(*data-area*) (区画外キューのみ)
始動 JCL で使用されるデータ・セット名を指す 8 文字の ID (必要に応じてブランクが埋め込まれます) を戻します。

DEFINESOURCE(*data-area*)
リソース定義の 8 文字のソースを戻します。DEFINESOURCE 値は CHANGEAGENT 値に依存します。詳しくは、Summary of the resource signature field valuesを参照してください。

DEFINETIME(*data-area*)
リソース定義の作成時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。

DISPOSITION(*cvda*) (区画外キューのみ)
関連したデータ・セットの状況を示す CVDA 値を戻します。CVDA 値は以下のとおりです。

MOD システムは、まず、データ・セットが存在すると仮定します。既存のデータ・セットの場合、MOD によって、データ・セット内の最終レコードの後ろに read/write メカニズムが位置付けられます。read/writeメカニズムは、データ・セットが 出力のため開かれるたびに最終レコードの後に 置かれます。

システムが DD ステートメント上のデータ・セットに関するボリューム情報をカタログ内で検出できない場合や、直前のステップからデータ・セットとともに渡されたボリューム情報を検出できない場合、システムは、そのデータ・セットがこのジョブ・ステップで作成されると想定します。 新規データ・セットでは、MODはデータ・セットの先頭にread/writeメカニズムを配置します。

NOTAPPLIC
このオプションは、キューがオープンではないか、区画外キューでないため、適用されません。

OLD データ・セットはこのジョブ・ステップの前に存在していました。

SHARE
データ・セットはこのジョブ・ステップの前に存在しており、 他の並行ジョブはそれを読み取ることができます。

注**:** CEDA を使用してこのパラメーターを定義する場合は、省略語 SHR を使用できます。

DSNAME(*data-area***) (区画外キューのみ)**
関連する QSAM データ・セットまたは DUMMY データ・セットを示す 1 文字から 44 文字の名前を戻します。SYSOUTCLASS が使用される場合、このデータ域はブランクです。

EMPTYSTATUS(*cvda***) (区画外キューのみ)**
スペースに関してキューの状態を示す CVDA 値を戻します。 CICS は、タスクによってレコードの追加が試行されたときに、スペースがない場合にのみ FULL 状態を検出します。また、タスクによって読み取りが試行されたときに、レコードが存在しない場合にのみ EMPTY 状態を検出します。したがって、NOTEMPTY の値は、これらの状態がいずれも検出されなかったときに戻されます。EMPTYSTATUS は区画外キューにのみ適用されます。CVDA 値は以下のとおりです。

EMPTY
キューは空です。

FULL キューはフル状態です。

NOTAPPLIC
キューがオープン状態ではないか、区画外ではないため、このオプションは適用されません。

NOTEMPTY
キューに対するオペレーションで、空またはフルを示すものはありません。

ENABLESTATUS(*cvda***) (間接キューを除くすべて)**
キューがアプリケーションからアクセス可能かどうかを示す CVDA 値を戻しま

す。リモート・キューの場合、この値は、ローカル CICS がキューにアクセスするコマンドをリモート・システムに転送するか、または DISABLED 例外条件でリジェクトするかを反映します。これは、リモート・システム上のキューの状態を必ずしも反映しているわけではありません。CVDA 値は以下のとおりです。

DISABLED
アプリケーションによって、キューにアクセスできません。区画外キューの場合、この値は、必ずしも関連データ・セットがクローズされることを意味しているわけではありません。

DISABLING
キューは現在使用不可になっています。

ENABLED
アプリケーションからキューにアクセスできます。

NOTAPPLIC
キューは間接です。

ERROROPTION(*cvda***) (区画外キューのみ)**
入出力エラーが検出された場合に CICS が取るアクションを示す CVDA 値を戻します。 CVDA 値は以下のとおりです。

IGNORERR
エラーの原因となったブロックが受け入れられます。

SKIP エラーの原因となったブロックがスキップされます。

INDIRECTNAME(*data-area***) (間接キューのみ)**
この間接キューが指すキューの 4 文字の名前を戻します。このオプションは、間接として定義されているキューのみに適用されます。その他のタイプのキューの場合は、ブランクが戻されます。

INDOUBT(*cvda***) (区画内キューのみ)**
このキューの定義が WAIT(YES) を指定している場合、CICS が未確定作業単位 (UOW) に対して取るアクションを示す CVDA 値を戻します。CVDA 値は以下のとおりです。

QUEUE
UOW は未確定で待機中です。このキューに対して UOW が保留にしたロックはすべて、UOW が最終状態にあることが確認されるまでアクティブなままになります。タスクは LOCKED 応答を受け取るのではなく、中断状態になります。UOW の最終状態が判別されると、それによる変更はコミットされるかまたは取り消されます。それまで、アクティブなロックのいずれかを 必要とする次のタイプの今後の要求は待機する必要があります。

- READQ - 未確定の UOW が READQ または DELETEQ 要求を発行した場合。
- WRITEQ - 未確定の UOW が WRITEQ または DELETEQ 要求を発行した場合。
- DELETEQ - 未確定の UOW が READQ、WRITEQ または DELETEQ 要求を発行した場合。

REJECT
UOW は未確定で、待機しています。このキューに対して UOW が保留にしたロックはすべて、UOW が最終状態にあることが確認されるまでアクティブなままになります。最終状態にあることが確認されると、それが行った変更はすべて、コミットされるかバックアウトされます。その時まで、保持されたロックの 1 つを必要とする以降の要求はどれもリジェクトされ、LOCKED 状態が戻されます。 REJECT により、QUEUE によってトランザクションが待機させられるのとまったく同じ環境で LOCKED が発行されることになります。

INDOUBTWAIT(*cvda*) (区画内キューのみ)
リカバリー可能なキューを修正した未確定の作業単位 (UOW) が、変更をコミットするか、バックアウトするかを決定するためにコーディネーターとの再同期を待つかどうかを示す CVDA 値を戻します。CVDA 値は以下のとおりです。

NOWAIT
UOW は、待機しません。リカバリー可能リソースに行われた変更は、トランザクション・リソース定義の ACTION 属性によって指定されたとおりに、バックアウトまたはコミットされます。

WAIT
UOW は待機し、待機中の必要なアクションは、どれも WAITACTION オプションによって決定されます。

このパラメーターは、UOW のトランザクション定義で定義された WAIT オプションを指定変更します。TDQUEUE および TRANSACTION 定義での未確定属性の相互作用の説明については、TRANSACTION 属性を参照してください。

INSTALLAGENT(*cvda*)
リソースをインストールしたエージェントを識別する CVDA 値を戻します。有効な値は、以下のとおりです。

CREATESPI
リソースは、**EXEC CICS CREATE** コマンドによってインストールされました。

CSDAPI
リソースは、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによってインストールされました。

GRPLIST
リソースは、**GRPLIST INSTALL** によってインストールされました。

SYSTEM
リソースは、CICS または CICSPlex SM システムによってインストールされました。

INSTALLTIME(*data-area*)
リソースのインストール時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。

INSTALLUSRID(*data-area*)
リソースをインストールした 8 文字のユーザー ID を戻します。

IOTYPE(*cvda*) (区画外キューのみ)
キューが INPUT、OUTPUT、または RDBACK 用に定義されたかどうかを示す CVDA 値を戻します。CVDA 値は以下のとおりです。

INPUT
キューは入力用に定義され、順方向に読み取られます。

NOTAPPLIC
キューは、オープン状態ではないか、区画外キューではありません。

OUTPUT
キューは、出力に対して定義されています。

RDBACK
キューは入力用に定義され、逆方向に読み取られます。

MEMBER(*data-area*) (区画外キューのみ)
キューが区分データ・セットのメンバーである場合、8 文字のメンバー名を戻します。メンバーでない場合は、ブランクが戻されます。

NUMITEMS(*data-area*) (区画内キューのみ)
キュー内の項目数を示すフルワード・バイナリー・フィールドを戻します。キューが区画内でない場合、値 -1 が戻されます。

OPENSTATUS(*cvda*) (区画外キューのみ)
キューがオープンしているか、クローズしているか、または中間状態かを示す CVDA 値を戻します。 CVDA 値は以下のとおりです。

CLOSED
キューはクローズ状態です。

CLOSING
キューはクローズしています。

NOTAPPLIC
キューは区画外ではありません。

OPEN
キューはオープン状態です。

OPENING
キューはオープンしています。

PRINTCONTROL(*cvda*) (区画外キューのみ)
キューに対して定義された印刷制御 (ある場合) のタイプを示す CVDA 値を戻します。印刷制御文字が使用される場合、各レコードの最初の位置に表示されます。ただし、CICS は、レコードがキューに書き込まれるときにこの文字を検査したり、レコードがキューから読み取られるときにこの文字を除去したりしません。印刷制御規則の使用と適用は、キューを使用しているアプリケーションによって制御されます。CVDA 値は以下のとおりです。

ASACTL
ASA 制御文字が使用されています。

MCHCTL
マシン制御文字が使用されています。

NOCTL
印刷制御文字は使用されていません。

NOTAPPLIC
キューはオープン状態でないか、区画外キューではありません。

RECORDFORMAT(*cvda***) (区画外キューのみ)**
キューに固定長レコードがあるか、可変長レコードがあるかを示す CVDA 値を戻します。CVDA 値は以下のとおりです。

FIXED
キューに固定長レコードがあります。

NOTAPPLIC
キューはオープン状態でないか、区画外キューではありません。

VARIABLE
キューに可変長レコードがあります。

RECORDLENGTH(*data-area***) (区画外キューのみ)**
固定長レコードを持つキューのレコード長 (バイト数)、または可変長レコードを持つキューの最大レコード長を示すフルワード・バイナリー・フィールドを戻します。RECORDLENGTH オプションは、区画外キューにのみ適用されます。その他については、-1 が戻されます。

RECOVSTATUS(*cvda***) (区画内キューのみ)**
キューに定義されたリカバリーのタイプを示す CVDA 値を戻します。リカバリーは区画内キューにのみ使用可能です。CVDA 値は以下のとおりです。

LOGICAL
キューは論理的にリカバリー可能です。

NOTAPPLIC
キューは区画内ではありません。

NOTRECOVABLE
キューはリカバリー可能ではありません。

PHYSICAL
キューは物理的にリカバリー可能です。

REMOTENAME(*data-area***) (リモート・キューのみ)**
キューが (定義内の RMTNAME オプションから) 定義されたリモート CICS 領域での、このキューの 4 文字の名前を戻します。REMOTENAME オプションは、リモートとして定義されたキューにのみ適用されます。その他のキューでは、戻される値はブランクになります。

REMOTESYSTEM(*data-area***) (リモート・キューのみ)**
キューが定義されている CICS 領域の 4 文字の名前を (その定義の SYSIDNT 値から) 戻します。REMOTESYSTEM オプションは、リモートとして定義されたキューにのみ適用されます。その他のキューでは、戻される値はブランクになります。

REWIND(*cvda***) (区画外キューのみ)**
テープ・データ・セットの処理を示す CVDA 値を戻します。CVDA 値は以下のとおりです。

LEAVE
現在のテープは、データ・セットの論理終わりに位置付けられます

REREAD
現在のテープは、データ・セットを再処理するために位置付けられます。

SYSOUTCLASS(*data-area***)**
関連付けられた SYSOUT データ・セットのクラス属性を示す 1 文字 (または DSNAME が使用されている場合はブランク) を戻します。

TDQUEUE(*data-value***)**
照会する一時データ・キューの 4 文字の名前を指定します。

TRIGGERLEVEL(*data-area***) (区画内のみ)**
トランザクションの自動開始 (ATI) が起こる前に、キューが達していなければならない項目の数を示すフルワード・バイナリー・フィールドを戻します。キューがこの深さに達すると、CICS は、それを自動的に処理するタスクを呼び出します。値ゼロは、キューが ATI の影響を受けないことを意味します。キューが区画内でない場合、値 -1 が戻されます。

TYPE(*cvda***)**
キューのタイプを示す CVDA 値を戻します。CVDA 値は以下のとおりです。

EXTRA
キューは区画外です。

INDIRECT
キューは間接です。

INTRA
キューは区画内です。

REMOTE
キューはリモートです。

条件

END
RESP2 値は以下のとおりです。

2 このタイプのリソース定義はありません。

ILLOGIC
RESP2 値は以下のとおりです。

1 ブラウズ順序エラー

NORMAL
RESP2 値は以下のとおりです。

0 エラーはありません

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

101 発行中のタスクに関連付けられているユーザーには、このコマンドが要求する方法でこの特定のリソースにアクセスする権限がありません。

QIDERR

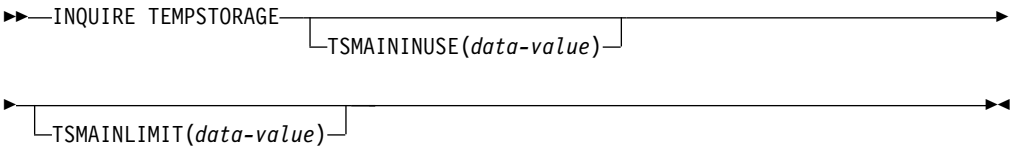
RESP2 値は以下のとおりです。

1 指定されたキューが見つかりません。

INQUIRE TEMPSTORAGE

CICS 領域内の一時記憶域キューで使用されるストレージについての情報を取得します。

INQUIRE TEMPSTORAGE



状態**:** NOTAUTH

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

INQUIRE TEMPSTORAGE コマンドは、主一時記憶域キューが使用する CICS 領域ストレージ、およびそれに使用できる最大量に関する情報を戻します。

オプション

TSMAININUSE(*data-value*)

主一時記憶域キューで現在使用されているストレージの量 (バイト単位) を示すダブルワード・バイナリー値を戻します。

TSMAINLIMIT(*data-value*)

CICS が使用する主一時記憶域キューに使用できるようにする最大ストレージ量の現在の設定 (バイト単位) を示すダブルワード・バイナリー値を戻します。

条件

NOTAUTH

RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

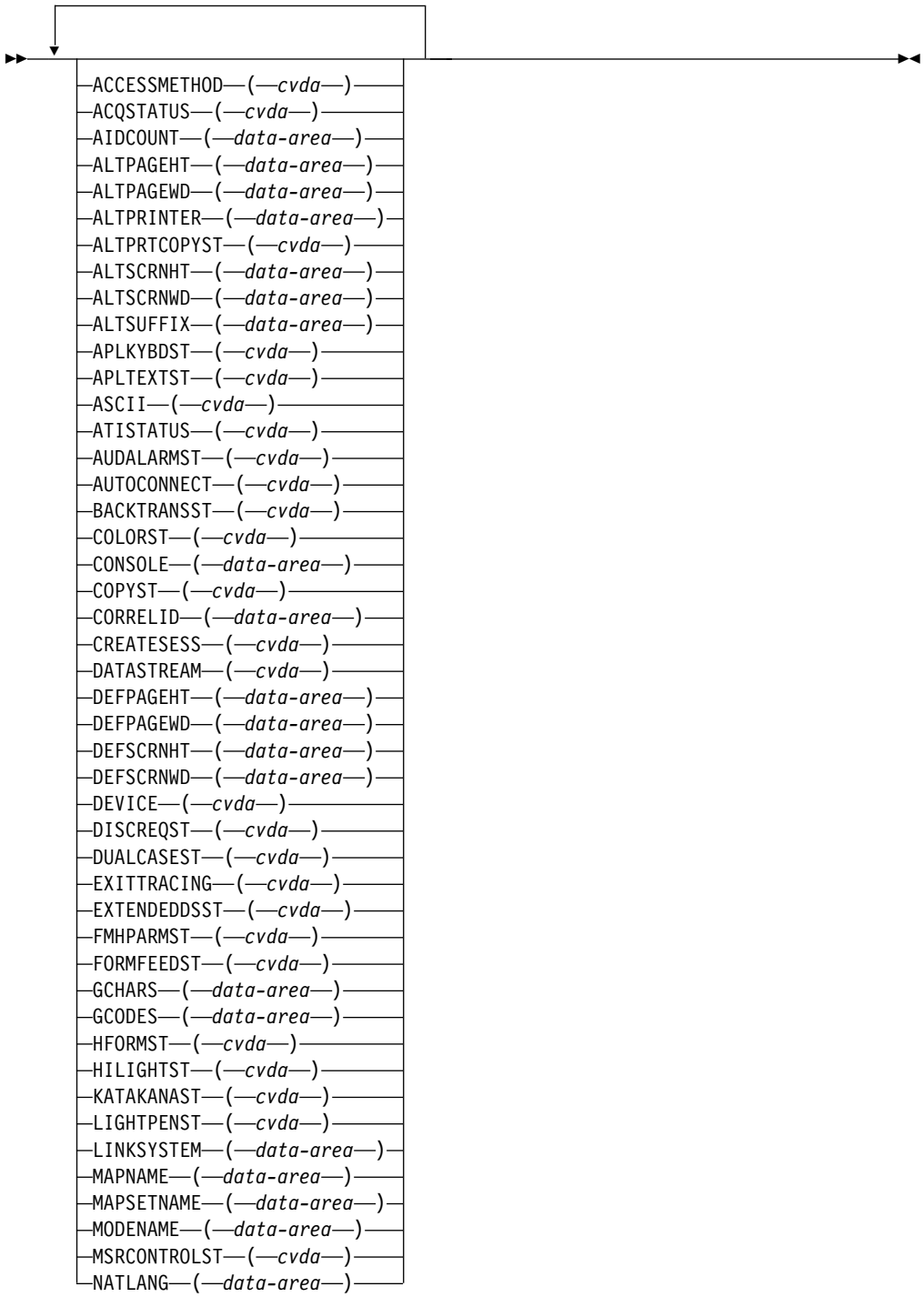
INQUIRE TERMINAL

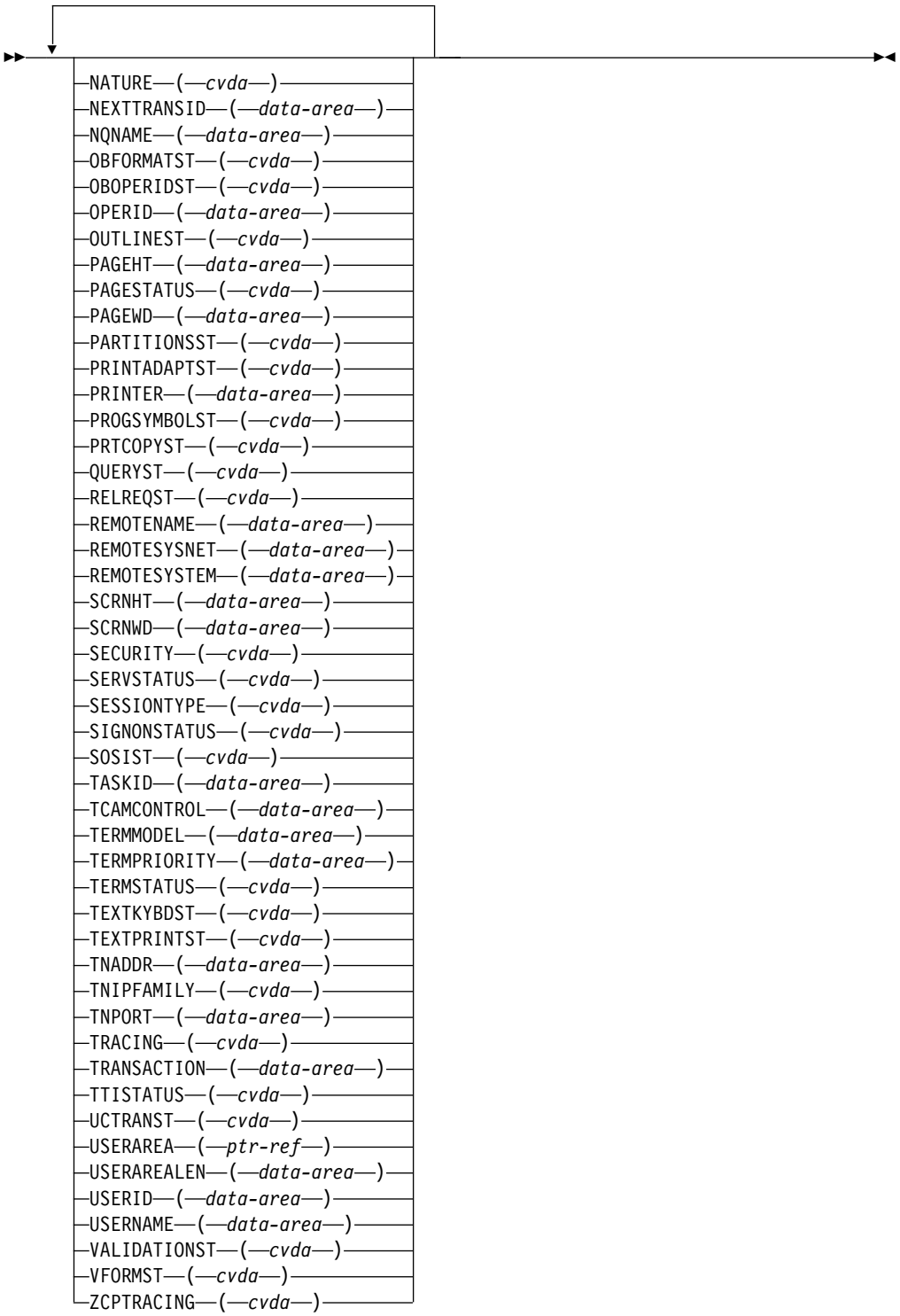
端末またはセッションに関する情報を取得します。

INQUIRE TERMINAL または NETNAME

以下のオプションは、INQUIRE TERMINAL コマンドと INQUIRE NETNAME コマンドの両方に適用されます。

INQUIRE TERMINAL





条件: END、ILLOGIC、NOTAUTH、TERMIDERR

CVDA の使用について詳しくは、CICS-value data areas (CVDAs)を参照してください。

説明

INQUIRE TERMINAL コマンドと **INQUIRE NETNAME** コマンドは両方とも、CICS 領域にインストールされた特定の端末またはセッションに関する情報を返します。

これらのコマンドを使用して、以下のタイプを含め、いかなるタイプの端末リソースについても照会できます。

- (INQUIRE が発行される領域によって) ローカルに所有されている物理端末
- リモート端末 (別の領域によって所有されているとローカルに定義された端末)
- 代理端末 (別の領域によって所有されている端末を表す部分定義。この定義が最初に必要になる時にローカル領域にシップされる)
- モデル (他の端末を自動インストールするためにのみ使用される定義)
- CICS に対して定義された MVS コンソール

このコマンドのオプションの中には、端末が獲得されているかどうかや、タスクが端末を使用中かどうかなどの、システム状況情報を返すものもあります。しかし、ほとんどのオプションは、端末またはセッションの定義 (場合によっては後続の **SET TERMINAL** コマンドによって変更される)、あるいは QUERY でハードウェアから取得される情報を返します。

端末は、TERMINAL リソース定義とそれが示す TYPETERM 定義によって指定されます。画面サイズや 3270 機能など、端末の多くが共用する特性は、TYPETERM で定義されます。関連付けられたプリンターの名前など、端末ごとの固有の特性は、TERMINAL 定義に含まれます。TERMINAL 定義は自動インストールされている場合があります。セッションの場合は、CONNECTION で共用プロパティーが定義され、SESSIONS で特性が定義されます。

ほとんどの場合、このタイプのオプションは、リソース定義におけるオプションと同じ (または類似の) 名前です。そうでない場合は、この後のオプションの説明の中で、対応するリソース・オプションを示しています。

INQUIRE NETNAMEは、**INQUIRE TERMINAL** と同じ情報を返します。**INQUIRE TERMINAL** では、TERMINAL オプションで CICS 端末 ID を指定することによって、照会の対象を特定します。NETNAME はオプションです。これを含めた場合、CICS は指定されたデータ域でのネットワーク ID を返します。

INQUIRE NETNAME コマンドでは、TERMINAL と NETNAME の役割が逆になります。 NETNAME でネットワーク ID を指定することによって、照会する端末を特定します。CICS は、対応する CICS 端末 ID を TERMINAL で返します (このオプションも含めた場合)。**INQUIRE TERMINAL** コマンドでは、NETNAME を指定する場合 TERMINAL は NETNAME の前になければなりません。**INQUIRE NETNAME** コマンドでは逆になります。

他のオプションはすべて両方のコマンドに適用され、同じ情報を返します。ただし、すべてのオプションがすべてのタイプの端末に適用されるわけではありません。特に、CICS が所有領域からリモート領域に端末定義をシップする場合、所有領域 (定義は実端末のもの) で発行された照会は、リモート領域 (定義は所有領域での定義の代理) で発行される照会よりも多くの情報を提供します。

ブラウズ

INQUIRE TERMINAL または **INQUIRE NETNAME** コマンドでブラウズ・オプション (START、NEXT、および END) を使用することにより、システムにインストールされているすべての端末の定義をブラウズすることもできます。ブラウズに関する一般情報 (構文、例外条件、および例を含む) については、Browsing resource definitionsを参照してください。

オプション

ACCESSMETHOD(*cvda*)
端末に定義されたアクセス方式を示す CVDA 値を返します。 CVDA 値は次のとおりです。

BGAM
アクセス方式は BGAM です。

BSAM
アクセス方式は BSAM です。

CONSOLE
端末は、MVS コンソール・サポート機能を介してアクセスされるオペレーティング・システム・コンソールです。

NOTAPPLIC
端末は MRO セッションです。

VTAM
アクセス方式は z/OS Communications Server です。

ACQSTATUS(*cvda*) (z/OS Communications Server のみ)
TERMSTATUS オプションと同じ値を返します。互換性のためだけに残されています。新規アプリケーションでは TERMSTATUS を使用してください。

AIDCOUNT(*data-area*)
指定した端末のキューに入れられた自動開始記述子 (AID) の数を示すフルワード・バイナリー・フィールドを戻します。 AID がない場合、AIDCOUNT 値 0 が戻されます。

ALTPAGEHT(*data-area*)
代替ページ・サイズの高さを行数で示すハーフワード・バイナリー・フィールドを返します。 DEFPAGEHT および PAGEHT オプションも参照してください。

ALTPAGEWD(*data-area*)
代替ページ・サイズの幅を文字数で示すハーフワード・バイナリー・フィールドを返します。 DEFPAGEWD および PAGEWD オプションも参照してください。

ALTPRINTER(*data-area*)
TERMINAL 定義の PRINTER オプションで指定されたプリンターが使用不可のときに、この端末のタスクでの印刷キー要求および ISSUE PRINT コマンド用に指定されたプリンターの 4 文字の名前を返します。

ALTPRTCOPYST(*cvda*)
ALTPRINTER オプションで指定されたプリンターに対する印刷要求を満たすた

めに CICS がハードウェア・コピー機能を使用するかどうかを示す CVDA 値を返します。CVDA 値は次のとおりです。

ALTPRTCOPY
CICS はハードウェア・コピー機能を使用します。

NOALTPRTCOPY
CICS はハードウェア・コピー機能を使用しません。

NOTAPPLIC
端末は z/OS Communications Server 端末ではないか、あるいはリモート端末、代理端末、またはモデル定義です。

ALTSCRNHT(*data-area***)**
代替画面サイズの高さを行数で示すハーフワード・バイナリー・フィールドを返します。 DEFSCRNHT および SCRNHT オプションも参照してください。

ALTSCRNWD(*data-area***)**
代替画面サイズの幅を文字数で示すハーフワード・バイナリー・フィールドを返します。 DEFSCRNWD および SCRNWD オプションも参照してください。

ALTSUFFIX(*data-area***)**
画面が代替サイズであり接尾部が使用されているときにこの端末に書き込まれるマップのマップ・セット名に BMS が付加する 1 文字の接尾部を返します。

この端末の定義で ALTSUFFIX が指定されていない場合、返されるバイトには x'00' が含まれます。値 x'00' はヌルとされない点に注意してください。これは、このフィールドは文字フィールドであるためで、この場合ヌルはブランク文字 x'40' のことです。

APLKYBDST(*cvda***)**
端末が APL キーボード機能を備えているかどうかを示す CVDA 値を返します。 CVDA 値は次のとおりです。

APLKYBD
端末は APL キーボード機能を備えています。

NOAPLKYBD
端末には APL キーボード機能がありません。

APLTEXTST(*cvda***)**
端末が APL テキスト機能を備えているかどうかを示す CVDA 値を返します。CVDA 値は次のとおりです。

APLTEXT
端末は APL テキスト機能を備えています。

NOAPLTEXT
端末には APL テキスト機能がありません。

ASCII(*cvda***)**
端末が使用する ASCII コードのタイプを示す CVDA 値を返します (該当する場合)。 CVDA 値は次のとおりです。

ASCII7
コードは 7 ビット ASCII です。

ASCII8
コードは 8 ビット ASCII です。

NOTAPPLIC
端末は ASCII を使用しません。

ATISTATUS(*cvda*)
CICS がこの端末で基本機能としてタスクを自動的に開始 (ATI) できるかどうかを示す CVDA 値を返します。

ATI 端末を ATI に使用できます。

NOATI
端末を ATI に使用することはできません。

AUDALARMST(*cvda*)
端末が 3270 音響アラーム機能を備えているかどうかを示す CVDA 値を返します。 CVDA 値は次のとおりです。

AUDALARM
端末は音響アラーム機能を備えています。

NOAUDALARM
端末には音響アラーム機能がありません。

AUTOCONNECT(*cvda*)
z/OS Communications Server との通信が確立された場合に CICS がこの端末とのセッションの確立 (バインド) を試みるかどうかを示す CVDA 値を返します。CVDA 値は次のとおりです。

ALLCONN
CICS はセッションを確立します。この値は、AUTOCONNECT 値が関連 TYPETERM 定義で ALL の場合 (端末に関して照会する場合)、または SESSIONS 定義で ALLCONN の場合 (セッションに関して照会する場合) に返されます。

AUTOCONN
CICS はセッションを確立します。この値は、AUTOCONNECT 値が関連 TYPETERM 定義で YES の場合 (端末に関する照会の場合)、または SESSIONS 定義で AUTOCONN の場合 (セッションに関する照会の場合) に返されます。

NONAUTOCONN
CICS はセッションをバインドしません。

NOTAPPLIC
端末は z/OS Communications Server 端末ではないか、あるいはリモート端末、代理、またはモデルです。

BACKTRANSST(*cvda*)
端末が 3270 背景透過性機能を備えているかどうかを示す CVDA 値を返します。背景透過性は、文字の背後の表示域を透明 (透過) にするか陰影付きにするかの制御を可能にします。 CVDA 値は次のとおりです。

BACKTRANS
端末は背景透過性機能を備えています。

NOBACKTRANS
端末には背景透過性機能がありません。

COLORST(*cvda*)
個々のフィールドまたは文字のカラー選択を可能にする 3270 拡張カラー機能を端末が備えているかどうかを示す CVDA 値を返します。 CVDA 値は次のとおりです。

COLOR
端末は拡張カラー機能を備えています。

NOCOLOR
端末には拡張カラー機能がありません。

CONSOLE(*data-area*)
MVS コンソールの場合のみ、コンソールを識別する 12 バイト・ストリングを返します。装置がコンソールでない場合、CICS は 12 個のブランクを返します。

コンソールが自動インストールされている場合、またはコンソール名を指定して明示的に定義されている場合、最初の 8 バイトで名前が返され、末尾の 4 バイトはブランクになります。

COPYST(*cvda*)
端末が接続されている制御装置にコピー機能が組み込まれているかどうかを示す CVDA 値を返します。 COPYST は 3270 端末にのみ適用されます。 CVDA 値は次のとおりです。

COPY
制御装置はコピー機能を備えています。

NOCOPY
制御装置にはコピー機能がありません。

CORRELID(*data-area*)
以下のようにセッションに応じて違う値が設定される 8 文字の相関 ID を返します。

- LU6.1 セッションの場合、NETNAMEQ の値に設定されます。
- MRO セッションの場合、このセッションの接続先の MRO リンクの相手側にあるセッションの端末 ID に設定されます。
- LU6.2 セッションの場合、接続された 2 つのセッションに共通の 8 文字のトークンになります。

CORRELID を使用して、MRO、LU6.1、または LU6.2 会話の 2 つのパートを関連付けることができます。したがって、例えば、特定の機能シップ・ミラーを実行中のプログラムを検出できます。

CREATESESS(*cvda*) (z/OS Communications Server のみ)
自動タスク開始 (ATI) 要求に必要な場合に CICS が端末の獲得を試みるかどうかを示す CVDA 値を返します。CICS が獲得できるのは z/OS Communications Server 物理端末のみです。セッションは対象となりません。CVDA 値は次のとおりです。

CREATE
端末を獲得できます。

NOCREATE
端末を獲得できません。

NOTAPPLIC
端末は z/OS Communications Server 端末ではないか、あるいはセッション (APPC、LUTYPE6.1、または MRO) です。

DATASTREAM(*cvda***)**
端末によって使用されるデータ・ストリームのタイプを示す CVDA 値を返します。 CVDA 値は次のとおりです。

DS3270
端末は 3270 データ・ストリームを使用します。

NOTAPPLIC
端末は 3270 データ・ストリームも SCS データ・ストリームも使用しません。

SCS 端末は SNA 文字ストリングを使用します。

DEFPAGEHT(*data-area***)**
デフォルト・ページ・サイズの高さを行数で示すハーフワード・バイナリー・フィールドを返します。 TYPETERM 定義での対応するオプションは、PAGESIZE です。 ALTPAGEHT および PAGEHT オプションも参照してください。

DEFPAGEWD(*data-area***)**
デフォルト・ページ・サイズの幅を文字数で示すハーフワード・バイナリー・フィールドを返します。 TYPETERM 定義での対応するオプションは、PAGESIZE です。 ALTPAGEWD および PAGEWD オプションも参照してください。

DEFSCRNHT(*data-area***)**
デフォルト画面サイズの高さを行数で示すハーフワード・バイナリー・フィールドを返します。 ALTSCRNHT および SCRNHT オプションも参照してください。

DEFSCRNWD(*data-area***)**
デフォルト画面サイズの幅を文字数で示すハーフワード・バイナリー・フィールドを返します。 ALTSCRNWD および SCRNWD オプションも参照してください。

DEVICE(*cvda***)**
端末またはセッションのタイプを示す CVDA 値を返します。このオプションに使用される CVDA 値は、DEVICE オプションの CVDA 値にリストされています。

DISCREQST(*cvda***)**
端末を切断する要求を CICS が受け入れるかどうかを示す CVDA 値を返します。切断要求は、**ISSUE DISCONNECT** コマンド、あるいは GOODNIGHT または LOGOFF オプションを指定した CESF (サインオフ) タスクの結果として生じます。 CVDA 値は以下のとおりです。

DISCREQ
CICS はこの端末を切断する要求を受け入れます。端末が z/OS

Communications Server 端末の場合は、セッションを終了する z/OS Communications Server CLSDST 要求も受け入れます。

NODISCREQ
CICS は、この端末を切断する要求を受け入れません。

NOTAPPLIC
このオプションは、この端末には適用されません。

DUALCASEST(*cvda*)
端末のキーボードがタイプライター型キーボードかオペレーター・コンソール型キーボードかを示す CVDA 値を返します。 CVDA 値は次のとおりです。

DUALCASE
端末はタイプライター型キーボードを備えています。

NODUALCASE
端末はオペレーター・コンソール型キーボードを備えているか、あるいは 3270 表示装置ではありません。

EXITTRACING(*cvda*) (z/OS Communications Server のみ)
CICS z/OS Communications Server 出口トレースがアクティブのときにこの端末がトレースされるかどうかを示す CVDA 値を返します。INQUIRE TRACEFLAG コマンドの TCEXITSTATUS オプションを参照してください。 CVDA 値は次のとおりです。

EXITTRACE
端末はトレースされます。

NOEXITTRACE
端末はトレースされません。

NOTAPPLIC
端末は z/OS Communications Server 端末ではないか、あるいはリモート端末、代理端末、またはモデル定義です。

EXTENDEDDSST(*cvda*)
端末が 3270 拡張データ・ストリームをサポートするかどうかを示す CVDA 値を返します。端末によるこのサポートは、TYPETERM 定義で指定されている場合に行われます。つまり、EXTENDEDDS オプションで明示的に指定されているか、または拡張データ・ストリームを使用する機能が指定することにより暗黙的に指定されている場合です。このコマンドの BACKTRANST、COLORST、HILIGHTST、MSRCONTROLST、OUTLINEST、PARTITIONSST、PROGSYMBOLST、SOSIST、および VALIDATIONST オプションを参照してください。拡張データ・ストリームのサポートは、端末が QUERY などの構造化フィールド書き込みコマンドを受け入れることを暗黙に示しており、逆に言えば QUERY のサポートを意味します。つまり、QUERY オプションの値 ALL または COLD は、拡張データ・ストリームのサポートを暗黙指定することになります。 CVDA 値は次のとおりです。

EXTENDEDDS
端末は拡張データ・ストリームをサポートします。

NOEXTENDEDDS
端末は拡張データ・ストリームをサポートしません。

FMHPARMST(*cvda***)**
BMS が作成する機能管理ヘッダー (FMH) への組み込み対象としてユーザーが指定した値を BMS が受け入れるかどうかを示す CVDA 値を返します。このサポートは、3650 端末でのみ使用可能です。 CVDA 値は次のとおりです。

FMHPARM
BMS は、ユーザーが指定した値を許可します。

NOFMHPARM
BMS は、ユーザーが指定した値を許可しません。

FORMFEEDST(*cvda***)**
端末が用紙送り機能を備えているかどうかを示す CVDA 値を返します。CVDA 値は次のとおりです。

FORMFEED
端末は用紙送り機能を備えています。

NOFORMFEED
端末には用紙送り機能がありません。

GCHARS(*data-area***)**
この端末で入力または出力として使用できる図形文字のセットを識別する図形文字セット・グローバル ID (GCSGID) を示すハーフワード・バイナリー・フィールドを返します。 TYPETERM 定義での対応するオプションは、CGCSGID です。

GCHARS オプションはグラフィック端末にのみ適用されます。その他の場合は 0 が返されます。

GCODES(*data-area***)**
端末で入力または出力可能な文字のコード・ポイントが定義された EBCDIC コード・ページを識別するコード・ページ・グローバル ID (CPGID) を示すハーフワード・バイナリー・フィールドを返します。 TYPETERM 定義での対応するオプションは、CGCSGID です。

GCODES オプションはグラフィック端末にのみ適用されます。その他の場合は 0 が返されます。

HFORMST(*cvda***)**
端末が水平フォーム機能を備えているかどうかを示す CVDA 値を返します。文書を出力用に書式設定するときに水平タブを使用するには、水平フォーム機能が必要です。 CVDA 値は次のとおりです。

HFORM
端末は水平フォーム機能を備えています。

NOHFORM
装置には、水平フォーム機能がありません。

HILIGHTST(*cvda***)**
端末が 3270 拡張強調表示機能を備えているかどうかを示す CVDA 値を返します。この機能は、フィールドまたは文字の反転表示、下線付き表示、または明滅表示を可能にします。 CVDA 値は次のとおりです。

HILIGHT
端末は拡張強調表示機能を備えています。

NOHILIGHT
端末には拡張強調表示機能がありません。

KATAKANAST(*cvda***)**
端末がカタカナ端末かどうかを示す CVDA 値を返します。 CVDA 値は次のとおりです。

KATAKANA
端末はカタカナ端末です。

NOKATAKANA
端末はカタカナ端末ではありません。

LIGHTPENST(*cvda***)**
端末が 3270 選択ペン機能を備えているかどうかを示す CVDA 値を返します。 CVDA 値は次のとおりです。

LIGHTPEN
端末は選択ペン機能を備えています。

NOLIGHTPEN
端末には選択ペン機能がありません。

LINKSYSTEM(*data-area***)**
リモート端末エントリーの TOR への実リンクである接続の 4 文字の名前を返します (接続が使用可能な場合)。リモート・エントリーからリンク・システムへのチェーンで接続定義の一部が欠落していると、接続は使用できません。

MAPNAME(*data-area***)**
この端末を対象に処理された SEND MAP コマンドの MAP オプションで最後に参照されたマップの 7 文字の名前を返します。この端末が代理であり、端末所有システムが CICS Transaction Server for z/OS 領域である場合は、この端末が代理装置として表された端末専有領域または別の AOR が最後に送信したマップがマップ名になることがあります。返されるマップ名は、既に装置バッファーで保持されていない可能性があります。SEND TEXT や SEND CONTROL などの BMS コマンド (または端末管理 SEND コマンド) の介入、あるいはオペレーター操作によって、マップ表示が部分的または完全に除去されることがあるためです。端末が BMS でサポートされない場合、例えばこの端末がセッションである場合や、送信されたマップの記録が CICS にない場合、返される値はブランクになります。

MAPSETNAME(*data-area***)**
この端末を対象に処理された SEND MAP コマンドの MAPSET オプションで最後に参照されたマップ・セットの 8 文字の名前を返します。最新の要求で MAPSET オプションが指定されなかった場合、BMS はマップ名をマップ・セット名として使用します。いずれにしても、使用されるマップ・セット名には端末接尾部または代替接尾部を後ろに付けることができます。この端末が代理である場合は、この端末が代理装置として表された端末専有領域または別の AOR で最後に使用されたマップ・セットがマップ・セット名になることがあります。端末が BMS でサポートされない場合、例えばこの端末がセッションである場合や、使用されているマップ・セットの記録が CICS にない場合、返される値はブランクになります。

MODENAME(*data-area*) (APPC のみ)
照会するセッションが属しているセッション・グループの 8 文字の名前を返します (SESSIONS 定義の LOGMODE オプションから)。 MODENAME は APPC 論理装置にのみ適用されます。その他のタイプでは、返される値はブランクになります。

MSRCONTROLST(*cvda*)
端末が磁気スロット読取装置を備えているかどうかを示す CVDA 値を返します。この機能は、8775 および 3643 端末でのみ使用可能です。 CVDA 値は次のとおりです。

MSRCONTROL
端末は磁気スロット読取装置を備えています。

NOMSRCONTROL
端末には磁気スロット読取装置がありません。

NATLANG(*data-area*)
端末定義で指定された各国語を示す 1 文字の値を返します。この値をコマンドで変更することはできません。また、端末で現在使用中の各国語と必ずしも同じではありません。現在の言語を判別するには、**ASSIGN** コマンドの NATLANGINUSE オプションを参照してください。可能な値を各国語コードにリストします。ブランクは、値が指定されていないことを意味します。

NATURE(*cvda*)
端末定義の性質を示す CVDA 値を返します。 CVDA 値は次のとおりです。

MODEL
リモート端末定義。別の CICS 領域によって所有されている端末を表します。現在は代理への拡張は行われていません。

REMSESSION
リモート・セッション。

SESSION
セッション

SURROGATE
リモート端末定義。別の CICS 領域によって所有されている端末を表します。代理への拡張が行われています。

TERMINAL
物理端末定義。

NETNAME(*data-area*)
照会する端末の 8 文字のネットワーク名を返します。

物理端末の場合、この名前は z/OS Communications Server が認識しているこの端末の名前です。ISC セッションの場合、並列セッションがあるときに z/OS Communications Server が識別するセッションまたはセッション・グループの名前です。MRO セッションの場合、領域間通信プログラムにログオンするために接続済み領域によって使用される名前です。リモート端末の場合、リモート領域で z/OS Communications Server が認識している端末の名前です。

ネット名が z/OS Communications Server LU 別名である場合は、常に実ネット名を含んでいる NQNAME のネット名コンポーネントとは異なります。

上記の説明は、**INQUIRE TERMINAL** コマンドの NETNAME オプションに適用されます。**INQUIRE NETNAME** コマンドでは、NETNAME と TERMINAL の役割が逆になります。NETNAME は、情報を返すためのものではなく、CICS に照会する端末またはセッションの名前を指定するためのもので、TERMINAL は (使用した場合) 対応する端末 ID を返します。INQUIRE NETNAMEの説明を参照してください。

NEXTTRANSID(*data-area***)**
この端末からの次の非送信請求入力を処理するために実行されるトランザクションの 4 文字の ID を返します。この値は、TERMINAL または SESSIONS 定義内の TRANSACTION 値からのものです (値が指定されている場合)。値が指定されていない場合、この端末が基本機能である前のタスクによって (その最後の RETURN コマンドの TRANSID オプションで) 設定されています。そのタスクが値を指定しなかった場合、またはアクティブ・タスクがこの端末を基本機能として持っている場合は、ブランクになります。

NQNAME(*data-area***)**
ログオン時に z/OS Communications Server から NQNAME を受信した端末の 17 文字のネットワーク修飾名を返します。

この名前は、ローカル端末にのみ適用されます。リモート端末にはネットワーク修飾名がありません。

z/OS Communications Server 提供の NQNAME の場合、自動インストールされたリソースと RDO で定義されたリソースの両方について、問題判別のためだけにサポートされる NQNAME が返されます。ただし、RDO で定義されたリソースの場合はカタログされないので、そのリソースが再度ログオンするまでは再始動時に使用できません。

リソースが非 z/OS Communications Server またはリモート端末の場合、NQNAME はブランクになります。リソースが z/OS Communications Server リソースであってもまだ NQNAME を受け取っていない場合、CICS は既知のネット名を返します。

OBFORMATST(*cvda***)**
この端末で外部フォーマットを使用できるかどうかを示す CVDA 値を返します。 CVDA 値は次のとおりです。

NOOBFORMAT
この端末は外部フォーマットをサポートしません。

OBFORMAT
この端末は外部フォーマットをサポートします。

OBOPERIDST(*cvda***)**
CICS がこの端末で BMS ルーティング機能をサポートするために外部オペレーター ID を使用するかどうかを示す CVDA 値を返します。このオプションは、3790 および 3770 バッチ・データ交換論理装置にのみ適用されます。CVDA 値は次のとおりです。

NOOBOPERID
CICS は外部オペレーター ID を使用しません。

OBOPERID
CICS は外部オペレーター ID を使用します。

OPERID(*data-area***)**
端末でサインオンしたユーザーの 3 文字のオペレーター識別コードを返します。

端末が代理端末である場合、この値は現在のものではない可能性があります。つまり、この値は所有 CICS 領域からこの端末に端末定義がシップされた時点でサインオンしたユーザーを表しており、そのユーザーは既にサインオフしている場合があります。OPERID は、**SET TERMINAL** コマンドで変更された場合も、現在サインオンしているユーザーのものとは異なる可能性があります。

OUTLINEST(*cvda***)**
端末が 3270 フィールド・アウトライン機能を備えているかどうかを示す CVDA 値を返します。 CVDA 値は次のとおりです。

NOOUTLINE
端末はフィールド・アウトラインをサポートしません。モデル端末の場合は、常にこの値が返されます。

OUTLINE
端末はフィールド・アウトラインをサポートします。

PAGEHT(*data-area***)**
端末の現在のページ・サイズの高さを行数で示すハーフワード・バイナリー・フィールドを返します。 DEFPAGEHT および ALTPAGEHT オプションを参照してください。

PAGESTATUS(*cvda***)**
後処置が PAGING である BMS メッセージのページを端末に送信する方法を示す CVDA 値を返します。 CVDA 値は次のとおりです。

AUTOPAGEABLE
ページは自動的に順に書き込まれます。

PAGEABLE
ページはオペレーターからの要求に応じて書き込まれます。

PAGEWD(*cvda***)**
端末の現在のページ・サイズの幅を文字数で示すハーフワード・バイナリー・フィールドを返します。 DEFPAGEWD および ALTPAGEWD オプションも参照してください。

PARTITIONSST(*cvda***)**
端末が区画をサポートするかどうかを示す CVDA 値を返します。 CVDA 値は次のとおりです。

NOPARTITIONS
端末は区画をサポートしません。

PARTITIONS
端末は区画をサポートします。

PRINTADAPTST(*cvda***)**
端末がプリンター・アダプター機能を備えているかどうかを示す CVDA 値を返します。 CVDA 値は次のとおりです。

NOPRINTADAPT
端末にはプリンター・アダプターがありません。

PRINTADAPT
端末はプリンター・アダプターを備えています。

PRINTER(*data-area*)
この端末のタスクでの印刷キー要求および ISSUE PRINT コマンド用の優先プリンターの 4 文字の名前を返します。使用可能であればこのプリンターが使用されます。使用不可の場合は、ALTPRINTER オプションで指定されたプリンターが第 2 のプリンターとして選択されます。

PROGSYMBOLST(*cvda*)
端末が複数の文字セットを使用することを可能にする 3270 プログラム式シンボル機能を端末がサポートするかどうかを示す CVDA 値を返します。 CVDA 値は次のとおりです。

NOPROGSYMBOL
端末はプログラマブル・シンボルをサポートしません。

PROGSYMBOL
端末はプログラマブル・シンボルをサポートします。

PRTCOPYST(*cvda*)
PRINTER オプションで指定されたプリンターに対する印刷要求を満たすために CICS がハードウェア・コピー機能を使用するかどうかを示す CVDA 値を返します。CVDA 値は次のとおりです。

NOPRTCOPY
CICS はハードウェア・コピー機能を使用しません。

NOTAPPLIC
端末は z/OS Communications Server 端末ではないか、あるいはリモート端末、代理端末、またはモデル定義です。

PRTCOPY
CICS はハードウェア・コピー機能を使用します。

QUERYST(*cvda*)
端末の特性を判別するために CICS が QUERY 構造化フィールドを使用するかどうか、およびいつ使用するかを示す CVDA 値を返します。CVDA 値は次のとおりです。

ALLQUERY
端末は接続されるたびに照会されます。

COLDQUERY
端末は、CICS の初期始動またはコールド・スタート後に最初に接続されたときだけ照会されます。装置特性は、その後のウォーム・スタートおよび緊急時始動の際に使用できるようグローバル・カタログに保管されます。

NOQUERY
端末は照会されません。

RELREQST(*cvda*) (z/OS Communications Server のみ)
z/OS Communications Server からの端末またはセッションの解放要求を CICS が受け入れるかどうかを示す CVDA 値を返します。CVDA 値は次のとおりです。

NORELREQ
CICS は論理装置を解放できないか、またはアクセス方式が z/OS Communications Server ではありません。

RELREQ
CICS は論理装置を解放できます。

NOTAPPLIC
このオプションは、この端末には適用されません。

REMOTENAME(*data-area***)**
この端末が定義されているリモート CICS 領域におけるこの端末の 4 文字の名前を返します。REMOTENAME は、リモートと定義された端末にのみ適用されます。その他の場合、返される値はブランクになります。

REMOTESYSNET(*data-area***)**
この照会の対象がリモート端末である場合に、所有 TOR の 8 文字のネット名を返します。端末がリモートでもブランクが返される場合は、REMOTESYSTEM フィールドで指定されたシステムがインストールされておらず、端末を定義したときに REMOTESYSNET オプションの値が指定されていません。

REMOTESYSTEM(*data-area***)**
照会の対象がリモート端末である場合に、接続の最初の 4 文字を返します。示される接続は、TOR へ向かってリンクする接続エントリーの場合と、TOR のネット名を提供する間接接続の場合があります。

その他の場合、このフィールドはブランクになります。

SCRNHT(*data-area***) (または SCREENHEIGHT)**
現在の画面サイズの高さを行数で示すハーフワード・バイナリー・フィールドを返します。 DEFSCRNHT および ALTSCRNHT オプションも参照してください。

SCRNHT は、以前のリリースの CICS の SCREENHEIGHT オプションと同義語です。互換性のために、CICS は SCREENHEIGHT を等価と認識します。

SCRNWD(*data-area***) (または SCREENWIDTH)**
端末画面の現在の幅を文字数で示すハーフワード・バイナリー・フィールドを返します。 DEFSCRNWD および ALTSCRNWD オプションを参照してください。

SCRNWD は、以前のリリースの CICS の SCREENWIDTH オプションと同義語です。互換性のために、CICS は SCREENWIDTH を等価と認識します。

SECURITY(*cvda***)**
端末にセキュリティーが事前設定されているかどうかを示す CVDA 値を返します。つまり、端末に永続的にサインオンできるように TERMINAL または SESSIONS 定義で USERID 値が指定されているかどうかを示します。 CVDA 値は次のとおりです。

NOPRESETSEC
端末にはセキュリティーが事前設定されていません。

PRESETSEC
端末にはセキュリティーが事前設定されています。

SERVSTATUS(*cvda*)
ローカル CICS システムの立場から見て端末を使用できるかどうかを示す CVDA 値を返します。これは、端末を所有するシステムから見た場合とでは異なる場合があります。SERVSTATUS は、TERMINAL 定義での INSERVICE オプションに相当します。 z/OS Communications Server 端末の場合、「使用可能」(INSERVICE) は端末が獲得されていることを必ずしも意味するわけではありません。CVDA 値は次のとおりです。

GOINGOUT
端末は現在の何らかの作業が完了するとすぐに OUTSERVICE 状況になるので、新しいタスクでは使用できません。

INSERVICE
端末は使用可能です。

OUTSERVICE
端末は使用不可です。

SESSIONTYPE(*cvda*)
照会するセッションのタイプを示す CVDA 値を返します。このオプションは z/OS Communications Server セッションにのみ適用されます。CVDA 値は次のとおりです。

APPCPARALLEL
並列 APPC セッション・グループ。

APPCSINGLE
単一 APPC セッション。

LU61 LUTYPE6.1 セッション。

NOTAPPLIC
端末は上記のいずれでもありません。

SIGNONSTATUS(*cvda*)
端末に現在ユーザーがサインオンしているかどうかを示す CVDA 値を返します。 CVDA 値は次のとおりです。

SIGNEDOFF
端末にサインオンしているユーザーはいません。

SIGNEDON
端末にユーザーがサインオンしています。

SOSIST(*cvda*)
端末が EBCDIC と 2 バイト文字セット (DBCS) の混合フィールドをサポートするかどうかを示す CVDA 値を返します。 CVDA 値は次のとおりです。

NOSOSI
端末は混合フィールドをサポートしません。

SOSI 端末は混合フィールドをサポートします。

TASKID(*data-area*)
この端末で現在実行中のユーザー・タスクの数を示すフルワード・バイナリー・フィールドを返します。端末を使用しているタスクがない場合は、ゼロが返されます。

TCAMCONTROL(*data-area*)
廃止。TCAM 端末はサポートされていません。

TERMINAL(*data-value*)
INQUIRE TERMINAL コマンドで照会する端末またはセッションの 4 文字の名前を指定します。 **INQUIRE NETNAME** コマンドでは、このオプションは、指定された NETNAME 値に対応する端末 ID を返します。 NETNAME オプションおよびこのコマンドの一般情報を参照してください。

TERMMODEL(*data-area*)
端末型式番号を示すハーフワード・バイナリー・フィールドを返します。

TERMPRIORITY(*data-area*)
端末の優先順位を示すフルワード・バイナリー・フィールドを返します。他の端末との相対優先順位が 0 から 255 の範囲で示されます。

TERMSTATUS(*cvda*) (z/OS Communications Server のみ)
CICS がこの端末が表す論理装置とセッション中かどうかを示す CVDA 値を返します。CVDA 値は次のとおりです。

ACQUIRED
CICS はこの論理装置とセッション中です。

ACQUIRING
セッションが獲得されているところです。

NOTAPPLIC
端末は z/OS Communications Server 端末ではありません。

RELEASED
CICS はこの論理装置とセッション中ではありません。

RELEASING
セッションが解放されているところです。

TEXTKYBDST(*cvda*)
端末が 3270 テキスト・キーボード機能を備えているかどうかを示す CVDA 値を返します。CVDA 値は次のとおりです。

NOTEXTKYBD
端末にはテキスト・キーボード機能がありません。

TEXTKYBD
端末はテキスト・キーボード機能を備えています。

TEXTPRINTST(*cvda*)
端末に 3288 テキスト印刷機能があるかどうかを示す CVDA 値を返します。CVDA 値は次のとおりです。

NOTEXTPRINT
端末にはテキスト印刷機能がありません。

TEXTPRINT
端末はテキスト印刷機能があります。

TNADDR(*data-area*)
TN3270 クライアントの IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレスを 39 文字の領域に返します。TNIPFAMILY が NOTAPPLIC を返した場合、TNADDR はブランクを返します。

TNIPFAMILY(*cvda*)
TNADDR オプションのアドレス・フォーマットを返します。CVDA 値は以下のとおりです。

NOTAPPLIC
この値は次の状態のいずれかを示します。

- 端末が 3270 装置ではありません。
- TNADDR は使用されません。
- アドレスを解決できません。

IPV4 TNADDR オプションには IPv4 ドット 10 進アドレスが入っています。

IPV6 TNADDR オプションには IPv6 コロン 16 進アドレスが入っています。

TNPORT(*data-area*)
TN3270 クライアント接続に使用されているポート番号を含むフルワード・バイナリー値を返します。端末が 3270 装置でない場合、TNPORT はゼロを返します。

TRACING(*cvda*)
この端末に定義されたトレースのタイプを示す CVDA 値を返します。 CVDA 値は次のとおりです。

SPECTRACE
特殊トレースが指定されています。

STANTRACE
標準トレースが指定されています。

この端末が基本機能であるタスクの場合、標準トレースか特殊トレースかあるいはトレースが抑制されるかどうかを判別するには、この値とタスクが実行するトランザクションの TRACING オプション値を組み合わせます。

トランザクションの TRACING 値が SUPPRESSED の場合、トレースは行われません。それ以外の場合、端末かトランザクションのどちらかが SPECTRACE を指定していれば特殊トレースが行われ、両方とも STANTRACE を指定していれば標準トレースが行われます。

TRACING 値の STANTRACE は、端末が定義されるときに割り当てられます。 SPECTRACE は、SET TERMINAL コマンドまたは CICS 提供の CETR トランザクションでのみ指定できます。

TRANSACTION(*data-area*)
この端末を基本機能とするタスクが実行中のトランザクションの 4 文字の ID を返します。端末でタスクが現在実行されていない場合は、ブランクが返されます。

TTISTATUS(*cvda*)
非送信請求入力を入力することによってこの端末がタスクを開始できるかどうかを示す CVDA 値を返します。 CVDA 値は次のとおりです。

NOTTI
この端末はトランザクションを開始できません。

TTI この端末はトランザクションを開始できます。

UCTRANST(*cvda*)
この端末からの入力が受信時に自動的に大文字に変換されるかどうかを示す CVDA 値を返します。変換を抑制することができます。ただし、会話型タスクで RECEIVE または CONVERSE ASIS コマンドで入力が送信請求された場合だけです。この値は、端末に関連付けられた TYPETERM 定義の UCTRAN オプションからのものです。 PROFILE 定義にも UCTRAN オプションがありますが、その値はここでは関係ありません。 CVDA 値は次のとおりです。

NOUCTRAN
この端末からの入力は、受信時に大文字に変換されません。ただし、実行中のトランザクションの PROFILE 定義で変換が指定されていれば、RECEIVE を発行するタスクへの提出の前に変換されます。端末の UCTRAN オプションとトランザクション・プロファイルの UCTRAN オプションの相互作用については、SET TERMINAL の UCTRAN パラメーターの効果についての説明を参照してください。

TRANIDONLY
この値は NOUCTRAN と同じですが、1 つだけ違いがあります。入力が非送信請求のものであり、CICS は実行するトランザクションを入力の先頭文字を使用して決定する必要がある場合、その決定は大文字に変換された入力のコピーから行われます。タスクに提出されるデータは、両方とも同じです。

UCTRAN
入力は受信時に大文字に変換されます。 PROFILE の変換オプションの影響は受けません。

USERAREA(*ptr-ref*)
この端末の端末管理テーブル・ユーザー域 (TCTUA) のアドレスを返します。TCTUA がない場合、返されるアドレスは X'FF000000' になります。

USERAREALEN(*data-area*)
ユーザー域の長さを示すハーフワード・バイナリー・フィールドを返します。ユーザー域がない場合はゼロが返されます。

USERID(*data-area*)
この端末またはセッションでサインオンしているユーザーの 8 文字の ID を返します。

サインオンしているユーザーがいない場合は、DFLTUSER システム初期設定パラメーターで指定されているデフォルトのユーザー ID が返されます。

USERNAME(*data-area*)
この端末またはセッションでサインオンしているユーザーの 20 文字の名前、つまり USERID オプション値に対応する名前を返します。外部セキュリティー・

マネージャーから提供される情報が 20 バイトよりも短い場合、CICS は末尾ブランクを埋め込んで 20 バイトにします。サインオンしているユーザーがいない場合は、ブランクが返されます。

VALIDATIONST(*cvda*)
通常の 3270 機能に加えて、この装置にキーボード入力の特殊処理の要求を可能にする拡張妥当性検査機能があるかどうかを示す CVDA 値を返します。この機能は、8775 および 3290 端末でのみ使用可能です。 CVDA 値は次のとおりです。

NOVALIDATION
端末には拡張妥当性検査機能がないか、端末はモデル端末です。

VALIDATION
端末に拡張妥当性検査機能があります。

VFORMST(*cvda*)
端末が垂直フォーム機能を備えているかどうかを示す CVDA 値を返します。文書を出力用に書式設定するときに垂直タブを使用するには、垂直フォーム機能が必要です。 CVDA 値は次のとおりです。

NOVFORM
装置には垂直フォーム機能がありません。

VFORM
端末に垂直フォーム機能があります。

ZCPTRACING(*cvda*) (z/OS Communications Server のみ)
z/OS Communications Server 端末の CICS トレースがオンのときにこの端末がトレースされるかどうかを示す CVDA 値を返します。CVDA 値は次のとおりです。

NOTAPPLIC
端末は z/OS Communications Server 端末ではないか、あるいは代理端末またはモデル定義です。

NOZCPTRACE
端末はトレースされません。

ZCPTRACE
端末はトレースされます。

条件

END
RESP2 値は以下のとおりです。

2 このタイプのリソース定義はありません。

ILLOGIC
RESP2 値は以下のとおりです。

1 このリソース・タイプのブラウズが既に実行されているときに START コマンドが出されたか、もしくは、このリソース・タイプのブラウズが実行されていないときに NEXT または END コマンドが出された。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

TERMIDERR

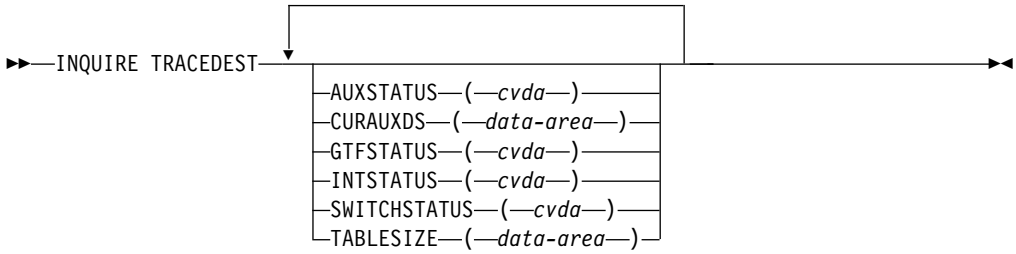
RESP2 値は以下のとおりです。

1 指定された端末が見つかりません。

INQUIRE TRACEDEST

トレースに関する情報を取得します。

INQUIRE TRACEDEST



条件: NOTAUTH

このコマンドはスレッド・セーフです。

CVDA の使用について詳しくは、CICS-value data areas (CVDAs)を参照してください。

説明

INQUIRE TRACEDEST コマンドは、CICS トレース項目が現在書き込まれている場所を通知します。可能な宛先には、CICS 内部トレース・テーブル、補助トレース・データ・セット、および MVS 汎用トレース機能 (GTF) の 3 つがあり、任意の組み合わせで使用できます。トレース項目の数とタイプは、INQUIRE TRACEFLAG コマンドと INQUIRE TRACETYPE コマンドで判別できるスイッチ設定によって制御されます。

オプション

AUXSTATUS(*cvda*)

補助トレースがアクティブかどうか、つまり補助トレース・データ・セットにトレース項目が書き込まれるかどうかを示す CVDA 値を戻します。CVDA 値は次のとおりです。

AUXPAUSE

補助トレースは現在アクティブではありませんが、現在の CICS の実行で以前はアクティブでした。SET TRACEDEST AUXPAUSE コマンド (または同等の CEMT コマンド) を使用して一時停止されました。現在の補助トレース・データ・セットはオープンしたままで、以後 SET TRACEDEST AUXSTART コマンドを実行すると、トレース項目は、AUXPAUSE 要求の前に書き込まれた項目の直後に書き込まれます。

AUXSTART
補助トレースはアクティブです。

AUXSTOP
補助トレースはアクティブではありません (現行トレース・データ・セットがある場合はクローズされます)。

CURAUXDS(*data-area***)**
現在の補助トレース・データ・セットの 1 文字の ID (「A」、「B」、またはブランク) を戻します。

CICS システムが補助トレースを許可するように初期設定される場合、1 つの補助トレース・データ・セット (「A」データ・セットと呼ばれる) または 2 つ (「A」および「B」) があります。補助トレースがオンである場合、「現行」または「アクティブ」なデータ・セットがトレース項目を受け取ります。もう一方 (2 つある場合) は、現行のデータ・セットが満杯になったときに使用するためのスタンバイです (SWITCHSTATUS オプションを参照)。補助トレース・データ・セットがない場合、CURAUXDS 値はブランクです。

GTFSTATUS(*cvda***)**
GTF トレースがアクティブかどうか、つまり CICS がトレース項目を MVS 汎用トレース機能 (GTF) に送るかどうかを示す CVDA 値を戻します。CVDA 値は次のとおりです。

GTFSTART
GTF トレースはアクティブです。

GTFSTOP
GTF トレースはアクティブではありません。

注: GTF でトレース項目を記録するには、CICS は、GTF サポート (GTFTR システム初期設定オプション) で初期設定されなければなりません。GTF トレースは、(SET TRACEDEST GTFSTART コマンドまたはそれと同等な機能を使用して) 開始されなければなりません。また、GTF トレースは、TRACE=USR オプションを指定して MVS で開始されなければなりません。最初の 2 つの条件のいずれかが満たされない場合、 GTFSTATUS は GTFSTOP になります。ただし、3 番目の条件がない場合、GTFSTATUS は GTFSTART になります。この場合、GTF に項目は書き込まれませんが、他のエラー表示はありません。

INTSTATUS(*cvda***)**
内部トレースがアクティブであるかどうか、つまりトレース項目が内部トレース・テーブルに書き込まれるかどうかを示す CVDA 値を戻します。CVDA 値は次のとおりです。

INTSTART
内部トレースがオンです。

INTSTOP
内部トレースはオフです。

注: 例外トレース項目は、INTSTATUS 値に関係なく、常に内部トレース・テーブルに書き込まれます。

SWITCHSTATUS(*cvda***)**
アクティブな補助トレース・データ・セットが満杯になったときに、CICS が実

行するアクションを示す CVDA 値を戻します。データ・セットが 2 つある場合、満杯になったときに CICS はこれらのデータ・セットを自動的に切り替えることができます。切り替えには、現行アクティブ・データ・セットのクローズ、スタンバイの開始、およびアクティブとスタンバイの指定の逆転が必要です。自動的に切り替えないと、補助トレースは停止し、SET TRACEDEST コマンドか同等の CEMT コマンドを実行しないと再開できません。

CVDA 値は次のとおりです。

NOSWITCH
CICS は、何もアクションを実行しません。

SWITCHALL
CICS は現行データ・セットが満杯になるたびにデータ・セットを切り替えます。

SWITCHNEXT
CICS は現行データ・セットが満杯になると 1 回だけデータ・セットを切り替えます。その後、NOSWITCH が有効になります。

TABLESIZE(*data-area***)**
内部トレース・テーブルのサイズ (キロバイト単位) を示すフルワード・バイナリー・フィールドを戻します。

条件

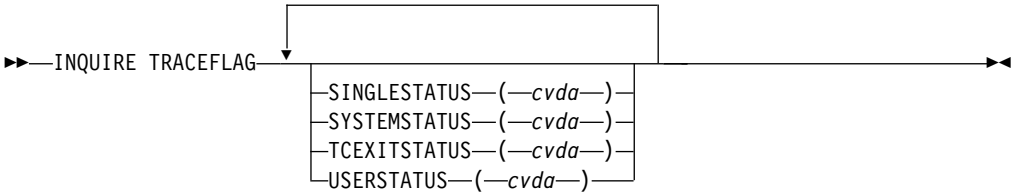
NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

INQUIRE TRACEFLAG

トレース・フラグに関する情報を取得します。

INQUIRE TRACEFLAG



条件: NOTAUTH

このコマンドはスレッド・セーフです。

CVDA の使用について詳しくは、CICS-value data areas (CVDAs)を参照してください。

説明

INQUIRE TRACEFLAG コマンドは、一般的に、および具体的にコマンドを発行したタスクについて、CICS でトレースを制御するフラグの現在の設定を戻します。

トレース機能と制御について詳しくは、CICS トレースの使用で説明されています。

オプション

SINGLESTATUS(*cvda*)
この INQUIRE TRACEFLAG コマンドを発行したタスクに対してトレースをオンにするか、抑止するかを示す CVDA 値を戻します。マスター・トレース・フラグの設定にかかわらず、このフラグがオフである場合、タスクに対して例外以外のトレース項目は作成されません (例外トレース項目は常に 記録されます)。

SINGLESTATUS 値は、タスクが実行している TRANSACTION の定義で TRACE オプションから得られます。ただし、CICS 提供の CETR トランザクションにより、トランザクションに対して、または基本装置である端末に対して別の値が指定されている場合を除きます。タスクが進行中である場合、その SINGLESTATUS 値も、SET TRACEFLAG コマンドで変更できます。

CVDA 値は次のとおりです。

SINGLEOFF
トレースは抑止されます。

SINGLEON
トレースは許可されます。

SYSTEMSTATUS(*cvda*)
システムのマスター・トレース・フラグの状況を示す CVDA 値を戻します。このフラグは、CICS が標準トレース項目を作成するか、抑止するかを制御します (特殊なトレース項目や例外トレース項目には影響を与えません)。これは、すべてのタスクおよびすべてのシステム・アクティビティーに適用されます。ただし、特定のタスクについてこのようなトレース項目を記録するには、そのタスクのシステム・マスター・フラグと SINGLESTATUS フラグの両方をオンにする必要があります。

CVDA 値は次のとおりです。

SYSTEMOFF
標準トレースが抑止されます。

SYSTEMON
標準トレースがアクティブです。

TCEXITSTATUS(*cvda*) (z/OS Communications Server のみ)
CICS z/OS Communications Server 出口の呼び出しをトレースすることを示す CVDA 値を戻します。

2 つのタイプの出口アクティビティーをトレースできます。すなわち、z/OS Communications Server 出口トレースに指定された特定の端末に関連付けられた呼び出し (「端末固有」アクティビティー) と、特定の端末に関連しない呼び出し (「非端末固有」アクティビティー) です。

CVDA 値は次のとおりです。

NOTAPPLIC
z/OS Communications Server がシステムにインストールされていません。

TCEXITALL
すべての出口アクティビティーがトレースされます。

TCEXITNONE
出口アクティビティーはトレースされません。

TCEXITSYSTEM
非端末固有アクティビティーがトレースされますが、端末固有アクティビティーはトレースされません。

USERSTATUS(*cvda*)
ユーザーのマスター・トレース・フラグの状況を示す CVDA 値を戻します。このフラグは、例外以外のユーザー・トレース項目を記録するか、抑止するかを決定します (EXCEPTION オプションを指定する項目は抑止されることはありません)。これは、すべてのタスクに適用されます。ただし、特定のタスクについてこのような項目を記録するには、そのタスクのユーザー・マスター・トレース・フラグと SINGLESTATUS フラグの両方をオンにする必要があります。CVDA 値は次のとおりです。

USEROFF
ユーザー・トレースが抑止されます。

USERON
ユーザー・トレースが許可されます。

条件

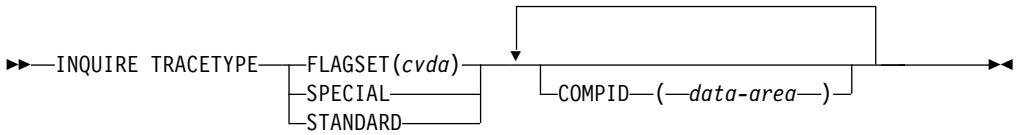
NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

INQUIRE TRACETYPE

CICS システム・トレースに関する情報を取得します。

INQUIRE TRACETYPE



条件: INVREQ、NOTAUTH、NOTFND

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

INQUIRE TRACETYPE コマンドは、特定の CICS システム・コンポーネントに関する現在有効なトレースのレベルを示します。

各 CICS コンポーネントには、標準の CICS トレースと特別なトレースのそれぞれに、トレース・レベルが定義されていますこれらの用語の定義と、CICS トレースに関する一般的な情報については、CICS トレースの使用を参照してください。
INQUIRE TRACETYPE コマンドで、任意の数のコンポーネントについて、どちらのタイプでも問い合わせることができますが、コマンド当たりの問い合わせることができるタイプは 1 つだけです。

指定するコンポーネントごとに、トレース・レベルをビット・ストリングとして定義します。このビットは左から右に読みます。つまり、先頭のビットはトレース・レベル 1 に対応し、2 番目のビットはトレース・レベル 2 に対応し、以後も同様です。値 1 はトレース・レベルをオンにします。また 0 はオフにします。

```
1... ....    X'80'    Trace level 1
.1.. ....    X'40'    Trace level 2
11.. ....    X'C0'    Trace Level (1,2)
```

例えば、X'C0000000' はトレース・レベル 1 と 2 をオンにして、他のレベルをすべてオフにします。

オプション

COMPID(*data-area*)

COMPID によって識別される CICS コンポーネントのトレース・レベルを、前述の形式で戻します。

CICS コンポーネントは、2 文字の ID によって識別されますが、記述キーワードによって識別される場合もあります。例えば、CICS のディレクトリー・マネージャー・コンポーネントのトレース・レベルを判別するには、以下のいずれかを指定できます。

```
INQUIRE TRACETYPE DD(data-area)
```

または

```
INQUIRE TRACETYPE DIRMGR(data-area)
```

以下のリストは、すべての 2 文字の ID と、キーワードがあるコンポーネントのキーワードを示します。

ID	キーワード	アプリケーション
AP	APPLICATION	アプリケーション
AS	ASYNCSERVICE	非同期サービス
BA	BUSAPPMGR	ビジネス・アプリケーション・マネージャー
BM*		基本マッピング・サポート
BR*	BRIDGE	3270 ブリッジ
CP*	CPI	共通プログラミング・インターフェース
DC*		ダンプ管理
DD	DIRMGR	ディレクトリー・マネージャー
DH	DOCUMENT	文書処理
DM	DOMAINMGR	ドメイン・マネージャー
DP	DEBUGTOOL	デバッグ・プロファイル・ドメイン

ID	キーワード	アプリケーション
DS	DISPATCHER	ディスパッチ・マネージャー
DU	DUMP	ダンプ・マネージャー
EC*	EVENTCAPTURE	イベント・キャプチャー
EI*		EXEC インターフェース
EJ	ENTJAVA	Enterprise Java ドメイン
EM	EVENTMGR	イベント・マネージャー
EP	EVENTPROC	イベント処理ドメイン
FC*		ファイル制御および DL/I
GC	GLOBALCATLG	CICS グローバル・カタログ・マネージャー
IC*		インターバル制御
IE	IPECI	TCP/IP 上の ECI ドメイン
IS*		システム間連絡
KC*		タスク制御
KE	KERNEL	カーネル
LC	LOCALCATLG	CICS ローカル・カタログ・マネージャー
LD	LOADER	プログラム・ロード・マネージャー
LG	LOGGER	ログ・マネージャー
LM	LOCKMGR	ロック・マネージャー
ME	MESSAGE	メッセージ・マネージャー
ML		マークアップ言語ドメイン
MN	MONITOR	モニター・マネージャー
MP	MANAGEDPLAT	管理対象プラットフォーム・ドメイン
NQ	ENQUEUE	エンキュー・ドメイン
OT	OBJECTTRAN	オブジェクト・トランザクション・サービス (OTS) ドメイン
PA	PARAMGR	パラメーター・マネージャー
PC*		プログラム制御
PG	PROGMGR	プログラム・マネージャー
PI	PIPEMGR	パイプライン・マネージャー・ドメイン
PT	PARTNER	パートナー・マネージャー
RA*	RMIADAPTERS	リソース・マネージャー・アダプター
RI*	RMI	リソース・マネージャー・インターフェース (RMI)
RL	RESLIFEMGR	リソース・ライフ・サイクル・ドメイン
RM	RECOVERY	リカバリー・マネージャー
RS	REGIONSTAT	領域の状況
RX	RRS	リソース・リカバリー・サービス
RZ	REQUESTSTRM	要求ストリーム・ドメイン
SC*		ストレージ制御
SH	SCHEDULER	BTS のスケジューラー・サービス・ドメイン
SJ	SJVM	CICS JVM ドメイン
SM	STORAGE	ストレージ・マネージャー
SO	SOCKETS	ソケット
ST	STATISTICS	統計マネージャー
SZ*		フロントエンド・プログラミング・インターフェース
TC*		端末管理
TD*		一時データ
TI	TIMER	タイマー・マネージャー
TR	TRACE	トレース・マネージャー
TS	TEMPSTORAGE	一時記憶
UE*		ユーザー出口インターフェース
US	USER	ユーザー・インターフェース
WB	WEB	Web ドメイン
WU®	WEBRESTMGR	CICS 管理クライアント・インターフェース (CMCI) ドメイン (旧称 System Management RESTful API)

ID	キーワード	アプリケーション
W2	WEB2	Web 2.0 ドメイン
XM	TRANMGR	トランザクション・マネージャー
XS	SECURITY	セキュリティー・マネージャー

FLAGSET(*cvda*)
指定されたコンポーネントの標準フラグが戻されるか、それとも特殊フラグが戻されるかを示します。CVDA 値は以下のとおりです。

SPECIAL
CICS が特殊なトレースのトレース・レベルを戻すことを示します。

STANDARD
CICS が標準的なトレースのトレース・レベルを戻すことを示します。

条件

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

1 誤った FLAGSET 値が指定されました。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

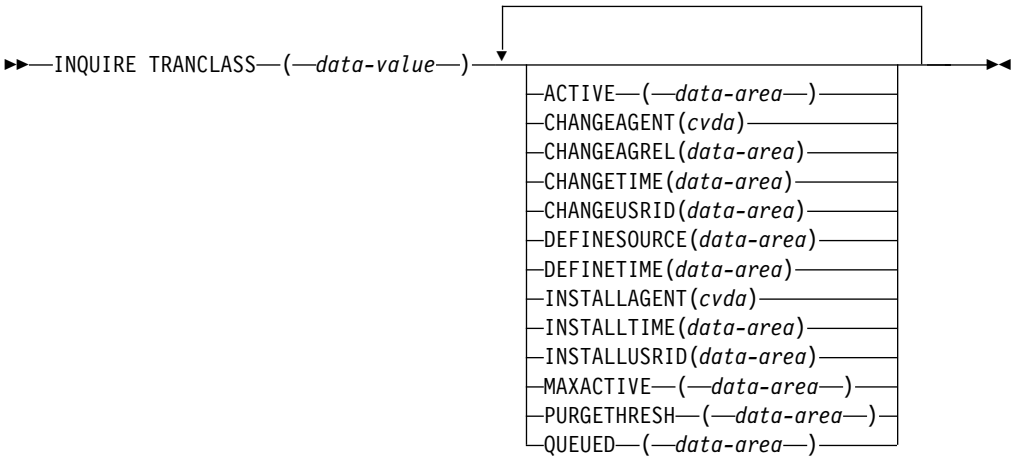
NOTFND
RESP2 値は以下のとおりです。

1 コマンドにリストされている 1 つ以上のコンポーネントをサポートせずに CICS が初期化されました。他のすべてのコンポーネントに関するトレース・レベルが戻されました。

INQUIRE TRANCLASS

トランザクション・クラスに関する情報を取得します。

INQUIRE TRANCLASS



条件: INVREQ、NOTAUTH、TCIDERR

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

INQUIRE TRANCLASS コマンドを使用すると、トランザクション・クラスに定義された制限およびクラス内の現在のアクティビティーを判別できます。

ブラウズ

INQUIRE TRANCLASS コマンドでブラウズ・オプション (START、AT、NEXT、および END) を使用することにより、システム内のすべてのトランザクション・クラスの定義をブラウズすることもできます。ブラウズ・モードでは、定義はアルファベット順で戻され、希望する場合は AT オプションを使用して開始点を指定できます。ブラウズに関する一般情報 (構文、例外条件、および例を含む) については、Browsing resource definitionsを参照してください。

リソース・シグニチャー

このコマンドを使用して、リソース・シグニチャー・フィールドを検索することができます。これらのフィールドを使用すると、リソースの定義時、インストール時、および最終変更時の詳細データを収集して、リソースを管理できます。 詳しくは、Auditing resourcesを参照してください。 リソース・シグニチャー・フィールドは BUNDLE、CHANGEAGENT、CHANGEAGREL、CHANGETIME、CHANGEUSRID、DEFINESOURCE、DEFINETIME、INSTALLAGENT、INSTALLTIME、および INSTALLUSRID です。リソース・シグニチャー・フィールドの内容について詳しくは、Summary of the resource signature field valuesを参照してください。

オプション

ACTIVE(*data-area*)
このクラス内のタスクの現在の数を示すフルワード・バイナリー・フィールドを返します。初期ディスパッチを待機してキューに入っているタスクは、このカウントに含まれません。

CHANGEAGENT(*cvda*)
リソース定義を最後に変更したエージェントを識別する CVDA 値を戻します。有効な値は、以下のとおりです。

CREATESPI
リソース定義は **EXEC CICS CREATE** コマンドによって最後に変更されました。

CSDAPI
リソース定義は、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによって最後に変更されました。

CSDBATCH
リソース定義は、DFHCSDUP ジョブによって最後に変更されました。

DREPAPI
リソース定義は、CICSPlex SM BAS API コマンドによって最後に変更されました。

CHANGEAGREL(*data-area*)
リソース定義の最終変更時に実行していた CICS リリースの 4 桁の数値を戻します。

CHANGETIME(*data-area*)
リソース定義の最終変更時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。ABSTIME 値のフォーマットについて詳しくは、FORMATTIMEを参照してください。

CHANGEUSRID(*data-area*)
変更エージェントを実行した 8 文字のユーザー ID を戻します。

DEFINESOURCE(*data-area*)
リソース定義の 8 文字のソースを戻します。DEFINESOURCE 値は CHANGEAGENT 値に依存します。詳しくは、Summary of the resource signature field valuesを参照してください。

DEFINETIME(*data-area*)
リソース定義の作成時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。

INSTALLAGENT(*cvda*)
リソースをインストールしたエージェントを識別する CVDA 値を戻します。有効な値は、以下のとおりです。

CREATESPI
リソースは、**EXEC CICS CREATE** コマンドによってインストールされました。

CSDAPI
リソースは、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによってインストールされました。

GRPLIST
リソースは、**GRPLIST INSTALL** によってインストールされました。

INSTALLTIME(*data-area*)
リソースのインストール時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。

INSTALLUSRID(*data-area*)
リソースをインストールした 8 文字のユーザー ID を戻します。

MAXACTIVE(*data-area*)
トランザクション・クラス内で同時に実行可能なタスクの最大数を示すフルワード・バイナリー・フィールドを返します。

PURGETHRESH(*data-area*)
初期ディスパッチを待機してキューに入れることのできる、このクラス内のタスクの最大数を示すフルワード・バイナリー・フィールドを返します。 QUEUED オプションを参照してください。キューが PURGETHRESH の限界にあるときに到着するこのクラスのタスクは、パージされます。

QUEUED(*data-area*)
初期ディスパッチを待機してキューに入っているタスクの数を示すフルワード・バイナリー・フィールドを返します。キューイングは、アクティブ・タスク数が既に最大値になっているか、あるいは、システムにとっても最大値に到達しているか、いずれかの理由で発生します。 INQUIRE SYSTEM コマンドの MAXTASKS オプションを参照してください。

TRANCLASS(*data-value*)
照会するトランザクション・クラスの 8 文字の名前を指定します。クラスが CICS の以前のリリースで使用されていた番号付きクラスの 1 つである場合は、クラスの名前は DFHTCL*nn* です (ここで、*nn* は 2 桁のクラス番号)。

条件

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

12 TRANCLASS 定義が使用中です。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

101 発行中のタスクに関連付けられているユーザーには、このコマンドが要求する方法でこの特定のリソースにアクセスする権限がありません。

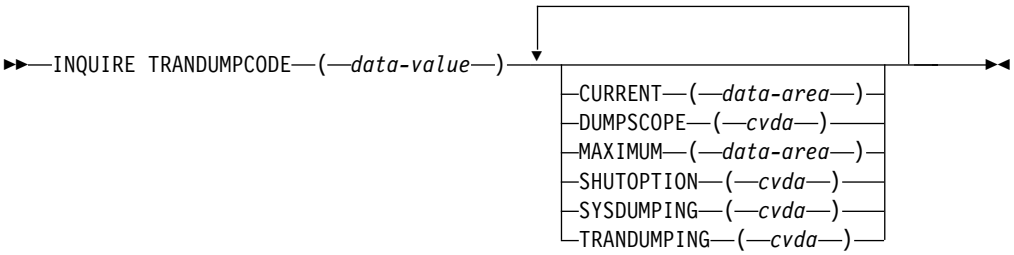
TCIDERR
RESP2 値は以下のとおりです。

1 トランザクション・クラスが見つかりません。

INQUIRE TRANDUMPCODE

トランザクション・ダンプ・コードに関する情報を取得します。

INQUIRE TRANDUMPCODE



条件: END、ILLOGIC、NOTAUTH、NOTFND

CVDA の使用について詳しくは、CICS-value data areas (CVDAs)を参照してください。

説明

INQUIRE TRANDUMPCODE コマンドを使用して、特定のトランザクション・ダンプ・コードのトランザクション・ダンプ・テーブル・エントリー内の情報の一部を表示することができます。

このテーブル・エントリーは、このコードによるトランザクション・ダンプ要求が受信されたときに取るアクションを CICS に伝えます。可能なアクションは、以下のとおりです。

- トランザクション・ダンプの生成。
- システム・ダンプの生成 (MVS SDUMP)。
- 関連した z/OS イメージへの SDUMP 要求の転送。
- CICS のシャットダウン。

また、このテーブル・エントリーはこのアクション・セットを実行する回数 (MAXIMUM オプション) も示します。最大回数に達した後に受け取る要求はカウントされます (CURRENT オプション) が、その他の場合には無視されます。

CICS は、CICS トランザクション異常終了コード (文字 A で始まるコード) のデフォルト・アクションを示すトランザクション・ダンプ・テーブルを提供します。SET TRANDUMPCODE コマンドまたは CEMT トランザクションを使用して、アクションを変更または追加できます。このような変更は、初期始動またはコールド・スタートが行われるまで、CICS の複数の実行後も保持されます。

CICS は、エントリーがないコードを使用するダンプ要求を受け取ると、デフォルト値を使用してテーブル・エントリーを作成します。SET TRANDUMPCODE コマンドまたは CEMT トランザクションを使用して独自のエントリーを追加することもできます。

追加するエントリーは、初期始動またはコールド・スタートが行われるまで、CICS の複数の実行後も残りますが、CICS が作成するエントリーは一時的とみなされ、シャットダウンで破棄されます。

したがって、ダンプ要求に表示される前に明示的に定義されていないコードを照会する場合、「not found」応答が表示されます。

有効な文字は、大文字 (A から Z)、小文字 (a から z)、数字 (0 から 9)、および特殊文字 $ @ # / % & ? ! : ¦ ; , ¢ + * ¬ - および _ です。場合によっては、設定する位置に応じて、文字 < > . = および " も有効です。小文字を入力した場合は、大文字に変換されます。

ブラウズ

INQUIRE TRANDUMPCODE コマンドでブラウズ・オプション (START、NEXT、および END) を使用することにより、トランザクション・ダンプ・テーブル内のすべてのエントリーをブラウズすることもできます。ブラウズに関する一般情報 (構文、例外条件、および例を含む) については、Browsing resource definitionsを参照してください。

オプション

CURRENT(*data-area***)**
カウントが前回リセットされて以降に行われた、このダンプ・コードによるダンプ要求の数を示す、フルワード・バイナリー・フィールドを戻します。(このカウントは CICS のシャットダウン時に自動的にリセットされます。SET SYSDUMPCODE RESET コマンドまたはそれと同等の CEMT を使用すると、明示的にリセットすることができます。) また、このカウントには、このコードに対して抑止されるか、またはこのコードの数がその最大値に達したために、ダンプが発生しない要求も含まれます。

DUMPSCOPE(*cvda***)**
このダンプ・コードによるダンプの要求が出されると、SDUMP (システム・ダンプ) 要求が関連した z/OS イメージに送信されるかどうかを示す CVDA 値を戻します。

関連したイメージとは、ダンプ要求を発生させるタスクの代わりに作業を実行する CICS 領域を含むイメージです。具体的には、ダンプの原因となったタスクと同じ APPC トークンで作業を実行するタスクを持つ領域です。

この SDUMP 要求の送信は、このコードのテーブル・エントリーがシステム・ダンプを指定している (すなわち、SYSDUMPING 値が SYSDUMP) 場合のみ、z/OS ワークロード・マネージャーを備えた MVS/ESA バージョン 5.1 以降で実行しているシスプレックス環境でのみ行われます。

CVDA 値は以下のとおりです。

LOCAL
SDUMP 要求は送信されません。

RELATED
SDUMP 要求は送信されます。

注**:** DUMPSCOPE(RELATED) を設定すると、影響を受ける z/OS イメージごとに 1 回のダンプが取られることになります。このダンプには、イメージ内の影響を受けるすべての CICS 領域からの出力が含まれます。詳しくは、関連する CICS 領域からのダンプ・データの自動取り込みを参照してください。

MAXIMUM(*data-area*)
このコードによるダンプ要求が受信されたときにトランザクション・ダンプ・テーブル・エントリーに示されている一連のアクションを CICS が取る最大回数を示すフルワード・バイナリー・フィールドを戻します。値 999 は、デフォルトの「制限なし」を意味します。

SHUTOPTION(*cvda*)
このダンプ・コードによるダンプの要求の後で CICS システムがシャットダウンされるかどうかを示す CVDA 値を戻します。CVDA 値は以下のとおりです。

NOSHUTDOWN
CICS システムはシャットダウンされません。

SHUTDOWN
CICS システムはシャットダウンされます。

SYSDUMPING(*cvda*)
このコードによるトランザクション・ダンプ要求が受信されたときにシステム・ダンプを取るかどうかを示す CVDA 値を戻します。ただし、ダンプ・テーブル・エントリーがシステム・ダンプを指定している場合であっても、CURRENT 値が MAXIMUM を超えない場合にのみダンプが生成され、システム・ダンプはシステム全体で抑止されません (INQUIRE SYSTEM コマンドの DUMPING オプションを参照)。CVDA 値は以下のとおりです。

NOSYSDUMP
システム・ダンプは取られません。

SYSDUMP
システム・ダンプは取られます。

TRANDUMPCODE(*data-value*)
照会する 4 文字のトランザクション・ダンプ・コードを指定します。有効なトランザクション・ダンプ・コードには、先行ブランクまたは組み込みブランクがありません。

TRANDUMPING(*cvda*)
このコードによるトランザクション・ダンプ要求が受信されたときにトランザクション・ダンプを取るかどうかを示す CVDA 値を戻します。ただし、ダンプ・テーブル・エントリーがトランザクション・ダンプを指定する場合であっても、ダンプが取られるのは、CURRENT 値が MAXIMUM を超えない場合のみです。 CVDA 値は以下のとおりです。

NOTRANDUMP
トランザクション・ダンプが抑止されます。

TRANDUMP
トランザクション・ダンプが取られます。

条件

END
RESP2 値は以下のとおりです。

2 このタイプのリソース定義はありません。

ILLOGIC

RESP2 値は以下のとおりです。

1 このリソース・タイプのブラウズが既に実行されているときに START コマンドが出されたか、もしくは、このリソース・タイプのブラウズが実行されていないときに NEXT または END コマンドが出された。

NOTAUTH

RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

NOTFND

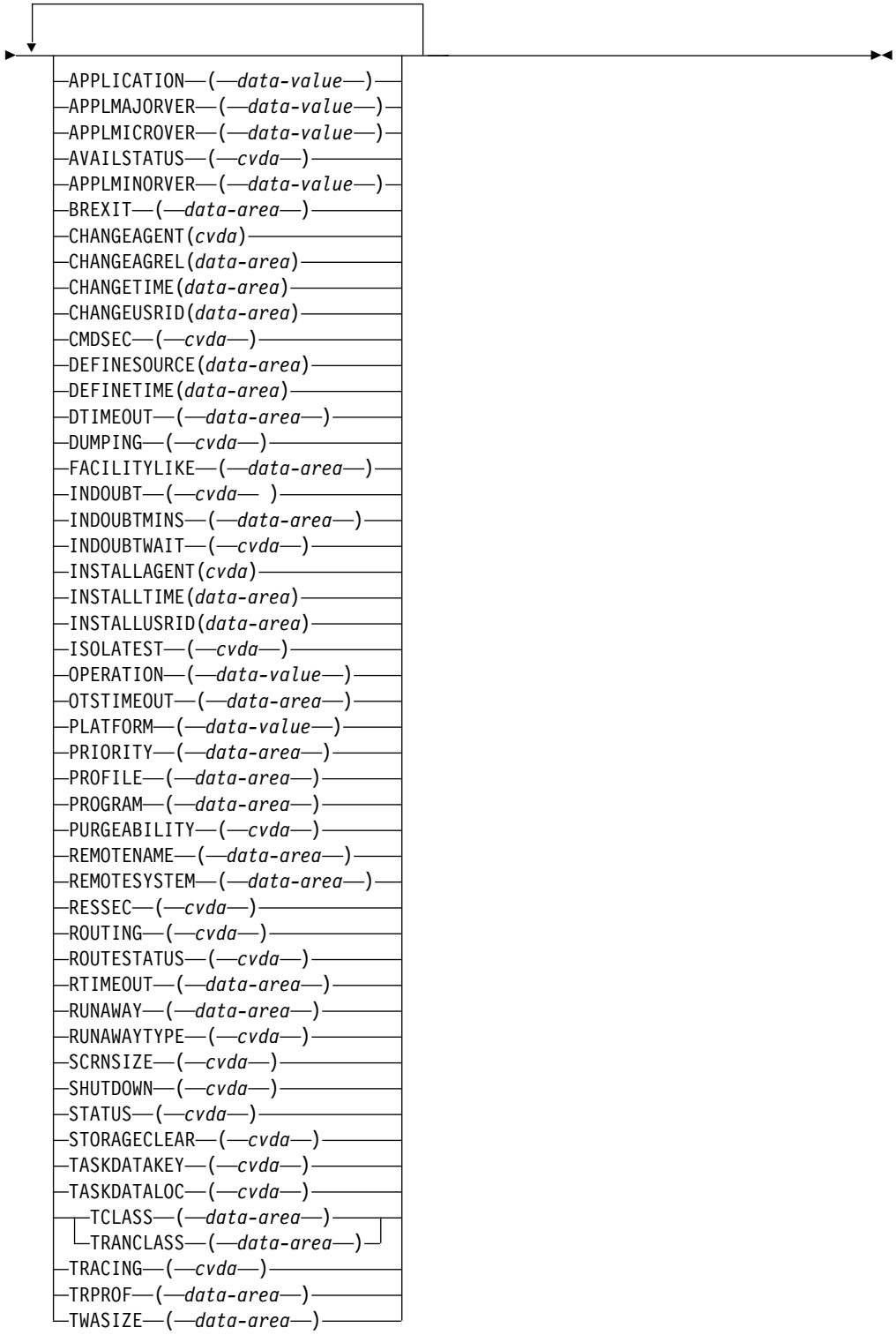
RESP2 値は以下のとおりです。

1 ダンプ・コードが見つかりません。

INQUIRE TRANSACTION

TRANSACTION 定義に関する情報を取得します。

INQUIRE TRANSACTION



条件**:** END、ILLOGIC、INVREQ、NOTAUTH、TRANSIDERR

CVDA の使用の詳細については、CICS-value data areas (CVDAs)を参照してください。

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

INQUIRE TRANSACTION コマンドは、CICS システムにインストールされている特定のトランザクションに関する情報を取り出します。

ほとんどの値は TRANSACTION リソース定義から取られますが、それが指すプロファイル定義から取られる値も少しあります。こうした値は、説明の中で注記されています。これらの 2 種類のリソースの属性について詳しくは、TRANSACTION 属性およびPROFILE 属性を参照してください。

タスクがトランザクションを実行している場合、タスクはトランザクションの定義からほとんどの特性を取得するので、INQUIRE TRANSACTION コマンドによって生成される値の多くは、INQUIRE TASK コマンドの同じ名前のオプションによって生成される値と同じです。ただし、そのコマンドの説明に述べられているとおり、タスクの値は CICS システム環境も反映します。

さらに、タスクが 1 つの CICS から別の CICS にルーティングされる場合、送信側の領域で指定されたトランザクションは、受信側の領域で実行されるものと異なる可能性があります。このため、その TRANSACTION 値について照会した場合、送信側/受信側領域で異なる結果が生成される可能性があります。実際、動的ルーティングの場合、未定義のトランザクション・コードに対するデフォルト処理が動的ルーティングであれば、送信側 CICS で指定された (INQUIRE TASK の TRANSACTION 値として示される) トランザクションが定義される必要さえありません。

ブラウズ

また、INQUIRE TRANSACTION コマンドでブラウズ・オプション START、AT、NEXT、および END を使用して、システム内のすべての TRANSACTION 定義をブラウズすることもできます。ブラウズ・モードでは、定義はアルファベット順で返され、希望する場合は AT オプションを使って開始点を指定できます。ブラウズに関する一般情報 (構文、例外条件、および例を含む) については、Browsing resource definitionsを参照してください。

リソース・シグニチャー

このコマンドを使用して、リソース・シグニチャー・フィールドを検索することができます。これらのフィールドを使用すると、リソースの定義時、インストール時、および最終変更時の詳細データを収集して、リソースを管理できます。 詳しくは、Auditing resourcesを参照してください。 リソース・シグニチャー・フィールドは BUNDLE、CHANGEAGENT、CHANGEAGREL、CHANGETIME、CHANGEUSRID、DEFINESOURCE、DEFINETIME、INSTALLAGENT、INSTALLTIME、および INSTALLUSRID です。リソース・シグニチャー・フィールドの内容について詳しくは、Summary of the resource signature field valuesを参照してください。

オプション

APPLICATION(*data-value***)**

この TRANSACTION リソースが入り口点として定義されているアプリケーションのアプリケーション名を、64 文字の領域に戻します。TRANSACTION リ

ソースがアプリケーション入り口点として定義されていない場合、APPLICATION はブランクを戻します。

APPLMAJORVER(*data-value*)
この TRANSACTION リソースが入り口点として定義されているアプリケーションのメジャー・バージョン番号を、フルワード・バイナリー形式で戻します。TRANSACTION リソースがアプリケーション入り口点として定義されていない場合、APPLMAJORVER は -1 を戻します。

APPLMICROVER(*data-value*)
この TRANSACTION リソースが入り口点として定義されているアプリケーションのマイクロ・バージョン番号を、フルワード・バイナリー形式で戻します。TRANSACTION リソースがアプリケーション入り口点として定義されていない場合、APPLMICROVER は -1 を戻します。

APPLMINORVER(*data-value*)
この TRANSACTION リソースが入り口点として定義されているアプリケーションのマイナー・バージョン番号を、フルワード・バイナリー形式で戻します。TRANSACTION リソースがアプリケーション入り口点として定義されていない場合、APPLMINORVER は -1 を戻します。

AVAILSTATUS(*cvda*)
プラットフォームにデプロイされたアプリケーションのアプリケーション入り口点としての TRANSACTION リソースの可用性状況を返します。

AVAILABLE
TRANSACTION リソースはアプリケーション入り口点として宣言されていて、アプリケーション入り口点がその可用性を制御し、かつ使用可能であるため、呼び出し元は TRANSACTION リソースを使用できます。

UNAVAILABLE
TRANSACTION リソースはアプリケーション入り口点として宣言されていますが、その可用性を制御するアプリケーション入り口点が使用不可であるため、呼び出し元は TRANSACTION リソースを使用できません。

なし　呼び出し元は TRANSACTION リソースを使用できます。TRANSACTION リソースがアプリケーション入り口点として宣言されていません。あるいは、アプリケーション入り口点として宣言されてはいますが、そのアプリケーション入り口点が使用不可になっているか、TRANSACTION リソースの可用性を制御していません。

BREXIT(*data-area*)
指定されたトランザクション・リソース定義の BREXIT パラメーターで定義されたブリッジ出口ルーチンの名前 (8 文字) を返します。

BREXIT が定義されていない場合、ブランクが返されます。

CHANGEAGENT(*cvda*)
リソース定義を最後に変更したエージェントを識別する CVDA 値を戻します。有効な値は、以下のとおりです。

CREATESPI
リソース定義は **EXEC CICS CREATE** コマンドによって最後に変更されました。

CSDAPI
リソース定義は、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによって最後に変更されました。

CSDBATCH
リソース定義は、DFHCSDUP ジョブによって最後に変更されました。

DREPAPI
リソース定義は、CICSPlex SM BAS API コマンドによって最後に変更されました。

SYSTEM
リソース定義は、CICS または CICSPlex システムによって最後に変更されました。

CHANGEAGREL(*data-area*)
リソース定義の最終変更時に実行していた CICS リリースの 4 桁の数値を戻します。

CHANGETIME(*data-area*)
リソース定義の最終変更時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。ABSTIME 値のフォーマットについて詳しくは、FORMATTIMEを参照してください。

CHANGEUSRID(*data-area*)
変更エージェントを実行した 8 文字のユーザー ID を戻します。

CMDSEC(*cvda*)
このトランザクションを実行するタスクにコマンド・セキュリティー検査を実行するかどうかを示す CVDA 値を返します。 CVDA 値は以下のとおりです。

CMDSECNO
コマンド・セキュリティー検査は実行されません。

CMDSECYES
コマンド・セキュリティー検査が実行されます。

DEFINESOURCE(*data-area*)
リソース定義の 8 文字のソースを戻します。DEFINESOURCE 値は CHANGEAGENT 値に依存します。詳しくは、Summary of the resource signature field valuesを参照してください。

DEFINETIME(*data-area*)
リソース定義の作成時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。

DTIMEOUT(*data-area*)
このトランザクションを実行しているタスクのデッドロック・タイムアウト値 (秒) を示すフルワード・バイナリー・フィールドを返します。CICS は、そのデッドロック・タイムアウト値より長い時間にわたってロックされたリソースを待機しているタスクを停止します。

DUMPING(*cvda***)**
このトランザクションを実行するタスクが異常終了した場合に CICS でトランザクション・ダンプを取るかどうかを示す CVDA 値を返します。 CVDA 値は以下のとおりです。

NOTRANDUMP
ダンプは取られません。

TRANDUMP
ダンプが取られます。

このデータ値は異常終了ダンプにのみ適用されます。 DUMP TRANSACTION コマンドには影響を与えません。

FACILITYLIKE(*data-area***)**
指定されたトランザクション・リソース定義に関連した PROFILE の FACILITYLIKE パラメーターで定義された端末の名前 (4 文字) を返します。

FACILITYLIKE が定義されていない場合、ブランクが返されます。

INDOUBT(*cvda***)**
TRANSACTIONリソース定義の ACTION 属性に基づいて CVDA 値を返します。これは、作業単位が未確定である期間に CICS 領域が失敗した場合やコーディネーターとの接続を失った場合に実行されるアクションを示します。

アクションは、INDOUBTWAIT および INDOUBTMINS オプションで返される値によって異なります。 INDOUBTWAIT が WAIT を返す場合、INDOUBTMINS で返される時間が満了するまでは、通常、アクションが行われません (この規則の例外については INDOUBTWAIT オプションを参照してください。)

CVDA 値は以下のとおりです。

BACKOUT
リカバリー可能リソースに対するすべての変更はバックアウトされます。

COMMIT
リカバリー可能リソースに対するすべての変更はコミットされ、作業単位には完了というマークが付けられます。

プログラムが廃止された DTB オプション (INDOUBT によって置き換えられました) を使用する場合、CVDA 値、NOTSUPPORTED が戻されます。

INDOUBTMINS(*data-area***)**
未確定期間中に障害が発生した後、トランザクションが INDOUBT フィールドで返されたアクションを取るまでの時間の長さ (分単位) を示すフルワード・バイナリー・フィールドを返します。戻り値は、作業単位が未確定であり、INDOUBTWAIT が WAIT を戻す場合にのみ有効です。

INDOUBTWAIT(*cvda***)**
TRANSACTION 定義の WAIT 属性に基づいて CVDA 値を返します。これは、作業単位 (UOW) が未確定状態のときに障害が発生した場合に CICS がどのように応答するかを示します。 CVDA 値は以下のとおりです。

NOWAIT
UOW は障害からのリカバリーを保留状態にして待機しません。 CICS はただちに TRANSACTION 定義の ACTION 属性で指定されたアクションを実行します。

WAIT
UOW は、障害からのリカバリーを保留状態にしながら待機して、リカバリー可能リソースをバックアウトするかコミットするかを決定します。

INDOUBTWAIT が WAIT を返す場合でも、UOW の状況によっては、CICS が即時に決定を下す (つまり、トランザクション定義の ACTION 属性で指定されたアクションをただちに実行する) 場合があります。例えば、以下のいずれかのセッションが UOW に含まれる場合に、このアクションが取られることがあります。

- 従属 LU6.1 セッション
- CICS Transaction Server for z/OS より前のシステムに対する従属 MRO セッション。

TRANSACTION 定義の ACTION 属性と WAIT 属性の意味について詳しくは、TRANSACTION 属性を参照してください。

INSTALLAGENT(*cvda*)
リソースをインストールしたエージェントを識別する CVDA 値を戻します。有効な値は、以下のとおりです。

BUNDLE
リソースは、バンドルのデプロイメントによってインストールされました。

CREATESPI
リソースは、**EXEC CICS CREATE** コマンドによってインストールされました。

CSDAPI
リソースは、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによってインストールされました。

GRPLIST
リソースは、**GRPLIST INSTALL** によってインストールされました。

SYSTEM
リソースは、CICS または CICSPlex SM システムによってインストールされました。

INSTALLTIME(*data-area*)
リソースのインストール時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。

INSTALLUSRID(*data-area*)
リソースをインストールした 8 文字のユーザー ID を戻します。

ISOLATEST(*cvda*)
システムで分離がアクティブになっている場合に、このトランザクションを実行するタスクが分離して実行されるかどうかを示す CVDA 値を返します。

分離は、タスク・ストレージに対するユーザー・キー・プログラムのアクセス (読み取りと書き込みの両方) を制限します。分離タスクの代わりにユーザー・キーで実行するプログラムは、そのタスクのみのタスク・ストレージにアクセスできます。また、このストレージには、それ以外のタスクの代わりにユーザー・キーで実行するプログラムはアクセスできません。 CICS キー・プログラムによるアクセスには、分離による影響は生じません。また、SHARED 属性を持つストレージまたはその他の非タスク・ストレージに、分離は適用されません。

タスクを分離して実行するには、システムとトランザクションの両方に関して分離をオンに設定する必要があります。 INQUIRE SYSTEM コマンドの TRANISOLATE オプションを参照してください。 CVDA 値は以下のとおりです。

ISOLATE
タスクは分離して実行されます。

NOISOLATE
タスクは分離して実行されません。

OPERATION(*data-value***)**
この TRANSACTION リソースが入り口点として定義されているアプリケーションのオペレーション名を、64 文字の領域に戻します。TRANSACTION リソースがアプリケーション入り口点として定義されていない場合、OPERATION はブランクを戻します。

OTSTIMEOUT(*data-area***)**
(この CICS トランザクションのもとで EJB 環境で作成された) OTS トランザクションを同期点の前に実行することができるデフォルト期間 (秒) を格納する、フルワード・データ域を返します。

PLATFORM(*data-value***)**
この TRANSACTION リソースが入り口点として定義されているアプリケーションのプラットフォーム名を、64 文字の領域に戻します。TRANSACTION リソースがアプリケーション入り口点として定義されていない場合、PLATFORM はブランクを戻します。

PRIORITY(*data-area***)**
CICS システム内の他のトランザクションと比較したこのトランザクションの相対的な優先度を 1 から 255 の範囲で示す、フルワード・バイナリー・フィールドを返します。

PROFILE(*data-area***)**
このトランザクションのプロファイル定義の名前 (8 文字) を返します。このプロファイルは、トランザクションを実行するタスクと、その基本機能である端末/セッションとの間の対話を管理する属性を定義します。

PROGRAM(*data-area***)**
このトランザクションを実行するタスクによって呼び出される最初のプログラムの名前 (8 文字) を返します。

PURGEABILITY(*cvda***)**
CICS がこのタスクをパージ (つまり異常終了) できるかどうかを示す CVDA 値を返します。パージ要求は SET TASK PURGE コマンド (または同等の

CEMT コマンド) から出され、CICS はそれを内部的に生成してリソースを再利用し、システム停止条件を取り除くことができます。 CVDA 値は以下のとおりです。

NOTPURGEABLE
タスクをパージできません。

PURGEABLE
タスクをパージできます。

PURGEABILITY 値は最初に、このタスクが実行している TRANSACTION の定義内にある SPURGE オプションによって設定されます。

REMOTENAME(*data-area*)
リモート・トランザクションとして定義されている場合に、このトランザクションをリモート・システムで認識する名前 (8 文字) を返します。
REMOTENAME の長さについて詳しくは、TRANSACTION 属性を参照してください。トランザクションがリモートでない場合は、ブランクが返されます。

REMOTESYSTEM(*data-area*)
リモート・トランザクションとして定義されている場合に、このトランザクションが定義されているリモート・システムの最初の 4 文字を返します。

リモート・トランザクションが DYNAMIC=YES と定義されている場合、REMOTESYSTEM オプションを省略すると、CICS はローカル領域の名前を返します。

トランザクションがリモートでない場合は、ブランクが返されます。

RESSEC(*cvda*)
このトランザクションを実行するタスクに関してリソース・レベルのセキュリティー検査を実行するかどうかを示す CVDA 値を返します。 CVDA 値は以下のとおりです。

RESSECNO
リソース・レベルの検査は実行されません。

RESSECYES
リソース・レベルの検査が実行されます。

ROUTING(*cvda*)
このトランザクションを実行するタスクが動的ルーティングの対象になるかどうかを示す CVDA 値を返します。 CVDA 値は以下のとおりです。

DYNAMIC
タスクを動的にルーティングできます。

STATIC
タスクを動的にルーティングできません。

ROUTESTATUS
トランザクションが適格な START コマンドの対象である場合に拡張ルーティング方式を使ってルーティングされるかどうかを示す CVDA 値を返します。CVDA 値は以下のとおりです。

NOTROUTABLE
トランザクションが START コマンドの対象である場合に、「従来型」の方式を使用してルーティングされます。

ROUTABLE
トランザクションが適格な START コマンドの対象である場合に、拡張方式を使用してルーティングされます。

EXEC CICS START コマンドが呼び出すトランザクションの拡張方式および「従来」の方式でのルーティングについて詳しくは、START コマンドで呼び出されたトランザクションのルーティングを参照してください。

RTIMEOUT(*data-area***)**
このトランザクションを実行しているタスクの読み取りタイムアウト値 (秒) を示すフルワード・バイナリー・フィールドを返します。タスクが読み取りタイムアウト値よりも長く入力を待機する場合、CICS はタスクを停止します。この値はプロファイル定義で定義されます (PROFILE オプションを参照)。

RUNAWAY(*data-area***)**
このトランザクションを実行しているタスクの「ランナウェイ・タスク」時間 (ミリ秒) を示すフルワード・バイナリー・フィールドを返します。タスクがこの間隔を超える時間にわたってプロセッサーを制御し続ける場合、CICS はタスクがループ状態であると想定して、それを停止します。値がゼロの場合、CICS はタスクのランナウェイ状態をモニターしません。

RUNAWAYTYPE(*cvda***)**
このトランザクションの RUNAWAY オプション値のソースを示す CVDA 値を返します。 CVDA 値は以下のとおりです。

SYSTEM
値は、システムの現在のデフォルトです。 INQUIRE SYSTEM コマンドの ICVR オプションを参照してください。

USER 値はトランザクション定義で明示的に定義されました。

SCRNSIZE(*cvda***)**
このトランザクションを実行するタスクが代替画面サイズとデフォルト画面サイズのどちらを使用するかを示す、CVDA 値を返します。この値はプロファイル定義で定義されます (PROFILE オプションを参照)。 CVDA 値は以下のとおりです。

ALTERNATE
代替画面サイズが使用されます。

DEFAULT
デフォルト画面サイズが使用されます。

SHUTDOWN(*cvda***)**
非送信請求入力を処理するために作成されたタスクによる CICS シャットダウン中にこのトランザクションを実行できるかどうかを示す、CVDA 値を返します。また、シャットダウンに関するトランザクション・リスト・テーブル (XLT) にトランザクションが含まれている場合にも、この状況でトランザクションを実行できます。 CVDA 値は以下のとおりです。

SHUTDISABLED
トランザクションを実行できません。

SHUTENABLED
トランザクションを実行できます。

STATUS(*cvda*)
トランザクションが使用可能であるかどうかを示す CVDA 値を返します。CVDA 値は以下のとおりです。

DISABLED
トランザクションは使用不可です。

ENABLED
トランザクションは使用可能です。

STORAGECLEAR(*cvda*)
機密データが他のタスクで誤って表示されるのを防ぐために、このトランザクションを実行するタスクから解放されたストレージを CICS がクリアするかどうかを示す、CVDA 値を返します。 CVDA 値は以下のとおりです。

CLEAR
ストレージはクリアされます。

NOCLEAR
ストレージはクリアされません。

TASKDATAKEY(*cvda*)
このトランザクションを実行するタスクに CICS が割り当てたストレージのキーを示す CVDA 値を返します。このストレージには、タスク存続時間ストレージ (トランザクション作業域 (TWA) と EXEC インターフェース・ブロック (EIB))、および CICS がこのタスクの下で実行されるプログラムの代わりに取得するストレージが含まれます。

CVDA 値は以下のとおりです。

CICSDATAKEY
CICS キー・ストレージが割り当てられます。

USERDATAKEY
ユーザー・キー・ストレージが割り当てられます。

TASKDATALOC(*cvda*)
このトランザクションを実行するタスクのタスク存続期間ストレージが 16 MB 境界より上か下かを示す、CVDA 値を返します。タスク存続期間ストレージには EIB と TWA が含まれます。 CVDA 値は以下のとおりです。

ANY タスク存続期間ストレージは 16 MB 境界の上にすることも下にすることもできます。

BELOW
タスク存続期間ストレージは 16 MB 境界の下でなければなりません。

TCLASS(*data-area*)
タスクが番号付きクラスに属している場合、トランザクションが属するトランザクション・クラスの番号を示す、フルワード・バイナリー・フィールドを返します。トランザクションがどのクラスにも属さない場合はゼロが返されます。番号付きクラスに対応しないクラスにトランザクションが属している場合は、INVREQ 例外条件が発生します。

TCLASS オプションは以前の CICS リリースとの互換性のために保持されています。以前のリリースでは、トランザクション・クラスに 1 から 10 の番号が付けられました。このリリースでは、トランザクション・クラスに 8 文字の名

前が付き、これは定義内の TRANCLASS 値で指定されます (このコマンドの該当するオプションを参照してください)。

クラスの名前が DFHTCL*nn* (*nn* は 00 から 10 までの数値) という形式の場合に限り、クラスに番号が付けられ、この番号がこのコマンドの TCLASS オプションによって返されます。また、以前のリリースで実行されるシステムに同じ定義をインストールするために TCLASS 値を TRANSACTION 定義に含めることもできます。ただし、このリリースでは TCLASS 値は無視されるため、TRANCLASS 値に対応する必要はありません。

TRACING(*cvda***)**
このトランザクションを実行するタスクに対するトレースの種類を示す CVDA 値を返します。 CVDA 値は以下のとおりです。

SPECTRACE
特殊なトレースを行います。

SPRSTRACE
トレースは抑止されます。

STANTRACE
標準的なトレースを行います。

この値が SPRSTRACE 以外で、タスクに基本機能がある場合、端末の TRACING 値と、タスクが実行するトランザクションの TRACING 値を組み合わせることによってタスクのトレース値が決定されます。この場合、端末またはトランザクションのいずかれで SPECTRACE が指定されていれば特殊なトレースが行われ、両方で STANTRACE が指定されていれば標準になります。

トランザクションの定義時に TRACING の値 STANTRACE が割り当てられます。 SET TERMINAL コマンドまたは CICS 提供の CETR トランザクションを使用する場合に限り、他の値を指定できます。

TRANCLASS(*data-area***)**
このトランザクションが属するトランザクション・クラスの名前 (8 文字) を返します。トランザクションがどのクラスにも属さない場合は、値 DFHTCL00 が返されます。

TRANSACTION(*data-value***)**
照会の対象であるトランザクション定義の名前を 4 文字で指定します。

TRPROF(*data-area***)**
トランザクション・ルーティングが発生する場合に、ルーティングで使われるセッションに関連した属性を定義するために使用されるプロファイル定義の名前 (8 文字) を返します。

TWASIZE(*data-area***)**
このトランザクションのトランザクション作業域 (TWA) のサイズをバイト単位で示すフルワード・バイナリー・フィールドを返します。

条件

END
RESP2 値は以下のとおりです。

2 このタイプのリソース定義はありません。

ILLOGIC

RESP2 値は以下のとおりです。

1 このリソース・タイプのブラウズが既に実行されているときに START コマンドが出されたか、もしくは、このリソース・タイプのブラウズが実行されていないときに NEXT または END コマンドが出された。

INVREQ

RESP2 値は以下のとおりです。

3 この INQUIRE コマンドで TCLASS オプションが指定され、トランザクションは番号付きクラス DFHTCL00 から DFHTCL10 のいずれでもないクラスに属しています。

NORMAL

RESP2 値は以下のとおりです。

10 トランザクションに関連したプロファイル定義を使用できません。

NOTAUTH

RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

101 発行中のタスクに関連付けられているユーザーには、このコマンドが要求する方法でこの特定のリソースにアクセスする権限がありません。

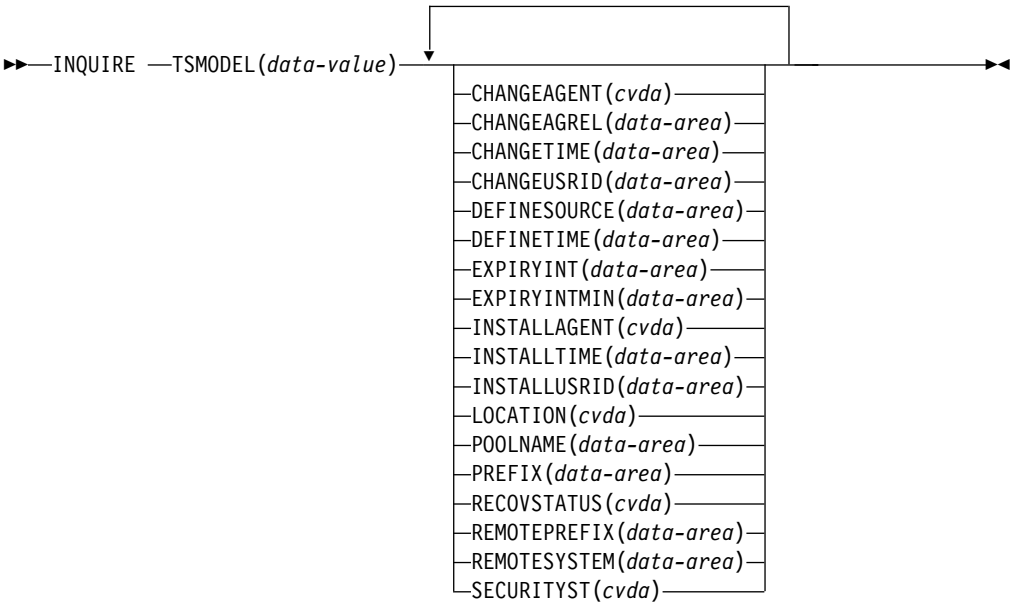
TRANSIDERR

RESP2 値は以下のとおりです。

1 トランザクションが見つかりませんでした。

INQUIRE TSMODEL

一時記憶域モデルに関する情報を取得します。



条件**:** END、ILLOGIC、NOTAUTH、NOTFND

このコマンドはスレッド・セーフです。

CVDA の使用について詳しくは、CICS-value data areas (CVDAs)を参照してください。

説明

INQUIRE TSMODEL コマンドは、特定の TS モデルに関する情報を戻します。

ブラウズ

INQUIRE TSMODEL コマンド上でブラウズ・オプション (START、NEXT、および END) を使用して、システムの一時記憶域モデルをブラウズすることもできます。

ブラウズに関する一般情報 (構文、例外条件、および例を含む) については、Browsing resource definitionsを参照してください。

リソース・シグニチャー

このコマンドを使用して、リソース・シグニチャー・フィールドを検索することができます。これらのフィールドを使用すると、リソースの定義時、インストール時、および最終変更時の詳細データを収集して、リソースを管理できます。 詳しくは、Auditing resourcesを参照してください。 リソース・シグニチャー・フィールドは BUNDLE、CHANGEAGENT、CHANGEAGREL、CHANGETIME、CHANGEUSRID、DEFINESOURCE、DEFINETIME、INSTALLAGENT、INSTALLTIME、および INSTALLUSRID です。リソース・シグニチャー・フィールドの内容について詳しくは、Summary of the resource signature field valuesを参照してください。

オプション

CHANGEAGENT(*cvda*)
リソース定義を最後に変更したエージェントを識別する CVDA 値を戻します。有効な値は、以下のとおりです。

CREATESPI
リソース定義は **EXEC CICS CREATE** コマンドによって最後に変更されました。

CSDAPI
リソース定義は、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによって最後に変更されました。

CSDBATCH
リソース定義は、DFHCSDUP ジョブによって最後に変更されました。

DREPAPI
リソース定義は、CICSPlex SM BAS API コマンドによって最後に変更されました。

CHANGEAGREL(*data-area*)
リソース定義の最終変更時に実行していた CICS リリースの 4 桁の数値を戻します。

CHANGETIME(*data-area*)
リソース定義の最終変更時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。ABSTIME 値のフォーマットについて詳しくは、FORMATTIMEを参照してください。

CHANGEUSRID(*data-area*)
変更エージェントを実行した 8 文字のユーザー ID を戻します。

DEFINESOURCE(*data-area*)
リソース定義の 8 文字のソースを戻します。DEFINESOURCE 値は CHANGEAGENT 値に依存します。詳しくは、Summary of the resource signature field valuesを参照してください。

DEFINETIME(*data-area*)
リソース定義の作成時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。

EXPIRYINT(*data-area*)
このモデルと一致する一時記憶域キューの期限切れ間隔を時間単位で示すフルワード・バイナリー・フィールドを戻します。返される値は、EXPIRYINTMIN 値を次の時間に切り上げたものになります。あるいは、分が指定されていない場合、前のリリースのモデルで定義された任意の EXPIRYINT 値から取得されます。一時記憶域キューが期限切れ間隔の間に参照されない場合、CICS によって自動的に削除される対象となります。ゼロの値は、このモデルと一致するキューに適用される期限切れ間隔がないことを意味するので、一時記憶域キューは自動削除の対象になりません。CICS は、CICS によって作成されたリカバリー可能記憶域キュー、リモート記憶域キュー、および一時記憶域キューに対しては期限切れ間隔を適用しません。 CICS TS 5.2 以降、期限切れ間隔は、共用一時記憶域キューにも適用されるようになりました。

EXPIRYINTMIN(*data-area*)
このモデルと一致する一時記憶域キューの期限切れ間隔を分単位で示すフルワー

ド・バイナリー・フィールドを戻します。CICS は、値を最も近い 10 分の倍数に切り上げて使用します。一時記憶域キューが期限切れ間隔の間に参照されない場合、CICS によって自動的に削除される対象となります。ゼロの値は、このモデルと一致するキューに適用される期限切れ間隔がないことを意味するので、一時記憶域キューは自動削除の対象になりません。CICS は、CICS によって作成されたリカバリー可能記憶域キュー、リモート記憶域キュー、および一時記憶域キューに対しては期限切れ間隔を適用しません。 CICS TS 5.2 以降、期限切れ間隔は、共用一時記憶域キューにも適用されるようになりました。

INSTALLAGENT(*cvda*)
リソースをインストールしたエージェントを識別する CVDA 値を戻します。有効な値は、以下のとおりです。

CREATESPI
リソースは、**EXEC CICS CREATE** コマンドによってインストールされました。

CSDAPI
リソースは、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによってインストールされました。

GRPLIST
リソースは、**GRPLIST INSTALL** によってインストールされました。

INSTALLTIME(*data-area*)
リソースのインストール時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。

INSTALLUSRID(*data-area*)
リソースをインストールした 8 文字のユーザー ID を戻します。

LOCATION(*cvda*)
モデルに一致するキューの保管場所を示す CVDA 値を戻します。CVDA 値は以下のとおりです。

AUXILIARY
このモデルと一致するキューは補助記憶域に保持されます。

MAIN
このモデルと一致するキューは主記憶域に保持されます。

POOLNAME(*data-area*)
8 文字の共用プール名を戻します。

PREFIX(*data-area*)
このモデルの接頭部の値を 16 バイト文字ストリングまたは 32 バイト 16 進数ストリングで戻します。

RECOVSTATUS(*cvda*)
このモデルのリカバリー状況を示す CVDA 値を戻します。 CVDA 値は以下のとおりです。

RECOVERABLE
このモデルと一致するキュー名はリカバリー可能です。

NOTRECOVABLE
このモデルと一致するキュー名はリカバリー可能ではありません。

REMOTEPREFIX(*data-area*)
リモート・システムで名前接頭部として使用される 16 バイト文字ストリングまたは 32 バイト 16 進数ストリングを戻します。

REMOTESYSTEM(*data-area*)
このモデルに一致するキューが定義されているリモート・システム名を 4 文字で戻します。

SECURITYST(*cvda*)
このモデルのセキュリティー状況を示す CVDA 値を戻します。 CVDA 値は以下のとおりです。

SECURITY
このモデルに一致するキュー名のセキュリティー検査を実行します。

NOSECURITY
このモデルに一致するキュー名のセキュリティー検査を実行しません。

TSMODEL(*data-value*)
照会する一時記憶域モデルの 8 文字の名前を指定します。

条件

END
RESP2 値は以下のとおりです。

2 このタイプのリソース定義はありません。

ILLOGIC
RESP2 値は以下のとおりです。

1 このリソース・タイプのブラウズが既に実行されているときに START コマンドが出されたか、もしくは、このリソース・タイプのブラウズが実行されていないときに NEXT または END コマンドが出された。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

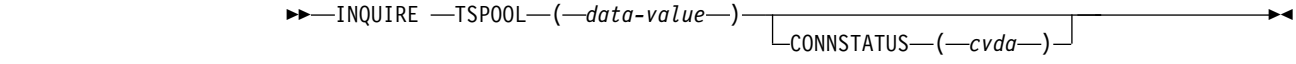
NOTFND
RESP2 値は以下のとおりです。

1 TSMODEL が存在しません。

INQUIRE TSPOOL

共用一時ストレージ・プールに関する情報を取得します。

INQUIRE TSPOOL



条件: END、ILLOGIC、NOTAUTH、NOTFND

このコマンドはスレッド・セーフです。

CVDA の使用について詳しくは、CICS-value data areas (CVDAs)を参照してください。

説明

INQUIRE TSPOOL コマンドは、特定の共用一時記憶域プールに関する情報を戻します。

ブラウズ

INQUIRE TSPOOL コマンドでブラウズ・オプション (START、NEXT、および END) を使用することにより、システム内のすべての一時記憶域プールをブラウズすることもできます。

ブラウズに関する一般情報 (構文、例外条件、および例を含む) については、Browsing resource definitionsを参照してください。

オプション

TSPOOL(*data-value*)
共用 TS プール名を示す 8 文字のフィールドを戻します。

CONNSTATUS(*cvda*)
このプールの接続状況を含む CVDA 値を戻します。CVDA 値は次のとおりです。

CONNECTED
このプールは接続されています。

UNCONNECTED
このプールは接続されていません。

条件

END
RESP2 値は以下のとおりです。

2 このタイプのリソース定義はありません。

ILLOGIC
RESP2 値は以下のとおりです。

1 このリソース・タイプのブラウズが既に実行されているときに START コマンドが出されたか、もしくは、このリソース・タイプのブラウズが実行されていないときに NEXT または END コマンドが出された。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

101 発行中のタスクに関連付けられているユーザーには、このコマンドが要求する方法でこの特定のリソースにアクセスする権限がありません。

NOTFND

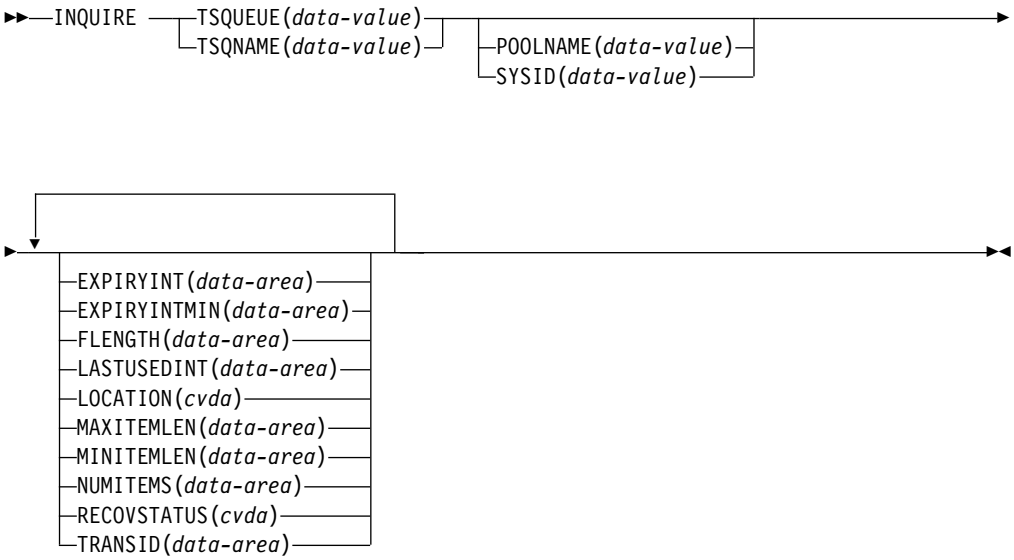
RESP2 値は以下のとおりです。

1 TSPOOL が存在しません。

INQUIRE TSQUEUE / TSQNAME

一時記憶域キューに関する情報を取得します。このトピックは、INQUIRE TSQNAME コマンドにも適用されます。長さが 8 文字までの名前について照会するには、どちらのコマンドも使用できます。長さが 16 文字までの名前について照会するには INQUIRE TSQNAME を使用します。

INQUIRE TSQUEUE



条件: END、ILLOGIC、INVREQ、NOTAUTH、POOLERR、QIDERR、SYSIDERR

このコマンドはスレッド・セーフです。

CVDA の使用の詳細については、CICS-value data areas (CVDAs)を参照してください。

説明

INQUIRE TSQUEUE コマンドは、特定の一時記憶域キューに関する情報を戻します。

ブラウズ

INQUIRE TSQUEUE コマンド上でブラウズ・オプション (START、AT、NEXT、および END) を使用して、システムの一時記憶域キューをブラウズできます。ブラウズ・モードでは、定義はアルファベット順で返され、希望する場合は AT オプションを使って開始点を指定できます。例えば、ABC で始まる名前のキューを参照するには、ABC の右側にヌル (X'00') を 8 文字になるよう埋め込んだ AT 値を使用してブラウズを開始します。

共用一時記憶域プールにある一時記憶域キューをブラウズするには、ブラウズ START 要求でのみ POOLNAME または SYSID オプションを指定する必要があります。一時記憶域テーブル (TST) で TYPE=SHARED 項目により定義されたキュー、および共用 TS プールにマップするキューの明示的な SYSID を指定する必要があります。

CICS によりすべてのキューがブラウズに戻され、内部使用のために CICS により作成されたキューやユーザー・アプリケーションによって作成されたキューを参照できます。 **、$$、X'FA' から X'FF' まで、CEBR、DF の各文字で始まる名前のキューは、CICS キューです。

ブラウズに関する一般情報 (構文、例外条件、および例を含む) については、Browsing resource definitionsを参照してください。

オプション

EXPIRYINT(*data-area***)**

TSMODEL リソース定義で一時記憶域キューに対して定義されている期限切れ間隔を時間単位で示すフルワード・バイナリー・フィールドを戻します。

返される値は、EXPIRYINTMIN 値を次の時間に切り上げたものになります。あるいは、分が指定されていない場合、前のリリースのモデルで定義された任意の EXPIRYINT 値から取得されます。一時記憶域キューが期限切れ間隔の間に参照されない場合、CICS によって自動的に削除される対象となります。

ゼロの値は、一時記憶域キューに適用される期限切れ間隔がないことを意味するので、一時記憶域キューは自動削除の対象になりません。加えて、一致する TSMODEL リソース定義でゼロ以外の期限切れ間隔が設定されていても、以下のタイプの一時記憶域キューは、CICS によって自動で削除されることはありません。

- リカバリー可能として定義されている補助一時記憶域内のキュー。
- リモート CICS 領域内のキュー。
- CICS が独自に使用するために作成するキュー。

CICS TS 5.2 以降、期限切れ間隔は、共用一時記憶域キューにも適用されます。

EXPIRYINTMIN(*data-area***)**

TSMODEL リソース定義で一時記憶域キューに対して定義されている期限切れ間隔を分単位で示すフルワード・バイナリー・フィールドを戻します。CICS は、最も近い 10 分の倍数に切り上げた値を使用します。一時記憶域キューが期限切れ間隔の間に参照されない場合、CICS によって自動的に削除される対象となります。

ゼロの値は、一時記憶域キューに適用される期限切れ間隔がないことを意味するので、一時記憶域キューは自動削除の対象になりません。加えて、一致する TSMODEL リソース定義でゼロ以外の期限切れ間隔が設定されていても、以下のタイプの一時記憶域キューは、CICS によって自動で削除されることはありません。

- リカバリー可能として定義されている補助一時記憶域内のキュー。
- リモート CICS 領域内のキュー。

- CICS が独自に使用するために作成するキュー。

CICS TS 5.2 以降、期限切れ間隔は、共用一時記憶域キューにも適用されます。

FLENGTH(*data-area***)**
一時記憶域キューの項目すべての合計長をバイト単位で示すフルワード・バイナリー・フィールドを戻します。キューの長さについて詳しくは、MAXITEMLEN オプションを参照してください。

共用キューの場合のみ: 共用キュー全体がカップリング・ファシリティーの 1 つの項目に保管されている場合、FLENGTH は制御情報を含むすべての項目の合計サイズになります。この状況では、FLENGTH の戻り値は、32 K (32768) より小さくなります。

共用キューがカップリング・ファシリティーの分離リストに保管されている場合、合計サイズは、MAXITEMLEN に NUMITEMS を乗算した値として試算されます。

LASTUSEDINT(*data-area***)**
一時記憶域キューが最後に参照されてからの間隔を秒単位で示すフルワード・バイナリー・フィールドを戻します。

大容量の共用一時記憶域キューを戻す値は、関連する TS キュー・マネージャーに指定された LASTUSEDINTERVAL パラメーターの値により規定されます。 TS サーバー領域の定義を参照してください。

LOCATION(*cvda***)**
一時記憶域キューが常駐する場所を示す CVDA 値を戻します。 CVDA 値は以下のとおりです。

AUXILIARY
一時記憶域キューを CICS 一時記憶域 VSAM データ・セット (またはカップリング・ファシリティー) に保持します。

MAIN
一時記憶域キューは主記憶域に保持されます。

MAXITEMLEN(*data-area***)**
一時記憶域キューの最大項目の長さをバイト単位で示すハーフワード・バイナリー・フィールドを戻します。

キュー項目の長さは、切り上げられたヘッダー情報のユーザー・データに 8 バイトを足した合計の長さになります。

- 主一時記憶域の場合、この長さは、保管するために使用されている MVS ストレージ・サブプールの境界に切り上げられます。
- 補助一時記憶域の場合、この長さは、64 または 128 のいずれかの次に大きい倍数に切り上げられます。どちらが選択されるかは、一時記憶域データ・セットの制御インターバル・サイズにより決定されます。 補助一時記憶域の制御インターバル・サイズを参照してください。
- 共用キューの場合、MINITEMLEN、MAXITEMLEN、および FLENGTH に戻される長さは、カップリング・ファシリティーに保管されるデータ長を反映します。データ長には、各項目の長さが 2 バイトの接頭部で成る項目制御情報が含まれています。

すべてのタイプのキューで、戻される最大値は 32767 (X'7FFF') が上限です。

MINITEMLEN(*data-area*)
一時記憶域キューの最小項目の長さをバイト単位で示すハーフワード・バイナリー・フィールドを戻します。

キュー項目の長さは、切り上げられたヘッダー情報のユーザー・データに 8 バイトを足した合計の長さになります。

- 主一時記憶域の場合、この長さは、保管するために使用されている MVS ストレージ・サブプールの境界に切り上げられます。
- 補助一時記憶域の場合、この長さは、64 または 128 のいずれかの次に大きい倍数に切り上げられます。どちらが選択されるかは、一時記憶域データ・セットの制御インターバル・サイズにより決定されます。 補助一時記憶域の制御インターバル・サイズを参照してください。
- 共用キューの場合、MINITEMLEN、MAXITEMLEN、および FLENGTH に戻される長さは、カップリング・ファシリティーに保管されるデータ長を反映します。データ長には、各項目の長さが 2 バイトの接頭部で成る項目制御情報が含まれています。

すべてのタイプのキューで、戻される最大値は 32767 (X'7FFF') が上限です。

NUMITEMS(*data-area*)
一時記憶域キューの項目数を示すハーフワード・バイナリー・フィールドを戻します。

POOLNAME(*data-value*) (TS データ共用のみ)
一時記憶域プールの名前を指定します。 CICS は、プールを管理する一時ストレージ・サーバーにコマンドをシップします。

ブラウズ操作では、ブラウズ START 要求にのみ POOLNAME を指定します。NEXT または END 要求には指定しません。

RECOVSTATUS(*cvda*)
キューのリカバリー状況を示す CVDA 値を戻します。 CVDA 値は以下のとおりです。

RECOVERABLE
キューはリカバリー可能です。

NOTRECOVERABLE
キューはリカバリー可能ではありません。

SYSID(*data-value*) (TS data sharing only)
一時記憶域プール名に対応するシステム名を指定します。 CICS が TST TYPE=SHARED エントリーに指定したシステム名を検出した場合、プールを管理する一時記憶域サーバーにコマンドを発行します。 CICS が TST にシステム名を検出しなかった場合、INVREQ 応答が発行されます。

ブラウズ操作では、ブラウズ START 要求にのみ SYSID を指定します。NEXT または END 要求には指定しません。

TRANSID(*data-value*)
一時記憶域キューを作成したトランザクション ID を指定します。

TSQUEUE(*data-value*)
照会する一時記憶域キューの 8 文字の名前を指定します。

TSQNAME(*data-value*)
TSQUEUE の代替コマンドです。照会する一時記憶域キューの 16 文字の名前を指定します。

条件

END
RESP2 値は以下のとおりです。

2 このタイプのリソース定義はありません。

ILLOGIC
RESP2 値は以下のとおりです。

1 このリソース・タイプのブラウズが既に実行されているときに START コマンドが出されたか、もしくは、このリソース・タイプのブラウズが実行されていないときに NEXT または END コマンドが出された。

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

1 指定した SYSID が一時記憶域テーブルの TYPE=SHARED 項目に存在しません。

2 INQUIRE TSQUEUE NEXT が指定されている場合、ブラウズされる次のキューのキュー名に含まれる重要な文字の数が 8 を超えています。キュー名が切り捨てられ、重要な文字のいくつかが失われます。

4 この一時記憶域キューは PUTQ マクロを使用する CICS により作成されたため、この一時記憶域キューの名前を削除できません。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

101 発行中のタスクに関連付けられているユーザーには、このコマンドが要求する方法でこの特定のリソースにアクセスする権限がありません。

POOLERR
RESP2 値は以下のとおりです。

3 POOLNAME が存在しません。

QIDERR
RESP2 値は以下のとおりです。

1 一時記憶域キューが見つかりません。

SYSIDERR
RESP2 値は以下のとおりです。

3 SYSID は共用プールにマップしません。

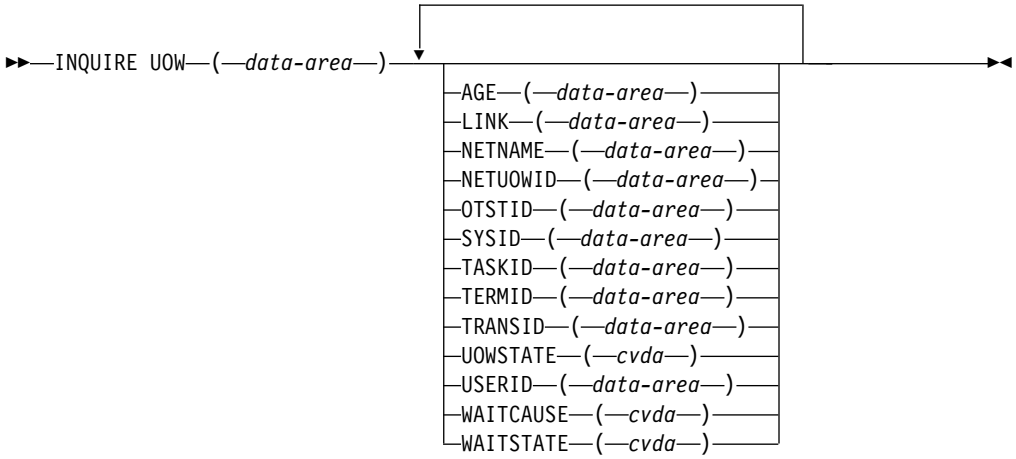
4 サーバー・エラー。

5 カップリング・ファシリティーでの入出力エラー。

INQUIRE UOW

作業単位 (UOW) に関する情報を取得します。

INQUIRE UOW



条件: END、ILLOGIC、NOTAUTH、UOWNOTFOUND

このコマンドはスレッド・セーフです。

CVDA の使用について詳しくは、CICS-value data areas (CVDAs)を参照してください。

説明

INQUIRE UOW コマンドは、作業単位、または指定された状態のすべての UOW に関する情報を取得します。UOW の状態 (例えば、INDOUBT)、および UOW がアクティブ、待機中、または中断のいずれであるかを戻します。場合によっては、UOW の中断の原因となったリソースの名前、さらにそのリソースを開始したトランザクション、ユーザー、および端末を戻します。

重要: 相互通信環境では、接続されている複数のシステムによって実行されるアクションを 1 つの作業単位に含めることができます。 このような作業単位は、更新されるリソースが複数のシステムに分散しているため、分散 作業単位と呼ばれます。分散作業単位は複数のローカル 作業単位からなり、それぞれ、参加システムの 1 つで行われる作業を表しています。

INQUIRE UOW コマンドはローカル UOW の情報を常に返します。つまり、分散 UOW の場合は、コマンドが発行されたシステムで必要な作業の情報だけを返します。分散 UOW の情報は、NETUOWID フィールドで戻されたネットワーク全体での UOW ID と、他のシステムのローカル UOW のネットワーク全体での ID を突き合わせることによって作成できます。

ローカル UOW と分散 UOW について詳しくは、Troubleshooting intersystem problemsを参照してください。

ブラウズ

INQUIRE UOW コマンドでブラウズ・オプション (START、NEXT、および END) を使用することにより、システムに現在あるすべての UOW をブラウズすることもできます。ブラウズに関する一般情報 (構文、例外条件、および例を含む) については、Browsing resource definitionsを参照してください。

例えば、リカバリー可能データ・セットか接続のどちらかに問題があると疑われる場合、INQUIRE UOW を使用すると、接続またはデータ・セットの障害のために中断した UOW に関する情報を戻すことができます。

制約事項: INQUIRE UOW ブラウズ時に SYNCPOINT コマンドを発行しないでください。以下の一連のコマンドにより、無限ループになります。

```
EXEC CICS INQUIRE UOW START
 EXEC CICS INQUIRE UOW(data-area) NEXT
SYNCPOINT
EXEC CICS INQUIRE UOW(data-area) NEXT
SYNCPOINT
:
:
EXEC CICS INQUIRE UOW END
```

これは、SYNCPOINT コマンドが実行されるたびに、新しい UOW が作成されるからです。新しい UOW は次回の INQUIRE UOW で戻され、その後に SYNCPOINT が続き、以下同様です。

オプション

AGE(*data-area***)**
UOW が現在の WAITSTATE に入って以降の秒数を示す、フルワード・バイナリー値を戻します。

LINK(*data-area***)**
WAITCAUSE 値が CONNECTION である場合、UOW が待機または中断する原因となったリモート・システムのネット名である 8 文字の値を戻します。その他の WAITCAUSE 値の場合、LINK はブランクを戻します。

NETNAME(*data-area***)**
この UOW が開始された端末の 8 文字のネットワーク名を戻します。UOW が ISC または MRO セッションから開始された場合、NETNAME は、リモート領域のネットワーク名を戻します。UOW が端末から開始されたのではなく、ISC または MRO セッションから開始されたのでもない場合、NETNAME はブランクを戻します。 OTS トランザクションの場合、NETNAME はブランクを戻します。

NETUOWID(*data-area***)**
このネットワーク内の UOW の LU6.2 名 (つまり、UOW のネットワーク全体での ID) を戻します。これは、27 文字のデータ域です。

分散 UOW の情報は、ネットワーク全体での UOW ID と、他のシステムのローカル UOW のネットワーク全体での ID を突き合わせることによって作成できます。

OTSTID(*data-area***)**
この UOW が含まれている OTS トランザクションのトランザクション ID (TID) の最初の 128 バイトを戻します。 OTS 名が 128 バイトよりも短い場合は、2 進ゼロで右側が埋め込まれます。

SYSID(*data-area***)**
WAITCAUSE 値が CONNECTION である場合、UOW が待機または中断する原因となった接続のシステム ID である 4 文字の値を戻します。接続が破棄されている場合や、その他の WAITCAUSE 値の場合、SYSID はブランクを戻します。

TASKID(*data-area***)**
最初にこの UOW に関連付けられたタスク番号を示す、4 バイトのパック 10 進値を戻します。UOW が中断している場合、タスクは終了します。この場合、番号は別のタスクによって再利用された可能性があります。

TERMID(*data-area***)**
この UOW が開始された端末またはセッションの 4 文字の ID を戻します。これは、タスクの基本機能です。トランザクションがミラー・トランザクション CSMI である場合、それはセッションです。OTS トランザクションに含まれている UOW の場合、TERMID は、タスクを接続した要求で使用されるセッションです。

TRANSID(*data-area***)**
この UOW を開始したトランザクションの 4 文字の ID を戻します。

UOW(*data-area***)**
照会する UOW の 16 バイトのローカル ID を指定します。その最後の 8 バイトは常にヌル (X'00') です。

UOWSTATE(*cvda***)**
UOW の状態を示す CVDA 値を戻します。CVDA 値は以下のとおりです。

BACKOUT
この UOW はバックアウトされている途中か、この UOW に関係するリカバリー可能リソースの 1 つ以上のバックアウトに失敗しました。

COMMIT
UOW をコミットする決定が行われましたが、UOW は待機中か、中断されています。これは、その決定が同期点のすべての参加者にまだ伝達されていないため、またはコミット処理中に障害が発生したためです。

FORCE
TRANSACTION リソース定義の ACTION オプションで指定されたとおり、UOW を強制的にバックアウトまたはコミットしようとしています。

HEURBACKOUT
UOW が強制的にバックアウトされました。UOW が未確定解決を待機できないときに強制的な決定が行われました。例えば、トランザクションが WAIT(NO) として定義されているか、CEMT SET UOW コマンドでバックアウトされた可能性があります。

HEURCOMMIT
UOW が強制的にコミットされました。

INDOUBT
この UOW は未確定状態です。

INFLIGHT
UOW は正常に実行されています。

USERID(データ域)
このトランザクションが実行されていた、8 文字のユーザー ID を戻します。

WAITCAUSE(*cvda*)
UOW が待機するか中断される原因となったリソースのタイプを示す CVDA 値を戻します。

注: 待機の場合は、タスクではなく、待機している UOW になります。

各リソースは正しいタイプのフィールドを必要とするため、WAITCAUSE は、RESOURCE NAME および QUALIFIER が含まれているフィールドも示します。CVDA 値は以下のとおりです。

CONNECTION
未確定期間の UOW のコーディネーターとのセッションが失敗したため、この UOW が待機しているか、中断されました。NETNAME と SYSID には、失敗したリンクのネット名とシステム名が入っています。

DATASET
1 つ以上のデータ・セットに関連した障害が起きたため、この UOW は待機しているか、中断されました。関係しているデータ・セットと、それらのデータ・セットによって UOW が失敗した理由を特定するには、INQUIRE UOWDSNFAIL コマンドを使用します。

NOTAPPLIC
UOW が待機していません。

RLSSERVER
RLS サーバーの障害のため、この UOW は待機しているか、中断されました。

WAITRRMS
RRS/MVS との通信が失われたため、この UOW は待機しているか、中断されました。

WAITCOMMIT
コミット処理中に障害が発生したため、この UOW は待機しているか、中断されました。

WAITFORGET
この UOW は、同期点の参加者からの FORGET を待機しています。参加者のネット名とシステム ID を取得するには、INQUIRE UOWLINK コマンドを使用します。

WAITRMI
この UOW は、RMI からの FORGET を待機しています。タスク関連ユーザー出口のエントリー名と修飾子を取得するには、INQUIRE UOWLINK コマンドを使用します。

WAITSTATE(*cvda*)
UOW が現在実行中か待機中かを示す CVDA 値を戻します。 CVDA 値は以下のとおりです。

ACTIVE
UOW は正常に実行されています。

SHUNTED
UOW の同期点処理が据え置かれています。この理由は WAITCAUSE で戻されます。SHUNTED は、タスク、端末およびプログラム・ストレージが解放され、ロックが保持されていることをさらに示します。

WAITING
このシステムで同期点処理は完了したものの、分散 UOW に関係するシステムすべてで完了しているとは限りません。 WAITCAUSE は WAITFORGET か WAITRMI のどちらかを戻し、UOWSTATE は BACKOUT か COMMIT のどちらかを戻して、このシステムで UOW がどのように解決されたかを示します。

条件

END
RESP2 値は以下のとおりです。

2 許可されているすべてのリソース定義が取得されました。このコマンドで指定されたすべてのデータ域が未変更のままになります。

ILLOGIC
RESP2 値は以下のとおりです。

1 このリソース・タイプのブラウズはすでに進行中であるか、INQUIRE UOW START コマンドが発行されていません。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 このコマンドの使用は許可されていません。

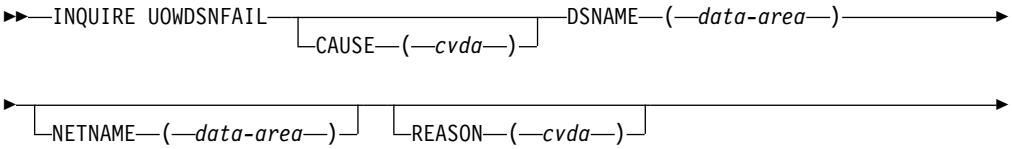
UOWNOTFOUND
RESP2 値は以下のとおりです。

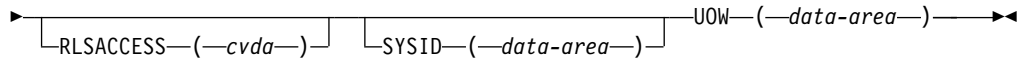
1 指定された UOW が見つかりません。

INQUIRE UOWDSNFAIL

CICS ファイル制御管理データ・セットを更新した作業単位 (UOW) に関する情報を取得します。

INQUIRE UOWDSNFAIL





条件: END、ILLOGIC、NOTAUTH

説明

INQUIRE UOWDSNFAIL コマンドはブラウズ・モードでのみ使用できます。このコマンドを使用すると、指定されたデータ・セットに関連した同期点の間の障害のために UOW が中断された理由を照会することができます。同期点処理中に障害が発生する場合、障害が検出された 1 つ以上のデータ・セットに対して UOW が所有するロックは保持されます。そのため、このコマンドが障害を報告するときに、保持ロックの有無も示します。

UOWDSNFAIL コマンドは、中断されている UOW を戻し、再試行中の UOW も戻します。再試行中の UOW の場合、戻されるデータ・セットは、再試行の一環としてまだ処理されていないデータ・セットのみです。

データ・セットに対して他の CICS 領域による障害が起きる可能性があります。データ・セットの状態を十分に把握するために、このコマンドはシスプレックス内のすべての領域で発行されなければなりません。CICS の有用なバッチ可能サンプル・プログラム、およびダウンした CICS 領域が所有する保持ロックの検査に使用できる AMS SHCDS LIST サブコマンドについては、RLS アクセス・モードのデータ・セットのバッチ対応のサンプル・プログラム (DFH0BATx)を参照してください。

ブラウズ

ブラウズ・オプション (START、NEXT、および END) を使用して、同期点障害のあるすべての作業単位を、障害が検出されたデータ・セットと一緒に見つけることができます。さらに、固有の UOW/データ・セットの組み合わせごとに理由が示されます (UOW には、複数のデータ・セットの同期点障害がある可能性がありますが、UOW 内のデータ・セットごとの障害の原因は同じです)。ブラウズに関する一般情報 (構文、例外条件、および例を含む) については、Browsing resource definitionsを参照してください。

このコマンドは、データ・セット (それらのデータ・セットに対して保持されている関連の保持ロックとともに) に関して現在障害が起きている UOW に関する情報を戻すので、コマンドの発行時に再試行処理中の障害に関する情報は戻しません。例えば、UOW で特定のデータ・セットに関するバックアウト障害が検出されたときに、SET DSNAME RETRY コマンドがそのデータ・セットに対して出された場合、その特定の UOW/データ・セットの組み合わせはブラウズに表示されません。バックアウト再試行が成功する場合と、再度失敗する場合があります。成功した場合、障害状態はクリアされました。再度失敗した場合、新しい INQUIRE UOWDSNFAIL ブラウズが開始されれば UOW/データ・セットの組み合わせが表示されます。

このコマンドの重要な 1 つの用途は、データ・セットを静止させ、バッチ・アプリケーション・プログラムに使用できるように、オペレーターが保持ロックの識別と除去を行うのに役立つトランザクションを作成できるようにすることです。複数の

CICS 提供のサンプル・プログラムがあり、これらのプログラムを変更せずそのまま使用するか、独自のプログラムを作成するベースとして使用することができます。このコマンドの使用法の具体的な説明については、サンプル・アプリケーション・プログラム DFH0BAT1 から DFH0BAT8 を参照してください。これらのプログラムは CICSTS55.CICS.SDFHSAMP ライブラリーで提供されています。

実質的に、INQUIRE UOWDSNFAIL 機能は 2 次元のネストされたブラウズです。最初 (外側) のブラウズは、すべての UOW でループします。各 UOW 内で 2 番目 (内側) のブラウズは、その UOW に関連した障害のあるすべてのデータ・セットでループします。すべてのブラウズ機能と同じように、CICS はブラウズ操作中にリソースをロックしないことに注意してください。障害が起きた UOW ごとに、CICS は、その UOW に関して障害が起きたすべてのデータ・セットのスナップショットを取得し、NEXT 操作ごとに 1 つの UOW/データ・セットのペアを戻します。INQUIRE UOWDSNFAIL NEXT コマンドに関連した一部のデータ・セットの状況が、情報がプログラムに戻される時点までに変わることは理論的に起こりえます。

オプション

CAUSE(*cvda*)

UOW がこのデータ・セットに関するロックを保持する原因となった、障害のあるコンポーネントを示す CVDA 値を戻します。 CVDA 値は以下のとおりです。

CACHE

VSAM RLS キャッシュ構造、またはこのキャッシュ構造との接続に障害が発生しました。

CONNECTION

未確定の間、システム間接続エラーにより、UOW に障害が発生しました。接続が失われたシステムの名前は SYSID パラメーターで戻され、そのネット名は NETNAME パラメーターで戻されます。 CICS は、接続障害に関して REASON パラメーターで追加情報を返します。

DATASET

このデータ・セットについて、UOW のバックアウトに障害が発生しました。データ・セットの障害の理由が、REASON パラメーターで返されます。

RLSSERVER

SMSVSAM サーバーに障害が発生しました。データ・セットの障害の理由が、REASON パラメーターで返されます。

UNDEFINED

UOW が再試行されている可能性があります。これは、SET DSN RETRY コマンドの実行後、または障害が発生したリソースが戻るときに自動的に行われます。緊急時再始動の後に行われる場合もあります。

DSNAME(*data-area*)

この UOW でバックアウト障害を検出したデータ・セットのデータ・セット名を 44 文字の値として戻します。

NETNAME(*data-area***)**
接続が失われたリモート・システムの 8 文字のネット名 (CAUSE パラメーターの CVDA が CONNECTION である場合) を戻します。

REASON(*cvda***)**
このデータ・セットに対するエラーの具体的な理由を示す CVDA 値 (CAUSE パラメーターで戻された CVDA 値が RLSSERVER、CONNECTION、または DATASET である場合) を戻します。CVDA 値は以下のとおりです。

BACKUPNONBWO
UOW のバックアウト中にデータ・セットの非 BWO バックアップが進行中であったため、UOW がデータ・セットに行った更新のバックアウトに障害が発生しました。バックアップが完了するときに、CICS は自動的に UOW を再試行します。

COMMITFAIL
RLS ロックの解放中のある時点で、エラーが発生しました。これは、通常、SMSVSAM サーバーを再生することで解決できるエラーです (自動で行われます)。データ・セットに対してリカバリー可能な要求が発行された結果、ロックが獲得されました。

DATASETFULL
レコードをデータ・セットに追加するために使用できるスペースが、直接アクセス装置にない。より多くのスペースがあるデータ・セットの再割り振りを行う必要があります。その後で、SET DSNAME RETRY を使用してバックアウトを再試行できます。

DEADLOCK (非 RLS データ・セットのみ)
バックアウト中にデッドロックが検出されました。これは、バックアウトが再試行されるとおそらく解消される、一時的な状態です。

DELEXITERROR
論理削除のグローバル・ユーザー出口プログラムが使用可能でなかったか、または論理削除のグローバル・ユーザー出口プログラムが論理削除を実行しないことを決定したために、ESDS への書き込みのバックアウトに障害が発生しました。

FAILEDBKOUT
これは、バックアウト中に識別される重大エラーの結果として発生し、CICS か VSAM のどちらかのエラーの可能性があります。バックアウトが再試行されると、問題が解消される可能性があります。エラーが最初に検出される時点で、 CICS は特定の First Failure Data Capture (FFDC) を実行します。

INDEXRECFULL
より大きい代替索引のレコード・サイズを、データ・セットに定義する必要があります。

また、非 RLS データ・セットの固有の代替索引キーが再使用され、CICS が現在、そのキー値を除去した要求をバックアウトしているときにも、このエラーが発生する可能性があります。

INDOUBT
作業単位がデータ・セットに対してリカバリー可能な要求を発行しましたが、現在未確定で失敗しました。座標システムとの接続を再確立する必要があります。

IOERROR
バックアウト中にハード入出力エラーが発生しました。このエラーを訂正するには、データ・セットのフルバックアップ・コピーをリストアし、順方向リカバリーを実行します。順方向リカバリー・ユーティリティーとして CICS VSAM Recovery を使用する場合、RLS データ・セットに対してバックアウトが自動的に再試行されます。非 RLS データ・セットの場合、SET DSNAME (...) RETRY コマンドを使用して、バックアウトの再試行を実行します。

LCKSTRUCFULL
RLS ロック構造がフルであったために、このデータ・セットへの更新のバックアウト中にロックを獲得する試みは失敗しました。使用可能なカップリング・ファシリティーでより大きいロック構造を割り振り、既存のロック構造をそのカップリング・ファシリティーに再構築してから、SET DSNAME (...) RETRY コマンドを使用して、バックアウトの再試行を実行します。

NOTAPPLIC
CAUSE の CVDA は CONNECTION、RLSSERVER、DATASET のいずれでもありません。

OPENERROR
バックアウトのためにファイルを開く際のエラー。ユーザーは、コンソール・メッセージでオープン時のエラーの理由について通知されます。1 つの理由として、データ・セットが静止していたことが考えられます。

RLSGONE
SMSVSAM RLS サーバーが非アクティブであったために、 UOW をバックアウトするときにエラーが発生しました。また、これは、UOW が最初にバックアウト状態に入った理由である可能性もあります。これは、サーバーを再生することで解決できるエラーです (自動で行われます)。通常は、サーバーがリカバリーするときに、UOW が自動的に再試行されます。非常に例外的な状況で、サーバーが戻されたときに、SET DSNAME(...) RETRY コマンドを実行して、再試行されなかった UOW を再試行する必要が生じることがあります。

RRCOMMITFAIL
作業単位の RLS ロックが解放されているときに、エラーが発生しました。このデータ・セットの場合、解放されるロックはすべて反復可能な読み取りロックであったため、RLS サーバーが使用できないことが障害の原因であった場合、ロックは解放されています。障害の原因が SMSVSAM サーバーの他のエラーである場合、ロックは引き続き保持されている可能性があります。

RRINDOUBT
作業単位がデータ・セットに対して反復可能な読み取り要求を発行しましたが、現在未確定状態で失敗しました。ロックは解放されるので、こ

の失敗によって、データ・セットに対するバッチ・ジョブの実行が妨げられることはありません。しかし、CICS から非 RLS モードでデータ・セットをオープンする場合、RLSACCESS(NO) としてファイルを定義する前に、未確定な障害を解決する必要があります。作業単位が他のデータ・セット、または他のリソースを更新した場合、未確定の障害を正しく解決してください。作業単位が VSAM データ・セットに対して反復可能な読み取りのみを実行し、他のリソースを更新していない場合、 SET DSNAME コマンドまたは SET UOW コマンドを使用して、作業単位を強制してもかまいません。

それぞれの理由 (NOTAPPLIC を除く) は、1 つの原因値のみに対応します。マッピングは次のとおりです。

原因	理由
CACHE	NOTAPPLIC
CONNECTION	INDOUBT
CONNECTION	RRINDOUBT
DATASET	BACKUPNONBWO
DATASET	DELEXITERROR
DATASET	DATASETFULL
DATASET	DEADLOCK
DATASET	FAILEDBKOUT
DATASET	INDEXRECFULL
DATASET	LCKSTRUCFULL
DATASET	IOERROR
DATASET	OPENERROR
RLSSERVER	COMMITFAIL
RLSSERVER	RRCOMMITFAIL
RLSSERVER	RLSGONE
UNDEFINED	NOTAPPLIC

RLSACCESS(*cvda*)
この CICS 領域で最後にオープンしたデータ・セットが RLS モードか非 RLS モードかを示す CVDA 値を戻します。CVDA 値は以下のとおりです。

NOTRLS
この CICS 領域では、最後に非 RLS モードでオープンしました。

RLS この CICS 領域では、最後に RLS モードでオープンしました。

SYSID(*data-area*)
接続が失われたリモート・システムの 4 文字のシステム ID (CAUSE パラメーターの CVDA が CONNECTION である場合) を戻します。

UOW(*data-area*)
保持ロックがある 1 つ以上のデータ・セットを持つ、中断作業単位の 16 バイト UOW ID を戻します。最後の 8 バイトは常にヌル (X'00') です。

条件

END
RESP2 値は以下のとおりです。

2 これ以上の UOW/データ・セットのペアはありません。

ILLOGIC

RESP2 値は以下のとおりです。

1 ブラウズが既に実行されているときに START が出されたか、START を先行させることなく NEXT が出されました。

NOTAUTH

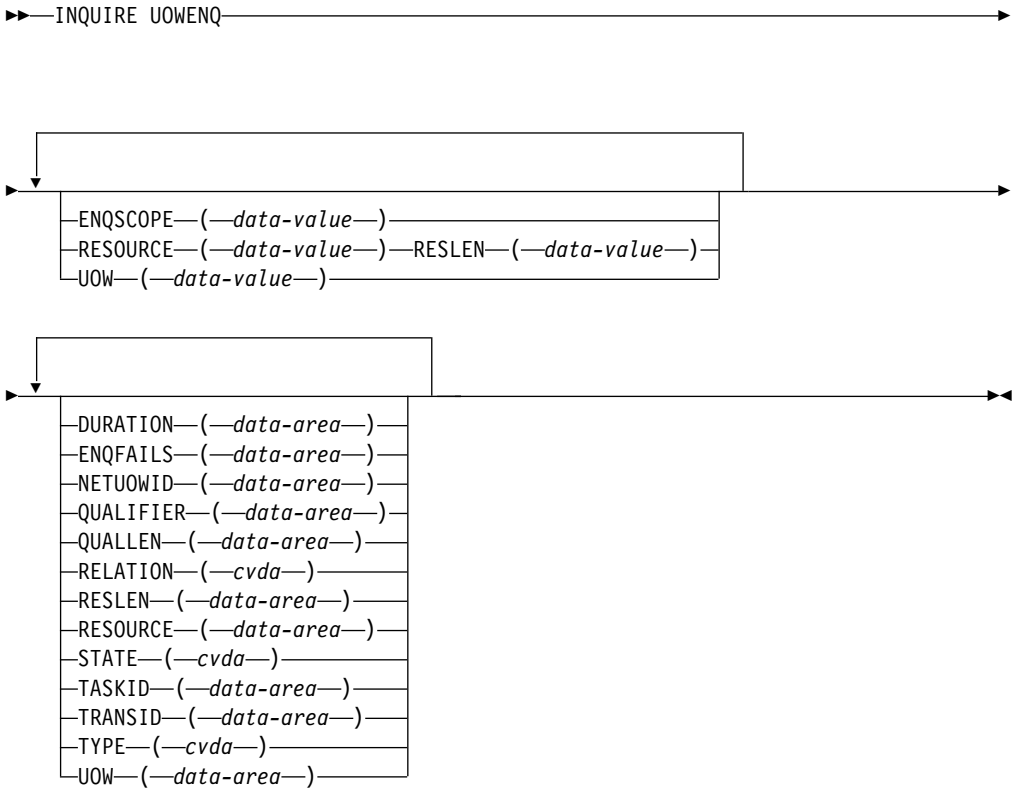
RESP2 値は以下のとおりです。

100 このコマンドの使用は許可されていません。

INQUIRE UOWENQ

UOW により保留もしくは待機になっているエンキューついて、あるいは特定のエンキューで保留もしくは待機になっている UOW についての情報を取得します。INQUIRE ENQ は INQUIRE UOWENQ の同義語です。

INQUIRE UOWENQ



条件**:** END、ILLOGIC、NOTAUTH、UOWNOTFOUND

このコマンドはスレッド・セーフです。

CVDA の使用について詳しくは、CICS-value data areas (CVDAs)を参照してください。

説明

INQUIRE UOWENQ コマンドはブラウズ・モードでのみ使用でき、エンキューに関する情報を取り出します。CICS はエンキューを使用して、ファイル・レコードやキューなどのリカバリー可能リソースを、それらを更新している UOW にロックします。EXEC CICS ENQ コマンドで取得されるユーザー・エンキューも戻されます。

ブラウズは以下の 3 とおりの方法でフィルターに掛けることができます。

- START コマンドで UOW に値を指定して、指定された UOW が保持または待機しているエンキューのみを戻す。
- START コマンドで RESOURCE に値を指定して、指定されたエンキューを所有または待機している UOW に関する情報のみを戻す。
- START コマンドで ENQSCOPE に値を指定して、指定された enqscope を持つエンキューのみを戻す。ENQSCOPE がブランクとして指定されている場合、ローカル・エンキューのみが戻されます。

INQUIRE UOWENQ START コマンドで UOW、RESOURCE、または ENQSCOPE の値を指定しない場合、CICS 全体のブラウズが行われます。ローカル・システム上のすべてのエンキュー所有者およびエンキュー待機側が、ブラウズによって戻されます。これらは、各 UOW を順番に検討することによって戻されます。ある UOW が所有するすべてのエンキューが戻された後、システム内の次の UOW が所有しているエンキューが検討されます。

このコマンドは、エンキューの所有者に関する情報を戻すだけでなく、これらのエンキューを待機している UOW に関する情報も戻します。これにより、同じリソースの更新を必要とする複数のタスク間でエンキューのデッドロックを診断することができます。この診断により、遅延の原因を分析するときに、他の方法で「どの UOW がエンキューを保持しているか」という質問に答えるよりもパフォーマンスが向上します。

通常、エンキューはアクティブ状態で保持されます。これは、他のタスクがそのエンキューを待機できることを意味します。ただし、エンキューを所有する UOW で未確定の障害が発生した場合、CICS エンキューが通常どおりリテイン状態に変換されている間、その未確定の障害が解決されるまで、ユーザー ENQ は解放されます。ユーザー ENQ は、CICS 障害後に保持されないので、リカバリー可能リソースのロックには使用されません。また、INQUIRE UOWENQ コマンドはリテインされたエンキューに関する情報を取得するので、UOW が強制された場合にどのレコードとキューが影響を受けるかを特定するのに使用できます。

INQUIRE UOWENQ は、ローカル・システム上の UOW に関する情報のみを戻します。SYSPLEX SCOPE が指定されたエンキューの場合、OWNER はローカル・システムに存在し、一部またはすべての待機側は他の場所に存在するか、またはエンキュー OWNER がシスプレックス内の他の場所に存在し、一部またはすべての待機側はローカル・システムに存在する可能性があります。この場合、ローカル待機側のみが戻されます。

ブラウズ

INQUIRE UOWENQ コマンドでブラウズ・オプション (START、NEXT、および END) を使用すると、特定の UOW によって保持されるすべてのエンキュー、またはシステム内に現在あるすべてのエンキューをブラウズすることができます。ブラウズに関する一般情報 (構文、例外条件、および例を含む) については、Browsing resource definitionsを参照してください。

ブラウズは、エンキュー所有者とエンキュー待機側の両方を戻します。これらは、エンキューを所有する各 UOW を順番に検討することによって戻されます。ある UOW が所有するすべてのエンキューが戻された後、システム内の次の UOW が所有しているエンキューが検討されます。エンキュー待機側が待機しているエンキューの後から、現在の UOW が所有している次のエンキューの前までのエンキュー待機側が戻されます。INQUIRE UOWENQ START は、最初のエンキューのデータを取得しないことに注意してください。また、エンキューは定義された順序で戻されないので、開始点を指定することはできません。

INQUIRE UOWENQ START コマンドで UOW の値を指定しない場合、CICS 全体のブラウズが行われます。すべてのエンキュー所有者およびエンキュー待機側が、ブラウズによって戻されます。INQUIRE UOWENQ NEXT コマンドを初めて使用すると、そのコマンドは、所有されている最初のエンキューのデータを戻します。これは RELATION(OWNER) で戻されます。エンキューに待機側がある場合、待機側ごとに同じエンキューが戻されますが、これには RELATION(WAITER) が使用されます。UOW、NETUOWID、TASKID、および TRANSID の各フィールドは、その特定の待機側に対応します。その他のすべてのデータは、RELATION(OWNER) を指定して戻された場合と同じです。最後の待機側が戻された後、コマンドの次回発行時に、所有されている次のエンキューがあれば、そのエンキューが戻されます。

START コマンドで UOW に値を指定すると、その値は「フィルター」として機能します。つまり、その特定の UOW によって所有されているエンキューのみが戻されます (OWNER の RELATION を使用)。UOW がエンキューを待機している場合、これも戻されます (ただし、WAITER の RELATION を使用)。

エンキューの状態は、ブラウズの期間中、または連続した INQUIRE NEXT コマンド間でもロックされないことに注意してください。一貫した状態ビューを受け取るために、ブラウズが進行中、ブラウズを実行しているタスクは別のタスクに制御を渡してはなりません。ブラウズによって最後に戻されるエンキューの所有者が、連続した INQUIRE NEXT コマンド間で変わる場合、ブラウズは、新しい所有者と待機側と一緒に再度エンキューを戻します。

注:

1. システム内に多数のエンキューがある場合、CICS がブラウズを処理するのにに長時間かかることがあります。このような場合は、ブラウズを実行するタスクのランナウェイ間隔を長くすることを検討してください。(これを行うには、関連した TRANSACTION 定義で RUNAWAY 属性の値を増やします)。

2. UOW 存続時間とタスク存続時間のエンキューはどちらも、INQUIRE UOWENQ によって戻されます。(UOW 存続時間とタスク存続時間のエンキューの説明については、EXEC CICS ENQ コマンドの MAXLIFETIME オプションを参照してください。)
3. 未確定の障害では、ユーザー・エンキューは解放されます。ただし、EXEC CICS ENQ コマンドに MAXLIFETIME(TASK) が指定され、障害が起きたタスク終了同期点ではない場合を除きます。

オプション

DURATION(*data-area*)
エンキューが所有者、待機側、またはリテイン済みの現行状態になった以降の経過時間 (秒単位) をフルワード・バイナリー値として戻します。

ENQFAILS(*data-area*)
リテインされたエンキューの場合、エンキューが最後に獲得された後、このリソースに対するエンキューの試行が失敗した回数を戻します。これは、このエンキューがリテイン状態で維持されたために LOCKED 応答を受け取った UOW 数を示します。アクティブ・エンキューの場合、ENQFAILS はゼロを戻します。

ENQFAILS オプションは、保持ロックのために障害が起きた UOW 数を示すので、このオプションを使用して、ボトルネックの原因となっている中断状態の UOW を特定できます。

ENQSCOPE(*data-area*)
エンキューにシスプレックス有効範囲がある場合、ENQSCOPE は、この CICS 領域によって発行されたシスプレックス全体にわたる ENQUEUE 要求を限定するために使用された 4 文字の名前を戻します。領域有効範囲がある場合、ENQSCOPE はブランクを戻します。

同じ ENQSCOPE 値を持つすべての CICS システムは、同じシスプレックス・エンキュー名前空間を共用します。

ENQSCOPE は、START コマンドの値を指定するのにも使用できます。これは、指定された有効範囲名のエンキューのみを戻すように INQUIRE を制限します。ENQSCOPE がブランクとして指定されている場合、ローカル・エンキューのみが戻されます。

NETUOWID(*data-area*)
データが戻されるエンキューを所有または待機している UOW の 1 文字から 27 文字のネットワーク全体の LU6.2 ID を戻します。

QUALIFIER(*data-area*)
エンキューに関連付けられているリソースをさらに詳しく識別する、0 文字から 255 文字の修飾子 (オプション) を戻します。 640 ページの表 39で要約されているように、このフィールドに戻されるデータがある場合、そのデータはエンキューの TYPE によって異なります。

QUALLEN(*data-area*)
QUALIFIER フィールドに戻されるデータの長さ (0 から 255 の範囲) を示すハーフワード・バイナリー値を戻します。QUALIFIER データがリソースに適用されない場合 (すなわち、EXECQENQ、EXECENQADDR、および TSQUEUE の場合)、値ゼロが戻されます。

RELATION(*cvda*)
戻されるデータが、エンキューの所有者に関連しているか、エンキューを待機しているタスクに関連しているかを示す CVDA 値を戻します。 CVDA 値は次のとおりです。

OWNER
UOW、NETUOWID, TASKID、および TRANSID は、エンキューの所有者のものです。

WAITER
UOW、NETUOWID, TASKID、および TRANSID は、エンキューの待機側のものです。

RESLEN(*data-area*)
RESOURCE フィールドに戻されるデータの長さ (1 から 255 の範囲) を示すハーフワード・バイナリー値を戻します。

START コマンドの入力として RESOURCE が使用される場合、RESLEN の入力も必要です。

RESOURCE(*data-area*)
エンキュー・ロックに関連付けられているリソースの 1 文字から 255 文字の名前を戻します。 640 ページの表 39で要約されているように、このフィールドに戻されるデータはエンキューの TYPE によって異なります。

RESOURCE は、START コマンドの値を指定するのにも使用できます。これにより、INQUIRE は、指定されたエンキューを所有または待機している UOW に関する情報のみを戻すように制限されます。

STATE(*cvda*)
戻されるエンキューが保持されている状態を示す CVDA 値を戻します。これは、INQUIRE UOWENQ NEXT コマンドで戻されます。CVDA 値は次のとおりです。

ACTIVE
エンキューはアクティブ状態で保持されます。

RETAINED
エンキューはリテイン状態で保持されます。それを所有する UOW が中断されたか、中断処理中です。

TASKID(*data-area*)
UOW に関連付けられたタスクの番号を示す、4 バイトのパック 10 進値を戻します。この UOW が中断された場合、これは、中断される前に UOW に関連付けられたタスク番号です。

TRANSID(*data-area*)
UOW に関連付けられているトランザクションの 1 文字から 4 文字の ID を戻します。この UOW が中断された場合、中断される前に UOW に関連付けられたトランザクションの ID です。

TYPE(*cvda*)
エンキューされているリソースのタイプを示す CVDA 値を戻します。 CVDA 値は次のとおりです。

DATASET
リソースは、非 RLS モードでオープンされた VSAM データ・セット内のレコード (または CICS で保守されるデータ・テーブル) です。RESOURCE にはデータ・セットの名前が含まれ、QUALIFIER にはレコード ID が含まれます。CICS は、RLS モードでオープンされた非 RLS データ・セットのエンキューを保持しないことに注意してください。この場合、VSAM はロックを行います。

EXECENQ
リソースは、EXEC CICS ENQ 要求に関連付けられています。RESOURCE には、要求で渡されたエンキュー引数が含まれています。

EXECENQADDR
リソースは、EXEC CICS ENQ 要求に関連付けられています。RESOURCE には、要求で渡されたアドレス・エンキュー引数が含まれています (すなわち、この要求では LENGTH パラメーターが省略されました)。

FILE リソースは、BDAM ファイルまたはユーザー保守のデータ・テーブル内のレコードです。RESOURCE にはファイルの名前が含まれ、QUALIFIER にはレコード ID が含まれます。

ファイルが BDAM ファイルである場合、レコード ID には BDAM ブロック ID が接頭部として付けられます。この組み合わせが 255 文字を超える場合、切り捨てが行われることに注意してください。

TDQUEUE
リソースは、論理的にリカバリー可能な一時データ・キューです。RESOURCE にはキューの名前が入ります。QUALIFIER には、ストリング「FROMQ」または「TOQ」のどちらかが入ります。これは、そのキューに対して保持されるのが入力ロックか出力ロックかを示します。

TDQUEUE リソース定義における WAITACTION 属性の定義によって、未確定の失敗時に TDQUEUE エンキューに何が起きるかが決まることに注意してください。 WAITACTION 属性の定義については、TDQUEUE 属性を参照してください。

READQ TD 要求は「FROMQ」ロックを獲得し、WRITEQ TD 要求は、キューに関連付けられた「TOQ」ロックを獲得します。DELETEQ TD 要求は「TOQ」ロックと「FROMQ」ロックの両方を獲得します。

TSQUEUE
リソースは、リカバリー可能な一時記憶域キューです。RESOURCE にはキューの名前が入ります。

他のコンポーネントと異なり、リカバリー可能一時記憶域キューに関連付けられたエンキューは、リテイン状態のエンキューのみであり、未確定の失敗の結果中断された UOW で所有されます。一時記憶域コンポーネントは、実行中の UOW にキューをロックするために独自のメカニズムを使用します。

640 ページの表 39 に示されているように、RESOURCE フィールドと QUALIFIER フィールドで戻されるデータは、リソースの TYPE によって決まります。

表 39. *RESOURCE* および *QUALIFIER* で戻されるデータ

TYPE	RESOURCE	QUALIFIER
DATASET	Data set name (データ・セット名)	レコード ID
EXECENQ	EXEC エンキュー引数	なし
EXECENQADDR	EXEC エンキュー引数のアドレス	なし
FILE	ファイル名 (File name)	レコード ID
TDQUEUE	TD キュー名	FROMQ または TOQ
TSQUEUE	TS キュー名	なし

UOW(*data-area*)
データが戻されるエンキューを所有または待機している UOW の 16 バイトのローカル ID を戻します。最後の 8 バイトは常にヌル (X'00') です。

UOW フィールドは、START コマンドの値を指定するのにも使用できます。これにより、INQUIRE は、指定された UOW が保持または待機しているエンキューのみを戻すように制限されます。

条件

END
RESP2 値は以下のとおりです。

2 すべてのエンキューが取得されました。

ILLOGIC
RESP2 値は以下のとおりです。

1 INQUIRE UOWENQ START の場合、このリソース・タイプのブラウズはすでに進行中であることを意味します。INQUIRE UOWENQ NEXT および INQUIRE UOWENQ END の場合、INQUIRE UOWENQ START コマンドが発行されていないことを意味します。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 このコマンドの使用は許可されていません。

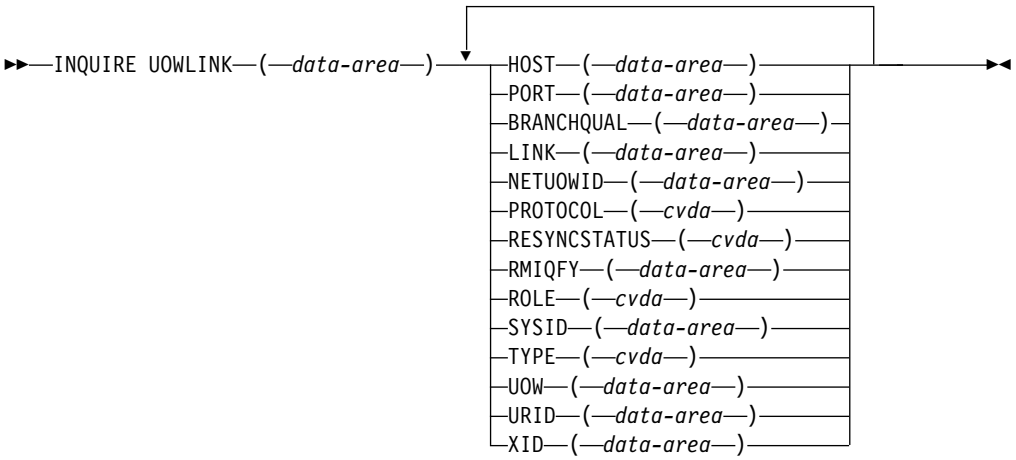
UOWNOTFOUND
RESP2 値は以下のとおりです。

1 指定された UOW が見つかりません。

INQUIRE UOWLINK

作業単位に関係した接続についての情報を取得します。

INQUIRE UOWLINK



条件: END、ILLOGIC、NOTAUTH、UOWLNOTFOUND、UOWNOTFOUND

CVDA の使用の詳細については、CICS-value data areas (CVDAs)を参照してください。

説明

INQUIRE UOWLINK コマンドは、作業単位に関係する接続に関する情報を取得します。接続はリモート・システムへの接続の場合、タスク関連ユーザー出口への接続の場合、または CFDT サーバーへの接続の場合があります。

リモート・システムへの接続である場合、INQUIRE UOWLINK は、接続のネット名、そのシステム ID、およびコーディネーターであるか、従属であるかを戻します。タスク関連ユーザー出口への接続である場合、INQUIRE UOWLINK は出口のエントリー名と修飾子を戻します。CFDT サーバーへの接続である場合、INQUIRE UOWLINK はプール名を戻します。

ブラウズ

INQUIRE UOWLINK コマンドのブラウズ・オプション (START、NEXT、および END) を使用して、すべての UOW リンクをブラウズすることができます。ブラウズに関する一般情報 (構文、例外条件、および例を含む) については、Browsing resource definitionsを参照してください。

このコマンドのブラウズ形式は、コマンドが発行された元の CICS システムに直接接続されている接続のすべての UOW リンクの状態を戻します。どの接続が使用不可であるか、コールド・スタートにより初期設定されたかを示します。

INQUIRE UOWLINK START コマンドは、CICS リカバリー・マネージャー・テーブル内の最初の UOW リンクに内部ポインターを配置します。最初のリンクのデータを取得せず、開始点を指定できません。

INQUIRE UOWLINK NEXT コマンドを初めて使用すると、最初の UOW リンクに関する情報が戻されます。コマンドが再び使用されるたびに、次の UOW リンクがあれば、そのリンクの ID および状態が取得されます。UOW フィールドに値を指定すると、戻される UOW リンクをフィルターに掛けることができます。

ブラウズでは、最初の INQUIRE NEXT の前に存在し、最後の INQUIRE NEXT 後にも引き続き存在している UOW リンクごとのデータが、まさに 1 つの INQUIRE NEXT 呼び出しで戻されることが保証されます。

オプション

BRANCHQUAL(*data-area*)
XA トランザクション ID が存在する場合は、そのトランザクション ID の 64 文字のブランチ修飾子を戻します。

HOST(*data-area*)
TYPE 値が IPIC である場合、OTS トランザクションの参加者を参照するために使用される、TCP/IP ホスト名、またはコロン 16 進またはドット 10 進 TCP/IP アドレスを含むストリングを戻します。この名前は、特に、問題が発生した場合、参加者を識別するのに便利です。HOST は 255 文字のデータ域です。255 文字よりも少ないストリングには、ブランクが埋め込まれます。

その他の TYPE 値の場合、HOST はブランクを戻します。

LINK(*data-area*)
戻される値は、戻される接続の TYPE によって異なります。

RMI タスク関連ユーザー出口のエントリー名。

CFTABLE
カップリング・ファシリティー・データ・テーブル・プールの 8 文字の名前。

IPCONN
リモート・システムの 8 文字の APPLID。

JVMSERVER
この UOWLINK が関連するトランザクションを開始した JVMSERVER の名前。

NETUOWID(*data-area*)
データが戻される UOW の 1 文字から 27 文字のネットワーク全体の LU6.2 ID を戻します。

PORT(*data-area*)
TYPE 値が IPIC である場合、接続が獲得されたときにパートナー・システムが listen していた TCP/IP ポート番号を戻します。ポートの番号は 1 から 65535 の範囲内であり、他の TYPE 値の場合はゼロです。

PROTOCOL(*cvda*)
接続で使用される通信プロトコルを示す CVDA 値を返します。 CVDA 値は以下のとおりです。

APPC 拡張プログラム間通信機能。

IRC 領域間通信。この接続は MRO 接続です。

LU61 LUTYPE 6.1。

IPIC IP 相互接続性このタイプの接続は、IPCONN リソースを使用して行われます。

NOTAPPLIC
この接続のタイプは CFTABLE または RMI です。

OTS JTA の XID のグローバル・トランザクション ID (GTRID) を含む OTS リンク。

RRMS
UOW は、RRS/MVS によって調整されます。

RESYNCSTATUS(*cvda*)
接続の再同期状況を示す CVDA 値を戻します。 CVDA 値は以下のとおりです。

COLD
接続のコールド・スタートがパートナー・システムによって実行されました。パートナーは、このシステムの未確定状態を調整できなくなりました。さらに、このシステムはパートナーについて記憶されている決定をパートナーに渡すことができません。

NOTAPPLIC
接続は、リカバリー・プロトコルを使用して作成されませんでした。RMI、APPC 単一セッション、APPC 同期レベル 1 接続、IPCONN、または CFDT サーバーである可能性があります。

OK 接続は正常に実行されています。パートナー・システムに障害が起きた場合、パートナーは再始動され、接続は関連する UOW を再同期することができます。

STARTING
接続を獲得中ですが、交換ログ名処理がまだ完了していません。

UNAVAILABLE
接続は現在獲得されていません。

UNCONNECTED
関連する接続がありません。

RMIQFY(*data-area*)
TYPE 値が RMI である場合、タスク関連ユーザー出口の 8 文字の入力修飾子を戻します。TYPE が CONNECTION、IPCONN、CFTABLE または RMIQFY である場合、ブランクを戻します。

ROLE(*cvda*)
接続の役割を示す CVDA 値を戻します。 CVDA 値は次のとおりです。

COORDINATOR
この接続は、UOW の同期点コーディネーターへの接続です。

SUBORDINATE
この接続は、UOW の同期点従属への接続です。

UNKNOWN
この接続の同期点の役割は判別できません。

SYSID(*data area*)
TYPE 値が CONNECTION である場合、接続の 4 文字の SYSID を戻します。接続が破棄されているか、タイプが RMS、CFTABLE、または IPCONN であるか、または PROTOCOL オプションが RRMS を戻す場合、SYSID はブランクを戻します。

TYPE(*cvda*)
接続のタイプを示す CVDA 値を戻します。CVDA 値は以下のとおりです。

CFTABLE
CFDT サーバーへの接続。

CONNECTION
CONNECTION リソース定義で定義された接続。

IPCONN
IPCONN リソース定義で定義された接続。

JVMSERVER
Liberty JVM サーバーへの接続。

RMI リソース・マネージャー・インターフェース (RMI) を使用した、外部リソース・マネージャーへの接続。

UOW(*data-area*)
リンク・データが戻される UOW の 16 バイトのローカル ID を戻します。最後の 8 バイトは常にヌル (X'00') です。

UOWLINK(*data-area*)
データが戻される UOW リンクを識別する 4 バイトのトークンを指定します。

URID(*data-area*)
PROTOCOL フィールドに RRMS が戻される場合、このオプションは、RRMS リカバリー単位 ID の 32 バイト 16 進表記を戻します。その他の PROTOCOL 値 (OTS を含む) の場合、URID はブランクを戻します。

XID(*data-area*)
XA トランザクション ID が存在する場合は、そのトランザクション ID の 64 文字のグローバル・トランザクション ID を戻します。

条件

END
RESP2 値は以下のとおりです。

2 許可されているすべてのリソース定義が取得されました。

ILLOGIC
RESP2 値は以下のとおりです。

1 INQUIRE UOWLINK START の場合、このリソース・タイプのブラウズはすでに進行中であることを意味します。INQUIRE UOWLINK NEXT および INQUIRE UOWLINK END の場合、INQUIRE UOWLINK START コマンドが発行されていないことを意味します。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 このコマンドの使用は許可されていません。

UOWLNOTFOUND
RESP2 値は以下のとおりです。

1 指定された UOW リンクが見つかりません。

UOWNOTFOUND

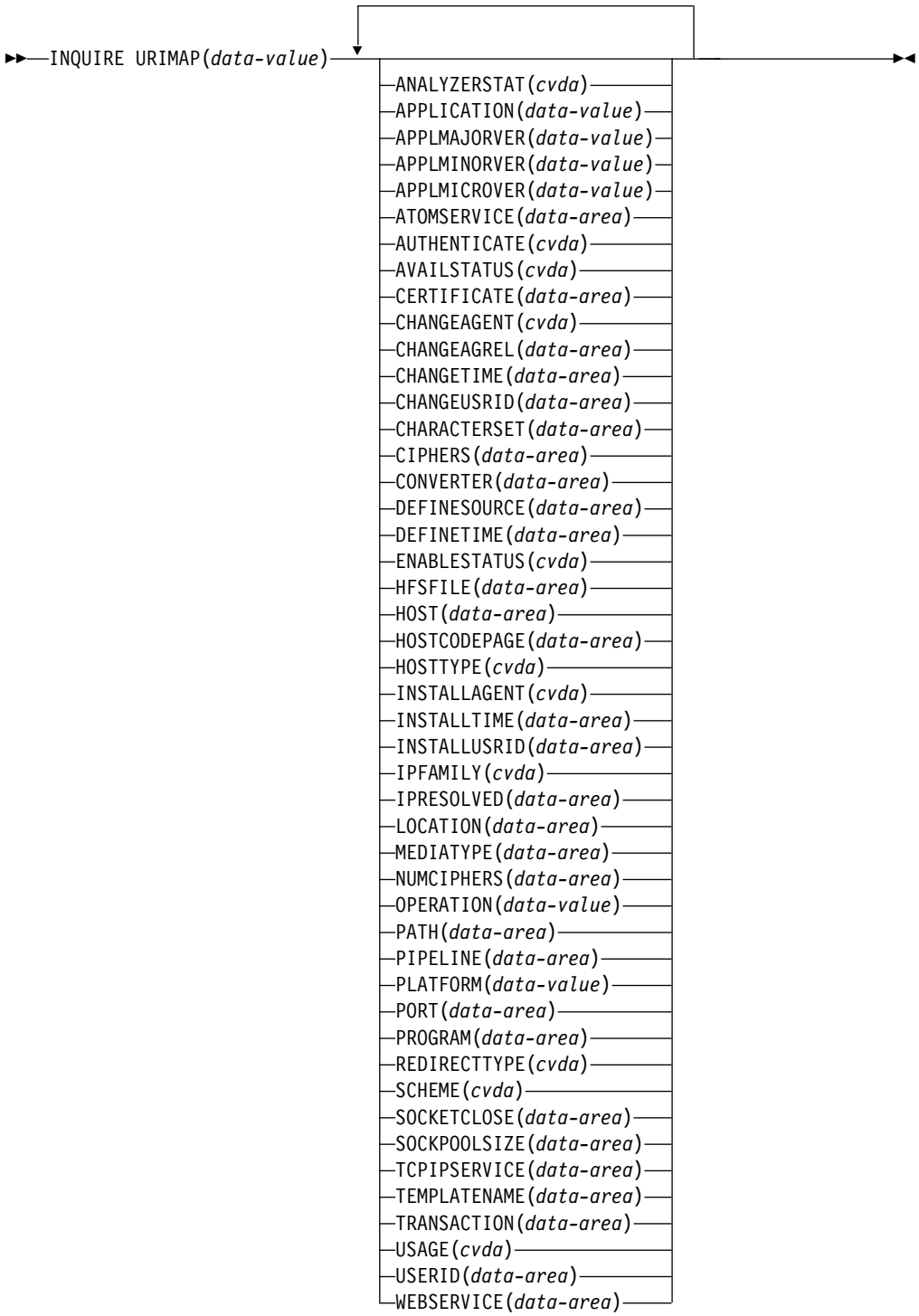
RESP2 値は以下のとおりです。

1 指定された UOW が見つかりません。

INQUIRE URIMAP

CICS 領域の URIMAP リソースに関する情報を取得します。

INQUIRE URIMAP



条件**:** END、ILLOGIC、NOTAUTH、NOTFND

このコマンドはスレッド・セーフです。

ブラウズ

INQUIRE URIMAP コマンドでブラウズ・オプション (START、NEXT、および END) を使用することにより、領域にインストールされているすべての URIMAP 定義を

ブラウズすることもできます。ブラウズに関する一般情報 (構文、例外条件、および例を含む) については、Browsing resource definitionsを参照してください。

リソース・シグニチャー

このコマンドを使用して、リソース・シグニチャー・フィールドを検索することができます。これらのフィールドを使用すると、リソースの定義時、インストール時、および最終変更時の詳細データを収集して、リソースを管理できます。 詳しくは、Auditing resourcesを参照してください。 リソース・シグニチャー・フィールドは BUNDLE、CHANGEAGENT、CHANGEAGREL、CHANGETIME、CHANGEUSRID、DEFINESOURCE、DEFINETIME、INSTALLAGENT、INSTALLTIME、および INSTALLUSRID です。リソース・シグニチャー・フィールドの内容について詳しくは、Summary of the resource signature field valuesを参照してください。

オプション

ANALYZERSTAT*(cvda)*
TCPIPSERVICE 定義に関連付けられているアナライザー・プログラムを実行するかどうかを示す CVDA 値を戻します。CVDA 値は以下のとおりです。

ANALYZER
アナライザー・プログラムは実行されます。

NOANALYZER
アナライザー・プログラムは実行されません。

この属性は、USAGE(SERVER) の属性です。他のすべての使用タイプの場合は、強制的に NO にされます。

APPLICATION*(data-value)*
この URIMAP リソースがアプリケーション・エントリー・ポイントとして宣言されているアプリケーションのアプリケーション名を示す 64 文字の領域を返します。 URIMAP リソースがアプリケーション・エントリー・ポイントとして定義されていない場合、APPLICATION はブランクを戻します。

APPLMAJORVER*(data-value)*
この URIMAP リソースがアプリケーション・エントリー・ポイントとして宣言されているアプリケーションのメジャー・バージョン番号を、フルワード・バイナリー形式で返します。 URIMAP リソースがアプリケーション・エントリー・ポイントとして定義されていない場合、APPLMAJORVER は -1 を戻します。

APPLMINORVER*(data-value)*
この URIMAP リソースがアプリケーション・エントリー・ポイントとして宣言されているアプリケーションのマイナー・バージョン番号を、フルワード・バイナリー形式で返します。 URIMAP リソースがアプリケーション・エントリー・ポイントとして定義されていない場合、APPLMINORVER は -1 を戻します。

APPLMICROVER*(data-value)*
この URIMAP リソースがアプリケーション・エントリー・ポイントとして宣言されているアプリケーションのマイクロ・バージョン番号を、フルワード・バ

イナリー形式で返します。 URIMAP リソースがアプリケーション・エントリー・ポイントとして定義されていない場合、APPLMICROVER は -1 を戻します。

ATOMSERVICE*(data-area)*
Atom フィードに関する ATOMSERVICE リソース定義の 1 文字から 8 文字までの名前を戻します。ATOMSERVICE リソース定義は、Atom サービス、フィード、コレクション、またはカテゴリー文書を定義し、Atom 構成ファイル、CICS リソースまたはアプリケーション・プログラム、およびフィード用のデータを提供するために使用される XML バインディングを識別します。この属性は *USAGE(ATOM)* 用です。

AUTHENTICATE*(cvda)*
認証情報を Web サービス・プロバイダーに提供するかどうかを示す CVDA 値を戻します。この属性は USAGE(CLIENT) 用です。CVDA 値は以下のとおりです。

BASICAUTH
Web サービス・プロバイダーは HTTP 基本認証を要求します。 Web サービス・リクエスターへの資格情報 (ユーザー ID とパスワード) をグローバル・ユーザー出口 XWBAUTH に提供できます。このユーザー出口が使用可能になっている場合、そこから Web サービス・プロバイダーに資格情報が送られます。

NOAUTHENTIC
Web サービス・プロバイダーは認証を要求しません。

AVAILSTATUS*(cvda)*
プラットフォームにデプロイされたアプリケーションのアプリケーション・エントリー・ポイントとしての URIMAP リソースの可用性状況を返します。

AVAILABLE
URIMAP リソースはアプリケーション・エントリー・ポイントとして宣言されていて、アプリケーション・エントリー・ポイントがその可用性を制御し、かつ使用可能であるため、呼び出し元は URIMAP リソースを使用できます。

UNAVAILABLE
URIMAP リソースはアプリケーション・エントリー・ポイントとして宣言されていますが、その可用性を制御するアプリケーション・エントリー・ポイントが使用不可であるため、呼び出し元は URIMAP リソースを使用できません。

なし 呼び出し元は URIMAP リソースを使用できます。 URIMAP リソースがアプリケーション・エントリー・ポイントとして宣言されていません。あるいは、アプリケーション・エントリー・ポイントとして宣言されてはいますが、そのアプリケーション・エントリー・ポイントが使用不可になっているか、URIMAP リソースの可用性を制御していません。

CERTIFICATE*(data-area)*
HTTP クライアントとしての CICS によって、HTTP 要求に関する SSL クライアント証明書として使用される証明書のラベルを含む、32 文字のデータ域を戻します。この属性は *USAGE(CLIENT)* 用です。

CHANGEAGENT(*cvda*)
リソース定義を最後に変更したエージェントを識別する CVDA 値を戻します。有効な値は、以下のとおりです。

CREATESPI
リソース定義は **EXEC CICS CREATE** コマンドによって最後に変更されました。

CSDAPI
リソース定義は、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによって最後に変更されました。

CSDBATCH
リソース定義は、DFHCSDUP ジョブによって最後に変更されました。

DREPAPI
リソース定義は、CICSPlex SM BAS API コマンドによって最後に変更されました。

DYNAMIC
リソース定義は、PIPELINE スキャンによって最後に変更されました。

SYSTEM
リソース定義は、CICS または CICSPlex システムによって最後に変更されました。

CHANGEAGREL(*data-area*)
リソース定義の最終変更時に実行していた CICS リリースの 4 桁の数値を戻します。

CHANGETIME(*data-area*)
リソース定義の最終変更時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。ABSTIME 値のフォーマットについて詳しくは、FORMATTIMEを参照してください。

CHANGEUSRID(*data-area*)
変更エージェントを実行した 8 文字のユーザー ID を戻します。

CHARACTERSET*(data-area)*
静的応答に使用される文字セットの名前を含む、40 文字のデータ域を戻します。この属性は、USAGE(SERVER) の属性です。

CIPHERS*(data-area)*

SSL ハンドシェークの際にクライアントとネゴシエーションするために使用される暗号スイートのリストを格納する 56 文字の領域か、または SSL 暗号スイート仕様ファイルの名前のいずれかを返します。後者の場合、このファイルは、**USSCONFIG** システム初期設定パラメーターで指定されたディレクトリーの `security/ciphers` サブディレクトリーにある z/OS UNIX ファイルです。詳細については、暗号スイートおよび暗号スイート仕様ファイルを参照してください。 暗号スイートのリストは、SSL 接続の折衝に使用されます。この属性は *USAGE(CLIENT)* 用です。

CONVERTER(*data-area*)
HTTP サーバーとしての CICS のために変換などの処理を実行するコンバーター・プログラムの 8 文字の名前を戻します。この属性は、USAGE(SERVER) の属性です。

DEFINESOURCE(*data-area*)
リソース定義の 8 文字のソースを戻します。DEFINESOURCE 値は CHANGEAGENT 値に依存します。詳しくは、Summary of the resource signature field valuesを参照してください。

DEFINETIME(*data-area*)
リソース定義の作成時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。

ENABLESTATUS(*cvda*)
この URIMAP 定義の状況を示す CVDA 値を戻します。CVDA 値は以下のとおりです。

ENABLED
URIMAP 定義は使用可能です。

DISABLED
URIMAP 定義は使用不可です。この状況の URIMAP 定義は、廃棄できます。

DISABLEDHOST
URIMAP 定義がその一部を成している仮想ホストが使用不可になっているので、この定義は使用不可です。仮想ホストを構成するすべての URIMAP 定義を再び使用可能にするには、**SET HOST** コマンドを使用します。この状況の URIMAP 定義は、廃棄できません。

HFSFILE(*data-area*)
静的応答を形成する z/OS UNIX システム・サービス・ファイルの完全修飾 (絶対) または相対名を含む、255 文字のデータ域を戻します。この属性は、USAGE(SERVER) の属性です。

HOST(*data-area*)
116 文字のホスト名か、その IPv4 または IPv6 アドレスを戻します。HOST オプションは、文字ホスト名、IPv4 アドレス、または IPv6 アドレスにすることができます。HOST はリソース定義に指定されます。HOST は、使用されるアドレス・フォーマットのタイプにかかわらず、すべての IPv4 アドレスを、1.2.3.4 などの、ネイティブの IPv4 ドット 10 進アドレスとして表示します。 IPv4 アドレスと IPv6 アドレスは、複数のフォーマットで指定することができます。アドレス・フォーマットについて詳しくは、IP アドレスを参照してください。

USAGE(CLIENT) では、HOST にネイティブ IPv4 アドレスまたはホスト名が含まれている場合は、HOST オプションでポート番号も表示されます。しかし、長さが 110 文字を超えるホスト名を指定すると、HOST オプションでポート情報は表示されません。この規則は、IPv6 フォーマットで IPv4 アドレスを指定する場合にも適用されます。ポート番号を表示するには、PORT オプションを使用します。

HOSTCODEPAGE(*data-area*)
静的応答を形成するテキスト文書がエンコードされている IBM コード・ページ

(EBCDIC) の 1 文字から 10 文字の名前を含む、10 文字のデータ域を戻します。この属性は、USAGE(SERVER) の属性です。

HOSTTYPE(*cvda*)
HOST オプションのアドレス・フォーマットを返します。 HOSTTYPE は、URIMAP のインストール時に CICS によって設定されます。CVDA 値は以下のとおりです。

HOSTNAME
HOST オプションには、文字のホスト名が含まれます。ホスト名に対応する IP アドレスが、ドメイン・ネーム・サーバー内で検索されます。

IPV4 アドレスは、IPv4 (小数点付き 10 進数アドレス・フォーマット) で指定します。

IPV6 アドレスは IPv6 (コロン付き 16 進数アドレス・フォーマット) で指定します。

NOTAPPLIC
誤ったホスト・アドレスが返された (`HOST=0.0.0.0` または `HOST=*`) か、`HOSTTYPE` オプションが URIMAP(ATOM)、URIMAP (JVMSERVER)、URIMAP(PIPELINE)、または URIMAP(SERVER) と一緒に指定されました。

INSTALLAGENT(*cvda*)
リソースをインストールしたエージェントを識別する CVDA 値を戻します。有効な値は、以下のとおりです。

BUNDLE
リソースは、バンドルのデプロイメントによってインストールされました。

CREATESPI
リソースは、**EXEC CICS CREATE** コマンドによってインストールされました。

CSDAPI
リソースは、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによってインストールされました。

DYNAMIC
リソースは、PIPELINE スキャンを使用してインストールされました。

GRPLIST
リソースは、**GRPLIST INSTALL** によってインストールされました。

INSTALLTIME(*data-area*)
リソースのインストール時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。

INSTALLUSRID(*data-area*)
リソースをインストールした 8 文字のユーザー ID を戻します。

IPFAMILY(*cvda*)
IPRESOLVED オプションのアドレス・フォーマットを戻します。CVDA 値は以下のとおりです。

IPV4 アドレスは、IPv4 (小数点付き 10 進数アドレス・フォーマット) で指定します。

IPV6 アドレスは IPv6 (コロン付き 16 進数アドレス・フォーマット) で指定します。

UNKNOWN
IPRESOLVED がまだ使用中でないか、アドレスを解決できません。IPRESOLVED が 0.0.0.0 である場合、または IPFAMILY オプションが USAGE(ATOM)、USAGE(JVMSERVER)、USAGE(PIPELINE)、または USAGE(SERVER) と一緒に使用された場合のデフォルト値が、UNKNOWN です。

IPRESOLVED(*data-area*)
HOST オプションの IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレスを指定する、39 文字のフィールドを戻します。この属性は、USAGE(SERVER) および USAGE(JVMSERVER) を除くすべてのタイプの属性です。URIMAP がインストールされているものの、接続の確立にまだ使用されていない場合、またはアドレスを解決できない場合は、デフォルト値 0.0.0.0 が戻されます。 URIMAP が接続を確立すると、IPRESOLVED は、リソースが接続に使用した解決済みの IP アドレスを表示します。リソースが使用不可のとき、IPRESOLVED は 0.0.0.0 にリセットされます。ウォーム・リスタートや緊急リスタートの後に IPRESOLVED の内容をリカバリーすることはできません。

LOCATION(*data-area*)
Web クライアントからの一致する HTTP 要求のリダイレクト先の URL を含む、255 文字の領域を戻します。リダイレクトは、REDIRECTTYPE オプションで指定される設定によってアクティブにされます。この属性は、USAGE(SERVER)、USAGE(PIPELINE)、または USAGE(ATOM) の属性です。

MEDIATYPE(*data-area*)
静的応答のデータ内容の説明を含む、56 文字のデータ域を戻します。この属性は、USAGE(SERVER) の属性です。

NUMCIPHERS(*data-area*)
CIPHERS リスト内の暗号コードの数を含むハーフワード・バイナリー値を戻します。**CIPHERS** でファイル名が指定された場合、このフィールドには 0 が入ります。この暗号は、SSL ハンドシェークの一部として暗号化レベルの折衝に使用されます。この属性は *USAGE(CLIENT)* 用です。

OPERATION(*data-value*)
この URIMAP リソースがアプリケーション・エントリー・ポイントとして宣言されているアプリケーションのオペレーション名を示す 64 文字の領域を返します。 URIMAP リソースがアプリケーション・エントリー・ポイントとして定義されていない場合、OPERATION はブランクを戻します。

PATH(*data-area*)
URIMAP 定義が適用される URL のパス・コンポーネントを含む 255 文字のデータ域を戻します (例えば、software/htp/cics/index.html)。この属性は、すべての使用タイプの属性です。

PIPELINE(*data-area*)
Web サービスの PIPELINE リソース定義の 8 文字の名前を戻します。

PIPELINE リソース定義は、クライアントからのサービス要求に応じて処理をするメッセージ・ハンドラーに関する情報を提供します。この属性は、USAGE(PIPELINE) の属性です。

PLATFORM*(data-value)*
この URIMAP リソースがアプリケーション・エントリー・ポイントとして宣言されているアプリケーションのプラットフォーム名を示す 64 文字の領域を返します。 URIMAP リソースがアプリケーション・エントリー・ポイントとして定義されていない場合、PLATFORM はブランクを戻します。

PORT*(data-area)*
サーバーに対する接続のポート番号の値を 1 から 65535 までの範囲のフルワード・バイナリー値で戻します。

USAGE(CLIENT) の場合、PORT オプションは、クライアント接続に使用されるポート番号を表示します。HOST にネイティブの IPv4 アドレスまたはホスト名が入っている場合には、HOST オプションにもポート番号が表示されます。USAGE(CLIENT) の場合、定義時に URIMAP に PORT(NO) が指定されていても、PORT 属性には通信に使用されるポート番号が常に含まれます。PORT はリソース定義に指定されます。

USAGE(JVMSERVER) の場合、PORT オプションにより、Liberty プロファイル・サーバーで実行中のアプリケーションにアクセスするための要求の受信に使用するポート番号が表示されます。

USAGE(ATOM)、USAGE(SERVER)、または USAGE(PIPELINE) の場合、PORT オプションは PORT(NO) に設定します。

PROGRAM*(data-area)*
HTTP 要求に対するアプリケーション生成の応答を構成するアプリケーション・プログラムの 8 文字の名前を戻します。このオプションは、USAGE(SERVER) のオプションです。

REDIRECTTYPE*(cvda)*
この URIMAP 定義と一致する要求に関するリダイレクトのタイプを示す CVDA 値を戻します。リダイレクトに関する URL は、LOCATION オプションで指定されます。この属性は、USAGE(SERVER)、USAGE(PIPELINE)、または USAGE(ATOM) の属性です。CVDA 値は以下のとおりです。

なし　要求はリダイレクトされません。LOCATION オプションで指定された URL は無視されます。

TEMPORARY
要求は一時ベースでリダイレクトされます。応答に使用される状況コードは 302 (Found) です。

PERMANENT
要求は永続的にリダイレクトされます。応答に使用される状況コードは 301 (Moved Permanently) です。

SCHEME*(cvda)*
URI のスキーム・コンポーネントを示す CVDA 値を戻します。CVDA 値は以下のとおりです。

HTTP SSL を備えていない HTTP。

HTTPS
SSL を使用した HTTP。

この属性は、すべての使用タイプの属性です。

SOCKETCLOSE*(data-area)*
CICS アプリケーションがクライアント HTTP 接続の使用を終えた後、CICS が再使用のためにその接続を開いたままにする最大時間の長さ (秒単位) をフルワード・バイナリー形式で戻します。値が 0 の場合、CICS は再使用のために接続を開いたままにしません。この属性は USAGE(CLIENT) 用です。その他の使用タイプの場合、CICS はヌル値 (-1) を戻します。

SOCKPOOLSIZE*(data-area)*
CICS が現在、休止状態でプールに保持しているクライアント HTTP 接続の数をフルワード・バイナリー形式で戻します。これらの接続は、同じホストおよびポートに Web クライアントとして接続する CICS アプリケーションで再使用できます。この属性は USAGE(CLIENT) 用です。その他の使用タイプの場合、CICS はヌル値 (-1) を戻します。

TCPIPSERVICE*(data-area)*
この URIMAP 定義に関係するインバウンド・ポートを指定する TCPIPSERVICE 定義の 1 文字から 8 文字の名前を戻します。このポートを指定しないと、URIMAP 定義はすべてのインバウンド・ポートに関する要求に適用されます。この属性は、USAGE(SERVER)、USAGE(PIPELINE)、または USAGE(ATOM) の属性です。

TEMPLATENAME*(data-area)*
静的応答の形成に使用する CICS 文書テンプレートの名前を含む、48 文字のデータ域を戻します。この属性は、USAGE(SERVER) の属性です。

TRANSACTION*(data-area)*
HTTP 要求に対する応答を構成するユーザー・アプリケーションを実行する別名トランザクションの 4 文字の名前を戻します。この属性は、USAGE(SERVER)、USAGE(PIPELINE)、USAGE(ATOM)、または USAGE(JVMSERVER) 用です。

URIMAP*(data-value)*
URIMAP 定義の 8 文字の名前を戻します。

USAGE*(cvda)*
この URIMAP 定義の目的を示す CVDA 値を返します。CVDA 値は以下のとおりです。

SERVER
HTTP サーバーとしての CICS 用の URIMAP リソース。このタイプの URIMAP リソースは、Web クライアントからの着信 HTTP 要求の URL を CICS リソースにマップします。アプリケーション生成の応答または静的応答を提供することができます。

CLIENT
HTTP クライアントとしての CICS 用の URIMAP リソース。このタイプの URIMAP リソースは、CICS がサーバー上の HTTP リソースに関するクライアント要求を行う際に使用されます。

PIPELINE
Web サービス用の URIMAP リソース。このタイプの URIMAP リソースは、クライアントが CICS で Web サービスを呼び出すときの要求に対して実行される処理を指定します。

ATOM
Atom フィード用の URIMAP リソース。このタイプの URIMAP リソースは、CICS が Atom フィードとして使用可能にするデータに関する着信要求に使用されます。 URIMAP リソースは要求 URI を ATOMSERVICE リソース定義にマップします。この定義は、Atom 文書を定義します。

JVMSERVER
JVM サーバー用の URIMAP。このタイプの URIMAP リソースは、適切なセキュリティーを備えた CICS トランザクション下で実行する Java Web アプリケーションに関する着信要求をマップします。

USERID*(data-area)*
別名トランザクションの接続に使用された 8 文字のユーザー ID を戻します。この属性は、USAGE(SERVER)、USAGE(PIPELINE)、USAGE(JVMSERVER)、または USAGE(ATOM) 用です。

WEBSERVICE*(data-area)*
Web サービスの名前を戻します。この名前として、WEBSERVICE リソース定義の名前 (1 文字から 8 文字)、または CICS Web サービス・アシスタントが生成した Web サービスを表す名前 (32 文字以内) が可能です。この属性は、Web サービス設定で配置されている CICS アプリケーション・プログラムの実行時環境の側面を定義します。この属性は、USAGE(PIPELINE) の属性です。

条件

END
RESP2 の値は次のとおりです。

2 このタイプのリソース定義はありません。

ILLOGIC
RESP2 の値は次のとおりです。

1 このリソース・タイプのブラウズが既に実行されているときに START コマンドが出されたか、もしくは、このリソース・タイプのブラウズが実行されていないときに NEXT または END コマンドが出された。

NOTAUTH
RESP2 の値は次のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

NOTFND
RESP2 の値は次のとおりです。

3 URIMAP が見つかりません。

INQUIRE VOLUME

INQUIRE VOLUME は廃止され、以前のリリースとの互換性のみのため保持されています。ランタイム・サポートは、VOLIDERR 条件を返すことのみです。このコマンドが使用されると、変換プログラムは変換を実行しますが、警告メッセージが出されます。

ブラウズ START および END 操作に対しては NORMAL 条件が戻されます。ブラウズ NEXT 操作に対しては ENDCOND 条件が戻されます。

条件

VOLIDERR

RESP2 値は以下のとおりです。

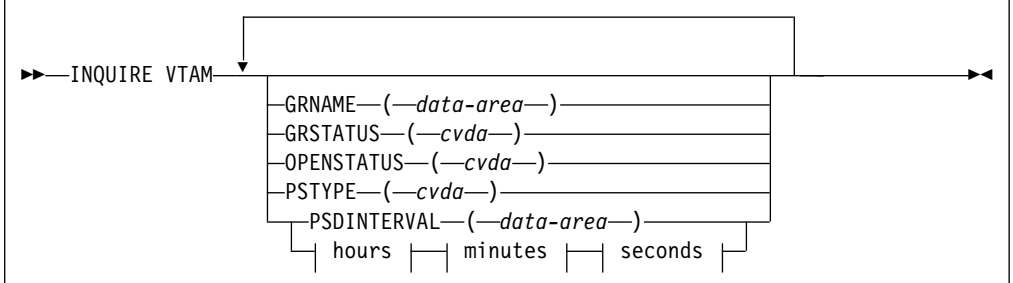
1 プログラムは INQUIRE VOLUME ブラウズ・コマンドを発行しました。このコマンドは廃止されました。

INQUIRE VTAM

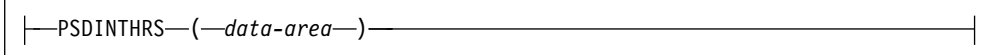
CICS と z/OS Communications Server との間の接続についての情報を取得します。

注: VTAM は現在 z/OS Communications Server です。

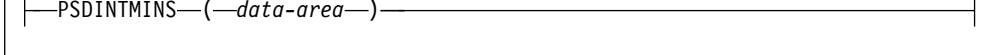
INQUIRE VTAM



hours:



minutes:



seconds:

条件: INVREQ、NOTAUTH

CVDA の使用について詳しくは、CICS-value data areas (CVDAs)を参照してください。

説明

INQUIRE VTAM コマンドは、Communications Server と CICS システムの間の接続のタイプと状態についての情報を戻します。

オプション

GRNAME(*data-area*)
この CICS 領域が Communications Server の汎用リソース機能を使用している場合に、Communications Server への登録を要求するのに使用する 8 文字の汎用リソース・グループ名を戻します。システムが登録の要求なしで初期化された場合は、ブランクが戻されます。

GRSTATUS(*cvda*)
汎用リソース登録の状況を示す CVDA 値を戻します。NOTAPPLIC を除くすべての値は、汎用リソース機能を使用するように CICS が初期化されている、つまり、非ブランクの GRNAME 値が指定されたことを示します。CVDA 値は次のとおりです。

DEREGERROR
登録解除が試行されましたが失敗し、再登録は試行されていません。

DEREGISTERED
登録解除は正常に実行されました。

NOTAPPLIC
CICS は汎用リソース機能を使用していません。GRNAME が設定されていないか、ブランクに設定されています。

REGERROR
登録が試行されましたが失敗し、登録解除は試行されていません。

REGISTERED
登録は正常に実行され、登録解除は試行されていません。

UNAVAILABLE
Communications Server は汎用リソース機能をサポートしていません。

UNREGISTERED
CICS は汎用リソース機能を使用していますが、まだ登録は試行されていません。

OPENSTATUS(*cvda*)
CICS と Communications Server の間の接続の状況を示す CVDA 値を戻します。CVDA 値は次のとおりです。

CLOSED
CICS と Communications Server の間の接続がまだ確立されていないか、または停止しています。

CLOSEFAILED
直前の接続クローズ要求が失敗したので、接続はオープンしていますが使用できません。クローズ要求を再試行してください。

CLOSING
CICS と Communications Server の間の接続がクローズ処理中です。

FORCECLOSING
SET VTAM FORCECLOSE コマンドの後に続いて、CICS と Communications Server の間の接続がクローズ処理中です。

IMMCLOSING
SET VTAM IMMCLOSE コマンドの後に続いて、CICS と Communications Server の間の接続がクローズ処理中です。

OPEN
CICS と Communications Server の間に接続が存在します。

PSDINTERVAL(*data-area***)**
持続セッション遅延間隔を戻します。この間隔は、Communications Server セッションが失敗後にリカバリー保留状態を保つ時間の長さです。**PSDINT** システム初期設定パラメーターは、始動時に CICS 領域にこの値を指定します。持続セッション遅延インターバルには、以下の 2 つの形式があります。

- PSDINTERVAL オプションを使用することによって取得される複合形式 (パック 10 進数フォーマット *0hhmmss+*、4 バイトの長さ)。
- PSDINTHRS、PSDINTMINS、および PSDINTSECS オプションを指定することによって取得される、個別の時間、分、および秒。

ゼロの値は、失敗後セッションが保存されないことを意味します。

PSDINTHRS(*data-area***)**
持続セッション遅延インターバルの時間数コンポーネントをフルワード・バイナリー形式で戻します。PSDINTERVAL オプションを参照してください。

PSDINTMINS(*data-area***)**
持続セッション遅延間隔の分コンポーネントをフルワード・バイナリー形式で戻します。PSDINTERVAL オプションを参照してください。

PSDINTSECS(*data-area***)**
持続セッション遅延間隔の秒コンポーネントをフルワード・バイナリー形式で戻します。PSDINTERVAL オプションを参照してください。

PSTYPE(*cvda***)**
CICS 領域に関する Communications Server 持続セッション・サポートのタイプを示す CVDA 値を戻します。CVDA 値は以下のとおりです。

SNPS 単一ノード持続セッション。CICS が失敗して再始動した後に、Communications Server セッションをリカバリーできます。

MNPS
マルチノード持続セッション。シスプレックス内での Communications Server または z/OS の失敗後にも Communications Server セッションをリカバリーできます。

NOPS

この CICS 領域には Communications Server 持続セッション・サポートは使用されません。

条件

INVREQ

RESP2 値は以下のとおりです。

1 Communications Server はシステム内にありません。

NOTAUTH

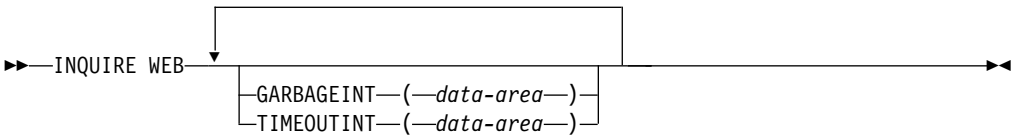
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

INQUIRE WEB

CICS Web サポートについての情報を取得します。

INQUIRE WEB



状態: NOTAUTH

このコマンドはスレッド・セーフです。

CVDA の使用の詳細については、CICS-value data areas (CVDAs)を参照してください。

説明

INQUIRE WEB コマンドは、CICS Web インターフェースの状況に関する情報を戻します。

オプション

GARBAGEINT(*data-area***)**

Web ガーベッジ・コレクション・タスクが、端末タイムアウト間隔が満了した Web 3270 状態データをクリーンアップするために実行される間隔 (分数) をフルワード・バイナリー形式で戻します。

TIMEOUTINT(*data-area***)**

非アクティブ Web 3270 セッションがガーベッジ・コレクションの対象として適格となるまでの経過期間 (分数) をフルワード・バイナリー形式で戻します。

条件

NOTAUTH

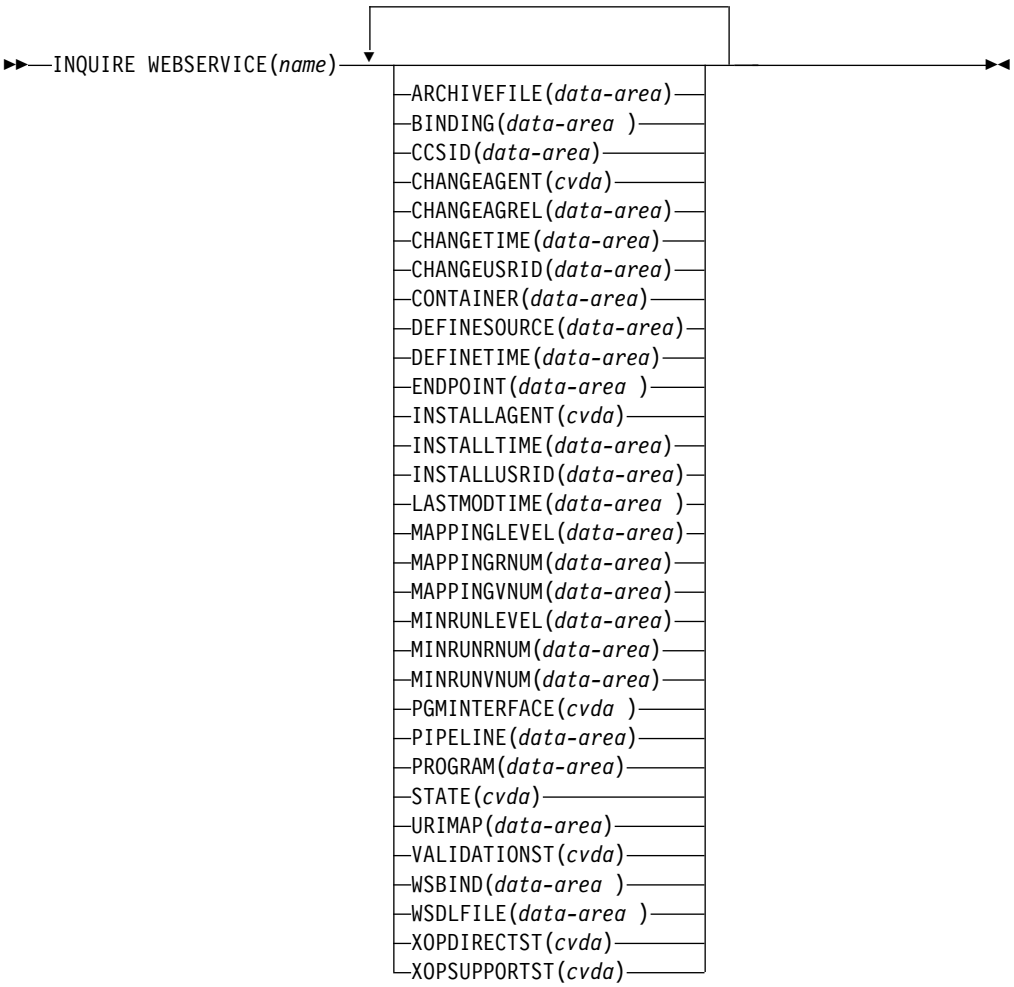
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

INQUIRE WEBSERVICE

INQUIRE WEBSERVICE コマンドは、インストール済み Web サービスに関する情報を取得するために使用します。

INQUIRE WEBSERVICE



条件**:** NOTAUTH、NOTFND

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

INQUIRE WEBSERVICE コマンドは、インストール済み Web サービスに関する情報を取得するために使用します。

ブラウズ

INQUIRE WEBSERVICE コマンドでブラウズ・オプション (START、NEXT、および END) を使用することにより、システムにインストールされているすべての Web サービスをブラウズできます。ブラウズに関する一般情報 (構文、例外条件、および例を含む) については、Browsing resource definitionsを参照してください。

リソース・シグニチャー

このコマンドを使用して、リソース・シグニチャー・フィールドを検索することができます。これらのフィールドを使用すると、リソースの定義時、インストール時、および最終変更時の詳細データを収集して、リソースを管理できます。 詳しくは、Auditing resourcesを参照してください。 リソース・シグニチャー・フィールドは BUNDLE、CHANGEAGENT、CHANGEAGREL、CHANGETIME、CHANGEUSRID、DEFINESOURCE、DEFINETIME、INSTALLAGENT、INSTALLTIME、および INSTALLUSRID です。リソース・シグニチャー・フィールドの内容について詳しくは、Summary of the resource signature field valuesを参照してください。

オプション

ARCHIVEFILE(*data-area*)
1 つ以上の WSDL ファイルを含むアーカイブ・ファイルの名前を戻します。この名前は、255 文字以内の長さで指定することができます。

BINDING(*data-area*)
WEBSERVICE リソースによって表現される WSDL バインディングを戻します。このバインディングは、WSDL ファイルに出現する (潜在的に) 多数のバインディングのうちの 1 つです。名前の長さは 255 文字以下です。

CCSID(*data-area*)
実行時にアプリケーション・データ構造内の文字データをエンコードするために使用される CCSID を戻します。この値は、Web サービス・バインディング・ファイルの生成時に、Web サービス・アシスタントでオプションの **CCSID** パラメーターを使用して設定します。 *data-area* が 0 の場合、**LOCALCCSID** システム初期設定パラメーターで指定される CICS 領域のデフォルトの CCSID が使用されます。

CHANGEAGENT(*cvda*)
リソース定義を最後に変更したエージェントを識別する CVDA 値を戻します。有効な値は、以下のとおりです。

CREATESPI
リソース定義は **EXEC CICS CREATE** コマンドによって最後に変更されました。

CSDAPI
リソース定義は、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによって最後に変更されました。

CSDBATCH
リソース定義は、DFHCSDUP ジョブによって最後に変更されました。

DREPAPI
リソース定義は、CICSPlex SM BAS API コマンドによって最後に変更されました。

DYNAMIC
リソース定義は、PIPELINE スキャンによって最後に変更されました。

CHANGEAGREL(*data-area*)
リソース定義の最終変更時に実行していた CICS リリースの 4 桁の数値を戻します。

CHANGETIME(*data-area*)
リソース定義の最終変更時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。ABSTIME 値のフォーマットについて詳しくは、FORMATTIMEを参照してください。

CHANGEUSRID(*data-area*)
変更エージェントを実行した 8 文字のユーザー ID を戻します。

CONTAINER(*data-area*)
PGMINTERFACE オプションが値 CHANNEL を戻す場合、使用されているコンテナーの名前を戻します。名前の長さは 16 文字以下です。

DEFINESOURCE(*data-area*)
リソース定義の 8 文字のソースを戻します。DEFINESOURCE 値は CHANGEAGENT 値に依存します。詳しくは、Summary of the resource signature field valuesを参照してください。

DEFINETIME(*data-area*)
リソース定義の作成時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。

ENDPOINT(*data-area*)
リモートの Web サービスのエンドポイント URI を戻します。このエンドポイント URI は、リモートの Web サービスの WSDL ファイルで指定されます。CICS アプリケーション・プログラムがサービス・プロバイダーの場合、ENDPOINT は空です。 URI は、255 文字以内の長さにすることができます。

INSTALLAGENT(*cvda*)
リソースをインストールしたエージェントを識別する CVDA 値を戻します。有効な値は、以下のとおりです。

BUNDLE
リソースは、バンドルのデプロイメントによってインストールされました。

CREATESPI
リソースは、**EXEC CICS CREATE** コマンドによってインストールされました。

CSDAPI
リソースは、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによってインストールされました。

DYNAMIC
リソースは、PIPELINE スキャンを使用してインストールされました。

GRPLIST
リソースは、**GRPLIST INSTALL** によってインストールされました。

INSTALLTIME(*data-area*)
リソースのインストール時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。

INSTALLUSRID(*data-area*)
リソースをインストールした 8 文字のユーザー ID を戻します。

LASTMODTIME(*data-area*)

z/OS UNIX 上の配置済み WSBind ファイルが最後に更新された時刻 (1900 年 1 月 1 日 00:00 以降のミリ秒数) を戻します。この値は、WEBSERVICE リソースがインストールまたは更新されたときに CICS が更新する読み取り専用の値です。最終変更時刻は、ピックアップ・ディレクトリー内の WSBind ファイルが最後に更新された後に CICS 自体がリフレッシュされたかどうかを判別するために使用できます。

- 動的にインストールされた Web サービス (CICS スキャン・メカニズムによりインストールされたもの) の場合、LASTMODTIME の値は、WEBSERVICE 定義が最後にインストールまたは更新されたときに WSBind 定義によって指し示されていた z/OS UNIX ファイルのタイム・スタンプです。
- 静的にインストールされた (つまり CSD から、または CREATE WEBSERVICE によってインストールされた) Web サービスの場合、LASTMODTIME の値は、Web サービスがインストールされたときに WEBSERVICE 定義によって指し示されていた WSBind z/OS UNIX ファイルのタイム・スタンプです。

新たにインストールまたは更新された Web サービスが完全に初期化される前に **INQUIRE WEBSERVICE** コマンドを発行すると、戻される LASTMODTIME 値はゼロになります。

値は、8 バイトのパック 10 進数の形式で戻されます。 **EXEC CICS FORMATTIME** コマンドを使用して、必要な日時形式に LASTMODTIME 値を変換することができます。

MAPPINGLEVEL(*data-area*)
言語構造と Web サービス記述 (WSDL) 文書の間でデータを変換するために使用されるマッピング・レベルの 8 バイト文字ストリングを戻します。マッピング・レベルの値は、1.0、1.1、1.2、2.0、2.1、3.0、4.0、4.1、4.2、または 4.3 です。

MAPPINGRNUM(*data-area*)
言語構造と Web サービス記述 (WSDL) 文書の間でデータを変換するために使用されるマッピング・レベルのリリース番号のフルワード・バイナリー値を戻します。リリース番号の値は 0、1、または 2 です。

MAPPINGVNUM(*data-area*)
言語構造と Web サービス記述 (WSDL) 文書の間でデータを変換するために使

用されるマッピング・レベルのバージョン番号のフルワード・バイナリー値を戻します。バージョン番号の値は、1、2、3、4 のいずれかです。

MINRUNLEVEL(*data-area*)
CICS で Web サービスを実行するために必要な最小ランタイム・レベルの 8 バイト文字ストリングを戻します。ランタイム・レベルの値は、1.0、1.1、1.2、2.0、2.1、3.0、4.0、4.1、4.2、または 4.3 です。

MINRUNRNUM(*data-area*)
CICS で Web サービスを実行するのに必要な最小ランタイム・レベルのリリース番号のフルワード・バイナリー値を戻します。リリース番号の値は 0 または 1 です。

MINRUNVNUM(*data-area*)
CICS で Web サービスを実行するのに必要な最小ランタイム・レベルのバージョン番号のフルワード・バイナリー値を戻します。バージョン番号の値は、1、2、3、または 4 です。

PGMINTERFACE(*cvda*)
Web サービスをインプリメントしている CICS プログラムが、チャネルでの入力を予期するか、または COMMAREA での入力を予期するかを示す CVDA を戻します。CDVA の値は以下のとおりです。

CHANNEL
プログラムは、チャネルでの入力を予期します。

COMMAREA
プログラムは、COMMAREA での入力を予期します。

NOTAPPLIC
Web サービスがサービス要求元の場合は、PGMINTERFACE は適用されません。

PIPELINE(*data-area*)
Web サービスをインストールする PIPELINE リソースの名前 (すなわち、この WEBSERVICE リソースを含む PIPELINE リソースの名前) を戻します。名前の長さは 8 文字以下です。

PROGRAM(*data-area*)
Web サービスをインプリメントしている CICS プログラムの名前を戻します。この WEBSERVICE リソースがリモートの Web サービスを表している場合 (つまり CICS がサービス・プロバイダーではない場合、PROGRAM オプションは空です。名前の長さは 8 文字以下です。

STATE(*cvda*)
Web サービスの状態を示す CVDA を戻します。

DISABLED
この状態になる可能性があるのは、CICS バンドルで定義されている WEBSERVICE リソースの場合のみです。この Web サービスは静止処理が完了したため、新しい処理を受け入れていません。

DISABLING
この状態になる可能性があるのは、CICS バンドルで定義されている WEBSERVICE リソースの場合のみです。 Web サービスは静止の過程にあります。新規処理は受け入れませんが、現在実行中の処理は完了できます。

この Web サービスが使用されなくなると、その WEBSERVICE リソースの状態は DISABLED に変更されます。

DISCARDING
この WEBSERVICE リソースのために DISCARD コマンドが発行されました。Web サービスは静止の過程にあります。新規処理は受け入れませんが、現在実行中の処理は完了できます。 この Web サービスが使用されなくなると、その WEBSERVICE リソースの破棄が完了します。

INITING
Web サービス・バインディング・ファイルおよび WSDL ファイルをシェルフにコピー中です。

INSERVICE
シェルフでの Web サービス・バインディング・ファイル (WSBIND) のコピーの解決が正常に行われ、Web サービスを使用できます。

UNUSABLE
このリソースの Web サービス・バインディング・ファイル (WSBIND) で問題があるため、Web サービスを使用できません。

UPDATING
WEBSERVICE の更新要求が保留中です。

URIMAP(*data-area*)
動的にインストールされた URIMAP 定義の名前 (この Web サービスに関連付けられている場合) を戻します。 PIPELINE リソースの SCAN 機能を実行することによって Web サービスがインストールされなかった場合、あるいは WEBSERVICE リソースがリモート Web サービスを表している場合は、URIMAP 定義が空になります。名前の長さは 8 文字以下です。

VALIDATIONST(*cvda*)
この Web サービスに対して、SOAP メッセージの完全妥当性検査が現在使用可能に設定されているかどうかを示す CVDA を戻します。CDVA の値は以下のとおりです。

VALIDATION
完全妥当性検査は使用可能です。

NOVALIDATION
完全妥当性検査は使用不可です。

WEBSERVICE(*name*)
照会する Web サービスの名前を指定します。名前の長さは 32 文字以下です。

WSBIND(*data-area*)
Web サービス・バインディング・ファイルの名前を戻します。名前の長さは 255 文字以下です。

WSDLFILE(*data-area*)
WEBSERVICE リソースに関連付けられている Web サービス・バインディング・ファイルの名前を戻します。名前の長さは 255 文字以下です。

XOPDIRECTST(*cvda*)
Web サービスが現在直接モードで XOP 文書を処理できるかどうかを示す値を戻します。 CDVA の値は以下のとおりです。

NOXOPDIRECT
Web サービスは現在、XOP 文書およびバイナリー添付ファイルを直接処理できません。この値は、Web サービスのインプリメンテーションが XOP 文書およびバイナリー添付ファイルの直接処理をサポートしない場合、または Web サービスの妥当性検査がオンになっている場合に該当します。

XOPDIRECT
Web サービスは現在、XOP 文書およびバイナリー添付ファイルを直接処理できます。この値は、Web サービスのインプリメンテーションが XOP 文書の直接処理をサポートしており、Web サービスの妥当性検査がオンになっていない場合に該当します。

XOPSUPPORTST(*cvda*)
Web サービスのインプリメンテーションが直接モードで XOP 文書およびバイナリー添付ファイルを処理できるかどうかを示す CVDA 値を戻します。
CVDA 値は以下のとおりです。

NOXOPSUPPORT
Web サービスのインプリメンテーションは、XOP 文書およびバイナリー添付ファイルの直接処理をサポートしません。

XOPSUPPORT
Web サービスのインプリメンテーションは、XOP 文書およびバイナリー添付ファイルの直接処理をサポートします。この値は、Web サービス支援機能を使用して生成および配置された Web サービスに該当します。

条件

NOTAUTH
RESP2 値:

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

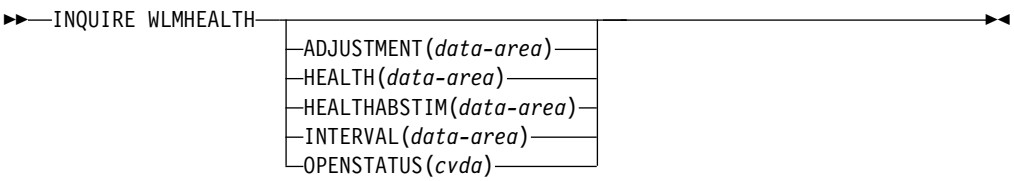
NOTFND
RESP2 値:

3 Web サービスは見つかりません。

INQUIRE WLMHEALTH

CICS 領域の z/OS WLM ヘルス・サービスの設定に関する情報を取得します。

INQUIRE WLMHEALTH



状態: NOTAUTH

説明

INQUIRE WLMHEALTH コマンドは、CICS 領域の z/OS WLM ヘルス・サービスの設定に関する情報を戻します。

オプション

ADJUSTMENT(*data-area***)**
CICS が、各間隔で CICS 領域の z/OS WLM 正常性値の調整に使用する調整値を戻します。これはフルワード・バイナリー値です。

HEALTH(*data-area***)**
CICS 領域の z/OS WLM 正常性値を戻します。これはフルワード・バイナリー値です。

HEALTHABSTIM(*data-area***)**
z/OS WLM 正常性値が z/OS WLM に最後に報告された時刻 (ABSTIME 形式) を戻します。

INTERVAL(データ域)
領域の正常性値を調整するために、CICS が z/OS Workload Manager Health API (IWM4HLTH) に対して行う呼び出し間隔の時間を秒単位で戻します。これはフルワード・バイナリー値です。

OPENSTATUS(*cvda***)**
z/OS WLM ヘルス・サービスの状況を戻します。CVDA 値は以下のとおりです。

OPEN
CICS は、z/OS WLM 正常性値が 100 になるまで値を増やすプロセスを完了しました。

OPENING
CICS は、z/OS WLM 正常性値を増やすプロセスを開始しました。現在の値は 0 から 99 の範囲になっています。

CLOSED
CICS は、z/OS WLM 正常性値が 0 になるまで値を減らすプロセスを完了しました。

CLOSING
CICS は、指定された各間隔で指定された調整値まで z/OS WLM 正常性値を減らすプロセスを開始しました。正常性値は、現在 100 から 1 の範囲にあります。

IMMCLOSING
CICS は、z/OS WLM 正常性値をすぐに 0 に設定するプロセスを実行しています。

条件

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

INQUIRE WORKREQUEST

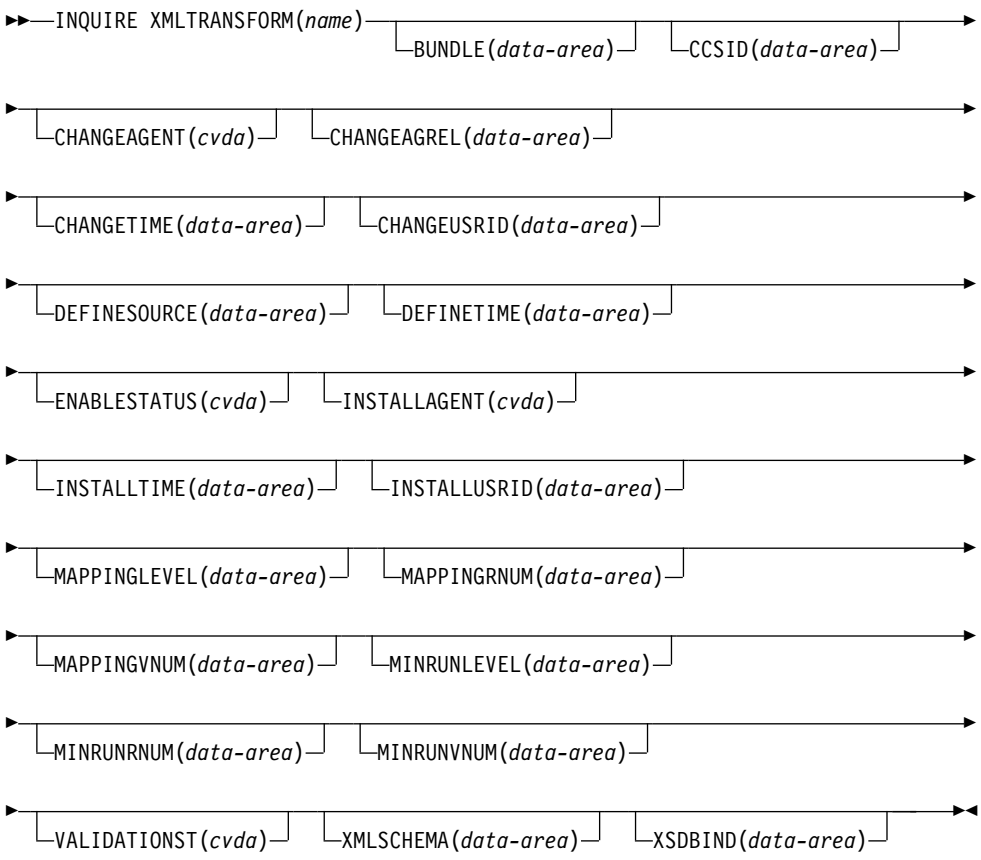
このコマンドは、CICS TS for z/OSバージョン 5.1 より前のリリースの CICS でサポートされ、ローカル CICS 領域の作業要求に関する情報を取得します。

このリリースでは、コマンドは INQUIRE ASSOCIATION コマンドで置き換えられます。INQUIRE WORKREQUEST のすべてのオプションは廃止され、以前のリリースとの互換性のために CICS が提供する唯一のランタイム・サポートは、NOTFND 例外条件を戻すことです。変換プログラムはこのコマンドを変換しますが、警告メッセージを出します。

INQUIRE XMLTRANSFORM

インストール済み XMLTRANSFORM リソースに関する情報を取得するには、**INQUIRE XMLTRANSFORM** コマンドを使用します。

INQUIRE XMLTRANSFORM



条件: NOTAUTH、NOTFND

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

インストール済み XMLTRANSFORM リソースに関する情報を取得するには、**INQUIRE XMLTRANSFORM** コマンドを使用します。この情報には、XMLTRANSFORM リソースの状態と、XMLTRANSFORM リソースがインストールされている条件に関する詳細 (どのマッピング・レベルが使用されたかなど) を含めることができます。

ブラウズ

INQUIRE XMLTRANSFORM コマンドでブラウズ・オプション START、NEXT、および END を使用することにより、システムにインストールされているすべての XMLTRANSFORM リソースをブラウズできます。

リソース・シグニチャー

このコマンドを使用して、リソース・シグニチャー・フィールドを検索することができます。これらのフィールドを使用すると、リソースの定義時、インストール

時、および最終変更時の詳細データを収集して、リソースを管理できます。 詳しくは、Auditing resourcesを参照してください。 リソース・シグニチャー・フィールドは BUNDLE、CHANGEAGENT、CHANGEAGREL、CHANGETIME、CHANGEUSRID、DEFINESOURCE、DEFINETIME、INSTALLAGENT、INSTALLTIME、および INSTALLUSRID です。リソース・シグニチャー・フィールドの内容について詳しくは、Summary of the resource signature field valuesを参照してください。

オプション

BUNDLE(*data-area*)
XMLTRANSFORM のインストール元のバンドルの、8 文字の名前を戻します。

CCSID(*data-area*)
実行時にアプリケーション・データ構造内の文字データをエンコードするために使用されるコード化文字セット ID (CCSID) を戻します。この値は、XML バインディング・ファイルの生成時に、XML アシスタントでオプションの CCSID パラメーターを使用して設定します。この CCSID は、8 文字以内の値です。 CCSID 値を指定しない場合、CICS は **LOCALCCSID** システム初期設定パラメーターで指定されているデフォルトの CCSID を使用します。

CHANGEAGENT(*cvda*)
リソース定義を最後に変更したエージェントを識別する CVDA 値を戻します。有効な値は、以下のとおりです。

CREATESPI
リソース定義は **EXEC CICS CREATE** コマンドによって最後に変更されました。

CSDAPI
リソース定義は、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによって最後に変更されました。

CSDBATCH
リソース定義は、DFHCSDUP ジョブによって最後に変更されました。

DREPAPI
リソース定義は、CICSPlex SM BAS API コマンドによって最後に変更されました。

DYNAMIC
リソースは ATOMSERVICE リソースによって定義されました。

CHANGEAGREL(*data-area*)
リソース定義の最終変更時に実行していた CICS リリースの 4 桁の数値を戻します。

CHANGETIME(*data-area*)
リソース定義の最終変更時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。ABSTIME 値のフォーマットについて詳しくは、FORMATTIMEを参照してください。

CHANGEUSRID(*data-area*)
変更エージェントを実行した 8 文字のユーザー ID を戻します。

DEFINESOURCE(*data-area*)
リソース定義の 8 文字のソースを戻します。DEFINESOURCE 値は CHANGEAGENT 値に依存します。詳しくは、Summary of the resource signature field valuesを参照してください。

DEFINETIME(*data-area*)
リソース定義の作成時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。

ENABLESTATUS(*cvda*)
XMLTRANSFORM の状態を示す CVDA を戻します。

DISCARDING
この XMLTRANSFORM のために DISCARD コマンドが発行されました。

ENABLING
XMLTRANSFORM は使用可能にされる過程にあります。

ENABLED
XMLTRANSFORM は有効で、使用可能です。

DISABLING
XMLTRANSFORM は使用不可にされる過程にあります。今後使用することはできませんが、未完了のアクティビティーは完了できます。

DISABLED
XMLTRANSFORM は無効で、使用不可です。

INSTALLAGENT(*cvda*)
リソースをインストールしたエージェントを識別する CVDA 値を戻します。有効な値は、以下のとおりです。

BUNDLE
リソースは、バンドルのデプロイメントによってインストールされました。

DYNAMIC
リソースは ATOMSERVICE リソースによってインストールされました。

INSTALLTIME(*data-area*)
リソースのインストール時のタイム・スタンプを表す ABSTIME 値を戻します。

INSTALLUSRID(*data-area*)
リソースをインストールした 8 文字のユーザー ID を戻します。

MAPPINGLEVEL(*data-area*)
XML バインディング・ファイルの生成時に使用されたマッピング・レベルの 8 バイトの文字ストリングを戻します。マッピング・レベルの値は、
| 1.0、1.1、1.2、2.0、2.1、2.2、3.0、4.0、4.1、4.2、または 4.3 です。

MAPPINGRNUM(*data-area*)
XML バインディング・ファイルの生成時に使用されたマッピング・レベルのリリース番号のフルワード・バイナリー値を戻します。リリース番号の値は 0、1、または 2 です。

MAPPINGVNUM(*data-area*)
XML バインディング・ファイルの生成時に使用されたマッピング・レベルのバージョン番号のフルワード・バイナリー値を戻します。バージョン番号の値は、1、2、3、または 4 です。

MINRUNLEVEL(*data-area*)
CICS に XMLTRANSFORM をインストールするのに必要な最小ランタイム・レベルの 8 バイトの文字ストリングを戻します。ランタイム・レベルの値は、3.0、4.0、4.1、4.2、または 4.3 です。

MINRUNRNUM(*data-area*)
CICS に XMLTRANSFORM をインストールするのに必要な最小ランタイム・レベルのリリース番号のフルワード・バイナリー値を戻します。リリース番号の値は 0 または 1 です。

MINRUNVNUM(*data-area*)
CICS に XMLTRANSFORM をインストールするのに必要な最小ランタイム・レベルのバージョン番号のフルワード・バイナリー値を戻します。バージョン番号の値は 3 または 4 です。

VALIDATIONST(*cvda*)
XMLTRANSFORM リソースについて、完全妥当性検査が使用可能かどうかを示します。 CVDA 値は以下のとおりです。

VALIDATION
完全妥当性検査は使用可能です。

NOVALIDATION
完全妥当性検査は使用不可です。

XML メッセージをそのスキーマに対して妥当性検査すると、処理オーバーヘッドが大幅に増大するため、通常は VALIDATIONST(NOVALIDATION) を指定します。 VALIDATIONST(NOVALIDATION) を指定した場合、メッセージに正しい形式の XML が含まれているかどうかはチェックされますが、その XML の有効性が保証されるわけではありません。

完全妥当性検査では、XML スキーマに関してそのメッセージの XML が有効であることが保証されるため、アプリケーションの開発中は VALIDATIONST (VALIDATION) を指定したほうがよいでしょう。

XMLTRANSFORM(*data-value*)
照会している XMLTRANSFORM の名前 (1 から 32 文字) を指定します。

XMLSCHEMA(*data-area*)
関連付けられた XML スキーマ・ファイルの名前を戻します。データ域の長さは 255 文字分です。名前が 255 文字未満の場合、CICS はこのデータ域に末尾ブランクを埋め込みます。

XSDBIND(*data-area*)
XML バインディング・ファイルの名前を戻します。データ域の長さは 255 文字分です。名前が 255 文字未満の場合、CICS はこのデータ域に末尾ブランクを埋め込みます。

条件

NOTAUTH

RESP2 の値は次のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

101 発行中のタスクに関連付けられているユーザーには、このコマンドが要求する方法でこの特定のリソースにアクセスする権限がありません。

NOTFND

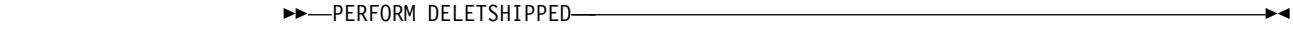
RESP2 の値は次のとおりです。

3 XMLTRANSFORM が見つかりません。

PERFORM DELETSHIPPED

非アクティブのシップされた端末定義を削除します。

PERFORM DELETSHIPPED



条件: NOTAUTH

説明

PERFORM DELETSHIPPED コマンドは、非アクティブのシップされた端末定義を削除するための CICS メカニズムを、即時に呼び出します。これによって、このメカニズムが通常呼び出される間隔がリセットされることはありません。つまり、次の自動呼び出しまでの残りの時間には影響しません。

端末が特定の期間ローカルで使用されていない場合や、端末を必要とするタスクが接続を待機していない場合、シップされた定義は非アクティブになります。シップされた端末が削除の対象になるまで未使用になっている時間の長さや、そのような端末を CICS が検査する (INQUIRE DELETSHIPPED コマンドを使用) 際の間隔を決めることができます。これらの値は、SET DELETSHIPPED コマンドを使って設定することができます。シップされた定義の詳細については、シップされた端末の削除方法の概要を参照してください。

条件

NOTAUTH

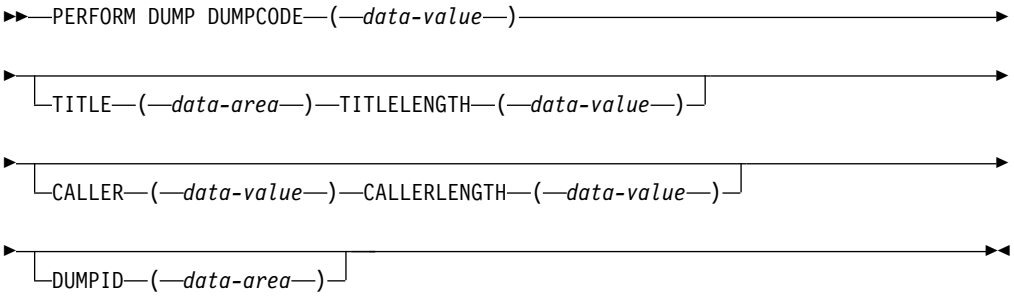
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

PERFORM DUMP

CICS のシステム・ダンプを要求します。

PERFORM DUMP



条件:
INVREQ、IOERR、NOSPACE、NOSTG、NOTAUTH、SUPPRESSED、SYSBUSY

説明

PERFORM DUMP コマンドは、このコマンドが発行される CICS 領域のシステム・ダンプ (MVS SDUMP) を要求します。

DUMPCODE オプションで指定されたダンプ・コードのシステム・ダンプ・テーブル・エントリーにより、PERFORM DUMP コマンドで行われる処理が決まります。すなわち、ダンプが取られるかどうか、シスプレックス環境内の関連した CICS 領域に対する要求が伝搬されるかどうか、およびシャットダウンが発生するかどうかです。ユーザーが指定するダンプ・コードのエントリーがない場合、CICS はデフォルト値を使用して一時的なエントリーを作成します。このプロセスについて詳しくは、INQUIRE SYSDUMPCODE を参照してください。システム・ダンプ・テーブルの一般情報については、指定可能なダンプ・コード・オプションを参照してください。

MVS SDUMP が取られている間、他のすべての CICS アクティビティーは停止します。コマンドを発行するプログラムが制御を取り戻すのは、ダンプが完了した後であり、ダンプにより CICS がシャットダウンしない場合のみです。

オプション

CALLER(*data-value***)**
ダンプの先頭のダンプ・ドメイン情報の要約内で、'CALLER' の後に表示されるテキストを指定します。このテキストの長さは最大 8 文字にすることができます。これはダンプに対する要求元を識別するためのものですが、その目的に限定されません。

CALLERLENGTH(*data-value***)**
CALLER テキスト内の文字数をフルワード・バイナリー値で指定します。

DUMPCODE (*data-value***)**
このダンプ要求の 8 文字のダンプ・コードを指定します。これにより、その処理で使用されるシステム・ダンプ・テーブル・エントリーが決まります。

このコードは CICS 定義またはユーザー定義のどちらかにすることができます。大部分の CICS コードは、最初の「DFH」が削除された CICS メッセージ ID ですが、いくつかの追加があります。

ユーザー定義のコードは、先行ブランクも組み込みブランクも含まない任意の文字ストリングにすることができます。

CICS は、一部の CICS 定義コードのシステム・ダンプ・テーブル・エントリーを提供し、必要に応じて他のコード用にエントリーを作成します。前述のように、インストール済み環境がユーザー定義コードのエントリーを提供できるか、または CICS が一時エントリーを作成します。

DUMPID(*data-area***)**
この特定のダンプ用に生成された 6 文字から 9 文字のダンプ ID を戻します。ID の形式は xxxx/yyyy です。ここで、*xxxx* はダンプ実行回数、yyyy はダンプ・カウント、そしてスラッシュ記号 (/) は区切り文字です。ダンプ ID は、以下のように形成されます。

ダンプ実行回数
1 から 9999 までの範囲の数。(この数値には先行ゼロが使用されないため、ダンプ ID は最低 6 文字、最高 9 文字で示されます。) ダンプ実行回数は、ローカル・カタログが新たに初期化される CICS の最初の始動時に 1 で始まり、CICS を再始動するたびに 1 ずつ増加します。このダンプ実行回数は、通常のシャットダウンを行うとローカル・カタログに保管されますが、START=INITIAL または START=COLD システム初期設定パラメーターを用いて CICS を始動した場合はその数値はリセットされます。

ダンプ・カウント
0001 ～ 9999 の範囲の数。 (このダンプ ID には先行ゼロが必要です。) これは、この CICS の稼働においてダンプに割り当てられた数値です。最初のダンプは 0001 で始まり、ダンプが取られるたびに 1 ずつ増加します。

TITLE(*data-area***)**
ダンプの先頭のダンプ・ドメイン情報の要約内で、タイトルとして出力されるテキストです。最大 80 文字の長さにすることができます。

TITLELENGTH(*data-value***)**
TITLE テキスト内の文字数をフルワード・バイナリー値で指定します。

条件

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

6 TITLELENGTH が 80 バイトを超えています。

7 CALLERLENGTH が 8 バイトを超えています。

13 DUMPCODE に、先行ブランクまたは組み込みブランクが含まれています。

IOERR
RESP2 値は以下のとおりです。

9 CICS は、ダンプを取ることが MVS によって許可されていません。

10 システム・ダンプ中にエラーが発生した。

12 ダンプ・データ・セットがないか、またはフルであるため、MVS はダンプを処理できません。

13 MVS SDUMP 要求を発行する CICS ルーチンでエラーが発生しました。

NOSPACE
RESP2 値は以下のとおりです。

4 ダンプがダンプ・データ・セットのスペース不足のため不完全です。

NOSTG
RESP2 値は以下のとおりです。

5 十分なストレージがないため、CICS はダンプを完了できません。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

SUPPRESSED
RESP2 値は以下のとおりです。

1 このダンプ・コードを使用するダンプの数が、そのコードの最大数を超えたため、ダンプが取られませんでした。

2 このコードのシステム・ダンプ・テーブル・エントリーがシステム・ダンプを示さないため、ダンプが取られませんでした。

3 ダンプがユーザー出口プログラムによって抑止されたため、ダンプが取られませんでした。

8 システム・ダンプがグローバルに抑止されたため、ダンプが取られませんでした。

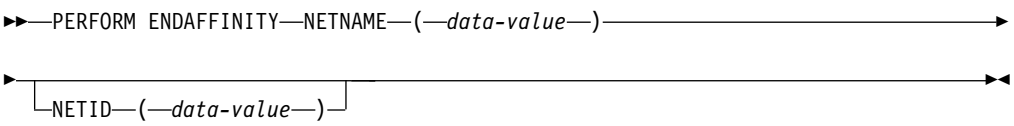
SYSBUSY
RESP2 値は以下のとおりです。

11 MVS ダンプ・ルーチンが使用中です。コマンドを再試行してください。

PERFORM ENDAFFINITY

CICS が所有する親和性を終了します。

PERFORM ENDAFFINITY



状態**:** INVREQ

説明

CICS が z/OS Communications Server 汎用リソース・グループのメンバーである場合、PERFORM ENDAFFINITY コマンドは、接続が削除されているかどうかにかかわらず、CICS が所有している親和性を終了するように z/OS Communications

Server に指示します。接続が削除されていない場合、その接続はサービス休止でなければならず、未解決のリカバリー情報があってはなりません (つまり、RECOVSTATUS が NORECOVDATA でなければなりません)。

汎用リソースと親和性については、シスプレックスにおけるワークロード・バランシングで説明されています

注: 親和性を照会する機能が z/OS Communications Server にはないため、CICS では特定の接続に親和性が存在することをはっきりとは認識しません。明示的に終了させる必要がある親和性が作成されている可能性がある場合はいつでも、CICS はメッセージ DFHZC0177 を発行します。このメッセージには、z/OS Communications Server に渡す NETNAME と NETID が示されます。

親和性が存在しないために、親和性を終わらせる要求が z/OS Communications Server によって拒否されると、CICS はメッセージ DFHZC0181 を出します。これはおそらく、プログラムが指定した NETNAME か NETID が正しくないか、そのプログラム (または CICS) が想定していた親和性の存在が正しくないことを意味します。

オプション

NETID(*data-value*)

リモート LU を含むネットワークが z/OS Communications Server によって認識されている名前を指定します。

NETID を指定しない場合、CICS は、インストールされた接続が存在する場合は、その接続から値を取ります。NETID を指定しないときに、接続が存在しない場合、コマンドは失敗します。

NETNAME(*data-value*)

リモート LU のアプリケーション ID を指定します。接続された LU が汎用リソースのメンバーである場合、汎用リソース名ではなく、そのメンバー名を指定する必要があります。

条件

INVREQ

RESP2 値は以下のとおりです。

25 接続は引き続きサービス中です。

26 接続について未解決のリカバリー情報がある可能性があります。RECOVSTATUS には、NORECOVDATA 以外の値があります。

32 メッセージ DFHZC0178 を参照してください。z/OS Communications Server は、35 (NOTFOUND) または 36 (SESSIONS ACTIVE) 以外の理由で親和性を終了できませんでした。

34 NETID が指定されず、インストール済みの接続から取得できません。原因として考えられるのは、接続が存在しないか、接続に NETID 値が含まれていないことです。

35 z/OS Communications Server は、入力された値の親和性を見つけることができませんでした。

36 接続で一部のセッションがアクティブであったため、z/OS Communications Server は親和性を終了できませんでした。

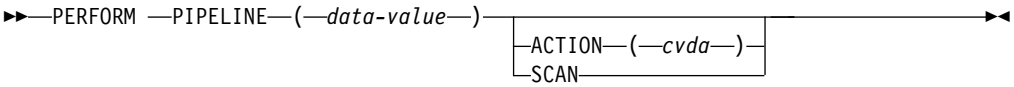
37 メッセージ DFHZC0176 を参照してください。z/OS Communications Server エラーにより、CHANGE ENDAFFIN マクロを実行できませんでした。

44 GRNAME に定義された値が無効です。

PERFORM PIPELINE

PIPELINE リソースに関連付けられた Web サービス・バインディング・ファイルのスキャンを開始します。

PERFORM PIPELINE



条件**:** DUPRES、INVREQ、NOTAUTH、NOTFND

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

PERFORM PIPELINE コマンドを使用して、PIPELINE 定義の WSDIR 属性で指定された Web サービス・バインディング・ディレクトリーのスキャンを開始します。WSDIR 属性を指定しない場合、スキャンする対象がなく、制御はプログラムに戻ります。

指定されたディレクトリーの場所が有効である場合、CICS は、ディレクトリー内の Web サービス・バインディング・ファイルを調べて、システムにインストールできるかどうかを判別します。

- CICS は、まだインストールされていないすべてのファイルをインストールします。
- ファイルがすでにインストールされているにもかかわらず、ディレクトリー内のそのファイルが、現在使用中のファイルより新しい場合、使用中のファイルは破棄され、新しいファイルが代わりにインストールされます。

何らかの理由で CICS が個々の Web サービス・バインディング・ファイルをインストールできない場合、処理は続行し、残りのファイルはディレクトリーにあります。スキャンが完了すると、どちらであっても正常にインストールされたバインディング・ファイルでパイプラインが使用できます。

CICS Web サービス・アシスタントを使用してデプロイされるサービス・プロバイダーについては、ピックアップ・ディレクトリーをスキャンする際に URIMAP リソースが自動的に作成されます。このスキャンは、PIPELINE リソースがインストールされたとき、あるいは **PERFORM PIPELINE SCAN** コマンドの結果として行われます。WEBSERVICE リソースを特定の URI に関連付けるための情報を CICS に提供する URIMAP リソースは、必須リソースです。このリソースの属性は、ピック

アップ・ディレクトリー内の Web サービス・バインディング・ファイルによって指定されます。 WSDL アーカイブ・ファイルまたは WSDL 文書を特定の URI に関連付けるための情報を CICS に提供する URIMAP リソースは、オプション・リソースであり、ピックアップ・ディレクトリーに WSDL ファイルまたは WSDL アーカイブ・ファイルが存在する場合に作成されます。

サービス・リクエスターに関しては、PIPELINE リソースがインストールされたとき、あるいは **PERFORM PIPELINE SCAN** コマンドの結果として、CICS が URIMAP リソースを自動的に作成することはありません。

オプション

PIPELINE(*data-value***)**
PIPELINE の 8 文字の名前を指定します。

ACTION(*cvda***)**
SCAN
PIPELINE で実行されるアクションを示す CVDA 値を指定します。CVDA 値は次のとおりです。

SCAN
パイプラインの Web サービス・バインディング・ディレクトリーをスキャンします。

条件

DUPRES
RESP2 値は以下のとおりです。

29 スキャン中、既存のリソースの名前の競合があるため、1 つ以上の Web サービス・バインディング・ファイルがインストールできませんでした。このエラーは、以下の 2 つが原因で発生します。

- 異なる PIPELINE に関連付けられている既存の定義との競合があります。既存の定義で異なる PIPELINE が指定されているため、新たに生成されたリソースは更新として処理できません。
- 静的にインストールされた定義との競合があります。静的 Web サービス・バインディングの更新にスキャン・メカニズムを使用できません。

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

5 指定された CVDA 値が無効です。つまり、SCAN ではありません。

9 無効な状態の PIPELINE をスキャンしようとしました。

10 Web サービス・バインディング・ディレクトリーのスキャンがすでに進行中です。

11 PIPELINE リソースの WSDIR 属性で指定されたディレクトリーへの読み取り権限が拒否されました。

25 PIPELINE スキャン・エラー。

27 Web サービス・バインディング・ディレクトリーにアクセスできません。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

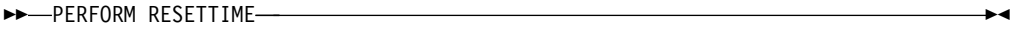
NOTFND
RESP2 値は以下のとおりです。

3 指定された PIPELINE リソースが見つかりません。

PERFORM RESETTIME

日時をリセットします。

PERFORM RESETTIME



条件: INVREQ、NOTAUTH

説明

PERFORM RESETTIME コマンドは、MVS システムの日時から、CICS の日時をリセットします。

条件

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

1 システムにクロックがありません。

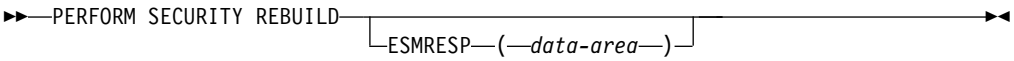
NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

PERFORM SECURITY REBUILD

セキュリティー情報を最新表示させます。

PERFORM SECURITY REBUILD



条件:INVREQ、IOERR、NORMAL、NOTAUTH、SYSBUSY

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

PERFORM SECURITY REBUILD コマンドは、情報が最後に取得されて以降に行われた更新を反映するように、CICS セキュリティー情報を外部セキュリティー・マネージャー (ESM) ソースから最新表示する要求です。

このコマンドは、最新表示プロセスが自動であるため、ESM が RACF であるユーザーには必要ありません。

別の ESM を CICS で使用する場合、このコマンドの影響は、個々の ESM によって異なります。

オプション

ESMRESP(*data-area***)**
外部セキュリティー・マネージャーからの応答コードを示すフルワード・バイナリー・フィールドを戻します。この値は、応答コードの RESP2 フィールドでも戻されます。例外条件により CICS が ESM を起動できない場合、ESMRESP 値は未変更のままになります。

条件

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

1 ESM がインストールされていないか、ESM がアクティブでありません。

5 ESM は一時的に非アクティブであり、要求されたアクションを実行できません。

IOERR
RESP2 値は以下のとおりです。

2 ESM からエラーが返されました。このオプションを使用した場合、戻りコードは ESMRESP にあります。

NORMAL
RESP2 値は以下のとおりです。

0 ESM が RACF ではありません。コマンドは正常に完了しました。詳細については、ESMRESP を参照してください。

4 ESM が RACF です。コマンドは、無視されます。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

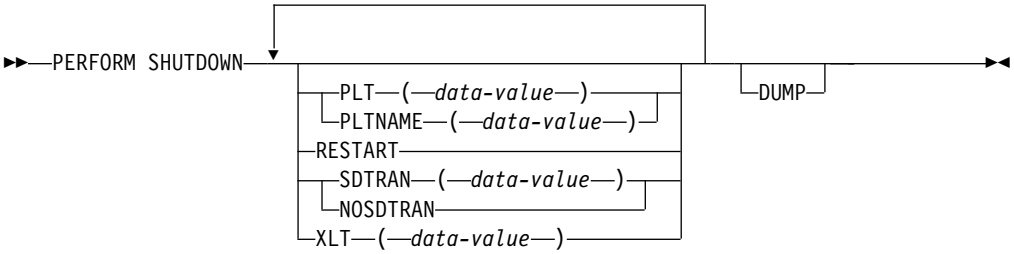
SYSBUSY
RESP2 値は以下のとおりです。

3 セキュリティーの再構築が現在進行中です。

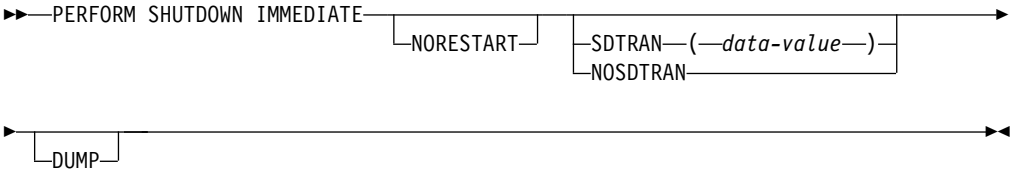
PERFORM SHUTDOWN

CICS システムをシャットダウンします。

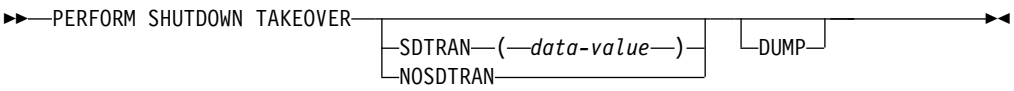
PERFORM SHUTDOWN



シャットダウンの即時実行



シャットダウンのテークオーバーの実行



条件: INVREQ、NOTAUTH、TRANSIDERR

説明

PERFORM SHUTDOWN コマンドは、CICS システムをシャットダウンします。通常の (制御された) シャットダウン、または即時シャットダウンができます。例外条件が発生しない限り、このコマンドを発行したプログラムに制御は戻りません。

このコマンドを処理する際に、CICS は、コマンドを発行したタスクの一環としてシャットダウンのプログラム・リスト・テーブル (PLT) 内のプログラムを呼び出します。リスト内のいずれかのプログラムで端末が必要である (つまり、基本機能を使用する) 場合、端末がないタスクでコマンドを発行しないでください。これは、存在しない端末を使用する最初の試みでこのタスクが異常終了するからです。シャットダウンが続行されますが、タスクは最新の SYNCPOINT にバックアウトされ、リスト内の残りのプログラムは実行されません。

初期設定およびシャットダウン・プログラムを使用したカスタマイズには、シャットダウン・プロセスの PLT とステップの詳細が記載されています。

オプション

DUMP
シャットダウン・プロセスの一環として、CICS 領域の MVS SDUMP が取られることを指定します。シスプレックス環境では、このダンプを制御するダンプ・コード SHUTDOWN のシステム・ダンプ・テーブル・エントリーが指定していれば、関連領域のダンプも取られます。

IMMEDIATE
CICS を即時シャットダウンし、すべてのアクティブ・タスクおよび z/OS Communications Server セッションを異常終了させることを指定します。IMMEDIATE を指定しない場合、CICS は通常どおりシャットダウンし、これらのタスクを完了し、セッションを静止させることができます。その上でウォーム・キーポイントを取ります。

NORESTART
CICS 領域がシャットダウンを完了した後、この CICS 領域が (MVS 自動リスタート・マネージャー (ARM) により) 再始動しないことを指定します。このオプションは即時シャットダウンだけに適用されます。

NOSDTRAN
CICS のシャットダウン時にシャットダウン補助トランザクションが実行されないことを指定します。

PLT(*data-value***)**
このシャットダウンのプログラム・リスト・テーブルを示す 1 文字または 2 文字の接尾部を指定します (DFHPLT の後にこの接尾部を付けたものが、テーブルの名前になります)。

値「NO」は、PLT プログラムが実行されないことを意味します。PLT 値も PLTNAME 値も指定しない場合は、PLTSD システム初期設定パラメーターに値が指定されていれば、その値が使用されます。このオプションは、通常シャットダウンにのみ適用されます。即時シャットダウンでは PLT プログラムは起動されません。

PLTNAME(*data-value***)**
このシャットダウンのプログラム・リスト・テーブルの 1 文字から 8 文字までの名前を指定します。1 文字または 2 文字を指定した場合は、接尾部として扱われ、この接尾部を接頭部 DFHPLT に付加したものがテーブルの名前になります。値「NO」は、PLT プログラムが実行されないことを意味します。3 文字から 8 文字を指定した場合は、テーブルのフルネームとして扱われます。

PLTNAME 値も PLT 値も指定しない場合は、**PLTSD** システム初期設定パラメーターに値が指定されていれば、その値が使用されます。このオプションは、通常シャットダウンにのみ適用されます。即時シャットダウンでは PLT プログラムは起動されません。

RESTART
CICS 領域がシャットダウンを完了した後、この CICS 領域が (MVS ARM により) 再始動することを指定します。このオプションは通常シャットダウンのみに適用されます。

SDTRAN(*data-value***)**
シャットダウン補助トランザクションの 4 文字の名前を指定します。

シャットダウン補助トランザクションが指定されている場合、それは CICS ウォームおよび即時シャットダウンで実行され、CICS シャットダウンを制御された方法で、(例えば長期タスクをパージすることで) 妥当な時間内に実行するために使用できます。デフォルトのシャットダウン補助トランザクション CESD の詳細については、Shutdown assist program (DFHCESD)を参照してください。

TAKEOVER
この CICS システムが正常にシャットダウンされた後、代替 CICS システムが引き継ぐことを指定します。このオプションは、システム初期設定パラメーター XRF=YES が CICS の始動に指定された場合にのみ有効です。

XLT(*data-value***)**
このシャットダウンに使用するトランザクション・リスト・テーブル (XLT) を識別する 2 文字の接尾部を指定します。(このテーブルは、ロード・モジュール名 DFHXLT の後にこの接尾部が続きます。)

このテーブルは、通常シャットダウンの最初の静止段階時に非送信請求端末入力によって開始できるトランザクションをリストします。シャットダウン中に端末から他のトランザクションを開始できません。ただし、CEMT、CESF、および端末に関連した少数の他の CICS 提供トランザクションを除きます。

このオプションが有効であるのは、IMMEDIATE が指定されていない場合のみです。即時シャットダウン中に新しいトランザクションは受け入れられません。接尾部「NO」は、上記以外のトランザクションが許可されないことを意味します。XLT 値を指定しない場合、XLT システム初期設定パラメーターによって指定された値があれば、その値が使用されます。

条件

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

1 シャットダウンがすでに進行中であったときに、通常シャットダウンが要求されました。

2 XLT が見つかりません。

3 PLT が見つかりません。

4 XRF が無効です。

5 SDTRAN で指定されたトランザクションのシャットダウンが使用不可です。

6 SDTRAN で指定されたトランザクションがリモートとして定義されています。

7 SDTRAN で指定されたトランザクションが使用不可です。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

TRANSIDERR
RESP2 値は以下のとおりです。

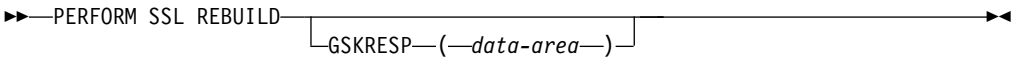
8 SDTRAN で指定されたシャットダウン・トランザクションが見つかりませんでした。

PERFORM SSL REBUILD

CICS 領域の SSL 環境と証明書のキャッシュをリフレッシュします。

注: CICS で使用する TCPIPSERVICE の定義に、AT-TLS で保護されたクライアント接続が必要な SSL(ATTLSAWARE) を指定した SSL/TLS 環境には、**PERFORM SSL REBUILD** コマンドは適用されません。このような SSL 環境およびキャッシュをリフレッシュする場合は、Application Transparent Transport Layer Security (AT-TLS) の概要の説明に従ってください。

PERFORM SSL REBUILD



状態: INVREQ、IOERR、NOTAUTH

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

PERFORM SSL REBUILD コマンドは、CICS 領域の SSL 環境を再作成する要求です。z/OS System SSL は SSL 環境を管理します。SSL 環境には、CICS 領域用に指定された鍵リングに証明書のコピーが入ったキャッシュが含まれています。

PERFORM SSL REBUILD コマンドが発行されたときに CICS 領域で進行中の SSL ハンドシェークは、引き続き古い証明書情報に基づいて処理を続行し、既存の SSL セッションが維持されます。

SSL 環境の再作成が成功すると、次の影響があります。

- 外部セキュリティー・マネージャーのデータベース内に保持されている CICS 領域の鍵リングから、証明書のキャッシュが再作成されます。新しいキャッシュには、新規証明書または更新された証明書のコピーが含まれます。この証明書は、SSL 環境の以前の作成後に鍵リングに置かれたものです。再作成の完了後に CICS 領域内で開始される新しい SSL ハンドシェークまたはセッションでは、リフレッシュされた証明書情報が使用されます。
- CICS の **SSLCACHE=CICS** システム初期設定パラメーターで指定されたとおり、SSL 環境が CICS 領域のローカル SSL キャッシュを管理する場合、新しいキャッシュが作成されます。この SSL キャッシュは SSl セッションのセッション ID を保持します。新規キャッシュには、CICS 領域で確立された新規 SSL セッションによってデータが取り込まれます。古いキャッシュを使用した最後の接続がドロップされると、古いキャッシュは除去されます。SSL キャッシュが複数の CICS 領域のシスプレックス・レベル (**SSLCACHE=SYSPLEX**) で保持される場合は、影響を受けません。
- CICS 領域で、証明書失効リスト (CRL) の保管に LDAP サーバーを使用する場合、SSL 環境でその LDAP サーバー用に保持されるバインド情報はリフレッシ

ュされます。LDAP サーバーの詳細は、外部セキュリティー・マネージャーによって保持される LDAPBIND 定義から取られます。これは、CICS の **CRLPROFILE** システム初期設定パラメーターによって参照されます。このプロファイルの初期セットアップが無効であるため、CICS 領域で LDAP サーバーへのアクセスが無効になった (メッセージ DFHSO0128 または DFHSO0129 で報告されます) 場合、SSL 環境の再作成で LDAP サーバーへのアクセスを復元することはできません。再作成が実行される時点で CICS 領域から利用可能な LDAP サーバーのみのリフレッシュが行われます。

注**:** SSL 環境の再作成では、LDAP サーバー上の証明書失効リストはリフレッシュされません。これを実行する手順については、Running the CCRL transaction を参照してください。

PERFORM SSL REBUILD コマンドが正常に完了しない場合、古い SSL 環境と古い証明書キャッシュが保持され、CICS 領域で引き続き使用されます。コマンドで z/OS System SSL からのエラーが戻されます。

メッセージ DFHSO0002 が出され、システム・ダンプが取られる場合があります。

オプション

GSKRESP(*data-area*)

z/OS System SSL からの戻りコードを含むフルワード・バイナリー・フィールドを戻します。戻りコードの説明については、「z/OS Cryptographic Services: System SSL Programming」の『SSL function return codes』を参照してください。

例外条件により CICS が z/OS System SSL を開始できない場合、GSKRESP 値は未変更のままになります。

条件

INVREQ

RESP2 値は以下のとおりです。

1 CICS 領域は SSL を使用しません。

IOERR

RESP2 値は以下のとおりです。

6 z/OS System SSL からエラーが戻されました。このオプションを使用した場合、戻りコードは GSKRESP にあります。

NOTAUTH

RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

PERFORM STATISTICS RECORD

統計を即時記録します。

PERFORM STATISTICS RECORD

条件: IOERR、NOTAUTH、NOTFND

説明

PERFORM STATISTICS RECORD コマンドは、指定されるリソース・タイプおよびシステム機能に関する現在の統計が記録される (SMF データ・セットに書き出される) ようにします。記録はただちに実行され、それらの統計の記録を周期的に制御するシステム・オプションによって管理されません。 (817 ページの『SET STATISTICS』の間隔統計を参照してください。)

RESETNOW を指定する場合を除き、このコマンドを実行しても間隔統計や 1 日の終わり統計には影響しません。RESETNOW が指定されない限り、カウントはリセットされないからです。

希望する数の統計タイプを指定できます。または、すべてのタイプを要求することもできます (ALL オプション)。要求するタイプごとに、CICS は使用可能なすべての情報 (間隔統計に記録されている情報) を提供します。システム・サービス (ディスパッチおよび動的トランザクション・バックアウトなど) の場合、CICS は要約 (グローバル) 統計を保持します。リソース・タイプの場合、CICS は関係するタイプのインストール済みリソースごとの特定の統計 (またはリソース統計) を保持し、一部のリソース・タイプでは、CICS はグローバル・カウントも保持します。

プラットフォーム上にデプロイされたアプリケーションの専用リソースとしてサポートされるリソース・タイプの場合、公開リソースの統計レコードと専用リソースの統計レコードが別個に書き込まれ、それぞれ別々の DSECT によってマップされます。

EXEC CICS PERFORM STATISTICS RECORD コマンドを使用してリソース統計を書き込む場合は、リソースが公開か専用かにかかわらず、同じリソース・タイプ・キーワードを使用します。リソースが公開リソースである場合は、公開 DSECT を使用してそのデータをマップします。リソースが専用リソースである場合は、専用 DSECT を使用してそのデータをマップします。

アプリケーション・エントリー・ポイントとして宣言されたプログラムは、公開および専用のプログラム定義 (PROGRAMDEF 統計キーワード) および JVM プログラム (JVMPROGRAM キーワード) のための DSECT 内のフィールドで識別されます。アプリケーション・エントリー・ポイントとして宣言されたプログラム定義または JVM プログラムについて、間隔統計、1 日の終わり統計、要求された統計、要求されたリセット統計、または非送信請求統計が生成される場合は、2 つの統計レコードが書き込まれます。 1 つは、公開リソースの DSECT によってマップされた統計レコード、もう 1 つは、専用リソースの DSECT によってマップされた統計レコードです。ローダー・ドメインによって生成されるプログラム統計 (PROGRAM キーワード) の場合は、アプリケーション・エントリー・ポイントは識別されず、専用プログラム統計レコードが 1 つだけ書き込まれます。

CICS 統計について詳しくは、 CICS 統計の概要を参照してください。

オプション

ALL

すべてのリソース・タイプおよびシステム・サービスの統計を記録します。これは、間隔統計の際に記録される情報と同じです。ここに含まれるユーザー・ドメインのカウントは、このコマンド以外では使用できません。

ASYNCSERVICE
非同期サービスに関するグローバル統計を記録します。

ATOMSERVICE
CICS 領域にインストールされたすべての ATOMSERVICE リソースに関する特定の統計を記録します。

AUTOINSTALL
端末定義の自動インストールに関するグローバル統計を記録します。

BUNDLE
CICS 領域にインストールされたすべての BUNDLE リソースに関する特定の統計を記録します。

CAPTURESPEC
CICS 領域にインストールされたすべてのキャプチャー仕様に関する特定の統計を記録します。

CONNECTION
CICS 領域にインストールされたすべての ISC over SNA 接続および MRO 接続に関する特定の統計を記録します。

DB2
CICS Db2 接続に関するグローバル統計および CICS 領域で定義された DB2ENTRY ごとの特定の統計を記録します。

DISPATCHER
ディスパッチ機能に関するグローバル統計を記録します。これには、タスク・カウント、並行性レベル、および制限が含まれます。

DOCTEMPLATE
CICS 領域にインストールされた各文書テンプレートに関する特定の統計を記録します。

ENQUEUE
エンキュー・マネージャーに関するグローバル統計を記録します。

EPADAPTER
CICS 領域にインストールされたすべての EPADAPTER リソースに関する特定の統計を記録します。

EVENTBINDING
CICS 領域にインストールされたすべての EVENTBINDING リソースに関する特定の統計を記録します。

EVENTPROCESS
イベント処理に関するグローバル統計を記録します。

FEPI
フロントエンド・プログラミング・インターフェース (FEPI) に関するグローバル統計、および FEPI 接続、ターゲット、プールに関する特定の統計を記録します。

FILE
CICS 領域にインストールされたすべてのファイルに関する特定の統計を記録します。

IPCONN
CICS 領域にインストールされたすべての IPIC 接続に関する特定の統計を記録します。

JOURNALNAME
CICS 領域にインストールされたすべてのジャーナルに関する特定の統計を記録します。このパラメーターは、JOURNALNUM パラメーターを置き換えます。CICS 領域にインストールされているジャーナルすべての特定の統計を記録する場合は、このパラメーターを使用することをお勧めします。

JOURNALNUM
JOURNALNAME パラメーターによって戻される特定の統計を記録します。

JVMPROGRAM
JVM で実行する、CICS 領域内の公用および専用のすべての Java プログラムに関する特定の統計を記録します。

JVMSERVER
すべての JVMSERVER リソースに関する特定の統計を記録します。

LIBRARY
公用および専用のすべての LIBRARY リソースに関する特定の統計を記録します。

LSRPOOL
CICS 領域で定義されたすべての VSAM LSR プールに関する特定の統計を記録します。これには、FILE オプションによって作成された統計に加えてプール内のファイルに関する統計も含まれます。

MONITOR
CICS のモニター機能に関するグローバル統計を記録します。

MQCONN
WebSphere MQ 接続のグローバル統計を記録します。

MQMONITOR
CICS 領域にインストールされたすべての WebSphere MQ モニターに関する統計を記録します。

NODEJSAPP
CICS 領域にインストールされたすべての NODEJSAPP リソースに関する特定の統計を記録します。

PIPELINE
インストール済みのパイプラインに関連する統計を記録します。

POLICY
CICS 領域にインストールされたすべてのポリシー規則のリソースに関する特定の統計を記録します。

PROGAUTO
プログラム定義の自動インストールに関するグローバル統計を記録します。

PROGRAM
CICS 領域にインストールされた公用および専用のすべてのプログラムのグロー

バル統計および特定の統計を記録します。ただし、JVM で実行する Java プログラムは除きます (このプログラムには JVMPROGRAM オプションを使用できます)。

PROGRAMDEF
公用および専用のプログラム定義の統計を記録します。

RECOVERY
リカバリー・マネージャーに関するグローバル統計を記録します。

RESETNOW
記録後に、すべての統計を初期値にリセットします。このオプションは、ALL オプションと併用する場合にのみ使用できます。初期値の定義は、保持されている統計によって異なります。詳しくは、DSECTS および DFHSTUP レポートの CICS 統計を参照してください。

STATS
CICS の統計収集機能に関するグローバル統計を記録します。

STORAGE
すべての CICS 動的ストレージ・サブプール領域に関するグローバル統計、およびサブプールごとの特定の統計を記録します。

STREAMNAME
ログ・マネージャーに関するグローバル統計および現在接続されているすべてのログ・ストリームに関する特定の統計を記録します。

SYSDUMP
システム・ダンプに関するグローバル統計およびシステム・ダンプ・コード・テーブルの各ダンプ・コードに関する特定の統計を記録します。

TABLEMGR
CICS テーブル・マネージャーに関するグローバル統計を記録します。

TCLASS
CICS 領域内で定義されたすべてのトランザクション・クラスに関する特定の統計を記録します。このオプションは TRANCLASS と同じ働きがあり、CICS の旧バージョンとの互換性の目的でのみ保持されています。可能であれば、代わりに TRANCLASS を使用してください。

TCPIP
IP ソケットに関するグローバル統計を記録します。

TCPIPSERVICE
CICS 領域にインストールされた、すべての TCP/IP サービスに関する特定の統計を記録します。

TDQUEUE
一時データに関するグローバル統計および CICS 領域で定義されたキューごとの特定の統計を記録します。

TERMINAL
CICS 領域にインストールされた各端末およびセッションに関する特定の統計を記録します。

TRANCLASS
CICS 領域内で定義されたすべてのトランザクション・クラスに関する特定の統計を記録します。

TRANDUMP
トランザクション・ダンプに関するグローバル統計およびトランザクション・ダンプ・テーブルの各ダンプ・コードに関する特定の統計を記録します。

TRANSACTION
トランザクションに関するグローバル統計およびシステムにインストールされた各トランザクションに関する特定の統計を記録します。

TSQUEUE
一時記憶域に関するグローバル統計を記録します。

URIMAP
URIMAP リソースに関連する統計を記録します。

VTAM (現在は z/OS Communications Server)
CICS 領域のグローバル z/OS Communications Server 統計を記録します。

WEBSERVICE
WEBSERVICE リソースに関連する統計を記録します。

XMLTRANSFORM
XMLTRANSFORM リソースに関連する統計を記録します。

条件

IOERR
RESP2 値は以下のとおりです。

n
選択されたオプションのうち少なくとも 1 つに関する統計が使用できませんでした。通常、このエラーの理由は、それらの統計が累積されるメモリーの破損です。詳しくは、『統計を使用できない場合』を参照してください。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100
発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

NOTFND
RESP2 値は以下のとおりです。

n
選択されたオプションのうち少なくとも 1 つに関する統計が使用できませんでした。リソース・タイプは有効ですが、CICS がその機能のサポートなしで初期設定されたからです。詳しくは、『統計を使用できない場合』を参照してください。

統計を使用できない場合

要求したリソース・タイプに関する統計を使用できない場合、CICS は以下のように適切な応答を戻します。

- エラーのために統計を使用できない場合、CICS は IOERR 例外条件を戻します。通常、このエラーの理由は、統計が累積されるメモリーの破損です。

- 要求したリソース・タイプが有効であっても、CICS がその機能のサポートなしで初期化された場合には、CICS は NOTFND 例外条件を戻します。
- 要求したリソース・タイプが廃止されていた場合、CICS は通常応答を戻しますが、そのリソース・タイプについての統計は記録はしません。

その他のリソース・タイプに関する統計を要求した場合、CICS は残りのタイプを使用して、可能な限りの情報を記録し続けます。CICS が IOERR または NOTFND 例外条件を戻すと、RESP2 値 *n* はそのように障害を発生しない次のようなリソース・タイプを識別します。

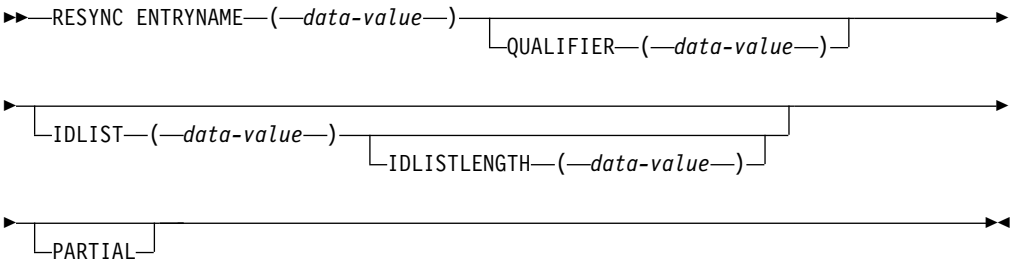
n	リソース・タイプ
1	AUTOINSTALL
2	CONNECTION
3	DISPATCHER
6	FILE
8	JOURNALNUM および JOURNALNAME
10	LSRPOOL
11	MONITOR
12	PROGRAM
13	STATS
14	STORAGE
15	SYSDUMP
16	TABLEMGR
18	TCLASS、TRANCLASS
19	TDQUEUE
20	TERMINAL
21	TRANDUMP
22	TRANSACTION
23	TSQUEUE
24	VTAM
25	FEPI
26	PROGAUTO
27	NODEJSAPP
28	ENQUEUE
29	RECOVERY
30	STREAMNAME
31	DB2
32	TCPIPSERVICE
33	TCPIP
39	JVMPROGRAM
40	MQCONN
41	URIMAP
42	WEBSERVICE

n	リソース・タイプ
43	PIPELINE
44	DOCTEMPLATE
45	IPCONN
46	LIBRARY
47	PROGRAMDEF
48	BUNDLE
49	ATOMSERVICE
50	EVENTBINDING
51	EVENTPROCESS
52	JVMSERVER
53	XMLTRANSFORM
54	CAPTURESPEC
55	EPADAPTER
56	POLICY
57	MQMONITOR
58	ASYNCSERVICE

RESYNC ENTRYNAME

「未処理の」作業単位の処置を決定します。

RESYNC ENTRYNAME



条件: NOTAUTH

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

RESYNC コマンドは、非 CICS リソース・マネージャーが、「未確定」である作業単位がコミットされたか、バックアウトされたかを判別できるようにします。

同期点の第 1 フェーズで呼び出された場合、リソース・マネージャーは作業単位について未確定ですが、第 2 フェーズでは未確定ではありません。第 1 フェーズと第 2 フェーズの間でリソース・マネージャーまたは CICS のいずれかで障害が発生した場合、リソース・マネージャーはその作業単位について未確定のままになります。

CICS は、RESYNC コマンドまたは初期始動まで、このような作業単位の処置を保管または再構成します。また、CICS は、リソース・マネージャーが第 2 フェーズの同期点呼び出しに「remember」と応答する対象の作業単位の処置も保管します。その結果、リソース・マネージャーが指定どおりにコミットまたはロールバックすることができない場合、リカバリーのために後で処置を要求できます。

保管された処置情報を使用するには、リソース・マネージャーには、どの作業単位が未確定または「remember」であるかの記録が必要です。その後、タスク関連ユーザー出口プログラムまたは関連した管理トランザクションのいずれかで、これらの作業単位のリストを指定して RESYNC コマンドを発行することができます。

これに応じて、CICS は、リスト内の未確定作業単位ごとにタスク CRSY を作成します。CRSY タスクは、特定の作業単位に代わってタスク関連ユーザー出口プログラムを 1 回呼び出します。この呼び出しは、フェーズ 2 の同期点要求として出口に識別され、作業単位がコミットされたか、ロールバックされたかを示します。その上で、出口プログラムは、リソース・マネージャーが要求する形式でこの情報を中継することができます。

リソース・マネージャーが、すべての未確定作業単位を同時に再同期しない場合、RESYNC コマンドで PARTIAL を指定します。そうしない場合、CICS は、指定されたリストにあるのではなく、リソース・マネージャーの再同期セットに含まれているすべての未確定作業単位に関する処置情報を破棄します。

注**:** リソース・マネージャーの再同期セットは、タスク関連ユーザー出口が最初に使用可能になるときに初期化されます。これは、部分的でない最初の RESYNC コマンドが発行されるときに使用されます。非部分的 RESYNC の完了後、次の非部分的 RESYNC で使用するために、新しい再同期セットが初期化されます。

リソース・マネージャーは、タスク関連ユーザー出口の名前、およびオプションとしてこの名前の修飾子で識別されます。修飾子を使用すると、同じリソース・マネージャーの複数のインスタンスが個別に再同期できます。

CRSY タスクがスケジュールされるとすぐに、RESYNC コマンドを発行したプログラムに制御が戻されます。通常の CICS ディスパッチ規則に従って、並行して非同期で実行されます。その結果、RESYNC コマンドの前にこれらの呼び出しを処理できる点まで、出口は使用可能になり、始動、および初期化されなければなりません。

出口が使用可能でない場合、CRSY タスクがその作業単位の処置を保管しますが、これは後で行われるので、例外条件は RESYNC で発生しません。タスク関連ユーザー出口の再同期呼び出しについて詳しくは、タスク関連ユーザー出口プログラムの作成を参照してください。

何らかの理由で CICS が失敗した場合、または即時シャットダウンが実行された場合、外部リソース・マネージャーから戻されるコミット済みフローへの応答として書き込まれる「forget フロー」ログ・レコードは失われます。これは、制御された CICS シャットダウン以外により、ログ・ストリームへのログ・レコードを強制するために MVS ロガーが呼び出されないからです。これにより、外部リソース・マネージャーへのリンクが再始動の時点で「forget 可能」と認識されなかった場合、以後の CICS の緊急時再始動で作業単位が再作成される場合があります。CICS がこ

のような作業単位を破棄できるようにするために、外部リソース・マネージャーは、CICS システムの再始動後に再接続するときに EXEC CICS RESYNC コマンドを CICS に対して発行することができます。このコマンドで渡されない作業単位はすべて、CICS では必要ないとして処理されます。

オプション

ENTRYNAME(*data-value*)
リソース・マネージャーのタスク関連ユーザー出口の 8 文字の名前を指定します。これは、出口を確立した ENABLE コマンドの ENTRYNAME 値です。ENTRYNAME が省略された場合は、PROGRAM 値です。

IDLIST(*data-value*)
再同期する作業単位のリストを指定します。リスト内の各エントリーは、未確定作業単位の 8 バイト ID のアドレス です。このリストの終わりは、オンになった上位ビットによって示されるか、IDLISTLENGTH を使用できます。

作業単位は、タスク関連ユーザー出口に渡される UEPURID 値によって識別されます。

注: IDLIST はオプションですが、省略すると、PARTIAL を指定しない限り、CICS は、リソース・マネージャーについて保管されたすべての処置情報を破棄します。リストを指定しないことと、PARTIAL を指定することは、非論理的な組み合わせであり、NO-OP になります。

IDLISTLENGTH(*data-value*)
アドレス・リストの長さ (バイト単位、未確定作業単位ごとに 4 バイトをカウント) を示すハーフワード・バイナリー値を指定します。

PARTIAL
CICS が、未確定リストで渡されない (このリソース・マネージャーの) UOW の未確定の解決データを保持することを指定します。PARTIAL は、この時点で、リソース・マネージャーが、未確定である UOW のサブセットのみを再同期することを示します。

PARTIAL が指定されない場合、CICS は、未確定リストで渡されない UOW で、このリソース・マネージャーの再同期セットに含まれている UOW の解決データを破棄します。

注: リソース・マネージャーの再同期セットは、タスク関連ユーザー出口が最初に使用可能になるときに初期化されます。これは、部分的でない最初の RESYNC コマンドが発行されるときに使用されます。非部分的 RESYNC の完了後、次の非部分的 RESYNC で使用するために、新しい再同期セットが初期化されます。
これには、CICS 自体で未確定である UOW のデータが含まれます。

タスク関連ユーザー出口プログラムは、外部リソース・マネージャーとの接続の存続期間中に複数の部分再同期を発行することができます。ただし、接続の存続期間中にフル (すなわち、非部分) 再同期を発行するのは *1* 回 のみでなければなりません。これは通常、接続が最初に確立されるときに行われます。フル再同期は、IDLIST に記載されていない UOW が削除されることを暗黙に示します。外部リソース・マネージャーが CICS に接続されていない場合のみ、CICS に渡される UOW の完全なリストがあることが確実になります。

data-value)

RESYNC コマンドが適用されるリソース・マネージャーの特定のインスタンスを識別する、ENTRYNAME 値の 8 文字の修飾子を指定します。この修飾子はオプションです。リソース・マネージャーの複数のコピーが使用中であるシステム向けです。

使用中である場合、ユーザー出口パラメーター・リストの UEPRMQUA 値を使用して、作業単位が生じる時点で、タスク関連ユーザー出口によって作業単位にこの値が割り当てられます。RESYNC コマンドで修飾子が指定される場合、CICS は、同じ QUALIFIER 値と ENTRYNAME 値を使用して保管された処置情報のみを使用します。同様に、保管された処置を破棄するのは、同じ 2 つの値を持ち、IDLIST に組み込まれず、PARTIAL が指定されない場合のみです。

条件

NOTAUTH

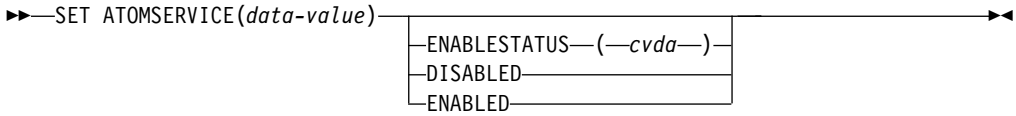
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

SET ATOMSERVICE

ATOMSERVICE 定義を使用可能または使用不可にします。

SET ATOMSERVICE



条件: INVREQ、NOTAUTH、NOTFND

このコマンドはスレッド・セーフです。

オプション

ENABLESTATUS(*cvda*)

ATOMSERVICE 定義の状況を、使用可能または使用不可に設定します。CVDA 値は次のとおりです。

DISABLED

アプリケーションは ATOMSERVICE 定義にアクセスできません。ATOMSERVICE 定義を再インストールまたは破棄できるようにするには、その前にこれを使用不可にする必要があります。 ATOMSERVICE リソース定義を使用不可にすると、CICS は Web クライアントに HTTP 応答を 503 (サービス利用不可) の状況コードを付けて戻します。

ENABLED

アプリケーションは ATOMSERVICE 定義にアクセスできます。

条件

INVREQ

RESP2 値:

9 無効な ENABLESTATUS 値。

NOTAUTH

RESP2 値:

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

101 発行中のタスクに関連付けられているユーザーには、このコマンドが要求する方法でこの特定のリソースにアクセスする権限がありません。

NOTFND

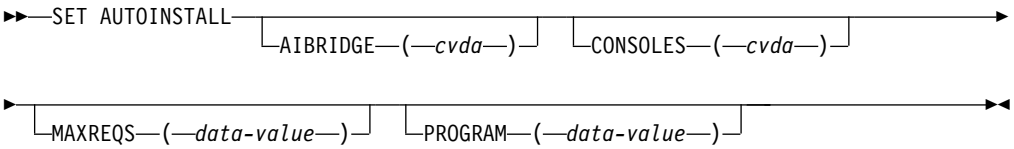
RESP2 値:

3 ATOMSERVICE が見つかりません。

SET AUTOINSTALL

自動インストール値を変更します。

SET AUTOINSTALL



状態**:** INVREQ、NOTAUTH、PGMIDERR

説明

SET AUTOINSTALL コマンドを使用すると、z/OS Communications Server 端末、APPC セッション、3270 ブリッジ機構で使用される仮想端末 (ブリッジ機能)、および CICS 領域の MVS コンソールの自動インストールを制御するいくつかの値を変更することができます。

オプション

AIBRIDGE(*cvda*)

自動インストール・ユーザー置き換え可能プログラム (URM) がブリッジ機能に対して呼び出されるかどうかを指定します。 CVDA 値は以下のとおりです。

AUTOTERMID

ブリッジ機能は、CICS によって自動的に定義されます。自動インストール・ユーザー置き換え可能プログラムは呼び出されません。

URMTERMID

自動インストール・ユーザー置き換え可能プログラムが呼び出されます。

CONSOLES(*cvda*)
CICS が、定義されていないコンソールから MVS MODIFY コマンドを受け取ったときに、MVS コンソールを自動インストールするかどうかを指定します。CVDA 値は以下のとおりです。

PROGAUTO
MVS コンソールは自動インストールされ、CICS は、ユーザー自動インストール制御プログラムを呼び出して、termid やその他のユーザー指定情報を取得します。

FULLAUTO
ユーザー自動インストール制御プログラムを呼び出すことなく、 MVS コンソールは CICS によって自動インストールされます。CICS は、¬ (論理 NOT) シンボルを先頭文字として使用して、コンソールの termid を自動的に割り当てます。

NOAUTO
コンソールの自動インストールが許可されません。

MAXREQS(*data-value*)
並行して処理可能な自動インストール要求の最大数を、フルワード・バイナリー値として指定します。この値は 0 から 999 までの範囲内でなければなりません。

注**:** MAXREQS は、自動インストール可能な端末の総数を制限しません。制限するのは、要求の到着速度のみです。ただし、MAXREQS を 0 に設定することによって、追加端末の自動インストールを防ぐことができます。すでに自動インストールされている端末は影響を受けませんが、ログオフすると、MAXREQS が 0 のときに再度ログオンすることはできません。

PROGRAM(*data-value*)
端末の自動インストール・プロセスで使用されるプログラムの 8 文字の名前を指定します。インストール固有プログラムを指定するか、CICS 提供のデフォルト値 DFHZATDX を指定できます。

注**:** プログラム自動インストール・プロセスで使用するには、このプログラム (およびそれが呼び出すすべてのプログラム) が事前にインストールされていなければなりません。これを行うには、明示的な PROGRAM 定義によるか、または他の自動インストール・プログラムが有効なときは自動インストールによって行うことができます。それ以外の場合は、プログラム自動インストール・プロセスは、次回使用時に失敗し、CICS によって非アクティブになります。

条件

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

1 z/OS Communications Server がこのシステムで使用中ではありません。

2 MAXREQS 値が、0 から 999 の範囲ではありません。

4 DFHZATDX で呼び出されたモジュールの 1 つ (DFHZATA および DFHZATD) が見つかりません。

20 CONSOLES に無効な CVDA 値があります。

41 AIBRIDGE に無効な CVDA 値があります。

NOTAUTH

RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

PGMIDERR

RESP2 値は以下のとおりです。

3 プログラム名が見つかりません。

SET BRFACILITY

3270 ブリッジ機構により使用される仮想端末 (ブリッジ機能) をリリースします。

SET BRFACILITY

条件**:** NOTAUTH、NOTFOUND

CVDA の使用について詳しくは、CICS-value data areas (CVDAs)を参照してください。

説明

SET BRFACILITY コマンドを使用すると、3270 ブリッジ機構で使用される仮想端末 (ブリッジ機能) の削除を要求できます。

トランザクションが現在実行中である場合、そのトランザクションの終わりにブリッジ機能は削除されます。ブリッジ機能が現在 AVAILABLE である場合、この機能は次回のガーベッジ・クリアランス時に削除されます。

ブリッジ機能が解放されると、XFAINTU グローバル・ユーザー出口の削除機能が実行されます。

注**:** ブリッジ機能は、コマンドが発行される領域でのみ削除されます。ブリッジ機能はルーター領域と AOR 領域の両方に存在することができます。このコマンドは、発行される領域で機能を削除します。他の領域に影響を与えませんが、これは、ブリッジ機能が使用できなくなっていることを意味します。ただし、ブリッジ機能が占有しているストレージを解放するために、このコマンドは両方の領域で発行されなければなりません。このコマンドは、ブリッジ機能が作成されたルーター領域または AOR 領域でのみ発行できます。

オプション

BRFACILITY((*data-value***)**

ブリッジ機能の 8 バイトの機能トークンを指定します。

TERMSTATUS(*cvda*)
ブリッジ機能に削除のマークを付けることを指定します。

RELEASED
ブリッジ機能が削除されます。

条件

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

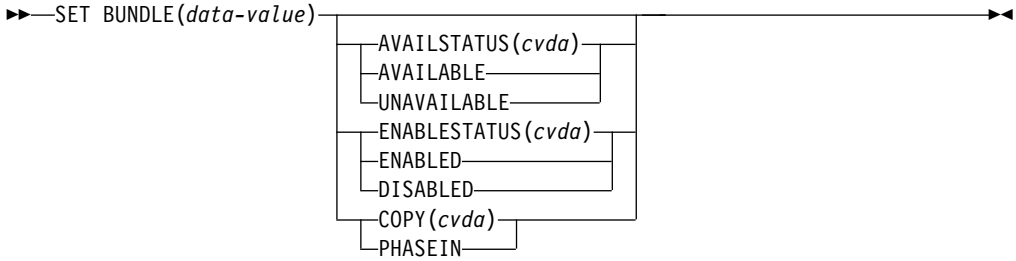
NOTFOUND
RESP2 値は以下のとおりです。

1 指定されたブリッジ機能が見つかりませんでした。

SET BUNDLE

SET BUNDLE コマンドは、インストール済み BUNDLE リソースの状況を変更するために使用します。このリソースは、CICS バンドルを表します。

SET BUNDLE



条件: INVREQ、NOTAUTH、NOTFND

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

SET BUNDLE コマンドは、スタンドアロン CICS バンドルの状況を変更するために使用します。

SET BUNDLE コマンドは、単一の CICS 領域にあるアプリケーションに関してインストールされた 1 つの CICS バンドルに対して機能しますが、これは、各種アプリケーションの CICS バンドルの通常の管理を意図したものではありません。プラットフォームにデプロイされるアプリケーションの一部としてインストールされた CICS バンドルの場合、CICS Explorer の CICS クラウド・パースペクティブにある「クラウド・エクスプローラー」ビューを使用してアプリケーションを操作します。アプリケーションに対して実行する操作は、そのアプリケーションのすべての CICS バンドルに対して適用されます。アプリケーションの個々の CICS バンドルの状況

をトラブルシューティングする必要がある場合は、CICS Explorer を使用して、複数の CICS 領域にある個々のバンドルの問題を調べることもできます。

正常にインストールされた CICS バンドルは、インストールされた CICS 領域で有効状態または無効状態の可能性があり、また、使用可能状態または使用不可状態の可能性もあります。CICS バンドルが無効状態または使用不可状態の場合、CICS バンドルのリソースは動的に作成されましたが、まだ使用できません。

- アプリケーション・エントリー・ポイントを宣言する CICS バンドルでは、まずバンドルを有効にし、次にそれを使用可能にして、ユーザーがリソースにアクセスできるようにする必要があります。バンドルが使用可能になると、呼び出し元は CICS でアプリケーション・エントリー・ポイントにアクセスできるようになるため、CICS バンドル内のすべてのリソースにアクセスできるようになります。
- アプリケーション・エントリー・ポイントを宣言しない CICS バンドルについては、バンドルを有効にするだけで構いません。アプリケーション・エントリー・ポイントによって制御されないリソースは、有効になるとすぐにユーザーが使用できるようになります。

CICS バンドルをアンインストールする場合、その前にそのバンドルへのユーザーのアクセスを取り消し、無効にする必要があります。その後、スタンドアロン CICS バンドルの BUNDLE リソースを破棄することもできますし、CICS バンドルがインストールされたアプリケーションをアンインストールすることもできます。

- アプリケーション・エントリー・ポイントを宣言する CICS バンドルについては、まずバンドルを使用不可にしてから無効にする必要があります。
- アプリケーション・エントリー・ポイントを宣言しない CICS バンドルについては、バンドルを使用不可にする必要はありません。必要なのは無効にすることだけです。

AVAILSTATUS、COPY、および ENABLESTATUS を指定するために、別々の **SET BUNDLE** コマンドを発行する必要があります。 CICS は、CICS バンドルの状態の整合性を保つため、それぞれの操作を別個に完了する必要があります。

オプション

AVAILSTATUS(*cvda*)
CICS バンドルを表す BUNDLE リソースの状況を変更します。CVDA 値は以下のとおりです。

AVAILABLE
呼び出し元は、CICS バンドルでアプリケーション・エントリー・ポイントとして識別されるリソースに CICS でアクセスできるため、CICS バンドルのすべてのリソースにアクセスできます。

UNAVAILABLE
CICS バンドルでアプリケーション・エントリー・ポイントとして識別されるリソースに CICS でアクセスできなくなるため、呼び出し元は CICS バンドルのどの専用リソースにもアクセスできません。

ENABLESTATUS(*cvda*)
CICS バンドルを表す BUNDLE リソースの状況を変更します。CVDA 値は以下のとおりです。

ENABLED
CICS は、BUNDLE リソースの有効化と、CICS 領域に CICS バンドル用に動的に作成されたリソースの有効化を試行します。

DISABLED
CICS は、CICS 領域に CICS バンドル用に動的に作成されたリソースの無効化と、BUNDLE リソースの無効化を試行します。

COPY(*cvda*)
各 OSGi バンドルの最上位のセマンティック・バージョンを OSGi フレームワークに登録してそれ以降のすべての要求で使用するように指定します。 CVDA 値は以下のとおりです。

PHASEIN
CICS バンドルのルート・ディレクトリーにあるすべての OSGi バンドルの最上位のセマンティック・バージョンを判別し、まだ登録されていない場合は、そのバージョンを OSGi フレームワークに登録します。以前に登録されたバージョンは OSGi フレームワークから除去されます。それ以後のすべてのサービス要求では新しいバージョンが使用されますが、アクティブな要求では、その要求が完了するまで古いバージョンが引き続き使用されます。

条件

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

4 ENABLESTATUS に対して無効な CVDA 値が指定されました。

6 無効な状態の BUNDLE リソースを有効または無効にしようとしました。

7 CICS が、登録されたバンドル・コールバック・プログラムへのリンクに失敗しました。

9 BUNDLE リソースを有効にすることができません。

10 アプリケーション・エントリー・ポイントが含まれない BUNDLE リソースの可用性を設定しようとしました。

11 BUNDLE リソースを使用可能にしようとしましたが、バンドルが有効になっていないため失敗しました。

12 BUNDLE リソースは、バンドルの可用性の設定に失敗しました。

13 BUNDLE リソースを無効にしようとしましたが、バンドルが使用不可であるため失敗しました。

14 AVAILSTATUS に対して無効な CVDA 値が指定されました。

15 コマンドに ENABLESTATUS と AVAILSTATUS の両方が指定されました。

16 COPY オプションが指定されましたが、バンドルは有効ではありません。

17 同じコマンドに COPY と AVAILSTATUS または ENABLESTATUS の両方が指定されました。

18 COPY に対して無効な CVDA 値が指定されました。

19 バンドルがインストール済みのプラットフォームまたはアプリケーションの一部になっているため、COPY オプションを使用することはできません。アプリケーションの一部としてデプロイされているバンドルを更新する方法については、アプリケーションの管理を参照してください。

20 COPY オプションが指定されましたが、CICS バンドルに OSGi バンドル参照が含まれていません。

21 COPY(PHASEIN) オプションが指定されましたが、フェーズイン操作が失敗しました。

NOTAUTH

RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

101 発行中のタスクに関連付けられているユーザーには、このコマンドが要求する方法でこの特定のリソースにアクセスする権限がありません。

NOTFND

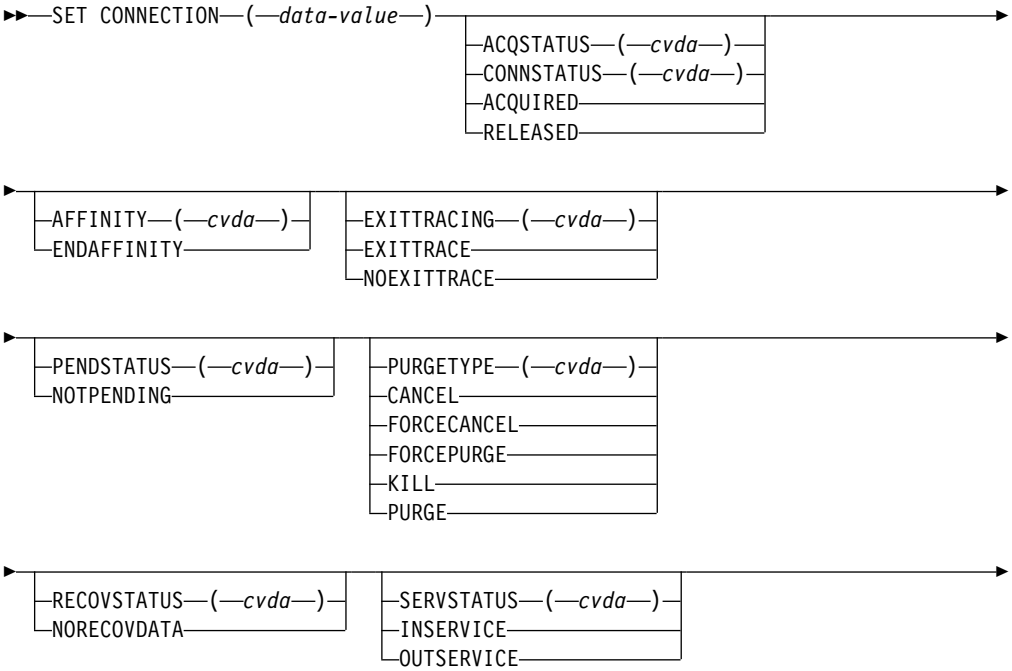
RESP2 値は以下のとおりです。

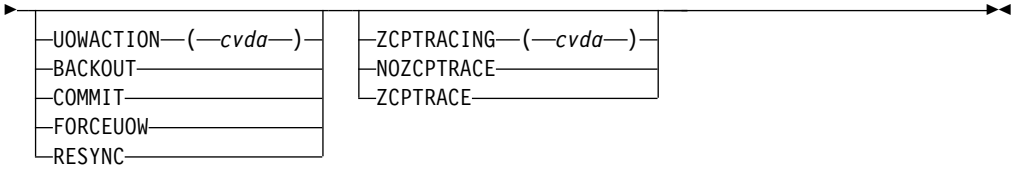
3 BUNDLE が見つかりませんでした。

SET CONNECTION

MRO または SNA を介した ISC 接続の属性の変更、または未解決の AID の取り消しを行います。

SET CONNECTION





状態:INVREQ、IOERR、NORMAL、NOTAUTH、SYSIDERR

CVDA の使用の詳細については、CICS-value data areas (CVDAs)を参照してください。

説明

SET CONNECTION コマンドを使用すると、MRO または SNA を介した ISC 接続を定義する属性の一部を変更できます。必須の操作がスケジュールに入れられると、発行元のプログラムに制御が戻ります。操作を開始するには、CICS に制御を渡す必要があります。

注**: SET CONNECTION** は、MRO および SNA を介した ISC 接続の属性を変更するために使用します。 775 ページの『SET IPCONN』も参照してください。**SET IPCONN** コマンドは、 IPIC 接続 (*IPCONN* とも呼ばれる) の属性を変更するために使用します。

各種の相互通信接続については、相互通信の方式を参照してください。

SNA を介した ISC 接続に関連付けられた APPC セッションの獲得と解放のプロセスには、LU サービス管理トランザクション CLS1 の開始が含まれます。CLS1 トランザクションにデータを渡すために、CICS はデフォルト接頭部 DF を持つ一時記憶域キューを使用します。接頭部 DF の付いた一時記憶域キューが、インストール済み環境でリカバリー可能として定義されている場合、**SET CONNECTION** コマンドの次に **SYNCPOINT** コマンドを使用して、論理作業単位を終了し、**SET CONNECTION** コマンドが完了するようにします。

| このコマンドは、ローカル・システムの名前も受け入れます。ローカル・システ
| ム・エントリーの場合、有効なオプションは **CANCEL** と **FORCECANCEL** のみです。

オプション

ACQSTATUS(*cvda***) (APPC のみ)**
このオプションは、互換性のみの目的で保持されています。新規アプリケーションでは CONNSTATUS を使用してください。

AFFINITY(*cvda***) (APPC および LU61 のみ)**
CICS が z/OS Communications Server 汎用リソース・グループのメンバーである場合、z/OS Communications Server が CICS により所有される親和性を終了させることを指定します。このオプションは APPC および LU6.1 接続の場合にのみ有効です。この接続はサービス休止でなければならず、APPC の場合は NORECOVDATA 状態でなければなりません。

CVDA 値は以下のとおりです。

ENDAFFINITY
親和性を終了します。

注:

1. 親和性を照会する機能が z/OS Communications Server にはないため、CICS では特定の接続に親和性が存在することをはっきりとは認識しません。明示的に終了させる必要がある親和性が作成されている可能性がある場合はいつでも、CICS はメッセージ DFHZC0177 を発行します。このメッセージは疑わしい接続の NETNAME および NETID を示します。
2. 親和性が存在しないために、親和性を終わらせる要求が z/OS Communications Server によって拒否されると、CICS はメッセージ DFHZC0181 を出します。
3. 汎用リソースと親和性については、シスプレックスにおけるワークロード・バランシングで説明されています

CONNECTION(*data-value*)
APPC、IRC、または LUTYPE6.1 接続を、4 文字のフィールドとして指定します。これは、CEDA DEFINE CONNECTION コマンドの CONNECTION オプションで指定されているリモート・システムまたは領域の名前です。

このパラメーターは、ローカル・システムの名前も受け入れます。ローカル・システム・エントリーの場合、有効なオプションは **CANCEL** と **FORCECANCEL** のみです。

CONNSTATUS(*cvda*) (APPC のみ)
CONNECTION 名によって表されている論理装置とのセッションを獲得するか、解放するかを指定します。接続エレメントの可用性の状況に関する詳細情報を入手するには、INQUIRE MODENAME START、NEXT、および END コマンドを使用してください。接続は、ACQUIRED と OUTSERVICE の両方に設定することはできません。

CVDA 値は次のとおりです。

ACQUIRED
セッションは獲得されます。

RELEASED
セッションは解放されます。

APPC 接続の管理について詳しくは、APPC 接続の管理を参照してください。

注: INQUIRE CONNECTION コマンドの場合は CONNSTATUS は IRC 接続に適用されますが、SET CONNECTION コマンドの場合は適用されません。MRO 接続の CONNSTATUS を制御するには、SERVSTATUS CVDA を使用して接続 INSERVICE または OUTSERVICE を設定します。

EXITTRACING(*cvda*) (z/OS Communications Server のみ)
この接続に関連したセッションに関する、端末出口プログラムに関連したアクティビティーをトレースするかどうかを指定します。CVDA 値は次のとおりです。

EXITTRACE
アクティビティーはトレースされます。

NOEXITTRACE
アクティビティーはトレースされません。

PENDSTATUS(*cvda*)(APPC および CICS 間 MRO のみ) CICS
以下のいずれかの種類の接続の場合に、通常の再同期プロセスが指定変更されることを指定します。

- 初期始動を実行した、CICS Transaction Server for z/OS パートナーへの接続
- コールド・スタートを実行した、CICS Transaction Server for z/OS より前のパートナーへの接続

CVDA 値は以下のとおりです。

NOTPENDING
パートナーの初期始動 (またはコールド・スタート) 前に接続によって作成された、すべての未確定作業単位を (トランザクション定義に従って) 強制します。さらに、パートナーの初期始動 (またはコールド・スタート) 前に作成された、接続が未解決の再同期 (FORGET 待機 UOW リンク) には FORGET が実行されます。

PENDING 条件は、パートナーとのログ名にミスマッチがあった接続に関するリカバリー情報 (パートナーについて記憶されている中断された UOW または決定) が存在することを示します。CICS Transaction Server for z/OS パートナーの場合、ログ名のミスマッチはパートナーが初期始動を実行したことを示します。 CICS Transaction Server for z/OS より前のパートナーの場合、ログ名のミスマッチはパートナーがコールド・スタートを実行したことを示します。どちらの場合も、リカバリー・プロトコルはパートナー側でのログ・データの消失により破壊されています。

このシステムがパートナーと接続して、そのパートナーから新規ログ名を受け取るまでは、接続を NOTPENDING 状態 (未確定を強制して NOFORGET UOW を消去する) に設定することはできません。

接続全体の決定は忘れられることがありますが、そのことは UOW に関係する他の接続の決定のメモリーには影響しません。

注**:** SET CONNECTION NOTPENDING、SET CONNECTION NORECOVDATA、および SET CONNECTION UOWACTION は相互に排他的です。使用するコマンドについての情報は、UOWACTION オプションの説明の後にある注を参照してください。

交換ログ名機能と再同期機能は、Troubleshooting intersystem problemsで説明されています。

PURGETYPE(*cvda*)
関連するトランザクションをパージする方法を指定します。CVDA 値は次のとおりです。

CANCEL
指定された接続の AID キューイングを取り消します。

指定の接続をローカル CICS システムで待機している AID (スケジュールされた割り振り済みの要求を表すもの) が取り消されます。しかし、関連の起動されるタスクが既に開始されている TD AID は取り消されません。さらに、以下の CICS システム AID は、FORCECANCEL が指定されない限りパージされません。

表 40. 除去するのに *FORCECANCEL* が必要なシステム *AID*

FORCECANCEL が必要な **AID**	**Name**
リモート削除 AID	
リモート・スケジューラー AID	CRSR
LU6.2 サービス・マネージャー 1 AID	CLS1
LU6.2 サービス・マネージャー 3 AID	CLS3
リモート・スケジュール PURGE AID	CRSQ
リソース・マネージャー再同期 AID	CRSY
自動インストール端末削除 AID	CATD
再始動端末削除 AID	CATR

メッセージ DFHTF0101 が CSMT に書き込まれ、接続に関する AID が削除された数と、残っている数が示されます。

取り消された SCHEDULE 要求で、リモート CICS システムに先行版があることが判明した場合、つまり AID がもともとリモート・システムでスケジュールされていた場合、このリモート AID は非同期に取り消されます。

FORCECANCEL
指定された接続のためにキューイングしているすべての AID (システム AID を含む) が取り消されます。除去するのに FORCECANCEL が必要なシステム AID のリストについては、表 40 を参照してください。これは予測不能な結果になる場合があり、例外的な状況でのみ使用する必要があります。

注: FORCECANCEL は関連の起動されるタスクがある一時データ AID は除去しません。このような AID を除去するには、関連付けられているタスクをパージしてください。

FORCEPURGE
接続されたシステムのセッションで実行されているトランザクションをすべて即時に異常終了させます。これは予測不能な結果になる場合があり、例外的な状況でのみ使用する必要があります。

いくつかの極端なケースでは (バックアウト処理中にエラーが発生した場合など)、CICS が異常終了することがあります。

未確定および中断された UOW の場合、FORCEPURGE には効果はありません。

注: 中断された UOW を強制するには、オペレーターは FORCEPURGE に続いて SET CONNECTION COMMIT、BACKOUT、または FORCE コマンドを発行する必要があります。これは予測不能な結果になる場合があり、例外的な状況でのみ使用する必要があります。

KILL タスクは終了されることになります。システムおよびデータ保全性は保証されません。KILL オプションは、PURGE および FORCEPURGE オプションを拡張します。このオプションは、タスクの PURGE または FORCEPURGE を試みた後で初めて使用する必要があります。KILL

オプションはどのような種類の保全性も保証しませんが、ある状況では、停止された領域が処理を継続できるように、ユーザーがその領域を解放することを許可します。場合によっては (例えば、タスクがバックアウト処理中に kill される場合)、CICS は異常終了します。

PURGE
接続されたシステムで実行中のトランザクションをすべて異常終了させます。トランザクションが終了するのは、システム保全性とデータ保全性を維持できる場合のみです。定義が SPURGE=NO を指定している場合や、UOW が中断している場合は、トランザクションはパージされません。

RECOVSTATUS(*cvda*) (APPC のみ)
通常の再同期プロセスを指定変更することを指定します。 CVDA 値は以下のとおりです。

NORECOVDATA
すべての未確定作業単位を (トランザクション定義に従って) 強制し、接続が未解決のすべての再同期を対象とし、パートナー・システムから以前に受け取ったログ名を消去します。接続の状態はリセットされます。

重要: SET CONNECTION NORECOVDATA は例外的な状況でのみ使用してください。これはリカバリー情報を消去し、リモート・システム上のリソースを更新した作業単位のデータ保全性について妥協する場合があります。

これを使用する必要がある状況の例としては、次の場合があります。

- 接続を破棄するかまたは SET CONNECTION ENDAFFINITY コマンドを発行する必要があり、パートナー・システムとの静止プロトコルを完了させることができない。(リカバリー・データが未解決の場合、APPC 接続にはどちらのアクションも不可能です。)
- 操作エラーまたは論理エラーにより接続のログ名のミスマッチになる。接続状態をリセットして、交換ログ名プロセスを完了できるようにする必要があります。

注: SET CONNECTION NORECOVDATA、SET CONNECTION NOTPENDING、および SET CONNECTION UOWACTION は相互に排他的です。

SERVSTATUS(*cvda*)
システムをサービス中またはサービス休止のいずれの状態にするかを指定します。CVDA 値は次のとおりです。

INSERVICE
システムはサービス中になっています。つまり、使用可能になっています。

MRO 接続の場合、すべてのセッションはサービス中になり、次のことが発生します。

- 発行元システムとリモート・システムの両方にオープンした IRC があり、リモート・システムに発行元システムの INSERVICE 接続定

義がある場合、接続は ACQUIRED になります (CONNSTATUS オプションの説明に続く注を参照してください)。

- そうでない場合、接続の状況は INSERVICE に設定され、前述の条件が満たされるときに接続が獲得されます。
- 接続の基礎セッションの状況は、必ず接続そのものの状況と同じです。

EXCI 接続の場合、すべての受信セッション (または「パイプ」) はサービス中になり、クライアント・プログラムにより使用可能になります。

ISC APPC 接続の場合、LU サービス管理セッションはサービス中になり、その結果として接続が獲得可能になります。

ISC LU6.1 接続の場合、すべてのセッションはサービス中になります。

OUTSERVICE

接続はサービス休止になっています。つまり、使用可能ではありません。

接続に関して、すべてのセッションはサービス休止にされ (PURGE が指定された場合は即時に、指定されない場合はタスクの終了時に)、次のことが発生します。

- APPC 接続が現在 ACQUIRED であり、OUTSERVICE を指定した場合、コマンドは INVREQ および RESP2 2 で失敗します。OUTSERVICE を設定する前に接続に対して RELEASE を実行する必要があります。
- 他の接続が現在 ACQUIRED である場合、セッションは失敗 (静止) しています。接続は再度 INSERVICE になるまで使用できません。
- 接続が現在 RELEASED である場合、接続の状況は OUTSERVICE に設定され、再度 INSERVICE になるまで使用できません。
- 接続の基礎セッションの状況は、必ず接続そのものの状況と同じです。

EXCI 接続の場合、すべての受信セッション (または「パイプ」) はサービス休止になり、クライアント・プログラムでは使用不可になります。

ISC APPC システムの場合、このオプションは接続が RELEASED の場合にのみ有効です。LU サービス管理セッションはサービス休止になり、接続は再度 INSERVICE になるまで ACQUIRED できません。

ISC LU6.1 接続の場合、すべてのセッションは解放され、サービス休止になります (PURGE または FORCEPURGE が指定された場合は即時に、PURGE または FORCEPURGE のいずれも指定されていない場合はタスクの終了時に)。INQUIRE CONNECTION コマンドへの応答が OUTSERVICE を示すとしても、これは接続が明示的に SET OUTSERVICE と設定されていることを意味しません。特定の状況では、この接続は再インストールできません。

UOWACTION(*cvda*) (APPC 並列セッション、CICS 間 MRO、および LU61 のみ) CICS

通常の再同期プロセスの一部が指定変更されることを指定します。接続障害のた

めに、未確定の作業単位に関する決定が行われます。しかし、次に接続が獲得される際に、決定は記録され、データの不整合が報告されます。

この操作は、UOW の状態設定と同期されます。つまり、SET CONNECTION UOWACTION の後に INQUIRE UOW を実行すると、新しい UOW 状態が戻されます。CVDA 値は次のとおりです。

BACKOUT
この接続障害のために中断した UOW はすべてバックアウトされます。

COMMIT
この接続障害のために中断した UOW はすべてコミットされます。

FORCEUOW
この接続障害のために中断したすべての UOW は、TRANSACTION 定義の ACTION オプションでの指定どおりに、強制的に BACKOUT または COMMIT されます。

RESYNC (MRO - CICS Transaction Server for z/OS 以降のシステム間、および **APPC** のみ**)**
この接続障害のために中断した UOW はすべて再試行されます (つまり、この接続に関する交換ログ名の再同期が試行されます)。接続が獲得されたか、または UOW の除外が解消したときに、このプロセスは通常は自動的に開始されるはずです。

注**:**

1. SET CONNECTION UOWACTION は、接続の障害のために未確定で失敗したすべての作業単位を再開します。 SET CONNECTION FORCE を発行する前に、SET UOW コマンドを使用して、未確定の作業単位ごとにデフォルトを受け入れずに明示的にコミットするか、バックアウトするかを指定することもできます。ローカル・プロシージャーは、データの重要性と、INQUIRE UOW、INQUIRE UOWENQ、および INQUIRE UOWLINK コマンドの使用方式を判別し、正しいアクションを確立します。
2. 中断した作業単位が関係している場合、SET CONNECTION UOWACTION、SET CONNECTION NOTPENDING、および SET CONNECTION NORECOVDATA のうち 1 つのみ使用できます。SET CONNECTION NORECOVDATA は例外状況のみで使用する必要があります。
3. 接続の障害により未確定になったすべての作業単位を強制的に同じ方向で処理するには、SET CONNECTION COMMIT または SET CONNECTION BACKOUT を使用してください。
4. SET CONNECTION UOWACTION および SET UOW UOWACTION コマンドはどちらも再同期情報をクリアしません。クリアするには、SET CONNECTION NOTPENDINGまたは SET CONNECTION NORECOVDATA を使用しなければなりません。
5. SET CONNECTION NOTPENDING または SET CONNECTION NORECOVDATA を発行する前に SET UOW UOWACTION コマンドを発行できます。

ZCPTRACING(*cvda*) (z/OS Communications Server のみ)
この接続に関連するセッションで、CICS の z/OS Communications Server 制御コンポーネントがアクティビティーをトレースするかどうかを指定します。CVDA 値は次のとおりです。

NOZCPTRACE
z/OS Communications Server ZCP トレースを実行しません。

ZCPTRACE
z/OS Communications Server ZCP トレースを実行します。

条件

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

1 非 APPC 接続に対して指定された ACQSTATUS|CONNSTATUS。

2 以下のいずれかの方法で、ACQUIRED および OUTSERVICE が不整合な状態で指定されています。
1. ACQUIRED と OUTSERVICE が共に指定されている
2. OUTSERVICE 接続に ACQUIRED が指定されている
3. ACQUIRED APPC 接続に OUTSERVICE が指定されている
4. ACQUIRED 接続に関する同一のコマンド中で RELEASED と OUTSERVICE が指定されている

3 ACQSTATUS|CONNSTATUS の CVDA 値が無効です。

4 SERVSTATUS の CVDA 値が無効です。

5 APPC または IRC でない接続に、PENDSTATUS または NOTPENDING が指定されました。

6 z/OS Communications Server でない接続に PURGE が指定されました。

7 PURGETYPE の CVDA 値が無効です。

8 PENDSTATUS の CVDA 値が無効です。

11 SET コマンドでリモート接続が名前指定されました。

12 EXITTRACING の CVDA 値が無効です。

13 ZCPTRACING の CVDA 値が無効です。

14 非 z/OS Communications Server 接続または z/OS Communications Server に指定された EXITTRACING|ZCPTRACING が初期化されていません。

16 CONNECTION(*data-value*) で名前指定されたリソースは間接リンクです。

17 システムが ISC=NO を使用して初期化した際には、ACQSTATUS|CONNSTATUS を設定できません。

18 交換ログ名処理が正常完了した接続には NOTPENDING を設定できません。

19 FREEING 状態の場合、CONNSTATUS を ACQUIRED に設定できません。

20 このタイプの接続には COMMIT、BACKOUT、FORCE、または RESYNC は無効です。

21 BACKOUT または FORCE が指定されましたが、正常に実行されませんでした。この接続に関する UOW の一部は中断されたままになっています。

22 CANCEL または FORCECANCEL オプションに他の SET パラメーターが組み込まれました。

23 CONNECTION(name) で名前指定されたリソースは、ローカル TCT システム・エントリー (TCTSE) です。

25 接続は依然としてサービス中です。

26 RECOVSTATUS に値 NORECOVDATA がありません。

30 ENDAFFINITY の接続タイプが誤っています。親和性が存在できるのは、LU6.1 および LU6.2 接続のみです。

31 インストール済みの接続から NETID を取得できませんでした。したがって、親和性を終了するには、PERFORM ENDAFFINITY コマンドを使用しなければなりません。

32 メッセージ DFHZC0178 を参照してください。z/OS Communications Server は、35 (NOTFOUND) または 36 (SESSIONS ACTIVE) 以外の理由で親和性を終了できませんでした。

35 z/OS Communications Server はこの接続の親和性を見つけることができませんでした。

36 接続で一部のセッションがアクティブであったため、z/OS Communications Server は親和性を終了できませんでした。

37 メッセージ DFHZC0176 を参照してください。z/OS Communications Server エラーにより、CHANGE ENDAFFIN マクロを実行できませんでした。

44 GRSTATUS が REGISTERED または DEREGISTERED に設定されていません。(汎用リソース名がありません。)

45 サービス中の接続には NORECOVDATA を設定できません。

46 非 APPC 接続に NORECOVDATA が指定されました。

47 ローカル・システム・エントリーが指定された SET コマンドに、CANCEL でも FORCECANCEL でもないオプションが指定されています。

IOERR

RESP2 値は以下のとおりです。

10 予期しないエラーです。

NORMAL

RESP2 値は以下のとおりです。

58 AID は正常に取り消されます。

59 AID は取り消されません。

NOTAUTH

RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

SYSIDERR

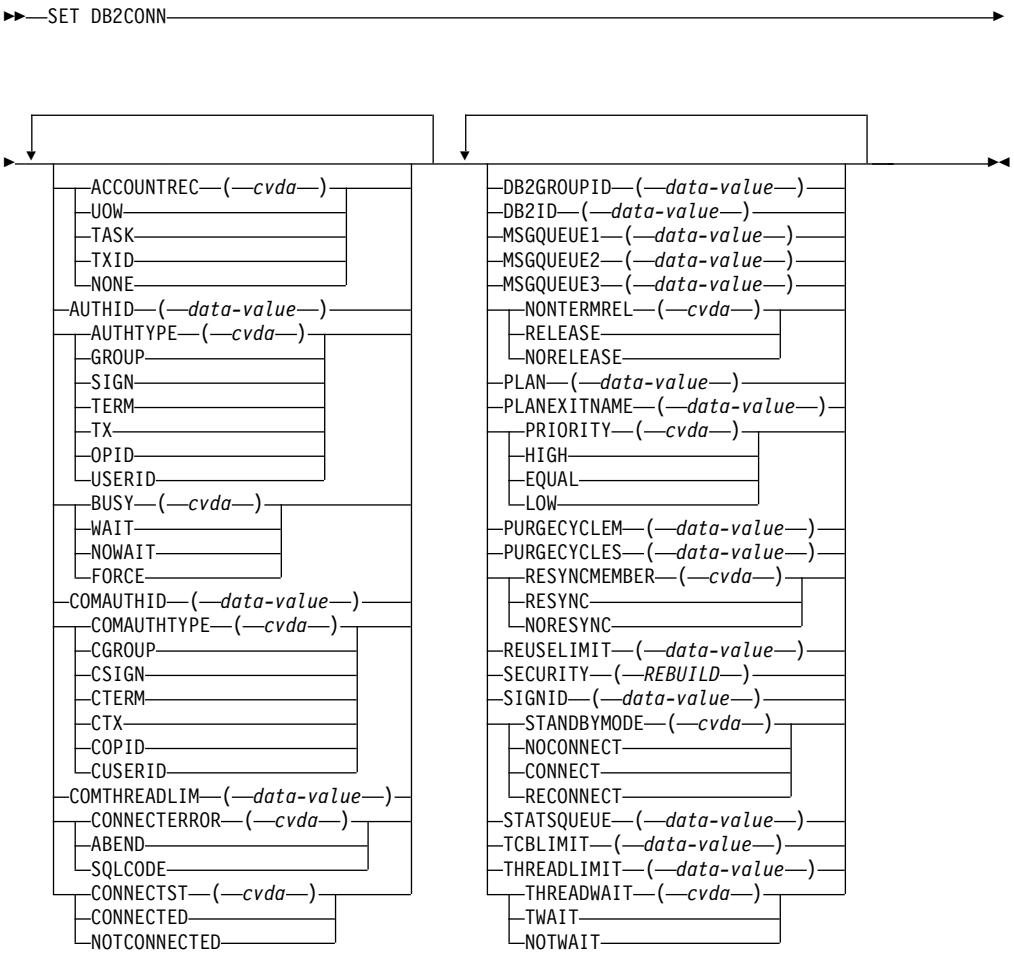
RESP2 値は以下のとおりです。

9 名前指定された接続が見つかりませんでした。

SET DB2CONN

CICS Db2 接続の属性に関する情報を変更します。

SET DB2CONN



条件: NORMAL、NOTAUTH、NOTFND、INVREQ

このコマンドはスレッド・セーフです。

CVDA の使用について詳しくは、CICS-value data areas (CVDAs)を参照してください。

説明

SET DB2CONN コマンドでは、プールおよびコマンド・スレッドの属性も指定します。

制約事項: このコマンドは、分散プログラム・リンク・コマンドによってリンクされたリモート・プログラムでは使用できません。

オプション

ACCOUNTREC(*cvda*)

プール・スレッドを使用するトランザクションに必要な Db2 アカウンティングの最小量を指定します。以下のオプションで説明されているように、指定した最小値を超える可能性があります。 CVDA 値は次のとおりです。

なし　プール・スレッドを使用するトランザクションに必要なアカウンティング・レコードはありません。

Db2 は、スレッドが終了したときに、各スレッドに対して少なくとも 1 つのアカウンティング・レコードを作成します。さらに、権限を変更してもアカウンティング・レコードが作成されます。

TXID　CICS Db2 接続機能により、スレッドを使用するトランザクション ID が変更されるときに、アカウンティング・レコードが作成されます。

プール・スレッドは通常、複数の異なるトランザクション ID によって使用されるため、複数の作業単位 (UOW) を含むトランザクションが各 UOW の異なるスレッドを使用する可能性があります (このスレッドは同期点で解放されます)。この場合、UOW ごとにアカウンティング・レコードを作成できます。

TASK

CICS Db2 接続機能により、CICS タスクごとに最低 1 つのアカウンティング・レコードを生成します。

複数の UOW が含まれるトランザクションでは、各 UOW の異なるスレッドを使用できます (このスレッドは同期点で解放されます)。結果として、各 UOW に対して作成されたアカウンティング・レコードになります。

UOW　CICS Db2 接続機能により、各 UOW のアカウンティング・レコードが作成されます (このスレッドは UOW の終わりに解放されます)。

AUTHID(*data-value*)

プール・スレッドのセキュリティー検査にどの ID を使用する必要があるかを 8 文字の名前で指定します。AUTHID を指定している場合、AUTHTYPE は指定できません。

AUTHTYPE(*cvda*)

プール・スレッドに使用する ID のタイプを指定します。AUTHTYPE を指定している場合、AUTHID は指定できません。 CVDA 値は次のとおりです。

GROUP

8 文字のユーザー ID および接続されたグループ名を許可 ID として指定します。以下の表に、これらの 2 つの値が Db2 でどのように解釈されるかを示します。

Db2 へ渡される **ID**	**Db2** が値を解釈する方法
CICS サインオン・ユーザー ID (USERID)	1 次 Db2 許可 ID を表します。

Db2 へ渡される ID	Db2 が値を解釈する方法
RACF 接続グループ名	グループ・オプションの RACF リストがアクティブではない場合、Db2 は CICS 接続機能が提供する接続されたグループ名を 2 次 Db2 許可 ID として使用します。グループ・オプションの RACF リストがアクティブな場合、Db2 は CICS 接続機能が提供する接続されたグループ名を無視しますが、2 次 Db2 許可 ID の Db2 リストには値が表示されます。

GROUP オプションを使用するには、CICS システムで、CICS システム初期設定テーブル (SIT) の SEC=YES を指定する必要があります。

この USERID に対して使用できる RACF グループ ID がない場合、ブランクの 8 文字フィールドがグループ ID として Db2 に渡されます。

SIGN リソース許可 ID として使用する必要のある DB2CONN の SIGNID パラメーターを指定します。

TERM

許可 ID として端末 ID (8 文字に当てられる 4 文字) を指定します。端末がトランザクションに接続されていない場合、この方法で許可 ID を取得することはできません。

CICS コマンドを使用してトランザクションを開始しても、それに関連付けられた端末がない場合、AUTHTYPE(TERM) は使用できません。

TX 許可 ID としてトランザクション ID (8 文字に当てられる 4 文字) を指定します。

OPID ユーザー ID (CICS トランザクションに関連付けられている) に関連付けられたオペレーター ID が、許可 ID (3 文字に埋め込み文字が加えられて 8 文字になる) として使用されます。

USERID

CICS トランザクションに関連付けられた 8 文字のユーザー ID が、許可 ID として使用されます。

AUTHTYPE(USERID) を指定して Db2 サンプル・サインオン出口 DSN3@SGN を使用すると、この出口はユーザー ID を 1 次許可 ID として、RACF グループ ID を 2 次許可 ID として、それぞれ Db2 に送ります。サンプル・サインオン出口が使用されている場合、AUTHTYPE(USERID) と AUTHTYPE(GROUP) の間に違いはありません。

BUSY(*cvda*)

このパラメーターは、CICS Db2 接続に NOTCONNECTED を設定するときに、CONNECTST でのみ有効です。CVDA 値は次のとおりです。

FORCE

これは、DSNC STOP FORCE を発行するのに似ています。つまり、現在 Db2 を使用している CICS トランザクションが異常終了して、CICS Db2 接続機能が停止します。 FORCE は WAIT および NOWAIT と相互に排他的です。

NOWAIT

実際に非同期に要求を実行します。要求が完了する前に、制御を戻します。 NOWAIT は、WAIT および FORCE と相互に排他的です。

WAIT

実際に要求を同期します。制御は、要求が完了した時点でのみ戻ります。 WAIT は、NOWAIT および FORCE と相互に排他的です。

SET DB2CONN NOTCONNECTED WAIT|NOWAIT は、CICS Db2 インターフェースの静止的な停止です。インターフェースを停止する前に、既存のトランザクションが終了するまで待機します。 WAIT はデフォルト値です。

COMAUTHID(*data-value***)**

コマンド・スレッドを使用する際に、セキュリティー検査にどの ID を使用する必要があるか、8 文字の名前で指定します。COMAUTHID を指定している場合、COMAUTHTYPE は指定できません。

COMAUTHTYPE(*cvda***)**

コマンド・スレッドを使用する際に、セキュリティー検査で使用する ID のタイプを指定します。 COMAUTHTYPE を指定している場合、COMAUTHID は指定できません。 CVDA 値は次のとおりです。

CGROUP

8 文字のユーザー ID および接続されたグループ名を許可 ID として指定します。以下の表に、これらの 2 つの値が Db2 でどのように解釈されるかを示します。

Db2 へ渡される **ID**	**Db2** が値を解釈する方法
CICS サインオン・ユーザー ID (USERID)	1 次 Db2 許可 ID を表します。
RACF 接続グループ名	グループ・オプションの RACF リストがアクティブではない場合、Db2 は CICS 接続機能が提供する接続されたグループ名を 2 次 Db2 許可 ID として使用します。グループ・オプションの RACF リストがアクティブな場合、Db2 は CICS 接続機能が提供する接続されたグループ名を無視しますが、2 次 Db2 許可 ID の Db2 リストには値が表示されます。

CGROUP オプションを使用するには、CICS システムで、CICS システム初期設定テーブル (SIT) の SEC=YES を指定する必要があります。

この USERID に対して使用できる RACF グループ ID がない場合、ブランクの 8 文字フィールドがグループ ID として Db2 に渡されます。

CSIGN

リソース許可 ID として使用する必要のある DB2CONN の SIGNID パラメーターを指定します。

CTERM

許可 ID として端末 ID (8 文字に当てられる 4 文字) を指定します。端末がトランザクションに接続されていない場合、この方法で許可 ID を取得することはできません。

CICS コマンドを使用してトランザクションを開始しても、それに関連付けられた端末がない場合、COMAUTHTYPE(TERM) を使用できません。

CTX 許可 ID としてトランザクション ID (8 文字に当てられる 4 文字) を指定します。

COPID
ユーザー ID (CICS トランザクション・サインオン機能に関連付けられている) に関連付けられたオペレーター ID が、許可 ID (3 文字に埋め込み文字が加えられて 8 文字になる) として使用されます。

CUSERID
CICS トランザクションに関連付けられた 8 文字のユーザー ID が、許可 ID として使用されます。

AUTHTYPE(USERID) を指定して Db2 サンプル・サインオン出口 DSN3@SGN を使用すると、この出口は、Db2 に 1 次許可 ID として USERID を、2 次許可 ID として RACF グループ ID を送信します。サンプル・サインオン出口が使用されている場合、COMAUTHTYPE(CUSERID) と COMAUTHTYPE(CGROUP) の間に違いはありません。

COMTHREADLIM(*data-value***)**
要求がプールにオーバーフローするまでに、CICS Db2 接続がアクティブであることを許可する現在のコマンド・スレッドの最大数をフルワード・バイナリー値として指定します。

CONNECTERROR(*cvda***)**
アダプターが待機モードのために CICS を Db2 に接続できない場合、SQL 要求を発行したアプリケーションに報告として戻される方法を記述します。CVDA 値は次のとおりです。

ABEND
アプリケーションは、異常終了コード AEY9 で停止します。

SQLCODE
アプリケーションは、-923 SQLCODE を受け取ります。

CONNECTST(*cvda***)**
CICS Db2 接続の状況を設定します。つまり、CICS Db2 接続を開始するか停止するかを設定します。CVDA 値は次のとおりです。

CONNECTED
これは、DSNC STRT を発行して、CICS Db2 接続を開始するのと同じです。要求された Db2 サブシステムがアクティブである場合、CICS と Db2 が接続されたときに制御が戻ります。要求された Db2 サブシステムがアクティブでない場合、STANDBYMODE の設定に応じて応答が戻されます。 Db2 が初期化されておらず、DB2CONN で STANDBYMODE(NOCONNECT) が指定されている場合、INVREQ および RESP2=39 が戻されます。 STANDBYMODE(CONNECT) または STANDBYMODE(RECONNECT) を指定している場合、CICS Db2 接続が待機モードになり、アクティブになるとただちに Db2 へ接続することを示す RESP2=38 と共に NORMAL が戻されます。

NOTCONNECTED

NOTCONNECTED NOWAIT を指定すると、接続の静止的な停止を開始しますが、制御をすぐに戻します。 NOTCONNECTED WAIT を指定すると、CICS Db2 接続が停止するまで、アプリケーションに制御を戻しません。 NOTCONNECTED FORCE を指定すると、現在 Db2 を使用しているトランザクションを強制的にパージして、接続を強制的に停止します。接続が停止するまで、制御を戻しません。

DB2GROUPID(*data-value***)**

Db2 サブシステムのデータ共用グループの 4 文字の名前を指定します。CICS は、グループ接続を使用して、このグループの任意のアクティブ・メンバーへの接続を試行します。 Db2 バージョン 10 では、この 4 文字の名前が、データ共用グループのサブセットを識別するサブグループ名になります。

CICS が Db2 システムに接続されていないときにのみ、DB2GROUPID を変更できます。 DB2GROUPID を指定すると、インストールされた DB2CONN 定義の DB2ID はブランクになります。個別のサブシステムの DB2ID が CEMT または EXEC CICSSET DB2CONN コマンド、または DSNC STRT コマンドで指定されている場合、インストールされている DB2CONN 定義で設定された DB2GROUPID が指定変更されます。 DB2GROUPID がブランクになるので、グループ接続を使用するには、再び設定する (CEDA または SET DB2CONN コマンドを使用) 必要があります。 DB2GROUPID と DB2ID を同じコマンドに設定できない点に注意してください。コマンドが失敗する原因になります。

DB2ID(*data-value***)**

CICS Db2 接続の接続先となる 4 文字の Db2 サブシステム名を指定します。CICS が Db2 システムに接続されていないときにのみ、DB2ID を変更できます。 DB2ID を指定すると、インストールされた DB2CONN 定義の DB2GROUPID はブランクになります。グループ接続を使用するには、DB2GROUPID を再び設定する必要があります。 DB2GROUPID が CEMT または **EXEC CICS SET DB2CONN** コマンドで指定されている場合、インストールされている DB2CONN 定義で設定された DB2ID がオーバーライドされ、DB2ID がブランクになります。DB2ID と DB2GROUPID を同じコマンドに設定できない点に注意してください。コマンドが失敗する原因になります。

MSGQUEUE1(*data-value***)**

CICS Db2 接続からの非送信請求メッセージが送信される最初の一時データ宛先を 4 文字の名前として指定します。

MSGQUEUE2(*data-value***)**

CICS Db2 接続からの非送信請求メッセージが送信される 2 番目の一時データ宛先を 4 文字の名前として指定します。

MSGQUEUE3(*data-value***)**

CICS Db2 接続からの非送信請求メッセージが送信される 3 番目の一時データ宛先を 4 文字の名前として指定します。

NONTERMREL(*cvda***)**

非端末トランザクションが中間の同期点でスレッドを再利用のために解放するかどうかを指定します。 CVDA 値は次のとおりです。

RELEASE
非端末トランザクションは、中間の同期点でスレッドを再利用のために解放します。

NORELEASE
非端末トランザクションは、中間の同期点でスレッドを再利用のために解放しません。

PLAN(*data-value***)**
プール内のすべてのスレッドに使用する計画の 8 文字の名前を指定します。PLAN を指定している場合、PLANEXITNAME は指定できません。

PLANEXITNAME(*data-value***)**
プール・スレッドに使用する動的計画出口の 8 文字の名前を指定します。プールのアクティブなトランザクションがある間に PLAN および PLANExitname を変更する場合、次回トランザクションがスレッドを解放するときに、新しい規則を使用する計画または出口を決定します。 PLANExitname を指定している場合、PLAN は指定できません。

PRIORITY(*cvda***)**
CICS メイン TCB (QR TCB) に対するプール・スレッド TCB の相対的な優先度を指定します。スレッド TCB は、CICS オープン L8 TCB です。CVDA 値は次のとおりです。

HIGH
スレッド TCB の優先度が、CICS QR TCB よりも高くなります。

EQUAL
スレッド TCB の優先度が、CICS QR TCB と等しくなります。

LOW スレッド TCB の優先度が、CICS QR TCB よりも低くなります。

PURGECYCLEM(*data-value***)**
保護スレッド・パージ周期の時間 (00 から 59 の範囲の分数) をフルワード・バイナリー値として指定します。このパラメーターと PURGECYCLES を一緒に使用してください。

PURGECYCLES(*data-value***)**
保護スレッド・パージ周期の時間 (00 から 59 の範囲の秒数) をフルワード・バイナリー値として指定します。このパラメーターと PURGECYCLEM を一緒に使用してください。保護スレッド・パージ周期の最小時間は 5 秒、デフォルト値は 30 秒です。

保護スレッドは、解放されたときにすぐに終了しません。指定されたパージ周期の間に再利用されない場合、2 つの周期が完了した後にのみ終了します。例えば、保護スレッド・パージ周期を 30 秒に設定すると、保護スレッドは、解放後 30 秒から 60 秒の間にパージされます。その DB2ENTRY でスレッドを待機している他のトランザクションがない場合、無保護スレッドは (同期点またはタスクの最後で) 解放されるときに終了します。

RESYNCMEMBER(*cvda***)**
これは、グループ接続を使用している場合にのみ適用され、CICS が最後に接続された Db2 データ共用グループ・メンバーに対して未解決の作業単位が保持されている場合に、CICS が採用する方針を指定します。(未確定で中断された作業単位は、この時点では CICS 自体がそれらの作業単位を解決できないので、

このプロセスに含まれません。これらの作業単位の再同期は、 CICS がそのリモート・コーディネーターと再同期したときに行われます。)CVDA 値は次のとおりです。

RESYNC
CICS は同じ Db2 データ共用グループ・メンバーに接続して、未解決の作業単位を再同期します。

NORESYNC
CICS は同じ Db2 データ共用グループ・メンバーへの接続を 1 回試行します。その試行が失敗した場合、CICS は Db2 データ共用グループのいずれかのメンバーに接続して、未解決の作業単位に関する警告を発行します。

REUSELIMIT(*data-value***)**
スレッドが強制終了される前に再利用できる最大回数を示す値を 0 から 10000 の範囲 (フルワード・バイナリー値) で指定します。デフォルトは、1000 です。 0 の値は、スレッドが再利用される回数に制限がないことを意味します。

再利用の制限は、プールと DB2ENTRY の両方の無保護スレッド、および DB2ENTRY の保護スレッドに適用されます。

SECURITY(REBUILD)
CICS Db2 接続が、既存のすべてのスレッドを次のスレッドの再使用時に強制的に再びサインオンさせることを指定します。これは、次のコマンドを発行して RACF プロファイルを更新するときに使用する必要があります。

- RACF 1.9.2 以前の CEMT PERFORM SECURITY REBUILD
- RACF 2.1 以降の TSO SETROP TS RACLIST(xxxxxxxx) REFRESH

SIGNID(*data-value***)**
プール、AUTHTYPE(SIGN) を指定する DB2ENTRY スレッド、および COMAUTHTYPE(CSIGN) を指定するコマンド・スレッドのために Db2 にサインオンするときに、CICS Db2 接続が使用する 8 文字の許可 ID を指定します。

STANDBYMODE(*cvda***)**
CICS から Db2 への接続の開始を試行するときに Db2 がアクティブでない場合、CICS Db2 接続が実行するアクションを指定します。CVDA 値は次のとおりです。

NOCONNECT
CICS Db2 接続が終了します。

CONNECT
CICS Db2 接続は、Db2 を待機するため待機モードに入ります。

RECONNECT
CICS Db2 接続は、待機モードに入り、Db2 を待機します。Db2 に接続した後に Db2 に障害が発生した場合、CICS Db2 接続は再び待機モードに戻ります。Db2 を再始動するときに再接続します。

STATSQUEUE(*data-value***)**
CICS Db2 接続がシャットダウンされるときに作成される CICS Db2 接続統計の一時データ宛先を 4 文字で指定します。

TCBLIMIT(*data-value*)
Db2 要求を処理するために使用できる TCB の最大数をフルワード・バイナリー値として指定します。 CICS はオープン TCB を使用して Db2 要求を処理します。DB2CONN 定義の TCBLIMIT 属性は、Db2 にアクセスするために使用できるオープン TCB の数、つまり、TCB が Db2 に識別され、Db2 への接続を作成できる数を規定します。

THREADLIMIT(*data-value*)
THREADWAIT パラメーターに応じて待機を要求されるか、または要求が拒否されるまでに、CICS Db2 接続がアクティブであることを許可する現在のプール・スレッドの最大数をフルワード・バイナリー値として指定します。

THREADWAIT(*cvda*)
アクティブ・プール・スレッド数が THREADLIMIT の数値に達した場合に、トランザクションがプール・スレッドを待機するか、それとも異常終了するのかを指定します。

CICS Db2 接続は、THREADWAIT=NO がコーディングされ、プール・スレッド数が超過したときに、固有の異常終了コード AD3T およびメッセージ DFHDB2011 を発行します。 CVDA 値は次のとおりです。

TWAIT
すべてのスレッドが使用されている場合、いずれかが使用可能になるまでトランザクションは待機している必要があります。トランザクションは CICS が待機を許可している限り待機できます。通常これは、スレッドが使用可能になるまでです。

NOTWAIT
すべてのスレッドが使用されている場合、トランザクションは異常終了コード AD3T により終了します。

注:

1. ユーザーが AUTHID、AUTHTYPE、COMAUTHID、COMAUTHTYPE、または SIGNID の値を変更するとき、セキュリティーがアクティブな場合、サロゲート・ユーザー・セキュリティー検査を呼び出します。これにより、タスクに関連付けられているユーザー ID が、設定されているユーザー ID の代わりに機能することが許可されます。
2. SET DB2CONN CONNECTST (NOTCONNECTED) コマンドを発行して CICS-Db2 接続を停止すると、CEX2 内部 CICS Db2 トランザクションもシャットダウンされます。セキュリティーがアクティブである場合、開始されたトランザクション・リソースのセキュリティー検査が起動されます。これにより、タスクに関連付けられているユーザー ID に CEX2 トランザクションを操作する権限があることが確実になります。これを実現するには、シャットダウンの原因となるタイマーをキャンセルします。
3. SET DB2CONN コマンドを指定している場合、CICS Db2 接続がアクティブであるときに、DB2ID (接続されたサブシステム) および DB2GROUPID (接続されたサブシステムがメンバーであるデータ共用 Db2 サブシステムのグループ) を除くすべてのパラメーターを設定できます。 DB2ID および DB2GROUPID は、接続を停止してから再始動することによってのみ変更できます。

4. 項目またはプールのアクティブなトランザクションがある間に PLAN および PLANEXITNAME を変更する場合、次回トランザクションがスレッドを解放するときに、新しい規則を使用する計画または出口を決定します。

条件

NORMAL

RESP2 値は以下のとおりです。

38 Db2 を待機しています (CONNECT の CVDA を指定した CONNECTST に続いて発生します)。

55 再同期の目的のみで一時的に Db2 Restart Light メンバーに接続されました。

NOTAUTH

発行中のタスクに関連付けられているユーザーは、このコマンドの使用が許可されていないか、またはこのリソースにアクセスすることが許可されていません。

RESP2 値は以下のとおりです。

100 コマンド権限の処理に失敗しました。

102 サロゲートの許可に失敗しました。

103 Authtype の許可に失敗しました。

104 Db2 許可に失敗しました。CICS 領域のユーザー ID に、Db2 に接続する権限がありません。

NOTFND

RESP2 値は以下のとおりです。

1 現在 DB2CONN はインストールされていません。

INVREQ

RESP2 値は以下のとおりです。

1 無効な ACCOUNTREC 値です。

2 無効な AUTHTYPE 値です。

3 無効な BUSY 値です。

4 無効な COMAUTHTYPE 値です。

5 無効な CONNECTERROR 値です。

6 無効な CONNECTST 値です。

7 無効な NONTERMREL 値です。

9 無効な PRIORITY 値です。

10 無効な SECURITY 値です。

11 無効な STANDBYMODE 値です。

12 無効な THREADWAIT 値です。

13 AUTHID に不適切な文字があります。

14 COMAUTHID に不適切な文字があります。

15 DB2ID に不適切な文字があります。

16 MSGQUEUE1 に不適切な文字があります。

17 MSGQUEUE2 に不適切な文字があります。

18 MSGQUEUE3 に不適切な文字があります。

19 PLAN に不適切な文字があります。

20 PLANEXITNAME に不適切な文字があります。

21 SIGNID に不適切な文字があります。

22 STATSQUEUE に不適切な文字があります。

23 AUTHID と AUTHTYPE の両方が指定されています。

24 COMAUTHID と COMAUTHTYPE の両方が指定されています。

25 STANDBYMODE(NOCONNECT) と CONNECTERROR(SQLCODE) が指定されているか、STANDBYMODE が NOCONNECT の場合に CONNECTERROR(SQLCODE) が指定されています。

26 PLAN と PLANEXITNAME の両方が指定されています。

27 無効な ACCOUNTREC 値です。

28 COMTHREADLIM が TCBLIMIT を超えているか、COMTHREADLIM > 2000 または COMTHREADLIM < 0 です。

29 パージ周期が短すぎます。つまり、30 秒未満です。
- または、パージ周期の分数が 0 より小さい値になっています。
- または、パージ周期の秒数が 0 より小さい値になっています。
- または、パージ周期の分数が 59 より大きい値になっています。
- または、パージ周期の秒数が 59 より大きい値になっています。

32 TCBLIMIT > 2000 または TCBLIMIT < 4 です。

33 THREADLIMIT が TCBLIMIT を越えているか、または THREADLIMIT > 2000 または THREADLIMIT < 3 です。

34 既に接続されています。

39 Db2 はアクティブではありません。

40 権限が不十分です。

41 接続エラーです。

42 無効な init parms です。

43 DB2ID を設定できません。接続がアクティブです。

44 DB2CONN の一部が破棄されています。

46 FORCE または WAIT オプションが指定されているときに SET NOTCONNECTED が発行されました。しかし、このトランザクション自体は CICS Db2 インターフェースを使用します。

47 DB2GROUPID に不適切な文字があります。

48 DB2ID と DB2GROUPID が指定されています。

49 DB2GROUPID を設定できません。接続がアクティブです。

50 Db2 モジュール DSNAPRH を検出できません。

51 TCBLIMIT > MAXOPENTCBS (DB2 バージョン 6 以降に接続時)

52 DB2GROUPID が見つかりませんでした。

53 DB2ID が見つかりませんでした。

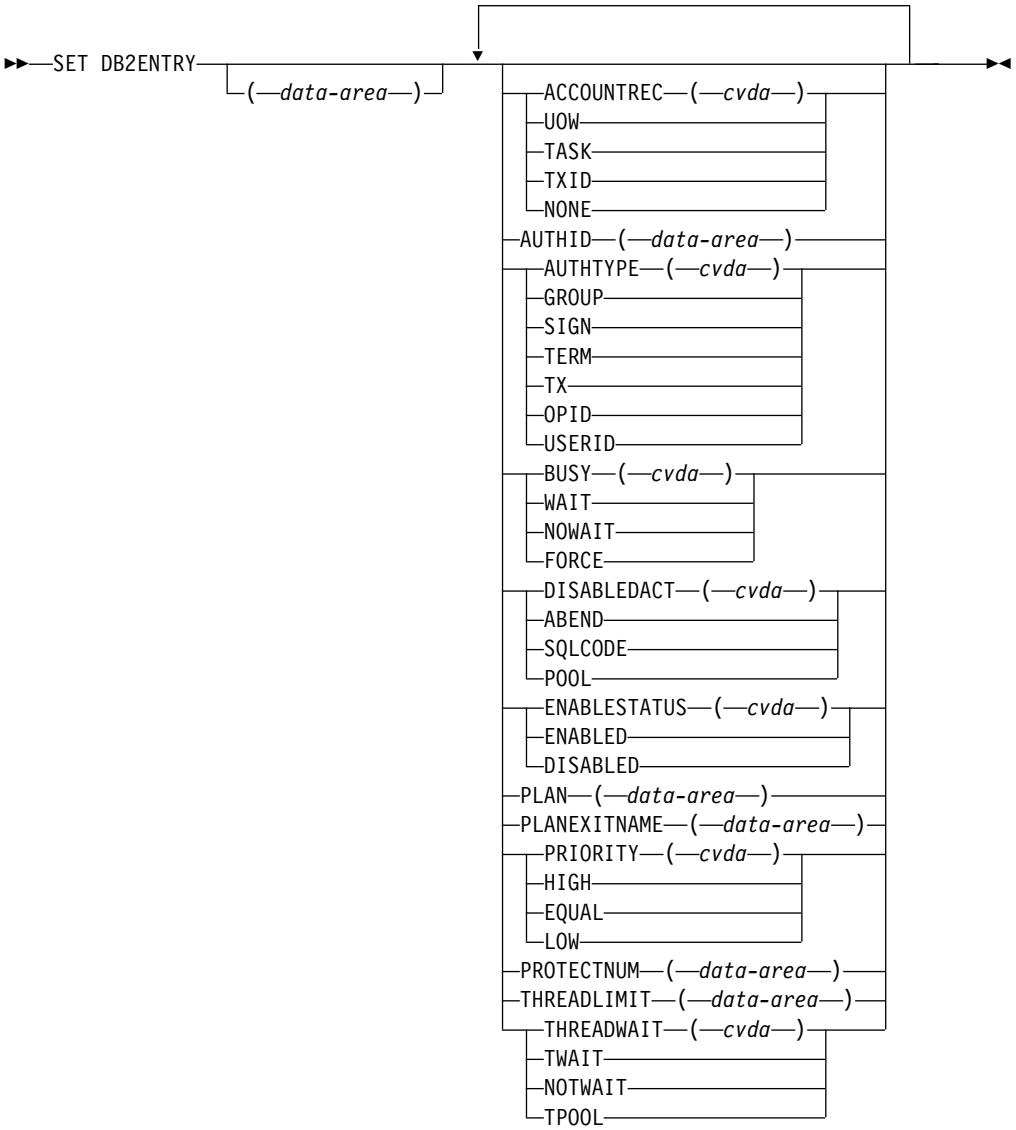
54 無効な RESYNCMEMBER オプションです。

57 REUSELIMIT > 10000 または REUSELIMIT < 0 です。

SET DB2ENTRY

Db2 にアクセスする際に特定のトランザクションまたはトランザクションのグループによって使用される、リソースの定義に使用する特定の DB2ENTRY の属性を設定します。

SET DB2ENTRY



条件: NOTAUTH、NOTFND、INVREQ

このコマンドはスレッド・セーフです。

CVDA の使用について詳しくは、CICS-value data areas (CVDAs)を参照してください。

説明

このエントリーは、CEDA で定義された名前で識別されます。

オプション

ACCOUNTREC
プール・スレッドを使用するトランザクションに必要な Db2 アカウンティングの最小量を指定します。以下のオプションで説明するように、指定した 最低量を超える場合があります。 CVDA 値は次のとおりです。

なし　プール・スレッドを使用するトランザクションに必要なアカウンティング・レコードはありません。

Db2 は、スレッドが終了したときに、各スレッドに対して少なくとも 1 つのアカウンティング・レコードを作成します。さらに、権限を変更してもアカウンティング・レコードが作成されます。

TXID CICS Db2 接続機能により、スレッドを使用する transid が変更されるときに、アカウンティング・レコードが作成されます。

プール・スレッドは通常いくつかの異なる トランザクションIDによって使用される ため、複数の複数単位(UOW)から成る トランザクションがUOWごとに異なるスレッド を使用する可能性が高くなります（スレッド が同期点で解放される場合）。 この場合、会計レコードを UOW ごとに生成することができます。

TASK
CICS Db2 接続機能により、CICS タスクごとに最低 1 つのアカウンティング・レコードを生成します。

複数のUOWから成るトランザクション は（スレッドが同期点で解放されるもの として）、自身のUOWごとに異なるスレッドを 使用できます。その結果、UOWごとに 会計レコードを生成できます。

UOW CICS Db2 接続機能により、各 UOW のアカウンティング・レコードが作成されます (このスレッドは UOW の終わりに解放されます)。

AUTHID
この DB2ENTRY の使用時にセキュリティー検査に使用する ID を指定します。AUTHId を指定した場合、AUTHTYpe は指定できません。

AUTHTYPE
この DB2ENTRY の使用時にセキュリティー検査に使用できる ID のタイプを戻します。AUTHTYpe を指定した場合、AUTHid は指定できません。CVDA 値は次のとおりです。

GROUP
8 文字のユーザー ID、および接続されたグループ名を許可 ID として指定します。以下の表に、これらの 2 つの値が Db2 でどのように解釈されるかを示します。

Db2 へ渡される ID	Db2 が値を解釈する方法
CICS サインオン・ユーザー ID (USERID)	1 次 Db2 許可 ID を表します。
RACF 接続グループ名	グループ・オプションの RACF リストがアクティブではない場合、Db2 は CICS 接続機能が提供する接続されたグループ名を 2 次 Db2 許可 ID として使用します。グループ・オプションの RACF リストがアクティブな場合、Db2 は CICS 接続機能が提供する接続されたグループ名を無視しますが、2 次 Db2 許可 ID の Db2 リストには値が表示されます。

GROUP オプションを使用するには、CICS システムに、CICS システム初期設定テーブル (SIT) で RACF 外部セキュリティーを SEC=YES に指定する必要があります。

この USERID に対して使用できる RACF グループ ID がない場合、ブランクの 8 文字フィールドがグループ ID として Db2 に渡されます。

SIGN リソース許可 ID として使用する必要のある DB2CONN の SIGNID パラメーターを指定します。

TERM

端末 ID (4 文字に埋め込みが行われて 8 文字になります) を許可 ID として指定します。端末がトランザクションに接続されていない場合、この方法で許可 ID を取得することはできません。

CICS コマンドを使用してトランザクションを開始しても、それに関連付けられた端末がない場合、AUTHTYPE(TERM) は使用できません。

TX 許可 ID としてトランザクション ID (8 文字に当てられる 4 文字) を指定します。

OPID CICS トランザクションに関連付けられているオペレーター ID が、許可 ID (3 文字に埋め込みが行われて 8 文字になります) として使用されます。

USERID

CICS トランザクションに関連付けられた 8 文字の USERID が、許可 ID として使用されます。

AUTHTYPE(USERID) を指定して Db2 サンプル・サインオン出口 DSN3@SGN を使用すると、この出口はユーザー ID を 1 次許可 ID として、RACF グループ ID を 2 次許可 ID として、それぞれ Db2 に送ります。サンプル・サインオン出口が使用されている場合、AUTHTYPE(USERID) と AUTHTYPE(GROUP) の間に違いはありません。

BUSY(Cvda)

SET DB2ENTRY DISABLED が発行され、SET コマンドの発行時にエントリーが使用中である場合の CICS の動作を指定します。CVDA 値は次のとおりです。

WAIT

CICS は、DB2ENTRY 上のすべてのアクティビティーが静止するのを

待ってから、DB2ENTRY を使用不可に設定します。次に、CICS は、アプリケーションに制御を戻します。

DB2ENTRY を静止させようとしている間も、既存のトランザクションはすべて完了できることに注意してください。エントリーに対してすでにキューに入れられているトランザクションも完了できます。DB2ENTRY にアクセスしようとする新規トランザクションは、DISABLEDACT の設定に応じて、POOL に経路指定されるか、異常終了するか、または SQLCODE が送信されます。

NOWAIT
これは WAIT と同じですが、SET DISABLED 要求がキューに入れられるとすぐに制御がアプリケーションに戻される点が異なります。

FORCE
DB2ENTRY を使用する全タスク、および DB2ENTRY に対してキューに入れられているタスクを強制パージします。これによって、DB2ENTRY は使用不可になり、制御がアプリケーションに戻ります。

DISABLEDACT
DB2ENTRY がこれまで使用不可、またはこれから使用不可になる場合に、それにアクセスする新規トランザクションで CICS が行うことを指定します。CVDA 値は次のとおりです。

POOL
CICS Db2 接続機能によって、要求がプールに経路指定されます。プールへの経路を指定された各トランザクションの DB2CONN 上の MSGQUEUEn によって指定された一時データ宛先に、メッセージ DFHDB2072 が送信されます。

ABEND
CICS Db2 接続機能は、トランザクションを異常終了します。異常終了コードは AD26 です。

SQLCODE
DB2ENTRY が使用不可であることを示す SQLCODE がアプリケーションに返されます。

ENABLESTATUS(cvda)
アプリケーションが DB2ENTRY にアクセス可能かどうかを指定します。CVDA 値は次のとおりです。

ENABLED
アプリケーションは DB2ENTRY にアクセスできます。

DISABLED
アプリケーションは DB2ENTRY にアクセスできません。DB2ENTRY は、再インストールまたは破棄する前に使用不可にする必要があります。

PLAN
この DB2ENTRY に使用される計画の名前を指定します。

PLAN を指定している場合、PLANEXITNAME は指定できません。

PLANEXITNAME
この DB2ENTRY に使用される動的計画出口の名前を指定します。DB2ENTRY のアクティブなトランザクションがある間に PLAN および PLANExitname を変更する場合、次回トランザクションがスレッドを解放するときに、新しい規則を使用して計画または出口を決定します。 PLANExitname を指定している場合、PLAN は指定できません。

PRIORITY
CICS メイン TCB (QR TCB) を基準とした、この DB2ENTRY 用のスレッド TCB の優先度を指定します。スレッド TCB は、CICS オープン L8 TCB です。CVDA 値は次のとおりです。

HIGH
スレッド TCB の優先度が、CICS QR TCB よりも高くなります。

EQUAL
スレッド TCB の優先度が、CICS QR TCB と等しくなります。

LOW スレッド TCB の優先度が、CICS QR TCB よりも低くなります。

PROTECTNUM
この DB2ENTRY に対する保護スレッドの最大数を指定します。

THREADLIMIT
CICS Db2 接続機能でアクティブにできる、この DB2ENTRY のスレッドの最大数を指定します。この数を超えると、待機を要求されるか、または要求が拒否されます。

THREADWAIT
アクティブな DB2ENTRY スレッドの数が THREADLimit 数に達した場合、トランザクションが DB2ENTRY スレッドを待機するか、異常終了するか、またはプールにオーバーフローするかを指定します。 CVDA 値は次のとおりです。

TWAIT
すべてのスレッドが使用されている場合、いずれかが使用可能になるまでトランザクションは待機します。

NOTWAIT
すべてのスレッドが使用中の場合、トランザクションは異常終了コード AD2P で終了します。

TPOOL
すべてのスレッドが使用中の場合、 トランザクションの送信先が変更され、 スレッドのプールを使用します。プールも使用中で、DB2CONN の THREADWAIT パラメーターに NOTWAIT が指定されている場合、トランザクションは異常終了コード AD3T を出して異常終了します。

注**:**

1. ユーザーが AUTHId または AUTHType の値を変更するとき、セキュリティーがアクティブな場合、代理ユーザー・セキュリティー検査が呼び出されます。これにより、SET を実行するユーザー ID が、設定されているユーザー ID の代わりに機能することが許可されます。

2. CICS Db2 接続がアクティブであり、トランザクションがアクティブである間、SET DB2ENTRY のすべてのパラメーターを設定できます。

条件

NOTAUTH

発行中のタスクに関連付けられているユーザーは、このコマンドの使用が許可されていないか、またはこのリソースにアクセスすることが許可されていません。

RESP2 値は以下のとおりです。

100 コマンド権限の処理に失敗しました。

101 リソース許可が失敗しました。

102 サロゲートの許可に失敗しました。

103 Authtype の許可に失敗しました。

NOTFND

RESP2 値は以下のとおりです。

1 指定された名前で現在インストールされている DB2ENTRY はありません。

INVREQ

RESP2 値は以下のとおりです。

2 アクションの値が無効です

3 Authtype 値が無効です

4 ビジー値が無効です

5 enablestatus 値が無効です

7 優先度の値が無効です

8 Threadwait 値が無効です

9 Authid に不適切な文字があります

10 Plan に不適切な文字があります

11 Planexitname に不適切な文字があります

12 Authid と Authtype の両方が指定されています

13 Plan と Planexitname の両方が指定されています

14 エントリーが使用不可になります

15 Protectnum が Threadlimit より大きいか、protectnum < 0 または protectnum > 2000 です

16 Threadlimit=0 で、Threadwait は tpool でなければなりません

17 Threadlimit > 2000 または Threadlimit < 0 または Threadlimit > TCBLIMIT です

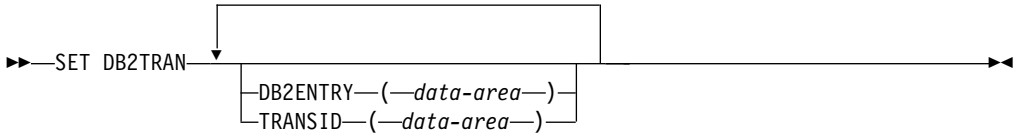
18 Accountrec 値が無効です

19 FORCE または WAIT オプションが指定されているときに SET DISABLED が発行されました。しかし、このトランザクション自体は DB2ENTRY を使用します。

SET DB2TRAN

DB2ENTRY と関連付けられている特定の DB2TRAN の属性を設定します。

SET DB2TRAN



条件: NOTAUTH、NOTFND、INVREQ

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

DB2TRAN は、CEDA で定義された名前で識別されます。または、DB2ENTRY がインストールされているときにその DB2ENTRY で TRANSID が指定されている場合、CICS は、DFHxxxx という名前の DB2TRAN をインストールします。ここで、xxxx は transid です。

オプション

DB2ENTRY
この DB2TRAN が参照する DB2ENTRY の名前を指定します。つまり、この追加 transid が関連付けられる DB2ENTRY の名前です。

TRANSID
エントリーに関連付けるトランザクション ID を指定します。同じトランザクション ID に対して、複数の DB2TRAN をインストールすることはできません。既存のインストール済み DB2TRAN で指定されたトランザクション ID に一致するトランザクション ID を指定すると、コマンドは失敗します。トランザクション ID にはワイルドカード文字を使用できます (ワイルドカード文字の使用については、トランザクション ID のワイルドカード文字を参照してください)。接続機能がアクティブである間に DB2TRAN の TRANSID を変更すると、スレッドを使用するすべてのトランザクションは、再利用のために解放されるまで、そのエントリーからのスレッドを引き続き使用します。そのトランザクションが次の SQL ステートメントを発行すると、スレッドは、新しい定義に基づいてエントリーまたはプールから獲得されます。

DB2TRAN パラメーターは、任意の時点で設定できます。

条件

NOTAUTH
発行中のタスクに関連付けられているユーザーは、このコマンドの使用が許可されていないか、またはこのリソースにアクセスすることが許可されていません。

RESP2 値は以下のとおりです。

100 コマンド権限の処理に失敗しました。

101 リソース許可が失敗しました。

102 サロゲートの許可に失敗しました。

103 Authtype の許可に失敗しました。

NOTFND

RESP2 値は以下のとおりです。

1 指定された名前で現在インストールされている DB2TRAN はありません。

INVREQ

RESP2 値は以下のとおりです。

2 TRANSID 名に不適切な文字があります

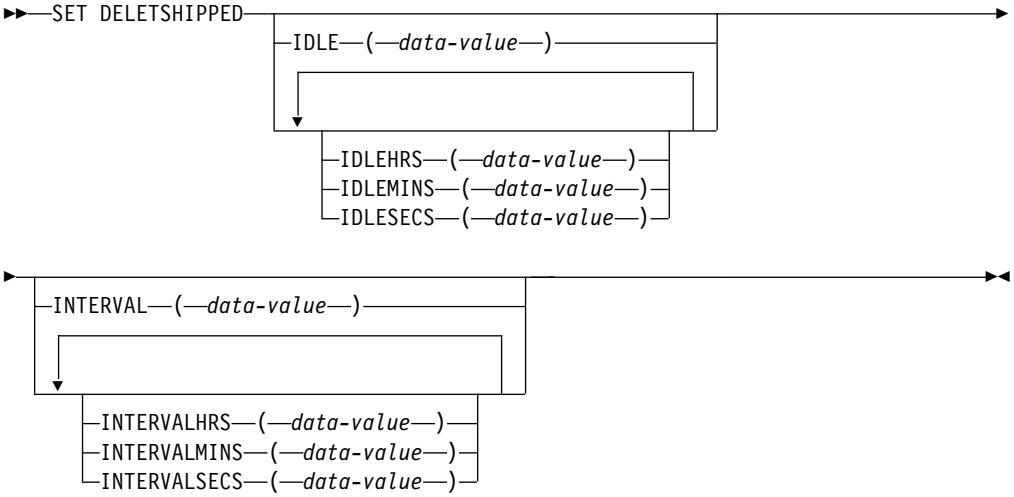
3 インストールされている別の DB2TRAN に transid がすでに存在します

4 DB2ENTRY 名に不適切な文字があります

SET DELETSHIPPED

シップされた端末定義の自動削除を制御するシステム設定を変更します。

SET DELETSHIPPED



条件**:** INVREQ、NOTAUTH

説明

SET DELETSHIPPED コマンドを使用すると、タイムアウト・メカニズムを制御する値を変更できます。このメカニズムは、シップされた端末の定義のうち非アクティブであるものを削除するために、CICS が提供するものです。指定された期間、端末がローカルで使用されておらず、端末を必要とするタスクが接続を待機していない場合、シップされた定義は非アクティブになります。シップされた定義について詳しくは、相互通信入門と TERMINAL リソースを参照してください。

シップされた端末を削除対象になるまで非アクティブにしておく期間の長さ (IDLE 時間) と、そのような端末を CICS が検査する間隔 (INTERVAL) の両方を変更することができます。以下に挙げるように、さまざまな方法で時間の値を表すことができます。

- 4 バイトのパック 10 進数を複合して、*0hhmmss+* という形式にする。この場合、時間 (*hh*) の範囲は 0 から 99 になり、分 (*mm*) と秒 (*ss*) の範囲はともに 0 から 59 になります。この形式には、IDLE オプションおよび INTERVAL オプションを使用します。
- 時間、分、秒を、個別の値にする。この形式では、IDLE の代わりに、IDLEHRS、IDLEMINS、および IDLESECS を使用します。また、INTERVAL の代わりに、INTERVALHRS、INTERVALMINS、および INTERVALSECS を使用します。時間、分、および秒を、任意に組み合わせて使用できます。いずれか 1 つを使用する場合、時間値は 100 時間未満 にする必要があります。したがって、時間の範囲は 0 から 99、分の範囲は 0 から 5999、秒の範囲は 0 から 359999 になります。 2 つまたは 3 つを合わせて使用する場合、時間の範囲は同じですが、分と秒はともに 0 から 59 までの範囲にする必要があります。

例えば、IDLE 時間を 1 時間 15 分に指定する場合は、以下のいずれかを使用できます。

- IDLE(011500)
- IDLEHRS(1) IDLEMINS(15)
- IDLEMINS(75)
- IDLESECS(4500)

オプション

IDLE(データ値)
アイドル時間を、4 バイトのパック 10 進数値として「*0hhmmss+*」という形式で指定します。アイドル時間とは、端末を削除対象になるまで非アクティブにさせておく最小の時間を指します。

許容される値の範囲については、このコマンドの説明の始めにある注を参照してください。

IDLEHRS(データ値)
時間単位のアイドル時間 (単独で使用される場合)、またはアイドル時間の時間コンポーネント (IDLEMINS または IDLESECS とともに使用した場合) を、フルワード・バイナリー値として指定します。 IDLE オプションを参照してください。

IDLEMINS(データ値)
分単位のアイドル時間 (単独で使用される場合)、またはアイドル時間の分コンポーネント (IDLEHRS または IDLESECS とともに使用した場合) を、フルワード・バイナリー値として指定します。 IDLE オプションを参照してください。

IDLESECS(データ値)
秒単位のアイドル時間 (単独で使用される場合)、またはアイドル時間の秒コンポーネント (IDLEHRS または IDLEMINS とともに使用した場合) を、フルワード・バイナリー値として指定します。 IDLE オプションを参照してください。

INTERVAL(データ値)
タイムアウト削除メカニズムの呼び出し間の間隔を、4 バイトのパック 10 進数値として「*0hhmmss+*」という形式で指定します。

検査する間隔を変更する場合、次の間隔の基準は、前回の呼び出し時または CICS の始動時ではなく、コマンド実行時 となります。即時に削除する必要がある場合は、 673 ページの『PERFORM DELETSHIPPED』 コマンドを使用します。

許容される値の範囲については、このコマンドの説明の始めにある注を参照してください。

INTERVALHRS(データ値)
時間単位の呼び出し間隔 (単独で使用される場合)、またはその間隔の時間コンポーネント (IDLEMINS または IDLESECS とともに使用した場合) を、フルワード・バイナリー値として指定します。 INTERVAL オプションを参照してください。

INTERVALMINS(データ値)
分単位の呼び出し間隔 (単独で使用される場合)、またはその間隔の分コンポーネント (INTERVALHRS または INTERVALSECS とともに使用した場合) を、フルワード・バイナリー値として指定します。 INTERVAL オプションを参照してください。

INTERVALSECS(データ値)
秒単位の呼び出し間隔 (単独で使用される場合)、またはその間隔の秒コンポーネント (INTERVALHRS または INTERVALMINS とともに使用した場合) を、フルワード・バイナリー値として指定します。 INTERVAL オプションを参照してください。

条件

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

1 INTERVAL の値は無効です。

2 INTERVALHRS の値が、0 から 99 の範囲にありません。

3 INTERVALMINS の値は無効です。

4 INTERVALSECS の値は無効です。

5 IDLE の値は無効です。

6 IDLEHRS の値が、0 から 99 の範囲にありません。

7 IDLEMINS の値は無効です。

8 IDLESECS の値は無効です。

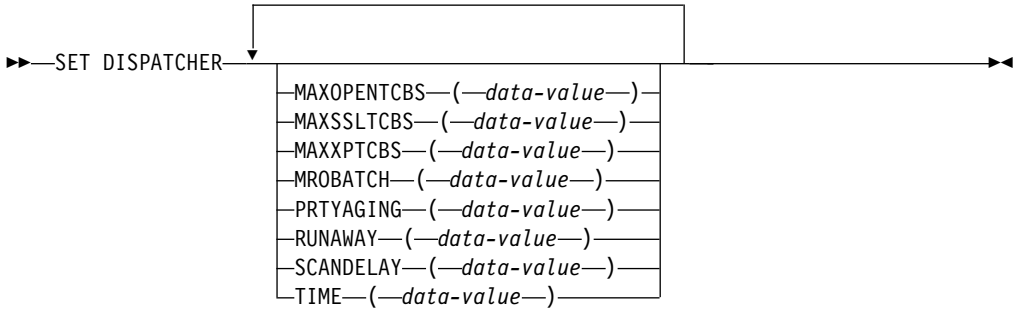
NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

SET DISPATCHER

CICS ディスパッチャーのシステム情報を変更します。

SET DISPATCHER



条件: INVREQ、NOTAUTH

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

SET DISPATCHER コマンドを使用して、CICS ディスパッチャー・ドメインがタスクおよび TCB 管理に使用するオプションの一部の値を変更します。

これらの値は、システム初期設定パラメーターの説明と要約で説明されているように、最初にシステム初期化パラメーターによって設定されます。このコマンドでそれらの値に対応するシステム初期設定パラメーターは、同じまたは類似する名前が付けられています。 512 ページの『INQUIRE SYSTEM』 に、正確な対応リストを示します。

オプション

MAXOPENTCBS(*data-value*)

CICS 領域内に同時に存在できる L8 および L9 モードのオープン TCB の最大数をフルワード・バイナリー値として指定します。指定される値は 32 から 4032 の範囲にすることができます。

MAXOPENTCBS を以前に定義されていた値より減らし、その新規値が現在割り振られているオープン TCB の数よりも少ない場合、CICS は TCB を切り離し、ユーザー・タスクにより解放されたときにのみその新規限度に達するようにします。TCB を切り離して新しい限度を設けるために、トランザクションが異常終了することはありません。 L8 または L9 モードの TCB を待機してキューに入れられているタスクがあり、MAXOPENTCBS を以前に定義されていた値から増やした場合、CICS は新規 TCB を付加し、キューに入れられた各タスクを再開して新規限度の数になるようにします。

重要: デフォルトで、CICS は MAXTASKS パラメーターを使用して、自動的に値を MAXOPENTCBS に割り当てます。明示的に値を MAXOPENTCBS に割り当てる前に、最大タスク仕様 (MXT) の設定の情報を検討してください。

MAXSSLTCBS(*data-value*)
CICS 領域内に同時に存在できる S8 モードのオープン TCB の最大数をフルワード・バイナリー値として指定します。指定される値は 1 から 1024 の範囲にすることができます。

MAXXPTCBS(*data-value*)
CICS 領域内に同時に存在できる X8 および X9 モードのオープン TCB の最大数をフルワード・バイナリー値として指定します。指定される値は 1 から 2000 の範囲にすることができます。

MAXXPTCBS を以前に定義されていた値より減らし、その新規値が現在割り振られているオープン TCB の数よりも少ない場合、CICS は TCB を切り離し、ユーザー・タスクにより解放されたときにのみその新規限度に達するようにします。TCB を切り離して新しい限度を設けるために、トランザクションが異常終了することはありません。 X8 または X9 モードの TCB を待機してキューに入れられているタスクがあり、MAXXPTCBS を以前に定義されていた値から増やした場合、CICS は新規 TCB を付加し、キューに入れられた各タスクを再開して新規限度の数になるようにします。

重要: デフォルトで、CICS は MAXTASKS パラメーターを使用して、自動的に値を MAXXPTCBS に割り当てます。明示的に値を MAXXPTCBS に割り当てる前に、最大タスク仕様 (MXT) の設定の情報を検討してください。

MROBATCH(*data-value*)
CICS が待機している MRO および DASD I/O イベントのリストに含まれるイベントの数を示すフルワード・バイナリー値として指定します。この数のイベントが発生すると、CICS が明示的な通知を受けてそれらを処理することになります。値の範囲は 1 から 255 までです。

PRTYAGING(*data-value*)
CICS でディスパッチの待機中であるタスクの優先順位の上昇率を、フルワード・バイナリー値として指定します。CICS は、ディスパッチなしで PRTYAGING ミリ秒の待ち時間が経過するごとに、タスクの優先度を 1 ずつ増やします。値は 0 から 65535 までの範囲の値である必要があります。

RUNAWAY(*data-value*)
ランナウェイ・タスク時間のデフォルトをフルワード・バイナリー値として指定します。CICS 領域のこのグローバル値は、明示的なランナウェイ・タスク時間を指定しないトランザクションを実行しているすべてのタスクに使用されます。

値はゼロ (デフォルト値を使用するタスクではランナウェイ・タスクの検出が不要) にするか、250 から 2 700 000 までの範囲にする必要があります。指定する値は、250 の倍数に切り捨てられます。

SCANDELAY(*data-value*)
CICS 領域の端末スキャン遅延時間の値を、ミリ秒単位のフルワード・バイナリー値として指定します。これは、最初は ICVTSD システム初期設定パラメーターによって設定されます。デフォルトの設定値はゼロです。値は 0 から 5000 までの範囲の値である必要があります。端末スキャン遅延機能は、以前のリリースでは、オーバーヘッドを分散して要求を処理するために、アプリケーションによる一部のタイプの端末出力要求を CICS が処理する速度を制限する目的で使用されていました。CICS システムが SNA 以外のネットワークを使用していたときには、ゼロ以外の値を指定することが適切な場合もありました。ただし

SNA および IPIC ネットワークでは、応答時間を向上させ、仮想ストレージを最良の方法で使用するには、ICVTSD を 0 に設定するのが適切です。

TIME(*data-value***)**
ディスパッチの準備ができたタスクがない場合に、CICS がオペレーティング・システムに制御を与えるミリ秒単位の最大間隔を、フルワード・バイナリー値で指定します。最初は **ICV** システム初期設定パラメーターによって設定されるこの値は、「領域終了時間間隔」と呼ばれることがあります。 TIME 値は 100 から 3 600 000 までの範囲で、SCANDELAY の値以上でなければなりません。現行の SCANDELAY 値を同時に設定しない場合は、**INQUIRE DISPATCHER SCANDELAY** コマンドを使用してその値を判別することができます。

条件

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

5 TIME 値が 100 から 3 600 000 の範囲内ではありません。

6 RUNAWAY 値が範囲外です。

7 MROBATCH が 1 から 255 の範囲内ではありません。

13 TIME が SCANDELAY より小さくなっています。

14 PRTYAGING が 0 から 65535 の範囲内ではありません。

15 SCANDELAY が 0 から 5000 の範囲内ではありません。

26 CICS が Db2 に接続されている場合、MAXOPENTCBS 値が、DB2CONN リソース定義の TCBLIMIT より小さくなっています。

27 MAXOPENTCBS 値が範囲外です。

30 MAXSSLTCBS 値が範囲外です。

31 MAXXPTCBS 値が範囲外です。

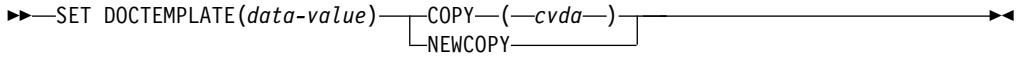
NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

SET DOCTEMPLATE

CICS 領域にインストールされた文書テンプレートのキャッシュ・コピーをリフレッシュするか、または文書テンプレートとして定義された CICS プログラムまたは出口プログラムの新規コピーを段階的に利用します。

SET DOCTEMPLATE



条件: INVREQ、 NOTFND、NOTAUTH

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

SET DOCTEMPLATE コマンドは、指定された CICS 文書テンプレートに対して操作します。 COPY(NEWCOPY) オプションはこのコマンドで使用できる唯一のオプションです。

区分データ・セットにある文書テンプレート、CICS ファイル、z/OSUNIX System Services zFS ファイル、一時記憶域キュー、または一時データ・キューの場合、このコマンドは現在 CICS によってキャッシュに入れられている文書テンプレートのコピーを削除し、それを新しいコピーと置き換えます。 (区分データ・セットのテンプレートでは、CICS はまず BLDL (ビルド・リスト) を実行して現行ディレクトリー情報を取得し、その後でメンバーを再度読み取ります)。

CICS プログラム (DOCTEMPLATE リソース定義で指定された PROGRAM を含む) 内にある文書テンプレートの場合、このコマンドはプログラムをリフレッシュします。これは指定されたプログラムに対して SET PROGRAM PHASEIN を実行することに相当します。プログラムから取得された文書テンプレートは CICS によってキャッシュに入れられません。

出口プログラム (DOCTEMPLATE リソース定義で指定された EXITPGM を含む) によって生成された文書テンプレートの場合、このコマンドは出口プログラムをリフレッシュします。これは指定された出口プログラムに対して SET PROGRAM PHASEIN を実行することに相当します。このコマンドを実行すると、CICS はキャッシュ内の文書テンプレートのコピーを削除して、プログラムの新しいコピーをフェーズし、出口プログラムでキャッシングが指定されている場合は、キャッシュ内に新しい文書テンプレートのコピーを作成します。リフレッシュされた出口プログラムは、キャッシングを行う必要があるかどうかに対して異なる設定を指定でき、CICS は変更を引き継ぎます。

オプション

COPY(*cvda*)
文書テンプレートを最新表示します。 CVDA 値は以下のとおりです。

NEWCOPY
文書テンプレートのキャッシュ・コピーが存在する場合は、削除されます。文書テンプレートが CICS プログラムまたは出口プログラムにある場合、プログラムの新規コピーが段階的に利用されます。文書テンプレートにキャッシングが必要な場合、その文書テンプレートの新規コピーがキャッシュ内にロードされます。

DOCTEMPLATE(*data-value*)
文書テンプレートを定義する DOCTEMPLATE リソース定義の 1 から 8 文字の名前を指定します。

条件

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

2 COPY は無効な CVDA 値で指定されています。

4 文書テンプレートの新規コピーをキャッシュ内にロードできませんでした。

NOTFND

RESP2 値は以下のとおりです。

1 DOCTEMPLATE リソース定義が見つかりません。

3 DOCTEMPLATE リソース定義で指定された区分データ・セットのメンバーが見つかりません。

5 DOCTEMPLATE リソース定義で指定されたリソースが見つかりません。

NOTAUTH

RESP2 値は以下のとおりです。

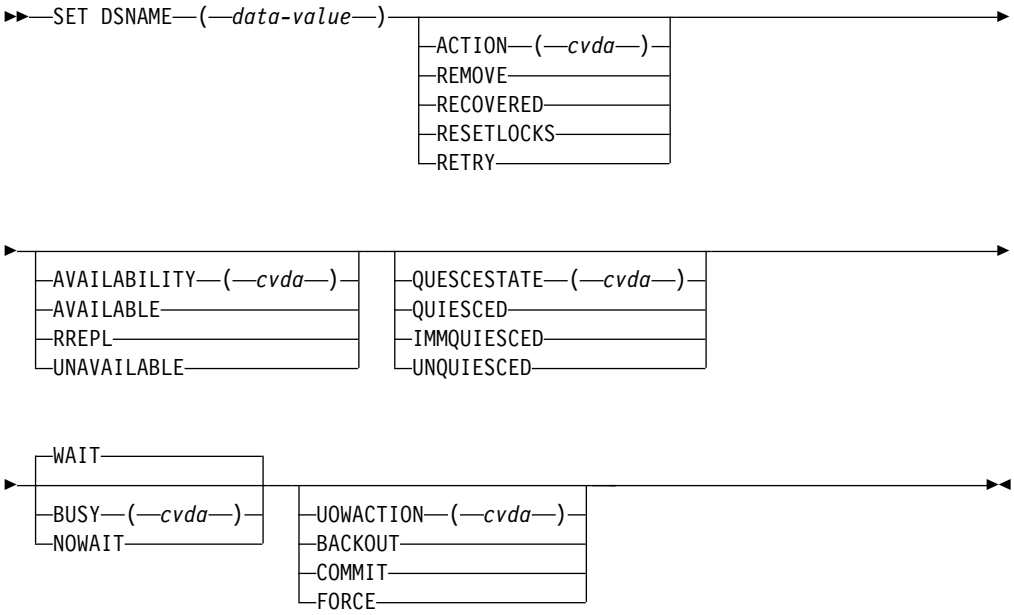
100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

101 発行中のタスクに関連付けられているユーザーは、この DOCTEMPLATE リソース定義に、このコマンドで必要とされる方法でアクセスすることを許可されていません。

SET DSNAME

このデータ・セットにアクセスするすべての UOW に適用されるアクションを含む、外部データ・セットに関連した情報を変更します。

SET DSNAME



状態: DSNNOTFOUND、INVREQ、IOERR、NOTAUTH、SUPPRESSED

CVDA の使用について詳しくは、CICS-value data areas (CVDAs)を参照してください。

説明

SET DSNAME コマンドを使用すると、以下の作業を実行できます。

- ローカル・システム上でデータ・セットが必要なくなったことを CICS に通知します。
- ICF カタログを更新して、データ・セットの「backup while open」(BWO) 属性を「forward recovered」状態に設定します。この設定は、順方向リカバリーが行われることを示します。
- シスプレックス全体で、VSAM データ・セットに静止または非静止としてマークを付けます。
- CICS 領域に対して VSAM データ・セットを使用可能または使用不可にするか、データ・セットへのフルアクセスを REPLICATOR プログラムに制限します。(可用性の機能はシスプレックス全体で作動するわけではありません。SET DSNAME (...) AVAILABILITY(...) コマンドは、このコマンドが発行された CICS 領域内のみで有効になります。)
- このデータ・セットの障害 (未確定障害を除く) のために中断しているすべての UOW ログ・レコードを再試行します。
- 未確定障害のために中断している、このデータ・セットを更新した UOW を強制的に完了させます。
- 中断 UOW ログ・レコード (未確定障害による場合を除く) のうち、データ・セット内のレコードに関する保持ロックを保持しているものをパージし、保持ロックを解除します。
- UOWACTION および ACTION(RESETLOCKS) オプションを使用して、データ・セットに関する失われた RLS ロックの回復の試行を取り消します。

中断 UOW ログ・レコードについては、作業単位を参照してください。

SET DSNAME コマンドのオプションと CVDA には、処理の順序と、同一コマンド上のキーワードの組み合わせや複数のキーワードに関連した以下の規則が当てはまります。

- REMOVE を指定すると、他の属性は使用できません。
- オプションは以下の順序で処理されます。
  1. RECOVERED
  2. UNQUIESCED
  3. AVAILABLE
  4. RETRY
  5. UOWACTION
  6. RESETLOCKS
  7. UNAVAILABLE
  8. RREPL
  9. QUIESCED

RETRY を指定する場合は、UNAVAILABLE または QUIESCED も指定しないでください。その理由は、バックアウトの再試行が失敗する可能性があるからです。

UNQUIESCED と他の属性を組み合わせる場合は、BUSY(WAIT) も指定して、データ・セットが非静止でないためにその後のオプションによりコマンドが失敗しないようにしてください。

データ・セットのオプションの中には、そのデータ・セットを参照する最初のファイルが開かれるまで指定できないものもあります。ファイルが開かれるまで属性が無効な場合は、INVREQ 状態が戻されます。QUIESCESTATE は、指定されたデータ・セットに対するファイルが開かれる前に使用できる属性です。

オプション

ACTION(*cvda***)**
データ・セットに対して取るアクションを指定します。CVDA 値は次のとおりです。

RECOVERED
このデータ・セットはバックアップ・バージョンから復元し、順方向リカバリーは正常に実行されて完了しています。CICS は DFSMS 呼び出し可能サービスを使用して ICF カタログ内のデータ・セットの BWO 属性を更新しようとします。データベース管理者がこのコマンドを使用して ICF カタログ中の BWO 属性を更新するのは、順方向リカバリー・ログ適用ユーティリティーが更新しない場合か、バックアップ・コピーの作成後に更新が行われていないことをデータベース管理者が検出した場合です。この場合、順方向リカバリーは必要ありません。バックアップ・コピーの復元後にデータ・セットの BWO 属性が更新されていない場合は、ICF カタログ中でそのデータ・セットは引き続き下位レベルとしてマークが付けられているので、それ以降のファイル・オープンは失敗します。

DFSMS 呼び出し可能サービスについて詳しくは、z/OS Security Server RACF セキュリティー管理者のガイドを参照してください。

REMOVE
ローカル・システム上でデータ・セットが必要なくなりました。SET DSNAME REMOVE コマンドを発行するには、その前にデータ・セットの FILECOUNT をゼロにしなければなりません。REMOVE を指定する場合は、他のオプションを指定できません。

一時データ・セットの除去: 一時データ・セットを作成するアプリケーションがある場合は、データ・セットが必要なくなった時点で、関連したデータ・セット名ブロックを除去することが最重要です。データ・セットのクローズ時や CICS のシャットダウン時には、データ・セット名ブロックは除去されません (コールド・スタートまたは初期始動時のみ自動的に除去されます)。除去しないと、不要なデータ・セット名ブロックにより大量の動的ストレージが使い果たされ、ストレージ不足の状態になる場合があります。不要なデータ・セット名ブロックを識別して除去できる方法の図示については、 748 ページの『例』を参照してください。

RESETLOCKS (VSAM のみ)
バックアウト失敗 UOW およびコミット失敗 UOW の場合に、中断

UOW ログ・レコードのうちこのデータ・セットに対するロックを保持しているものをパージし、保存ロックを解除します。

- バックアウト失敗 UOW とは、バックアウト処理中に失敗した UOW のことです。
- コミット失敗 UOW とは、2 フェーズ・コミット同期点処理の第 2 フェーズ中に、RLS データ・セットを更新したが、ロック解除に失敗した UOW のことです。

このオプションを指定すると、ロックを保存してトランザクションが遅延することよりも、バックアウトの失敗とデータ保全性が多少失われることを受け入れることになるので、最終手段専用として使用する必要があります。

データ・セットに対するロックを保持しているバックアウト失敗 UOW およびコミット失敗 UOW の場合、このデータ・セットに関連したすべてのレコードがシステム・ログから除去され、この CICS で保持されているデータ・セットに関する保持レコード・ロックはすべて解除されます。 RESETLOCKS 操作の結果として除去されるバックアウト失敗ログ・レコードごとに、診断メッセージが CSFL 一時データ・キューに書き込まれます。

バックアウト失敗またはコミット失敗ログ・レコードがデータ・セットに関する失われたロックのリカバリーを実行せず、他に解決する方法がない場合は、RESETLOCKS を使用することを選択できます。

注:

- このオプションは中断された未確定 UOW には適用されません。RESETLOCKS を発行する前に他の方法で、データ・セットに対するロックを保持する中断された未確定 UOW の解決を試みる必要があります。例えば、COMMIT、BACKOUT、または FORCE を使用します (UOWACTION オプションを参照)。
- コミット・フェーズ中には RESETLOCKS は失敗することがあります (例えば、CICS による RLS ロックの解除の試行中にエラーが生じた場合)。この場合、UOW はコミット失敗 UOW として中断状態に戻ります。

RETRY

このデータ・セットに関するバックアウトおよびコミット処理が失敗したために中断された UOW ログ・レコードを再試行する必要があります。SET CONNECTION RESYNC コマンドの概念と似ていますが、バックアウト失敗 UOW とコミット失敗 UOW のみに適用され、未確定 UOW には適用されません。

中断されたバックアウト失敗 UOW またはコミット失敗 UOW がデータ・セットに関連付けられており、データ・セットの問題の一部または全てが一時的なものか解決済みと思われる場合には、RETRY を使用する必要があります。何らかの点でデータ・セットが損傷した場合、RETRY が正常に作動するには、修復 (再作成) して使用可能にしなければなりません。

データ・セットの障害が発生し、そのために UOW が中断される際に発行されるメッセージでは、障害から回復するために必要なアクションが推奨されます。

RETRY はデータ保全性を損なわないので、一部の失敗したリカバリー作業が完了できるようにする際にいつでも安全に使用できます。

AVAILABILITY(*cvda*) (VSAM のみ)
この CICS 領域において、データ・セットが使用可能または使用不可のマークが付けられているかどうか、またはデータ・セットへのフルアクセスが REPLICATOR プログラムに制限されているかどうかを指定します。このコマンドは可用性の標識を設定したり設定解除したりします。この標識は、CICS 領域がデータ・セットごとにデータ・セット名ブロック (DSNB) 内に保守するローカル・フラグです。CVDA 値は次のとおりです。

AVAILABLE
そのデータ・セットは使用可能です。CICS は、このデータ・セットに関する RLS オープン要求と非 RLS オープン要求の両方を発行できます。

RREPL
データ・セットへのフルアクセスは、REPLICATION(REPLICATOR) として定義されているプログラムに制限されます。その他のプログラムには読み取り権限のみがあります。

UNAVAILABLE
そのデータ・セットは使用不可です。データ・セットを RLS または非 RLS モードで開くことはできません。

BUSY(*cvda*) (RLS のみ)
QUIESCESTATE も指定されている場合、データ・セットの静止または非静止要求が出されたときに CICS が待機するかどうかを指定します。QUIESCESTATE が指定されていない場合は無視されます。CVDA 値は次のとおりです。

NOWAIT
CICS は、静止または非静止操作を非同期で開始して、アプリケーションに直ちに制御を返します。INQUIRE DSNAME QUIESCESTATE を使用して、静止または非静止が完了したかどうかを確認できます。

WAIT
データ・セットがシスプレックス全体で静止または非静止にされている場合、またはそうすることに失敗した場合にのみ、CICS は制御をアプリケーションに返します。静止が QUIESTIM システム初期設定パラメーターで指定された時間内に完了しない場合、静止はタイムアウトします。QUIESTIM システム初期設定パラメーターを参照してください。WAIT を指定する場合、またはそれをデフォルトに設定する場合、タスクが完了を待機できる大きさに DTIMOUT 値が設定されていなければ、プログラムが AEXY 異常終了を処理することを確認する必要があります。

DSNAME(*data-value*)
データ・セットの名前を指定します。最大 44 文字の長さまでで、CEDA DEFINE FILE コマンドの DSNAME オペランド内で CICS に対して定義されます。

QUIESCESTATE(*cvda*) (RLS のみ)

データ・セットの RLS 静止状態を指定します。この状態は、操作の完了時にデータ・セットの ICF カタログ・エントリー中で設定されます。CVDA 値は次のとおりです。

IMMQUIESCED

シスプレックス全体で RLS モードで開いている既存の CICS ファイルはすべて閉じられ、ICF カタログ内でデータ・セットには静止のマークが付けられます。シスプレックス内の各 CICS は、データ・セットにアクセスしている実行中の UOW をすべて異常終了させてからファイルを閉じるので、実行中の UOW はバックアウトされます。バックアウトに失敗した UOW は中断されます。このデータ・セットに対して RLS モードで開くことのできるファイルはありませんが、非 RLS オープン要求は許可されます (ただし、データ・セットに保存 RLS ロックがある場合は更新のために非 RLS モードで開くことはできません)。

オープン・ファイルのクローズに加えて、IMMQUIESCED はファイルの状態が ENABLED の場合に UNENABLED に設定します。その後の **SET DSNAME UNQUIESCED** コマンドは、QUIESCED または IMMQUIESCED アクションによってファイルの状態が UNENABLED に設定された場合はファイルの状態を ENABLED に復元しますが、その他のイベントのために UNENABLE になっている場合は復元しません。この状態変更は CICS グローバル・カタログ内に記録されます。

注: IMMQUIESCED オプションを使用すると、現在そのデータ・セットを使用しているタスクが、CICS タスク FORCEPURGE メカニズムを使用して即時終了します。極端な場合は、CICS が異常終了することもあります。この理由で、IMMQUIESCED オプションを使用してデータ・セットを静止として設定することは、例外的な状況だけに限定する必要があります。

QUIESCED

シスプレックス全体で RLS モードで開いている既存の CICS ファイルはすべて閉じられ、ICF カタログ内でデータ・セットには静止のマークが付けられます。シスプレックス内の各 CICS は、データ・セットにアクセスしている実行中の UOW がすべて同期点に達するまで待ってからファイルを閉じます。つまり、UOW は以下のようになります。

- 正常にコミットされる
- または 正常にバックアウトされる
- または 未確定障害のため中断される
- または バックアウト失敗のため中断される
- または コミット失敗のため中断される

注: QUIESCED と WAIT (デフォルト) を共に指定する場合は、コマンドが完了できるようにするには、シスプレックス内のすべての CICS 領域内のすべてのタスクが同期点に達した後にファイルを閉じなければなりません。QUIESCED コマンドを発行するトランザクションの DTIMOUT 値がこの条件を満たすことを確認しなければなりません。満たさないと、トランザクションは AEXY 異常終了で異常終了します。

QUIESCE 操作は、完了するまでか、または QUIESTIM システム初期設定パラメーターで設定されたタイムアウト値 (デフォルトは 4 分) に達するまで実行できます。

このデータ・セットに対して RLS モードで開くことのできるファイルはありませんが、非 RLS オープン要求は許可されます (ただし、データ・セットに保存 RLS ロックがある場合は更新のために非 RLS モードで開くことはできません)。

オープン・ファイルのクローズに加えて、QUIESCED はファイルの状態が ENABLED の場合に UNENABLED に設定します。その後 SET DSNAME UNQUIESCED コマンドは、QUIESCED または IMMQUIESCED アクションによってファイルの状態が UNENABLED に設定された場合はファイルの状態を ENABLED に復元しますが、その他のイベントのために UNENABLE になっている場合は復元しません。この状態変更は CICS グローバル・カタログ内に記録されます。

UNQUIESCED
ICF カタログ中でデータ・セットは非静止としてマークが付けられています。このデータ・セットに対して RLS または非 RLS オープンを発行できます。これは、最初のオープンで確立されるアクセス・モード (RLS または非 RLS) です。最初にオープン要求が正常実行された後には、以後のオープン要求は、この最初のオープンと同じモードのみ許可されます。

以前の SET DSNAME IMMQUIESCED または QUIESCED コマンドによってファイルに UNENABLEDが設定されている場合は、UNQUIESCED はファイルの状態を ENABLED に復元します。この状態変更は CICS グローバル・カタログ内に記録されます。

UOWACTION(*cvda*)
中断された未確定 UOW に取るアクションを指定します。CVDA 値は次のとおりです。

BACKOUT
このデータ・セットに対するロックを保持する、中断された未確定 UOW をすべてバックアウトする必要があります。

COMMIT
このデータ・セットに対するロックを保持する、中断された未確定 UOW をすべてコミットする必要があります。

FORCE
トランザクション・リソース定義で定義された ACTION 属性の指定どおりに、このデータ・セットに対するロックを保持する中断された未確定 UOW すべてのバックアウトまたはコミットを FORCE する必要があります。

条件

DSNNOTFOUND
RESP2 値は以下のとおりです。

1 名前指定されたデータ・セットが見つかりませんでした。

15 RECOVERED が指定されましたが、データ・セットが見つかりませんでした。

INVREQ

RESP2 値は以下のとおりです。

3 ACTION に無効な CVDA 値があります。

10 REMOVE が指定されましたが、データ・セットがファイル定義と関連しています。

12 REMOVE が別のオプションと共に指定されました。 REMOVE を指定する場合は、そのコマンドに REMOVE 以外のオプションは指定できません。

13 REMOVE が指定されましたが、別の INQUIRE コマンドか SET DSNAME コマンド、または CICS ファイル制御処理によってデータ・セットに対するロックが保持されています。

14 RECOVERED が指定されましたが、CICS は「backup while open」(BWO) をサポートするように構成されていません。BWO をサポートする MVS/DFP、DFHSM、および DFDSS のバージョンがあることを確認してください。

16 RECOVERED が指定されましたが、この CICS セッション中にデータ・セットが開かれなかったので、ICF カタログ内で BWO 属性を設定できません。

17 BDAM データ・セットまたは VSAM パスに関する RECOVERED が指定されました。これはサポートされていません。

18 FCT が開かれている VSAM 基本データ・セットに関する RECOVERED が指定されました。これは許可されません。

19 不明なデータ・セットに関する RECOVERED が指定されたか、またはデータ・セットが「forward recovered」状態ではありませんでした。

29 QUIESCESTATE が指定されましたが、システム初期設定パラメーターとして RLS=NO が指定されているか、または DFSMS 1.3 以降がインストールされていないので、この操作はサポートされていません。

30 QUIESCESTATE に無効な CVDA 値があります。

31 BUSY には無効な CVDA 値があります。

33 AVAILABILITY に無効な CVDA 値があります。

34 QUIESCESTATE 値 QUIESCED または IMMQUIESCED が指定されていますが、静止または非静止が既に実行されたか、または現在 DFSMSdss がデータ・セットのバックアップ・コピーを取っているので、SMSVSAM によって拒否されます。

36 QUIESCESTATE 値 UNQUIESCED が指定されていますが、非静止が既に実行されているか、または現在 DFSMSdss によってデータ・セットのバックアップ・コピーが取られているので、SMSVSAM によって拒否されます。

39 BDAM データ・セットであるデータ・セットに関する AVAILABILITY、QUIESCESTATE、RESETLOCKS、または RETRY が指定されています。

40 データ・セットを記述している CICS 制御ブロック (DSNB) が別のタスクによって (REMOVE オプションによって) 削除されているので、CICS がこの SET コマンドを処理できませんでした。

41 DFSMS に VSAM データ・セットとして認識されていないデータ・セットに関する QUIESCESTATE が指定されています。

42 UOWACTION に関する無効な CVDA が指定されています。

43 QUIESCESTATE 値 QUIESCED または IMMQUIESCED が指定され、NOWAIT が指定されていませんが、発行元のタスクが同じ作業単位中のデータ・セットを更新したか、またはデータ・セットをブラウズしています。以下の理由で、これは許可されません。

- QUIESCED の場合、結果としてデッドロックになります。
- IMMQUIESCED の場合、結果として発行元のタスクがパージされます。

44 SET DSNAME REMOVE コマンドが別のタスクによって発行されています。この状況は、SET DSNAME コマンドが発行されてから AVAILABILITY オプションが処理されるまでの間に検出されました。

46 NORMALBKOUT 以外の値の BKOUTSTATUS が指定されています (BKOUTSTATUS は廃止されています)。

47 この CICS 領域の最新のコールド・スタート後、またはこのデータ・セットに関する最初のファイル定義のインストール後に、このデータ・セットに対するファイルが開かれていません。

IOERR

RESP2 値は以下のとおりです。

20 RECOVERED が指定されましたが、ICF カタログのアクセスに関するエラーが発生しました。指定したデータ・セットが SMS 管理 DASD 上にあり、SMS サブシステムに認識されていることを確認してください。

21 RECOVERED が指定されましたが、CICS テーブル・マネージャー・プログラムによりエラーが発生しました。

35 QUIESCESTATE が指定されていますが SMSVSAM サーバーが使用不可になっています。

40 QUIESCESTATE が指定されていますが、DFSMS で予期しないエラーが発生しました。

48 データ・セットがマイグレーション済みのため、指定の操作を完了できません。データ・セットを再呼び出しして、コマンドを再発行してください。

49 ICF カタログを読み取って基本データ・セット名を確立する際に、DFSMS によってエラーが発生しました。

NOTAUTH

RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

SUPPRESSED

RESP2 値は以下のとおりです。

37 QUIESCESTATE 値 QUIESCED または IMMQUIESCED が指定されていますが、別の参加 CICS 領域によってデータ・セットの静止が取り消されています。以下の理由が原因と思われます。

- ユーザーが SET DSNAME UNQUIESCED コマンドを発行した。
- XFCVSDS グローバル・ユーザー出口プログラムが静止を抑止した。
- XFCSREQ グローバル・ユーザー出口プログラムが、このデータ・セットに対して開かれているファイルのクローズを抑止した。

38 QUIESCESTATE 値 QUIESCED または IMMQUIESCED が指定されていますが、静止操作がタイムアウトになったので、この CICS 領域によってデータ・セットの静止が取り消されています。別の参加 CICS 領域上の長期実行トランザクションが、このデータ・セットに対して開かれているファイルのクローズを妨げていることが理由と思われます。

タイムアウトの別の理由としては、1 つ以上の領域が非常にビジーであることが考えられます。この状況が非常に頻繁に起こる場合は、QUIESTIM システム初期設定パラメーターを使用してタイムアウト期間を変更し、(デフォルトの 240 秒より) 長い期間を指定できます。

例

CICS 内で一時使用のために VSAM データ・セットをオンラインで作成できます。このデータ・セットは CICS ファイル制御により動的に割り振られます。通常この作業には、新しいデータ・セットを使用する必要が生じるたびに、同じファイル制御エントリーを再利用し、新しい一時データ・セット名を設定することが関係します。この実習では、多数のデータ・セット名ブロックが CICS 動的ストレージを占めることがあります。これらのブロックを除去できるのは、SET DSNAME(...) REMOVE コマンドか、または CICS のコールド・スタートか初期始動に限られます。

理想的には、一時データ・セットを作成して使用するアプリケーションが、このデータ・セットが必要なくなった時点で明示的に DSN ブロックを削除する必要があります。この処理には、以下の 2 つのアクションが関係しています。

1. EXEC CICS SET FILE(...) CLOSED DISABLED コマンドを発行して CICS ファイルとデータ・セットの間の関連を切り、その後 EXEC CICS SET FILE コマンドを発行して DSNAME オペランドをヌル値に設定します。
2. EXEC CICS SET DSNAME(...) REMOVE コマンドを発行して、データ・セット名ブロックを除去します。

DSNAME をヌルに設定するには、以下の例のように CICS コマンドをコーディングして、正しく変換してコンパイルするようにしなければなりません。

アセンブラーの例

```
*        Remove DSN block from CICS storage
*
*ASM XOPTS(SP)
DFHEISTG DSECT
TEMPDSN  DS    CL44
REMOVE   CSECT
         PRINT GEN
*          Find name of temporary data set if not known
         EXEC CICS INQUIRE FILE('TEMPFILE') DSNAME(TEMPDSN)
*          Close file temporary file and set DSN to null
         EXEC CICS SET FILE('TEMPFILE') CLOSED DISABLED
         EXEC CICS SET FILE('TEMPFILE') DSNAME(=X'00')
*          Remove DSN block from storage
         EXEC CICS SET DSNAME(TEMPDSN) REMOVE
*
*         Return and end
*
RETURN   DS    0H
         EXEC CICS RETURN
         END
```

PL/I の例

```
*PROCESS XOPTS(SP);
 REMOVE:PROC OPTIONS(MAIN);
 DCL PLIXOPT STATIC EXTERNAL CHAR(10) VAR INIT('NOSTAE');
 DCL TEMPDSN CHAR(44);
/*                                                      */
/*         Find name of temporary data set if not known  */
         EXEC CICS INQUIRE FILE('TEMPFILE') DSNAME(TEMPDSN);
*/         Close file temporary file and set DSN to null */
         EXEC CICS SET FILE('TEMPFILE') CLOSED DISABLED;
         EXEC CICS SET FILE('TEMPFILE') DSNAME('00'X);
/*         Remove DSN block from storage                */
         EXEC CICS SET DSNAME(TEMPDSN) REMOVE
/*
/*           Return and end                             */
/*
         EXEC CICS RETURN;
         END;
```

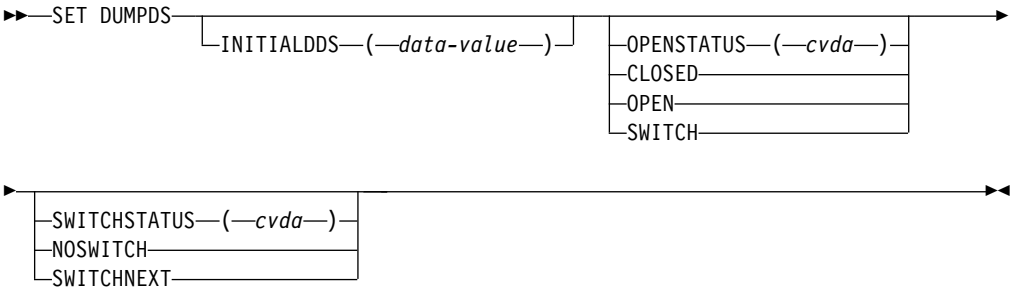
COBOL の例

```
 CBL XOPTS(SP)
       IDENTIFICATION DIVISION.
       PROGRAM-ID. REMOVE.
       ENVIRONMENT DIVISION.
       DATA DIVISION.
       WORKING-STORAGE SECTION.
       77  TEMPDSN             PIC X(44).
       PROCEDURE DIVISION.
      *   Find name of temporary data set if not known
           EXEC CICS INQUIRE FILE('TEMPFILE') DSNAME(TEMPDSN)
                END-EXEC.
      *   Close file temporary file and set DSN to null
           EXEC CICS SET FILE('TEMPFILE') CLOSED DISABLED
                END-EXEC.
           EXEC CICS SET FILE('TEMPFILE') DSNAME(LOW-VALUES)
                END-EXEC.
      *   Remove DSN block from storage
           EXEC CICS SET DSNAME(TEMPDSN) REMOVE END-EXEC.
      *
      *   Return and end
           EXEC CICS RETURN END-EXEC.
           GOBACK.
```

SET DUMPDS

トランザクション・ダンプ・データ・セットの状況を変更します。

SET DUMPDS



状態: INVREQ、IOERR、NOTAUTH

CVDA の使用について詳しくは、CICS-value data areas (CVDAs)を参照してください。

説明

SET DUMPDS コマンドでは、CICS トランザクション・ダンプ・データ・セットの状況を変更できます。通常、どちらか 1 つ (「A」ダンプ・データ・セットと呼ばれる) または 2 つ (「A」および「B」) があります。一方が「アクティブ」(ダンプ受信)、もう一方 (2 つある場合) が「非アクティブ」(スタンバイ) です。具体的には、次のことが可能です。

- アクティブ・データ・セットをオープンまたはクローズします。
- アクティブ・データ・セットとスタンバイ・データ・セットの役割を切り替えます。
- アクティブ・データ・セットが満杯になったときに自動的に切り替えるように CICS に要求します。
- 次回の CICS の初期設定時にどちらのデータ・セットがアクティブであるかを指定します。

注: トランザクション・ダンプ・データ・セットなしに CICS システムが初期化される場合、最後の 2 つの機能のみが使用可能です。

要求された変更が行われるまで、コマンドを発行したタスクに制御は戻りません。

オプション

INITIALDDS(*data-value***)**
それ以降のウォーム・リスタートまたは緊急時再始動の後に最初にアクティブになるダンプ・データ・セットを 1 文字の値として指定します。この値は CICS グローバル・カタログ内に記録され、DUMPDS システム初期設定パラメーターによって最初に設定された以前の値を指定変更します。

使用できる値は A、B、および X です。X は、CICS が最後に終了した (正常終了または異常終了) ときにアクティブでなかったデータ・セットを CICS が使用することを意味します。これは、DUMPDS パラメーターの AUTO 設定に相当します。

OPENSTATUS(*cvda*)
トランザクション・ダンプ・データ・セットで実行されるアクションを指定します。CVDA 値は次のとおりです。

CLOSED
アクティブな CICS ダンプ・データ・セットはクローズされます。

OPEN
アクティブな CICS ダンプ・データ・セットはオープンされます。

SWITCH
ダンプ・データ・セットが 2 つある場合は、これらの役割が切り替えられます。現在アクティブになっているデータ・セットがスタンバイになり、オープンしている場合はクローズされます。現行のスタンバイがアクティブ・データ・セットになり、クローズされている場合はオープンされます。

存在しないデータ・セットのオープン状況を変更しようとすると、IOERR 例外条件が発生します。これが発生するのは、ダンプ・データ・セットが 1 つしかないときに SWITCH を指定した場合、またはダンプ・データ・セットがないときに OPENSTATUS 値を指定した場合です。

SWITCHSTATUS(*cvda*)
現行のダンプ・データ・セットが次回満杯になったときに CICS がアクティブ・データ・セットを自動的に切り替えるかどうかを指定します。SWITCHSTATUS 値は CICS グローバル・カタログに記録されるため、ウォーム・リスタートおよび緊急時再始動の後も記憶されます。(これは、最初は DUMPSW システム初期設定パラメーターによって設定されます。) 自動切り替えは 1 回だけ行われます。自動切り替えを維持するために、各切り替え後に別の SET DUMPDS SWITCHNEXT コマンドが必要です。CVDA 値は次のとおりです。

NOSWITCH
データ・セットは切り替えられません。

SWITCHNEXT
データ・セットは切り替えられます。(アクティブ・データ・セットが満杯になった時点で 2 つのダンプ・データ・セットがない限り、SWITCHNEXT は無効です。)

条件

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

1 INITIALDDS には無効な値があります。

2 SWITCHSTATUS には無効な CVDA 値があります。

3 OPENSTATUS には無効な CVDA 値があります。

IOERR

RESP2 値は以下のとおりです。

4 OPEN または SWITCH により、データ・セットのオープン・エラーが発生しました。

NOTAUTH

RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

例

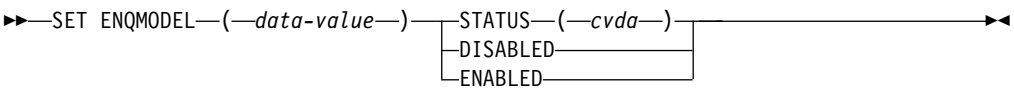
```
EXEC CICS SET DUMPDS
             INITIALDDS('A')
             SWITCH
             NOSWITCH
```

この例では、以降のウォーム・リスタートまたは緊急時再始動の後に最初にダンプ・データ・セットがアクティブになることを CICS に指示します。SWITCH の OPENSTATUS 設定は、現在アクティブなダンプ・データ・セットを非アクティブにし、現在非アクティブなダンプ・データ・セットをアクティブにします。NOSWITCH オプションは、(新規) アクティブ・ダンプ・データ・セットが満杯になったときに、非アクティブ・ダンプ・データ・セットへの自動切り替えを行わないことを CICS に指示します。

SET ENQMODEL

ENQMODEL 定義の状況を変更します。

SET ENQMODEL



条件: INVREQ、NOTAUTH、NOTFND

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

SET ENQMODEL コマンドを使用すると、ローカル・システムにインストールされている ENQMODEL リソースを ENABLE または DISABLE にすることができます。マッチング EXEC ENQ 要求を処理できるようにするには、ENQMODEL が使用可能でなければなりません。より具体性の高い ENQMODEL を使用可能にするには、使用不可にする必要があります。

ネストされた総称 enqname を形成する ENQMODEL は、最も具体性の高いものから低いものの順に使用可能にする必要があります。例えば、ABCD*、ABC*、AB* という順序に使用可能にします。具体性の低い enqmodel がすでに使用可能になっているときに、具体性の高い ENQMODEL を使用可能にしようとすると、メッセージ NQ0107 が出され、INVREQ が呼び出し元に戻されます。

この場合、具体性の高い ENQMODEL を使用可能にするために、具体性の低い 1 つ以上の ENQMODEL を使用不可にする必要があります。その後、具体性の低い ENQMODEL を再度使用可能にすることができます。

待ち状態の ENQMODEL を使用可能/使用不可にすることはできません。これを試行すると、INVREQ が呼び出し元に戻されます。

オプション

ENQMODEL(*data-value*)
リソース定義の 8 文字の ID を指定します。

STATUS(*cvda*)
ENQMODEL に対して実行するアクションを指定します。CVDA 値は次のとおりです。

ENABLED
ENQMODEL が DISABLED である場合、ENABLED になります。使用可能になった後、マッチング ENQ 要求は通常の方法で処理されます。

DISABLED
ENQNAME パターンと一致するエンキューがローカル・システムからなくなるまで、ENQMODEL は WAITING 状態になります。その後、DISABLED になります。使用不可になった後、マッチング ENQ 要求は拒否され、発行中のタスクは異常終了します。

条件

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

2 汎用性の高い ENQMODEL が使用可能であるため、ENQMODEL を使用可能/使用不可にする試みは失敗しました。

3 STATE に無効な CVDA 値があります。

4 ENQMODEL は WAITING 状態です。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクのユーザーには、このコマンドの使用が許可されていません。

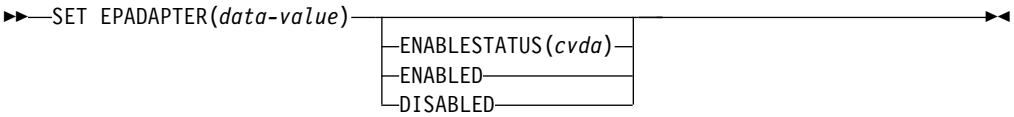
NOTFND
RESP2 値は以下のとおりです。

1 指定の ENQMODEL はこのシステムにインストールされていません。

SET EPADAPTER

指定された EP アダプターの状況を使用可能または使用不可に設定します。

SET EPADAPTER



条件: INVREQ、NOTAUTH、NOTFND

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

SET EPADAPTER コマンドは、特定の EP アダプターの状況を変更する場合に使用します。 EPAPAPTER の状況を変更しても、関連する EVENTBINDING の状況には影響しません。

オプション

EPADAPTER *(data-value)*
EP アダプターの 32 文字の名前を指定します。

ENABLESTATUS *(cvda)*
イベントをこの EP アダプターにディスパッチするかどうかを指定します。CVDA 値は、以下のとおりです。

ENABLED
イベント処理ディスパッチャーは、この EP アダプターに対してイベントをディスパッチできます。イベント処理ディスパッチャーは、この EP アダプターに対するイベントのディスパッチをすぐに開始します。

DISABLED
イベント処理ディスパッチャーは、この EP アダプターに対するイベントのディスパッチを停止します。イベント処理ディスパッチャーは、この EP アダプターに対するイベントのディスパッチをすぐに停止します。 EP アダプターにすでにディスパッチされたイベントは、発行されます。

条件

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

4 ENABLESTATUS には無効な CVDA 値があります。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

101 発行中のタスクに関連付けられているユーザーは、この EP アダプターの更新を許可されていません。

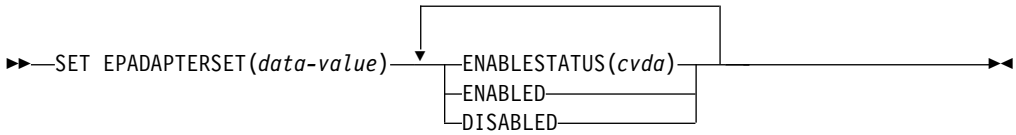
NOTFND
RESP2 値は以下のとおりです。

3 指定の EP アダプターが見つかりません。

SET EPADAPTERSET

指定された EP アダプター・セットの状況を使用可能または使用不可に設定します。

SET EPADAPTERSET



条件: INVREQ、NOTAUTH、NOTFND

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

SET EPADAPTERSET コマンドを使用して、EPADAPTERSET の状態を設定します。

オプション

EPADAPTERSET *(data-value)*
EP アダプター・セットを示す 32 文字の名前を指定します。

ENABLESTATUS *(cvda)*
イベントを EP アダプター・セット内の EP アダプターにディスパッチするかどうかを指定します。CVDA 値は以下のとおりです。

ENABLED
イベント処理ディスパッチャーは、EP アダプター・セット内の EP アダプターにイベントをディスパッチできます。イベント処理ディスパッチャーは、この EP アダプターに対するイベントのディスパッチをすぐに開始します。

DISABLED
イベント処理ディスパッチャーは、EP アダプター・セット内の EP アダプターのディスパッチを停止します。イベント処理ディスパッチャーは、EP アダプター・セット内の EP アダプターへのイベントのディスパッチを即時に停止します。EP アダプター・セット内の EP アダプターにすでにディスパッチされたイベントは、発行されます。

条件

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

4 ENABLESTATUS には無効な CVDA 値があります。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連付けられているユーザーは、SET EPADAPTERSET コマンドの発行を許可されていません。

101 発行中のタスクに関連付けられているユーザーは、EP アダプター・セットの変更を許可されていません。

NOTFND

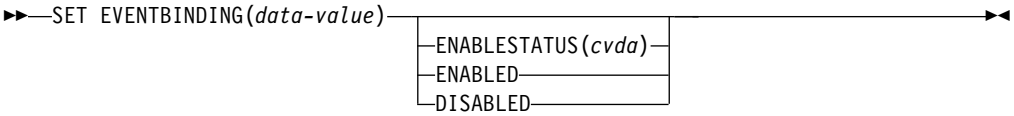
RESP2 値は以下のとおりです。

3 指定された EPADAPTERSET が見つかりません。

SET EVENTBINDING

指定されたイベント・バインディングの状況を使用可能または使用不可に設定します。

SET EVENTBINDING



条件: INVREQ、NOTAUTH、NOTFND

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

SET EVENTBINDING コマンドは、特定のイベント・バインディングの状況を変更する場合に使用します。 EVENTBINDING をインストールしたことで同じ名前の EPADAPTER もインストールされた場合、関連する EPADAPTER の状態は、まだ使用可能であれば、影響はありません。

オプション

EVENTBINDING *(data-value)*

イベント・バインディングの 32 文字の名前を指定します。

ENABLESTATUS *(cvda)*

このイベント・バインディング内のキャプチャー仕様と一致するイベントをキャプチャーして発行するかどうかを指定します。CVDA 値は以下のとおりです。

ENABLED

イベント・バインディングは有効です。 このイベント・バインディング内のキャプチャー仕様と一致するイベントのキャプチャーが即時に開始します。

DISABLED

イベント・バインディングは使用不可です。このイベント・バインディング内のキャプチャー仕様と一致するイベントのキャプチャーが即時に停止されます。既にキャプチャーされているイベントがあれば発行されます。

条件

INVREQ

RESP2 値は以下のとおりです。

4 ENABLESTATUS には無効な CVDA 値があります。

NOTAUTH

RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

101 発行中のタスクに関連付けられているユーザーは、このイベント・バインディングの更新を許可されていません。

NOTFND

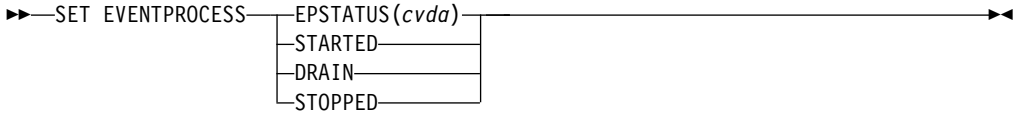
RESP2 値は以下のとおりです。

3 指定のイベント・バインディングが見つかりません。

SET EVENTPROCESS

イベント処理の状況を設定します。

SET EVENTPROCESS



条件: INVREQ、NOTAUTH

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

SET EVENTPROCESS コマンドは、イベント処理の状況を変更する場合に使用します。

注: 同期的な複数のトランザクション・イベントをキャプチャーする作業単位が進行中である間は、イベント処理の状況の変更 (つまり開始、ドレーン、または停止の設定) を行わないでください。それを行った場合、イベントがバックアウトされてトランザクションが異常終了する可能性があります。

オプション

EPSTATUS(*cvda* **)**

イベント処理の現在の状況を変更する CVDA 値。

STARTED

EVENTPROCESS 状態が STARTED に変更されます。未完了トランザクションについては、非トランザクション・イベントのキャプチャーは直ちに開始され、トランザクション・イベントのキャプチャーは次の同期点で開始されます。

DRAIN

EVENTPROCESS 状態は DRAIN に変更され、イベント・キャプチャーは即時に停止されます。

ディスパッチャー・キューにトランザクション・イベントがあれば削除されます。同期点が発生するまで、トランザクション・イベントはキャプチャーされたとみなされず、同期イベントはこの時点でキャプチャーされません。

非トランザクション・イベントがあれば送出されます。キューの最後のイベントが発行されると、EVENTPROCESS 状態は STOPPED に変更されます。

STOPPED

EVENTPROCESS 状態は STOPPED に変更され、イベント・キャプチャーは即時に停止されます。

ディスパッチャー・キューにあるすべてのイベントが削除されます。

条件

INVREQ

RESP2 の値は次のとおりです。

4 イベント処理がドレーン中の間は開始できません。

5 EPSTATUS には無効な CVDA 値があります。

NOTAUTH

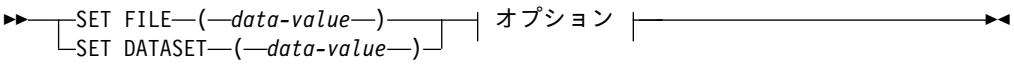
RESP2 の値は次のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

SET FILE

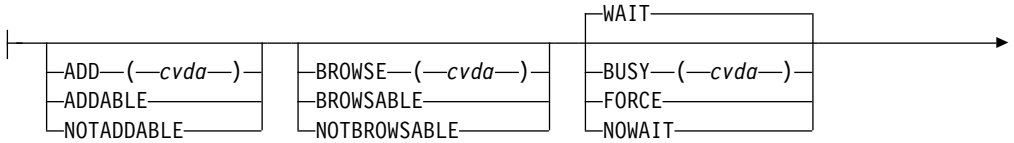
CICS 共用データ・テーブルとカップリング・ファシリティー・データ・テーブルを参照するファイルを含む、VSAM または BDAM ファイルの属性を変更します。

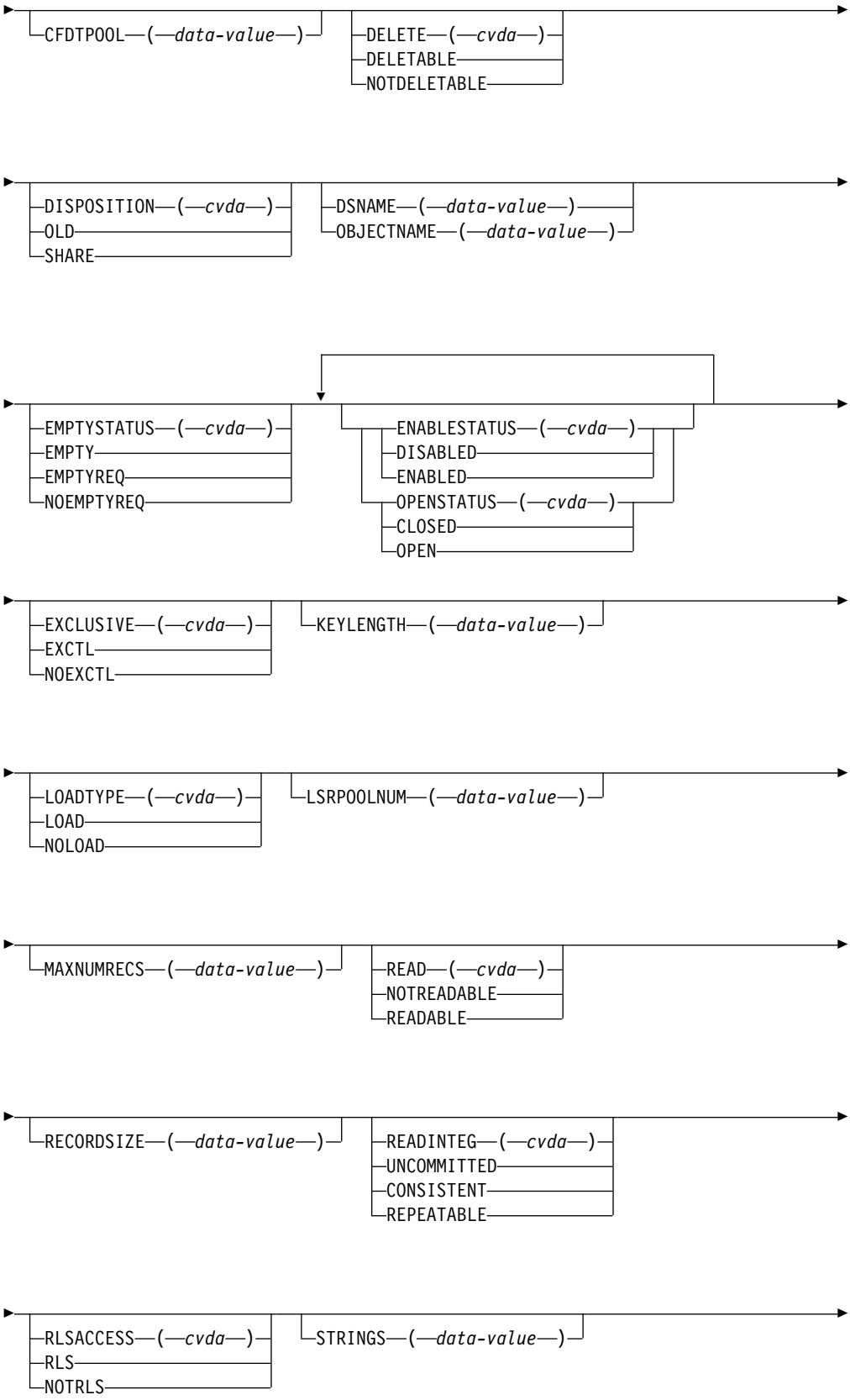
SET FILE

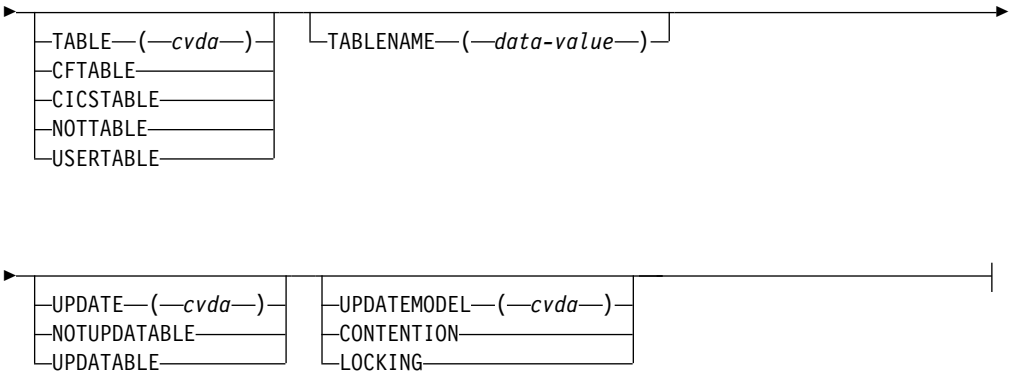


条件: FILENOTFOUND、 INVREQ、IOERR、NOTAUTH

オプション:




CFDTPOOL—(—data-value—)
DELETE—(—cvda—)
DELETABLE
NOTDELETABLE
DISPOSITION—(—cvda—)
OLD
SHARE
DSNAME—(—data-value—)
OBJECTNAME—(—data-value—)
EMPTYSTATUS—(—cvda—)
EMPTY
EMPTYREQ
NOEMPTYREQ
ENABLESTATUS—(—cvda—)
DISABLED
ENABLED
OPENSTATUS—(—cvda—)
CLOSED
OPEN
EXCLUSIVE—(—cvda—)
EXCTL
NOEXCTL
KEYLENGTH—(—data-value—)
LOADTYPE—(—cvda—)
LOAD
NOLOAD
LSRPOOLNUM—(—data-value—)
MAXNUMRECS—(—data-value—)
READ—(—cvda—)
NOTREADABLE
READABLE
RECORDSIZE—(—data-value—)
READINTEG—(—cvda—)
UNCOMMITTED
CONSISTENT
REPEATABLE
RLSACCESS—(—cvda—)
RLS
NOTRLS
STRINGS—(—data-value—)



CVDA の使用の詳細については、CICS-value data areas (CVDAs)を参照してください。

注: このコマンドは、**SET DATASET** コマンドを置き換えるものです、 FILE のシノニムとして DATASET キーワードが変換プログラムによってサポートされていますが、すべての新しいアプリケーションで FILE を使用してください。同様に、OBJECTNAME が DSNAME のシノニムとしてサポートされています。

1 つのコマンド上に、複数のオプションを任意に組み合わせて設定できます。ファイルを閉じることまたは使用不可にすること以外のすべての変更では、ファイルが CLOSED 状態で、ENABLESTATUS が DISABLED または UNENABLED でなければなりません。変更内容は、ファイルを次に開くときまで有効になりません。ファイルを即時に閉じない場合、ファイルが CLOSED 状態で、ENABLESTATUS が DISABLED または UNENABLED であることが必要な属性は無視されます。

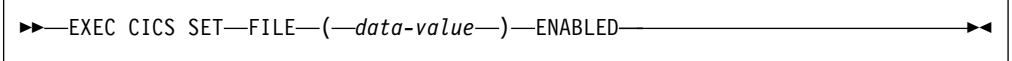
SET FILE コマンドを使用して、複数のファイル・タイプに関連した属性の組み合わせを設定し、異なるタイプのファイル間の切り替えを簡単にすることができます。現行タイプのファイルに関連しない属性は無視されます。したがって、例えば、ローカルとリモートの両方の属性を定義するなどの二重目的のファイル定義をセットアップしたり、ファイルのアクセス先を、単一の MVS イメージ内にあるユーザー保守のデータ・テーブルから、並列シスプレックス内にあるカップリング・ファシリティー・データ・テーブルへと、簡単に切り替える属性を設定したりすることができます。

カップリング・ファシリティー・データ・テーブルが存在するとき、その作成に使用されたテーブル属性が **SET FILE** コマンドに指定されたものと一致しない場合は、ファイルをオープンしようとするとエラー・メッセージが出て失敗します。

SET FILE コマンドを使用してファイルの参照先をカップリング・ファシリティー・データ・テーブルから異なるオブジェクトに (例えば CFTABLE から NOTTABLE に) 切り替える場合、 CFDT は削除されないでそのプール内に残ります (カップリング・ファシリティー・リスト構成)。

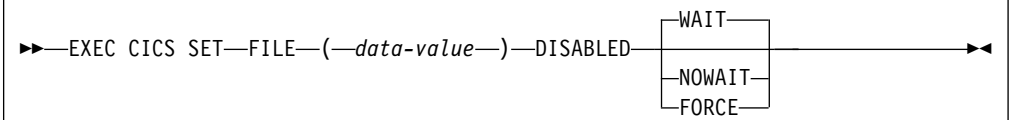
要求された変更は、以下の順序で適用されます:
NOEMPTYREQ、CLOSED、DISABLED、各種、OPEN、ENABLED。

SET FILE ENABLED



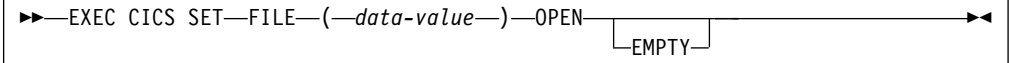
条件: FILENOTFOUND、INVREQ、NOTAUTH

SET FILE DISABLED



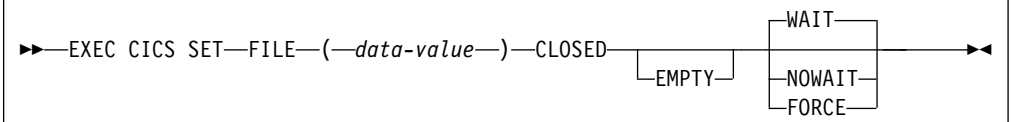
条件: FILENOTFOUND、INVREQ、NOTAUTH

SET FILE OPEN



条件: FILENOTFOUND、IOERR、NOTAUTH

SET FILE CLOSED



条件: FILENOTFOUND、 INVREQ、IOERR、NOTAUTH

説明

SET FILE コマンドを使用して、名前の指定された VSAM または BDAM ファイルの属性のいくつかを変更します。セキュリティー検査が実行され、許可のないコマンドの試行に対しては NOTAUTH 応答が戻されます。保持されたロックがファイルに関連付けられている場合、変更可能な属性は ENABLESTATUS および OPENSTATUS だけです。保持されたロックがあるときに他の属性を指定しようとすると、INVREQ 状態が発行されます。

CICS バンドルの中で定義され、インストールされた FILE リソースの属性に変更を加えるには、CICS Explorer のリソース・エディターを使用することにより、CICS バンドル内の定義に変更を加え、CICS バンドルまたはそのデプロイ時に使用されたアプリケーションの新しいバージョンをインストールします。定義を更新す

るには、古いバージョンの CICS バンドルを新しいもので置き換えます。その手順については、CICS Explorer 製品資料内の『Working with bundles』を参照してください。

- CICS バンドルが単体としてデプロイされた場合、またはプラットフォームと一緒にデプロイされた場合は、個別に更新できます。
- CICS バンドルがアプリケーションの一部としてデプロイされた場合、またはアプリケーション・バインディングと一緒にデプロイされた場合は、アプリケーション全体を更新してください。

動的に生成されたリソースの属性を変更するために SET FILE コマンドを使用することは可能ですが、変更内容はカタログされず、CICS のウォーム・リスタートの後に回復されません。

CICS バンドル内で定義され、インストールされている FILE リソースの状況を変更するには、CICS バンドルまたはそのデプロイに使用されるアプリケーションの状況を変更してください。 FILE リソースを定義する CICS バンドルに対して無効化アクションを実行する際、ファイルの使用が解除されて保持ロックが解決されるとアクションは完了します。

FILE リソースを定義する CICS バンドルの無効化で問題が発生する場合、このアクションが必要であれば、動的に生成されたリソースに対して FORCE オプションとともに **EXEC CICS SET FILE DISABLED** または **EXEC CICS SET FILE CLOSED** コマンドを発行することができます。 アプリケーション・エラーの診断のトラブルシューティング手順に従って問題を診断し、適切なアクションを実行してください。

オプション

ADD(*cvda***)**
ファイルに新しいレコードを追加できるかどうかを指定します。CVDA 値は以下のとおりです。

ADDABLE
ファイルに新しいレコードを追加できます。

NOTADDABLE
ファイルに新しいレコードを追加できません。

BROWSE(*cvda***)**
ファイルが参照可能かどうかを指定します。CVDA 値は以下のとおりです。

BROWSABLE
ファイルは参照できます。

NOTBROWSABLE
ファイルは参照できません。

BUSY(*cvda***)**
SET コマンドの発行時にファイルが使用中である場合の CICS アクションを指定します。 BUSY オプションは、ファイルを DISABLED または CLOSED に設定する要求に対してのみ有効で、その他の要求に対しては無視されます。
CVDA 値は以下のとおりです。

FORCE
ファイルを使用中のすべてのタスクは異常終了して、ファイルは即時に DISABLED または CLOSED に設定され、発行元アプリケーションに制御が戻ります。

NOWAIT
SET 要求がキューに入れられた直後に CICS が制御を発行元アプリケーションに戻すこと以外は、WAIT と同じです。

WAIT
CICS は、ファイル上のすべてのアクティビティーが静止するまで待機してから、ファイルを DISABLED または CLOSED に設定します。次に、CICS は、このコマンドを発行するアプリケーションに制御を返します。WAIT がデフォルトです。

FORCE オプションを使用してファイルを閉じると、ファイルの現行ユーザーのタスクは、CICS タスク FORCEPURGE メカニズムによって即時に停止します。このメカニズムでは、データ保全性は保証されません。いくつかの極端なケース (例えば、バックアウト処理中にエラーが発生する場合など) では、CICS が異常終了することもあります。そのため、FORCE オプションを使用してファイルを閉じることは例外的な状況のときだけにしてください。

CFDTPOOL(*data-value***) (CFDT のみ)**
カップリング・ファシリティー・データ・テーブルを含むプールの名前を指定します。現在はカップリング・ファシリティー・データ・テーブルを参照していなくても、後日、カップリング・ファシリティー・データ・テーブルを使用するように切り替えられる可能性のあるファイルに対しては、CFDT プール名を指定できます。

DELETE(*cvda***) (VSAM のみ)**
ファイルからレコードを削除できるかどうかを指定します。CVDA 値は以下のとおりです。

DELETABLE
ファイルからレコードを削除することができます。

NOTDELETABLE
ファイルからレコードを削除することができません。

DISPOSITION(*cvda***)**
このファイルの属性指定を指定します。ファイルが開かれている場合、SET FILE DISPOSITION コマンドを発行すると、インストールされたファイル定義やこのファイルの JCL ステートメントから取得されている現在の DISPOSITION 値はオーバーライドされます。 CVDA 値は以下のとおりです。

OLD ファイル属性指定値は OLD です。

SHARE
ファイル属性指定値は SHARE です。

DSNAME(*data-value***)**

アクセス方式およびオペレーティング・システムに定義されている、このファイルに関連付けられたデータ・セットのデータ・セット名を指定します。名前の長さは 44 文字以下です。ブランクの値を設定した場合、CICS はこのオプションの値を変更しません。

ファイルのオープン時に、このファイル用の JCL ステートメントが存在しない場合は、オープンに先立ち、このデータ・セット名を使用するファイルの動的割り振りが行われます。 JCL ステートメントが存在する場合は、それはこのオプションに指定されたデータ・セット名よりも優先されます。
ファイルがカップリング・ファシリティー・データ・テーブルに関連付けられている場合、ファイル定義で LOAD(YES) が指定されていれば、DSNAME によってテーブルのロード元のソース・データ・セットの名前が指定されます。
データ・セット名をファイル定義またはカップリング・ファシリティー・データ・テーブルに追加するとき、ファイルのオープン時に LSR プール・サイズの計算が行われることがあります。この計算が発生するのは、CICS がデフォルト値を使用して構築する LSRPOOL をファイルが参照していて、かつテーブルをロードするために LSR プールを使用する 1 次データ・セットがオープンされる場合です。 CICS は、LSR プール・サイズの計算中に遅延が生じる可能性があることを示すメッセージ DFHFC0208 を発行します。デフォルト値を使用して既に構築されている LSR プールを参照するファイルにデータ・セット名を指定した場合、データ・セットは LSR プールの計算に含められていません。これは、既存の LSR プールが新規データ・セットのために適切ではない可能性を示しています。この方法で使用される LSR プールに関連した問題を解決するために、プールを参照するすべてのファイルをクローズしてプールを廃棄し、プールを参照するファイルが次にオープンされるときに CICS が新しい計算を使用してそれを再作成するようにすることができます。代わりの方法として、適切な値を指定して LSR プールを明示的に定義することもできます。 LSR プールの定義方法について詳しくは、LSRPOOL リソースを参照してください。
SET FILE コマンドを使用するとき、ヌル文字 (16 進ゼロ) で始まる DSNAME 値を指定すると、ファイルを DSNAME から分離できます。

EMPTY
EXEC CICS SET FILE EMPTYSTATUS(EMPTYREQ) と同等です。これは互換性のためにサポートされているだけであり、RLS モードで作動しているファイルには使用できません。

EMPTYSTATUS(*cvda*) (VSAM のみ)
データ・セットを参照するファイルを次に開いた時点で、そのデータ・セットを空にするかどうかを指定します。このオプションは、再使用可能と定義されている、LSR または NSR モードでアクセスされるデータ・セットでのみ有効です。 CVDA 値は次のとおりです。

EMPTYREQ
データ・セットが再使用可能として定義されている場合、それを参照するファイルが次に非 RLS モードでオープンされる時点で、そのデータ・セットは空に設定されます。

注:

- 再使用不可のデータ・セットに EMPTYREQ を指定した場合、CICS はそれを受け入れますが、その後にファイルをオープンしようとすると失敗します。
- RLSACESS(YES) で定義されているファイルに対して EMPTYREQ を指定した場合、CICS はそれを受け入れますが、その後にファイルが非 RLS モードでオープンされない限り、そのオプションには効果がありません。

- データ・セットからのプリロードが必要なカップリング・ファシリティー・データ・テーブルを参照する、そして RLSACCESS(NO) が指定されているファイルに対して EMPTYREQ を指定した場合、ファイルをオープンするとテーブル・ロードが起動して、データ・セットは空に設定されます。
- ソース・データ・セットからのロードを必要としないカップリング・ファシリティー・データ・テーブルを参照するファイルに対して EMPTYREQ を指定した場合、そのオプションは無視されます。
- ソース・データ・セットから既にロードされているカップリング・ファシリティー・データ・テーブルを参照するファイルに対して EMPTYREQ を指定した場合、そのオプションは無視されます。

NOEMPTYREQ
データ・セットが再使用可能として定義されていても、それを参照するファイルが次にオープンされる時点で、そのデータ・セットは空に設定されません。 NOEMPTYREQ は、カップリング・ファシリティー・データ・テーブルに対して指定します。

ENABLESTATUS(*cvda***)**
アプリケーション・プログラムがファイルにアクセスできるかどうかを指定します。CVDA 値は以下のとおりです。

DISABLED
ファイルはアプリケーション・プログラムによりアクセス不可です。

ENABLED
ファイルはアプリケーション・プログラムによりアクセス可能です。

EXCLUSIVE(*cvda***) (BDAM のみ)**
このファイルのレコードを、更新のための読み取り要求の発行時に排他制御下に置くかどうかを指定します。CVDA 値は以下のとおりです。

EXCTL
このファイルのレコードは、排他制御下に置かれます。

NOEXCTL
このファイルのレコードは、排他制御下にはありません。

FILE(*data-value***)**
CICS に定義されている 8 文字のファイル名を指定します。

KEYLENGTH(*data-value***) (CFDT のみ)**
カップリング・ファシリティー・データ・テーブル内のレコードのキー長をフルワード・バイナリー値で指定します。キー長を設定するには、1 から 16 までの範囲の値を指定します。キー長をクリアする (ヌル値に設定する) には、KEYLENGTH(0) を指定します。

現在はカップリング・ファシリティー・データ・テーブルを参照していなくても、後日、カップリング・ファシリティー・データ・テーブルを使用するように切り替えられる可能性のあるファイルに対しては、キー長を指定できます。

LOADTYPE(*data-value***) (CFDT のみ)**
ファイルに関連付けられたカップリング・ファシリティー・データ・テーブルが、ソース・データ・セットからのプリロードを必要とするかどうかを指定します。 CVDA 値は以下のとおりです。

LOAD
カップリング・ファシリティー・データ・テーブルが完全に使用可能な状態になるには、ソース・データ・セットからロードする必要があります。このカップリング・ファシリティー・データ・テーブルを使用するトランザクションは、それが指定されたソース・データ・セットからのレコードを含んでいることに依存します。

NOLOAD
カップリング・ファシリティー・データ・テーブルをソース・データ・セットからロードする必要はありません。作成されて、それを使用するトランザクションによって値が入れられるとすぐに、完全に使用可能な状態になります。

現在はカップリング・ファシリティー・データ・テーブルを参照していなくても、後にカップリング・ファシリティー・データ・テーブルを使用するように切り替えられる可能性のあるファイルに対しては、ロード・タイプを指定できます。

LSRPOOLID(*data-value*) (VSAM のみ)
この属性は廃止されましたが、以前のリリースの CICS との互換性を保つためにサポートされています。

LSRPOOLID に指定されている値は、新しいオプション LSRPOOLNUM に移されます。

LSRPOOLNUM(*data-value*) (VSAM のみ)
このファイルに関連付けられた LSR プールの数をフルワード・バイナリー値で指定します。 LSR プール ID の範囲は、1 から 255 までです。

ファイルがバッファーを共用できない場合は、この値を 0 に設定してください。

CICS 保守またはユーザー保守のデータ・テーブルでは、この値が 1 以上でなければなりません。これら両方のタイプの CICS 共用データ・テーブルは、LSR アクセス・モードを使用する必要があります (ファイルが RLS アクセス・モードでオープンするように定義されている場合を除く)。

カップリング・ファシリティー・データ・テーブルに対しては、この値を 0 に設定できます。

MAXNUMRECS(*data-value*)
このファイルのデータ・テーブルが保持できるレコードの最大数をフルワード・バイナリー値で指定します。このパラメーターを使用して、ストレージの使用を制御します。

いずれかのタイプのテーブルに対して限度を設定するには、1 から 99999999 までの範囲の値を指定します。制限を適用しないためには、MAXNUMRECS(0) を指定します。 CICS はこれを制限なしと解釈して、内部で正のフルワードの最大値 (+2147483647 または X'7FFFFFFF') に設定します。

リカバリー可能なカップリング・ファシリティー・データ・テーブルに MAXNUMRECS を指定するには、テーブルに含まれる予定のレコードの最大数よりも 5 から 10% 大きい値を使用します。この値により、リカバリー可能要求を処理する際に内部で作成されることのあるレコードを追加できます。この内部処理のために残しておくマージンは、カップリング・ファシリティー・デー

タ・テーブルの使用レベルと、その使用の性質によって異なります。この内部処理の影響として、レコード数が MAXNUMRECS 制限によって指定される数よりも少ないリカバリー可能カップリング・ファシリティー・データ・テーブルへの WRITE 要求または REWRITE 要求で、(RESP2 値が 102 の) NOSPACE 条件が生じる可能性があります。

OPENSTATUS(*cvda*)
ファイルがオープンされるかまたはクローズされるかを指定します。 CVDA 値は以下のとおりです。

CLOSED
ファイルがクローズされます。

反復可能な読み取りロックを保持するすべての作業単位が同期点に達するまで、クローズ要求は据え置かれます。

ファイルを即時に閉じない場合、ファイルが CLOSED 状態で、ENABLESTATUS が DISABLED または UNENABLED であることが必要な他の属性は無視されます。

カップリング・ファシリティー・データ・テーブルは、ファイル所有領域内のファイルがクローズされると存在しなくなるユーザー保守のデータ・テーブルとは異なり、ファイルのクローズ後も (カップリング・ファシリティー内に) 存続します。カップリング・ファシリティー・データ・テーブルのファイルをクローズしても、別のファイルを経由してのアクセス、または他の CICS 領域からのアクセスがなくなることはありません。

MVS MODIFY コマンドを使用して、次のような CFDT サーバー・コマンドを発行できます。

- テーブルを使用不可に設定して (MODIFY *server-name,*SET TABLE=*tablename,*AVAILABLE=NO)、他のファイルがそれに対するオープンを発行できないようにする
- テーブルを使用する最後のファイルがクローズされた後にそのテーブルが存在しないようにする場合、それをカップリング・ファシリティーから削除する (MODIFY *server-name,*DELETE TABLE=*table-name*)

OPEN
ファイルは開かれています。

カップリング・ファシリティー・データ・テーブルでは、オープン処理により、 CICS がオープン要求を処理するときに存在しない場合にはカップリング・ファシリティー・データ・テーブル・サーバーがテーブルを作成します。インストールされたファイル定義がソース・データ・セットの名前を指定している場合、データがソース・データ・セットからロードされて、カップリング・ファシリティー・データ・テーブルが作成されます。

SET FILE(*filename*) OPEN コマンドが、LOAD(YES) を指定していてもソース・データ・セットを指名していないファイルを参照する場合、ソース・データ・セット名を定義するファイルをオープンすることによってのみ CFDT を作成およびロードすることができます。

リカバリー可能データ・セットがクローズされている場合、クローズを発行しているタスクは、それ以前の変更内容をデータ・セットにコミットする必要があります。そうしないと、要求はファイル制御によって拒否されます。

READ(*cvda***)**
ファイルからレコードを読み取ることができるかどうかを指定します。CVDA 値は以下のとおりです。

NOTREADABLE
ファイルからレコードを読み取ることができません。

READABLE
ファイルからレコードを読み取ることができます。

READINTEG(*cvda***)**
ファイルの読み取り保全性のデフォルト・レベルを指定します。 CVDA 値は以下のとおりです。

CONSISTENT
このファイルには、整合した読み取り保全性が必要です。

REPEATABLE
このファイルには、反復可能な読み取り保全性が必要です。

UNCOMMITTED
このファイルには読み取り保全性は必要ありません。

デフォルトの読み取り保全性値が使用されるのは、ファイル読み取り要求が EXEC CICS コマンドで読み取り保全性オプションを明示的に指定していないときだけです。

CICS は、カップリング・ファシリティー・データ・テーブルに指定された READINTEG オプションを無視します。

RECORDSIZE(*data-area***) (CFDT のみ)**
カップリング・ファシリティー・データ・テーブルの最大レコード・サイズを、1 から 32767 までの範囲でフルワード・バイナリー値によって指定します。

現在はカップリング・ファシリティー・データ・テーブルを参照していなくても、後にカップリング・ファシリティー・データ・テーブルを使用するように切り替えられる可能性のあるファイルに対しては、レコード・サイズを指定できます。以前に定義された値を削除するには、レコード・サイズをゼロに指定します。

RLSACCESS(*cvda***)**
RLS モードでファイルにアクセスするかどうかを指定します。アクセス・モードを RLS アクセスまたは非 RLS アクセスに変更するには、ファイルをクローズしてから無効または使用不可にする必要があります。

非 RLS モードは、ファイル・リソース定義で LSRPOOLNUM に指定された値に応じて、LSR または NSR になります。

CVDA 値は以下のとおりです。

NOTRLS
ファイルが次にオープンされるとき、それは LSR または NSR モードでオープンされます。

RLS　ファイルが次にオープンされるとき、それは RLS アクセス・モードでオープンされます。

RLS モードと非 RLS モードとの間での切り替えについては、「トラブルシューティング」の『RLS から非 RLS アクセス・モードへの切り替え』を参照してください。

STRINGS(*data-value***) (VSAM のみ)**
このファイルで許可する並行操作の最大数を、1 から 255 までの範囲でフルワード・バイナリー値によって指定します。

TABLE(*cvda***) (VSAM および CFDT のみ)**
FILE パラメーターで指定したファイル名がデータ・テーブルを表すかどうかを指定します。CVDA 値は以下のとおりです。

CFTABLE
ファイル名がカップリング・ファシリティー・データ・テーブルを参照する。

CICSTABLE
ファイル名は CICS 保守データ・テーブルを表します。

NOTTABLE
ファイル名はデータ・テーブルを表しません。

USERTABLE
ファイル名は、ユーザー保守のデータ・テーブルを表します。

TABLENAME(*data-area***) (CFDT のみ)**
このファイルが参照するカップリング・ファシリティー・データ・テーブルの名前を 1 から 8 文字で指定します。 TABLENAME が指定されない場合、テーブル名はデフォルトでファイルの名前になります。

現在はカップリング・ファシリティー・データ・テーブルを参照していなくても、後にカップリング・ファシリティー・データ・テーブルを使用するように切り替えられる可能性のあるファイルに対しては、テーブル名を指定できます。

UPDATE(*cvda***)**
ファイルが読み取り専用または読み取り/書き込みのどちらであるかを指定します。 CVDA 値は以下のとおりです。

NOTUPDATABLE
レコードを読み取ることだけができます。

UPDATABLE
レコードの読み取り、書き込み、たまは削除を行うことができます。

UPDATEMODEL(*cvda***) (CFDT のみ)**
カップリング・ファシリティー・データ・テーブルに使用する更新カップリング・ファシリティー・データ・テーブルのタイプを指定します。 CVDA 値は以下のとおりです。

CONTENTION
CFDT は、レコードが更新のために読み取られるときにロックされない、しかしその後の REWRITE または DELETE で更新のために読み取られているレコードが変更または削除される場合にはエラーが戻される、競合モデルを使用します。

LOCKING
CFDT は、レコードが更新のために読み取られるときにロックされる、ロッキング・カップリング・ファシリティー・データ・テーブルを使用します。

現在はカップリング・ファシリティー・データ・テーブルを参照していなくても、後にカップリング・ファシリティー・データ・テーブルを使用するように切り替えられる可能性のあるファイルに対しては、更新モデルを指定できます。

条件

FILENOTFOUND
RESP2 値は以下のとおりです。
18 指定されたファイルが見つかりません。

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。
1 指定されたファイルは REMOTE です。
2 指定されたファイルは CLOSED ではありません。
3 指定されたファイルは DISABLED または UNENABLED ではありません。
4 ADD には無効な CVDA 値があります。
5 BROWSE には無効な CVDA 値があります。
6 BUSY には無効な CVDA 値があります。
7 DELETE には無効な CVDA 値があります。
8 DISPOSITION には無効な CVDA 値があります。
9 EMPTYSTATUS には無効な CVDA 値があります。
10 LSRPOOLNUM が非 VSAM データ・セットに指定されています。
11 LSRPOOLNUM が 1 から 255 までの範囲にないか、または対応するバッファーが定義されていません。
12 READ には無効な CVDA 値があります。
13 STRINGS 値が 1 から 255 までの範囲にないか、または VSAM ファイルではありません。
14 UPDATE には無効な CVDA 値があります。
16 OPENSTATUS には無効な CVDA 値があります。
17 ENABLESTATUS には無効な CVDA 値があります。
19 DELETE が非 VSAM ファイルに指定されています。
20 EMPTYSTATUS が非 VSAM ファイルに指定されています。
21 CLOSED または DISABLED が、現在の作業単位内で 1 つ以上のリカバリー可能要求を発行したタスクによって指定されています。
22 ENABLED が、現在 DISABLING または UNENABLING の状態のファイルに対して指定されていました。
23 EXCLUSIVE には無効な CVDA 値があります。
24 EXCLUSIVE が非 BDAM ファイルに対して指定されています。
28 OPEN、CLOSE、ENABLE、または DISABLE が指定されましたが、出口点 XFCSREQ で実行中の出口プログラムが CICS にコマンドを実行しないように指示しました。
29 TABLE には無効な CVDA 値があります。
30 MAXNUMRECS 値が範囲外です。

31 TABLE オプションは BDAM ファイルでは無効です (VSAM またはデータ・テーブルでなければなりません)。

32 TABLE オプションは REUSE オプションで定義されたファイルでは無効です。

33 TABLE オプションは UNBLOCKED として定義されたファイルでは無効です。

34 MAXNUMRECS オプションは BDAM ファイルでは無効です (VSAM またはデータ・テーブルでなければなりません)。

35 MAXNUMRECS オプションは REUSE オプションで定義されたファイルでは無効です。

36 MAXNUMRECS オプションは UNBLOCKED として定義されたファイルでは無効です。

37 TABLE オプションは LSRPOOL=0 が指定されているときには無効です。

39 USERTABLE オプションはレコード・フォーマットが可変でないときには無効です。

40 CONSISTENT または REPEATABLE が RLS モードでアクセスされないファイルに対して指定されています。

41 このファイルには未解決の据え置き作業があり、その作業には保持されたまたは反復可能な読み取りロックがあるので、このファイルに対して DSNB を切断することはできず、新しい DSNB を接続することもできません。この場合、このファイルに対する変更を行った 1 つ以上のシャント済み UOW が完了を待っています。

42 このファイルには未解決の据え置き作業があり、その作業には保持されたまたは反復可能な読み取りロックがあるので、 SET FILE 要求を満たすことができません。この場合、このファイルに対する変更を行った 1 つ以上のシャント済み UOW が完了を待っています。ファイルに処理中の据え置き作業があるときに有効なオプションは、ファイルの状態を変更するものだけです。ファイルの状態変更は、据え置き作業を完了させるために必要な場合があるので許可されています。

43 このファイルには未解決の据え置き作業があり、その作業には保持されたまたは反復可能な読み取りロックがあるので、ファイルを廃棄できません。この場合、完了を待っている 1 つ以上のシャント済み UOW が、このファイルに対する変更を行いました。

44 ファイルが SET DSNAME UNAVAILABLE コマンドによって使用不可のマークを付けられたデータ・セットを参照しているので、ファイル・オープン要求を満たすことができません。

45 ファイルが SET DSNAME QUIESCED コマンドによって静止させられた RLS モードのデータ・セットを参照しているので、ファイル・オープン要求を満たすことができません。

46 ファイルが DFSMSdss で開始された非 BWO バックアップによってコピーされている RLS モードのデータ・セットを参照しているので、ファイル・オープン要求を満たすことができません。

47 ファイルが SET DSNAME QUIESCED コマンドによって静止処理中の RLS モードのデータ・セットを参照しているので、ファイル・オープン要求を満たすことができません。

48 例えば CICS VSAM Recovery ジョブが実行中であるなど、リカバリーが保留中または処理中であることが ICF カタログ・エントリーによっ

て示されているデータ・セットをファイルが参照しているので、ファイル・オープン要求を満たすことができません。

49 無効な CVDA が READINTEG オプションに指定されました。

50 RLS ファイルをオープンしようとしましたが、VSAM のレベルが RLS をサポートしていないかまたはシステム初期化の際に RLS=NO が指定されたために、RLS はサポートされていません。

51 無効な CVDA が RLSACCESS オプションに指定されました。

52 BDAM データ・セットに対して RLS アクセスを指定しようとしました。

53 RLS アクセスの定義されたファイルに対して CICS 保守のデータ・テーブルを指定しようとしました。

54 以下の理由のいずれかのために、ファイル・オープン要求を満たすことができません。

- ファイルを RLS モードでオープンしようとしていますが、この領域には参照先のデータ・セットに対して非 RLS モードでオープンされている他のファイルがあります。
- ファイルを非 RLS モードでオープンしようとしていますが、この領域には参照先のデータ・セットに対して RLS モードでオープンされている他のファイルがあります。
- ファイルを非 RLS モードでオープンしようとしていますが、この領域には参照先のデータ・セットに対する未解決の RLS リカバリー作業があります。

55 LOADTYPE には無効な CVDA 値があります。

56 UPDATEMODEL には無効な CVDA 値があります。

57 EMPTYSTATUS の CVDA 値がカップリング・ファシリティー・データ・テーブルで許可されません。カップリング・ファシリティー・データ・テーブルでは、EMPTYSTATUS は NOEMPTYREQ でなければなりません。

58 カップリング・ファシリティー・データ・テーブルを参照するファイルに CFDTPOOL が指定されていません。

59 カップリング・ファシリティー・データ・テーブルを参照し、LOAD=NO を指定するファイルに、KEYLENGTH が指定されていません。

60 無効な KEYLENGTH が指定されています。カップリング・ファシリティー・データ・テーブルでは、KEYLENGTH は 1 から 16 の範囲でなければなりません。

61 LOAD=NO を指定するカップリング・ファシリティー・データ・テーブルを参照するファイルに、RECORDSIZE が指定されていません。

62 無効な RECORDSIZE が指定されています。RECORDSIZE は 0 から 32 767 バイトの範囲でなければなりません。

63 カップリング・ファシリティー・データ・テーブルを参照するファイルに OPEN が指定されていますが、以下の理由のいずれかのために OPEN 処理が失敗しました。

- ファイル属性がカップリング・ファシリティー・データ・テーブルの作成時に指定されたものと一致しません。
- サポートされる最大値を超過したキー長またはレコード・サイズが指定されています。

64 カップリング・ファシリティー・データ・テーブルを参照するファイルに OPEN が指定されていますが、サーバーが使用不可なので OPEN 処理が失敗しました。

65 無効な CFDTPOOL 名が指定されています。

66 無効な TABLE 名が指定されています。

67 CONTENTION の UPDATEMODEL がリカバリー可能なカップリング・ファシリティー・データ・テーブルに指定されています。リカバリー可能なカップリング・ファシリティー・データ・テーブルでは、更新モデルが LOCKING の状態でなければなりません。

69 DSNAME は無効です。

70 LSRPOOLNUM(0) が CICS 保守または USER 保守のデータ・テーブルに指定されました。

300 BUNDLE リソースによってインストールされたリソースには無効な操作が指定されました。

IOERR

RESP2 値は以下のとおりです。

0 コマンドは、要求がリソース管理システムに渡される前に失敗しました。

***** OPEN はファイル制御の外部で失敗しました。 RESP2 フィールドには、外部リソース管理システムによってファイル制御に戻された応答が含まれています。

***** CLOSE はファイル制御の外部で失敗しました。 RESP2 フィールドには、外部リソース管理システムによってファイル制御に戻された応答が含まれています。

IOERR のすべての事例で、CICS コンソールを調べてエラーに関する詳細情報を提供するメッセージを探してください。リソース管理システムは、VSAM、BDAM、DFSMS などのカタログ管理システム、または CFDT や SDT (カップリング・ファシリティー・データ・テーブルや共用データ・テーブル) などの外部リソース管理システムを参照します。

RESP2 値を表示する方法によっては、ファイル制御に戻される応答に相当する 10 進数が含まれる場合もあることに注意してください。

NOTAUTH

RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

101 発行中のタスクに関連付けられているユーザーには、このコマンドが要求する方法でこの特定のリソースにアクセスする権限がありません。

例

```
EXEC CICS SET FILE ('FILE12')
             WAIT
             CLOSED
             DISABLED
             DELETABLE
             LSRPOOLNUM(7)
```

```
            STRINGS(50)
EXEC CICS SET FILE ('FILE12')
            OPEN
            ENABLED
```

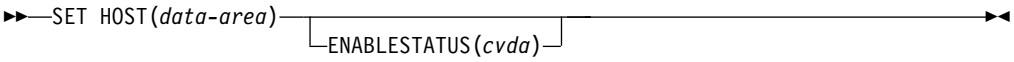
最初のコマンドの WAIT オプションは、ファイルをクローズする前に FILE12 上のすべてのアクティビティーが静止するようにして、この要求が開始された後でのみ制御を発行元のアプリケーションに戻すように CICS に指示します。ファイルが CLOSED になると、それは DISABLED になります。削除コマンドは許可され、LSRPOOL 番号 7 はファイルに関連付けられ、最大 50 の並行操作が許可されます。

2 つのコマンドの 2 番目は、ファイルをオープンしてから使用可能にします。ファイルを CLOSED および DISABLED に設定すると、別のタスクがファイルを削除 (DISCARD) または再インストールできるようになります。そのため、別のタスクがファイルを削除できるのは、最初の SET コマンドの後で 2 番目の SET コマンドの前になります。

SET HOST

仮想ホストの状況を、使用可能または使用不可に設定します。

SET HOST



条件: NOTAUTH、NOTFND

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

SET HOST コマンドを使用して、仮想ホストの状況を使用可能または使用不可に設定します。仮想ホストを使用不可に設定すると、その仮想ホストを構成しているすべての URIMAP リソースに、アプリケーションからアクセスできなくなります。仮想ホストを使用不可に設定した場合、CICS は 503 (Service Unavailable (サービス利用不可)) 状況コードで HTTP 応答を Web クライアントに戻します。

INQUIRE URIMAP コマンドを使用して個々の URIMAP リソースを照会する場合、仮想ホストが使用不可であることを示すために、特殊な状況 DISABLEDHOST が戻されます。URIMAP リソースの使用不可状況を個々に変更する必要はありません。**SET HOST** コマンドを使用すると、仮想ホストを構成するすべての URIMAP リソースを再び使用可能にすることができます。

URIMAP 定義が DISABLEDHOST 状況である場合は、破棄できません。定義を破棄する必要がある場合は、**SET URIMAP** コマンドを使用して、リソースを破棄する前に使用不可にしてください。URIMAP リソースが CICS バンドルに含まれている場合は、**SET BUNDLE** コマンドを使用してください。

オプション

HOST(*data-area*)
仮想ホストの名前を指定します。それぞれの仮想ホスト名は、仮想ホストを構成する URIMAP 定義で指定されているホスト名から取られます。 例えば、CICS 領域に、ホスト名 www.example.com が指定された URIMAP 定義が含まれる場合、 CICS は www.example.com という名前で仮想ホストを作成します。
URIMAP 定義のホスト名は最大 120 文字まで可能です。

ENABLESTATUS(*cvda*)
CVDA 値は次のとおりです。

ENABLED
仮想ホストを構成する URIMAP 定義にアプリケーションはアクセスできます。

DISABLED
仮想ホストを構成する URIMAP 定義にアプリケーションはアクセスできません。

条件

INVREQ
RESP2 値:

10
指定されたホスト名に、許可されていない文字が含まれているか、またはブランクです。

NOTAUTH
RESP2 の値は次のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

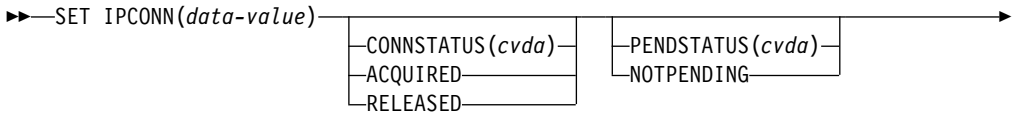
NOTFND
RESP2 の値は次のとおりです。

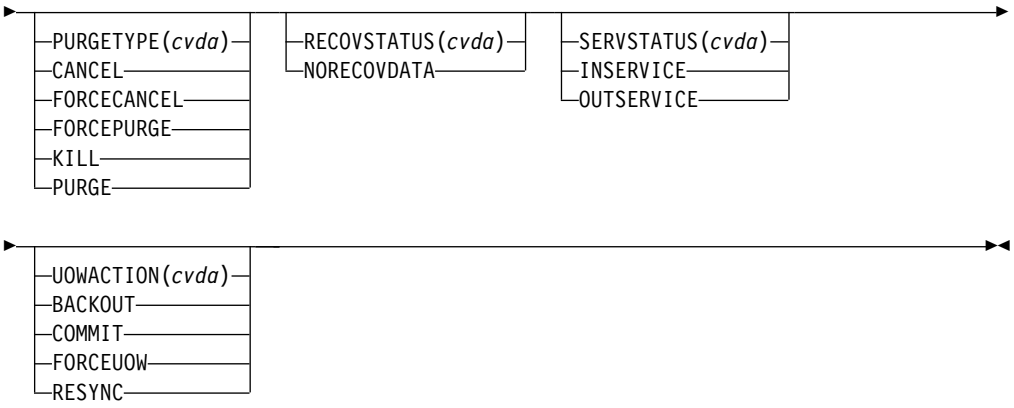
5 仮想ホストが見つかりません。

SET IPCONN

IPIC 接続 (*IPCONN* とも呼ばれる) の属性の変更、または未解決の AID の取り消しを行います。

SET IPCONN





状態:INVREQ、IOERR、NORMAL、NOTAUTH、SYSIDERR

CVDA の使用の詳細については、CICS-value data areas (CVDAs)を参照してください。

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

SET IPCONN コマンドを使用すると、IPCONN を定義する属性の一部を変更できます。必須の操作がスケジュールに入れられると、発行元のプログラムに制御が戻ります。操作を開始するには、CICS に制御を渡す必要があります。

注: SET IPCONN は、 IPIC 接続 (*IPCONN* とも呼ばれる) の属性を変更するために使用します。 704 ページの『SET CONNECTION』も参照してください。SET CONNECTION コマンドは、MRO および SNA を介した ISC 接続の属性を変更するために使用します。

各種の相互通信接続について詳しくは、相互通信方式を参照してください。

オプション

CONNSTATUS(*cvda*)
IPCONN 名によって表されるシステムとのセッションを獲得するか、解放するかを指定します。IPCONN を ACQUIRED と OUTSERVICE の両方にすることはできません。

CVDA 値は以下のとおりです。

ACQUIRED
セッションは獲得されます。

RELEASED
セッションは解放されます。

IPCONN の管理について詳しくは、相互通信入門を参照してください。

IPCONN(*data-value*)
変更する IPCONN の名前を 8 文字のフィールドとして指定します。これは、IPCONN コマンドの IPCONN オプションで指定されているリモート・システムまたは領域の名前です。

PENDSTATUS(*cvda*)

初期始動を実行した CICS Transaction Server for z/OS パートナーへの IPCONN の場合に、通常の再同期プロセスが指定変更されることを指定します。

CVDA 値は以下のとおりです。

NOTPENDING

パートナーの初期始動前に IPCONN により作成されたすべての未確定作業単位を、TRANSACTION 定義の ACTION オプションに指定されたとおりに、強制的にコミットまたはバックアウトします。さらに、パートナーの初期始動前に作成された、接続が未解決の再同期 (FORGET 待機 UOW リンク) には FORGET が実行されます。

PENDING 条件は、パートナーとのログ名にミスマッチがあった接続に関するリカバリー情報 (パートナーについて記憶されている中断された UOW または決定) が存在することを示します。これは、パートナーが初期始動を実行しており、リカバリー・プロトコルがパートナー側でのログ・データの消失により破壊されていることを示します。

CICS がパートナーと接続して、それから新しいログ名を受け取るまでは、接続を NOTPENDING 状態 (未確定を強制して NOFORGET UOW を消去する) に設定することはできません。

接続全体の決定は忘れられることがありますが、そのことは UOW に関係する他の接続の決定のメモリーには影響しません。

注**:** SET IPCONN NOTPENDING、SET IPCONN NORECOVDATA、および SET IPCONN UOWACTION は相互に排他的です。使用するコマンドについての情報は、UOWACTION オプションの説明の後にある注を参照してください。

交換ログ名機能と再同期機能は、Troubleshooting intersystem problemsで説明されています。

PURGETYPE(*cvda*)

関連するトランザクションをパージする方法を指定します。CVDA 値は以下のとおりです。

CANCEL

この IPCONN を使用するようにトランザクションによってキューに入れられた要求が取り消されることを指定します。

この IPCONN 全体での通信を管理する CICS システム・トランザクションによってこの IPCONN を使用するようにキューに入れられた要求は、FORCECANCEL を指定しない限り、パージされません。

メッセージ DFHISnnnn が CSMT に書き込まれ、この IPCONN を使用するようにキューに入れられた要求のうちの削除された数と残っている数が示されます。

この IPCONN を使用するようにキューに入れられた要求が CEMT SET IPCONN コマンドの CANCEL オプションを使用して削除される度に、「QUEUED REQUESTS CANCELED」メッセージが CEMT パネルに表示されます。

FORCECANCEL
この IPCONN を使用するようにトランザクションによってキューに入れられたすべての要求が取り消されることを指定します。取り消される要求には、この IPCONN 全体での通信を管理する CICS システム・トランザクションによる要求も含まれます。これは予測不能な結果になる場合があり、例外的な状況でのみ使用する必要があります。

この IPCONN を使用するようにキューに入れられた要求が CEMT SET IPCONN コマンドの FORCECANCEL オプションを使用して削除される度に、「QUEUED REQUESTS CANCELED」メッセージが CEMT パネルに表示されます。

FORCEPURGE
接続したシステムへのセッションで実行しているすべてのトランザクションが、即時に異常終了されることを指定します。これは予測不能な結果になる場合があり、例外的な状況でのみ使用する必要があります。

いくつかの極端なケースでは (バックアウト処理中にエラーが発生した場合など)、CICS が異常終了することがあります。

KILL タスクが終了されることを指定します。システムおよびデータ保全性は保証されません。KILL オプションは、PURGE および FORCEPURGE オプションを拡張します。このオプションは、タスクの PURGE または FORCEPURGE を試みた後で初めて使用する必要があります。KILL オプションはどのような種類の保全性も保証しませんが、ある状況では、停止された領域が処理を継続できるように、ユーザーがその領域を解放することを許可します。場合によっては (例えば、タスクがバックアウト処理中に kill される場合)、CICS は異常終了します。

PURGE
接続されたシステムで実行しているトランザクションが異常終了されることを指定します。トランザクションが終了するのは、システム保全性とデータ保全性を維持できる場合のみです。トランザクションの定義で SPURGE=NO が指定されている場合、トランザクションはパージされません。

RECOVSTATUS(*cvda*)
通常の再同期プロセスを指定変更することを指定します。 CVDA 値は以下のとおりです。

NORECOVDATA
すべての未確定作業単位を (トランザクション定義に従って) 強制し、IPCONN に未解決のすべての再同期を対象とし、パートナー・システムから以前に受け取ったログ名を消去します。接続の状態はリセットされます。

重要: SET IPCONN NORECOVDATA は例外的な状況でのみ使用してください。これはリカバリー情報を消去し、リモート・システム上のリソースを更新した作業単位のデータ保全性を損なう場合があります。

これを使用する必要がある状況の例としては、次の場合があります。

- IPCONN を破棄する必要があり、パートナー・システムとの静止プロトコルを完了させることができない。

- 操作エラーまたは論理エラーにより接続のログ名のミスマッチになる。接続状態をリセットして、交換ログ名プロセスを完了できるようにする必要があります。

注: SET IPCONN NORECOVDATA、SET IPCONN NOTPENDING、および SET IPCONN UOWACTION は相互に排他的です。

SERVSTATUS(*cvda***)**

IPCONN をサービス中にするか、それともサービス休止中にするかを指定します。CVDA 値は以下のとおりです。

INSERVICE

IPCONN はサービス中になります。これにより、この IPCONN は獲得可能になります。

OUTSERVICE

IPCONN はサービス休止になっています。つまり、使用可能ではありません。

次のようになります。

- 接続が現在 ACQUIRED である場合に OUTSERVICE を指定すると、コマンドは INVREQ および RESP2 2 で失敗します。OUTSERVICE を設定する前に接続に対して RELEASE を実行する必要があります。
- 接続が現在 RELEASED である場合、接続の状況は OUTSERVICE に設定され、再度 INSERVICE になるまで使用できません。

UOWACTION(*cvda***)**

通常の再同期プロセスの一部が指定変更されることを指定します。IPCONN 障害のために、未確定の作業単位に関する決定が行われます。しかし、次に接続が獲得される際に、決定は記録され、データの不整合が報告されます。

この操作は、UOW の状態設定と同期されます。つまり、SET IPCONN UOWACTION の後に INQUIRE UOW を実行すると、新しい UOW 状態が戻されます。CVDA 値は以下のとおりです。

BACKOUT

この IPCONN の障害のために中断した UOW はすべてバックアウトされます。

COMMIT

この IPCONN の障害のために中断した UOW はすべてコミットされます。

FORCE

この IPCONN の障害のために中断したすべての UOW は、TRANSACTION 定義の ACTION オプションでの指定どおりに、強制的に BACKOUT または COMMIT されます。

RESYNC

この IPCONN の障害のために中断した UOW はすべて再試行されます (つまり、この接続に関する交換ログ名の再同期が試行されます)。接

続が獲得されたか、または UOW の除外が解消したときに、このプロセスは通常は自動的に開始されるはずです。

注:

1. SET IPCONN UOWACTION は、IPCONN の障害のために未確定で失敗したすべての作業単位を再開します。 SET IPCONN FORCE を発行する前に、SET UOW コマンドを使用して、未確定の作業単位ごとにデフォルトを受け入れずに明示的にコミットするかバックアウトするよう指定することもできます。ローカル・プロシージャーは、データの重要性と、INQUIRE UOW、INQUIRE UOWENQ、および INQUIRE UOWLINK コマンドの使用方式を判別し、正しいアクションを確立します。
2. 中断した作業単位が関係している場合、SET IPCONN UOWACTION、SET IPCONN NOTPENDING、および SET IPCONN NORECOVDATA のうち 1 つのみ使用できます。SET IPCONN NORECOVDATA は、例外的な状況でのみ使用する必要があります。
3. IPCONN の障害により未確定になったすべての作業単位を強制的に同じ方向で処理するには、SET IPCONN COMMIT または SET IPCONN BACKOUT を使用してください。
4. SET IPCONN UOWACTION および SET UOW UOWACTION コマンドはどちらも再同期情報をクリアしません。クリアするには、SET IPCONN NOTPENDING または SET IPCONN NORECOVDATA を使用しなければなりません。
5. SET IPCONN NOTPENDING または SET IPCONN NORECOVDATA を発行する前に SET UOW UOWACTION コマンドを発行できます。

条件

INVREQ

RESP2 値は以下のとおりです。

2 以下のいずれかの方法で、ACQUIRED および OUTSERVICE が不整合な状態で指定されています。
1. ACQUIRED と OUTSERVICE が共に指定されている
2. OUTSERVICE IPCONN リソースに ACQUIRED が指定されている
3. ACQUIRED IPCONN リソースに関する同一のコマンド内で RELEASED と OUTSERVICE が指定されている
4. RELEASED でない IPCONN リソースに OUTSERVICE が指定されている

3 CONNSTATUS の CVDA 値が無効です。

4 SERVSTATUS の CVDA 値が無効です。

7 PURGETYPE の CVDA 値が無効です。

8 PENDSTATUS の CVDA 値が無効です。

18 交換ログ名処理が正常に完了した IPCONN には NOTPENDING を設定できません。

19 FREEING 状態の場合、CONNSTATUS を ACQUIRED に設定できません。

20 片方向 IPCONN を獲得しようとしました。

21 BACKOUT または FORCE が指定されましたが、正常に実行されませんでした。この IPCONN に関する UOW の一部は中断されたままになっています。

22 CANCEL または FORCECANCEL オプションに他の SET パラメーターが組み込まれました。

25 IPCONN は依然としてサービス中です。

26 RECOVSTATUS に値 NORECOVDATA がありません。

27 UOWACTION オプションに指定された CVDA 値が無効です。

45 サービス中の IPCONN には NORECOVDATA を設定できません。

IOERR

RESP2 値は以下のとおりです。

10 予期しないエラーです。

NORMAL

RESP2 値は以下のとおりです。

58 AID は正常に取り消されました。

59 AID は取り消されませんでした。

NOTAUTH

RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

SYSIDERR

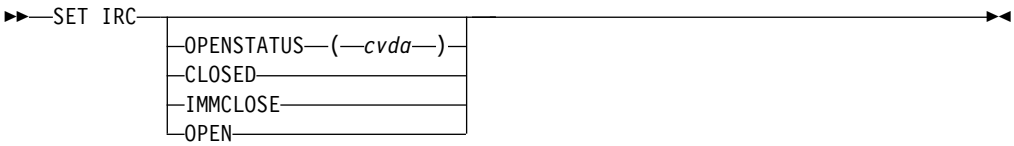
RESP2 値は以下のとおりです。

9 名前指定された IPCONN が見つかりませんでした。

SET IRC

領域間通信の開閉を行います。

SET IRC



条件: INVREQ、IOERR、NOSTG、NOTAUTH

CVDA の使用について詳しくは、CICS-value data areas (CVDAs)を参照してください。

説明

SET IRC コマンドを使用すると、CICS 領域で領域間通信 (IRC) を開始 (オープン) または停止 (クローズ) することができます。ご使用の領域で、複数領域操作 (MRO) 接続を使用して別の CICS 領域と通信したり、非 CICS クライアント領域

で、外部 CICS インターフェース (EXCI) 接続を介して CICS を使用するには、IRC がオープンしていなければなりません。

このタイプの通信のサポートは、CICS 始動時に (ISC 初期設定オプションで) 指定する必要があります。少なくとも 1 つの CONNECTION リソースが、MRO を示す ACCESSMETHOD 値を使用して定義されなければなりません。そうしないと、IRC をオープンしようとするときに例外条件が発生します。

オプション

OPENSTATUS(*cvda*)

IRC 通信を開始 (オープン) するか、停止 (クローズ) するかを指定します。また、CICS で IRC を停止する必要がある場合は、MRO を使用するタスクが最初に完了できるようにするかどうかを指定します。CVDA 値は次のとおりです。

CLOSED

IRC が停止します。現在オープンしている場合、CICS はすべての MRO アクティビティーを静止させてから、IRC をクローズします。CICS 間 MRO セッションおよび EXCI セッションを使用するタスクは、クローズする前に完了することができます。ただし、IRC を必要とする新規タスクは開始されません。CICS

IMMCLOSE

IRC が停止します。現在オープンしている場合、CICS は、IRC を使用するすべてのタスクを即時に異常終了させてから、IRC をクローズします。

OPEN

IRC が開始します。現在クローズされている場合、CICS がそれをオープンします。

条件

INVREQ

RESP2 値は以下のとおりです。

1 IRC に必要なプログラム DFHCRSP が使用不可です。

2 OPENSTATUS には無効な CVDA 値があります。

4 CICS は、IRC サポートなし (ISC=NO) で初期化されました。

5 接続が定義されていません。

6 この CICS の z/OS Communications Server アプリケーション ID はブランクです。IRC では、非ブランクのアプリケーション ID が必要です。

7 IRC を使用する別の CICS に、これと同じ z/OS Communications Server アプリケーション ID があります。固有の名前が必要です。

8 IRC は、すでに最大ログオン数に達したため、この CICS のオープンを拒否しました。

18 IRC サポート (DFHIRP モジュール) が、この CICS システムで必要なレベル未満です。

IOERR

RESP2 値は以下のとおりです。

12 IRC の初期化が失敗しました。

13 IRC へのログオンが失敗しました。

14 ノード・エラー・トランザクション CSNC に接続しようとして失敗しました。

15 IRC のクローズ中にエラーが発生しました

NOSTG

RESP2 値は以下のとおりです。

9 CICS ストレージが要求に対して不十分です。

10 MVS ストレージが不十分です (SVC ブロック要求が拒否されました)。

11 MVS ストレージが不十分です (SUBSYS ブロック要求が拒否されました)。

NOTAUTH

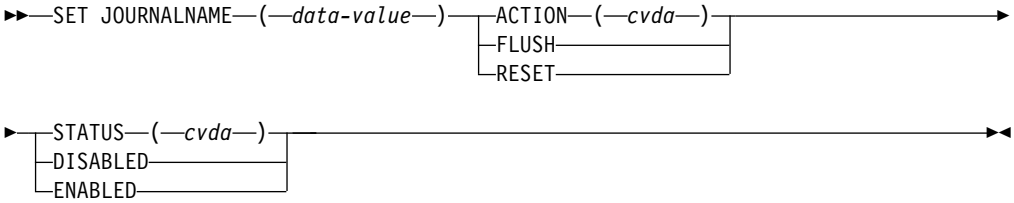
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

SET JOURNALNAME

CICS ユーザー・ジャーナルを使用可能または使用不可に設定します。

SET JOURNALNAME



条件: INVREQ、IOERR、JIDERR、NOTAUTH

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

SET JOURNALNAME コマンドを使用すると、CICS ユーザー・ジャーナルを使用可能または使用不可に設定できます。

SET JOURNALNAME は、ファイルが次回オープンされるまで、順方向リカバリー・ログとして使用されるジャーナル、または VSAM ファイルの自動ジャーナルには無効です。これは、システム・ログには影響を与えません。

現在 CICS に認識されていないジャーナル名に対して SET JOURNALNAME を使用できます。CICS は、指定されたジャーナルのエントリーを動的に作成し、必要に応じて、一致する JOURNALMODEL 定義を使用してそれを MVS システム・ロガーに対して定義します。

CICS が認識していないジャーナル名に対して SET JOURNALNAME コマンドを発行できると、対応するジャーナルが最初に参照する前にログ・ストリーム接続処理を実行できます。例えば、最初の参照で通常発生する遅延を避けるために、初期設定時に PLT プログラム中にこれを行うことができます。

オプション

ACTION(*cvda***)**
指定されたジャーナル名に対して CICS が実行するアクションを指定します。CVDA 値は次のとおりです。

FLUSH
ログ・バッファーはログ・ストリームに書き出されますが、ジャーナルはクローズされません。

このオプションを使用すると、バッチ・ユーティリティーを使用してストリームを処理する前に、現在のすべてのレコードがログ・ストリームに確実に書き出されます。

自動ジャーナルと順方向リカバリー・ログの場合、ファイルがオープンしていれば FLUSH が強制されます (ファイルが次回オープンするまで FLUSH は待機しません)。

RESET
ジャーナルはログ・ストリームから切断されますが、ジャーナル書き込みによって再オープンできます。

注**:** ACTION と STATUS は相互に排他的なオプションです。 ACTION を指定する場合、同時に STATUS を指定することはできません。

JOURNALNAME(*data-value***)**
ジャーナルの名前を指定します。

1 から 99 の範囲の数値 ID で定義されたジャーナルを変更するには、ジャーナル名 DFHJ*nn* を指定します。ここで、*nn* はジャーナル番号です。

システム・ログの状況を変更できないため、DFHLOG も DFHSHUNT も指定できません。

STATUS(*cvda***)**
ジャーナルの新規状況を指定します。CVDA 値は以下のとおりです。

DISABLED
ジャーナルはフラッシュされてから、使用不可に設定されます。SET JOURNALNAME コマンドの STATUS(ENABLED) または ACTION(RESET) オプションによって再度使用可能になるまで使用できません。

ENABLED
ジャーナルはオープンし、使用可能です。

注: STATUS と ACTION は相互に排他的なオプションです。 STATUS を指定する場合、同時に ACTION を指定することはできません。

条件

INVREQ

RESP2 値は以下のとおりです。

2 この要求は無効です。

3 システム・ログを変更できません。

4 ACTION オプションに無効な CVDA 値があります。

5 STATUS オプションに無効な CVDA 値があります。

7 ACTION オプションは、現在ログ・ストリームに接続されていないジャーナルに対して FLUSH または RESET を指定しています。

IOERR

RESP2 値は以下のとおりです。

6 ジャーナル名に関連付けられているログ・ストリームに接続できないか、またはジャーナルをオープンできないか、またはリカバリー不能エラーがログ・ストリームへのログ・バッファーのフラッシュ中に発生しました。

JIDERR

RESP2 値は以下のとおりです。

1 指定されたジャーナル名が見つかりませんでした。

2 ジャーナル名に関連したログ・ストリームを定義しようとしたときにエラーが発生したか、ジャーナル名が誤って指定されています。

3 指定されたジャーナル名が、別の MVS イメージの CICS 領域が現在接続されている DASD 専用ログ・ストリームを指している。

NOTAUTH

RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

101 発行中のタスクに関連付けられているユーザーには、このコマンドが要求する方法でこの特定のリソースにアクセスする権限がありません。

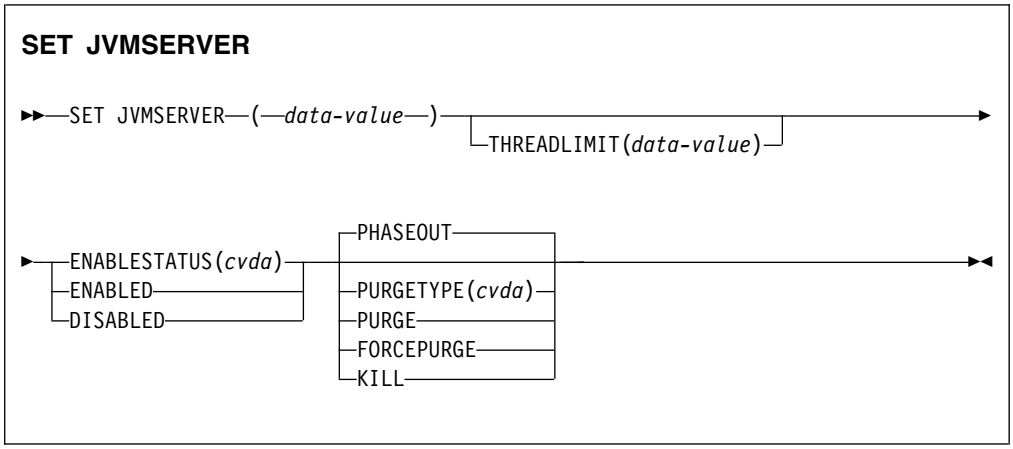
SET JOURNALNUM

ジャーナルの OPENSTATUS 設定を変更するために、サポートされているすべてのリリースでこのコマンドは SET JOURNALNAME コマンドで置き換えられます。

SET JOURNALNUM のすべてのオプションは廃止され、以前のリリースとの互換性のために CICS が提供する唯一のランタイム・サポートは、JIDERR 例外条件を戻すことです。変換プログラムはこのコマンドを変換しますが、警告メッセージを出します。

SET JVMSERVER

インストール済みの JVMSERVER リソースの状況を変更します。



条件: INVREQ、NORMAL、NOTAUTH、NOTFND

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

SET JVMSERVER コマンドは JVM サーバーを有効化、無効化、および変更します。

CICS バンドル内で定義され、インストールされた JVMSERVER リソースの状況を変更するには、CICS バンドルを使用可能または使用不可にします。 CICS バンドルを使用不可にしたにもかかわらず、JVM サーバーで引き続き実行しているタスクをパージする必要がある場合、タスクをパージするための PURGE、FORCEPURGE、または KILL オプションを使用して、動的に生成された JVMSERVER リソースに対して SET JVMSERVER DISABLED コマンドを発行できます。

CICS バンドルで定義され、インストールされた JVMSERVER リソースの属性に変更を加えるには、CICS Explorer のリソース・エディターを使用することにより、CICS バンドル内の定義に変更を加え、CICS バンドルまたはそのデプロイ時に使用されたアプリケーションの新しいバージョンをインストールします。定義を更新するには、古いバージョンの CICS バンドルを新しいもので置き換えます。その手順については、CICS Explorer 製品資料内の『Working with bundles』を参照してください。

- CICS バンドルが単体としてデプロイされた場合、またはプラットフォームと一緒にデプロイされた場合は、個別に更新できます。
- CICS バンドルがアプリケーションの一部としてデプロイされた場合、またはアプリケーション・バインディングと一緒にデプロイされた場合は、アプリケーション全体を更新してください。

動的に生成されたリソースの属性を変更するために SET JVMSERVER コマンドを使用することは可能ですが、変更内容はカタログされず、CICS のウォーム・スタートの後に回復されません。

オプション

ENABLESTATUS(*cvda*)

JVMSERVER リソースの状況を設定します。

ENABLED

JVMSERVER リソースを使用可能にします。CICS は、Language Environment エンクレーブを作成し、JVM を開始し、JVMSERVER を使用可能にするために必要な処理を実行します。JVMSERVER が使用可能になってから、アプリケーションが完全に要求を処理できるようになるまでに、さらに時間がかかることがあります。

DISABLED

JVMSERVER リソースを使用不可にします。CICS は、JVM サーバーに関連したタスクの処理を完了してから、JVM と Language Environment エンクレーブを停止します。

JVMSERVER(*data-value*)

変更しようとする JVMSERVER リソースの 8 文字の名前を指定します。

PURGETYPE(*cvda*)

JVM サーバーに関連付けられたタスクが、リソースを無効にするときにどのようにパージされるか指定します。値が設定されていない場合、 CICS は PHASEOUT オプションを使用します。

FORCEPURGE

FORCEPURGE を発行する前に、PURGE を発行する必要があります。

JVM サーバーで実行中のタスクが強制的にパージされます。JVM で実行されている CICS スレッドはすべて停止します。残りのタスクまたは CICS スレッドがある場合、JVMSERVER リソースは BEING DISABLED 状態のままです。データ保全性は保証されません。

KILL KILL を発行する前に、FORCEPURGE を発行する必要があります。

JVM サーバーで実行中のタスクが終了します。JVM で実行されている CICS スレッドはすべて停止します。JVMSERVER リソースは DISABLED 状態に入り、すべての作業は終了します。ただし、CICS が不安定状態のままである可能性があります。

システムおよびデータ保全性は保証されていません。CICS が異常終了する可能性があります。

JVMSERVER KILL の後に CICS 領域を再始動することが最良であると考えられます。

PHASEOUT

JVM サーバーで実行中のタスクはその完了まで続きますが、新しい作業は開始されません。すべてのタスクが終了すると、JVMSERVER リソースは DISABLED 状態に入ります。PHASEOUT はデフォルト値です。JVM サーバーが Liberty JVM サーバーである場合、Liberty は静止することが要求され、これには数分かかる可能性があります。OSGi JVM サーバーより長時間かかる場合もあります。

PURGE

PURGE を発行する前に、PHASEOUT を発行する必要があります。

JVM サーバーで実行中のタスクがパージされます。JVM で実行されている CICS スレッドはすべて停止します。CICS は、システムとデータ保全性を維持できる場合のみ、タスクをパージします。残りのタスクまたは CICS スレッドがある場合、JVMSERVER リソースは BEING DISABLED 状態のままです。

THREADLIMIT(*data-value*)

JVM で許可される CICS スレッドの最大数を設定します。各 CICS スレッドは T8 TCB を使用して接続されます。有効な範囲は 1 から 256 です。 CICS 領域に最大数 2000 を超える値を指定した場合、使用可能および使用不可状態のすべての JVMSERVER リソースを考慮に入れて、THREADLIMIT は残りの CICS スレッドに対して最大 2000 に設定されます。

条件

INVREQ

RESP2 値:

1 要求された最大数を満たすために利用可能な CICS スレッドが不足しています。

2 ENABLESTATUS 値が無効です。

3 THREADLIMIT 値は 0 であるか、または 256 より大きいため、無効です。

4 言語環境エンクレーブは正常に作成されませんでした。

7 JVMSERVER は使用可能状態にあるため、使用不可にできません。

8 FORCEPURGE オプションを使用する前に、JVM サーバーを PURGE する必要があります。

9 PURGETYPE オプションに無効な CVDA 値があります。

10 KILL オプションを使用する前に、JVM サーバーを FORCEPURGE する必要があります。

11 PURGE オプションを使用する前に、JVM サーバーを PHASEOUT する必要があります。

300 BUNDLE リソースによってインストールされたリソースには無効な操作が指定されました。

301 バンドルでインストールされた JVMSERVER で PURGE、FORCEPURGE、または KILL を発行できるのは、親 BUNDLE リソースを DISABLED に設定することによって最初に PHASEOUT が暗黙的に発行された場合のみです。BUNDLE が使用不可に設定されたにもかかわらず、作業を静止するために予期した時間よりも長く JVMSERVER が「being disabled 」状態のままである場合、または作業が静止するまで待機したくない場合は、JVMSERVER リソースに対して PURGE 要求を発行することを検討してください。

NORMAL

RESP2 値:

1 使用可能な CICS スレッドの数は、要求された THREADLIMIT 値より小さくなっています。

NOTAUTH

RESP2 値:

100 発行中のタスクに関連付けられているユーザーは、このコマンドの使用が許可されていません。

101

発行中のタスクに関連付けられているユーザーは、この JVM サーバーへのアクセスが許可されていません。

NOTFND

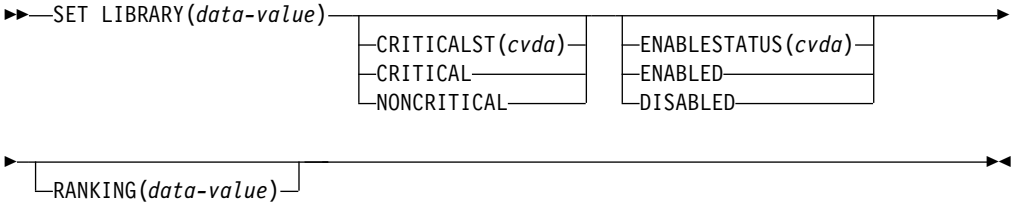
RESP2 値:

3 JVMSERVER リソースが見つかりませんでした。

SET LIBRARY

LIBRARY リソースの属性を変更します。

SET LIBRARY



条件: INVREQ、NOTAUTH、NOTFIND

CVDA の使用の詳細については、CICS-value data areas (CVDAs)を参照してください。

説明

SET LIBRARY コマンドを使用すると、CICS システムにインストールされた特定の LIBRARY リソースの属性のいくつかを変更できます。

CICS バンドルに定義およびインストールされている LIBRARY リソースに SET LIBRARY コマンドを使用することはできません。 CICS バンドルによってインストールされている、動的に生成された LIBRARY リソースを変更しようとすると、RESP2 値が 300 の INVREQ 応答が発行されます。

- 動的に生成された LIBRARY リソースの状況は、インストール元の BUNDLE リソースを使用可能にしたり使用不可にすることで制御できます。
- 動的に生成された LIBRARY リソースの定義を変更するには、CICS Explorer のリソース・エディターを使用できます。定義を更新するには、古いバージョンの CICS バンドルを新しいもので置き換えます。その手順については、CICS Explorer 製品資料内の『Working with bundles』を参照してください。 CICS バンドルが単体としてデプロイされた場合、またはプラットフォームと一緒にデプロイされた場合は、個別に更新できます。 CICS バンドルがアプリケーション

の一部としてデプロイされた場合、またはアプリケーション・バインディングと一緒にデプロイされた場合は、アプリケーション全体を更新してください。

オプション

CRITICALST(*cvda*)
LIBRARY が CICS の始動にとってクリティカルかどうかを指定します。値は、次のコールド・スタートまたは初期始動ではなく、次のウォーム・リスタートまたは緊急時再始動についてのみ設定されます。 CVDA 値は次のとおりです。

CRITICAL
LIBRARY は CICS の始動にとってクリティカルです。 CICS の始動中に何らかの理由で LIBRARY が正常にインストールできない場合は、「GO or CANCEL」メッセージが発行されます。オペレーターは、その重要性を指定変更して CICS の開始を許可するかどうかを決定できます。CICS が続行できる場合には、例えばストレージ不足の状態が原因である場合などのためにインストールがまったく不可能な場合は別として、LIBRARY は DISABLED 状態でインストールされます。

始動を続行するよう応答した場合、LIBRARY は NONCRITICAL として再カタログされません。そのため、今後 LIBRARY が CRITICAL と見なされないようにする場合、クリティカル状況を明示的に NONCRITICAL に設定する必要があります。

NONCRITICAL
LIBRARY は CICS の始動にクリティカルではありません。 CICS の始動時に LIBRARY を正常にインストールできない場合、LIBRARY はインストール済みだが使用不可の状態のままになり、警告メッセージが出されます。しかし、CICS の始動は続行します。

LIBRARY(*data-value*)
属性を変更する LIBRARY の 8 文字の名前を指定します。

ENABLESTATUS(*cvda*)
この LIBRARY を、LIBRARY の検索順序全体に含めるどうかを指定します。CVDA 値は次のとおりです。

DISABLED
この LIBRARY は、LIBRARY 検索順序に含まれません。ロードするプログラム成果物は、この LIBRARY 連結内のデータ・セットからは検索されません。 LIBRARY を DISABLED に設定すると、CICS は LIBRARY 連結をクローズして、 LIBRARY 内のデータ・セットを連結解除および割り振り解除します。

ENABLED
この LIBRARY は、LIBRARY 検索順序に含まれます。この LIBRARY 連結内のデータ・セットで、ロードするプログラム成果物を検索します。

注**:** LIBRARY が使用不可である場合、プログラムのロード元に関する情報は無効になるので、LIBRARY が再度使用可能になるときに、プログラムを再ロードする前に、NEWCOPY または PHASEIN が発行されていなければなりません。

RANKING(*data-value*)

この LIBRARY が他の LIBRARY 連結に対する全体的な LIBRARY 検索順序で表示される場所を指定する 1 から 99 までの 10 進数を含むフルワード・バイナリー値。値が小さい場合、ロードするプログラムを探すために、ランキング番号が大きい他の LIBRARY リソースの前にこの LIBRARY が検索されることを示します。DFHRPL の予約済みランキング値は 10 です。このランキング値は動的 LIBRARY には指定できません。

検索順序の中で LIBRARY は、ランキング順に現れます。 RANKING の等しい LIBRARY が検索順序の中で現れる順序は、ローカル CICS システムにそれらがインストールまたは作成された順序になり、前にインストールされた LIBRARY の方が、後でインストールされたものよりも先に出現します。

同じ SET コマンドで、複数の LIBRARY リソースのランキングを変更してはなりません。いずれかの LIBRARY リソースのランキングを変更すると、他の LIBRARY リソースの変更は抑止されます。

条件

INVREQ

RESP2 値は以下のとおりです。

2 ENABLESTATUS には無効な CVDA 値があります。

3 CRITICALST には無効な CVDA 値があります。

4 RANKING 値は範囲外です (1 より小さいか、99 より大きい)。

5 RANKING 値が予約値 10 です。

6 SET 演算は静的 LIBRARY 連結、DFHRPL には許可されていません。

7 LIBRARY は、以下のいずれかが生じたために使用できません。

- LIBRARY を開くことができなかった。
- LIBRARY 内の 1 つ以上のデータ・セットの割り振りが失敗しました。
- LIBRARY 連結が失敗した。

7 LIBRARY の使用不可操作の際にデータ・セットの連結を解除しようとして障害が発生しました。

8 使用不可操作の際に LIBRARY 内の 1 つ以上のデータ・セットの割り振り解除をしようとして障害が発生しました。

10 使用不可操作の際に LIBRARY を閉じようとして障害が発生しました。

300 BUNDLE リソースによってインストールされたリソースには無効な操作が指定されました。

NOTAUTH

RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

101 CICS 領域には、LIBRARY 連結を構成するいずれかのデータ・セットへの読み取り権限がありません。

NOTFIND

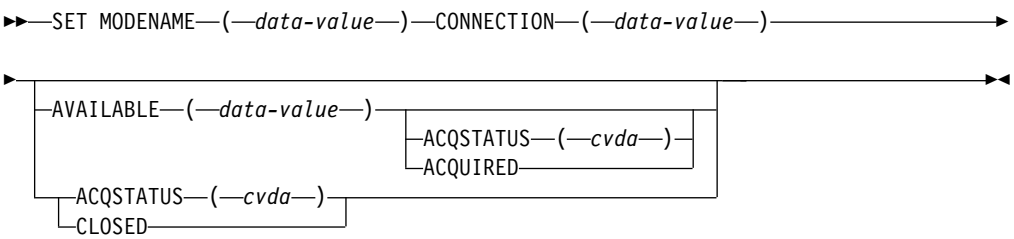
RESP2 値は以下のとおりです。

1 指定された LIBRARY が見つかりません。

SET MODENAME

APPC セッション・グループのセッションの数を変更します。

SET MODENAME



状態: INVREQ、NOTAUTH、SYSIDERR

CVDA の使用について詳しくは、CICS-value data areas (CVDAs)を参照してください。

説明

SET MODENAME コマンドを使用すると、特定の APPC 接続上のセッション・グループ内の使用可能な (バインド済みの) セッション数を多くしたり少なくしたりできます。 SESSIONS 定義の名前ではなく、SESSIONS 定義中の MODENAME および CONNECTION 値によって、変更を加えるグループを識別します。MODENAME は接続間で必ずしも固有ではないので、両方の値とも必要です。

SET MODENAME が適用されるのは、CICS がすでにパートナー・システムとセッションを開始している APPC 接続上の並列セッション・グループと、SESSIONS リソース定義で作成されたグループにのみです (SNASVCMG LU サービス管理セッションには適用されません)。変更内容は、接続が解放されるまでか、または再度セッションの数が変更されるまでの間に限り持続します。

セッション数を増やす場合は、CICS が追加のセッションを獲得する必要があるかどうかを指定できます。セッション数を減らす場合、CICS は超過したセッションを自動的にアンバインドします。目標数を超えるセッションがコマンド実行時に使用されている場合、CICS ではアンバインディングの前に、アクティビティーの静止を許可します。接続上のセッションを使用しているタスクは完了できますが、セッションを必要とする新しいタスクは、アクティビティーが新しい限度を下回るまで開始されません。

注: CICS は、LU サービス管理トランザクション CLS1 を実行するタスクを使用して、並列セッション APPC 接続上のセッションを獲得または解放します。名前の先頭がデフォルト接頭部 DF の一時記憶域キュー中のタスクにデータが渡されます。名前の先頭を DF に指定されたキューがリカバリー可能であるとシステムで定義されている場合は、**SET MODENAME** コマンドを発行したタスクの部分 (**SYNCPOINT** コマンドまたは暗黙の同期点のいずれか) で以後コミットが行われるまで、CICS はこのタスクを開始できません。

オプション

ACQSTATUS(*cvda*)
AVAILABLE 値により数が増える場合に追加のセッションを獲得するか、または使用可能なセッションの数をゼロに設定するかを指定します。CVDA 値は次のとおりです。

ACQUIRED
追加のセッションがあれば獲得します。

CLOSED
セッションの数をゼロに設定します。 CLOSED は、AVAILABLE (0) の指定と同等なので、AVAILABLE と共に指定しないでください。この値の場合、接続しているシステムのいずれかがグループ中のセッションを使用できなくなります。

AVAILABLE(*data-value*)
一度に使用できるセッションの数をハーフワード・バイナリー値として指定します。この値の範囲は、ゼロから SESSIONS 定義中で指定されている MAXIMUM 値までです。必要に応じて、INQUIRE MODENAME コマンドを使用してこの限度を判別できます。

CONNECTION(*data-value*)
このセッション・グループの定義対象の接続の 4 文字の名前を (SESSIONS 定義中の CONNECTION 値から) 指定します。

MODENAME(*data-value*)
変更を加えようとしているセッション・グループの 8 文字の MODENAME 値を (その SESSIONS 定義から) 指定します。

条件

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

3 MODENAME 'SNASVCMG' が指定されました。

4 AVAILABLE 値が範囲外です。

5 AVAILABLE が指定されましたが、この接続では CICS はセッション中になっていません。

6 CLOSED が AVAILABLE と共に指定されました。

7 ACQSTATUS に無効な CVDA 値があります。

8 これは並列セッション APPC グループではありません。

9 ACQUIRED が指定されましたが、この接続では CICS はセッション中になっていません。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

SYSIDERR
RESP2 値は以下のとおりです。

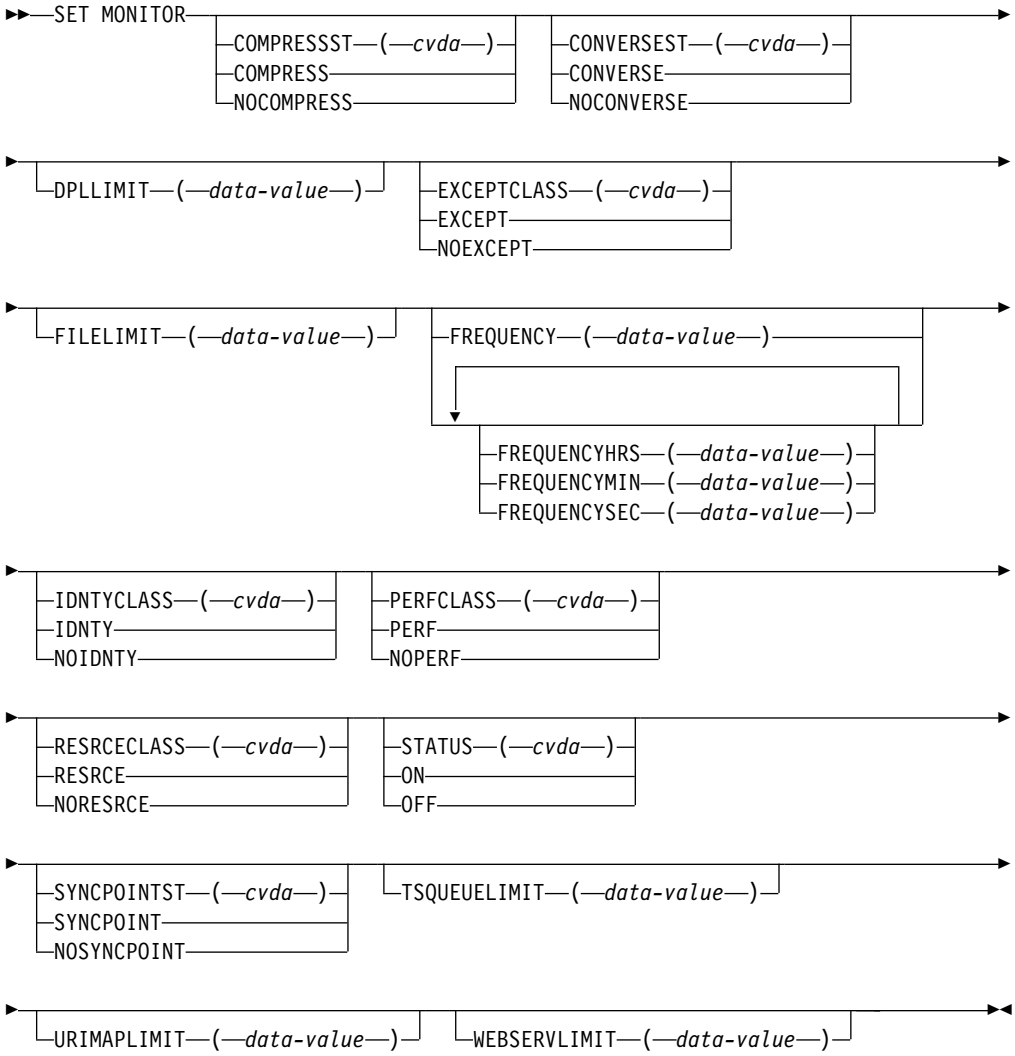
1 接続が見つかりません。

2 接続中にモードネーム (MODENAME) が見つかりません。

SET MONITOR

CICS モニター・オプションを変更します。

SET MONITOR



条件: INVREQ、NOTAUTH

このコマンドはスレッド・セーフです。

CVDA の使用について詳しくは、CICS-value data areas (CVDAs)を参照してください。

説明

SET MONITOR コマンドを使用して、CICS モニターをオンまたはオフに切り替え、モニター・オプションの設定値を変更し、記録するモニター・データのクラスを選択します。

CICS モニターはマスター・スイッチ (STATUS オプション) によって制御します。モニター・データが累積されるのは、STATUS オプションの値が ON の間だけであり、対象となるのは STATUS が ON の間に開始したタスクだけです。

モニターがアクティブの間、CICS はタスクごとに次のタイプのデータを累積します。
- パフォーマンス・データ (CICS コマンドのタイプとカウント、タイミングなど)
- 例外データ (例えば、VSAM ストリング待ち)
- トランザクション・リソース・データ (各種のファイル取得、書き込み、ブラウズ、追加、および削除アクセスのカウントと時間、およびその合計)
- ID クラス・データ (ID 伝搬データを持つトランザクションのカウント、時間および ID)

追加のスイッチによって、これらのモニター・データのクラスのうち、どれを SMF データ・セットに書き込むかが決まります。 EXCEPTCLASS が EXCEPT の場合にのみ例外データが書き込まれ、RESRCECLASS が RESRCE の場合にのみトランザクション・リソース・データが書き込まれます。さらに IDNTYCLASS が IDNTY の場合にのみ ID クラス・データが書き込まれ、PERFCLASS が PERF の場合にのみパフォーマンス・データが書き込まれます。クラスのデータの記録はタスクごとに行われ、クラスのスイッチが、タスク開始時点でも、そのクラスのデータが書き出される時点でも、オンになっている場合に限って行われます。

例外クラス・データは、例外が適用されるイベントの終了時に書き込まれます。パフォーマンス・クラスのデータは、以下の特定の時に書き込まれます。
- タスクの終了時
- CONVERSEST 値が CONVERSE の場合、端末受信待ち時
- 間隔がゼロ以外の場合、繰り返し間隔ごと
- SYNCPOINTST 値が SYNCPOINT の場合、同期点で
- DELIVER オプションが指定されているユーザー・イベント・モニター・ポイントで

ID クラスおよびトランザクション・リソース・クラスのデータは、タスクの終了時にのみ書き込まれます。

STATUS を ON から OFF に変更すると、CICS はモニター・データの累積と記録を停止します。タスクが終了する前にモニターを再びオンにした場合であっても、まだ記録されていない未確定のタスク・データは失われます。

さらに、パフォーマンス・データを記録する場合は、モニターを OFF に設定するコマンドに NOPERF を指定し、完了タスクに関する記録済みのデータが入ったバッファーをフラッシュしてください。さもないと、このようなデータの一部が失われる可能性があります。

しかし、タスクの実行中、STATUS はオンのままでも、記録オプションの 1 つをオフにしてからオンに戻すと、以下に示すとおり、データ損失はクラスに左右されます。

- EXCEPTCLASS が NOEXCEPT の間に発生した例外に関する例外データは書き出されませんが、EXCEPT に戻すと、以後の例外は記録されます。
- タスクの実行中に PERFCLASS を PERF から NOPERF に変更した場合、既に累積されたパフォーマンス・データは記録されますが、記録作業は停止します。しかし、累積は続行されます。したがって、タスクの終了前に PERF に戻せばデータは失われません。ただし、NOPERF が有効である間に DELIVER オプションの指定されたモニター・ポイントが発生した場合は例外です。 (DELIVER はカウンターをリセットします。) 通常は書き込みの原因となる他の条件 (SYNCPOINTST 値が SYNCPOINT の同期点、CONVERSEST 値が CONVERSE の端末の受信待ち、繰り返し間隔の満了) が生じても、記録がオフの間はカウントがリセットされません。したがって、カウントが失われることはありませんが、カウントが結合される可能性があります。
- トランザクション・リソース・クラスおよび ID クラスのデータは、タスクの終了時に書き込まれます。これが書き込まれるのは、タスクの終了時点で、モニター・クラスが (トランザクション・リソース・クラスでは RESRCE、 ID クラスでは IDNTY に) 設定されている場合だけです。

オプション

COMPRESSST(*cvda*)

CICS モニター機能により生成された CICS SMF 110 モニター・レコードに対してデータ圧縮を実行するかどうかを指定します。 データ圧縮オプションの設定を変更すると、変更時点で処理されていたタスクのモニター・レコードを含め、その時点以降に書き込まれるすべてのモニター・レコードに新しい設定が適用されます。さらに、変更時点で SMF に書き込まれるのをバッファー内で待機していたレコードにも、その新しい設定が適用されます。ただし、その変更が適用されるのは、CICS の再始動時までになります。

COMPRESS

CICS は、モニター・レコードのデータ圧縮を実行します。状態によっては、レコードの一部が圧縮されない可能性があります。データ圧縮はデフォルトです。

NOCOMPRESS

CICS は、モニター・レコードのデータ圧縮を実行しません。

CONVERSEST(*cvda*)

会話型タスク (端末入力またはセッション入力を待つタスク) に関するパフォーマンス・データを CICS が記録する方法を指定します。

CONVERSE

タスクが端末入力を待機するたびに、さらにタスク終了時に、CICS は前回の待機またはタスク開始以降のタスクの部分を表すパフォーマンス・クラス・レコードを生成します。待機が生じるのは、CONVERSE コマンドの実行中、あるいは SEND に続く RECEIVE コマンドの実行中です。

NOCONVERSE
CICS は、端末待機間でパフォーマンス・データを累積し、単一のパフォーマンス・クラス・レコードを生成します。

DPLLIMIT(*data-value***)**
CICS がトランザクション・リソース・モニターを実行する分散プログラム・リンク要求の最大数をハーフワード・バイナリー値として指定します。0 から 64 までの範囲の値を指定しなければなりません。

EXCEPTCLASS(*cvda***)**
モニターがアクティブである場合に例外クラスのモニター・データを記録するかどうかを指定します。CVDA 値は以下のとおりです。

EXCEPT
例外データを記録します。

NOEXCEPT
例外データを記録しません。

FILELIMIT(*data-value***)**
CICS がトランザクション・リソース・モニターを実行するファイルの最大数をハーフワード・バイナリー値として指定します。0 から 64 までの範囲の値を指定しなければなりません。

FREQUENCY(*data-value***)**
長時間実行タスクに関するパフォーマンス・クラス・レコードを CICS が生成する間隔を指定します。タスクがこの繰り返し間隔よりも長く実行されると、CICS は間隔または部分ごとにパフォーマンス・データを個別に記録します。CICS がこの方法でパフォーマンス・クラス・モニター・レコードを生成できるのは、長期実行トランザクションが QR または CO TCB で実行される場合のみです。

繰り返し間隔は次のいずれかの方法で指定できます。

- FREQUENCY オプションを使用して、`0hhmmss+` という形式の、4 バイトのパック 10 進数の複合物を指定します。
- FREQUENCYHRS、FREQUENCYMIN、および FREQUENCYSEC オプションを使用して、時、分、および秒を個別に指定します。これらのオプションを単独に使用することも、組み合わせて使用することもできます。

使用する方法に関わらず、間隔値はゼロ、または 1 分から 24 時間の範囲内でなければなりません。ゼロは、タスクの長さに関わらず、CICS がパフォーマンス・レコードをタスクの終了時にのみ生成することを指定します。

さらに、FREQUENCY オプションまたは複数の個別オプションを使用する場合、値の分または秒の部分は 59 以下でなければなりません。単独で使用する FREQUENCYMIN または FREQUENCYSEC オプションは 59 を超えることができます。例えば、1 時間 30 分の間隔を次のいずれかの方法で指定できます。

- FREQUENCY(13000)
- FREQUENCYHRS(1), FREQUENCYMIN(30)
- FREQUENCYMIN(90)
- FREQUENCYSEC(5400)

FREQUENCYHRS(*data-value*)
頻度間隔の時間コンポーネントをフルワード・バイナリー形式で指定します。FREQUENCY オプションを参照してください。

FREQUENCYMIN(*data-value*)
頻度間隔の分コンポーネントをフルワード・バイナリー形式で指定します。FREQUENCY オプションを参照してください。

FREQUENCYSEC(*data-value*)
頻度間隔の秒コンポーネントをフルワード・バイナリー形式で指定します。FREQUENCY オプションを参照してください。

IDNTYCLASS(*cvda*)
モニターがアクティブのときに ID クラスのモニター・データを記録するかどうかを指定します。 CVDA 値は以下のとおりです。

IDNTY
ID データが記録されます。

NOIDNTY
ID データは記録されません。

PERFCLASS(*cvda*)
モニターがアクティブである場合にパフォーマンス・クラスのモニター・データを記録するかどうかを指定します。CVDA 値は以下のとおりです。

NOPERF
パフォーマンス・データを記録しません。

PERF パフォーマンス・データを記録します。

RESRCECLASS(*cvda*)
CICS トランザクション・リソースのモニターをアクティブにするか、または非アクティブにするかを指定します。CVDA 値は以下のとおりです。

NORESRCE
CICS はトランザクション・リソース・モニターを実行しません。トランザクション・リソース・データは累積されず、SMF に書き込まれることもありません。

RESRCE
CICS はトランザクション・リソース・モニターを実行します。データは MCT に指定されているリソース (例えば、CICS ファイル) ごとに累積され、SMF に書き込まれます。

STATUS(*cvda*)
CICS モニターをアクティブにするか、使用不可にするかを指定します。CVDA 値は以下のとおりです。

オフ モニターは行われません。モニター・データ・クラスの設定値に関わらず、データは累積されず、書き出しも行われません。

ON モニターがアクティブになります。すべてのクラスのモニター・データについてデータが累積され、アクティブであるクラスごとにデータが書き出されます。

SYNCPOINTST(*cvda*)
複数の作業単位 (UOW) を含むタスク内のそれぞれの UOW ごとに CICS が

個別にパフォーマンス・クラス・データを記録するかどうかを指定します。タスク内の UOW は、同期点の明示的な発生時 (SYNCPOINT コマンド) または暗黙的な発生時 (例えば、DL/I TERM 呼び出しまたはタスク終了) に終了し、タスク終了時を除いて新しい UOW が直ちに開始されます。同期点でロールバックが発生する場合、UOW は終了しません。CVDA 値は以下のとおりです。

NOSYNCPOINT
パフォーマンス・データはタスク内のすべての UOW に渡って結合されます。

SYNCPOINT
パフォーマンス・データは UOW ごとに個別に記録されます。

TSQUEUELIMIT(*data-value***)**
CICS がトランザクション・リソース・モニターを実行する一時記憶域キューの最大数をハーフワード・バイナリー値として指定します。0 から 64 までの範囲の値を指定しなければなりません。

URIMAPLIMIT(*data-value***)**
WEB OPEN URIMAP コマンドに指定された URIMAP のうち、CICS のトランザクション・リソース・モニターの実行対象にする最大数を指定します。0 から 64 までの範囲の値を指定しなければなりません。

WEBSERVLIMIT(*data-value***)**
INVOKE SERVICE コマンドに指定された WEBSERVICE のうち、CICS のトランザクション・リソース・モニターの実行対象にする最大数を指定します。0 から 64 までの範囲の値を指定しなければなりません。

条件

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

1 STATUS の CVDA 値が無効です。

2 PERFCLASS の CVDA 値が無効です。

3 EXCEPTCLASS の CVDA 値が無効です。

5 CONVERSEST の CVDA 値が無効です。

6 SYNCPOINTST の CVDA 値が無効です。

7 FREQUENCY 値が無効です。 (時間が 24 を超えているか、分または秒が 59 を超えているか、あるいは合計値が範囲外です。)

8 FREQUENCYHRS 値が範囲外です。

9 FREQUENCYMIN 値が範囲外です。

10 FREQUENCYSEC 値が範囲外です。

11 COMPRESSST の CVDA 値が無効です。

12 FILELIMIT 値が範囲外です。

13 DPLLIMIT 値が範囲外です。

14 TSQUEUELIMIT 値が範囲外です。

15 URIMAPLIMIT 値が範囲外です。

16 WEBSERVLIMIT 値が範囲外です。

NOTAUTH
INVREQ

RESP2 値は以下のとおりです。

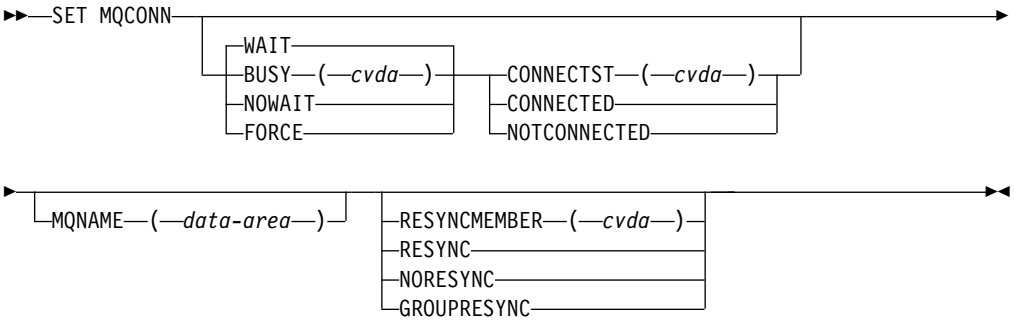
15 IDNTYCLASS の CVDA 値が無効です。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

SET MQCONN

CICS と WebSphere MQ との間の接続の属性に関する情報を変更し、接続を開始または停止します。

SET MQCONN



条件: NORMAL、NOTAUTH、NOTFND、INVREQ

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

SET MQCONN コマンドは、現在インストールされている MQCONN リソース定義 (WebSphere MQ との接続の定義) の属性の変更や、接続の開始および停止に使用します。

一度にインストールできる MQCONN リソース定義は 1 つだけであるため、入力時に MQCONN リソース定義の名前を指定する必要はありません。

このコマンドは、MQCONN リソース定義の INITQNAME 属性 (デフォルトの開始キューの名前を指定する属性) を設定するコマンドではありません。MQMONITOR リソース定義 DFHMQINI の QNAME 属性 (MQCONN リソース定義を使用して動的にインストールされ、デフォルトの開始キューを表す) を変更する場合は、MQCONN リソース定義の INITQNAME 属性を変更してから、MQCONN リソース定義を再インストールする必要があります。

制約事項: このコマンドは、分散プログラム・リンク・コマンドによってリンクされたリモート・プログラムでは使用できません。

オプション

BUSY

CONNECTST でこのオプションが有効なのは、CICS と WebSphere MQ との接続を NOTCONNECTED に設定する場合に限られます。 CONNECTED を指定すると、BUSY は無視されます。CVDA 値は以下のとおりです。

FORCE

WebSphere MQ を現在使用している CICS トランザクションがすべて異常終了し、WebSphere MQ への接続が停止します。この要求は同期的な性質を持っています。つまり、接続が停止するまで、制御はアプリケーションに戻されません。

NOWAIT

WebSphere MQ への接続が静止します。接続が停止する前に、実行中のトランザクションを完了できます。この要求は非同期的な性質を持っています。つまり、接続が停止する前に、制御はアプリケーションに戻されます。

WAIT

WebSphere MQ への接続が静止します。接続が停止する前に、実行中のトランザクションを完了できます。この要求は同期的な性質を持っています。つまり、接続が停止するまで、制御はアプリケーションに戻されません。WAIT がデフォルトです。

CONNECTST

CICS と WebSphere MQ との間の接続を開始または停止します。CVDA 値は以下のとおりです。

CONNECTED

CICS と WebSphere MQ との接続を開始します。このアクションは、CKQC START コマンドを発行して CICS と WebSphere MQ 間のアダプターを開始するのと同じ効果があります。要求されたキュー・マネージャーがアクティブの場合、制御は CICS と WebSphere MQ が接続されたときに戻されます。要求されたキュー・マネージャーがアクティブでない場合、CICSは CICS と WebSphere MQ 間のアダプターが接続中状態にあることを示す RESP2=8 の NORMAL 応答を返し、要求されたキュー・マネージャーがアクティブになると直ちに WebSphere MQ に再接続します。

NOTCONNECTED

CICS と WebSphere MQ との接続を停止します。BUSY オプションで指定する値によって、実行中のトランザクションが停止するのか、それともそのトランザクションを完了できるのかが決まります。さらに、どの段階で制御がアプリケーションに戻されるのかも決まります。デフォルトは BUSY(WAIT) です。この場合は、接続が停止する前に実行中のトランザクションを完了できます。また、接続が停止するまで、制御はアプリケーションに戻されません。

MQNAME

CICS の接続先の WebSphere MQ のキュー・マネージャーまたはキュー共用グループの名前 (1 から 4 文字) を指定します。 CICS は、キュー・マネージ

ャーまたはキュー共用グループのアクティブなメンバーへの接続を試行します。MQNAME を変更できるのは、CICS が WebSphere MQ に接続していない場合に限られます。

MQNAME を指定すると、インストール済みの MQCONN リソース定義の MQNAME 属性で指定したキュー・マネージャー名またはキュー共用グループが、このコマンドで指定した名前に置き換えられます。元のキュー・マネージャーまたはキュー共用グループに戻す場合、MQNAME を再び設定します。

RESYNCMEMBER

このオプションは、CICS と WebSphere MQ との接続に対してキュー共用グループを指定している場合にのみ適用されます。RESYNCMEMBER では、CICS がキュー共用グループ内から最後に接続したキュー・マネージャーで未処理の作業単位が保留になっている場合に CICS が採用する方針を指定します。

RESYNCMEMBER の設定を変更する操作は、すべてのリソースが整合状態になっている (つまり、未確定の作業単位が保留になっていない) 場合にのみ実行する必要があります。そうでないと、CICS は、WebSphere MQ の作業単位を再同期できません。 RESYNCMEMBER の値を GROUPRESYNC に変更したり GROUPRESYNC から変更したりする前に、すべてのリソースが整合状態になっていることを確認するのは重要です。

未確定で中断された作業単位は、この時点では CICS 自体がそれらの作業単位を解決できないので、このプロセスに含まれません。それらの UOW の再同期は、CICS がそのリモート・コーディネーターと再同期したときに生じます。CVDA 値は以下のとおりです。

RESYNC
CICS は、同じキュー・マネージャーに接続します。

NORESYNC
CICS は同じキュー・マネージャーへの接続を一回試行します。 CICS は、この試行に失敗すると、キュー共用グループの任意のメンバーに接続し、未処理の作業単位に関する警告メッセージを出します。

GROUPRESYNC
CICS は、キュー共用グループの任意のメンバーに接続します。キュー・マネージャーが WebSphere MQ によって選択され、そのキュー・マネージャーは、キュー共用グループ内のすべての適格キュー・マネージャーの代わりに、未確定の作業単位を解決することを CICS に要求します。この機能のことをグループ・リカバリー単位 といいます。GROUPRESYNC オプションを使用できるのは、CICS のグループ・リカバリー単位をサポートしているリリースの WebSphere MQ を実行していて、WebSphere MQ キュー・マネージャーで GROUPUR 属性が有効になっている場合に限られます。

EXEC CICS SET MQCONN CONNECTED コマンドを使用し、RESYNCMEMBER(GROUPRESYNC) を設定して、CICS から WebSphere MQ に接続しようとしたときに、WebSphere MQ でグループ・リカバリー単位がサポートされていなかったり、グループ・リカバリー単位が有効になっていなかったりすると、WebSphere MQ によ

ってその接続試行は拒否されます。その接続試行は、SET コマンドの失敗という結果になり、INVREQ と RESP2=9 (接続エラー) が生成されます。

WebSphere MQ で作業単位が未処理の場合は、作業単位を解決できないので、RESYNCMEMBER の設定を変更しないでください。CICS で保留になっている作業単位は、リソース・マネージャーの修飾子で特定できます。 RESYNCMEMBER(GROUPRESYNC) を使用する場合は、キュー共用グループの名前が修飾子になり、そうでない場合は、個々のキュー・マネージャーの名前が修飾子として使用されます。

条件

NORMAL

RESP2 値は以下のとおりです。

8 WebSphere MQ を待機しています。この状況は、CVDA が CONNECT である CONNECTST の後に発生することがあります。

NOTAUTH

発行中のタスクに関連付けられているユーザーは、このコマンドの使用が許可されていないか、またはこのリソースにアクセスすることが許可されていません。

RESP2 値は以下のとおりです。

100 コマンド権限の処理に失敗しました。

NOTFND

RESP2 値は以下のとおりです。

1 現在インストールされている MQCONN リソース定義はありません。

INVREQ

RESP2 値は以下のとおりです。

2 FORCE または WAIT オプションを付けて SET NOTCONNECTED を指定しましたが、このトランザクション自体が CICS-WebSphere MQ インターフェースを使用しています。

3 接続がアクティブになっているため、MQNAME を設定できません。

4 BUSY 値が無効です。

5 MQNAME に無効な文字が含まれています。

6 CONNECTST 値が無効です。

7 RESYNCMEMBER 値が無効です。

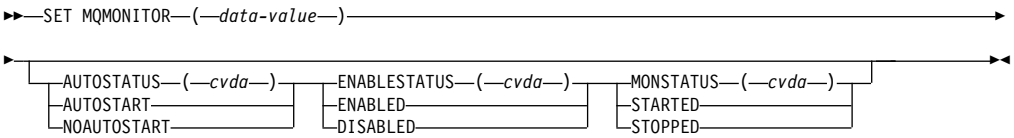
9 接続エラーです。

10 MQNAME 値は、有効なキュー・マネージャーまたはキュー共用グループではありません。

SET MQMONITOR

MQMONITOR リソース定義を使用可能または使用不可に設定します。MQ モニターを開始または停止します。MQ モニターの自動再始動を設定します。

SET MQMONITOR



条件: IOERR、INVREQ、NOTAUTH、NOTFND、TRANSIDERR、USERIDERR

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

SET MQMONITOR コマンドを使用して、MQMONITOR リソース定義の使用可能または使用不可化 (**ENABLESTATUS** 属性)、MQ モニターの開始または停止 (**MONSTATUS** 属性)、または MQ 接続の確立時に MQ モニターが自動的に開始するかどうかの設定 (**AUTOSTART** 属性) を行います。

このコマンドは、他の MQMONITOR 属性を設定しません。これらの属性を変更する場合は、リソース定義を変更した後、リソースを再インストールする必要があります。

予約済み MQMONITOR リソース定義 DFHMQINI の **QNAME** 属性を変更したい場合は、DFHMQINI がインストールされている MQCONN リソース定義の **INITQNAME** 属性を変更してから、MQCONN リソース定義を再インストールする必要があります。

MQMONITOR の状態を開始済みに設定する要求を出すと、CICS は、**EXEC CICS START** 要求を出します。この要求は、**TRANSACTION** からの値を TRANID、**USERID** からの値を USERID として指定し、非 CKTI トランザクションの場合は、18 バイトが先行する **MONDATA** に含まれるデータを FROM データとして指定します (図 1 を参照)。**EXEC CICS START** コマンドが失敗する場合、診断の詳細については、メッセージ DFHMQ0390E を参照してください。

```
Byte 1: < (left chevron)
Bytes 2 - 9: MQMONITOR resource name
Bytes 10 - 17: USERID
Byte 18: > (right chevron)
Bytes 19 - 218: MONDATA as entered by the user
```

図 *1. CKTI* に関連付けられていない *MQMONITOR* の状態を開始済みに設定するための要求後に *CICS* が発行した **EXEC CICS START** の *FROM* データ： FROM データには、18 バイトが先行する **MONDATA** のデータが入っています。

ユーザー作成トランザクションの場合、開始済みトランザクションは、FROM データに入っている **MONDATA** を取得し、モニター中のトランザクションの状態を設定する (**MONSTATUS** 属性) ための **EXEC CICS SET MQMONITOR** コマンドを発行するために、バイト 2 から 9 で指定された MQMONITOR リソース名を使用する必要があります。また、セキュリティー検査がアクティブである場合、CICS は、MQ モニター状態を開始済みに設定しようとするトランザクションに関連付けられているユーザー ID でセキュリティー検査を実行することにも注意してください。したがって、MQ モニターの状態を開始済みに設定しようとするトランザクションに関連付けられているユーザー ID が、**MONUSERID** で定義されたユーザー ID の代理であ

り、**MONUSERID** に関連付けられているトランザクションを開始する権限があることを確認してください。CICS Explorer などの CICSPlex SM API インターフェースで MQ モニターの状態を設定する場合は、MQ モニター・トランザクションに関連付けるユーザー ID として、領域ユーザー ID または PLTPIUSR ユーザー ID (指定されている場合) を使用してください。詳細については、MQMONITOR リソースで説明するセキュリティーの考慮事項を参照してください。

オプション

AUTOSTART(*cvda*)
WebSphere MQ キュー・マネージャーとの接続が確立されたときに、MQ モニターが自動的に開始するかどうかを指定します。CVDA 値は以下のとおりです。

AUTOSTART
MQ 接続が確立されたときに、MQ モニターは自動的に開始します。

NOAUTOSTART
MQ モニターは自動的に開始しません。

ENABLESTATUS(*cvda*)
MQMONITOR リソース定義が使用可能かどうかを指定します。CVDA 値は以下のとおりです。

ENABLED
MQMONITOR リソース定義は使用可能に設定され、使用可能です。

DISABLED
MQMONITOR リソース定義は使用不可に設定されます。

MONSTATUS(*cvda*)
MQ モニターを開始または停止します。CVDA 値は以下のとおりです。

STARTED
MQ モニターは開始されます。

STOPPED
MQ モニターは停止されます。

MQMONITOR(*data-value*)
設定する MQMONITOR リソースの 8 文字の名前を指定します。

条件

IOERR
RESP2 値は以下のとおりです。

10 入出力エラーが発生しました。このエラーは、通常、ファイル DFHINTRA が満杯であるか、または壊れているために、**EXEC CICS START** コマンドで発生します。

デフォルト・アクション: タスクが異常終了します。

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

2 リソースがすでに開始しているため、MQMONITOR を開始できません。

3 リソースがすでに停止しているため、MQMONITOR を停止できません。

5 リソースが使用不可に設定されているため、MQMONITOR を開始できません。

6 MQ モニターを開始しようとして失敗しました。TRANID 属性と USERID 属性およびセキュリティー定義を確認してください。

デフォルト・アクション: タスクが異常終了します。

NOTAUTH

RESP2 値は以下のとおりです。

7 ユーザーは、MQMONITOR に関連付けられているトランザクションを開始する権限がありません。

100 コマンド権限の処理に失敗しました。

デフォルト・アクション: タスクが異常終了します。

NOTFND

RESP2 値は以下のとおりです。

1 指定された MQMONITOR 定義が見つかりません。

デフォルト・アクション: タスクが異常終了します。

TRANSIDERR

START コマンドで指定されているトランザクション ID が CICS に対して定義されていないため、MQMONITOR を開始しようとして失敗したときに発生します。

デフォルト・アクション: タスクが異常終了します。

USERIDERR

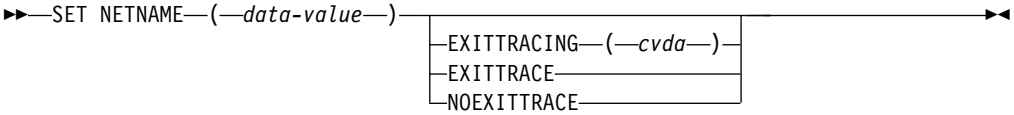
MONUSERID が外部セキュリティー・マネージャーから認識されないため、MQMONITOR を開始しようとして失敗したときに発生します。

デフォルト・アクション: タスクが異常終了します。

SET NETNAME

z/OS Communications Server 端末のトレースを変更します。

SET NETNAME



条件**:** INVREQ、NOTAUTH

CVDA の使用について詳しくは、CICS-value data areas (CVDAs)を参照してください。

説明

SET NETNAME コマンドを使用すると、特定の z/OS Communications Server 端末 (またはセッション) に対する CICS z/OS Communications Server の出口トレースを制御できます。自動インストール・プロセスやその他の操作をトレースできるように、CICS にまだインストールされていないものを含めて、すべての z/OS Communications Server 端末またはセッションを指定できます。

オプション

EXITTRACING(*cvda*)
CICS が z/OS Communications Server 出口の端末固有の呼び出しをトレースするときに、この端末 (またはセッション) をトレースするかどうかを指定します。(SET TRACEFLAG TCEXITSTATUS コマンドまたは CICS 提供のトランザクション CETR を使用して、出口トレースをオン/オフにすることができます。) CVDA 値は次のとおりです。

EXITTRACE
端末はトレースされます。

NOEXITTRACE
端末はトレースされません。

NETNAME(*data-value*)
トレースを指定する対象の端末またはセッションの 8 文字の z/OS Communications Server ネットワーク ID を指定します。

条件

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

27 EXITTRACING の CVDA 値が無効です。

29 端末は z/OS Communications Server 端末ではありません。

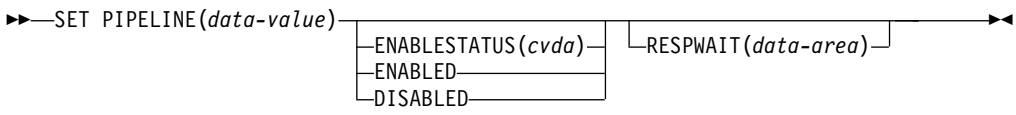
NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

SET PIPELINE

インストール済み PIPELINE の状況を変更します。

SET PIPELINE



条件: INVREQ、NOTAUTH、NOTFND

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

SET PIPELINE コマンドは、インストール済み PIPELINE の状況を変更するために使用します。

SET PIPELINE コマンドを使用して、CICS バンドルに定義およびインストールされている PIPELINE リソースの ENABLESTATUS を変更することはできません。これを行おうとすると、RESP2 値が 300 の INVREQ 応答が発行されます。動的に生成された PIPELINE リソースの他のすべての属性は変更できますが、変更内容はカタログされず、CICS のウォーム・リスタートの後に回復されません。バンドルによってインストールされたリソースの属性を変更する場合、その CICS バンドルを無効にして破棄してから、必要な変更を行った新しいバージョンのバンドルをインストールする必要があります。

動的に生成された PIPELINE リソースの状況は、インストール元の BUNDLE バンドルを使用可能にしたり使用不可にすることで制御できます。

動的に生成された PIPELINE リソースの定義を変更するには、CICS Explorer のリソース・エディターを使用できます。定義を更新するには、古いバージョンの CICS バンドルを新しいもので置き換えます。その手順については、CICS Explorer 製品資料内の『Working with bundles』を参照してください。 CICS バンドルが単体としてデプロイされた場合、またはプラットフォームと一緒にデプロイされた場合は、個別に更新できます。 CICS バンドルがアプリケーションの一部としてデプロイされた場合、またはアプリケーション・バインディングと一緒にデプロイされた場合は、アプリケーション全体を更新してください。

オプション

PIPELINE(*data-value*)
照会する PIPELINE の 8 文字の名前を指定します。

ENABLESTATUS(*cvda*)
PIPELINE の状況を指定します。

ENABLED
この PIPELINE のインバウンド・サービス要求は通常どおりに処理されます。

DISABLED
この PIPELINE のインバウンド・サービス要求は拒否されます。

RESPWAIT(*data-area*)
アプリケーション・プログラムがリモート Web サービスからのオプションの応答メッセージを待機する秒数を指定します。値の範囲は 0 秒から 9999 秒までです。値が指定されていない場合、トランスポート・プロトコルのデフォルトのタイムアウト値が使用されます。

- HTTP のデフォルトのタイムアウト値は 10 秒です。
- WebSphere MQ のデフォルトのタイムアウト値は 60 秒です。

条件

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

5 RESPWAIT に無効な値を設定しようとしました。

11 無効な状態の PIPELINE を有効または無効にしようとしました。この状態を解決するには、PIPELINE の破棄と再インストールを試みてください。

300 BUNDLE リソースによってインストールされたリソースには無効な操作が指定されました。

NOTAUTH

RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

NOTFND

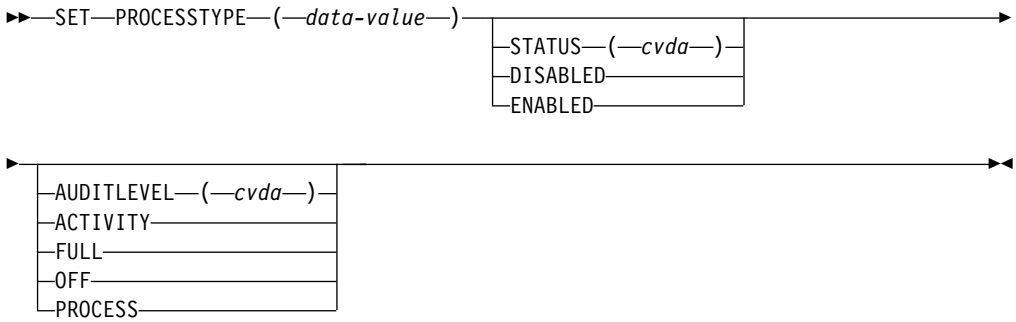
RESP2 値は以下のとおりです。

3 パイプラインが見つかりません。

SET PROCESSTYPE

CICS ビジネス・トランザクション・サービス (CBTS) のプロセス・タイプの属性を変更します。

SET PROCESSTYPE



条件: INVREQ、NOTAUTH、PROCESSERR

説明

SET PROCESSTYPE を使用すると、この CICS 領域にインストールされている PROCESSTYPE 定義の監査ロギングの現在の状態および使用可能化状況を変更できます。

注: プロセス・タイプは、プロセス・タイプ・テーブル (PTT) で定義されます。CICS は、このテーブル内のエントリーを使用して、外部データ・セット上のプロセス (およびそれを構成するアクティビティー) のレコードを維持します。単一の CICS 領域で CBTS を使用する場合、SET PROCESSTYPE コマンドを使用してプロセス・タイプを変更できます。ただし、シスプレックスで CBTS を使用する場合は、CICSPlex SM を使用してこのような変更を加えることを強くお勧めします。これは、シスプレックス全体でリソース定義を相互に調和させることが重要であるからです。

オプション

AUDITLEVEL(cvda)
このタイプのプロセスに適用される監査ロギングのレベルを指定します。

注: インストールされている PROCESSTYPE 定義の AUDITLOG 属性が CICS ジャーナルの名前に設定されていない場合、OFF 以外の値を指定しようとするとエラーが戻されます。

CVDA 値は以下のとおりです。

ACTIVITY
アクティビティー・レベルの監査。監査レコードは以下から書き込まれます。

1. プロセス監査ポイント
2. アクティビティー 1 次監査ポイント

FULL 全監査。監査レコードは以下から書き込まれます。

1. プロセス監査ポイント
2. アクティビティー 1 次監査ポイントおよび 2 次監査ポイント

オフ 監査証跡レコードは書き込まれません。

PROCESS
プロセス・レベルの監査。監査レコードは、プロセス監査ポイントのみから書き込まれます。

プロセス、アクティビティー 1 次監査ポイント、およびアクティビティー 2 次監査ポイントから書き込まれるレコードの詳細については、監査ロギングのレベルの指定を参照してください。

PROCESSTYPE(value)
属性を変更できる、プロセス・タイプ・テーブル (PTT) で定義されるプロセス・タイプの 8 文字の名前を指定します。

STATUS(cvda)
このタイプの新規プロセスを作成できるかどうかを指定します。CVDA 値は以下のとおりです。

DISABLED
プロセス・タイプのインストール済み定義は使用不可です。このタイプの新しいプロセスを定義できません。

ENABLED
プロセス・タイプのインストール済み定義は使用可能です。このタイプの新しいプロセスを定義できます。

条件

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

2 このプロセス・タイプが使用不可になっていないため、使用可能にすることはできません。

3 AUDITLEVEL オプションに無効な CVDA 値を指定しました。

5 STATUS オプションに無効な CVDA 値を指定しました。

6 AUDITLEVEL オプションに FULL、PROCESS、または ACTIVITY の値を指定しましたが、PROCESSTYPE 定義の AUDITLOG 属性が監査ログを指定していません。

NOTAUTH

RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

PROCESSERR

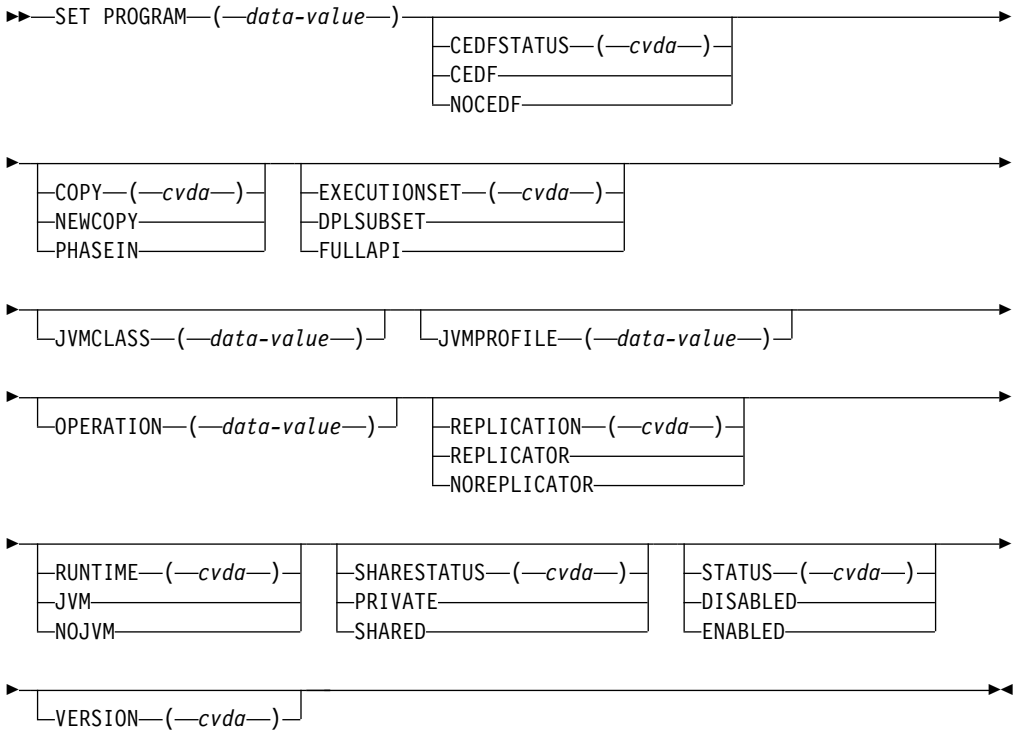
RESP2 値は以下のとおりです。

1 PROCESSTYPE オプションで指定されたプロセス・タイプが、プロセス・タイプ・テーブル (PTT) で定義されていません。

SET PROGRAM

PROGRAM、MAPSET、または PARTITIONSET 定義を変更します。

SET PROGRAM



条件: INVREQ、IOERR、NOTAUTH、PGMIDERR

CVDA の使用について詳しくは、CICS-value data areas (CVDAs)を参照してください。

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

SET PROGRAM コマンドは、CICS システムにインストールされた特定のプログラム、マップ・セット、区画セットの定義を変更します。これらのリソースはすべてロード・モジュールであるため、CICS では 3 つすべてに同じ SET コマンドを使用します。混乱を避けるため、モジュール という語は、オプションが実行可能プログラムにのみ適用される場合を除き、コマンドの対象を意味します。

CICS バンドルから定義およびインストールされている PROGRAM リソースに SET PROGRAM コマンドを使用することはできません。 CICS バンドルによってインストールされている、動的に生成された PROGRAM リソースを変更しようとすると、RESP2 値が 300 の INVREQ 応答が発行されます。

- 動的に生成された PROGRAM リソースの状況は、インストール元の BUNDLE バンドルを使用可能にしたり使用不可にすることで制御できます。
- 動的に生成された PROGRAM リソースの定義を変更するには、CICS Explorer のリソース・エディターを使用できます。定義を更新するには、古いバージョンの CICS バンドルを新しいもので置き換えます。その手順については、CICS Explorer 製品資料内の『Working with bundles』を参照してください。 CICS バンドルが単体としてデプロイされた場合、またはプラットフォームと一緒にデプロイされた場合は、個別に更新できます。 CICS バンドルがアプリケーションの一部としてデプロイされた場合、またはアプリケーション・バインディングと一緒にデプロイされた場合は、アプリケーション全体を更新してください。

タスクをアプリケーションの一部として測定できるようにするには、PROGRAM リソース上のアプリケーション・コンテキストの OPERATION フィールドを設定します。**SET PROGRAM OPERATION** コマンドはカタログされず、CICS のウォーム・リスタート時に復元されません。アプリケーション・コンテキストをテストできるよう、このコマンドがサポートされていますが、これを実動に使用することは意図されていません。アプリケーション・エントリー・ポイントと PROGRAM リソースについての詳細、およびタスクでアプリケーション・コンテキストを設定するための条件については、アプリケーションのエントリー・ポイントおよびアプリケーション・コンテキストを参照してください。

オプション

CEDFSTATUS(*cvda*) (プログラムのみ)
このプログラムが実行診断機能 (EDF) の下で実行されている場合に EDF が行うアクションを指定します。このオプションには次の CVDA 値があります。

CEDF EDF 診断画面が表示されます。 EDF オプションを使用してプログラムが変換された場合は、すべての EDF 画面が表示されます。NOEDF を使用して変換された場合は、プログラムの開始画面と終了画面のみが表示されます。

NOCEDF
EDF 画面は表示されません。

リモート・プログラムには、CEDFSTATUS を指定することはできません。

COPY(*cvda*)
プログラムの新規コピーを、次回モジュールが要求されたときに使用するように指定します。 **LINK**、**XCTL**、**LOAD**、**ENABLE**、および BMS コマンドにより、モジ

ュール要求が発生する可能性があります。モジュールをリフレッシュすることを選択できるのはそれを現在使用中でない場合のみです (NEWCOPY)。また、すべての場合において、今後のすべての要求において新しいバージョンのモジュールをフェーズインすることを選択できます (PHASEIN)。

HOLD オプションを指定して現在ロードされているモジュール、あるいはリモートとして定義されているプログラムには、COPY オプションを指定することはできません。

CICS は、コマンド発行の時点ではモジュールをロードしませんが、コピーが使用可能であることを確認します。 SHARED オプションを指定した状態で、モジュールがリンク・パック域にある場合、LPA コピーはこの要件を満たしています。それ以外の場合、CICS は DFHRPL または動的 LIBRARY 連結を検索し、そこにコピーが見つからない場合は IOERR 例外を返します。

JVM サーバーで実行される Java プログラムの場合は、このコマンドの NEWCOPY オプションまたは PHASEIN オプションを使用してプログラムをリフレッシュすることはできません。新しいバージョンのプログラムを実装するには、古いバージョンの CICS バンドルを更新済みバージョンに置き換えます。詳しくは、JVM サーバーにおける OSGi バンドルの更新を参照してください。

CICS バンドルから定義およびインストールされている PROGRAM リソースの場合は、このコマンドの NEWCOPY オプションまたは PHASEIN オプションを使用してプログラムをリフレッシュすることはできません。新しいバージョンのプログラムを実装するには、古いバージョンの CICS バンドルを更新済みバージョンに置き換えます。 CICS バンドルがアプリケーションの一部としてデプロイされた場合、またはアプリケーション・バインディングと一緒にデプロイされた場合は、アプリケーション全体を更新してください。

このオプションには次の CVDA 値があります。

NEWCOPY
モジュールは現在使用されていない場合にのみ、リフレッシュされます。それ以外の場合、CICS は代わりに INVREQ 例外を返します。モジュールが使用中かどうかは、**INQUIRE PROGRAM** コマンドの RESCOUNT オプションで判別できます。値ゼロはプログラムが使用されていないことを意味します。

PHASEIN
リフレッシュは、モジュールが使用中であるかにかかわらず実行されます。モジュールが使用中である場合、使用中のコピー (複数可) は使用されなくなるまで維持されます。リフレッシュ後に発生したすべての要求では新規コピーが使用されます。

EXECUTIONSET(*cvda*) (プログラムのみ)
プログラムを CICS API の分散プログラム・リンク (DPL) サブセットの実行に制限するかどうかを指定します。 EXECUTIONSET は実行可能プログラムにのみ適用され、プログラムがローカルに実行された場合にのみ API を制御します。リモートに呼び出される場合 (つまり、DPL によって呼び出されたプログラムのレベル以下で実行される場合)、プログラムは常にこのサブセットに制限されます。このオプションには 次の CVDA 値があります。

DPLSUBSET
プログラムは常に制限されます。この値を CICS プログラム (「DFH」で始まるプログラム) に指定することはできません。

FULLAPI
リモートに呼び出されない限り、プログラムは制限されません。

EXECUTIONSET 属性は以下の場合にのみ適用されます。

- プログラムがリンクされている場合。トランザクションによって最初に制御が付与されるプログラムには適用されません。
- REMOTESYSTEM 名がローカル CICS 領域と同じ名前の場合。その目的は、DPL プログラムとして実行しているかのように、プログラムをローカル CICS 環境でテストすることです。

JVMCLASS(*data-value*) (Java プログラムのみ)
JVM から制御を渡される Java プログラム内のメインクラスの 255 文字の名前を指定します。 RUNTIME オプションで JVM を指定する場合は、JVMCLASS 値を指定します。 RUNTIME オプションで NOJVM を指定した場合は、プログラムの実行時に、JVMCLASS オプションの値が無視されます。

JVMPROFILE(*data-value*) (Java プログラムのみ)
この Java プログラムが実行されている JVM プールで使用する JVM プロファイルの 8 文字の名前を指定します。このプログラムのインスタンスのうち、JVM 内で古い JVM プロファイルを使用して現在実行中のものは影響を受けないため、実行を完了できます。 JVM プロファイルは JVMSERVER リソースで設定されているため、JVM サーバーを使用する Java プログラムにはこのオプションを設定できません。

CICS の任意の場所で JVM プロファイルの名前を使用する場合は、z/OS UNIX ファイル名にあるのと同じ大文字と小文字の組み合わせを使用して名前を入力する必要があります。

OPERATION(*data-value*)
このプログラムがアプリケーション・エントリー・ポイントとして定義されるアプリケーション操作の 64 文字の名前を指定します。実行時に、タスクが PROGRAM を実行すると、アプリケーション・コンテキストが PROGRAM リソースからタスクの関連データへコピーされます。この処理によって、タスクをアプリケーションの一部として測定できるようになります。以下の条件が当てはまる場合、OPERATION オプションを指定できません。

- PROGRAM リソースが既にエントリー・ポイントとして設定されているか、または、以前にプログラムが EXEC CICS SET PROGRAM SPI コマンドによってエントリー・ポイントとして設定された場合。
- PROGRAM リソースが、BUNDLE リソースのインストールから作成された。
- PROGRAM リソースが、BUNDLE modify verb を使用してエントリー・ポイントとして設定されている。
- PROGRAM リソースが CICS プログラム (つまり、名前が「DFH」で始まるリソース) である。(DFH プログラムは破棄できないため、PROGRAM リソースが CICS によってエントリー・ポイントとして識別されることを、CICS をリサイクルせずに防ぐことはできません。)

- PROGRAM リソースがリモート・リソース、マップ・セット、またはパーティション・セットである。

プログラムがエントリー・ポイントとして使用されなくなったことを CICS に通知するには、OPERATION オプションでスペース文字の値を指定します。

PROGRAM(*data-value***)**
変更するプログラム、マップ・セット、または区画セット定義の 8 文字の名前を指定します。

REPLICATION(*cvda***)**
プログラムがレプリケーターかどうかを指定します。CVDA 値は以下のとおりです。

REPLICATOR
このプログラムはレプリケーター・プログラムであり、AVAILABILITY 状態が RREPL である VSAM データ・セットへの全アクセス権限があります。

NOREPLICATOR
このプログラムはレプリケーター・プログラムではなく、AVAILABILITY 状態が RREPL である VSAM データ・セットへの読み取り権限のみがあります。

RUNTIME(*cvda***) (Java プログラムのみ)**
プログラムを JVM で実行するかどうかを指定します。このオプションには、次の CVDA 値があります。

JVM プログラムは JVM で実行されます。 JVMCLASS 値を指定してください。

NOJVM
プログラムは JVM では実行されません。 JVMCLASS オプションの値は無視され、変更されたプログラムのランタイム環境は、プログラムが次に CICS でロードされ、そのランタイム環境が判別されるまでは認識されません。

SHARESTATUS(*cvda***)**
次回新規コピーが必要になったときに CICS がモジュールを取得する場所を指定します。新規コピー要求は、明示的要求 (**SET PROGRAM COPY** など) か、現在、CICS にコピーがない場合に発行されるモジュールを必要とするコマンドのいずれかから出される可能性があります。このオプションには次の CVDA 値があります。

PRIVATE
モジュールは、DFHRPL または動的 LIBRARY DD ステートメントで指定されている連結されたライブラリーからロードされます。

SHARED
リンク・パック域のコピーが使用可能な場合には、それが使用されます。使用可能でない場合は、モジュールは SHARESTATUS が PRIVATE の場合と同様の方法でロードされます。

リモート・プログラムには、SHARESTATUS を指定できません。 Java プログラムに指定される値はすべて無視されます。

STATUS(*cvda*)

モジュールを使用可能にするかどうかを指定します。このオプションには、次の CVDA 値があります。

DISABLED

モジュールは使用不可になります。 CICS プログラム (「DFH」で始まるプログラム) を使用不可にすることはできません。

ENABLED

モジュールは使用可能になります。

リモートとして定義されているプログラムの場合、このオプションで可用性が制御されるのは、プログラムがローカル CICS システムを通じて呼び出された場合のみです。リモート・システムでの可用性の変更は行いません。

ENABLED オプションと DISABLED オプションは CICS プログラム・リンク要求で呼び出されるプログラムには有効ですが、プログラムが Java プログラムによってメソッド呼び出しで呼び出された場合は効果がありません。

VERSION(*cvda*)

COPY 要求のために見つけた CICS のコピーが現行コピーとは異なるかどうかを示す CVDA 値を返します。値が返されるのは、COPY オプションも指定されている場合のみです。それ以外の場合、CVDA 値は変更されません。このために CICS では、コピーを状況に応じて、現行コピーとは異なるものとして定義しています。この状況とは、コピーが現在、リンク・パック域からではなく、DFHRPL または動的 LIBRARY 連結からロードされている場合、コピーが現在、DFHRPL または動的 LIBRARY 連結からではなく、リンク・パック域からロードされている場合、およびコピーが現行コピーとは異なるディスク上の場所からロードされている場合のことを言います。 SET PROGRAM コマンドは、BUNDLE リソースによってインストールされたプログラムでは機能しません。SET PROGRAM コマンドには次の CVDA 値があります。

NEWCOPY

新規コピーは異なっています。

OLDCOPY

新規コピーは異なっていません。 Java プログラムの場合は、この値が常に返されます。

条件

INVREQ

RESP2 値は以下のとおりです。

1 「DFH」で始まるプログラムに対して DISABLED、DPLSUBSET、または OPERATION が指定されました。

2 STATUS の CVDA 値が無効です。

3 NEWCOPY が指定されており、RESCOUNT がゼロではありません。

4 SHARESTATUS の CVDA 値が無効です。

5 COPY の CVDA 値が無効です。

6 現在、HOLD オプションを指定してロードされているモジュールに COPY が指定されました。

9 CEDFSTATUS の CVDA 値が無効です。

17 リモート・プログラムには無効のオプション (CEDFSTATUS、COPY、EXECUTIONSET、SHARESTATUS、または OPERATION) を指定しました。

18 マップ・セットには無効のオプション (CEDFSTATUS、EXECUTIONSET、または OPERATION) を指定しました。

19 区画セットには無効のオプション (CEDFSTATUS、EXECUTIONSET、または OPERATION) を指定しました。

20 EXECUTIONSET の CVDA 値が無効です。

22 RUNTIME の CVDA 値が無効です。

23 JVM が指定されましたが、JVMCLASS が指定されませんでした。

25 JVMCLASS に埋め込みブランクまたは NULL (x'00') 文字が含まれています。

27 このオプションは、JVM サーバー内で実行される Java プログラムの場合は無効です。

28 JVMPOOL は廃止されました。

29 SET PROGRAM COPY(NEWCOPY) は、JVM サーバー内で実行される Java プログラムの場合は無効です。

30 OPERATION に無効文字が指定されています。

31 OPERATION をオーバーライドできません。

32 REPLICATION に無効な CVDA 値があります。

300 BUNDLE リソースによってインストールされたリソースには無効な操作が指定されました。

301 CICS バンドルで定義された LIBRARY からロードされた PROGRAM には無効な操作が指定されました。

IOERR

RESP2 値は以下のとおりです。

8 COPY オプションまたは RUNTIME(NOJVM) オプションが指定されましたが、CICS はモジュールを見つけられませんでした。

NOTAUTH

RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連付けられているユーザーは、このコマンドの使用が許可されていません。

101 発行中のタスクに関連付けられているユーザーには、このコマンドが要求する方法でこの特定のリソースにアクセスする権限がありません。

PGMIDERR

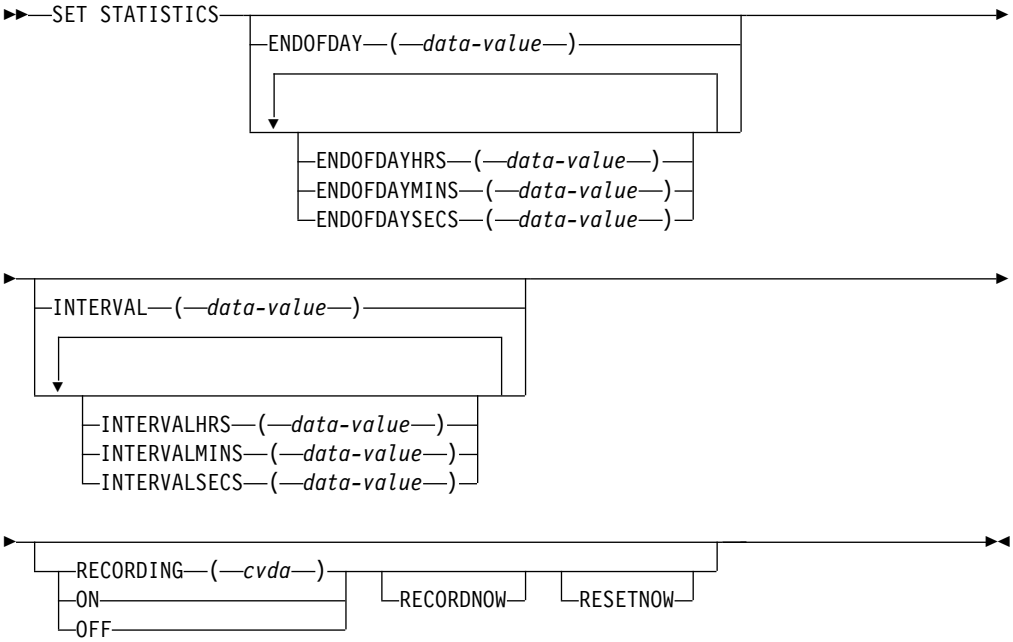
RESP2 値は以下のとおりです。

7 プログラム、マップ・セット、または区画セットが見つかりません。

SET STATISTICS

CICS 統計の記録を変更します。

SET STATISTICS



条件: INVREQ、NOTAUTH

このコマンドは、一部分がスレッド・セーフです。キーワード RECORDNOW または RESETNOW を使用すると、統計の収集が行われ、一部の AP ドメイン統計によって QR TCB に強制的に切り替わります。

CVDA の使用について詳しくは、CICS-value data areas (CVDAs)を参照してください。

説明

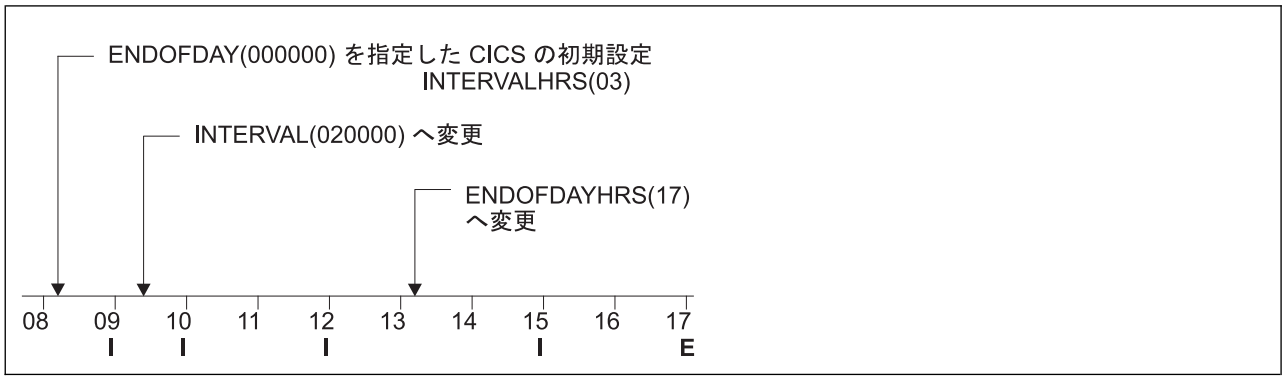
SET STATISTICS コマンドを使用して、CICS 統計の記録を制御する値を変更し、カウントをリセットすることができます。

RECORDING スイッチがオンになっている場合には、INTERVAL オプションによって管理される頻度で、CICS はシステムおよびリソースの統計を定期的に記録します。これらの統計は間隔統計と呼ばれます。終了時刻 (ENDOFDAY オプション) に、CICS は終了時刻統計を記録します。それは最後のリセット以降の間隔の統計で、スイッチがオンであるかどうかに関わらず、少なくとも 1 日 1 回記録されます。記録はシステム管理機能 (SMF) データ・セットで行われ、記録後にカウントがリセットされます。

CICS が初期化されると、間隔の整数値が終了時刻まで維持されるように最初の間隔の長さが調整されます。記録間隔を変更すると、現行の間隔に対しても同じ調整が行われます。終了時刻になると、変更の有無に関わらず、現行の記録間隔が終了します。統計が書き出されると、必要に応じて次の間隔が再度調整され、次の終了時刻までの時間が均等になるように記録間隔が設定されます。

注: これらの調整は、間隔の統計が記録されるかどうかに関わらず行われます。つまり、すべての統計をキャプチャーするには、RECORDING ON に設定するか、記録間隔を 24 時間に設定して終了時刻にすべての統計が記録されるように設定します。

次の例に、これらのルールを示します。**I** 間隔記録を示し、**E** は 1 日の終わり記録を示します。RECORDING スイッチの初期値を設定する **STATRCD** オプションを ON に設定することで、システムはコールド・スタートされます。



CICS 統計の概要では、さまざまなタイプの統計が再初期化される値を含め、CICS 統計の詳細を説明しています。

このコマンドを使用して設定できる 2 つの時間値は、以下に示す複数の方法で表すことができます。

- ENDOFDAY または INTERVAL オプションを使用して、*0hhmmss+* という形式の 4 バイトのパック 10 進数のコンポジット型で指定します。
- ENDOFDAYHRS、ENDOFDAYMINS、ENDOFDAYSECS の各オプション (ENDOFDAY の代わり)、および INTERVALHRS、INTERVALMINS、INTERVALSECS の各オプション (INTERVAL の代わり) を使用して、時間、分、秒を個別に指定します。これらのオプションは単独でも、組み合わせても使用できます。

例えば、1 時間 30 分の INTERVAL は、以下のいずれかの方法で表すことができます。

- INTERVAL(13000)
- INTERVALHRS(1)、INTERVALMINS(30)
- INTERVALMINS(90)
- INTERVALSECS(5400)

オプション

ENDOFDAY(*data-value***)**

0hhmmss+ 形式で、終了時刻を 4 バイトのパック 10 進数フィールドとして指定します。

終了時刻は現地時間で表され、00:00:00 から 23:59:59 までの範囲で指定されなければなりません。ENDOFDAY オプションを使用する場合、または複数の終了時刻オプションを使用する場合には、分と秒の部分が 59 を超えることはでき

ません。ENDOFDAYMINS 単独で使用する場合、制限は 1439 です。
ENDOFDAYSECS 単独で使用する場合、制限は 86399 です。

ENDOFDAYHRS(*data-value*)
終了時刻の時間コンポーネントをフルワード・バイナリー形式で指定します。
(ENDOFDAY オプションを参照してください。)

ENDOFDAYMINS(*data-value*)
終了時刻の分コンポーネントをフルワード・バイナリー形式で指定します。
(ENDOFDAY オプションを参照してください。)

ENDOFDAYSECS(*data-value*)
終了時刻の秒コンポーネントをフルワード・バイナリー形式で指定します。
(ENDOFDAY オプションを参照してください。)

INTERVAL(*data-value*)
0hhmmss+ 形式で、システム統計の記録間隔を 4 バイトのパック 10 進数フィールドとして指定します。間隔は、最短 1 分から最長 24 時間まで指定できます。INTERVAL オプションを使用する場合、または別個の複数の間隔オプションを使用する場合には、分と秒の部分が 59 を超えることはできません。
INTERVALMINS 単独で使用する場合、その範囲は 1 から 1440 です。
INTERVALSECS を単独で使用する場合、その範囲は 60 から 86400 です。

INTERVALHRS(*data-value*)
記録間隔の時間コンポーネントをフルワード・バイナリー形式で指定します。
(INTERVAL オプションを参照してください。)

INTERVALMINS(*data-value*)
記録間隔の分コンポーネントをフルワード・バイナリー形式で指定します。
(INTERVAL オプションを参照してください。)

INTERVALSECS(*data-value*)
記録間隔の秒コンポーネントをフルワード・バイナリー形式で指定します。
(INTERVAL オプションを参照してください。)

RECORDING(*cvda*)
間隔統計を記録するかどうかを指定します。終了時刻統計、要求統計、および非送信請求統計は、RECORDING オプションの設定に関わらず常に記録されます。(統計は常に累積され、終了時刻統計、非送信請求統計、および要求統計は、RECORDING オプションの設定に関わらず常に記録されます。非送信請求統計はリソース統計であり、リソースが破棄されたときに記録されます。要求統計は、PERFORM STATISTICS RECORD コマンド、または CEMT PERFORM STATISTICS トランザクションで使用される統計です。)

CVDA 値は次のとおりです。

オフ　間隔統計を記録しません。

ON　間隔統計を記録します。

RECORDNOW
現行の統計が即時に書き出されるように指定します。効果は PERFORM STATISTICS RECORD ALL コマンドと同じであり、同時に RESETNOW を指定しない限りカウントはリセットされません。RECORDNOW は、RECORDING 状況が ON から OFF、または OFF から ON に変更された場合のみ指定できます。

RESETNOW
統計カウンターが初期値にリセットされるように指定します。特定のカウンターの初期値は、収集される統計のタイプによって異なります。詳しくは、DSECTS および DFHSTUP レポートの CICS 統計を参照してください。リセットは、RECORDING 状況が ON から OFF、または OFF から ON に変更された場合のみ要求できます。

条件

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

1 INTERVAL 値が範囲外です。

2 ENDOFDAY 値が範囲外です。

3 RECORDING には無効な CVDA 値があります。

4 INTERVALHRS 値が範囲外です。

5 INTERVALMINS 値が範囲外です。

6 INTERVALSECS 値が範囲外です。

7 複数の間隔値が使用されており、その組み合わせが 24 時間を超えているか、1 分未満です。

8 ENDOFDAYHRS 値が範囲外です。

9 ENDOFDAYMINS 値が範囲外です。

10 ENDOFDAYSECS 値が範囲外です。

11 RESETNOW または RECORDNOW が指定されていますが、RECORDING 値が変更されていません。

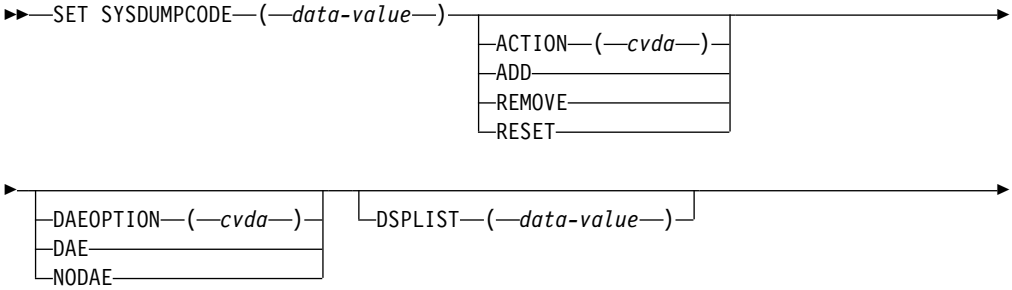
NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

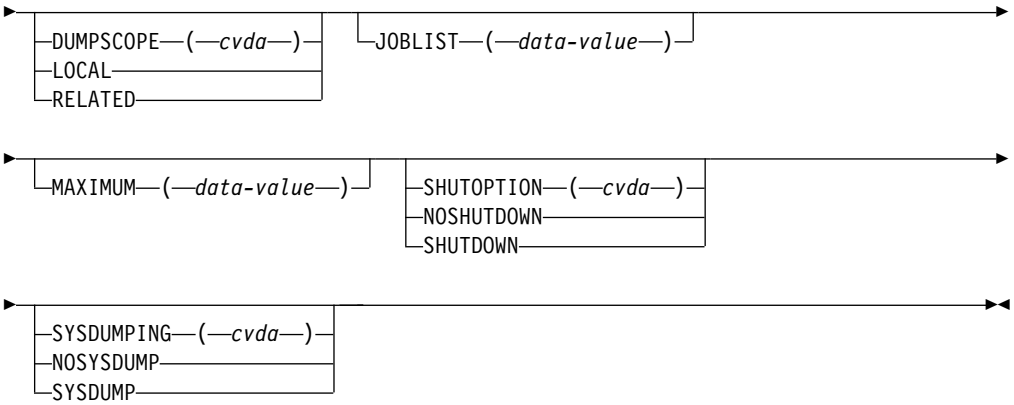
100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

SET SYSDUMPCODE

システム・ダンプ・テーブル内のエントリーを変更します。

SET SYSDUMPCODE





条件**:** DUPREC、INVREQ、IOERR、NOSPACE、NOTAUTH、NOTFND

CVDA の使用について詳しくは、CICS-value data areas (CVDAs)を参照してください。

説明

SET SYSDUMPCODE コマンドを使用すると、特定のダンプ・コードのシステム・ダンプ・テーブル・エントリーを変更したり、新規ダンプ・コードをテーブルに追加したり、ダンプ・コードを削除したりすることができます。

テーブル・エントリーは、このコードによるシステム・ダンプ要求が発生したときに取るアクションを CICS に伝えます。考えられるアクションには、システム・ダンプ (MVS SDUMP) の取得、関連した CICS 領域の SDUMP の要求の開始、および CICS のシャットダウンが含まれます。また、テーブル・エントリーはこのアクション・セットを実行できる回数 (MAXIMUM 値) も示します。最大値に達すると、要求がカウントされますが、その他の場合には無視されます。

テーブルの更新は CICS グローバル・カタログに記録され、初期始動またはコールド・スタートが行われるまで、CICS の複数の実行後も保持されます。ただし、一時テーブル・エントリーの場合を除きます。CICS は、テーブル・エントリーがないコードによるダンプ要求を受け取ると、一時エントリーを作成します。これらのエントリーと、それらのエントリーの変更は、現行の CICS の実行にのみ存続します。再始動後も一時エントリーの変更を保持したい場合は、テーブルからダンプ・コードを除去してから、追加して戻す必要があります。

システム・ダンプについては、指定可能なダンプ・コード・オプションを参照してください。

オプション

ACTION(*cvda***)**

ダンプ・コードに対して実行するアクションを指定します。 CVDA 値は次のとおりです。

ADD このコードのエントリーはテーブルに追加できます。

REMOVE
このコードのエントリーはテーブルから除去できます。**SET SYSDUMPCODE REMOVE** コマンドに他のオプションを指定することはできません。

RESET
このコードに対するダンプ要求の現在の数をゼロに設定できます。**INQUIRE SYSDUMPCODE** コマンドの CURRENT オプションを参照してください。

DAEOPTION(*cvda***)**
このダンプ・コードに対して生成されたダンプが、MVS ダンプ分析重複回避機能 (DAE) コンポーネントによる抑止に適格かどうかを指定します。CVDA 値は次のとおりです。

DAE ダンプは DAE 抑止に適格です。

NODAE
ダンプは DAE 抑止に適格ではありません。CICS がダンプの書き込みを決定している場合、MVS はそれを抑止しません。ただし、ADYSETxx parmlib メンバー内の SUPPRESS オプションと SUPPRESSALL オプションは、SDWA の VRADAE キーと VRANODAE キーによって制御されます。それらは NODAE がここで設定されていてもダンプ抑止になります。これらのオプションについては、z/OS MVS 診断: ツールと保守援助プログラムを参照してください。

SET SYSDUMPCODE ADD が指定されるときに、DAEOPTION を指定しない場合、**DAE** システム初期設定パラメーターの設定に関係なく、デフォルトで NODAE が使用されます。

DSPLIST(*data-value***)**
ダンプされるデータ・スペースのリストを指定します。このフィールドには最大で 255 文字まで入力できます。データ・スペース名はコンマで分離されます。ワイルドカードもサポートされています。データ・スペースを指定するには、所有アドレス・スペース名を指定し、その後にピリオドとデータ・スペース名を続ける必要があります。次の例は、SMSVSAM とカップリング・ファシリティーのデータ・スペースのダンプを要求する方法を示しています。

```
DSPLIST(SMSVSAM.*,XCFAS.*)
```

注**:** ユーザーには、**SET SYSDUMPCODE** で **DSPLIST** を指定するために、少なくとも SET コマンドへの CONTROL アクセス権限が必要です。

詳細については、z/OS MVS Programming: Authorized Assembler Services Reference (Volume 3) の SDUMPX の資料を参照してください。

DUMPSCOPE(*cvda***)**
このダンプ・コードによるダンプの要求が出されると、CICS が「関連」CICS 領域の SDUMP (システム・ダンプ) 要求を開始するかどうかを指定します。

関連 CICS 領域とは、同じシスプレックス内にあり、MRO/XCF によって接続され、ご使用の CICS 領域の代わりに作業を実行する領域です。具体的には、ご使用の領域内のタスクと同じ APPC トークンで作業を実行する 1 つ以上のタスクがある領域です。

この SDUMP 要求の伝搬は、このコードのテーブル・エントリーも SYSDUMP の SYSDUMPING 値を指定している場合のみ、シスプレックス環境内でのみ発生します。

他のシステムで RELATED を指定する場合、これは例外条件の原因となります。

CVDA 値は次のとおりです。

LOCAL
SDUMP 要求は送信されません。

RELATED
SDUMP 要求は送信されます。

注: DUMPSCOPE(RELATED) を設定すると、影響を受ける MVS イメージごとに 1 回のダンプが取られることになります。このダンプには、イメージ内の影響を受けるすべての CICS 領域からの出力が含まれます。詳細については、関連する CICS 領域からのダンプ・データの自動取り込みを参照してください。

DUMPSCOPE 値を指定しない場合、LOCAL が追加する項目のデフォルトです。

JOBLIST(*data-value***)**
ダンプされるアドレス・スペースのリストを指定します。このフィールドには最大で 134 文字まで入力できます。アドレス・スペース名はコンマで分離されます。ワイルドカードもサポートされています。最大で 15 個のアドレス・スペース名を入力できます。ただし、一致する結果が 15 個のアドレス・スペースを超える場合、最初の 15 個のスペースのみがダンプされます。次の例は、SMSVSAM とカップリング・ファシリティーのアドレス・スペースのダンプを要求する方法を示しています。

```
JOBLIST(SMSVSAM,XCFAS)
```

注: ユーザーには、**SET SYSDUMPCODE** で **JOBLIST** を指定するために、少なくとも SET コマンドへの CONTROL アクセス権限が必要です。

詳細については、z/OS MVS Programming: Authorized Assembler Services Reference (Volume 3) の SDUMPX の資料を参照してください。

MAXIMUM(*data-value***)**
CICS が要求するこのコードによるダンプの最大数を、0 から 999 の範囲のフルワード・バイナリー値として指定します。最大値に達すると、CICS はこのコードによるダンプ要求をカウントしますが、その他の場合には無視します。値 999 は制限がないことを意味し、MAXIMUM 値を指定しない場合の新規項目のデフォルトです。

SHUTOPTION(*cvda***)**
このシステム・ダンプ・コードによるダンプの要求の後でシステムがシャットダウンされるかどうかを指定します。 CVDA 値は次のとおりです。

NOSHUTDOWN
システムはシャットダウンされません。**SET SYSDUMPCODE ADD** コマンドから省略する場合、この値が想定されます。

SHUTDOWN
システムはシャットダウンされます。

SHUTDOWN オプションを指定する場合、終了時統計 (シャットダウン統計) は SMF に書き込まれないので、これらの統計は失われます。

SYSDUMPCODE(*data-value***)**
システム・ダンプ・テーブル・エントリーが変更される 8 文字のシステム・ダンプ・コードを指定します。 有効なシステム・ダンプ・コードには、先行ブランクまたは組み込みブランクが含まれません。

SYSDUMPING(*cvda***)**
このコードによるシステム・ダンプ要求がダンプを生成するかどうかを指定します。 CVDA 値は次のとおりです。

NOSYSDUMP
ダンプは取られません。

SYSDUMP
ダンプを取ります。

SYSDUMP を指定する場合であっても、このコードの要求数が MAXIMUM に達しておらず、システム・ダンプがグローバルに抑止されていない (**INQUIRE SYSTEM** コマンドの DUMPING オプションを参照) 場合にのみ、CICS はダンプを取ります。該当する場合、MVS は DAEOPTION 値に応じてダンプを抑止することもできます。

SYSDUMPING オプションが **SET SYSDUMPCODE ADD** コマンドから省略される場合、SYSDUMP が想定されます。

条件

DUPREC
RESP2 値は以下のとおりです。

10 ADD が、システム・ダンプ・テーブルですでにダンプ・コードに指定されています。

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

2 ACTION に無効な CVDA 値があります。

4 SYSDUMPING に無効な CVDA 値があります。

5 MAXIMUM 値が範囲外です。

6 SHUTOPTION に無効な CVDA 値があります。

7 REMOVE が他のオプションと一緒に指定されています。

9 ダンプ・コードが無効です。

13 DUMPSCOPE に無効な CVDA 値があります。

15 DAEOPTION に無効な CVDA 値があります。

16 JOBLIST 値が無効です。

17 DSPLIST 値が無効です。

IOERR

RESP2 値は以下のとおりです。

11 CICS カタログの更新時にエラーが発生しました。このエントリーは、現在の実行で変更されましたが、再始動のために記録されていません。

NOSPACE

RESP2 値は以下のとおりです。

12 CICS カタログが満杯です。このエントリーは、現在の実行で変更されましたが、再始動のために記録されていません。

NOTAUTH

RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

NOTFND

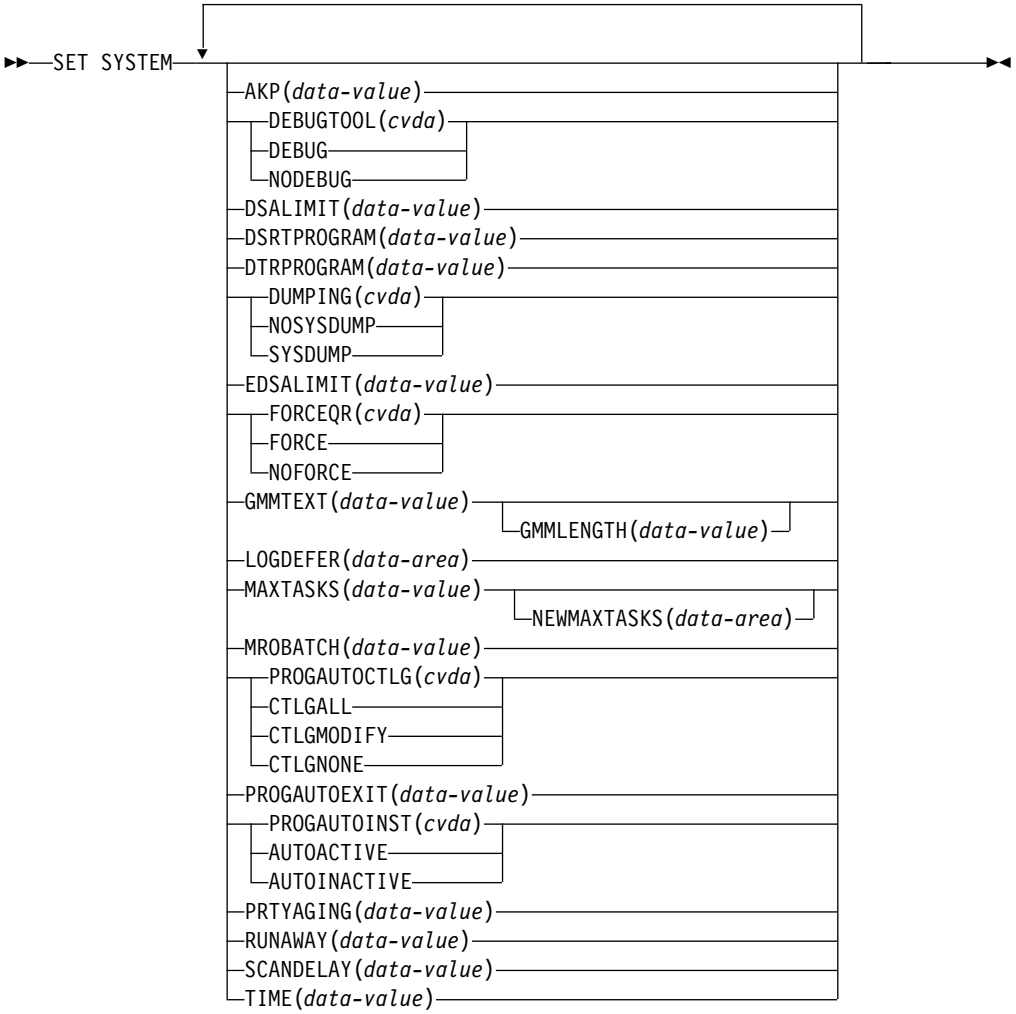
RESP2 値は以下のとおりです。

1 ダンプ・コードが見つかりません。

SET SYSTEM

CICS システム・オプション値を変更します。

SET SYSTEM



条件: INVREQ、LENGERR、NOSTG、NOTAUTH、NOTSUPERUSER

このコマンドはスレッド・セーフです。

注:

1. CVDA の使用について詳しくは、DEVICE オプションの CVDA 値を参照してください。
2. 特定の動的ストレージ域のストレージの『クッション』のサイズを戻す、CSCS、ECSCS、USCS、EUSCS、および ERSCS オプションが廃止されました。これらのオプションはオブジェクトの互換性を維持するために、実行時に受け入れられますが、無視されます。変換プログラムでも受け入れられますが、警告メッセージが出されます。

説明

CICS システムの実行方法を制御するオプションの値を変更するには、**SET SYSTEM** コマンドを使用します。

これらの値は、最初にシステム初期化パラメーターによって設定されます。このコマンドでそれらの値に対応するシステム初期化パラメーターは、特に記載がない限

り、同じまたは類似する名前が付けられています。 513 ページの表 38 に、正確な対応リストを示します。

オプション

AKP(*data-value***)**
活動キーポイント・トリガー値をフルワード・バイナリー値として指定します。これは、キーポイント間の CICS システム・ログ・ストリーム出力バッファーへの書き込み要求の数です。数値は、ゼロ (キーポイント処理をオフにする)、または 50 から 65535 までの範囲にする必要があります。キーポイント処理 (**AKPFREQ** システム初期設定パラメーターをゼロに設定) を行うことなく CICS を初期化すると、初期値をオーバーライドしてトリガー値を設定できます。

DEBUGTOOL(*cvda***)**
デバッグ・ツールの制御下で実行するプログラムを選択するためにデバッグ・プロファイルを使用するかどうかを示す、CVDA 値を指定します。デバッグ・プロファイルを使用するデバッグ・ツールは、以下のとおりです。

- コンパイル言語アプリケーション・プログラム (COBOL、PL/I、C、C++、およびアセンブラーで作成されたプログラム) 用のデバッグ・ツール
- リモート・デバッグ・ツール (コンパイル言語アプリケーション・プログラムおよび Java プログラムの場合)

CICS 実行診断機能 (CEDF) などの他のデバッグ・メカニズムは、デバッグ・プロファイルを使用しません。

CVDA 値は以下のとおりです。

DEBUG
CICS デバッグ・プロファイルを使用して、デバッグ・ツールの制御下で実行されるプログラムを選択することを指定します。

NODEBUG
デバッグ・ツールの制御下で実行されるプログラムを選択するために、CICS デバッグ・プロファイルを使用しないことを指定します。

デバッグ・プロファイルの使用について詳しくは、デバッグ・プロファイルを参照してください。

DSALIMIT(*data-value***)**
ストレージの最大量をバイト単位で、フルワード・バイナリー値として指定します。CICS はその中で、16 MB 境界より下にある 4 つの個別の動的ストレージ域 (DSA) にストレージを割り振ることができます。**DSALIMIT** で現在の制限より低い値を指定すると、CICS が新しい制限をすぐに実装しない場合がありますが、ストレージが解放されるにつれて実装を試みます。**DSALIMIT** の範囲は 2 MB から 16 MB までです。詳しくは、DSALIM システム初期設定パラメーターを参照してください。

注: DSA の制限を動的に変更している間に可能ですが、緊急事態に対処し、領域の反復を回避しようとする場合を除いて、これを行わないようにお勧めします。CICS の観点から DSA 制限の変更が成功する可能性がありますが、制限を増やすと、他の問題が生じる可能性があります。これは、DSA を大きくすると連続しなくなるからです。MVS は、下方に拡大する high private storage と上方に拡大する low private storage の両方からストレージを割り振ります。

DSA 制限を動的に増やすと、MVS 専用ストレージ域の真ん中に CICS によって新しいストレージが割り振られます。この領域における MVS によるストレージの使用に応じて、結果として S878 または S80A 異常終了が生じるリスクが高まる可能性があります。

同様に、DSA 制限を動的に減らすと、MVS で使用するためにストレージが戻されますが、ストレージがどこに戻されるかが確実ではなく、おそらく、MVS が必要としている領域にはありません。

CICS 統計を定期的にモニターして、DSA 制限と MXT 制限をプロアクティブに調整してください。

DSRTPROGRAM(*data-value***)**
分散ルーティング・プログラムの 8 文字の名前を指定します。

DTRPROGRAM(*data-value***)**
動的ルーティング・プログラムの 8 文字の名前を指定します。

DUMPING(*cvda***)**
CICS システム・ダンプを取ることが抑制されているかどうかを示す CVDA 値を指定します。CVDA 値は以下のとおりです。

NOSYSDUMP
システム・ダンプは抑制されます。

SYSDUMP
システム・ダンプは抑制されません。

EDSALIMIT(*data-value***)**
CICS が 16 MB 境界より上で 2 GB 境界より下にある個々の動的ストレージ域に割り振ることができる、ストレージの最大量をバイト単位で示すフルワード・バイナリー値を指定します。**EDSALIMIT** で現在の制限より低い値を指定すると、CICS は新しい制限をすぐに実装しない場合がありますが、ストレージが解放されるにつれて実装を試みます。詳しくは、EDSALIM システム初期設定パラメーターを参照してください。

注**:** EDSA の制限を動的に変更している間に可能ですが、緊急事態に対処し、領域の反復を回避しようとする場合を除いて、これを行わないようにお勧めします。CICS の観点から EDSA 制限の変更が成功する可能性がありますが、制限を増やすと、他の問題が生じる可能性があります。これは、EDSA を大きくすると連続しなくなるからです。MVS は、下方に拡大する high private storage と上方に拡大する low private storage の両方からストレージを割り振ります。EDSA 制限を動的に増やすと、MVS 専用ストレージ域の真ん中に CICS によって新しいストレージが割り振られます。この領域における MVS によるストレージの使用に応じて、結果として S878 または S80A 異常終了が生じるリスクが高まる可能性があります。

同様に、EDSA 制限を動的に減らすと、MVS で使用するためにストレージが戻されますが、ストレージがどこに戻されるかが確実ではなく、おそらく、MVS が必要としている領域にはありません。

CICS 統計を定期的にモニターして、EDSA 制限と MXT 制限をプロアクティブに調整してください。

FORCEQR(*cvda*)

CONCURRENCY(THREADSAFE) として指定されたすべてのユーザー・アプリケーション・プログラムが、CONCURRENCY(QUASIRENT) プログラムとして指定された場合のように CICS QR TCB の下で実行されるように、CICS が強制するかどうかを指定します。

このオプションを使用して、テスト環境で、非スレッド・セーフであることが実証された、完全にはテストされていないスレッド・セーフ・アプリケーション・プログラムを実行することができます。

FORCEQR オプションは、スレッド・セーフとして定義された、タスク関連ユーザー出口、グローバル・ユーザー出口、またはユーザー置き換え可能モジュールとして呼び出されない、すべてのプログラムに適用されます。

CVDA 値は以下のとおりです。

FORCE
CONCURRENCY(THREADSAFE) 属性を使用して定義されている場合でも、すべての CICSAPI ユーザー・アプリケーション・プログラムを QR TCB の下で強制的に実行します。この強制は、特定のプログラム、例えば OPENAPI プログラムや XPLINK でコンパイルされた C/C++ プログラムなどには適用されません。詳細については、FORCEQR システム初期設定パラメーター を参照してください。

NOFORCE
CICS は、プログラム・リソース定義で定義された CONCURRENCY(THREADSAFE) 属性を尊重し、それらを QR TCB またはオープン TCB の下で呼び出します。

このオプションを使用して、**FORCEQR** システム初期設定パラメーターで指定されたオプションを動的に変更できます。

このオプションに対する変更は、現在呼び出されているプログラムには適用されず、FORCEQR 状況の変更後に最初に呼び出されたプログラムだけに適用されます。

GMMLENGTH(*data-value*)

『good morning』 メッセージ・テキストの長さをハーフワード・バイナリー値で指定します。この値の範囲は 1 から 246 までです。

GMMTEXT(*data-value*)

『good morning』 メッセージ・テキストを指定します。このメッセージ・テキストの長さは最大 246 文字です。

LOGDEFER(*data-area*)

ログ延期間隔をハーフワード・バイナリー値で指定します。ログ延期間隔は、MVS システム・ロガーを起動する前に強制ジャーナル書き込み要求を遅らせる期間を決定する場合に、CICSログ・マネージャーで使用される期間です。値の範囲は 0 から 65535 です。**LOGDEFER** パラメーターおよび関連する **LGDFINT** システム初期設定パラメーターについて詳しくは、LGDFINT システム初期設定パラメーターを参照してください。

MAXTASKS(*data-value*)

CICS システムでどの時点においてもディスパッチに適したタスクの最大数を、フルワード・バイナリー値として指定します。アクティブなタスクと中断状態の

タスクのどちらもこの制限に考慮されますが、初期ディスパッチ点に達していないタスクは考慮されません。端末管理タスクやジャーナル管理タスクなどのシステム・タスクは考慮されません。値の範囲は 10 から 2000 までです。

MROBATCH(*data-value***)**
CICS が待機している MRO および DASD I/O イベントのリストに含まれるイベントの数を示すフルワード・バイナリー値として指定します。この数のイベントが発生すると、CICS が明示的な通知を受けてそれらを処理することになります。値の範囲は 1 から 255 までです。

NEWMAXTASKS(*data-area***)**
MAXTASKS の新規の値をフルワード・バイナリー形式で返します。

SET SYSTEM コマンドを使用して **MAXTASKS** 値を設定すると、要求した値に対する十分なストレージがない場合には、CICS は NOSTG 条件を出し、コマンドの処理を続行し、指定した値を低減します。**NEWMAXTASKS** は、そのような調整後の値を示します。

PROGAUTOCTLG(*cvda***)**
自動インストールされたプログラム定義をカタログするかどうか、およびいつカタログするかを指定します。カタログされた定義は、ウォーム・リスタートまたは緊急時再始動時に復元されます。カタログされない定義はシャットダウン時に廃棄され、その後の CICS の実行で使用される場合には再度インストールする必要があります。

カタログするかどうかの決定は、初期インストール時と自動インストールされた定義の変更時の両方で行われ、そのときの PROGAUTOCTLG の値に基づきます。 CVDA 値は以下のとおりです。

CTLGALL
定義は、インストールされ変更されたときにカタログされます。

CTLGMODIFY
定義は変更時にのみカタログされます。

CTLGNONE
定義はカタログされません。

PROGAUTOEXIT(*data-value***)**
モデル定義を提供するために CICS プログラム自動インストール・コードによって呼び出されるユーザー提供プログラムの 8 文字の名前を戻します。

注: プログラム自動インストール・プロセスで使用するには、明示的な PROGRAM 定義によって、または別の自動インストール・プログラムが有効なときには自動インストールによって、このプログラム (およびそれを呼び出すすべてのプログラム) をインストールする必要があります。インストールしない場合は、次回のプログラム自動インストール・プロセスが失敗し、CICS によって非アクティブになります。

PROGAUTOINST(*cvda***)**
プログラムの自動インストールがアクティブであるか非アクティブであるかを指定します。定義されていないプログラム、マップ・セット、または区画セットをタスクが要求する場合、プログラムの自動インストールがアクティブであれば、CICS はその定義を自動的に作成しようとします。アクティブでなければ、CICS は PGMIDERR 例外条件を出します。 CVDA 値は以下のとおりです。

AUTOACTIVE
プログラムの自動インストールはアクティブです。

AUTOINACTIVE
プログラムの自動インストールがアクティブです。

PRTYAGING(*data-value***)**
CICS がディスパッチを待機するタスクの優先順位を大きくする率をフルワード・バイナリー値として指定します。ディスパッチのない待ち時間について、**PRTYAGING** 値によって設定されたミリ秒ごとに、CICS はタスクの優先度を 1 ずつ増やします。値は 0 から 65535 までの範囲でなければなりません。

RUNAWAY(*data-value***)**
デフォルトのランナウェイ・タスク時間を、ミリ秒単位のフルワード・バイナリー値として指定します。この値は、ランナウェイ・タスク時間を指定しないプロファイルを使用してトランザクションを実行するタスクで使用されます (INQUIRE TRANSACTION オプション - RUNAWAY で、**INQUIRE TRANSACTION** コマンドの**RUNAWAY** オプションを参照してください)。

値はゼロ (デフォルト値を使用するタスクではランナウェイ・タスクの検出が不要) にするか、250 から 2700000 までの範囲にする必要があります。指定する値は、250 の倍数に切り捨てられます。

SCANDELAY(*data-value***)**
CICS 領域の端末スキャン遅延時間の値を、ミリ秒単位のフルワード・バイナリー値として指定します。これは、最初は ICVTSD システム初期設定パラメーターによって設定されます。デフォルトの設定値はゼロです。値は 0 から 5000 までの範囲の値である必要があります。端末スキャン遅延機能は、以前のリリースでは、オーバーヘッドを分散して要求を処理するために、アプリケーションによる一部のタイプの端末出力要求を CICS が処理する速度を制限する目的で使用されていました。CICS システムが SNA 以外のネットワークを使用していたときには、ゼロ以外の値を指定することが適切な場合もありました。ただし SNA および IPIC ネットワークでは、応答時間を向上させ、仮想ストレージを最良の方法で使用するには、ICVTSD を 0 に設定するのが適切です。

TIME(*data-value***)**
ディスパッチの準備ができたタスクがない場合に、CICS がオペレーティング・システムに制御を与えるミリ秒単位の最大間隔を、フルワード・バイナリー値で指定します。この値は最初は ICV システム初期設定オプションによって設定され、『領域終了時間間隔』と呼ばれることがあります。**TIME** 値は 100 から 3600000 までの範囲で、**SCANDELAY** の値以上でなければなりません。現行の **SCANDELAY** 値を判定するには、**INQUIRE SYSTEM SCANDELAY** コマンドを使用します。

条件

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

1 MAXTASKS 値が範囲外です。

3 AKP 値が範囲外です。

5 TIME が 100–3600000 の範囲内ではありません。

6 RUNAWAY 値が範囲外です。

7 MROBATCH が 1–255 の範囲内ではありません。

9 DUMPING には無効な CVDA 値があります。

12 AKP が指定されましたが、キーポイント処理なしで CICS が初期化されました。

13 TIME が SCANDELAY より小さくなっています。

14 PRTYAGING が 0–65535 の範囲内ではありません。

15 SCANDELAY が 0–5000 の範囲内ではありません。

20 DSALIMIT が 2 MB から 16 MB の範囲内ではありません。

21 EDSALIMIT が 48MB から 2047MB の範囲内ではありません。

22 DSALIMIT を割り振るための MVS ストレージが不足しています。

23 EDSALIMIT を割り振るための MVS ストレージが不足しています。

29 LOGDEFER 値が範囲外です。

30 MAXSOCKETS が 1-65535 の範囲内ではありません。

LENGERR

RESP2 値は以下のとおりです。

20 GMMLENGTH 値が範囲外です。

NOSTG

RESP2 値は以下のとおりです。

16 ストレージの制約のため、MAXTASKS に対して要求された値が CICS によって削減されました。NEWMAXTASKS オプションを参照してください。

NOTAUTH

RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

NOTSUPERUSER

RESP2 値:

15 CICS ジョブが実行されているユーザー ID がスーパーユーザー権限を持っていないため、CICS で、MAXSOCKETS に対して要求された値を設定できませんでした。CICS が、SYS1.PARMLIB メンバー BPXPRMxx で指定された MAXFILEPROC パラメーターの値に制限を設定しました。

SET TASK

タスクの消去またはその優先度の変更を行います。

SET TASK

条件: INVREQ、NORMAL、NOTAUTH、TASKIDERR

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

タスクをパージ (異常終了) し、その優先度を変更するには、**SET TASK** コマンドを使用します。ただし、このコマンドですべてのタスクを変更できるわけではありません。特に、システム操作に不可欠な CICS 作成のタスクは対象ではありません。

CVDA の使用の詳細については、CICS-value data areas (CVDAs)を参照してください。

Java のタスクが PURGE 要求に応答する方法に関する重要情報については、 836 ページの『Java タスクのパージ』を参照してください。

オプション

PRIORITY(*data-value***)**
タスクの優先度をフルワード・バイナリー値として指定します。値は 0 から 255 までの範囲で指定する必要があります。

PURGETYPE(*cvda***)**
CICS がタスクをパージできることを指定し、パージする条件を示します。

誤った時点でタスクをパージすると、データ保全性が失われ、場合によっては CICS が異常終了する可能性があります。システム自体にリスクがないと思われる状態にタスクが到達するまで、CICS は常にパージを延期します。ただし、データ保全性も確保されるまで CICS が待機するかどうかは指定できます。

CICS は、タスクをパージまたは強制パージするときに、そのタスクに Db2 で現在アクティブな Db2 スレッドがあることを検出すると、CICS タスクのパージを進める前に Db2 スレッド取り消し要求を発行します。これにより、パージによって Db2 の問題が発生することがなく、Db2 の更新が安全にバックアウトされるようになります。タスクに Db2 スレッドがあっても、そのスレッドが現在 Db2 でアクティブでなければ、スレッドの取り消しは必要ありません。タスクをパージした結果として CICS が作業単位をバックアウトする場合には、その Db2 スレッドが、Db2 の更新をバックアウトするために通常どおり使用されます。この機能を実行するには、DB2 バージョン 11 以降で APAR PI92893 が必要です。

CICS がパージ要求を受け入れると、**SET TASK** に対する NORMAL 応答を戻します。RESP2 値を検査することによって、実行を延期したかどうかを識別できます。 RESP2 がゼロである場合、パージは完了しました。RESP2 が 13 である場合、パージは延期されました。CVDA 値は以下のとおりです。

FORCEPURGE
データ保全性に関係なく、システム保全性と一致すると直ちに、タスクは終了します。

注: CICSは、強制パージが安全であるかどうかを常に判別できるわけではありません。FORCEPURGE を指定すると、システムが異常終了する可能性があります。

KILL
タスクは終了されることになります。システムおよびデータ保全性は保証されません。KILL オプションは、PURGE および FORCEPURGE オプションを拡張します。このオプションは、タスクの PURGE または FORCEPURGE を試みた後で初めて使用する必要があります。KILL オプションはどのような種類の保全性も保証しませんが、ある状況では、停止された領域が処理を継続できるように、ユーザーがその領域を解放することを許可します。場合によっては (例えば、タスクがバックアウト処理中に kill される場合)、CICS は異常終了します。

PURGE
システムおよびデータの保全性を維持できると直ちに、タスクを終了することができます。

注: 実行している TRANSACTION の定義で SPURGE=NO が指定されている場合、この CVDA 値でタスクをパージできません。

TASK(*data-value***)**
変更するタスクの、4 バイトのパック 10 進数のシーケンス番号を指定します。

条件

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

3 PURGETYPE の CVDA 値が無効です。

4 PRIORITY が 0 から 255 の範囲内ではありません。

5 タスクがパージできる有効な状態ではありません。次のいずれかに該当します。
- ターゲット・トランザクションが SPURGE = NO で定義されている
- ターゲット・トランザクションが CICS で作成されたタスクである (すなわち、システム・タスクである)
- ターゲット・トランザクションのパージ延期がすでにスケジュールされている (すなわち、直前の PURGE の結果、Resp2=13 になった)
- ターゲット・トランザクションが終了中である
- ターゲット・トランザクションが中断も待機もしていない

6 タスクを強制的にパージする試みが、これまでに行われていません。

NORMAL
RESP2 値は以下のとおりです。

13 タスクがパージできる有効な状態ではありません。ターゲット・トラン

ザクションは、トランザクションの初期化中であるか、パージを即時に実行できないディスパッチャー状態です。ターゲット・トランザクションがトランザクションの初期化中である場合、異常終了延期のマークが付けられます。フラグが設定され、接続処理の終わりにトランザクションが AKC3 で異常終了します。ターゲット・トランザクションが、パージを許可するディスパッチャー状態である場合、ディスパッチャー状態が、パージを許可する状態に変わるか、異常終了延期ハンドラーに制御が渡されるまで、パージは延期されます。

NOTAUTH

RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連付けられているユーザーは、このコマンドの使用が許可されていません。

TASKIDERR

RESP2 値は以下のとおりです。

1 タスクは見つかりません。

2 タスクは CICS により保護され、このコマンドによる修正対象ではありません。

Java タスクのパージ

状況によっては、JVM 全体を停止せずに、Java で実行中のタスクを終了することが望ましい場合があります。SET TASK PURGE を使用しても、Java ワークロードが終了する保証はありませんが、これが有効な場合もあります。Java で実行されるタスクに対して SET TASK PURGE を使用する場合は注意が必要です。破壊的な影響が生じることがないように、実行中のワークロードについて理解している必要があります。

このタスクについて

CICS TS 5.4 より前、個別のタスクに対する TASK PURGE は、そのタスクが Java を実行している場合、許容されていませんでした。現在は Java タスクのパージが可能になりましたが、Java プログラミング言語と JVM は、協調的割り込み処理を行わずにスレッドを停止できるように設計されていないことに注意してください。CICS は、スレッドを強制終了するためにさらに強力な手段を使用しており、これが有効ならば Java プログラムはエラーによって終了します。具体的には、Thread.stop() メソッドを使用して、ThreadDeath エラーがアプリケーションに直接注入されます。この結果、Java スタックが即時にアンワインドされ、通常のアプリケーション・フローより先にロックが解放されます。この処理により、共用 Java オブジェクトとデータが不整合な状態のままになる可能性があります。まだ実行されているアプリケーションに対する影響を慎重に評価する必要があります。

すべての Java コードが割り込みを尊重するように設計されていることが理想的です。しかし実際にはそれは困難で、サード・パーティー製のコンポーネントを使用している場合は特に難しくなります。JVM でスレッドを終了させることが困難な理由と、Java プログラマーがアプリケーションを割り込み可能にするために従う必要のあるパターンを理解するには、Java Thread Primitive Deprecationの情報を参照してください。

手順

SET TASK PURGE コマンドが発行されたときにタスクが Java で実行中の場合は、親 JVMSERVER が識別されます。タスクが実行されている Java スレッドが検出され、そのスレッドに対して Thread.stop() が発行されます。正常に処理されると、ThreadDeath エラーが返され、Java スレッドが終了します。

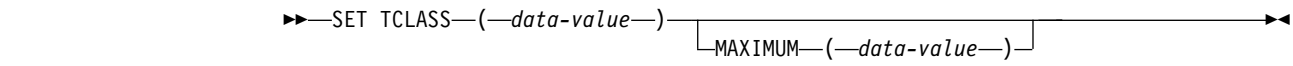
注: PURGE から保護されたタスクに対しては、FORCEPURGE を発行する必要があります。

重要: タスク中断不可のループをタスクが実行している場合は、Java TASK KILL コマンドでさえ効果がない場合もあります。短いタスク中断不可のループに入っている Java タスクを停止する唯一の方法は、JVMSERVER DISABLE KILL にエスカレートすることです。

SET TCLASS

トランザクション・クラスのタスクの最大数を設定します。

SET TCLASS



条件: INVREQ、NOTAUTH、TCIDERR

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

SET TCLASS コマンドを使用すると、特定トランザクション・クラスで、同時に実行できるタスクの最大数を設定することができます。

このコマンドは、以前のリリースの CICS の番号付きクラスに限定され、これらのリリースとの互換性のために保持されます。 869 ページの『SET TRANCLASS』のページで説明されている SET TRANCLASS コマンドは、同じ機能を提供し、古い番号付きクラスまたは新しい名前付きクラスのどちらにも使用できます。

オプション

MAXIMUM(*data-value*)
トランザクション・クラスで同時に実行できるタスクの最大数をフルワード・バイナリー・フィールド値で指定します。0 から 999 までの範囲の値を指定できます。(この値は、SET TRANCLASS コマンドの MAXACTIVE 値に相当します。MAXACTIVE 制限を変更するときに何が起きるかについては、 869 ページの『SET TRANCLASS』 のページでこのオプションの説明を参照してください。)

TCLASS(*data-value*)
変更しているタスク・クラスの番号をフルワード・バイナリー値で指定します。この値は、0 から 10 の範囲内になければなりません。

条件

INVREQ

RESP2 値は以下のとおりです。

2 MAXIMUM 値が、0 から 999 の範囲ではありません。

NOTAUTH

RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

TCIDERR

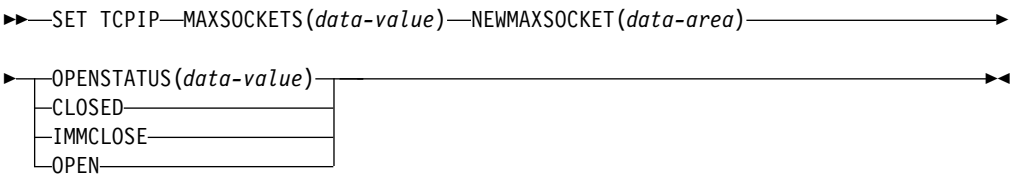
RESP2 値は以下のとおりです。

1 トランザクション・クラスが見つかりません。

SET TCPIP

CICS 内部 TCP/IP サポートを変更します。

SET TCPIP



条件: INVREQ、IOERR、NOTAUTH、NOTSUPERUSER

このコマンドはスレッド・セーフです。

CVDA の使用について詳しくは、CICS-value data areas (CVDAs)を参照してください。

説明

SET TCPIP を使用すると、CICS 内部ソケット・サポートをオープンまたはクローズすることができます。

オプション

MAXSOCKETS(*data-value*)

CICS ソケット・ドメインで管理できる IP ソケットの最大数を、フルワード・バイナリー・フィールドとして指定します。

CICS ジョブの実行に使用されているユーザー ID にスーパーユーザー権限がある場合、最大 65535 個のソケットをソケット・ドメインで管理できます。

CICS ジョブの実行に使用されているユーザー ID にスーパーユーザー権限がない場合、ソケット・ドメインによって管理できるソケットの最大数は、

SYS1.PARMLIB メンバー BPXPRMxx の MAXFILEPROC パラメーターで指定された数に制限されます。これより大きい値を指定しても、CICS はその制限を MAXFILEPROC に設定します。

CICS によって管理されていないスレッドで実行中の Java プログラムによって作成されるソケットは、MAXSOCKETS 制限にカウントされないことに注意してください。

この制限を、現在アクティブなソケット数より小さい数に減らすと、CICS は、アクティブ・ソケットの数が制限を下回るまで、新規ソケットを作成できないようにします。

NEWMAXSOCKET(*data-area*)

MAXSOCKETS の新規値をフルワード・バイナリー・フィールドで戻します。

CICS ジョブの実行に使用されているユーザー ID にスーパーユーザー権限がない場合、CICS は MAXSOCKETS 制限を、要求よりも少ない値に設定する可能性があります。NEWMAXSOCKET により、CICS が設定した制限が分かります。

OPENSTATUS(*cvda*)

TCPIP が使用可能であるかどうか (すなわち、新規着信作業を処理し、進行中の作業を完了できるかどうか) を指定し、TCPIP サポートを使用不可にする場合は、その使用不可を実行する方法を指定します。CVDA 値は次のとおりです。

OPEN

CICS 内部 TCPIP サポートをオープンできます。

CLOSED

CICS 内部ソケット・サポートをクローズできます。現在オープンしている場合、CICS はすべての内部ソケット・アクティビティーを静止させてから、着信する CICS Web インターフェースの作業を CICS が listen しているソケットをクローズします。CICS 内部ソケットを使用しているタスクは完了できます。

IMMCLOSE

CICS 内部ソケットをクローズできます。現在使用可能である場合、CICS はそのソケットを使用しているすべてのタスクを異常終了させてから、CICS が着信作業を listen しているソケットをクローズします。

条件

INVREQ

RESP2 値は以下のとおりです。

4 TCPIP が使用不可です (TCPIP=NO)

6 TCPIP はすでにオープンしています (SET OPEN の場合)

11 STATUS の CVDA 値が無効です。

12 後続の別のタスクが CICS 内部ソケット・サポートの CLOSE を要求したため、OPEN 要求は完了しませんでした。

16 MAXSOCKETS が 1 から 65535 の範囲内ではありません。

NORMAL

RESP2 値:

14 TCPIP はオープンしましたが、MAXSOCKETS の制限に達したため、一部の TCPIPSERVICE がオープンしませんでした。

NOTAUTH

RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

NOTSUPERUSER

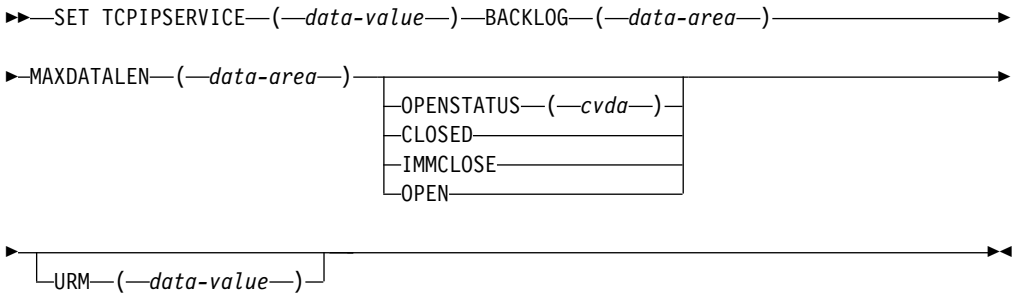
RESP2 値は以下のとおりです。

15 CICS ジョブの実行に使用されているユーザー ID にスーパーユーザー権限がないため、CICS で、MAXSOCKETS 制限を要求された値に設定できませんでした。CICS が、SYS1.PARMLIB メンバー BPXPRMxx で指定された MAXFILEPROC パラメーターの値に制限を設定しました。

SET TCPIPSERVICE

CICS 内部 TCP/IP サポートを使用しているサービスの状況を変更します。

SET TCPIPSERVICE



条件: INVREQ、NOTAUTH、NOTFND

このコマンドはスレッド・セーフです。

CVDA の使用の詳細については、CICS-value data areas (CVDAs)を参照してください。

説明

SET TCPIPSERVICE は、CICS 内部 TCP/IP サポートを使用するサービスに関連したポートでの着信要求の listen を開始または停止するように CICS に指示し、サービスの属性を変更します。

注: このコマンドは、CICS Sockets Feature に TCP/IP が提供するソケット・サポートには無効です。

CICS バンドル内で定義され、インストールされた TCPIPSERVICE リソースの状況を変更するには、CICS バンドルを使用可能または使用不可にします。 CICS バンドルを使用不可にしたにもかかわらず、サービスがまだクローズしていない場

合、動的に生成されたリソースに対して **SET TCPIPSERVICE IMMCLOSE** コマンドを発行して、サービスを即時にクローズすることができます。

CICS バンドルで定義され、インストールされた TCPIPSERVICE リソースの属性に変更を加えるには、CICS Explorer のリソース・エディターを使用することにより、CICS バンドル内の定義に変更を加え、CICS バンドルまたはそのデプロイ時に使用されたアプリケーションの新しいバージョンをインストールします。定義を更新するには、古いバージョンの CICS バンドルを新しいもので置き換えます。その手順については、CICS Explorer 製品資料内の『Working with bundles』を参照してください。

- CICS バンドルが単体としてデプロイされた場合、またはプラットフォームと一緒にデプロイされた場合は、個別に更新できます。
- CICS バンドルがアプリケーションの一部としてデプロイされた場合、またはアプリケーション・バインディングと一緒にデプロイされた場合は、アプリケーション全体を更新してください。

動的に生成されたリソースの属性を変更するために **SET TCPIPSERVICE** コマンドを使用することは可能ですが、変更内容はカタログされず、CICS のウォーム・リスタートの後に回復されません。

オプション

BACKLOG(*data-area***)**

TCP/IP でサービスによる処理を待機するキューに入れることができる要求の最大数を変更します。このサービスは、この値を変更する前に CLOSED でなければなりません。BACKLOG の値が TCP/IP 属性 SOMAXCONN の値よりも小さい場合、TCPIPservice は、BACKLOG 属性で指定されたバックログ値を使用してオープンされます。 BACKLOG の値が SOMAXCONN よりも大きい場合、TCPIPservice は SOMAXCONN で指定されたバックログ値を使用してオープンされます。値の 0 は、TCPIPService が SOMAXCONN で指定されたバックログ値を使用してオープンされることを示します。

TCP/IP でサービスによる処理を待機するキューに入れることができる要求の最大数を変更します。このサービスは、この値を変更する前に CLOSED でなければなりません。BACKLOG をゼロに設定すると、CICS は接続をまったく受け付けません。BACKLOG の値が SOMAXCONN の TCP/IP 構成値よりも大きい場合、TCP/IP は SOMAXCONN 属性で指定された値を使用します。

HTTP 接続のパフォーマンス・チューニングが有効にされている場合、CICS が最大容量に達すると、すべてのインバウンド HTTP 接続のオープン要求は、CICS 外部の、TCPIPSERVICE のリスニング接続のバックログ・キューに入ります。このキューがいっぱいになると接続要求は拒否されるため、BACKLOG の値は十分に大きい値にしてください。リスニング接続に使用しているバックログ値を表示するには、CICS TCP/IP サービス: リソース統計を使用するか、NETSTAT ALL コマンドを使用して、ローカル・ホストの状況に関する情報 (リスニング接続のバックログに関する情報を含む) を入手します。
接続バランシングが使用されている場合、バックログ・キュー項目数は、最も適したリスナーを判別する処理に含まれるため、ポートを共用する CICS 領域上のすべての TCPIPSERVICE 全体で BACKLOG 属性を考慮してください。

OPENSTATUS(*cvda*)

サービスの状況を変更します。CVDA 値は次のとおりです。

OPEN

CICS は、指定されたポートで着信要求の listen を開始します。TCPIPSERVICE で SPECIFTCPS 値が指定される場合、その名前でインストールされ、オープンしている TCPIPSERVICE を見つける必要があります。OPEN が成功するには、同じセキュリティー属性の設定値が必要です。SPECIFTCPS で指定された TCPIPSERVICE が、オープンしている別の TCPIPSERVICE にすでに関連付けられている場合、OPEN は失敗します。

CLOSED

CICS は、このサービスの新規接続の受け入れを停止します。関連したすべてのソケットがクローズすると、サービスがクローズします。このサービスを使用している開始済みのタスクは完了できます。

SET TCPIPSERVICE OPENSTATUS(CLOSED) コマンドが発行された後、CICS は以下のように HTTP 持続接続をクローズしようとします。

- HTTP 持続接続の要求がある場合、CICS は次の要求の処理を許可します。処理が完了すると、CICS はクライアントに close ヘッダーを送信してから、HTTP 持続接続をクローズします。
- HTTP 持続接続の要求がない場合、CICS は、30 秒以内、またはこの値が 30 秒未満である場合は、TCPIPSERVICE の SOCKETCLOSE 属性で指定された時間内に、HTTP 持続接続をクローズします。

IPIC 高可用性環境では、CLOSED は、これに関連付けられているすべての汎用 TCPIPSERVICE に適用されます。汎用 TCPIPSERVICE 名は、このリソースの GENERICTCPS オプションに記録されます。

IMMCLOSE

CICS は、このサービスの新規接続の受け入れを停止します。サービスは即時にクローズされ、関連したすべてのソケットがクローズされます。このサービスを使用して開始されたタスクは、ソケットを介してデータ伝送が試行されたときのみエラー応答を受け取ります。これはタスク終了時である場合があります。

IPIC 高可用性環境では、IMMCLOSE は、これに関連付けられているすべての汎用 TCPIPSERVICE に適用されます。汎用 TCPIPSERVICE 名は、このリソースの GENERICTCPS オプションに記録されます。

MAXDATALEN(*data-area*)

HTTP サーバーとしての CICS が受信できるデータの最大長 (キロバイト単位) を変更します。デフォルト値は 32 です。最小値は 3、最大値は 524288 です。

URM(*data-value*)

サービス・ユーザー置き換え可能モジュールとして使用されるプログラムの 8 文字の名前を指定します。インストール固有プログラムを指定するか、サービスに対する CICS 提供のデフォルト値を指定できます。一部のサービスでは、この名前を変更できない場合があります。

条件

INVREQ

RESP2 値は以下のとおりです。

4 TCP/IP が使用不可です (TCPIP=NO)

5 TCP/IP 状況がクローズです

7 ポートが使用中です

8 CICS にはこのポートを使用する許可がありません

9 TCPIPSERVICE がクローズされていません

10 不明な IP アドレス

11 SET コマンドのオペランドに無効な値が指定されました。

12 サービスのオープン状況で許可されないため、要求されたアクションを実行できません。

13 TCP/IP は非アクティブです。

14 MAXSOCKETS の制限に達したため、TCPIPSERVICE はオープンされませんでした。

19 IP アドレスまたはホストが不明なため、TCPIPSERVICE をオープンできません。

20 SPECIFTCPS がインストールされていないため、TCPIPSERVICE をオープンできません。

21 SPECIFTCPS がオープンしていないため、TCPIPSERVICE をオープンできません。

22 SPECIFTCPS が別の汎用 TCPIPSERVICE で使用中であるため、TCPIPSERVICE をオープンできません。

23 SPECIFTCPS にこれと同じセキュリティー設定がないため、TCPIPSERVICE をオープンできません。

24 SPECIFTCPS が IPIC 接続に固有のエンドポイントではないため、TCPIPSERVICE をオープンできません。

300 BUNDLE リソースによってインストールされたリソースには無効な操作が指定されました。

301 TCPIPSERVICE で IMMCLOSE アクションを実行する前に、BUNDLE リソースを使用不可にする必要があります。

NOTAUTH

RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

NOTFND

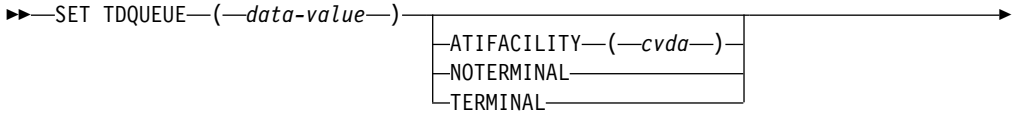
RESP2 値は以下のとおりです。

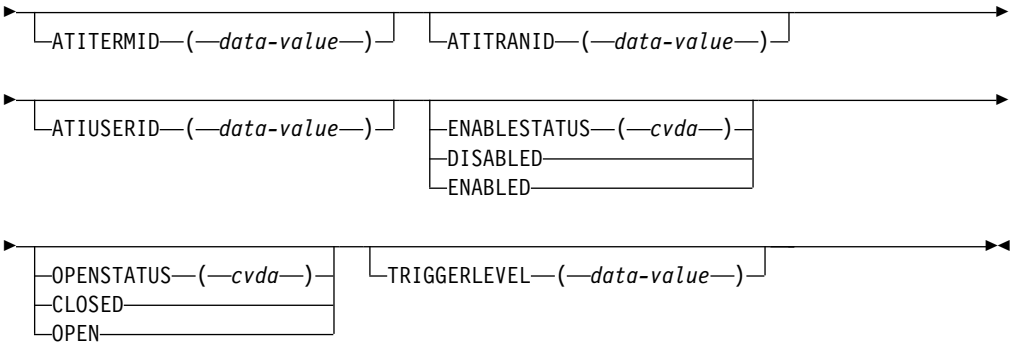
3 指定された TCPIPSERVICE が見つかりません。

SET TDQUEUE

一時データ・キューの属性を変更します。

SET TDQUEUE





条件**:** INVREQ、IOERR、NOTAUTH、QIDERR、USERIDERR

このコマンドはスレッド・セーフです。

CVDA の使用について詳しくは、CICS-value data areas (CVDAs)を参照してください。

説明

SET TDQUEUE コマンドを使用すると、一時データ・キューの属性の一部を変更することができます。

一時データ・キューは宛先とも呼ばれ、TDQUEUE リソース定義で定義されます。区画内 と区画外 の 2 つの基本的なタイプがあります。区画内キューは、CICS によって全体的に管理および保管され、タスクを自動的にスケジュールするために CICS が提供する機能である自動タスク開始 (ATI) の対象です。一時データ・キューでは、ATI は、TRIGGERLEVEL オプションで指定された値によって制御されます。この値がゼロでない場合、キューの項目数がこのトリガー・レベルに達すると、CICS はキューを処理するタスクを自動的に作成します。値がゼロの場合、キューは ATI から除外されます。

区画外キューは、MVS 順次データ・セット (またはスプール・ファイル) です。区画外キューは ATI の影響を受けません。

この他に、間接とリモートという 2 つのキュー・タイプがあります。これらのタイプは両方とも基本タイプの 1 つを指定します。ただし、SET TDQUEUE コマンドを使用してどちらの定義も変更することはできません。(これらのキューについて詳しくは、INQUIRE TDQUEUE コマンドを参照してください。)

キューが完全に使用不可になっている場合を除き、以下のパラメーターを変更できません。

- ATIFACILITY
- ATITERMID
- ATITRANID
- ATIUSERID

一時データ宛先を使用不可にするには、キューが現在使用中ではあってはなりません。使用中である場合、キューは「使用不可で保留」状態になります。キューを最後に使用した作業単位 (UOW) がキューを完全に使用不可にします。キューが使用

可能であるか、使用不可であるかにかかわらず、パラメーター TRIGGERLEVEL、OPENSTATUS、および ENABLESTATUS を変更できます。キューが「使用不可で保留」状態である間、ENABLESTATUS パラメーターの値を変更できません。

一時データ・キューが使用中の間、またはタスクが一時データ・キューの使用を待機している間、一時データ・キューを使用不可にすることができません。

間接キューおよびリモート・キューは、「使用中」という概念がないので、いつでも使用不可にすることができます。

タスクが区画外キュー、物理的にリカバリー可能なキュー、またはリカバリー不能な区画内キューの使用を待機しているときに、キューを使用不可にしようとすると、キューは「使用不可で保留」状態になります。区画外キューを最後に使用したタスクが、キューを完全に使用不可にします。

エンキューされた UOW があるときに、論理的にリカバリー可能な区画内 TD キューを使用不可にしようとすると、キューは「使用不可で保留」状態になります。エンキューを取得した最後の UOW が、キューを完全に使用不可にします。 UOW が論理的にリカバリー可能なキューを更新し、未確定障害を起こすと、その未確定障害が解決されるまでキューを使用不可にすることはできません。

UOW が、「使用不可で保留」状態のキューのエンキューを所有している場合は、更新を続行できます。

キューが「使用不可で保留」状態である場合、新規タスクがキューの状態やその内容を変更することはできません。「使用不可で保留」状態にある宛先に対して READQ、WRITEQ、または DELETEQ 要求が発行されると、使用不可応答が戻されます。

注**:** 論理的にリカバリー可能な一時データ・キューをタスクが更新したときに、そのキューを使用不可にし、同じ UOW 内でキューの属性 (例えば、ATITRANID) を変更しようとすると、呼び出しは失敗します。これは、UOW がキューのユーザーであり、キューは「使用不可で保留」状態になるからです。キュー属性 (この場合、ATITRANID) の SET 操作は失敗します。UOW が同期点でコミットするか、バックアウトするまで、キューは完全には使用不可になりません。SET TDQUEUE を使用してキュー属性 (ATITRANID) を更新しようとする前に、EXEC CICS SYNCPOINT コマンドを発行することをお勧めします。

オプション

ATIFACILITY(*cvda***) (区画内キューのみ)**
キューに関連付けられた端末 (またはセッション) があるかどうかを指定します。ATI が行われる場合、このオプションにより、CICS がキューを処理するために作成するタスクに基本機能があるかどうかが決まります。CVDA 値は次のとおりです。

NOTERMINAL
ATI タスクは基本機能なしに実行します。

TERMINAL
ATI タスクには、ATITERMID で基本機能として指定された端末が必要です。

ATITERMID(*data-value*) (区画内キューのみ)
キューに関連付けられた端末またはセッション (ある場合) の 4 文字の名前を指定します。CICS がキューを処理するタスクを作成すると、ATIFACILITY 値が TERMINAL であれば、この端末が基本機能です。

この値はいつでも設定できますが、ATI 時のみ、および ATI タスクに基本機能がある場合にのみ使用されます。ATIFACILITY が NOTERMINAL の場合、CICS は ATITERMID 値を保持しますが、使用せず、INQUIRE TDQUEUE コマンドに表示しません。

ATITRANID(*data-value*) (区画内キューのみ)
CICS がキューを処理するタスクを自動的に開始するときに実行されるトランザクションの 4 文字の ID を指定します。この値は ATI 時にのみ使用されます。CICS は、ATITRANID 値を設定するときに検査しますが、ATI が行われるときに、ATITRANID 値がその時点で定義されているトランザクションを指定しない限り、作成されたタスクは異常終了します。さらに、このトランザクションをリモートとして定義してはなりません。

ATIUSERID(*data-value*) (区画内キューのみ)
キューに関連付けられている 8 バイトのユーザー ID がある場合は、この ID を指定します。ATI が行われるときに、キューに関連付けられている端末がない場合、CICS は、キューを処理するために作成するタスクにこのユーザーを割り当てます。

この値はいつでも設定できますが、使用されるのは、ATI 時のみ、および ATIFACILITY 値が NOTERMINAL である場合のみです。ATIFACILITY が TERMINAL の場合、CICS は ATIUSERID 値を保持しますが、使用せず、INQUIRE TDQUEUE コマンドに表示しません。

SET TDQUEUE コマンドに対する権限検査に加えて、ATIUSERID が指定されると、CICS は外部セキュリティー・マネージャーを呼び出して、コマンドを発行するタスクに関連付けられているユーザーに、ATIUSERID で指定されたユーザーの代理をする権限があることを確実にします。ESM が RACF である場合、これは、タスクに関連付けられているユーザーが、ATIUSERID でユーザーの RACF 代理として定義されなければならないことを意味します。

ENABLESTATUS(*cvda*)
キューがアプリケーションからアクセス可能かどうかを指定します。CVDA 値は次のとおりです。

DISABLED
アプリケーションによって、キューにアクセスできません。未確定障害が起きたキューを使用不可にすることはできません。

ENABLED
アプリケーションからキューにアクセスできます。

区画外キューの場合、ENABLESTATUS 値を変更しても、影響を受けるのはキューの可用性のみです。CICS は、関連するデータ・セットのオープンもクローズも行いません。

OPENSTATUS(*cvda*) (区画外キューのみ)
キューに関連付けられているデータ・セットがオープンするか、クローズするかを指定します。 CVDA 値は次のとおりです。

CLOSED
データ・セットはクローズします。

OPEN
データ・セットはオープンします。

TDQUEUE(*data-value*)
属性を変更する一時データ・キューの 4 文字の名前を指定します。

TRIGGERLEVEL(*data-value*) (区画内のみ)
ATI が行われるためにキューに存在しなければならない項目の数、または ATI が行われないための項目の数を、フルワード・バイナリー値として指定します。0 から 32767 までの範囲の数値を指定します。この値がゼロの場合、ATI は行われません。ゼロでない場合、キューが TRIGGERLEVEL の深さに達すると、CICS はキューを処理するタスクを自動的に作成します。
ATIFACILITY、ATITERMINAL、ATITRANSID、および ATIUSERID の各オプションも参照してください。

条件

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

2 区画外キューに TRIGGERLEVEL が指定されました。
3 TRIGGERLEVEL 値が、0 から 32767 の範囲ではありません。
4 区画外キューに ATITERMID が指定されました。
5 区画外キューに ATITRANID が指定されました。
6 区画外キューに ATIFACILITY が指定されました。
7 ATIFACILITY には無効な CVDA 値があります。
8 OPENSTATUS には無効な CVDA 値があります。
9 OPENSTATUS が区画内キューに指定されました。
10 ENABLESTATUS には無効な CVDA 値があります。
12 キューはリモートです。
13 キューは間接です。
16 OPENSTATUS が指定されましたが、キュー定義が指している JCL DDNAME が見つかりませんでした。
18 キューがクローズしなかったため、SET できません。
19 区画外キューに ATIUSERID が指定されました。
20 ESM インターフェースが初期設定されていません。
21 CICS が ESM から不明な応答を受信しました。
22 ESM が応答しませんでした。
30 使用不可で保留状態です。
31 キューが使用不可でなかったため、SET できません。
35 キューが未確定であるため、SET できません。
40 キューが CXRF であるため、SET できません。

IOERR
RESP2 値は以下のとおりです。

14 キューに関連付けられているデータ・セットのオープンまたはクローズ中にエラーが発生しました。

17 関連データ・セットにスペースがないため、キューを CLOSED に設定できません。

NOTAUTH

RESP2 値は以下のとおりです。

23 ATIUSERID オプションで指定されたユーザーに権限がありません。

24 ATIUSERID で指定されたユーザーが取り消されました。

25 外部セキュリティー・マネージャーによる SECLABEL 処理中に、エラーが発生しました。セキュリティー・ラベルについては、z/OS Security Server RACF セキュリティー管理者のガイドを参照してください。

27 ATIUSERID オプションで指定されたユーザーは、キューにアクセスできません。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

101 発行中のタスクに関連付けられているユーザーには、このコマンドが要求する方法でこの特定のリソースにアクセスする権限がありません。

102 発行中のタスクに関連付けられているユーザーは、ATIUSERID で指定されたユーザーの許可された代理ではありません。

QIDERR

RESP2 値は以下のとおりです。

1 キューが見つかりません。

USERIDERR

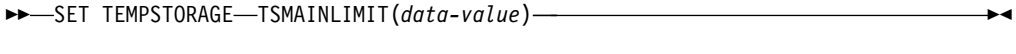
RESP2 値は以下のとおりです。

28 ATIUSERID で指定されたユーザーが ESM によって認識されていません。

SET TEMPSTORAGE

CICS 領域内の一時記憶域キューで使用可能なストレージの量を設定します。

SET TEMPSTORAGE



条件**:** INVREQ、NOTAUTH

説明

SET TEMPSTORAGE コマンドは、主一時記憶域キューが使用可能なストレージの量に対する制限を変更します。

この制限を変更する際には、z/OS パラメーター **MEMLIMIT** の現在の設定を確認してください。 **MEMLIMIT** は、CICS アドレス・スペースが使用可能な 64 ビット・ストレージの量を制限します。 **TSMAINLIMIT** の設定は、**MEMLIMIT** 値の 25% を超えてはなりません。CICS システムに現在適用されている **MEMLIMIT** 値を見つけるには、CICS SPI コマンド **INQUIRE SYSTEM MEMLIMIT** を使用します。

オプション

TSMAINLIMIT(*data-value*)

CICS が使用する主一時記憶域キューに使用できるようにする最大ストレージ量のダブルワード・バイナリー値を指定します。最小値は 1048576 バイト (1 MB)、最大値は 34359738368 バイト (32,768 MB または 32 GB) です。

バイト単位で入力された値は、最も近いメガバイトに切り捨てられます。

TSMAINLIMIT の設定値を増やす場合、値は次のように設定されます。

- 新しい値が z/OS パラメーター **MEMLIMIT** の値の 25% 以下である場合、選択した値が設定されます。
- 新しい値が **MEMLIMIT** 値の 25% より大きい場合、 TSMAINLIMIT は未変更のままです。

TSMAINLIMIT 設定を減らした場合、CICS は許容ストレージ内に現在の使用量の上に 25% 以上のフリー・スペースを維持するようにして、一時記憶域の書き込み要求数がすぐに TSMAINLIMIT に達しないようにします。値は以下のとおりに設定します。

- 現在のフリー・スペースが 25% 未満の場合、TSMAINLIMIT は変更されないままです。
- 新規の制限の 25% 以上がフリー・スペースである場合、選択した値に設定が引き下げられます。
- 新規の制限の 25% 未満がフリー・スペースである場合、現在の使用率にその使用率の 33% を加算した値まで設定が引き下げられます。

条件

INVREQ

RESP2 値は以下のとおりです。

1 無効な値を設定しようとしました。

2 TSMAINLIMIT は MEMLIMIT の 25% を超えてはなりません。

NOTAUTH

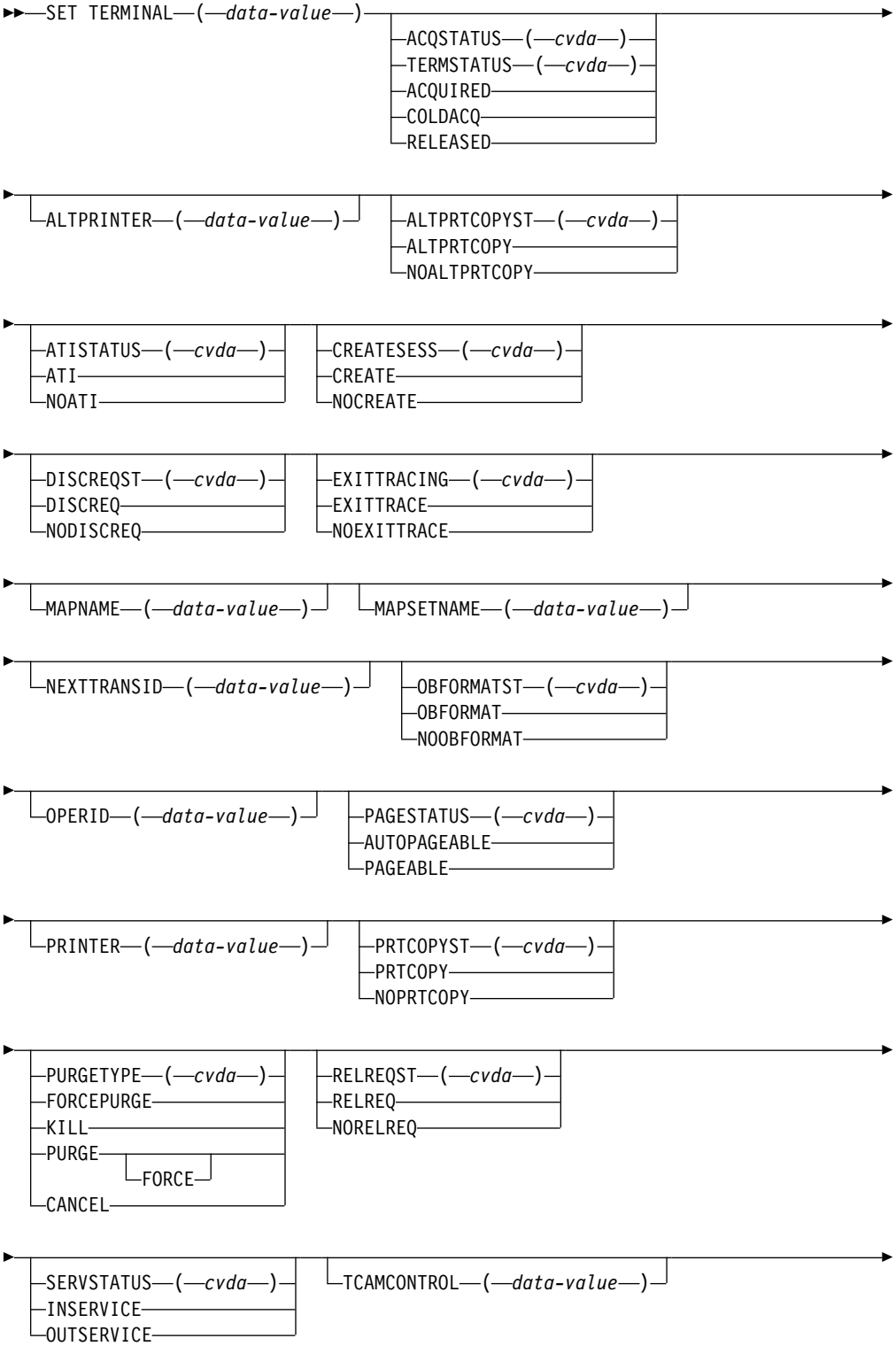
RESP2 値は以下のとおりです。

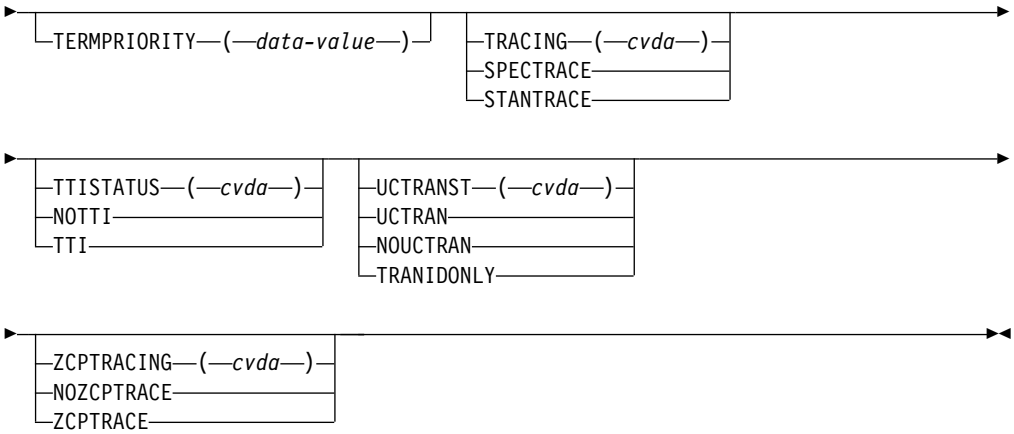
100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

SET TERMINAL

一部の端末の属性を変更し、未解決の AID を取り消します。

SET TERMINAL





状態: INVREQ、NORMAL、NOTAUTH、TERMIDERR

CVDA の使用について詳しくは、CICS-value data areas (CVDAs)を参照してください。

説明

SET TERMINAL コマンドは、指定された端末定義の一部の値を変更します。これは、APPC セッションには使用できません。

IRC セッションに使用できるのは、PURGETYPE、PURGE、または FORCEPURGE だけです。

端末の TCTTE がリモート・システムで使用可能な場合、モデルまたは代理のいずれの形式であっても、リモート定義の TRACING または NEXTTRANSID に変更を加えることができます。この変更が、TOR に再度シップされることはありません。これにより、ユーザーは、リモート TCTTE だけに適用される変更を行うことができます。

SET TERMINAL コマンドを使用すると、代理端末の UCTRANST オプションを変更することもできます。この変更は、TOR および中間システムに再度シップされます。モデルまたは代理端末の別の属性を変更しようとすると、INVREQ が RESP2=24 になります。

オプション

ACQSTATUS(*cvda*) (z/OS Communications Server のみ)
このオプションは、互換性のみの目的で保持されています。新規アプリケーションでは、TERMSTATUS オプションを使用する必要があります。

ALTPRINTER(データ値)
PRINTER オプションで定義されるプリンターの代替として使用する、3270 プリンターの名前を指定します。名前の長さは最大 4 文字です。

注: 基本プリンターが定義されていない (PRINTER パラメーターで) 端末に対して、ALTPRINTER を指定することはできません。

端末の基本/代替プリンターを定義するための PRINTER および ALTPRINTER パラメーターについて詳しくは、TERMINAL リソースを参照してください。

注: z/OS Communications Server 端末の場合、このコマンドをトランザクション・ルーティング環境で使用しても、指定された端末の TOR から AOR へのリンクを通じて次のフローに移行するまで、有効にはなりません。

ALTPRTCOPYST(*cvda*)
代替プリンターのコピー状況を指定します。これは、CICS がハードウェア・コピー機能を使用して、ALTPRINTER パラメーターで指定されたプリンターでの印刷要求に応じるかどうかを示しています。 CVDA 値は次のとおりです。

ALTPRTCOPY
CICS は代替プリンターで印刷要求を満たすために、ハードウェア・コピー機能を使用します。

NOALTPRTCOPY
CICS はハードウェア・コピー機能を使用しません。

注: 代替プリンターが定義されていない端末に対して、ALTPRTCOPY を指定することはできません。

代替プリンターに対してハードウェア・コピー機能を使用するよう、端末定義で指定する ALTPRINTCOPY パラメーターについて詳しくは、TERMINAL リソースを参照してください。

ATISTATUS(*cvda*)
CICS 内から自動的に開始されたトランザクションによって、端末を使用できるかどうかを指定します。端末が ISC セッションである場合は、他のシステムと通信する際の代替機能として、このセッションを使用するトランザクションによって、端末を使用できるかどうかを指定します。 CVDA 値は次のとおりです。

ATI 自動的に開始されるトランザクションによって、端末を使用できます。

NOATI
自動的に開始されるトランザクションでは、端末を使用できません。

端末の状況を NOATI と NOTTI の両方にすることはできません。

CREATESESS(*cvda*) (z/OS Communications Server のみ)
ATI トランザクションが自動的に端末を獲得できるかどうかを指定します。CVDA 値は次のとおりです。

CREATE
端末を自動的に獲得できます。

NOCREATE
端末を自動的に獲得することはできません。

DISCREQST(*cvda*)
CICS が、端末の切断要求を受け入れるかどうかを指定します。CVDA 値は次のとおりです。

DISCREQ
CICS は、z/OS Communications Server 装置に対する切断要求を受け入れ、z/OS Communications Server CLSDST マクロ命令を出して、その論理装置との z/OS Communications Server セッションを終了させます。

これは、端末からの CESF LOGOFF (または GOODNIGHT) によって切断を行う、ということも意味しています。

NODISCREQ
CICS は、z/OS Communications Server 装置に対する切断要求を受け入れません。

EXITTRACING(*cvda***)**
端末出口プログラムに関連したアクティビティーを、トレースするかどうかを指定します。 CVDA 値は次のとおりです。

EXITTRACE
出口プログラム・アクティビティーがトレースされます。

NOEXITTRACE
出口プログラム・アクティビティーはトレースされません。

MAPNAME(*data-area***)**
この装置に最後に送信されたマップの名前として CICS が保管 (格納) する、マップの名前 (7 文字) を指定します。この端末が代理である場合は、現在実行中のトランザクションの終了時に、指定されたマップ名が DETACH 順序列に端末専有領域に戻されます。ただし、後続の SEND MAP コマンドによって、マップ名が置き換えられる場合を除きます。 MAPNAME オプションを使用すると、前の INQUIRE TERMINAL コマンドでアプリケーション・プログラムに戻されたマップ名を復元できます。端末が BMS でサポートされていない (例えば、この端末がセッションである) 場合は、INVREQ 状態が発生し、RESP2 の値が 60 になります。

MAPSETNAME(*data-area***)**
この端末のために処理された SEND MAP コマンドで使用された、最後のマップ・セットの名前として CICS が保管する、マップ・セットの名前 (8 文字) を指定します。この端末が代理である場合は、現在実行中のトランザクションの終了時に、指定されたマップ・セット名が DETACH 順序列に端末専有領域に戻されます。ただし、後続の SEND MAP コマンドによって、マップ・セット名が置き換えられる場合を除きます。 MAPSETNAME オプションを使用すると、前の INQUIRE TERMINAL コマンドでアプリケーション・プログラムに戻されたマップ・セット名を復元できます。端末が BMS でサポートされていない (例えば、この端末がセッションである) 場合は、INVREQ 状態が発生し、RESP2 の値が 60 になります。

NEXTTRANSID(データ値)
指定した端末の次のトランザクション ID を指定します。ID は、最大 4 文字の長さにすることができます。 NEXTTRANSID パラメーターをブランク (X'40404040') として指定すると、CICS は次のトランザクション ID をヌルに設定します。これは、端末に対して NEXTTRANSID が定義されていないことを意味します。

リモート TCTTE に対して変更を行うことは可能ですが、その変更が再度 TOR にシップされることはありません。

注: この端末に対してトランザクションが定義されている場合、NEXTTRANSID は設定できません。

OBFORMATST(*cvda*)
装置が外部フォーマット設定をサポートするかどうかを指定します。外部様式設定機能をサポートするデバイスのタイプについて詳しくは、TYPETERM リソースを参照してください。 CVDA 値は次のとおりです。

NOOBFORMAT
このデバイスは、外部様式設定機能をサポートしません。

OBFORMAT
このデバイスは、外部様式設定機能をサポートします。

注: OBFORMATST は、コンソールまたは 3790 のいずれにも指定できません。

OPERID(データ値)
端末に関連付けるオペレーター識別コードを指定します。この識別コードは、最大 3 文字の長さにすることができます。オペレーター識別コードは、別の SET TERMINAL OPERID コマンドで変更されるまで、あるいは、端末にサインオンしたユーザーが変更されるまで (つまり、ユーザーが端末にサインオンまたはサインオフするまで)、端末に関連付けられたままになります。

PAGESTATUS(*cvda*)
ページの書き込み方法を指定します。CVDA 値は次のとおりです。

AUTOPAGEABLE
一連のページのうちの最初のものより後のページが、自動的に端末に書き込まれます。

PAGEABLE
一連のページのうちの最初のものより後のページが、オペレーターからの要求があり次第、端末に書き込まれます。

PRINTER(データ値)
印刷要求 (ISSUE PRINT コマンド、またはプログラム・アクセス (PA) キーを押したオペレーターからの PRINT 要求) に対応して CICS が使用する、基本プリンターの名前を指定します。この名前は、最大 4 文字の長さにすることができます。 3270 タイプのプリンターの指定については、印刷用端末を参照してください。

注: z/OS Communications Server 端末の場合、このコマンドをトランザクション・ルーティング環境で使用しても、指定された端末の TOR から AOR へのリンクを通じて次のフローに移行するまで、有効にはなりません。

PRTCOPYST(*cvda*)
CICS がハードウェア・コピー機能を使用して、PRINTER パラメーターで指定されたプリンターでの印刷要求に応じるかどうかを指定します。 CVDA 値は次のとおりです。

NOPRTCOPY
CICS はハードウェア・コピー機能を使用しません。

PRTCOPY
CICS は基本プリンターで印刷要求を満たすために、ハードウェア・コピー機能を使用します。

注: プリンターが定義されていない端末に対して、PRTCOPY を指定することはできません。

基本プリンターに対してハードウェア・コピー機能を使用するよう、端末定義で指定する PRINTCOPY パラメーターについて詳しくは、TERMINAL リソースを参照してください。

PURGETYPE(*cvda*)

指定の端末で実行されているトランザクションを、パージできるかどうかを指定します。 CVDA 値は次のとおりです。

CANCEL

指定の端末のためにキューイングしている AID を取り消します。指定の端末のためにローカル CICS システムで待機している AID (スケジュールされた割り振り済みの要求を表すもの) が取り消されます。ただし、関連する起動タスクがあり、それがすでに開始されている場合、CRSR AID と TD AID は取り消されません。

取り消されたスケジュール済み要求がリモート CICS システムで先行版を持っていることが検出されると、このリモート AID は非同期に取り消されます。メッセージ DFHTF0100 が CSMT に書き込まれます。このメッセージには、端末において削除された AID の数と、残っている AID の数が示されています。

FORCEPURGE

トランザクションを即時にパージします。これは予測不能な結果になる場合があり、例外的な状況でのみ使用すべきです。

Kill タスクは終了されることになります。システムおよびデータ保全性は保証されません。KILL オプションは、PURGE および FORCEPURGE オプションを拡張します。このオプションは、タスクの PURGE または FORCEPURGE を試みた後で初めて使用する必要があります。KILL オプションはどのような種類の保全性も保証しませんが、ある状況では、停止された領域が処理を継続できるように、ユーザーがその領域を解放することを許可します。場合によっては (例えば、タスクがバックアウト処理中に kill される場合)、CICS は異常終了します。

PURGE

システムおよびデータの保全性を維持できる場合にのみ、トランザクションを終了することができます。 SPURGE=NO が定義で指定されている場合、トランザクションはパージされません。

FORCEPURGE は、PURGE FORCE に置き換えられます。これは、互換性のためにのみ保存されます。新しいアプリケーションでは FORCEPURGE を使用する必要があります。

非 z/OS Communications Server 端末には PURGETYPE を指定できません。

RELREQST(*cvda*)

論理装置を解放する状況を指定します。CVDA 値は次のとおりです。

NORELREQ

別の z/OS Communications Server アプリケーション・プログラムによる要求に対して、CICS は論理装置を解放しません。

RELREQ
論理装置がトランザクションの実行に使用されていない場合、CICS は論理装置を解放します。

SERVSTATUS(*cvda***)**
端末をサービス中にするか、サービス休止にするかを指定します。 CVDA 値は次のとおりです。

INSERVICE
CICS は、端末をサービス中に設定して使用可能にします。

OUTSERVICE
CICS は、端末をサービス休止に設定し、トランザクションに対して使用不可にします。 PURGE または FORCEPURGE が指定されない限り、現在のトランザクションを正常終了させることができます。ただし、別のトランザクションに端末を使用させることはできません。

指定した端末で実行診断機能 (EDF) が使用されている場合、EDF は即時に停止します。これは、EDF が個別のトランザクションのシーケンスであるのに対して、EDF でテスト中のトランザクションは終了を許可されているためです。

z/OS Communications Server 端末を OUTSERVICE に設定すると、端末が RELEASED の状態になり、オペレーターはサインオフされます。この処理は、即時または現行トランザクションの終了後に行われます。このため、実行中のトランザクションに関連した端末は、それがプリンターである場合を除き、OUTSERVICE に設定することはできません。

TCAMCONTROL(データ値) (TCAM/DCB リモート端末のみ)
廃止。TCAM 端末はサポートされていません。

TERMINAL(*data-value***)**
端末名 (4 文字) を指定します。

注**:** XICTENF および XALTENF のグローバル・ユーザー出口の操作を行うことで、ローカル CICS システムに対してまだ定義されていない端末のために、SCHEDULE 要求をキューに入れることができます。 SET TERMINAL(データ値) CANCEL コマンドを使用すると、これらの要求を除去できます。

TERMPRIORITY(データ値)
この端末で必要な、他の端末との関係における優先順位 (0 から 255 の範囲) を、フルワード・バイナリー値として指定します。

TERMSTATUS(*cvda***) (z/OS Communications Server のみ)**
この端末によって表される論理装置の、セッション状況を指定します。 CVDA 値は次のとおりです。

ACQUIRED
CICS は、この端末によって表される論理装置とのセッションを獲得します。

COLDACQ
CICS は、この端末によって表される論理装置とのセッションを獲得します。この場合、再同期は必要ありません。

RELEASED
CICS は、セッションを終了します。 PURGE オプションを指定した場合も、即時に終了されます。それ以外の場合は、現在のアクティブなトランザクションが終わったときに、セッションが終了します。

TRACING(*cvda*)
端末に関連した、必須のトレース・アクティビティーを指定します。 CVDA 値は次のとおりです。

SPECTRACE
特殊トレースが使用されます。

STANTRACE
標準トレースが使用されます。

リモート TCTTE に対して変更を行うことは可能ですが、その変更が再度 TOR にシップされることはありません。

TTISTATUS(*cvda*)
この端末から開始されたトランザクションが、この端末を使用できるかどうかを指定します。 CVDA 値は次のとおりです。

NOTTI
この端末から開始されたトランザクションは、この端末を使用できません。

TTI この端末から開始されたトランザクションは、この端末を使用できます。

端末を、NOATI と NOTTI の両方として定義することはできません。

UCTRANST(*cvda*)
この端末に関連したトランザクションに対して、大文字変換オプションを設定するかどうかを指定します。プロファイル定義には UCTRAN オプションもあることに注意してください。端末およびトランザクションのプロファイルで、UCTRAN オプションがどのように相互作用するかについては、 858 ページの表 41 を参照してください。

端末の TCTTE がリモート・システムで使用可能な場合、モデルまたは代理のいずれの形式であっても、リモート定義の TRACING または NEXTTRANSID に変更を加えることができます。この変更が、TOR に再度シップされることはありません。これにより、ユーザーは、リモート TCTTE だけに適用される変更を行うことができます。 SET TERMINAL コマンドを使用すると、代理端末の UCTRANST オプションを変更することもできます。この変更は、TOR および中間システムに再度シップされます。モデルまたは代理端末の別の属性を変更しようとすると、INVREQ が RESP2=24 になります。

指定された端末がコマンド実行タスクの基本機能である場合、このコマンドを使用して、リモート端末に対して大文字変換オプションを設定できます。リモート端末が基本機能でない場合は、INVREQ 状態が発生し、RESP2 の値が 24 になります。大文字変換オプションは、デイジー・チェーン・セットアップにおける端末専有領域と中間領域でも変更されます。 CVDA 値は次のとおりです。

NOUCTRAN
CICS は、この端末からの入力に対し、(個々のトランザクションのプロファイルで指定されていない限り) 大文字変換を実行しません。

TRANIDONLY
この端末から入力されたデータに対して、CICS はトランザクション ID のみを大文字に変換します。

UCTRAN
CICS は、この端末からの入力に対し、大文字変換を実行します。

表 *41. UCTRAN* パラメーターの効果

Profile (プロファイル**)**		端末 **(TYPETERM)**	
	UCTRAN (YES)	**UCTRAN (NO)**	**UCTRAN (TRANID)**
UCTRAN (YES)	トランザクション ID: はい データ: はい	トランザクション ID: いいえ データ: はい	トランザクション ID: はい データ: はい
UCTRAN (NO)	トランザクション ID: はい データ: はい	トランザクション ID: いいえ データ: いいえ	トランザクション ID: はい データ: いいえ

注**:** この表は、PROFILE および TYPETERM のリソース定義における UCTRAN の設定に従って、端末で入力されたデータのどの部分が変換されるか (トランザクション ID および/またはデータ) を示しています。

ZCPTRACING(*cvda***)**
CICS の z/OS Communications Server 制御コンポーネントに関連する必要なトレース・アクティビティーを指定します。 CVDA 値は次のとおりです。

NOZCPTRACE
z/OS Communications Server ZCP トレースを実行しません。

ZCPTRACE
z/OS Communications Server ZCP トレースを実行します。

条件

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

1 IRC セッションまたは z/OS Communications Server 以外の端末に対して、TERMSTATUS または ACQSTATUS が指定されました。
2 TERMSTATUS または ACQSTATUS に、無効な CVDA 値が含まれています。
4 ATISTATUS に、無効な CVDA 値が含まれています。
5 ATISTATUS の変更により、NOATI および NOTTI になります。
6 CREATESESS が z/OS Communications Server 以外の端末に指定されました。
7 CREATESESS に、無効な CVDA 値が含まれています。
9 PAGESTATUS に、無効な CVDA 値が含まれています。
11 発行元の端末を OUTSERVICE にしようとしています。
13 SERVSTATUS の CVDA 値が無効です。
15 TERMPRIORITY の値が 0 から 255 の範囲にありません。
17 発行元の端末に対して、NOTTI を指定することはできません。
18 TTISTATUS に、無効な CVDA 値が含まれています。

21 PURGETYPE の CVDA 値が無効です。
22 TRACING に、無効な CVDA 値が含まれています。
24 リモート端末に対して、無効なオプションが要求されました。
25 ACQUIRED が指定されましたが、端末はサービス休止中です。
26 PURGE が指定されましたが、ターゲット・タスクに関連したトランザクション定義が SPURGE=NO になっています。
27 EXITTRACING の CVDA 値が無効です。
28 ZCPTRACING の CVDA 値が無効です。
29 z/OS Communications Server 以外の (または z/OS Communications Server がインストールされていない) 端末に対して、EXITTRACING または ZCPTRACING が指定されました。
31 これは、関連した代理を持たないリモート端末です。
33 SET TERMINAL は、LU6.2 (APPC) セッションに対して無効です。
34 この端末に対して、永続トランザクションが定義されています (TERMINAL 定義の TRANSACTION オペランド)。
35 TCAM 以外の端末において、TCAM CONTROL を変更しようとしました。
36 TCAM CONTROL に対して、無効な値が指定されました。
37 事前設定サインオンが失敗しました。端末は OUTSERVICE のままです。
38 OBFORMATST に、無効な CVDA 値が含まれています。
39 RELREQST に、無効な CVDA 値が含まれています。
40 DISCREQST に、無効な CVDA 値が含まれています。
41 ALTPRTCOPYST に、無効な CVDA 値が含まれています。
42 PRTCOPYST に、無効な CVDA 値が含まれています。
43 UCTRANST に、無効な CVDA 値が含まれています。
44 代替プリンターのコピー状態において、代替プリンターの定義のない無効な組み合わせが、オプションによって設定されています。
45 代替プリンターにおいて、基本プリンターの定義のない無効な組み合わせが、オプションによって定義されています。
46 コンソールまたは 3790 に、OBFORMATST が指定されています。
48 プリンターのコピー状態において、基本プリンターの定義のない無効な組み合わせが、オプションによって設定されています。
50 z/OS Communications Server が z/OS Communications Server 端末に使用できません。
51 z/OS Communications Server 3270 または 3270 のいずれの互換モードでもない端末に対して、PRINTER オプションおよび ALTPRINTER オプションが指定されました。
52 z/OS Communications Server 3270 または 3270 のいずれの互換モードでもない端末に対して、PRTCOPYST オプションまたは ALTPRTCOPST オプションが指定されました。
54 IRC セッションに対して、PURGETYPE 以外のオプションが指定されました。
57 CANCEL オプションに、他の SET パラメーターが含まれていました。
61 端末として機能するタスクを強制的にパージする試みが、これまでに行われていません。

NORMAL

RESP2 値は以下のとおりです。

53 パージが据え置かれました。

58 AID は正常に取り消されます。

59 AID は取り消されません。

60 MAPNAME または MAPSETNAME が指定されましたが、端末は BMS でサポートされているタイプではありません。

NOTAUTH

RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

TERMIDERR

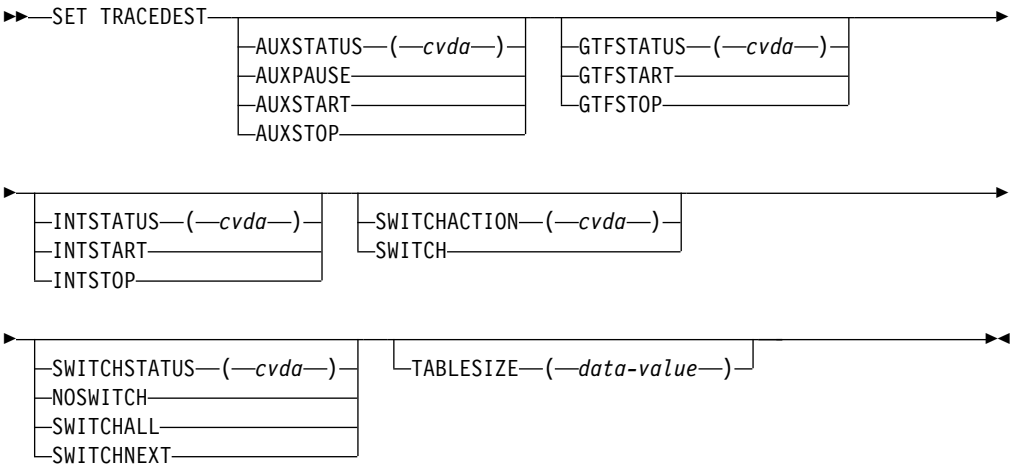
RESP2 値は以下のとおりです。

23 指定された端末が見つかりません。

SET TRACEDEST

トレース・オプションを変更します。

SET TRACEDEST



条件**:** INVREQ、IOERR、NOSPACE、NOSTG、NOTAUTH

このコマンドはスレッド・セーフです。

CVDA の使用について詳しくは、CICS-value data areas (CVDAs)を参照してください。

説明

CICS は次の 3 つの可能な宛先にトレース項目を書き込むことができます。すなわち、CICS 内部トレース・テーブル、補助トレース・データ・セット、および MVS 汎用トレース機能 (GTF) です。SET TRACEDEST コマンドを使用すると、トレー

ス項目を受け取る宛先を指定できます。また、このコマンドを使用して、トレース・テーブルのサイズを変更し、補助トレース・データ・セットを切り替えることもできます。

その他の 2 つのコマンド SET TRACEFLAG と SET TRACETYPE、および CICS 提供のトランザクション CETR は、トレース項目の数とタイプの制御に使用できます。

このコマンドで加えられた変更内容は、CICS カタログに記録されません。したがって、影響を受けるオプションは、CICS 始動時に対応するシステム初期設定値に常にリセットされます。これらのオプションは TRTABSZ (内部トレース用)、AUXTR および AUXTRSW (補助トレース)、ならびに GTFTR (GTF トレース) です。

オプション

AUXSTATUS(*cvda*)

補助トレースが行われるかどうか、つまりアクティブな CICS 補助トレース・データ・セットにトレース項目が書き込まれるかどうかを指定します。(補助トレース・データ・セットについて詳しくは、SWITCHACTION オプションを参照してください。) CVDA 値は以下のとおりです。

AUXPAUSE
CICS は項目の書き込みを停止しますが、データ・セットは現在の位置でオープンしたままにします。後続の AUXSTART 要求によって、AUXPAUSE 要求の前に書き込まれた項目の直後から項目の書き込みが再開されます。AUXPAUSE を指定できるのは、補助トレースが現在アクティブである場合のみです。

AUXSTART
CICS は項目の書き込みを開始します。データ・セットが現在クローズされている場合、最初にオープンされます。

AUXSTOP
CICS は項目の書き込みを停止します。データ・セットがオープンしている場合は、クローズされます。後続の AUXSTART 要求によって、CICS は新規項目をデータ・セットの先頭に書き込み、前の内容を上書きします。ただし、2 つの補助トレース・データ・セットがあり、それらが AUXPAUSE と AUXSTART で切り替えられる場合を除きます。

GTFSTATUS(*cvda*)

トレース項目を MVS 汎用トレース機能 (GTF) に送信するかどうかを指定します。CVDA 値は以下のとおりです。

GTFSTART
項目が送信されます。

GTFSTOP
項目は送信されません。

注: GTFSTART の値は、GTF に CICS トレース項目を記録するには必要ですが、十分ではありません。そのほかに、CICS は、GTF サポート (GTFTR システム初期設定オプション) で初期設定されなければなりません。また、GTF は、TRACE=USR オプションを指定して MVS で開始されなければなりません。

INTSTATUS(*cvda*)
内部トレースが行われるかどうかを指定します。つまり、例外以外のトレース項目を内部トレース・テーブルに記録するかどうかを指定します。(例外用の項目は常に記録されます。) CVDA 値は以下のとおりです。

INTSTART
項目が記録されます。

INTSTOP
項目は記録されません。

SWITCHACTION(*cvda*)
CICS が補助トレース・データ・セットを切り替える必要があることを指定します。

ご使用のシステムで補助トレースがサポートされている場合、1 つまたは 2 つの補助トレース・データ・セットがあります。1 つがアクティブです。つまり、補助トレースがオンになっている場合、これがトレース項目を受け取ります。2 つある場合、もう一方がスタンバイです。

2 つある場合、SWITCH を指定してそれらの役割を逆にすることができます。これにより、CICS は現行のアクティブ・データ・セットをクローズし、スタンバイをオープンし、アクティブとスタンバイの指定を逆にします。

1 つの補助トレース・データ・セットしかない (または 1 つもない) 場合、SWITCH により例外条件が生じます。これは、CICS が、定義されていないデータ・セットをオープンしようとするからです。

CVDA 値は以下のとおりです。

SWITCH
CICS は切り替えを実行します。

注**:** 同じコマンドで AUXSTATUS と SWITCHACTION を要求する場合、AUXSTATUS が最初に設定されます。

SWITCHSTATUS(*cvda*)
現在アクティブな補助トレース・データ・セットが満杯になったときに CICS が取るアクションを指定します。これが生じると、切り替えまたは一連の AUXSTOP-AUXSTART が行われない限り、 CICS は補助トレースを続行できません (SWITCHACTION オプションと AUXSTATUS オプションを参照)。CVDA 値は以下のとおりです。

NOSWITCH
CICS は、何もアクションを実行しません。

SWITCHALL
アクティブ・データ・セットが満杯になるたびに、CICS は切り替えを行います。

SWITCHNEXT
CICS は現行データ・セットが満杯になると 1 回だけデータ・セットを切り替えます。その後、NOSWITCH が有効になります。

TABLESIZE(*data-value*)
内部トレース・テーブルのサイズをキロバイト単位でフルワード・バイナリー値

として指定します。現行のトレース・テーブルのサイズとは異なる値を指定すると、CICS は、その変更が行われている間、内部トレースを中断し、古いテーブル内のデータが削除されます。

テーブルは、最小サイズ 16 KB で、4 KB の倍数で割り振られます。ページ・サイズ (4 KB) の倍数でない値を指定すると、4 KB の次の倍数に切り上げられます。 16 KB より小さい値を指定すると、値は 16 KB に切り上げられます。最大サイズは 1048576 KB (1 GB) です。

CICS は 64 ビット (2 GB 境界より上) ストレージを内部トレース・テーブルに使用します。 TABLESIZE の値は z/OS **MEMLIMIT** パラメーターの値より小さくなければなりません。また、64 ビット・ストレージを使用する CICS 領域の他の機能も使用できるようにしなければなりません。「パフォーマンスの改善」の『MEMLIMIT の見積もり、確認、および設定』を参照してください。

条件

INVREQ

RESP2 値は以下のとおりです。

1 INTSTATUS には無効な CVDA 値があります。

2 -1 より小さい TABLESIZE 値が指定されました。

3 AUXSTATUS には無効な CVDA 値があります。

4 SWITCHSTATUS には無効な CVDA 値があります。

5 GTFSTATUS には無効な CVDA 値があります。

6 AUXPAUSE が指定されましたが、補助トレースがアクティブではありません。

11 SWITCHACTION には無効な CVDA 値があります。

IOERR

RESP2 値は以下のとおりです。

10 SWITCH 要求または SET AUXSTART 要求の結果、トレース・データ・セットに「open」エラーが発生しました。

NOSPACE

RESP2 値は以下のとおりです。

7 新規トレース・テーブルのスペースが不十分です。

NOSTG

RESP2 値は以下のとおりです。

8 補助トレース・バッファーのスペースが不十分です。

9 GTF トレース・バッファーのスペースが不十分です。

NOTAUTH

RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

例

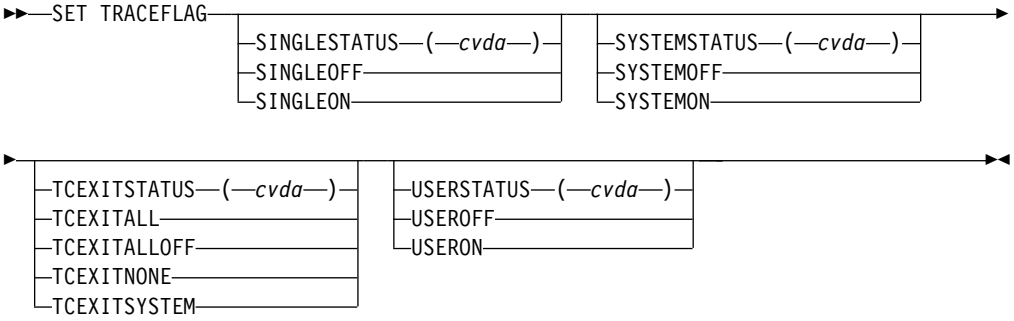
```
EXEC CICS SET TRACEDEST
              SWITCH
              NOSWITCH
```

SWITCH オプションは、アクティブな補助トレース・データ・セット (必ずしも満杯でない) から代替補助トレース・データ・セットに切り替えるように CICS に指示します。NOSWITCH オプションは、新しいアクティブ・データ・セットが満杯になっても切り替えないように CICS に指示します。

SET TRACEFLAG

トレース・フラグの設定を変更します。

SET TRACEFLAG



条件: INVREQ、NOTAUTH

このコマンドはスレッド・セーフです。

CVDA の使用について詳しくは、CICS-value data areas (CVDAs)を参照してください。

説明

SET TRACEFLAG コマンドを使用すると、CICS 内のトレース項目の作成を制御するフラグを変更できます。(トレース機能と制御について詳しくは、CICS トレースの使用を参照してください。)

このコマンドで加えられた変更内容は、CICS カタログに記録されません。したがって、CICS のシャットダウン後は存続しません。

オプション

SINGLESTATUS(*cvda*)
この SET TRACEFLAG コマンドを発行するタスクに対してトレースをオンにするか、抑止するかを指定します。このフラグがオフである場合、タスクに対して例外以外のトレース項目は作成されません (例外トレース項目は常に 記録されます)。

トレースが許可される場合、実行されるトランザクション、または基本機能である端末に対して (CETR トランザクションの以前の使用で) 特別なトレースが要求されていない限り、トレースのタイプは標準になります。CVDA 値は次のとおりです。

SINGLEOFF
トレースは抑止されます。

SINGLEON
トレースは許可されます。

SYSTEMSTATUS(*cvda*)
システム・マスター・トレース・フラグの設定方法を指定します。このフラグは、CICS が標準トレース項目を作成するか、抑止するかを決定します (特殊なトレース項目や例外トレース項目を制御しません)。これは、すべてのタスクおよびすべてのシステム・アクティビティーに適用されます。ただし、特定のタスクについて標準のトレース項目を記録するには、そのタスクのシステム・マスター・フラグと SINGLESTATUS フラグの両方をオンにする必要があります。CVDA 値は次のとおりです。

SYSTEMOFF
標準トレースが抑止されます。

SYSTEMON
標準トレースがアクティブになります。

TCEXITSTATUS(*cvda*) (z/OS Communications Server のみ)
トレースする CICS z/OS Communications Server 出口の呼び出しを指定します。

2 つのタイプの出口アクティビティーをトレースできます。すなわち、z/OS Communications Server 出口トレースに指定された特定の端末に関連付けられた呼び出し (「端末固有」アクティビティー) と、特定の端末に関連しない呼び出し (「非端末固有」アクティビティー) です。両方のタイプ、または非端末固有のアクティビティーのみをトレースできます。

CVDA 値は次のとおりです。

TCEXITALL
すべての出口アクティビティーをトレースします。

TCEXITALLOFF
端末固有のアクティビティーをトレースしません。端末固有のトレースの状況は未変更のままになります。

TCEXITNONE
出口アクティビティーをトレースしません。

TCEXITSYSTEM
非端末固有アクティビティーがトレースされますが、端末固有アクティビティーはトレースされません。

USERSTATUS(*cvda*)
ユーザー・マスター・トレース・フラグをオンに設定するか、オフに設定するかを指定します。このフラグは、例外以外のユーザー・トレース項目を記録するか、抑止するかを決定します (EXCEPTION オプションを指定する項目は抑止

されることはありません)。これは、すべてのタスクに適用されます。ただし、特定のタスクについてユーザー・エントリーを記録するには、そのタスクのユーザー・マスター・トレース・フラグと SINGLESTATUS フラグの両方をオンにする必要があります。CVDA 値は次のとおりです。

USEROFF
ユーザー・トレースが抑止されます。

USERON
ユーザー・トレースが許可されます。

条件

INVREQ

RESP2 値は以下のとおりです。

1 SYSTEMSTATUS には無効な CVDA 値があります。

2 USERSTATUS には無効な CVDA 値があります。

3 SINGLESTATUS には無効な CVDA 値があります。

4 TCEXITSTATUS には無効な CVDA 値があります。

5 TCEXITSTATUS が指定されていますが、z/OS Communications Server がインストールされていません。

NOTAUTH

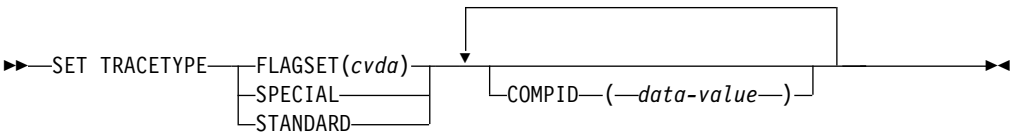
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

SET TRACETYPE

CICS コンポーネントのトレース・レベルを変更します。

SET TRACETYPE



条件: INVREQ、NOTAUTH、NOTFND

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

SET TRACETYPE コマンドを使用して、1 つ以上の CICS コンポーネントのトレースのレベルを変更します。

各 CICS コンポーネントには、標準の CICS トレースと特別なトレースのそれぞれに、トレース・レベルが定義されていますこれらの用語の定義と、CICS トレースに関する一般的な情報については、CICS トレースの使用を参照してください。**SET**

TRACETYPE コマンドで、任意の数のコンポーネントについて、どちらのタイプでも設定できますが、コマンド当たりの設定できるタイプは 1 つだけです。

指定するコンポーネントごとに、トレース・レベルをビット・ストリングとして定義します。このビットは左から右に読みます。つまり、先頭のビットはトレース・レベル 1 に対応し、2 番目のビットはトレース・レベル 2 に対応し、以後も同様です。値 1 はトレース・レベルをオンにします。また 0 はオフにします。

```
1... ....    X'80'    Trace level 1
.1.. ....    X'40'    Trace level 2
11.. ....    X'C0'    Trace Level (1,2)
```

例えば、X'C0000000' はトレース・レベル 1 と 2 をオンにして、他のレベルをすべてオフにします。

ほとんどのコンポーネントが定義するのは少数のトレース・レベルに過ぎませんが、32 ビット (4 バイト) のデータ値を提供しなければなりません。CICS はトレース・レベルに対応しないビットを無視するので、それらに関して 0 か 1 のどちらを指定するかは問題にはなりません。

オプション

COMPID(*data-value***)**

COMPID によって識別される CICS コンポーネントのトレース・レベルを、前述のデータ値のビットを使用して設定します。

CICS コンポーネントは、2 文字の指定によって識別できますが、記述キーワードによって識別できる場合もあります。例えば、CICS のストレージ・マネージャー・コンポーネントのトレース・レベルを設定するには、以下のいずれかを指定できます。

```
SET TRACETYPE SM(data-value)
```

または

```
SET TRACETYPE STORAGE(data-value)
```

以下のリストは、すべての 2 文字の ID と、キーワードがあるコンポーネントのキーワードを示します。

ID	キーワード	アプリケーション
AP	APPLICATION	アプリケーション
AS	ASYNCSERVICE	非同期サービス
BA	BUSAPPMGR	ビジネス・アプリケーション・マネージャー
BM*		基本マッピング・サポート
BR*	BRIDGE	3270 ブリッジ
CP*	CPI	共通プログラミング・インターフェース
DC*		ダンプ管理
DD	DIRMGR	ディレクトリー・マネージャー
DH	DOCUMENT	文書処理
DM	DOMAINMGR	ドメイン・マネージャー
DP	DEBUGTOOL	デバッグ・プロファイル・ドメイン
DS	DISPATCHER	ディスパッチ・マネージャー
DU	DUMP	ダンプ・マネージャー
EC*	EVENTCAPTURE	イベント・キャプチャー
EI*		EXEC インターフェース
EJ	ENTJAVA	Enterprise Java ドメイン

ID	キーワード	アプリケーション
EM	EVENTMGR	イベント・マネージャー
EP	EVENTPROC	イベント処理ドメイン
FC*		ファイル制御および DL/I
GC	GLOBALCATLG	CICS グローバル・カタログ・マネージャー
IC*		インターバル制御
IE	IPECI	TCP/IP 上の ECI ドメイン
IS*		システム間連絡
KC*		タスク制御
KE	KERNEL	カーネル
LC	LOCALCATLG	CICS ローカル・カタログ・マネージャー
LD	LOADER	プログラム・ロード・マネージャー
LG	LOGGER	ログ・マネージャー
LM	LOCKMGR	ロック・マネージャー
ME	MESSAGE	メッセージ・マネージャー
ML		マークアップ言語ドメイン
MN	MONITOR	モニター・マネージャー
MP	MANAGEDPLAT	管理対象プラットフォーム・ドメイン
NQ	ENQUEUE	エンキュー・ドメイン
OT	OBJECTTRAN	オブジェクト・トランザクション・サービス (OTS) ドメイン
PA	PARAMGR	パラメーター・マネージャー
PC*		プログラム制御
PG	PROGMGR	プログラム・マネージャー
PI	PIPEMGR	パイプライン・マネージャー・ドメイン
PT	PARTNER	パートナー・マネージャー
RA*	RMIADAPTERS	リソース・マネージャー・アダプター
RI*	RMI	リソース・マネージャー・インターフェース (RMI)
RL	RESLIFEMGR	リソース・ライフ・サイクル・ドメイン
RM	RECOVERY	リカバリー・マネージャー
RS	REGIONSTAT	領域の状況
RX	RRS	リソース・リカバリー・サービス
RZ	REQUESTSTRM	要求ストリーム・ドメイン
SC*		ストレージ制御
SH	SCHEDULER	BTS のスケジューラー・サービス・ドメイン
SJ	SJVM	CICS JVM ドメイン
SM	STORAGE	ストレージ・マネージャー
SO	SOCKETS	ソケット
ST	STATISTICS	統計マネージャー
SZ*		フロントエンド・プログラミング・インターフェース
TC*		端末管理
TD*		一時データ
TI	TIMER	タイマー・マネージャー
TR	TRACE	トレース・マネージャー
TS	TEMPSTORAGE	一時記憶
UE*		ユーザー出口インターフェース
US	USER	ユーザー・インターフェース
WB	WEB	Web ドメイン
WU	WEBRESTMGR	CICS 管理クライアント・インターフェース (CMCI) ドメイン
W2	WEB2	Web 2.0 ドメイン
XM	TRANMGR	トランザクション・マネージャー
XS	SECURITY	セキュリティー・マネージャー

マーク * が付けられたコンポーネントは、AP ドメインのサブコンポーネントであり、これらのコンポーネントのトレース・エントリーは AP nnnn のトレ

ース・ポイント ID を使用して生成されます。

FLAGSET(*cvda***)**
指定されたコンポーネントの標準フラグが設定されるか、それとも特殊フラグが設定されるかを示します。CVDA 値は以下のとおりです。

SPECIAL
リストされたコンポーネントに関して特殊トレースのレベルを設定することを指定します。

STANDARD
リストされたコンポーネントに関して標準トレースのレベルを設定することを指定します。

条件

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

1 誤った FLAGSET 値が指定されました。

2 ドメインに無効なフラグ設定が適用されました。トレース・レベルはビット・ストリングとして定義します (例えば X'C000000)。文字データ (例えば 1-2) は使用しないでください。文字データは CETR トランザクションでトレース・レベルを指定する場合のみ使用できます。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

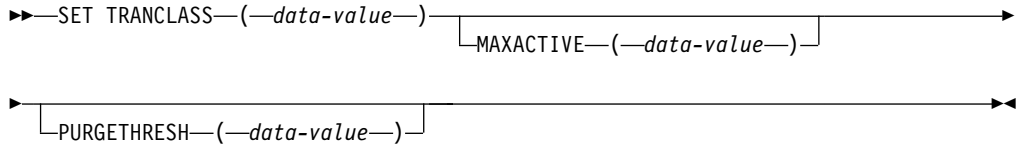
NOTFND
RESP2 値は以下のとおりです。

1 1 つ以上の CICS コンポーネントにアクセスできませんでした。他のコンポーネントのトレース・レベルは設定されました。

SET TRANCLASS

トランザクション・クラスの制限を設定します。

SET TRANCLASS



条件: INVREQ、NOTAUTH、TCIDERR

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

SET TRANCLASS コマンドを使用すると、特定のトランザクション・クラス内のタスクを制御する制限を変更することができます。制御できる値は、同時に実行できるタスクの最大数 (MAXACTIVE 値)、および初期ディスパッチを待機してキューに入れることのできる最大数 (PURGETHRESH 値) です。

オプション

MAXACTIVE(*data-value***)**
トランザクション・クラスで同時に実行できるタスクの最大数をフルワード・バイナリー・フィールド値で指定します。0 から 999 までの範囲の値を指定できます。

古い MAXACTIVE 値が原因でキューイングが発生していた場合は、MAXACTIVE 制限の値を大きくすると直ちに効果が表れます。CICS が、キューに入っていたタスクを新しい MAXACTIVE 値に達するまでディスパッチするからです。ただし、MAXACTIVE を小さくした場合の効果は徐々に表れます。クラス内の既に実行中のタスクは正常に完了することを許可されますが、実行中の数が新しい制限を下回るようになるまでは、新しいタスクはディスパッチされません。 MAXACTIVE をゼロまで小さくすると、MAXACTIVE を大きくするまで、クラス内のタスクは実行を開始できません。

PURGETHRESH(*data-value***)**
このクラス内で初期ディスパッチを待機してキューに入れることのできるタスクの最大数より 1 つ多い数を、フルワード・バイナリー値として指定します。キューイングが発生する原因は、クラス内のアクティブ・タスク数が既に MAXACTIVE 値に達しているか、システムの最大値に達していることです (INQUIRE SYSTEM コマンドの MAXTASKS オプションを参照してください)。キューが PURGETHRESH 制限に達しているときに到着したタスクは、パージされます (コード AKCC で異常終了します)。

クラスの PURGETHRESH は 0 から 1000000 までの間の値にすることができます。値ゼロは、パージしきい値制限がないことを意味します。すなわち、任意の数のタスクをキューに入れることができます。値 1 は、タスクを 1 つもキューに入れることができないという意味です。

PURGETHRESH 制限の値を大きくすると、より多くのトランザクションをキューに入れることができます。これは、仮に古い値が有効であればパージされたはずのタスクが接続される場合にのみ、効果を及ぼします。

ただし、PURGETHRESH 制限の値を現在のキュー・サイズよりも小さくした場合には、新しい制限に合わせてキューを小さくするために、キュー内の適切な数のタスクが異常終了されます。 PURGETHRESH を小さくするのと同時に MAXACTIVE を大きくした場合は、CICS はキュー内のタスクをパージする前に可能な限り多くのタスクをキューからディスパッチして、異常終了されるタスク数を最小にします。優先順位の最も低いタスクから始めて、優先順位に従ってタスクが異常終了されます。

TRANCLASS(*data-value***)**
変更の対象となるトランザクション・クラスの名前 (8 文字) を指定します。ク

ラスが CICS の以前のリリースで使用されていた番号付きクラスの 1 つである場合は、クラスの名前は DFHTCL*nn* です (ここで、*nn* は 2 桁のクラス番号)。

条件

INVREQ

RESP2 値は以下のとおりです。

2 MAXACTIVE 値が、0 から 999 の範囲ではありません。

3 PURGETHRESH 値が、0 から 1000000 の範囲ではありません。

NOTAUTH

RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

TCIDERR

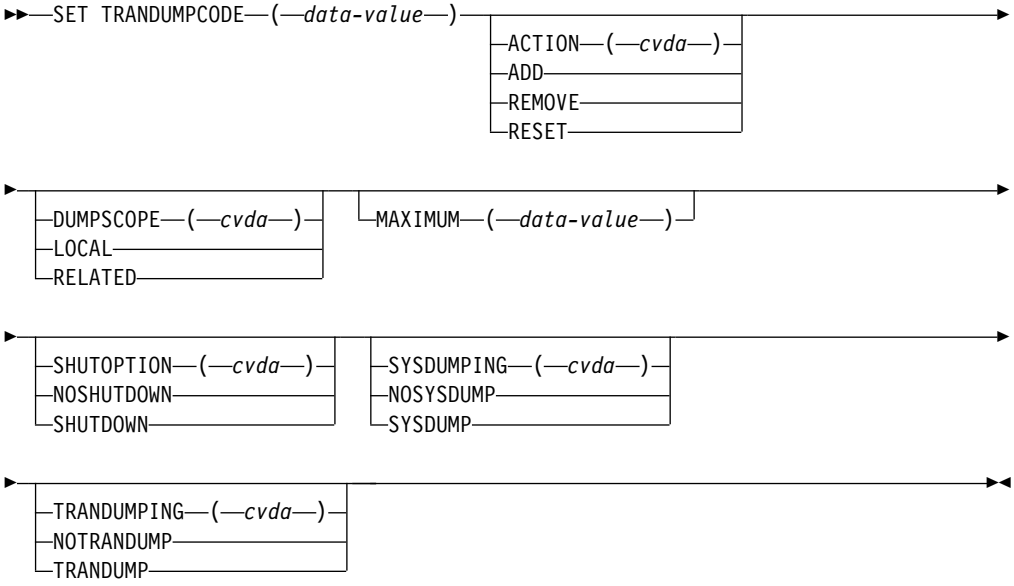
RESP2 値は以下のとおりです。

1 トランザクション・クラスが見つかりません。

SET TRANDUMPCODE

トランザクション・ダンプ・テーブルの項目を変更します。

SET TRANDUMPCODE



条件: DUPREC、INVREQ、IOERR、NOSPACE、NOTAUTH、NOTFND

CVDA の使用について詳しくは、CICS-value data areas (CVDAs)を参照してください。

説明

SET TRANDUMPCODE コマンドを使用すると、特定のダンプ・コードのトランザクション・ダンプ・テーブル・エントリーを変更したり、新規ダンプ・コードをテーブルに追加したり、ダンプ・コードを削除したりすることができます。

このテーブル・エントリーは、このコードによるトランザクション・ダンプ要求が受信されたときに取るアクションを CICS に伝えます。考えられるアクションには次のものがあります。

- トランザクション・ダンプの生成
- システム・ダンプの生成 (MVS SDUMP)
- 関連した CICS 領域の SDUMP に対する要求の開始
- CICS のシャットダウン。

また、このテーブル・エントリーはこのアクション・セットを実行する回数 (MAXIMUM 値) も示します。最大値に達すると、要求がカウントされますが、その他の場合には無視されます。

テーブルの更新は CICS グローバル・カタログに記録され、初期始動またはコールド・スタートが行われるまで、CICS の複数の実行後も保持されます。ただし、一時テーブル・エントリーの場合を除きます。CICS は、テーブル・エントリーがないコードによるダンプ要求を受け取ると、一時エントリーを作成します。これらのエントリーと、それらのエントリーの変更は、現行の CICS の実行にのみ存続します。再始動後も一時エントリーの変更を保持したい場合は、テーブルからダンプ・コードを除去してから、追加して戻す必要があります。

トランザクション・ダンプの詳細については、指定可能なダンプ・コード・オプションを参照してください。

有効な文字は、大文字 (A から Z)、小文字 (a から z)、数字 (0 から 9)、および特殊文字 $ @ # / % & ? ! : ¦ ; , ¢ + * ¬ - および _ です。場合によっては、設定する位置に応じて、文字 < > . = および " も有効です。小文字を入力した場合は、大文字に変換されます。

オプション

ACTION(*cvda*)

ダンプ・コードに対して実行するアクションを指定します。 CVDA 値は以下のとおりです。

ADD このコードのエントリーはテーブルに追加できます。

REMOVE

このコードのエントリーはテーブルから除去できます。その他のオプションは、REMOVE 要求では指定できません。

RESET

このダンプ・コードに対するダンプ要求の現在の数をゼロに設定できます。(INQUIRE TRANDUMPCODE コマンドの CURRENT オプションを参照してください。)

DUMPSCOPE(*cvda***)**

このダンプ・コードによるダンプの要求が出されると、CICS が関連 CICS 領域の SDUMP (システム・ダンプ) 要求を開始するかどうかを指定します。

関連 CICS 領域とは、同じ sysplex 内にあり、MRO/XCF によって接続され、ダンプ要求を発生させるタスクの代わりに作業を実行する領域のことです。具体的には、このタスクと同じ APPC トークンで作業を実行するタスクがある領域です。

この SDUMP 要求の伝搬は、このコードのテーブル・エントリーも SYSDUMP の SYSDUMPING 値を指定している場合にのみ、z/OS ワークロード・マネージャーを備えた MVS/ESA バージョン 5.1 以降で実行しているシスプレックス環境でのみ発生します。その他のシステムでは、RELATED を指定すると、例外条件が発生します。

CVDA 値は以下のとおりです。

LOCAL
SDUMP 要求は送信されません。

RELATED
SDUMP 要求は送信されます。

注: DUMPSCOPE(RELATED) を設定すると、影響を受ける MVS イメージごとに 1 回のダンプが取られることになります。このダンプには、イメージ内の影響を受けるすべての CICS 領域からの出力が含まれます。詳細については、関連する CICS 領域からのダンプ・データの自動取り込みを参照してください。

DUMPSCOPE 値を指定しない場合、LOCAL が追加する項目のデフォルトです。

MAXIMUM(*data-value***)**

CICS がダンプ・テーブル・エントリーで示されたアクションのセットをとる必要がある最大回数を、フルワード・バイナリー値として指定します。最大値に達すると、CICS はこのコードによるダンプ要求をカウントしますが、その他の場合には無視します。有効な範囲は 0 から 999 です。 値 999 は制限がないことを意味し、このオプションを ADD 要求から省略する場合に使用されるデフォルトです。

SHUTOPTION(*cvda***)**

このダンプ・コードによるダンプの要求の後で CICS システムがシャットダウンされるかどうかを指定します。CVDA 値は以下のとおりです。

NOSHUTDOWN
システムはシャットダウンされません。

SHUTDOWN
システムはシャットダウンされます。

このオプションが ADD 要求から省略される場合、NOSHUTDOWN が想定されます。

SYSDUMPING(*cvda*)
このコードによるトランザクション・ダンプ要求が受信されたらシステム・ダンプ (MVS SDUMP) をとるかどうかを指定します。 CVDA 値は以下のとおりです。

NOSYSDUMP
システム・ダンプは取られません。

SYSDUMP
システム・ダンプは取られます。

SYSDUMP が指定されているとしても、このコードの要求数が MAXIMUM に達しておらず、システム・ダンプがグローバルに抑止されていない (INQUIRE SYSTEM コマンドの DUMPING オプションを参照) 場合にのみ、ダンプが生成されます。

このオプションが ADD 要求から省略される場合、NOSYSDUMP が想定されます。

TRANDUMPCODE(*data-value*)
トランザクション・ダンプ・テーブル・エントリーが変更される 4 文字のトランザクション・ダンプ・コードを指定します。有効なトランザクション・ダンプ・コードには、先行ブランクまたは組み込みブランクがありません。

有効な文字は、大文字 (A から Z)、小文字 (a から z)、数字 (0 から 9)、および特殊文字 < > $ @ # / % & ? ! : ¦ = " ; . , ¢ + * ¬ - および _ です。小文字を入力した場合は、大文字に変換されます。

TRANDUMPING(*cvda*)
このコードによるトランザクション・ダンプ要求が受信されたらトランザクション・ダンプをとるかどうかを指定します。 CVDA 値は以下のとおりです。

NOTRANDUMP
トランザクション・ダンプは取られません。

TRANDUMP
トランザクション・ダンプが取られます。

TRANDUMP が指定されているとしても、このコードの要求の数が MAXIMUM を超えない場合にのみ、CICS はダンプをとります。

このオプションが ADD 要求から省略される場合、TRANDUMP が想定されます。

条件

DUPREC
RESP2 値は以下のとおりです。

10 ADD が、トランザクション・ダンプ・テーブルですでにダンプ・コードに指定されています。

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

2 ACTION に無効な CVDA 値があります。

3 TRANDUMPING に無効な CVDA 値があります。

4 SYSDUMPING に無効な CVDA 値があります。

5 MAXIMUM 値が範囲外です。

6 SHUTOPTION に無効な CVDA 値があります。

7 REMOVE が他のオプションと一緒に指定されています。

9 ダンプ・コードが無効です。

13 DUMPSCOPE に無効な CVDA 値があります。

14 RELATED には MVS/ESA 5.1 が必要です。

IOERR

RESP2 値は以下のとおりです。

11 CICS カタログの更新時にエラーが発生しました。このエントリーは、現在の実行で変更されましたが、再始動のために記録されていません。

NOSPACE

RESP2 値は以下のとおりです。

12 CICS カタログが満杯です。このエントリーは、現在の実行で変更されましたが、再始動のために記録されていません。

NOTAUTH

RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

NOTFND

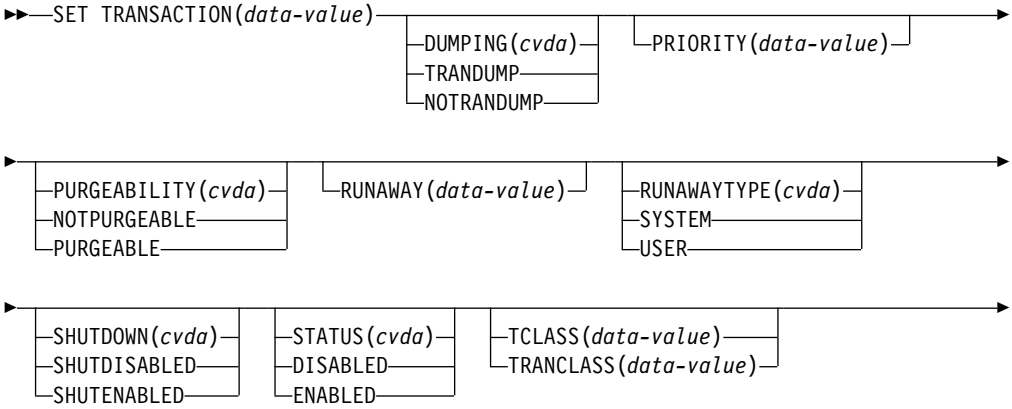
RESP2 値は以下のとおりです。

1 ダンプ・コードが見つかりません。

SET TRANSACTION

TRANSACTION 定義を変更します。

SET TRANSACTION



条件: INVREQ、NOTAUTH、TRANSIDERR

CVDA の使用について詳しくは、CICS-value data areas (CVDAs)を参照してください。

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

SET TRANSACTION コマンドを使用すると、トランザクション定義の属性の一部を変更することができます。

このコマンドで変更できるのは、ローカル CICS システム内の定義のみです。リモート側で実行するトランザクション (つまり、REMOTESYSTEM 値を指定するトランザクション) を変更すると、変更は行われますが、ローカル定義が指すリモート・システムの定義には影響がないため、そのトランザクションを実行するタスクにも影響はありません。

トランザクション定義の変更は将来のタスクにのみ影響を与えます。すでにトランザクションを実行しているタスクを変更するには、SET TASK コマンドを使用します。

SET TRANSACTION コマンドは、CICS バンドル内で定義およびインストールされた TRANSACTION リソースに対して使用できません。 CICS バンドルによってインストールされている、動的に生成された TRANSACTION リソースを変更しようとすると、RESP2 値が 300 の INVREQ 応答が発行されます。

- 動的に生成された TRANSACTION リソースの状況は、インストール元の BUNDLE リソースを使用可能にしたり使用不可にすることで制御できます。
- 動的に生成された TRANSACTION リソースの定義を変更するには、CICS Explorer のリソース・エディターを使用できます。定義を更新するには、古いバージョンの CICS バンドルを新しいもので置き換えます。その手順については、CICS Explorer 製品資料内の『Working with bundles』を参照してください。CICS バンドルが単体としてデプロイされた場合、またはプラットフォームと一緒にデプロイされた場合は、個別に更新できます。 CICS バンドルがアプリケーションの一部としてデプロイされた場合、またはアプリケーション・バインディングと一緒にデプロイされた場合は、アプリケーション全体を更新してください。

オプション

DUMPING(*cvda*)

このトランザクションを実行しているタスクが異常終了した場合に、CICS がトランザクション・ダンプを取るかどうかを指定します。CVDA 値は次のとおりです。

NOTRANDUMP
ダンプは取られません。

TRANDUMP
ダンプが取られます。

この値は異常終了ダンプにのみ該当し、**DUMP TRANSACTION** コマンドには無効です。

OTSTIMEOUT(*data-area***)**
(この CICS トランザクションのもとで実行される EJB 環境で作成された) OTS トランザクションを同期点の前に実行することができるデフォルト期間 (秒) を格納する、フルワード・データ域を戻します。

PRIORITY(*data-value***)**
CICS システム内の他のトランザクションに対する、このトランザクションの相対的な優先順位を、フルワード・バイナリー値で指定します。値は 0 から 255 までの範囲で指定する必要があります。

PURGEABILITY(*cvda***)**
CICS がこのタスクをパージ (つまり、異常終了) できるかどうかを示す CVDA 値を戻します。パージ要求は **SET TASK PURGE** コマンド (または同等の CEMT コマンド) から出され、CICS はそれを内部で生成してリソースを再利用し、システム停止条件を取り除くことができます。 CVDA 値は次のとおりです。

NOTPURGEABLE
タスクをパージできません。

PURGEABLE
タスクをパージできます。

PURGEABILITY 値は最初に、このタスクが実行しているトランザクションの定義内にある SPURGE オプションによって設定されます。

RUNAWAY(*data-value***)**
このトランザクションを実行しているタスクの「ランナウェイ・タスク」時間をミリ秒単位でフルワード・バイナリー値として指定します。値はゼロ、または 250 から 2700000 までの範囲でなければなりません。タスクがランナウェイ状態であるかどうかを確認する際に、CICS は、指定される値を 250 の倍数に切り捨てます。タスクがこの間隔を超える時間にわたってプロセッサーを制御し続ける場合、CICS はタスクがループ状態であると想定して、それを異常終了させます。値がゼロの場合、CICS はタスクのランナウェイ状態をモニターしません。

注: RUNAWAY を指定する場合、RUNAWAYTYPE にすでに値 USER があっても、同じ SET コマンドで RUNAWAYTYPE を USER に設定する必要があります。

RUNAWAYTYPE(*cvda***)**
このトランザクションを実行しているタスクのランナウェイ・タスク時間を取得する場所を指定します。CVDA 値は次のとおりです。

SYSTEM
ランナウェイ・タスク時間のシステム・デフォルトが使用されます。(RUNAWAY オプションを指定した **INQUIRE SYSTEM** コマンドは、システム値が何であるかを示します。)

USER このトランザクションの RUNAWAY 値が使用されます。USER を指定するときに、RUNAWAY の値を指定する必要があります。

SHUTDOWN(*cvda***)**
非送信請求の端末入力を処理するために作成されたタスクが、CICS のシャットダウン中にこのトランザクションを実行できるかどうかを指定します。(この状況におけるトランザクションの実行は、トランザクションがシャットダウンに関するトランザクション・リスト・テーブル (XLT) に記載されている場合にも可能です。) CVDA 値は次のとおりです。

SHUTDISABLED
トランザクションは実行できません。

SHUTENABLED
トランザクションを実行できます。

STATUS(*cvda***)**
トランザクションを使用可能にするかどうかを指定します。CVDA 値は次のとおりです。

DISABLED
トランザクションは使用不可です。

ENABLED
トランザクションは使用可能です。

名前が文字「C」で始まるトランザクションは、CICS 提供トランザクションであるため、使用不可にすることはできません。

TCLASS(*data-value***)**
トランザクションが属するトランザクション・クラスをフルワード・バイナリー値で指定します。SET TRANSACTION TCLASS は、TRANSACTION 定義で TRANCLASS 値を設定します。

TCLASS は、旧リリースの CICS との互換性のためにのみ提供されています。旧リリースでは、トランザクション・クラスは名前ではなく、番号が付けられています。これは、DFHTCL*nn* 形式の名前を割り当てるためにのみ使用できます。ここで、*nn* は 0 から 10 の範囲で指定された番号です。(これは、TRANSACTION 定義の TCLASS 値を変更しません。これは、複数の異なるリリースに同じ TRANSACTION 定義を使用する状態で CICS が維持します。詳しくは、INQUIRE TRANSACTION コマンドの TCLASS および TRANCLASS の説明を参照してください。)

TRACING(*cvda***)**
このトランザクションを実行するタスクに対して実行するトレースのタイプを指定します。トレース・タイプの定義については、 CICS トレースの使用を参照してください。CVDA 値は次のとおりです。

SPECTRACE
特殊なトレースを行います。

SPRSTRACE
トレースを抑止します。

STANTRACE
標準的なトレースを行います。

TRANCLASS(*data-value*)
このトランザクションが属するトランザクション・クラスの名前 (8 文字) を指定します。

TRANSACTION(*data-value*)
変更の対象となるトランザクション定義の名前 (4 文字) を指定します。

条件

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

2 PURGEABILITY には無効な CVDA 値があります。
3 STATUS の CVDA 値が無効です。
4 DISABLED が CICS 提供のトランザクションに指定されました。
5 TCLASS または TRANCLASS 名が不明です。
7 TRACING に、無効な CVDA 値が含まれています。
8 DUMPING には無効な CVDA 値があります。
9 PRIORITY 値が範囲外です。
10 RUNAWAYTYPE には無効な CVDA 値があります。
11 SHUTDOWN には無効な CVDA 値があります。
12 RUNAWAY 値を指定せずに USER が指定されました。
13 RUNAWAYTYPE 値 USER を指定せずに RUNAWAY が指定されました。
14 RUNAWAY 値が範囲外です。
300 SET TRANSACTION SPI コマンドが、CICS バンドル (BUNDLE) によって作成された TRANSACTION リソースに対して発行されました。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

101 発行中のタスクに関連付けられているユーザーには、このコマンドが要求する方法でこの特定のリソースにアクセスする権限がありません。

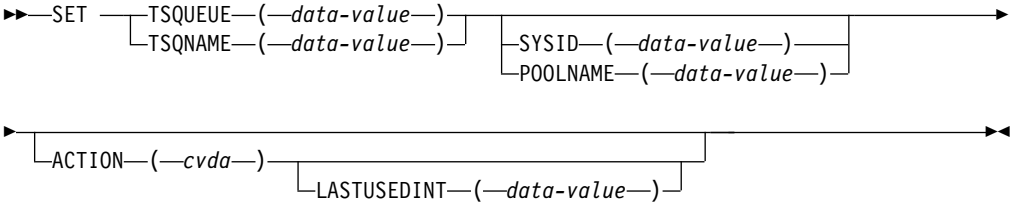
TRANSIDERR
RESP2 値は以下のとおりです。

1 トランザクションが見つかりません。

SET TSQUEUE / TSQNAME

一時記憶域 (TS) キューを削除します。代わりのコマンド **SET TSQNAME** を使用することもできます。どちらかのコマンドを使用して 8 文字までの長さの名前のキューを削除し、SET TSQNAME を使用して 16 文字までの長さの名前のキューを削除します。

SET TSQUEUE



条件: INVREQ、NOTAUTH、NOTFND、POOLERR、QIDERR、SYSIDERR

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

SET TSQUEUE コマンドは TS キューを削除します。LASTUSEDINT オプションを使用すると、削除対象のキューが、INQUIRE の前回の発行の後に参照されていないことを確認できます。また、この LASTUSEDINT オプションを使用して、指定の期間内に参照されていないキューを削除することもできます。キューがリカバリー可能な場合は、削除を実行するために別のタスクを生成する必要があります。

単一のコマンドを使用して削除できる TS キューの最大数は、32766 です。この限度を超過した場合、要求は失敗して、どのキューも削除されません。

オプション

ACTION(*cvda*)
キューに対して実行するアクションを指定します。CVDA 値は以下のとおりです。

DELETE
キューを削除します。

LASTUSEDINT(*data-value*)
このオプションが指定されている場合、最後に使用した間隔が、指定された値以上である場合のみ、キューが削除されます。この値は秒単位で指定します。

POOLNAME(*data-value*)
8 文字のプール名を指定します。

SYSID(*data-value*)
4 文字の共用システム ID (sysid) を指定します。

TSQNAME(*data-value*)
TS キューの 1 文字から 16 文字の ID を指定します。

TSQUEUE(*data-value*)
TS キューの 1 文字から 8 文字の ID を指定します。

条件

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

1 LASTUSEDINT が間隔より大きいため、または TSQUEUE が使用中であるため、TSQUEUE が削除されませんでした。

2 指定されたアクションが *DELETE* ではありませんでした。

3 LASTUSEDINT が指定されましたが、無効な値 (負の値) がありました。

4 無効なキュー・タイプです。

NOTAUTH

RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

101 発行中のタスクに関連付けられているユーザーには、このコマンドが要求する方法でこの特定のリソースにアクセスする権限がありません。

NOTFND

RESP2 値は以下のとおりです。

1 TSQUEUE が見つかりません。

POOLERR

RESP2 値は以下のとおりです。

0 POOLNAME が指定されましたが、プールにアクセスできませんでした。

QIDERR

RESP2 値は以下のとおりです。

1 QUEUE 名が無効 (2 進ゼロ) でした。

SYSIDERR

RESP2 値は以下のとおりです。

0 SYSID が指定されましたが、対応するプールがないか、プールが使用不可です。

3 SYSID は共用プールにマップしません。

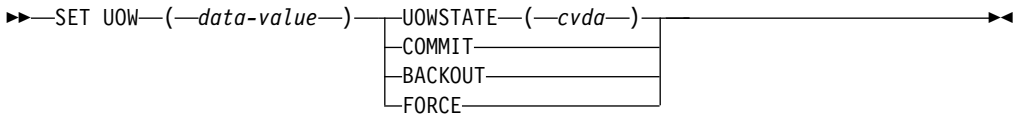
4 サーバー・エラー。

5 カップリング・ファシリティーでの入出力エラー。

SET UOW

シャント済み作業単位のコミット、バックアウト、または強制実行をします。

SET UOW



条件: INVREQ、NOTAUTH、UOWNOTFOUND

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

SET UOW コマンドを使用すると、トランザクションの未確定期間中に中断された作業単位をコミット、バックアウト、または強制することができます。

オプション

UOW(*data-value***)**
コミット、バックアウト、または強制される UOW の 16 バイトの ID を指定します。

UOWSTATE(*cvda***)**
この UOW に対して試行するアクションを指定します。 CVDA 値は以下のとおりです。

BACKOUT
この UOW に指定されているとおり、同期点バックアウト処理を強制しようとします。

COMMIT
この UOW に指定されているとおり、同期点コミット処理を強制しようとします。

FORCE
TRANSACTION リソース定義の ACTION オプションで指定されたとおり、UOW のバックアウトまたはコミットを強制しようとします。

注**:** これらの値はすべて、未確定で中断された UOW に対してのみ有効です。TRANSACTION 定義の INDOUBT 属性については、TRANSACTION 属性を参照してください。

条件

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

3 UOWSTATE には無効な CVDA 値があります。

4 CICS は、この UOW を COMMIT、BACKOUT、または FORCE するのに有効な状態ではありません。

NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 このコマンドの使用は許可されていません。

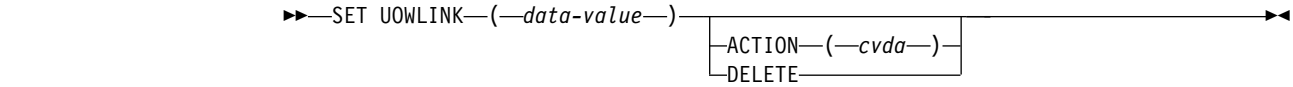
UOWNOTFOUND
RESP2 値は以下のとおりです。

1 UOW が見つかりません。

SET UOWLINK

破棄された接続により作成された作業単位へのリンク (UOW-link) を削除します。RRS と関連付けられた UOWLINK は、RRS のコールド・スタートが実行された時点で削除できます。

SET UOWLINK



条件: INVREQ、NOTAUTH、UOWLNOTFOUND

CVDA の使用について詳しくは、CICS-value data areas (CVDAs)を参照してください。

説明

作業単位と接続間の関連付けは UOW リンクと呼ばれます。INQUIRE UOWLINK コマンドを使用すると、現在システムにあるすべての UOW リンクをブラウズすることができます。一部の UOW リンクは、破棄された接続によって作成された可能性があります。その場合は、SET UOWLINK コマンドを使用してそれらを削除できます。UOW リンクを安全に削除できる時点については、接続定義の管理を参照してください。

オプション

ACTION(*cvda*)
UOW リンクに対して実行するアクションを指定します。CVDA 値は以下のとおりです。

DELETE
UOW リンクを削除します。接続がまだ存在する UOW リンクは削除できないことに注意してください。

UOWLINK(*data-value*)
このコマンドが適用される作業単位と接続の依存関係 (UOW リンク) の 4 文字の ID を指定します。

条件

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

2 再同期がすでに進行中であるか、または UOW リンクが SET UOWLINK コマンドの別のインスタンスによってすでに処理中です。

3 作業単位が未確定であり、UOW リンクがコミット・セッションまたはバックアウト・セッションのコーディネーターです。UOW リンクを削除する前に、SET UOW コマンドを使用して作業単位を強制する必要があります。

4 これは、接続によって作成されたリンクではないか、リカバリー可能なリンクではありません。

5 UOW リンク (および関連した通信セッション) は、引き続きアクティブです。

6 ACTION に無効な CVDA 値があります。

7 この UOW リンクには適切な接続定義があり、削除できません。UOW リンクを削除する前に、関連した接続を破棄しておく必要があります。

NOTAUTH

RESP2 値は以下のとおりです。

100 このコマンドの使用は許可されていません。

UOWLNOTFOUND

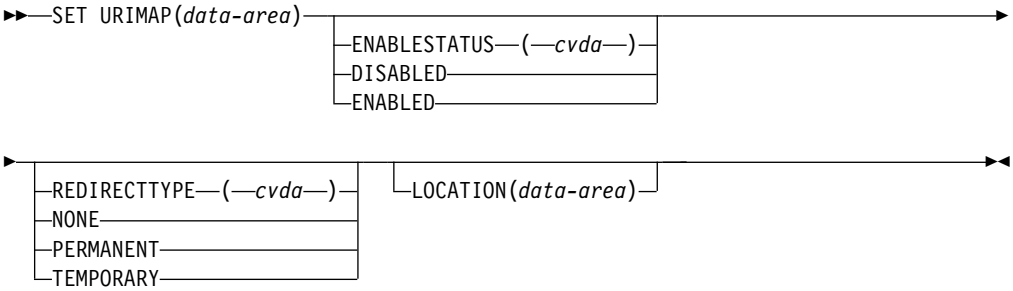
RESP2 値は以下のとおりです。

1 指定された UOW リンクが見つかりません。

SET URIMAP

URIMAP リソースを使用可能または使用不可にし、URIMAP リソースのリダイレクトを適用または除去します。

SET URIMAP



条件: INVREQ、NOTAUTH、NOTFND

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

SET URIMAP コマンドを使用すると、以下のことが可能になります。

- URIMAP リソースを使用可能または使用不可に設定します。
- 一致する HTTP 要求のリダイレクトを設定し、要求のリダイレクト先の URL を指定します。このコマンドを使用すると、例えば、通常は HTTP 要求に応答するアプリケーションが使用できない場合に、既存の URIMAP リソースにリダイレクトを適用することができます。また、このコマンドを使用して、URIMAP リソースからリダイレクトを除去することもできます。

SET URIMAP コマンドは、CICS バンドル内で定義およびインストールされた URIMAP リソースには使用できません。 CICS バンドルによってインストールされている、動的に生成された URIMAP リソースを変更しようとすると、RESP2 値が 300 の INVREQ 応答が発行されます。

- 動的に生成された URIMAP リソースの状況は、インストール元の BUNDLE リソースを使用可能にしたり使用不可にすることで制御できます。
- 動的に生成された URIMAP リソースの定義を変更するには、CICS Explorer の CICS バンドル・プロジェクトで URI マップを更新します。新しいバージョンの CICS バンドルを z/OS UNIX にエクスポートし、前のバージョンを指す BUNDLE リソースを使用不可にして破棄し、BUNDLE リソース定義を編集して更新済みのバンドル・ディレクトリーを指してから、BUNDLE リソース定義を再インストールしてください。

CICS バンドルで定義されたリソースの使用方法については、CICS Explorer のヘルプを参照してください。

オプション

ENABLESTATUS*(cvda)*

URIMAP 定義の状況を、使用可能または使用不可に設定します。CVDA 値は次のとおりです。

ENABLED
URIMAP 定義はアプリケーションからアクセス可能です。

DISABLED
URIMAP 定義はアプリケーションからアクセスできません。URIMAP 定義は、再インストールまたは破棄する前に使用不可にする必要があります。

現在の HTTP 要求に関連付けられた URIMAP リソースが使用不可の場合は、エラー・メッセージ DFHWB0763 が発行されます。

LOCATION*(data-area)*

Web クライアントからの一致する HTTP 要求をリダイレクトする先の URL (最大 255 文字) を指定します。これは、スキーム、ホスト、パス・コンポーネント、および適切な区切り文字を含む完全な URL です。CICS は URL が有効かどうかを検査しないので、宛先が存在すること、および URL が正しく指定されていることを確認する必要があります。

REDIRECTTYPE オプションは、リダイレクトのタイプを指定するために使用されます。一時的または永続的リダイレクトが指定された場合、LOCATION 属性内の URL がリダイレクトに使用されます。NONE が指定される場合、LOCATION オプションの URL は無視されます。

REDIRECTTYPE*(cvda)*

この URIMAP 定義と一致する要求のリダイレクトのタイプを指定します。リダイレクトに関する URL は、LOCATION オプションで指定されます。CVDA 値は次のとおりです。

なし　要求はリダイレクトされません。LOCATION オプションで指定された URL は無視されます。

TEMPORARY
要求は一時ベースでリダイレクトされます。応答に使用される HTTP 状況コードは 302 (Found) です。

PERMANENT
要求は永続的にリダイレクトされます。応答に使用される HTTP 状況コードは 301 (Moved Permanently) です。

条件

INVREQ
RESP2 の値は次のとおりです。

8 リダイレクトに指定されたロケーションがありません (LOCATION オプション)。

9 REDIRECTTYPE または ENABLESTATUS の値が無効です。

12 URIMAP に USAGE(CLIENT) または USAGE(JVMSERVER) があるため、リダイレクトは適用されず、LOCATION オプションを設定できません。

300 **SET URIMAP** SPI コマンドが、CICS バンドル (BUNDLE) によって作成された URIMAP リソースに対して発行されました。

NOTAUTH
RESP2 の値は次のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

NOTFND
RESP2 の値は次のとおりです。

3 URIMAP が見つかりません。

SET VOLUME

SET VOLUME は廃止され、以前のリリースとの互換性のみのため保持されています。ランタイム・サポートは、VOLIDERR 状態を返すことのみです。このコマンドが使用されると、変換プログラムは変換を実行しますが、警告メッセージが出されます。

条件

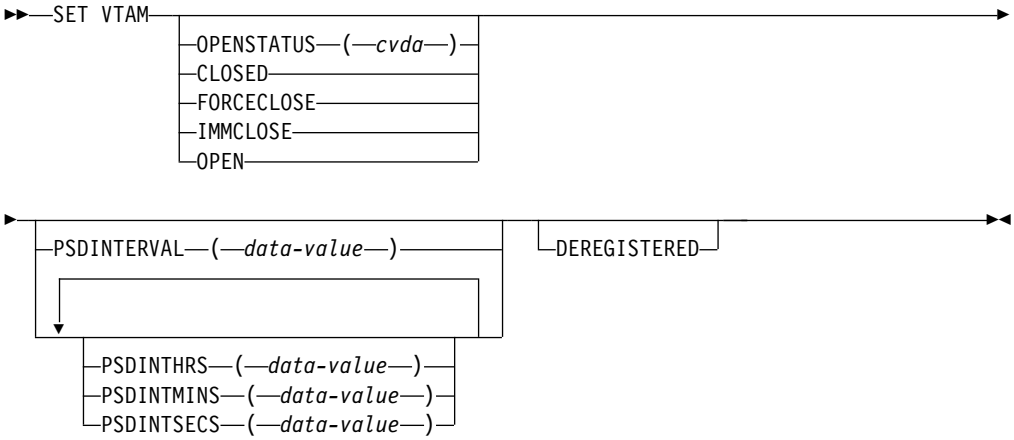
VOLIDERR
RESP2 値は以下のとおりです。

1 プログラムは SET VOLUME コマンドを発行しました。このコマンドは廃止されました。

SET VTAM

CICS のための z/OS Communications Server 接続を変更します。 VTAM は z/OS Communications Server の以前の名称です。

SET VTAM



状態: INVREQ、IOERR、NOTAUTH

CVDA の使用について詳しくは、CICS-value data areas (CVDAs)を参照してください。

説明

以下のタスクを完了するには、SET VTAM コマンドを使用します。

- Communications Server との CICS 接続を確立または停止します。
- CICS が Communications Server に渡す持続セッション遅延間隔の値を変更します。
- Communications Server 汎用リソースのメンバーシップから CICS を登録解除します。

オプション

DEREGISTERED

CICS が現在メンバーになっている Communications Server 汎用リソースから、その CICS を除去することを指定します。汎用リソースのメンバーシップから領域を登録解除する場合は、そのリソースが所有する親和性を終了させる必要があります (**PERFORM ENDAFFINITY** コマンドを参照してください)。

汎用リソースについては、シスプレックスにおけるワークロード・バランシングで説明されています

OPENSTATUS(*cvda*)

CICS が Communications Server との接続を行うかどうか (つまり、Communications Server ACB をオープンするか、クローズするか) を指定します。この設定に従って CICS が ACB をクローズする必要がある場合は、そのシャットダウン方法も指定します。 CVDA 値は以下のとおりです。

CLOSED

接続を閉じます。現在オープンしている場合、CICS はすべての Communications Server アクティビティーを静止させてから、Communications Server ACB をクローズします。Communications Server SNA LU またはセッションを使用するタスクは、クローズの前に完了することができます。ただし、Communications Server を必要とする新規タスクは開始されません。

FORCECLOSE
接続を閉じます。現在オープンしている場合、CICS は Communications Server ACB を即時にクローズします。Communications Server セッションと Communications Server を使用するタスクは両方とも、結果として異常終了します。

IMMCLOSE
接続を閉じます。現在オープンしている場合、CICS は、Communications Server を使用するタスクをすべて即時に異常終了し、その Communications Server セッションをすべて正常シャットダウンしてから、Communications Server ACB をクローズします。

OPEN
接続を開きます。 Communications Server ACB がクローズしている場合は、CICS がそれをオープンします。

CICS が Communications Server マルチノード持続セッションを使用していて、Communications Server が異常終了後に再始動される場合、Communications Server ACB をオープンすると、CICS は、Communications Server が保持している持続セッションを復元します。ただし、アンバインドされた APPC synclevel 2 セッションは、CICS では復元しません。

PSDINTERVAL(データ値)
持続セッション遅延間隔の値を指定します。この値によって、障害が発生した場合、Communications Server がリカバリー保留状態でセッションを保持するかどうか、および保持する期間が指定されます。この値の範囲は、0 から 23:59:59 です。 PSDINTERVAL の値は、グローバル・カタログに記録されません。

ゼロが設定される場合、セッションは保持されず、障害の時点で停止するので、持続セッション・サポートは利用されません。

- CICS 領域の **PSTYPE** システム初期設定パラメーターに SNPS (デフォルト) または MNPS を指定する場合は、持続セッション遅延間隔にゼロ以外の値を設定して、そのセッションが保持されるようにしてください。
- **PSTYPE** システム初期設定パラメーターに NOPS (持続セッション・サポートなし) を指定する場合は、持続セッション遅延間隔にゼロ値を指定する必要があります。

持続セッション遅延間隔を指定すると、 CICS によって **PSDINT** システム初期設定パラメーターが設定されます。 CICS は、ACB をオープンするたびに、この値を Communications Server に渡します。同じ SET SYSTEM コマンドで OPENSTATUS の値に OPEN を指定した場合、あるいは Communications Server ACB がすでにオープンしていて、ユーザーがそれをクローズしていない場合、この値は即時に渡されます。 ACB が閉じているか、閉じている最中にある場合、または開こうとして失敗した場合には、次回正常に開かれたときに新規値が設定されます。

Communications Server のレベルが持続セッションをサポートするレベルより下である場合、Communications Server は要求を拒否します。その後、CICS は PSDINT システム・オプション値をゼロに設定し、INVREQ 条件を戻します。ただし、ユーザーが要求した他の処理は継続されます。 INVREQ は、値が Communications Server に渡されたときに発生します。前述のとおり、この条

件が発生するのは、それを設定したコマンドより後になる場合があります。したがって、持続セッション遅延間隔を指定していないコマンドで、この条件が発生する可能性があります。

持続セッション遅延間隔は、次のいずれかの方法で表示できます。

- PSDINTERVAL オプションを使用した、4 バイトのパック 10 進数の組み合わせ (形式は *0hhmmss+*)。
- PSDINTHRS、PSDINTMINS、および PSDINTSECS の各オプションを使用した、時間、分、および秒 (個別)。これらのオプションを単独に使用することも、組み合わせて使用することもできます。

PSDINTERVAL オプションまたは複数の個別オプションを使用する場合、値の分と秒の部分は 59 以下でなければなりません。単独で使用する PSDINTMINS または PSDINTSECS オプションは 59 を超えることができます。例えば、1 時間 30 分の間隔を次のいずれかの方法で指定できます。

- PSDINTERVAL(13000)
- PSDINTHRS(1)、PSDINTMINS(30)
- PSDINTMINS(90)
- PSDINTSECS(5400)

PSDINTHRS(データ値)
持続セッション遅延間隔の時間コンポーネントをフルワード・バイナリー形式で指定します。PSDINTERVAL オプションを参照してください。

PSDINTMINS(データ値)
持続セッション遅延間隔の分コンポーネントをフルワード・バイナリー形式で指定します。PSDINTERVAL オプションを参照してください。

PSDINTSECS(データ値)
持続セッション遅延間隔の秒コンポーネントをフルワード・バイナリー形式で指定します。PSDINTERVAL オプションを参照してください。

条件

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

1 Communications Server はシステム内にありません。

2 OPENSTATUS には無効な CVDA 値があります。

4 PSDINTERVAL の値が範囲外です。

5 PSDINTHRS の値が範囲外です。

6 PSDINTMINS の値が範囲外です。

7 PSDINTSECS の値が範囲外です。

8 XRF 適格システムに、0 より小さい PSDINTERVAL 値が指定されました。

9 持続セッション遅延間隔の設定を行おうとした際に、Communications Server からエラーが報告されました。

10 持続セッション遅延間隔が指定されていますが、現在使用中の Communications Server (または、端末制御テーブルのアセンブル時に

使用された Communications Server ライブラリー) では、持続セッションがサポートされていません。このコマンドより前に、間隔が指定されている可能性があります。 PSDINTERVAL の説明を参照してください。 OPEN も要求されていた場合は、Communications Server ACB が CICS によってオープンされています。

11 ACB は正常に開かれましたが、前の障害から持続していたセッションのうち、少なくとも 1 つでエラーが発生しました。

12 後続の別のタスクが Communications Server 接続のクローズを要求したため、OPEN 要求は完了しませんでした。

13 セッションのリカバリー中にエラーが発生し、その結果 Communications Server ACB がクローズしました。

14 CICS は、XRF の強制的引き継ぎの後でクリーンアップ処理を行っています。このアクティビティーの間、CICS は Communications Server を呼び出さずに、このエラーを出して OPEN 要求を拒否します。 OPEN 要求は、クリーンアップの完了後、ただちに通常どおり処理されます。

16 CICS が汎用リソース・グループのメンバーとして登録されていないため、Communications Server 汎用リソースから CICS を登録解除する試みが失敗しました。

22 システム初期設定パラメーター PSTYPE=NOPS を有効にして、PSDINTERVAL、PSDINTHRS、PSDINTMINS、または PSDINTSECS を非ゼロ値に変更しようとしました。要求はリジェクトされました。

IOERR

RESP2 値は以下のとおりです。

n ACB のオープン中に、エラーが発生しました。 CICS が要求を処理できない場合、RESP2 の値は 3 になります。 Communications Server が障害を検出した場合、CICS は RESP2 に FDBK2 コードを戻します。これらのエラーについては、z/OS Communications Server: SNA Programmingの戻りコード ACB OPEN と CLOSE を参照してください。

NOTAUTH

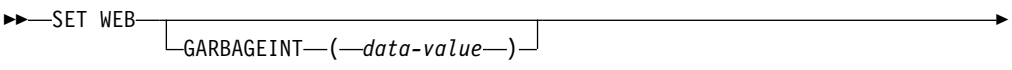
RESP2 値は以下のとおりです。

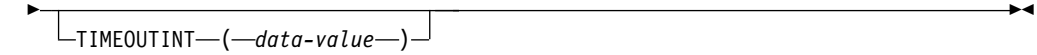
100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

SET WEB

CICS Web サポートを変更します。

SET WEB





条件: INVREQ、NOTAUTH

このコマンドはスレッド・セーフです。

CVDA の使用について詳しくは、CICS-value data areas (CVDAs)を参照してください。

説明

SET WEB コマンドを使用すると、以下のことが可能になります。

- Web ガーベッジ・コレクションの設定を変更します。
- Web 3270 端末のタイムアウト設定を変更します。

オプション

GARBAGEINT(*data-value*)
Web ガーベッジ・コレクション・タスクが、端末タイムアウト間隔が満了した Web 3270 状態データをクリーンアップするために実行される間隔 (分数) をフルワードとして指定します。許可されている値の範囲は 1 から 6000 までです。

TIMEOUTINT(*data-value*)
非アクティブ Web 3270 セッションがガーベッジ・コレクションの対象として適格になるまでの経過期間 (分数) をフルワードとして指定します。許可されている値の範囲は 1 から 60 までです。

条件

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

11 GARBAGEINT または TIMEOUTINT に無効値が指定されました。

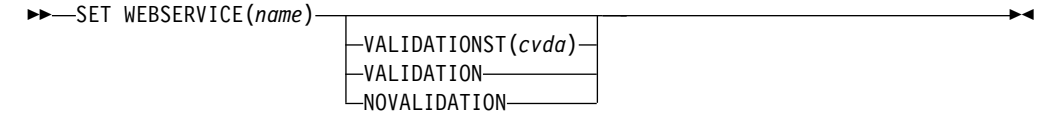
NOTAUTH
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

SET WEBSERVICE

SET WEBSERVICE コマンドは、インストール済み Web サービスの状況を変更するために使用します。

SET WEBSERVICE



条件: INVREQ、NOTAUTH、NOTFND

このコマンドはスレッド・セーフです。

SET WEBSERVICE コマンドは、CICS バンドルに定義およびインストールされている WEBSERVICE リソースの VALIDATIONST 属性を変更するのにも使用できます。

オプション

WEBSERVICE(*name*)
WEBSERVICE リソースの名前を指定します。

VALIDATIONST(*cvda*)
Web サービスの完全妥当性検査が使用可能かどうかを指定します。CVDA 値は次のとおりです。

VALIDATION
完全妥当性検査は使用可能です。

NOVALIDATION
完全な妥当性検査が使用不可です。

条件

INVREQ
RESP2 の値は次のとおりです。

6 この Web サービスの使用不可が進行中です。

9 Web サービスが INSERVICE でないため、VALIDATIONST を変更できません。

NOTAUTH
RESP2 の値は次のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

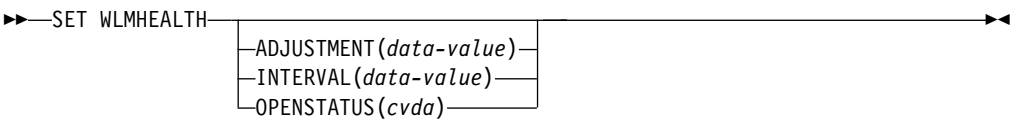
NOTFND
RESP2 の値は次のとおりです。

3 WEBSERVICE リソースが見つかりません。

SET WLMHEALTH

CICS 領域の z/OS WLM ヘルス・サービスの設定を変更します。

SET WLMHEALTH



条件: INVREQ、NOTAUTH

説明

SET WLMHEALTH コマンドでは、CICS 領域の z/OS WLM ヘルス・サービスの設定を変更できます。

オプション

ADJUSTMENT(*data-value***)**
指定された各間隔で領域の z/OS WLM 正常性値の調整に CICS が使用する調整値を指定します。これはフルワード・バイナリー値であり、1 から 100 までの範囲内でなければなりません。

INTERVAL(データ値)
CICS が z/OS Workload Manager Health API (IWM4HLTH) を使用して CICS 領域の z/OS WLM 正常性値を調整するために行う呼び出し間隔の時間を秒単位で指定します。これはフルワード・バイナリー値であり、0 から 600 までの範囲内でなければなりません。

OPENSTATUS(*cvda***)**
CICS 領域の z/OS WLM 正常性値を増やすか、減らすように CICS に指示します。CVDA 値は以下のとおりです。

OPEN
z/OS WLM 正常性値を増やすプロセスを開始するように、CICS に指示します。調整値による初回の増加は即時に行われ、その後、値が 100 に達するまで間隔ごとに調整値で正常性値が増やされます。

CLOSE
z/OS WLM 正常性値を減らすプロセスを開始するように、CICS に指示します。調整値による初回の減少は即時に行われ、その後、値が 0 に達するまで間隔ごとに調整値で正常性値が減らされます。

IMMCLOSE
z/OS WLM 正常性値を即時に 0 に設定するように CICS に指示します。

条件

INVREQ
RESP2 値は以下のとおりです。

4 WLMHEALTH は使用できません (システム初期設定テーブルで WLMHEALTH=OFF が指定されました)。

6 **SET WLMHEALTH OPEN** コマンドが発行されましたが、CICS z/OS WLM ヘルス・プロセスが既に開始しています。

7 **SET WLMHEALTH CLOSE** コマンドが発行されましたが、CICS z/OS WLM ヘルス・プロセスが既に終了しています。

11 **OPENSTATUS** には無効な CVDA 値があります。

13 **INTERVAL** は現在 0 に設定されているため、OPEN 要求が完了しませんでした。

14 **INTERVAL** は現在 0 に設定されているため、CLOSE 要求が完了しませんでした。

16 **INTERVAL** が 0 から 600 までの範囲内ではありません。

17 **ADJUSTMENT** 値が 1 から 100 の範囲内ではありません。

NOTAUTH

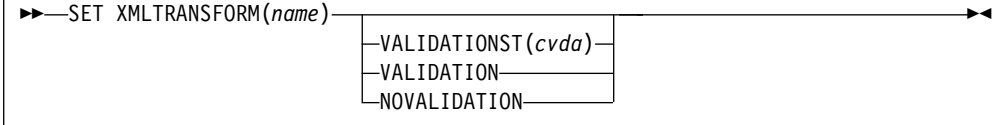
RESP2 値は以下のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

SET XMLTRANSFORM

SET XMLTRANSFORM コマンドは、インストール済み XMLTRANSFORM リソースの妥当性検査を使用可能または使用不可にするために使用します。

SET XMLTRANSFORM



条件: NOTAUTH、NOTFND

このコマンドはスレッド・セーフです。

説明

BUNDLE リソースまたは ATOMSERVICE リソースをインストールすると、CICS は動的に XMLTRANSFORM リソースを作成します。XMLTRANSFORM リソースは、z/OS UNIX の XML バインディングとスキーマの場所を定義します。**SET XMLTRANSFORM** コマンドを使用して、妥当性検査を有効あるいは無効にします。有効になっていると、CICS は XML がスキーマに対して妥当であることをチェックします。

オプション

VALIDATIONST(*cvda*)

XMLTRANSFORM リソースについて、完全妥当性検査が使用可能かどうかを示します。 CVDA 値は以下のとおりです。

VALIDATION

完全妥当性検査は使用可能です。

NOVALIDATION

完全妥当性検査は使用不可です。

XML メッセージをそのスキーマに対して妥当性検査すると、処理オーバーヘッドが大幅に増大するため、通常は VALIDATIONST(NOVALIDATION) を指定します。 VALIDATIONST(NOVALIDATION) を指定した場合、メッセージに正しい形式の XML が含まれているかどうかはチェックされますが、その XML の有効性が保証されるわけではありません。

完全妥当性検査では、XML スキーマに関してそのメッセージの XML が有効であることが保証されるため、アプリケーションの開発中は VALIDATIONST (VALIDATION) を指定したほうがよいでしょう。

XMLTRANSFORM(*name*)
XMLTRANSFORM リソースの 1 文字から 32 文字の名前を指定します。

条件

NOTAUTH
RESP2 の値は次のとおりです。

100 発行中のタスクに関連するユーザーには、このコマンドの使用が許可されません。

101 発行中のタスクに関連付けられているユーザーには、このコマンドが要求する方法でこの特定のリソースにアクセスする権限がありません。

NOTFND
RESP2 の値は次のとおりです。

3 XMLTRANSFORM が見つかりません。

スレッド・セーフ SPI コマンド

CICS はプログラム内で使用するスレッド・セーフ SPI コマンドを提供します。

スレッド・セーフ **SPI** コマンド
DISCARD ATOMSERVICE
DISCARD BUNDLE
DISCARD DB2CONN
DISCARD DB2ENTRY
DISCARD DB2TRAN
DISCARD DOCTEMPLATE
DISCARD ENQMODEL
DISCARD JOURNALMODEL
DISCARD JOURNALNAME
DISCARD JVMSERVER
DISCARD MQCONN
DISCARD PIPELINE
DISCARD PROGRAM
DISCARD TCPIPSERVICE
DISCARD TDQUEUE
DISCARD TRANCLASS
DISCARD TRANSACTION
DISCARD TSMODEL
DISCARD URIMAP
DISCARD WEBSERVICE
EXTRACT STATISTICS
INQUIRE ASSOCIATION
INQUIRE ASSOCIATION LIST
INQUIRE ATOMSERVICE
INQUIRE BUNDLE
INQUIRE BUNDLEPART
INQUIRE CAPDATAPRED
INQUIRE CAPINFOSRCE

スレッド・セーフ **SPI** コマンド
INQUIRE CAPOPTPRED
INQUIRE CAPTURESPEC
INQUIRE CFDTPOOL
INQUIRE DB2CONN
INQUIRE DB2ENTRY
INQUIRE DB2TRAN
INQUIRE DISPATCHER
INQUIRE DOCTEMPLATE
INQUIRE ENQMODEL
INQUIRE EPADAPTER
INQUIRE EPADAPTERSET
INQUIRE EPADAPTINSET
INQUIRE EVENTBINDING
INQUIRE EVENTPROCESS
INQUIRE EXITPROGRAM
INQUIRE FILE
INQUIRE HOST
INQUIRE IPCONN
INQUIRE JOURNALMODEL
INQUIRE JOURNALNAME
INQUIRE JVMSERVER
INQUIRE LIBRARY
INQUIRE MONITOR
INQUIRE MQCONN
INQUIRE MQINI
INQUIRE MVSTCB
INQUIRE OSGIBUNDLE
INQUIRE OSGISERVICE
INQUIRE PIPELINE
INQUIRE PROGRAM
INQUIRE RRMS
INQUIRE STATISTICS
INQUIRE STORAGE
INQUIRE STREAMNAME
INQUIRE SUBPOOL
INQUIRE SYSTEM
INQUIRE TASK
INQUIRE TASK LIST
INQUIRE TCLASS
INQUIRE TCPIP
INQUIRE TCPIPSERVICE
INQUIRE TDQUEUE
INQUIRE TEMPSTORAGE
INQUIRE TRACEDEST
INQUIRE TRACEFLAG
INQUIRE TRACETYPE
INQUIRE TRANCLASS
INQUIRE TRANSACTION
INQUIRE TSPOOL
INQUIRE TSQNAME
INQUIRE TSQUEUE
INQUIRE TSMODEL
INQUIRE UOW
INQUIRE UOWENQ

スレッド・セーフ **SPI** コマンド
INQUIRE URIMAP
INQUIRE WEB
INQUIRE WEBSERVICE
INQUIRE XMLTRANSFORM
PERFORM PIPELINE
PERFORM SECURITY REBUILD
PERFORM SSL REBUILD
RESYNC ENTRYNAME
SET ATOMSERVICE
SET BUNDLE
SET DB2CONN
SET DB2ENTRY
SET DB2TRAN
SET DISPATCHER
SET DOCTEMPLATE
SET ENQMODEL
SET EPADAPTER
SET EPADAPTERSET
SET EVENTBINDING
SET EVENTPROCESS
SET HOST
SET IPCONN
SET JOURNALNAME
SET JVMSERVER
SET LIBRARY
SET MONITOR
SET MQCONN
SET PIPELINE
SET PROGRAM
SET STATISTICS
SET SYSTEM
SET TASK
SET TCLASS
SET TCPIP
SET TCPIPSERVICE
SET TDQUEUE
SET TEMPSTORAGE
SET TRACEDEST
SET TRACEFLAG
SET TRACETYPE
SET TRANCLASS
SET TRANSACTION
SET TSQNAME
SET TSQUEUE
SET UOW
SET URIMAP
SET WEB
SET WEBSERVICE
SET XMLTRANSFORM

スレッド・セーフ・コマンドの概念については、CICS threadsafe commands in the SPI を参照してください。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。この資料の他の言語版を IBM から入手できる場合があります。ただし、これを入手するには、本製品または当該言語版製品を所有している必要がある場合があります。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。 IBM 製品、プログラムまたはサービスに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない機能的に同等のプログラムまたは製品を使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒*103-8510*
東京都中央区日本橋箱崎町*19*番*21*号
日本アイ・ビー・エム株式会社
法務・知的財産
知的財産権ライセンス渉外

IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態で提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。 IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様自身の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

© Copyright IBM Corp. 1977, 2018

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Director of Licensing
IBM Corporation
North Castle Drive, MD-NC119 Armonk,
NY 10504-1785
United States of America

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確証できません。 IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者にお願いします。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名前はすべて架空のものであり、類似する個人や企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。これらのサンプル・プログラムは特定物として現存するままの状態で提供されるものであり、いかなる保証も提供されません。 IBM は、お客様の当該サンプル・プログラムの使用から生ずるいかなる損害に対しても一切の責任を負いません。

プログラミング・インターフェース情報

CICS には、プログラミング・インターフェースと見なすことのできる資料と、プログラミング・インターフェースと見なすことのできない資料があります。

オンライン製品資料の以下のセクションには、CICS Transaction Server for z/OS, バージョン 5 リリース 5 のサービスを取得するプログラムをお客様が作成するためのプログラミング・インターフェースが含まれています。

- アプリケーションの開発
- Developing system programs
- 保護の概要
- 外部インターフェースに向けた開発
- リファレンス: アプリケーション開発h
- リファレンス: システム・プログラミング
- リファレンス: 接続

オンライン製品資料の以下のセクションには、CICS Transaction Server for z/OS, バージョン 5 リリース 5 のプログラミング・インターフェースとして意図されていない (プログラミング・インターフェースと誤解される可能性のある) 情報が含まれています。

- Troubleshooting and support
- リファレンス: 診断

PDF 形式のマニュアルで CICS 資料にアクセスする場合は、CICS Transaction Server for z/OS, バージョン 5 リリース 5 のサービスを取得するプログラムをお客様が作成するためのプログラミング・インターフェースが以下のマニュアルに含まれています。

- アプリケーション・プログラミング・ガイドおよびアプリケーション・プログラミング・リファレンス
- Business Transaction Services
- Customization Guide
- C++ OO Class Libraries
- Debugging Tools Interfaces Reference
- Distributed Transaction Programming Guide
- External Interfaces Guide
- Front End Programming Interface Guide
- IMS Database Control Guide
- インストール・ガイド
- セキュリティー・ガイド
- Supplied Transactions
- CICSPlex SM Managing Workloads
- CICSPlex SM Managing Resource Usage
- CICSPlex SM アプリケーション・プログラミング・ガイドおよび CICSPlex SM アプリケーション・プログラミング・リファレンス
- Java Applications in CICS

PDF 形式のマニュアルで CICS 資料にアクセスする場合は、CICS Transaction Server for z/OS, バージョン 5 リリース 5 のプログラミング・インターフェース

として意図されていない (プログラミング・インターフェースと誤解される可能性のある) 情報が以下のマニュアルに含まれています。

- Data Areas
- Diagnosis Reference
- Problem Determination Guide
- CICSPlex SM Problem Determination Guide

商標

IBM、IBM ロゴおよび ibm.com® は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標または登録商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、 http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml をご覧ください。

Adobe、Adobe ロゴ、PostScript、PostScript ロゴは、Adobe Systems Incorporated の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

インテル、Intel、Intel ロゴ、Intel Inside、Intel Inside ロゴ、Intel Centrino、Intel Centrino ロゴ、Celeron、Intel Xeon、Intel SpeedStep、Itanium、および Pentium は、Intel Corporation または子会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Oracle やその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における登録商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

製品資料に関するご使用条件

これらの資料は、以下のご使用条件に同意していただける場合に限りご使用いただけます。

適用範囲
: IBM Web サイトの「ご利用条件」に加えて、以下のご使用条件が適用されます。

個人使用
: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布 (頒布、送信を含む) または表示 (上映を含む) することはできません。

商用使用
: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することがで

きます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示することはできません。

権利　ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。

IBM これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態で提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。

IBM オンラインでのプライバシー・ステートメント

サービス・ソリューションとしてのソフトウェアも含めた IBM ソフトウェア製品 (「ソフトウェア・オファリング」) では、製品の使用に関する情報の収集、エンド・ユーザーの使用感の向上、エンド・ユーザーとの対話またはその他の目的のために、Cookie はじめさまざまなテクノロジーを使用することがあります。多くの場合、ソフトウェア・オファリングにより個人情報が収集されることはありません。IBM の「ソフトウェア・オファリング」の一部には、個人情報を収集できる機能を持つものがあります。ご使用の「ソフトウェア・オファリング」が、これらの Cookie およびそれに類するテクノロジーを通じてお客様による個人情報の収集を可能にする場合、以下の具体的事項をご確認ください。

CICSPlex SM Web ユーザー・インターフェース **(**メイン・インターフェース**)** の場合**:**　このソフトウェア・オファリングは、展開される構成に応じて、セッション管理、認証、お客様の利便性の向上、または利用の追跡または機能上の目的のために、それぞれのお客様のユーザー名、およびその他の個人情報を、セッションごとの Cookie および持続的な Cookie を使用して収集する場合があります。これらの Cookie を無効にすることはできません。

CICSPlex SM Web ユーザー・インターフェース **(**データ・インターフェース**)** の場合**:**　このソフトウェア・オファリングは、展開される構成に応じて、セッション管理、認証、または利用の追跡または機能上の目的のために、それぞれのお客様のユーザー名またはその他の個人情報を、セッションごとの Cookie を使用して収集する場合があります。これらの Cookie を無効にすることはできません。

CICSPlex SM Web ユーザー・インターフェース **(**「**Hello World**」ページ**)** の場合**:**　このソフトウェア・オファリングは、展開される構成に応じて、個人情報を収集しないセッションごとの Cookie を使用する場合があります。これらの Cookie を無効にすることはできません。

CICS Explorer の場合**:**

このソフトウェア・オファリングは、展開される構成に応じて、セッション管理、お客様の利便性の向上、または利用の追跡または機能上の目的のために、それぞれのお客様のユーザー名、およびその他の個人情報を、セッションごとの設定および持続的な設定を使用して収集する場合があります。これらの設定を無効にすることはできませんが、ユーザー・パスワードの暗号化形式でのディスクへの保管は、サインオン中にチェック・ボックスにチェック・マークを付けることによるユーザーの明示的な操作によってのみ有効化することができます。

この「ソフトウェア・オファリング」が Cookie およびさまざまなテクノロジーを使用してエンド・ユーザーから個人を特定できる情報を収集する機能を提供する場合、 お客様は、このような情報を収集するにあたって適用される法律、ガイドライン等を遵守する必要があります。これには、エンドユーザーへの通知や同意の要求も含まれますがそれらには限られません。

このような目的での Cookie を含む様々なテクノロジーの使用の詳細については、『IBM オンラインでのプライバシー・ステートメント』(http://www.ibm.com/privacy/details/jp/ja/) の『クッキー、ウェブ・ビーコン、その他のテクノロジー』および「IBM Software Products and Software-as-a-Service Privacy Statement」(http://www.ibm.com/software/info/product-privacy) を参照してください。

索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

[ア行]

アクセス、システム情報への
  INQUIRE STORAGE コマンド 504
アセンブラー言語
  引数値 15

[カ行]

外部セキュリティー・マネージャー (ESM) 2
関連データ 274
機能シップ、SP コマンドでは使用不可 1
許可の失敗 17
形式の規則 5
構文表記法 3
コマンド
  形式、引数 2
コマンド、CREATE FILE 97
コマンド、CREATE LIBRARY 108
コマンド・インタープリター・トランザクション(CECI) 1
コマンド・セキュリティー検査 17, 18

[サ行]

再配置可能式 15
システム接続 213, 228, 234, 240, 310, 408
システム・プログラミング・インターフェース
  監査 36
システム・プログラミング・コマンド 1
  照会 22
実行診断機能トランザクション (CEDF) 1
自動開始記述子 565
照会コマンド 22
条件
  INQUIRE CAPINFOSRCE コマンド 301
  INQUIRE CAPOPTPRED コマンド 303
  INQUIRE CAPTURESPEC コマンド 310
条件 (続き)
  INQUIRE EVENTBINDING コマンド 378
  INQUIRE EVENTPROCESS コマンド 379
  SET EPADAPTER コマンド 754
  SET EPADAPTERSET コマンド 755
  SET EVENTBINDING コマンド 757
  SET EVENTPROCESS コマンド 758
状態
  ACQUIRE TERMINAL コマンド 68
  COLLECT STATISTICS コマンド 69
  CREATE ATOMSERVICE コマンド 80
  CREATE BUNDLE コマンド 82
  CREATE CONNECTION コマンド 85
  CREATE DB2ENTRY コマンド 90
  CREATE DB2TRAN コマンド 92
  CREATE DOCTEMPLATE コマンド 95
  CREATE ENQMODEL コマンド 97
  CREATE FILE コマンド 97, 109
  CREATE IPCONN コマンド 103
  CREATE JOURNALMODEL コマンド 105
  CREATE JVMSERVER コマンド 107
  CREATE LSRPOOL コマンド 113
  CREATE MAPSET コマンド 115
  CREATE MQCONN コマンド 116
  CREATE PARTITIONSET コマンド 121
  CREATE PARTNER コマンド 123
  CREATE PIPELINE コマンド 125
  CREATE PROCESSTYPE コマンド 127
  CREATE PROFILE コマンド 129
  CREATE PROGRAM コマンド 130
  CREATE SESSIONS コマンド 135
  CREATE TCPIPSERVICE コマンド 138
  CREATE TDQUEUE コマンド 141
  CREATE TERMINAL コマンド 144
  CREATE TRANCLASS コマンド 146
  CREATE TRANSACTION コマンド 149
  CREATE TSMODEL コマンド 151
  CREATE TYPETERM コマンド 155
  CREATE URIMAP コマンド 158
  CREATE WEBSERVICE コマンド 160
  CSD ADD コマンド 162
状態 (続き)
  CSD ALTER コマンド 164
  CSD APPEND コマンド 166
  CSD COPY コマンド 169
  CSD DEFINE コマンド 172
  CSD DELETE コマンド 175
  CSD DISCONNECT コマンド 177
  CSD ENDBRGROUP コマンド 177
  CSD ENDBRLIST コマンド 178
  CSD ENDBRRSRCE コマンド 179
  CSD GETNEXTGROUP コマンド 180
  CSD GETNEXTLIST コマンド 180
  CSD GETNEXTRSRCE コマンド 183
  CSD INQUIREGROUP コマンド 184
  CSD INQUIRELIST コマンド 185
  CSD INQUIRERSRCE コマンド 187
  CSD INSTALL コマンド 190
  CSD LOCK コマンド 192
  CSD REMOVE コマンド 194
  CSD RENAME コマンド 196
  CSD STARTBRGROUP コマンド 198
  CSD STARTBRLIST コマンド 199
  CSD STARTBRRSRCE コマンド 200
  CSD UNLOCK コマンド 201
  CSD USERDEFINE コマンド 205
  DB2CONN コマンド 86
  DISABLE PROGRAM コマンド 208
  DISCARD ATOMSERVICE コマンド 210
  DISCARD AUTINSTMODEL コマンド 211
  DISCARD BUNDLE コマンド 212
  DISCARD CONNECTION コマンド 214
  DISCARD DB2ENTRY コマンド 216
  DISCARD DOCTEMPLATE コマンド 218
  DISCARD ENQMODEL コマンド 218
  DISCARD FILE コマンド 219
  DISCARD IPCONN コマンド 220
  DISCARD JOURNALMODEL コマンド 221
  DISCARD JOURNALNAME コマンド 223
  DISCARD JVMSERVER コマンド 223
  DISCARD LIBRARY コマンド 224
  DISCARD PARTNER コマンド 227
  DISCARD PIPELINE コマンド 228
  DISCARD PROCESSTYPE コマンド 229

© Copyright IBM Corp. 1977, 2018

状態 (続き)
DISCARD PROFILE コマンド 230
DISCARD PROGRAM コマンド 231
DISCARD TCPIPSERVICE コマンド 232
DISCARD TDQUEUE コマンド 233
DISCARD TERMINAL コマンド 235
DISCARD TRANCLASS コマンド 236
DISCARD TRANSACTION コマンド 237
DISCARD TSMODEL コマンド 238
DISCARD URIMAP コマンド 239
DISCARD WEBSERVICE コマンド 240
ENABLE PROGRAM コマンド 247
EXTRACT EXIT コマンド 250
EXTRACT STATISTICS コマンド 260
INQUIRE ASSOCIATION LIST コマンド 274
INQUIRE ATOMSERVICE コマンド 281
INQUIRE AUTINSTMODEL コマンド 282
INQUIRE AUTOINSTALL コマンド 285
INQUIRE BRFACILITY コマンド 287
INQUIRE BUNDLE コマンド 292
INQUIRE BUNDLEPART コマンド 293
INQUIRE CFDTPOOL コマンド 322
INQUIRE CONNECTION コマンド 321
INQUIRE DB2CONN コマンド 323
INQUIRE DB2ENTRY コマンド 339
INQUIRE DB2TRAN コマンド 342
INQUIRE DELETSHIPPED 344
INQUIRE DISPATCHER コマンド 347
INQUIRE DOCTEMPLATE コマンド 352
INQUIRE DSNAME コマンド 359
INQUIRE DUMPDS コマンド 361
INQUIRE ENQMODEL 365
INQUIRE EPADAPTER コマンド 371
INQUIRE EPADAPTERSET コマンド 374
INQUIRE EPADAPTINSET コマンド 375
INQUIRE EXCI コマンド 380
INQUIRE EXITPROGRAM コマンド 387
INQUIRE FILE コマンド 406
INQUIRE HOST コマンド 407
INQUIRE IPCONN コマンド 408
INQUIRE IPFACILITY コマンド 419
状態 (続き)
INQUIRE IRC コマンド 420
INQUIRE JOURNALMODEL コマンド 423
INQUIRE JOURNALNAME コマンド 425
INQUIRE JVMSERVER コマンド 430
INQUIRE LIBRARY コマンド 436
INQUIRE MODENAME コマンド 437, 507
INQUIRE MONITOR コマンド 444
INQUIRE MQCONN コマンド 444
INQUIRE MQINI コマンド 450
INQUIRE MQMONITOR コマンド 454
INQUIRE MVSTCB コマンド 456
INQUIRE NODEJSAPP コマンド 461
INQUIRE OSGIBUNDLE コマンド 465
INQUIRE OSGISERVICE コマンド 466
INQUIRE PARTNER コマンド 468
INQUIRE PIPELINE コマンド 474
INQUIRE PROCESSTYPE コマンド 477, 810
INQUIRE PROFILE コマンド 479
INQUIRE PROGRAM コマンド 480
INQUIRE REQID コマンド 499
INQUIRE rrms コマンド 500
INQUIRE STATISTICS コマンド 503
INQUIRE STORAGE コマンド 505
INQUIRE SUBPOOL 508
INQUIRE SYSDUMPCODE コマンド 512
INQUIRE SYSTEM コマンド 527
INQUIRE TASK LIST コマンド 539
INQUIRE TASK コマンド 539
INQUIRE TCLASS コマンド 542
INQUIRE TCPIP コマンド 543
INQUIRE TCPIPSERVICE コマンド 552
INQUIRE TDQUEUE コマンド 563
INQUIRE TEMPSTORAGE 564
INQUIRE TERMINAL コマンド 565
INQUIRE TRACEDEST コマンド 589
INQUIRE TRACEFLAG コマンド 591
INQUIRE TRACETYPE コマンド 594
INQUIRE TRANCLASS コマンド 597
INQUIRE TRANDUMPCODE コマンド 600
INQUIRE TRANSACTION コマンド 612
INQUIRE TSMODEL 617
INQUIRE TSPOOL 618
INQUIRE TSQNAME 623
INQUIRE TSQUEUE 623
状態 (続き)
INQUIRE UOW コマンド 628
INQUIRE UOWDSNFAIL コマンド 633
INQUIRE UOWENQ コマンド 640
INQUIRE UOWLINK コマンド 644
INQUIRE URIMAP コマンド 655
INQUIRE VOLUME コマンド 656
INQUIRE VTAM コマンド 659
INQUIRE WEB コマンド 660
INQUIRE WEBSERVICE コマンド 666
INQUIRE WLMHEALTH コマンド 666
INQUIRE コマンド 28
PERFORM DUMP コマンド 674
PERFORM ENDAFFINITY コマンド 677
PERFORM PIPELINE コマンド 679
PERFORM RESETTIME コマンド 680
PERFORM SECURITY REBUILD コマンド 681
PERFORM SHUTDOWN コマンド 684
PERFORM SSL REBUILD コマンド 686
PERFORM STATISTICS RECORD コマンド 692
RESYNC ENTRYNAME コマンド 697
SET ATOMSERVICE コマンド 698
SET AUTOINSTALL コマンド 699
SET BRFACILITY 701
SET BUNDLE コマンド 703
SET CONNECTION コマンド 712
SET DB2CONN コマンド 714
SET DB2ENTRY コマンド 730
SET DB2TRAN コマンド 731
SET DELETSHIPPED コマンド 734
SET DISPATCHER コマンド 737
SET DOCTEMPLATE コマンド 738
SET DSNAME コマンド 745
SET DUMPDS コマンド 751
SET ENQMODEL コマンド 753
SET FILE コマンド 758
SET HOST コマンド 775
SET IPCONN コマンド 780
SET IRC コマンド 782
SET JOURNALNAME コマンド 785
SET JVMSERVER コマンド 788
SET MODENAME コマンド 793
SET MONITOR コマンド 799
SET MQCONN コマンド 800
SET MQMONITOR コマンド 804
SET NETNAME コマンド 807
SET PIPELINE コマンド 808

状態 (続き)
SET PROGRAM コマンド 791, 816
SET STATISTICS コマンド 821
SET SYSDUMPCODE コマンド 825
SET SYSTEM コマンド 832
SET TASK コマンド 835
SET TCLASS コマンド 838
SET TCPIP コマンド 839
SET TCPIPSERVICE コマンド 843
SET TDQUEUE コマンド 847
SET TEMPSTORAGE コマンド 849
SET TERMINAL コマンド 858
SET TRACEDEST コマンド 863
SET TRACEFLAG コマンド 866
SET TRACETYPE コマンド 869
SET TRANCLASS コマンド 871
SET TRANDUMPCODE コマンド 874
SET TRANSACTION コマンド 879
SET TSQNAME コマンド 880
SET TSQUEUE コマンド 880
SET UOW コマンド 882
SET UOWLINK コマンド 883
SET URIMAP コマンド 886
SET VOLUME コマンド 886
SET VTAM コマンド 889
SET WEBSERVICE コマンド 892
SET WLMHEALTH コマンド 892
XMLTRANSFORM コマンド 673, 895
除去 741
スレッド・セーフ
EXEC CICS SPI コマンド 895
セキュリティー
コマンド 17
リソース・セキュリティー検査 17
ESM によるセキュリティー検査 17
NOTAUTH 状態 17
QUERY SECURITY コマンド 22
セキュリティー検査
コマンド 18
代理 18
トランザクション 18
リソース 18
セキュリティー検査の失敗 17
絶対式 15

[タ行]

タイムアウト削除メカニズム 343
代理セキュリティー検査 18
タスク関連ユーザー出口、再同期の再始動 694
ダンプ・データ・セット 360
端末の自動インストール 283
データ型 12
データ・テーブル・オプション
SET FILE コマンド上 の MAXNUMRECS オプション 758
SET FILE コマンド上の TABLE オプション 758
出口
定義 34
出口関連のコマンド 34
出口の定義 34
出口の名前 35
トランザクション・セキュリティー検査 18

[ナ行]

ヌル値 16

[ハ行]

廃棄、リソースの
リソース定義 32, 211
バッチ・バックアウト・ユーティリティー 352
引数値
アセンブラー言語 15
C 13
COBOL 12
PL/I 13
引数の長さ 15
ブラウズ
バンドル 289, 299, 302, 304, 366, 372, 376
バンドル内部の 293
AUTINSTMODEL エントリー 282
BRFACILITY エントリー 285
CFDTPOOL エントリー 321
CONNECTION 項目 312
DB2ENTRY エントリー 334
DB2TRAN エントリー 340
DOCTEMPLATE 項目 348
FILE 項目 392, 424, 431, 506
IPCONN の項目 408
JOURNALMODEL エントリー 421
MODENAME エントリー 437
NETNAME エントリー 458
OSGIBUNDLE 462
OSGISERVICE 466
PARTNER エントリー 467
PIPELINE 469
PROCESSTYPE エントリー 474
PROFILE エントリー 478
PROGRAM エントリー 480
TDQUEUE エントリー 555
TERMINAL エントリー 565
TRANCLASS エントリー 595
ブラウズ (続き)
TRANDUMPCODE エントリー 599
TRANSACTION エントリー 603
ブラウズ規則 27
ブラウズの開始 24
ブラウズの規則 27
文書テンプレート
キャッシング 737
文書テンプレートのキャッシング 737
変換プログラム 1
ポインター引数 8

[ラ行]

リソース
クラス (ESM) 17
リソース定義の作成 29
リソース定義のブラウズ 23
リソース・アクセス管理機能 (RACF) 2
リソース・セキュリティー検査 18
リテラル定数 15
リモート定義、取得不能または更新不能 1

A

ACCESSMETHOD オプション
INQUIRE CONNECTION コマンド 312
INQUIRE DSNAME コマンド 353
INQUIRE FILE コマンド 392
INQUIRE TERMINAL コマンド 565
ACQSTATUS オプション
INQUIRE CONNECTION コマンド 313
INQUIRE TERMINAL コマンド 565
SET CONNECTION コマンド 705
SET MODENAME コマンド 793
SET TERMINAL コマンド 851
ACQUIRE TERMINAL コマンド 66
状態 68
ACTION オプション
SET DSNAME コマンド 741
SET SYSDUMPCODE コマンド 822
SET TRANDUMPCODE コマンド 872
SET UOWLINK コマンド 883
ACTIVE オプション
INQUIRE MODENAME コマンド 437
INQUIRE TRANCLASS コマンド 596
ACTIVITY オプション
INQUIRE TASK コマンド 529
ACTIVITYID オプション
INQUIRE TASK コマンド 529

ACTOPENTCBS オプション
INQUIRE DISPATCHER コマンド 345
INQUIRE SYSTEM コマンド 515
ACTSOCKETS オプション
INQUIRE TCPIP コマンド 542
ACTTHRDTCBS オプション
INQUIRE DISPATCHER コマンド 346
ACTXPTCBS オプション
INQUIRE DISPATCHER コマンド 346
ADAPTERTYPE オプション
INQUIRE EPADAPTER コマンド 367
ADD オプション
INQUIRE FILE コマンド 392
SET FILE コマンド 758
ADD コマンド
CSD 161
ADDRESS オプション
INQUIRE STORAGE コマンド 504
AFFINITY オプション
SET CONNECTION コマンド 705
AFTER オプション
INQUIRE REQID コマンド 497
AGE オプション
INQUIRE UOW コマンド 625
AIBRIDGE オプション
INQUIRE AUTOINSTALL コマンド 283
SET AUTOINSTALL コマンド 698
AKP オプション
INQUIRE SYSTEM コマンド 515
SET SYSTEM コマンド 828
ALIGNED 属性
PL/I 14
ALL オプション
PERFORM STATISTICS コマンド 688
ALTPAGEHT オプション
INQUIRE TERMINAL コマンド 565
ALTPAGEWD オプション
INQUIRE TERMINAL コマンド 565
ALTPRINTER オプション
INQUIRE TERMINAL コマンド 565
SET TERMINAL コマンド 851
ALTPRTCOPYST オプション
INQUIRE TERMINAL コマンド 565
SET TERMINAL コマンド 852
ALTSCRNHT オプション
INQUIRE TERMINAL コマンド 565
ALTSCRNWD オプション
INQUIRE TERMINAL コマンド 565
ALTSUFFIX オプション
INQUIRE TERMINAL コマンド 565
ANALYZERSTAT オプション
INQUIRE URIMAP コマンド 647
APIST オプション
INQUIRE EXITPROGRAM コマンド 382
INQUIRE PROGRAM コマンド 480
APLKYBDST オプション
INQUIRE TERMINAL コマンド 565
APLTEXTST オプション
INQUIRE TERMINAL コマンド 565
APPEND コマンド
CSD 165
APPENDCRLF オプション
INQUIRE DOCTEMPLATE コマンド 349
APPLICATION オプション
EXTRACT STATISTICS コマンド 255
INQUIRE PROGRAM コマンド 480
INQUIRE TRANSACTION コマンド 603
INQUIRE URIMAP コマンド 647
APPLID オプション
INQUIRE IPCONN コマンド 408
APPLMAJORVER オプション
EXTRACT STATISTICS コマンド 255
INQUIRE PROGRAM コマンド 480
INQUIRE TRANSACTION コマンド 604
INQUIRE URIMAP コマンド 647
APPLMICROVER オプション
EXTRACT STATISTICS コマンド 255
INQUIRE PROGRAM コマンド 480
INQUIRE TRANSACTION コマンド 604
INQUIRE URIMAP コマンド 647
APPLMINORVER オプション
EXTRACT STATISTICS コマンド 255
INQUIRE PROGRAM コマンド 480
INQUIRE TRANSACTION コマンド 604
INQUIRE URIMAP コマンド 647
APPLNAMEST オプション
INQUIRE MONITOR コマンド 441
ARCHIVEFILE オプション
INQUIRE WEBSERVICE コマンド 661
ASCII オプション
INQUIRE TERMINAL コマンド 565
ASSOCIATION LIST、INQUIRE コマンド 274
ASYNCSERVICE CVDA 値
EXTRACT STATISTICS コマンド 256
ASYNCSERVICE オプション
PERFORM STATISTICS コマンド 689
AT オプション
INQUIRE REQID コマンド 497
ATIFACILITY オプション
INQUIRE TDQUEUE コマンド 556
ATIFACILITY オプション (続き)
SET TDQUEUE コマンド 845
ATISTATUS オプション
INQUIRE TERMINAL コマンド 565
SET TERMINAL コマンド 852
ATITERMID オプション
INQUIRE TDQUEUE コマンド 556
SET TDQUEUE コマンド 846
ATITRANID オプション
INQUIRE TDQUEUE コマンド 556
SET TDQUEUE コマンド 846
ATIUSERID オプション
INQUIRE TDQUEUE コマンド 556
SET TDQUEUE コマンド 846
ATOMSERVICE CVDA 値
EXTRACT STATISTICS コマンド 256
ATOMSERVICE オプション
CREATE ATOMSERVICE コマンド 80
DISCARD ATOMSERVICE コマンド 210
INQUIRE ATOMSERVICE コマンド 278
INQUIRE URIMAP コマンド 648
PERFORM STATISTICS コマンド 689
ATOMSERVICE、CREATE コマンド 79
ATOMTYPE オプション
INQUIRE ATOMSERVICE コマンド 278
ATTACHSEC オプション
INQUIRE TCPIPSERVICE コマンド 545
ATTACHTIME オプション
INQUIRE TASK コマンド 530
ATTLSAWARE 552
ATTRIBUTES オプション
CREATE ATOMSERVICE コマンド 79
CREATE BUNDLE コマンド 81, 107
CREATE CONNECTION コマンド 85
CREATE DB2CONN コマンド 86
CREATE DB2ENTRY コマンド 90
CREATE DB2TRAN コマンド 92
CREATE DOCTEMPLATE コマンド 94
CREATE ENQMODEL コマンド 96
CREATE FILE コマンド 97
CREATE IPCONN コマンド 103
CREATE JOURNALMODEL コマンド 105
CREATE LIBRARY コマンド 109
CREATE LSRPOOL コマンド 113
CREATE MAPSET コマンド 115
CREATE MQCONN コマンド 116

ATTRIBUTES オプション (続き)
CREATE PARTITIONSET コマンド 120
CREATE PARTNER コマンド 122
CREATE PIPELINE コマンド 124
CREATE PROCESSTYPE コマンド 126
CREATE PROFILE コマンド 129
CREATE PROGRAM コマンド 130
CREATE SESSIONS コマンド 134
CREATE TCPIPSERVICE コマンド 137
CREATE TDQUEUE コマンド 140
CREATE TERMINAL コマンド 143
CREATE TRANCLASS コマンド 145
CREATE TRANSACTION コマンド 148
CREATE TSMODEL コマンド 150
CREATE TYPETERM コマンド 155
CREATE URIMAP コマンド 158
CREATE WEBSERVICE コマンド 160
ATTRLEN オプション
CREATE ATOMSERVICE コマンド 80
CREATE BUNDLE コマンド 81, 107
CREATE CONNECTION コマンド 85
CREATE DOCTEMPLATE コマンド 94
CREATE ENQMODEL コマンド 96
CREATE FILE コマンド 97, 109
CREATE IPCONN コマンド 103
CREATE JOURNALMODEL コマンド 105
CREATE LSRPOOL コマンド 113
CREATE MAPSET コマンド 115
CREATE PARTITIONSET コマンド 121
CREATE PARTNER コマンド 122
CREATE PIPELINE コマンド 124
CREATE PROCESSTYPE コマンド 126
CREATE PROFILE コマンド 129
CREATE PROGRAM コマンド 130
CREATE SESSIONS コマンド 134
CREATE TCPIPSERVICE コマンド 137
CREATE TDQUEUE コマンド 141
CREATE TERMINAL コマンド 144
CREATE TRANCLASS コマンド 146
CREATE TRANSACTION コマンド 148
CREATE TSMODEL コマンド 151
CREATE TYPETERM コマンド 155
CREATE URIMAP コマンド 158
CREATE WEBSERVICE コマンド 160
AT-TLS 552
AUDALARMST オプション
INQUIRE TERMINAL コマンド 565
AUDITLEVEL オプション
INQUIRE PROCESSTYPE コマンド 475, 810
AUDITLOG オプション
INQUIRE PROCESSTYPE コマンド 475
AUTHENTICATE オプション
INQUIRE TCPIPSERVICE コマンド 545
INQUIRE URIMAP コマンド 648
AUTHORITY オプション
INQUIRE EPADAPTER コマンド 367
AUTHUSERID オプション
INQUIRE EPADAPTER コマンド 368
AUTINSTMODEL オプション
DISCARD AUTINSTMODEL コマンド 211
INQUIRE AUTINSTMODEL コマンド 282
AUTINSTMODEL、DISCARD コマンド 211
AUTINSTMODEL、INQUIRE コマンド 282
AUTOCONNECT オプション
INQUIRE CONNECTION コマンド 313
INQUIRE IPCONN コマンド 408
INQUIRE MODENAME コマンド 437
INQUIRE TERMINAL コマンド 565
AUTOINSTALL オプション
COLLECT STATISTICS コマンド 69
PERFORM STATISTICS コマンド 689
AUTOINSTALL、INQUIRE コマンド 283
AUTOINSTALL、SET コマンド 698
AUXSTATUS オプション
INQUIRE TRACEDEST コマンド 587
SET TRACEDEST コマンド 861
AVAILABILITY オプション
INQUIRE DSNAME 353
SET DSNAME 743
AVAILABLE オプション
INQUIRE MODENAME コマンド 437
SET MODENAME コマンド 793
AVAILSTATUS オプション
INQUIRE TRANSACTION コマンド 604
INQUIRE URIMAP コマンド 648
SET BUNDLE コマンド 289, 293, 702

B

BACKLOG オプション
INQUIRE TCPIPSERVICE コマンド 546
SET TCPIPSERVICE コマンド 841
BACKTRANSST オプション
INQUIRE TERMINAL コマンド 565
BACKUPTYPE オプション
INQUIRE DSNAME コマンド 354
BASEDSNAME オプション
INQUIRE DSNAME コマンド 355
INQUIRE FILE コマンド 393
BASESCOPE オプション
INQUIRE BUNDLE コマンド 289
BINDFILE オプション
INQUIRE ATOMSERVICE コマンド 279
BINDING オプション
INQUIRE WEBSERVICE コマンド 661
BLOCKFORMAT オプション
INQUIRE FILE コマンド 393
INQUIRE TDQUEUE コマンド 556
BLOCKKEYLEN オプション
INQUIRE FILE コマンド 393
BLOCKSIZE オプション
INQUIRE FILE コマンド 393
INQUIRE TDQUEUE コマンド 557
BRANCHQUAL オプション
INQUIRE UOWLINK コマンド 642
BREXIT オプション
INQUIRE TRANSACTION コマンド 604
BRFACILITY オプション
INQUIRE BRFACILITY コマンド 286
INQUIRE TASK コマンド 530
BRFACILITY、INQUIRE コマンド 285
BRFACILITY、SET コマンド 700
BRIDGE オプション
INQUIRE TASK コマンド 530
BROWSE オプション
INQUIRE FILE コマンド 393
SET FILE コマンド 758
BUNDLE CVDA 値
EXTRACT STATISTICS コマンド 256
BUNDLE オプション
CREATE BUNDLE コマンド 81
INQUIRE BUNDLE コマンド 290
INQUIRE BUNDLEPART コマンド 293
PERFORM STATISTICS コマンド 689
BUNDLEDIR オプション
INQUIRE BUNDLE コマンド 290
BUNDLEID オプション
INQUIRE BUNDLE コマンド 290

BUNDLEPART オプション
INQUIRE BUNDLEPART コマンド 293
BUNDLEPART、INQUIRE コマンド 293
BUNDLE、CREATE コマンド 80
BUNDLE、DISCARD コマンド 212
BUNDLE、SET コマンド 701
BUSY オプション
SET FILE コマンド 758

C

C 言語
引数値 13
CACHESIZE オプション
INQUIRE DOCTEMPLATE コマンド 349
CALLER オプション
PERFORM DUMP コマンド 674
CALLERLENGTH オプション
PERFORM DUMP コマンド 674
CANCEL オプション
SET CONNECTION コマンド 707
SET IPCONN コマンド 777
CAPTUREPOINT オプション
INQUIRE CAPTURESPEC コマンド 304
CAPTUREPTYPE オプション
INQUIRE CAPTURESPEC コマンド 305
CAPTURESPEC CVDA 値
EXTRACT STATISTICS コマンド 259
CAPTURESPEC オプション
INQUIRE CAPTURESPEC コマンド 305
PERFORM STATISTICS コマンド 689
CAPTURESPEC、INQUIRE コマンド 304
CCSID オプション
INQUIRE WEBSERVICE コマンド 661
CDSASIZE オプション
INQUIRE SYSTEM コマンド 515
CECI トランザクション 1
CEDF トランザクション 1
CEDFSTATUS オプション
INQUIRE PROGRAM コマンド 480
SET PROGRAM コマンド 812
CEMT トランザクション
INQUIRE および SET コマンドで提供される機能 1
CERTIFICATE オプション
INQUIRE IPCONN コマンド 408
INQUIRE TCPIPSERVICE コマンド 546
INQUIRE URIMAP コマンド 648
CETR トランザクション
INQUIRE および SET コマンドで提供される機能 1
CFDTPOOL オプション
INQUIRE CFDTPOOL コマンド 322
INQUIRE FILE コマンド 394
SET FILE コマンド 758
CFDTPOOL、INQUIRE コマンド 321
CHARACTERSET オプション
INQUIRE URIMAP コマンド 649
char-expr 引数、CICS コマンド形式 6
CICS 値
INQUIRE TCPIP コマンド 543
CICS 値データ域 (CVDA) 9
CICS システム・コマンド
INQUIRE PROGRAM 480
CICS 提供のセキュリティー 2
CICSSTATUS オプション
INQUIRE SYSTEM コマンド 516
CICSSYS オプション
INQUIRE SYSTEM コマンド 516
CICSTSLEVEL オプション
INQUIRE SYSTEM コマンド 516
CIPHERS オプション
INQUIRE IPCONN コマンド 408
INQUIRE TCPIPSERVICE コマンド 547
INQUIRE URIMAP コマンド 649
PARTNER オプション
PARTNER コマンド 408
CLIENTAUTH 値
INQUIRE TCPIPSERVICE コマンド 552
CLIENTLOC オプション
CLIENTLOC コマンド 408
CLOSED 値
INQUIRE TCPIP コマンド 543
INQUIRE TCPIPSERVICE コマンド 550
SET TCPIP コマンド 839
CLOSETIMEOUT オプション
INQUIRE TCPIPSERVICE コマンド 547
CLOSING 値
INQUIRE TCPIP コマンド 543
INQUIRE TCPIPSERVICE コマンド 550
CMDPROTECT オプション
INQUIRE SYSTEM コマンド 516
CMDSEC オプション
INQUIRE TASK コマンド 530
INQUIRE TRANSACTION コマンド 605
COBOL
引数値 12
COBOLTYPE オプション
INQUIRE PROGRAM コマンド 480
COLDSTATUS オプション
INQUIRE SYSTEM コマンド 516
COLLECT STATISTICS
状態 69
COLLECT STATISTICS コマンド 69
COLORST オプション
INQUIRE TERMINAL コマンド 565
COMPID オプション
INQUIRE TRACETYPE コマンド 592
SET TRACETYPE コマンド 867
COMPLETE オプション
CREATE CONNECTION コマンド 85
CREATE TERMINAL コマンド 144
COMPRESSST オプション
INQUIRE MONITOR コマンド 441
SET MONITOR コマンド 796
CONCURRENCY オプション
INQUIRE PROGRAM コマンド 480
CONCURRENTST オプション
INQUIRE EXITPROGRAM コマンド 382
CONFIGDATA1 オプション
INQUIRE EPADAPTER コマンド 368
CONFIGFILE オプション
INQUIRE ATOMSERVICE コマンド 280
CONNECTION
SET CONNECTION コマンド 706
CONNECTION オプション
COLLECT STATISTICS コマンド 69
CREATE CONNECTION コマンド 85
INQUIRE CONNECTION コマンド 314
INQUIRE MODENAME コマンド 437
PERFORM STATISTICS コマンド 689
SET MODENAME コマンド 793
CONNECTIONS オプション
INQUIRE TCPIPSERVICE コマンド 547
CONNECTION、 CREATE コマンド 82
CONNECTION、DISCARD コマンド 213
CONNECTION、INQUIRE コマンド 310
CONNECTION、SET コマンド 704, 883
CONNECTST オプション
INQUIRE EXITPROGRAM コマンド 383
CONNSTATUS オプション
INQUIRE CFDTPOOL コマンド 322
INQUIRE CONNECTION コマンド 314

CONNSTATUS オプション (続き)
INQUIRE IPCONN コマンド 408
INQUIRE TSPOOL コマンド 618
SET CONNECTION コマンド 706
SET IPCONN コマンド 776
CONNTYPE オプション
INQUIRE CONNECTION コマンド 315
CONSOLE オプション
INQUIRE TERMINAL コマンド 565
CONSOLES オプション
INQUIRE AUTOINSTALL コマンド 283
SET AUTOINSTALL コマンド 699
CONTAINER オプション
INQUIRE CAPDATAPRED コマンド 296
INQUIRE CAPINFOSRCE コマンド 299
INQUIRE WEBSERVICE コマンド 662
CONVERSEST オプション
INQUIRE MONITOR コマンド 441
SET MONITOR コマンド 796
CONVERTER オプション
INQUIRE URIMAP コマンド 650
COPID
DSNCRCT マクロのオプション 714
COPY オプション
INQUIRE PROGRAM コマンド 480
SET BUNDLE コマンド 703
SET DOCTEMPLATE コマンド 738
SET PROGRAM コマンド 812
COPYST オプション
INQUIRE TERMINAL コマンド 565
CORRELID オプション
INQUIRE TERMINAL コマンド 565
CREATE ATOMSERVICE コマンド 79
状態 80
CREATE BUNDLE コマンド 80
状態 82
CREATE CONNECTION コマンド 82
状態 85
CREATE DB2CONN コマンド 86
CREATE DB2ENTRY コマンド 89
状態 90
CREATE DB2TRAN コマンド 91
状態 92
CREATE DOCTEMPLATE コマンド 93
状態 95
CREATE ENQMODEL コマンド 95
状態 97
CREATE FILE コマンド 97
状態 97, 109
CREATE IPCONN コマンド 100
状態 103
CREATE JOURNALMODEL コマンド 104
状態 105
CREATE JVMSERVER コマンド 106
状態 107
CREATE LIBRARY コマンド 108
CREATE LSRPOOL コマンド 111
状態 113
CREATE MAPSET コマンド 114
状態 115
CREATE MQCONN コマンド 116
状態 116
CREATE MQMONITOR コマンド 118
CREATE PARTITIONSET コマンド 119
状態 121
CREATE PARTNER コマンド 122
状態 123
CREATE PIPELINE コマンド 123
状態 125
CREATE PROCESSTYPE コマンド 125
状態 127
CREATE PROFILE コマンド 127
状態 129
CREATE PROGRAM コマンド 130
状態 130
CREATE SESSIONS コマンド 133
状態 135
CREATE TCPIPSERVICE コマンド 135
状態 138
CREATE TDQUEUE コマンド 138
状態 141
CREATE TERMINAL コマンド 142
状態 144
CREATE TRANCLASS コマンド 145
状態 146
CREATE TRANSACTION コマンド 147
状態 149
CREATE TSMODEL コマンド 149
状態 151
CREATE TYPETERM コマンド 152
状態 155
CREATE URIMAP コマンド 156
状態 158
CREATE WEBSERVICE コマンド 159
状態 160
CREATE コマンド
MQMONITOR 118
CREATESESS オプション
INQUIRE TERMINAL コマンド 565
SET TERMINAL コマンド 852
CRITICALST オプション
INQUIRE LIBRARY コマンド 434
SET LIBRARY コマンド 790
CRLPROFILE オプション
INQUIRE TCPIP コマンド 542
CSD
ADD コマンド 161
APPEND コマンド 165
DELETE コマンド 174
DISCONNECT コマンド 176
ENDBRGROUP コマンド 177
ENDBRLIST コマンド 178
ENDBRRSRCE コマンド 178
GETNEXTGROUP コマンド 179
GETNEXTLIST コマンド 180
INQUIREGROUP コマンド 184
INQUIRELIST コマンド 185
INSTALL コマンド 188
LOCK コマンド 191
REMOVE コマンド 193
STARTBRGROUP コマンド 197
STARTBRLIST コマンド 198
STARTBRRSRCE コマンド 199
UNLOCK コマンド 200
CSD ADD コマンド
状態 162
CSD ALTER コマンド
状態 164
CSD APPEND コマンド
状態 166
CSD COPY コマンド
状態 169
CSD DEFINE コマンド
状態 172
CSD DELETE コマンド
状態 175
CSD DISCONNECT コマンド
状態 177
CSD ENDBRGROUP コマンド
状態 177
CSD ENDBRLIST コマンド
状態 178
CSD ENDBRRSRCE コマンド
状態 179
CSD GETNEXTGROUP コマンド
状態 180
CSD GETNEXTLIST コマンド
状態 180
CSD GETNEXTRSRCE コマンド
状態 183
CSD INQUIREGROUP コマンド
状態 184
CSD INQUIRELIST コマンド
状態 185
CSD INQUIRERSRCE コマンド
状態 187
CSD INSTALL コマンド
状態 190
CSD LOCK コマンド
状態 192

CSD REMOVE コマンド
状態 194
CSD RENAME コマンド
状態 196
CSD STARTBRGROUP コマンド
状態 198
CSD STARTBRLIST コマンド
状態 199
CSD STARTBRRSRCE コマンド
状態 200
CSD UNLOCK コマンド
状態 201
CSD USERDEFINE コマンド
状態 205
CTERM オプション
DSNCRCT マクロ 714
CURAUXDS オプション
INQUIRE TRACEDEST コマンド 588
CURRENT オプション
INQUIRE SYSDUMPCODE コマンド 510
INQUIRE TCLASS コマンド 541
INQUIRE TRANDUMPCODE コマンド 599
CURRENTDDS オプション
INQUIRE DUMPDS コマンド 360
CURRENTPROG オプション 530
CURREQS オプション
INQUIRE AUTOINSTALL コマンド 284
CURRPGM オプション
INQUIRE CAPTURESPEC コマンド 305
CURRPGMOP オプション
INQUIRE CAPTURESPEC コマンド 305
CURRTRANID オプション
INQUIRE CAPTURESPEC コマンド 306
CURRTRANIDOP オプション
INQUIRE CAPTURESPEC コマンド 306
CURRUSERID オプション
INQUIRE CAPTURESPEC コマンド 307
CURRUSERIDOP オプション
INQUIRE CAPTURESPEC コマンド 307
CVDA (CICS 値データ域) 9
コード例 10
コマンド形式 6
引数値 6
CVDA 値
なし
INQUIRE URIMAP コマンド 648, 653
CVDA 値 (続き)
なし (続き)
SET URIMAP コマンド 885
ALLVALUES
INQUIRE CAPTURESPEC コマンド 305, 306, 307, 308
ASYNCHRONOUS
INQUIRE EPADAPTER コマンド 369
ATOM
INQUIRE URIMAP コマンド 655
AVAILABLE
INQUIRE URIMAP コマンド 648
BASIC
INQUIRE URIMAP コマンド 648
CATEGORY
INQUIRE ATOMSERVICE コマンド 279
CBE
INQUIRE EPADAPTER コマンド 369
CBER
INQUIRE EPADAPTER コマンド 369
CCE
INQUIRE EPADAPTER コマンド 369
CFE
INQUIRE EPADAPTER コマンド 369
CLIENT
INQUIRE URIMAP コマンド 654
COLLECTION
INQUIRE ATOMSERVICE コマンド 279
CONTAINER
INQUIRE CAPTURESPEC コマンド 309
CONTEXT
INQUIRE EPADAPTER コマンド 367
CURRENTPGM
INQUIRE CAPTURESPEC コマンド 309
CUSTOM
INQUIRE EPADAPTER コマンド 367, 368
DEFAULT
INQUIRE EPADAPTER コマンド 367
DISABLED
INQUIRE ATOMSERVICE コマンド 280
INQUIRE EPADAPTER コマンド 370
CVDA 値 (続き)
DISABLED (続き)
INQUIRE EPADAPTERSET コマンド 373
INQUIRE EVENTBINDING コマンド 377
INQUIRE HOST コマンド 407
INQUIRE URIMAP コマンド 650, 654
SET ATOMSERVICE コマンド 697
SET EPADAPTER コマンド 754
SET EPADAPTERSET コマンド 755
SET EVENTBINDING コマンド 756
SET HOST コマンド 775
SET URIMAP コマンド 885
DISABLEDHOST
INQUIRE URIMAP コマンド 650
DOESNOTEQUAL
INQUIRE CAPDATAPRED コマンド 297
INQUIRE CAPOPTPRED コマンド 302
INQUIRE CAPTURESPEC コマンド 305, 306, 307, 308
DOESNOTEXIST
INQUIRE CAPDATAPRED コマンド 297
INQUIRE CAPOPTPRED コマンド 302
DOESNOTSTART
INQUIRE CAPDATAPRED コマンド 297
INQUIRE CAPOPTPRED コマンド 302
INQUIRE CAPTURESPEC コマンド 305, 306, 307, 308
DSIE
INQUIRE EPADAPTER コマンド 369
ENABLED
INQUIRE ATOMSERVICE コマンド 280
INQUIRE EPADAPTER コマンド 370
INQUIRE EPADAPTERSET コマンド 373
INQUIRE EVENTBINDING コマンド 377
INQUIRE HOST コマンド 407
INQUIRE URIMAP コマンド 650, 653
SET ATOMSERVICE コマンド 697

CVDA 値 (続き)
ENABLED (続き)
SET EPADAPTER コマンド 754
SET EPADAPTERSET コマンド 755
SET EVENTBINDING コマンド 756
SET HOST コマンド 775
SET URIMAP コマンド 885
EPADAPTER
INQUIRE EVENTBINDING コマンド 378
EPADAPTERSET
INQUIRE EVENTBINDING コマンド 378
EQUALS
INQUIRE CAPDATAPRED コマンド 297
INQUIRE CAPOPTPRED コマンド 302
INQUIRE CAPTURESPEC コマンド 306, 307, 308
EVENT
INQUIRE CAPTURESPEC コマンド 309
FEED
INQUIRE ATOMSERVICE コマンド 279
FILE
INQUIRE ATOMSERVICE コマンド 281
INQUIRE CAPTURESPEC コマンド 309
GOHIGHERTHAN
INQUIRE CAPOPTPRED コマンド 302
GOLOWERTHAN
INQUIRE CAPOPTPRED コマンド 302
GREATERTHAN
INQUIRE CAPDATAPRED コマンド 297
INQUIRE CAPOPTPRED コマンド 303
INQUIRE CAPTURESPEC コマンド 305, 306, 307, 308
HTTP
INQUIRE EPADAPTER コマンド 367, 368
ISNOTGREATER
INQUIRE CAPDATAPRED コマンド 297
INQUIRE CAPOPTPRED コマンド 303
INQUIRE CAPTURESPEC コマンド 306, 307, 309
CVDA 値 (続き)
ISNOTLESS
INQUIRE CAPDATAPRED コマンド 297
INQUIRE CAPOPTPRED コマンド 303
INQUIRE CAPTURESPEC コマンド 306, 307, 309
JVMSERVER
INQUIRE URIMAP コマンド 655
LESSTHAN
INQUIRE CAPDATAPRED コマンド 298
INQUIRE CAPOPTPRED コマンド 303
INQUIRE CAPTURESPEC コマンド 306, 307, 309
MAP
INQUIRE CAPTURESPEC コマンド 309
MESSAGEID
INQUIRE CAPTURESPEC コマンド 309
NO
INQUIRE URIMAP コマンド 647
NOAUTHENTIC
INQUIRE URIMAP コマンド 648
NONE
INQUIRE CAPTURESPEC コマンド 309
NONTRANS
INQUIRE EPADAPTER コマンド 371
NOTAPPLIC
INQUIRE ATOMSERVICE コマンド 281
PERM
INQUIRE URIMAP コマンド 653
PERMANENT
SET URIMAP コマンド 886
PGMINIT
INQUIRE CAPTURESPEC コマンド 305
PIPELINE
INQUIRE URIMAP コマンド 655
POSTCMD
INQUIRE CAPTURESPEC コマンド 305
PRECMD
INQUIRE CAPTURESPEC コマンド 305
PROGRAM
INQUIRE ATOMSERVICE コマンド 281
INQUIRE CAPTURESPEC コマンド 309
CVDA 値 (続き)
REGION
INQUIRE EPADAPTER コマンド 367
SERVER
INQUIRE URIMAP コマンド 654
SERVICE
INQUIRE ATOMSERVICE コマンド 279
INQUIRE CAPTURESPEC コマンド 309
STARTSWITH
INQUIRE CAPDATAPRED コマンド 298
INQUIRE CAPOPTPRED コマンド 303
INQUIRE CAPTURESPEC コマンド 306, 307, 308, 309
SYNCHRONOUS
INQUIRE EPADAPTER コマンド 369
SYSTEM
INQUIRE CAPTURESPEC コマンド 305
TDQ
INQUIRE EPADAPTER コマンド 367
TDQUEUE
INQUIRE CAPTURESPEC コマンド 309
TEMP
INQUIRE URIMAP コマンド 653
TEMPORARY
SET URIMAP コマンド 885
TRANS
INQUIRE EPADAPTER コマンド 371
TRANSACTION
INQUIRE CAPTURESPEC コマンド 309
TRANSTART
INQUIRE EPADAPTER コマンド 367
TSQ
INQUIRE EPADAPTER コマンド 367
TSQUEUE
INQUIRE ATOMSERVICE コマンド 281
INQUIRE CAPTURESPEC コマンド 309
UNKNOWN
INQUIRE ATOMSERVICE コマンド 279

CVDA 値 (続き)
USER
INQUIRE EPADAPTER コマンド 369
USERID
INQUIRE EPADAPTER コマンド 367
WBE
INQUIRE EPADAPTER コマンド 369
WMQ
INQUIRE EPADAPTER コマンド 367
YES
INQUIRE URIMAP コマンド 647

D

DAEOPTION オプション
INQUIRE SYSDUMPCODE コマンド 510, 823
DATABUFFERS オプション
INQUIRE TDQUEUE コマンド 557
DATAFORMAT オプション
INQUIRE EPADAPTER コマンド 369
DATALOCATION オプション
INQUIRE PROGRAM コマンド 480
DATASTREAM オプション
INQUIRE TERMINAL コマンド 565
data-area 6
data-area 引数
CICS コマンド形式 6
data-value 6
data-value 引数
CICS コマンド形式 6
DB2 オプション
PERFORM STATISTICS コマンド 689
DB2CONN オプション
COLLECT STATISTICS コマンド 69
DISCARD DB2CONN コマンド 215
INQUIRE SYSTEM コマンド 517
DB2CONN コマンド
状態 86
DB2CONN、CREATE コマンド 86
DB2CONN、DISCARD コマンド 215
DB2CONN、INQUIRE コマンド 323
DB2CONN、SET コマンド 714
DB2ENTRY オプション
COLLECT STATISTICS コマンド 69
DISCARD DB2ENTRY コマンド 216
DB2ENTRY、CREATE コマンド 89
DB2ENTRY、DISCARD コマンド 215
DB2ENTRY、INQUIRE コマンド 333
DB2ENTRY、SET コマンド 725
DB2PLAN オプション
INQUIRE TASK コマンド 530
DB2TRAN オプション
DISCARD DB2TRAN コマンド 217
DB2TRAN、CREATE コマンド 91
DB2TRAN、DISCARD コマンド 216
DB2TRAN、INQUIRE コマンド 340
DB2TRAN、SET コマンド 731
DDNAME オプション
INQUIRE DOCTEMPLATE コマンド 350
INQUIRE TDQUEUE コマンド 557
DEBUGTOOL オプション
INQUIRE SYSTEM コマンド 517
SET SYSTEM コマンド 828
DEFPAGEHT オプション
INQUIRE TERMINAL コマンド 565
DEFPAGEWD オプション
INQUIRE TERMINAL コマンド 565
DEFSCRNHT オプション
INQUIRE TERMINAL コマンド 565
DEFSCRNWD オプション
INQUIRE TERMINAL コマンド 565
DELETE オプション
INQUIRE FILE コマンド 395
SET FILE コマンド 758
DELETE コマンド
CSD 174
DELETSHIPPED、 INQUIRE コマンド 343
DELETSHIPPED、 PERFORM コマンド 673
DELETSHIPPED、SET コマンド 732
DEREGISTERED オプション
SET VTAM コマンド 887
DEVICE オプション
INQUIRE TERMINAL コマンド 565
DFLTUSER オプション
INQUIRE SYSTEM コマンド 517
DISABLE PROGRAM コマンド 206
グローバル・ユーザー出口の例 209
状態 208
DISABLED CVDA 値
INQUIRE AUTOINSTALL コマンド 284
DISCARD ATOMSERVICE コマンド 210
状態 210
DISCARD AUTINSTMODEL コマンド 211
状態 211
DISCARD BUNDLE コマンド 212
状態 212
DISCARD CONNECTION コマンド 213
状態 214
DISCARD DB2CONN コマンド 215
状態 215
DISCARD DB2ENTRY コマンド 215
状態 216
DISCARD DB2TRAN コマンド 216
状態 217
DISCARD DOCTEMPLATE コマンド 217
状態 218
DISCARD ENQMODEL コマンド 218
状態 218
DISCARD FILE コマンド 219
状態 219
DISCARD IPCONN コマンド 220
状態 220
DISCARD JOURNALMODEL コマンド 221
状態 221
DISCARD JOURNALNAME コマンド 222
状態 223
DISCARD JVMSERVER コマンド 223
状態 223
DISCARD LIBRARY コマンド 224
状態 224
DISCARD MQCONN コマンド 225
状態 226
DISCARD MQMONITOR コマンド 226
状態 226
DISCARD PARTNER コマンド 227
状態 227
DISCARD PIPELINE コマンド 228
状態 228
DISCARD PROCESSTYPE コマンド 229
状態 229
DISCARD PROFILE コマンド 230
状態 230
DISCARD PROGRAM コマンド 231
状態 231
DISCARD TCPIPSERVICE コマンド 232
状態 232
DISCARD TDQUEUE コマンド 233
状態 233
DISCARD TERMINAL コマンド 234
状態 235
DISCARD TRANCLASS コマンド 235
状態 236
DISCARD TRANSACTION コマンド 236
状態 237
DISCARD TSMODEL コマンド 238
状態 238
DISCARD URIMAP コマンド 239
状態 239
DISCARD WEBSERVICE コマンド 240
状態 240
DISCARD オプション
CREATE CONNECTION コマンド 85
CREATE TERMINAL コマンド 144

DISCARD コマンド
BUNDLE 212
CONNECTION 213
JVMSERVER 223
PIPELINE 228
TERMINAL 234
WEBSERVICE 240
DISCONNECT コマンド
CSD 176
DISCREQST オプション
INQUIRE TERMINAL 852
INQUIRE TERMINAL コマンド 565
DISPATCHABLE オプション
INQUIRE TASK LIST コマンド 540
DISPATCHER オプション
COLLECT STATISTICS コマンド 69
PERFORM STATISTICS コマンド 689
DISPATCHER、INQUIRE コマンド 344
DISPATCHER、SET コマンド 735
DISPOSITION オプション
INQUIRE FILE コマンド 395
INQUIRE TDQUEUE コマンド 557
SET FILE コマンド 758
DNAME オプション
INQUIRE ASSOCIATION LIST コマンド 274
DNAMELEN オプション
INQUIRE ASSOCIATION LIST コマンド 274
DOCTEMPLATE CVDA 値
EXTRACT STATISTICS コマンド 256
DOCTEMPLATE オプション
INQUIRE DOCTEMPLATE コマンド 350
PERFORM STATISTICS コマンド 689
SET DOCTEMPLATE コマンド 738
DOCTEMPLATE、DISCARD コマンド 217
DOCTEMPLATE、INQUIRE コマンド 348
DOCTEMPLATE、SET コマンド 737
DPLLIMIT オプション
INQUIRE MONITOR コマンド 441
SET MONITOR コマンド 797
DSALIMIT オプション
INQUIRE SYSTEM コマンド 517
SET SYSTEM コマンド 828
DSANAME オプション
INQUIRE STORAGE コマンド 504
INQUIRE SUBPOOL コマンド 508
DSNAME オプション
INQUIRE DOCTEMPLATE コマンド 350
INQUIRE DSNAME コマンド 355
INQUIRE FILE コマンド 395
INQUIRE LIBRARY コマンド 435
DSNAME オプション (続き)
INQUIRE TDQUEUE コマンド 558
SET DSNAME コマンド 743
SET FILE コマンド 758
DSNAMELIST オプション
INQUIRE LIBRARY コマンド 434
DSNAME、INQUIRE コマンド 352
DSNAME、SET コマンド 739
DSNCRCT マクロの CTX オプション 714
DSNCRCT マクロの SIGNID オプション 323
DSNCRCT マクロの TWAIT オプション TYPE=ENTRY マクロ 714
DSNCRCT マクロの TX オプション 714
DSNCRCT マクロの TXID オプション 323
DSRTPROGRAM オプション
INQUIRE SYSTEM コマンド 517
SET SYSTEM コマンド 829
DTIMEOUT オプション
INQUIRE TASK コマンド 530
INQUIRE TRANSACTION コマンド 605
DTRPROGRAM オプション
INQUIRE SYSTEM コマンド 518
SET SYSTEM コマンド 829
DUALCASEST オプション
INQUIRE TERMINAL コマンド 574
DUMP オプション
PERFORM SHUTDOWN コマンド 683
DUMPCODE オプション
PERFORM DUMP コマンド 674
DUMPDS、INQUIRE コマンド 360
DUMPDS、SET コマンド 750
DUMPID オプション
PERFORM DUMP コマンド 674
DUMPING オプション
INQUIRE SYSTEM コマンド 518
INQUIRE TASK コマンド 530
INQUIRE TRANSACTION コマンド 606
SET SYSTEM コマンド 829
SET TRANSACTION コマンド 876
DUMPSCOPE オプション
INQUIRE SYSDUMPCODE コマンド 510, 823
INQUIRE TRANDUMPCODE コマンド 599
SET TRANDUMPCODE コマンド 873
DUMP、PERFORM コマンド 674
DURATION オプション
INQUIRE UOWENQ コマンド 637
DYNAMSTATUS オプション
INQUIRE PROGRAM コマンド 480

E

ECDSASIZE オプション
INQUIRE SYSTEM コマンド 518
ECI 値
INQUIRE TCPIPSERVICE コマンド 551
EDSALIMIT オプション
INQUIRE SYSTEM コマンド 518
SET SYSTEM コマンド 829
EDSASIZE オプション
INQUIRE SYSTEM コマンド 518
ELEMENT オプション
INQUIRE STORAGE コマンド 504
ELEMENTLIST オプション
INQUIRE MVSTCB コマンド 455
INQUIRE STORAGE コマンド 504
EMITMODE オプション
INQUIRE EPADAPTER コマンド 369
EMPTY オプション
SET FILE コマンド 758
EMPTYSTATUS オプション
INQUIRE FILE コマンド 395
INQUIRE TDQUEUE コマンド 558
SET FILE コマンド 758
ENABLE PROGRAM コマンド 241
グローバル・ユーザー出口の例 241
状態 247
タスク関連のユーザー出口の例 241
ENABLED CVDA 値
INQUIRE AUTOINSTALL コマンド 284
ENABLEDCOUNT オプション
INQUIRE BUNDLE コマンド 291
ENABLESTATUS オプション
INQUIRE ATOMSERVICE コマンド 280
INQUIRE AUTOINSTALL コマンド 284
INQUIRE BUNDLE コマンド 291
INQUIRE BUNDLEPART コマンド 293
INQUIRE EPADAPTER コマンド 370
INQUIRE EPADAPTERSET コマンド 373
INQUIRE EVENTBINDING コマンド 377
INQUIRE FILE コマンド 396
INQUIRE HOST コマンド 407
INQUIRE LIBRARY コマンド 435
INQUIRE TDQUEUE コマンド 558
INQUIRE URIMAP コマンド 650
SET ATOMSERVICE コマンド 697

ENABLESTATUS オプション (続き)
SET BUNDLE コマンド 702
SET EPADAPTER コマンド 754
SET EPADAPTERSET コマンド 755
SET EVENTBINDING コマンド 756
SET FILE コマンド 758
SET HOST コマンド 775
SET LIBRARY コマンド 790
SET TDQUEUE コマンド 846
SET URIMAP コマンド 885
END 条件
INQUIRE CAPINFOSRCE コマンド 301
INQUIRE CAPOPTPRED コマンド 303
INQUIRE CAPTURESPEC コマンド 310
INQUIRE EVENTBINDING コマンド 378
END 状態
INQUIRE ATOMSERVICE コマンド 281
INQUIRE EPADAPTER コマンド 371
INQUIRE EPADAPTERSET コマンド 374
INQUIRE EPADAPTINSET コマンド 375
INQUIRE HOST コマンド 407
INQUIRE JVMSERVER コマンド 430
INQUIRE NODEJSAPP コマンド 461
INQUIRE URIMAP コマンド 655
ENDAFFINITY、PERFORM コマンド 676
ENDBRGROUP コマンド
CSD 177
ENDBRLIST コマンド
CSD 178
ENDBRRSRCE コマンド
CSD 178
ENDOFDAY オプション
INQUIRE STATISTICS コマンド 502
SET STATISTICS コマンド 819
ENDOFDAYHRS オプション
INQUIRE STATISTICS コマンド 502
SET STATISTICS コマンド 820
ENDOFDAYMINS オプション
INQUIRE STATISTICS コマンド 502
SET STATISTICS コマンド 820
ENDOFDAYSECS オプション
INQUIRE STATISTICS コマンド 502
SET STATISTICS コマンド 820
ENDPOINT オプション
INQUIRE WEBSERVICE コマンド 662
ENQFAILS オプション
INQUIRE UOWENQ コマンド 637
ENQMODEL オプション
CREATE ENQMODEL コマンド 97
DISCARD ENQMODEL コマンド 218
INQUIRE ENQMODEL コマンド 364
ENQMODEL、DISCARD コマンド 218
ENQMODEL、INQUIRE コマンド 362
ENQNAME オプション
INQUIRE ENQMODEL コマンド 364
ENQSCOPE オプション
INQUIRE ENQMODEL コマンド 364
INQUIRE UOWENQ コマンド 637
ENQUEUE オプション
COLLECT STATISTICS コマンド 69
PERFORM STATISTICS コマンド 689
ENQ、INQUIRE コマンド 361
ENTRY オプション
ENABLE PROGRAM コマンド 242
INQUIRE EXITPROGRAM コマンド 384
ENTRYNAME オプション
DISABLE PROGRAM コマンド 207
ENABLE PROGRAM コマンド 242
EXTRACT EXIT コマンド 249
INQUIRE EXITPROGRAM コマンド 384
RESYNC コマンド 696
ENTRYNAME、RESYNC コマンド 694
ENTRYPOINT オプション
INQUIRE PROGRAM コマンド 480
EPADAPTER CVDA 値
EXTRACT STATISTICS コマンド 257
EPADAPTER オプション
INQUIRE EVENTBINDING コマンド 377
PERFORM STATISTICS コマンド 689
SET EPADAPTER コマンド 754
EPADAPTERRES オプション
INQUIRE EVENTBINDING コマンド 378
EPADAPTERSET オプション
INQUIRE EPADAPTERSET コマンド 373, 375
SET EPADAPTERSET コマンド 755
EPADAPTERSET、INQUIRE コマンド 371, 374
EPADAPTERSET、SET コマンド 755
EPADAPTER、INQUIRE コマンド 365
EPADAPTER、SET コマンド 754
EPSTATUS オプション
INQUIRE EVENTPROCESS 379
SET EVENTPROCESS コマンド 757
ERDSASIZE オプション
INQUIRE SYSTEM コマンド 518
ERROROPTION オプション
INQUIRE TDQUEUE コマンド 559
ESM (外部セキュリティー・マネージャー) 2
ESMRESP オプション
PERFORM SECURITY REBUILD コマンド 681
ETSASIZE オプション
INQUIRE SYSTEM コマンド 518
EUDSASIZE オプション
INQUIRE SYSTEM コマンド 518
EVENTBINDING CVDA 値
EXTRACT STATISTICS コマンド 257
EVENTBINDING オプション
INQUIRE CAPTURESPEC コマンド 308
INQUIRE EVENTBINDING コマンド 378
PERFORM STATISTICS コマンド 689
SET EVENTBINDING コマンド 756
EVENTBINDING、INQUIRE コマンド 376
EVENTBINDING、SET コマンド 756
EVENTNAME オプション
INQUIRE CAPTURESPEC コマンド 308
EVENTPROCESS CVDA 値
EXTRACT STATISTICS コマンド 257
EVENTPROCESS オプション
PERFORM STATISTICS コマンド 689
EVENTPROCESS、INQUIRE コマンド 379
EVENTPROCESS、SET コマンド 757
EXCEPTCLASS オプション
INQUIRE MONITOR コマンド 441
SET MONITOR コマンド 797
EXCI オプション
INQUIRE EXCI コマンド 380
EXCI、INQUIRE コマンド 380
EXCLUSIVE オプション
INQUIRE FILE コマンド 396
SET FILE コマンド 758
EXEC CICS CREATE
RESP2 値 39
EXEC CICS SPI コマンド
スレッド・セーフ 895
EXEC CICS コマンド
フォーマット 2
EXECKEY オプション
INQUIRE PROGRAM コマンド 480
EXECUTIONSET オプション
INQUIRE PROGRAM コマンド 480
SET PROGRAM コマンド 813
EXIT オプション
DISABLE PROGRAM コマンド 207
ENABLE PROGRAM コマンド 242
INQUIRE DOCTEMPLATE コマンド 351

EXIT オプション (続き)
INQUIRE EXITPROGRAM コマンド 384
EXITALL オプション
DISABLE PROGRAM コマンド 207
EXITPGM オプション
INQUIRE DOCTEMPLATE コマンド 350
EXITPROGRAM オプション
INQUIRE EXITPROGRAM コマンド 384
EXITPROGRAM、INQUIRE コマンド 381
EXITTRACING オプション
INQUIRE CONNECTION コマンド 316
INQUIRE TERMINAL コマンド 574
SET CONNECTION コマンド 706
SET NETNAME コマンド 807
SET TERMINAL コマンド 853
EXIT、EXTRACT コマンド 249
EXPIRYINT オプション
INQUIRE TSQNAME コマンド 620
INQUIRE TSQUEUE コマンド 620
EXPIRYINTMIN オプション
INQUIRE TSQNAME コマンド 620
INQUIRE TSQUEUE コマンド 620
EXTENDEDDSST オプション
INQUIRE TERMINAL コマンド 574
EXTRACT EXIT コマンド 249
状態 250
EXTRACT STATISTICS
状態 260
EXTRACT STATISTICS コマンド 251

F

FACILITY オプション
INQUIRE TASK コマンド 531
FACILITYLIKE オプション
INQUIRE TRANSACTION コマンド 606
FACILITYTYPE オプション
INQUIRE TASK コマンド 531
FEPI オプション
PERFORM STATISTICS コマンド 689
FIELDLENGTH オプション
INQUIRE CAPDATAPRED コマンド 296
INQUIRE CAPINFOSRCE コマンド 300
FIELDOFFSET オプション
INQUIRE CAPDATAPRED コマンド 296
INQUIRE CAPINFOSRCE コマンド 300
FILE オプション
COLLECT STATISTICS コマンド 69
CREATE FILE コマンド 97
DISCARD FILE コマンド 219
INQUIRE DOCTEMPLATE コマンド 350, 351
INQUIRE FILE コマンド 397
INQUIRE PROCESSTYPE コマンド 476
PERFORM STATISTICS コマンド 689
SET FILE コマンド 758
FILECOUNT オプション
INQUIRE DSNAME コマンド 355
FILELIMIT オプション
INQUIRE MONITOR コマンド 442
SET MONITOR コマンド 797
FILENAME オプション
INQUIRE CAPDATAPRED コマンド 296
INQUIRE CAPINFOSRCE コマンド 300
filename 引数、CICS コマンド形式 6
FILE、DISCARD コマンド 219
FILE、INQUIRE コマンド 389
FILE、SET コマンド 758
FILTERVALUE オプション
INQUIRE CAPDATAPRED コマンド 297
INQUIRE CAPOPTPRED コマンド 302
FLAGSET オプション
INQUIRE TRACETYPE コマンド 594
SET TRACETYPE コマンド 869
FLENGTH オプション
INQUIRE STORAGE コマンド 505
INQUIRE TSQNAME コマンド 621
INQUIRE TSQUEUE コマンド 621
FMHPARMST オプション
INQUIRE TERMINAL コマンド 575
FMHSTATUS オプション
INQUIRE REQID コマンド 497
FORCECANCEL オプション
SET CONNECTION コマンド 708
SET IPCONN コマンド 778
FORCEQR オプション
INQUIRE SYSTEM コマンド 519
SET SYSTEM コマンド 830
FORMATEDF オプション
DISABLE PROGRAM コマンド 208
ENABLE PROGRAM コマンド 242
FORMATEDFST オプション
INQUIRE EXITPROGRAM コマンド 384
FORMFEEDST オプション
INQUIRE TERMINAL コマンド 575
FREQUENCY オプション
INQUIRE MONITOR コマンド 442
SET MONITOR コマンド 797
FREQUENCYHRS オプション
INQUIRE MONITOR コマンド 442
SET MONITOR コマンド 798
FREQUENCYMIN オプション
INQUIRE MONITOR コマンド 442
SET MONITOR コマンド 798
FREQUENCYSEC オプション
INQUIRE MONITOR コマンド 442
SET MONITOR コマンド 798
FWDRECOVLOG オプション
INQUIRE DSNAME 355
FWDRECOVLSN オプション
INQUIRE DSNAME 355
FWDRECSTATUS オプション
INQUIRE FILE コマンド 397

G

GAENTRYNAME オプション
ENABLE PROGRAM コマンド 243
INQUIRE EXITPROGRAM コマンド 385
GALENGTH オプション
ENABLE PROGRAM コマンド 243
EXTRACT EXIT コマンド 250
INQUIRE EXITPROGRAM コマンド 385
GARBAGEINT
CEMT INQUIRE WEB 659
SET WEB コマンド 891
GASET オプション
EXTRACT EXIT コマンド 250
GAUSECOUNT オプション
INQUIRE EXITPROGRAM コマンド 385
GCDSASIZE オプション
INQUIRE SYSTEM コマンド 519
GCHARS オプション
INQUIRE TERMINAL コマンド 575
GCODES オプション
INQUIRE TERMINAL コマンド 575
GENERICTCPS オプション 548
GETNEXTGROUP コマンド
CSD 179
GETNEXTLIST コマンド
CSD 180
GMMLENGTH オプション
INQUIRE SYSTEM コマンド 519
SET SYSTEM コマンド 830
GMMTEXT オプション
INQUIRE SYSTEM コマンド 519
SET SYSTEM コマンド 830

GMMTRANID オプション
INQUIRE SYSTEM コマンド 519
GRNAME オプション
INQUIRE CONNECTION コマンド 316
INQUIRE VTAM コマンド 657
GROUP オプション
DSNCRCT マクロ 726
GRSTATUS オプション
INQUIRE VTAM コマンド 657
GSDSASIZE オプション
INQUIRE SYSTEM コマンド 519
GSKRESP オプション
PERFORM SSL REBUILD コマンド 686
GTFSTATUS オプション
INQUIRE TRACEDEST コマンド 588
SET TRACEDEST コマンド 861

H

HA 408
HFORMST オプション
INQUIRE TERMINAL コマンド 575
HFSFILE オプション
INQUIRE DOCTEMPLATE コマンド 350, 351
INQUIRE URIMAP コマンド 650
HILIGHTST オプション
INQUIRE TERMINAL コマンド 575
HOLDSTATUS オプション
INQUIRE PROGRAM コマンド 480
HOST オプション
INQUIRE HOST コマンド 407, 775
INQUIRE IPCONN コマンド 408
INQUIRE TCPIPSERVICE コマンド 548
INQUIRE UOWLINK コマンド 642
INQUIRE URIMAP コマンド 650
HOSTCODEPAGE オプション
INQUIRE URIMAP コマンド 650
HOSTTYPE オプション
INQUIRE IPCONN コマンド 408
INQUIRE TCPIPSERVICE コマンド 548
INQUIRE URIMAP コマンド 651
HOURS オプション
INQUIRE REQID コマンド 497
HTTP 値
INQUIRE TCPIPSERVICE コマンド 551

I

IDENTIFIER オプション
INQUIRE TASK コマンド 531
IDLIST オプション
RESYNC コマンド 696
IDLISTLENGTH オプション
RESYNC コマンド 696
IDNTYCLASS オプション
INQUIRE MONITOR コマンド 442
SET MONITOR コマンド 798
IDPROP オプション
INQUIRE IPCONN コマンド 408
IGNORE (ヌル値) 16
ILLOGIC 条件
INQUIRE CAPINFOSRCE コマンド 301
INQUIRE CAPOPTPRED コマンド 303
INQUIRE CAPTURESPEC コマンド 310
INQUIRE EPADAPTER コマンド 371
INQUIRE EPADAPTERSET コマンド 374
INQUIRE EPADAPTINSET コマンド 375
INQUIRE EVENTBINDING コマンド 378
ILLOGIC 状態
INQUIRE ATOMSERVICE コマンド 281
INQUIRE HOST コマンド 407
INQUIRE JVMSERVER コマンド 430
INQUIRE NODEJSAPP コマンド 461
INQUIRE URIMAP コマンド 655
IMMCLOSE 値
INQUIRE TCPIPSERVICE コマンド 550
SET TCPIP コマンド 839
SET TCPIPSERVICE コマンド 842
IMMCLOSING 値
INQUIRE TCPIP コマンド 543
INQUIRE TCPIPSERVICE コマンド 550
IMMEDIATE オプション
PERFORM SHUTDOWN コマンド 683
INDIRECTNAME オプション
INQUIRE TDQUEUE コマンド 559
INDOUBT オプション
INQUIRE TASK コマンド 531
INQUIRE TDQUEUE コマンド 559
INQUIRE TRANSACTION コマンド 606
INDOUBTMINS オプション
INQUIRE TASK コマンド 532
INDOUBTMINS オプション (続き)
INQUIRE TRANSACTION コマンド 606
INDOUBTST オプション
INQUIRE EXITPROGRAM コマンド 385
INDOUBTWAIT オプション
ENABLE PROGRAM コマンド 244
INQUIRE TDQUEUE コマンド 560
INQUIRE TRANSACTION コマンド 532, 606
INITIALDDS オプション
INQUIRE DUMPDS コマンド 360
SET DUMPDS コマンド 750
INITSTATUS オプション
INQUIRE SYSTEM コマンド 520
INQUIRE ASSOCIATION LIST コマンド 274
状態 274
INQUIRE ATOMSERVICE コマンド 277
状態 281
INQUIRE AUTINSTMODEL コマンド 282
状態 282
INQUIRE AUTOINSTALL コマンド 283
状態 285
INQUIRE BRFACILITY コマンド 285
状態 287
INQUIRE BUNDLE コマンド
状態 292
INQUIRE BUNDLEPART コマンド 293
状態 293
INQUIRE CAPINFOSRCE コマンド
状態 301
INQUIRE CAPOPTPRED コマンド
状態 303
INQUIRE CAPTURESPEC コマンド 304
状態 310
INQUIRE CFDTPOOL コマンド 321
INQUIRE CONNECTION コマンド 310
状態 321
INQUIRE DB2CONN コマンド 323
状態 323
INQUIRE DB2ENTRY コマンド 333
状態 339
INQUIRE DB2TRAN コマンド 340
状態 342
INQUIRE DELETSHIPPED コマンド 343
状態 344
INQUIRE DISPATCHER コマンド 344
状態 347
INQUIRE DOCTEMPLATE コマンド 348
状態 352
INQUIRE DSNAME コマンド 352
状態 359, 633

INQUIRE DUMPDS コマンド 360
INQUIRE ENQ コマンド 361
INQUIRE ENQMODEL コマンド 362
  状態 365
INQUIRE EPADAPTER コマンド 365
  状態 371
INQUIRE EPADAPTERSET コマンド 371, 374
  状態 374
INQUIRE EPADAPTINSET コマンド
  状態 375
INQUIRE EVENTBINDING コマンド 376
  状態 378
INQUIRE EVENTPROCESS コマンド 379
  状態 379
INQUIRE EXCI コマンド 380
  状態 380
INQUIRE EXITPROGRAM コマンド 381
  状態 387
INQUIRE FILE コマンド 389
INQUIRE HOST コマンド 406
  状態 407
INQUIRE IPCONN コマンド 408
  状態 408
INQUIRE IPFACILITY コマンド 418
INQUIRE IRC コマンド 419
  状態 420
INQUIRE JOURNALMODEL コマンド 421
  状態 423
INQUIRE JOURNALNAME コマンド 424
  状態 425
INQUIRE JOURNALNUM コマンド 426
INQUIRE JVMSERVER コマンド 426
  状態 430
INQUIRE MODENAME コマンド 437
  状態 437, 507
INQUIRE MONITOR コマンド 439
  状態 444
INQUIRE MQCONN コマンド 444
  状態 444
INQUIRE MQINI コマンド 448
  状態 450
INQUIRE MQMONITOR コマンド 450
  状態 454
INQUIRE MVSTCB コマンド 454
  状態 456
INQUIRE NETNAME コマンド 457
INQUIRE NODEJSAPP コマンド
  状態 461
INQUIRE OSGIBUNDLE コマンド 462
  状態 465
INQUIRE OSGISERVICE コマンド 465
INQUIRE OSGISERVICE コマンド (続き)
  状態 466
INQUIRE PARTNER コマンド 467
  状態 468
INQUIRE PIPELINE コマンド 469
  状態 474
INQUIRE PROCESSTYPE コマンド 474
  状態 477, 810
INQUIRE PROFILE コマンド 477
  状態 479
  PROFILE 479
INQUIRE PROGRAM コマンド 480
  状態 480
INQUIRE REQID コマンド 495
  状態 499
INQUIRE RRMS コマンド 500
INQUIRE rrms コマンド
  状態 500
INQUIRE STATISTICS コマンド 500
  状態 503
INQUIRE STORAGE コマンド 503
  状態 505
INQUIRE STREAMNAME コマンド 506
INQUIRE SUBPOOL コマンド
  状態 508
  SUBPOOL 507
INQUIRE SYSDUMPCODE コマンド 509
  状態 512
INQUIRE SYSTEM コマンド 512
  状態 527
INQUIRE TASK LIST コマンド 539
  状態 539
INQUIRE TASK コマンド 527, 530
  状態 539
INQUIRE TCLASS コマンド 541
  状態 542
INQUIRE TCPIP コマンド 542
  状態 543
INQUIRE TCPIPSERVICE コマンド 543
  状態 552
INQUIRE TDQUEUE コマンド 554
  状態 563
INQUIRE TEMPSTORAGE コマンド 564
  状態 564
INQUIRE TERMINAL コマンド 565
  状態 565
INQUIRE TRACEDEST コマンド 587
  状態 589
INQUIRE TRACEFLAG コマンド 589
  状態 591
INQUIRE TRACETYPE コマンド 591
  状態 594
INQUIRE TRANCLASS コマンド 595
  状態 597
INQUIRE TRANDUMPCODE コマンド 598
  状態 600
INQUIRE TRANSACTION コマンド 601
  状態 612
INQUIRE TSMODEL コマンド 614
  状態 617
INQUIRE TSPOOL コマンド 617
  状態 618
INQUIRE TSQNAME コマンド 619
  状態 623
INQUIRE TSQUEUE コマンド
  状態 623
  TSQNAME 619
INQUIRE UOW コマンド 624
  状態 628
INQUIRE UOWDSNFAIL コマンド 628
INQUIRE UOWENQ コマンド 634
  状態 640
INQUIRE UOWLINK コマンド 640
  状態 644
INQUIRE URIMAP コマンド 645
  状態 655
INQUIRE VOLUME コマンド 656
  状態 656
INQUIRE VTAM コマンド 656
  状態 659
INQUIRE WEB コマンド
  状態 660
INQUIRE WEBSERVICE コマンド 660
  状態 666
INQUIRE WLMHEALTH コマンド 666
  状態 666
INQUIRE WORKREQUEST コマンド
  WORKREQUEST 668
INQUIRE XMLTRANSFORM コマンド 668
INQUIRE および SET コマンド
  ヌル値 16
  例
    アセンブラー 11
    C 10
    COBOL 10
    PL/I 11
INQUIRE コマンド
  ASSOCIATION LIST 274
  AUTINSTMODEL 282
  AUTOINSTALL 283
  BRFACILITY 285
  BUNDLEPART 293
  CAPTURESPEC 304
  CFDTPOOL 321
  CONNECTION 310
  DB2CONN 323
  DB2ENTRY 333
  DB2TRAN 340

INQUIRE コマンド (続き)
DELETSHIPPED 343
DISPATCHER 344
DOCTEMPLATE 348
DSNAME 352
DUMPDS 360
ENQ 361
ENQMODEL 362
EPADAPTER 365
EPADAPTERSET 371, 374
EVENTBINDING 376
EVENTPROCESS 379
EXCI 380
EXITPROGRAM 381
FILE 389
IPCONN 408
IPFACILITY 418
IRC 419
JOURNALNUM 426
JVMSERVER 426
MODENAME 437
MONITOR 439
MQCONN 444
MQINI 448
MQMONITOR 450
MVSTCB 454
NETNAME 457
OSGIBUNDLE 462
OSGISERVICE 465
PARTNER 467
PIPELINE 469
PROCESSTYPE 474, 809
PROFILE 477
PROGRAM 480
REQID 495
STATISTICS 500
STORAGE 503
SUBPOOL 507
SYSDUMPCODE 509
SYSTEM 512
TASK 527
TASK LIST 539
TCLASS 541
TCPIP 542
TCPIPSERVICE 543
TDQUEUE 554
TEMPSTORAGE 564
TERMINAL 565
TRACEDEST 587
TRACEFLAG 589
TRACETYPE 591
TRANCLASS 595
TRANDUMPCODE 598
TRANSACTION 601
TSMODEL 614
TSPOOL 617
INQUIRE コマンド (続き)
TSQUEUE 619
UOW 624
UOWDSNFAIL 628
UOWENQ 634
UOWLINK 640
VOLUME 656
WEB 659
WLMHEALTH 666
WORKREQUEST 668
z/OS Communications Server 656
INQUIRE コマンド、ブラウズ
状態 28
INQUIREGROUP コマンド
CSD 184
INQUIRELIST コマンド
CSD 185
INSTALL コマンド
CSD 188
integer-expr 引数、CICS コマンド形式 6
INTERVAL オプション
INQUIRE REQID コマンド 497
INQUIRE STATISTICS コマンド 502
SET STATISTICS コマンド 820
INTERVALHRS オプション
INQUIRE STATISTICS コマンド 502
SET STATISTICS コマンド 820
INTERVALMINS オプション
INQUIRE STATISTICS コマンド 502
SET STATISTICS コマンド 820
INTERVALSECS オプション
INQUIRE STATISTICS コマンド 502
SET STATISTICS コマンド 820
INTSTATUS オプション
INQUIRE TRACEDEST コマンド 588
SET TRACEDEST コマンド 862
INVREQ 条件
DISCARD ATOMSERVICE コマンド 210
DISCARD URIMAP コマンド 239
INQUIRE CAPINFOSRCE コマンド 301
INQUIRE CAPOPTPRED コマンド 303
INQUIRE CAPTURESPEC コマンド 310
INQUIRE EPADAPTINSET コマンド 375
INQUIRE HOST コマンド 407
SET ATOMSERVICE コマンド 698
SET EPADAPTER コマンド 754
SET EPADAPTERSET コマンド 755
SET EVENTBINDING コマンド 757
SET EVENTPROCESS コマンド 758
SET HOST コマンド 775
SET URIMAP コマンド 886
INVREQ 条件 (続き)
SET WEBSERVICE コマンド 892
IOTYPE オプション
INQUIRE TDQUEUE コマンド 561
IPADDRESS オプション
INQUIRE TCPIPSERVICE コマンド 549
IPCONN 408
SET IPCONN コマンド 776
IPCONN CVDA 値
EXTRACT STATISTICS コマンド 257
IPCONN オプション
CREATE IPCONN コマンド 103
DISCARD IPCONN コマンド 220
INQUIRE IPCONN コマンド 408
PERFORM STATISTICS コマンド 690
IPCONN、INQUIRE コマンド 408
IPFACILITIES オプション
INQUIRE TASK コマンド 532
IPFACILITY、INQUIRE コマンド 418
IPFAMILY オプション
INQUIRE IPCONN コマンド 408
INQUIRE TCPIPSERVICE コマンド 549
INQUIRE URIMAP コマンド 651
IPFLISTSIZE オプション
INQUIRE TASK コマンド 532
IPIC 値
INQUIRE TCPIPSERVICE コマンド 551
IPRESOLVED オプション
INQUIRE IPCONN コマンド 408
INQUIRE TCPIPSERVICE コマンド 549
INQUIRE URIMAP コマンド 652
IRC、INQUIRE コマンド 419
IRC、SET コマンド 781
ISOLATEST オプション
INQUIRE TASK コマンド 532
INQUIRE TRANSACTION コマンド 607
ITEMNAME オプション
INQUIRE CAPINFOSRCE コマンド 300

J

JOBNAME オプション
INQUIRE SYSTEM コマンド 520
JOURNALMODEL オプション
CREATE JOURNALMODEL コマンド 105
JOURNALMODEL、CREATE コマンド 104
JOURNALMODEL、DISCARD コマンド 221

JOURNALMODEL、INQUIRE コマンド 421
JOURNALNAME オプション
COLLECT STATISTICS コマンド 69
PERFORM STATISTICS コマンド 690
JOURNALNAME、DISCARD コマンド 222
JOURNALNAME、INQUIRE コマンド 424
JOURNALNAME、SET コマンド 783
JOURNALNUM オプション
COLLECT STATISTICS コマンド 69
INQUIRE FILE コマンド 398
PERFORM STATISTICS コマンド 690
JOURNALNUM、INQUIRE コマンド 426
JOURNALNUM、SET コマンド 785
JVMCLASS オプション
INQUIRE PROGRAM コマンド 480
SET PROGRAM コマンド 814
JVMPROFILE オプション
INQUIRE PROGRAM コマンド 480
SET PROGRAM コマンド 814
JVMPROGRAM オプション
COLLECT STATISTICS コマンド 69
PERFORM STATISTICS コマンド 690
JVMSERVER CVDA 値
EXTRACT STATISTICS コマンド 257
JVMSERVER オプション
CREATE JVMSERVER コマンド 107
INQUIRE PROGRAM コマンド 480
PERFORM STATISTICS コマンド 690
JVMSERVER、CREATE コマンド 106
JVMSERVER、DISCARD コマンド 223
JVMSERVER、INQUIRE コマンド 426
JVMSERVER、SET コマンド 786

K

KATAKANAST オプション
INQUIRE TERMINAL コマンド 576
KEEPTIME オプション
INQUIRE BRFACILITY コマンド 286
KEYLENGTH オプション
INQUIRE FILE コマンド 398
SET FILE コマンド 758
KEYPOSITION オプション
INQUIRE FILE コマンド 398

L

label 引数、CICS コマンド形式 6
LANGDEDUCED オプション
INQUIRE PROGRAM コマンド 480
LANGUAGE オプション
INQUIRE PROGRAM コマンド 480
LASTMODTIME オプション
INQUIRE WEBSERVICE コマンド 663
LASTRESET オプション
COLLECT STATISTICS コマンド 69
EXTRACT STATISTICS コマンド 255
LASTRESETABS オプション
EXTRACT STATISTICS コマンド 255
LASTRESETHRS オプション
COLLECT STATISTICS コマンド 69
EXTRACT STATISTICS コマンド 256
LASTRESETMIN オプション
COLLECT STATISTICS コマンド 69
EXTRACT STATISTICS コマンド 256
LASTRESETSEC オプション
COLLECT STATISTICS コマンド 69
EXTRACT STATISTICS コマンド 256
LASTUSEDINT オプション
INQUIRE TSQNAME コマンド 621
INQUIRE TSQUEUE コマンド 621
LENGTH オプション
デフォルト (PL/I) 12
INQUIRE PROGRAM コマンド 480
INQUIRE REQID コマンド 497
LENGTHLIST オプション
INQUIRE MVSTCB コマンド 455
INQUIRE STORAGE コマンド 505
LIBRARY CVDA 値
EXTRACT STATISTICS コマンド 257
LIBRARY オプション
CREATE LIBRARY コマンド 109
DISCARD LIBRARY コマンド 224
INQUIRE LIBRARY コマンド 434
INQUIRE PROGRAM コマンド 480
PERFORM STATISTICS コマンド 690
SET LIBRARY コマンド 790
LIBRARYDSN オプション
INQUIRE PROGRAM コマンド 480
LIBRARY、DISCARD コマンド 224
LIGHTPENST オプション
INQUIRE TERMINAL コマンド 576
LINK オプション
INQUIRE UOW コマンド 625
INQUIRE UOWLINK コマンド 642
LINKAUTH オプション
INQUIRE IPCONN コマンド 408
LINKEDITMODE オプション
ENABLE PROGRAM コマンド 244
LINKSYSNET オプション
INQUIRE BRFACILITY コマンド 286
LINKSYSTEM オプション
INQUIRE BRFACILITY コマンド 286
INQUIRE CONNECTION コマンド 317
LINKSYSTEM オプション (続き)
INQUIRE TERMINAL コマンド 576
LISTSIZE オプション
INQUIRE ASSOCIATION LIST コマンド 274
INQUIRE TASK LIST コマンド 540
LOADPOINT オプション
INQUIRE PROGRAM コマンド 480
LOADTYPE オプション
INQUIRE FILE コマンド 399
SET FILE コマンド 758
LOCATION オプション
INQUIRE CAPDATAPRED コマンド 297
INQUIRE CAPINFOSRCE コマンド 300
INQUIRE TSQNAME コマンド 621
INQUIRE TSQUEUE コマンド 621
INQUIRE URIMAP コマンド 652
SET URIMAP コマンド 885
LOCK コマンド
CSD 191
LOGDEFER オプション
INQUIRE SYSTEM コマンド 520
SET SYSTEM コマンド 830
LOGREPSTATUS オプション
INQUIRE DSNAME 356
LOSTLOCKS オプション
INQUIRE DSNAME 356
LPASTATUS オプション
INQUIRE PROGRAM コマンド 480
LSRPOOL オプション
COLLECT STATISTICS コマンド 69
CREATE LSRPOOL コマンド 113
PERFORM STATISTICS コマンド 690
LSRPOOLID 111
LSRPOOLID オプション
INQUIRE FILE コマンド 399
SET FILE コマンド 758
LSRPOOLNUM オプション
SET FILE コマンド 758
LSRPOOL、CREATE コマンド 111

M

MAJORVERSION オプション
INQUIRE MAJORVERSION コマンド 291
MAPNAME オプション
INQUIRE TERMINAL コマンド 576
SET TERMINAL コマンド 853
MAPPINGLEVEL オプション
INQUIRE WEBSERVICE 663
MAPPINGRNUM オプション
INQUIRE WEBSERVICE 663

MAPPINGVNUM オプション
INQUIRE WEBSERVICE 663
MAPSET オプション
CREATE MAPSET コマンド 115
MAPSETNAME オプション
INQUIRE TERMINAL コマンド 576
SET TERMINAL コマンド 853
MAPSET、CREATE コマンド 114
MAXACTIVE オプション
INQUIRE TRANCLASS コマンド 597
SET TRANCLASS コマンド 870
MAXDATALEN オプション
INQUIRE TCPIPSERVICE コマンド 550
SET TCPIPSERVICE コマンド 842
MAXIMUM オプション
INQUIRE MODENAME コマンド 437
INQUIRE SYSDUMPCODE コマンド 511
INQUIRE TCLASS コマンド 541
INQUIRE TRANDUMPCODE コマンド 600
SET SYSDUMPCODE コマンド 824
SET TCLASS コマンド 837
SET TRANDUMPCODE コマンド 873
MAXITEMLEN オプション
INQUIRE TSQNAME コマンド 621
INQUIRE TSQUEUE コマンド 621
MAXNUMRECS オプション
INQUIRE FILE コマンド 399
SET FILE コマンド 758
MAXOPENTCBS オプション
INQUIRE DISPATCHER コマンド 346
INQUIRE SYSTEM コマンド 520
SET DISPATCHER コマンド 735
MAXPERSIST オプション
INQUIRE TCPIPSERVICE コマンド 550
MAXQTIME オプション
INQUIRE IPCONN コマンド 408
MAXREQS オプション
INQUIRE AUTOINSTALL コマンド 284
SET AUTOINSTALL コマンド 699
MAXSOCKETS オプション
INQUIRE TCPIP コマンド 543
SET SYSTEM コマンド 838
MAXSSLTCBS オプション
INQUIRE DISPATCHER コマンド 346
SET DISPATCHER コマンド 736
MAXTASKS オプション
INQUIRE SYSTEM コマンド 521
MAXTASKS オプション (続き)
SET SYSTEM コマンド 830
MAXTHRDTCBS オプション
INQUIRE DISPATCHER コマンド 346
MAXWINNERS オプション
INQUIRE MODENAME コマンド 437
MAXXPTCBS オプション
INQUIRE DISPATCHER コマンド 347
SET DISPATCHER コマンド 736
MEDIATYPE オプション
INQUIRE URIMAP コマンド 652
MEMBER オプション
INQUIRE DOCTEMPLATE コマンド 351
INQUIRE TDQUEUE コマンド 561
MEMBERNAME オプション
INQUIRE CONNECTION コマンド 317
MEMLIMIT オプション
INQUIRE SYSTEM コマンド 521
MESSAGECASE オプション
INQUIRE SYSTEM コマンド 521
METADATAFILE オプション
INQUIRE BUNDLEPART コマンド 293
MGMTPART オプション
INQUIRE BUNDLE コマンド 291
MICROVERSION オプション
INQUIRE MICROVERSION コマンド 292
MINITEMLEN オプション
INQUIRE TSQNAME コマンド 622
INQUIRE TSQUEUE コマンド 622
MINORVERSION オプション
INQUIRE MINORVERSION コマンド 292
MINRUNLEVEL オプション
INQUIRE WEBSERVICE 664
MINRUNRNUM オプション
INQUIRE WEBSERVICE 664
MINRUNVNUM オプション
INQUIRE WEBSERVICE 664
MINUTES オプション
INQUIRE REQID コマンド 497
MODENAME オプション
INQUIRE MODENAME コマンド 437
INQUIRE TERMINAL コマンド 577
SET MODENAME コマンド 793
MODENAME、INQUIRE コマンド 437
MODENAME、SET コマンド 792
MONITOR オプション
COLLECT STATISTICS コマンド 69
MONITOR オプション (続き)
PERFORM STATISTICS コマンド 690
MONITOR、INQUIRE コマンド 439
MONITOR、SET コマンド 794
MQCONN CVDA 値
EXTRACT STATISTICS コマンド 257
MQCONN オプション
DISCARD MQCONN コマンド 225
INQUIRE SYSTEM コマンド 521
PERFORM STATISTICS コマンド 690
MQCONN、CREATE コマンド 116
MQCONN、DISCARD コマンド 225
MQCONN、INQUIRE、コマンド 444
MQCONN、SET コマンド 800
MQINI、INQUIRE コマンド 448
MQMONITOR CVDA 値
EXTRACT STATISTICS コマンド 258
MQMONITOR オプション
DISCARD MQMONITOR コマンド 226
PERFORM STATISTICS コマンド 690
MQMONITOR、CREATE コマンド 118
MQMONITOR、DISCARD コマンド 226
MQMONITOR、INQUIRE コマンド 450
MQMONITOR、SET コマンド 804
MROBATCH オプション
INQUIRE DISPATCHER コマンド 347
INQUIRE SYSTEM コマンド 521
SET DISPATCHER コマンド 736
SET SYSTEM コマンド 831
MSRCONTROLST オプション
INQUIRE TERMINAL コマンド 577
MVSSMFID オプション
INQUIRE SYSTEM コマンド 521
MVSSYSNAME オプション
INQUIRE SYSTEM コマンド 521
MVSTCB オプション
INQUIRE MVSTCB コマンド 455
MVSTCB、 INQUIRE コマンド 454

N

name 引数、CICS コマンド形式 6
NAMESPACE オプション
INQUIRE BRFACILITY コマンド 286
NATLANG オプション
INQUIRE TERMINAL コマンド 577
NATURE オプション
INQUIRE TERMINAL コマンド 577
NETID オプション
PERFORM ENDAFFINITY コマンド 677
NETNAME オプション
INQUIRE BRFACILITY コマンド 286

NETNAME オプション (続き)
INQUIRE CONNECTION コマンド 317
INQUIRE PARTNER コマンド 468
INQUIRE TERMINAL コマンド 565
INQUIRE UOW コマンド 625
PERFORM ENDAFFINITY コマンド 677
SET NETNAME コマンド 807
NETNAME、INQUIRE コマンド 457
NETNAME、SET コマンド 806
NETUOWID オプション
INQUIRE UOW コマンド 625
INQUIRE UOWENQ コマンド 637
INQUIRE UOWLINK コマンド 642
NETWORK オプション
INQUIRE PARTNER コマンド 468
NEWMAXSOCKET オプション
SET SYSTEM コマンド 839
NEWMAXTASKS オプション
SET SYSTEM コマンド 831
NEXTTIME オプション
INQUIRE STATISTICS コマンド 502
NEXTTIMEHRS オプション
INQUIRE STATISTICS コマンド 502
NEXTTIMEMINS オプション
INQUIRE STATISTICS コマンド 502
NEXTTIMESECS オプション
INQUIRE STATISTICS コマンド 503
NEXTTRANSID オプション
INQUIRE TERMINAL コマンド 565
SET TERMINAL コマンド 853
NODE TARGET オプション
COLLECT STATISTICS コマンド 69
NOHANDLE
オプション 3, 16
NOQUEUE オプション
ACQUIRE TERMINAL コマンド 67
NORESTART オプション
PERFORM SHUTDOWN コマンド 683
NOSDTRAN オプション
PERFORM SHUTDOWN コマンド 683
NOSSL 値
INQUIRE TCPIPSERVICE コマンド 552
NOTAPPLIC 16
NOTAUTH 条件
INQUIRE CAPINFOSRCE コマンド 301
INQUIRE CAPOPTPRED コマンド 303
INQUIRE CAPTURESPEC コマンド 310
INQUIRE EPADAPTER コマンド 371
NOTAUTH 条件 (続き)
INQUIRE EPADAPTERSET コマンド 374
INQUIRE EPADAPTINSET コマンド 375
INQUIRE EVENTBINDING コマンド 378
INQUIRE EVENTPROCESS コマンド 379
SET EPADAPTER コマンド 754
SET EPADAPTERSET コマンド 755
SET EVENTBINDING コマンド 757
SET EVENTPROCESS コマンド 758
NOTAUTH 状態 17
DISCARD ATOMSERVICE コマンド 210
DISCARD URIMAP コマンド 239
INQUIRE ATOMSERVICE コマンド 281
INQUIRE HOST コマンド 407
INQUIRE JVMSERVER コマンド 430
INQUIRE NODEJSAPP コマンド 461
INQUIRE URIMAP コマンド 655
INQUIRE WEBSERVICE コマンド 666
SET ATOMSERVICE コマンド 698
SET HOST コマンド 775
SET URIMAP コマンド 886
SET WEBSERVICE コマンド 892
XMLTRANSFORM コマンド 673, 895
NOTFND 条件
INQUIRE CAPINFOSRCE コマンド 301
INQUIRE CAPOPTPRED コマンド 304
INQUIRE CAPTURESPEC コマンド 310
INQUIRE EPADAPTER コマンド 371
INQUIRE EPADAPTERSET コマンド 374, 375
INQUIRE EVENTBINDING コマンド 379
SET EPADAPTER コマンド 754
SET EPADAPTERSET コマンド 756
SET EVENTBINDING コマンド 757
NOTFND 状態
DISCARD ATOMSERVICE コマンド 210
DISCARD URIMAP コマンド 239
INQUIRE ATOMSERVICE コマンド 281
INQUIRE HOST コマンド 407
INQUIRE JVMSERVER コマンド 430
INQUIRE NODEJSAPP コマンド 461
INQUIRE URIMAP コマンド 655
NOTFND 状態 (続き)
INQUIRE WEBSERVICE コマンド 666
SET ATOMSERVICE コマンド 698
SET HOST コマンド 775
SET URIMAP コマンド 886
SET WEBSERVICE コマンド 892
XMLTRANSFORM コマンド 673, 895
NOTPENDING
INQUIRE IPCONN 408
NOTSUPPORTED 値
INQUIRE TCPIPSERVICE コマンド 551
NQNAME オプション
INQUIRE CONNECTION コマンド 317
INQUIRE TERMINAL コマンド 565
NUMCIPHER オプション
INQUIRE IPCONN コマンド 408
NUMCIPHERS オプション
INQUIRE TCPIPSERVICE コマンド 550
INQUIRE URIMAP コマンド 652
NUMDATAPRED オプション
INQUIRE CAPTURESPEC コマンド 308
NUMDSNAMES オプション
INQUIRE LIBRARY コマンド 436
NUMELEMENTS オプション
INQUIRE MVSTCB コマンド 455
INQUIRE STORAGE コマンド 505
NUMEXITS オプション
INQUIRE EXITPROGRAM コマンド 385
NUMINFOSRCE オプション
INQUIRE CAPTURESPEC コマンド 308
NUMITEMS オプション
INQUIRE TDQUEUE コマンド 561
INQUIRE TSQNAME コマンド 622
INQUIRE TSQUEUE コマンド 622
NUMOPTPRED オプション
INQUIRE CAPTURESPEC コマンド 308

O

OBFORMATST オプション
INQUIRE TERMINAL 854
INQUIRE TERMINAL コマンド 565
OBJECT オプション
INQUIRE DSNAME コマンド 356
INQUIRE FILE コマンド 400
OBOPERIDST オプション
INQUIRE TERMINAL コマンド 565

OPEN 値
INQUIRE TCPIP コマンド 543
INQUIRE TCPIPSERVICE コマンド 550
SET TCPIP コマンド 839
SET TCPIPSERVICE コマンド 842
OPENING 値
INQUIRE TCPIPSERVICE コマンド 550
OPENSTATUS オプション
INQUIRE DUMPDS コマンド 361
INQUIRE FILE コマンド 400
INQUIRE IRC コマンド 420
INQUIRE RRMS コマンド 500
INQUIRE TCPIP コマンド 543
INQUIRE TDQUEUE コマンド 561
INQUIRE VTAM コマンド 657
SET DUMPDS コマンド 751
SET FILE コマンド 758
SET IRC コマンド 782
SET TCPIP コマンド 839
SET TCPIPSERVICE コマンド 842
SET TDQUEUE コマンド 847
SET VTAM コマンド 887
OPERATION 814
OPERATION オプション
INQUIRE PROGRAM コマンド 480
INQUIRE TRANSACTION コマンド 608
INQUIRE URIMAP コマンド 652
OPERATOR オプション
INQUIRE CAPDATAPRED コマンド 297
INQUIRE CAPOPTPRED コマンド 302
OPERID オプション
INQUIRE TERMINAL コマンド 565
SET TERMINAL コマンド 854
OPID
DSNCRCT マクロのオプション 323
OPREL オプション
INQUIRE SYSTEM コマンド 522
OPSYS オプション
INQUIRE SYSTEM コマンド 522
OPTIONNAME オプション
INQUIRE CAPOPTPRED コマンド 303
OSGIBUNDLE、INQUIRE コマンド 462
OSGISERVICE、INQUIRE コマンド 465
OSLEVEL
CEMT INQUIRE SYSTEM 522
OTSTID オプション
INQUIRE UOW コマンド 626
OTSTIMEOUT オプション
INQUIRE TRANSACTION コマンド 608, 877
OUTLINEST オプション
INQUIRE TERMINAL コマンド 565

P

PAGEHT オプション
INQUIRE TERMINAL コマンド 565
PAGESTATUS オプション
INQUIRE TERMINAL コマンド 565
SET TERMINAL コマンド 854
PAGEWD オプション
INQUIRE TERMINAL コマンド 565
PARTCLASS オプション
INQUIRE BUNDLEPART コマンド 293
PARTCOUNT オプション
INQUIRE BUNDLE コマンド 292
PARTIAL オプション
RESYNC コマンド 696
PARTITIONSET オプション
CREATE PARTITIONSET コマンド 121
PARTITIONSET、CREATE コマンド 119
PARTITIONSST オプション
INQUIRE TERMINAL コマンド 565
PARTNER オプション
CREATE PARTNER コマンド 123
DISCARD PARTNER コマンド 227
INQUIRE PARTNER コマンド 468
PARTNER、CREATE コマンド 122
PARTNER、DISCARD コマンド 227
PARTNER、INQUIRE コマンド 467
PARTTYPE オプション
INQUIRE BUNDLEPART コマンド 293
PATH オプション
INQUIRE URIMAP コマンド 652
PDSMEMBER オプション
INQUIRE DOCTEMPLATE コマンド 351
PENDING
INQUIRE IPCONN 408
PENDSTATUS オプション
INQUIRE CONNECTION コマンド 318
INQUIRE IPCONN コマンド 408
SET CONNECTION コマンド 707
SET IPCONN コマンド 777
PERFCLASS オプション
INQUIRE MONITOR コマンド 442
SET MONITOR コマンド 798
PERFORM DELETSHIPPED コマンド 673
PERFORM DUMP コマンド 674
状態 674
PERFORM ENDAFFINITY コマンド 676
PERFORM ENDAFFINITY コマンド (続き)
状態 677
PERFORM PIPELINE 678
PERFORM PIPELINE コマンド
状態 679
PERFORM RESETTIME コマンド 680
状態 680
PERFORM SECURITY REBUILD コマンド 680
状態 681
PERFORM SHUTDOWN コマンド 682
状態 684
PERFORM SSL REBUILD コマンド 685
状態 686
PERFORM STATISTICS RECORD コマンド 687
状態 692
PERFORM コマンド
DELETSHIPPED 673
DUMP 674
ENDAFFINITY 676
RESETTIME 680
SECURITY REBUILD 680
SHUTDOWN 682
SSL REBUILD 685
STATISTICS RECORD 687
PGMINTERFACE オプション
INQUIRE WEBSERVICE コマンド 664
PIPELINE CVDA 値
EXTRACT STATISTICS コマンド 258
PIPELINE オプション
CREATE PIPELINE コマンド 125
INQUIRE URIMAP コマンド 652
INQUIRE WEBSERVICE コマンド 664
PERFORM PIPELINE コマンド 679
PERFORM STATISTICS コマンド 690
PIPELINE、CREATE コマンド 123
PIPELINE、DISCARD コマンド 228
PIPELINE、INQUIRE コマンド 469
PIPELINE、PERFORM 678
PIPELINE、SET コマンド 807
PLATFORM オプション
EXTRACT STATISTICS コマンド 256
INQUIRE PROGRAM コマンド 480
INQUIRE TRANSACTION コマンド 608
INQUIRE URIMAP コマンド 653
PLT オプション
PERFORM SHUTDOWN コマンド 683
PLTNAME オプション
PERFORM SHUTDOWN コマンド 683

PLTPIUSR オプション
INQUIRE SYSTEM コマンド 522
PL/I 言語
引数値 13
LENGTH オプションのデフォルト 12
pointer-ref 引数、CICS コマンド形式 6
pointer-value 引数、CICS コマンド形式 6
POOL TARGET オプション
COLLECT STATISTICS コマンド 69
POOL オプション
COLLECT STATISTICS コマンド 69
POOLNAME オプション
INQUIRE TSQNAME コマンド 622
INQUIRE TSQUEUE コマンド 622
PORT オプション
INQUIRE IPCONN コマンド 408
INQUIRE TCPIPSERVICE コマンド 550
INQUIRE UOWLINK コマンド 642
INQUIRE URIMAP コマンド 653
PRIMPRED オプション
INQUIRE CAPTURESPEC コマンド 308
PRIMPREDOP オプション
INQUIRE CAPTURESPEC コマンド 308
PRIMPREDTYPE オプション
INQUIRE CAPTURESPEC コマンド 309
PRINTADAPTST オプション
INQUIRE TERMINAL コマンド 565
PRINTCONTROL オプション
INQUIRE TDQUEUE コマンド 561
PRINTER オプション
INQUIRE TERMINAL コマンド 565
SET TERMINAL コマンド 854
PRIORITY オプション
INQUIRE TASK コマンド 533
INQUIRE TRANSACTION コマンド 608
SET TASK コマンド 834
SET TRANSACTION コマンド 877
PRIVACY オプション
INQUIRE TCPIPSERVICE コマンド 550
PROCESS オプション
INQUIRE TASK コマンド 533
PROCESSTYPE オプション
CREATE PROCESSTYPE コマンド 126
INQUIRE PROCESSTYPE コマンド 476, 810
INQUIRE TASK コマンド 533
PROCESSTYPE、CREATE コマンド 125
PROCESSTYPE、DISCARD コマンド 229
PROCESSTYPE、INQUIRE コマンド 474
PROCESSTYPE、SET コマンド 809
PROFILE オプション
CREATE PROFILE コマンド 129
DISCARD PROFILE コマンド 230
INQUIRE PARTNER コマンド 468
INQUIRE PROFILE コマンド 479
INQUIRE TASK コマンド 533
INQUIRE TRANSACTION コマンド 608
PROFILE、DISCARD コマンド 230
PROFILE、INQUIRE コマンド 477
PROGAUTO オプション
COLLECT STATISTICS コマンド 69
PERFORM STATISTICS コマンド 690
PROGAUTOCTLG オプション
INQUIRE SYSTEM コマンド 522
SET SYSTEM コマンド 831
PROGAUTOEXIT オプション
INQUIRE SYSTEM コマンド 522
SET SYSTEM コマンド 831
PROGAUTOINST オプション
INQUIRE SYSTEM コマンド 522
SET SYSTEM コマンド 831
PROGRAM オプション
COLLECT STATISTICS コマンド 69
CREATE PROGRAM コマンド 130
DISABLE PROGRAM コマンド 208
DISCARD PROGRAM コマンド 231
ENABLE PROGRAM コマンド 245
EXTRACT EXIT コマンド 250
INQUIRE AUTOINSTALL コマンド 284
INQUIRE DOCTEMPLATE コマンド 351
INQUIRE PROGRAM コマンド 480
INQUIRE TASK コマンド 533
INQUIRE TRANSACTION コマンド 608
INQUIRE URIMAP コマンド 653
INQUIRE WEBSERVICE コマンド 664
PERFORM STATISTICS コマンド 690
SET AUTOINSTALL コマンド 699
SET PROGRAM コマンド 815
PROGRAMDEF オプション
PERFORM STATISTICS コマンド 691
PROGRAM、CREATE コマンド 130
PROGRAM、DISABLE コマンド 206
PROGRAM、DISCARD コマンド 231
PROGRAM、ENABLE コマンド 241
PROGRAM、INQUIRE コマンド 480
PROGRAM、SET コマンド 811
PROGSYMBOLST オプション
INQUIRE TERMINAL コマンド 565
PROGTYPE オプション
INQUIRE PROGRAM コマンド 480
PROTOCL(HTTP) TCPIPSERVICE 552
PROTOCOL オプション
INQUIRE CONNECTION コマンド 318
INQUIRE TCPIPSERVICE コマンド 551
INQUIRE UOWLINK コマンド 642
PRTCOPYST オプション
INQUIRE TERMINAL コマンド 565
SET TERMINAL コマンド 854
PRTYAGING オプション
INQUIRE DISPATCHER コマンド 347
INQUIRE SYSTEM コマンド 523
SET DISPATCHER コマンド 736
SET SYSTEM コマンド 832
PSDINTERVAL オプション
INQUIRE VTAM コマンド 658
SET VTAM 888
PSDINTHRS オプション
Communications Server の SET 889
INQUIRE VTAM コマンド 658
PSDINTMINS オプション
INQUIRE VTAM コマンド 658
SET VTAM 889
PSDINTSECS オプション
INQUIRE VTAM コマンド 658
SET VTAM 889
PSTYPE オプション
INQUIRE VTAM コマンド 658
PURGEABILITY オプション
INQUIRE TASK コマンド 533
INQUIRE TRANSACTION コマンド 608
SET TRANSACTION コマンド 877
PURGEABLE オプション
DISABLE PROGRAM コマンド 208
PURGEABLEST オプション
INQUIRE EXITPROGRAM コマンド 386
PURGETHRESH オプション
INQUIRE TRANCLASS コマンド 597
SET TRANCLASS コマンド 870
PURGETYPE オプション
SET CONNECTION コマンド 707
SET IPCONN コマンド 777
SET TASK コマンド 834
SET TERMINAL コマンド 855

Q

QALL オプション
ACQUIRE TERMINAL コマンド 67

QNOTETAB オプション
ACQUIRE TERMINAL コマンド 67
QSESSLIM オプション
ACQUIRE TERMINAL コマンド 67
QUALIFIER オプション
INQUIRE EXITPROGRAM コマンド 386
RESYNC コマンド 697
QUALLEN オプション
INQUIRE UOWENQ コマンド 637
QUERY SECURITY コマンド 22
QUERYST オプション
INQUIRE TERMINAL コマンド 565
QUEUE オプション
INQUIRE REQID コマンド 498
QUEUED オプション
INQUIRE TRANCLASS コマンド 597
QUEUELIMIT オプション
INQUIRE IPCONN コマンド 408
QUIESCESTATE オプション
INQUIRE DSNAME 357

R

RACF (リソース・アクセス管理機能) 2
RANKING オプション
INQUIRE LIBRARY コマンド 436
SET LIBRARY コマンド 791
RBATYPE オプション
INQUIRE FILE コマンド 401
RDSASIZE オプション
INQUIRE SYSTEM コマンド 523
READ オプション
INQUIRE FILE コマンド 401
SET FILE コマンド 758
READINTEG オプション
INQUIRE FILE コマンド 401
SET FILE コマンド 758
REALM オプション
INQUIRE ASSOCIATION LIST コマンド 274
INQUIRE TCPIPSERVICE コマンド 551
REALMLEN オプション
INQUIRE ASSOCIATION LIST コマンド 274
RECEIVECOUNT オプション
INQUIRE CONNECTION コマンド 319
INQUIRE IPCONN コマンド 408
RECORDFORMAT オプション
INQUIRE FILE コマンド 402
INQUIRE TDQUEUE コマンド 562
RECORDING オプション
INQUIRE STATISTICS コマンド 503
SET STATISTICS コマンド 820
RECORDLENGTH オプション
INQUIRE TDQUEUE コマンド 562
RECORDNOW オプション
SET STATISTICS コマンド 820
RECORDSIZE オプション
INQUIRE FILE コマンド 402
SET FILE コマンド 758
RECOVERY オプション
PERFORM STATISTICS コマンド 691
RECOVSTATUS オプション
INQUIRE CONNECTION コマンド 319
INQUIRE DSNAME コマンド 357
INQUIRE FILE コマンド 403
INQUIRE IPCONN コマンド 408
INQUIRE TDQUEUE コマンド 562
INQUIRE TSQNAME コマンド 622
INQUIRE TSQUEUE コマンド 622
SET CONNECTION コマンド 709
SET IPCONN コマンド 778
REDIRECTTYPE オプション
INQUIRE URIMAP コマンド 653
SET URIMAP コマンド 885
REENTPROTECT オプション
INQUIRE SYSTEM コマンド 523
REGIONUSERID オプション
INQUIRE SYSTEM コマンド 523
RELATION オプション
INQUIRE UOWENQ コマンド 638
RELEASE オプション
INQUIRE SYSTEM コマンド 523
RELREQ オプション
ACQUIRE TERMINAL コマンド 68
RELREQST オプション
INQUIRE TERMINAL コマンド 565
SET TERMINAL コマンド 855
RELTYPE オプション
INQUIRE FILE コマンド 403
REMOTENAME オプション
INQUIRE CONNECTION コマンド 319
INQUIRE FILE コマンド 403
INQUIRE PROGRAM コマンド 480
INQUIRE TASK コマンド 533
INQUIRE TDQUEUE コマンド 562
INQUIRE TERMINAL コマンド 565
INQUIRE TRANSACTION コマンド 609
REMOTESYSNET オプション
INQUIRE BRFACILITY コマンド 287
INQUIRE CONNECTION コマンド 319
INQUIRE TERMINAL コマンド 565
REMOTESYSTEM オプション
INQUIRE BRFACILITY コマンド 287
REMOTESYSTEM オプション (続き)
INQUIRE CONNECTION コマンド 319
INQUIRE FILE コマンド 403
INQUIRE PROGRAM コマンド 480
INQUIRE TASK コマンド 534
INQUIRE TDQUEUE コマンド 562
INQUIRE TERMINAL コマンド 565
INQUIRE TRANSACTION コマンド 609
REMOTETABLE オプション
INQUIRE FILE コマンド 404
REMOVE コマンド
CSD 193
REQID オプション
INQUIRE REQID コマンド 498
REQID、INQUIRE コマンド 495
REQTYPE オプション
INQUIRE REQID コマンド 498
REQUIRED 値
INQUIRE TCPIPSERVICE コマンド 551
RESCOUNT オプション
INQUIRE PROGRAM コマンド 480
RESETNOW オプション
PERFORM STATISTICS コマンド 691
SET STATISTICS コマンド 821
RESETTIME、 PERFORM コマンド 680
RESLEN オプション
INQUIRE UOWENQ コマンド 638
RESNAME オプション
INQUIRE TASK コマンド 534
RESOURCE オプション
INQUIRE UOWENQ コマンド 638
RESOURCENAME オプション
INQUIRE ATOMSERVICE コマンド 281
RESOURCETYPE オプション
INQUIRE ATOMSERVICE コマンド 281
RESP オプション 16
RESP および RESP2 オプション
戻り値 17
RESP2
オプション 16
RESP2 値
EXEC CICS CREATE 39
RESP2 オプション 16
RESRCECLASS オプション
INQUIRE MONITOR コマンド 442
SET MONITOR コマンド 798
RESSEC オプション
INQUIRE TASK コマンド 534
INQUIRE TRANSACTION コマンド 609

RESTYPE オプション
EXTRACT STATISTICS コマンド 256, 259
RESYNC ENTRYNAME コマンド 694
状態 697
RESYNC コマンド
ENTRYNAME 696
IDLIST 696
IDLISTLENGTH 696
PARTIAL 696
QUALIFIER 697
RESYNCSTATUS オプション
INQUIRE UOWLINK コマンド 643
RETLOCKS オプション
INQUIRE DSNAME 358
REWIND オプション
INQUIRE TDQUEUE コマンド 562
RLSACCESS オプション
INQUIRE FILE コマンド 404
SET FILE コマンド 758
RMIQFY オプション
INQUIRE UOWLINK コマンド 643
RMIST オプション
INQUIRE MONITOR コマンド 443
ROLE オプション
INQUIRE UOWLINK コマンド 643
ROUTESTATUS オプション
INQUIRE TRANSACTION コマンド 609
ROUTING オプション
INQUIRE TASK コマンド 534
INQUIRE TRANSACTION コマンド 609
RRMS、INQUIRE コマンド 500
RTERMID オプション
INQUIRE REQID コマンド 498
RTIMEOUT オプション
INQUIRE TASK コマンド 535
INQUIRE TRANSACTION コマンド 610
RTRANSID オプション
INQUIRE REQID コマンド 498
RUNAWAY オプション
INQUIRE DISPATCHER コマンド 347
INQUIRE SYSTEM コマンド 524
INQUIRE TASK コマンド 535
INQUIRE TRANSACTION コマンド 610
SET DISPATCHER コマンド 736
SET SYSTEM コマンド 832
SET TRANSACTION コマンド 877
RUNAWAYTYPE オプション
INQUIRE TRANSACTION コマンド 610
SET TRANSACTION コマンド 877
RUNNING オプション
INQUIRE TASK LIST コマンド 540
RUNSTATUS オプション
INQUIRE TASK コマンド 535
RUNTIME オプション
INQUIRE PROGRAM コマンド 480
SET PROGRAM コマンド 815

S

SCANDELAY オプション
INQUIRE DISPATCHER コマンド 347
INQUIRE SYSTEM コマンド 524
SET DISPATCHER コマンド 736
SET SYSTEM コマンド 832
SCHEMALEVEL オプション
INQUIRE EVENTPROCESS 379
SCHEME オプション
INQUIRE URIMAP コマンド 653
SCRNHT オプション
INQUIRE TERMINAL コマンド 565
SCRNSIZE オプション
INQUIRE TASK コマンド 535
INQUIRE TRANSACTION コマンド 610
SCRNWD オプション
INQUIRE TERMINAL コマンド 565
SDSASIZE オプション
INQUIRE SYSTEM コマンド 524
SDTRAN オプション
INQUIRE SYSTEM コマンド 524
PERFORM SHUTDOWN コマンド 683
SEARCHPOS オプション
INQUIRE LIBRARY コマンド 436
SECONDS オプション
INQUIRE REQID コマンド 498
SECURITY REBUILD、PERFORM コマンド 680
SECURITY オプション
INQUIRE TERMINAL コマンド 565
SECURITYMGR オプション
INQUIRE SYSTEM コマンド 524
SECURITYNAME オプション
INQUIRE IPCONN コマンド 408
SENDCOUNT オプション
INQUIRE CONNECTION コマンド 319
INQUIRE IPCONN コマンド 408
SERVSTATUS オプション
INQUIRE CONNECTION コマンド 320
INQUIRE IPCONN コマンド 408
INQUIRE TERMINAL コマンド 565
SET CONNECTION コマンド 709
SERVSTATUS オプション (続き)
SET IPCONN コマンド 779
SET TERMINAL コマンド 856
SESSIONS オプション
CREATE SESSIONS コマンド 134
SESSIONTYPE オプション
INQUIRE TERMINAL コマンド 565
SET ATOMSERVICE コマンド 697
状態 698
SET AUTOINSTALL コマンド 698
状態 699
SET BRFACILITY コマンド 700
状態 701
SET BUNDLE コマンド 701
状態 703
SET CONNECTION コマンド 704
状態 712
SET DB2CONN コマンド 714
状態 714
SET DB2ENTRY コマンド 725
状態 730
SET DB2TRAN コマンド 731
状態 731
SET DELETSHIPPED コマンド 732
状態 734
SET DISPATCHER コマンド 735
状態 737
SET DOCTEMPLATE コマンド 737
状態 738
SET DSNAME コマンド 739
状態 745
SET DUMPDS コマンド 750
状態 751
SET ENQMODEL コマンド 752
状態 753
SET EPADAPTER コマンド 754
状態 754
SET EPADAPTERSET コマンド 755
状態 755
SET EVENTBINDING コマンド 756
状態 757
SET EVENTPROCESS コマンド 757
状態 758
SET FILE コマンド 758
状態 758
SET HOST コマンド 774
状態 775
SET IPCONN コマンド
状態 780
SET IRC コマンド 781
状態 782
SET JOURNALNAME コマンド 783
状態 785
SET JOURNALNUM コマンド 785
SET JVMSERVER コマンド 786
状態 788

SET MODENAME コマンド 792
状態 793
SET MONITOR コマンド 794
状態 799
SET MQCONN コマンド 800
状態 800
SET MQMONITOR コマンド 804
状態 804
SET NETNAME コマンド 806
状態 807
SET PIPELINE コマンド 807
状態 808
SET PROCESSTYPE コマンド 809
SET PROGRAM コマンド 811
状態 791, 816
SET STATISTICS コマンド 818
状態 821
SET SYSDUMPCODE コマンド 821
状態 825
SET SYSTEM コマンド
状態 832
SET TASK コマンド 833
状態 835
SET TCLASS コマンド 837
状態 838
SET TCPIP コマンド 838
状態 839
SET TCPIPSERVICE コマンド 840
状態 843
SET TDQUEUE コマンド 843
状態 847
SET TEMPSTORAGE コマンド 848
状態 849
SET TERMINAL コマンド 850
状態 858
SET TRACEDEST コマンド 860
状態 863
SET TRACEFLAG コマンド 864
状態 866
SET TRACETYPE コマンド 866
状態 869
SET TRANCLASS コマンド 869
状態 871
SET TRANDUMPCODE コマンド 871
状態 874
SET TRANSACTION コマンド 875
状態 879
SET TSQNAME コマンド 880
状態 880
SET TSQUEUE コマンド 880
状態 880
SET UOW コマンド 881
状態 882
SET UOWLINK コマンド 883
状態 883
SET URIMAP コマンド 884
SET URIMAP コマンド (続き)
状態 886
SET VOLUME コマンド 886
状態 886
SET VTAM コマンド 886
状態 889
SET WEBSERVICE コマンド 891
状態 892
SET WLMHEALTH コマンド 892
状態 892
SET XMLTRANSFORM コマンド 894
SET オプション
COLLECT STATISTICS コマンド 69
EXTRACT STATISTICS コマンド 259
INQUIRE ASSOCIATION LIST コマンド 274
INQUIRE MVSTCB コマンド 455
INQUIRE REQID コマンド 498
INQUIRE TASK LIST コマンド 540
SET コマンド 28
AUTOINSTALL 698
BRFACILITY 700
BUNDLE 701
CONNECTION 704
DB2CONN 714
DB2ENTRY 725
DB2TRAN 731
DELETSHIPPED 732
DISPATCHER 735
DSNAME 739
DUMPDS 750
EPADAPTER 754
EPADAPTERSET 755
EVENTBINDING 756
EVENTPROCESS 757
FILE 758
IRC 781
JOURNALNUM 785
MODENAME 792
MONITOR 794
MQCONN 800
MQMONITOR 804
NETNAME 806
PIPELINE 807
PROGRAM 811
STATISTICS 818
SYSDUMPCODE 821
TASK 833
TCLASS 837
TCPIP 838
TCPIPSERVICE 840
TDQUEUE 843
TERMINAL 850
TRACEDEST 860
TRACEFLAG 864
TRACETYPE 866
SET コマンド (続き)
TRANCLASS 869
TRANDUMPCODE 871
TRANSACTION 875
UOWLINK 883
VOLUME 886
WLMHEALTH 892
SET コマンドCICS のための z/OS Communications Server 接続
VTAM 886
SETTRANSID オプション
INQUIRE TASK LIST コマンド 540
SHARESTATUS オプション
INQUIRE PROGRAM コマンド 480
SET PROGRAM コマンド 815
SHUTDOWN オプション
DISABLE PROGRAM コマンド 208
ENABLE PROGRAM コマンド 245
INQUIRE TRANSACTION コマンド 610
SET TRANSACTION コマンド 878
SHUTDOWNST オプション
INQUIRE EXITPROGRAM コマンド 386
SHUTDOWN、PERFORM コマンド 682
SHUTOPTION オプション
INQUIRE SYSDUMPCODE コマンド 511
INQUIRE TRANDUMPCODE コマンド 600
SET SYSDUMPCODE コマンド 824
SET TRANDUMPCODE コマンド 873
SHUTSTATUS オプション
INQUIRE SYSTEM コマンド 524
SIGNONSTATUS オプション
INQUIRE TERMINAL コマンド 565
SINGLESTATUS オプション
INQUIRE TRACEFLAG コマンド 590
SET TRACEFLAG コマンド 864
SOCKETCLOSE オプション
INQUIRE TCPIPSERVICE コマンド 551
INQUIRE URIMAP コマンド 654
SOCKPOOLSIZE オプション
INQUIRE URIMAP コマンド 654
SOSABOVEBAR オプション
INQUIRE SYSTEM コマンド 525
SOSABOVELINE オプション
INQUIRE SYSTEM コマンド 525
SOSBELOWLINE オプション
INQUIRE SYSTEM コマンド 525
SOSIST オプション
INQUIRE TERMINAL コマンド 565
SOSSTATUS オプション
INQUIRE SYSTEM コマンド 525

SPECIFTCPS オプション 551
SPI
  監査 36
SPI オプション
  DISABLE PROGRAM コマンド 208
  ENABLE PROGRAM コマンド 245
SPI コマンド
  INQUIRE PROGRAM 480
SPIST オプション
  INQUIRE EXITPROGRAM コマンド 386
SSL REBUILD、PERFORM コマンド 685
SSL 値
  INQUIRE TCPIPSERVICE コマンド 552
SSLCACHE オプション
  INQUIRE TCPIP コマンド 543
SSLTYPE オプション
  INQUIRE IPCONN コマンド 408
  INQUIRE TCPIPSERVICE コマンド 551
START オプション
  ENABLE PROGRAM コマンド 246
STARTBRGROUP コマンド
  CSD 197
STARTBRLIST コマンド
  CSD 198
STARTBRRSRCE コマンド
  CSD 199
STARTCODE オプション
  INQUIRE TASK コマンド 535
STARTSTATUS オプション
  INQUIRE EXITPROGRAM コマンド 387
STARTUP オプション
  INQUIRE SYSTEM コマンド 526
STARTUPDATE オプション
  INQUIRE SYSTEM コマンド 526
STATE オプション
  INQUIRE UOWENQ コマンド 638
  INQUIRE WEBSERVICE コマンド 664
STATISTICS RECORD、PERFORM コマンド 687
STATISTICS、COLLECT コマンド 69
STATISTICS、EXTRACT コマンド 251
STATISTICS、INQUIRE コマンド 500
STATISTICS、SET コマンド 818
STATS オプション
  COLLECT STATISTICS コマンド 69
  PERFORM STATISTICS コマンド 691
STATUS オプション
  INQUIRE ENQMODEL コマンド 365
  INQUIRE MONITOR コマンド 443
  INQUIRE PROCESSTYPE コマンド 476, 810
STATUS オプション (続き)
  INQUIRE PROGRAM コマンド 480
  INQUIRE TCPIPSERVICE コマンド 550
  INQUIRE TRANSACTION コマンド 611
  SET MONITOR コマンド 798
  SET PROGRAM コマンド 816
  SET TRANSACTION コマンド 878
STOP オプション
  DISABLE PROGRAM コマンド 208
STORAGE オプション
  COLLECT STATISTICS コマンド 69
  PERFORM STATISTICS コマンド 691
STORAGECLEAR オプション
  INQUIRE TASK コマンド 536
  INQUIRE TRANSACTION コマンド 611
STORAGE、INQUIRE コマンド 503
STOREPROTECT オプション
  INQUIRE SYSTEM コマンド 526
STREAMNAME オプション
  PERFORM STATISTICS コマンド 691
STREAMNAME、INQUIRE コマンド 506
STRINGS オプション
  INQUIRE FILE コマンド 404
  SET FILE コマンド 758
STRUCTNAME オプション
  INQUIRE CAPDATAPRED コマンド 298
  INQUIRE CAPINFOSRCE コマンド 300
SUBPOOL オプション
  COLLECT STATISTICS コマンド 69
  INQUIRE SUBPOOL コマンド 508
  INQUIRE TEMPSTORAGE コマンド 564
SUBPOOLLIST オプション
  INQUIRE MVSTCB コマンド 456
SUBPOOL、INQUIRE コマンド 507
SUBRESTYPE CVDA 値
  EXTRACT STATISTICS コマンド 259
SUBTASKS オプション
  INQUIRE DISPATCHER コマンド 347
SUPPORTED 値
  INQUIRE TCPIPSERVICE コマンド 551
SUSPENDED オプション
  INQUIRE TASK LIST コマンド 540
SUSPENDTIME オプション
  INQUIRE TASK コマンド 536
SUSPENDTYPE オプション
  INQUIRE TASK コマンド 536
SUSPENDVALUE オプション
  INQUIRE TASK コマンド 536
SWITCHACTION オプション
  SET TRACEDEST コマンド 862
SWITCHSTATUS オプション
  INQUIRE DUMPDS コマンド 361
  INQUIRE TRACEDEST コマンド 588
  SET DUMPDS コマンド 751
  SET TRACEDEST コマンド 862
SYNCPOINTST オプション
  INQUIRE MONITOR コマンド 443
  SET MONITOR コマンド 798
SYSDUMP オプション
  PERFORM STATISTICS コマンド 691
SYSDUMPCODE オプション
  COLLECT STATISTICS コマンド 69
  SET SYSDUMPCODE コマンド 825
SYSDUMPCODE、INQUIRE コマンド 509
SYSDUMPCODE、SET コマンド 821
SYSDUMPING オプション
  INQUIRE SYSDUMPCODE コマンド 511
  INQUIRE TRANDUMPCODE コマンド 600
  SET SYSDUMPCODE コマンド 825
  SET TRANDUMPCODE コマンド 874
SYSEIB
  オプション 3
SYSID オプション
  INQUIRE TSQNAME コマンド 622
  INQUIRE TSQUEUE コマンド 622
  INQUIRE UOW コマンド 626
  INQUIRE UOWLINK コマンド 643
SYSOUTCLASS オプション
  INQUIRE TDQUEUE コマンド 563
SYSPLEX 値
  INQUIRE TCPIP コマンド 543
systemname 引数、CICS コマンド形式 6
SYSTEMSTATUS オプション
  INQUIRE TRACEFLAG コマンド 590
  SET TRACEFLAG コマンド 865
SYSTEM、INQUIRE コマンド 512

T

TABLE オプション
  INQUIRE FILE コマンド 404
  SET FILE コマンド 758
TABLEMGR オプション
  COLLECT STATISTICS コマンド 69
  PERFORM STATISTICS コマンド 691
TABLENAME オプション
  INQUIRE FILE コマンド 404
  SET FILE コマンド 758

TABLESIZE オプション
INQUIRE TRACEDEST コマンド 589
SET TRACEDEST コマンド 862
TAKEOVER オプション
PERFORM SHUTDOWN コマンド 684
TALENGTH オプション
ENABLE PROGRAM コマンド 246
INQUIRE EXITPROGRAM コマンド 387
TARGET NODE オプション
COLLECT STATISTICS コマンド 69
TARGETCOUNT オプション
INQUIRE BUNDLE コマンド 292
TASK LIST、INQUIRE コマンド 539
TASK オプション
INQUIRE EXCI コマンド 380
INQUIRE STORAGE コマンド 505
INQUIRE TASK コマンド 537
INQUIRE UOW コマンド 626
SET TASK コマンド 835
TASKDATAKEY オプション
INQUIRE TASK コマンド 537
INQUIRE TRANSACTION コマンド 611
TASKDATALOC オプション
INQUIRE TASK コマンド 537
INQUIRE TRANSACTION コマンド 611
TASKID オプション
INQUIRE BRFACILITY コマンド 287
INQUIRE TERMINAL コマンド 565
INQUIRE UOWENQ コマンド 638
TASKSTART オプション
DISABLE PROGRAM コマンド 208
ENABLE PROGRAM コマンド 246
TASKSTARTST オプション
INQUIRE EXITPROGRAM コマンド 387
TASKSUBPOOL オプション
COLLECT STATISTICS コマンド 69
TASK、INQUIRE コマンド 527
TASK、SET コマンド 833
TCAMCONTROL オプション
INQUIRE TERMINAL コマンド 565
SET TERMINAL コマンド 856
TCB オプション
INQUIRE TASK コマンド 537
TCEXITSTATUS オプション
INQUIRE TRACEFLAG コマンド 590
SET TRACEFLAG コマンド 865
TCLASS オプション
COLLECT STATISTICS コマンド 69
INQUIRE TASK コマンド 538
INQUIRE TRANSACTION コマンド 611
TCLASS オプション (続き)
PERFORM STATISTICS コマンド 691
SET TRANSACTION コマンド 878
TCLASS、INQUIRE コマンド 541
TCLASS、SET コマンド 837
TCPIP オプション
COLLECT STATISTICS コマンド 69
PERFORM STATISTICS コマンド 691
TCPIPSERVICE オプション
COLLECT STATISTICS コマンド 69
CREATE TCPIPSERVICE コマンド 138
INQUIRE IPCONN コマンド 408
INQUIRE TCPIPSERVICE コマンド 552
INQUIRE URIMAP コマンド 407, 654
PERFORM STATISTICS コマンド 691
TCPIPSERVICE、DISCARD コマンド 232
TCPIPSERVICE、INQUIRE コマンド 543
TCPIPSERVICE、SET コマンド 840
TCPIP、INQUIRE コマンド 542
TCPIP、SET コマンド 838
TDQ オプション
INQUIRE DOCTEMPLATE コマンド 351
TDQUEUE オプション
COLLECT STATISTICS コマンド 69
CREATE TDQUEUE コマンド 141
DISCARD TDQUEUE コマンド 233
INQUIRE DOCTEMPLATE コマンド 351
INQUIRE TDQUEUE コマンド 563
PERFORM STATISTICS コマンド 691
SET TDQUEUE コマンド 847
TDQUEUE、DISCARD コマンド 233
TDQUEUE、INQUIRE コマンド 554
TDQUEUE、SET コマンド 843
TEMPLATENAME オプション
INQUIRE DOCTEMPLATE コマンド 351
INQUIRE URIMAP コマンド 654
TEMPLATETYPE オプション
INQUIRE DOCTEMPLATE コマンド 351
TEMPSTORAGE、INQUIRE コマンド 564
TERM オプション
DSNCRCT マクロ 323, 714
TERMID オプション
INQUIRE BRFACILITY コマンド 287
INQUIRE REQID コマンド 498
INQUIRE UOW コマンド 626
TERMINAL オプション
ACQUIRE TERMINAL コマンド 68
TERMINAL オプション (続き)
COLLECT STATISTICS コマンド 69
CREATE TERMINAL コマンド 144
INQUIRE TERMINAL コマンド 565
PERFORM STATISTICS コマンド 691
SET TERMINAL コマンド 856
TERMINAL、ACQUIRE コマンド 66
TERMINAL、CREATE コマンド 142
TERMINAL、DISCARD コマンド 234
TERMINAL、INQUIRE コマンド 565
TERMINAL、SET コマンド 850
TERMMODEL オプション
INQUIRE TERMINAL コマンド 565
TERMPRIORITY オプション
INQUIRE TERMINAL コマンド 565
SET TERMINAL コマンド 856
TERMSTATUS オプション
INQUIRE BRFACILITY コマンド 287
INQUIRE TERMINAL コマンド 565
SET BRFACILITY コマンド 701
SET TERMINAL コマンド 856
TEXTKYBDST オプション
INQUIRE TERMINAL コマンド 565
TEXTPRINTST オプション
INQUIRE TERMINAL コマンド 565
TIME オプション
INQUIRE DISPATCHER コマンド 347
INQUIRE MONITOR コマンド 443
INQUIRE REQID コマンド 499
INQUIRE SYSTEM コマンド 526
SET DISPATCHER コマンド 737
SET SYSTEM コマンド 832
TIMEOUT 値
INQUIRE TCPIPSERVICE コマンド 551
TIMEOUTINT
CEMT INQUIRE WEB 659
SET WEB 891
TITLE オプション
PERFORM DUMP コマンド 674
TITLELENGTH オプション
PERFORM DUMP コマンド 674
TPNAME オプション
INQUIRE PARTNER コマンド 468
TPNAMELEN オプション
INQUIRE PARTNER コマンド 468
TRACEDEST、INQUIRE コマンド 587
TRACEDEST、SET コマンド 860
TRACEFLAG、INQUIRE コマンド 589
TRACEFLAG、SET コマンド 864
TRACETYPE、INQUIRE コマンド 591
TRACETYPE、SET コマンド 866
TRACING オプション
INQUIRE TASK コマンド 538
INQUIRE TERMINAL コマンド 565

TRACING オプション (続き)
INQUIRE TRANSACTION コマンド 612
SET TERMINAL コマンド 857
SET TRANSACTION コマンド 878
TRANCLASS オプション
COLLECT STATISTICS コマンド 69
CREATE TRANCLASS コマンド 146
DISCARD TRANCLASS コマンド 236
INQUIRE TASK コマンド 538
INQUIRE TRANCLASS コマンド 597
INQUIRE TRANSACTION コマンド 612
PERFORM STATISTICS コマンド 692
SET TRANCLASS コマンド 870
SET TRANSACTION コマンド 879
TRANCLASS、CREATE コマンド 145
TRANCLASS、DISCARD コマンド 235
TRANCLASS、INQUIRE コマンド 595
TRANCLASS、SET コマンド 869
TRANDUMP
PERFORM STATISTICS コマンド 692
TRANDUMPCODE オプション
COLLECT STATISTICS コマンド 69
INQUIRE TRANDUMPCODE コマンド 600
SET TRANDUMPCODE コマンド 874
TRANDUMPCODE、INQUIRE コマンド 598
TRANDUMPCODE、SET コマンド 871
TRANDUMPING オプション
INQUIRE TRANDUMPCODE コマンド 600
SET TRANDUMPCODE コマンド 874
TRANISOLATE オプション
INQUIRE SYSTEM コマンド 526
TRANPRIORITY オプション
INQUIRE TASK コマンド 538
TRANSACTION オプション
COLLECT STATISTICS コマンド 69
CREATE TRANSACTION コマンド 149
DISCARD TRANSACTION コマンド 237
INQUIRE BRFACILITY コマンド 287
INQUIRE TASK コマンド 538
INQUIRE TERMINAL コマンド 565
INQUIRE TRANSACTION コマンド 612
INQUIRE URIMAP コマンド 654
PERFORM STATISTICS コマンド 692
SET TRANSACTION コマンド 879
TRANSACTION、DISCARD コマンド 236
TRANSACTION、INQUIRE コマンド 601
TRANSACTION、SET コマンド 875
TRANSID オプション
INQUIRE PROGRAM コマンド 480
INQUIRE REQID コマンド 499
INQUIRE TCPIPSERVICE コマンド 552
INQUIRE TSQNAME コマンド 622
INQUIRE TSQUEUE コマンド 622
INQUIRE UOW コマンド 626
INQUIRE UOWENQ コマンド 638
TRANSMODE オプション
INQUIRE EPADAPTER コマンド 371
TRIGGERLEVEL オプション
INQUIRE TDQUEUE コマンド 563
SET TDQUEUE コマンド 847
TRPROF オプション
INQUIRE TASK コマンド 538
INQUIRE TRANSACTION コマンド 612
TSMAININUSE オプション
INQUIRE TEMPSTORAGE コマンド 564
TSMAINLIMIT オプション
INQUIRE TEMPSTORAGE コマンド 564
TSMODEL オプション
CREATE TSMODEL コマンド 151
DISCARD TSMODEL コマンド 238
TSMODEL、DISCARD コマンド 238
TSMODEL、INQUIRE コマンド 614
TSPOOL オプション
INQUIRE TSPOOL コマンド 618
TSPOOL、INQUIRE コマンド 617
TSQ オプション
INQUIRE DOCTEMPLATE コマンド 351
TSQNAME
INQUIRE TSQNAME コマンド 623
TSQNAME、INQUIRE コマンド 619
TSQPREFIX オプション
INQUIRE TCPIPSERVICE コマンド 552
TSQUEUE
INQUIRE TSQUEUE コマンド 622
TSQUEUE オプション
COLLECT STATISTICS コマンド 69
INQUIRE DOCTEMPLATE コマンド 351
PERFORM STATISTICS コマンド 692
TSQUEUELIMIT オプション
INQUIRE MONITOR コマンド 444
SET MONITOR コマンド 799
TSQUEUE、INQUIRE コマンド 619
TTISTATUS オプション
INQUIRE TERMINAL コマンド 565
SET TERMINAL コマンド 857
TWASIZE オプション
INQUIRE TASK コマンド 538
INQUIRE TRANSACTION コマンド 612
TX
DSNCRCT マクロのオプション 323
TYPE オプション
INQUIRE DOCTEMPLATE コマンド 351
INQUIRE FILE コマンド 404
INQUIRE TDQUEUE コマンド 563
INQUIRE UOWENQ コマンド 638
INQUIRE UOWLINK コマンド 644
TYPETERM オプション
CREATE TYPETERM コマンド 155
TYPETERM、CREATE コマンド 152

U

UCTRANST オプション
INQUIRE TERMINAL コマンド 565
SET TERMINAL コマンド 857
UDSASIZE オプション
INQUIRE SYSTEM コマンド 527
UNLOCK コマンド
CSD 200
UOW オプション
INQUIRE TASK コマンド 539
INQUIRE UOW コマンド 626
INQUIRE UOWENQ コマンド 640
INQUIRE UOWLINK コマンド 644
UOWACTION オプション
SET CONNECTION コマンド 710
SET IPCONN コマンド 779
UOWDSNFAIL、INQUIRE コマンド 628
UOWENQ、INQUIRE コマンド 634
UOWLINK オプション
INQUIRE UOWLINK コマンド 644
SET UOWLINK コマンド 883
UOWLINK、INQUIRE コマンド 640
UOWSTATE オプション
INQUIRE UOW コマンド 626
UOW、INQUIRE コマンド 624
UPDATE オプション
INQUIRE FILE コマンド 405
SET FILE コマンド 758
UPDATEMODEL オプション
INQUIRE FILE コマンド 405
SET FILE コマンド 758
URID オプション
INQUIRE EXCI コマンド 380
INQUIRE UOWLINK コマンド 644

URIMAP CVDA 値
EXTRACT STATISTICS コマンド 259
URIMAP オプション
CREATE URIMAP コマンド 158
DISCARD URIMAP コマンド 239
INQUIRE ATOMSERVICE コマンド 281
INQUIRE URIMAP コマンド 654
INQUIRE WEBSERVICE コマンド 665
PERFORM STATISTICS コマンド 692
URIMAP、CREATE コマンド 156
URM オプション
INQUIRE TCPIPSERVICE コマンド 552
SET TCPIPSERVICE コマンド 842
USAGE オプション
INQUIRE URIMAP コマンド 654
USECOUNT オプション
INQUIRE EXITPROGRAM コマンド 387
INQUIRE PROGRAM コマンド 480
USER 値
INQUIRE TCPIPSERVICE コマンド 551
USERAREA オプション
INQUIRE TERMINAL コマンド 565
USERAREALEN オプション
INQUIRE TERMINAL コマンド 565
USERAUTH オプション
INQUIRE IPCONN コマンド 408
USERCORRDATA オプション
INQUIRE ASSOCIATION LIST コマンド 274
USERDATA オプション
ACQUIRE TERMINAL コマンド 68
USERDATALEN オプション
ACQUIRE TERMINAL コマンド 68
USERID
DSNCRCT マクロのオプション 323
USERID オプション
INQUIRE BRFACILITY コマンド 287
INQUIRE REQID コマンド 499
INQUIRE TASK コマンド 539
INQUIRE TERMINAL コマンド 565
INQUIRE URIMAP コマンド 655
USERNAME オプション
INQUIRE TERMINAL コマンド 565
USERSTATUS オプション
INQUIRE TRACEFLAG コマンド 591
SET TRACEFLAG コマンド 865

V

VALIDATIONST オプション
INQUIRE TERMINAL コマンド 565
VALIDATIONST オプション (続き)
INQUIRE WEBSERVICE コマンド 665, 892
XMLTRANSFORM コマンド 672, 894
VALIDITY オプション
INQUIRE DSNAME コマンド 359
VARIABLENAME オプション
INQUIRE CAPDATAPRED コマンド 298
INQUIRE CAPINFOSRCE コマンド 300
VERSION オプション
INQUIRE EVENTBINDING コマンド 378
SET PROGRAM コマンド 816
VFORMST オプション
INQUIRE TERMINAL コマンド 565
VOLUME、INQUIRE コマンド 656
VOLUME、SET コマンド 886
VTAM、INQUIRE コマンド 656
VTAM、SET コマンド 886

W

WAIT 値
INQUIRE TCPIPSERVICE コマンド 551
WAITCAUSE オプション
INQUIRE UOW コマンド 627
WAITSTATE オプション
INQUIRE UOW コマンド 628
Web サポート
INQUIRE トランザクション 659
SET コマンド 890
WEB 890
WEBSERVICE CVDA 値
EXTRACT STATISTICS コマンド 259
WEBSERVICE オプション
CREATE WEBSERVICE コマンド 160
INQUIRE URIMAP コマンド 655
INQUIRE WEBSERVICE コマンド 665, 892
PERFORM STATISTICS コマンド 692
WEBSERVICE、CREATE コマンド 159
WEBSERVICE、DISCARD コマンド 240
where-clause、CICS コマンド形式 6
WLMHEALTH、INQUIRE コマンド 666
WLMHEALTH、SET コマンド 892
WORKREQUEST、INQUIRE コマンド 668
WSBIND オプション
INQUIRE WEBSERVICE コマンド 665
WSDLFILE オプション
INQUIRE WEBSERVICE コマンド 665

X

XCFGROUP オプション
INQUIRE IRC コマンド 420
XLNSTATUS オプション
INQUIRE CONNECTION コマンド 320
XLT オプション
PERFORM SHUTDOWN コマンド 684
XMLTRANSFORM CVDA 値
EXTRACT STATISTICS コマンド 259
XMLTRANSFORM オプション
INQUIRE ATOMSERVICE コマンド 281
PERFORM STATISTICS コマンド 692
XMLTRANSFORM コマンド 895
XMLTRANSFORM コマンド
状態 673, 895
XOPDIRECTST オプション
INQUIRE WEBSERVICE コマンド 666
XOPSUPPORTST オプション
INQUIRE WEBSERVICE コマンド 666
XRFSTATUS オプション
INQUIRE SYSTEM コマンド 527

Z

ZCPTRACING オプション
INQUIRE CONNECTION コマンド 320
INQUIRE TERMINAL コマンド 565
SET CONNECTION コマンド 712
SET TERMINAL コマンド 858
z/OS Communications Server 886
z/OS Communications Server オプション
COLLECT STATISTICS コマンド 69
PERFORM STATISTICS コマンド 692

日本アイ・ビー・エム株式会社
〒103-8510 東京都中央区日本橋箱崎町19-21